

**2022年度
社会学部
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

[発行日: 2022/5/2] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基礎演習	[L5001]	基礎演習 I	[徳安 彰]	春学期授業/Spring	1
基礎演習	[L5002]	基礎演習 II	[徳安 彰]	秋学期授業/Fall	2
基礎演習	[L5003]	基礎演習 I	[多田 和美]	春学期授業/Spring	3
基礎演習	[L5004]	基礎演習 II	[多田 和美]	秋学期授業/Fall	3
基礎演習	[L5005]	基礎演習 I	[左古 輝人]	春学期授業/Spring	4
基礎演習	[L5006]	基礎演習 II	[左古 輝人]	秋学期授業/Fall	5
基礎演習	[L5007]	基礎演習 I	[中筋 直哉]	春学期授業/Spring	6
基礎演習	[L5008]	基礎演習 II	[中筋 直哉]	秋学期授業/Fall	7
基礎演習	[L5009]	基礎演習 I	[兼子 諭]	春学期授業/Spring	8
基礎演習	[L5010]	基礎演習 II	[兼子 諭]	秋学期授業/Fall	9
基礎演習	[L5011]	基礎演習 I	[宮下 阿子]	春学期授業/Spring	9
基礎演習	[L5012]	基礎演習 II	[宮下 阿子]	秋学期授業/Fall	10
基礎演習	[L5013]	基礎演習 I	[岡野内 正]	春学期授業/Spring	10
基礎演習	[L5014]	基礎演習 II	[岡野内 正]	秋学期授業/Fall	11
基礎演習	[L5015]	基礎演習 I	[加藤 寛之]	春学期授業/Spring	12
基礎演習	[L5016]	基礎演習 II	[加藤 寛之]	秋学期授業/Fall	13
基礎演習	[L5017]	基礎演習 I	[荒木 暢也]	春学期授業/Spring	14
基礎演習	[L5018]	基礎演習 II	[荒木 暢也]	秋学期授業/Fall	16
基礎演習	[L5019]	基礎演習 I	[岩城 邦義]	春学期授業/Spring	17
基礎演習	[L5020]	基礎演習 II	[岩城 邦義]	秋学期授業/Fall	18
基礎演習	[L5023]	基礎演習 I	[土倉 英志]	春学期授業/Spring	19
基礎演習	[L5024]	基礎演習 II	[土倉 英志]	秋学期授業/Fall	20
基礎演習	[L5027]	基礎演習 I	[李 舜志]	春学期授業/Spring	21
基礎演習	[L5028]	基礎演習 II	[李 舜志]	秋学期授業/Fall	22
基礎演習	[L5029]	基礎演習 I	[糸久 正人]	春学期授業/Spring	23
基礎演習	[L5030]	基礎演習 II	[糸久 正人]	秋学期授業/Fall	24
基礎演習	[L5031]	基礎演習 I	[飯野 智子]	春学期授業/Spring	25
基礎演習	[L5032]	基礎演習 II	[飯野 智子]	秋学期授業/Fall	26
基礎演習	[L5033]	基礎演習 I	[本田 親史]	春学期授業/Spring	27
基礎演習	[L5034]	基礎演習 II	[本田 親史]	秋学期授業/Fall	27
基礎演習	[L5035]	基礎演習 I	[南雲 和夫]	春学期授業/Spring	28
基礎演習	[L5036]	基礎演習 II	[南雲 和夫]	秋学期授業/Fall	29
基礎演習	[L5037]	基礎演習 I	[岩城 邦義]	春学期授業/Spring	30
基礎演習	[L5038]	基礎演習 II	[岩城 邦義]	秋学期授業/Fall	30
基礎演習	[L5039]	基礎演習 I	[高橋 誠一]	春学期授業/Spring	31
基礎演習	[L5040]	基礎演習 II	[高橋 誠一]	秋学期授業/Fall	32
基礎演習	[L5041]	基礎演習 I	[宮下 阿子]	春学期授業/Spring	33
基礎演習	[L5042]	基礎演習 II	[宮下 阿子]	秋学期授業/Fall	33
基礎演習	[L5043]	基礎演習 I	[鈴木 智道]	春学期授業/Spring	34
基礎演習	[L5044]	基礎演習 II	[鈴木 智道]	秋学期授業/Fall	34
基礎演習	[L5045]	基礎演習 I	[天本 哲史]	春学期授業/Spring	35
基礎演習	[L5046]	基礎演習 II	[天本 哲史]	秋学期授業/Fall	36
基礎演習	[L5047]	基礎演習 I	[恵羅 さとみ]	春学期授業/Spring	37
基礎演習	[L5048]	基礎演習 II	[恵羅 さとみ]	秋学期授業/Fall	38
基礎演習	[L5051]	基礎演習 I	[吉田 公記]	春学期授業/Spring	39
基礎演習	[L5052]	基礎演習 II	[吉田 公記]	秋学期授業/Fall	40
基礎演習	[L5053]	基礎演習 I	[中村 尚樹]	春学期授業/Spring	40
基礎演習	[L5054]	基礎演習 II	[中村 尚樹]	秋学期授業/Fall	41
基礎演習	[L5055]	基礎演習 I	[松下 峻也]	春学期授業/Spring	42
基礎演習	[L5056]	基礎演習 II	[松下 峻也]	秋学期授業/Fall	43
基礎演習	[L5063]	基礎演習 I	[武田 俊輔]	春学期授業/Spring	44
基礎演習	[L5064]	基礎演習 II	[武田 俊輔]	秋学期授業/Fall	45
基礎演習	[L5065]	基礎演習 I	[山田 唐波里]	春学期授業/Spring	46

基礎演習【L5066】基礎演習Ⅱ [山田 唐波里] 秋学期授業/Fall	47
基礎演習【L5067】基礎演習Ⅰ [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	48
基礎演習【L5068】基礎演習Ⅱ [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	49
基礎演習【L5069】基礎演習Ⅰ [白田 秀彰] 春学期授業/Spring	50
基礎演習【L5070】基礎演習Ⅱ [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	51
基礎演習【L5071】基礎演習Ⅰ [古澤 聡司] 春学期授業/Spring	52
基礎演習【L5072】基礎演習Ⅱ [古澤 聡司] 秋学期授業/Fall	53
基礎演習【L5073】基礎演習Ⅰ [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	53
基礎演習【L5074】基礎演習Ⅱ [菊澤 佐江子] 秋学期授業/Fall	54
基礎演習【L5075】基礎演習Ⅰ [三井 さよ] 春学期授業/Spring	55
基礎演習【L5076】基礎演習Ⅱ [三井 さよ] 秋学期授業/Fall	56
基礎演習【L5077】基礎演習Ⅰ [南 宏幸] 春学期授業/Spring	57
基礎演習【L5078】基礎演習Ⅱ [南 宏幸] 秋学期授業/Fall	58
基礎演習【L5082】基礎演習Ⅰ [増田 正人] 春学期授業/Spring	59
基礎演習【L5083】基礎演習Ⅱ [増田 正人] 秋学期授業/Fall	60
基礎演習【L5086】基礎演習Ⅰ [島田 昭仁] 春学期授業/Spring	61
基礎演習【L5087】基礎演習Ⅱ [島田 昭仁] 秋学期授業/Fall	62
基礎演習【L5088】基礎演習Ⅰ [吉村 真子] 春学期授業/Spring	63
基礎演習【L5089】基礎演習Ⅱ [吉村 真子] 秋学期授業/Fall	64
基礎演習【L5092】基礎演習Ⅰ [山下 大厚] 春学期授業/Spring	65
基礎演習【L5093】基礎演習Ⅱ [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	66
基礎演習【L5094】基礎演習Ⅰ [高橋 賢次] 春学期授業/Spring	67
基礎演習【L5095】基礎演習Ⅱ [高橋 賢次] 秋学期授業/Fall	68
講義・実習科目【L0051】心理学Ⅰ [山下 大厚] 春学期授業/Spring	69
講義・実習科目【L0052】心理学Ⅱ [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	70
講義・実習科目【L0054】現代史Ⅰ [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	71
講義・実習科目【L0055】現代史Ⅱ [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	72
講義・実習科目【L0056】文学 [彭 丹] 春学期授業/Spring	73
講義・実習科目【L0061】創作表現論Ⅰ [金原 瑞人] 春学期授業/Spring	74
講義・実習科目【L0062】創作表現論Ⅱ [金原 瑞人] 秋学期授業/Fall	75
講義・実習科目【L0069】特講 (創作実践指導) [金原 瑞人] 秋学期授業/Fall	76
講義・実習科目【L0071】哲学Ⅰ [大橋 基] 春学期授業/Spring	77
講義・実習科目【L0072】哲学Ⅱ [大橋 基] 秋学期授業/Fall	78
講義・実習科目【LL000】人間論 [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	79
講義・実習科目【L0049】地理学Ⅰ [朴 宗玄] 春学期授業/Spring	80
講義・実習科目【L0050】地理学Ⅱ [朴 宗玄] 秋学期授業/Fall	81
講義・実習科目【L0113】生命の科学 [鞠子 茂] 春学期授業/Spring	82
講義・実習科目【L0114】環境生態学 [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	82
講義・実習科目【L0078】基礎数学Ⅰ [鈴木 麻美] 春学期授業/Spring	83
講義・実習科目【L0079】基礎数学Ⅱ [鈴木 麻美] 秋学期授業/Fall	84
講義・実習科目【L0080】統計学Ⅰ [鈴木 麻美] 春学期授業/Spring	85
講義・実習科目【L0081】統計学Ⅱ [鈴木 麻美] 秋学期授業/Fall	86
講義・実習科目【L0115】地球と自然Ⅰ [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	87
講義・実習科目【L0116】地球と自然Ⅱ [吉岡 美紀] 秋学期授業/Fall	88
講義・実習科目【L0084】自然科学特講 (生命科学) [鞠子 茂] 春学期授業/Spring	89
講義・実習科目【L0085】自然科学特講 (生命科学) [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	89
講義・実習科目【L0086】自然科学特講 (数学) [鈴木 麻美] 春学期授業/Spring	90
講義・実習科目【L0087】自然科学特講 (数学) [鈴木 麻美] 秋学期授業/Fall	91
講義・実習科目【L0088】自然科学特講 (地学) [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	92
講義・実習科目【L0089】自然科学特講 (地学) [吉岡 美紀] 秋学期授業/Fall	93
講義・実習科目【L0091】物理学Ⅰ [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	94
講義・実習科目【L0092】物理学Ⅱ [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	95
講義・実習科目【L0093】物理学Ⅰ [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	96
講義・実習科目【L0094】物理学Ⅱ [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	97
講義・実習科目【L0090】科学史 [河野 俊哉] 春学期授業/Spring	98
講義・実習科目【LL002】社会思想史Ⅰ [明戸 隆浩] 春学期授業/Spring	99
講義・実習科目【LL003】社会思想史Ⅱ [明戸 隆浩] 秋学期授業/Fall	100

講義・実習科目	【L0096】	国際社会論 [吉村 真子] 春学期授業/Spring	101
講義・実習科目	【L0099】	平和論 [中村 長史] 春学期授業/Spring	102
講義・実習科目	【L0100】	法と社会 [白田 秀彰] 春学期授業/Spring	103
講義・実習科目	【L0102】	法律学 (日本国憲法) [清水 弥生] 春学期授業/Spring	104
講義・実習科目	【L0103】	法律学 [清水 弥生] 秋学期授業/Fall	105
講義・実習科目	【LL001】	アメリカのジャーナリズム [荒木 暢也] 春学期授業/Spring	106
講義・実習科目	【L0108】	キャリアデザイン論 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	108
講義・実習科目	【L0109】	キャリアデザイン論 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	109
講義・実習科目	【L0106】	職業社会論 [依田 素味] 春学期授業/Spring	110
講義・実習科目	【LL004】	雇用と法 [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	111
講義・実習科目	【L0066】	身体論 [矢田部 英正] 春学期授業/Spring	112
講義・実習科目	【LL005】	多摩地域形成論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	113
講義・実習科目	【L0120】	社会を変えるための実践論 [荒井 容子] 秋学期授業/Fall	114
情報教育基礎	【L0131】	コンピュータ入門 [湯本 正実] 春学期授業/Spring	115
情報教育基礎	【L0132】	プログラミング入門 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	115
情報教育基礎	【L0133】	コンピュータ入門 [石井 由起] 春学期授業/Spring	116
情報教育基礎	【L0134】	プログラミング入門 [石井 由起] 秋学期授業/Fall	117
情報教育基礎	【L0137】	コンピュータ入門 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	118
情報教育基礎	【L0138】	プログラミング入門 [近藤 恵子] 秋学期授業/Fall	118
情報教育基礎	【L0139】	コンピュータ入門 [小川 有希子] 春学期授業/Spring	119
情報教育基礎	【L0140】	プログラミング入門 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	120
情報教育基礎	【L0141】	コンピュータ入門 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	120
情報教育基礎	【L0142】	プログラミング入門 [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	121
情報教育基礎	【L0143】	コンピュータ入門 [森 幹彦] 春学期授業/Spring	122
情報教育基礎	【L0144】	プログラミング入門 [森 幹彦] 秋学期授業/Fall	123
情報教育基礎	【L0145】	コンピュータ入門 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	124
情報教育基礎	【L0146】	プログラミング入門 [加藤 徹郎] 秋学期授業/Fall	125
情報教育基礎	【L0147】	コンピュータ入門 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	126
情報教育基礎	【L0148】	プログラミング入門 [加藤 徹郎] 秋学期授業/Fall	127
情報教育基礎	【L0149】	コンピュータ入門 [小川 有希子] 春学期授業/Spring	128
情報教育基礎	【L0150】	プログラミング入門 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	129
情報教育基礎	【L0151】	コンピュータ入門 [林田 和人] 春学期授業/Spring	129
情報教育基礎	【L0152】	プログラミング入門 [林田 和人] 秋学期授業/Fall	130
情報教育基礎	【L0153】	コンピュータ入門 [林田 和人] 春学期授業/Spring	131
情報教育基礎	【L0154】	プログラミング入門 [林田 和人] 秋学期授業/Fall	132
情報教育基礎	【L0155】	コンピュータ入門 [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	133
情報教育基礎	【L0156】	プログラミング入門 [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	134
情報教育基礎	【L0159】	コンピュータ入門 [橋本 政樹] 春学期授業/Spring	135
情報教育基礎	【L0160】	プログラミング入門 [橋本 政樹] 秋学期授業/Fall	136
情報教育基礎	【L0161】	コンピュータ入門 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	137
情報教育基礎	【L0162】	プログラミング入門 [近藤 恵子] 秋学期授業/Fall	138
情報教育基礎	【L0163】	コンピュータ入門 [高村 恒人] 春学期授業/Spring	138
情報教育基礎	【L0164】	プログラミング入門 [高村 恒人] 秋学期授業/Fall	139
情報教育基礎	【L0165】	コンピュータ入門 [石井 由起] 春学期授業/Spring	140
情報教育基礎	【L0166】	プログラミング入門 [石井 由起] 秋学期授業/Fall	141
情報教育基礎	【L0167】	コンピュータ入門 [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	142
情報教育基礎	【L0168】	プログラミング入門 [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	143
情報教育基礎	【LL007-a】	プログラミング初級 [森 幹彦] 春学期授業/Spring	144
情報教育基礎	【LL007-b】	プログラミング初級 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	145
情報教育基礎	【LL007-c】	プログラミング初級 [高村 恒人] 春学期授業/Spring	146
情報教育基礎	【LL007-d】	プログラミング初級 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	146
情報教育基礎	【LL007-e】	プログラミング初級 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	147
情報教育基礎	【LL008-a】	統計基礎実習 [橋本 政樹] 春学期授業/Spring	147
情報教育基礎	【LL008-b】	統計基礎実習 [橋本 政樹] 秋学期授業/Fall	148
保健体育科目	【L0451】	スポーツ総合1-I [野村 一路] 春学期授業/Spring	149
保健体育科目	【L0452】	スポーツ総合1-II [野村 一路] 秋学期授業/Fall	150
保健体育科目	【L0453】	スポーツ総合1-I [野村 一路] 春学期授業/Spring	150

保健体育科目	[L0454]	スポーツ総合1-II	[野村 一路]	秋学期授業/Fall	151
保健体育科目	[L0455]	スポーツ総合1-I	[平澤 愛]	春学期授業/Spring	151
保健体育科目	[L0456]	スポーツ総合1-II	[平澤 愛]	秋学期授業/Fall	152
保健体育科目	[L0457]	スポーツ総合1-I	[平澤 愛]	春学期授業/Spring	152
保健体育科目	[L0458]	スポーツ総合1-II	[平澤 愛]	秋学期授業/Fall	153
保健体育科目	[L0459]	スポーツ総合1-I	[堀籠 佳宏]	春学期授業/Spring	153
保健体育科目	[L0460]	スポーツ総合1-II	[堀籠 佳宏]	秋学期授業/Fall	154
保健体育科目	[L0461]	スポーツ総合1-I	[堀籠 佳宏]	春学期授業/Spring	154
保健体育科目	[L0462]	スポーツ総合1-II	[堀籠 佳宏]	秋学期授業/Fall	155
保健体育科目	[L0463]	スポーツ総合1-I	[高梨 泰彦]	春学期授業/Spring	155
保健体育科目	[L0464]	スポーツ総合1-II	[高梨 泰彦]	秋学期授業/Fall	156
保健体育科目	[L0465]	スポーツ総合1-I	[高梨 泰彦]	春学期授業/Spring	156
保健体育科目	[L0466]	スポーツ総合1-II	[高梨 泰彦]	秋学期授業/Fall	157
保健体育科目	[L0467]	スポーツ総合1-I	[宮下 信一]	春学期授業/Spring	157
保健体育科目	[L0468]	スポーツ総合1-II	[宮下 信一]	秋学期授業/Fall	158
保健体育科目	[L0469]	スポーツ総合1-I	[宮下 信一]	春学期授業/Spring	158
保健体育科目	[L0470]	スポーツ総合1-II	[宮下 信一]	秋学期授業/Fall	159
保健体育科目	[L0471]	スポーツ総合1-I	[永嶋 秀敏]	春学期授業/Spring	159
保健体育科目	[L0472]	スポーツ総合1-II	[永嶋 秀敏]	秋学期授業/Fall	160
保健体育科目	[L0473]	スポーツ総合1-I	[永嶋 秀敏]	春学期授業/Spring	160
保健体育科目	[L0474]	スポーツ総合1-II	[永嶋 秀敏]	秋学期授業/Fall	161
保健体育科目	[L0475]	スポーツ総合1-I	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	161
保健体育科目	[L0476]	スポーツ総合1-II	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	162
保健体育科目	[L0477]	スポーツ総合1-I	[國本 眞由子]	春学期授業/Spring	162
保健体育科目	[L0478]	スポーツ総合1-II	[國本 眞由子]	秋学期授業/Fall	163
保健体育科目	[L0479]	スポーツ総合1-I	[堀籠 美紀]	春学期授業/Spring	163
保健体育科目	[L0480]	スポーツ総合1-II	[堀籠 美紀]	秋学期授業/Fall	164
保健体育科目	[L0481]	スポーツ総合1-I	[堀籠 美紀]	春学期授業/Spring	164
保健体育科目	[L0482]	スポーツ総合1-II	[堀籠 美紀]	秋学期授業/Fall	165
保健体育科目	[L0483]	スポーツ総合1-I	[清水 貴司]	春学期授業/Spring	165
保健体育科目	[L0484]	スポーツ総合1-II	[清水 貴司]	秋学期授業/Fall	166
保健体育科目	[L0485]	スポーツ総合1-I	[清水 貴司]	春学期授業/Spring	166
保健体育科目	[L0486]	スポーツ総合1-II	[清水 貴司]	秋学期授業/Fall	167
保健体育科目	[L0487]	スポーツ総合1-I (補講)	[堀籠 佳宏]	春学期授業/Spring	167
保健体育科目	[L0488]	スポーツ総合1-II (補講)	[堀籠 佳宏]	秋学期授業/Fall	168
保健体育科目	[L0501]	スポーツ総合2-I (ヨガ)	[山内 やよい]	春学期授業/Spring	168
保健体育科目	[L0502]	スポーツ総合2-II (ヨガ)	[山内 やよい]	秋学期授業/Fall	169
保健体育科目	[L0503]	スポーツ総合2-I (ヨガ)	[山内 やよい]	春学期授業/Spring	170
保健体育科目	[L0504]	スポーツ総合2-II (ヨガ)	[山内 やよい]	秋学期授業/Fall	171
保健体育科目	[L0505]	スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	春学期授業/Spring	172
保健体育科目	[L0506]	スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	秋学期授業/Fall	173
保健体育科目	[L0507]	スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	春学期授業/Spring	174
保健体育科目	[L0508]	スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	秋学期授業/Fall	175
保健体育科目	[L0509]	スポーツ総合2-I (バドミントン)	[升 佑二郎]	春学期授業/Spring	176
保健体育科目	[L0510]	スポーツ総合2-II (バドミントン)	[升 佑二郎]	秋学期授業/Fall	177
保健体育科目	[L0511]	スポーツ総合2-I (バドミントン)	[升 佑二郎]	春学期授業/Spring	177
保健体育科目	[L0512]	スポーツ総合2-II (バドミントン)	[升 佑二郎]	秋学期授業/Fall	178
保健体育科目	[L0513]	スポーツ総合2-I (太極拳)	[シン イェンリン]	春学期授業/Spring	178
保健体育科目	[L0514]	スポーツ総合2-II (太極拳)	[シン イェンリン]	秋学期授業/Fall	179
保健体育科目	[L0517]	スポーツ総合2-I (太極拳)	[シン イェンリン]	春学期授業/Spring	180
保健体育科目	[L0518]	スポーツ総合2-II (太極拳)	[シン イェンリン]	秋学期授業/Fall	181
保健体育科目	[L0515]	スポーツ総合2-I (テニス)	[宮崎 靖雄]	春学期授業/Spring	182
保健体育科目	[L0516]	スポーツ総合2-II (テニス)	[宮崎 靖雄]	秋学期授業/Fall	183
保健体育科目	[L0519]	スポーツ総合2-I (ユニバーサル・スポーツ)	[坪内 友美]	春学期授業/Spring	184
保健体育科目	[L0520]	スポーツ総合2-II (ユニバーサル・スポーツ)	[坪内 友美]	秋学期授業/Fall	185
保健体育科目	[L0521]	スポーツ総合2-I (サッカー)	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	186
保健体育科目	[L0522]	スポーツ総合2-II (サッカー)	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	187

保健体育科目	[L0523]	スポーツ総合2-I (サッカー)	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	188
保健体育科目	[L0524]	スポーツ総合2-II (サッカー)	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	189
保健体育科目	[L3751]	スポーツ総合2-I (バレーボール基礎)	[野中 俊英]	春学期授業/Spring	190
保健体育科目	[L3752]	スポーツ総合2-II (バレーボール応用)	[野中 俊英]	秋学期授業/Fall	191
保健体育科目	[L3755]	スポーツ総合2-I (サッカー・フットサル基礎)	[水野 浩幸]	春学期授業/Spring	192
保健体育科目	[L3756]	スポーツ総合2-II (サッカー・フットサル応用)	[水野 浩幸]	秋学期授業/Fall	193
Basic English	[L0203]	Basic English 1-I	1 [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	193
Basic English	[L0228]	Basic English 1-II	1 [佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	194
Basic English	[L0223]	Basic English 1-I	2 [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	195
Basic English	[L0248]	Basic English 1-II	2 [佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	196
Basic English	[L0212]	Basic English 1-I	3 [深松 亮太]	春学期授業/Spring	197
Basic English	[L0237]	Basic English 1-II	3 [深松 亮太]	秋学期授業/Fall	198
Basic English	[L0205]	Basic English 1-I	4 [石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	199
Basic English	[L0230]	Basic English 1-II	4 [石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	200
Basic English	[L0215]	Basic English 1-I	5 [田中 邦佳]	春学期授業/Spring	201
Basic English	[L0240]	Basic English 1-II	5 [田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	202
Basic English	[L0214]	Basic English 1-I	6 [田中 邦佳]	春学期授業/Spring	203
Basic English	[L0239]	Basic English 1-II	6 [田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	204
Basic English	[L0208]	Basic English 1-I	7 [岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	205
Basic English	[L0233]	Basic English 1-II	7 [岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	206
Basic English	[L0207]	Basic English 1-I	8 [岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	207
Basic English	[L0232]	Basic English 1-II	8 [岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	208
Basic English	[L0220]	Basic English 1-I	9 [広川 治]	春学期授業/Spring	209
Basic English	[L0245]	Basic English 1-II	9 [広川 治]	秋学期授業/Fall	210
Basic English	[L0219]	Basic English 1-I	10 [広川 治]	春学期授業/Spring	211
Basic English	[L0244]	Basic English 1-II	10 [広川 治]	秋学期授業/Fall	212
Basic English	[L0213]	Basic English 1-I	11 [東郷 裕]	春学期授業/Spring	213
Basic English	[L0238]	Basic English 1-II	11 [東郷 裕]	秋学期授業/Fall	214
Basic English	[L0210]	Basic English 1-I	12 [東郷 裕]	春学期授業/Spring	215
Basic English	[L0235]	Basic English 1-II	12 [東郷 裕]	秋学期授業/Fall	217
Basic English	[L0222]	Basic English 1-I	13 [堀 いづみ]	春学期授業/Spring	218
Basic English	[L0247]	Basic English 1-II	13 [堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	219
Basic English	[L0221]	Basic English 1-I	14 [堀 いづみ]	春学期授業/Spring	220
Basic English	[L0246]	Basic English 1-II	14 [堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	221
Basic English	[L0211]	Basic English 1-I	15 [藤井 道行]	春学期授業/Spring	222
Basic English	[L0236]	Basic English 1-II	15 [藤井 道行]	秋学期授業/Fall	223
Basic English	[L0209]	Basic English 1-I	16 [藤井 道行]	春学期授業/Spring	224
Basic English	[L0234]	Basic English 1-II	16 [藤井 道行]	秋学期授業/Fall	225
Basic English	[L0201]	Basic English 1-I	17 [荒木 暢也]	春学期授業/Spring	226
Basic English	[L0226]	Basic English 1-II	17 [荒木 暢也]	秋学期授業/Fall	228
Basic English	[L0206]	Basic English 1-I	18 [荒木 暢也]	春学期授業/Spring	229
Basic English	[L0231]	Basic English 1-II	18 [荒木 暢也]	秋学期授業/Fall	231
Basic English	[L0217]	Basic English 1-I	19 [西田 佳子]	春学期授業/Spring	232
Basic English	[L0242]	Basic English 1-II	19 [西田 佳子]	秋学期授業/Fall	233
Basic English	[L0202]	Basic English 1-I	20 [二村 まどか]	春学期授業/Spring	234
Basic English	[L0227]	Basic English 1-II	20 [二村 まどか]	秋学期授業/Fall	235
Basic English	[L0216]	Basic English 1-I	21 [小林 テレサ]	春学期授業/Spring	235
Basic English	[L0241]	Basic English 1-II	21 [小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	236
Basic English	[L0218]	Basic English 1-I	22 [小林 テレサ]	春学期授業/Spring	237
Basic English	[L0243]	Basic English 1-II	22 [小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	238
Basic English	[L0224]	Basic English 1-I	23 [JONATHAN D BROWN]	春学期授業/Spring	240
Basic English	[L0249]	Basic English 1-II	23 [JONATHAN D BROWN]	秋学期授業/Fall	241
Basic English	[L0204]	Basic English 1-I	24 [JONATHAN D BROWN]	春学期授業/Spring	242
Basic English	[L0229]	Basic English 1-II	24 [JONATHAN D BROWN]	秋学期授業/Fall	243
Basic English	[L0252]	Basic English 2-I	[石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	244
Basic English	[L0277]	Basic English 2-II	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	245
Basic English	[L0253]	Basic English 2-I	[石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	246

Basic English	[L0278]	Basic English 2-II	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	247
Basic English	[L0254]	Basic English 2-I	[市川 由季子]	春学期授業/Spring	248
Basic English	[L0279]	Basic English 2-II	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	249
Basic English	[L0255]	Basic English 2-I	[市川 由季子]	春学期授業/Spring	250
Basic English	[L0280]	Basic English 2-II	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	251
Basic English	[L0256]	Basic English 2-I	[田中 邦佳]	春学期授業/Spring	252
Basic English	[L0281]	Basic English 2-II	[田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	253
Basic English	[L0257]	Basic English 2-I	[岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	254
Basic English	[L0282]	Basic English 2-II	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	255
Basic English	[L0258]	Basic English 2-I	[深津 勇仁]	春学期授業/Spring	256
Basic English	[L0283]	Basic English 2-II	[深津 勇仁]	秋学期授業/Fall	257
Basic English	[L0259]	Basic English 2-I	[深津 勇仁]	春学期授業/Spring	259
Basic English	[L0284]	Basic English 2-II	[深津 勇仁]	秋学期授業/Fall	260
Basic English	[L0260]	Basic English 2-I	[荒木 暢也]	春学期授業/Spring	262
Basic English	[L0285]	Basic English 2-II	[荒木 暢也]	秋学期授業/Fall	263
Basic English	[L0261]	Basic English 2-I	[井上 里]	春学期授業/Spring	265
Basic English	[L0286]	Basic English 2-II	[井上 里]	秋学期授業/Fall	266
Basic English	[L0262]	Basic English 2-I	[広川 治]	春学期授業/Spring	267
Basic English	[L0287]	Basic English 2-II	[広川 治]	秋学期授業/Fall	268
Basic English	[L0263]	Basic English 2-I	[岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	269
Basic English	[L0288]	Basic English 2-II	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	270
Basic English	[L0264]	Basic English 2-I	[東郷 裕]	春学期授業/Spring	271
Basic English	[L0289]	Basic English 2-II	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	272
Basic English	[L0265]	Basic English 2-I	[東郷 裕]	春学期授業/Spring	273
Basic English	[L0290]	Basic English 2-II	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	274
Basic English	[L0266]	Basic English 2-I	[井上 里]	春学期授業/Spring	275
Basic English	[L0291]	Basic English 2-II	[井上 里]	秋学期授業/Fall	276
Basic English	[L0267]	Basic English 2-I	[西田 佳子]	春学期授業/Spring	277
Basic English	[L0292]	Basic English 2-II	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	278
Basic English	[L0268]	Basic English 2-I	[西田 佳子]	春学期授業/Spring	279
Basic English	[L0293]	Basic English 2-II	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	280
Basic English	[L0269]	Basic English 2-I	[広川 治]	春学期授業/Spring	281
Basic English	[L0294]	Basic English 2-II	[広川 治]	秋学期授業/Fall	282
Basic English	[L0270]	Basic English 2-I	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	283
Basic English	[L0295]	Basic English 2-II	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	284
Basic English	[L0271]	Basic English 2-I	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	285
Basic English	[L0296]	Basic English 2-II	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	286
Basic English	[L0272]	Basic English 2-I	[堀 いづみ]	春学期授業/Spring	287
Basic English	[L0297]	Basic English 2-II	[堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	288
Basic English	[L0273]	Basic English 2-I	[中島 菜穂]	春学期授業/Spring	289
Basic English	[L0298]	Basic English 2-II	[中島 菜穂]	秋学期授業/Fall	290
Basic English	[L0274]	Basic English 2-I	[中島 菜穂]	春学期授業/Spring	291
Basic English	[L0299]	Basic English 2-II	[中島 菜穂]	秋学期授業/Fall	292
Basic English	[L0251]	Basic English 2-II	[佐藤 修一]	春学期授業/Spring	293
Basic English	[L0276]	Basic English 2-I	[佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	294
諸外国語初級	[L0331]	ドイツ語初級A	[齋藤 萌、武藤 陽子]	春学期授業/Spring	295
諸外国語初級	[L0332]	ドイツ語初級B	[齋藤 萌、武藤 陽子]	秋学期授業/Fall	296
諸外国語初級	[L0333]	ドイツ語初級A	[本田 博之、布川 恭子]	春学期授業/Spring	297
諸外国語初級	[L0334]	ドイツ語初級B	[本田 博之、布川 恭子]	秋学期授業/Fall	298
諸外国語初級	[L0335]	ドイツ語初級A	[齋藤 萌、武藤 陽子]	春学期授業/Spring	299
諸外国語初級	[L0336]	ドイツ語初級B	[齋藤 萌、武藤 陽子]	秋学期授業/Fall	300
諸外国語初級	[L0337]	ドイツ語初級A	[本田 博之、布川 恭子]	春学期授業/Spring	301
諸外国語初級	[L0338]	ドイツ語初級B	[本田 博之、布川 恭子]	秋学期授業/Fall	302
諸外国語初級	[L0339]	ドイツ語初級B	[田中 潤、濱中 春]	春学期授業/Spring	303
諸外国語初級	[L0340]	ドイツ語初級A	[田中 潤、濱中 春]	秋学期授業/Fall	304
諸外国語初級	[L0351]	フランス語初級A	[高橋 久美、大澤 瑞綺]	春学期授業/Spring	305
諸外国語初級	[L0352]	フランス語初級B	[高橋 久美、大澤 瑞綺]	秋学期授業/Fall	306

諸外国語初級	L0353	フランス語初級A [實谷 美咲、佐藤 久仁子]	春学期授業/Spring	307
諸外国語初級	L0354	フランス語初級B [實谷 美咲、佐藤 久仁子]	秋学期授業/Fall	308
諸外国語初級	L0355	フランス語初級A [高橋 久美、大澤 瑞綺]	春学期授業/Spring	309
諸外国語初級	L0356	フランス語初級B [高橋 久美、大澤 瑞綺]	秋学期授業/Fall	310
諸外国語初級	L0357	フランス語初級A [實谷 美咲、佐藤 久仁子]	春学期授業/Spring	311
諸外国語初級	L0358	フランス語初級B [實谷 美咲、佐藤 久仁子]	秋学期授業/Fall	312
諸外国語初級	L0359	フランス語初級B [美頭 千不美、高橋 愛]	春学期授業/Spring	313
諸外国語初級	L0360	フランス語初級A [美頭 千不美、高橋 愛]	秋学期授業/Fall	314
諸外国語初級	L0371	中国語初級A [池田 麻希子、田中 理恵]	春学期授業/Spring	315
諸外国語初級	L0372	中国語初級B [池田 麻希子、田中 理恵]	秋学期授業/Fall	316
諸外国語初級	L0373	中国語初級A [加藤 昌弘、篠田 幸夫]	春学期授業/Spring	317
諸外国語初級	L0374	中国語初級B [加藤 昌弘、篠田 幸夫]	秋学期授業/Fall	318
諸外国語初級	L0375	中国語初級A [康 宏理、渡辺 浩司]	春学期授業/Spring	319
諸外国語初級	L0376	中国語初級B [康 宏理、渡辺 浩司]	秋学期授業/Fall	320
諸外国語初級	L0377	中国語初級A [篠田 幸夫、上村 陽子]	春学期授業/Spring	321
諸外国語初級	L0378	中国語初級B [篠田 幸夫、上村 陽子]	秋学期授業/Fall	322
諸外国語初級	L0379	中国語初級A [渡辺 浩司、杜 瑶琳]	春学期授業/Spring	323
諸外国語初級	L0380	中国語初級B [渡辺 浩司、杜 瑶琳]	秋学期授業/Fall	324
諸外国語初級	L0381	中国語初級A [加藤 昌弘、篠田 幸夫]	春学期授業/Spring	325
諸外国語初級	L0382	中国語初級B [加藤 昌弘、篠田 幸夫]	秋学期授業/Fall	326
諸外国語初級	L0383	中国語初級A [康 宏理、渡辺 浩司]	春学期授業/Spring	327
諸外国語初級	L0384	中国語初級B [康 宏理、渡辺 浩司]	秋学期授業/Fall	328
諸外国語初級	L0385	中国語初級A [篠田 幸夫、上村 陽子]	春学期授業/Spring	329
諸外国語初級	L0386	中国語初級B [篠田 幸夫、上村 陽子]	秋学期授業/Fall	330
諸外国語初級	L0387	中国語初級A [謝 荔、田中 理恵]	春学期授業/Spring	331
諸外国語初級	L0388	中国語初級B [謝 荔、田中 理恵]	秋学期授業/Fall	332
諸外国語初級	L0389	中国語初級A [渡辺 浩司、杜 瑶琳]	春学期授業/Spring	333
諸外国語初級	L0390	中国語初級B [渡辺 浩司、杜 瑶琳]	秋学期授業/Fall	334
諸外国語初級	L0392	中国語初級B [池田 麻希子、加藤 昌弘]	春学期授業/Spring	335
諸外国語初級	L0393	中国語初級A [池田 麻希子、加藤 昌弘]	秋学期授業/Fall	336
諸外国語初級	L0401	ロシア語初級A [佐藤 裕子、土岐 康子]	春学期授業/Spring	337
諸外国語初級	L0402	ロシア語初級B [佐藤 裕子、土岐 康子]	秋学期授業/Fall	338
諸外国語初級	L0411	スペイン語初級A [乾 隆政、増山 久美]	春学期授業/Spring	339
諸外国語初級	L0412	スペイン語初級B [乾 隆政、増山 久美]	秋学期授業/Fall	340
諸外国語初級	L0413	スペイン語初級A [松井 賢治、杉守 慶太]	春学期授業/Spring	341
諸外国語初級	L0414	スペイン語初級B [松井 賢治、杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	342
諸外国語初級	L0415	スペイン語初級A [乾 隆政、増山 久美]	春学期授業/Spring	343
諸外国語初級	L0416	スペイン語初級B [乾 隆政、増山 久美]	秋学期授業/Fall	344
諸外国語初級	L0417	スペイン語初級A [松井 賢治、杉守 慶太]	春学期授業/Spring	345
諸外国語初級	L0418	スペイン語初級B [松井 賢治、杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	346
諸外国語初級	L0421	朝鮮語初級A [荻野 優子、李 相旭]	春学期授業/Spring	347
諸外国語初級	L0422	朝鮮語初級B [荻野 優子、李 相旭]	秋学期授業/Fall	348
諸外国語初級	L0423	朝鮮語初級A [荻野 優子、李 相旭]	春学期授業/Spring	348
諸外国語初級	L0424	朝鮮語初級B [荻野 優子、李 相旭]	秋学期授業/Fall	349
日本語	L7431	日本語1-I [須賀 和香子]	春学期授業/Spring	350
日本語	L7432	日本語1-II [須賀 和香子]	秋学期授業/Fall	351
日本語	L7433	日本語1-I [須賀 和香子]	春学期授業/Spring	352
日本語	L7434	日本語1-II [須賀 和香子]	秋学期授業/Fall	353
日本語	L7435	日本語1-I [三松 国宏]	春学期授業/Spring	354
日本語	L7436	日本語1-II [三松 国宏]	秋学期授業/Fall	354
日本語	L7451	日本語1-I [村上 佳恵]	春学期授業/Spring	355
日本語	L7452	日本語1-II [村上 佳恵]	秋学期授業/Fall	356
日本語	L7437	日本語2-I [乾 浩]	春学期授業/Spring	357
日本語	L7438	日本語2-II [乾 浩]	秋学期授業/Fall	358
日本語	L7439	日本語2-I [乾 浩]	春学期授業/Spring	359
日本語	L7440	日本語2-II [乾 浩]	秋学期授業/Fall	360
日本語	L7441	日本語2-I [乾 浩]	春学期授業/Spring	361

日本語【L7442】日本語 2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	362
日本語【L7453】日本語 2-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	363
日本語【L7454】日本語 2-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	364
日本語【L7443】日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	365
日本語【L7444】日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	366
日本語【L7445】日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	367
日本語【L7446】日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	368
日本語【L7447】日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	369
日本語【L7448】日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	370
日本語【L7455】日本語 3-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	371
日本語【L7456】日本語 3-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	372
日本語【L7461】特講 (ビジネス日本語) [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	373
日本語【L7462】特講 (ビジネス日本語) [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	374
講義・実習科目【LE201-a】Skill-Based English A I (Comprehensive English) [佐藤 修一] 春学期授業/Spring	375
講義・実習科目【LE202-a】Skill-Based English A II (Comprehensive English) [佐藤 修一] 秋学期授業/Fall	376
講義・実習科目【LE201-b】Skill-Based English A I (Comprehensive English) [佐藤 修一] 春学期授業/Spring	377
講義・実習科目【LE202-b】Skill-Based English A II (Comprehensive English) [佐藤 修一] 秋学期授業/Fall	378
講義・実習科目【LE203-a】Skill-Based English B I (Reading & Writing) [JONATHAN D BROWN] 春学期 授業/Spring	379
講義・実習科目【LE204-a】Skill-Based English B II (Reading & Writing) [JONATHAN D BROWN] 秋学期 授業/Fall	380
講義・実習科目【LE203-b】Skill-Based English B I (Reading & Writing) [小林 テレサ] 春学期授業/Spring	381
講義・実習科目【LE204-b】Skill-Based English B II (Reading & Writing) [小林 テレサ] 秋学期授業/Fall	382
講義・実習科目【LE205】Skill-Based English C I (Reading & Writing) [深津 勇仁] 春学期授業/Spring	384
講義・実習科目【LE206】Skill-Based English C II (Reading & Writing) [深津 勇仁] 秋学期授業/Fall	385
講義・実習科目【LE207-a】Skill-Based English D I (Oral Communication) [PAUL HOWL] 春学期授業/Spring	386
講義・実習科目【LE208-a】Skill-Based English D II (Oral Communication) [PAUL HOWL] 秋学期授業/Fall	387
講義・実習科目【LE207-b】Skill-Based English D I (Oral Communication) [PAUL HOWL] 春学期授業/Spring	388
講義・実習科目【LE208-b】Skill-Based English D II (Oral Communication) [PAUL HOWL] 秋学期授業/Fall	389
講義・実習科目【LE209】Skill-Based English E I (Oral Communication) [JAMES WATT] 春学期授業/Spring	390
講義・実習科目【LE210】Skill-Based English E II (Oral Communication) [JAMES WATT] 秋学期授業/Fall	391
講義・実習科目【LE211】Skill-Based English F I (Intensive Reading) [金原 瑞人] 春学期授業/Spring	392
講義・実習科目【LE212】Skill-Based English F II (Intensive Reading) [金原 瑞人] 秋学期授業/Fall	393
講義・実習科目【LE213】English for Specific Purposes A I (英語翻訳) [金原 瑞人] 春学期授業/Spring	394
講義・実習科目【LE214】English for Specific Purposes A II (英語翻訳) [金原 瑞人] 秋学期授業/Fall	395
講義・実習科目【LE215】English for Specific Purposes B I (英語翻訳) [金原 瑞人] 春学期授業/Spring	396
講義・実習科目【LE216】English for Specific Purposes B II (英語翻訳) [金原 瑞人] 秋学期授業/Fall	397
講義・実習科目【LE217-a】English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R)) [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	398
講義・実習科目【LE217-b】English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R)) [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	399
講義・実習科目【LE217-c】English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R)) [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	400
講義・実習科目【LE217-d】English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R)) [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	401
講義・実習科目【LE218-a】English for Specific Purposes D (Intensive TOEFL (R)) [JAMES WATT] 春学 期授業/Spring	402
講義・実習科目【LE218-b】English for Specific Purposes D (Intensive TOEFL (R)) [JAMES WATT] 秋学 期授業/Fall	403
講義・実習科目【LE219-a】Content-Based English A I (Drama) [PAUL HOWL] 春学期授業/Spring	404
講義・実習科目【LE220-a】Content-Based English A II (Drama) [PAUL HOWL] 秋学期授業/Fall	405
講義・実習科目【LE219-b】Content-Based English A I (Drama) [PAUL HOWL] 春学期授業/Spring	406
講義・実習科目【LE220-b】Content-Based English A II (Drama) [PAUL HOWL] 秋学期授業/Fall	407
講義・実習科目【LE221】Content-Based English B I (Global Issues) [二村 まどか] 春学期授業/Spring	408
講義・実習科目【LE222】Content-Based English B II (Global Issues) [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	409
講義・実習科目【LE223】Content-Based English C I (International News English) [深津 勇仁] 春学期授 業/Spring	409
講義・実習科目【LE224】Content-Based English C II (International News English) [深津 勇仁] 秋学期授業/Fall	410
講義・実習科目【LE225】Content-Based English D I (Gender Issues) [西田 佳子] 春学期授業/Spring	411
講義・実習科目【LE226】Content-Based English D II (Gender Issues) [西田 佳子] 秋学期授業/Fall	412

講義・実習科目	[LE227] Content-Based English E (Topics in Comparative Culture) [PAUL HOWL] 春学期	
	授業/Spring	413
講義・実習科目	[LG214] ドイツ語中級4・5・6 [兼子 安弘] 春学期授業/Spring	414
講義・実習科目	[LG221] ドイツ語1A (講読) [兼子 安弘] 春学期授業/Spring	415
講義・実習科目	[LG224] ドイツ語2A (講読) [兼子 安弘] 秋学期授業/Fall	416
講義・実習科目	[LG222] ドイツ語1B (文法) [濱中 春] 春学期授業/Spring	417
講義・実習科目	[LG225] ドイツ語2B (文法) [濱中 春] 秋学期授業/Fall	418
講義・実習科目	[LG223] ドイツ語1C (会話) [MARKUS GRASMUECK] 春学期授業/Spring	419
講義・実習科目	[LG226] ドイツ語2C (会話) [MARKUS GRASMUECK] 秋学期授業/Fall	420
講義・実習科目	[LG227] ドイツ語3A・5A (講読) [濱中 春] 春学期授業/Spring	421
講義・実習科目	[LG229] ドイツ語4A・6A (講読) [濱中 春] 秋学期授業/Fall	422
講義・実習科目	[LG228] ドイツ語3B・5B (表現) [MARKUS GRASMUECK] 春学期授業/Spring	423
講義・実習科目	[LG230] ドイツ語4B・6B (表現) [MARKUS GRASMUECK] 秋学期授業/Fall	424
講義・実習科目	[LG601] ドイツ語コミュニケーション入門A [MARKUS GRASMUECK] 春学期授業/Spring	425
講義・実習科目	[LG602] ドイツ語コミュニケーション入門B [MARKUS GRASMUECK] 秋学期授業/Fall	426
講義・実習科目	[LG603] ドイツ語圏の社会と文化 [濱中 春] 秋学期授業/Fall	427
講義・実習科目	[LF314] フランス語中級4・5・6 [美頭 千不美] 春学期授業/Spring	428
講義・実習科目	[LF321] フランス語1A (講読) [高橋 久美] 春学期授業/Spring	430
講義・実習科目	[LF324] フランス語2A (講読) [高橋 久美] 秋学期授業/Fall	431
講義・実習科目	[LF322] フランス語1B (文法) [高橋 愛] 春学期授業/Spring	432
講義・実習科目	[LF325] フランス語2B (文法) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	433
講義・実習科目	[LF323] フランス語1C (会話) [瀬谷 グロンダン アンヌオレリ] 春学期授業/Spring	434
講義・実習科目	[LF326] フランス語2C (会話) [瀬谷 グロンダン アンヌオレリ] 秋学期授業/Fall	434
講義・実習科目	[LF327] フランス語3A・5A (講読) [高橋 愛] 春学期授業/Spring	435
講義・実習科目	[LF329] フランス語4A・6A (講読) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	436
講義・実習科目	[LF328] フランス語3B・5B (表現) [瀬谷 グロンダン アンヌオレリ] 春学期授業/Spring	437
講義・実習科目	[LF330] フランス語4B・6B (表現) [瀬谷 グロンダン アンヌオレリ] 秋学期授業/Fall	438
講義・実習科目	[LF601] フランス語コミュニケーション入門A [瀬谷 グロンダン アンヌオレリ] 春学期授業/Spring	439
講義・実習科目	[LF602] フランス語コミュニケーション入門B [瀬谷 グロンダン アンヌオレリ] 秋学期授業/Fall	440
講義・実習科目	[LF603] フランス語圏の社会と文化 [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	441
講義・実習科目	[LH414] 中国語中級4・5・6 [田中 理恵] 春学期授業/Spring	442
講義・実習科目	[LH421] 中国語1A (講読) [田中 理恵] 春学期授業/Spring	443
講義・実習科目	[LH424] 中国語2A (講読) [田中 理恵] 秋学期授業/Fall	444
講義・実習科目	[LH422] 中国語1B (文法) [渡辺 浩司] 春学期授業/Spring	445
講義・実習科目	[LH425] 中国語2B (文法) [渡辺 浩司] 秋学期授業/Fall	446
講義・実習科目	[LH423] 中国語1C (会話) [謝 荔] 春学期授業/Spring	447
講義・実習科目	[LH426] 中国語2C (会話) [謝 荔] 秋学期授業/Fall	448
講義・実習科目	[LH427] 中国語3A・5A (講読) [綿貫 哲郎] 春学期授業/Spring	449
講義・実習科目	[LH430] 中国語4A・6A (講読) [綿貫 哲郎] 秋学期授業/Fall	450
講義・実習科目	[LH428] 中国語3B・5B (会話表現) [謝 荔] 春学期授業/Spring	451
講義・実習科目	[LH431] 中国語4B・6B (会話表現) [謝 荔] 秋学期授業/Fall	452
講義・実習科目	[LH429] 中国語3C・5C (文章表現) [謝 荔] 春学期授業/Spring	453
講義・実習科目	[LH432] 中国語4C・6C (文章表現) [謝 荔] 秋学期授業/Fall	454
講義・実習科目	[LH601] 中国語コミュニケーション入門A [謝 荔] 春学期授業/Spring	455
講義・実習科目	[LH602] 中国語コミュニケーション入門B [謝 荔] 秋学期授業/Fall	456
講義・実習科目	[LH603] 中国語圏の社会と文化 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	457
講義・実習科目	[L1335] ロシア語1A [清沢 紫織] 春学期授業/Spring	458
講義・実習科目	[L1337] ロシア語2A [清沢 紫織] 秋学期授業/Fall	459
講義・実習科目	[L1336] ロシア語1B [土岐 康子] 春学期授業/Spring	460
講義・実習科目	[L1338] ロシア語2B [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	461
講義・実習科目	[L1325] スペイン語1A [杉守 慶太] 春学期授業/Spring	462
講義・実習科目	[L1327] スペイン語2A [杉守 慶太] 秋学期授業/Fall	463
講義・実習科目	[L1326] スペイン語1B [乾 隆政] 春学期授業/Spring	464
講義・実習科目	[L1328] スペイン語2B [乾 隆政] 秋学期授業/Fall	465
講義・実習科目	[L1345] 朝鮮語1A [荻野 優子] 春学期授業/Spring	466
講義・実習科目	[L1347] 朝鮮語2A [荻野 優子] 秋学期授業/Fall	467
講義・実習科目	[L1346] 朝鮮語1B [李 相旭] 春学期授業/Spring	468

講義・実習科目	【L1348】	朝鮮語2B [李 相旭] 秋学期授業/Fall	469
講義・実習科目	【LA000】	社会政策科学入門A [惠羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	470
講義・実習科目	【LA001】	社会政策科学入門B [増田 正人] 春学期授業/Spring	471
講義・実習科目	【LA002】	社会政策科学入門C [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	472
講義・実習科目	【LA003】	社会政策科学入門D [天本 哲史] 秋学期授業/Fall	473
講義・実習科目	【LA004】	政治学理論Ⅰ [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	474
講義・実習科目	【LA005】	政治学理論Ⅱ [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	474
講義・実習科目	【LA006】	日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	475
講義・実習科目	【LA007】	憲法 [天本 哲史] 春学期授業/Spring	475
講義・実習科目	【LA008】	民法(総則) [松田 佳久] 春学期授業/Spring	476
講義・実習科目	【LA009】	民法(財産法) [松田 佳久] 秋学期授業/Fall	477
講義・実習科目	【LA010】	ミクロ経済学 [北浦 康嗣] 春学期授業/Spring	478
講義・実習科目	【LA011】	マクロ経済学 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	479
講義・実習科目	【LA012】	組織論 [多田 和美] 秋学期授業/Fall	480
講義・実習科目	【LA013】	政策データ分析実習 [北浦 康嗣] 春学期授業/Spring	481
講義・実習科目	【LA014】	財政学Ⅰ [古市 将人] 春学期授業/Spring	482
講義・実習科目	【LA015】	財政学Ⅱ [古市 将人] 秋学期授業/Fall	482
講義・実習科目	【LA016】	行政学 [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	483
講義・実習科目	【LA017】	行政法Ⅰ [天本 哲史] 春学期授業/Spring	484
講義・実習科目	【LA018】	行政法Ⅱ [天本 哲史] 秋学期授業/Fall	485
講義・実習科目	【LA019】	政策と制度 [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	486
講義・実習科目	【LA020】	人的資源論 [惠羅 さとみ] 春学期授業/Spring	487
講義・実習科目	【LA021】	政策フィールドワーク実習 [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	488
講義・実習科目	【LA022】	外書講読(社会政策科学) 1A [天本 哲史] 秋学期授業/Fall	489
講義・実習科目	【LA100】	企業と社会論A [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	490
講義・実習科目	【LA101】	企業と社会論B [多田 和美] 春学期授業/Spring	491
講義・実習科目	【LA102】	社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	492
講義・実習科目	【LA103】	社会・イノベーション論Ⅱ [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	493
講義・実習科目	【LA104】	中小企業論 [糸久 正人] 春学期授業/Spring	494
講義・実習科目	【LA105】	地域産業論Ⅰ [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	495
講義・実習科目	【LA106】	地域産業論Ⅱ [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	496
講義・実習科目	【LA107】	産業社会学Ⅰ [惠羅 さとみ] 春学期授業/Spring	497
講義・実習科目	【LA108】	産業社会学Ⅱ [惠羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	498
講義・実習科目	【LA109】	国際経営論Ⅰ [多田 和美] 春学期授業/Spring	499
講義・実習科目	【LA110】	国際経営論Ⅱ [多田 和美] 秋学期授業/Fall	500
講義・実習科目	【LA111】	経済政策論 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	500
講義・実習科目	【LA112】	金融システム論 [八木 勲] 春学期授業/Spring	501
講義・実習科目	【LA200】	サステナビリティ論A [島本 美保子] 春学期授業/Spring	502
講義・実習科目	【LA201】	サステナビリティ論B [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	503
講義・実習科目	【LA202】	環境経済学Ⅰ [島本 美保子] 春学期授業/Spring	504
講義・実習科目	【LA203】	環境経済学Ⅱ [島本 美保子] 秋学期授業/Fall	505
講義・実習科目	【LA204】	環境政策論 [馬場 健司] 春学期授業/Spring	506
講義・実習科目	【LA205】	環境自治体論 [馬場 健司] 春学期授業/Spring	507
講義・実習科目	【LA206】	エネルギー論 [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	508
講義・実習科目	【LA207】	気候変動論 [縫村 崇行] 春学期授業/Spring	508
講義・実習科目	【LA208】	福祉社会学Ⅰ [平野 寛弥] 春学期授業/Spring	509
講義・実習科目	【LA209】	福祉社会学Ⅱ [平野 寛弥] 秋学期授業/Fall	510
講義・実習科目	【LA210】	社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	511
講義・実習科目	【LA211】	社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	512
講義・実習科目	【LA300】	グローバル市民社会論A [岡野内 正] 春学期授業/Spring	513
講義・実習科目	【LA301】	グローバル市民社会論B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	514
講義・実習科目	【LA302】	グローバル社会のローカリティ [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	515
講義・実習科目	【LA303】	市民運動論 [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	516
講義・実習科目	【LA304】	地方財政論 [早崎 成都] 秋学期授業/Fall	517
講義・実習科目	【LA305】	地方自治論Ⅰ [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	518
講義・実習科目	【LA306】	地方自治論Ⅱ [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	520
講義・実習科目	【LA307】	国際政治論 [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	522

講義・実習科目	【LA308】	国際協力論 [岡野内 正]	秋学期授業/Fall	523
講義・実習科目	【LA309】	イスラム社会論 [岡野内 正]	春学期授業/Spring	524
講義・実習科目	【LA310】	国際経済論Ⅰ [増田 正人]	春学期授業/Spring	525
講義・実習科目	【LA311】	国際経済論Ⅱ [増田 正人]	秋学期授業/Fall	526
講義・実習科目	【LA312】	国際法 [妻木 伸之]	秋学期授業/Fall	527
講義・実習科目	【LB000】	社会学への招待 [三井 さよ]	秋学期授業/Fall	528
講義・実習科目	【LB001-a】	社会学入門A [徳安 彰、兼子 諭]	春学期授業/Spring	529
講義・実習科目	【LB001-b】	社会学入門A [徳安 彰、兼子 諭]	秋学期授業/Fall	530
講義・実習科目	【LB002-a】	社会学入門B [斎藤 友里子、鈴木 智之]	春学期授業/Spring	531
講義・実習科目	【LB002-b】	社会学入門B [斎藤 友里子、鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	532
講義・実習科目	【LB003】	社会調査入門 [多喜 弘文]	春学期授業/Spring	533
講義・実習科目	【LB004】	社会学理論AⅠ [鈴木 智之]	春学期授業/Spring	534
講義・実習科目	【LB005】	社会学理論AⅡ [鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	535
講義・実習科目	【LB006】	社会学理論BⅠ [佐藤 成基]	春学期授業/Spring	536
講義・実習科目	【LB007】	社会学理論BⅡ [佐藤 成基]	秋学期授業/Fall	537
講義・実習科目	【LB008】	社会調査の方法 [多喜 弘文]	秋学期授業/Fall	538
講義・実習科目	【LB009】	社会調査のリテラシー [三井 さよ]	秋学期授業/Fall	539
講義・実習科目	【LB010】	理論社会学 [徳安 彰]	春学期授業/Spring	540
講義・実習科目	【LB011】	社会学史Ⅰ [徳安 彰]	春学期授業/Spring	541
講義・実習科目	【LB012】	社会学史Ⅱ [徳安 彰]	秋学期授業/Fall	542
講義・実習科目	【LB013】	歴史社会学Ⅰ [鈴木 智道]	春学期授業/Spring	543
講義・実習科目	【LB014】	歴史社会学Ⅱ [鈴木 智道]	秋学期授業/Fall	543
講義・実習科目	【LB015】	数理社会学Ⅰ [斎藤 友里子]	春学期授業/Spring	544
講義・実習科目	【LB016】	数理社会学Ⅱ [斎藤 友里子]	秋学期授業/Fall	545
講義・実習科目	【LB017】	原典講読 [菊澤 佐江子]	秋学期授業/Fall	546
講義・実習科目	【LB018】	社会学総合特講A [鈴木 智之]	春学期授業/Spring	547
講義・実習科目	【LB019】	社会学総合特講B [鈴木 智道]	秋学期授業/Fall	548
講義・実習科目	【LB022】	外書講読(社会学)2A [樋口 明彦]	春学期授業/Spring	549
講義・実習科目	【LB023】	外書講読(社会学)2B [樋口 明彦]	秋学期授業/Fall	550
講義・実習科目	【LB024】	外書講読(社会学)3A [堀川 三郎]	春学期授業/Spring	551
講義・実習科目	【LB025】	外書講読(社会学)3B [堀川 三郎]	秋学期授業/Fall	552
講義・実習科目	【LB026】	統計調査法 [斎藤 友里子]	春学期授業/Spring	553
講義・実習科目	【LB027-a】	社会調査実習 [池田 寛二]	年間授業/Yearly	554
講義・実習科目	【LB027-b】	社会調査実習 [田嶋 淳子]	年間授業/Yearly	555
講義・実習科目	【LB027-c】	社会調査実習 [斎藤 友里子]	年間授業/Yearly	556
講義・実習科目	【LB027-d】	社会調査実習 [多喜 弘文]	年間授業/Yearly	557
講義・実習科目	【LB028-a】	調査研究法A [斎藤 友里子]	秋学期授業/Fall	558
講義・実習科目	【LB028-b】	調査研究法A [多喜 弘文]	秋学期授業/Fall	559
講義・実習科目	【LB029-a】	調査研究法B [池田 寛二]	春学期授業/Spring	560
講義・実習科目	【LB029-b】	調査研究法B [田嶋 淳子]	春学期授業/Spring	561
講義・実習科目	【LB100】	人間・社会論 [土倉 英志]	春学期授業/Spring	562
講義・実習科目	【LB101】	ジェンダー論 [飯野 智子]	春学期授業/Spring	563
講義・実習科目	【LB102】	発達・教育の理論Ⅰ [山下 大厚]	春学期授業/Spring	564
講義・実習科目	【LB103】	発達・教育の理論Ⅱ [山下 大厚]	秋学期授業/Fall	565
講義・実習科目	【LB104】	家族社会学Ⅰ [菊澤 佐江子]	春学期授業/Spring	566
講義・実習科目	【LB105】	家族社会学Ⅱ [菊澤 佐江子]	秋学期授業/Fall	567
講義・実習科目	【LB106】	臨床社会学Ⅰ [三井 さよ]	春学期授業/Spring	568
講義・実習科目	【LB107】	臨床社会学Ⅱ [三井 さよ]	秋学期授業/Fall	568
講義・実習科目	【LB108】	社会心理学Ⅰ [土倉 英志]	春学期授業/Spring	569
講義・実習科目	【LB109】	社会心理学Ⅱ [土倉 英志]	秋学期授業/Fall	570
講義・実習科目	【LB110】	エイジングの社会学 [姫野 宏輔]	秋学期授業/Fall	571
講義・実習科目	【LB111】	社会教育概論Ⅰ [荒井 容子]	春学期授業/Spring	572
講義・実習科目	【LB112】	社会教育概論Ⅱ [荒井 容子]	秋学期授業/Fall	573
講義・実習科目	【LB200】	コミュニティ・デザイン論Ⅰ [樋口 明彦]	春学期授業/Spring	574
講義・実習科目	【LB201】	コミュニティ・デザイン論Ⅱ [樋口 明彦]	秋学期授業/Fall	575
講義・実習科目	【LB202】	環境社会学Ⅰ [堀川 三郎]	春学期授業/Spring	575
講義・実習科目	【LB203】	環境社会学Ⅱ [堀川 三郎]	秋学期授業/Fall	576

講義・実習科目	[LB204]	現代農業・農村の社会学 [池田 寛二] 春学期授業/Spring	577
講義・実習科目	[LB205]	地域環境論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	578
講義・実習科目	[LB300]	文化社会学A [武田 俊輔] 春学期授業/Spring	579
講義・実習科目	[LB301]	文化社会学B [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	580
講義・実習科目	[LB302]	表象文化論A [高橋 愛] 春学期授業/Spring	581
講義・実習科目	[LB303]	表象文化論B [濱中 春] 秋学期授業/Fall	582
講義・実習科目	[LB304]	文化人類学 [謝 荔] 春学期授業/Spring	583
講義・実習科目	[LB305]	宗教社会学 [永井 美紀子] 春学期授業/Spring	584
講義・実習科目	[LB306]	スポーツ文化論 [水上 博司] 秋学期授業/Fall	585
講義・実習科目	[LB400]	国際社会と日本 [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	586
講義・実習科目	[LB401]	国際社会と言語文化 [高橋 愛] 春学期授業/Spring	587
講義・実習科目	[LB402]	国際社会学I [田嶋 淳子] 春学期授業/Spring	588
講義・実習科目	[LB403]	国際社会学II [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	589
講義・実習科目	[LB404]	国際関係論I [二村 まどか] 春学期授業/Spring	590
講義・実習科目	[LB405]	国際関係論II [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	591
講義・実習科目	[LB406]	国際社会と民族 [高橋 誠一] 春学期授業/Spring	592
講義・実習科目	[LB407]	開発とジェンダー [吉村 真子] 秋学期授業/Fall	593
講義・実習科目	[LB408]	地域研究 (ヨーロッパ) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	594
講義・実習科目	[LB409]	地域研究 (アジア) [吉村 真子] 春学期授業/Spring	595
講義・実習科目	[LB410]	地域研究 (中国) [綿貫 哲郎] 秋学期授業/Fall	596
講義・実習科目	[LB904]	特講 (地域・都市社会学の再構築) [武田 俊輔] 春学期授業/Spring	597
講義・実習科目	[LD000]	メディア研究法入門A [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	598
講義・実習科目	[LD001]	メディア研究法入門B [橋爪 絢子] 秋学期授業/Fall	599
講義・実習科目	[LD002]	メディア社会入門I [津田 正太郎] 春学期授業/Spring	600
講義・実習科目	[LD003]	メディア社会入門II [北原 利行] 秋学期授業/Fall	601
講義・実習科目	[LD004]	メディア社会学基礎A [土橋 臣吾] 秋学期授業/Fall	602
講義・実習科目	[LD005]	メディア社会学基礎B [稲増 龍夫] 春学期授業/Spring	603
講義・実習科目	[LD006]	メディア社会学基礎C [白田 秀彰] 春学期授業/Spring	604
講義・実習科目	[LD007]	メディアと人間I [李 舜志] 春学期授業/Spring	605
講義・実習科目	[LD008]	メディアと人間II [李 舜志] 秋学期授業/Fall	606
講義・実習科目	[LD009]	メディアの思想 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	607
講義・実習科目	[LD010-a]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring	608
講義・実習科目	[LD010-b]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall	609
講義・実習科目	[LD010-c]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 春学期授業/Spring	610
講義・実習科目	[LD010-d]	クリエイティブ・ライティング [梨屋 アリエ] 秋学期授業/Fall	611
講義・実習科目	[LD011]	社会問題とメディア [津田 正太郎] 秋学期授業/Fall	612
講義・実習科目	[LD012]	認知科学 [中井 彩香] 春学期授業/Spring	613
講義・実習科目	[LD013]	知的財産権法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	614
講義・実習科目	[LD014]	メディア法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	615
講義・実習科目	[LD015]	公共性と民主主義I [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	616
講義・実習科目	[LD016]	公共性と民主主義II [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	617
講義・実習科目	[LD017]	プログラミングと論理的思考 [鈴木 麻美] 秋学期授業/Fall	618
講義・実習科目	[LD018-a]	ウェブ・プログラミングA [森 幹彦] 春学期授業/Spring	619
講義・実習科目	[LD018-b]	ウェブ・プログラミングA [石井 由起] 春学期授業/Spring	620
講義・実習科目	[LD018-c]	ウェブ・プログラミングA [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	621
講義・実習科目	[LD019]	ウェブ・プログラミングB [森 幹彦] 秋学期授業/Fall	622
講義・実習科目	[LD020-a]	システム・プログラミングA [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	623
講義・実習科目	[LD020-c]	システム・プログラミングA [金井 明人] 秋学期授業/Fall	624
講義・実習科目	[LD021]	システム・プログラミングB [森 幹彦] 秋学期授業/Fall	625
講義・実習科目	[LD022-a]	メディアプログラミング実習 [湯本 正実] 春学期授業/Spring	626
講義・実習科目	[LD022-b]	メディアプログラミング実習 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	626
講義・実習科目	[LD023]	特講 (コミュニケーション・デザイン論) [石寺 修三、青木 貞茂] 春学期授業/Spring	627
講義・実習科目	[LD024]	外書講読 (メディア社会学) 1A [水野 剛也] 春学期授業/Spring	628
講義・実習科目	[LD025]	外書講読 (メディア社会学) 1B [吉田 公記] 秋学期授業/Fall	629
講義・実習科目	[LD100]	メディア文化論 [稲増 龍夫] 春学期授業/Spring	630
講義・実習科目	[LD101-a]	映像制作技法 [稲増 龍夫] 春学期授業/Spring	631
講義・実習科目	[LD101-b]	映像制作技法 [稲増 龍夫] 秋学期授業/Fall	632

講義・実習科目	【LD102-a】	映像制作実習 [稲増 龍夫] 春学期授業/Spring	633
講義・実習科目	【LD102-b】	映像制作実習 [小坂 一順] 秋学期授業/Fall	634
講義・実習科目	【LD103】	広告・消費文化論 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	635
講義・実習科目	【LD104】	広告・P R論 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	636
講義・実習科目	【LD105】	広告制作実習 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	637
講義・実習科目	【LD106】	情報科学とコミュニケーション [金井 明人] 春学期授業/Spring	638
講義・実習科目	【LD107】	認知映像論 [金井 明人] 秋学期授業/Fall	639
講義・実習科目	【LD108】	物語シミュレーション [金井 明人] 秋学期授業/Fall	640
講義・実習科目	【LD109】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ [水野 剛也] 春学期授業/Spring	641
講義・実習科目	【LD110】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ [飯田 裕美子] 秋学期授業/Fall	642
講義・実習科目	【LD111-a】	ニュース・ライティング [飯田 裕美子] 春学期授業/Spring	643
講義・実習科目	【LD111-b】	ニュース・ライティング [飯田 裕美子] 秋学期授業/Fall	644
講義・実習科目	【LD112】	メディア社会学特講 (表現) [稲増 龍夫] 秋学期授業/Fall	645
講義・実習科目	【LD125】	広告制作実習 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	646
講義・実習科目	【LD200】	消費者行動論 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	647
講義・実習科目	【LD201-a】	消費者行動モデリング [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	648
講義・実習科目	【LD201-b】	消費者行動モデリング [高村 恒人] 秋学期授業/Fall	649
講義・実習科目	【LD202】	マーケティング実践 [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	650
講義・実習科目	【LD203】	都市空間とデザインⅠ [齋藤 伊久太郎] 春学期授業/Spring	651
講義・実習科目	【LD204】	都市空間とデザインⅡ [齋藤 伊久太郎] 秋学期授業/Fall	651
講義・実習科目	【LD205】	都市空間分析 [郭 東潤] 春学期授業/Spring	652
講義・実習科目	【LD206】	メディアの歴史 [小林 直毅] 春学期授業/Spring	653
講義・実習科目	【LD207】	メディア分析技法 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	654
講義・実習科目	【LD208】	メディア分析実践 [小林 直毅] 春学期授業/Spring	655
講義・実習科目	【LD209】	マス・コミュニケーション論 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	656
講義・実習科目	【LD210】	メディアコンテンツ論 [西田 善行] 秋学期授業/Fall	657
講義・実習科目	【LD211】	メディアコンテンツ分析 [西田 善行] 春学期授業/Spring	658
講義・実習科目	【LD212】	メディア社会学特講 (分析) [松下 峻也] 秋学期授業/Fall	659
講義・実習科目	【LD300】	メディアテクノロジーと社会 [橋爪 絢子] 春学期授業/Spring	660
講義・実習科目	【LD301】	メディアテクノロジーと社会分析 [橋爪 絢子] 秋学期授業/Fall	660
講義・実習科目	【LD302】	メディアテクノロジーと社会実習 [橋爪 絢子] 春学期授業/Spring	661
講義・実習科目	【LD303】	社会ネットワーク論Ⅰ [境 新一] 春学期授業/Spring	662
講義・実習科目	【LD304】	社会ネットワーク論Ⅱ [境 新一] 秋学期授業/Fall	663
講義・実習科目	【LD305】	意思決定論 [境 新一] 秋学期授業/Fall	664
講義・実習科目	【LD306】	デジタル情報環境論 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	665
講義・実習科目	【LD307】	デジタル情報環境分析 [土橋 臣吾] 秋学期授業/Fall	666
講義・実習科目	【LD308】	デジタル情報環境実習 [土橋 臣吾] 秋学期授業/Fall	667
講義・実習科目	【LD309】	ソーシャルメディア論 [藤代 裕之] 春学期授業/Spring	668
講義・実習科目	【LD310】	ソーシャルメディア分析 [藤代 裕之] 秋学期授業/Fall	669
講義・実習科目	【LD311】	ソーシャルメディア実習 [藤代 裕之] 春学期授業/Spring	670
講義・実習科目	【LD312】	メディア社会学特講 (設計) [橋爪 絢子] 秋学期授業/Fall	670
専門演習	【L1401】	演習Ⅰ [青木 貞茂] 年間授業/Yearly	671
専門演習	【L1402】	演習Ⅱ [青木 貞茂] 年間授業/Yearly	672
専門演習	【L1403】	演習Ⅲ (卒業論文) [青木 貞茂] 年間授業/Yearly	673
専門演習	【L1406】	演習Ⅰ・Ⅱ [荒井 容子] 年間授業/Yearly	674
専門演習	【L1408】	演習Ⅲ (卒業論文) [荒井 容子] 年間授業/Yearly	675
専門演習	【L1410】	演習Ⅰ [荒木 暢也] 年間授業/Yearly	676
専門演習	【L1418】	演習Ⅲ (卒業論文) [池田 寛二] 年間授業/Yearly	678
専門演習	【L1421】	演習Ⅰ・Ⅱ [糸久 正人] 年間授業/Yearly	679
専門演習	【L1423】	演習Ⅲ (卒業論文) [糸久 正人] 年間授業/Yearly	680
専門演習	【L1433】	演習Ⅲ (卒業論文) [稲増 龍夫] 年間授業/Yearly	681
専門演習	【L1446】	演習Ⅰ・Ⅱ [岡野内 正] 年間授業/Yearly	682
専門演習	【L1448】	演習Ⅲ (卒業論文) [岡野内 正] 年間授業/Yearly	683
専門演習	【L1456】	演習Ⅰ [金井 明人] 年間授業/Yearly	684
専門演習	【L1457】	演習Ⅱ・Ⅲ (卒業論文) [金井 明人] 年間授業/Yearly	685
専門演習	【L1467】	演習Ⅱ [平野 寛弥] 年間授業/Yearly	686
専門演習	【L1468】	演習Ⅲ (卒業論文) [平野 寛弥] 年間授業/Yearly	687

専門演習	[L1476]	演習 1 [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	688
専門演習	[L1477]	演習 2 [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	689
専門演習	[L1478]	演習 3 (卒業論文) [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	690
専門演習	[L1487]	演習 2 [國本 眞由子] 年間授業/Yearly	691
専門演習	[L1488]	演習 3 (卒業論文) [笠野 英弘] 年間授業/Yearly	692
専門演習	[L1490]	演習 1 [宮本 裕子] 年間授業/Yearly	693
専門演習	[L1491]	演習 2 [宮本 裕子] 年間授業/Yearly	694
専門演習	[L1492]	演習 3 (卒業論文) [宮本 裕子] 年間授業/Yearly	695
専門演習	[L1494]	演習 1 [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	696
専門演習	[L1495]	演習 2 [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	697
専門演習	[L1496]	演習 3 (卒業論文) [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	698
専門演習	[L1501]	演習 1 [愼 蒼宇] 年間授業/Yearly	699
専門演習	[L1502]	演習 2 [愼 蒼宇] 年間授業/Yearly	700
専門演習	[L1503]	演習 3 (卒業論文) [愼 蒼宇] 年間授業/Yearly	701
専門演習	[L1505]	演習 1・2 [佐藤 成基] 年間授業/Yearly	702
専門演習	[L1507]	演習 3 (卒業論文) [佐藤 成基] 年間授業/Yearly	703
専門演習	[L1511]	演習 1 [島本 美保子] 年間授業/Yearly	704
専門演習	[L1512]	演習 2 [島本 美保子] 年間授業/Yearly	705
専門演習	[L1513]	演習 3 (卒業論文) [島本 美保子] 年間授業/Yearly	706
専門演習	[L1521]	演習 1 [白田 秀彰] 年間授業/Yearly	707
専門演習	[L1522]	演習 2・3 (卒業論文) [白田 秀彰] 年間授業/Yearly	708
専門演習	[L1526]	演習 1・2 [白鳥 浩] 年間授業/Yearly	709
専門演習	[L1528]	演習 3 (卒業論文) [白鳥 浩] 年間授業/Yearly	710
専門演習	[L1531]	演習 1 [鈴木 智道] 年間授業/Yearly	711
専門演習	[L1532]	演習 2 [鈴木 智道] 年間授業/Yearly	712
専門演習	[L1533]	演習 3 (卒業論文) [鈴木 智道] 年間授業/Yearly	713
専門演習	[L1536]	演習 1・2 [鈴木 智之] 年間授業/Yearly	714
専門演習	[L1538]	演習 3 (卒業論文) [鈴木 智之] 年間授業/Yearly	715
専門演習	[L1539]	演習 1 [鈴木 麻美] 年間授業/Yearly	715
専門演習	[L1540]	演習 2 [鈴木 麻美] 年間授業/Yearly	716
専門演習	[L1541]	演習 3 (卒業論文) [鈴木 麻美] 年間授業/Yearly	717
専門演習	[L1545]	演習 1 [多喜 弘文] 年間授業/Yearly	718
専門演習	[L1546]	演習 2 [多喜 弘文] 年間授業/Yearly	719
専門演習	[L1547]	演習 3 (卒業論文) [多喜 弘文] 年間授業/Yearly	720
専門演習	[L1561]	演習 1 [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	721
専門演習	[L1562]	演習 2 [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	722
専門演習	[L1563]	演習 3 (卒業論文) [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	723
専門演習	[L1572]	演習 2 [津田 正太郎] 年間授業/Yearly	724
専門演習	[L1573]	演習 3 (卒業論文) [津田 正太郎] 年間授業/Yearly	725
専門演習	[L1581]	演習 1・2 [徳安 彰] 年間授業/Yearly	726
専門演習	[L1583]	演習 3 (卒業論文) [徳安 彰] 年間授業/Yearly	727
専門演習	[L1586]	演習 1 [中筋 直哉] 年間授業/Yearly	728
専門演習	[L1587]	演習 2・3 (卒業論文) [中筋 直哉] 年間授業/Yearly	729
専門演習	[L1591]	演習 1・2 [濱中 春] 年間授業/Yearly	730
専門演習	[L1593]	演習 3 (卒業論文) [濱中 春] 年間授業/Yearly	731
専門演習	[L1601]	演習 1 [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	732
専門演習	[L1602]	演習 2 [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	733
専門演習	[L1603]	演習 3 (卒業論文) [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	734
専門演習	[L1613]	演習 3 (卒業論文) [加藤 徹郎] 年間授業/Yearly	735
専門演習	[L1621]	演習 1 [堀川 三郎] 年間授業/Yearly	736
専門演習	[L1622]	演習 2 [堀川 三郎] 年間授業/Yearly	737
専門演習	[L1623]	演習 3 (卒業論文) [堀川 三郎] 年間授業/Yearly	738
専門演習	[L1626]	演習 1 [藤代 裕之] 年間授業/Yearly	739
専門演習	[L1627]	演習 2 [藤代 裕之] 年間授業/Yearly	740
専門演習	[L1628]	演習 3 (卒業論文) [藤代 裕之] 年間授業/Yearly	741
専門演習	[L1631]	演習 1 [増田 正人] 年間授業/Yearly	742
専門演習	[L1632]	演習 2 [増田 正人] 年間授業/Yearly	743

専門演習	[L1633]	演習 3 (卒業論文) [増田 正人] 年間授業/Yearly	744
専門演習	[L1641]	演習 1・2・3 (卒業論文) [三井 さよ] 年間授業/Yearly	745
専門演習	[L1666]	演習 1 [吉村 真子] 年間授業/Yearly	746
専門演習	[L1667]	演習 2 [吉村 真子] 年間授業/Yearly	747
専門演習	[L1668]	演習 3 (卒業論文) [吉村 真子] 年間授業/Yearly	748
専門演習	[L1671]	演習 1 [宇野 齊] 年間授業/Yearly	749
専門演習	[L1672]	演習 2 [宇野 齊] 年間授業/Yearly	750
専門演習	[L1673]	演習 3 (卒業論文) [境 新一] 年間授業/Yearly	751
専門演習	[L1674]	演習 1 [平塚 眞樹] 年間授業/Yearly	752
専門演習	[L1677]	演習 1・2 [谷本 有美子] 年間授業/Yearly	753
専門演習	[L1679]	演習 3 (卒業論文) [谷本 有美子] 年間授業/Yearly	755
専門演習	[L1680]	演習 1 [長沼 建一郎] 年間授業/Yearly	756
専門演習	[L1681]	演習 2 [長沼 建一郎] 年間授業/Yearly	757
専門演習	[L1682]	演習 3 (卒業論文) [長沼 建一郎] 年間授業/Yearly	758
専門演習	[L1709]	演習 3 (卒業論文) [澁谷 朋樹] 年間授業/Yearly	759
専門演習	[L1781]	演習 1 [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	760
専門演習	[L1782]	演習 2 [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	761
専門演習	[L1783]	演習 3 (卒業論文) [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	762
専門演習	[L1784]	演習 1 [小林 直毅] 年間授業/Yearly	763
専門演習	[L1785]	演習 2・3 (卒業論文) [小林 直毅] 年間授業/Yearly	764
専門演習	[L1787]	演習 1 [鈴木 宗徳] 年間授業/Yearly	765
専門演習	[L1788]	演習 2・3 (卒業論文) [鈴木 宗徳] 年間授業/Yearly	766
専門演習	[L1790]	演習 1 [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	768
専門演習	[L1791]	演習 2 [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	769
専門演習	[L1792]	演習 3 (卒業論文) [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	770
専門演習	[L1796]	演習 1 [鞠子 茂] 年間授業/Yearly	771
専門演習	[L1797]	演習 2 [鞠子 茂] 年間授業/Yearly	772
専門演習	[L1798]	演習 3 (卒業論文) [鞠子 茂] 年間授業/Yearly	773
専門演習	[L1803]	演習 1 [諸上 茂光] 年間授業/Yearly	774
専門演習	[L1804]	演習 2 [諸上 茂光] 年間授業/Yearly	775
専門演習	[L1805]	演習 3 (卒業論文) [諸上 茂光] 年間授業/Yearly	776
専門演習	[L1806]	演習 1 [二村 まどか] 年間授業/Yearly	777
専門演習	[L1811]	演習 3 (卒業論文) [前空 英明] 年間授業/Yearly	778
専門演習	[L1812]	演習 1 [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	779
専門演習	[L1813]	演習 2 [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	780
専門演習	[L1814]	演習 3 (卒業論文) [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	781
専門演習	[L1816]	演習 2 [松下 峻也] 年間授業/Yearly	782
専門演習	[L1817]	演習 3 (卒業論文) [松下 峻也] 年間授業/Yearly	783
専門演習	[L1818]	演習 1・2 [多田 和美] 年間授業/Yearly	784
専門演習	[L1820]	演習 3 (卒業論文) [多田 和美] 年間授業/Yearly	785
専門演習	[L1821]	演習 1 [土倉 英志] 年間授業/Yearly	786
専門演習	[L1822]	演習 2 [土倉 英志] 年間授業/Yearly	787
専門演習	[L1823]	演習 3 (卒業論文) [土倉 英志] 年間授業/Yearly	788
専門演習	[L1824]	演習 1 [橋爪 絢子] 年間授業/Yearly	789
専門演習	[L1825]	演習 2 [橋爪 絢子] 年間授業/Yearly	790
専門演習	[L1826]	演習 3 (卒業論文) [橋爪 絢子] 年間授業/Yearly	791
専門演習	[L1827]	演習 1 [JONATHAN D BROWN] 年間授業/Yearly	792
専門演習	[L1828]	演習 2・3 (卒業論文) [JONATHAN D BROWN] 年間授業/Yearly	793
専門演習	[L1830]	演習 1 [武田 俊輔] 年間授業/Yearly	794
専門演習	[L1831]	演習 2 [武田 俊輔] 年間授業/Yearly	795
専門演習	[L1832]	演習 3 (卒業論文) [武田 俊輔] 年間授業/Yearly	796
専門演習	[L1833]	演習 1 [惠羅 さとみ] 年間授業/Yearly	797
専門演習	[L1834]	演習 2 [惠羅 さとみ] 年間授業/Yearly	798
専門演習	[L1836]	演習 1 [李 舜志] 年間授業/Yearly	799
専門演習	[L1837]	演習 2 [李 舜志] 年間授業/Yearly	800
専門演習	[L1839]	演習 1 [天本 哲史] 年間授業/Yearly	801
専門演習	[L1842]	演習 1 [森 幹彦] 年間授業/Yearly	802

BSP100EA

基礎演習 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での研究活動のための重要なルール、マナー、技法を身につけることが、基礎演習の目的である。

【到達目標】

学術的なルール、マナー、技法の修得にもとづいて、以下のことが実践できるようになる。

①文献読解、②資料収集、③学術的議論、④レジュメ作成、⑤プレゼンテーション

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面型とオンライン型を隔週で行う。状況によって、授業形態が変更になる可能性がある。

文献読解、学術的議論、レジュメ作成、資料収集、プレゼンテーションといった、大学での研究活動に必要な基礎的能力を修得する。

各回の授業で課題を出し、次週に講評することによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明 自己紹介
2	文献読解	社会学文献の読み方を学ぶ
3	文献検索	社会学文献のオンライン検索の仕方を学ぶ
4	討論①	社会学の概念について理解し、社会現象への適用を議論する
5	討論②	社会学の概念について理解し、社会現象への適用を議論する
6	統計データの読み方①	統計学の基本概念を理解する
7	統計データの読み方②	統計分析の基本的方法を理解する
8	レジュメの作り方	文献購読と研究発表のレジュメの作り方を学ぶ
9	文献講読①	作成したレジュメに基づき、文献講読と討論を行う
10	文献講読②	作成したレジュメに基づき、文献講読と討論を行う
11	文献講読③	作成したレジュメに基づき、文献講読と討論を行う
12	ディベート①	ディベートの方法を学び、実践してみる
13	ディベート②	ディベートの方法を学び、実践してみる
14	論文の書き方	論文作成のための基本的な事項を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。文献読解、資料収集をはじめとする各回の課題について、参加者にランダムに発表を求める。そのため、時間外には課題発表のための準備が必要となる。また授業のフィードバックにもとづく復習も必要となる。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

ケン・ブラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫、2021年）

日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次の通り。

①各回の宿題（70%）、②平常点（積極的な質問や討論での発言など）（30%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンラインと対面を隔週で行った授業での経験を生かし、学生の参加意識と達成感をさらに高められるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自分用のノートパソコンを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

有意義な演習を進めるためには学生の積極的な参加が不可欠です。充実した大学生活を過ごすためのスタートを一緒に切りましょう。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn important rules, manners, and techniques for research activities in the university. At the end of this course, students are expected to acquire basic abilities to read and understanding sociological literatures, to collect relevant data and materials, to discuss logically, to prepare a handout, and to give a presentation. Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Assignments: 70%, in-class contribution: 30%.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習は、テーマを定めて論文を執筆し、完成させることを目的とする。

【到達目標】

学術的なフォーマットに即した論文を執筆することができるようになる。

- ①適切な問いを立てることができる。
- ②適切な論証構成ができる。
- ③適切な文章が書ける。
- ④適切な引用・参照ができる。
- ⑤適切な文献・資料リストを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面型とオンライン型を併用する。状況に応じて方式は変更される可能性がある。

自分の問題意識にもとづく論文の構想を発表し、形式や内容を参加者で検討する。また、それをもとに提出稿の完成を目指す。個人の構想発表にたいして授業内で講評して、論文作成の助けとする。また期末に提出する論文にたいしては、事後にコメントを返して、各自の次年度以降の研究に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	各自の論文のテーマを発表する
2	グループでの検討①	グループでおたがいの論文について議論する
3	グループでの検討②	グループでおたがいの論文について議論する
4	グループでの検討③	グループでおたがいの論文について議論する
5	グループでの検討④	グループでおたがいの論文について議論する
6	論文構想発表①	各自の論文内容を発表して全員で検討する
7	論文構想発表②	各自の論文内容を発表して全員で検討する
8	論文構想発表③	各自の論文内容を発表して全員で検討する
9	論文構想発表④	各自の論文内容を発表して全員で検討する
10	論文構想発表⑤	各自の論文内容を発表して全員で検討する
11	論文構想発表⑥	各自の論文内容を発表して全員で検討する
12	専門演習のガイダンス	専門演習についてガイダンスを行う
13	論文の執筆概要の確認	論文の執筆概要について全体で再度確認する
14	論文の総評	論文の総評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。個人発表や、論文の加筆・修正のための準備が必要となる。また授業でのフィードバックにもとづく復習も必要となる。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

ケン・プラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫、2021年）

日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次の通り。

- ①論文完成稿の提出（60 %）
- ②平常点（出席状況、演習内での発言など）（40 %）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は学生どうしの議論の時間がやや少なかったので、より多くの議論ができるように工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自分用のノートパソコンを準備するのが望ましい。

【その他の重要事項】

自分の論文はもちろんのこと、参加者全員の論文が充実するよう積極的なコメントをお願いします。特に、グループでの検討の際には、他の参加者の論文の充実も図るよう心がけましょう。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to write and complete your article. The concrete goals are to set an adequate research question, to construct a good argumentation, to write academic sentences, to refer to and quote necessary data, materials and literatures, and to make an adequate list of these literatures and materials. Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. Your overall grade in this seminar will be decided based on the following. Term-end article: 60%, in class contribution: 40%.

BSP100EA

基礎演習 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、主に、これから大学で学習するために必要な「調べる・読む・書く」ことに関する基本スキルの修得と知的的好奇心の喚起を目的とします。

【到達目標】

本授業では、次の 2 点に到達することを目標とします。

- 1) 文献等の情報を調査し正しく参照・引用したうえで、レポートを作成できる。
- 2) 調査結果や自分の意見を、文章によって論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で実施します。受講者は、ただ出席するだけでなく、積極的に発言するなどの能動的な受講が望まれます。課題を提示した際は、次の授業回で解説するなど随時フィードバックします。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。「学習支援システム」上で必要な情報を公開するので、随時確認をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学での学び方①	ガイダンス
第 2 回	プレゼンテーション	自己紹介を兼ねた報告・発表
第 3 回	情報のとらえ方①	情報の読みとり方
第 4 回	情報のとらえ方②	批判的読書法
第 5 回	文献調査	各種調査方法
第 6 回	文献講読①	文献講読
第 7 回	文献講読②	要約の練習
第 8 回	文献講読③	レジュメの作成
第 9 回	レポートの作成①	レポートの基本
第 10 回	レポートの作成②	テーマ設定、研究方法
第 11 回	レポートの作成③	文献調査
第 12 回	レポートの作成④	文章の書き方
第 13 回	レポートの作成⑤	引用、図表等の作法
第 14 回	まとめ	秋学期に向けた意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%，期末レポート：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire the skills and knowledge necessary for learning at university. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Literature review
- 2)Reading exercises
- 3)Writing exercises

BSP100EA

基礎演習 II

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、主に、これから大学で学習するために必要な「調べる・発表する・議論すること」に関する基本スキルおよび研究方法の基本を修得することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、次の 2 点に到達することを目標とします。

- 1) 企業等の事例を調査し調査結果を正しく報告するとともに、自分の意見を説得的に発表できる。
- 2) 事実や他者の意見を踏まえて、自分の意見を論理的に表明し議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で実施します。受講者は、ただ出席するだけでなく、積極的に発言するなどの能動的な受講が望まれます。課題を提示した際は、次の授業回で解説するなど随時フィードバックします。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。「学習支援システム」上で必要な情報を公開するので、随時確認をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期のオリエンテーション
第 2 回	ケース・スタディ①	研究計画
第 3 回	ケース・スタディ②	1 次資料と 2 次資料の調査
第 4 回	ケース・スタディ③	調査結果をまとめる
第 5 回	ケース・スタディ④	調査結果を分析する
第 6 回	ケース・スタディ⑤	レポートの執筆
第 7 回	プレゼンテーション①	発表の作法
第 8 回	プレゼンテーション②	ケース・スタディの個人発表とディスカッション
第 9 回	プレゼンテーション③	ケース・スタディの個人発表とディスカッション
第 10 回	グループワーク①	研究計画と調査
第 11 回	グループワーク②	調査と分析
第 12 回	グループワーク③	分析と発表準備
第 13 回	グループワーク④	最終発表とディスカッション①
第 14 回	グループワーク⑤	最終発表とディスカッション②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%，期末レポート：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、連絡します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire the skills and knowledge necessary for learning at university based on previous course in spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Case study
- 2)Presentation
- 3)Discussion

BSP100EA

基礎演習 I

左古 輝人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方を知り、社会学を学ぶために必要な前提知識を修得する

【到達目標】

文化・常識の多様性・相対性を理解する
仮説、検証、考察のサイクルを修得する
文献を探し、読み、理解する基本的なやり方を身につける
自分が学んだ事柄を他者に説明するやり方を身につける
他者の発表の聞き方を身につける
ディスカッションのやり方を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミナール形式。テキストを講読し、上記の到達目標を目指す。
90 分のうち、最初の 40 分で発表。次の 30 分で質疑応答、補足。最後の 30 分でグループディスカッションとまとめ。
授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。
不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	最低限順守すべき事項の確認。自己紹介。大学での学びが高校までとどう違うか。
2	レジュメ作成の方法	形式。何を記載するか。図書の読み方。引用・参照。
3	産業資本制 テキスト第 3 章	産業資本制の構造と歴史を概観する。
4	社会学の生成 テキスト第 1 章	19 世紀、社会学はなぜ生まれ、何を問題にしたか窺部。
5	賃労働群衆の生成 テキスト第 5 章	産業資本制が全面展開することで、人々の暮らしがどう劇的に変わったか学ぶ。
6	大量生産システムの完成 テキスト第 6 章	20 世紀初頭の米国について学ぶ。
7	世界大戦の時代 テキスト第 7 章	20 世紀を特徴づけた 2 つの世界大戦について学ぶ。
8	消費化時代の開幕 テキスト第 8 章	1920 年代から 30 年代米国の模索について学ぶ。
9	消費化の確立 テキスト第 8 章	1950 年代米国における使い捨て文化の確立について学ぶ。
10	家庭と女性 テキスト第 9 章	産業化・消費化による女性の暮らしの変化を学ぶ。
11	恋愛結婚 テキスト第 9 章	産業化・消費化による親密関係の変化を学ぶ。
12	公害から環境問題へ テキスト第 10 章	消費化社会の負の帰結について学ぶ。
13	情報革命 テキスト第 1 章	情報革命が消費化社会に対して持つ意味を学ぶ。
14	グローバル化 テキスト第 12 章	グローバル化がなぜ進行し、何をもたらしているのか学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を予習してくる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版局 2006 年。

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書 1998 年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書 1998 年。

【成績評価の方法と基準】

発表の質 30%、ディスカッションにおける発言の量と質 40%、提出物の質 30%。

【学生の意見等からの気づき】

運営の適切さが確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、インターネットに接続された端末機（スマートフォン、タブレット、PC など）を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定しない。電子メールでの質問に答える。面談したい場合は事前に電子メールにて問い合わせること。

【Outline (in English)】

This seminar introduces students to the scientific thinking especially in the study of modern social phenomena.

Objectives: 1) Understand cultural and moral diversity and relativity. 2) Master the basic procedures of scientific research. 3) Learn basic manners to listen to, read, search, write scientific reports.

Learning activities outside of classroom: Each class member should secure 120 minutes every week for preparation and review.

Grading Criteria and Policy: Oral Presentation 30%, Discussion 40%, Term paper 30%.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

左古 輝人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方を知り、社会学を学ぶために必要な前提知識を用いて、社会問題への課題関心を形づくる

【到達目標】

文化・常識の多様性・相対性を理解する
 仮説、検証、考察のサイクルを修得する
 文献を探し、読み、理解する基本的なやり方を身につける
 自分が学んだ事柄を他者に説明するやり方を身につける
 他者の発表の聞き方を身につける
 ディスカッションのやり方を身につける
 自分の課題関心を明確化し、研究計画を策定、実行する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミナール形式。テキストを講読し、上記の到達目標を目指す。100 分のうち、最初の 40 分で発表。次の 30 分で質疑応答、補足。最後の 30 分でグループディスカッションとまとめ。

授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。

不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	進め方の説明	貧富格差問題への 3 通りの見解を学び、自分の課題関心に結びつける
2	橋本 前半	橋本が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
3	橋本 前半	橋本が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
4	佐藤 前半	佐藤が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
5	まとめとディスカッション	三者の一致点と対立点を確認する
6	橋本 中盤	橋本がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
7	橋本 中盤	橋本がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
8	佐藤 中盤	佐藤がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
9	まとめとディスカッション	三者の一致点と対立点を確認する
10	橋本 後半	橋本の提案を知り、それに対する意見を持つ
11	橋本 後半	橋本の提案を知り、それに対する意見を持つ
12	佐藤 後半	佐藤の提案を知り、それに対する意見を持つ
13	まとめとディスカッション	最終レポートの作成に向け、自分の意見を裏付ける学者の見解やデータを収集する
14	レポート返却と講評	提出されたレポートに対し、さらなる発展に向けたアドバイスを与える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋本『格差社会—何が問題なのか』岩波新書 2006 年
 橋本健二『アンダークラス 新たな下層階級の出現』ちくま新書 2018 年
 佐藤俊樹『不平等社会日本 さよなら総中流』中公新書 2000 年

【参考書】

適宜指定する
 ウェブリソースとしては、「東京経済オンライン」「現代ビジネス」「荒木優太(youtube)」、「信州読書会の宮澤 (youtube)」を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

発表の質 30%、ディスカッションにおける発言の量と質 40%、提出物の質 30%。

【学生の意見等からの気づき】

運営の適切さを確認した。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、インターネットに接続された端末機（スマートフォン、タブレット、PC など）を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定しない。電子メールでの質問に答える。

【Outline (in English)】

Each student will construct his/her own academic problematics.
 This seminar introduces students to the scientific thinking especially in the study of modern social phenomena.

Objectives: 1) Understand cultural and moral diversity and relativity. 2) Master the basic procedures of scientific research. 3) Learn basic manners to listen to, read, search, write scientific reports.

Learning activities outside of classroom: Each class member should secure 120 minutes every week for preparation and review.

Grading Criteria and Policy: Oral Presentation 30%, Discussion 40%, Term paper 30%.

BSP100EA

基礎演習 I

中筋 直哉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文論文執筆に至る大学での学修の基本である、専門書を読み、その要約と評価を仲間の前で発表して議論する、というプロセスを身につける。2 年次以降の演習や一般授業において問題ない発表ができるようになることを目的とする

【到達目標】

他のすべての授業における発表やレポート作成が問題なくできるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面で個人発表とそれに基づく議論のかたちで進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方の説明	授業の進め方とその意味について 教員が説明する
第 2 回	顔合わせ 1	履修者（および教員）が自己紹介 を通して発表に慣れる
第 3 回	大学で学ぶとは	大学で学ぶことについての教員の 説明を元に、その是非を議論する
第 4 回	顔合わせ 2	履修者が自己紹介を通して発表に 慣れる
第 5 回	法政大学社会学部とは	履修要項をもとに、本学部の特徴 とそのなかでの社会学の位置づけ について教員が説明する
第 6 回	教科書の講読と討論 1	第 1 章を学生が発表し、議論する
第 7 回	教科書の講読と討論 2	第 2 章を学生が発表し、議論する
第 8 回	教科書の講読と討論 3	第 3 章を学生が発表し、議論する
第 9 回	教科書の講読と討論 4	第 4 章を学生が発表し、議論する
第 10 回	教科書の講読と討論 5	第 5 章を学生が発表し、議論する
第 11 回	教科書の講読と討論 6	第 6 章を学生が発表し、議論する
第 12 回	教科書の講読と討論 7	第 7 章を学生が発表し、議論する
第 13 回	教科書の総括的評価 1	本全体を通して議論し、評価する
第 14 回	教科書の総括的評価 2	本全体を通して議論し、評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。発表者 2 名（要約担当と論点提示担当）以外の履修者も各回の該当部分を読んで演習に臨まなければならない

【テキスト（教科書）】

小熊英二編著,2019,『平成史 完全版』河出書房新社. 電子書籍不可、必ず大学生協で本を購入すること

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

出席を取る。原則全回出席すること。欠席の際はあらかじめ理由をつけて連絡すること。単なる出席ではなく積極的参加を評価する(60%)、14 回終了後にレポートを提出する(A4×1 枚、40%)。厳密に評価するので、1 年次の演習ではあるが D(不合格)をつけることがある

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につきなし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが使えるように、パソコンやタブレットなど情報機器を教室に持ち込むことが望ましい。スマホでもよいが目的外使用は厳禁。またそれとはべつに紙のノートを作らなければならない

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to learn general skills for studying in the university, especially writing graduate thesis.

(Learning Objectives)The goal of this seminar is correctly making academic presentation in other courses.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in the seminar by reading and inspecting.

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:60%. Final report:40%.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

中筋 直哉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文執筆にとって不可欠の条件である「私の問題関心」を見出し、他人に説明するというプロセスを身につける。これからの学修の指針となり、卒業論文につながるような「私の問題関心」を見出すことを目的とする

【到達目標】

大学 4 年間の学修の柱となり、卒業論文執筆につながるような「私の問題関心」を見出すこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面で個人発表とそれに基づく議論のかたちで進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方の説明	授業の進め方とその意味について 教員が説明する
第 2 回	卒業論文とは何か	卒業論文の意義と学術論文の作法 について教員が説明する
第 3 回	私の問題関心とは何か	私の問題関心の見つけ方とそれを 学問につなげていく方法について 教員が説明する
第 4 回	私の問題関心発表 1	学生 3 人が発表し、議論する
第 5 回	私の問題関心発表 2	学生 3 人が発表し、議論する
第 6 回	私の問題関心発表 3	学生 3 人が発表し、議論する
第 7 回	私の問題関心発表 4	学生 3 人が発表し、議論する
第 8 回	私の問題関心発表 5	学生 3 人が発表し、議論する
第 9 回	私の問題関心発表 6	学生 3 人が発表し、議論する
第 10 回	コースゼミ選択相談会 1	コースとゼミの選択の準備として 学生の相談に教員が答える
第 11 回	コースゼミ選択相談会 2	コースとゼミの選択の準備として 学生の相談に教員が答える
第 12 回	私の問題関心発表 7	学生 3 人が発表し、議論する
第 13 回	私の問題関心発表 8	学生 4 人が発表し、議論する
第 14 回	全体の振り返り	全体を振り返り、反省と検討を加 える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。発表者 3～4 名以外の履修者も発表レジュメを事前に読んで演習に臨まなければならない

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

出席を取る。原則全回出席すること。欠席の際はあらかじめ理由をつけて連絡すること。単なる出席ではなく積極的な参加を評価する(60%)、14 回終了後にレポートを提出する(A4×1 枚、40%)。厳密に評価するので、1 年次の演習ではあるが D(不合格)をつけることがある

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につきなし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが使えるように、パソコンやタブレットなど情報機器を教室に持ち込むことが望ましい。スマホでもよいが目的外使用は厳禁。またそれとはべつに紙のノートを作らなければならない

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to finding "my original academic interest" and explaining to colleague. base on writing graduate thesis.

(Learning Objectives)The goal of this seminar is correctly presenting original academic interest.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in the seminar by reading and inspecting.

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:60%.Final report:40%.

BSP100EA

基礎演習 I

兼子 諭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での研究活動のための重要なルール・マナーを身につけることが、基礎演習の目的である。

【到達目標】

この演習では、以下の能力の養成を目指す。

①文献読解、②資料収集、③学術的議論、④レジュメ作成、⑤プレゼンテーション、⑥レポート執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献読解、学術的議論、レジュメ作成、資料収集、プレゼンテーションといった、大学での研究活動に必要な能力の養成に従事する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明
2	レジュメ作成とプレゼンテーション	自己紹介レジュメの作成と発表
3	文献読解トレーニング①	社会学文献の批判的読解
4	文献読解トレーニング②	社会学文献の批判的読解
5	資料収集トレーニング①	図書館ガイダンス
6	資料収集トレーニング②	社会学に関する文献・資料の収集
7	資料収集トレーニング③	収集した文献・資料の発表
8	グループワーキング①	グループワーキングの実施
9	グループワーキング②	グループワーキングの実施
10	グループワーキング③	グループワーキングの実施
11	グループワーキング④	グループワーキングの実施
12	グループ発表	グループごとの発表
13	レポートトレーニング①	レポート執筆について講義
14	レポートトレーニング②	レポートのフォーマットの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己紹介、文献読解、資料収集、グループワーキングのそれぞれについて、参加者全員に発表を求める。そのため、講義時間外には発表のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

前期の成績評価の基準は次の通り。

①自己紹介レジュメ (5%)、②文献読解の発表 (25%)、③資料収集 (25%)
④グループワーキング (25%)、⑤平常点 (出席状況、演習内での発言など) (20%)

・自己紹介、文献読解、資料収集、グループ発表のひとつでも欠けたら単位は落第。また 4 回欠席でも落第とする。

・15 分以内の遅刻は 1/2 の出席、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。

・レポート (5000 字以上) の第 1 稿の執筆を夏季休暇の課題とする。このレポートが提出されなかった場合、原則的に後期の履修登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

個人およびグループ研究の進め方について、昨年度の参加者から有意義な意見を頂いた。それらを考慮して、今年度の基礎演習を開講したい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンあるいはタブレットの準備をお願いします。

【その他の重要事項】

・有意義な演習の進めるためには受講生の積極的な参加が不可欠です。充実した大学生活を過ごすためのスタートを一緒に切りましょう。

・講義時間が 100 分と長時間に及びます。リラックスしながらも緊張感のある演習になるよう心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help first year student acquire rule and manner of research activity.

The goals of this course are to acquire a skill of basic research activity.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Resume of self-introduction: 5%、Reading comprehension: 25%、Data collection activity: 25%、Group working: 25%、in class comments: 20%

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

兼子 諭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートの完成が後期演習の目的である。

【到達目標】

レポート（本文 6000 字以上）の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

夏季休暇中に執筆したレポートを発表し、形式や内容を参加者で検討する。また、それをもとに完成稿の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	各自のテーマ発表
2	グループでの検討①	学生間でのレポートの検討
3	グループでの検討②	学生間でのレポートの検討
4	レポート発表①	各自のレポートの発表と検討
5	レポート発表②	各自のレポートの発表と検討
6	レポート発表③	各自のレポートの発表と検討
7	レポート発表④	各自のレポートの発表と検討
8	レポート発表⑤	各自のレポートの発表と検討
9	レポート発表⑥	各自のレポートの発表と検討
10	レポート発表⑦	各自のレポートの発表と検討
11	レポート発表⑧	各自のレポートの発表と検討
12	2 年次以降の研究テーマの検討	2 年次以降の研究テーマの検討
13	専門演習の検討	専門演習の検討
14	レポートの総評	レポートの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人発表やレポートの加筆・修正のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

後期の成績評価の基準は次の通り。

- ①レポートの発表（30%）
 - ②レポート完成稿（6000 字以上）（60%）
 - ③平常点（出席状況、演習内での発言など）（10%）
- ①から③のいずれかが欠ければ単位は落第とする。出席や欠席、遅刻については前期と同様。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究の発表についてのコメントを考慮して、学生同士での検討時間を拡充しつつ、個人発表に対する質問・コメントなどを平常点として採点対象とすることとした。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってはノートパソコンの準備をお願いする。

【その他の重要事項】

自分のレポートはもちろんのこと、参加者全員のレポートが充実するよう積極的なコメントをお願いします。特に、グループでの検討の際には、他の参加者のレポートの充実も図るよう心がけましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire academic report skill. The goals of this course are to write up original report. Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation of report: 30%, Term-end report: 60%, in class comments: 10%

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

宮下 阿子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学での学びを支える基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 文献の内容を理解し、批判的に検討する力を身につける。
 - 2) 自分の考えを言葉にして伝える力、お互いの考えを尊重しながら議論を交わす力を身につける。
 - 3) 文献検索やレジュメの作成等の基本的なスキルを身につける。
- 上記を通して、高校から大学への軟着陸を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読とディスカッションを中心に進める。授業の中で必要に応じて課題に対する講評を行う。

※授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。
※この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の説明と自己紹介
2	作品紹介（1）	読む・書く・話す・聞く・考えるための練習
3	ディスカッション	テーマを決めて討論する
4	作品紹介（2）	読む・書く・話す・聞く・考えるための練習
5	文献講読に向けて（1）	レジュメの作り方を学ぶ（説明）
6	文献講読に向けて（2）	レジュメの作り方を学ぶ（練習）
7	図書館ガイダンス	文献検索の方法を学ぶ
8	文献講読（1）	担当班による報告と議論
9	文献講読（2）	担当班による報告と議論
10	文献講読（3）	担当班による報告と議論
11	文献講読（4）	担当班による報告と議論
12	文献講読（5）	担当班による報告と議論
13	文献講読（6）	担当班による報告と議論
14	まとめ	期末課題の提出と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ文献を読み、自分の考えをまとめておくこと。また、各自の発表や課題の提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表・発言・参加姿勢）、課題点 50%（レジュメ・小レポート）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students enhance the basic skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

At the end of the course, students are expected to acquire critical reading and academic writing skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation (and in-class contribution):50%, Assignments:50%

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

宮下 阿子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学での学びを支える基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 各自の問題関心にしたがって、必要な情報を収集し、自らの考えをまとめる力を身につける。
 - 2) ゼミ論を作成するための基本的なスキルを身につける。
- 上記を通して、専門演習への橋渡しをする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究報告とその検討を中心に進める。授業の中で必要に応じて課題に対する講評を行う。

※授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の説明とスケジュールの確認
2	ゼミ論の作成に向けて（1）	論文の書き方を学ぶ
3	中間報告Ⅰ-（1）	研究経過の報告と検討
4	中間報告Ⅰ-（2）	研究経過の報告と検討
5	中間報告Ⅰ-（3）	研究経過の報告と検討
6	中間報告Ⅰ-（4）	研究経過の報告と検討
7	ゼミ論の作成に向けて（2）	個別相談と作業
8	中間報告Ⅱ-（1）	研究経過の報告と検討
9	中間報告Ⅱ-（2）	研究経過の報告と検討
10	中間報告Ⅱ-（3）	研究経過の報告と検討
11	中間報告Ⅱ-（4）	研究経過の報告と検討
12	中間報告Ⅱ-（5）	研究経過の報告と検討
13	ゼミ論の提出に向けて	最終確認
14	まとめ	研究成果の発表と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の問題関心に沿って、日頃から情報収集をしておくこと。また、研究報告やゼミ論の提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表・発言・参加姿勢）、課題点 50%（レジュメ・ゼミ論）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students enhance the basic skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

At the end of the course, students are expected to acquire the fundamentals of academic research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation (and in-class contribution):50%, Assignments/Final report:50%

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員および他の受講生との議論を通じて、現代社会の諸問題と自分の生き方を結び付けて考える。

【到達目標】

- ①学術書の内容を的確に理解する力をつける。
- ②さらに批判的に読解する力をつける。
- ③学術的討論の流れをつかむ力をつける。
- ④学術的討論を批判的に評価する力をつける。
- ⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

読書会形式でテキストを精読します。受講生は、授業の前に毎回「授業日誌」を作成して、それをもとに少人数グループで共有しながら、全員が発表して議論を進めます。そのあとに、少人数グループの代表が議論の状況を報告し、講師を含む全員で討論していくとともに、わからないことを解決し、調べてきたこと、議論した論点を共有していきます。なお、対面授業の際は、テキストに関連するさまざまなテーマについて、ディベート形式の討論も行います。授業に関するさまざまな質問へのフィードバックは、授業時間に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会と学問	授業説明、自己紹介（この授業でやりたいこと、学生時代にやりたいこと、一生かけてやりたいことを語ってもらいます。）、ゼミ運営の役割分担など。
2	日本語版序文および第1章プレカリアート	報告と討論。
3	現代社会のリスクと不安問題について	簡単なディベート。
4	第2章プレカリアートが増える理由	報告と討論。
5	現代社会のチャンス問題。	ディベート形式の議論。
6	第3章プレカリアートになるのは誰か？	報告と討論。
7	現代社会の差別問題	ディベート形式の議論。
8	第4章移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か？	報告と討論。
9	現代社会の戦争問題	ディベート形式の議論。
10	第5章 労働、仕事、時間圧縮前半	報告と討論。
11	現代社会のゆとり問題	ディベート形式の議論。
12	第6章地獄に至る政治、	報告と討論。
13	現代世界の危険性	ディベート形式の議論。
14	第7章極楽に至る政治	報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を授業支援システムの掲示板に書く。「授業日誌」は、以下の3項目を含むこと。各回のテキスト部分について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみようこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円+税（英語版原書 Guy Standing, "The Precariat: The New Dangerous Class", Bloomsbury, 2011 は、出版社サイト < <https://www.bloomsburycollections.com/book/the-precariat-the-new-dangerous-class/> >で全文無料公開されている）。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。
岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、定価 2000円+税。
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2008年、定価 777円。

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、提出された授業日誌について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合っていたこと、の各項目の内容をそれぞれ25%ずつ、合計100%にして、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。また、緊張するけど発表したり議論することでクラスで仲良くなれるとして好評だったディベート形式の議論も入れてみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験を生かして教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の諸問題と自分の生き方とを結び付けて、学問的に考えて、議論しよう。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

読書会形式でやや短めのテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それをもとに少人数グループと全体とで議論を進めます。最後の2回は、各自が自由論題で学術論文形式で作成してきたゼミ自由論文の報告会をします。授業に関するさまざまな質問などへのフィードバックは、授業時間に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会の諸問題の学問的解明と私たちの生き方	授業説明と報告者決定、役割分担など。
2	はじめに	報告と討論
3	日本でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
4	第2部1、3章ナミビア	報告と討論
5	日本でベーシックインカムを導入すべきか	ディベート形式の議論
6	第2部2章ブラジル、4章インド	報告と討論
7	貧困削減援助として、インフラ援助とベーシックインカム援助のどちらがいいか	ディベート形式の議論
8	第2部5章アラスカ、6章イラン	報告と討論
9	貧困削減援助でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
10	第1部神学的まえがき、1章社会実験	報告と討論
11	学術論文の書き方について	各自が考えてみたい問題やテーマに関する参考文献を3点みつけてきて、簡単に報告してもらい、ます。
12	第1部2章影響評価	報告と討論
13	基礎ゼミ論文の中間発表	自分のテーマについてのこれまでの研究状況について、参考文献に基づいて報告してもらいます。
14	第1部第3章全国の実施	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の4項目を含むこと。各回のテキスト部分について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合っていたこと。さらに、最後の2回までに、自由論題での学術論文形式のゼミ自由論文を作成してくる必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年）。
 ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年）。

【成績評価の方法と基準】

最終回に提出された授業日誌およびゼミ自由論文について、50%ずつ 100 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発 NGO での長年の活動経験と観察を生かした教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

BSP100EA

基礎演習 I

加藤 寛之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習の際に必要なとされる基本的な態度・作法を身につけるとともに、社会的問題への関心と好奇心を醸成する。

4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

個別単位及びグループ単位で種々の課題に取り組むことにより、読む能力、聞きとる能力、話し発表する能力、書く能力という、大学で学習する際に必要となる基礎的な能力と態度を醸成する。

さらに、社会科学の学習で求められる、先行研究や資料収集、実地調査などの基本的な手法について理解し、それらを課題に利用することにより、主体的に考える能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読、資料の収集、レジュメの作成、報告・発表、ゼミ生との論議や協力、図書館の利用、レポートの作成などのプロセスを体験することにより、基本的な学習態度と学習作法を身につける。さらに、文献講読や議論などを通じて、複眼的思考方法を体得し、今後の大学生活に活かしていく。

授業計画はおおむね以下のとおりであるが、受講者の状況や授業の進行状況などを踏まえ、変更する可能性もある。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と教員・ゼミ生の自己紹介
2	興味ある問題を発表する（1）	各自の身近な問題を素材として発表の練習
3	興味ある問題を発表する（2）	各自の身近な問題を素材として発表の練習
4	図書館ガイダンス	図書館の使い方を学ぶ
5	グループ研究（1）	グループ研究のテーマ候補検討
6	グループ研究（2）	グループ研究のテーマ決定
7	著書を読み、議論する（1）	輪読と議論
8	著書を読み、議論する（2）	輪読と議論
9	グループ研究中間報告	グループ研究の進行状況の報告・ディスカッション
10	著書を読み、議論する（3）	輪読と議論
11	著書を読み、議論する（4）	輪読と議論
12	グループ研究発表（1）	グループ研究結果の報告・発表 議論とコメント
13	グループ研究発表（2）	グループ研究結果の報告・発表 議論とコメント
14	グループ研究の補足説明	グループ発表での質問・意見に関する補足説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献の講読、資料収集、レポート作成など、種々の授業時間外の学習が要請される。各自、発表日・提出日に間に合うよう、計画的、主体的な準備を進めること。授業時間外の学習時間として各2時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

大学で学習する際に必要な基礎的な知識、ものごとを主体的に考える考察力について、以下の方法で評価する。

課題（報告・発表、レポート等）70%、平常点（授業への主体的参加・発言・貢献 等）30%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への参加が基本です。授業では、毎回、質問や意見を求められた際に積極的に発言すること、ほかのゼミ生の意見を聞き取り自分なりの考えを発信することが期待されています。

詳しい事項は初回の授業説明するので、履修予定者は、初回授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

加藤 寛之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学習するに際しての基本的な態度と作法を学ぶとともに、社会的問題への関心と好奇心を養成する。

【到達目標】

個別単位、グループ単位で種々の課題に取り組むことにより、社会科学を学習するうえで必要な、読む能力、聞き取る能力、話し発表する能力、書く能力、そして主体的に考える能力を醸成する。春学期で学んだ学問的な研究方法を課題に活用することにより、各自の研究能力を進め、その結果を論文にまとめて、発表する能力を強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に 関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読、資料の収集、レジュメの作成、ゼミ生との議論や協力、図書館の利用、論文の作成、報告・発表などのプロセスを体験することにより、基本的な学習態度と学習作法を身につける。

授業計画は、概ね、以下のとおりである。なお、受講者の状況や授業の進行状況を踏まえ、変更する可能性もある。

原則対面で開催し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明 基礎演習Ⅱの総括
2	解くべき問題を設定する（1）	問題意識を踏まえての研究テーマの発表
3	解くべき問題を設定する（2）	問題意識を踏まえての研究テーマの発表
4	先行研究を調査する	図書館等を利用した情報収集
5	先行研究を読み、議論する（1）	文献講読を踏まえてのディスカッション
6	先行研究を読み、議論する（2）	文献講読を踏まえてのディスカッション
7	先行研究を読み、議論する（3）	文献講読を踏まえてのディスカッション
8	ストーリーを創る（1）	研究テーマのアウトライン発表
9	ストーリーを創る（2）	研究テーマのアウトライン発表
10	論文骨子の作成	研究テーマについての論文骨子作成に向けての検討
11	論文骨子発表（1）	研究テーマについての論文骨子発表と議論
12	論文骨子発表（2）	研究テーマについての論文骨子発表と議論
13	ゼミ論をまとめる（1）	ゼミ論作成の検討会
14	ゼミ論をまとめる（2）	論文作成についての個別相談を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献講読、レポート・論文作成など、種々の授業時間外学習が要請される。発表・提出日に間に合うように、各自、計画的かつ主体的に準備を進めることが望まれる。授業時間外の学習時間として各2時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

大学で学習する際に必要な基礎的な知識と主体的な考察力、考えをまとめ発表する能力について、以下の方法で評価する。

課題（報告、レポート、論文等）70%、平常点（授業への主体的参加、発言、貢献等）30%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への主体的な参加が原則です。授業では毎回、質問や意見を求められた際に積極的に発言すること、他のゼミ生の意見を踏まえつつ自分なりの考えを発信することが期待されています。秋学期における詳細な事項は、初回授業で説明・相談するので、履修予定者は必ず初回の授業に参加すること。

【Outline (in English)】

Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

BSP100EA

基礎演習 I

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な姿勢を身につけ、「話す・聞く・読む・書く」能力を向上させる。さまざまな問題への意識を高め、自ら「考える力」を磨く。

【到達目標】

・関心があるテーマは何かを考え、図書館を利用しながら関連文献を読み、要約とコメントを作成することができる。

・わかりやすく説明し、グループ内で建設的な議論・討論ができる能力を身につける。このために必要なこととして以下の点を学ぶ。

a. レジユメの重要性

b. 他者と共に学ぶこと

c. 「批判」と「非難」

・レポート・論文の書き方を学ぶ（「論文」と「作文」）

・剽窃（ひょうせつ）の問題点を指摘し、大学で学ぶ上で重要な倫理的観点（著作権とは？）

・「基礎演習Ⅱ」への準備

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は奇数回（第一回、第三回・・・第十三回）を対面授業とし、偶数回（第二回、第四回・・・第十四回）をオンラインで行います。

詳しくは「授業計画 (Schedule)」スケジュールを参照してください。対面、オンライン共に、授業は個人・グループ発表を基本として進められます。

詳細は初回授業（4/12（火）対面）において説明します。

秋学期授業を理解するためには、この春学期の授業を理解することが前提となります。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/12	イントロダクション	はじめに 「大学で学ぶと言うこと」と
4/19	コミュニケーションについて	コミュニケーションとは？ 質疑応答とは？
4/26	春学期イントロダクション	教材について グループ分け
5/10	第一回グループ発表	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
5/17	第一回グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
5/24	第一回グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
5/31	第一回グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて

6/7	第一回グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
6/14	第二回グループ発表へ 向けて 改善点を含めた第二回 グループ発表の頭出し	第一回グループ発表課題について の個人レポート提出 第二回発表準備
6/21	第二回グループ発表	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
6/28	第二回グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
7/5	第二回グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
7/12	第二回グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
7/19	第二回グループ発表 前週の続き 春学期のまとめ	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて 小レポート提出 提出締め切りは別途指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を「学習支援システム」において授業一週間前に配布。
受講生がテキストを購入する必要はありません。
教材のテーマは、「ニュースと社会」。

【参考書】

図書、文献、ネット教材共に、必要に応じて適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

基礎演習の成績評価は、発表等の授業内成績(50%) + 最終レポート(50%) = 100%を基本とします。

なお、Zoom授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、遠慮せずにHoppii掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。

記入する際は、不具合の内容（主としてどの箇所での音声不具合だったのか）を具体的に記してください。具体的説明のない記述は対応しません。

結果、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、上記基本形をその学生に対して柔軟に適用し、学生の不利にならないよう配慮します。

- 100～90: S
- 89～87 : A+
- 86～83 : A
- 82～80 : A-
- 79～77: B+
- 76～73 : B
- 72～70 : B-
- 69～67 : C+
- 66～63 : C
- 62～60 : C-
- 59以下 : D

未受験、採点不能: E

なお、レポート作成時に気をつけねばならない事柄を2点書き記します。

*他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。

*レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・毎回の授業における準備の度合いと課題の成果を中心に、受講生の努力を評価します。
- ・各回の授業の評価は、その都度、改善点と共に指摘・説明します。
- ・質問があれば、適宜、個別に対応と指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末（PC）

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to understand the followings:

- a. realities of today's journalism.
- b. importance of expressing opinions and discussing with others.
- c. importance of writing opinions in a logical manner.
- d. importance of respecting and following research ethics

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

The final grade will be decided by the students' in-class participation and academic performance (50%) and the final reports (50%).

The information described herein is subject to change.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎演習Ⅰ」に続く本演習では、自ら問題を設定し、調べ、考察するという過程を通じて、各々の関心を醸成し、2年以降の専門学習へ向けて準備する。

【到達目標】

ニュースとは？ ジャーナリズムとは？ 日本固有のニュースとは？ 秋学期はこれらの問題について取り組みながら、以下の点を学んでいきます。

- ・個人テーマの設定
- ・「調べる」ということ（インターネットの使い方を含めて）
- ・プレゼンテーション・スキルの向上
- ・論文執筆
- ・大学生の研究倫理
- ・専門演習への橋渡し

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は奇数回（第一回、第三回・・・第十三回）を対面授業とし、偶数回（第二回、第四回・・・第十四回）をオンラインで行います。

詳しくは「授業計画 (Schedule)」スケジュールを参照してください。対面、オンライン共に、授業は個人・グループ発表を基本として進められます。

秋学期授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となります。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/27	秋学期イントロダクション	個人課題とグループ発表の進行について説明
10/4	秋学期のグループ研究について	グループ研究の課題について説明
10/11	グループ研究 0 (1)	グループ研究の課題へ向けた準備（テーマの検討、問題点、関連文献の調査）
10/18	グループ研究 (1) 前週の続き	重点項目：グループディスカッション、発表の準備
10/25	グループ研究 (1) 前週の続き	重点項目：レジュメ、パワーポイントの作成とチェック
11/1	グループ発表 (1) 前週の続き	重点項目：担当グループの報告と全体討議
11/8	グループ発表 (2)	重点項目：担当グループの報告と全体討議
11/15	グループ発表 (2) 前週の続き	重点項目：担当グループの報告と全体討議
11/22	グループ発表 (2) 前週の続き	重点項目：担当グループの報告と全体討議

11/29	グループ発表 (2) 前週の続き	重点項目：担当グループの報告と全体討議
12/6	ゼミ論文報告 (1)	ゼミ論文（個人課題）の作成における確認と注意 個人課題に関する検討、発表
12/13	ゼミ論文報告 (2)	個人課題に関する検討、発表
12/20	ゼミ論文提出	個人課題の成果をまとめ、提出
2023/1/10	秋学期のまとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成によるプリント教材を「学習支援システム」において授業一週間前に配布。

受講生がテキストを購入する必要はありません。

教材テーマは「ニュースと社会」

【参考書】

図書、文献、ネット教材共に、必要に応じて適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

基礎演習の成績評価は、発表等の授業内成績 (50 %) + 最終レポート (50 %) = 100 % を基本とします。

なお、Zoom 授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、遠慮せずに Hoppii 掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。

記入する際は、不具合の内容（主としてどの箇所での音声不具合だったのか）を具体的に記してください。具体的説明のない記述は対応しません。

結果、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、上記基本形をその学生に対して柔軟に適用し、学生の不利にならないよう配慮します。

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59 以下 : D

未受験、採点不能: E

なお、レポート作成時に気をつけねばならない事柄を 2 点書き記します。

*他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。

*レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回の授業における準備の度合いと課題の成果を中心に、受講生の努力を評価します。

・各回の授業の評価は、その都度、改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、適宜、個別に対応と指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末（PC）

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to understand the followings:

a. realities of today's journalism.

- b. importance of expressing opinions and discussing with others.
 - c. importance of writing opinions in a logical manner.
 - d. importance of respecting and following research ethics (Learning activities outside of classroom)
- Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.
- (Grading Criteria)
- The final grade will be decided by the students' in-class participation and academic performance (50%) and the final reports (50%).
- The information described herein is subject to change.

BSP100EA

基礎演習 I

岩城 邦義

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となる。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢を習得することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

課題となる文献についての発表の仕方、グループでの課題の取り組み、ディベート、レポートの書き方について、オンライン授業を交え学んでいく。また、適時課題に対して講評する。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の説明、「自己紹介シート」の作成など
2	自己紹介をかねた発表の演習①	各自が興味関心のあることを発表し、自己紹介をする
3	文献・資料の収集方法について	文献・資料の収集方法について学ぶ
4	自己紹介をかねた発表の練習②	各自が興味関心のあることを発表し、自己紹介をする
5	レジメの書き方	レジメの書き方について
6	文献購読①	レジメの作成と報告、議論
7	文献購読②	レジメの作成と報告、議論
8	文献購読③	レジメの作成と報告、議論
9	文献購読④	レジメの作成と報告、議論
10	文献購読⑤	レジメの作成と報告、議論
11	レポートの書き方	レポートの書き方について
12	ディベート	所定のテーマについてディベート
13	春学期課題の説明	春学期の課題についての説明
14	春学期のまとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で使用する文献の精読、発表に向けた資料の作成、教室外でのグループ活動など。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への参加（60%）、課題提出（40%）をもとにし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業における交流の活性化

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

(Learning Objectives)

The aim of this course is to help students acquire presentation and discussion skills.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 40%, in class contribution: 60%

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岩城 邦義

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、また大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となる。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢の習得を目指し、ゼミ論文を提出してもらうことが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループでのテーマ決定や課題への取り組み、各自が興味関心のあるテーマや領域を発表し、論文の書き方について、オンライン授業を交え学んでいく。また、適時課題に対して講評する。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期についての説明
2	グループワーク①	テーマの決定と課題への取り組み
3	グループワーク②	グループ発表に向けた課題への取り組み
4	グループワーク③	グループ発表に向けた課題への取り組み
5	ゼミ論文のテーマ探し	各自ゼミ論文のテーマ探し
6	グループ発表①	担当グループの報告と討議
7	先行研究	各自ゼミ論文の先行研究の整理
8	グループ発表②	担当グループの報告と討議
9	個人研究報告①	ゼミ論文の中間報告
10	グループ発表③	担当グループの報告と討議
11	個人研究報告②	ゼミ論文の中間報告
12	グループ発表④	担当グループの報告と討議
13	ゼミ論文についての確認	形式についての確認
14	年間のまとめ	年間の総括、ゼミ論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に向けたグループ活動・資料の作成、ゼミ論文執筆のための発表準備など。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への参加（60%）、ゼミ論文（40%）をもとにして総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業における交流の活性化

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

(Learning Objectives)

The aim of this course is to help students acquire term-end report.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

BSP100EA

基礎演習 I

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動を展開するための基本的なスキルを身につけることを目的とする。「研究するとはどういうことか」「問いを立てるとはどういうことか」といったことを、文献講読を通じて理解することを目指す。

【到達目標】

- ・文献を批判的に読解するスキルを習得する
- ・レジュメを作成し、報告するスキルを習得する
- ・グループディスカッションに参加するスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・受講者による文献報告を中心に展開する。受講者ごとに、またはチームごとに担当の文献を割りあてる。担当者にはレジュメを作成し、報告してもらう。これを受けてディスカッションを行なう。必要に応じて教員が説明を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、自己紹介、役割分担
2	文献講読の説明	文献の読み方・レジュメの作成方法の説明
3	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
4	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
5	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
6	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
7	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
8	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
9	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
10	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
11	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
12	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
13	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
14	まとめ	まとめ。夏休みの課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献を報告する準備を行なう。レジュメは指定の期日までに配布／アップすること。
- ・適宜課される課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・テキストの詳細は初回授業で説明するため必ず出席してください。

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（文献報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）（50%）と授業内外で課す課題の質（50%）で判断します。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・レポートをまとめるスキルを身につけられるよう課題を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・秋学期とあわせて受講することを求めます。夏休みにも課題があります。

【Outline (in English)】

This course is designed to assist students' learning at university. In this class students read some basic articles in the social sciences and have group discussions. The objective of this course is to develop your study skills: read research articles more insightfully, make good presentations, communicate effectively with others, etc. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on assignments in and out of class (50%), and in-class contribution (50%).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習を踏まえて、自ら問いを立て、その問いを追究し、一定の成果としてまとめ、報告するという一連の活動に取りくむ。この過程で、研究を実施するための基本的なスキルを身につけることを目的とする。「研究するとはどういうことか」「問いを立てるとはどういうことか」といったことを、実践を通じて理解することを目指す。

【到達目標】

- ・問いを立て、その問いを他者に説明するスキルを習得する
- ・プレゼンテーションのスキルを磨く
- ・レポートを作成するための基本的なスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・受講者による研究報告を中心に展開する。受講者ごとに、またはチームごとに担当の文献を割りあてる。担当者にはレジュメを作成し、報告してもらう。これを受けてディスカッションを行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、役割分担
2	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
3	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
4	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
5	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
6	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
7	リサーチクエスションの検討	RQ の検討、討論
8	リサーチクエスションの追究	文献の報告、討論
9	リサーチクエスションの追究	文献の報告、討論
10	リサーチクエスションの追究	文献の報告、討論
11	リサーチクエスションの追究	文献の報告、討論
12	プレゼン	研究成果をプレゼンする
13	プレゼン	研究成果をプレゼンする
14	まとめ	まとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献を報告する準備を行なう。適宜課される課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・初回の授業で指示します。

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（文献報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）(50%)と授業内外で課す課題の質（50%）で判断します。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究テーマをよりよく追究できるよう課題を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することを求めます。

【Outline (in English)】

This course is designed to assist students' learning at university. In this class students read some basic articles in the social sciences and have group discussions. During the course students explore and investigate research themes. The objective of this course is to develop your study skills and research skills through these activities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on assignments in and out of class (50%), and in-class contribution (50%).

BSP100EA

基礎演習 I

李 舜志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①高校から大学への軟着陸を図る
- ②「大学での学び方」を学ぶ
- ③「話す・聞く・読む・書く」能力を向上させることを通して「考える力」を磨く

【到達目標】

- ①文献やデータを読み込み、批判的に検討し、「作文」ではなく「レポート」が書けるようになること
- ②レジュメやレポートを作成するための基本的な文章力と論理的思考を身につけること
- ③他者と意見を交換し、研究を進めていける力を身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

レジュメやレポートを作成するための基本的なスキルを学ぶ。たとえば文献やデータの収集、専門書・論文の読解、客観的な文章表現など。

他の学生との意見交換や、レポートの相互閲覧などを通して、コミュニケーションスキルを磨く。

以上を総合して、指定した文献に関するレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のイントロダクションと自己紹介
2	文献・データの集め方	文献・データの集め方を学ぶ
3	グループ発表①	発表の資料作成とグループディスカッションを行う。
4	レポートの書き方①	作文とレポート・論文の違いについて学ぶ
5	グループ発表②	発表の資料作成とグループディスカッションを行う。
6	レポートの書き方②	引用の仕方、ひょうせつなど、レポートのルールについて学ぶ
7	グループ発表③	発表の資料作成とグループディスカッションを行う。
8	レポートの書き方③	客観的な表現、論理的な文章を書く
9	図書館に行く	実際に図書館に行き、本や文献を借りてみる
10	レポートの書き方④	テンプレートに沿ってレポートを実際に書いてみる
11	レポート発表会①	各自がレポートを持ち寄り、お互いに採点する。
12	レポートの書き方⑤	文章の形式や参考文献の書き方など、レポート作成のうえで間違いやすい点を中心に復習する。
13	レポート発表会②	各自がレポートを持ち寄り、お互いに採点する。
14	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①課題に沿った文献・資料収集、レポート執筆
 - ②他の学生のレジュメへの意見の提示
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法第三版』、2019年、慶應義塾出版会。

【参考書】

『はじめてのメディア研究：「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』、浪田陽子・福岡良明編著、2021年、世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容（60%）、議論への参加姿勢など平常点（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The goals of this course are to learn the way in which we learn in university and improve the capacity of thinking ability through speaking, hearing, reading and writing.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the presentation(60%) and class contribution(40%).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

李 舜志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅱでは、専門演習（専門学習）への橋渡しと、個々人の問題関心の醸成を目的とする。

【到達目標】

専門演習に進むにあたって、自らの問題関心を見出し、対象への多様なアプローチを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

それぞれの問題関心を見つけ出すことからはじめ、そのテーマに応じた資料収集や調査、分析を行う。それらの成果を他の受講者の前で発表（プレゼン）する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	今後のスケジュールの確認
2	グループ発表およびプレゼンテーションの テーマの決定	本授業で扱うテーマを各自が決定する
3	グループおよびテーマ の決定	発表テーマごとにグループを組み、扱う論点や文献について議論する
4	文献の探し方について	インターネット上での正確で効率の良い文献の探し方について学ぶ
5	グループ発表①	問題関心の異なるグループ同士でディスカッションを行う
6	プレゼンの方法①	プレゼンでの発表方法について学ぶ
7	グループ発表②	グループで発表とディスカッションを行う
8	プレゼンの方法②	プレゼンで使用する資料の作り方を学ぶ
9	グループ発表③	グループで発表とディスカッションを行う
10	プレゼンの方法③	良いプレゼンと悪いプレゼンについて動画を視聴し、自らのプレゼンをよりブラッシュアップする
11	プレゼン①	プレゼンテーションを行う
12	プレゼンの方法④	これまでの反省をふまえ、プレゼンテーションで気を付けるべき点についてまとめる
13	プレゼン②	プレゼンテーションを行う
14	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで選択したテーマにもとづき、文献の講読や資料の収集、プレゼン資料の作成を必要に応じて行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法第三版』、2019年、慶應義塾出版会。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容（60%）、議論への参加姿勢など平常点（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The goals of this course are to learn the way in which we learn in university and improve the capacity of thinking ability through speaking, hearing, reading and writing.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the presentation(60%) and class contribution(40%).

BSP100EA

基礎演習 I

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各学生の学術的好奇心を育成するとともに、研究活動を実施するための基礎的な素養を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

- ・問題意識を醸成する
- ・指定された文献を読み、レジュメを作成する
- ・プレゼンテーションを行う
- ・グループで討議し、考えを深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的な講義のスタイルは、文献を指定し、受講者は毎回レジュメを作成すると同時に、担当を決めて報告したのち、グループでディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介
第02回	関心ある物事の発表（1）	自分が関心のある物事をみんなの前で発表する
第03回	関心ある物事の発表（2）	自分が関心のある物事をみんなの前で発表する
第04回	キャンパスツアー	多摩キャンパスを散策する
第05回	レジュメの作成	指定された文章を読み、レジュメを作成する
第06回	資料収集の方法	資料や文献の検索の仕方について学ぶ
第07回	文献講読（1）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う
第08回	文献講読（2）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う
第09回	文献講読（3）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う
第10回	文献講読（4）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う
第11回	文献講読（5）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う
第12回	文献講読（6）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う
第13回	文献講読（7）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う
第14回	文献講読（8）	担当学生がレジュメを発表し、質疑と討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献はきちんと読み、基本的には毎回レジュメを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定します

【参考書】

授業内で指定します

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な参加や発言などの平常点 50 %
レジュメなどの課題の提出 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は、受講者や進行の状況によって若干の変更があります

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire academic interests and fundamental skills for a research activity. By the end of the course, students are expected to do the followings; 1)having an awareness of a specific issue, 2) reading the assigned papers and writing resumes, 3)giving a presentation, 4)discussing issues with other students. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1)short reports 50%, 2)in class contribution 50%.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

糸久 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、基礎演習Ⅰで身につけた研究に対する基礎能力をベースに、自分の主張を説得的に述べたゼミ論文の完成を目的とする。

【到達目標】

- ・専門演習につなげるための基礎的な研究能力
- ・自分の主張を説得的にまとめる力
- ・プレゼンテーション&ディスカッション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に
関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には基礎演習Ⅰと同様に、各学生の発表に対して質疑および討議するというスタイルで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	夏の課題の報告	夏の課題を発表する
第02回	研究テーマの方向性	各学生が研究テーマの方向性を決める
第03回	方法論（1）	原因と結果の関係を理解する
第04回	方法論（2）	定性研究と定量研究の特徴について理解する
第05回	ゼミ論の構想発表（1）	各学生がゼミ論の構想を発表する
第06回	ゼミ論の構想発表（2）	各学生がゼミ論の構想を発表する
第07回	関連文献の発表（1）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第08回	関連文献の発表（2）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第09回	関連文献の発表（3）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第10回	関連文献の発表（4）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第11回	実態調査報告（1）	実態調査の結果を報告する
第12回	実態調査報告（2）	実態調査の結果を報告する
第13回	ゼミ論のプレゼン（1）	パワーポイントを使ってゼミ論の要旨をプレゼンする
第14回	ゼミ論のプレゼン（2）	パワーポイントを使ってゼミ論の要旨をプレゼンする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課題の発表に向けて各自しっかり準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ゼミ論 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students write a academic paper based on the fundamental skills for a research activity. By the end of the course, students are expected to do the followings; 1)having a research skills for the advanced seminar, 2)making a persuasive claim on your thinking, 3)having a presentation and discussion skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1)short reports 50%, 2)in class contribution 50%.

BSP100EA

基礎演習 I

飯野 智子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の問題意識を掘り下げ、何を専門的に学びたいのか、目的を明確にする。研究に必要な基本的な能力（図書館の利用方法、資料収集と活用の仕方、レジュメの作成、発表の仕方）を身につける。また、他者と協力し作業を行い、発表し、討論する事を通して、討論マナーや効果的なプレゼンテーションの仕方を身につける。

【到達目標】

設定したテーマに従って研究計画を立て、関連資料を収集し、データを活用できるようにする。また、それらを基に分析を行い、レジュメを作成する。さらに、討論マナーを守った上で効果的な発表の仕方、説得力ある発表ができるようにする。他者の発表を聞き、自分と比較し冷静に評価できるようにする。議論を通して他者の考えと自分の考えを比較検討した上で結論を述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。グループでのテーマ設定、資料収集、議論、発表を行う。ディベートで討論マナーを学ぶ。新聞批評では、記事の内容そのものと報道に対する批評を行う。学習した事についてレポートを作成し提出する。オンライン授業でもグループ作業や発表は変わらない。個人及びグループ発表、レジュメや討論に対して授業で毎回講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、学習計画、基礎演習の位置づけ
第 2 回	個人発表	各自関心のある本、雑誌記事、新聞記事、音楽などの発表
第 3 回	図書館ガイダンス	図書館の利用、資料の収集方法
第 4 回	共通テーマ作業	テーマについてグループ毎に討論、分析
第 5 回	共通テーマ討論	レジュメの作成
第 6 回	グループ発表前半	発表と全体討論
第 7 回	グループ発表後半	発表と全体討論
第 8 回	ディベート	ディベートを行い討論マナーを身につけ、批評し合う
第 9 回	新聞記事収集	資料収集とテーマの設定
第 10 回	新聞記事分析	新聞記事の比較、分析
第 11 回	記事のまとめ及び個人レポートについて	討論とレジュメ作成、個人レポートの書き方について
第 12 回	新聞批評発表前半	発表と全体討論
第 13 回	新聞批評発表後半	発表と全体討論
第 14 回	個人レポートの構想発表	個人レポートの中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要な資料を収集する。グループ毎に話しあい、レジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

ディベートやグループ討論のテーマにより、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（平常点） 40 %、課題の提出 20 %、学期末レポート 40 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

全体的に学生は真面目に取り組んでいた。しかしオンライン授業が半分という性質上少々自主性に乏しいところもあった。また、せっかくの対面授業では、他の学生と積極的に話し合おうとする学生と、あまりコミュニケーションを取ろうとしない学生の開きがあった。今年度は学生が自主的に取り組み、また協力するように促したい。

【Outline (in English)】

Students will look deeper at the issues, decide what they want to specialize in and clarify their objective. They will learn the basic competences required in research (using the library, collecting and using data, making presentation handouts, making presentations). Also, through cooperation with others, presentations and discussions, they will pick up discussion manners and effective presentations skills.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

飯野 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ作業では、テーマの設定、研究計画の作成、資料収集を行い、分析した結果を発表する。他の発表については評価をし、単に発表するだけで終わらせず、さらにより研究するにはどうすればよいか検討する。また、社会学の基礎的な文献を講読する。さらに個人の関心に従って研究を進め、個人レポートを作成する。

【到達目標】

図書館、インターネットを十分活用し、必要な資料を収集できるようにする。グループ発表では前期に学んだ議論や発表の仕方を活かし、より効果的な研究発表ができるようにする。さらに、他の発表を評価し、自分たちの発表への評価を聞き、よりよい研究のためにどうすればよいか検討する。また、自身の関心のある分野から研究テーマを設定し、レポートを書く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。グループ自由テーマについての研究発表、文献の講読と発表を行う。発表は必ず全体討論を伴う。個人レポートのための研究についてもクラスで発表する。発表、課題について毎回講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学習計画、グループ分け
第 2 回	グループ自由テーマ作業	テーマ決定、資料収集
第 3 回	グループ自由テーマ討論	分析、グループ討論
第 4 回	グループ自由テーマまとめ	レジュメの作成
第 5 回	グループ発表前半	発表と全体討論、批評
第 6 回	グループ発表後半	発表と全体討論、批評
第 7 回	ディベート	ディベートを行い、評価し合う
第 8 回	文献講読 1 班発表	発表と討論
第 9 回	文献講読 2 班発表	発表と討論
第 10 回	文献講読 3 班発表	発表と討論
第 11 回	文献講読 4 班発表	発表と討論
第 12 回	文献講読 5 班発表	発表と討論
第 13 回	レポート発表前半	個人レポートの要旨を発表
第 14 回	レポート発表後半	個人レポートの要旨を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表についての資料収集や分析、レジュメの作成をする。テキストは事前に読んでおく。個人レポートのための資料収集や分析、個人レポートの執筆を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】

森下伸也、君塚大学、宮本孝二『パラドックスの社会学 パワーアップ版』1998、新曜社

【参考書】

ディベートやグループ討論のテーマにより、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 40 %（責任を持って作業しているか、積極的に討論に参加しているか） 課題の提出 20 %（レジュメの評価） 学年末個人レポート 40 %（書式、資料の活用、内容）

【学生の意見等からの気づき】

学生が自主的に授業に取り組めるよう、個人の質問に答える時間を作ったり、レポート指導を頻繁に行ったりする。グループ作業では責任感を促し、皆で協力するよう指導する。

【Outline (in English)】

In group work, students will set their own research theme, create a research plan, collect data and present their analytical findings. They will critique other students' presentations, and think about how to improve their research beyond the presentation. They will also read basic literature on sociology. In addition, they will continue research based on their area of interest and make a report.

BSP100EA

基礎演習 I

本田 親史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1) 批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける。

【到達目標】

1) 批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各専門家の知見を専門用語を踏まえ理解・検証・議論しながら読み解いていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロ	ガイダンスなど
第 2 回	論説解読 A-1	用語を調べ内容を吟味する
第 3 回	論説解読 A-2	レジュメ化し深く解読する
第 4 回	図書館ガイダンス（仮）	図書館の使い方を学ぶ
第 5 回	第 1 章 (1)	用語・レジュメ準備
第 6 回	第 1 章 (2)	レジュメ相互発表
第 7 回	第 1 章 (3)	要約・討論
第 8 回	論説解読 B-1	第 3 章の準備 1
第 9 回	論説解読 B-2	第 3 章の準備 2
第 10 回	論説解読 B-3	第 3 章の準備 3
第 11 回	第 3 章 (1)	用語・レジュメ準備
第 12 回	第 3 章 (2)	レジュメ相互発表
第 13 回	第 3 章 (3)	要約・討論
第 14 回	春学期まとめ	レポート指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は期日までに発表できる状態にし、それ以外の人も対応できるよう予習や調査をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

福岡伸一・伊藤亜沙・藤原辰史,2021,「ポストコロナの生命哲学」,集英社新書,ISBN978-4-08-721185-6

【参考書】

国語辞典は常に持参してください

【成績評価の方法と基準】

・平常点 50%+レポート 50 %。平常点とは出席状況に加え、プレゼンテーション能力および討論への参加度を総合的に加味したものを指す。

【学生の意見等からの気づき】

活発に発言してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with basic concepts on social sciences through basic readings and discussions. 【Learning Objectives】 This course would make progress in text-critique and presentation in public. 【Learning activities outside of classroom】 Requires at least 2hours for preparation. 【Grading Criteria /Policy】 Class participation 50%+end-term essay 50%

BSP100EA

基礎演習 II

本田 親史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1) 批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける。

【到達目標】

1) 批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各専門家の知見を専門用語を踏まえ理解・検証・議論しながら読み解いていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 2 章 (1)	用語・レジュメ準備
第 2 回	第 2 章 (2)	レジュメ相互発表
第 3 回	第 2 章 (3)	要約・討論
第 4 回	第 4 章 (1)	用語・レジュメ準備
第 5 回	第 4 章 (2)	レジュメ相互発表
第 6 回	第 4 章 (3)	要約・討論
第 7 回	第 5 章 (1)	用語・レジュメ準備
第 8 回	障害者支援の体験学習	ノートテイク実践など
第 9 回	第 5 章 (2)	レジュメ相互発表
第 10 回	第 5 章 (3)	要約・討論
第 11 回	第 6 章 (1)	用語・レジュメ準備
第 12 回	第 6 章 (2)	レジュメ相互発表
第 13 回	第 6 章 (3)	要約・討論
第 14 回	秋学期まとめ	レポート指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は期日までに発表できる状態にし、それ以外の人も対応できるよう予習や調査をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

福岡伸一・伊藤亜沙・藤原辰史,2021,「ポストコロナの生命哲学」,集英社新書,ISBN978-4-08-721185-6

【参考書】

国語辞典は常に持参してください

【成績評価の方法と基準】

・平常点 50%+レポート 50 %。平常点とは出席状況に加え、プレゼンテーション能力および討論への参加度を総合的に加味したものを指す。

【学生の意見等からの気づき】

活発に発言してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with more fundamental concepts on social sciences through basic readings and discussions. 【Learning Objectives】 This course would make progress in text-critique and presentation in public. 【Learning activities outside of classroom】 Requires at least 2hours for preparation. 【Grading Criteria /Policy】 Class participation 50%+end-term essay 50%

BSP100EA

基礎演習 I

南雲 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な方法、技術の習得（レジュメの書き方、発表の仕方、ディベートの進め方）を目標にします。なお、1年を通じて「メディア」や「ニセ（疑似）科学」などを主なテーマに学習を進めていきます。さらに、集団でのレジュメ作成やディベートなどの方法論を学んでいきます。

【到達目標】

- ・レジュメを一人（グループで）で完成させる。
- ・ある社会的なテーマについて、集団で冷静に議論ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

具体的には、春学期はグループ毎にテキストを輪読し、発表してきます。秋学期には、ディベート（討論）を中心に演習を進めていきます。

基礎演習の主人公はみなさんひとりひとりで。必ず毎回出席するようにして下さい。過去に沖縄（3回）・伊豆半島、九十九里浜等で合宿を行いました。また奥多摩でバーベキュー大会などを行いました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間の予定、そのほか班分けなどについて話し合います。
2	図書館ガイダンス	図書館の使い方についてガイダンスを行います。(日程変更あり)
3	教材鑑賞	視聴覚教材を鑑賞します。
4	発表1	新聞を読んで、興味を持った課題についてレジュメを作成し発表します。
5	発表2	新聞を読んで、興味を持った課題についてレジュメを作成し発表します。
6	教材鑑賞	視聴覚教材を鑑賞します。
7	テキスト輪読1	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
8	テキスト輪読2	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
9	テキスト輪読3	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
10	テキスト輪読4	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
11	テキスト輪読5	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
12	テキスト輪読6	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
13	テキスト輪読7	テキストの報告と討論を、各班に分かれて行います。
14	教材鑑賞	春学期にテキストなどで学んだことに関連する視聴覚教材を鑑賞します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の担当箇所の予習を予習します。なお、テキストなどの予習は最低でも4時間は必要です。合宿（予定：場所などは相談します）。

【テキスト（教科書）】

林香里『メディア不信』（岩波新書）。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

S = 毎回のレジュメ報告、小レポートなどを必ず提出し、かつ集団学習における協調性がきわめて優秀と認められる、A+ = 毎回のレジュメ、小レポートなどを必ず100%提出し、かつ平常点の演習における態度がきわめて優秀かつ集団学習の態度が優秀、A = 毎回の課題・レポートなどを必ず提出し平常の態度が優秀、B = 課題・レポートなどを80%以上提出し平常点が普通、C = 課題を60%以上提出し平常点が普通。

(レジュメ報告、小レポートは50%、集団学習の態度は50%)

なお、無断欠席が多い場合は不合格になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの書き方を個人の進捗度合いに応じて指導します。

【その他の重要事項】

毎回のテキスト部分を予習します。

【Outline (in English)】

Course outline: Learning how to write resume, how to present, how to debate

Learning objectives:

1. complete resume in one (in a group)

2. argue about a certain social theme calmly in a group.

Learning activities outside of classroom: Prepare the preparations for lessons of the person in charge of textbook point.

In addition, the preparations for lessons such as texts are necessary even at least for four hours.

Grading Criteria / Policy: Submit a resume report of S = every time, a small report by all means and sense of cooperation in the group study extremely submits excellence and resume of admitted A+ = every time, A small report 100% more by all means and a manner of excellence and the group study extremely submits excellence, a problem, a report of A = every time a manner in the practice of the normal point by all means, and a normal manner submits excellence, B = problem, report more than 80%, and normal points usually submit C = problems more than 60%; normal points usually.

When there are still many truantries (as for resume report, small report 50%, manner 50% of the group study), it may become unacceptable.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

南雲 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な方法、技術の習得（レジユメの書き方、発表の仕方、ディベートの進め方）を目標にします。なお、1年を通して「メディア」や「ニセ（疑似）科学」などを主なテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・レジユメを一人（グループ）で完成させる。
- ・ある社会的なテーマについて、冷静に議論ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期には、第2テキストの輪読と、ディベート（討論）を中心に演習を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教材鑑賞	視聴覚教材の視聴を行います。
2	教科書の輪読1	第2教科書の輪読と討論を行います。
3	教科書の輪読2	第2教科書の輪読と討論を行います。
4	教科書の輪読3	第2教科書の輪読と討論を行います。
5	教科書の輪読4	第2教科書の輪読と討論を行います。
6	教科書の輪読5	第2教科書の輪読と討論を行います。
7	教材鑑賞	視聴覚教材の鑑賞を行います。
8	ディベートの準備	ディベートのテーマの設定と班分けなどを行います。
9	第1回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
10	第2回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
11	第3回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
12	第4回のディベート	テーマを決めてディベートを行います。
13	教材鑑賞	秋学期に学んだテーマに関連した視聴覚教材を視聴します。
14	ディベートの総括	ディベートの総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生たちはテキストの予習を行います。また、ディベートの際は必ずグループごとに担当するテーマについて集団で下調べを行い、共同でレジユメを作成します。なお、テキストなどの予習と、班ごとの議論は最低でも4時間は必要です。

【テキスト（教科書）】

秋学期最初の日に指示します。左巻健男『学校に入り込むニセ科学』（平凡社新書）。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

S = 毎回のレジユメ報告、小レポートなどを必ず提出し、かつ集団学習における協調性がきわめて優秀と認められる、A+ = 毎回のレジユメ、小レポートなどを必ず100%提出し、かつ平常点の演習における態度がきわめて優秀かつ集団学習の態度が優秀、A = 毎回の課題・レポートなどを必ず提出し平常の態度が優秀、B = 課題・レポートなどを80%以上提出し平常点が普通、C = 課題を60%以上提出し平常点が普通。

（レジユメ報告、小レポートは50%、集団学習の態度は50%）

なお、無断欠席が多い場合は不合格になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートの議論に際して、必要なレジユメの書き方や、報告・討論の仕方を指示します。また、グループごとに必要な場合援助に入ります。

【Outline (in English)】

Course outline: Learning how to write resume, how to present, how to debate

Learning objectives:

1. complete resume in one (in a group)
2. argue about a certain social theme calmly in a group.

Learning activities outside of classroom: Prepare the preparations for lessons of the person in charge of textbook point. In addition, the preparations for lessons such as texts are necessary even at least for four hours.

Grading Criteria /Policy: Submit a resume report of S = every time, a small report by all means and sense of cooperation in the group study extremely submits excellence and resume of admitted A+ = every time, A small report 100% more by all means and a manner of excellence and the group study extremely submits excellence, a problem, a report of A = every time a manner in the practice of the normal point by all means, and a normal manner submits excellence, B = problem, report more than 80%, and normal points usually submit C = problems more than 60%; normal points usually.

When there are still many truancies (as for resume report, small report 50%, manner 50% of the group study), it may become unacceptable.

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

岩城 邦義

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となる。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢を習得することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

課題となる文献についての発表の仕方、グループでの課題の取り組み、ディベート、レポートの書き方について、オンライン授業を交え学んでいく。また、適時課題に対して講評する。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の説明、「自己紹介シート」の作成など
2	自己紹介をかねた発表の演習①	各自が興味関心のあることを発表し、自己紹介をする
3	文献・資料の収集方法について	文献・資料の収集方法について学ぶ
4	自己紹介をかねた発表の練習②	各自が興味関心のあることを発表し、自己紹介をする
5	レジュメの書き方	レジュメの書き方について
6	文献購読①	レジュメの作成と報告、議論
7	文献購読②	レジュメの作成と報告、議論
8	文献購読③	レジュメの作成と報告、議論
9	文献購読④	レジュメの作成と報告、議論
10	文献購読⑤	レジュメの作成と報告、議論
11	レポートの書き方	レポートの書き方について
12	ディベート	所定のテーマについてディベート
13	春学期課題の説明	春学期の課題についての説明
14	春学期のまとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で使用する文献の精読、発表に向けた資料の作成、教室外でのグループ活動など。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への参加（60%）、課題提出（40%）をもとにし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業における交流の活性化

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

(Learning Objectives)

The aim of this course is to help students acquire presentation and discussion skills.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 40%, in class contribution: 60%

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岩城 邦義

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、また大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となる。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢の習得を目指し、ゼミ論文を提出してもらうことが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループでのテーマ決定や課題への取り組み、各自が興味関心のあるテーマや領域を発表し、論文の書き方について、オンライン授業を交え学んでいく。また、適時課題に対して講評する。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期についての説明
2	グループワーク①	テーマの決定と課題への取り組み
3	グループワーク②	グループ発表に向けた課題への取り組み
4	グループワーク③	グループ発表に向けた課題への取り組み
5	ゼミ論文のテーマ探し	各自ゼミ論文のテーマ探し
6	グループ発表①	担当グループの報告と討議
7	先行研究	各自ゼミ論文の先行研究の整理
8	グループ発表②	担当グループの報告と討議
9	個人研究報告①	ゼミ論文の中間報告
10	グループ発表③	担当グループの報告と討議
11	個人研究報告②	ゼミ論文の中間報告
12	グループ発表④	担当グループの報告と討議
13	ゼミ論文についての確認	形式についての確認
14	年間のまとめ	年間の総括、ゼミ論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に向けたグループ活動・資料の作成、ゼミ論文執筆のための発表準備など。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への参加（60%）、ゼミ論文（40%）をもとにして総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業における交流の活性化

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

(Learning Objectives)

The aim of this course is to help students acquire term-end report.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

BSP100EA

基礎演習 I

高橋 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶということがどういうことなのかを知り、大学で学ぶための基本的な学習スキルや作法を身につける。また、社会学（社会科学）的な思考や方法論についての理解を深める。

【到達目標】

文献を読む／読み解く／批判的に検討する、自分の考えや意見を表現する（話す・書く）、他人の考えや意見に耳を傾け議論する、ための基本的なスキルや作法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストの講読、グループワーク、ディスカッション、課題の作成・提出。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

課題については、コメントをつけて返却する。

質問については、授業時間内での対応およびメールでも対応する。

※この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況等によって授業計画に変更が生じる場合は、その都度、学習支援システムで周知していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習についての説明と自己紹介
第 2 回	グループワーク (1)	他人の考えや意見に耳を傾けるとともに、自分の考えや意見を表現するためのトレーニング
第 3 回	グループワーク (2)	他人の考えや意見に耳を傾けるとともに、自分の考えや意見を表現するためのトレーニング
第 4 回	文献・資料の収集方法と読み方	文献・資料の収集方法と読み方について学ぶ
第 5 回	ディベート	情報を集め、整理し、論理的に表現するためのトレーニング
第 6 回	研究テーマの発表 (1)	各自の問題関心を発表する
第 7 回	問いの立て方と先行研究の批判的検討	問いの立て方と先行研究の批判的検討について学ぶ
第 8 回	PC スキル (1)	Word の使い方を学ぶ
第 9 回	PC スキル (2)	Excel を使ってデータを可視化する
第 10 回	先行研究の批判的検討 (1)	先行研究の要点と論点を整理して発表する
第 11 回	先行研究の批判的検討 (2)	先行研究の要点と論点を整理して発表する
第 12 回	問いを立てる	先行研究をふまえて問いを立てる
第 13 回	研究テーマの発表 (2)	各自の研究テーマを発表する
第 14 回	研究テーマの発表 (3)	各自の研究テーマを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ文献を読み、内容を理解し、自分の考えを整理しておくこと。

授業や課題の作成に必要な情報を収集すること。

指示された課題を作成し、期限までに提出すること。

授業の準備・復習および課題の作成は、1 回につき 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

井下千以子、2019、『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 3 版』慶應義塾大学出版会。【各自で購入】

法政大学、2022、『学習支援ハンドブック 2022』法政大学教育開発・研究センター。【大学より配布】

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・ゼミへの参加と課題の提出（70 %）

・研究計画書（30 %）

「参加」＝「出席」ではありません。

出席したうえで、考え、発言することを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

ゼミは参加が基本です。

3 回以上欠席（または課題の未提出）した場合は単位を認めません。

【Outline (in English)】

This seminar aims to help students acquire the necessary skills and knowledge in their university studies.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

The goals of this course are to A, B, and C.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Research proposal: 30%, Shorts reports and in class contribution: 70%

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

高橋 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていくスキルを身につける。

【到達目標】

自分の考えを他人に説得的に伝えるためのスキルを身につける。先行研究を整理し、「問い」と「課題」を明確にする力をつける。それらを言語化し、的確に表現（文章を書けるように）できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的にはゼミ論の完成に向けて各自で作業を進める。ゼミへの参加とは別に進捗状況報告およびゼミ論文の作成・提出を課題とする。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。課題については、必要に応じてコメントをつけて返却する。質問については、授業時間内での対応およびメールでも対応する。なお、新型コロナウイルス感染症の状況等によって授業計画に変更が生じる場合は、その都度、学習支援システムで周知していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方とゼミ論文について
第 2 回	グループワーク (1)	研究テーマを相互に検討する
第 3 回	グループワーク (2)	研究テーマ相互に検討する
第 4 回	ゼミ論文の作成 (1)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 5 回	ゼミ論文の作成 (2)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 6 回	ゼミ論文の作成 (3)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 7 回	ゼミ論文の作成 (4)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 8 回	ゼミ論文の作成 (5)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 9 回	ゼミ論文の作成 (6)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 10 回	ゼミ論文の作成 (7)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 11 回	ゼミ論文の作成 (8)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 12 回	ゼミ論文の作成 (9)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 13 回	ゼミ論文の作成 (10)	ゼミ論文の作成と進捗状況報告の提出
第 14 回	ゼミ論文の提出	ゼミ論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文および進捗状況報告の作成・提出。
授業の準備および進捗状況報告の作成は、1 回につき 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・ゼミ論文 (65%)
- ・研究計画書 (20%)
- ・ゼミへの参加と進捗状況報告の提出 (15%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

ゼミは参加が基本です。

3 回以上欠席（または課題の未提出）した場合は単位を認めません。

【Outline (in English)】

This seminar aims to help students acquire the necessary skills and knowledge in their university studies.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

The goals of this course are to A, B, and C.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Final report: 65%, Research proposal: 20%, Progress reports and in class contribution: 15%

BSP100EA

基礎演習 I

宮下 阿子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学での学びを支える基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 文献の内容を理解し、批判的に検討する力を身につける。
 - 2) 自分の考えを言葉にして伝える力、お互いの考えを尊重しながら議論を交わす力を身につける。
 - 3) 文献検索やレジュメの作成等の基本的なスキルを身につける。
- 上記を通して、高校から大学への軌着陸を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読とディスカッションを中心に進める。授業の中で必要に応じて課題に対する講評を行う。

※授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。
※この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明と自己紹介
第 2 回	作品紹介（1）	読む・書く・話す・聞く・考えるための練習
第 3 回	ディスカッション	テーマを決めて討論する
第 4 回	作品紹介（2）	読む・書く・話す・聞く・考えるための練習
第 5 回	文献講読に向けて（1）	レジュメの作り方を学ぶ（説明）
第 6 回	文献講読に向けて（2）	レジュメの作り方を学ぶ（練習）
第 7 回	図書館ガイダンス	文献検索の方法を学ぶ
第 8 回	文献講読（1）	担当班による報告と議論
第 9 回	文献講読（2）	担当班による報告と議論
第 10 回	文献講読（3）	担当班による報告と議論
第 11 回	文献講読（4）	担当班による報告と議論
第 12 回	文献講読（5）	担当班による報告と議論
第 13 回	文献講読（6）	担当班による報告と議論
第 14 回	まとめ	期末課題の提出と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ文献を読み、自分の考えをまとめておくこと。また、各自の発表や課題の提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表・発言・参加姿勢）、課題点 50%（レジュメ・小レポート）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students enhance the basic skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

At the end of the course, students are expected to acquire critical reading and academic writing skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation (and in-class contribution):50%, Assignments:50%

BSP100EA

基礎演習 II

宮下 阿子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学での学びを支える基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 各自の問題関心にしがたって、必要な情報を収集し、自らの考えをまとめる力を身につける。
 - 2) ゼミ論を作成するための基本的なスキルを身につける。
- 上記を通して、専門演習への橋渡しをする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究報告とその検討を中心に進める。授業の中で必要に応じて課題に対する講評を行う。

※授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明とスケジュールの確認
第 2 回	ゼミ論の作成に向けて（1）	論文の書き方を学ぶ
第 3 回	中間報告 I -（1）	研究経過の報告と検討
第 4 回	中間報告 I -（2）	研究経過の報告と検討
第 5 回	中間報告 I -（3）	研究経過の報告と検討
第 6 回	中間報告 I -（4）	研究経過の報告と検討
第 7 回	ゼミ論の作成に向けて（2）	個別相談と作業
第 8 回	中間報告 II -（1）	研究経過の報告と検討
第 9 回	中間報告 II -（2）	研究経過の報告と検討
第 10 回	中間報告 II -（3）	研究経過の報告と検討
第 11 回	中間報告 II -（4）	研究経過の報告と検討
第 12 回	中間報告 II -（5）	研究経過の報告と検討
第 13 回	ゼミ論の提出に向けて	最終確認
第 14 回	まとめ	研究成果の発表と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の問題関心に沿って、日頃から情報収集をしておくこと。また、研究報告やゼミ論の提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表・発言・参加姿勢）、課題点 50%（レジュメ・ゼミ論）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students enhance the basic skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

At the end of the course, students are expected to acquire the fundamentals of academic research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation (and in-class contribution):50%, Assignments/Final report:50%

BSP100EA

基礎演習 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レジュメを作成する、発表する、他者の報告を聞く、それに対してコメントするなどといった一連の作業を通して、大学における「学び方」の基本的な作法を習得することを目的とする。

【到達目標】

大学における「学び方」の基本的な作法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

大学での学び方や思考法に関する文献を講読することを通して、この社会に生じる現象を読み解くための社会学（社会科学）的な思考や認識について理解を深めていく。また、そうした議論を踏まえたうえで、より個別具体的なテーマに関する文献を読みながら、論点をまとめる、自分の意見を「作る」、「討論」を通して自分の意見を表現するといった経験をしていく。

諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	本演習の概要説明・自己紹介
2	イントロダクション②	演習の進め方・レジュメの書き方の説明
3	ディスカッションのすすめ	小課題をめぐってグループ活動
4	クリティカル・リーディングの作法	指定文献の講読と練習
5	作文の技法	指定文献の講読と練習
6	ディスカッションする①	担当班による文献の報告と議論
7	ディスカッションする②	担当班による文献の報告と議論
8	ディスカッションする③	担当班による文献の報告と議論
9	ディベートする	担当班によるテーマの提示と討論
10	問いを立てる	指定文献の講読と個人テーマの検討
11	「考え方」の技術	指定文献の講読と個人テーマの検討
12	情報収集の技術	図書館ガイダンス
13	企画書を作る	個人テーマの検討
14	企画書の更新	個人テーマの再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、小レポートの作成など何らかの課題が課せられる。そのほか、文献を事前に読んでおくこと、報告班になった場合は、レジュメ・資料をあらかじめ作成し、印刷することなど、必要に応じて、授業外での活動が必要とされる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社 + a 文庫、2002）
そのほかの文献については、授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への関与（50%）、ならびに、個人としてのスキルアップの度合い（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students acquire academic skills and develop critical thinking through doing some practical activities. Students are expected to acquire the skills necessary for learning in the university.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the students' improvement on the academic skills (50%).

BSP100EA

基礎演習 II

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていく技術を身に付けていくなかで、今後、各自の抱く様々な問題関心にも対処できるような基礎的な土壌を作ることを目的とする。

【到達目標】

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていく技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別に関心のあるテーマを検討・決定し、そのテーマを問いへの展開することからはじめる。その後、それぞれの問題関心（問い）に応じて資料を収集したり調査していきながら、研究を分析的に練り上げていく作業へと進んでいく。さらに、そうした作業の成果を、①全受講者の前での発表（プレゼン）、②それをふまえた「ゼミ論」の執筆という2つの異なる表現手段で報告する。諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スケジュールの確認
2	各自テーマの深化	問いを明確化する
3	プレゼンに向けて	テキストを読みながら、プレゼンのイメージをつかむ
4	クラスタリング報告	各自のテーマに関連するキーワードを体系化する
5	アウトライン報告	アウトラインを考える
6	プレゼン①	各自の調査報告と受講者によるディスカッション
7	プレゼン②	各自の調査報告と受講者によるディスカッション
8	プレゼン③	各自の調査報告と受講者によるディスカッション
9	プレゼン④	各自の調査報告と受講者によるディスカッション
10	ゼミ論の書き方について	論文作成の作法と注意事項
11	個人テーマの再検討	ストーリーを練り上げる
12	ゼミ論節立て報告①	節立てを考える
13	ゼミ論節立て報告②	節立てを考える
14	まとめ	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人のテーマにもとづき、文献の講読、資料の収集、プレゼン資料の作成、ゼミ論の作成等、必要に応じて、授業外活動が必要とされる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤望編『アカデミック・スキルズ（第3版）』（慶應義塾大学出版会、2020）
そのほかの文献については、授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンに対する取り組み（50%）、ならびに、ゼミ論の執筆に至るプロセスおよびその最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to acquire academic skills and develop critical thinking through doing some practical activities. Students are expected to acquire the skills necessary for learning in the university.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the final paper (50%).

BSP100EA

基礎演習 I

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献を読み、資料を集め、学生同士で議論をすることを通じて、「初年次教育」として大学で学ぶ上で必要となる基礎的な技能を得ることを目的とします。

【到達目標】

- ・大学での学びに必要な基本的な知識を身につける。
- ・文献を読み、資料を調べ、発表し、議論をする技能を修得する。
- ・社会的問題に関心をもち考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定した文献を読む、レジюме・レポート等の簡単な文章を作る、ディベート・グループワークの方法の基本を学んでもらいます。学生へのフィードバックとしては、発表やレポート等に対する講評を授業時に適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の進め方の説明、自己紹介等を行います。
第 2 回	図書館を利用する方法	図書館での資料収集の方法 (OPAC) を学びます。
第 3 回	文献を読む①	指定した文献を読みます。
第 4 回	研究倫理教育	研究倫理 (特に剽窃) を学びます。
第 5 回	文献を読む②	指定した文献を読みます。
第 6 回	ディベートをする①	討論方法を確認します。指定されたテーマで攻守に別れて討論をします。
第 7 回	文献を読む③	指定した文献を読みます。
第 8 回	ディベートをする②	第 6 回の続きとして、攻守を入れ替えて討論をします。
第 9 回	レジюмеを作る①	指定された文献の要約を作成する方法を学びます。
第 10 回	グループワークをする①	グループで問題を検討し、その解決に向けた議論の仕方を学びます。
第 11 回	レジюмеを作る②	レポートを作成する方法を学びます。
第 12 回	グループワークを作る②	グループで問題を検討し、解決に向けた議論の方法を学びます。
第 13 回	プレゼンテーション	レジюмеを用いて発表をします。
第 14 回	グループワークをする③ 春学期のまとめ	グループワークによって生じた成果を発表します。春学期の振り返りをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で事前学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では、テキストを用いません。

【参考書】

この授業の参考書は、各授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート (50%)、平常点 (50%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は、本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Students will learn the basic skills that you will need to study at university through a "first-year education".

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・Students acquire the basic knowledge necessary for studying at university.
- ・Students acquire the skills to read literature, examine materials, make presentations, and have discussions.
- ・Students can be interested in and think about social issues.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

天本 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文献を読み、資料を集め、学生同士で議論をすることを通じて、「初年次教育」として大学で学ぶ上で必要となる基礎的な技能を得ることを目的とします。

【到達目標】

- ・大学での学びに必要な基本的な知識を身につける。
- ・文献を読み、資料を調べ、発表し、議論をする技能を修得する。
- ・社会的問題に関心をもち考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

研究計画を作り、それに基づいて文献を収集し、レポートを作成・発表する方法を学んでもらいます。学生へのフィードバックとしては、発表やレポート等に対する講評を授業時に適宜行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の内容を解説します。
第 2 回	研究計画を作る①	研究テーマを作る方法を学びます。
第 3 回	研究倫理教育	研究倫理（注の付け方等を学ぶ）を学びます。
第 4 回	文献等を調べる①	図書館とインターネットを用いた文献収集について学びます。
第 5 回	研究計画を作る②	研究計画を立てます。
第 6 回	文献等を調べる②	調べた文献について発表をします。
第 7 回	研究計画を作る③	研究計画を発表します。
第 8 回	レポートを作る①	レポート作成と途中経過を報告します。
第 9 回	レポートを作る②	レポート作成と途中経過を報告します。
第 10 回	レポートを作る③	レポート作成と途中経過を報告します。
第 11 回	レポートを作る④	レポート作成と途中経過を報告します。
第 12 回	プレゼンテーション①	パワーポイントを用いたプレゼンテーションの方法を学びます。
第 13 回	プレゼンテーション②	レポートの内容を基にしたプレゼンテーションを実践します。
第 14 回	プレゼンテーション③	レポートの内容を基にしたプレゼンテーションを実践します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で事前学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各授業内で適宜指示します。

【参考書】

各授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students will learn the basic skills that you will need to study at university through a "first-year education".

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・Students acquire the basic knowledge necessary for studying at university.
- ・Students acquire the skills to read literature, examine materials, make presentations, and have discussions.
- ・Students can be interested in and think about social issues.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

BSP100EA

基礎演習 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な能力を身につけると共に、現代社会に対する自らの問題関心を深める。文献収集、レジュメ作成、発表・ディスカッション、レポート作成などのスキルを習得する。

【到達目標】

大学での学びにおいて必要な能力・スキルを習得すること。

- ・文献を読みこなす
- ・レジュメを作成し、討議する
- ・自らの問題関心を深め、文献やデータを自ら収集・読解し、学習を進める
- ・レポートを作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基礎的な文献の輪読を通じてレジュメの作成法や文献の読み方について学習する。ディスカッションや個人研究に基づいたレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	大学での学び、ゼミの進め方
第 2 回	プレゼンテーション	参加者の自己紹介・関心を持ったニュースなどの紹介
第 3 回	文献購読 1	創造的読書・批判的読書法
第 4 回	文献購読 2	レジュメの作成とディスカッションの仕方
第 5 回	文献輪読 1	報告と討議
第 6 回	文献輪読 2	報告と討議
第 7 回	文献輪読 3	報告と討議
第 8 回	文献輪読 4	報告と討議
第 9 回	文献輪読 5	報告と討議
第 10 回	文献輪読 6	報告と討議
第 11 回	図書館の使い方	オンライン含む文献資料収集の方法など
第 12 回	レポートの書き方 1	レポートの基本、研究方法、文章の書き方、作法
第 13 回	レポートの書き方 2	レポートを書く・添削する
第 14 回	まとめ	レポートを報告する、相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読の準備（テキストを事前に読み、論点・疑問点をまとめておく）、レジュメの作成、レポート作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点ーレジュメ作成・討議など、授業への参加度（50 点）。

・レポート（50 点）

【学生の意見等からの気づき】

オンライン・対面いずれもディスカッションを促す双方向の授業を心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ作成、レポート執筆などのための PC

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to develop students' basic academic skills.

Learning Objectives: In this course, students will learn how to read academic papers, prepare discussion on reading assignments, deepen own research interests, collect data and information using network system of library, as well as write short report.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to read the relevant chapter(s) from reading assignments before each class meeting.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な能力を身につけると共に、現代社会に対する自らの問題関心を深める。基礎演習Ⅰで学んだことをふまえて、自ら研究を進め、グループワークを実施し、論文執筆や発表のスキルを身につける。

【到達目標】

大学での学びにおいて必要な能力・スキルを習得すること
 ・文献やデータを自ら収集して内容を理解する
 ・先行研究をまとめ、課題を発見し、テーマを設定する
 ・プレゼンテーションを通じて他者に伝え、質疑に答える
 ・自らの研究に基づきレポートを作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テーマに即した文献やデータの収集方法を学ぶ。研究に基づき、報告とディスカッションを行い、相互に評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	基礎演習Ⅰの振り返り、進め方の確認
第2回	研究テーマの設定	関心に基づくグループワーク分け、ディスカッション
第3回	研究テーマの決定	グループワーク（レジュメ発表・ディスカッション）
第4回	先行研究の検討と議論	グループワーク（レジュメ発表・ディスカッション）
第5回	先行研究の検討と議論	グループワーク（レジュメ発表・ディスカッション）
第6回	研究関心の発表準備	グループワーク（パワポ作成・ディスカッション）
第7回	研究関心の全体発表	各グループによる全体発表（パワポ発表・ディスカッション）
第8回	ゼミ論のアウトラインの作成	グループワーク（発表・ディスカッション）
第9回	ゼミ論のアウトラインの作成	グループワーク（シャッフル発表・ディスカッション）
第10回	ゼミ論の作成	グループワーク（ゼミ論の中間経過）
第11回	ゼミ論の作成	グループワーク（ゼミ論の中間経過）
第12回	ゼミ論の報告	各自全体発表
第13回	ゼミ論の報告	各自全体発表、各自提出
第14回	まとめ	まとめ、ゼミ論冊子作成・総合論評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究に沿った文献・資料収集、グループ報告におけるレジュメ作成およびプレゼンテーション、各自ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点ー授業への参加度・討論への貢献度（50点）。
 ・ゼミ論（50点）

【学生の意見等からの気づき】

オンライン・対面いずれもディスカッションを促す双方向の授業を心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・プレゼン資料作成、ゼミ論執筆などのためのPC

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to develop students' basic academic skills.

Learning Objectives: In this course, students will develop research interest through group research and discussion while obtaining basic academic skills on presentation and academic writing.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to prepare for group discussion and presentation in class.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

BSP100EA

基礎演習 I

吉田 公記

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline (in English)】

Through this course, students will (1) gain basic skills for academic study and (2) find academic themes to explore. Students are required to read papers, write essays and do other assignments to prepare for the classes.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、大学での学び方の基礎を習得するとともに、これからの4年間で探究していきたいテーマを見つけることを目的とする。

【到達目標】

①文献や資料の集め方、レジュメやレポートの書き方といった大学での学習の基礎的技術を習得すること。②2年次以降のゼミ選択に向けて、各自で問題関心を見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。レポート等の課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。なお、下記【授業計画】は展開に応じて若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	基礎的技術の習得①	レジュメやレポートの書き方・ルールを学ぶ
3	基礎的技術の習得②	文献や資料の集め方を学ぶ
4	問題関心の検討・発表①	これから深く学びたい分野・テーマを各自で検討する
5	問題関心の検討・発表②	前回授業の作業成果を発表する
6	文献書評の執筆①	書評を講読し、その書き方を各自で分析する
7	文献書評の執筆②	前回授業の作業成果を発表する
8	文献書評の執筆③	関心のある事柄に関する文献を各自で調査・収集する
9	文献書評の執筆④	前回授業で調査・収集した文献群を精査し、書評対象文献を決定する
10	文献書評の執筆⑤	選択文献の要約を作成する
11	文献書評の執筆⑥	前回授業の作業成果を発表する
12	文献書評の執筆⑦	選択文献の批評を作成する
13	文献書評の執筆⑧	前回授業の作業成果を発表する
14	まとめ	これまでの学習内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での報告に必要な文献・資料等の収集・講読およびレジュメやレポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分を目安として総合的に評価する。

・平常点（授業への参加姿勢等）：40%

・課題点（レポート等）：60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

吉田 公記

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、大学での学び方の基礎を習得するとともに、これからの4年間で探究していきたいテーマを見つけることを目的とする。

【到達目標】

①文献や資料の集め方、レジュメやレポートの書き方といった大学での学習の基礎的技術を習得すること。②2年次以降のゼミ選択に向けて、各自で問題関心を見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。レポート等の課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。なお、下記【授業計画】は展開に応じて若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	研究論文の執筆①	研究テーマ（問い）を検討する
3	研究論文の執筆②	前回授業の作業成果を発表する
4	研究論文の執筆③	研究テーマ（問い）の背景状況について調査する
5	研究論文の執筆④	前回授業の作業成果を発表する
6	研究論文の執筆⑤	先行研究を調査・収集する
7	研究論文の執筆⑥	前回授業の作業成果を発表する
8	研究論文の執筆⑦	先行研究を批評する
9	研究論文の執筆⑧	前回授業の作業成果を発表する
10	研究論文の執筆⑨	データの調査・収集を行う
11	研究論文の執筆⑩	前回授業の作業成果を発表する
12	研究論文の執筆⑪	調査・収集したデータを分析する
13	研究論文の執筆⑫	前回授業の作業成果を発表する
14	研究論文の執筆⑬	これまでの研究内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での報告に必要な文献・資料等の収集・講読およびレジュメやレポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分を目安として総合的に評価する。

・平常点（授業への参加姿勢等）：40%

・課題点（レポート等）：60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Through this course, students will (1) gain basic skills for academic study and (2) find academic themes to explore. Students are required to read papers, write essays and do other assignments to prepare for the classes.

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

中村 尚樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会インフラとしても期待されている最新の移動体通信規格“5G”を題材に、社会課題の解決策を検討しながら、主体的かつ論理的な思考力の習得を目的とする。

【到達目標】

- 1) 文献の意図を正確に理解することができる。
- 2) 問題意識をもって「問い」を發し、結論を導くことができる。
- 3) 以上を簡潔にまとめ、発表することができる。
- 4) 比較的短い文章で的確に自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストからそれぞれ希望する項目（節）を選び、レジュメを準備したうえで毎回数人ずつ報告する。全員による質疑応答を踏まえ、授業終了後に報告者は概要をまとめたレポートを、他の参加者はミニレポートを提出する。最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、授業で課したレポート等に対する講評や解説も行う。

授業計画は受講生の報告希望内容などにより、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	報告順と内容決定。
第2回	報告の仕方ガイダンス	レジュメ作成の方法。
第3回	ダイバーシティと地方創生	担当者がレジュメを作成し発表する。
第4回	スマートシティとスマートビル	担当者がレジュメを作成し発表する。
第5回	警備ロボットとバーチャル警備システム	担当者がレジュメを作成し発表する。
第6回	デジタルツインとモバイル治療室	担当者がレジュメを作成し発表する。
第7回	自動運転と隊列走行	担当者がレジュメを作成し発表する。
第8回	自動運転とダイナミックマップ	担当者がレジュメを作成し発表する。
第9回	ローカル5Gとプライベート5G	担当者がレジュメを作成し発表する。
第10回	DXと農業エコシティ	担当者がレジュメを作成し発表する。
第11回	eスポーツとAR	担当班がレジュメを作成し発表する。
第12回	サイバーリスクとセキュリティリスク	担当班がレジュメを作成し発表する。
第13回	プライバシーリスクと電磁波リスク	担当班がレジュメを作成し発表する。
第14回	春学期のまとめ	全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキストを事前に精読し、報告者はレジュメにまとめる。

【テキスト（教科書）】

中村尚樹『最前線で働く人に聞く日本一わかりやすい5G』（2021年、プレジデント社）

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

【報告回】報告担当者はレジュメ作成・プレゼンテーション20点+終了後のレポート15点=35点で評価する。

【ミニレポート】報告者以外は各回提出のミニレポートを5点満点で評価する。

【合計】ミニレポート提出は13回×5点=65点満点となる。報告回の評価とあわせ、100点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ作成のポイントを授業冒頭で解説する。

【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire independent and logical thinking ability. At the end of this course, students will get how to make presentations and comments. Grades will be evaluated comprehensively by a mini-report submitted each time, in addition to the presentation in charge.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

中村 尚樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者は自ら課題を設定し、ひとつのテーマに関する体系的な論文をまとめる。論文作成の作法を学ぶとともに、幅広い知識に裏打ちされた、独創的な思考力を習得する。

【到達目標】

- 1) 適切な論文テーマを設定できる。
- 2) 文献や資料を的確に検索し、利用できる。
- 3) 問題意識を持ち、他者との議論を通じて理解を深めることができる。
- 4) 論理的で独創的な論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期で学んだ内容を展開し、各自がそれぞれのテーマを設定する。そのうえでレジュメを作成して論文の構想を発表する。これを踏まえて、暫定的な論文を作成する。質疑応答や講師によるアドバイスを踏まえて、最終論文を作成する。春学期履修が前提となる。
授業では論文作成の作法はもちろん、テーマの決め方や論考の進め方を学ぶ。レジュメ、論文ともメールに添付して提出する。
なお、授業計画は授業の展開や社会情勢の変化によって、若干の変更があり得る。
最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、各受講生に対し、提出してもらった論文に対する講評やアドバイスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文テーマ設定	テーマ設定、報告順、報告日程決定。
第 2 回	レジュメ・論文作成の作法、図書館案内	レジュメ・論文作成の作法や執筆方法、図書館の有効活用について学ぶ。
第 3 回	論文作成の思考	内容面を中心に論文の書き方。
第 4 回	論文構想発表①ダイバーシティ関連	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 5 回	論文構想発表②スマートシティ関連	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 6 回	論文構想発表③自動運転関連	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 7 回	論文構想発表④エンタメ関連	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 8 回	論文構想発表⑤リスク関連	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 9 回	暫定論文発表①ダイバーシティ関連	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 10 回	暫定論文発表②スマートシティ関連	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 11 回	暫定論文発表③自動運転関連	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 12 回	暫定論文発表④エンタメ関連	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 13 回	暫定論文発表⑤リスク関連	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 14 回	確定論文講評	講評とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間ともに各 2 時間を標準とする。夏季休業期間中に関連書籍を検索、読了しておくことが望ましい。発表の担当者は、前半ではレジュメ、後半では暫定論文を準備する。そのうえで確定論文を提出する。

【テキスト（教科書）】

中村尚樹『最前線で働く人に聞く日本一わかりやすい 5 G』（2021 年、プレジデント社）

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想（レジュメ作成）20 点、暫定論文 20 点、確定論文 60 点

【学生の意見等からの気づき】

作文と論文の違いに戸惑う学生が多いため、論文執筆のスタイルを授業冒頭で明確に提示する。

【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline (in English)】

Participants set their own questions and compile a systematic treatise on one theme. While learning how to write a treatise, you will acquire creative thinking skills based on a wide range of knowledge. In addition to the presentation of the resume, the grades will be evaluated comprehensively in the dissertation.

BSP100EA

基礎演習 I

松下 峻也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「大学で学ぶ」ために必要な技能と作法を取得します。具体的には、学術書を読む力、みずから問いを立てる力、史資料を調べ、その成果を報告し、他者と議論する力が身に付くことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、文献講読をとおして既存の知識や知見から学ぶとともに、ディスカッションによってその成果を共有します。学生が、学術書を精確に読み解き、その内容を他者にたいして報告/他者とともに議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員によるレクチャーをくわえながら、学生による文献講読の報告とディスカッションを中心に進めていきます。学生の課題（提出物）にたいするリプライは、毎回の演習で口頭によっておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の概要や目的の解説と、教員と学生による自己紹介
2	文献講読の準備①	学術書の「読みかた」のレクチャーと、講読文献の決定
3	文献講読の準備②	「報告のしかた」のレクチャー
4	文献講読①	レジメの報告とディスカッション
5	文献講読②	レジメの報告とディスカッション
6	文献講読③	レジメの報告とディスカッション
7	文献講読④	レジメの報告とディスカッション
8	記者という職に学ぶ	社会に問いを立て、調査し、報道する職業である「記者」の検討
9	文献講読⑤	レジメの報告とディスカッション
10	文献講読⑥	レジメの報告とディスカッション
11	文献講読⑦	レジメの報告とディスカッション
12	文献講読⑧	レジメの報告とディスカッション
13	課題レポートの作成の準備	レポートの「書きかた」のレクチャー
14	総括	本科目の総括と、期末課題（レポート）の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、文献講読の報告とディスカッションの準備が求められます。また、期末課題（レポート）の作成も授業時間外におこないます。本科目の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義のなかで指定します。

【参考書】

上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』 筑摩書房。
好井裕明, 2014, 『違和感から始まる社会学——日常性のフィールドワークへの招待』 光文社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（文献講読の報告とディスカッションへの参加）を 50 %、期末課題（レポート）を 50 % として評価します。特別な理由（事前の報告や必要書類の提出）がない欠席は、累計 3 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

初学者でも理解できるよう、レクチャーをゆっくりとおこないます。

【Outline (in English)】

This course introduces skills and manners necessary for academic research to students taking this course. At the end of the course, students are expected to acquire the ability to critique academic articles. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

松下 峻也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「大学で研究する」ために必要な技能と作法を取得します。具体的には、学術書を読む力、みずから問いを立てる力、史資料を調べる力、その成果を報告し、他者と議論する力を学生が身につけることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、みずからが立てた問いにもとづいて、史資料の調査と収集、分析と考察をおこない、その内容についてディスカッションをおこないます。学生が、各自の研究成果を他者にたいして報告／他者とともに議論し、論文を執筆することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員によるレクチャーをくわえながら、学生による研究内容の報告とディスカッションを中心に進めていきます。学生の課題（提出物）にたいするリプライは、毎回の演習で口頭によっておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	基礎演習Ⅰのふりかえりと、本科目の概要と目的の解説
2	問いを立てる①	研究計画の「立てかた」のレクチャー
3	問いを立てる②	学生による問題関心の報告
4	方法論を学ぶ①	研究の手引きとなる文献の講読
5	方法論を学ぶ②	研究の手引きとなる文献の講読
6	中間報告①	研究経過の報告とディスカッション
7	中間報告②	研究経過の報告とディスカッション
8	中間報告③	研究経過の報告とディスカッション
9	中間報告④	研究経過の報告とディスカッション
10	成果報告①	研究成果の報告と課題の検討
11	成果報告②	研究成果の報告と課題の検討
12	成果報告③	研究成果の報告と課題の検討
13	成果報告④	研究成果の報告と課題の検討
14	総括	本科目の総括と、期末課題（論文）の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、研究内容の報告とディスカッションの準備が求められます。また、期末課題（論文）の作成も授業時間外におこないます。本科目の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義のなかで指定します。

【参考書】

上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』 筑摩書房。
好井裕明, 2014, 『違和感から始まる社会学——日常性のフィールドワークへの招待』 光文社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（研究内容の報告とディスカッションへの参加）を 50 %、期末課題（レポート）を 50 %として評価します。特別な理由（事前の報告や必要書類の提出）がない欠席は、累計 3 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

初学者でも理解できるよう、レクチャーをゆっくりとおこないます。

【Outline (in English)】

This course introduces skills and manners necessary for academic research to students taking this course. At the end of the course, students are expected to acquire the ability to report their research result. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

BSP100EA

基礎演習 I

武田 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要な能力とスキルを学生が身につけることを目的とする。特に文献の探し方や読み方、レジユメの作り方、学生たちが協力してゼミをどう運営するかを学ぶ。

【到達目標】

大学のゼミにおいて必要とされる基本的な能力・スキルを習得すること。より具体的には以下の3点となる。

- 1) 文献やデータを自ら収集して内容を理解するとともに、その内容を批判的に読み、課題を発見することができるようになること。
- 2) レジユメやレポートを書くために必要な、基本的な文章力を習得すること。
- 3) ゼミに主体的に参加し、学生同士による意見交換を通して、研究を進めていく能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献やデータの検索、専門書・論文の読解、レポートの作成、ゼミでの報告とディスカッションの方法等について学ぶ。

第2回までで文献やデータの収集方法を学んだ上で、第3回以降は報告と、学生同士による相互評価が中心となる。自分の報告や他の人の報告に関する評価表を毎回提出してもらい、共有する。それらの積み重ねを通して自分自身の報告の仕方を改善するとともに、成長の過程を実感してもらい、最後に夏休みの宿題として個人レポートを提出してもらい、全体のまとめとする。

なお授業計画は授業の展開と学生のインターネット環境の状況に応じて、若干の変更があり得る。リアクションペーパーはとくに設けないが、課題について授業内で毎回コメントと質疑を行うことで学生の理解に資するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	概要の説明、自己紹介
2	文献・データを収集する	文献・データの検索の仕方、図書館の使い方
3	文献を読む (1)	正確に文献を理解するために何が必要か
4	文献を読む (2)	正確な要約と生産的な批判、コメントの重要性
5	文献を読む (3)	レジユメの作成・報告と相互批評、ディスカッションをどう行うか
6	情報やデータの収集 (1)	マスメディアやインターネットによる情報やデータの収集をどう行うかの課題の提示
7	情報やデータの収集 (2)	課題に基づく結果の提出と批評
8	報告の準備	各自のテーマの決定
9	各自の報告 (1)	文献・データに基づく報告と討論の実践 (学籍番号で前から6人目までのメンバーの報告)

10	各自の報告 (2)	文献・データに基づく報告と討論の 実践 (学籍番号で前から 7 ~ 12 人目までのメンバーの報告)
11	各自の報告 (3)	文献・データに基づく報告と討論の 実践 (学籍番号で前から 13 ~ 18 人目までのメンバーの報告)
12	各自の報告 (4)	文献・データに基づく報告と討論の 実践 (学籍番号で前から 19 ~ 23 人目までのメンバーの報告)
13	夏休みの課題に向けた 準備 (1)	最終レポートに向けた方向性につ いての相談
14	夏休みの課題に向けた 準備 (2)	最終レポートの方向性についての 確定

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題に沿った文献・資料収集、レポート執筆。他の学生のレジюмеへの意見の提示。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

野村一夫,2014,『ゼミ入門』文化書房博文社。

【参考書】

橋本努,2013,『学問の技法』筑摩書房。

野村一夫「社会学の作法・初級編：社会学的リテラシー構築のための
のレッスン」

https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業への積極的な参加度を通した平常点評価 (40 点)。

・第 3 回以降のレジюмеの報告に基づく評価 (40 点)。

・第 3 回以降の自己評価表・他者評価表の提出による評価 (20 点)。

【学生の意見等からの気づき】

対面を前提とした形での学生の交流・ディスカッションを促してい
きたい。

【Outline (in English)】

It is the purpose of this class for students to acquire the
abilities and skills necessary to study at university. In
particular, they learn how to search and read papers, how to
make resumes, and how they cooperate in managing seminars.

BSP100EA

基礎演習 II

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学で社会学を学ぶために必要な能力とスキルを身につけること、
基礎演習 I で学んだことをふまえつつ、学生が自分でレポートを書
き、プレゼンテーションを行うことを通じて、グループで研究を進
めていくことができるようになることを目的とする。

【到達目標】

大学のゼミにおいて自ら問いを設定し、研究を進めていくための基
本的な能力・スキルを習得すること。より具体的には以下の 4 点と
なる。

- 1) 文献やデータを自ら収集して内容を理解できるようになること。
- 2) 先行研究を批判的に読みつつ課題を発見し、自分のテーマを設定
し、それに回答できるようになること。
- 3) 第三者に対して自分の研究内容やその意義について、プレゼン
テーションを通じて伝えることができるようになること。
- 4) 研究倫理についての基本的な理解を深めること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に
関連。 DP についてはこちら [https://www.hosei.ac.jp/shakai/
info/article-20200325181407/](https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/)

【授業の進め方と方法】

文献やデータの検索、専門書・論文の読解、レポートの作成、ゼミ
での報告とディスカッションの方法等について学ぶ。

基礎演習 I の内容を復習しつつ、学生が自分自身のテーマに即して
文献やデータの収集方法を学ぶ。その上で報告とディスカッション、
報告に対する学生同士の相互評価が中心となる。自分の報告に関す
る自己評価表、および他の学生の報告に対する評価表を毎回提出し
てもらい、共有する。それらの積み重ねを通して自分自身の報告の
仕方を改善するとともに、成長の過程を実感してもらう。

授業計画は授業の展開や対面授業が可能な回数によって若干の変更
があり得る。

リアクションペーパーは特に設けないが、毎回の報告に対する質疑
応答を通じて、学生の理解に資するものとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	概要とスケジュール、各自の報告 の評価方法の説明、グループ分 け。
2	テーマの設定 (1)	各グループでどのようなテーマで 文献レビュー報告をするかを決定 する。
3	テーマの設定 (2)	各グループでどのようなテーマで 文献レビュー報告をするかを報告 する。
4	先行研究と問題設定	先行研究のレビューと問いの設定 の仕方について具体的な事例をも とに考える。
5	研究方法と対象、研究 をめぐる倫理	研究方法と対象の設定、また研究 をめぐる倫理について具体的な事 例を元に考える。
6	問題設定・文献レ ビューの検討 (1)	各グループによる問題設定・文献 レビューの検討 (1)

7	問題設定・文献レビューの検討 (2)	各グループによる問題設定・文献レビューの検討 (2)
8	問題設定・文献レビューの検討 (3)	各グループによる問題設定・研究レビューの検討 (3)
9	各グループの中間経過報告 (1)	各グループによる研究報告の進行状況についての経過報告 (1)
10	各グループの中間経過報告 (2)	各グループによる研究報告の進行状況についての経過報告 (2)
11	各グループの中間経過報告 (3)	各グループによる研究報告の進行状況についての経過報告 (3)
12	各グループの最終報告 (1)	各グループがまとめた報告の最終的な内容をプレゼンテーションする (1)
13	各グループの最終報告 (2)	各グループがまとめた報告の最終的な内容をプレゼンテーションする (2)
14	各グループの最終報告 (3)	各グループがまとめた報告の最終的な内容をプレゼンテーションする (3)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

グループでの課題に沿った文献・資料収集、レジュメおよびプレゼンテーション、ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業への積極的な参加度を通した平常点評価 (20 点)。
- ・第 2 回・3 回・6 回～ 14 回までのグループ報告の内容に基づく評価 (50 点)。
- ・第 2 回・3 回・6 回～ 14 回の相互評価表の提出による評価 (30 点)。

【学生の意見等からの気づき】

対面を前提にした形で、より学生間の交流とディスカッションを促したい。

【Outline (in English)】

It is the purpose of this class for students to acquire abilities and skills necessary to study sociology by themselves at this university. They need to write reports and make presentation to develop their ability of conducting research on their own.

BSP100EA

基礎演習 I

山田 唐波里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生が大学における初歩的な学びを実際に経験することで、「大学での学び方」の基本的な作法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

「話す・聞く・読む・書く・考える」ことについて、大学で求められる基本的な水準に達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会学に関連する文献の講読を中心に、レジュメの作成、発表、ディスカッションなどを交えて授業を進めていく。それらに加えて、図書館利用の方法や、レポートの作成方法など、授業時間外における準備作業の仕方についても一通り授業で取り上げる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う (ただし、授業計画は授業の展開により、若干の変更があり得る)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要説明
2	文献講読に向けて	自己紹介・文献講読の進め方の説明
3	レジュメ作成法	レジュメ作成法の説明・文献講読担当決め
4	資料収集の方法	図書館ガイダンス・資料検索の解説
5	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
6	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
7	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
8	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
9	レポートの執筆に向けて	書評レポートの書き方の説明
10	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
11	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
12	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
13	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
14	まとめ	期末課題の解説と授業のふりかえり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の軸となる文献講読を行うにあたって、必ず報告担当者以外も事前に文献を読み、疑問点やディスカッションのテーマになりそうな論点を見つけておくこと。また、報告担当者は、レジュメの作成・印刷等の準備を授業時間までに必ず終えておく必要がある。以上にくわえて、授業終盤は期末レポートの準備を各自で進めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・貢献）40%、レジュメ報告と期末レポート60%。
・文献講読のレジュメ報告、期末レポートの提出のいずれかが欠けた場合でも落第とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流機会が欲しい、という一昨年度の授業改善アンケートの内容をふまえ、前年度はグループディスカッションを設定したところ、学生から好評だったため、今年度も引き続きグループディスカッションを行うことにした。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの授業の回は、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is for students to acquire the basic manners of "how to study at university" through actually experiencing elementary studying at university.

The goal of this seminar is to reach the basic level required by universities about speaking, listening, reading, writing, and thinking.

When conducting literature reading, it is necessary for those who are not in charge of the presentation to read the literature in advance and find out questions and issues that may become themes for discussion. In addition, the presenters must prepare and print out resumes before the class starts.

Attitude and contribution to the class: 40%, resume presentation and final report: 60%.

Students will fail the class if they do not complete both the presentation of the literature reading using a resume and the submission of the final report.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

山田 唐波里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生がそれぞれの問題関心を「研究」として具体化できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

それぞれの問題関心を探ることから始め、それを学問的な「問い」として立て、その「問い」にアプローチするために必要な「資料収集」を行い、最終的に「論文（ゼミ論）」という形でまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の問題関心に沿った発表をもとにディスカッションを重ねることで内容を深めていく。それと並行して、「ゼミ論」を書くうえで必要となる基本的なスキルについては、適宜授業で取り上げる。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う（ただし、授業計画は授業の展開により、若干の変更があり得る）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要説明
2	「問い」を立ててみる	各自の研究テーマの報告
3	「問い」の立て方	先行研究の整理法の説明
4	「問い」を深める	先行研究の整理をふまえた「問い」の報告
5	ゼミ論の執筆に向けて	ゼミ論の書き方の説明
6	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
7	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
8	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
9	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
10	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
11	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
12	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
13	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
14	まとめ	ゼミ論の提出と授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終目標となる「ゼミ論」の完成に向けて、各自授業時間外に問題関心の探求、資料の収集、報告資料の作成、ゼミ論の執筆などが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・貢献）30%、レジュメ報告とゼミ論70%。
・ゼミ論の中間報告、ゼミ論の提出のいずれかが欠けた場合でも落第とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの授業の回は、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【Outline (in English)】

The objective of this seminar is to enable students to materialize their interests in the form of research.

The goal is to start by exploring each student's problematic interest, convert it into an academic "question," collect the necessary "materials" to approach the question, and finally summarize it in the form of a "paper."

In order to write the final paper, which is the final goal, each student needs to explore the issues and collect research materials outside of class hours.

Attitude and contribution to the class: 30%, resume presentation and final paper: 70%.

Students will fail the class if they do not complete both the progress report using a resume and the submission of the final paper.

BSP100EA

基礎演習 I

慎 蒼宇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ゼミでは、大学での学びに必要な基礎的思考力を身につけるために、さまざまな課題に取り組んでいきます。

【到達目標】

この演習の到達目標は、来年度以降、a) 専門科目(社会学科)での学習能力向上の基盤となる、b) 基本的な思考力やスキルを身につけてもらうことです。具体的には、主に、

①資料・文献を集め、調査する力を身につける。②読書する力を身につける、③論理的に思考する力を身につける、④グループで討議し、調べる力を身につける、⑤レジュメを作成し報告する力を身につける、⑥研究倫理について理解を深めるです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前期では、①②をベースにして、文献購読班を編成し、レジュメによる文献要約と内容検討に関する報告を行います。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習ガイダンス	概要の説明/簡単な自己紹介
第2回	大学の環境を知る①	キャンパス案内
第3回	自己紹介する	関心ある社会問題/大学生活について
第4回	大学の環境を知る②	図書館ガイダンス
第5回	文献購読の作法とレジュメ	図書購読/文献購読班の編成
第6回	大学の環境を知る③	障がい学生支援
第7回	文献購読①	班ごとの文献決定/役割分担の決定・構想報告
第8回	レポート・論文①	レポート・論文作成に関する学習
第9回	文献購読②	班による報告①
第10回	文献購読	班による報告②
第11回	文献購読	班による報告③
第12回	文献購読	班による報告④
第13回	文献購読	班による報告⑤
第14回	まとめ	基礎演習Iの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成、資料収集など報告に向けた準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にはありません。使用する場合は適宜指示します。

【参考書】

特にはありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題点50%（報告、レジュメ等）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course deals with the various issues. It also enhances the development of students' basic thinking skills necessary for studying at university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ゼミでは、大学生生活に必要な基礎的思考力を身につけるために、さまざまな課題に取り組んでいきます。

【到達目標】

この演習の到達目標は、来年度以降、a) 専門科目(社会学科)での学習能力向上の基盤となる、b) 基本的な思考力やスキルを身につけてもらうことです。具体的には、主に、①資料・文献を集め、調査する力を身につける。②読書する力を身につける、③論理的に思考する力を身につける、④個人でテーマを設定する、⑤レジュメを作成し報告する力を身につける、⑥プレゼンテーションのしかたを経験する、⑦論文を書く、⑧研究倫理について理解を深めるです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

後期では「関心ある出来事・人物」に関する個人報告、ゼミ論文作成を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習内容の作業工程の説明・確認
第2回	個人発表：構想の提示	「関心ある出来事・人物」に関する研究構想提示
第3回	文献・資料調査方法	図書館での学習
第4回	大学の環境を知る	障がい者支援学習
第5回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第6回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第7回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第8回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第9回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第10回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第11回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第12回	論文を書く	論文作成概要と学習／執筆
第13回	論文を書く	論文執筆＋第一次原稿提出
第14回	論文を書く	添削原稿返却＋修正作業＋第2次提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成、資料収集など報告に向けた準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にはありません。使用する場合は適宜指示します。

【参考書】

特にはありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 点

課題点 50 点（報告、レジュメ等）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course deals with the various issues. It also enhances the development of students' basic thinking skills necessary for studying at university.

BSP100EA

基礎演習 I

白田 秀彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習の目的は、「調べる・整理する・構成する・執筆する」ための技法を学び、大学の講義や演習で学ぶにあたって必要な能力を獲得することである。

【到達目標】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」ための技法を滞りなく実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」という課程を繰り返すことで定着させる。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容の Zoom による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調べる 1	ライブラリー・ツアーを行う。指定されたテーマについて資料を集める。
2	整理する 1	資料整理の技法について学ぶ。
3	構成する 1	整理された資料を論文の形として整理する。
4	執筆する 1	論文の形式について学ぶ。最初的小論文を提出する。
5	調べる 2	新たに指定されたテーマについて資料を集める。
6	整理する 2	資料整理の技法を再度実践して確認する。
7	構成する 2	整理された資料を論文の形として整理することを再度実践して確認する。
8	執筆する 2	二度目の小論文を提出する。
9	要約する 1	書籍を要約する技法を学ぶ。
10	整理する 1	指定された書籍について要点を抽出する。
11	構成する 2	レジュメの形式について学ぶ。要点を形式に合わせて構成する。
12	執筆する 3	レジュメを提出する。
13	調べる 3	自由課題について主として文献調査を行い、資料を集める。
14	構成する 3	三度目の小論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習中は方法の指導を中心とするため、課題は時間外学習として行うことが主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。新型コロナ状況下であるため、演習に伴う課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】

基本的に用いない。演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

提出物の評価 (60%)、演習への参加や活動 (40%) で行う。ただし、いずれかの項目が著しく悪い評価である場合には、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides training in writing academic papers and reports.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to write papers and reports in an acceptable style and content.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the documents related to the assignment and write reports in the supported format. They are also expected to reflect on and improve the instructions in the returned reports. These assignments require about two hours of out-of-class study before and after class.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on 60% for the submitted deliverables and 40% for the contribution in the class.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習の目的は、「調べる・整理する・構成する・執筆する」ための技法を学び、大学の講義や演習で学ぶにあたって必要な能力を獲得することである。

【到達目標】

「調べる・整理する・構成する・発表する」ための技法を計画的かつ着実に実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「調べる・整理する・構成する・発表する」という課程を計画的に遂行することでその手順を理解する。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容の Zoom による演習となる可能性がある。演習に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画する 1	プレゼンテーション形式による発表のテーマを選定するための事前調査を行う。
2	計画する 2	発表を行うための作業計画を作成する。
3	計画する 3	作業計画の評価と計画の見直しのうえ、計画を決定する。
4	調べる 1	図書館等を用いて資料を集める。
5	調べる 2	インタビューやアンケートの基本的な技法について学ぶ。
6	調べる 3	インタビューやアンケートの結果について整理する技法を学ぶ。
7	整理する 1	資料を整理し、発表の内容を構成する。
8	構成する 1	発表の構成案の報告を行う。
9	制作する 1	構成案に沿って、各種資料をどのようにレイアウトするのか、コンテを作成する。
10	制作する 2	主として画像を発表に用いることができるように処理する技法について学ぶ。
11	制作する 3	コンテに沿って発表用資料の作成を行う。
12	制作する 4	コンテに沿って発表用資料の作成を行う。
13	発表する 1	編成された班のうち前半の班の発表を行う。報告の技法について実践する。
14	発表する 2	編成された班のうち後半の班の発表を行う。報告の技法について実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習中は方法の指導を中心とするため、課題は時間外学習として行うことが主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。新型コロナ状況下であるため、演習に関連する課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】

基本的に用いない。演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

提出物の評価 (60%)、演習への参加や活動 (40%) で行う。ただしいずれかの項目が著しく悪い評価である場合には、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides training in presentation contents and techniques.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to make presentations in an acceptable style and content.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to conduct research and other activities related to the assignment and create slide-shows in the corresponding format. They are also expected to review and improve upon the teacher's instructions for your presentation. These assignments will require two hours of out-of-class study before and after class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on 60% for the submitted deliverables and 40% for the contribution in the class.

BSP100EA

基礎演習 I

古澤 聡司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次生を対象とした大学生に必要な勉強の仕方や技術を学びます。必要な文献を読み、仲間の意見にも耳を傾け、皆で討論し、自分なりの考えをまとめていくためのスキルを中心に学びます。

【到達目標】

自分なりの考えをレポートや論文としてまとめあげることができるようになるために必要となるスキルの習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習での報告の仕方、レジメの書き方、資料収集の方法、討論の仕方、論文・レポートの書き方など、具体的な勉強の方法、技術の習得を演習形式で学びます。最終授業で、課題に対する講評を行います。なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、授業計画に若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画と自己紹介など。
第 2 回	受講の準備	テキストの入手、仲間づくりなど。
第 3 回	テキスト第 4 講の講読	文献の「要約の仕方」を学びます。
第 4 回	テキスト第 9 講の講読	「レジメの作り方」を学びます。
第 5 回	レジメの作り方の実習	パソコンの文章作成機能を使ってレジメを作る実習を行います。
第 6 回	テキスト第 10 講の講読	「ゼミ発表の仕方」を学びます。
第 7 回	テキスト第 3 講の講読	「テキストの読み方」を学びます
第 8 回	テキスト第 5 講の講読	「きちんと考える方法」を学びます。
第 9 回	図書館ガイダンス	O P A C などの利用法と図書館の活用法を学びます。
第 10 回	テキスト第 6 講の講読	「図書館の利用」を読み、ガイダンスの復習を行います。
第 11 回	テキスト第 7 講と第 8 講の講読	「レポート・論文の書き方」を学びます。
第 12 回	秋学期のゼミ論文のテーマ設定	自分でテーマを探して秋学期の準備学習を行います。
第 13 回	ゼミ論文の先行研究の文献調査	図書館などの情報検索システムをとおして先行研究を探します。
第 14 回	春学期のまとめと講評	春学期の学習を振り返るとともに夏休みの過ごし方について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の講読は各自、事前学習しておくこととする。なお、準備学習・復習時間の目安は、各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編著）『大学基礎講座 改増版』北大路書房。

【参考書】

授業の進行にしたがって提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発言、報告の仕方、レジメの書き方、討論の仕方、レポートの提出など平常点を 50%、レポートの内容評価を 50% で、合計点を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業が学生との相互作用の過程であることをいつもながら思い知らされます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the skills of learning in university.

At the end of the course, students are expected to write out a short report in Japanese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution(50%) and report(50%).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

古澤 聡司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、「基礎演習Ⅰ」を学んだ学生を対象とした大学での勉強の仕方や技術を身につけてもらう科目です。一人ひとりがテーマを設定して、必要な文献を探し読み、仲間の意見にも耳を傾け、自分なりの答えを導き出していきます。

【到達目標】

自分で設定したテーマに関する自分なりの考えをゼミ論文としてまとめあげることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「基礎演習Ⅰ」で学んだ演習での報告の仕方、レジュメの書き方、資料収集の方法、討論の仕方を踏まえ、ゼミ論文を演習形式でまとめあげていきます。最終授業で、課題に対する講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業計画。
第2回	ゼミ論文の執筆指導（その1）	先行研究の紹介への個別指導。
第3回	ゼミ論文の執筆指導（その2）	先行研究の紹介への個別指導。
第4回	ゼミ論文の執筆指導（その3）	先行研究の紹介への個別指導。
第5回	ゼミ論文の執筆指導（その4）	先行研究の紹介への個別指導。
第6回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第7回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第8回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第9回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第10回	ゼミ論文の執筆指導（その5）	論文の骨子への個別指導。
第11回	ゼミ論文の執筆指導（その6）	論文の骨子への個別指導。
第12回	ゼミ論文の執筆指導（その7）	論文の骨子への個別指導。
第13回	ゼミ論文の執筆指導（その8）	論文の骨子への個別指導。
第14回	ゼミ論文提出および講評	秋学期の反省会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分で設定したテーマに関する文献の講読は各自、事前学習しておくこととする。レポート役を担当する個人は、事前にレジュメの作成を必須とする。なお、準備学習・復習時間の目安は、各2時間とする。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。

【参考書】
とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発言、報告の仕方、レジュメの書き方、討論の仕方、ゼミ論文の提出など平常点を50%、ゼミ論文の内容評価を50%で、合計点を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業が学生との相互作用の過程であることをいつもながら思い知らされる。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the way of studies in university.

At the end of the course, students are expected to write out an article in Japanese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution(50%) and article(50%).

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶにあたって必要な基礎的な作法を学ぶとともに、問題関心を醸成する

【到達目標】

「読む、聞く、話す、書く」ことに関する様々な個別及びグループ単位の課題に取り組むことを通じて、大学で学ぶうえで必要な作法を習得する。社会的思考の基礎となる複眼的思考の方法を理解し、課題に活かすことを通じて、「考える力」を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読、レジュメの作成、発表、他者との議論や協働、図書館の利用、レポートの作成等の一連の過程を様々な形で経験することを通じて、基礎的な作法や姿勢を体得する。文献講読等を通じて複眼的思考の方法を学び、その後の課題に活かす。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行う。

授業計画は概ね以下を予定しています（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更の可能性あり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	発表する(1)	身近な事柄を題材とした練習
3	発表する(2)	身近な事柄を題材とした練習
4	図書館ガイダンス	図書館の使い方学ぶ
5	ディスカッションする	身近な事柄を題材とした練習
6	輪読課題の説明	輪読課題の説明をする
7	複眼的思考とは(1)	輪読課題 1
8	複眼的思考とは(2)	輪読課題 1
9	本を読み、議論する(1)	輪読課題 2
10	本を読み、議論する(2)	輪読課題 2
11	レポート課題の説明	レポート課題の説明をする
12	レポートを書く(1)	レポート検討会
13	レポートを書く(2)	個別相談を行う
14	総括	レポート（最終稿）の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献講読、レポート作成等、様々な授業外学習が求められます。各々、発表・提出日に間に合うよう、計画的に準備を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・貢献等）50%、課題（報告、レポート等）50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、授業支援システムや Zoom を使用する

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への「参加」が原則です。つまり、授業では毎回、単に出席するだけでなく、質問や意見を求められたときに積極的に発表することや、他の人の意見をしっかりと聴いてリアクションをすることが求められます。詳細は初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is help students acquire the basic skills and knowledge needed to learn in the university. At the end of the course, students are expected to understand and develop essential critical thinking skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class contribution: 50%, Assignments (presentations, reports): 50%.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶにあたって必要な基礎的な作法を学ぶとともに、問題関心を醸成する

【到達目標】

「読む、聞く、話す、書く」ことに関する様々な個別及びグループ単位の課題に取り組むことを通じて、大学で学ぶうえで必要な作法を習得する。春学期に学んだ複眼的思考の方法を課題に活かすことを通じて、「考える力」を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読、レジュメの作成、発表、他者との議論や協働、図書館の利用、レポートの作成等の一連の過程を様々な形で経験することを通じて、基礎的な作法を体得する。春学期に学んだ複眼的思考の方法を、秋学期の課題にも活かすことが期待される。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行う。

授業計画は概ね以下を予定しています（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更の可能性あり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	問いを考える (1)	研究テーマ案の発表と検討
3	問いを考える (2)	研究テーマ案の発表と検討
4	先行研究を調べる	図書館等を利用した情報収集
5	問いを立てる (1)	研究テーマの発表と検討
6	問いを立てる (2)	研究テーマの発表と検討
7	先行研究を読み込む (1)	文献発表
8	先行研究を読み込む (2)	文献発表
9	筋道を立てる (1)	アウトライン発表
10	筋道を立てる (2)	アウトライン発表
11	ディスカッションする	社会的テーマを題材とした練習
12	ゼミ論文を書く (1)	ゼミ論文検討会
13	ゼミ論文を書く (2)	個別相談を行う
14	総括	ゼミ論文（最終稿）の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献講読、レポート作成等、様々な授業外学習が求められます。各々、発表・提出日に間に合うよう、計画的に準備を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・貢献等）50%、課題（報告、レポート等）50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、授業支援システムや Zoom を使用する

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への「参加」が原則です。つまり、授業では毎回、単に出席するだけでなく、質問や意見を求められたときに積極的に発表することや、他の人の意見をしっかり聴いてリアクションをすることが求められます。詳細は初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is help students acquire the basic skills and knowledge needed to learn in the university. At the end of the course, students are expected to understand and develop essential critical thinking skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class contribution: 50%, Assignments (presentations, reports): 50%.

BSP100EA

基礎演習 I

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校から大学へと軟着陸を図るため、「大学での学び方」を学ぶとともに、「話す・聞く・読む・書く」力をつけることによって「考える力」を磨くことを目的とする

【到達目標】

高校までの学習とは異なり、大学では問題関心を研ぎ澄ませながら、自分自身で学んでいくことが必要となる。そのために、必要な情報を集め、検討し、まとめて他の人に向けて発表し、他の人の意見を聞いて考え、それを文章にまとめていくという一連のプロセスを体験し、大学で学ぶ力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読、情報収集、レジユメの書き方、プレゼンの仕方、ディスカッション、レポート執筆など、一連のプロセスをさまざまな形で体験させると同時に、自分なりの問題関心を見つけ出すための学習の機会を用意する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、班分け、ゼミの内容の説明など。
第 2 回	本の紹介①	各自が好きな本を紹介する
第 3 回	グループワークの説明	班分け、進め方の説明
第 4 回	本の紹介②	各自が好きな本を紹介する
第 5 回	ディスカッションの練習①	議論の進め方を実践で学ぶ①
第 6 回	情報収集の仕方	図書館の使い方等のガイダンス
第 7 回	ディスカッションの練習②	議論の進め方を実践で学ぶ②
第 8 回	レジユメ/レポートの書き方	書き方の基本を説明する
第 9 回	テキスト講読①	班ごとのプレゼン①
第 10 回	テキスト講読②	班ごとのプレゼン②
第 11 回	テキスト講読③	班ごとのプレゼン③
第 12 回	テキスト講読④	班ごとのプレゼン④
第 13 回	テキスト講読⑤	班ごとのプレゼン⑤
第 14 回	レポートの確認	形式面等のチェックと内容へのコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告や議論のため事前の勉強やレジユメ準備、ディスカッションの準備やゼミ論文準備など、教室外での個人・チームでの学習が求められる。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する

【参考書】

倉島保美『論理が伝わる世界標準の「書く技術」——「パラグラフ・ライティング」入門』講談社

【成績評価の方法と基準】

①ゼミの準備・発言・議論への参加（60％）、②レジュメや小レポートなど、提出物（40％）、を基本として、総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduce how to learn in universities. At the end of this course, participants are expected all the basic ability of presentation, discussoin, reading, writing, and thinking as a student of a university. Students will be expected to have completed assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶということの意味を理解するとともに、大学で学んでいくための基礎的な態度と作法を身につけ、自分なりの問題関心や大学で学ぶ方向性を見出していくことを目的とする。

【到達目標】

それぞれの問題関心を探ることから始まり、それを学問的な「問い」として立て、その「問い」にアプローチするために必要な「資料収集」を行い、最終的に「論文（ゼミ論）」という形でまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業内では、受講生一人ひとりが自分の問題関心に基づいて、問いを立てて調べ報告し、それを踏まえて全員で議論する。その上で、他の学生のコメントを踏まえて、学期末にゼミ論を執筆する。リアクションペーパーには必要に応じて回答する。ゼミ論については全員にコメントを返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	内容・進め方についての解説
第2回	資料の検索の仕方	雑誌論文等の探し方を学ぶ
第3回	問いの立て方①	自由報告の素案を報告①
第4回	問いの立て方②	問いの立て方②
第5回	自由報告①	各自の問題関心に基づいた報告①
第6回	自由報告②	各自の問題関心に基づいた報告②
第7回	自由報告③	各自の問題関心に基づいた報告③
第8回	レポートの書き方	論文の構成の作り方
第9回	自由報告④	各自の問題関心に基づいた報告④
第10回	自由報告⑤	各自の問題関心に基づいた報告⑤
第11回	自由報告⑥	各自の問題関心に基づいた報告⑥
第12回	自由報告⑦	各自の問題関心に基づいた報告⑦
第13回	総合討論	全体で議論
第14回	レポートの返却	レポートの返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自由報告に向けて自分で資料を調べ、レジュメをまとめ、またゼミ論文を各自が執筆する。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

倉島保美『論理が伝わる世界標準の「書く技術」——「パラグラフ・ライティング」入門』講談社

【成績評価の方法と基準】

授業で提出する課題（20％）、討論への参加（20％）、発表の内容（30％）、学年末レポートの内容（30％）などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduce how to learn in universities. At the end of this course, participants are expected all the basic ability of presentation, discussoin, reading, writing, and thinking as a student of a university. Students will be expected to have completed assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

BSP100EA

基礎演習 I

南 宏幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間、大学生ともなると、先生から教わったことを憶えれば済む、というわけにはいかなくなる。自力で新しい認識を生み出し、その認識を的確に他人に伝えられるようになることが、求められるのである。「人から教わる生徒」であるだけでなく、「新たに知り、それを他人に教えられる探究者」ともなる、という課題である。学問というものは、この探究の一形式であり、大学に行って「学問する」ということは、この探究に主体的に参加する、ということをも意味するのだ。そして「生徒」から「探究者」へのこの大転換を実践するのが、「演習」という大学特有の場である。しかし「教わる生徒」から「教える探究者」への転換は、やはりそれほど簡単ではない。学問には考え方の異なる多様な人間が「認識を共有する」ために、様々な制約・約束事があるが、まずはそれを習得しないと、探究者となる土台もできない。本授業は、学生諸氏が学問の制約を習得し、探究者となる土台を作って、今後の演習で各自の探究を実践できるよう、準備と予行演習をしてもらうために存在する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①学問上の探究を通じて達成できること・できないことを知ること。②学生諸氏が、現実の社会生活の中から、「なぜこういうことが起きているのか」という知的な関心を選び取って、それを一定の仮説（「○○だからではないか」）と結び付けられるようにすること。③自らの仮説を確認・検証するためには、何をどのように調べればいいのか、目星をつけられるようにすること。④演習参加の心構え、「レジュメ」の作成方法、発表の仕方等、演習で必要となる諸作法を経験し、習得すること。以上である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員が、資料を授業内で逐次提示し、それらを元に議論や班別発表をするといった形で授業を進める予定。しかし対面授業の実施が大きく制限される状況等があれば、授業の進め方に変更を強いられる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学教育における「演習」の意義	演習とは何か、その「基礎」とは何か、なぜ特別に重要なのか等の説明。本演習の約束事や、評価方法等も説明する。
2	ゼミ生仲間と顔見知りになる。実験される側として研究の実例に触れる	ゼミ生の自己紹介。メディアリテラシーに関わる簡素な実験の被験者になって、自分たちが示した反応を、自分たちで分析してみる、経験学習の開始。
3	自分たちの反応を研究者視点で考察する	第二回で行った実験で得られたデータを使い、班別に発見・仮説構築をする。
4	自分はなぜそう反応したのか、探究を経験する	仮説と、その検証に必要な調査・追加実験について、班別に発表。
5	学問的探究でできること、できないことの解説。	「価値自由」原則の説明。
6	「事実に基づいた議論」の意義解説。	常識に反する研究を提示し、「事実に基づいた議論」、対話的思考の必要性を考える。同時に「レジュメ」作成のガイダンス。
7	難解な文章を読解してみる。	「難解」な文章を読み解き、レジュメ作成する練習。
8	自分の関心を特定する。	幾つかの問題カテゴリー・ジャンル別に作られた班に分かれ、問題設定・仮説構築・検証方法の検討を行う
9	研究のビジョンを仮説し、発表する。	第八回で設定した班毎に、研究ビジョン発表。
10	各自の関心特定を進める（第1班）	第1班が、各自の関心に従って「謎」を見つけ、「答え」を作り、発表する。発表者以外は「異論・反論」を述べる。
11	各自の関心特定を進める（第2班）	同上。
12	仮説の検証を試みる	各自が立てた仮説を検証できそうな調査・実験を考案し、ゼミレベルで実行する課題設定。
13	検証結果発表	検証結果の発表と、質疑応答。

14 レポート提出と発表 前期暫定レポート提出と発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

逐次指定する以外の事前読書は、特に求めない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「教科書」は用いない（必要資料は教員がプリントないし学習支援システム内にアップロードし、配布する）。

【参考書】

授業内では、数冊の文献を活用するが、部分的な利用であり、共通の参考書指定はしない。

【成績評価の方法と基準】

期末に提出する、「研究構想レポート」（問題設定・仮説暫定レポート）の評価比重 60 %、その他の小レポート等の比重が 20 %、平常点 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

「演習」という授業の「特別さ」「重さ」を解っていない学生が増えた気がする。これをどうやったら伝えられるのか、模索中。

【学生が準備すべき機器他】

大学からのメール連絡や、学習支援システムにアクセスできる機器が必要。状況によっては、オンライン授業を強いられる可能性もあり、その場合には、Zoom ミーティングに参加できるように、ウェブカメラ・マイクを有する端末（スマホ、できれば PC）が、学生側にも必要となる。

【その他の重要事項】

「言われた事をやる」だけで満足せず、「自分のために自分で動く」態度を身につける場として、大学と基礎演習を役立ててほしい。春・秋学期合わせての履修推奨。

【Outline (in English)】

As university students, it is not enough to be submissive learners. You will be required to create new recognition by yourself and to be able to accurately convey it to others. It is the task of "becoming intellectual explorers who can understand what was not understood". Academic research is a form of this exploration. However, switching from 'taught pupils' to 'teaching explorers' is not so easy. In order to "share recognition", Academic research has various restrictions / promises. This basic exercise class exists to help you learn those restrictions / promises of academic disciplines, get foundations to be intellectual and autonomous explorers, and have preparations and pre-exercises so that you can practice your own in future exercises.

On the whole, students will be expected to find and shape their own research subjects and programmes. Specific tasks required to attain these objects will be instructed in the course of the class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report about research concept : 60%, Short reports : 20%, in class contribution: 20%

BSP100EA

基礎演習 II

南 宏幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の概要に記載したように、大学では「教えられる生徒」であるだけでなく、「他人にも教えられる探検者」であることが求められる。比喩的に言えば、「従順な子羊」であるだけでは足りず、「食欲で自立した開拓者」ともなる必要がある、ということだ。基本的に演習は、学生各自が自らの関心に従って新たな知見を生み出す「開拓」を実行していく場であり、その準備と予行演習に当たるのが基礎演習である。

【到達目標】

学生各自が、問題設定・仮説構築・検証・発表という一連のプロセスを経験し、進級後も各演習で自らの探究を継続していきける土台を築くのが、この授業の到達目標である。この経験から、自分がどういった事象に知的な興味を抱くか、どういった問題設定をすれば自らの知的好奇心を学問的研究に活かせるか、問題に対するどのような答えが、意義深い認識を生み出す、検証可能な仮説になるか、何をどう調べたら、その仮説を検証できるのか、実際調べたら、どういう結果が出るか、その結果から、どのような知見を導き出せるのか、この一連の研究成果を、どのようにして他人に説得力ある形で伝えられるのか・・・これらの目星をつけ、自らの糧としてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春期基礎演習での学習を元に、より本格的な研究構想を組み、発表し、改良し、研究論文という形で最終成果をまとめるのが、本授業である。時間の多くは、学生各自の研究構想発表に使われ、発表者以外の学生は、発表に対するコメントをその都度求められる。期末近くには論文執筆の具体的な注意事項が述べられ、期末に論文提出となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	論文構想発表に関する事前指導	論文構想発表のやり方を指導。相談受付。
2	第1班論文構想発表	第1班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
3	第2班論文構想発表	第2班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
4	第3班論文構想発表	第3班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
5	第4班論文構想発表	第4班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
6	第5班論文構想発表	第5班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
7	第6班論文構想発表	第6班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
8	第7班論文構想発表	第7班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
9	第8班論文構想発表	第8班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
10	第9班論文構想発表	第9班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
11	第10班論文構想発表	第10班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
12	「敗者復活戦」	研究構想を大幅に変えた者・再挑戦を望む者などのための、再発表枠。
13	論文執筆に際しての注意事項&期末大相談会	原稿用紙の使い方、表紙の様式、引用の仕方、参考文献一覧の様式等の指導。
14	論文提出。クラスメートへの概要報告	研究論文を提出し、他のゼミ生に研究成果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

構想発表という機会を活かせるよう、発表者は事前に、必要な予備知識を得て、可能な限り練り込まれた研究構想を組み立てておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

ゼミ生共通の参考文献指定はない。

【成績評価の方法と基準】

期末に提出する、最終成果である研究論文に対する評価が 60 %。構想発表の充実度評価が 30 %、発表に対するコメント等、平常点が 10 %。

【学生の意見等からの気づき】

他の授業と並べて、「ちょっとめんどくさい授業」「コスバが悪い授業」などと認識している学生が増えた気がする。「自分の考えを事実に基づいて組み立て、自分とは価値観も道徳観も異なる『他人』にも納得してもらおう」という実践を通じて、演習の特別さと存在意義を体得してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

大学からのメール連絡や、学習支援システムにアクセスできる機器が必要。状況によっては、オンライン授業を強えられる可能性もあり、その場合には、Zoom ミーティングに参加できるように、ウェブカメラ・マイクを有する端末（スマホ、できれば PC）が、学生側にも必要となる。

【その他の重要事項】

春・秋学期合わせての履修推奨。

【Outline (in English)】

As described in the summary of the spring season, university students are required not only to be 'taught pupils' but also to be 'teaching explorers'. In other words, it means that it is not enough just to be a 'compliant lamb', and it also needs to be 'greedy and self-sustaining pioneer'. Basically, the exercise is a place where each student carries out his own "pioneering = academic research". Through this "basic class", I hope you will prepare for your own pioneering in future exercises. Concretely speaking, students will be required to do the presentation of their own research theses one by one. And by the end of the course, students are expected to accomplish their research treatises. Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end research treatise : 60%, treatise proposal presentation : 30%, in class contribution: 10%

BSP100EA

基礎演習 I

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における「学び」のための基本的なルールや方法などを、基礎演習という集団の中で身につけることを目的としています。また、基礎演習での共同作業を通じて、自分の価値観を相対化し、視野を広げ、新しい友人を作っていくってほしいと思います。

【到達目標】

- ①文献を読み、レジメを作る。
- ②どのような資料をどのような方法で集めるのか、資料収集の方法の基礎を身につけられる。
- ③根拠に基づいて、論理的に議論できる。
- ④レジメを使ってプレゼンテーションが行える
- ⑤自ら課題を設定して、レポートを書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面とオンラインの併用でやります。奇数回がオンライン、偶数回が対面を予定しますが、変更になるかもしれません。日程は不確定ですが、図書館ガイダンスを受講します。シラバスでは、第7回にしましたが、日程はまだ未定です。グループワークを重視して、グループでのディベートを行います。また、いいお天気の際は屋外で授業を行いたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明 対面とオンラインの併用等 自己紹介①
2	自己紹介とプレゼンテーション	自己紹介② 各自が用意したトピックに基づいてやります。
3	キーワードを使った要約①	キーワードの大切さ、専門用語の大切さを学ぶ。
4	キーワードを使った要約②	キーワードの大切さ、専門用語の大切さを学ぶ。
5	レジメを書く①	レジメの書き方を学ぶ
6	レジメを書く②	レジメの書き方を学ぶ
7	図書館の活用	本学の図書館ガイダンスを受ける
8	ディベート①	班ごとに分かれて、ディベートを行う
9	ディベート②	班ごとに分かれて、ディベートを行う
10	ディベート③	班ごとに分かれて、ディベートを行う
11	ディベート④	班ごとに分かれて、ディベートを行う
12	ディベート⑤	ディベートについてのまとめ
13	レジメを書く③	レジメを作ったうえで、ていねいに文献を読む。
14	前期のまとめ	レジメの書き方を中心にして、前期のまとめを行う。 夏休みの課題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。自己紹介、キーワードを使った要約等、各回のそれぞれについて、参加者全員に発表してもらいます。そのため、授業時間外には発表のための準備が必要となります。また授業後には、課題等も出ますので、しっかりとした復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示します。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次のとおり。

- ①提出された課題（40 %）
- ②図書館ガイダンスへの参加（10 %）
- ③平常点（出席状況、演習内での発言など）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

春学期のうちに、クラス全員がお互いをよく知れるように、ディベートを前期に行うようにした。

【学生が準備すべき機器他】

携行する必要はありませんが、可能なら自分用のノートパソコンを準備することが望ましいです。

【その他の重要事項】

基礎演習Ⅰ、Ⅱはセットで受講してください。
出席を重視するので、休まずに出席してください。
(欠席が多いと単位はとれません。また、遅刻は2回で、欠席1回分になります。)
基礎演習は少人数で学べるいい機会です。コロナの中で、対面授業が少なかりがちですが、新しい友人を作り、充実した大学生活を送れるように頑張っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

The purpose of this basic seminar I is to learn basic rules, and techniques for further activities in the university.

Participants will learn the basic competences required in study and research (using the library, collecting and using data, making presentations).

Also, through cooperation with others, I want participants to broaden your view of the world and make new friends.

In the spring semester, homework will be given every week. Please submit it at the next week's seminar. It will take at least 1 hour for preparation and 2 hours for review.

Grades will be evaluated comprehensively based on the frequency and content of presentations, participation in seminar discussions, and submissions.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における「学び」のための基本的なルールや方法などを、基礎演習という集団の中で身につけることを目的としています。また、基礎演習での共同作業を通じて、自分の価値観を相対化し、視野を広げ、新しい友人を作っていくってほしいと思います。

【到達目標】

- ①文献を読み、レジメを作る。
- ②根拠に基づいて、論理的に話すことができる。
- ③ディベートができる。
- ④自ら課題を設定して、小論文を書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は春学期と同様に隔週で対面、オンラインを併用します。
秋学期は各自が行う学びとともに、グループに分かれて勉強するという形もとりまします。

テキストの輪読では、まず、グループ内で発表し、その討論内容をまとめて全体で発表し、質疑応答をするという形で行います。
また、いいお天気時には屋外で授業を行いたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス レポートの提出	秋学期の進め方のガイダンス グループ分け
2	レポートの発表1	レジメを作成したうえで、各自のレポートの内容を発表する
3	レポートの発表2	レジメを作成したうえで、各自のレポートの内容を発表する
4	テキストの輪読	テキストの輪読とグループでの討論
5	テキストの輪読	テキストの輪読とグループでの討論
6	テキストの輪読	テキストの輪読とグループでの討論
7	テキストの輪読	テキストの輪読とグループでの討論
8	小論文の執筆の準備	小論文のテーマ設定 文献リストの作成、提出
9	テキストの輪読	テキストの輪読とグループでの討論
10	テキストの輪読	テキストの輪読とグループでの討論
11	テキストの輪読	テキストの輪読とグループでの討論
12	小論文の内容報告	小論文の内容の報告
13	小論文の内容報告	小論文の内容の報告 小論文の下書きの提出
14	まとめ 小論文の提出	まとめ 小論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。自己紹介、キーワードを使った要約等、各回のそれぞれについて、参加者全員に発表してもらいます。そのため、授業時間外には発表のための準備が必要となります。また授業後には、課題等も出ますので、しっかりとした復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

明日香壽川『グリーン・ニューディール: 世界を動かすガバナリング・アジェンダ』岩波書店、2021 年。
その他は、授業中に適宜指示します。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次のとおり。

- ①提出されたレポートと発表 (40 %)
- ②平常点 (10 %)
- ③小論文 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを春学期に行い、秋学期にはテキストを使った輪読を多く行うようにした。

【学生が準備すべき機器他】

携帯する必要はありませんが、可能なら自分用のノートパソコンを準備することが望ましいです。

【その他の重要事項】

基礎演習Ⅰ、Ⅱはセットで受講してください。
出席を重視するので、休まずに出席してください。
基礎演習は少人数で学べるいい機会です。コロナの中で、対面授業が少なくありませんが、新しい友人を作り、充実した大学生活を送れるように頑張っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

The purpose of this basic seminar I is to learn basic rules, and techniques for further activities in the university. Participants will learn the basic competences required in study and research (using the library, collecting and using data, making presentations). Also, through cooperation with others, I want participants to broaden your view of the world and make new friends. In the spring semester, homework will be given every week. Please submit it at the next week's seminar. It will take at least 1 hour for preparation and 2 hours for review. Grades will be evaluated comprehensively based on the frequency and content of presentations, participation in seminar discussions, and submissions.

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における学問の仕方、ゼミにおける基本的態度について学ぶ。

【到達目標】

基礎的素養を習得し海外の社会学学生とも討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テキストを輪読し、レジュメを順番に発表する。夏合宿の企画を立て、フィールド調査も行う。(状況によっては Zoom を使用する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、チームビルディング
2	「私」とは何か	『旧約聖書を知っていますか』 3 話
3	「私」とは何か	『旧約聖書を知っていますか』 8 話
4	「私」とは何か	『THE LAST GIRL』 ナディア・ムト
5	「私」とは何か	『人は愛するに足り…』 中村哲
6	フェミニズム	『境界線を破る!』 5 章
7	フェミニズム	『境界線を破る!』 6 章
8	フェミニズム	『境界線を破る!』 7 章
9	フェミニズム	『境界線を破る!』 8 章
10	環境破壊	『NHK 名著 資本論』 前半
11	環境破壊	『NHK 名著 資本論』 後半
12	社会的格差	『NHK 名著 デイスタンクシオン』 前半
13	社会的格差	『NHK 名著 デイスタンクシオン』 後半
14	フィールドワーク準備	夏合宿の企画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業までに中東情勢の新聞記事を読んでおくこと。準備・復習時間は毎回 4 時間とする。

【テキスト（教科書）】

『THE LAST GIRL』2018, ナディア・ムト, 東洋館出版社
『カール・マルクス『資本論』2020,(NHK100 分 de 名著)
『ブルデュー『デイスタンクシオン』2020,(NHK100 分 de 名著)
※以下のテキストは授業内で配布します。(購入不要)
『旧約聖書を知っていますか』阿刀田高,1991,新潮社
『境界線を破る!: エコ・フェミ社会主義に向かって』1993, 新評論
『人は愛するに足り, 真心は信ずるに足る-アガンとの約束』2010, 岩波

【参考書】

初回授業内で説明する。

【成績評価の方法と基準】

以下①②の平常点から評価する。①毎回のレジュメ発表における読解力と口頭説明能力を評価 (60%)。②参加度や学習状況から評価 (40%)。

【学生の意見等からの気づき】

重要なことを何度も繰り返して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ付き PC ないしスマホ、wifi 環境

【その他の重要事項】

初回授業内で説明する。

【Outline (in English)】

It's learned about the manner of the learning and the attitude in the university (in particular, the social science).The goals is to have knowledge how to learn in the university. Students will be expected to read the Text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

島田 昭仁

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学の学び方、論文の書き方について基本的な能力をつけることを目標とします。

【到達目標】

社会科学系の論文構想ができる。質的社会調査及び量的社会調査が企画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は質的調査・量的調査のちがひ、理論研究・実践研究・創造研究のちがひ、帰納法・演繹法のちがひ、後半は社会学的構想力について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	フィールドワーク発表	夏合宿のふりかえり
2	論文の書き方	『住民主権の都市計画』第1章
3	論文の書き方	『住民主権の都市計画』第2章
4	論文の書き方	『住民主権の都市計画』第3章
5	論文の書き方	『住民主権の都市計画』第4章
6	研究方法	『会話顕微鏡』1章
7	研究方法	『会話顕微鏡』2章
8	研究方法	オープンスペーステクノロジー（グループ分け）
9	社会学的構想力	『ハーバート・スペンサー』前
10	社会学的構想力	『ハーバート・スペンサー』中
11	社会学的構想力	『ハーバート・スペンサー』後
12	社会学的構想力	映画『シェーン』を題材に
13	社会学的構想力	映画『アラビアのロレンス』を題材に
14	プレゼン方法	各班発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『住民主権の都市計画』, 岩見ほか, 自治体研究社,2019

『会話顕微鏡』 島田, コミュニティ科学出版,2020

『ハーバート・スペンサー コレクション』（ちくま学芸文庫）,2017

【参考書】

参考書は授業内で配布します。

【成績評価の方法と基準】

以下、平常点によって評価する。レジュメ発表における要約能力(50%)、プレゼン能力(50%)を評価。

【学生の意見等からの気づき】

重要なことは繰り返して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom に対応した環境

【その他の重要事項】

授業内で説明する。

【Outline (in English)】

It's learned about the manner of the learning and the attitude in the university (in particular, the social science system).The goals is to have abilities to learn about the sociology and to write an academic paper. Students will be expected to read the Text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

BSP100EA

基礎演習 I

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習は、「演習（ゼミナール）とは何か」を体験し、学ぶことが課題です。演習での報告・議論・司会の仕方、レジュメの書き方、ゼミ論文の準備と執筆、ディバートの仕方などをきちんと学ぶことを課題とします。

【到達目標】

演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディバートの仕方などを学び、また、演習での報告や議論を進めていく中で、自分自身の研究テーマを考えていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基礎演習は、1年生が演習を体験し、2年以降の専門演習の準備をする場です。また同時に、大学に入って「自分の居場所」、「仲間との出会い」を実感できる場でもあります。基礎演習では、演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディバートの仕方などを学びます。とにかく「出席」すること—そして何かしゃべってみましょう。「出席」と「参加」が演習（ゼミ）の基本です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミのテーマと目的、内容の説明。班分け、自己紹介など
第2回	時事問題プレゼンテーション	各自、新聞記事を選び、プレゼンテーションを行う
第3回	図書館を使おう	図書館の本を借りて、プレゼンテーションを行う
第4回	レジュメの書き方 (1)	レジュメの書き方と報告の説明
第5回	レジュメの書き方 (2)	全員がレジュメを準備し、班ごとに模擬報告と議論
第6回	テキスト報告 (1)	1班の報告と議論①
第7回	テキスト報告 (2)	2班の報告と議論①
第8回	テキスト報告 (3)	3班の報告と議論①
第9回	テキスト報告 (4)	4班の報告と議論①
第10回	テキスト報告 (5)	1班の報告と議論②
第11回	テキスト報告 (6)	2班の報告と議論②
第12回	ゼミ論文の準備 (1)	ゼミ論文のテーマ検討と参考文献リストの作成
第13回	ゼミ論文の準備 (2)	テーマ報告と参考文献リストの提出
第14回	まとめと秋学期に向け	春学期の振り返りと秋学期の課題で

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告や議論のため事前の勉強やレジュメ準備、ディバートの準備やゼミ論文準備など、教室外での個人・チームでの学習が求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期テキストは、ゼミの初回に紹介します。

【参考書】

参考書などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①ゼミの準備・発言・議論への参加（60％）、②レジュメや小レポートなど、提出物（40％）、を基本として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の積極的な議論がさらに進展するのと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

今年度は、対面授業とオンライン（Zoom）授業を隔週で実施します。Zoom授業のために、PCおよびWiFiなどの対応ができるように、準備をお願いいたします。また授業の連絡や課題提出などには大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a tutorial seminar in a small class for the first-year students. This course is to study and to analyze social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit short reports.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to proceed their own research and discussion on social sciences issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for presentations and discussion each week as well as the short reports. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to in-class contribution/participation (presentations, discussion, etc.) (70%) and the short reports (30%).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

吉村 真子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習は、「演習（ゼミナール）とは何か」を体験し、学ぶことが課題です。演習での報告・議論・司会の仕方、レジュメの書き方、ゼミ論文の準備と執筆、ディバートの仕方などをきちんと学ぶことを課題とします。

【到達目標】

演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディバートの仕方などを学び、また、演習での報告や議論を進めていく中で、自分自身の研究テーマを考えていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基礎演習は、1年生が演習を体験し、2年以降の専門演習の準備をする場です。また同時に、大学に入って「自分の居場所」「仲間との出会い」の場でもあります。基礎演習では、演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディバートの仕方などを学びます。とにかく「出席」すること—そして何かしゃべってみましょう。「出席」と「参加」が演習/ゼミの基本です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の打ち合わせ	秋学期のゼミの日程と課題、ディベートについて打ち合わせ
第2回	テキストの報告と議論(1)	3班の報告と議論②
第3回	テキストの報告と議論(2)	4班の報告と議論②
第4回	テキスト全体のまとめと議論	テキスト全体の論点とコメントの提出と議論
第5回	ディバートの準備	ディバートの準備と実施について
第6回	ディベート(1)	ディバートの実施(2つの班で対抗)、残りのゼミ生は審査
第7回	ディベート(2)	ディバートの実施(2つの班で対抗)、残りのゼミ生は審査。
第8回	ゼミ論文のレジュメと章構成	ゼミ論文のテーマと章構成、レジュメの書き方
第9回	ゼミ論文の報告(1)	ゼミ論文のレジュメ報告と議論①
第10回	ゼミ論文の報告(2)	ゼミ論文の報告と議論②
第11回	ゼミ論文の報告(3)	ゼミ論文の報告と議論③
第12回	ゼミ論文の報告(4)	ゼミ論文の報告と議論④
第13回	ゼミ論文の提出と専門ゼミ・ガイダンス	ゼミ論文の提出、専門演習の説明と議論
第14回	ゼミ論文の講評と専門演習について考える	ゼミ論文の講評、専門演習について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告や議論のため事前の勉強やレジュメ準備、ディバートの準備やゼミ論文準備など、教室外での個人・チームでの学習が求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、ゼミの初回に紹介します。

【参考書】

参考書などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①ゼミの準備・発言・議論への参加（60%）、②レジュメや小レポート、ゼミ論文など提出物（40%）、を基本として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の積極的な議論がさらに進展するのと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

今年度は、対面授業とオンライン（Zoom）授業を隔週で実施します。Zoom 授業のために、PCおよびWiFiなどの対応ができるように、準備をしておいてください。また授業の連絡や課題提出などには大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a tutorial seminar in a small class for the first-year students. This course is to study and to analyze social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the term-end paper.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to proceed their own research and discussion on social sciences issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for presentations and discussion each week as well as the final term-paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to in-class contribution/participation (presentations, discussion, etc.) (70%) and the term-end paper (30%).

BSP100EA

基礎演習 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習 I では学部での学び方、研究の進め方、自律的に学ぶことについて学習する。また高校で論文執筆を経験した者もいると思われるが、＜大学＞の＜社会学＞の論文に取り組むために必要なことを学ぶ。

【到達目標】

「話す・聞く・読む・書く」力の向上を通して「考える力」を磨き、高校とは異なる「大学での学び」を経験する。文献・資料を批判的に読める／グループで課題解決のために協働できる／レジュメ・スライドを作成し発表できる／忌憚なく意見交換できる／図書館利用・情報検索できる／著作権・剽窃・盗用を理解し適切に資料を利用できる／研究テーマを設定できる／アカデミック・ライティングの基礎を学びレポート・論文を適切に書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループ活動による共同発表と討論を通じて問題意識を深め、各自の研究テーマを見つけていく。各回のゼミ活動や発表・討論の内容のフィードバックはチャトル・カード等で対話的に講評や意見交換を行なう。なお授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎演習 I ガイダンス	本演習の進め方、すべきことについて。
第 2 回	問題発見と資料の探索	興味関心を探り資料・文献を見つける。
第 3 回	文書資料を読みとる	文書資料の検討と討論。
第 4 回	映像資料を読みとる	映像資料の検討と討論。
第 5 回	問題意識の探索	問題意識の共有と協働の足掛りを得る。
第 6 回	グループ課題の設定	課題設定と協働の仕方について。
第 7 回	何に、どう取り組むか	主題設定と方略について。
第 8 回	図書館ガイダンス	情報検索と資料の適切な利用について。
第 9 回	資料の活用と研究倫理	引用、文献挙示の作法と剽窃・コピーについて。
第 10 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 11 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 12 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 13 回	グループ活動の報告	発表と討論
第 14 回	振り返りと秋学期の準備	反省と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの設定には、さまざまなフィールドの探索が必要だが、ネットで情報を入力するだけにとどまらず、活字を読み考えることで世界が広がることを自学して欲しい。また、その都度、指示した内容について予習、復習、課題を行なうこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定はないが、各自テーマを掘り起こすための文献を選び読む必要がある。

【参考書】

特定の参考書は指定しない。各自のテーマに応じて個別にアドバイスしたい。

【成績評価の方法と基準】

評価のウェイト：平常点（参加度、メンバーシップ）20%、発表・討論 40%、書いて提出されたもの 40%、評価基準：協働活動、発言の充実度、発表などは資料の利用・挙示、主題に応じた議論の適切さなど。

【学生の意見等からの気づき】

距離を取る必要もあり、なかなか打ち解けにくいと思うが、協働活動が円滑にできるよう、ゼミ生同士が早く馴染めるよう配慮を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムなどインターネットの利用が不可欠です。必要な機器、環境を準備してください。

【その他の重要事項】

仲間同士刺激しあうところにゼミの醍醐味がある。積極的な参加を期待している。また、質問・相談はゼミの後やチャトル・カード、メールで対応します。なお、基礎演習 I での学びの成果は、基礎演習 II に引き継がれることを想定している。本科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and self-regulated learning needed to achieve a better performance in their university studies.

[Learning Objectives]

At the end of this course, students are expected to acquire the fundamentals of academic learning skill: discussion, group work, research, oral presentation, writing and citation style of The Japan Sociological Society.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the assignments of the course or self-teaching.

[Grading Criteria]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution 20%, presentation/discussion 40%, reports 40%.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅰは大学に慣れることが優先される助走期間であるが、基礎演習Ⅱでは、春学期に得たアイデアを具体化する難しさを経験し、他者の知見や考察に驚きや興味をもって耳を傾け意見を交わし合うことが期待される。

【到達目標】

春学期の学習を足がかりに、問題関心を醸成し、2 年次からの専門演習に橋渡しすることが目標である。具体的には研究テーマを設定できる（自分の興味関心に「問い」の形を与える）／図書館やインターネットが活用できる（調べながら考える）／研究成果や考察をプレゼンテーションできる（スライドを作りながら考える）／論文スタイルで書くことができる（書くことを通じて自分の問いに答える）／研究倫理の理解などが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期は準備期間を経て中間プレゼン、論文執筆と進む。プレゼンの聴き手は受け身になりがちだが討論や批評カードで全員が対話的に学ぶ過程にした。またチャトルカードで各回のゼミ活動についてフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	進め方とすべきことについて。
第 2 回	ゲストによる特別講義	卒業生が語る 試行する人生。
第 3 回	論文執筆とプレゼン	論文書式とスライド制作のポイント。
第 4 回	論文テーマと文献リスト	資料蒐集と文献リスト作成の手はどき。
第 5 回	ゼミ論文の設計図を作成	論文構想、章立てを練る。
第 6 回	序文らしきものを書く	論文執筆の足掛かりとなる短文を書く。
第 7 回	分析・考察を書いてみる	分析、結果、考察はどのようなものか
第 8 回	プレゼンの構成を考える	スライドの構成をスケッチし相互批評。
第 9 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 10 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 11 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 12 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 13 回	プレゼンテーション	発表と討論
第 14 回	ゼミ論文提出	今年度のゼミ活動を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期の中間プレゼンとゼミ論文執筆は、何よりも本人が努力し時間を割かねばならない。作りながら考え、考えながら作り、書きながら考え、考えながら書く必要がある。発表の準備、スライド作成、論文執筆など授業の準備と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しないが、各自の関心に沿ってテーマの核心となる文献を選び読む必要がある。

【参考書】

特定の参考書は指定しないが、各自のテーマに応じて個別にアドバイスしたい。

【成績評価の方法と基準】

評価のウェイト：平常点（参加度、メンバーシップ）30%、プレゼン 40%、論文 30% 評価基準：各課題、討論への取り組み、プレゼン・論文は、資料の使い方、書き方の適切さ、文章推敲、主題に応じた議論の適切な展開など。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期は、発表者と教員のやり取りに時間を割かれがちだが、ゼミ生同士の討論にも十分な時間が確保できるように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムなどインターネットの利用、プレゼン作成、ゼミ論文の執筆に PC が不可欠です。必要な機器、環境を準備してください。

【その他の重要事項】

仲間同士刺激しあうところにゼミの醍醐味がある。積極的な参加を期待している。また、質問・相談はゼミの後やチャトル・カード、メールで応じます。なお基礎演習Ⅱは、基礎演習Ⅰでの学びの成果を前提としており、春・秋を通じて履修することが望ましい。なお授業計画は展開をみて変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The goal of this course is to enhance the development of students' skill in making oral presentation, discussion, and academic writing.
 [Learning Objectives]
 At the end of the course, students are to expect to make oral presentation, ask and answer questions, write a paper with feedback.
 [Learning activities outside of classroom]
 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read reference books, prepare and make presentation slides, write a paper.
 [Grading Criteria]
 Your overall grade in the class will be decided based on the following: in class contribution: 20%, presentation 40%, paper 40%.

BSP100EA

基礎演習 I

高橋 賢次

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で学ぶこと」の意味を理解し、そのために必要な基礎的な知識やスキル、作法を身につけること。

【到達目標】

大学における「学び」の目的は、既存の知識の上に「問い」を立ち上げ、新たなオリジナルな「答え」を産出することにあります。本演習では文献講読を通じて、①文献の内容を精確に把握し、批判的に検討する力、②自分の考えを他者に理解可能な形で表現し、お互いを尊重しながら議論する力、③文献・資料の探し方やレジュメの作り方などの基礎的なスキルの習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・春学期の授業は対面とオンラインで交互に実施する予定です。4/12（火）の初回までに「学習支援システム」上で詳細なアナウンスを行いますので、受講生はそれまでに必ず「仮登録」を行い、お知らせを確認してください。
- ・春学期の授業では、教材を用いたグループワークや文献講読にもとづくディスカッションを行います。
- ・オフィスアワーを設定し、受講生に対するフィードバックを行います。
- ・授業の展開によって、授業計画に若干の変更があり得ます。また、この科目は春学期・秋学期と継続的に履修することが望まれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の概要説明
2	個人発表	自己紹介プレゼン
3	ディスカッション	討論の体験的学習
4	文献・資料の探し方	図書館ガイダンス
5	文献講読に向けて（1）	文献講読の進め方にかんする説明
6	文献講読に向けて（2）	レジュメの作り方の説明
7	文献講読（1）	レジュメ報告とディスカッション
8	文献講読（2）	レジュメ報告とディスカッション
9	文献講読（3）	レジュメ報告とディスカッション
10	「読書ノート」に向けて	期末課題の説明
11	文献講読（4）	レジュメ報告とディスカッション
12	文献講読（5）	レジュメ報告とディスカッション
13	文献講読（6）	レジュメ報告とディスカッション
14	まとめ	演習 I のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文献を事前に読み、疑問点やコメントをまとめる」「レジュメを作成する」といった文献講読の事前準備や、期末課題となる「読書ノート」の執筆を中心として、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講生の希望にあわせて、適宜指定します。

【参考書】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。
 上野ゼミ卒業生チーム、2021、『情報生産者になってみた』筑摩書房。
 荻谷剛彦、2002、『知的複眼思考法』講談社。

【成績評価の方法と基準】

・授業での報告や発言、授業で出されるミニ課題などを含む演習への参加（60%）
 ・期末課題：読書ノート（40%）
 ※授業での報告と期末課題の提出を単位修得の必須条件とし、いずれか一方でも欠けた場合は落第とします。また、忌引などのやむをえない場合を除き、無断欠席や正当な理由のない欠席については累計 3 回、病欠も併せて累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

演習中の積極的な発言を促し、受講生が関心と意欲をもって取り組めるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の受講や課題の執筆・提出に、PC 等の情報機器を使用します。

【その他の重要事項】

やむをえない理由で授業に遅刻・欠席する場合は、かならず理由を添えて事前に担当教員に連絡してください。

【Outline (in English)】

This course introduces basic knowledge, skills and manners necessary for academic research to student taking this course. At the end of the course, students are expected to acquire basic skills for academic research and to learning critical reading, thinking and writing. Before/after each class meeting, students will be expected to prepare and review course content. In addition to this, each student needs self-study for term-end report. In total, your study time is at least two hour for each class meetings. Grading will be decided based on term-end report(40%) and in-class contribution(60%).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

高橋 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で学ぶこと」の意味を理解し、そのために必要な基礎的な知識やスキル、作法を身につけること。

【到達目標】

大学における「学び」の目的は、既存の知識の上に「問い」を立ち上げ、新たな/オリジナルな「答え」を産出することにあります。本演習ではグループワークと個人研究を通じて、①各自の関心から「学問的な問い」を立てる力、②先行研究を整理・検討する力、③必要なデータを集めて分析する力、以上の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・秋学期の授業は、①グループワークと②個人研究を軸に進めます。①では、グループごとに「研究」のプロセスを実践し、②では、各自が設定したテーマにもとづいて、期末課題となる「研究ノート」を執筆します。
・オフィスアワーを設定し、受講生に対するフィードバックを行います。
・授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。また、秋学期授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の概要説明
2	グループワークの準備	グループ分けとテーマ設定
3	グループワークの準備	学問的な研究プロセスの説明
4	グループワーク（1）	「問い」を立てる
5	グループワーク（2）	先行研究の整理と検討
6	グループワーク（3）	分析対象と分析方法の設定
7	グループワーク（4）	データの収集と分析
8	中間報告（1）	グループワークの進捗状況の報告
9	中間報告（2）	グループワークの進捗状況の報告
10	グループワーク（5）	最終報告に向けた準備
11	「研究ノート」に向けて	期末課題の説明
12	最終報告（1）	グループワークの研究成果の発表
13	最終報告（2）	グループワークの研究成果の発表
14	まとめ	演習Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとの話し合いや発表に向けた事前準備、また、「研究ノート」の執筆に向けた、先行研究の整理や検討、資料の収集と分析を中心として、本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講生の希望に合わせて、適宜指定します。

【参考書】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。
上野ゼミ卒業生チーム、2021、『情報生産者になってみた』筑摩書房。
荻谷剛彦、2002、『知的複眼思考法』講談社。

【成績評価の方法と基準】

・授業での報告や発言、授業で出されるミニ課題などを含む演習への参加（60%）
・期末課題：研究ノート（40%）

※授業での報告と期末課題の提出を単位修得の必須条件とし、いずれか一方でも欠けた場合は落第とします。また、忌引などのやむをえない場合を除き、無断欠席や正当な理由のない欠席については累計 3 回、病欠も併せて累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に合わせて課題や目標を設定するなど、受講生が研究のプロセスをよりよく理解できるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

グループ発表の準備や課題の執筆・提出に、PC 等の情報機器を使用します。

【その他の重要事項】

やむをえない理由で授業に遅刻・欠席する場合は、必ず理由を添えて事前に担当教員まで連絡してください。

【Outline (in English)】

This course introduces basic knowledge, skills and manners necessary for academic research to student taking this course. At the end of the course, students are expected to acquire basic skills for academic research and to learning critical reading, thinking and writing. Before/after each class meeting, students will be expected to prepare and review course content. In addition to this, each student needs self-study for term-end report. In total, your study time is at least three hour for each class meetings. Grading will be decided based on term-end report(40%) and in-class contribution(60%).

PSY100EA

心理学 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の扱う領域は広く専門ごとに印象も大きく異なり全体像の把握には到底及ぶべくもないが、本講義では心理学のいくつかの領域を概観し、基本的な問題設定、概念、理論について学ぶとともに、その歴史的・社会的背景を含めた心理学史的な観点からも学習する。

【到達目標】

心理学の基本的な概念や考え方について簡略に説明できる。心理学の発展とその社会的広がりについて時代背景と関連付けて科学的な捉え方ができる。心理学の理論や知見を、実際の事象にあてはめてみる事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の展開予定と受講上の留意事項
第 2 回	学術心理学の諸領域	代表的な対象領域と諸学派について
第 3 回	知覚の心理学	心の機能としての知覚/錯覚
第 4 回	記憶の心理学	記憶の研究史/記憶論争とその背景
第 5 回	学習の心理学	条件付け、強化の行動主義/学習理論
第 6 回	認知・思考の心理学	「認知」とは何か、「思考」とは何か
第 7 回	知能の心理学	知能検査/知能神話の誕生
第 8 回	個人差の心理学	平均からのズレとしての個人差
第 9 回	パーソナリティの心理学	「人格」はどう分析されてきたか
第 10 回	発達心理学	発達の発見/問題としての発達
第 11 回	エソロジーと進化心理学	動物の心と心の「進化」
第 12 回	同調/服従の心理学	凡庸な悪/代理人状態/帰属の誤り
第 13 回	感情・意識の心理学	「感情」と「意識」の研究の系譜
第 14 回	脳神経科学と心理学	脳と心の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は基礎心理学の概論をベースに、なるべく難解にならないように進めるが、漫然と受け身で聞いて理解できる内容ばかりではない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。配布資料、講義の録画、参考文献を活用した復習により理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

指定はないが、数ある心理学概論書から何か 1 冊手に取って見てはどうか、

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート (50%) と期末テスト (50%)、および授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートについては、出題されたテーマを適切に理解し、自らの疑問、見解が述べられているか評価し、期末テストは、学習内容の理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドに対応したが、録画を見た人はほとんどいなかった。講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、リアルタイムで多くの方が参加することを期待する。こちらもオンラインでの授業の改善に努めるが、オンデマンド受講の方は、早送りでもいいため録画を見るように努力すべきだし、自らの学ぶ姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

この科目は心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。質問などはメールや学習支援システムの掲示板で受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course deals with the basic problem settings, concepts, and theories of psychology to students taking this course.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Understand and explain major terms and concepts in psychology,
- Outline the development of psychology from the viewpoint of historical and social contexts,
- Apply theories or findings of psychology to the phenomenon of real world.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, recorded lectures, and reference books.

[Grading Criteria]

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

PSY200EA

心理学Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心や精神の問題は、個人の失調や病理とみなされがちだが、社会的、文化的構造の問題が滲み出たものだともいわれる。いくつかの事象の検討を通じて、このように指摘される根拠や歴史的経緯、背景について理解を深める。

【到達目標】

心や精神の障害・病理の処遇にかかわる社会的・歴史的な事件や現代の専門的制度の枠組みなどについて、基本的な知識を持ち理解すること。これらの諸問題に、自ら興味を持ち今後の動向にも関心を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の展開予定と受講上の留意事項
第2回	心理主義とグローバル化	国際診断基準／エビデンス／向精神薬
第3回	メンタルヘルスと予防精神医学	労災としてのうつ病／ストレス・チェック
第4回	期待される行動療法と認知療法について	精神分析、薬物療法に代わる心理療法としての側面と、その批判的検討
第5回	狂気の歴史と反精神医学	その問題提起をどう引き継ぐか
第6回	バザリアの精神病院廃絶の挑戦	イタリア・トリエステの脱施設化と地域精神保健
第7回	わが国の精神病院問題	宇都宮事件／社会的入院／身体拘束
第8回	フェミニズムと精神分析	フェミニストはフロイトをどう読むか
第9回	優生思想と精神病者	生きるに値しない命とは
第10回	発達障害が提起するもの	自閉症スペクトラムとアスペルガー
第11回	性・心・身体	性同一性障害／ジェンダーと心の病
第12回	戦争神経症とPTSD	歴史的背景と現代における諸問題
第13回	夢について	フロイト、ユングの夢研究／夢の仕事
第14回	司法と精神医学	保安処分と医療観察法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

難解なこともかみ砕いて説明していくが、漫然と受け身で聞いて理解できる内容ばかりではない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。配布資料、講義の録画、参考文献を活用した復習により理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

必要があれば、その都度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート（50%）と期末テスト（50%）、および授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートについては、出題されたテーマを適切に理解し、自らの疑問、見解が述べられているか評価し、期末テストは、学習内容の理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドに対応したが、録画を見た人はほとんどいなかった。講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、リアルタイムで多くの方が参加することを期待する。こちらもオンラインでの授業の改善に努めるが、オンデマンド受講の方は、早送りでもいいので録画を見るように努力すべきだし、自らの学ぶ姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

この科目は心理学Ⅰと併せて履修することが望ましい。質問などはメールや学習支援システムの掲示板で受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the problematic raised by anti/critical psychiatry or critical history of psychoanalysis and psychiatry to students taking this course.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Understand and recall major terms and concepts in psychoanalysis and psychiatry,

- Outline the birth of psychiatric notion of illness from the viewpoint of historical and social contexts,

- Apply theories of critical psychiatry to the phenomenon of real world.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, recorded lectures, and reference books.

[Grading Criteria]

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

HIS200EA

現代史 I

慎 蒼宇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年の日中国交正常化から 50 年の年です。2022 年の現代史 I では、近代世界史と東アジア史はどのような特徴を帯びているのかを、「戦争」と「植民地主義」の歴史に焦点をあてて、学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉えることができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では最初に近代の諸戦争の特徴をおおまかに分析したうえで、これらの戦争を植民地主義との関わりを考察するアプローチ法とその歴史過程を学んでいきます。なお、講義はオンラインで行い、毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像と進め方／学問としての歴史学について学ぶ
第 2 回	概論① 歴史における「戦争」とは	世界史における「戦争」の変化を概観します。
第 3 回	概論② 近現代の「戦争」を規定する「植民地主義」	「戦争」と「植民地主義」との関わりについて考えます。
第 4 回	「植民地戦争」のはじまり	16～18 世紀におけるヨーロッパ諸国の植民地戦争について概観します
第 5 回	同時期の東アジア	文禄・慶長の役の性格について考察します
第 6 回	二重革命の時代の戦争と植民地主義	民主革命・産業革命の時代の植民地戦争（インド・東南アジア）について考察します
第 7 回	東アジアの戦争①	アヘン戦争とその衝撃について考察します
第 8 回	東アジアの戦争②	明治維新後の日本の対外膨張について概観します
第 9 回	帝国主義と東アジア①	日清戦争について三つの視座から考察します
第 10 回	帝国主義と東アジア②	中国の義和団戦争について考察します
第 11 回	帝国主義と東アジア③	日露戦争について三つの視座から考察します
第 12 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」①	第 1 次世界大戦までの植民地主義の歴史を概観します
第 13 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」②	日本の植民地支配と民族運動について考察します
第 14 回	現代史 I まとめ	近代の「戦争」を「植民地主義」との関わりで捉えなおします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）+平常点（30%）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This year is a year in 50 from the Normal diplomatic relations between Japan and China. What kind of feature a modern world history and East Asia history take on by contemporary history I in 2022, I'll focus on history of "war" and "Colonialism" and learn.

HIS200EA

現代史Ⅱ

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史Ⅱは、現代史Ⅰの問題意識を継承して、二つの世界大戦と戦後の世界において、植民地主義と戦争はいかに形を変えて継続していくのかを、日本と東アジアを中心に学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉えることができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は現代史Ⅰにおける戦争と植民地主義の概念を確認した上で、両者が国際的にどのように展開していくのかを、東アジアのケースを中心に考えていきます。なお、講義はオンラインで行い、毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像・進め方の説明と前期の内容の確認
第2回	概論① 歴史修正主義と歴史学	現代の歴史認識の現状と歴史学について考える。
第3回	戦間期の戦争と植民地主義①	国際法体制の変化と1920年代について考える。
第4回	戦間期の戦争と植民地主義②	世界恐慌と全体主義の1930年代について考える。
第5回	15年戦争① 満州事変	満州事変を三つの視座から再検討します。
第6回	15年戦争② 日中戦争	日中戦争について検討します。
第7回	第2次世界大戦①	第2次世界大戦について概観します
第8回	第2次世界大戦②	アジア太平洋戦争について三つの視座から検討します
第9回	「戦争責任」の展開と「植民地問題」	極東国際軍事裁判の性格を考察します
第10回	複合戦争としての朝鮮戦争	朝鮮戦争について三つの視座から検討します。
第11回	「新植民地主義」と民族独立	戦後アジア・アフリカの民族独立について考察します
第12回	ベトナム戦争の世界史	ベトナム戦争の特徴について考察します。
第13回	現代の戦争へ	1980～90年代の「戦争」について考察します。
第14回	まとめ	現代における「戦争」と「植民地主義」の関わりを捉えなおします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）+平常点（30%）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

It's learned about the feature of "war" and "colonialism" in the 1st, the Second World War and the world of "the postwar".

LIT100EA

文学

彭丹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： いにしへの恋歌 —漢詩と和歌の世界

授業の概要と目的：この講義は、詩歌と人生最大の主題である「恋」を取りあげる。中国の漢詩と日本の和歌は、どのように恋を表現し、人生を豊かにしてきたのか。日本と中国の文学・文化の歴史を学ぶとともに、その比較を通じて、人間の生き方や歴史社会についての理解を深める。

【到達目標】

現代文学を生み出す源流である和歌や漢詩の中から、恋を主題とする作品をとりあげ、その鑑賞と批評を通して、東洋文学の精神と古代から未来への展望を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 1 オンライン形式か対面形式かはその時の学校規定に従います。
- 2 オンライン形式の場合は、学習支援システムにて資料を配布します。
- 3 皆さまに配布資料を読んでいただき、自分なりの感想や意見(リアクションペーパー 字数自由)をオンラインで提出していただきます。
- 4 皆さまのリアクションペーパーに対して、必要に応じてコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	日本文学と中国文学における恋歌の系譜の概観。授業内容の概説及び評価方法について説明する。
第2回	若菜 1	『万葉集』の巻頭歌・籠もよみ籠持ちに見る古代日本の恋のかたち
第3回	若菜 2	『詩経』の巻頭歌・関雉に見る古代中国の恋のかたち
第4回	恋の声 1	琴と雨の音に寄せる恋歌
第5回	恋の声 2	和歌と漢詩の美 無声は有声に勝る
第6回	秘すれば恋 1	在原業平と二条后高子の忍ぶ恋 なぜ歌人は忍ぶ恋をするのか
第7回	秘すれば恋 2	神女に恋する なぜ詩人は神女に恋するのか
第8回	秘すれば恋 3	和歌と漢詩の美 秘すれば花
第9回	恋と宇宙 1	建礼門院右京大夫と李清照、その恋と作品
第10回	恋と宇宙 2	悲劇の帝王詩人後鳥羽院と李后主
第11回	長恨歌 1	亡国の恋のものがたり
第12回	長恨歌 2	和歌と漢詩の美 もののあはれと雅怨
第13回	長恨歌 3	和歌と漢詩の美 憂国と恋
第14回	まとめ	まとめと試験ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和歌と漢詩を朗読してみる。ジャンル・題材を問わず、内外の文学作品を広く読む。映画・演劇・美術・音楽を鑑賞する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布。

【参考書】

授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）：毎回の授業内容についてのリアクションペーパー（字数自由）。

期末試験（40%）：小論文（字数自由）。

【学生の意見等からの気づき】

近年は古典文学に馴染みのない受講生が多いので、近現代の文学作品、小説・演劇・映画なども取り入れて分かりやすく解説し、古典への理解と興味を高めてゆく。

【Outline (in English)】

Ancient Love Songs: The World of Chinese Poetry and Japanese Poetry

This course examines poetry and "love", which is the most important them for people's life. How did Chinese poetry (kanshi) and Japanese poetry (waka) express love and enrich our life? In this course we acquire basic knowledge of Japanese-Chinese literature and culture and deepen understanding about the way of life, history and society of human being through comparison on these topics.

LIT100EA

創作表現論 I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治時代からの日本語の変遷を学ぶ一方、創作の基本を身につける。

【到達目標】

明治時代の日本語の変遷についての基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義+実際の創作指導（ただし添削はしない）。明治時代の日本語の変遷、変革について 14 回に分けて講義する。一方、毎回、短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイ、詩歌など）を提出してもらう。また、2 週間に 1 冊、日本の文学作品を読んでもらう。なお、毎回の課題は文章ファイルで提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	小説と novel と落語	三遊亭圓朝
2	言文一致運動	『浮雲』
3	速記と言文一致運動	『怪談牡丹灯籠』
4	明治時代の日本語改革論	前島密と福沢諭吉
5	日本語とローマ字	森有礼と西周
6	国語教科書の変遷	文語から口語へ
7	日本語における横書きの誕生	幕末から明治初期にかけての変革
8	絵本と横書きと縦書き	戦前と戦後の比較
9	マンガと横書きと縦書き	日本のコミックの欧米版
10	様々な言語の表記	右縦書き、左縦書き、右横書き、左横書き
11	辞書の縦書きと横書き	中国と日本
12	明治の小説が目指したもの	近代リアリズム小説
13	一人称の小説と三人称の小説	どちらが書きやすい？
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義を要約し、作品（ショートショート、短編小説、エッセイ、詩歌など）を書いて提出する。また、2 週間に 1 冊、文学作品を読む。本授業の準備・復習時間は 4 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義の要約（20 %）と、毎回の課題（80 %）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

読んでもらう文学作品のリストは 1 回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students acquire knowledge of a Japanese literary history in the Meiji Era and to learn the basics of creative writing in Japanese.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to know about Japanese cultural history and lean about some writing skills.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to write a work every week and read 7 novels in the term. Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than three hours.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policies) Grading will be decided based on summaries of the lectures (20%) and the quality of the works (80%).

LIT100EA

創作表現論Ⅱ

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

欧米の文芸史を学ぶ一方、日本語での創作の基本を身につける。

【到達目標】

欧米の文学に関する基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義+実際の創作指導（ただし、添削はしない）。欧米の文学史について 14回に分けて講義する。毎回、課題として短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイ、詩歌など）を提出してもらう。また、2週間に1作品、欧米の古典的な作品を読んでもらう。なお、毎回の課題は文書ファイルで提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ギリシア神話	『神統記』
2	ホメロス	『イリアス』と『オデュッセウス』
3	ギリシア演劇	『オイディプス王』と『メディア』
4	アイスキュロス	「オレスティア」3部作
5	ギリシア神話のエピソード	アポロンとカッサンドラ
6	中世の物語	『アーサー王物語』
7	『アーサー王物語』と漱石	「薙露行」
8	エリザベス朝の演劇	シェイクスピア概論
9	シェイクスピアの短い芝居と長い芝居	『マクベス』と『ハムレット』
10	近代リアリズム小説の誕生	『ロビンソン・クルーソー』
11	書簡体小説の誕生と可能性	『バミラ』
12	フランス心理小説の流れ	『危険な関係』から
13	恐怖小説の流れ	『フランケンシュタイン』から『鉄腕アトム』へ
14	児童文学の流れ	『不思議の国のアリス』から『指輪物語』へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義を要約し、作品（ショートショート、短編小説、エッセイ、詩歌など）を書いて提出する。また、2週間に1作品、古典的な作品を読む。本授業の準備・復習時間は4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

提出物 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

読んでもらう作品のリストは1回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students acquire knowledge of a Western literary history and to learn the basics of creative writing in Japanese.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to know about a Western literary history and learn about some writing skills.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to write a work every week and read 7 novels in the term. Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than three hours.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policies) Grading will be decided based on summaries of the lectures (20%) and the quality of the works (80%).

LIT100EA

特講 (創作実践指導)

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分の思うもの、思い描くもの、伝えたいものを、効果的に表現するにはどうするかを考え、自分なりの表現方法を身につける。

【到達目標】

表現したいものを発見し、それを自分なりの手法で文章にし、さらに、それを、他者にとっても興味深い物として表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

詩、戯曲、小説、評論、ドキュメント、フィクション、ノンフィクション、純文学、エンタテインメントなど、ジャンルは問わない。

とにかく、書きたい人のための科目。

書いた作品をほかの受講生に読んできてもらって、講評してもらおう。毎回、そういう形で進めていく。また、その時々で、こちらから作品を指示して、読んでもらうこともある。

他人に読んでもらうことを前提とした文章が書けるようになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる文章が書けるようになること、それを考えながら、書いてもらいたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	書き方の基本	日本人作家にみる、句読点の使い方の違い
2 回	書き方の決まり	日本人作家にみる、句読点の歴史的な変化
3 回	表記の基本	例外的な名詞、固有名詞の表記
4 回	表記の決まり	時代時代による名詞、固有名詞の表記の変化
5 回	口語と文語	落語からみる言文一致について
6 回	文体	文体のおもしろさ
7 回	文体の種類	饒舌な文体、寡黙な文体
8 回	自分の文体	自分の文体を分析してみる
9 回	他人の文体	他人の文体を分析してみる
10 回	自他の文体	自他の文体を分析してみる
11 回	日本語の文体	自分の好きな日本人作家の文体
12 回	他言語の文体	自分の好きな日本人作家以外の文体
13 回	アメリカの文体	自分の好きなアメリカ人作家の作品の文体
14 回	イギリスの文体	自分の好きなイギリス人作家の作品の文体

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最終的に原稿用紙 100 枚以上書き終えること。

ただし、短篇をひとつずつ合評会に提出してよいし、長篇を何回かに分けて提出してもよい。

本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

提出してもらった作品の量、作品の出来などを総合して評価する。ただし学期中に最低、400 字詰め原稿用紙にして、100 枚以上書くこと。評価は提出された作品 (100 %) とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度、授業なし。

【その他の重要事項】

授業計画は学期全体を通して行う可能性のあることを羅列してあるので、実際にこの通りに進むとは限らない。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students learn how to write and how to evaluate other students' works.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to learn some writing skills and have a style of their own .

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to write a long work or some short works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than three hours.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policies) Grading will be decided based on the works (100%).

PHL100EA

哲学 I

大橋 基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「自我」の発見から「他者」の救済に至る問題意識の変化という見地からフランス哲学史を学び、今後、私たちが獲得すべき「人間」像を考える。

【到達目標】

デカルト哲学の歴史的意義に関して、その功罪両側面から説明できる。
フランス現代思想の問題意識を歴史的背景を踏まえながら説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」(学生各自が学習支援システムからプリントアウトする)を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する(教員からの回答は、次回授業時とする)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要、授業方法、成績評価の説明
2	「人間」とは何のことか?	現代の「人間」像の哲学的起源
3	「われ思う、ゆえにわれ在る」	「近代的自我」を発見したデカルト哲学
4	「人間」と「機械」の相違	「人間機械論」に対するデカルトの立場
5	科学の時代における「神」への懐疑	「理神論」と「無神論」の狭間
6	「百科全書派」の啓蒙思想	18世紀フランスにおける情報革命
7	「文明の野蛮」と「自然への回帰」	ルソーの「社会契約説」と「消極教育論」
8	「啓蒙主義」の邪悪な双子	道楽者・サドと独裁者・ロベスピエール
9	「怪物」へ向けられた知的好奇心	デイドロによる「啓蒙主義」の内在的批判
10	救済すべき「他者」とは何のことか?	近代化が産み出した「罪なき犠牲者」
11	監視システムが生み出す病理	フーコーが見出した「功利主義」の逆説
12	「他人の視線」と「覚えなき身体」	サルトルが発見した「他者」と「自我」の逆転
13	「絶対的他人」としての「顔」	レヴィナスが依拠した「自我」に先立つ「存在」
14	期末レポート	現代社会で求められる「人間」像は何か?

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学習支援システムから該当回の「講義用資料」をプリントアウトし、要点や疑問を整理して、授業に持参する。

講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

指定しない。

【参考書】

大橋 基『18歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】 - 「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019年(3200円+税)

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(小論文形式)70%、平常点30%の比率で、成績評価を行い、60点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする(そのさい学生の個人名は伏せる)。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history of French philosophy from a viewpoint of the salvation "other" as the victim of our social structure based on the "modern ego". It deals with four themes as follow: 1. the discovery of the "ego" by Descartes and its influences as the human mechanistic theory and the religious skepticism, 2. the scientific movement by the enlightenment thinkers and its negative results such as the terror politics and the monitoring system, 3. Diderot's philosophical interests to "others", including the disabled persons are removed outside of the modern image of a human being, 4. the attempts to salve "other" by the contemporary existentialists, namely Sartre and Levinas. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the social inequalities are caused from our common sense about the relations between "ego" and "other". Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL200EA

哲学Ⅱ

大橋 基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教とドイツ近代哲学に対するニーチェの批判を学び、「神なき時代」における「理性」の課題を考える。

【到達目標】

キリスト教を世俗化したドイツ近代哲学の功罪両面を説明できる。
ニーチェの思想を継承したドイツ現代哲学の問題意識を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が学習支援システムからプリントアウトする）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要、授業方法、成績評価の説明
2	「狂人」ニーチェの悲痛な箴言	「死」を宣告された「神」とは何か？
3	「市民社会」と「教養俗物」	19世紀ドイツの近代化とその文化的反動
4	「ニヒリズム」の三つの形態	ニーチェの批判的思考の基本構図
5	ショーペンハウアーの哲学とワーグナーの楽劇	「世界」に対する呪詛と抵抗としての「芸術」
6	「大衆向けのプラトン主義」としてのキリスト教	イエスを「キリスト」へと変貌させた仕組み
7	「弱者の復讐」としての「道徳」	人工物である「道徳」を絶対視させた仕組み
8	「理性」に対するニーチェの批判	カントの「定言命法」とその問題点
9	「ナショナリズム」に対するニーチェの批判	フィヒテの「国民」概念とその問題点
10	社会化された「自由」に対するニーチェの批判	ヘーゲルの「自由」論とその問題点
11	「善悪の彼岸」からの「価値の創造」	「ニヒリズム」の到達点としての「永遠帰郷」
12	過酷な「運命」を愛する「超人」の思想	「動物」と「超人」の間としての「人間」
13	ドイツ現代哲学へのニーチェの影響	ハイデッガーとフランクフルト学派
14	期末レポート	「神なき時代」における「理性」の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムから該当回の「講義用資料」をプリントアウトし、要点や疑問を整理して、授業に持参する。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大橋 基『18歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019年（3200円＋税）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（小論文形式）70%、平常点30%の比率で、成績評価を行い、60点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。
リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the problems of German philosophy has its origin in Christianity from the viewpoint of Nietzsche's critical thoughts that tried to release human life from religious restraint. It deals with four themes as follow: 1. Nietzsche's "Nihilism" to be opposed to re-Christianization in the German society, 2. Christianity as "Platonism suitable for the populace" and Morality as the product of the "ressentiment", 3. Limits of the human reason in the German philosophical theories such as following: Kant's moral principle called categorical imperative, Fichte's universalistic concept of nation, and Hegel's interpretation of freedom as mutual recognition, 4. The thought experiment called "eternal return" in order to reach the state of the "super-human". By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the possibility and limit of our reason. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

SOC200EA

人間論

鈴木 智之

サブタイトル：人間論A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度は、「変身・不在・断絶」をキーワードとして、「存在の持続と同一性」について考察を行う。

【到達目標】

中心的なテーマは、存在の持続とその脆弱性である。私たちは、自己存在が時間的な持続のなかで同一性を維持していることを、基本的な前提として生きている。しかし、その「持続と同一」は何に支えられているのだろうか。例えば、大きな事故や重篤な病によって、「私が私でなくなる」という危険性は、つねに存在している。あるいは、生活を共にしてきた他者の不在が「自己」の同一性の基盤をいとも簡単に突き崩すことがある。この講義では、「変身」「不在」による「断絶」の場面に照準化して、「私が私でなくなる」ということのリアルティに接近する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom を用いて、オンラインで、リアルタイムの講義を行う。毎回リアクションペーパーの提出を求め、そのなかから選んで、次週にリプライを示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	カフカ『変身』から
第2回	変身としての加工	『盛りの誕生』から
第3回	臓器移植と同一性	J.L. ナンシー『侵入者』から
第4回	破壊的可塑性	C. マラプー『偶発路の存在論』から
第5回	破局的経験としての病い	C. マラン『病い、内なる破局』から
第6回	別離と変身	C. マラン『断絶』から
第7回	不在と断絶	『不在者』から
第8回	変身の形象（1）	川上弘美『某』を読む
第9回	変身の形象（2）	高山羽根子『如何様』を読む
第10回	変身の形象（3）	村田沙耶香『変半身』を読む
第11回	壊れていく人	村上春樹『色彩を持たない』
第12回	壊れていく人	ハン・ガン『菜食主義者』を読む
第13回	変身譚の過去と現在	形が変わっても心は一つ？
第14回	まとめ	講義全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で参考にするテキストを指定する。そのテキストを読んだ上で、講義にのぞむことを原則とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

随時指示するが、全体を通しての問題設定に関わるのは、C. マラプー『偶発路の存在論』（法政大学出版局、2020年）およびC. マラン『病い、内なる破局』（法政大学出版局、2021年）である。

【成績評価の方法と基準】

出席は評価に関与しない。レポート（論文試験）によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの講義は、教員学生双方の主体的な関わりが、いつも以上に求められます。積極的な受講を期待しています。

【その他の重要事項】

講義のプログラムは進めていく中で変更することもあります。

【Outline (in English)】

We investigate in lecture the continuity and the identity of human being by focusing metamorphosis, absence and disruption.

At the end of the course, students are expected to be able to think analytically on the human being and his identity.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content by reading the text presented in the class.

Grading will be decided based on the term-end report(100%).

GEO100CA

地理学 I

朴 宗玄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、教員の講義と授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地理学の課題・方法・見方	地理学の課題・方法・見方について解説する。
2	大都市圏と地域区分の意義	都市をめぐるさまざまな概念を用いて、都市のテリトリーと地域区分の意義を学習する。
3	複写機メーカーの販売ネットワークの空間構造	経済・経営組織は、空間構造をどのように活用しているのかを学習する。事例として、大手複写機メーカーの販売ネットワーク事例に空間構造を学習する。
4	企業の支店配置の原理	大手複写機メーカーの販売ネットワークを用いて、地域区分や支店・営業所配置の原理を学習する。
5	買い物行動圏	東京大都市圏における消費者の買い物行動を用いて、商圏と地域区分を学習する。
6	日本の国土構造の変遷	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、日本の国土構造の特徴を解説する。
7	地域政策と国土構造	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、国土政策の特徴を解説する。
8	日本の地域構造の特徴	統計データに基づいて、日本の国土構造の特徴を学習する。
9	中枢管理機能	中枢管理機能の概念を用いて、中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
10	企業行動の空間構造	経済的中枢管理機能を用いて、経済的中枢管理機能からみた日本の都市階層を学習する。
11	支社配置と広域中心都市	日本の主要企業の支社配置を用いて、日本の国家的都市システムにおける広域中心都市の位置づけを学習する。

12	支社立地と日本の国土構造	企業の支社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
13	本社配置と日本の国土構造	企業の本社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
14	まとめ	地理学で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（60%）、定期試験（40%）などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

GEO100CA

地理学Ⅱ

朴 宗玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地理学のモデル—都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地帯モデル	多核心モデルと三地帯モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	大都市圏の工業機能の変化	首都圏の工業機能の変化の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。
14	まとめ	地理学全体で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（60%）、定期試験（40%）などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

BAB100EA

生命の科学

鞠子 茂

サブタイトル：生命の科学 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学に関する基礎と最新の話題をヒト社会と関係づけながら講義する。

【到達目標】

生命科学リテラシーを習得し、われわれは生物との一員としてどのように生きるべきか、自ら問い、答えを見つける能力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型授業を実施：講義動画と説明資料を配信。毎回、授業への参加、理解度を確認するためのレポートを課し、次の授業でフィードバック。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションと「生命とは何か」	本授業の全体説明と生命の本質についての講義
第 2 回	生命の誕生と生物進化	生命の誕生と生物進化の歴史を紹介し、人類の進化についても概説する
第 3 回	遺伝子/DNA/ゲノムの違いとは？	現代社会で生きるために必要な遺伝子テラシーを学ぶ
第 4 回	人の個性はエピジェネティクスでつくられる	環境に応じて遺伝子発現を調節する仕組みを学ぶ
第 5 回	万能細胞が切り開く未来	iPS 細胞を利用した再生医療の可能性と問題点を探る
第 6 回	遺伝子改変技術の最前線	遺伝子組み換え・ゲノム編集技術についての解説し、その功罪について考える
第 7 回	ヒトのサイボーグ化が精神世界に与える影響	ヒトの機能を補うテクノロジーの現状を紹介し、その課題について考える
第 8 回	ヒトに寄生する生物のふしぎ	ウイルスや寄生虫などヒトに寄生する生物について学ぶ
第 9 回	花粉症は哺乳類進化の産物	免疫のメカニズムを概説し、花粉アレルギーと進化の関係について考究する
第 10 回	胎児のころの環境がヒトをメタボにする	メタボになり易さは儉約表現型仮説について解説する
第 11 回	ヒトがうつ病になる必然性について	ストレス環境とうつ病の関係について生物進化の側面から考察する
第 12 回	生物の基本形は雌にあり	生物学的性差とは何か、その発現のメカニズムについて学ぶ
第 13 回	生物に流れる時間・試験範囲	生物世界における時間の流れ方について紹介し、試験範囲について解説する
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義動画と配布資料の閲覧期間（2 週間）中に 4 時間の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「文系のための生命科学」（羊土社、2008）

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕 期末試験（60%）、平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド型授業の配信とアナウンスの効率化。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the basics of life science, and should be able to acquire biological literacy for how humans should live as living things. Students will be expected to spend four hours for preparation and review. Grading: final exam (60%) and short-reports (40%).

BAB200EA

環境生態学

鞠子 茂

サブタイトル：生命の科学 II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学をベースとして環境と生物の関わりや環境問題について講義する。

【到達目標】

多種多様な環境問題の理解と解決に資する環境リテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する能力を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型授業を実施：講義動画と説明資料を配信。毎回、授業への参加、理解度を確認するためのレポートを課し、次の授業でフィードバック。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと生態学という学問の紹介	授業の進め方を説明し、生態学とはどんな学問かを概説する
第 2 回	環境の生態学的理解	主体環境系の概念を解説し、環境要因の分類と性質について学ぶ
第 3 回	生物と生態系の多様性と地理的分布	生物と生態系に見られる多様性と環境との関係について概説する
第 4 回	時間とともに変化する生態系	生態系が時間とともに変化するパターンとメカニズムについて解説する
第 5 回	生物適応の戦略的進化	生物の環境適応戦略について具体例を挙げて説明する
第 6 回	生態系からの恩恵とつべ返し	生態系サービスの持続的享受の条件を考える
第 7 回	公害から学ぶべきこと	公害の原点である水俣病を例にして科学リテラシーの必要性について考える
第 8 回	環境ホルモン再考	かつて社会問題となった内分泌かく乱物質のについて改めて考える
第 9 回	外来生物は悪者なのか	外来種問題の本質を追究し、その是非論について考究する
第 10 回	地球環境問題におけるウツとホント	地球環境問題の是非論について最新のデータをもとに論述する
第 11 回	地球温暖化が生物および生態系に与える影響	地球温暖化が生物と生態系に与える影響について最新の成果を紹介する
第 12 回	紫外線環境と人類の進化	人類が紫外線との戦いで獲得した機能から人類の存続について考究する
第 13 回	人類の存続と衣食住環境・試験範囲	人類存続のための衣食住環境について考究するとともに、試験範囲を説明する
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義動画と配布資料の閲覧期間（2 週間）中に 4 時間の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「生態学は環境問題を解決できるか？」 巖波庸・伊勢武史著、(2020)

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕 期末試験（60%）、平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド型授業の配信方法およびアナウンス方法の効率化

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the basics of environmental ecology, and should be able to acquire environmental-science literacy. Students will be expected to spend four hours for preparation and review. Grading policy: final exam (60%) and short-reports (40%).

MAT100EA

基礎数学 I

鈴木 麻美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく接している自然現象や、生活の仕組みは「数学」のもとに成り立っているものが多い。この「数学」とはどんな学問なのか。世界文化の変遷の中での数学のルーツと発展へ目を向け、様々な問題を取り上げて「数学的思考」を学ぶ。その中で「論理的な考え方・数学的思考力の重要性」を考える。

【到達目標】

この講義を通して社会生活における「論理的な考え方・数学的思考力の必要性」と「生活の中に存在する数学」に気づくことを目的とする。この気づきから、その重要性和数学へ興味を持ち、更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom による講義では、身近で具体的な問題について取り組む他、それらの問題の時代背景も紹介する。また、数学的論証として「帰納法」・「背理法」の基本を学ぶ。各テーマごとに証明問題や演習問題に取り組む、理解を深める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数学の始まり。	「数学」の紹介と、講義の進め方・成績評価の説明。および人と数学のルーツと、学問の成り立ちの紹介。
2	ピタゴラス学派の数学上の発見	「ピタゴラスの定理」で有名な、ピタゴラス学派が発見した様々な数学の問題。
3	ピタゴラス数の構築	ピタゴラス数の構築
4	オイラーの等式	いろいろな多面体に注目し、新しい幾何学「位相幾何学」を学ぶ。
5	正多面体の決定	オイラーの等式を用いて、3次元空間の正多面体を定める。
6	グラフ理論と散歩道	位相幾何学・グラフ理論のルーツとグラフ理論の基礎定理。
7	一筆書きの原理	グラフ理論から「一筆書きの原理」を導く。
8	あみだくじ	「あみだくじ」を題材にして、置換・互換を学ぶ。
9	15 ゲームの群論的考察	置換から学ぶ身近なゲーム「15 ゲーム」。
10	15 ゲームの応用	15 ゲームの応用問題に取り組む。
11	合同式	日常に見られる「合同式」の仕組みを学ぶ。
12	暗号通信（1）	ある暗号システムの作り方と、解読システムを学ぶ
13	暗号通信（2）	暗号の作成・解読の演習。
14	まとめ。	これまでの講義の内容に関するまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一つ一つの理論は難しく無くとも、それが積み重なると煩雑に思えるだろう。毎回の授業の内容をノートに丁寧にまとめ、ノートと教科書の内容を毎週復習してから出席して欲しい。特に証明問題に関しては、授業中のノートの内容を何度も読み返し、自分でその証明を繰り返し再現することでしか身につけることはできない。面倒に思えても、その作業により数学的思考が徐々に身に着くことであろう。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。しっかりと自主学習をしなければ、試験で得点することは難しいだろう。

【テキスト（教科書）】

「数学の視界 改訂版」 志賀弘典 著, 数学書房

【参考書】

適宜指定

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%) および、授業内テスト (50%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを書く科目が少ない中、自分で書くことで、復習の際の理解が深まる様子。丁寧にノートを書くことがこの科目では重要である。

【その他の重要事項】

上記にもあるように、必ず継続してノートを取る必要があります。

【Outline (in English)】

What is "Mathematics"? We consider the history of "Mathematics" and we learn some examples of mathematical problems. Furthermore we learn the mathematical thinking which are very important in the social life.

The purpose of this lecture is realization the importance of mathematical thinking in social life. Every students must prepare and review completely. Grading will be determined by 3 times examinations.

MAT100EA

基礎数学Ⅱ

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界の現象や、生活の中の現象の仕組みは、様々な「数学」のもとに成り立っているものが多い。この講義では、高校数学で学んだ基礎的な内容の中から数列と微分に関して、その基礎から経済・経営学に関する具体的な問題への応用を学ぶ。

【到達目標】

数列に関しては高校で学んだ等差数列・等比数列さらに無限級数を復習し「金利」のシステムへの応用を学ぶ。次に、変化する量を調べる際に多用される「微分」を応用して、経済活動の変化の様子を調べることを学ぶ事を目的とする。ここで学んだ基礎的な内容を、専門学習に役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom による講義では、具体的な問題を考えながら、その仕組みの基礎を学ぶ。黒板で説明することをしっかりとノートに記録し、授業後に自己学習にて身につけて欲しい。この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、前回までの復習を前提として授業を進める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数列の基本	講義の進め方および成績評価についての説明と、等差数列と等比数列について学ぶ。
2	利息のお話	単利と複利の話し。
3	積み立て預金のお話	数列の和の存在性と積立預金への応用を学ぶ。
4	物やお金は、時とともに価値が変わる？	現在価値と将来価値の概念を導入する。
5	借金の仕組み	現在価値と将来価値の概念と、借金の仕組みを学ぶ。
6	数列の極限と無限級数	数列の極限值について、その概念と極限値の求め方を学ぶ。
7	関数の極限	関数の極限値を学ぶ
8	極限値と微分	極限値の概念と、関数の微分可能性について学ぶ。
9	導関数	簡単な関数について、その微分と導関数の導出方法を学ぶ。
10	導関数の幾何学的意味	導関数と関数の増減の関係を学ぶ。
11	微分の応用（1）	一般の多項式関数について関数の増減表・グラフの概形を学ぶ。
12	微分の応用（2）	経済に表れるいくつかの関数と利潤関数について学ぶ。
13	微分の応用（3）	いくつかの条件の下で、利潤最大化を考える。
14	まとめ	前回までの講義内容のまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一つ一つ出てくる理論は難しくないものの、それらをたくさん積み重ねると、煩雑なものに思えることと思う。授業の内容はすべてノートに丁寧にきちんとまとめ、毎週教科書とノートを復習をしてから出席して欲しい。毎回の授業の予習復習は、通常合わせ 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。しっかりと自主学習をしなければ、試験で得点することは難しいだろう。

【テキスト（教科書）】

「きちんとわかる経済経営数学入門（数列微分編）」鈴木麻美・内藤敏機著、牧野書店。（現在廃刊になっているために、生協が授業内で使用する部分のみを印刷し販売する）

【参考書】

1. 「例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉」エドワード・T. ドウリング（原著）、大住 栄治（著）、川島 康男（著）、シーエービー出版。
2. 「金利利息のしくみがわかる本」小向 宏美（著）、古橋 隆之（監修）、総合法令出版。

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト（50 %）・期末試験（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

数列・微分はほとんどの学生が高校で学んだ経験があるようであるが、この講義のような具体的な問題との関連性を考えることは、初めて学生が多い。また、高校では極限や微分の原理をきちんとは学んでいない様子。この講義の中ではこうした数学の原理・定義をしっかりと学ぶことを大切にしているために、既に高校で数列・微分・積分を学習しているの学生も、新たな気持ちでしっかりと数学を学び、さらに数学をより身近な学問として捉えてくれることを期待している。

【Outline (in English)】

Many phenomena in nature and many mechanisms in life are constructed on various "mathematics". Therefore, in this lecture, especially we learn sequence and differential calculus, furthermore we learn some examples in economic problems and business problems. The purpose of this lecture are leaning a system of interest rate making use of sequences and leaning a economic activity making use of differential of function. Every students must prepare and review completely. Grading will be determined by 3 times examinations.

PRI100EA

統計学 I

鈴木 麻美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データの分析結果の手法として、社会科学・人文科学など広い分野において統計的分析が多く使われる。しかしながら、実際のその統計的分析の中には「正しくない分析」も多い。そこで、この講義では記述統計学の基本の理解と、基本的な統計分析の正しい理解を目指す。

【到達目標】

記述統計と推測統計の入口までを学ぶ。統計データの代表値および標準偏差をはじめとし、データの散らばり具合を示す指標および複数のデータ分布の相関関係を学ぶ。さらに、この授業に続く統計学Ⅱのテーマである推測統計学の中の代表的なデータ分布である正規分布について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom 授業では、コンピュータを使わずに、各自電卓を用いて例題を実際に計算し、統計数値の導出方法を身につけることを目指す。この科目は、一つ一つの積み重ねが重要であるので、前回までの復習と予習を十分に行うことを前提に授業を進める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび資料の整理	統計学の基礎概念と、講義の進め方および成績評価についての説明および様々なグラフや度数分布表によるデータの表現方法を学ぶ。
2	平均値	平均値の意味と、平均を求める方法を学ぶ。
3	いろいろな代表値 (1)	平均値以外の代表値と、それぞれの特徴について学ぶ。
4	いろいろな代表値 (2)	度数分布表から代表値を求める
5	データの散らばり具合 (1)	データの散らばり具合を表すいくつかの値について学ぶ。
6	データの散らばり具合 (2)	分散および標準偏差を学ぶ。さらに T スコア（偏差値）に関して学ぶ。
7	相関関係	2種類のデータについて、互いの関係性の有無についての判断方法を学ぶ
8	回帰分析	関係性を持つ2種のデータについて、その関係を表す関数を学ぶ。
9	全数調査と標本調査	調査の対象による2通りの方法について学ぶ。
10	正規分布と確率変数	正規曲線と正規分布の概念を導入し、確率変数と確率密度関数について学ぶ。
11	標準正規分布	標準正規分布における確率について学ぶ。

12	まとめ	前回までの講義のまとめ。
13	課題作成	これまでの講義をもう一度振り返り、重要な点に関して、もう一度確認をする。
14	課題提出	これまでの講義に関してのまとめと課題を提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、授業前には教科書とノートで前回までの復習と予習を十分に行うことを前提として授業を進める。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて4時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。しっかりと自主学習をしなければ、試験で得点をするのは難しいだろう。

【テキスト（教科書）】

「看護学系の 統計入門」水野恭之 著、培風館

【参考書】

「確率統計序論」土井誠 他 著、東海大学出版

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト (50%)・期末試験 (50%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを書くことと課題への取り組みにより「学力が身に付いた・スキルが身に付いた」という回答が多かった。「もっと難しいテキストで応用を学んでみたい」と意欲的な学生も居たが、この場合は統計学Ⅱの履修を勧める。

【学生が準備すべき機器他】

平方根 (√) の計算が可能な関数機能の無い電卓。

【Outline (in English)】

As a method of data analysis, statistical analysis is widely used in the social science, the humanities and in many other field. However, in fact many of the statistical analyzes are "incorrect". Therefore, this lecture aims to understand the basics of descriptive statistics and the basic statistical analysis. The purpose of this lecture are learning a descriptive statistics and must prepare and review first step of inference statistics. Every students completely. Grading will be determined by 3 times examinations.

PRI100EA

統計学Ⅱ

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は統計学Ⅰの続きとして、母集団から抽出されたサンプルから母集団の様子を正しく推察する「推測統計学」を学び、世の中に氾濫する統計分析を正しく見極めることができる能力の習得を目指す。

【到達目標】

推測統計学のなかで最も基本と言える「正規分布」および社会科学では良く使われる「 t -分布」を中心に、その他いくつかの分布について「標本から母集団の分布の様子を推定する」あるいは「仮説を立ててその仮説を検定する」ことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実際に数式から手計算を使って学ぶことで、統計数値の「導出方法」を見につけることを目指す。Zoomによる授業では、ホワイトボードを使って解説ならびに多くの例題や問題を実際に解く。問題を解く際には、各自ノートに問題を解き、解答を自ら導くこと。その後、模範解答をすべて書き写し、復習に役立ててほしい。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび母集団と標本	統計Ⅰで学んだ内容の確認と、講義の進め方および成績評価について説明し、また母集団と標本について学ぶ。
2	推定	不偏推定量と不偏推定値に関して学ぶ。
3	点推定と区間推定	点推定と区間推定の優位性と信頼度に関して学ぶ。
4	母平均の区間推定Ⅰ	正規分布である母集団の標本から母平均の推定を学ぶ。
5	中心極限定理	十分大きな標本から母平均の推定を学ぶ。
6	母平均の区間推定Ⅱ	小標本から母平均の推定を学ぶ。
7	t -分布による推定	t -分布を用いて標本から母平均を推定することを学ぶ。
8	検定	仮説検定の基礎概念を学ぶ。
9	仮説と検定（1）	正規分布による検定を学ぶ。
10	仮説と検定（2）	t -分布と χ^2 分布による検定を学ぶ。
11	仮説と検定（3）	分割表による検定を学ぶ。
12	中間まとめ	前回までのまとめ
13	課題作成	これまでの講義内容に関して全体を振り返り、重要な点に関しもう一度確認をする。
14	総括	これまでの講義に関しての総括および課題提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、授業前には教科書とノートで前回までの復習と予習を十分に行うことを前提として授業を進める。予習復習は通常合わせて1回の授業につき4時間程度と考えるが、この他、試験の準備に掛ける時間はさらに多くの時間が必要であろう。毎週この予習復習をしっかりとしておくことが重要である。しっかりと自主学習をしなければ、試験で得点することは難しいだろう。

【テキスト（教科書）】

「看護学系の統計入門」水野恭之 著、培風館

【参考書】

「確率統計序論」土井誠 他 著、東海大学出版、

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト(60%)・期末試験(40%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

統計学Ⅱで「自分が分かっていない」ということが分かった」という意見が出るようになる。「どこがどう理解できていないのか」が明確になるように講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

平方根($\sqrt{\quad}$)の計算が可能な関数機能の無い電卓。

【その他の重要事項】

統計学Ⅰの続きの内容のため、「統計学Ⅰの単位取得」を前提とする。統計学の活用には「推測統計学」が重要なため、是非、統計学Ⅰの履修の後、統計学Ⅱまでの履修を期待する。

【Outline (in English)】

This lecture is a continuation of Statistics I, and we learn "inferential statistics" which correctly infers the state of a population from a sample extracted from the population. The purpose is to acquire the ability to correctly identify statistical analysis.

The purpose of this lecture is learning inference statistics. Every students must prepare and review completely. Grading will be determined by 3 times examinations.

PLN100EA

地球と自然 I

吉岡 美紀

サブタイトル：自然環境論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

Grading will be decided based on submission of assignments each week (50%), and term-end examination (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類は地球の自然の中で生息しています。地球の自然のうち地学にかかわる基礎的な事象や仕組みについて学び、さらにそれらと人間社会とのよりよいかかわり方について考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

- ・科学的根拠に基づいて地球上の事象をとらえる。
- ・自然の情報を入手して活用できる。
- ・人間社会と地球科学との関わりについて考察できる基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業に指定されていますので、毎回、オンデマンドで動画や資料、課題を配信します。授業は Google classroom を使用する予定ですので、学習支援システム Hoppii のこの授業の「お知らせ」に掲示する情報から Google classroom に登録してください。各回の授業が配信されたら、視聴して、締め切りまでに課題を提出してください。授業の初めに、前回の授業の課題について、全体に対してフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	地球科学入門	素朴概念と科学概念
第 3 回	地理基礎	経度、緯度
第 4 回	地図	地形図、各種地図
第 5 回	地球科学基礎	地球科学が扱う単位
第 6 回	プレートテクトニクス	地球の内部
第 7 回	地震	地震の発生メカニズム
第 8 回	地震災害	地震災害と備え
第 9 回	北極	極域の自然
第 10 回	北極観測	北極域での観測
第 11 回	極地	人類活動範囲の拡大
第 12 回	核と地球	放射性物質、同位体
第 13 回	科学と社会	科学と社会とのかかわり
第 14 回	まとめ	全体ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

- ・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会
- ・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常点による評価 (50%)、および期末試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

課題の工夫

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンデマンド配信動画等を視聴できる PC とネットワーク環境が必要。
- ・授業は Google classroom を使用する予定ですので、学習支援システム Hoppii のこの授業の「お知らせ」に掲示する情報から Google classroom に登録してください。

【Outline (in English)】

We, human beings live in the nature of the earth. In this course you learn about the basic phenomena and mechanisms related to earth science. And then aims to enable to consider better relationship between the nature and human society.

The goals of this course are

to understand phenomena on the earth based on scientific evidence.

to be able to obtain and utilize information about nature.

to acquire the basic skills to consider the relationship between human society and earth science.

PLN200EA

地球と自然Ⅱ

吉岡 美紀

サブタイトル：自然環境論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類は地球の自然の中で生息しています。地球の自然のうち地学にかかわる基礎的な事象や仕組みについて学び、さらにそれらと人間社会とのよりよいかかわり方について考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

- ・科学的根拠に基づいて地球上の事象をとらえる。
- ・自然の情報を入手して活用できる。
- ・人間社会と地球科学との関わりについて考察できる基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業に指定されていますので、毎回、オンデマンドで動画や資料、課題を配信します。授業は Google classroom を使用する予定ですので、学習支援システム Hoppii のこの授業の「お知らせ」に掲示する情報から Google classroom に登録してください。各回の授業が配信されたら、視聴して、締め切りまでに課題を提出してください。授業の初めに、前回の授業の課題について、全体に対してフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第2回	地理基礎	地図、緯度経度、単位
第3回	火山	火山と風成堆積物
第4回	河川	河川と水害
第5回	地図で防災	地図で得る防災情報
第6回	河川地形	河川に関わる地形
第7回	段丘地形	武蔵野台地の地形
第8回	地形	地図で見る身近な地形
第9回	大気と気象	大気観測、気象と気候
第10回	海洋	海洋観測、熱塩循環
第11回	雪氷	雪と氷の科学
第12回	気候変動	古気候、氷期、間氷期
第13回	地球温暖化	IPCC 評価報告書
第14回	まとめ	全体ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

- ・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会
- ・日本列島100万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常点による評価(50%)、および期末試験による評価(50%)

【学生の意見等からの気づき】

課題の工夫

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンデマンド配信動画等を視聴できるPCとネットワーク環境が必要。
- ・授業は Google classroom を使用する予定ですので、学習支援システム Hoppii のこの授業の「お知らせ」に掲示する情報から Google classroom に登録してください。

【その他の重要事項】

秋学期の受講は、春学期の「地球と自然Ⅰ」を受講済であることが望ましい。

【Outline (in English)】

We, human beings live in the nature of the earth. In this course you learn about the basic phenomena and mechanisms related to earth science. And then aims to enable to consider better relationship between the nature and human society.

The goals of this course are

to understand phenomena on the earth based on scientific evidence.
to be able to obtain and utilize information about nature.

to acquire the basic skills to consider the relationship between human society and earth science.

Grading will be decided based on submission of assignments each week (50%), and term-end examination (50%).

BAB200EA

自然科学特講（生命科学）

鞠子 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を対象として観察・実験を行い、人と生物との関りについて考える。

【到達目標】

観察・実験を通じて生物を科学的に理解する能力を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テーマ毎に生物の観察・実験を行い、結果をレポートにまとめ、提出する。提出されたレポートは次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと生物に関する基礎講義	授業内容の説明と生物の基礎的なことから講義する
第 2 回	在来タンポポと外来タンポポの調査法	外来・在来タンポポの見分け方と分布調査の手法を学ぶ
第 3 回	在来タンポポと外来タンポポの勢力分布	得られたデータを整理・分析し、在来と外来のタンポポの分布を比較する
第 4 回	バードウォッチング	多摩キャンパスに生息する野鳥の観察法を学び、実際に観察を行う
第 5 回	多摩キャンパスの森林バイオマスを推定する	森林バイオマス資源の調査方法を学ぶ
第 6 回	花色素の発現に影響を与える環境要因	花色の発現を制御する環境要因として pH に注目して実験を行う
第 7 回	生物季節学の基礎と応用	サクラの開花日を予測する方法を例にして生物季節学について学ぶ
第 8 回	身近なダンゴムシの習性	庭などでよく見かけるダンゴムシがもつ交代性転向反応について実験する
第 9 回	光を要求する種子発芽	種子の発芽条件の 1 つは光であり、その有無に対する発芽反応を調べる
第 10 回	植物のアレロパシー	化学物質による他の植物を忌避するアレロパシー現象を実験で確認する
第 11 回	DNA の抽出実験	自分の口腔細胞の DNA を抽出する実験を行う
第 12 回	生物個体数の推定法	生物保全で重要な個体数データを得るための標識再捕獲法について学ぶ
第 13 回	セミの抜け殻の観察	セミの抜け殻を使ってセミの見分け方や昆虫の基本的な形態について学ぶ
第 14 回	授業の振り返りとまとめの授業	すべての授業を振り返りながら補足説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポートの作成や予習・復習をする時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（ほぼ毎回の授業で資料を配付する）。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価配分：平常点（50 %）、レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

十分な予習復習ができるように、配布資料はより充実した内容にする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn living things through experiment and observation, and acquire the ability to explore living things scientifically. Students will be expected to spend 4 hours for preparation and review. Grading: reports (50%) and in-class contribution (0%).

BAB200EA

自然科学特講（生命科学）

鞠子 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を対象として観察・実験を行い、人と生物との関りについて考える。

【到達目標】

観察・実験を通じて生物を科学的に理解する能力を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テーマ毎に生物の観察・実験を行い、結果をレポートにまとめ、提出する。提出されたレポートは次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと生物に関する基礎講義	授業内容の説明と生物の基礎的なことから講義する
第 2 回	セミの抜け殻の観察	セミの抜け殻を使ってセミの見分け方や昆虫の基本的な形態について学ぶ
第 3 回	キノコの成長に与える温度の影響	キノコの栽培実験を通して生物への温度の影響を学ぶ
第 4 回	身近なダンゴムシの習性	庭などでよく見かけるダンゴムシがもつ交代性転向反応について実験する
第 5 回	草木染の体験授業	草木染の技法で布を染める体験を通して、生態系の文化的サービスを学ぶ
第 6 回	生物季節学の基礎と応用	紅葉の見ごろを予測する方法を例にして生物季節学について学ぶ
第 7 回	花色素の発現に影響を与える環境要因	花色の発現を制御する環境要因として pH に注目して実験を行う
第 8 回	多摩キャンパスの森林バイオマスを推定する	森林バイオマス資源の量的調査方法を学ぶ
第 9 回	生物個体数の推定法	生物保全で重要な個体数データを得るための標識再捕獲法について学ぶ
第 10 回	植物のアレロパシー	化学物質による他の植物を忌避するアレロパシー現象を実験で確認する
第 11 回	DNA の抽出実験	自分の口腔細胞の DNA を抽出する実験を行う
第 12 回	バードウォッチング	多摩キャンパスに生息する野鳥の観察法を学び、実際に観察を行う
第 13 回	クリスマスリース製作	植物を使ってクリスマスリースを製作し、生態系の文化的サービスを学ぶ
第 14 回	授業の振り返りとまとめの授業	すべての授業を振り返りながら補足説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポートの作成や予習・復習をする時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（ほぼ毎回の授業で資料を配付する）。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価配分：平常点（50 %）、レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

十分な予習復習ができるように、配布資料はより充実した内容にする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn living things through experiment and observation, and acquire the ability to explore living things scientifically. Students will be expected to spend 4 hours for preparation and review. Grading: reports (50%) and in-class contribution (0%).

MAT100EA

自然科学特講（数学）

鈴木 麻美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は、必ずある前提の上に理論が成り立っている。中学や高校の数学で「二人でじゃんけんをして勝つ確率は」などの問題にも、前提条件がある。この授業では、具体的な問題に取り組みながら、生活の中の自然現象や数の仕組みなどを考察する。実際に手を動かし、体を使って毎回問題に取り組むことで「試行錯誤しながら問題を解決する能力」を身につける“きっかけ”をつかむことを目的とする。

【到達目標】

自分が解らない問題を提示されたときに「自ら問題を解決する取り組み」ができるようになることをはじめの目標とする。さらに「論理的な考え方・数学的思考力が必要である」ことに気づき更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は Zoom で行う。はじめに「数学」を取り巻く世界の歴史を振り返りながら数学とはどいった学問なのかを紹介する。オンラインによる授業のため、各自で作図や工作に取り組んだ結果をビデオで紹介するほか、課題に取り組んだ結果を写真に撮り画像をアップするなど、毎回それぞれの課題に取り組む。課題は具体的な問題・理論的なアプローチなど様々である。提出課題に関しては、必ず授業内で解説を行うので、自分の結果との確認を行い復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと数学のはじまり	「数学」とは何かを説明し、講義の進め方および成績評価について説明をし、数学のルーツと世界史から見る数学の発展を学ぶ。
2	数学と文明	古代の数学と文明の発展との関連を学ぶ。
3	N 進法	デジタルの世界で用いられる二進法や近年まで多く使われていたローマ数字などについて学ぶ。
4	きれいな数	計算によってきれいな並びを示す数字について、その美しさの原理を学ぶ。
5	実際の確率を試す	サイコロを投げてデータを取り「数学的確率」を考える。
6	立体を考える（1）	一つの升でいろいろな容積を量ろう。
7	立体を考える（2）	体積をパズルを使って考える。
8	論理パズルに挑戦	帽子の問題他「論理思考」を鍛えよう。
9	図形パズルに挑戦	古代から考えられてきた「土地の分割」パズルを考える。
10	円周率を考える	作図で極限を体験する。
11	和算に挑戦（1）	江戸時代に日常的に使われていた図形パズルを体験しよう。
12	和算に挑戦（2）	江戸の庶民も熱中した油分け算に挑戦。

13 数学の鍵を考える。 数学の鍵でもある「命題」について学ぶ。

14 まとめ これまでの講義の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートは丁寧にきちんとまとめ、毎週授業の後には復習をして欲しい。また、翌週までの課題もあるので、提出を忘れないこと。授業後の課題に掛ける時間は毎回通常 4 時間程度と考えるが、難しい問題に関しては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

適宜指定。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内での取り組みと課題提出 (60%) および期末試験 (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまで知識として持っていたことも、実際手を動かして作業をしながら考えると、まったく違う角度で見えてくる。体を動かしながら物を考えることで、自分自身の思考力についても、いろいろ考えるきっかけになったようだ。

【Outline (in English)】

In mathematics, the theory is based on certain assumptions. In this lecture, we will consider natural phenomena in life and the mechanism of numbers while working on concrete problems. The purpose of this lecture is to get a chance to learn "the ability to solve problems by trial and error" by actually moving hands and using the body to tackle problems each time and to be able to "activity to solve problems by oneself". Every students must prepare and review completely. Grading will be determined by homework and examinations.

MAT100EA

自然科学特講（数学）

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は、必ずある前提の上に理論が成り立っている。中学や高校の数学で「二人でじゃんけんをして勝つ確率は」などの問題にも、前提条件がある。この授業では、具体的な問題に取り組みながら、生活の中の自然現象や数の仕組みなどを考察する。実際に手を動かし、体を使って毎回問題に取り組むことで「試行錯誤しながら問題を解決する能力」を身につける“きっかけ”をつかむことを目的とする。

【到達目標】

自分が解らない問題を提示されたときに「自ら問題を解決する取り組み」ができるようになることをはじめの目標とする。さらに「論理的な考え方・数学的思考力が必要である」ことに気づき更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は Zoom で行う。はじめに「数学」を取り巻く世界の歴史を振り返りながら数学とはどいった学問なのかを紹介する。オンラインによる授業のため、各自で作図や工作に取り組んだ結果をビデオで紹介するほか、課題に取り組んだ結果を写真に撮り画像をアップするなど、毎回それぞれの課題に取り組む。課題は具体的な問題・理論的なアプローチなど様々である。提出課題に関しては、必ず授業内で解説を行うので、自分の結果との確認を行い復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと数学のはじまり	「数学」とは何かを説明し、講義の進め方および成績評価について説明をする。その後、数学のルーツと世界史から見る数学の発展を学ぶ。
2	数学のはじまり	古代の数学と文明の発展との関連を学ぶ。
3	N 進法	デジタルの世界で用いられる二進法や近年まで多く使われていたローマ数字などについて学ぶ。
4	きれいな数	計算によってきれいな並びを示す数字について、その美しさの原理を学ぶ。
5	実際の確率を試す	サイコロを投げてデータを取り「数学的確率」を考える。
6	立体を考える（1）	一つの升でいろいろな容積を量ろう。
7	立体を考える（2）	体積をパズルを使って考える。
8	論理パズルに挑戦	帽子の問題他「論理思考」を鍛えよう。
9	図形パズルに挑戦	古代から考えられてきた「土地の分割」パズルを考える。
10	円周率を考える	作図で極限を体験する。
11	和算に挑戦（1）	江戸時代に日常的に使われていた図形パズルを体験しよう。

12	和算に挑戦（2）	江戸の庶民も熱中した油分け算に挑戦。
13	数学の鍵を考える。	数学の鍵でもある「命題」について学ぶ。
14	まとめ	これまでの講義の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートは丁寧にきちんとまとめ、毎週授業の後には復習をして欲しい。また、翌週までの課題もあるので、提出を忘れないこと。授業後の課題に掛ける時間は毎回通常 4 時間程度と考えるが、難しい問題に関しては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

適宜指定。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内での取り組みと課題提出（60%）および期末試験（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまで知識として持っていたことも、実際手を動かして作業をしながら考えると、まったく違う角度で見えてくる。体を動かしながら物を考えることで、自分自身の思考力についても、いろいろ考えるきっかけになったようだ。

【Outline (in English)】

In mathematics, the theory is based on certain assumptions. In this lecture, we will consider natural phenomena in life and the mechanism of numbers while working on concrete problems. The purpose of this lecture is to get a chance to learn "the ability to solve problems by trial and error" by actually moving hands and using the body to tackle problems each time and to be able to "activity to solve problems by oneself". Every students must prepare and review completely. Grading will be determined by homework and examinations.

PLN200EA

自然科学特講（地学）

吉岡 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline (in English)】

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises (group work) and laboratory analysis. The goal of this course is to know how to obtain and analyze earth science data from your own field work, then acquire the ability to apply practices and ideas to your study. Grading will be decided based on each report and class contribution (50%), and term-end examination (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球を知るためには、野外に出かけていって実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、野外で計測したり地図等から実際のデータを取得し、解析、利用することを学びます。

【到達目標】

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも応用できる素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・この科目は「受講許可科目」なので、受講にあたっては、そちらの説明も確認すること。
- ・この授業では、毎回説明の後に、多摩キャンパス内の屋外作業ののち室内作業をおこなう日と、室内作業のみの日があります。
- ・毎回、作業結果（課題）の提出があります。
- ・前回課題について、授業の始めに全体に対してフィードバックします。
- ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明、野外調査について
第 2 回	簡易測量の準備	歩測ほか (GW, FW)
第 3 回	PC の地図	ネット地図の活用
第 4 回	地球の大きさを測る	GPS 計測 (GW, FW)
第 5 回	等値線	等値線を描く
第 6 回	簡易測量 1	多摩キャンパスを測る (GW, FW)
第 7 回	数値地図	地形を数値で表現 数値地図の基本
第 8 回	簡易測量 2	ハンドレベルで高低計測 (GW, FW)
第 9 回	実体視	アナグリフ (赤青メガネ) による地形の実体視
第 10 回	地形を三次元で再現	簡易地形模型作製
第 11 回	地形断面図	地形図から縦断面描画
第 12 回	地盤液状化実験	実験ボトル作製と知識の伝え方
第 13 回	防災地図	地図で防災情報を入手する
第 14 回	まとめ	全体ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、必要に応じ個別の文献を授業中に指示します。

【参考書】

- ・ナショナルジオグラフィック（月刊雑誌）
- ・フィールドに入る、100 万人の Field worker シリーズ 1（古今書院）
- ・地図づくりの現在形 地球を測り、図を描く、宇根寛（講談社選書メチエ）

【成績評価の方法と基準】

平常点での評価が 50%、期末試験での評価が 50%

【学生の意見等からの気づき】

提出課題フィードバックについて、昨年度は模範解答のみ示したところ各人の提出課題についてもコメントがほしいとの声があった。今年度は対面授業となるため作業段階でコメントできると思われる。

【学生が準備すべき機器他】

屋外作業ではキャンパス内の舗装されてない道を歩く場合もあるので、ヒールのない動きやすい靴で参加すること。

PLN200EA

自然科学特講（地学）

吉岡 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球を知るためには、野外に出かけていって実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、野外で計測したり地図等から実際のデータを取得し、解析、利用することを学びます。

【到達目標】

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも応用できる素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・この科目は「受講許可科目」なので、受講にあたっては、そちらの説明も確認すること。
- ・この授業では、毎回説明の後に、多摩キャンパス内の屋外作業ののち室内作業をおこなう日と、室内作業のみの日があります。
- ・毎回、作業結果（課題）の提出があります。
- ・前回課題について、授業の始めに全体に対してフィードバックします。
- ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明、野外調査について
第 2 回	簡易測量の準備	歩測ほか (GW, FW)
第 3 回	PC の地図	ネット地図の活用
第 4 回	地球の大きさを測る	GPS 計測 (GW, FW)
第 5 回	等値線	等値線を描く
第 6 回	簡易測量 1	多摩キャンパスを測る (GW, FW)
第 7 回	数値地図	地形を数値で表現 数値地図の基本
第 8 回	簡易測量 2	ハンドレベルで高低計測 (GW, FW)
第 9 回	実体視	アナグリフ (赤青メガネ) による地形の実体視
第 10 回	地形を三次元で再現	簡易地形模型作製
第 11 回	地形断面図	地形図から縦断面描画
第 12 回	地盤液状化実験	実験ボトル作製と知識の伝え方
第 13 回	防災地図	地図で防災情報を入手する
第 14 回	まとめ	全体ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、必要に応じ個別の文献を授業中に指示します。

【参考書】

- ・ナショナルジオグラフィック（月刊雑誌）
- ・フィールドに入る、100 万人の Field worker シリーズ 1（古今書院）
- ・地図づくりの現在形 地球を測り、図を描く、宇根寛（講談社選書メチエ）

【成績評価の方法と基準】

平常点での評価が 50%、期末試験での評価が 50%

【学生の意見等からの気づき】

提出課題フィードバックについて、昨年度は模範解答のみ示したところ各人の提出課題についてもコメントがほしいとの声があった。今年度は対面授業となるため作業段階でコメントできると思われる。

【学生が準備すべき機器他】

屋外作業ではキャンパス内の舗装されてない道を歩く場合もあるので、ヒールのない動きやすい靴で参加すること。

【Outline (in English)】

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises (group work) and laboratory analysis. The goal of this course is to know how to obtain and analyze earth science data from your own field work, then acquire the ability to apply practices and ideas to your study. Grading will be decided based on each report and class contribution (50%), and term-end examination (50%).

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
 ・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
 ・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
 ・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
 ・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
 ・最終課題の提出 【50%】
 の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications. At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がこれまで明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
- これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
- 提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
- 課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
- 毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
 - ・最終課題の提出 【50%】
- の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.

At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
 ・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
 ・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
 ・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
 ・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
 ・最終課題の提出 【50%】
 の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications. At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がこれまで明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
- これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
- 提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
- 課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
- 毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
 - ・最終課題の提出 【50%】
- の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.

At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

SHS100CA

科学史

河野 俊哉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスや原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くのの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が必須となりつつあります。それを踏まえて科学とは何かについて歴史的に考察し科学に対する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、リスク社会とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し科学リテラシーの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。【オンライン授業の場合】学習支援システムや Googleclassroom にレジメ、音声付きパワーポイントをアップし、授業の後半は zoom で授業を行い課題提出。【フィードバックの方法】課題等の提出・フィードバックは Googleclassroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび「科学」の誕生（前半）	講義の概要、成績評価等について説明。アンケート実施。要出席。
第 2 回	「科学」の誕生（後半）	「歴史観」について説明。
第 3 回	「古代ギリシャの自然観」	アリストテレスの「宇宙論」等。
第 4 回	「錬金術と絵画」	『ハリー・ポッターと賢者の石』を手掛かりに錬金術について概観。
第 5 回	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」	12 世紀ルネサンスと大学の誕生について説明
第 6 回	「科学革命論」再考Ⅰ	「中国の科学」と「暦の誕生」
第 7 回	「科学革命論」再考Ⅱ	「科学革命論」の概略とその問題点を説明。ガリレオ、コペルニクス、ケプラー映画『薔薇の名前』。
第 8 回	「科学革命論」再考Ⅲ	「魔術的自然観」と「機械論的自然観」
第 9 回	「科学革命論」再考Ⅳ：「化学革命の検討」	「化学革命」再考。『においの歴史』、『パビューム』
第 10 回	「科学革命論」再考Ⅴ：「酸素の発見」と「パラダイム論」	「酸素の発見」と「パラダイム論」。絵画と科学、啓蒙主義と聖俗革命
第 11 回	BSE と科学コミュニケーション	BSE（狂牛病）、原発問題と科学コミュニケーション。
第 12 回	研究不正	論文の捏造・改竄・盗用
第 13 回	新型コロナウイルスと社会	北里柴三郎と感染症
第 14 回	本講義のまとめ	リスク社会・科学リテラシー、「教養教育の再構築」。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習:配布資料や指定教科書の該当箇所を指示しますので、授業の前に目を通してきて下さい。復習:授業を基に課題を提出します。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019 年）
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】

古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート）40 % 授業外レポート 30 % 試験 30 %
【オンライン授業の場合】平常点（課題）70 % 授業外レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

時間配分には配慮しますが、短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム、【オンライン授業の場合】 Google Classroom を導入します。

【Outline (in English)】

As you can see from the new coronavirus and the problem of nuclear power plants, it is becoming essential for many people, both literary and scientific, to be familiar with scientific research and the meaning of its results (scientific literacy). Based on that, the purpose is to historically consider what science is and to deepen the understanding of science. Learning Objectives: After understanding the difference between "science" and "technology" based on historical cases, we also understand the characteristics of modern society, which is also called a risk society, and aim to acquire scientific literacy. Learning activities outside of classroom : We will give you instructions on the relevant parts of the handouts and designated textbooks, so please read them before class. Review: Submit assignments based on the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grading Criteria /Policy : Normal score (small report in class) 40% Out-of-class report 30% Exam 30% [For online lessons] Normal points (tasks) 70% Out-of-class reports 30%

PHL200EA

社会思想史 I

明戸 隆浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパおよびアメリカにおける近代以降の社会思想の流れを、「社会哲学の方法」に焦点を当てて見ていきます。

【到達目標】

(1) 重要な社会思想家が示した社会哲学の方法を、それが生まれた時代や地域などに即して理解する。(2) (1) で見た社会哲学の方法を現代社会の具体的な問題に適用し、その射程を見極める。(3) (1) (2) を通して、これから現代社会を生きる上で土台となるような視点の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回一人の思想家を取り上げ、(a) その人となりや社会的背景を解説した上で、(b) 原典の抜粋の講読を行い、(c) それが現代においてどう応用できるかを考えます。また学期後半の授業では、関連テーマについてのグループディスカッションも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(全体の流れを概説します)
2	ホッブズ	絶対主権が秩序を守る
3	ロック	市民の同意による政府
4	ルソー	「一般意志」による政治
5	カント	よい／悪いは理性が決める
6	功利主義	よい／悪いは功利で決まる
7	リベラリズム	平等な社会のために
8	リバタリアニズム	自由が最高の価値である
9	共同体主義	社会の土台としてのコミュニティ
10	フェミニズム	差異としてのジェンダー
11	最終レポートに向けて	(最終レポートに向けてのガイダンスを行います)
12	グループディスカッション I	(テーマは実施の際に提示します)
13	グループディスカッション II	(テーマは実施の際に提示します)
14	最終ディスカッション	(最終レポートをもとにグループごとの意見交換を行います)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回関連文献を提示するので、各自の関心に沿って積極的に読み進めてください。授業内では授業で得た知識があれば答えられる簡単な課題に取り組みますが、そこに時間外に学習したことが反映できている場合、より高く評価します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定せず、毎回資料を配布します。

【参考書】

ジョナサン・ウルフ『政治哲学入門』（晃洋書房、2000年）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう——いまを生き延びるための哲学』（早川書房、2010年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回簡単な課題に取り組みます）：30/100点、期末レポート：70/100点

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内課題については原則として授業時間内に行うことを想定していますが、じっくり取り組みたい場合は授業時間外も使えるようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

後期に開講される「社会思想史Ⅱ」の受講は必須ではありませんが、併せて受講することでこの講義についてもより知識を深めることができます。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course aims to explore the development of modern social thought in the West focusing on the "method" of social philosophy.

Learning Objectives:

(i) To understand the methods of social philosophy presented by important social thinkers in line with the times and regions in which they were born.

(ii) To apply the method of social philosophy acquired in (i) to the concrete problems of contemporary society and determine the range.

(iii) Through (i) and (ii), to acquire a perspective that will serve as a foundation for living in contemporary society.

Learning activities outside of classroom:

I will present related literatures in each lecture, you should read them according to your own interests. The average time required for preparation and review is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

in-class contribution: 30/100, term-end report: 70/100

PHL200EA

社会思想史Ⅱ

明戸 隆浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀後半以降のアメリカにおけるエスニシティや多文化主義の問題を、関連する社会思想を通して見ていきます。

【到達目標】

(1) 多文化社会アメリカにおいて展開されてきた社会思想を、それが生まれた文脈に即して理解する。(2) (1) で見た社会思想の射程を現代日本の具体的な問題に適用し、視野を広げる。(3) (1) (2) を通して、これから現代社会を生きる上で土台となるような視点の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回一人の思想家を取り上げ、(a) その人となりや社会的背景を解説した上で、(b) 原典の抜粋の講読を行い、(c) それが現代の日本においてどう応用できるかを考えます。また学期後半の授業では、関連テーマについてのグループディスカッションも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(全体の流れを概説します)
2	公民権運動	多文化社会アメリカの原点
3	ブラック・パワー	「ラディカルなマイノリティ」をどう理解するか
4	ニューヨーク知識人	ユダヤ系知識人がアメリカで歩んだ道
5	アファーマティブ・アクション	「平等」と「能力」の狭間で
6	ヘイトスピーチ	「表現の自由の国」アメリカの限界
7	多文化主義	90 年代アメリカにおけるエスニック問題の複雑化 (1)
8	ポリティカル・コレクトネス	90 年代アメリカにおけるエスニック問題の複雑化 (2)
9	911 テロ事件と監視社会	「エスニックに不平等な監視」をめぐって
10	トランプと「暗黒啓蒙」	アメリカにおける「保守」の多様性
11	最終レポートに向けて	(最終レポートに向けてのガイダンスを行います)
12	グループディスカッションⅠ	(テーマは実施の際に提示します)
13	グループディスカッションⅡ	(テーマは実施の際に提示します)
14	最終ディスカッション	(最終レポートをもとにグループごとの意見交換を行います)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回関連文献を提示するので、各自の関心に沿って積極的に読み進めてください。授業内では授業で得た知識があれば答えられる簡単な課題に取り組みますが、そこに時間外に学習したことが反映できている場合、より高く評価します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定せず、毎回資料を配布します。

【参考書】

南川文里『アメリカ多文化社会論——「多からなる一」の系譜と現在』（法律文化社、2016 年）

中山俊宏『アメリカン・イデオロギー——保守主義運動と政治的分断』（勁草書房、2013 年）

堀邦維『ニューヨーク知識人——ユダヤの知性とアメリカ文化』（彩流社、2000 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回簡単な課題に取り組みます）：30/100 点、期末レポート：70/100 点

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内課題については原則として授業時間内に行うことを想定していますが、じっくり取り組みたい場合は授業時間外も使えるようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

前期に開講される「社会思想史Ⅰ」の受講は必須ではありませんが、併せて受講することでこの講義についてもより知識を深めることができます。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course aims to examine the problem of ethnicity and multiculturalism in the United States since the latter half of the 20th century from the perspective of social philosophy.

Learning Objectives:

(i) To understand social thought developed in the American multicultural society in line with the contexts in which they were born.

(ii) To apply the social thought acquired in (i) to the concrete problems of contemporary society and broaden your horizons.

(iii) Through (i) and (ii), to acquire a perspective that will serve as a foundation for living in contemporary society.

Learning activities outside of classroom:

I will present related literatures in each lecture, you should read them according to your own interests. The average time required for preparation and review is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

in-class contribution: 30/100, term-end report: 70/100

SOC100EA

国際社会論

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、国際社会とは何か、現代の国際社会のさまざまな問題について議論し、現代の国際社会についての理解を深め、議論することを課題とします。とくに日本にいる私たちとのつながりや視点を中心にしておいて議論していきます。

※今年度は ICESS の科目「Globalization and Japanese Society」(隔年開講)とも兼ねており、日本語・英語併用で実施します。

【到達目標】

現代の国際社会におけるさまざまな社会問題について、理解を深め、構造的に議論することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●国境を越えたカネ、モノ、ヒト、サービスの移動や、エスニシティ、ジェンダー、ナショナリズム、人権など、様々な問題を視野に入れ、国際社会を構造的に議論することを課題とします。その際には、よその国のことではなく、日本の私たちに関わる問題として考え、行動することに繋がること、また問題を構造的に捉える視点から議論します。歴史的な説明と理論的な分析の視点も重要です。

●授業のテーマの構成・編成は変更になる場合もあります。また最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習に加え、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン（Zoom など）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：国際社会と	国際社会、主権、国民、国民国家は
第 2 回	戦争と平和	戦後の国際社会
第 3 回	先住民と歴史的不正義	先住民の権利とアイデンティティ
第 4 回	民族問題とエスニ	公民権運動、アフターマティブ・
	ティ	アクション
第 5 回	国際社会とイスラーム	9.11 以降のイスラーム
第 6 回	ヒトの移動	グローバル社会とヒトの移動
第 7 回	日本の移住労働と難民	世界と日本の難民受入れ
	問題	
第 8 回	地域統合と地域主義	EU、APEC、ASEAN、TPP など
		など
第 9 回	貧困と格差	貧困の構造
第 10 回	食料問題	飢餓の構造とフードロス
第 11 回	国際社会とジェンダー	グローバル化、開発、ジェンダー
第 12 回	国際社会と企業	経済進出と現地社会
第 13 回	国際社会と開発援助	国際援助と日本のODA
第 14 回	まとめ	人間の安全保障とグローバル市民社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業外でも、文献を読むなど国際社会問題の勉強を必要とし、また授業に関連する課題の提出も求められます。

●授業でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションのために、事前の課題の提出や準備をしてもらうことも予定しています。

●本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しません。参考書は授業で適宜、紹介します。

【参考書】

西崎文子ほか編著『紛争・対立・暴力：世界の地域から考える』岩波書店、2016。藤原帰一ほか編『平和構築・入門』有斐閣、2011。宮島喬ほか編『国際社会学』有斐閣、2015。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③授業やグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

国際社会をめぐる学生の関心も含める形で議論を進めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

●今年度はすべての授業は対面/教室で行います。ただし、COVID-19 対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study the global society and international social issues with Japanese views. The global issues include discussion on migration, ethnicity, gender, nationalism, citizenship, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing society. Students are required to study global problems of International Society and Japan with references, to submit comment sheets each week, to write short papers, and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the global social issues with Japanese views.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2) Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

SOC200EA

平和論

中村 長史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じる問題は、自然現象ではなく社会現象である以上、一人一人の力によってわずかながらでも良くすることもできるし、さらに悪くしてしまうこともある。平和論の授業を受ける皆さんには、この点を意識し、自分の頭で国際問題の解決策を考えられるようになってほしい。

この講義では、国際問題を「諸国家・諸国民の共存」を脅かすものと「諸国家・諸国民の協力」を脅かすものとの便宜的に分けて学んでいく。具体的には、まず北朝鮮核開発問題（共存を脅かす）とシリア難民問題（協力を脅かす）という現在進行形の事例について、その「構図（What）」、「原因（Why）」、「解決策（How to do）」を考えてみる。次に、過去の事例を確認しながら、平和に関する基礎的な概念を学ぶ。最後に、これらの概念や過去の事例を踏まえて、北朝鮮核開発問題とシリア難民問題について再び考える。

この一連の学びを通して、授業で習った概念と事例を使いこなして、現在の世界における問題の構図や原因、解決策を自分の頭で考えられるようになることを目指す。

【到達目標】

- ①学んだ概念や事例に関するキーワードについて正確に説明することができる【2 回の小テストで評価】。
- ②現在の国際問題の構図について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。
- ③現在の国際問題の原因について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。
- ④現在の国際問題を解決するための政策の選択肢を複数挙げたうえで、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、メリットとデメリットを比べて判断することができる【期末レポートで評価】。
- ⑤多様な利害・価値観に配慮したうえで、問題に対して自分なりの考えを持ち、他者と相談したり、ときには説得したりするという実社会でも求められる方法を習得する【期末レポートで間接的に評価】。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行なう。授業中に複数の問いかけをして考えてもらう時間を設ける。その際には、自らの頭であれこれと考えたうえで、解説を聴くようにしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 部：現在の国際問題に挑戦！	北朝鮮核開発問題とシリア難民問題
2	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存を脅かすもの：戦争 *教科書 I -2, 9, 11
3	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法①：自衛と集団安全保障

4	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法②：強制と安心 供与 *教科書 II -2
5	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法③：軍縮と軍備管理 *教科書 I -5, 8, II -4, V -1, 3, 5, 6
6	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法④：基地問題 *教科書 IV -3, 5, 6, 7
7	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	小括（小テストの解説を含む）
8	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力を脅かすもの：貧困と人権侵害 *教科書 I -6, 12, II -3
9	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法①：開発援助
10	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法②：環境保護とエネルギー *教科書 VI -1, 3, 5, 6, 7, 8
11	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法③：歴史認識問題 *教科書 I -13, II -1, III 5, 6, 7, IV -12, V -10
12	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法④：難民保護 *教科書 I -10
13	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法⑤：人道的介入と保護する責任 *教科書 I -10, 16
14	第 3 部：現在の国際問題に再挑戦！	北朝鮮核開発問題とシリア難民問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』（法律文化社、2020 年）、本体 2000 円＋税
*毎回の予習や期末レポートに際して利用するので手元に置いておくこと。

【参考書】

日本平和学会編『平和をめぐる 14 の論点』（法律文化社、2018 年）
*持参する必要はないが、授業中に関連箇所の頁数を述べるので、復習に役立ててほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）【到達目標②～⑤に対応】

第 1 回小テスト（15%）【到達目標①に対応】

第 2 回小テスト（15%）【到達目標①に対応】

【学生の意見等からの気づき】

社会学部にはメディアに関心のある学生が多いと再確認したことから、メディアとの関係性を意識し、2021 年度より教科書を『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』に変更した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学びに集中できる環境をつくるため、以下のルールを設ける。

- ①提出期限を遅れての課題提出は、いかなる理由であれ、受け付けない。
- ②小テストを受験できないことがわかっている者は、必ず事前に相談に来ること。追試の機会を別日に設ける。事前に相談に来なかった者の追試受験は認めない。
- ③配布物の予備は保管しないので、欠席した場合は、他の受講者から借りること。
- ④講義中の飲食は原則禁止。体調によりやむを得ない場合は認めるが、机上には飲食物を置かないこと。
- ⑤講義中の私語や通話は厳禁。

⑥レポートについて酷似した答案を発見した場合は、いずれも0点とする。

【Outline (in English)】

In this course, we will study global issues including the threat to "coexistence of nations and people" and the threat to "cooperation of nations and people". First, we will focus the ongoing cases of the Democratic People's Republic of Korea(DPRK) nuclear development issue (the threat to coexistence) and the Syrian refugee issue (the threat to cooperation). Next, while reviewing past cases, we will discuss the basic concepts of international politics. Finally, considering these concepts and past cases, we will reconsider the DPRK nuclear development issue and the Syrian refugee issue.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report:70%, Mini quizzes:30%

LAW200EA

法と社会

白田 秀彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、現代の法制度が歴史的なものであり絶対的ではないことを理解することである。現代社会における法の機能について概観したあと、歴史をたどりながら、社会の状況と法がどのようにかわりあい、現在のよな法の姿となったのかを解説する。

【到達目標】

現代社会における法の実際の機能について考察して、多面的な理解を得ることを目的とする。また、常識を疑う問題意識を獲得してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広い意味での法の発展史をまとめたプレゼンテーションを使いながら、その当時の事例や学説を紹介し、それが現在の法のあり方をどのように導いたのかを解説する。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とはほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	法の現実的機能	社会において現実に法が果たしている機能について。
2	法の歴史的遷移 その1 日本法の基盤	現在の法制度が形成されるまでの歴史を法制史・社会史から解説する。明治期に現行法が導入された経緯や思考様式について。
3	その2 支配権力なき紛争解決	法が前提としている「権力」が制度的に存在していない状態での紛争解決法について。
4	その3 古代ローマ法	西洋法の基礎を形成している古代ローマ法について。
5	その4 古代ローマの法学	古代ローマ共和政期に成立した法学の状況について。また、現代まで続く普遍的な思考法について。
6	その5 中世初期の部族法	古代ローマを継いだゲルマン諸部族において行われた紛争解決法や法について。
7	その6 ローマ法の再発見	ルネサンス期に再発見されたローマ法の遺産が、現代の法の基盤として再構成される様子について。
8	その7 教会の法と世俗の法	市民生活に強い影響力を及ぼしていた教会法について。また、世俗の法との違いを法理や管轄の面から。
9	その8 都市の自由と法	中世後期からルネサンス期の都市の形成と都市法を解説し、現代まで続く市民権について。
10	その9 絶対王政下の法と法律	絶対王政下の法の様子を解説。また、この時期生じた「法」概念の変化について。
11	その10 自然法という切り札	絶対王政の問題点を克服するために、法の歴史に通底してきた基本的思想が理論化・制度化されていく様子について。
12	その11 大法典時代と法	現在一般的な「法典」が形成されていく過程について。また、法典形成を支えた法学・法理論について。
13	その12 観念論と歴史法学	現在の法律学の理論的基礎となった観念論哲学を紹介し、それが法学に応用される様子を示す。
14	家族と結婚の制度	現在の家族制度が形成されてきた歴史的背景について、主として日本法制史・文化史から解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。講義内容を整理した小冊子を準備する。頒布方法については、この講義の Google Classroom にて説明する予定である。

【参考書】

参考書は適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業であった場合には、期末論文試験によって評価する。一方、オンライン授業になった場合には、各セッションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。

いずれの場合でも、最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。また、論文試験や小論文等において剽窃（コピー）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力する。

【Outline (in English)】

The goal is for students to be able to grasp that current laws and institutions are temporary. We will overview functions of law in the modern society. Then students will be given an explanation of how social circumstances and laws have interacted each other ending up with a form of law which we see these days, while tracing back history.

LAW100EA

法学（日本国憲法）

清水 弥生

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①日本国憲法は誰に対し何を定め、どのように国家をコントロールしているのかという基本知識を包括的に学ぶ。②基本的人権の保障と民主主義という観点から、統計などの諸資料を通じ、社会事情の変化や社会通念の変化を学ぶ。そしてそれらが最高裁判例にどのように映り込んできたかを学ぶ。

【到達目標】

①各テーマごとに、憲法の基本的な法的性質をひとに説明することができる。②各テーマごとに、憲法の現代における課題をひとに説明することができる。③広い視野から現代の社会について主体的に考察するための、少しでも高いレベルの基礎知識を得ている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF 版とワード版をアップしますので使いやすい方を利用してください。②各頁に対応する音声ファイルを、M4 a と mp 3 の形でアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④成績評価としてのミニテストを、授業時間内に行います。テスト締め切り終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明。憲法とはなにか。	憲法の特徴。
第 2 回	憲法の構造	権力分立と法の支配について。
第 3 回	国会・内閣・裁判所	三権と裁判所の権能。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	主権と国民主権。天皇
第 5 回	基本的人権の及ぶ範囲	人権と外国人（マクリン事件）
第 6 回	基本的人権の適用関係	憲法の私人間適用（三菱樹脂事件等）
第 7 回	平等とは何か	絶対的平等と相対的平等。実質的平等と形式的平等。
第 8 回	日本国憲法と平等	（夫婦別姓事件）（生後認知子国籍法事件）
第 9 回	13 条と新しい人権	13 条と幸福追求権
第 10 回	13 条と新しい人権	13 条と人格権
第 11 回	表現の自由	今日的意義。事前抑制と検閲の禁止。
第 12 回	表現の自由	名誉棄損、プライバシー侵害。「宴のあと」事件）
第 13 回	平和主義	9 条の歴史的背景と意味。平和主義と国際協調主義。
第 14 回	平和主義	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<準備学習> 2 時間①週週範囲や判例等の参考資料を前週に示すので、社会背景等の大まかな理解を独自しておく。

<復習> 2 時間①ミニテストに解答し提出する。間違えた場合には復習する。②事件や判例について、背後にある制度や根拠法を復習し、判例の意義を自分なりにまとめ、理解を再構築する。③小テストに備える

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

学びの助けとして、できれば芦部信喜、伊藤正巳、末川博先生など「憲法」関連著作。

【成績評価の方法と基準】

①各回の内容についての、1 問程度の授業内ミニテスト。計 10 回以上を予定しています。20%

②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択等の問題計 3 回。50%

③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題テスト。こちらは 1、2 回を予定しています。30%

【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすい言葉を用いるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教材やテストは学習支援システムにアップされますので、送受信環境。

【その他の重要事項】

- ①疑問点は、遠慮なく、掲示板で質問してください。
- ②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
- ③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。
- ④シラバス内容は、皆さんの理解により前後したり、ずれ込むことがあります。

【Outline (in English)】

① You learn comprehensively the basic knowledge of the Japanese Constitution. You learn how the Japanese Constitution controls the state. ② From the viewpoint of fundamental human rights security and democracy, you learn changes in social circumstances and changes in social wisdom through materials such as statistics. And you learn how it affected the Supreme Court precedent

LAW100EA

法学

清水 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①市民として知識を備えておくべき基本的な法である刑法、民法、労働法の、趣旨と基本内容を学ぶ。②刑法、民法、労働法の現実社会での適用の仕組みを学ぶ。

【到達目標】

①刑法の基礎知識の修得を通じて、公正かつ適切に判断する基本知識を得る。②民法の基礎知識の修得を通じて、権利と義務の関係、自由と責任について法的にとらえる力を得る。③労働法の基礎知識の修得を通じて、少子高齢問題や社会保障財源不足問題を抱える現代の社会の中で働く際の法的根拠を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF版とワード版を同時にアップしますので使いやすい方を利用してください。②同時に、各頁に対応する音声ファイルを、M4aとmp3の形で同じものをアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④成績評価としてのミニテストを、授業時間内に行います。テスト締め切り終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要の説明。刑法の役割	全体の流れと学び方。罪とは刑罰とは何か。
第2回	刑法の基本原則	罪刑法定主義
第3回	刑法の適用①	犯罪の構成要件
第4回	刑法の適用②	違法性阻却事由、責任阻却事由、故意
第5回	民法の役割と3原則	過失責任主義と私的自治の原則と所有権絶対の原則
第6回	民法の3原則の例外①	PL法、時効
第7回	民法の3原則の例外②	制限行為能力者
第8回	家族関係と法	婚姻、夫婦、扶養
第9回	財産関係と法①	契約の成立と意思表示
第10回	労働法①	労働法の意義と労働条件の決定
第11回	労働法②	労働契約の成立まで
第12回	労働法③	労働時間
第13回	労働法④	賃金、休憩、休日
第14回	労働法⑤	労働災害。学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<準備学習>レジュメを前もってアップしますので、大まかな理解を独自にしておく。準備学習2時間。

<復習>ミニテストに解答し提出する。間違えた場合には復習する。小テストに備え制度や根拠法を復習し自分なりにまとめ、理解を確認する。復習2時間

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

末川博、伊藤正巳、碧海純一先生等、どなたのでもよいので、「法学」の入門書を薦めます。労働法部分では、「18歳から考えるワークルール（第2判）」（法律文化社）が簡潔でわかりやすいです。

【成績評価の方法と基準】

①各回の内容についての、1問程度の授業内ミニテスト。計10回以上を予定しています。20%

②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択等の問題計3回。50%

③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題テスト。こちらは1、2回を予定しています。30%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい言葉で、ゆっくり伝えるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教材やテストは学習支援システムにアップされますので、送受環境。

【その他の重要事項】

①疑問点は、遠慮なく、授業内に掲示板で質問してください。時間内に返答しづらい質問に対しては、「お知らせ」上で回答します。

- ②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
- ③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。
- ④シラバス内容は、皆さんの理解により前後したり、ずれ込むことがあります。

[Outline (in English)]

- ① (Course outline) :This course introduces criminal law,civil law and labour law to students taking this course.
- ② (Learning Objectives) :At the end of the course, students are expected to have knowledge of these law, which should have knowledge as citizen.
- ③ (Learningactivities outside of classroom) :Befor e/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- ④ (Grading Criteria /Policy)
:mini examination (1 0 times) 2 0 %.
:small examination(3 times) 5 0 %.
:writing examination(1 or 2 times) 3 0 %.

SOC200EA

アメリカのジャーナリズム

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後、日本の報道メディア界に多大な影響を与えてきたアメリカのジャーナリズムを概観していきます。米国ジャーナリズム歴史的経緯と現状、そして種々の問題点を指摘し、常に日本の報道メディアの現状や問題点との関連性を念頭に講義を進めていきます。加えて、ネット時代のジャーナリズムについて、SNS を含めた諸課題を扱います。

【到達目標】

日本のジャーナリズムに多大な影響を与えてきた米国ジャーナリズムの歴史と現状、そして未来を適切に理解していくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式による。
 - ・毎回の講義内容（重要事項、キーワード等）を記した講義レジュメ（A4 プリント）を、事前に「学習支援システム」に掲示する。受講生はこのレジュメに沿って聴講することにより、各ポイントでの要点を効率的に理解できる。
 - ・レジュメは、全てを綴じていくことによって、一冊の講義ノートになるよう工夫されている。大いに活用して欲しい。
 - ・米国のジャーナリズムを概説する性格から、英語情報は常時利用されるが、これら英語情報に関しては、Audio&Visual 教材の活用とともに、適宜日本語解説を行い（逐次通訳）、受講学生の語学力への不安を解消していく。
 - ・毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講生の理解度と反応を確認し、良いコメントは授業内で紹介し、講義内容の相互コミュニケーションに生かしていく。
 - ・「学習支援システム」を利用した質問等も受け付ける。
- (授業形態についての注意事項)
対面授業を基本とするが、Covid-19 感染状況等に伴い、急遽、変更（オンデマンド授業への変更）もあり得る。
その場合は、「学習支援システム」に、事前掲示する。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/13	①講義内容の概観と講義の目的 ②米国のジャーナリズムとは	①講義の全計画（講義シラバス）をプリント配布する。 ②計画講義概要説明、成績評価方法説明 ③米国のジャーナリズムの概観
4/20	パーソナル・ジャーナリズムの時代①	・植民地時代のジャーナリズム ・植民地と新聞発行 ・独立の気運とジャーナリズム
4/27	パーソナル・ジャーナリズムの時代②	・独立、建国とジャーナリズム ・手作りの国作りとジャーナリズム
5/11	大衆紙の時代①	・大衆社会の到来とジャーナリズム① ・急速な工業発展と移民

5/18	大衆紙の時代②	・大衆社会の到来とジャーナリズム② ・移民とジャーナリズム
5/25	調査ジャーナリズムの時代①	・社会変革とジャーナリズム ・労働運動 ・社会の矛盾とジャーナリズム
6/1	調査ジャーナリズムの時代②	・権力とジャーナリズム① ・ウォーター・ゲート事件
6/8	調査ジャーナリズムの時代③	・権力とジャーナリズム② ・調査ジャーナリズムと日本
6/15	市場ジャーナリズムの台頭と隆盛①	・テレビの台頭と情報娯楽 ・メディア産業の巨大化
6/22	市場ジャーナリズムの台頭と隆盛②	・大統領選挙と市場ジャーナリズム ・市場とデモクラシー
6/29	市場ジャーナリズムの台頭と隆盛③	・ネットジャーナリズムと市場ジャーナリズム ・Fake News ・トランプ現象
7/6	ジャーナリズムの今後	・ネット社会とジャーナリズム ・SNS とジャーナリズム ・SNS と世論 ・多様性と分断
7/13	日米のジャーナリズム	・WWII 敗戦と日本のジャーナリズム ・日本のジャーナリズムとアメリカ
7/20	講義のまとめ 期末筆記試験	講義内容のまとめ 期末筆記試験

【学生が準備すべき機器他】

PC等のネット端末持参が便利

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, students will be introduced to the major issues and themes in the history of American journalism from the pre-Revolutionary War period up to the present. The lecture will be given in Japanese.

(Learning Objectives)

The main objectives of the course are:

- a. to help students learn core historical knowledge about American journalism.
- b. to help students understand American journalism in a broader historical context.
- c. to help students understand the relationships between Japanese and American journalism.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the recommended reading after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

Grading will be decided by the results of the final examination (100%).

The information described herein is subject to change.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の講義内容（重要事項、キーワード等）を記した講義レジュメ（A4プリント）を、事前に「学習支援システム」に掲示する。このレジュメは、全てを綴じていくことによって、一冊の講義ノートになるよう工夫されている。大いに活用して欲しい。

・テキストを購入する必要はない。

【参考書】

『メディア・コミュニケーション—その構造と機能』、法政大学出版社

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 100%

100～90: S

89～87 : A+

86～83 : A

82～80 : A-

79～77: B+

76～73 : B

72～70 : B-

69～67 : C+

66～63 : C

62～60 : C-

59以下: D

未受験、採点不能: E

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解度にあわせる授業を心がける。

具体的には以下の五点。

①毎回の講義概要（重要事項、キーワード等）を記した講義レジュメ（A4プリント）を、事前に「学習支援システム」に掲示する。受講生はこのレジュメに沿って聴講することにより、各ポイントでの要点を効率的に理解できる。

②全てを綴じていくことによって、上記レジュメが一冊の講義ノートになるよう工夫した。

③米国のジャーナリズムを概説する性格から、英語情報は常時利用されるが、これら英語情報に関しては、Audio&Visual教材の活用とともに、教員自らが適宜日本語解説を行い（逐次通訳を含む）、受講生の語学力への不安を解消する。

④毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講生の理解度を確認し、次回以降の講義内容に反映させる。

⑤「学習支援システム」を利用した受講生の質問を歓迎する。

CAR100EA

キャリアデザイン論

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①社会人として活躍していくための在学中の準備、②働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、③多摩地域で活躍している企業の視点、④社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自立的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】

- ①講義の聴講（多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG からの話を含む）を通じて、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
- ②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自立的に変革できるようになる。
- ③各自が自立的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【本科目はオンライン・オンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。一定の期間内に、各自が時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステム（基本的に月曜日に授業は配信され、当該週内に指示された課題レポートを提出）によって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	働くことについて考える ①「働くことの意味」	「働く」とはどのような意味があるのか？ これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
3	働くことについて考える ②「働き方と多様性」	これからの変化の激しい社会において自分を活かしていく働き方を考える、特にダイバーシティー、雇用形態の変化、テレワークなどの新しい職場環境や働き方についても考察する。
4	働くことについて考える ③「仕事と幸福」	キャリアデザインの究極的目的地はキャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは仕事と幸福に関する最近の研究を紹介し、仕事を通じた幸福の追求について考える。
5	社会人への準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加の意義と参加方法について学ぶ。（キャリアセンター担当）
6	社会人への準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていってよいかについて学ぶ。（キャリアセンター担当）
7	自分をマネジメントする ①「モチベーション」	自分自身が成長していくために必要な「強味の活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
8	自分をマネジメントする ②「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスは心身への負荷や圧迫、ネガティブな感情を生じさせることがある。ここでは、心身の負荷やバイアスを軽減していくための方法を学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部、社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

10	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する現代福祉学部、スポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。多摩地域で活躍する企業人から多摩地域で事業を行うことの特徴や、多摩キャンパスの学生に期待する人材像、大学での学びかたについて学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ③	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
12	キャリア戦略①「適職選択の戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
13	キャリア戦略②「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
14	キャリア戦略③「自己実現に近づくための行動様式の変革」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義聴講時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（構成比 100 %）。各回の評価は期限内に提出された「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（授業配信から課題レポートの提出締め切りまでの期間）は 1 週間を予定します。単位取得には 70 % 以上の授業受講と期限内での課題レポートの提出が不可欠です。さらにレポートの内容評価の合計点が満点の 60 % 未満である場合は（仮に毎回レポートを提出していても）単位を取得できない場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】

質問、相談や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。学生からの連絡は各自に配布されている大学の公式アドレスからに限り、個人情報の保護等の観点から、個人アドレスからの連絡等は受け取れませんのでご注意ください。

【授業配信予定日】

原則的に休講期間を除く毎週月曜日に授業を学習支援システム上に配信（公開）しますので、受講してください。

【レポートの提出】

レポートの提出は、決められた期間内に学習支援システム上で行ってください。担当教員の個人アドレス等へのレポートの提出は認められませんのでご注意ください。レポートはワードで作成し添付ファイルで提出をお願いします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on the following four points.

- 1.Preparations to be achieve as a member of society while attending university.
- 2.Basic approach to career choice.
- 3.Understand the thinking of local business people
- 4.Leaning tips on career development from OB/OG in Tama Campus which is achieve in society.

【Learning Objectives】

- 1.Develop a concrete image of one's own basic career strategy.
- 2.Think about your own concrete action.
- 3.To acquire basic view points and skills to carve out one's own career.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires at least four hours of study time(for preparation ,review and create an assignment report etc.) in addition to class time.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation of this class is based on the total score of the assignment reports. At least 70% of assignment reports must be submitted to earn credits. And also, the total score of the assigned report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100EA

キャリアデザイン論

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①社会人として活躍していくための在学中の準備、②働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、③多摩地域で活躍している企業の視点、④社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自立的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】

- ①講義の聴講（多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG からの話を含む）を通じて、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
- ②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自立的に変革できるようになる。
- ③各自が自立的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【本科目はオンライン・オンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。一定の期間内に、各自が時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステム（基本的に月曜日に授業は配信され、当該週内に指示された課題レポートを提出）によって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	働くことについて考える ①「働くことの意味」	「働く」とはどのような意味があるのか？ これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
3	働くことについて考える ②「働き方と多様性」	これからの変化の激しい社会において自分を活かしていく働き方を考える、特にダイバーシティー、雇用形態の変化、テレワークなどの新しい職場環境や働き方についても考察する。
4	働くことについて考える ③「仕事と幸福」	キャリアデザインの究極的目的地はキャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは仕事と幸福に関する最近の研究を紹介し、仕事を通じた幸福の追求について考える。
5	社会人への準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加の意義と参加方法について学ぶ。（キャリアセンター担当）
6	社会人への準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていってよいかについて学ぶ。（キャリアセンター担当）
7	自分をマネジメントする ①「モチベーション」	自分自身が成長していくために必要な「強味の活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
8	自分をマネジメントする ②「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスは心身への負荷や圧迫、ネガティブな感情を生じさせることがある。ここでは、心身の負荷やバイアスを軽減していくための方法を学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部、社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

10	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する現代福祉学部、スポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ③	多摩地域で活躍する企業人から多摩地域で事業を行うことの特徴や、多摩キャンパスの学生に期待する人材像、大学での学びかたについて学ぶ。
12	キャリア戦略①「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
13	キャリア戦略②「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。
14	キャリア戦略③「自己実現に近づくための行動様式の変革」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義聴講時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（構成比 100 %）。各回の評価は期限内に提出された「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（授業配信から課題レポートの提出締め切りまでの期間）は 1 週間を予定します。単位取得には 70 % 以上の授業受講と期限内での課題レポートの提出が不可欠です。さらにレポートの内容評価の合計点が満点の 60 % 未満である場合は（仮に毎回レポートを提出していても）単位を取得できない場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】

質問、相談や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。学生からの連絡は各自に配布されている大学の公式アドレスからに限り、個人情報の保護等の観点から、個人アドレスからの連絡等は受け取れませんのでご注意ください。

【授業配信予定日】

原則的に休講期間を除く毎週月曜日に授業を学習支援システム上に配信（公開）しますので、受講してください。

【レポートの提出】

レポートの提出は、決められた期間内に学習支援システム上で行ってください。担当教員の個人アドレス等へのレポートの提出は認められませんのでご注意ください。レポートはワードで作成し添付ファイルで提出をお願いします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on the following four points.

- 1.Preparations to be achieve as a member of society while attending university.
 - 2.Basic approach to career choice.
 - 3.Understand the thinking of local business people
 - 4.Leaning tips on career development from OB/OG in Tama Campus which is achieve in society.
- 【Learning Objectives】 ,
- 1.Develop a concrete image of one's own basic career strategy.
 - 2.Think about your own concrete action.
 - 3.To acquire basic view points and skills to carve out one's own career.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires at least four hours of study time(for preparation ,review and create an assignment report etc.) in addition to class time.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation of this class is based on the total score of the assignment reports. At least 70% of assignment reports must be submitted to earn credits. And also, the total score of the assigned report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100EA

職業社会論

依田 素味

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【Outline (in English)】

We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.

As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】

- ①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰的することができる。
- ②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
- ③自分自身の課題意識を明らかにし、新・社会人基礎力をキーワードとして客観的視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【zoom によるリアルタイムの双方向オンライン授業】

設定されている時間に zoom で双方向のオンライン授業を実施します。前もって、レジュメを Web 上の授業支援システムにアップしますので、授業前に予習しておいてください。

◎ zoom のアクセス方法、URL 等は、この科目の授業支援システム上でお伝えします。

レポート課題やリアクションペーパーについては、さらに理解が深まるように解説を加え、フィードバックします。確認小テストは終了後に結果がわかるようなシステムを使い、確実な理解につながるように解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AI の普及による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	自営という職業生活	様々な自営業者として働く
10	職業生活と地域社会	地域コミュニティとの関係
11	個人のキャリアデザイン (ゲスト講師)	個人のキャリアを形成するとは(先輩のキャリアを参考に)
12	教育訓練	職業人生を磨くプロセス
13	職業社会の今日的課題	「働き方改革」と今後の課題
14	確認小テスト・まとめと解説	オンラインによる確認小テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分を取り巻く職業社会に目を向け、テーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

授業内でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業内ミニレポート 20% (積極的な授業参加の状況評価)
- ②中間レポート 20% (課題に関する理解度の確認)
- ③期末レポート 40% (課題に関する理解度の確認)
- ④期末確認 Web 小テスト 20% (最終的な全体理解の確認)

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでも、学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間を設定します。

【その他の重要事項】

- ① 1 年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。
- ②社会学部を卒業し実際に企業で働く経験を持つ教員が、社会で職業に就くことについて講義します。

LAW200EA

雇用と法

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用に関する法律（労働基準法、労働契約法、労働組合法等）の基礎を学ぶ。労働法の成立過程、個別的労働関係法、集団的労働関係法の基礎を理解することを目的とする。

【到達目標】

労働基準法、労働契約法、労働組合法について基礎的な知識を身につける。採用から退職に至るまでの、労働契約の成立・展開・終了と、労働条件の基準、労働条件の変更、労働基本権について、条文に基づいて正しく理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いながら授業を行う。事前に学習支援システムでレジュメ、資料を配付するので、各自プリントアウトして持参すること。学習支援システムで小テストを随時実施する（小テストは提出期限時の自動採点でフィードバックする）。

なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・労働法とは	労働法の成立過程を学ぶ
第 2 回	就職活動と法	労働契約の成立過程について学ぶ
第 3 回	労働契約	労契法の意義と内容について学ぶ
第 4 回	就業規則	就業規則の意義、労働条件の変更を学ぶ
第 5 回	賃金・賞与・退職金	賃金の決定、支払、最賃法を学ぶ
第 6 回	労働時間（1）	法定労働時間、変形制を学ぶ
第 7 回	労働時間（2）	時間外労働と割増賃金を学ぶ
第 8 回	休日・休暇	法定休日、年休を学ぶ
第 9 回	人事異動	配転・出向・転籍を学ぶ
第 10 回	服務規律と懲戒	企業秩序と懲戒を学ぶ
第 11 回	労働契約の終了（1）	解雇規制、解雇権濫用法理を学ぶ
第 12 回	労働契約の終了（2）	定年、退職、雇止めを学ぶ
第 13 回	安全配慮義務と労災保険	労災、安全配慮義務を学ぶ
第 14 回	労働基本権	労働組合法の意義を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に際して、事前に学習支援システムで配布されたプリントとテキストの該当箇所を熟読のうえで毎回必ず出席する。テレビ、新聞、雑誌等における雇用・労働問題に関わる記事を意識して読み、ノートに記載していく。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020 年、本体 2,530 円

【参考書】

野川忍・水町勇一郎編『実践・新しい雇用社会と法』有斐閣、2019 年、3100 円＋税、菅野和夫『労働法第 12 版』弘文堂、2019 年、6500 円＋税、川田知子・長谷川聡『労働法』弘文堂、2020 年、2800 円＋税、山田省三・石井保雄『トピック労働法』信山社、2020 年、3200 円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに実施する小テスト（45%）、最終レポート（55%）の合計により評価。労働基準法、労働契約法、労働組合法について基礎的な知識を正しく身に付け、条文に沿って学説、判例を引用しつつ設問に対し論理的に解答できるかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの通読のほか、日頃からニュースや裁判例等に興味を持って、法理論と実際の法律適用の場面とを結びつけて理解できるよう、最新の雇用情勢に係る情報を提供するように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにてレジュメ資料を配付するので、各自プリントアウトのうえ持参すること。

【その他の重要事項】

質問等は講義の前後に教室で受けるほか、学習支援システムのオープンな掲示板でも受ける。

【Outline (in English)】

"Labor Standard Law, Labor Contracts Law, Laobr Union Law"

The goal of this lecture is to understand the significance of the Labor Standards Law, the Labor Contract Law, and the Trade Union Law, and to be able to solve problems in accordance with laws, ordinances, and theories.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

HSS100EA

身体論

矢田部 英正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では「身体技法」という視点から、日本と西洋の文化様式について学びます。身体についての思想は、人間の生活様式と密接に関係していて、いわば文化の深層に潜在するものです。それらはみなさんの日常的な姿勢や振る舞い、衣・食・住の様式とも密接に関係しています。ファッション、インテリア、食文化といった身近な題材から、日本とヨーロッパの文化様式を相互に理解することを講義の目的とします。

【到達目標】

日本人の学生にとっては自国の文化がどのように成立してきて、それが現在の実生活とどのように関係しているのかを、衣・食・住の具体的な事例から理解することを到達目標とします。また留学生にとっては日本とヨーロッパのそれぞれの文化様式が、母国の文化とどのように異なり、また共通点をもつのか、正しく比較するための論理的な視点を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

令和4年度はオンラインで行う。講義の内容は基本的にテキスト指定された書籍にもとづき、毎回所定の箇所から小レポートの提出が求められる。小レポートは授業の後半にチャット欄に記載する時間を設ける。授業に対する意見や質問についてもチャットへ記載し、可能な範囲で授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	身体論とは何か？	「心」と「からだ」と「世界」のつながりについて、人類はどのように考えてきたのか？
第2回	坐の象徴論	床坐と椅子座の文明
第3回	座の空間論	身体の「坐」、空間の「座」__日本家屋の身体性について
第4回	座の様式論	クラシック家具の身体性__「ルイ15世様式」は、なぜ世界王室のスタンダードになったのか？
第5回	坐の語彙論	フランス社会科学に学ぶ、分類理論と名称化のはたらきについて
第6回	坐の技法論	「自然体」の構造と技術__ストレスのない姿勢を身につけるには？
第7回	坐の文明論	闘争と瞑想の身体技法__「自然の理法」にもとづく文明
第8回	文化としての身体	日本人と西洋人はなぜ歩き方がちがうのか？
第9回	歩行と履物の文化様式	モノを生み出す身体の論理について
第10回	和装の身体技法	日本人の身体の美意識
第11回	ファッションと身体	シャネルとディオールの身体観
第12回	モードにおける和装の表現	ファッションシーンに日本文化がはたしてきた役割について
第13回	「からだの自然」と創造の原理	松尾芭蕉の芸道論に学ぶ
第14回	講義の総括とレポートの解説	「身体論」とは、「からだの自然」を正しく理解し、使いこなす技術を身につけることである。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前に読んでくる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『坐の文明論』矢田部英正著、晶文社 『たたずまいの美学』矢田部英正著、中公文庫

【参考書】

『身体論』湯浅泰雄、講談社学術文庫 『文化としてのマナー』熊倉功夫、岩波書店 『キモノマインド』バーナード・ルドフスキー、鹿島出版会

【成績評価の方法と基準】

平常点 80%, 期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

以下のような意見がありました__「自然体の技術と構造について理解できたことで、意味もなく不安になることがなくなり、自分に自信が持てるようになった。」「外国人に日本の文化について聞かれたときに、歩き方やファッションからも文化を語る視点は目からウロコが落ちることばかりで、日本に生まれたことを誇りに思えるようになった。」「自然の理法をお手本にした東洋の文明は、今でも見習うことがメチャクチャあると思った。」「講義で習ったことが、実際にできているかどうか判断がつかないので、実技の授業を開講して欲しい」という意見が多数ありました。

【Outline (in English)】

This course introduces the pattern of cultures from the view point of the Body technique. Philosophy of the "BODY" is underlying in the depths of culture and deeply connected with your daily postures and styles of clothing, the way of living, and the manner of eating, etc. The aim of this course is to help students acquire an understanding of cultural styles of Japan and Europe through topics of fashion, interior, food culture, etc.

IDN100EA

多摩地域形成論

池田 寛二

サブタイトル：多摩地域形成論 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている「場所」への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩4学部の教員と協力して実施する、4学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。各回のリアクションペーパーに対しては、その都度講師が評価し、必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第2回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第3回	多摩キャンパスと近隣地域(1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第4回	多摩キャンパスと近隣地域(2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第5回	多摩キャンパスと近隣地域(3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第6回	多摩地域の現代史(1)	多摩地域の住民運動の歴史
第7回	多摩地域の現代史(2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第8回	多摩地域の現代史(3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第9回	これからの多摩地域の形成(1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第10回	これからの多摩地域の形成(2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第11回	これからの多摩地域の形成(3)	地域の資源をエネルギーに
第12回	これからの多摩地域の形成(4)	コミュニティ文化とスポーツ
第13回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第14回	これからの多摩地域の形成(5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％程度）とレポート（70％程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】

・授業支援システムを利用する。

・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟2階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

SOC300EA

社会を変えるための実践論

荒井 容子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題に当事者として立ち向かっていった複数の実践事例について学び、当事者としての教員やゲストを交えて、受講生同士で討議しながら、直面した社会問題の解決に向けて行動する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

社会問題に直面したとき、その解決に向けて主体的に行動するとはどういうことか、その意味と方法を認識し、実践につなげる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業運営は複数の教員が集団で行う。社会問題の解決のために行動している多様な事例を取り上げ、当事者の立場を重視しながら受講生と教員と一緒に、なってそれらの事例について討議していく。当事者をゲストとして招く場合もある。

毎回宿題を課す。テキストの関係者、オンラインで提供するビデオを観たうえで取り組む課題がだされることもある。宿題の回答は講義時に自分でも手元に用意して、講義当日のグループ討議に活用してもらう。講義の感想・意見も講義後に毎回提出してもらう。これらへの応答は講義時に必要に応じて行うが、学習支援システムを通じてコメントを提示する場合もある。

授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス バズセッション	自分が社会問題に直面するとはどういうことだろう（担当 全員）
2	生活を支える「お金」1	学生にとってのお金 ～奨学金とブラックバイト～ ゲスト講師 大内裕和（中大大学） （担当 鈴木宗徳）
3	生活を支える「お金」2	体験報告と討議 「第1章 最低賃金を1500円に！ AEQUITAS がはじめた新しい『声のあげ方』」をもとに （担当 鈴木宗徳）
4	政治を動かす1	地方議員と地方議会「第5章 そろそろ政治の話しよう 地方議員と地方議会を知ろう」をもとに（担当 荒井・島本）
5	政治を動かす2	市民として政治に関わる 「第6章 保育園民営化問題に直面して」をもとに（担当 島本）
6	働く誇りを育む海外の労働運動	労働権に目覚めるボリビアの子どもたち（子ども労働組合）（担当 荒井）
7	中間総括討議	バズセッション（担当 全員）
8	「声をあげる」について考える	「声をあげる」自由とは何だろう（担当 荒井ほか）
9	社会を変える海外の市民運動	フランスの黄色いジャケット運動（担当 中筋）
10	国際的に動く1	国際的な貧困格差問題 「第8章 グローバル市民社会と私たち」 「第9章 人類史の流れを変えるグローバル・シフトと歴史的不正義」 をもとに（担当 吉村）
11	国際的に動く2	国際社会と歴史的不正義ーパレスチナ問題から考える（担当 岡野内）
12	メディアを動かす	ソーシャルメディアを活かす「第4章 社会を変えるためにソーシャルメディアを使う」をもとに （担当 藤代）
13	司法に訴える	不当解雇と闘う「第7章 教員の不当解雇と裁判闘争」をもとに
14	総括討議	現代を生きぬくために必要な力とはバズセッション ～実践体験の分析も交流～（担当 全員）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、事前にテキストを読んで準備してもらうときや、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうときもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにおき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体場で報告する。このグループ討議の記録は、講義後に学習支援システムを通じて記録担当者に提出してもらう。講義の感想・意見も講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中優子+法政大学社会学部「社会を変えるための実践論」講座編『そろそろ「社会運動」の話しよう—自分ゴトとして考え、行動する。社会を変えるための実践論』改訂版明石書店 2019年4月発行

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間総括討論会と総括討論会時に活用するため、それぞれの講義時の前に事前に提出してもらう中間レポート、最終レポート（各35%程度）を中心に、時々の宿題、ほぼ毎回回収する感想・意見を30%以内で加味して評価する。中間総括討論会と総括討論会は授業内試験に相当する。

【学生の意見等からの気づき】

宿題、レポートの締切を早め、宿題については教員が、また宿題については教育・受講生が事前に目を通すことができる時間を確保するようにしておく、討議が充実する。グループ討議に割り振る時間は、割り振られた受講生の力量によって大きく異なるので、当日の工夫とともにあらかじめ配慮して臨む必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【その他の重要事項】

社会問題について学んできた問題意識の高い学生が受講することを推奨する。すべての学生にグループ討議を通じて発言が求められる。また講義の目的・運営上の必要から150人までに受講を制限する。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したもののだけが受講登録を行うことができる。秋学期に受講登録を変更することはできない。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is to study how citizens/people can challenge social problems and difficulties by their own in the society. Lecturers offer various case studies of social movements. Students will discuss the way to survive in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

Learning Objectives

At the end of this course, students are expected to notice some social problems they face or will face and to take some positive action for themselves against them with some variety ways.

Learning activities outside of classroom

Students are required to prepare for written-reports for discussion in each class as well as at the mid-term discussion with the mid-term report and at the final discussion with the final report.

Grading Criteria /Policy

Grading is according to the total evaluation of Mid-term report (35%), Final report (35%), and class contribution/participation (30%). Students are required to contribute/participate in the mid-term discussion and the final discussion.

PRI100EA

コンピュータ入門

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実作業上役立つコンピュータについての知識をゼロから体系的に学習する。

【到達目標】

Windows パソコン、Word、Excel、PowerPoint の基本操作を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実操作により基本操作を学習する。課題には指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	Windows 基本 1	・ Windows 基本操作
第 2 週	Windows 基本 2	・ キーボード、ファイル
第 3 週	電子メール	・ 送受/転送/返信/CC/BCC
第 4 週	Word：文書作成ソフト	・ 基本操作
第 5 週	PowerPoint：発表資料作成ソフト	・ 基本操作
第 6 週	Excel(1)：計算表ソフト	・ 選択対象は何か
第 7 週	Excel(2)：詳細操作	・ 書式指定および関数
第 8 週	Excel(3)：詳細操作	・ ちょっと複雑な関数
第 9 週	Web についての基本知識	・ 超入門：HTML(Web ページの記述)
第 10 週	各アプリを組み合わせて文書作成	・ 複数の Office アプリの併用
第 11 週	覚えておくと便利なこと	・ コンピュータ上の共通操作
第 12 週	コンピュータの明と暗	・ 学習棄却やリテラシー
第 13 週	課題の作成	・ 構想を練る&草稿作成
第 14 週	課題の完成	・ 最終版作成+提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の質問は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30% 提出課題：70% で評価する。
・最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回の授業で有用な知識を提示する。

【学生が準備すべき機器他】

大学の実習室での授業が出来ない場合は、各自パソコンの用意が必要になる。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験等で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Systematic learning of useful computer knowledge through actual work from scratch.

【Learning Objectives】

Understand the basic operation of a Windows PC, Word, Excel, and PowerPoint.

【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT100EA

プログラミング入門

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングについての基礎知識を包括的に理解する。

【到達目標】

サンプルを見つけて簡単なプログラミングを作成できるレベルを達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing および Java 言語のプログラミングの勘所を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部	・ プログラミング言語の歴史と衰勢 ・ サンプル・プログラムの説明
第 2 週	導入部の続き	・ コメントは重要
第 3 週	導入部の続き 描画（グラフィックス） マルチメディアおよび Java 言語	・ 数値と文字について ・ 音を出してみる ・ Java 言語とは？
第 4 週	演算	・ 定数、変数、算術操作
第 5 週	数値の表現および文字 コードについて	・ 10 進以外の数値表現 ・ 文字コードの概念
第 6 週	条件分岐 (1)	・ if 文という概念。
第 7 週	条件分岐 (2)	・ switch 文という概念
第 8 週	繰り返し処理	・ for, while 文という概念。
第 9 週	データの扱い	・ 文字&数値データ
第 10 週	配列	・ 配列って何？ - 具体例と操作方法
第 11 週	人間との「対話」	・ キーボード入力を処理に反映させる
第 12 週	Java と Eclipse	・ エンジニアの第一歩目！
第 13 週	提出課題の準備	・ 提出課題を検討
第 14 週	課題提出	・ 課題を仕上げ提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の質問は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30% 提出課題：70% で評価する
・最終課題提出は必須である

【学生の意見等からの気づき】

・途中で「ついていけない」と悲観しないでください。楽観的に行きましょう。

【学生が準備すべき機器他】

大学の実習室での授業が出来ない場合は、各自パソコンの用意が必要になる。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Gain a comprehensive understanding of the fundamentals of programming.

【Learning Objectives】

Enable create simple programs by referring to samples.

【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT100EA

コンピュータ入門

石井 由起

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解し、基礎的な操作を習得します。大学での学習と、実社会で必要とされる、発表やレポート作成などの表現を自在にこなすための情報スキルを身につけます。

【到達目標】

大学の授業で横断的に必要なスキルである、情報を検索し、分析し、文書や web ページ、プレゼンテーションで伝える技能を身につけます。具体的には、基礎的なソフトウェア、Microsoft Office を活用して文書や報告の作成、発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワードやエクセル、インターネットなどを利用して、コンピュータ・リテラシーの技量を高めます。コンピュータの仕組みや成り立ち、その発達が社会に与える影響などについても考察します。

課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習室の使用やルールの説明
第 2 回	ネットワーク 前編	メール設定とネチケット
第 3 回	ネットワーク 中編	アカデミックな論文、プレゼンテーションのための情報検索
第 4 回	ネットワーク 後編	ネットワークを活用した情報の共有と発信
第 5 回	ワープロ 前編	ワードの基本操作
第 6 回	ワープロ 後編	ワード文書の作成
第 7 回	表計算 前編	エクセルの基本操作
第 8 回	表計算 中編	エクセルの関数
第 9 回	表計算 後編	エクセルでグラフ作成
第 10 回	ワープロと表計算	マクロ機能
第 11 回	HTML 前編	HTML の基本構造
第 12 回	HTML 後編	HTML によるレイアウト
第 13 回	ホームページ制作	ホームページ制作 前編
第 14 回	ホームページ制作	ホームページ制作 後編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は前の回の内容を基に積み上げてスキルアップします。復習と発展課題にも挑戦しましょう。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセス

【その他の重要事項】

毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して課題に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

To understand the basic knowledge about computer and network systems.

To manipulate Operation Systems and Microsoft Office applications for academic works.

To analyze reference information and data for creating academic reports and presentation.

PRI100EA

プログラミング入門

石井 由起

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初歩的なプログラミングを通して、既製のアプリケーションの基本操作だけの受け身のコンピュータ利用から、より積極的に問題解決思考でコンピュータと関わるための実習です。

【到達目標】

プログラミングの基礎を身につけ、ビジュアル表現を用いた簡単なプログラムを作成することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing を駆使して制作する実習です。プログラミングの一連の過程を体験し、段階的な解説と実習で、各自成果物を作成します。課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ 前編	プログラミング用語の説明
第 2 回	イントロ 中編	プログラミングの心構え
第 3 回	イントロ 後編	プログラミングの作法
第 4 回	変数 前編	2 進数にまつわる話
第 5 回	変数 中編	数値データの扱い方
第 6 回	変数 後編	文字データの扱い方
第 7 回	定数	値が一定しているデータの話
第 8 回	条件分岐 if 文	単純な分岐
第 9 回	条件分岐 switch 文	複雑な分岐
第 10 回	繰り返し for 文	何回繰り返すのか？ の話
第 11 回	繰り返し while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 12 回	繰り返し do~while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 13 回	アニメーション 前編	動画の作り方話
第 14 回	アニメーション 後編	簡単な動画の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は前の回の内容を基に積み上げてスキルアップします。復習と発展課題に取り組みましょう。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。課題（提出物）は実習の内容を、どの程度、理解しているか？ を確認するために行います。課題（提出物）で主に評価するのは、プログラム制作に取り組んだプロセスです。次いでプログラムの完成度です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。授業補完計画です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必要です。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline (in English)】

This course provides basic programming practice training and critical thinking experiences.

Upon the completion of this course, the students will be able to:

create visual programming artifacts by using Processing applications.

accomplish problem-solving approaches through programming activities.

Preparation and completion of the weekly projects will be required (2 hours/ week).

PRI100EA

コンピュータ入門

近藤 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータをより有効かつ安全に活用するための知識と技術の修得

【到達目標】

レポートや資料作成のような大学生活に必要な技術を身に付けつつ、その後も実社会で通用するコンピュータの基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業を大きく5つの5つの単元に分け、各単元の中で演習を積み重ね最後に課題を自力で解く。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。演習、課題はその回か次回の授業内で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	全体の説明、コンピュータの仕組みと基本操作
第2回	データの保存、メールの使い方	データの保存方法とその違い、法政大学 Gmail の使い方
第3回	インターネット (1)	インターネット概論
第4回	インターネット (2)	情報倫理と身近なサイバー犯罪、情報セキュリティ
第5回	インターネット (3)	レポート制作
第6回	Web ページ (1)	HTML の基本構造とレポートのHTML化
第7回	Web ページ (2)	レポートの相互評価
第8回	Word(1)	基本操作
第9回	Word(2)	レポートの整形
第10回	Excel(1)	基本操作とグラフの作成
第11回	Excel(2)	式と関数
第12回	Excel(3)	課題制作
第13回	PowerPoint(1)	基本操作
第14回	PowerPoint(2)	課題制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単元内では内容が連続しているため、一度休むとそれ以降の受講に影響する。やむを得ず欠席した場合には必ず自習しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各単元の課題の達成度を重視しつつ、毎回の演習の成果とあわせて総合的に評価する。平常点 (50%)、インターネット課題 (10%)、Web ページ課題 (10%)、Word 課題 (10%)、Excel 課題 (10%)、PowerPoint 課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

難易度の評価にばらつきが大きい。基準は上げ過ぎないようにしつつ応用課題を組み込んでいく。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces knowledge and skills to make more effective and safe use of computers and the Internet to students taking this course.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to acquire the skills necessary for college life and the knowledge that can be used in society.

[Learning activities outside of classroom]

Students who are absent will study by themselves by the next time. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class exercises: 50%, the Internet assignment: 10%, HTML assignment: 10%, Word assignment: 10%, Excel assignment: 10%, PowerPoint assignment: 10%

COT100EA

プログラミング入門

近藤 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基本技術を習得すると共に、プログラミング的思考を学ぶ。

【到達目標】

プログラムの基本的な命令や制御構造の書き方を理解する。プログラムの目的を意識して流れを考えながら全体を組み立てる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

説明を聞きながら練習問題を解き進め、最後にその回の課題を自力で解く。次回授業冒頭で課題の解説を聞く事で次の学習につなげる。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。演習、課題はその回か次回の授業内で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図形描画	座標を指定し画面に図形を描画する
第2回	変数	変数の型と基本的な使い方
第3回	繰り返し描画	setup 関数と draw 関数による繰り返し、変数のスコープ
第4回	ランダム	必要な範囲の乱数を発生させる
第5回	条件分岐 (1)	if 文による基本的な分岐構造、条件の記述方法
第6回	第1回テスト	ここまでの内容を確認する
第7回	解答と練習問題	第1回テストの解説と練習問題
第8回	条件分岐 (2)	複数条件がある場合
第9回	繰り返し構造	for 文を使用した繰り返し構造
第10回	マウスで描画	マウスの位置座標を用いたプログラミング
第11回	マウスクリックで操作	マウスクリックによる入力
第12回	第2回テスト	全体の内容の確認
第13回	解答と練習問題	第2回テストの解説と練習問題
第14回	自由課題	自分でプログラムを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全ての内容が積み重ねになっており、前回までの内容を理解していないと理解が覚えなくなる。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

Processing をはじめよう 第2版 Casey Reas, 他 オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

次の配分を基本とし総合的に評価する。平常点 (30%)、第1回テスト (30%)、第2回テスト (30%)、自由課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しく付いていけないと言う学生が、必ずしも評価が低い訳ではない。なんとなく出来たのではなく、分かったと自分で思えるようにする。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces fundamental technique of programming and computational thinking to students taking this course.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand the basics of programming and to acquire the skills to build algorithms.

[Learning activities outside of classroom]

Students who are absent will study by themselves by the next time. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class exercises: 30%, first examination: 30%, second examination: 30%, final Assignment: 10%

PRI100EA

コンピュータ入門

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる情報処理スキルを習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識と、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Word/Excel/PowerPoint の活用法を網羅的に学習する。

【到達目標】

各自の学習や研究を効率的に進めていくための情報リテラシーと情報処理スキルを習得し、自力でソフトを使いこなせるようになることを目標とする。具体的には、1) Word を使って図表や画像を組み込んだ文書を作成できる、2) Excel を使ってデータの集計・計算、編集・加工、関数の適用、見映えの良い図表を作成できる、3) PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作成できる、4) HTML と CSS を使って簡単な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った小課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて、優れた提出物をサンプルとしてクラス全体に見せたりしながら、課題の解説や講評（フィードバック）を行う。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の目標・進め方等の説明、PC の基本操作、メールのリテラシー
第 2 回	Word (1) 初級編	Word の基本設定・基本操作、タッチタイピング、ファイルの保存・管理
第 3 回	Word (2) 中級編	図表の挿入・ワードアート等、文書をワンランクアップさせる Word の技
第 4 回	Powerpoint (1) 初級編	Powerpoint の基本設定・基本操作、プレゼンテーションの組み立て方
第 5 回	Powerpoint (2) 中級編	テンプレートの利用、アニメーションの設定、発表資料の作成と実演
第 6 回	Web ページ制作 (1)	Web ページの仕組みと構造、HTML と CSS による簡単な Web ページ制作
第 7 回	Web ページ制作 (2)	HTML と CSS による簡単な Web ページ制作 (続き)
第 8 回	Excel (1) 初級編	Excel の基本設定・基本操作、データ入力、オートフィル、セルの書式設定
第 9 回	Excel (2) 初級編	Excel による四則演算、集計機能によるデータ処理、相対参照と絶対参照
第 10 回	Excel (3) 中級編	四則演算・集計機能 (続き)、Excel の基本的な関数を使ったデータ処理
第 11 回	Excel (4) 中級編	ピボットテーブルによるクロス集計表の作成、優れた視覚的表現の追求
第 12 回	Excel (5) 中級編	目的に合った見映えの良い各種グラフの作成、優れた視覚的表現の追求
第 13 回	Excel (6) 上級編	Excel による効率的なデータ処理の上級技、Excel と他のソフトの複合技
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する、総括および秋学期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。パソコンの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。日頃から積極的にパソコンを使うことを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline (in English)】

This course is a practical lesson that aims to acquire basic information processing skills that are useful not only in university life but also after becoming a working member of society. In this course, we will comprehensively learn basic knowledge about computers and the Internet and how to use Microsoft Word / Excel / PowerPoint which is standard software in the Windows environment. Students need to review the insufficient understanding during classroom and complete tasks that were not completed during classroom by the next lecture. Grading will be comprehensively decided based on the performance of the task given in each lecture (50%), and the performance of the final task (50%).

COT100EA

プログラミング入門

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Processing というプログラミング言語の学習を通して、プログラミングにおける基本的なコードの書き方と考え方を習得することを目的とする実習形式の授業である。

【到達目標】

Processing の基本的なコードの意味を理解し、自分のアイデアをコードで書けるようになること、そしてオリジナルのグラフィックスを作れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はコードや構文について説明した上でサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて、優れた提出物をサンプルとしてクラス全体に見せたりしながら、課題の解説や講評（フィードバック）を行う。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、Processing への導入
第 2 回	Processing の基礎	Processing の基本事項と作業手順
第 3 回	図形描画 (1)	基本図形の書き方、色のつけ方
第 4 回	図形描画 (2)	より複雑な図形の書き方、色のつけ方
第 5 回	変数と計算、画像の表示	変数の使い方、画像の表示のさせ方
第 6 回	繰り返し、乱数	繰り返し構文の書き方、乱数の生成
第 7 回	条件文	条件文・条件分岐 (if 文) の書き方
第 8 回	文字を描く	文字を表示させるコードの書き方
第 9 回	動きをつける (1)	直線的な動きをつけるコードの書き方
第 10 回	動きをつける (2)	曲線的な動きをつけるコードの書き方
第 11 回	動きをつける (3)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 12 回	動きをつける (4)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 13 回	最終課題作品制作	各自で最終課題作品を制作する
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。プログラミングのスキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていく。そのためには、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。コードの意味を理解し、粘り強く試行錯誤を重ねて、オリジナリティの高いビジュアル表現を追求してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を越えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline (in English)】

This course is a practical lesson that aims to acquire basic code writing and general idea in programming through program creation by Processing. At the end of this course, students are expected to be able to create their own original graphics. Students need to review the insufficient understanding during classroom and complete tasks that were not completed during classroom by the next lecture. Grading will be comprehensively decided based on the performance of the task given in each lecture (50%), and the performance of the final task (50%).

PRI100EA

コンピュータ入門

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、Word/Excel/PowerPoint の操作を網羅的に行う。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文において一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excel を使って分析し、Word を使って報告書にまとめ、Powerpoint を使って発表を行うという、一連の作業ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業ではレポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられたときにどのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」するという一連の作業を行えばいいのかを、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、学期末に最終プレゼンテーションとフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Windows の基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
2.	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法とネチケット
3.	情報の検索と収集	google 等の検索エンジンを使用した情報の検索、ファクトチェック
4.	情報の分析 (1)	Excel の基本操作
5.	情報の分析 (2)	表の作成と集計
6.	情報の分析 (3)	関数を使用した計算
7.	マクロの利用 (1)	Excel 上で簡単なマクロの記録
8.	マクロの利用 (2)	VBA の簡単な紹介と基礎的なプログラムの作成
9.	情報のまとめ	適切な図表に分析結果をまとめる
10.	報告書の作成	Word を用いた報告書の作成
11.	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画法
12.	発表資料の作成 (1)	PowerPoint の基本操作
13.	発表資料の作成 (2)	テーマ・テンプレートの利用、アニメーションの設定
14.	ホームページ制作	html を利用した簡単なホームページの制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングが全ての基本となります。何度も練習して、少しでも早く正確に文字入力ができるように努力してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題 (40%)
・最終発表課題 (30%)
・平常点 (30%)
による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度や難易度の調整に心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

COT100EA

プログラミング入門

諸上 茂光

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

JAVA(processing)を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ビジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感することが最大の目標である。その上で、本実習を通して、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることを期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

簡易言語の processing を利用する事でプログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業では毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムを作成・実行・修正するという一連の作業手順を行う。授業内で適宜実習時間を設けるがこの際に質問を受けフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明と、JAVA についての講義
2.	processing の基礎	processing の概念と基本的な利用法の説明
3.	processing による図形描画（1）	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画
4.	processing による図形描画（2）	色の指定とカラーモード
5.	変数、基礎プログラミング	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
6.	processing による図形の制御（1）	変数を用いた図形描画
7.	processing による図形の制御（2）	図形の移動と回転
8.	processing による図形の制御（3）	分岐・繰り返し処理を利用した複数図形の描画
9.	processing におけるインタラクティブ制御（1）	マウス入力を反映
10.	processing におけるインタラクティブ制御（2）	キーボード入力を取り込む
11.	最終課題作成（1）	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成（2）	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成（3）	各自で最終課題を作成
14.	課題発表	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いたら覚えられないような暗記科目ではありません。空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられないようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・小課題に対する評価 (40%)
・最終課題に対する評価 (30%)
・平常点 (30%)
による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度の調整と配布資料の改良によって受講生の理解度を向上させる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire the basic concepts and knowledge of programming using JAVA(processing).

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30% .

PRI100EA

コンピュータ入門

森 幹彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、Word/Excel/PowerPoint の操作を網羅的に行う。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文において一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excel を使って分析し、Word を使って報告書にまとめ、Powerpoint を使って発表を行うという、一連の作業ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業ではレポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられたときにどのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」という一連の作業を行えばいいのかを、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、学期末に最終プレゼンテーションを行う。

授業内で行う演習課題について適宜フィードバックをしながら進めていく。また、レポート課題について、全体に対してフィードバックを行う。

授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Windows の基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
第 2 回	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法
第 3 回	情報の検索と収集	Google 等の検索エンジンを使用した情報の検索、ファクトチェック
第 4 回	情報の分析（1）	Excel の基本操作
第 5 回	情報の分析（2）	表の作成と集計
第 6 回	情報の分析（3）	関数を使用した計算
第 7 回	情報の分析（4）	関数を使用した集約
第 8 回	情報の可視化（1）	データの図表による表示
第 9 回	情報の可視化（2）	データの図表による表示
第 10 回	報告書の作成	Word を用いた報告書の作成
第 11 回	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画法
第 12 回	発表資料の作成（1）	PowerPoint の基本操作
第 13 回	発表資料の作成（2）	テーマ・テンプレートの利用、アニメーションの設定
第 14 回	ホームページ制作	html を利用した簡単なホームページの制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングは全ての基本となる。何度も練習して、少しでも早く正確に文字入力ができるようにしなければならない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（70%）、最終発表課題（30%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【その他の重要事項】

質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

The goal is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

COT100EA

プログラミング入門

森 幹彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Java (Processing) を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ビジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感することが最大の目標である。その上で、本実習を通して、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

簡易言語の Processing を利用する事でプログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業では毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムを作成・実行・修正するという一連の作業手順を行う。

授業内で行う演習課題について適宜フィードバックをしながら進めていく。また、レポート課題について、全体に対してフィードバックを行う。

授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習の概要と Java についての説明
第 2 回	Processing の基礎	Processing の概念と基本的な利用法の説明
第 3 回	Processing による図形描画（1）	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画
第 4 回	Processing による図形描画（2）	色の指定とカラーモード
第 5 回	変数、基礎プログラミング	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
第 6 回	Processing による図形の制御（1）	変数を用いた図形描画
第 7 回	Processing による図形の制御（2）	図形の移動と回転
第 8 回	Processing による図形の制御（3）	分岐・繰り返し処理を利用した複数図形の描画
第 9 回	Processing におけるインタラクティブ制御（1）	マウス入力を反映
第 10 回	Processing におけるインタラクティブ制御（2）	キーボード入力を取り込む
第 11 回	最終課題作成（1）	各自で最終課題を作成
第 12 回	最終課題作成（2）	各自で最終課題を作成
第 13 回	最終課題作成（3）	各自で最終課題を作成
第 14 回	課題発表	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いて覚えられるような暗記科目ではありません。空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられるように努力しましょう。授業内に終わらなかった作業は次回までに完成させてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (70%)、最終発表課題 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【その他の重要事項】

質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

In this class, students learn the basic concepts and knowledge of programming through the creation of programs using Java (Processing).

The main goal is to experience the world of programming without fear and with confidence while using processing, which provides excellent visual expression. Through this practical training, students will be able to develop an interest in more advanced programming, which will lead them to take more advanced courses.

PRI100EA

コンピュータ入門

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生としての「学び」を円滑にするための、最低限必要なコンピューターのスキルの習得

【到達目標】

Microsoft Office 関連の操作の習熟。HTML についての理解。ファイル管理の徹底。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、これから大学生活をおくるために最低限必要な、コンピューターの基礎知識を確認・習得することを目的とします。具体的にはワード／パワーポイント／エクセル／HTML の作成などを行います。単なるスキルの習得を目指すだけでなく、「何故これが必要なのか？」ということを中心に考えながら、授業を進めていければと思っています。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。

※ 秋学期の「プログラミング入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの確認。授業の進行についての説明。各自「自己紹介」の作成。
2	Word ①	アウトラインモードによる文章作成。ファイル管理についての説明。
3	Word ②	前回の続き。文章の構造化とは何かについて考える。
4	Power Point ①	word で作成した資料をもとに、プレゼンテーションの作法を学習する。
5	Power Point ②	前回の続き。プレゼンテーション用資料の完成
6	Power Point ③	プレゼンテーションの実際。発表会。
7	Excel ①	表計算ソフトを使用した簡単な集計の説明。基本操作の確認。
8	Excel ②	表計算ソフトを使用したやや難しい集計の実習。基本的な関数の確認と、組み合わせ。
9	Excel ③	マクロを使用したデータベースの処理。
10	Excel ④	文系的表計算ソフト活用術。文献リストの作成。
11	HTML ①	Word～Power Point 作品をもとにした、ホームページの草案づくり。
12	HTML ②	ホームページ（トップページ）の作成。
13	HTML ③	ホームページ（サブページ）の作成。
14	HTML ④	簡単な CSS（スタイルシート）を用いた、ホームページ全体の調整。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させること。それが復習の役割を担うはずです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、HTML 課題（90 %）

※ Microsoft Office 関連の課題評価は、HTML の作成が不十分だった際の補助要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつひとつの作業について、「何故そうなるのか？・なぜそれが必要なのか？」を細かく説明できれば良いと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを用意してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline (in English)】

- Course outline -

This course introduces the fundamentals and the applications of personal computer operation to students taking this course.

- Learning Objectives -

The goals of this course are to proficiency in Microsoft Office related operations, understanding of HTML, and knowledge of file management.

- Learning activities outside of classroom -

No special preparation is required. However, due to the progression of the class, any work that is not completed in class should be completed until the following week. This should serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria / Policy -

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination(HTML Works): 90%, in class contribution: 10%

*The evaluation of Microsoft Office-related assignments is a requirement to assist in the insufficient creation of HTML.

COT100EA

プログラミング入門

加藤 徹郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎知識の習得。

【到達目標】

プログラミングの初歩的な作業を、スムーズに運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、初心者を対象として、プログラミングの基本的な知識の習得を目指します。具体的には、Processingを用いてプログラミングの実際と面白さを体験するとともに、プログラム構築の基本的な理屈と文法を学んでもらいます。まずは簡単な記述からはじめつつ、プログラムの組み方を、経験的に学んでいきましょう。

※ 春学期の「コンピューター入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進行についての説明。 Processingの起動と保存。
2	Processing ①	簡単な図形の作成と関数について。
3	Processing ②	変数についての初歩。簡単な図形を変数を用いて描いてみる。
4	Processing ③	Processingに特有な変数の説明。 setup/draw関数について。
5	Processing ④	制御文についての考え方。条件分岐（if文）の解説。
6	Processing ⑤	演算子と変数の関係。繰り返し（for文）について。
7	Processing ⑥	繰り返し（for文）についての解説。 第6回の内容をさらに深めていく。
8	Processing ⑦	繰り返し（while文）について。for文との相違について。
9	Processing ⑧	条件分岐と繰り返しを組み合わせたプログラムの作成。
10	Processing ⑨	物体に動きをつけるアニメーションの作成。
11	Processing ⑩	Processingにおける画像と文字の挿入。
12	Processing ⑪	配列についての解説。コンソールボックスの使用を試してみる。
13	Eclipse ①	本格的なJavaへの第一歩。プロジェクト/パッケージクラスなどについての基本的な考え方について解説。
14	Eclipse ②	体験入門編。こちらが用意したテンプレートをもとに、Eclipseを使用してどのようなことができるのか、体験してみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはずで、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、最終課題＝Processingのオリジナル作品（90%）

【学生の意見等からの気づき】

プログラミンの“コツ”を、なるべく分かりやすく、繰り返し説明することを心がけますので、若干難しいと思ってもあきらめず、授業に参加するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

USBメモリの用意。ファイル管理は各自で徹底すること。

【Outline (in English)】

- Course outline -

This course introduces the basic of programming with Processing to students taking this course.

- Learning Objectives -

The goals of this course are to be able to smoothly operate the rudimentary tasks of programming.

- Learning activities outside of classroom -

No special preparation is required. However, due to the progression of the class, any work that is not completed in class should be completed until the following week. This should serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria / Policy -

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination(Your own programming work): 90%, in class contribution: 10%

PRI100EA

コンピュータ入門

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生としての「学び」を円滑にするための、最低限必要なコンピューターのスキルの習得

【到達目標】

Microsoft Office 関連の操作の習熟。HTML についての理解。ファイル管理の徹底。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、これから大学生活をおくるために最低限必要な、コンピューターの基礎知識を確認・習得することを目的とします。具体的にはワード／パワーポイント／エクセル／HTML の作成などを行います。単なるスキルの習得を目指すだけでなく、「何故これが必要なのか？」ということを中心に考えながら、授業を進めていければと思っています。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。

※ 秋学期の「プログラミング入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの確認。授業の進行についての説明。各自「自己紹介」の作成。
2	Word ①	アウトラインモードによる文章作成。ファイル管理についての説明。
3	Word ②	前回の続き。文章の構造化とは何かについて考える。
4	Power Point ①	word で作成した資料をもとに、プレゼンテーションの作法を学習する。
5	Power Point ②	前回の続き。プレゼンテーション用資料の完成
6	Power Point ③	プレゼンテーションの実際。発表会。
7	Excel ①	表計算ソフトを使用した簡単な集計の説明。基本操作の確認。
8	Excel ②	表計算ソフトを使用したやや難しい集計の実習。基本的な関数の確認と、組み合わせ。
9	Excel ③	マクロを使用したデータベースの処理。
10	Excel ④	文系的表計算ソフト活用術。文献リストの作成。
11	HTML ①	Word～Power Point 作品をもとにした、ホームページの草案づくり。
12	HTML ②	ホームページ（トップページ）の作成。
13	HTML ③	ホームページ（サブページ）の作成。
14	HTML ④	簡単な CSS（スタイルシート）を用いた、ホームページ全体の調整。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させること。それが復習の役割を担うはずです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、HTML 課題（90 %）

※ Microsoft Office 関連の課題評価は、HTML の作成が不十分だった際の補助要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつひとつの作業について、「何故そうなるのか？・なぜそれが必要なのか？」を細かく説明できれば良いと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを用意してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline (in English)】

- Course outline -

This course introduces the fundamentals and the applications of personal computer operation to students taking this course.

- Learning Objectives -

The goals of this course are to proficiency in Microsoft Office related operations, understanding of HTML, and knowledge of file management.

- Learning activities outside of classroom -

No special preparation is required. However, due to the progression of the class, any work that is not completed in class should be completed until the following week. This should serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria / Policy -

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination(HTML Works): 90%, in class contribution: 10%

*The evaluation of Microsoft Office-related assignments is a requirement to assist in the insufficient creation of HTML.

COT100EA

プログラミング入門

加藤 徹郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎知識の習得。

【到達目標】

プログラミングの初歩的な作業を、スムーズに運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、初心者を対象として、プログラミングの基本的な知識の習得を目指します。具体的には、Processingを用いてプログラミングの実際と面白さを体験するとともに、プログラム構築の基本的な理屈と文法を学んでもらいます。まずは簡単な記述からはじめつつ、プログラムの組み方を、経験的に学んでいきましょう。

※ 春学期の「コンピューター入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進行についての説明。 Processingの起動と保存。
2	Processing ①	簡単な図形の作成と関数について。
3	Processing ②	変数についての初歩。簡単な図形を変数を用いて描いてみる。
4	Processing ③	Processingに特有な変数の説明。 setup/draw関数について。
5	Processing ④	制御文についての考え方。条件分岐（if文）の解説。
6	Processing ⑤	演算子と変数の関係。繰り返し（for文）について。
7	Processing ⑥	繰り返し（for文）についての解説。 第6回の内容をさらに深めていく。
8	Processing ⑦	繰り返し（while文）について。for文との相違について。
9	Processing ⑧	条件分岐と繰り返しを組み合わせたプログラムの作成。
10	Processing ⑨	物体に動きをつけるアニメーションの作成。
11	Processing ⑩	Processingにおける画像と文字の挿入。
12	Processing ⑪	配列についての解説。コンソールボックスの使用を試してみる。
13	Eclipse ①	本格的なJavaへの第一歩。プロジェクト/パッケージクラスなどについての基本的な考え方について解説。
14	Eclipse ②	体験入門編。こちらが用意したテンプレートをもとに、Eclipseを使用してどのようなことができるのか、体験してみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはず。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、最終課題＝Processingのオリジナル作品（90%）

【学生の意見等からの気づき】

プログラミンの“コツ”を、なるべく分かりやすく、繰り返し説明することを心がけますので、若干難しいと思ってもあきらめず、授業に参加するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

USBメモリの用意。ファイル管理は各自で徹底すること。

【Outline (in English)】

- Course outline -

This course introduces the basic of programming with Processing to students taking this course.

- Learning Objectives -

The goals of this course are to be able to smoothly operate the rudimentary tasks of programming.

- Learning activities outside of classroom -

No special preparation is required. However, due to the progression of the class, any work that is not completed in class should be completed until the following week. This should serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria / Policy -

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination(Your own programming work): 90%, in class contribution: 10%

PRI100EA

コンピュータ入門

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる情報処理スキルを習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識と、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Word/Excel/PowerPoint の活用法を網羅的に学習する。

【到達目標】

各自の学習や研究を効率的に進めていくための情報リテラシーと情報処理スキルを習得し、自力でソフトを使いこなせるようになることを目標とする。具体的には、1) Word を使って図表や画像を組み込んだ文書を作成できる、2) Excel を使ってデータの集計・計算、編集・加工、関数の適用、見映えの良い図表を作成できる、3) PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作成できる、4) HTML と CSS を使って簡単な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った小課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて、優れた提出物をサンプルとしてクラス全体に見せたりしながら、課題の解説や講評（フィードバック）を行う。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の目標・進め方等の説明、PC の基本操作、メールのリテラシー
第 2 回	Word (1) 初級編	Word の基本設定・基本操作、タッチタイピング、ファイルの保存・管理
第 3 回	Word (2) 中級編	図表の挿入・ワードアート等、文書をワンランクアップさせる Word の技
第 4 回	Powerpoint (1) 初級編	Powerpoint の基本設定・基本操作、プレゼンテーションの組み立て方
第 5 回	Powerpoint (2) 中級編	テンプレートの利用、アニメーションの設定、発表資料の作成と実演
第 6 回	Web ページ制作 (1)	Web ページの仕組みと構造、HTML と CSS による簡単な Web ページ制作
第 7 回	Web ページ制作 (2)	HTML と CSS による簡単な Web ページ制作（続き）
第 8 回	Excel (1) 初級編	Excel の基本設定・基本操作、データ入力、オートフィル、セルの書式設定
第 9 回	Excel (2) 初級編	Excel による四則演算、集計機能によるデータ処理、相対参照と絶対参照
第 10 回	Excel (3) 中級編	四則演算・集計機能（続き）、Excel の基本的な関数を使ったデータ処理
第 11 回	Excel (4) 中級編	ピボットテーブルによるクロス集計表の作成、優れた視覚的表現の追求
第 12 回	Excel (5) 中級編	目的に合った見映えの良い各種グラフの作成、優れた視覚的表現の追求
第 13 回	Excel (6) 上級編	Excel による効率的なデータ処理の上級技、Excel と他のソフトの複合技
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する、総括および秋学期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。パソコンの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。日頃から積極的にパソコンを使うことを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を越えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline (in English)】

This course is a practical lesson that aims to acquire basic information processing skills that are useful not only in university life but also after becoming a working member of society. In this course, we will comprehensively learn basic knowledge about computers and the Internet and how to use Microsoft Word / Excel / PowerPoint which is standard software in the Windows environment. Students need to review the insufficient understanding during classroom and complete tasks that were not completed during classroom by the next lecture. Grading will be comprehensively decided based on the performance of the task given in each lecture (50%), and the performance of the final task (50%).

COT100EA

プログラミング入門

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Processing というプログラミング言語の学習を通して、プログラミングにおける基本的なコードの書き方と考え方を習得することを目的とする実習形式の授業である。

【到達目標】

Processing の基本的なコードの意味を理解し、自分のアイデアをコードで書けるようになること、そしてオリジナルのグラフィックスを作れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はコードや構文について説明した上でサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて、優れた提出物をサンプルとしてクラス全体に見せたりしながら、課題の解説や講評（フィードバック）を行う。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、Processing への導入
第 2 回	Processing の基礎	Processing の基本事項と作業手順
第 3 回	図形描画 (1)	基本図形の書き方、色のつけ方
第 4 回	図形描画 (2)	より複雑な図形の書き方、色のつけ方
第 5 回	変数と計算、画像の表示	変数の使い方、画像の表示のさせ方
第 6 回	繰り返し、乱数	繰り返し構文の書き方、乱数の生成
第 7 回	条件文	条件文・条件分岐 (if 文) の書き方
第 8 回	文字を描く	文字を表示させるコードの書き方
第 9 回	動きをつける (1)	直線的な動きをつけるコードの書き方
第 10 回	動きをつける (2)	曲線的な動きをつけるコードの書き方
第 11 回	動きをつける (3)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 12 回	動きをつける (4)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 13 回	最終課題作品制作	各自で最終課題作品を制作する
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。プログラミングのスキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていく。そのためには、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。コードの意味を理解し、粘り強く試行錯誤を重ねて、オリジナリティの高いビジュアル表現を追求してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を越えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline (in English)】

This course is a practical lesson that aims to acquire basic code writing and general idea in programming through program creation by Processing. At the end of this course, students are expected to be able to create their own original graphics. Students need to review the insufficient understanding during classroom and complete tasks that were not completed during classroom by the next lecture. Grading will be comprehensively decided based on the performance of the task given in each lecture (50%), and the performance of the final task (50%).

PRI100EA

コンピュータ入門

林田 和人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決するためには、コンピュータやインターネットの利用が必須です。

そこで、自分の問題解決のための道具として、コンピュータやインターネットを自在に活用できるように、基礎的な能力を身につけましょう。使い方を覚えるだけではなく、自分で問題を発見し、それに対する解決策を考えるとといった、アウトプットする能力も身につけます。

【到達目標】

コンピュータのいろいろな利用方法を学び、自分の問題解決に使えるようになることを到達目標とします。

具体的には、ワープロ、表計算ソフトの使い方を習得するだけでなく、自分で問題を見つけ、それに対する回答として考えたアイデアを、プレゼンテーションソフトやホームページで表現します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ファイル操作、メールやインターネット検索、また表計算ソフトを活用することで情報力を身につけましょう。そして、プレゼンテーションの作成や、HTML を用いてホームページを作成することで表現力を身につけます。プレゼンテーションやホームページで、自分の考えたアイデアを表現することで、アウトプットする能力を伸ばします。また、表計算ソフトをさらに活用できるように、並べ替えなどの機能も学びます。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

とにかく使ってみる、やってみることを実践していきます。授業内での活動を充実したものにするため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎的なツールの習得	ガイダンス、パスワード変換、日本語変換（変換対象場所の移動、変換対象の変更）、ショートカットキー、拡張子、階層構造、ファイルの複製、圧縮してメール送信
第 2 回	基礎的なネットワークの習得	クラウドの説明、ショートカットキーなどのおさらい、日本語入力の練習、「最近の生活」を内容とする文章の作成
第 3 回	Word での入力習得	Word の使い方、入力の練習として「自己紹介」の下書きを作成
第 4 回	Word での画像貼り付けなどの習得	Word に写真を貼る、Word に表を使って写真を貼る、フォルダで整理、「写真入りの紹介」を作成
第 5 回	EXCEL の基本を習得	ファイルについて、フォルダについて、EXCEL の基礎を伝える、「フォルダを作成してファイルを整理」を実践し階層構造を理解する
第 6 回	EXCEL でグラフ作成の習得	グラフの作成、表の作成、グラフや表を Word に貼り付け、pdf への変換、「Word を pdf へ変換」する練習
第 7 回	EXCEL で相関分析や回帰分析の習得	散布図を描く、相関係数を計算する、回帰直線を表示する、「回帰直線などを表示するグラフ」の作成
第 8 回	「課題 1（相関分析と回帰分析）」の作成	渡したデータを使用し、自分なりの視点で相関分析と回帰分析を行い「課題 1」を作成
第 9 回	「課題 1（相関分析と回帰分析）」の発表	自分なりの視点で相関分析と回帰分析を行った「課題 1」を発表し、クラスで議論する
第 10 回	PowerPoint の習得	PowerPoint の使い方、「写真と図形と文字で作ったもの（ポスターみたいな）」を提出
第 11 回	「課題 2（問題を解決する面白いアイデア）」の作成	世の中の問題を見つけ、解決する空間やモノを発想し、PowerPoint でプレゼンテーションを作成

- 第 12 回 「課題 2 (問題を解決する面白いアイデア)」の作成
2
前週に引き続き、世の中の問題を見つけ、解決する空間やモノを発想し、PowerPoint でプレゼンテーションを作成
- 第 13 回 「課題 2 (問題を解決する面白いアイデア)」の発表
「見つけた世の中の問題を解決する空間やモノの発想」を発表し、クラスで議論する
- 第 14 回 HTML の習得
HTML の学習、「簡単なホームページ」を作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

授業時に、適宜 pdf やデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

課題 1 点 (30%)

課題 2 点 (50%)

平常点 (20%)

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。

課題の評価は、授業で学んだことへの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物 (pdf など) を配布する。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進度に関わります。病欠など以外は頑張って出席すること。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline (in English)】

In order to solve the problem, it is necessary to use a computer and the Internet.

This course introduces how to use Word and Excel, how to use Power Point and how to use the Internet to students taking this course.

The goals of this course are to ability to use computers and the Internet freely, ability to identify problems, and ability to come up with solutions. Lecture/Exercise(two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Work Production 1: 30%、Work Production 2: 50%、in class contribution: 20%

COT100EA

プログラミング入門

林田 和人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな問題を解決していくためには、論理的な思考ができることが必要となります。

この論理的な思考力を伸ばすために、コンピュータでアプリケーションを作成するための環境であるプログラミングを学習します。動きがあり、またビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミングの基礎的な知識を習得し、論理的な思考能力を高めます。

【到達目標】

プログラムは、与えられた教材を学ぶだけでは上達しません。アプリケーションをうまく作れるようになるためには、自分自身で作りたいたものを考え、それを作っていくことが上達のための唯一の方法です。

よって、プログラミング言語の一つである Processing の基礎的な知識を学び、自分自身で作りたいたものを考え、そしてそれを作れるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing は無料のアプリケーションを開発する環境で、時間変化のあるビジュアルな表現を容易に実現できます。

この Processing の基礎を学び、ビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミング能力と、論理的な思考力を養います。

課題では、自分自身のオリジナリティを発揮したアプリケーションを制作してください。

試行錯誤し、試す能力を伸ばすことで、論理的な思考力高めましょう。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

授業内での活動を充実したものにするため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本を知る	ガイダンス、プログラムとは、自宅に Processing をインストールできるようにする、「自宅に Processing をインストールできたか」を提出
第 2 回	簡単なプログラムで試す	プログラミング環境の使い方、簡単なプログラムを作成し環境に慣れる、「正方形と斜め」の課題作成
第 3 回	「変数」を知る	プログラムで重要な 3 つ「変数」、「条件分岐 (if)」、「繰り返し (for)」の中の「変数」を学習、「変数を増やし、変数名を変える」の課題作成
第 4 回	「条件分岐 (if)」を知る	「条件分岐 (if)」を学習、「条件を増やしてみる」の課題作成
第 5 回	「繰り返し (for)」を知る	「繰り返し (for)」を学習、「中心辺りに円を表示」の課題作成
第 6 回	「描画の基礎」を知る	「描画の基礎」を学習、「円の大きさや座標の数字などを自由に変える」の課題作成
第 7 回	「複雑な描画」を知る	「複雑な描画」を学習、「3 つに図形を増やす」の課題作成
第 8 回	「課題 1 (静止画)」の制作	プログラムの塊の順番を変えたり増やしたり、数字を変えたりして「課題 1 (静止画)」を自由で作成
第 9 回	「課題 1 (静止画)」の発表	自分のオリジナリティを発揮して制作した「課題 1」を発表し、クラスで意見交換する
第 10 回	「アニメーションの基本」を知る	「アニメーションの基本」を学習、用意したプログラムを修正し「簡単なアニメーション」の課題作成
第 11 回	「少し複雑なアニメーション」を知る	「少し複雑なアニメーション」を学習、用意したプログラムを修正し「少し複雑なアニメーション」の課題作成
第 12 回	「アニメーションの時間変化」を知る	「アニメーションの時間変化」を学習、「時間変化」の課題作成

第 13 回	「課題 2 (アニメーション)」の制作	時間変化のある「課題 2 (アニメーション)」を自由に作成
第 14 回	「課題 2 (アニメーション)」の発表	自分のオリジナリティを発揮して制作した「課題 2」を発表し、クラスで意見交換する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

授業時に、適宜 pdf やデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

課題 1 点 (30%)

課題 2 点 (50%)

平常点 (20%)

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。

課題の評価は、授業で学んだことへの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物 (pdf など) を配布する。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってお出席すること。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline (in English)】

In order to solve the problem, logical thinking skill is necessary.

This course introduces how to use the programming environment, how to program and how to create an application to students taking this course.

The goals of this course are to ability to think about what you want to create, ability to program what you want to create, and ability to think logically.

Lecture/Exercise(two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Work Production 1: 30%、Work Production 2: 50%、in class contribution: 20%

PRI100EA

コンピュータ入門

林田 和人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな問題を解決するためには、コンピュータやインターネットの利用が必須です。

そこで、自分の問題解決のための道具として、コンピュータやインターネットを自在に活用できるように、基礎的な能力を身につけましょう。

使い方を覚えるだけではなく、自分で問題を発見し、それに対する解決策を考えるとといった、アウトプットする能力も身につけます。

【到達目標】

コンピュータのいろいろな利用方法を学び、自分の問題解決に使えるようになることを到達目標とします。

具体的には、ワープロ、表計算ソフトの使い方を習得するだけでなく、自分で問題を見つけ、それに対する回答として考えたアイデアを、プレゼンテーションソフトやホームページで表現します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ファイル操作、メールやインターネット検索、また表計算ソフトを活用することで情報力を身につけましょう。そして、プレゼンテーションの作成や、HTML を用いてホームページを作成することで表現力を身につけます。プレゼンテーションやホームページで、自分の考えたアイデアを表現することで、アウトプットする能力を伸ばします。また、表計算ソフトをさらに活用できるように、並べ替えなどの機能も学びます。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

とにかく使ってみる、やってみることを実践していきましょう。授業内での活動を充実したものにするため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎的なツールの習得	ガイダンス、パスワード変換、日本語変換 (変換対象場所の移動、変換対象の変更)、ショートカットキー、拡張子、階層構造、ファイルの複製、圧縮してメール送信
第 2 回	基礎的なネットワークの習得	クラウドの説明、ショートカットキーなどのおさらい、日本語入力の練習、「最近の生活」を内容とする文章の作成
第 3 回	Word での入力習得	Word の使い方、入力の練習として「自己紹介」の下書きを作成
第 4 回	Word での画像貼り付けなどの習得	Word に写真を貼る、Word に表を使って写真を貼る、フォルダで整理、「写真入りの紹介」を作成
第 5 回	EXCEL の基本を習得	ファイルについて、フォルダについて、EXCEL の基礎を伝える、「フォルダを作成してファイルを整理」を実践し階層構造を理解する
第 6 回	EXCEL でグラフ作成の習得	グラフの作成、表の作成、グラフや表を Word に貼り付け、pdf への変換、「Word を pdf へ変換」する練習
第 7 回	EXCEL で相関分析や回帰分析の習得	散布図を描く、相関係数を計算する、回帰直線を表示する、「回帰直線などを表示するグラフ」の作成
第 8 回	「課題 1 (相関分析と回帰分析)」の作成	渡したデータを使用し、自分なりの視点で相関分析と回帰分析を行い「課題 1」を作成
第 9 回	「課題 1 (相関分析と回帰分析)」の発表	自分なりの視点で相関分析と回帰分析を行った「課題 1」を発表し、クラスで議論する
第 10 回	PowerPoint の習得	PowerPoint の使い方、「写真と図形と文字で作ったもの (ポスターみたいな)」を提出
第 11 回	「課題 2 (問題を解決する面白いアイデア)」の作成	世の中の問題を見つけ、解決する空間やモノを発想し、PowerPoint でプレゼンテーションを作成

第 12 回	「課題 2 (問題を解決する面白いアイデア)」の作成 2	前週に引き続き、世の中の問題を見つけ、解決する空間やモノを発想し、PowerPoint でプレゼンテーションを作成
第 13 回	「課題 2 (問題を解決する面白いアイデア)」の発表	「見つけた世の中の問題を解決する空間やモノの発想」を発表し、クラスで議論する
第 14 回	HTML の習得	HTML の学習、「簡単なホームページ」を作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

授業時に、適宜 pdf やデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

課題 1 点 (30%)

課題 2 点 (50%)

平常点 (20%)

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。

課題の評価は、授業で学んだことへの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物 (pdf など) を配布する。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進度に関わります。病欠など以外は頑張って出席すること。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline (in English)】

In order to solve the problem, it is necessary to use a computer and the Internet.

This course introduces how to use Word and Excel, how to use Power Point and how to use the Internet to students taking this course.

The goals of this course are to ability to use computers and the Internet freely, ability to identify problems, and ability to come up with solutions. Lecture/Exercise(two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Work Production 1: 30%、Work Production 2 : 50%、in class contribution: 20%

COT100EA

プログラミング入門

林田 和人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな問題を解決していくためには、論理的な思考ができることが必要となります。

この論理的な思考力を伸ばすために、コンピュータでアプリケーションを作成するための環境であるプログラミングを学習します。

動きがあり、またビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミングの基礎的な知識を習得し、論理的な思考能力を高めます。

【到達目標】

プログラムは、与えられた教材を学ぶだけでは上達しません。アプリケーションをうまく作れるようになるためには、自分自身で作りたいたものを考え、それを作っていくことが上達のための唯一の方法です。

よって、プログラミング言語の一つである Processing の基礎的な知識を学び、自分自身で作りたいたものを考え、そしてそれを作れるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing は無料のアプリケーションを開発する環境で、時間変化のあるビジュアルな表現を容易に実現できます。

この Processing の基礎を学び、ビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミング能力と、論理的な思考力を養います。

課題では、自分自身のオリジナリティを発揮したアプリケーションを制作してください。

試行錯誤し、試す能力を伸ばすことで、論理的な思考力高めましょう。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

授業内での活動を充実したものにすため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本を知る	ガイダンス、プログラムとは、自宅に Processing をインストールできるようにする、「自宅に Processing をインストールできたか」を提出
第 2 回	簡単なプログラムで試す	プログラミング環境の使い方、簡単なプログラムを作成し環境に慣れる、「正方形と斜め」の課題作成
第 3 回	「変数」を知る	プログラムで重要な 3 つ「変数」、「条件分岐 (if)」、「繰り返し (for)」の中の「変数」を学習、「変数を増やし、変数名を変える」の課題作成
第 4 回	「条件分岐 (if)」を知る	「条件分岐 (if)」を学習、「条件を増やしてみる」の課題作成
第 5 回	「繰り返し (for)」を知る	「繰り返し (for)」を学習、「中心辺りに円を表示」の課題作成
第 6 回	「描画の基礎」を知る	「描画の基礎」を学習、「円の大きさや座標の数字などを自由に変える」の課題作成
第 7 回	「複雑な描画」を知る	「複雑な描画」を学習、「3 つに図形を増やす」の課題作成
第 8 回	「課題 1 (静止画)」の制作	プログラムの塊の順番を変えたり増やしたり、数字を変えたりして「課題 1 (静止画)」を自由で作成
第 9 回	「課題 1 (静止画)」の発表	自分のオリジナリティを発揮して制作した「課題 1」を発表し、クラスで意見交換する
第 10 回	「アニメーションの基本」を知る	「アニメーションの基本」を学習、用意したプログラムを修正し「簡単なアニメーション」の課題作成
第 11 回	「少し複雑なアニメーション」を知る	「少し複雑なアニメーション」を学習、用意したプログラムを修正し「少し複雑なアニメーション」の課題作成
第 12 回	「アニメーションの時間変化」を知る	「アニメーションの時間変化」を学習、「時間変化」の課題作成

- 第 13 回 「課題 2 (アニメーション)」の制作 時間変化のある「課題 2 (アニメーション)」を自由に作成
- 第 14 回 「課題 2 (アニメーション)」の発表 自分のオリジナリティを発揮して制作した「課題 2」を発表し、クラスで意見交換する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

授業時に、適宜 pdf やデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

課題 1 点 (30%)

課題 2 点 (50%)

平常点 (20%)

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。

課題の評価は、授業で学んだことへの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物 (pdf など) を配布する。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってください。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline (in English)】

In order to solve the problem, logical thinking skill is necessary.

This course introduces how to use the programming environment, how to program and how to create an application to students taking this course.

The goals of this course are to ability to think about what you want to create, ability to program what you want to create, and ability to think logically.

Lecture/Exercise(two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Work Production 1: 30%、Work Production 2: 50%、in class contribution: 20%

PRI100EA

コンピュータ入門

堀 亜砂実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のコンピュータ利用シーンに即した実習を通して、コンピュータを自らの目的に合わせて日々主体的に活用する方法を学びます。

【到達目標】

コンピュータを用いて、着実に情報を収集・保存・蓄積したり、それらを的確に加工・発信できるようにし、今後活かせるコンピュータとの付き合い方を身につけることと上級科目への橋渡しを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿った授業内課題を出題するほか、2 回の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得します。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面授業時に、解答例の提示・説明や個別コメント等により行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本事項の確認	パスワード管理やタイピング方法等
第 2 回	Excel: 表の作成	効率的に見栄えの良い表を作る
第 3 回	Excel: 表計算	関数、参照を利用し表計算を行う
第 4 回	電子メール	仕組み/ルールをふまえた活用法
第 5 回	Word	レポートを想定し文書を編集する
第 6 回	Excel: グラフ	高度なグラフ作成機能を活用する
第 7 回	Excel: 便利な関数	関数による判定や条件分岐を行う
第 8 回	Web: インターネットでの情報収集	的確な情報を検索・収集する
第 9 回	Web: 情報の構造化	情報を構造化し HTML 文書にする
第 10 回	PowerPoint	発表効果を意識した資料を作成する
第 11 回	Web: ページの作成	HTML を理解し Web ページを作る
第 12 回	Web: CSS の基本	初歩的な CSS で見栄えを整える
第 13 回	Web: ページの公開	HTML 文書を公開する
第 14 回	相互評価と半期のまとめ	Web ページ相互評価を通して半期の学びを総括する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・キーボードで日本語長文を円滑に入力できるよう、タイピング練習
 - ・必要に応じた復習
 - ・大課題は、授業外にも十分な時間を使い計画的に取り組む
 - ・欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の資料に目を通し課題に取り組む
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

特になし。授業トピックに応じ適宜参考情報を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・小課題 (授業内課題) 合計: 60%
 - ・大課題 (試験に相当し、学期中に 2 回出題予定) 合計: 40 %
- 大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間中に集中して手際よく実習できるよう、コンピューターの操作や基本用語等の理解に不安がある人は、高校の「情報」の内容や前回までの授業内容をよく復習して来てください。焦らずきちんと考え確認して取り組みればそれほど難しくなく、様々な気づきを得られる科目です。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、実習室に設置されているコンピュータ (Windows) を使用しますが、自宅でも学習できるよう、コンピュータおよびインターネット接続の環境が整っていると良いでしょう。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline (in English)】

This course will help you to get computer literacies.

As the goals of this course, students should be able to do the followings:

- Send and receive data via network.
 - Create or get data for any purpose.
 - Create academic documents and presentation materials.
 - Understand how the web page works, then create a simple web page.
- Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%
- If you will skip midterm or final work, you'll get the grade E.

COT100EA

プログラミング入門

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータプログラミング言語「Processing」によるプログラム作成を通して、コンピュータの動作への普遍的・抽象的な理解を深めます。

【到達目標】

自力で簡単なプログラムを企画・作成することで、アイデアを形にするための論理的思考力やコンピュータが動く仕組みへの理解、コンピュータを主体的に活用するための確かな自信を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回簡単なプログラムを作成し、自ら考え試行錯誤しながら段階的にプログラミングのルールや可能性を理解していきます。フィードバックは対面授業時に、解答例の提示や個別コメントにより行います。
なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	プログラム作成手順や基本的な関数を学ぶ
第 2 回	「変数」と「代入」	変数および代入の意義と方法を学ぶ
第 3 回	基本的な関数の活用	順序よく論理的にプログラムを構成する
第 4 回	「コンソール」の使用	コンソールを使う方法を学ぶ
第 5 回	フォントと画像の使用	フォントや画像を使う方法を学ぶ
第 6 回	変化に富むプログラム	色や動きを取り入れる方法を学ぶ
第 7 回	「演算子」と「if 文」	演算子や if 文の使用方法を学ぶ
第 8 回	「if 文」の応用	if 文を組み合わせることで複雑な処理を行う
第 9 回	変化を繰り返すプログラム	位置や色の規則的な変化をプログラムで表す
第 10 回	「for 文」	for 文の意義と使い方を学ぶ
第 11 回	自らのアイデアに基づくプログラム	学んできた手法を応用しプログラムのベースを作成する
第 12 回	仕掛けのあるプログラム	学んだ手法を応用しプログラムに仕掛けを作成する
第 13 回	見栄えのよいプログラム	学んだ手法を応用し見栄えを工夫する
第 14 回	作成したプログラムの発表・評価	完成したプログラムを受講者同士で相互評価し発見や理解へつなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・積極的な復習
 - ・大課題は、授業外にも十分な時間を使い計画的に取り組む
 - ・欠席した場合は、次の出席時までに欠席分の資料に目を通し課題に取り組む
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・Casey Reas, Ben Fry 著、船田 巧 訳『Processing をはじめよう』オライリージャパン、2011 年 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・小課題（授業内課題）合計：60%
 - ・大課題（試験に相当し、学期中に 2 回出題予定）合計：40%
- 大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

最初は慣れないプログラミングに戸惑う人も多ですが、努力の成果が表れやすく、わかってくると楽しくなります。最終的には、自信がついた、達成感があった、自分で考えたプログラムが動いて感動した、考えることが楽しかったなどの感想が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、実習室に設置されているコンピュータ（Windows）を使用しますが、自宅でも学習できるよう、コンピュータおよびインターネット接続の環境が整っていると良いでしょう。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand the basics of programming.
 As the goals of this course, students should be able to do the followings:
 - Write computer programs for beginners by yourself.
 - Get logical thinking skills.
 - Understand how the computer works.
 - Understand the benefits of computer-based data processing.
 Your overall grade in the class will be decided based on the following:
 - in-class works: 60%
 - midterm and final works: 40%
 If you will skip midterm or final work, you'll get a grade E.

PRI100EA

コンピュータ入門

橋本 政樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報ツールを使いこなそう、情報社会を体感しよう」
 本講座は、初級者を対象として、「パソコンやインターネットについての基礎知識および技法を習得すること」を目的とする。
 授業はメディア教室において、目的に沿った内容の講義と実習を行う。その中でテーマ別に実習の課題を数回出題し、レポートとして提出してもらう。

【到達目標】

情報ツールの利用法だけでなく、将来のビジネス社会での活用・開発にも繋がる知識と技術を学ぶ。特に、「情報の発信」に関わるネットワーク上での情報のやりとり、WEB の特性、情報セキュリティの重要性について理解を深め、現代の情報社会を俯瞰する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。
 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は実習教室において、目的に沿った内容の講義と実習を行う。その中でテーマ別に実習の課題を数回出題し、レポートとして提出してもらう。また提出されたレポートは発表やコメントメールなどにより、随時フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[第 1 回]	イントロダクションとコンピュータインテグレーション 1 (ハードウェア・ソフトウェア)	本講座の目的・内容、課題、教育支援システム等について説明し、コンピュータの構成を学習する。
[第 2 回]	コンピュータインテグレーション 2 (システム構成)	情報の単位、システムの形態や信頼性、特にクラウドコンピュータインテグレーションの概念を理解する。
[第 3 回]	インターネット 1 (ネットワークの歴史と仕組み)	インターネットの歴史、ネットワークの基本構成、通信プロトコル、ネットワークを学ぶ。
[第 4 回]	インターネット 2 (電子メール、情報検索、ファイル転送)	電子メールや情報検索の仕組み、ファイル転送の技術を学ぶ。
[第 5 回]	情報セキュリティと情報倫理	情報社会の特性と法制度の趣旨を理解し、被害者にも加害者にもならない対策を考える。
[第 6 回]	ネットワーク社会の現状と展望 (ノイズ、バイアス、連鎖バズル)	SNS 等のネットワーク技術の進展やこれまでの経験から、ネットワーク社会を俯瞰する。
[第 7 回]	文書作成 (法定文書のまとめ方と図表の作成)	Word を用いて、株主総会議事録とわかり易い案内図を作成する。
[第 8 回]	表計算 (計算・グラフ化とデータ管理)	Excel を用いて、関数計算・グラフ作成・データベースの機能を学習する。
[第 9 回]	プログラミング (フローチャート・プログラム作成と実行)	Visual Basic または C 言語を用いて、簡単なプログラムを組み、アルゴリズムを理解する。
[第 10 回]	Web アプリケーションと Web 環境	代表的な web アプリケーションとそのフレームワークを理解する。
[第 11 回]	HTML による Web ページ作成 1	HP 記述言語の概要を理解し、簡単な Web ページを作る。

- [第 12 回] HTML による Web ページ作成 2
 [第 13 回] ファイル転送とマルチメディア技術
 [第 14 回] プレゼンテーション技法
- CSS,JavaScript を取り入れた Web ページを作る。
 ネットワークへの公開・編集・管理の方法を学び、実施する。また圧縮・伸長の技術を理解する。
 いくつかの事例を参考にして、発表のための効果的な技法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、席に着いたら、PC を操作しながら、前回の実習内容を復習し、予習すること。
 本授業の準備学習・復習には十分に時間をかけ、各回の復習課題に取り組むこと。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時参考文献を紹介する。
 (参考 URL: <http://www.toranoko.net/web>)

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 40 %、授業態度 30 %、小テスト 30 % の割合で成績評価を行う。
 期末の定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけわかりやすく、ゆっくりした進行速度で進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

USBメモリ

【その他の重要事項】

将来の仕事や人的ネットワーク、資格取得（士業）、起業などを真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。

【Outline (in English)】

(Course outline)

"Let's Learn Information Tools, Experience the Information Society"

The purpose of this course is to "acquire basic knowledge and techniques about computers and the Internet" for beginners.

We will conduct learning and practical training in the media classroom in line with the objectives. We will also give you several practical training assignments on different themes, and you will submit them as a report.

(Learning Objectives)

In this course, you will learn not only how to use information tools, but also the knowledge and skills that will lead to their use and development in the future business community.

In particular, you will learn in depth about network technology related to "information," the characteristics of the Web, and the importance of information security.

You will also acquire the ability to look at the modern information society from a bird's eye view.

(Method(s))

We will conduct learning and practical training in line with the objectives.

We will also give you several practical training assignments on exercises for each section themes, and you will submit them as a report.

I'll also provide feedback on submitted reports as needed through presentations and email comments.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 30%, Short reports : 40%, term-end short examination: 30%.

(Others)

I try to keep in mind useful issues for you who are serious about your future job, personal network, certification (professional business), entrepreneurship, etc.

COT100EA

プログラミング入門

橋本 政樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータは、日常生活、社会経済システム、エンターテインメントに大きな影響を与えると同時に、ある種の制約ももたらしている。そのため、その基盤となっているプログラミングについての知識は、社会を考察していくうえでも重要になっている。

本授業では、コンピュータとそのプログラムの簡単な仕組みを学ぶと同時に、その利点と問題点を考察する。コンピュータとプログラムにおける物語的な側面にも注目する。

【到達目標】

プログラミング学習の各ステップには、一連の流れがあり、グラフィックス的にも工夫した表現ができるようになる。それによって、プログラムを利用した情報の交換・加工・発表ができるようになる。
 このよう一連のプログラミング学習の中で、コンピュータの仕組み・情報ネットワークの問題点・新しい情報技術やコンテンツの意味と現実社会における様々な関わりも理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。
 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業ではプログラミングと、その社会的位置づけに関する考察ができるように、
 毎回、目的に沿った内容のサンプル学習とオリジナル実習を行う。その中でテーマ別に実習の課題を数回出題し、レポートとして提出してもらう。また提出されたレポートは発表やコメントメールなどにより、随時フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[第 1 回]	プログラミングとは	プログラミングとその言語の説明
[第 2 回]	Processing のグラフィックス	プログラミングによるグラフィックスの練習
[第 3 回]	簡単な画像プログラム	画像に関するプログラミング練習
[第 4 回]	変数	プログラミングにおける変数とは
[第 5 回]	条件を伴うプログラム	条件に応じてプログラムの動作を変化させる
[第 6 回]	複雑な条件を伴うプログラム	複雑な条件に応じてプログラムの動作を変化させる
[第 7 回]	中間課題発表	6 回までの内容をまとめ、一つのプログラムを作成
[第 8 回]	繰り返しを伴うプログラム	繰り返し処理をさせてグラフィックスを描く
[第 9 回]	インタラクティブなプログラム	ユーザーの反応によってプログラムの動作を変化させる
[第 10 回]	インタラクティブで構造化されたプログラム	きちんと構造化された、インタラクティブなプログラムの練習
[第 11 回]	Android プログラミング	プログラミングとスマートフォンの関係
[第 12 回]	最終課題作成	最終課題案に基づきプログラミング
[第 13 回]	最終課題発表	最終課題を完成させる
[第 14 回]	最終課題発表	最終課題を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、席に着いたら、PC を操作しながら、前回の実習内容を復習し、予習をすること。

本授業の準備学習・復習には十分に時間をかけ、各回の復習課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各課題（40 %）、期末課題（30 %）と、実習発表（30 %）等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんがプログラミングを楽しめるように、TA の人たちと協力しながら、様々な工夫をしていきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, you will learn the simple mechanics of computers and their programs, as well as their advantages and problems. We will also focus on the narrative aspect of computers and programs.

Knowledge of programming is becoming more and more important as we examine society.

(Learning Objectives)

Each step of the programming learning process has a sequence of steps that can be expressed in a graphically ingenious way. This will enable them to exchange, process, and present information using programs.

In this series of programming studies, we aim for students to understand the mechanisms of computers, problems of information networks, and the meaning of new information technologies and contents, as well as their various relationships in the real world.

(Method(s))

The class is designed to provide an examination of programming and its place in society. Each session will include a sample study and original hands-on practice of the content of the objectives, and you will submit them as a report.

I'll also provide feedback on submitted reports as needed through presentations and email comments.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be based on the overall evaluation of each report (40%), final assignment (30%), and practical training presentation (30%).

PRI100EA

コンピュータ入門

近藤 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータをより有効かつ安全に活用するための知識と技術の修得

【到達目標】

レポートや資料作成のような大学生活に必要な技術を身に付けつつ、その後も実社会で通用するコンピュータの基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業を大きく 5 つの 5 つの単元に分け、各単元の中で演習を積み重ね最後に課題を自力で解く。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。演習、課題はその回か次回の授業内で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	全体の説明、コンピュータの仕組みと基本操作
第 2 回	データの保存、メールの使い方	データの保存方法とその違い、法政大学 Gmail の使い方
第 3 回	インターネット (1)	インターネット概論
第 4 回	インターネット (2)	情報倫理と身近なサイバー犯罪、情報セキュリティ
第 5 回	インターネット (3)	レポート制作
第 6 回	Web ページ (1)	HTML の基本構造とレポートの HTML 化
第 7 回	Web ページ (2)	レポートの相互評価
第 8 回	Word(1)	基本操作
第 9 回	Word(2)	レポートの整形
第 10 回	Excel(1)	基本操作とグラフの作成
第 11 回	Excel(2)	式と関数
第 12 回	Excel(3)	課題制作
第 13 回	PowerPoint(1)	基本操作
第 14 回	PowerPoint(2)	課題制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単元内では内容が連続しているため、一度休むとそれ以降の受講に影響する。やむを得ず欠席した場合には必ず自習しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各単元の課題の達成度を重視しつつ、毎回の演習の成果とあわせて総合的に評価する。平常点 (50%)、インターネット課題 (10%)、Web ページ課題 (10%)、Word 課題 (10%)、Excel 課題 (10%)、PowerPoint 課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

難易度の評価にばらつきが大きい。基準は上げ過ぎないようにしつつ応用課題を組み込んでいく。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces knowledge and skills to make more effective and safe use of computers and the Internet to students taking this course.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to acquire the skills necessary for college life and the knowledge that can be used in society.

[Learning activities outside of classroom]

Students who are absent will study by themselves by the next time. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class exercises: 50%, the Internet assignment: 10%, HTML assignment: 10%, Word assignment: 10%, Excel assignment: 10%, PowerPoint assignment: 10%

COT100EA

プログラミング入門

近藤 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基本技術を習得すると共に、プログラミング的思考を学ぶ。

【到達目標】

プログラムの基本的な命令や制御構造の書き方を理解する。
プログラムの目的を意識して流れを考えながら全体を組み立てる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

説明を聞きながら練習問題を解き進め、最後にその回の課題を自力で解く。次回授業冒頭で課題の解説を聞く事で次の学習につなげる。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
演習、課題はその回か次回の授業内で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	図形描画	座標を指定し画面に図形を描画する
第 2 回	変数	変数の型と基本的な使い方
第 3 回	繰り返し描画	setup 関数と draw 関数による繰り返し、変数のスコープ
第 4 回	ランダム	必要な範囲の乱数を発生させる
第 5 回	条件分岐 (1)	if 文による基本的な分岐構造、条件の記述方法
第 6 回	第 1 回テスト	ここまでの内容を確認する
第 7 回	解答と練習問題	第 1 回テストの解説と練習問題
第 8 回	条件分岐 (2)	複数条件がある場合
第 9 回	繰り返し構造	for 文を使用した繰り返し構造
第 10 回	マウスで描画	マウスの位置座標を用いたプログラミング
第 11 回	マウスクリックで操作	マウスクリックによる入力
第 12 回	第 2 回テスト	全体の内容の確認
第 13 回	解答と練習問題	第 2 回テストの解説と練習問題
第 14 回	自由課題	自分でプログラムを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全ての内容が積み重ねになっており、前回までの内容を理解していないと理解が覚えなくなる。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

Processing をはじめよう第 2 版 Casey Reas, 他 オライリー・ジャパン

【成績評価の方法と基準】

次の配分を基本とし総合的に評価する。平常点 (30%)、第 1 回テスト (30%)、第 2 回テスト (30%)、自由課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しく付いていけないと言う学生が、必ずしも評価が低い訳ではない。なんとなく出来たではなく、分かったと自分で思えるようにする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces fundamental technique of programming and computational thinking to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the basics of programming and to acquire the skills to build algorithms.

【Learning activities outside of classroom】

Students who are absent will study by themselves by the next time. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class exercises: 30%, first examination: 30%, second examination: 30%, final Assignment: 10%

PRI100EA

コンピュータ入門

高村 恒人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、及び Word/Excel/PowerPoint の一連の操作を行うことで、基本的情報スキルを習得する。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文に必要な"一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excel を使って分析し、Word を使って報告書にまとめ、Powerpoint を使って発表を行う"という一連のスキル習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業では、レポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられた際、どのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」すればいいのかを、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、スキル習得状況の判断材料とする。課題提出の翌週の講義にて、課題の達成度についてのフィードバックを行う。概ね授業計画に沿って実施する予定であるが、スキル習得状況により、授業計画を変更する場合がある。学期末に行う最終プレゼンテーションをもって、最終的なスキル習得状況の判定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Windows の基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
2.	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法とネチケット
3.	情報の分析 (1)	Excel の基本操作
4.	情報の分析 (2)	表の作成と集計
5.	情報の分析 (3)	関数を使用した計算
6.	情報の分析 (4)	情報分析 (2) と (3) を用いた分析の実践 (1)
7.	情報の分析 (5)	情報分析 (2) と (3) を用いた分析の実践 (2)
8.	報告書の作成	Word を用いた報告書の作成、適切な図表に分析結果をまとめる
9.	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画表
10.	情報の検索と収集	検索エンジンを使用した情報の検索等
11.	発表資料の作成 (1)	グループワーク (1)
12.	発表資料の作成 (2)	グループワーク (2)
13.	調査発表 (1)	グループワークで行った調査内容の発表 (1)
14.	調査発表 (2)	グループワークで行った調査内容の発表 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングが全ての基本となる。何度も練習し、少しでも早く正確に文字入力ができるよう努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 (40%)、最終発表課題 (50%)、平常点 (10%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度や難易度の調整に心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を実施する。

【Outline (in English)】

The goal is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

COT100EA

プログラミング入門

高村 恒人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

JAVA(processing)を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ビジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感してもらう。本実習を通じて、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

簡易言語の processing を利用することで、プログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業は毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムについて、作成・実行・修正するという作業手順に沿って、進めてゆく。授業ごとに、プログラミング課題に取り組んでもらう。翌週の講義にて、前回課題について、全体の達成状況及び課題の考え方についての解説を行う。なお、授業計画は授業の展開により、若干の変更を行ってゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明と JAVA についての講義
2.	processing の基礎	processing の概念と基本的な利用法の説明
3.	processing による図形描画	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画、色の指定とカラーモード
4.	変数、基礎プログラミング (1)	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
5.	変数、基礎プログラミング (2)	for 文と if 文の理解
6.	processing による図形の制御 (1)	変数を用いた図形描画、図形の移動と回転
7.	processing による図形の制御 (2)	分岐・繰り返し処理を利用した複数図形の描画
8.	processing におけるインタラクティブ制御 (1)	マウス入力への反映、キーボード入力の取り込み
9.	processing におけるインタラクティブ制御 (2)	関数の作成、クラスの理解
10.	最終課題作成 (1)	各自で最終課題を作成
11.	最終課題作成 (2)	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成 (3)	各自で最終課題を作成
13.	課題発表 (1)	課題の発表会 (1)
14.	課題発表 (2)	課題の発表会 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いたら覚えられないような暗記科目ではない。空いている時間に積極的に何度もプログラムを作成し、身体で覚えられるようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小課題に対する評価 (40%)、最終課題に対する評価 (30%)、平常点 (30%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度の調整と配布資料の改良によって、受講生の理解度を向上させる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を実施する。

【Outline (in English)】

Course outline: To acquire the basic concepts and knowledge of programming using JAVA(processing).

Learning Objectives: The goals of this course are to get basic programming knowledges and skills. At the end of the course, students are expected to become interested in more practical programming.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria/Policy: Final grade will be calculated according to the following process short report (40%), term-end examination (30%), and in-class contribution.

PRI100EA

コンピュータ入門

石井 由起

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解し、基礎的な操作を習得します。大学での学習と、実社会で必要とされる、発表やレポート作成などの表現を自在にこなすための情報スキルを身につけます。

【到達目標】

大学の授業で横断的に必要なスキルである、情報を検索し、分析し、文書や web ページ、プレゼンテーションで伝える技能を身につけます。具体的には、基礎的なソフトウェア、Microsoft Office を活用して文書や報告の作成、発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワードやエクセル、インターネットなどを利用して、コンピュータ・リテラシーの技量を高めます。コンピュータの仕組みや成り立ち、その発達が社会に与える影響などについても考察します。

課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習室の使用やルールの説明
第 2 回	ネットワーク 前編	メール設定とネチケット
第 3 回	ネットワーク 中編	アカデミックな論文、プレゼンテーションのための情報検索
第 4 回	ネットワーク 後編	ネットワークを活用した情報の共有と発信
第 5 回	ワープロ 前編	ワードの基本操作
第 6 回	ワープロ 後編	ワード文書の作成
第 7 回	表計算 前編	エクセルの基本操作
第 8 回	表計算 中編	エクセルの関数
第 9 回	表計算 後編	エクセルでグラフ作成
第 10 回	ワープロと表計算	マクロ機能
第 11 回	HTML 前編	HTML の基本構造
第 12 回	HTML 後編	HTML によるレイアウト
第 13 回	ホームページ制作	ホームページ制作 前編
第 14 回	ホームページ制作	ホームページ制作 後編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は前の回の内容を基に積み上げてスキルアップします。復習と発展課題にも挑戦しましょう。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセス

【その他の重要事項】

毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して課題に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

To understand the basic knowledge about computer and network systems.

To manipulate Operation Systems and Microsoft Office applications for academic works.

To analyze reference information and data for creating academic reports and presentation.

COT100EA

プログラミング入門

石井 由起

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初歩的なプログラミングを通して、既製のアプリケーションの基本操作だけの受け身のコンピュータ利用から、より積極的に問題解決思考でコンピュータと関わるための実習です。

【到達目標】

プログラミングの基礎を身につけ、ビジュアル表現を用いた簡単なプログラムを作成することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing という言語を駆使して制作する実習です。プログラミングの一連の過程を体験し、段階的な解説と実習で、各自成果物を作成します。課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ 前編	プログラミング用語の説明
第 2 回	イントロ 中編	プログラミングの心構え
第 3 回	イントロ 後編	プログラミングの作法
第 4 回	変数 前編	2 進数にまつわる話
第 5 回	変数 中編	数値データの扱い方
第 6 回	変数 後編	文字データの扱い方
第 7 回	定数	値が一定しているデータの話
第 8 回	条件分岐 if 文	単純な分岐
第 9 回	条件分岐 switch 文	複雑な分岐
第 10 回	繰り返し for 文	何回繰り返すのか？ の話
第 11 回	繰り返し while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 12 回	繰り返し do~while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第 13 回	アニメーション 前編	動画の作り方話
第 14 回	アニメーション 後編	簡単な動画の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は前の回の内容を基に積み上げてスキルアップします。特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。課題（提出物）は実習の内容を、どの程度、理解しているか？ を確認するために行います。課題（提出物）で主に評価するのは、プログラム制作に取り組んだプロセスです。次いでプログラムの完成度です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセス

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline (in English)】

This course provides basic programming practice training and critical thinking experiences.

Upon the completion of this course, the students will be able to:

create visual programming artifacts by using Processing applications.

to accomplish problem-solving approaches through programming activities.

Preparation and completion of the weekly projects will be required (2 hours/ week).

PRI100EA

コンピュータ入門

堀 亜砂実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

- Send and receive data via network.
 - Create or get data for any purpose.
 - Create academic documents and presentation materials.
 - Understand how the web page works, then create a simple web page.
- Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- in-class works: 60%
 - midterm and final works: 40%
- If you will skip midterm or final work, you'll get the grade E.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のコンピュータ利用シーンに即した実習を通して、コンピュータを自らの目的に合わせて日々主体的に活用する方法を学びます。

【到達目標】

コンピュータを用いて、着実に情報を収集・保存・蓄積したり、それらを的確に加工・発信できるようにし、今後に活かせるコンピュータとの付き合い方を身につけることと上級科目への橋渡しを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿った授業内課題を出題するほか、2回の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得します。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面授業時に、解答例の提示・説明や個別コメント等により行います。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本事項の確認	パスワード管理やタイピング方法等
第 2 回	Excel: 表の作成	効率的に見栄えの良い表を作る
第 3 回	Excel: 表計算	関数、参照を利用し表計算を行う
第 4 回	電子メール	仕組み/ルールをふまえた活用法
第 5 回	Word	レポートを想定し文書を編集する
第 6 回	Excel: グラフ	高度なグラフ作成機能を活用する
第 7 回	Excel: 便利な関数	関数による判定や条件分岐を行う
第 8 回	Web: インターネットで情報収集	的確な情報を検索・収集する
第 9 回	Web: 情報の構造化	情報を構造化し HTML 文書にする
第 10 回	PowerPoint	発表効果を意識した資料を作成する
第 11 回	Web: ページの作成	HTML を理解し Web ページを作る
第 12 回	Web: CSS の基本	初歩的な CSS で見栄えを整える
第 13 回	Web: ページの公開	HTML 文書を公開する
第 14 回	相互評価と半期のまとめ	Web ページ相互評価を通して半期の学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ キーボードで日本語長文を円滑に入力できるよう、タイピング練習
 - ・ 必要に応じた復習
 - ・ 大課題は、授業外にも十分な時間を使い計画的に取り組む
 - ・ 欠席した場合は、次の出席時までに欠席分の資料に目を通し課題に取り組む
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

特になし。授業トピックに応じ適宜参考情報を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 小課題（授業内課題）合計: 60%
 - ・ 大課題（試験に相当し、学期中に 2 回出題予定）合計: 40 %
- 大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間中に集中して手際よく実習できるよう、コンピューターの操作や基本用語等の理解に不安がある人は、高校の「情報」の内容や前回までの授業内容をよく復習して来てください。
焦らずきちんと考え確認して取り組めばそれほど難しくなく、様々な気付きが得られる科目です。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、実習室に設置されているコンピュータ（Windows）を使用しますが、自宅でも学習できるよう、コンピュータおよびインターネット接続の環境が整っていると良いでしょう。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline (in English)】

This course will help you to get computer literacies.
As the goals of this course, students should be able to do the followings:

COT100EA

プログラミング入門

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline (in English)】

This course will help you to understand the basics of programming.
As the goals of this course, students should be able to do the followings:
- Write computer programs for beginners by yourself.
- Get logical thinking skills.
- Understand how the computer works.
- Understand the benefits of computer-based data processing.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%
If you will skip midterm or final work, you'll get a grade E.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータプログラミング言語「Processing」によるプログラム作成を通して、コンピュータの動作への普遍的・抽象的な理解を深めます。

【到達目標】

自力で簡単なプログラムを企画・作成することで、アイデアを形にするための論理的思考力やコンピュータが動く仕組みへの理解、コンピュータを主体的に活用するための確かな自信を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回簡単なプログラムを作成し、自ら考え試行錯誤しながら段階的にプログラミングのルールや可能性を理解していきます。フィードバックは対面授業時に、解答例の提示や個別コメントにより行います。
なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	プログラム作成手順や基本的な関数を学ぶ
第 2 回	「変数」と「代入」	変数および代入の意義と方法を学ぶ
第 3 回	基本的な関数の活用	順序よく論理的にプログラムを構成する
第 4 回	「コンソール」の使用	コンソールを使う方法を学ぶ
第 5 回	フォントと画像の使用	フォントや画像を使う方法を学ぶ
第 6 回	変化に富むプログラム	色や動きを取り入れる方法を学ぶ
第 7 回	「演算子」と「if 文」	演算子や if 文の使用方法を学ぶ
第 8 回	「if 文」の応用	if 文を組み合わせる複雑な処理を行う
第 9 回	変化を繰り返すプログラム	位置や色の規則的な変化をプログラムで表す
第 10 回	「for 文」	for 文の意義と使い方を学ぶ
第 11 回	自らのアイデアに基づくプログラム	学んできた手法を応用しプログラムのベースを作成する
第 12 回	仕掛けのあるプログラム	学んだ手法を応用しプログラムに仕掛けを作成する
第 13 回	見栄えのよいプログラム	学んだ手法を応用し見栄えを工夫する
第 14 回	作成したプログラムの発表・評価	完成したプログラムを受講者同士で相互評価し発見や理解へつなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・積極的な復習
・大課題は、授業外にも十分な時間を使い計画的に取り組む
・欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の資料に目を通し課題に取り組む
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・Casey Reas, Ben Fry 著、船田巧 訳『Processing をはじめよう』オライリージャパン, 2011 年 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・小課題（授業内課題）合計:60%
・大課題（試験に相当し、学期中に 2 回出題予定）合計：40 %
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

最初は慣れないプログラミングに戸惑う人も多いですが、努力の成果が表れやすく、わかってくると楽しくなります。最終的には、自信がついた、達成感があった、自分で考えたプログラムが動いて感動した、考えることが楽しかったなどの感想が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、実習室に設置されているコンピュータ（Windows）を使用しますが、自宅でも学習できるよう、コンピュータおよびインターネット接続の環境が整っていると良いでしょう。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

COT200EA

プログラミング初級

森 幹彦

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムやアプリケーションの開発に幅広く使用されている Java の統合開発環境である Eclipse を使用し、オブジェクト指向プログラミングに必要な知識とスキルの習得を目指す。

【到達目標】

プログラミングに必要な変数や制御構造等の知識を身につけるだけでなく、オブジェクト指向の構造を理解することや、プログラムをどのように設計するのかというアルゴリズム自体の構成方法を学習し、基礎的な Java アプリケーションを「自分で一から作り上げる」ことができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業ではプログラミング入門の復習と、新しい文法の習得により、さらに幅広いプログラムスキルを身につけ、最終課題では実際に動くアプリケーションソフトを作成する。

授業内で行う演習課題について適宜フィードバックをしながら進めていく。また、レポート課題について、全体に対してフィードバックを行う。

授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習の概要説明
第 2 回	Eclipse の復習（1）	変数、if 文
第 3 回	Eclipse の復習（2）	while 文
第 4 回	オブジェクト指向の基 本（1）	クラスとインスタンス
第 5 回	オブジェクト指向の基 本（2）	継承
第 6 回	オブジェクト指向の基 本（3）	キャスト・参照
第 7 回	配列（1）	for 文と配列処理
第 8 回	配列（2）	多次元配列
第 9 回	連想配列	HashMap 型
第 10 回	ファイルの入出力 （1）	ファイルからの入力
第 11 回	ファイルの入出力 （2）	ファイルへの出力
第 12 回	最終課題作成（1）	各自で最終課題を作成
第 13 回	最終課題作成（2）	各自で最終課題を作成
第 14 回	最終課題作成（3）	各自で最終課題を作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられるようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（50%）、最終課題（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【その他の重要事項】

質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the knowledge and skills for object-oriented programming using Eclipse, an integrated development environment for Java that is widely used for developing systems and applications.

In addition to acquiring the knowledge of variables and control structures required for programming, will learn how to design programs and how to implement algorithms. The goal is to enable the students to create a basic Java application.

COT200EA

プログラミング初級

加藤 徹郎

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

- Learning activities outside of classroom -

No special preparation is required. However, due to the progression of the class, any work that is not completed in class should be completed until the following week. This should serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria / Policy -

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, submit assignments for each class:60%,in class contribution: 10%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統合開発環境 eclipse を用いた本格的 Java 言語を学習することで、Processing で学んだプログラミングへの理解をさらに深めていきます。

【到達目標】

入門で学んだ知識をさらに発展させ、自身で問題解決できるような力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、Java のオブジェクト指向に基づき、メソッドやインスタンス、コンストラクタ、クラス、クラスの継承といった概念を理解していきます。抽象的思考と具体的な成果を行ったり来たりしながら、「プログラムを書く」ということの意味を、経験的に学んでいきましょう。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。
※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業進行についての説明。eclipse の使い方の確認。
2	Hello World	Processing から Java への移行・応用と新規学習
3	Variable	変数と代入文の確認
4	Control Structure	if 文、for 文の復習と、do-while、switch 文などの紹介
5	Array	for 文と配列を用いた複雑な繰り返し構文の理解
6	Method_01	Java におけるメソッドの考え方
7	Method_02	リターン文の習得
8	Object Orientation	オブジェクト指向の概念的理解
9	Instance	クラスとインスタンスの違いについて
10	Constructor	クラスにおけるコンストラクタの役割
11	Encapsulation	カプセル化。メソッドを限定的に制御するには
12	Inheritance	継承とスーパークラスの理解
13	Import Statement	インポート文とライブラリの活用
14	CUI / GUI	GUI でプログラムを作成してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはず。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、毎回の課題提出（60 %）、期末テスト（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

いぜん学生から「シラバスのタイトルが英語ばかりで難しそうだ」という意見を聞きましたが、そんなことはありません（笑）。ひとつひとつの項目を、丁寧にわかりやすく説明することを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを持参してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline (in English)】

- Course outline -

This course deal with the basic of programming with Java / Eclipse.It also enhance the development of students' skill in making a program by oneself.

- Learning Objectives -

The goals of this course are to be able to smoothly operate the rudimentary tasks of programming.

COT200EA

プログラミング初級

高村 恒人

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Java 言語によるプログラミングにはじめて挑戦する人を対象として、基本的な手順になじめるように導く。オブジェクト指向プログラミングというものを「知ってる」と言えるようになることを目指す。

【到達目標】

毎回のテーマに沿った簡単なプログラムを作成し、java 言語によるプログラムを解説する。最終的に、クラスという単位でプログラムをイメージできることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本格的なプログラミング環境の日本語化 eclipse(+java) を使用する。授業は毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムについて、作成・実行・修正するという作業手順に沿って、進めてゆく。授業ごとに、プログラミング課題に取り組みでもらい、習得状況の把握を行う。習得状況を鑑み、授業を進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	導入	授業の目標、予定、進め方
2.	心構えと基本手順	最初の基本的なプログラミング
3.	変数と型	変数という概念、意義、使用方法
4.	メソッド	メソッドという概念、意義、使用方法
5.	オブジェクト指向 (1)	クラスという概念、意義、使用方法
6.	オブジェクト指向 (2)	インスタンスという概念、意義、使用方法
7.	オブジェクト指向 (3)	コンストラクタという概念、意義、使用方法
8.	ここまでのまとめ	ここまでの振り返り
9.	情報のカプセル化 (1)	カプセル化という概念、意義、使用方法及びカプセル化の“安全装置”
10.	クラスの継承	継承という概念、意義、使用方法
11.	ファイル入出力 (1)	テキストファイルに書き出す方法
12.	ファイル入出力 (2)	テキストファイルを読み込む方法
13.	最終課題 (1)	これまでの学習内容を盛り込んだ作品づくり
14.	最終課題 (2)	これまでの学習内容を盛り込んだ作品づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には予習は不要である。但し、授業内での理解が不十分と感ずる場合、授業時間内に課題を提出できなかった場合、やむを得ず欠席した場合には自習が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定する教科書はない。なお、PowerPoint の資料を毎回提示する。

【参考書】

参考書や URL は必要に応じて講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常点 (50%) と最終提出課題 (50%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スピードは人それぞれなので、一人ひとりに合わせた助言を行ってゆく。

【その他の重要事項】

質問は授業前後に受け付けることとする。

【Outline (in English)】

This class is designed for those who trying to write source code in Java programming language for the first time. Course objective is to introduce students to basic concept of object-oriented programming and to the use of Java programming language.

COT200EA

プログラミング初級

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎学習。課題には個々にフィードバックを行う。

【到達目標】

プログラミングの基本部分を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とした授業である。主に Eclipse(開発用ソフト) を利用し、Java 言語を基本から学ぶ。また、Python 言語の基礎部分も学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	紹介 前編	プログラミング用語の概説
第 2 回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか。
第 3 回	変数	紛らわしい用語。
第 4 回	構成	プログラムの構成要素。
第 5 回	既存のものの流用の仕方	「修行」は不要。
第 6 回	動かすための書き方	プログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある。
第 7 回	読み書き	「ファイル」という単位。
第 8 回	画面プログラム 前編	画面作成の基礎。
第 9 回	画面プログラム 中編	画面作成の続き。
第 10 回	画面プログラム 後編	画面と実動作を結び付ける。
第 11 回	コンピュータの外部からアクションを起こす	イベントの話。
第 12 回	Python その 1	スクリプト言語の紹介。
第 13 回	Python その 2	計算等の機能。
第 14 回	Python その 3	繰り返し等の機能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

特に指定なし。

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30% 提出課題：70% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・有効な意見は、講義に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができない場合は、各自パソコンを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basical study for programming. Give feedback to every-week homework.

【Learning Objectives】

Understand the basics of programming.

【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT200EA

プログラミング初級

近藤 恵子

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向の概念を学ぶ

【到達目標】

問題を解決するためのプログラムをオブジェクト指向で実装する事が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

統合開発環境を用いてオブジェクト指向言語 Java を学ぶ。毎回説明と共にプログラムを作成し、途中やその回の最後に問題を課す。解説は該当授業回か次回に行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、プログラミング基本 (1)	統合開発環境の使い方、変数と計算
第 2 回	プログラミング基本 (2)	分岐構造
第 3 回	プログラミング基本 (3)	反復構造と配列
第 4 回	プログラミング基本 (4)	関数
第 5 回	プログラミング基本 (5)	まとめ
第 6 回	クラス (1)	クラスとインスタンス
第 7 回	クラス (2)	コンストラクタとメソッド
第 8 回	クラス (3)	参照
第 9 回	オブジェクト指向 (1)	オーバーロード
第 10 回	オブジェクト指向 (2)	継承
第 11 回	オブジェクト指向 (3)	カプセル化とアクセス制限
第 12 回	ファイル入出力	ライブラリの活用
第 13 回	応用課題 (1)	課題制作
第 14 回	応用課題 (2)	説明書制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の配分を基本とし総合的に評価する。平常点 (60%)、応用課題 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時のスキルのばらつきが大きい。出来る学生は自分で学習を進められるよう資料を準備し、遅れている学生は個別にサポートするよう進める。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with the object-oriented method.

[Learning Objectives]

At the end of this course, students will be expected to implement a program to solve object problems.

[Learning activities outside of classroom]

Students who are absent will study by themselves by the next time. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following In class contribution(60%), Final Assignment(40%)

PRI200EA

統計基礎実習

橋本 政樹

サブタイトル：統計基礎実習 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフト MS-EXCEL、統計解析ソフトを使いこなして、社会調査データの分析ができるようになる。

表計算および統計解析ソフトを利用して、社会に散在するデータを、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。

表計算ソフトでは、専門的な操作技法を習得し、統計解析ソフトでは、基本的な操作学習を体験することで、実際のデータを統計的に扱う意味とその方法を理解する。

【到達目標】

- ・社会調査に必要なデータを収集し編集できること。
- ・表計算ソフト MS-EXCEL の専門的技法を習得すること。
- ・データを統計的に扱う意義と分析方法を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

表計算ソフト MS-EXCEL や統計解析ソフトを利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する。

授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。最後に、その結果を発表するまでを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講座の目的・内容、課題等について説明する。また統計分析の意義を考える
第 2 回	表計算ソフトの操作復習	データ入力・表示形式、数式入力・関数計算・セル参照など、基本的な EXCEL の機能を復習する。
第 3 回	表計算ソフトの操作と統計解析ソフトの体験	サンプルデータから、目的に応じたグラフを作成し、見栄えの良いグラフへ装飾する。
第 4 回	データの収集・整理 1	様々なデータ収集法と、データの種類の整理の仕方を学ぶ。
第 5 回	グラフと表の作成	世界統計や政府統計を用いて、度数分布表・ヒストグラム、散布図を作成し、データの特徴を図表で把握する。
第 6 回	データの代表値・散布度	平均値・中央値・分散・標準偏差等の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第 7 回	従来の統計学の考え方 1	ビギナーズラックの原理、超能力の成否、を通じて従来の統計学（記述統計）の概要を学ぶ。
第 8 回	従来の統計学の考え方 2	実験の偏り、事象の関係を通じて従来の統計学（推測統計）の概要を学ぶ。
第 9 回	質的データの処理	ピボットテーブルを用いて、クロス集計し、質的データの特徴を抽出する。
第 10 回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共分散・相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第 11 回	回帰分析	独立変数・従属変数・回帰係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第 12 回	多項式・ロジスティック回帰分析	2 次関数や対数関数を用いて、非線形の回帰式を求める。また線形回帰式との比較を試みる。
第 13 回	VBA を用いた分析 1	VBA を使って、プロシジャを作成し、オリジナル関数による分析を試みる。
第 14 回	VBA を用いた分析 2	企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資シミュレーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・統計理論の基礎的な学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り継続的に出席すること。

- ・各自席に着いたら、PC を操作しながら、実習内容を復習予習すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
 プリントおよび WEB の教材を使用する。

【参考書】
 (参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】
 成績評価は、レポート (40%)、発表 (30%)、期末小テスト (30%) により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
 いくつもの異なった分野のデータを、同じの手法で繰り返し分析する。これらの過程を通して、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【学生が準備すべき機器他】
 インターネット、表計算ソフト (MS-EXCEL)

【その他の重要事項】
 就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。また実社会で活躍する IT 系の専門家・経営者のセミナーなども随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline (in English)】
 (Course outline)
 We shall use MS-EXCEL spreadsheet software and statistical analysis software to analyze social survey data.

We will use spreadsheet and statistical analysis software to learn how to collect, organize, analyze, and represent data scattered throughout society.

In spreadsheet software, students will learn specialized operation techniques, and in statistical analysis software, they will experience basic operation. Through this process, we will understand the meaning and methods of statistically handling real data.

(Learning Objectives)
 We are able to collect and edit data necessary for social surveys. We will master the professional techniques of the spreadsheet software MS-EXCEL.

We understand the significance of statistical data and how to analyze them.

(Method(s))
 We will use spreadsheet and statistical analysis software to collect, organize, analyze, and represent social research and economic related "data".

At the beginning of the class, we will give an overview of each topic and use sample data for study, followed by the collection and analysis of data according to the topic of each student's choice. Finally, students will learn to present their results or submit an assignment. I'll also provide feedback on submitted reports as needed through presentations and email comments.

(Learning activities outside of classroom)
 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)
 Grading will be based on reports (40%), presentations (30%), and final assignments (30%).

(Others)
 I try to keep in mind useful issues for you who are serious about your future job, personal network, certification (professional business), entrepreneurship, etc.

I intend to raise awareness of practical skills by introducing seminars from time to time by IT professionals and managers who are active in the real world.

PRI200EA
統計基礎実習

橋本 政樹

サブタイトル：統計基礎実習 I
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 表計算ソフト MS-EXCEL、統計解析ソフトを使いこなして、社会調査データの分析ができるようになる。表計算および統計解析ソフトを利用して、社会に散在するデータを、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。表計算ソフトでは、専門的な操作技法を習得し、統計解析ソフトでは、基本的な操作学習を体験することで、実際のデータを統計的に扱う意味とその方法を理解する。

【到達目標】
 ・社会調査に必要なデータを収集し編集できること。
 ・表計算ソフト MS-EXCEL の専門的技法を習得すること。
 ・データを統計的に扱う意義と分析方法を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】
 表計算ソフト MS-EXCEL や統計解析ソフトを利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する。授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。最後に、その結果を発表するまでを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講座の目的・内容、課題等について説明する。また統計分析の意義を考える
第 2 回	表計算ソフトの操作復習	データ入力・表示形式、数式入力・関数計算・セル参照など、基本的な EXCEL の機能を復習する。
第 3 回	表計算ソフトの操作と統計解析ソフトの体験	サンプルデータから、目的に応じたグラフを作成し、見栄えの良いグラフへ装飾する。
第 4 回	データの収集・整理 1	様々なデータ収集法と、データの種類の整理の仕方を学ぶ。
第 5 回	グラフと表の作成	世界統計や政府統計を用いて、度数分布表・ヒストグラム、散布図を作成し、データの特徴を図表で把握する。
第 6 回	データの代表値・散布度	平均値・中央値・分散・標準偏差等の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第 7 回	従来の統計学の考え方 1	ビギナーズラックの原理、超能力の成否、を通じて従来の統計学（記述統計）の概要を学ぶ。
第 8 回	従来の統計学の考え方 2	実験の偏り、事象の関係を通じて従来の統計学（推測統計）の概要を学ぶ。
第 9 回	質的データの処理	ピボットテーブルを用いて、クロス集計し、質的データの特徴を抽出する。
第 10 回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共分散・相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第 11 回	回帰分析	独立変数・従属変数・回帰係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第 12 回	多項式・ロジスティック回帰分析	2 次関数や対数関数を用いて、非線形の回帰式を求める。また線形回帰式との比較を試みる。
第 13 回	VBA を用いた分析 1	VBA を使って、プロシジャを作成し、オリジナル関数による分析を試みる。
第 14 回	VBA を用いた分析 2	企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資シミュレーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 ・統計理論の基礎的な学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り継続的に出席すること。

- ・各自席に着いたら、PC を操作しながら、実習内容を復習予習すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を確保すること。

【テキスト (教科書)】
 プリントおよび WEB の教材を使用する。

【参考書】
 (参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】
 成績評価は、レポート (40%)、発表 (30%)、期末小テスト (30%) により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
 いくつもの異なった分野のデータを、同じ手法で繰り返し分析する。これらの過程を通して、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【学生が準備すべき機器他】
 インターネット、表計算ソフト (MS-EXCEL)

【その他の重要事項】
 就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。また実社会で活躍する IT 系の専門家・経営者のセミナーなども随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline (in English)】
 (Course outline)
 We shall use MS-EXCEL spreadsheet software and statistical analysis software to analyze social survey data.
 We will use spreadsheet and statistical analysis software to learn how to collect, organize, analyze, and represent data scattered throughout society.

In spreadsheet software, students will learn specialized operation techniques, and in statistical analysis software, they will experience basic operation. Through this process, we will understand the meaning and methods of statistically handling real data.

(Learning Objectives)
 We are able to collect and edit data necessary for social surveys. We will master the professional techniques of the spreadsheet software MS-EXCEL.

We understand the significance of statistical data and how to analyze them.

(Method(s))
 We will use spreadsheet and statistical analysis software to collect, organize, analyze, and represent social research and economic related "data".

At the beginning of the class, we will give an overview of each topic and use sample data for study, followed by the collection and analysis of data according to the topic of each student's choice. Finally, students will learn to present their results or submit an assignment. I'll also provide feedback on submitted reports as needed through presentations and email comments.

(Learning activities outside of classroom)
 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)
 Grading will be based on reports (40%), presentations (30%), and final assignments (30%).

(Others)
 I try to keep in mind useful issues for you who are serious about your future job, personal network, certification (professional business), entrepreneurship, etc.

I intend to raise awareness of practical skills by introducing seminars from time to time by IT professionals and managers who are active in the real world.

HSS100EA
スポーツ総合 1 - I

野村 一路

開講時期: 春学期授業/Spring | 単位数: 1 単位
 曜日・時限: 金 1/Fri.1

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】
 身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】
 いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】
 2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
 自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】
 特になし

【参考書】
 必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】
 以下の基準に従い評価する
 平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】
 運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】
 This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

野村 一路

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

野村 一路

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他社とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

野村 一路

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

平澤 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

平澤 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: : 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

平澤 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

平澤 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 佳宏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながらスポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 佳宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 佳宏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 佳宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

高梨 泰彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

高梨 泰彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

高梨 泰彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class.

Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class : 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

高梨 泰彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class with be decided based on the following Norman points such as attitude to participare in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

宮下 信一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course,students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class.Your study time will be decided based on the following

Normal points such as attitude to partipate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

宮下 信一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

宮下 信一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

宮下 信一

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 2/Fri.2

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料(プリント)を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

永嶋 秀敏

開講時期: 春学期授業/Spring | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 1/Fri.1

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料(プリント)を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

永嶋 秀敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

永嶋 秀敏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

永嶋 秀敏

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 2/Fri.2

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

星 貴洋

開講時期: 春学期授業/Spring | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 1/Fri.1

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

國本 眞由子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

國本 眞由子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 2/Fri.2

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 美紀

開講時期: 春学期授業/Spring | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 1/Fri.1

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 美紀

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 2/Fri.2

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class; 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

清水 貴司

開講時期: 春学期授業/Spring | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 金 1/Fri.1

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

清水 貴司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

清水 貴司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

清水 貴司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度はオンラインと対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I（補講）

堀籠 佳宏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度は対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合1-II (補講)

堀籠 佳宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2022 年度は対面での授業を行う。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきを得られるようにしたい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する。
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary. At the end of the course, students are expected to live a healthy life. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 100%

HSS100EA

スポーツ総合2-I (ヨガ)

山内 やよい

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えられたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きている私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。

身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。

具体的には、ヨガのポーズや呼吸法、瞑想、ヨガ哲学を通じて自分自身を健やかに保つ調整力を習得することを目指します。授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育てていきます。

【到達目標】

調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

- ・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされない、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・冥想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ (ポーズ)/プラーナーヤーマ (呼吸法) / 瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の冒頭で、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/簡単なヨガ実技	・ヨガの歴史と基本概念 ・ヨガの効果、エビデンス紹介 ・ヨガを実践する上でのポイント
2	姿勢と呼吸 (氣:Prana) の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・呼吸体操の実践
3	丹田および丹田呼吸	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	排毒を促す	・ヨガでできる腎臓&肝臓の養生 ・身体の不要なものを手放す (排毒) ために必要なこと ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ (ポーズ) ①	・アーサナとは ・ヨガの基本ポーズの学習 ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ (ポーズ) ②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践
7	アーサナ (ポーズ) ③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ (ポーズ) ④	パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

9	安定したメンタル（リラクゼーション）/呼吸法	リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する
10	安定したメンタル（集中力&パフォーマンスアップ）/呼吸法	集中力&パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する
11	胃腸を整える	ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
12	「指ヨガ」部分即全体の考え方と実践	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア ヨガの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率、授業態度）：70%

技術点+レポート点：30%

授業への取り組み方を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of yoga to acquire a healthy body and mind, wisdom to live a healthy life, and skills to cope with stresses in a flexible manner by adjusting the body, breath, and mind. Specifically, through yoga postures, breathing techniques, meditation, and yoga philosophy, students will acquire the ability to regulate their own health and well-being.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（ヨガ）

山内 やよい

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えられたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。

身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。

具体的には、ヨガのポーズや呼吸法、瞑想、ヨガ哲学を通じて自分自身を健やかに保つ調整力を習得することを目指します。授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育てていきます。

【到達目標】

調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされない、安定した自己を育む。

・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。

・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。

・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。

・冥想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ（ポーズ）/プラーナーヤーマ（呼吸法）/ 瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の冒頭で、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/簡単なヨガ実技	・ヨガの歴史と基本概念 ・ヨガの効果、エビデンス紹介 ・ヨガを実践する上でのポイント
2	姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・呼吸体操の実践
3	丹田および丹田呼吸	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	排毒を促す	・ヨガのできる腎臓&肝臓の養生 ・身体の不要なものを手放す（排毒）のために必要なこと ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・ヨガの基本ポーズの学習 ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

9	安定したメンタル（リラクゼーション）/呼吸法	リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する
10	安定したメンタル（集中力&パフォーマンスアップ）/呼吸法	集中力&パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する
11	胃腸を整える	ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
12	「指ヨガ」部分即全体の考え方と実践	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨガと瞑想	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア ヨガの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率、授業態度）：70%

技術点+レポート点：30%

授業への取り組み方を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of yoga to acquire a healthy body and mind, wisdom to live a healthy life, and skills to cope with stresses in a flexible manner by adjusting the body, breath, and mind. Specifically, through yoga postures, breathing techniques, meditation, and yoga philosophy, students will acquire the ability to regulate their own health and well-being.

HSS100EA

スポーツ総合2-I（ヨガ）

山内 やよい

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えられたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。

身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。

具体的には、ヨガのポーズや呼吸法、瞑想、ヨガ哲学を通じて自分自身を健やかに保つ調整力を習得することを目指します。授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育てていきます。

【到達目標】

調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされない、安定した自己を育む。

・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。

・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。

・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。

・冥想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ（ポーズ）/プラーナーヤーマ（呼吸法）/ 瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の冒頭で、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/簡単なヨガ実技	・ヨガの歴史と基本概念 ・ヨガの効果、エビデンス紹介 ・ヨガを実践する上でのポイント
2	姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・呼吸体操の実践
3	丹田および丹田呼吸	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	排毒を促す	・ヨガのできる腎臓&肝臓の養生 ・身体の不要なものを手放す（排毒）のために必要なこと ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・ヨガの基本ポーズの学習 ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

9	安定したメンタル（リラクゼーション）/呼吸法	リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する
10	安定したメンタル（集中力&パフォーマンスアップ）/呼吸法	集中力&パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する
11	胃腸を整える	ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
12	「指ヨガ」部分即全体の考え方と実践	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア ヨガの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率、授業態度）：70%

技術点+レポート点：30%

授業への取り組み方を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of yoga to acquire a healthy body and mind, wisdom to live a healthy life, and skills to cope with stresses in a flexible manner by adjusting the body, breath, and mind. Specifically, through yoga postures, breathing techniques, meditation, and yoga philosophy, students will acquire the ability to regulate their own health and well-being.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（ヨガ）

山内 やよい

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えられたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。

身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。

具体的には、ヨガのポーズや呼吸法、瞑想、ヨガ哲学を通じて自分自身を健やかに保つ調整力を習得することを目指します。授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育てていきます。

【到達目標】

調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされない、安定した自己を育む。

・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。

・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。

・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。

・冥想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ（ポーズ）/プラーナーヤーマ（呼吸法）/ 瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の冒頭で、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/簡単なヨガ実技	・ヨガの歴史と基本概念 ・ヨガの効果、エビデンス紹介 ・ヨガを実践する上でのポイント
2	姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・呼吸体操の実践
3	丹田および丹田呼吸	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	排毒を促す	・ヨガのできる腎臓&肝臓の養生 ・身体の不要なものを手放す（排毒）ために必要なこと ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・ヨガの基本ポーズの学習 ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

9	安定したメンタル（リラクゼーション）/呼吸法	リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する
10	安定したメンタル（集中力&パフォーマンスアップ）/呼吸法	集中力&パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する
11	胃腸を整える	ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
12	「指ヨガ」部分即全体の考え方と実践	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨガと瞑想	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア ヨガの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率、授業態度）：70%

技術点+レポート点：30%

授業への取り組み方を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of yoga to acquire a healthy body and mind, wisdom to live a healthy life, and skills to cope with stresses in a flexible manner by adjusting the body, breath, and mind. Specifically, through yoga postures, breathing techniques, meditation, and yoga philosophy, students will acquire the ability to regulate their own health and well-being.

HSS100EA

スポーツ総合2-I（野球・ソフトボール）

田中 善則

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かす。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワークについて	有識者を招いての講演（プロ野球等）
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、技術点20%、その他10%とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる）」

男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class.Students will be expected to have completed the required assignments after each class.Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude: 80%, skill: 10%, others: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)

田中 善則

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。

楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム (試合) が出来る。

積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。

ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

講義 (歴史、規則、トレーニング理論) 等と実技 (練習、試合) をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 7 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワーク について	有識者による講演 (プロ野球等)
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリントを配布する)

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 % とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。

個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。

時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」

男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class.Students will be expected to have completed the required assignments after each class.

Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude: 80%, skill: 10%,others: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)

田中 善則

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。

楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム(試合)が出来る。

積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。

ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

講義(歴史、規則、トレーニング理論)等と実技(練習、試合)をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者を招いての講演(プロ野球等)
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料(プリント)を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、技術点20%、その他10%とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。

個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。

時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Attitude: 80%, skill: 10%, others: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)

田中 善則

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム(試合)が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義(歴史、規則、トレーニング理論)等と実技(練習、試合)をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者による講演(プロ野球等)
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料(プリント)を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、技術点20%、その他10%とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」

男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class.Students will be expected to have completed the required assignments after each class.Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude: 80%, skill: 10%, others: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-I (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第 2 回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第 3 回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第 4 回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第 5 回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第 6 回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第 7 回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第 8 回	基本ストローク 3	ドロップ&レシーブについて学ぶ
第 9 回	基本ストローク	プッシュ&レシーブについて学ぶ
第 10 回	基本ストローク	スマッシュ&レシーブについて学ぶ
第 11 回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第 12 回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第 13 回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」

出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第2回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第3回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第4回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第5回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第6回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第7回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第8回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第9回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第10回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第11回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第12回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第13回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
第2～14回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第2回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第3回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第4回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第5回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第6回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第7回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第8回	基本ストローク 3	ドロップ&レシーブについて学ぶ
第9回	基本ストローク	プッシュ&レシーブについて学ぶ
第10回	基本ストローク	スマッシュ&レシーブについて学ぶ
第11回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第12回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第13回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
第2～14回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えらるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者ももちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具体的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練習十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練習十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬃（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右樓膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒卷肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攢雀尾（八）右攢雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭（十）雲手（十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬（十三）右蹬脚（十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1 の動作から 6 動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7 の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するの理解する	幾つもの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせてながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】

普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aims at acquiring skills of autonomous lifestyle habits. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Attitude:70%,skill:20%,Others:10%

HSS100EA

スポーツ総合2-II (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十五）轉身左蹬脚
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針（二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬攔錘（二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら 24 式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	24 式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら 24 式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 % (24 式太極拳を授業中に音楽に合わせてながら実技テスト)
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aims at acquiring skills of autonomous lifestyle habits. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Attitude:70%,skill:20%,Others:10%

HSS100EA

スポーツ総合2-I (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具体的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法 (頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操)
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	(目の疲れをとり、近視の予防)を毎回入れる。 太極拳動作： (一) 起勢 (二) 左右野馬分鬃 (三) 白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得： (四) 左右樓膝拗歩 (五) 手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得： (六) 左右倒卷肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得： (七) 左攬雀尾 (八) 右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得： (九) 單鞭 (十) 雲手 (十一) 單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得： (十二) 高探馬 (十三) 右蹬脚 (十四) 雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1 の動作から 6 動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7 の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するのを理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 % (授業中に音楽に合わせてながら実技テスト)
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】

普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aims at acquiring skills of autonomous lifestyle habits. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Attitude:70%,skill:20%,Others:10%

HSS100EA

スポーツ総合2-II (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十五）轉身左蹬脚
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針（二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬攔錘（二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら 24 式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	24 式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら 24 式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 % (24 式太極拳を授業中に音楽に合わせてながら実技テスト)
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に普段着が良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aims at acquiring skills of autonomous lifestyle habits. Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Attitude:70%,skill:20%,Others:10%

HSS100EA

スポーツ総合2-I (テニス)

宮崎 靖雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニスの基本技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニスを通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツである事を学習する。

【到達目標】

- ①ショットの基礎技術を習得する。
- ②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
- ③ダブルス、シングルの試合を学習する。
- ④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基礎技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。

授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

実技では、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。

雨天時の場合は原則として教室にて講義を行う。

授業計画は授業の展開や天候によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明
第 2 回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 3 回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 4 回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第 5 回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第 6 回	サービス・リターンの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 7 回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 8 回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ&ネットプレー、ミニゲーム
第 9 回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第 10 回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第 11 回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ&ネットプレー、試合形式練習
第 12 回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルの試合の進め方
第 13 回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルの試合形式練習
第 14 回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルの試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技型の授業であるため、授業への参画姿勢などの平常点（70％）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20％）、授業態度（10％）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については個別に対応、評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席とみなすため、遅刻、欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

The goals of this course are to

- ① Learn the basic technique of shots.
- ② Learn singles / doubles strategies and tactics.
- ③ Learn doubles and singles games.
- ④ Learn the rules, manners and history of tennis.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points such as attitude to participate in class: 70%

Tennis progress and rule comprehension : 20%

in Class attitude: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-II（テニス）

宮崎 靖雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニスの基本技術、応用技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニス実技を通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツであることを学習する。

【到達目標】

- ① ショットの基礎技術を習得する。
- ② シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
- ③ ダブルス、シングルの試合を学習する。
- ④ テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基礎技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。

授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・試合の進め方・ルールの説明	授業の進め方の説明と、テニスの映像を用いて、試合の進め方などを学ぶ
第 2 回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 3 回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 4 回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第 5 回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第 6 回	サービス・リターンの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 7 回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 8 回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ&ネットプレー、ミニゲーム
第 9 回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第 10 回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第 11 回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ&ネットプレー、試合形式練習
第 12 回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルの試合の進め方
第 13 回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルの試合形式練習学ぶ
第 14 回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルス試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

授業への参画姿勢などの平常点（70％）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20％）、授業態度（10％）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については、個別に対応、評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席と見なすため、遅刻や欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

The goals of this course are to

- ① Learn the basic technique of shots.
 - ② Learn singles / doubles strategies and tactics.
 - ③ Learn doubles and singles games.
 - ④ Learn the rules, manners and history of tennis.
- Your overall grade in the class will be decided based on the following
Normal points such as attitude to participate in class: 70%
Tennis progress and rule comprehension : 20%
in Class attitude: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-I (ユニバーサル・スポーツ)

坪内 友美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ (ユニバーサル・スポーツ) について学び、体験し、理解する。

【到達目標】

工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。

運動のみならず、地域や職場等のような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害について、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。

車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。

動きやすい服装で参加すること。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明
第 2 回	障がいの理解/実践	脊髄・頸髄損傷について/バスケット 用車いすの操作
第 3 回	障がいの理解/実践	障がいとは? /車いすツインバス ケットボール
第 4 回	運動の効果の理解/実践	運動が身体に与える影響について/車 いすツインバスケットボール
第 5 回	運動の効果の理解/実践	運動が脳に与える影響について/ボツ チャ
第 6 回	アンブティサッカー	アンブティサッカーの概要と実践
第 7 回	障がいの理解/実践	脳血管障害：食事と運動と血管/四面 卓球バレー
第 8 回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第 9 回	インディアカ	インディアカの概要と実践
第 10 回	感覚を研ぎ澄ませます	視覚障害について/フライングディス ク (アキュラシー競技ディスリート・ ファイブ等)
第 11 回	感覚を研ぎ澄ませます	視覚障害について/ゴールボール
第 12 回	感覚を研ぎ澄ませます	見えない・見えにくい世界の体験/サ ウンドテーブルテニス
第 13 回	車いすを使った運動	車いす卓球
第 14 回	海と障がいとスポーツ	障がいのある人とスキューバダイビン グ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する

平常点 80 %、技術点 10 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

Outline

We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

Goal

At the end of the course, students are expected to get inclusive minds.
Preparation
 Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.
Grading criteria
 Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Attitude: 80%, skill : 10%, Others: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）

坪内 友美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）について学び、体験し、理解する。

【到達目標】

工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。

運動のみならず、地域や職場等のような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害について、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。

車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。

動きやすい服装で参加すること。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明／バスケット用車いすの操作
第2回	運動の効果の理解／実践	なぜ運動が必要なのか／ツインバスケケットボール
第3回	ロービジョンフットサル	ロービジョンフットサルの概要と実践
第4回	運動の効果の理解／実践	運動による精神面への効果／車いすバドミントン
第5回	車いすを使った運動	車いすテニス
第6回	車いすを使った運動	車いすテニス
第7回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／ブラインドテニス
第8回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／フロアバレーボール
第9回	ネット型スポーツ	シッティングバレーボール
第10回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第11回	ターゲット型スポーツ	障がいとは？／ボッチャ
第12回	感覚を研ぎ澄ます	アイマスクを着けて散歩
第13回	障がいの理解／実践	精神障がいと全国障害者スポーツ大会／ソフトバレーボール
第14回	障がいの理解／実践	事業所製品：福祉事業所が地域を救う／幻覚妄想かるた

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する

平常点 80 %、技術点 10 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

Outline

We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

Goal

At the end of the course, students are expected to get inclusive minds.

Preparation

Keep in mind your health and try to be able to actively participate in the class. Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than one hour for a class.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude: 80%、skill : 10%、Others: 10%

HSS100EA

スポーツ総合2-I (サッカー)

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ

サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。

サッカーをより専門的に理解し、表現する。

サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。

集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか **Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move** などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イメージネーションサッカー ベネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはつきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline (in English)】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100EA

スポーツ総合2-II（サッカー）

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエティブサッカーコーチング
イメージネーションサッカー ベネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはつきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline (in English)】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100EA

スポーツ総合2-I（サッカー）

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメイトとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメイトとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメイトとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメイトの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエティブサッカーコーチング
イメージネーションサッカー ベネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはつきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline (in English)】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100EA

スポーツ総合2-II（サッカー）

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメイトとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメイトとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメイトとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメイトの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技種目なので、きちんと活動できるように授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術

クリエイティブサッカーコーチング

イメージネーションサッカー ベネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはつきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline (in English)】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS200CA

スポーツ総合2-I（バレーボール基礎）

野中 俊英

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】

- ①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
- ②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
- ③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
- ④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。なお、本科目の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】

バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline (in English)】

Learn the basic theory of volleyball and acquire basic skills through practice. In addition, we will develop health management skills and communication skills with others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ総合2-II（バレーボール応用）

野中 俊英

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】

- ①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
- ②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
- ③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
- ④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	講義	ルールの確認
第 12 回	講義	各ポジションの役割
第 13 回	講義	ゲーム特性について
第 14 回	講義	様々なバレーボールについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】

バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline (in English)】

Learn the basic theory of volleyball and acquire basic skills through practice. In addition, we will develop health management skills and communication skills with others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ総合2-I (サッカー・フットサル基礎)

水野 浩幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカーの基礎技術 (キック、ドリブル、コントロール) の習得、およびゲームの中での技術の発揮の仕方を知得し、主体的にサッカーのゲームを楽しむことができるようになることを授業の目的とする。

【到達目標】

- ①サッカーの基礎技術、戦術の習得
- ②サッカーのチーム戦術、ゲーム戦術の学習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を知得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ (ラグビー場もしくはホッケー場) を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教場や授業の用意について
第 2 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 3 回	4vs4, 5vs5 のミニゲーム	ボール回し・GK 無しのゲーム
第 4 回	4vs4, 5vs5 のミニゲーム	フィジカルトレーニング・GK 無しのゲーム
第 5 回	6vs6, 7vs7 + GK	GK 有りのゲーム
第 6 回	6vs6, 7vs7 + GK	GK 有りのゲーム・守備の個人戦術
第 7 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃方向制限なしのゲーム・守備のグループ戦術
第 8 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃の個人戦術
第 9 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・3 人目の動き
第 10 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・サイドからの崩し
第 11 回	チーム編成・チームミーティング	チームの役割決め・コミュニケーション
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

自らのスキル向上への積極性、授業態度 60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度 30 %
チームへの貢献度 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline (in English)】

The objective of the class is to learn the basic soccer skills of kicking, dribbling, and control, and to learn how to demonstrate these skills in a game, so that students can enjoy the game of soccer independently. In this lesson, you will learn about the rules of soccer. The standard preparation time for this class is one hour. Students will be evaluated on the basis of 60% participation in the class, 30% technical and tactical understanding of soccer, and 10% contribution to the team.

HSS200CA

スポーツ総合2-II (サッカー・フットサル応用)

水野 浩幸

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 月 3/Mon.3

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカーの基礎技術 (キック、ドリブル、コントロール) の習得、およびゲームの中で技術の発揮の仕方を知り、主体的にサッカーのゲームを楽しむことができるようになることを授業の目的とする。

【到達目標】

- ①サッカーのポジションごとの役割を理解する
- ②サッカーのゲームを通じてチームで働くことを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ (ラグビー場もしくはサッカー場) を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心にいきます。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 2 回	ミニゲーム	ボール回し・フィジカルトレーニング
第 3 回	4vs4, 5vs5 のミニゲーム	攻撃のコンビネーション
第 4 回	ボールポゼッションゲーム	受け方・状況判断
第 5 回	ボールポゼッションゲーム	タッチ制限・状況判断
第 6 回	シュートゲーム	ゴール前での崩し
第 7 回	シュートゲーム	クロスからのシュート
第 8 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 9 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 10 回	チーム編成, チームミーティング	チームのシステム・スタイル
第 11 回	固定チームでのリーグ戦	チーム戦術・ゲーム戦術
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

自らのスキル向上への積極性、授業態度 60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度 30 %
チームへの貢献度 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline (in English)】

The objective of the class is to learn the basic soccer skills of kicking, dribbling, and control, and to learn how to demonstrate these skills in a game, so that students can enjoy the game of soccer independently. In this lesson, you will learn about the rules of soccer. The standard preparation time for this class is one hour. Students will be evaluated on the basis of 60% participation in the class, 30% technical and tactical understanding of soccer, and 10% contribution to the team.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1

佐藤 修一

開講時期: 春学期授業/Spring | 単位数: 1 単位
曜日・時限: 月 4/Mon.4

備考 (履修条件等): 新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語力が比較的低い学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。基礎的な文法について確認し、読解・リスニングなどのトレーニングにより英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・基礎的な英文法が理解できる。
- ・簡単な英文の内容が理解し、スムーズに音読できるようになる。
- ・シンプルな内容を英語で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業は原則 Zoom によりリアルタイムで行う。(対面に移行した場合は教室での授業)
- 授業に関する連絡、資料の配布、テスト&課題類は Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。文法事項の確認、語彙増強、読解、リスニング&音読などの作業を毎回行う。
- 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。
- ※詳しくは初回ガイダンスで説明する。
- ※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	Unit 1 現在形と現在進行形 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 3 回	Unit 1 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 4 回	Unit 2 数えられる名詞と数えられない名詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 5 回	Unit 2 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 6 回	Unit 3 代名詞の使い分け (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 7 回	Unit 3 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 8 回	Unit 4 形容詞と副詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 9 回	Unit 4 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 10 回	Unit 5 場所の前置詞と時の前置詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 11 回	Unit 5 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 12 回	Unit 6 Yes/No 疑問文と Wh 疑問文 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 13 回	Unit 6 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テストなど

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業のために 2 時間程度の学習が必要となる見込み:
- 予習、復習
- 課題に関する作業
- リスニング&音読の反復練習

【テキスト (教科書)】

※第二回授業までに教科書を入手すること!

- ① 『English Contrasts』、金星堂、1900 円 + 税。春学期の授業では前半部をカバーする予定。
- ② 英語辞書 (Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい)

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 (授業参加・貢献、予習等): 50 %
- 授業中のテスト類 (筆記テスト、音読テスト): 40 %
- 学期末のプレゼンテーション: 10 %
- ※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

授業中に個別の学生からの相談・質問に対応の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to basic grammar, reading and listening comprehension skills and reading aloud skills.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to learn basic grammar.
- to improve reading and comprehension skills.
- to improve the fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about two hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%)
- regular quizzes and assignments (40%)
- term-end oral presentation (10%)

LANe100EA

Basic English 1 - II 1

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語力が比較的低い学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。基礎的な文法について確認し、読解・リスニングなどのトレーニングにより英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・基礎的な英文法が理解できる。
- ・簡単な英文の内容が理解し、スムーズに音読できるようになる。
- ・シンプルな内容を英語で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業は原則 Zoom によりリアルタイムで行う。（対面に移行した場合は教室での授業）

- 授業に関する連絡、資料の配布、テスト&課題類は Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。

- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。文法事項の確認、語彙増強、読解、リスニング&音読などの作業を毎回行う。

- 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。

※詳しくは初回ガイダンスで説明する。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明、春学期の確認など
第 2 回	Unit 7 他動詞と自動詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 3 回	Unit 7 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 4 回	Unit 8 不定詞と動名詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 5 回	Unit 10 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 6 回	Unit 9 過去形と過去進行形と現在完了形 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 7 回	Unit 9 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 8 回	Unit 10 will と be going to (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 9 回	Unit 10 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 10 回	Unit 11 助動詞の使い分け (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 11 回	Unit 11 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 12 回	Unit 12 比較級と最上級 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 13 回	Unit 12 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テストなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のために 2 時間程度の学習が必要となる見込み：

- 予習、復習
- 課題に関する作業
- リスニング&音読の反復練習

【テキスト（教科書）】

※第二回授業までに教科書を入手すること！

- ① 『English Contrasts』、金星堂、1900 円＋税。秋学期の授業で後半部をカバーする予定。
- ② 英語辞書（Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい）

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（授業参加・貢献、予習等）： 50 %
- 授業中のテスト類（筆記テスト、音読テスト）： 40 %
- 学期末のプレゼンテーション： 10 %

※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

授業中に個別の学生からの相談・質問に対応の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to basic grammar, reading and listening comprehension skills and reading aloud skills.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to learn basic grammar.
- to improve reading and comprehension skills.
- to improve the fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about two hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%)
- regular quizzes and assignments (40%)
- term-end oral presentation (10%)

LANe100EA

Basic English 1 - I 2

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語力が比較的低い学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。基礎的な文法について確認し、読解・リスニングなどのトレーニングにより英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・基礎的な英文法が理解できる。
- ・簡単な英文の内容が理解し、スムーズに音読できるようになる。
- ・シンプルな内容を英語で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業は原則 Zoom によりリアルタイムで行う。（対面に移行した場合は教室での授業）

- 授業に関する連絡、資料の配布、テスト&課題類は Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。

- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。文法事項の確認、語彙増強、読解、リスニング&音読などの作業を毎回行う。

- 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。

※詳しくは初回ガイダンスで説明する。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	Unit 1 現在形と現在進行形 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 3 回	Unit 1 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 4 回	Unit 2 数えられる名詞と数えられない名詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 5 回	Unit 2 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 6 回	Unit 3 代名詞の使い分け (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 7 回	Unit 3 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 8 回	Unit 4 形容詞と副詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 9 回	Unit 4 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 10 回	Unit 5 場所の前置詞と時の前置詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 11 回	Unit 5 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 12 回	Unit 6 Yes/No 疑問文と Wh 疑問文 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 13 回	Unit 6 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テストなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のために 2 時間程度の学習が必要となる見込み：

- 予習、復習
- 課題に関する作業
- リスニング&音読の反復練習

【テキスト（教科書）】

※第二回授業までに教科書を入手すること！

① 『English Contrasts』、金星堂、1900 円＋税。春学期の授業では前半部をカバーする予定。

② 英語辞書（Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい）

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（授業参加・貢献、予習等）： 50 %
- 授業中のテスト類（筆記テスト、音読テスト）： 40 %
- 学期末のプレゼンテーション： 10 %

※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

授業中に個別の学生からの相談・質問に対応の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to basic grammar, reading and listening comprehension skills and reading aloud skills.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to learn basic grammar.
- to improve reading and comprehension skills.
- to improve the fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about two hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%)
- regular quizzes and assignments (40%)
- term-end oral presentation (10%)

LANe100EA

Basic English 1 - II 2

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語力が比較的低い学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。基礎的な文法について確認し、読解・リスニングなどのトレーニングにより英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・基礎的な英文法が理解できる。
- ・簡単な英文の内容が理解し、スムーズに音読できるようになる。
- ・シンプルな内容を英語で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業は原則 Zoom によりリアルタイムで行う。（対面に移行した場合は教室での授業）

- 授業に関する連絡、資料の配布、テスト&課題類は Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。

- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。文法事項の確認、語彙増強、読解、リスニング&音読などの作業を毎回行う。

- 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。

※詳しくは初回ガイダンスで説明する。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業に関する説明、春学期の確認など
第 2 回	Unit 7 他動詞と自動詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 3 回	Unit 7 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 4 回	Unit 8 不定詞と動名詞 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 5 回	Unit 10 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 6 回	Unit 9 過去形と過去進行形と現在完了形 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 7 回	Unit 9 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 8 回	Unit 10 will と be going to (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 9 回	Unit 10 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 10 回	Unit 11 助動詞の使い分け (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 11 回	Unit 11 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 12 回	Unit 12 比較級と最上級 (1)	文法事項の確認、語彙増強など
第 13 回	Unit 12 (2)	読解、音読、確認テストなど
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テストなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のために 2 時間程度の学習が必要となる見込み：

- 予習、復習
- 課題に関する作業
- リスニング&音読の反復練習

【テキスト（教科書）】

※第二回授業までに教科書を入手すること！

- ① 『English Contrasts』、金星堂、1900 円＋税。秋学期の授業で後半部をカバーする予定。
- ② 英語辞書（Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい）

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（授業参加・貢献、予習等）： 50 %
- 授業中のテスト類（筆記テスト、音読テスト）： 40 %
- 学期末のプレゼンテーション： 10 %

※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

授業中に個別の学生からの相談・質問に対応の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to basic grammar, reading and listening comprehension skills and reading aloud skills.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to learn basic grammar.
- to improve reading and comprehension skills.
- to improve the fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about two hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%)
- regular quizzes and assignments (40%)
- term-end oral presentation (10%)

LANe100EA

Basic English 1 - I 3

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界で問題となっている様々な社会事象について、映画を通じて検討していく。この授業では、社会の多様な視点を学ぶことによって、大学における学びの基礎を構築することを一つの目的とする。教科書に沿った学習を基本とするが、適宜、英文記事等の課題を課すことでリーディング力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・長文の内容を理解し、それを簡潔にまとめる（要約）ことができるようになる。
- ・現代社会が抱える問題について関心を持てるようになる。
- ・与えられたテーマにそって情報を収集することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各 Unit を長文読解と課題活動の概ね 2 回に分けて学んでいく。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。レポートの提出・音声の録音を基本課題とする。（課題配信型授業）尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Unit1 : United and Desperation: White Trush (1)	長文読解（訳文の提出）
3	Unit1 : United and Desperation (2)	課題活動（課題の答えを提出）
4	Unit2: Assigning a Label: LGBT (1)	長文読解（訳文の提出）
5	Unit2: Assigning a Label: LGBT (2)	課題活動（課題の答えを提出）
6	Unit 3:Prejudice and Egocentrism (1)	長文読解（訳文の提出）
7	Unit 3:Prejudice and Egocentrism (1)	課題活動（課題の答えを提出）
8	Unit4: Human vs. Property: Slavery Systems (1)	長文読解（訳文の提出）
9	Unit4: Human vs. Property: Slavery Systems (1)	課題活動（課題の答えを提出）
10	Unit 5: Choosing a Home: Immigrants (1)	長文読解（訳文の提出）
11	Unit 5: Choosing a Home: Immigrants (2)	課題活動
12	英文講読 1	新聞記事などの読解
13	英文講読 2	新聞記事などの読解
14	期末レポート授業の総括を含む	期末レポート（詳細は授業内で説明する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Joseph Tabolt, Our Society, Our Diversity, Our Movies (Kinseido, 2019).

【参考書】

適宜、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配点で評価を行う。第 2 回から第 13 回までの課題提出（1 回の提出当たり最高点 5 点、合計 60 点）、期末レポート（最高 20 点）、相対的な評価（20 点）他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。

【学生の意見等からの気づき】

新カリキュラム初年度の授業の為、対象外である。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces social issues through movies to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

【Learning Objectives】 The Goals of this course are next 3 points.

1. To be able to understand the contents of long sentences and summarize them concisely.
2. To be able to collect information on a given topic
3. To be able to collect information according to a given theme.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is one hour.

【Grading Criteria /Policies】

The evaluation will be based on the following distribution of points. Submission of assignments from the second to the thirteenth lecture (maximum 5 points per submission, total 60 points), final report (maximum 20 points), relative evaluation (20 points).

LANe100EA

Basic English 1 - II 3

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界で問題となっている様々な社会現象を映画を通じて検討していく。この授業では、社会の多様な視点を学ぶことによって、大学における学びの基礎を構築することを一つの目的とする。教科書に沿った学習を基本とするが、適宜、英文記事等の課題を課すことでリーディング力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・長文の内容を理解し、それを簡潔にまとめる（要約）ことができるようになる。
- ・現代社会が抱える問題について関心を持てるようになる。
- ・与えられたテーマにそって情報を収集することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各 Unit を長文読解と課題活動の概ね 2 回に分けて学んでいく。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。レポートの提出・音声の録音を基本課題とする。尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。（課題配布型授業）課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点などについて
2	Unit6 : Be a Intercultural Interpreter: Immigrants (1)	長文読解
3	Unit6 : Be a Intercultural Interpreter: Immigrants (2)	課題活動
4	Unit 7: An Illegal Life: Illegal Immigrants (1)	長文読解
5	Unit 7: An Illegal Life: Illegal Immigrants (2)	課題活動
6	Unit 10: An Individual or A Number: State Welfare(1)	長文読解
7	Unit 10: An Individual or A Number: State Welfare(2)	課題活動
8	Unit11:Pushing Past Boundaries: Physical Disability (1)	長文読解
9	Unit11:Pushing Past Boundaries: Physical Disability (2)	課題活動
10	Unit 12: Does It Divide or Unite? Disease (1)	長文読解
11	Unit 12: Does It Divide or Unite? Disease(2)	課題活動
12	英文講読 1	新聞記事などの講読
13	英文講読 2	新聞記事などの講読
14	期末レポート（授業の総括を含む）	レポート課題（詳細は授業内で説明する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Joseph Tabolt, Our Society, Our Diversity, Our Movies (Kinseido, 2019).

【参考書】

適宜、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配点で評価を行う。第 2 回から第 13 回までの課題提出（1 回の提出当たり最高点 5 点、合計 60 点）、期末レポート（最高 20 点）、相対的な評価（20 点）他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。

【学生の意見等からの気づき】

新カリキュラム初年度の授業のため対象外である。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces social issues through movies to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

【Learning Objectives】 The Goals of this course are next 3 points.

1. To be able to understand the contents of long sentences and summarize them concisely.
2. To be able to collect information on a given topic
3. To be able to collect information according to a given theme.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is one hour.

【Grading Criteria /Policies】

The evaluation will be based on the following distribution of points. Submission of assignments from the second to the thirteenth lecture (maximum 5 points per submission, total 60 points), final report (maximum 20 points), relative evaluation (20 points).

LANe100EA

Basic English 1 - I 4

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AFP ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。授業の進め方は、zoom での双方向授業としますので、授業開始 5 分前になりましたら、zoom のミーティングルームに集合してください。出席を確認後、授業を開始いたします。テキストの問題に沿って進めていきますが、リスニングとリーディングという二部構成になっており、一つのユニットを二回で終わらせる予定です。最後のディスカッションの問題は、毎回課題として提出していただきますが、時間に余裕のある時にはグループでディスカッションしたり、発表していただきたいと思えます。提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業で紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。ユニット終了後に小テストを実施する場合がありますが、詳細は一回目の授業でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	ガイダンス及び Unit1 Natural vs Artificial: For AI voice assistance (音声技術：人の声と人工音声)	授業の進め方やテキストの説明及び Unit1 に入ります。前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）
第 3 回	Unit 1 Natural vs Artificial: For AI voice assistance (音声技術：人の声と人工音声 Language Lessons) (小学生の英語の達人)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）。時間に余裕がある時は最後にディスカッションや発表を行います。
第 4 回	Unit 2 Relocating vs Protecting Buildings: How to preserve historical sites (文化財保護：移転と保護)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）
第 5 回	Unit 2 Relocating vs Protecting Buildings: How to preserve historical sites (文化財保護：移転と保護)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）。時間に余裕がある時は最後にディスカッションや発表を行います。
第 6 回	Unit3 Disease Prevention vs Economic Growth: Which comes first? (感染症：予防対策と経済成長)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）

第 7 回	Unit3 Disease Prevention vs Economic Growth: Which comes first? (感染症：予防対策と経済成長)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）。時間に余裕がある時は最後にディスカッションや発表を行います。
第 8 回	Unit 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard: Discipline for preventing crimes (教育：課外活動と学習)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）
第 9 回	Unit 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard: Discipline for preventing crimes (教育：課外活動と学習)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）。時間に余裕がある時は最後にディスカッションや発表を行います。
第 10 回	Unit 5 Traditional Living vs Urbanization: Is noise pollution? (騒音：都市化と自然の音)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）
第 11 回	Unit 5 Traditional Living vs Urbanization: Is noise pollution? (騒音：都市化と自然の音)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）。時間に余裕がある時は最後にディスカッションや発表を行います。
第 12 回	Unit 6 Fair Trade vs Free Trade: What is best for farmers? (貿易：自由と保護)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）
第 13 回	Unit 6 Fair Trade vs Free Trade: What is best for farmers? (貿易：自由と保護)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）。時間に余裕がある時は最後にディスカッションや発表を行います。
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの最初の語彙問題やリスニング（穴埋め）など、その場で解いていた問題を除いては、すべて宿題になると思ってください。翌週答え合わせをしますので、指示された宿題は次の授業に支障がでないように必ずやってきました。また、課題の提出は、ネットのトラブルや体調不良を除いて締め切り後は受け付けません。その他テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといでしょう。また、オンライン学習システムを利用して、ユニットごとに文法や単語、リスニングなど各自問題を解いていただく予定ですが、詳細は一回目の授業でお知らせします。本授業の準備・復習時間は、約 1-2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

AFP World News Report 6 -AFP ニュースで見る世界 6 (成美堂、2022 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % (出欠、課題)、試験 (50 %) 出欠に関しましては、5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は双方向で行う予定ですので、パソコンやネットワークは準備しておいてください。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course introduces English news to students. (Learning Objectives)The end of this course, students are expected to acquire the listening, reading, and writing skills. (Learning activities outside of classroom)Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class. Your study time will be at least 1-2 hours for a class.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the followings: short reports/short tests /attendance/in-class contribution(50%), term-end examination(50%).

LANe100EA

Basic English 1 - II 4

石垣 弥麻

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AFP ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は春学期と同じで、テキストの後半に入ります。zoom での双方向授業としますので、授業開始 5 分前になりましたら、zoom のミーティングルームに集合してください。出席を確認後、授業を開始いたします。テキストはリスニングとリーディングという二部構成になっており、一つのユニットを二回で終わらせる予定です。最後のディスカッションの問題は、毎回課題として提出していただきます。時間に余裕があればグループで話し合いなど行いたいと思います。提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業で紹介する場合があります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。ユニット終了後に小テストを実施する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期の復習及び英語で意見を書く
第 2 回	Unit 7 Environmental Activism vs International Agreements: Which is better? (環境保護：活動家と政治家)	Unit 7 前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）
第 3 回	Unit 7 Environmental Activism vs International Agreements: Which is better? (環境保護：活動家と政治家)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）
第 4 回	Unit 8 Alternative vs Fossil Energy: Power for the future (エネルギー：代替エネルギーと化石燃料)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）
第 5 回	Unit 8 Alternative vs Fossil Energy: Power for the future (エネルギー：代替エネルギーと化石燃料)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く）
第 6 回	Unit 9 Vegetarians vs Meat Eaters: Fighting dietary habits for the environment (食生活：菜食主義者と肉食)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（語彙問題、リスニング、内容理解）

第 7 回	Unit 9 Vegetarians vs Meat Eaters: Fighting dietary habits for the environment (食生活：菜食主義者と肉食)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く)
第 8 回	Unit 10 Endangered Species vs Diplomacy: Animal rights (絶滅危惧種の保護：種の保全と国際親善)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(語彙問題、リスニング、内容理解)
第 9 回	Unit 10 Endangered Species vs Diplomacy: Animal rights (絶滅危惧種の保護：種の保全と国際親善)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く)
第 10 回	Unit 11 Old vs New Industries: Solving unemployment (失業対策：伝統産業と新しい産業)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(語彙問題、リスニング、内容理解)
第 11 回	Unit 11 Old vs New Industries: Solving unemployment (失業対策：伝統産業と新しい産業)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く)
第 12 回	Unit 12 Needed vs Not Needed: Affirmative action (アフターマティブアクション：差別と是正)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(語彙問題、リスニング、内容理解)
第 13 回	Unit 12 Needed vs Not Needed: Affirmative action (アフターマティブアクション：差別と是正)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(語彙問題、内容理解、文法、トピックに関する意見を書く)
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストの最初の語彙問題やリスニング(穴埋め)など、その場で解いていた
だけ問題を除いては、すべて宿題になると思ってください。翌週答え合わせ
をしますので、指示された宿題は次の授業に支障がでないように必ずやっ
ててください。また、課題の提出は、ネットのトラブルや体調不良を除いて
締め切り後は受け付けません。その他テキストの動画や音声は出版社のホ
ームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけ
でなく、普段から利用して耳を慣らしておくといいでしょう。また、オン
ライン学習システムを利用して、ユニットごとに文法や単語、リスニングなど
各自問題を解いていたください。本授業の準備・復習時間は、約1-2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

AFP World News Report 6-AFP ニュースで見る世界 6(成美堂、2022年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (出欠、課題)、試験 (50%)
出欠に関しましては、5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は双方向で行う予定ですので、パソコンやネットワークは準備しておいてください。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。
ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。
アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course introduces English news to students.
(Learning Objectives)The end of this course, students are expected to
acquire the listening, reading, and writing skills. (Learning activities
outside of classroom)Students will be expected to have completed the
required assignments before/after each class. Your study time will
be at least 1-2 hours for a class.(Grading Criteria/Policy)Your overall
grade in the class will be decided based on the followings: short
reports/short tests /attendance/in-class contribution(50%), term-end
examination(50%).

LANe100EA

Basic English 1 - I 5

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考(履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、
学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習
支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な
英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法
的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日
本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、よ
り長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授
業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連)】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2~3回の授業で1章分というペースで進めることを
目標とします。1章毎に小テストを実施する予定です。特に難解な文につ
いては解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能
であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法につ
いて確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察し
ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予
定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明 など
第 2 回	Is it in your blood?(前 半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。
第 3 回	Is it in your blood?(後 半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。小テストを実施 する。
第 4 回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。
第 5 回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。小テストを実施 する。
第 6 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。
第 7 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。小テストを実施 する。
第 8 回	課題の振り返り(前半)	これまでの課題から見られる困難点に ついてフィードバックを行う。
第 9 回	Money matters(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。
第 10 回	Money matters(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。小テストを実施 する。
第 11 回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。
第 12 回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。小テストを実施 する。
第 13 回	課題の振り返り(後半)	これまでの課題から見られる困難点に ついてフィードバックを行う。
第 14 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法 を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャック/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末の課題（40%）

①授業課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100EA

Basic English 1 - II 5

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	Is it in your blood?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャック/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末の課題（40%）

①授業課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100EA

Basic English 1 - I 6

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第2回	Is it in your blood?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	Is it in your blood?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャック/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題 (60%)

期末の課題 (40%)

①授業課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100EA

Basic English 1 - II 6

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	Is it in your blood?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャック/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末の課題 (40%)

①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100EA

Basic English 1 - I 7

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在学生が持っている英語の能力を少しでも伸ばすことを目指します。まず英語を読むこと。そこから英語を書くことと聴く能力も伸ばしたいと思っています。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にしながら、学生に向けて書かれた英文を読み、それを正確な日本語に置き換えられる。そこに書かれた英語を参考にして、簡単な英作文ができる。さらに文全体ではなくとも、知っている単語のレベルでは聴き取りができる。以上 3 点が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は 1 年生の授業なので、教科書用に書かれた簡単な英文を読んで訳すことを中心に、あわせてライティング（と教室で授業が行えるなら、リスニング）の練習を行います。また、語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、教室で授業が行えることがあれば単語のテストを行います（教室で授業ができない時は行わない）。

教科書はリーディングのページの分量が多めで、英作問題も行うので、1 章に授業は 2 回から 3 回を予定しています。

オンライン授業は Webex をつかって行います。学生には毎回授業の最後に簡単な課題を出します。学生の解答などで気づいたことは毎回口頭で伝える形でフィードバックします。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	多様性	キヨミとサンミ ある在日コリアンの物語
第 3 回	多様性	多様性と差別
第 4 回	多様性	第 6 章の練習問題
第 5 回	知覚	経験を描写することと経験を解釈することの違い
第 6 回	知覚	後天的・習慣的過程としての知覚
第 7 回	知覚	第 7 章の英作問題
第 8 回	コミュニケーションの形 1	コミュニケーションの形が違えば大きな問題だって生じる
第 9 回	コミュニケーションの形 1	日本のコミュニケーションの形とアメリカのコミュニケーションの形
第 10 回	コミュニケーションの形 1	第 8 章の練習問題
第 11 回	コミュニケーションの形 1	第 3 章の英作問題
第 12 回	いじめ	いじめの問題 訳と英作問題
第 13 回	前期の復習	前期の復習
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読む予定の文中に出てくる単語の中で、知らないものについてはその意味を調べること。

教室で授業が行える時は、毎回単語の試験を行うので、その準備をすることと辞書を持参すること。

それと英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。どんな形でも英語に触れることを増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・ショール 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007 年）本体価格 2000 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他外必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験試験を行い、英文を正しく理解し、それを他人が読んで理解できる日本語に置き換えられているか、また授業で行った英作問題の表現を使って英作文が構成できているかを見る。その結果をもって評価します（定期試験100パーセント）。試験は、読む、書くの2部門で試験します。試験における配分は、読む60点、書く25点、85点満点です（教室で授業が数回でも行える場合は、聞き取り問題15点も含めて100点満点とする）。

オンラインになった場合は、訳すだけではなく、なぜその訳になるのかを問う問題を出すことも考えている。

【学生の意見等からの気づき】

1年間Webexを使って授業を行ったが、授業が中断してしまうこともありたりなどして、随分迷惑をかけたと思います。それもあって意思疎通が十分にできませんでした。

【その他の重要事項】

毎年、授業中に行う予定だった単語の試験は、もし教室での授業が可能なら、今年も行うので、6割以上の成績を取めることが必須です。オンライン授業のみになった場合は、単語試験は行わない。

今学期はオンライン授業の予定なので、出席は、Webexの授業に出席するだけでなく、だされた課題もやる必要があります。この二つをクリアして初めて授業に出席したことになります。なので、授業に5回以上欠席する、あるいは、課題の未提出が5回になると、無条件で不合格とする。

試験はかならず受験すること（受験しないことは認めない）。できる限り追試になることは避けてください。やむを得ない理由で試験を受けられない場合も、当日試験の始まる前に連絡をすること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' abilities to read and write English, as well as to hear English words. At the end of the course, students read English texts well and translate them into Japanese correctly, and they write readable English sentences.

Your overall grade in this class will be decided base on the following : Term-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 1 - II 7

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1単位

曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English1 - Iの授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 1-I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、普通原書レベルの英文を読んで、訳せること、2年生になってさらに高度な英語が読めるようになるよう準備することを目指します。英作文と聞き取りに関してはBE1と同じです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、英文を読んで訳すことが中心です。学生が英文を読んで訳し、それを教師が補う。その後英作問題と聞き取り問題の練習を行います。教師は気づいたことを毎回授業中に伝えます。

前期に引き続きオンライン授業になった時は、前期と同じように、Webexをつかって授業を行い同様の授業をする。最後に簡単な課題を毎回学生に出すので、教師は学生のレポートを確認して、参考になると思われる学生の回答や訳は、オンライン授業の中で紹介することでフィードバックします

教室で授業が行えるなら、毎回単語試験をします。教室で授業が行えない時は実施しない。

授業計画には授業の展開によって若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業について説明します
第2回	コミュニケーションの形2	大阪とニューヨークの共通点
第3回	コミュニケーションの形2	文脈に依存する/依存しないコミュニケーション
第4回	コミュニケーションの形2	第9章の英作問題
第5回	価値観	個人的価値感
第6回	価値観	文化的価値観
第7回	価値観	第10章の練習問題
第8回	根っこの文化	アントニオの謎
第9回	根っこの文化	個人主義対集団主義
第10回	根っこの文化	第11章の練習問題
第11回	カルチャーショック	新潟のアメリカ人
第12回	カルチャーショック	カルチャーサプライズ カルチャーストレス カルチャーショック
第13回	光公害	街の灯りと自然に及ぼすその影響
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。

それと英米の映画を観たり、音楽を聴くことの勉強になると思います。英語に接する機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・シュールズ 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007年）本体価格2000円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

前期と同じで、期末テストで、英文を理解し、それを他人に伝わる日本語にできているか、また授業中に行った英作問題の表現を使って英文を作るかを見ます、その結果で評価します(期末テストの割合が100パーセント)。試験は、読む、書くことを試験します。配分は読む60点、書く25点で、聞く15点で、合計100点満点(オンラインでの試験となった時には聞き取りを除く、85点満点で採点する予定です)。

【学生の意見等からの気づき】

学生に提示する試訳や文法の等の説明に入力ミス、などが多く学生に迷惑をかけたので、それをできる限り減らしたいと思います。また Webex を活用する機会も増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で6割以上の成績を取めること、出席を3分の2以上することは、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件を一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

教科書と辞書は必ず教室に持ってくる。持っていない場合は、出席を認めないので注意すること。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

以上は例年の教室で行う授業の基準ですが、オンライン授業では、オンライン授業の出席と課題の提出をもって、出席とするので、欠席が5回以上、あるいは課題の未提出が5回以上になれば、それだけで不合格とします。

試験を受けることは例年と同じく必須です。

【Outline (in English)】

Following BE 1, this course aims at improving students' basic English skills further. At the end of the course, students manage to read advanced English texts and write good sentences, as well as hear English sentences.

Your overall grade in this class will be decide based on the following:

Term-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 1 - I 8

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考(履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現在学生が持っている英語の能力を少しでも伸ばすことを目指します。まず英語を読むこと。そこから英語を書くことと聴く能力も伸ばしたいと思っています。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にしながら、学生に向けて書かれた英文を読み、それを正確な日本語に置き換えられる。そこに書かれた英語を参考にして、簡単な英作文ができる。さらに文全体ではなくとも、知っている単語のレベルでは聴き取りができる。以上3点が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は1年生の授業なので、教科書用に書かれた簡単な英文を読んで訳すことを中心に、あわせてライティング(と教室で授業が行えるなら、リスニング)の練習を行います。また、語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、教室で授業が行えることがあれば単語のテストを行います(教室で授業ができない時は行わない)。

教科書はリーディングのページの分量が多めで、英作問題も行うので、1章に授業は2回から3回を予定しています。

オンライン授業は Webex をつかって行います。学生には毎回授業の最後に簡単な課題を出します。学生の解答などで気づいたことは毎回口頭で伝える形でフィードバックします。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第2回	多様性	キヨミとサンミ ある在日コリアンの物語
第3回	多様性	多様性と差別
第4回	多様性	第6章の練習問題
第5回	知覚	経験を描写することと経験を解釈することの違い
第6回	知覚	後天的・習慣的過程としての知覚
第7回	知覚	第7章の英作問題
第8回	コミュニケーションの形1	コミュニケーションの形が違えば大きな問題だって生じる
第9回	コミュニケーションの形1	日本のコミュニケーションの形とアメリカのコミュニケーションの形
第10回	コミュニケーションの形1	第8章の練習問題
第11回	コミュニケーションの形1	第3章の英作問題
第12回	いじめ	いじめの問題 訳と英作問題
第13回	前期の復習	前期の復習
第14回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で読む予定の文中に出てくる単語の中で、知らないものについてはその意味を調べる。

教室で授業が行える時は、毎回単語の試験を行うので、その準備をすることと辞書を持参すること。
それと英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。どんな形でも英語に触れることを増やすことが大切です。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・ショール 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007年）本体価格 2000円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）
『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）
その他必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験試験を行い、英文を正しく理解し、それを他人が読んで理解できる日本語に置き換えられているか、また授業で行った英作問題の表現を使って英作文が構成できているかを見る。その結果をもって評価します（定期試験100パーセント）。試験は、読む、書くの2部門で試験します。試験における配分は、読む60点、書く25点、85点満点です（教室で授業が数回でも行える場合は、聞き取り問題15点も含めて100点満点とする）。

オンラインになった場合は、訳すだけではなく、なぜその訳になるのかを問う問題を出すことも考えている。

【学生の意見等からの気づき】

1年間Webexを使って授業を行ったが、授業が中断してしまうこともあったりなどして、随分迷惑をかけたと思います。それもあって意識疎通が十分にできませんでした。

【その他の重要事項】

毎年、授業中に行う予定だった単語の試験は、もし教室での授業が可能なら、今年も行うので、6割以上の成績を収めることが必須です。オンライン授業のみになった場合は、単語試験は行わない。

今学期はオンライン授業の予定なので、出席は、Webexの授業に出席するだけでなく、だされた課題もやる必要があります。この二つをクリアして初めて授業に出席したことになります。なので、授業に5回以上欠席する、あるいは、課題の未提出が5回になると、無条件で不合格とする。

試験はかならず受験すること（受験しないことは認めない）。できる限り追試になることは避けてください。やむを得ない理由で試験を受けられない場合も、当日試験の始まる前に連絡をすること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' abilities to read and write English, as well as to hear English words. At the end of the course, students read English texts well and translate them into Japanese correctly, and they write readable English sentences.
Your overall grade in this class will be decided base on the following:
Term-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 1 - II 8

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English1 - Iの授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 1-I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、普通の本レベルの英文を読んで、訳せること、2年生になってさらに高度な英語が読めるようになるよう準備することを目指します。英作文と聞き取りに関してはBE1と同じです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、英文を読んで訳すことが中心です。学生が英文を読んで訳し、それを教師が補う。その後英作問題と聞き取り問題の練習を行います。教師は気づいたことを毎回授業中に伝えます。

前期に引き続きオンライン授業になった時は、前期と同じように、Webexをつかって授業を行い同様の授業をする。最後に簡単な課題を毎回学生に出すので、教師は学生のレポートを確認して、参考になると思われる学生の回答や訳は、オンライン授業の中で紹介することでフィードバックします

教室で授業が行えるなら、毎回単語試験をします。教室で授業が行えない時は実施しない。
授業計画には授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業について説明します
第2回	コミュニケーションの形2	大阪とニューヨークの共通点
第3回	コミュニケーションの形2	文脈に依存する／依存しないコミュニケーション
第4回	コミュニケーションの形2	第9章の英作問題
第5回	価値観	個人的価値感
第6回	価値観	文化的価値観
第7回	価値観	第10章の練習問題
第8回	根っこの文化	アントニオの謎
第9回	根っこの文化	個人主義対集団主義
第10回	根っこの文化	第11章の練習問題
第11回	カルチャーショック	新潟のアメリカ人
第12回	カルチャーショック	カルチャーサプライズ カルチャーストレス カルチャーショック
第13回	光公害	街の灯りと自然に及ぼすその影響
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。

それと英米の映画を観たり、音楽を聴くことの勉強になると思います。英語に接する機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・シュールズ 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007年）本体価格 2000円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）
『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）
その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

前期と同じで、期末テストで、英文を理解し、それを他人に伝わる日本語にできているか、また授業中に行った英作問題の表現を使って英文を作るかを見ます、その結果で評価します(期末テストの割合が100パーセント)。試験は、読む、書くことを試験します。配分は読む60点、書く25点で、聞く15点で、合計100点満点(オンラインでの試験となった時には聞き取りを除く、85点満点で採点する予定です)。

【学生の意見等からの気づき】

学生に提示する訳語や文法の等の説明に入力ミス、などが多く学生に迷惑をかけたので、それをできる限り減らしたいと思います。また Webex を活用する機会を増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で6割以上の成績を取めること、出席を3分の2以上することは、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件の一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

教科書と辞書は必ず教室に持ってくる。持っていない場合は、出席を認めないので注意すること。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

以上は例年の教室で行う授業の基準ですが、オンライン授業では、オンライン授業の出席と課題の提出をもって、出席とするので、欠席が5回以上、あるいは課題の未提出が5回以上になれば、それだけで不合格とします。

試験を受けることは例年と同じく必須です。

【Outline (in English)】

Following BE 1, this course aims at improving students' basic English skills further. At the end of the course, students manage to read advanced English texts and write good sentences, as well as hear English sentences.

Your overall grade in this class will be decide based on the following:

Term-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 1 - I 9

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考(履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
- (3) 映画のセリフを俳優に合わせて話す (speaking) 練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTubeなどで見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン(課題提示、提出など)での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

提出物に関しては、内容、書式に大きな問題が多い場合は、再提出などの指示を出すことがあります。逆によく書けている課題やレポートの一部を良い見本として全員で紹介することもあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第2回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第3回	洋楽(1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第4回	洋楽(2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第5回	洋楽(3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第6回	映画(1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第7回	映画(2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第8回	映画(3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第9回	映画(4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第10回	映画(5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第11回	映画(6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第12回	映画(7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第13回	映画(8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第14回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTubeや映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoomは使用しない。

2. 動画配信サービス (アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等)

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD (またはブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD (再生画面付のもの、平均 ¥5,000 程度) を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

・対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - II 9

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

(1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。

(2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。

(3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。

(4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン (課題提示、提出など) での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

提出物に関しては、内容、書式に大きな問題が多い場合は、再提出などの指示を出すことがあります。逆によく書けている課題やレポートの一部を良い見本として全員で紹介することもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題・宿題 = 60 %

・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。

2. 動画配信サービス (アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等)

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD (またはブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度) を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

・対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 0

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

(1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。

(2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。

(3) 映画のセリフを俳優に合わせて話す (speaking) 練習をする。

(4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン (課題提示、提出など) での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまなう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

提出物に関しては、内容、書式に大きな問題が多い場合は、再提出などの指示を出すことがあります。逆によく書けている課題やレポートの一部を良い見本として全員で紹介することもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題・宿題 = 60 %

・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や動画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。

2. 動画配信サービス (アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等)

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD (またはブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD (再生画面付のもの、平均 ¥5,000 程度) を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

・対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 0

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

(1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。

(2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。

(3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。

(4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン (課題提示、提出など) での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

提出物に関しては、内容、書式に大きな問題が多い場合は、再提出などの指示を出すことがあります。逆によく書けている課題やレポートの一部の良い見本として全員で紹介することもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題・宿題 = 60 %

・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。

2. 動画配信サービス (アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等)

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD (またはブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD (再生画面付のもの、平均¥5,000 程度) を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

・対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法を提示します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 1

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の 4 技能 (読む、書く、聞く、話す) の基礎を身に付けることを目的とします。そのために基本的かつ必須の文法事項を学び直し、基本単語を身につけます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 英語の 4 技能 (読む、書く、聞く、話す) の基礎を身に付ける。2) 基本的かつ必須の文法事項を身に付ける。1)、2) を習得した後、特に平易な英文を読むことと、簡単な英作文が書けるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では英文理解のために必要な基本的かつ必須の文法事項のみを学び直します。またスムーズな英文読解方法、リスニングやスピーキングの基礎を習得します。授業は学生諸君の理解を確認しながら丁寧に進めます。授業中 1 回は当たる心づもりで予習し、授業に臨んでください。また一つの文法事項をグループディスカッションすることで、お互いの理解を確認し、深めていきます。試験やレポートは講評や振り返りを行うことで内容の定着を目指します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Unit 1「品詞」(8 品詞・句・節) と 5 文型	5 文型の復習 (プリント) と「品詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
3	Unit 1「品詞」(8 品詞・句・節)	「品詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
4	Unit 10「形容詞・副詞」(形容詞・注意すべき形容詞・副詞・注意すべき形容詞と同形の副詞)	「形容詞・副詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
5	Unit 3「基本時制」(基本時制・現在時制・過去時制・未来時制)	「基本時制」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
6	Unit 3「基本時制」(基本時制・現在時制・過去時制・未来時制)	「基本時制」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
7	Unit 5「進行形」(進行形・進行形にできない動詞・現在進行形・過去進行形・未来進行形)	「進行形」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
8	Unit 6「完了形」(完了形・現在完了形・過去完了形・未来完了形・現在完了進行形)	「完了形」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
9	Unit 6「完了形」(完了形・現在完了形・過去完了形・未来完了形・現在完了進行形)	「完了形」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
10	Unit 13「不定詞」(不定詞・to 不定詞・原型不定詞・to 不定詞のみを目的語に取る動詞・to 不定詞を含む注意すべき表現)	「不定詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
11	Unit 13「不定詞」(不定詞・to 不定詞・原型不定詞・to 不定詞のみを目的語に取る動詞・to 不定詞を含む注意すべき表現)	「不定詞」の基礎を学ぶ。「動名詞」の基礎を学ぶ。小テスト。

- 12 Unit 14「動名詞」(動名詞・動名詞のみを目的語に取る動詞・to不定詞と動名詞の両方を目的語に取る動詞・動名詞を含む注意すべき表現) 「動名詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
- 13 Unit 14「動名詞」(動名詞・動名詞のみを目的語に取る動詞・to不定詞と動名詞の両方を目的語に取る動詞・動名詞を含む注意すべき表現) 「動名詞」の基礎を学ぶ。「動名詞」の基礎を学ぶ。小テスト。
- 14 試験・まとめと解説。 試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時には辞書は必ず持参のこと。授業中に指定された予習箇所は必ず行うこと。授業中に不明な点、理解できない点、説明を要する点があれば、その場で質問するように心がけ、授業終了時にはすべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

「読解と表現をめざす基礎文法 / A First Step toward College English」、小中秀彦、Asahi Press、2018年、¥1700 + 税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10%、課題 (小テスト) 30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題 (小テスト) への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

This course focuses on basic English grammar. It also enhances the development of students' skills in reading, writing, listening, and speaking. At the end of the course, students are expected to write and read plain English sentences. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided on the following. Term-end examination: 60%, Short reports(Short tests):30%, in class contribution:10%.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 1

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の4技能 (読む、書く、聞く、話す) の基礎を身に付けることを目的とします。そのために基本的かつ必須の文法事項を学び直し、基本単語を身につけます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 英語の4技能 (読む、書く、聞く、話す) の基礎を身に付ける。2) 基本的かつ必須の文法事項を身に付ける。1)、2) を習得した後、特に平易な英文を読むことと、簡単な英作文が書けるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では英文理解のために必要な基本的かつ必須の文法事項のみを学び直します。またスムーズな英文読解方法、リスニングやスピーキングの基礎を習得します。授業は学生諸君の理解を確認しながら丁寧に進めます。授業中1回は当たる心づもりで予習し、授業に臨んでください。授業中に一つの文法事項をグループディスカッションすることで、お互いの理解を確認し、深めていきます。試験やレポートは講評や振り返りを行うことで内容の定着を目指します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 15「分詞」(分詞・分詞の限定用法・分詞の叙述用法・分詞構文)	「分詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
2	Unit 15「分詞」(分詞・分詞の限定用法・分詞の叙述用法・分詞構文)	「分詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
3	Unit 11「前置詞」(前置詞・時を表す前置詞・場所を表す前置詞・その他の前置詞・群前置詞)	「前置詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
4	Unit 12「受動態」(能動態・受動態・by以外の前置詞を用いる受動態・be動詞以外の動詞+過去分詞・受け身を表す注意すべき表現)	「受動態」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
5	Unit 12「受動態」(能動態・受動態・by以外の前置詞を用いる受動態・be動詞以外の動詞+過去分詞・受け身を表す注意すべき表現)	「受動態」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
6	Unit 17「比較」(比較表現・原級・比較級・最上級)	「比較」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
7	Unit 17「比較」(比較表現・原級・比較級・最上級)	「比較」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
8	Unit 7「助動詞」(助動詞・心理状態を表す助動詞・助動詞と同じ働きをする語句・助動詞+完了形)	「助動詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
9	Unit 7「助動詞」(助動詞・心理状態を表す助動詞・助動詞と同じ働きをする語句・助動詞+完了形)	「助動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。

10	Unit 7「助動詞」(助動詞・心理状態を表す助動詞・助動詞と同じ働きをする語句・助動詞+完了形)	「助動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。
11	Unit 4「句動詞」(いろいろな句動詞)	「句動詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。英作文演習。
12	Unit 4「句動詞」(いろいろな句動詞)	「句動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。
13	Unit 4「句動詞」(いろいろな句動詞)	「句動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。
14	試験・まとめと解説。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。授業中に指定された予習箇所は必ず行うこと。授業中に不明な点、理解できない点、説明を要する点があれば、その場で質問するように心がけ、授業終了時にはすべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「読解と表現をめざす基礎文法 / A First Step toward College English」、小中秀彦、Asahi Press、2018年、¥1700 +税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10%、課題(小テスト)30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題(小テスト)への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

This course focuses on basic English grammar. It also enhances the development of students' skills in reading, writing, listening, and speaking. At the end of the course, students are expected to write and read plain English sentences. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided on the following. Term-end examination: 60%, Short reports(Short tests):30%, in class contribution:10%.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 2

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎を身に付けることを目的とします。そのために基本的かつ必須の文法事項を学び直し、基本単語を身につけます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎を身に付ける。2) 基本的かつ必須の文法事項を身に付ける。1)、2) を習得した後、特に平易な英文を読むことと、簡単な英作文が書けるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では英文理解のために必要な基本的かつ必須の文法事項のみを学び直します。またスムーズな英文読解方法、リスニングやスピーキングの基礎を習得します。授業は学生諸君の理解を確認しながら丁寧に進めます。授業中1回は当たる心づもりで予習し、授業に臨んでください。また一つの文法事項をグループディスカッションすることで、お互いの理解を確認し、深めていきます。試験やレポートは講評や振り返りを行うことで内容の定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Unit 1「品詞」(8品詞・句・節)と5文型	5文型の復習(プリント)と「品詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
3	Unit 1「品詞」(8品詞・句・節)	「品詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
4	Unit 10「形容詞・副詞」(形容詞・注意すべき形容詞・副詞・注意すべき形容詞と同形の副詞)	「形容詞・副詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
5	Unit 3「基本時制」(基本時制・現在時制・過去時制・未来時制)	「基本時制」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
6	Unit 3「基本時制」(基本時制・現在時制・過去時制・未来時制)	「基本時制」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。

- 7 Unit 5「進行形」(進行形・進行形にできない動詞・現在進行形・過去進行形・未来進行形) 「進行形」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
- 8 Unit 6「完了形」(完了形・現在完了形・過去完了形・未来完了形・現在完了進行形) 「完了形」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
- 9 Unit 6「完了形」(完了形・現在完了形・過去完了形・未来完了形・現在完了進行形) 「完了形」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
- 10 Unit 13「不定詞」(不定詞・to不定詞・原形不定詞・to不定詞のみを目的語に取る動詞・to不定詞を含む注意すべき表現) 「不定詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
- 11 Unit 13「不定詞」(不定詞・to不定詞・原形不定詞・to不定詞のみを目的語に取る動詞・to不定詞を含む注意すべき表現) 「不定詞」の基礎を学ぶ。「動名詞」の基礎を学ぶ。小テスト。
- 12 Unit 14「動名詞」(動名詞・動名詞のみを目的語に取る動詞・to不定詞と動名詞の両方を目的語に取る動詞・動名詞を含む注意すべき表現) 「動名詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
- 13 Unit 14「動名詞」(動名詞・動名詞のみを目的語に取る動詞・to不定詞と動名詞の両方を目的語に取る動詞・動名詞を含む注意すべき表現) 「動名詞」の基礎を学ぶ。「動名詞」の基礎を学ぶ。小テスト。
- 14 試験・まとめと解説。 試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。授業中に指定された予習箇所は必ず行うこと。授業中に不明な点、理解できない点、説明を要する点があれば、その場で質問するように心がけ、授業終了時にはすべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『読解と表現をめざす基礎文法 / A First Step toward College English』、小中秀彦、Asahi Press、2018年、¥1700 + 税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10%、課題（小テスト）30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題（小テスト）への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

This course focuses on basic English grammar. It also enhances the development of students' skills in reading, writing, listening, and speaking. At the end of the course, students are expected to write and read plain English sentences. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided on the following. Term-end examination: 60%, Short reports(Short tests):30%, in class contribution:10%.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 2

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎を身に付けることを目的とします。そのために基本的かつ必須の文法事項を学び直し、基本単語を身につけます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 英語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎を身に付ける。2) 基本的かつ必須の文法事項を身に付ける。1)、2) を習得した後、特に平易な英文を読むことと、簡単な英作文が書けるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では英文理解のために必要な基本的かつ必須の文法事項のみを学び直します。またスムーズな英文読解方法、リスニングやスピーキングの基礎を習得します。授業は学生諸君の理解を確認しながら丁寧に進めます。授業中 1 回は当たる心づもりで予習し、授業に臨んでください。授業中に一つの文法事項をグループディスカッションすることで、お互いの理解を確認し、深めていきます。試験やレポートは講評や振り返りを行うことで内容の定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 15「分詞」(分詞・分詞の限定用法・分詞の叙述用法・分詞構文)	「分詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
2	Unit 15「分詞」(分詞・分詞の限定用法・分詞の叙述用法・分詞構文)	「分詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
3	Unit 11「前置詞」(前置詞・時を表す前置詞・場所を表す前置詞・その他の前置詞・群前置詞)	「前置詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
4	Unit 12「受動態」(能動態・受動態・by 以外の前置詞を用いる受動態・be 動詞以外の動詞 + 過去分詞・受け身を表す注意すべき表現)	「受動態」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。

5	Unit 12「受動態」(能動態・受動態・by 以外の前置詞を用いる受動態・be 動詞以外の動詞 + 過去分詞・受け身を表す注意すべき表現)	「受動態」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
6	Unit 17「比較」(比較表現・原級・比較級・最上級)	「比較」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
7	Unit 17「比較」(比較表現・原級・比較級・最上級)	「比較」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。
8	Unit 7「助動詞」(助動詞・心理状態を表す助動詞・助動詞と同じ働きをする語句・助動詞 + 完了形)	「助動詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。
9	Unit 7「助動詞」(助動詞・心理状態を表す助動詞・助動詞と同じ働きをする語句・助動詞 + 完了形)	「助動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。
10	Unit 7「助動詞」(助動詞・心理状態を表す助動詞・助動詞と同じ働きをする語句・助動詞 + 完了形)	「助動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。
11	Unit 4「句動詞」(いろいろな句動詞)	「句動詞」の基礎を学ぶ。基本単語の確認とディクテーション及び文法に関する演習問題。小テスト。英作文演習。
12	Unit 4「句動詞」(いろいろな句動詞)	「句動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。
13	Unit 4「句動詞」(いろいろな句動詞)	「句動詞」の基礎を学ぶ。読解とリスニング及びスピーキング。小テスト。英作文演習。
14	試験・まとめと解説。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。授業中に指定された予習箇所は必ず行うこと。授業中に不明な点、理解できない点、説明を要する点があれば、その場で質問するように心がけ、授業終了時にはすべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『読解と表現をめざす基礎文法 / A First Step toward College English』、小中秀彦、Asahi Press、2018 年、¥1700 + 税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10 %、課題(小テスト)30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題(小テスト)への解読と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

This course focuses on basic English grammar. It also enhances the development of students' skills in reading, writing, listening, and speaking. At the end of the course, students are expected to write and read plain English sentences. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided on the following. Term-end examination: 60%, Short reports(Short tests):30%, in class contribution:10%.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 3

堀 いつみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事の英文記事を読むことにより、読解力及び報道をより多角的に捉える力を養います。また、その中で writing の参考になることにも意識していきます。
・リスニングテスト（TOEIC 用）を使い、listening と speaking の力を磨きかけます。

【到達目標】

・時事英語の特徴が分かるようになること
・馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味を発見し、それを実際に活用する力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
・状況によっては、授業進度、内容に変更もありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	・ Introduction to Unit 1 ・ Ceremony	Unit 1 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit 1
3	・ Lessons from Estonia ・ School Life	Unit 1 の精読、Listening テキストの Unit 2
4	・ Lessons from Estonia ・ Transportation	Unit 1 の精読続編、Listening テキストの Unit 3
5	・ Introduction to Unit 2 ・ Outdoor Activities	Unit 2 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit 4
6	・ The Tokyo Olympics ・ Weather	Unit 2 の精読、Listening テキストの Unit 5
7	Introduction to Unit 3 ・ Holiday Plans	Unit3 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit6
8	・ Japanese Pop Culture and the Pandemic ・ Resort Area	Unit3 の精読、Listening テキストの Unit7
9	・ Introduction to Unit 4 ・ Directions	Unit 4 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit 8
10	・ Israel's Ultra-Orthodox Community ・ Job Experience	Unit 4 の精読、Listening テキストの Unit 9
11	・ Introduction to Unit 5 ・ Summer Sale	Unit 5 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit 10
12	Path to Renewable Energy Future	Unit 5 の精読
13	Introduction to Unit 6	Unit 6 の語彙の確認、精読
14	Ancient Asteroid Dust Collected by Japan's Hayabusa2 Probe	Unit 6 の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に予め記事を読みましょう。
・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
・毎回出題される課題を提出しましょう。
(本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

・ 15 Selected Units of English through the News Media - 2022 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2022年) 1,200円+税
 ・ Practical Situations for the TOEIC Test Listening [Revised Edition] (吉田佳代著、成美堂、2020年) 1,300円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009年) 1400円+税

【成績評価の方法と基準】

・ 毎回の課題提出状況と正解率の積み重ねが 50%、学期末の「期末課題」が 50% という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながらゆっくり行きます。

【Outline (in English)】

[Course Outline] In this course, students will read and read out various types of articles on many different topics so that they can grow their reading comprehension. They will enrich their understanding of stories around the world. They also improve their listening and speaking skills using TOEIC listening materials.

[Learning Objectives] The course aims to brush up students' prior skills in reading, listening, writing and speaking.

[Leaning activities outside of classroom] Besides preparation for each lesson, students will also be expected to submit the required assignments after each class. Their study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria] Grading will be decided based on assignments (50%) and final examination (50%).

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 3

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・ 英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事を、英文で書かれた記事の中で読むことにより、読解力及び報道をより多角的に捉える力が増します。また、その中で writing の参考になることにも意識していきます。

・ リスニングテキスト (TOEIC テスト用) を使い、listening と speaking の力に磨きをかけます。

【到達目標】

・ 時事英語の特徴が分かるようになること

・ 馴染みのある単語であっても、新しい文脈の中でより深い理解を発見し、それを実際に活用する力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・ 教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。

・ 毎回課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。

・ 学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。

・ 授業展開によっては、進度、内容に若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction to Unit 7	Unit 7 の語彙確認と精読
2	・ Kamala Harris Will Make History ・ Restaurant	Unit 7 の精読、Listening テキストの Unit11
3	・ Introduction to Unit 8 ・ Arts & Entertainment	Unit 8 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit12
4	・ Hideki Matsuyama Is Now a National Hero ・ Sports Events	Unit 8 の精読、Listening テキストの Unit13
5	・ Introduction to Unit 9 ・ Having a Party	Unit 9 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit14
6	・ Big Tech in China Under Scrutiny ・ Health	Unit 9 の精読、Listening テキストの Unit15
7	・ Introduction to Unit 10 ・ Christmas	Unit10 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit16
8	・ Myanmar's Coup Inspires the Art of Defiance ・ Cleanup	Unit10 の精読、Listening テキストの Unit17
9	・ Introduction to Unit 11 ・ Our Traditions & Customs	Unit11 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit18
10	・ Navalny's Path from Gadfly to Heroic Symbol ・ Examinations	Unit11 の精読、Listening テキストの Unit19
11	・ Introduction to Unit 12 ・ Housing	Unit12 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit20
12	Kidney Trade in Afghanistan	Unit12 の精読
13	Introduction to Unit 13	Unit13 の語彙確認と精読
14	Arctic Island's Green Power	Unit13 の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 授業前に予め記事を読みましょう。

・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 ・毎回出題される課題を提出しましょう。
 (本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間が目安となります。)

【テキスト (教科書)】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2022 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2022年) 1,200円+税
 ・Practical Situations for the TOEIC Test Listening [Revised Edition] (吉田佳代 著・成美堂・2020年) 1,300円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009年) 1400円+税

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出状況と正解率の積み重ねが50%、学期末の「期末課題」が50%という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながら(対面授業を想像しながら)行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline] In this course, students will read and read out various types of articles on many different topics so that they can grow their reading comprehension as well as writing skill. They will enrich their understanding of stories around the world. They also improve their listening and speaking skills using TOEIC listening materials.

[Learning Objectives] The course aims to brush up students' prior skills in reading, listening, writing and speaking.

[Learning activities outside of classroom] Besides preparation for each lesson, students will also be expected to submit the required assignments after each class. Their study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria] Grading will be decided based on assignments (50%) and final examination (50%).

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 4

堀 いづみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考(履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事を、英文で書かれた記事の中で読むことにより、読解力及び報道をより多角的に捉える力が増します。また、その中で writing の参考になることにも意識していきます。

・リスニングテキスト (TOEIC テスト用) を使い、listening と speaking の力に磨きをかけます。

【到達目標】

・時事英語の特徴が分かるようになること

・馴染みのある単語であっても、新しい文脈の中でより深い理解を発見し、それを実際に活用する力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。

・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。

・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。

・授業計画は授業の展開により、進度、内容に若干の変更もありえます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	・ Introduction to Unit 1 ・ Ceremony	Unit 1 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit 1
3	・ Lessons from Estonia ・ School Life	Unit 1 の精読、Listening テキストの Unit 2
4	・ Lessons from Estonia ・ Transportation	Unit 1 の精読続編、Listening テキストの Unit 3
5	・ Introduction to Unit 2 ・ Outdoor Activities	Unit 2 の語彙の確認と精読、Listening テキストの Unit 4
6	・ The Tokyo Olympics ・ Weather	Unit 2 の精読、Listening テキストの Unit 5
7	・ Introduction to Unit 3 ・ Holiday Plans	Unit 3 の語彙の確認と精読、Listening テキストの Unit 6
8	・ Japanese Pop Culture and the Pandemic ・ Resort Area	Unit 3 の精読、Listening テキストの Unit 7
9	・ Introduction to Unit 4 ・ Directions	Unit 4 の語彙の確認と精読、Listening テキストの Unit 8
10	・ Israel's Ultra-Orthodox Community ・ Job Experience	Unit 4 の精読、Listening テキストの Unit 9
11	・ Introduction to Unit 5 ・ Summer Sale	Unit 5 の語彙の確認と精読、Listening テキストの Unit 10
12	Path to Renewable Energy Future	Unit 5 の精読
13	Introduction to Unit 6	Unit 6 の語彙の確認と精読
14	Ancient Asteroid Dust Collected by Japan's Hayabusa2 Probe	Unit 6 の精読

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・授業前に予め記事を読みましょう。

・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。

・毎回出題される課題を提出しましょう。

(本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2022 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2022年) 1,200円+税
 ・Practical Situations for the TOEIC Test Listening [Revised Edition] (吉田佳代 著・成美堂・2020年) 1,300円+税

【参考書】

『京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110』(京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009年) 1400円+税

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出状況と正解率の積み重ねが50%、学期末の「期末課題」が50%という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながらゆっくり行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline] In this course, students will read and read out various types of articles on many different topics so that they can grow their reading comprehension as well as writing skill. They will enrich their understanding of stories around the world. They also improve their listening and speaking skills using TOEIC listening materials.

[Learning Objectives] The course aims to brush up students' prior skills in reading, listening, writing and speaking.

[Learning activities outside of classroom] Besides preparation for each lesson, students will also be expected to submit the required assignments after each class. Their study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria] Grading will be decided based on assignments (50%) and final examination (50%).

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 4

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事を、英文で書かれた記事の中で読むことにより、読解力及び報道をより多角的に捉える力が増します。また、その中で writing の参考になることにも意識していきます。

・リスニングテキスト（TOEIC テスト用）を使い、listening と speaking の力に磨きをかけます。

【到達目標】

・時事英語の特徴が分かるようになること

・馴染みのある単語であっても、新しい文脈の中でより深い理解を発見し、それを実際に活用する力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。

・毎回課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。

・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。

・授業展開によっては、進度、内容などに若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction to Unit 7	Unit 7 の記事の語彙確認と精読
2	・ Kamala Harris Will Make History ・ Restaurant	Unit 7 の精読、Listening テキストの Unit11
3	・ Introduction to Unit 8 ・ Arts & Entertainment	Unit 8 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit12
4	・ Hideki Matsuyama Is Now a National Hero ・ Sports Events	Unit 8 の精読、Listening テキストの Unit13
5	・ Introduction to Unit 9 ・ Having a Party	Unit 9 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit14
6	・ Big Tech in China Under Scrutiny ・ Health	Unit 9 の精読、Listening テキストの Unit15
7	・ Introduction to Unit 10 ・ Christmas	Unit 10 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit16
8	・ Myanmar's Coup Inspires the Art of Defiance ・ Cleanup	Unit 10 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit17
9	・ Introduction to Unit 11 ・ Our Traditions & Customs	Unit11 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit18
10	・ Navalny's Path from Gadfly to Heroic Symbol ・ Examinations	Unit 11 の精読、Listening テキストの Unit19
11	・ Introduction to Unit 12 ・ Housing	Unit 12 の語彙確認と精読、Listening テキストの Unit20
12	Kidney Trade in Afghanistan	Unit12 の精読
13	Introduction to Unit 13	Unit13 の語彙確認と精読
14	Arctic Island's Green Power	Unit13 の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に予め記事を読みましょう。

・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 ・毎回出題される課題を提出しましょう。
 (本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。)

【テキスト (教科書)】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2022 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2022 年) 1,200 円+税
 ・Practical Situations for the TOEIC Test Listening [Revised Edition] (吉田佳代 著・成美堂・2020 年) 1,300 円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009 年) 1400 円+税

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出状況と正解率の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 %という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながら (対面授業を想像しながら) 行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline] In this course, students will read and read out various types of articles on many different topics so that they can grow their reading comprehension as well as writing skill. They will enrich their understanding of stories around the world. They also improve their listening and speaking skills using TOEIC listening materials.

[Learning Objectives] The course aims to brush up students' prior skills in reading, listening, writing and speaking.

[Learning activities outside of classroom] Besides preparation for each lesson, students will also be expected to submit the required assignments after each class. Their study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria] Grading will be decided based on assignments (50%) and final examination (50%).

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 5

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能全体の力を高めることを目的とした授業ですが、特に、「読む」「聞く」の分野に力点を置きます。授業は、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキプトの音読にも十分時間を割り、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Unit 11a	Uncontacted tribes
3	Workbook 11a	New media
4	Unit 11b	Sending a message
5	Workbook 11b	Mobile technology
6	Unit 11c	Spreading the news
7	Workbook 11c	Words and time
8	Unit 7a	Before New York City
9	Workbook 7a	In the past
10	Unit 7b	Homes around the world
11	Workbook 7b	Changing places
12	Unit 7c	Sweet songs and strong coffee
13	Workbook 7c	Megacities
14	Unit 7f	The town with no Wi-Fi

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4B Combo Split
 著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,860 円

【参考書】

<https://ngl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)
 期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中、4回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアシケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思います。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve their writing, speaking, and grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (reading, listening, writing): 40%

Out-of-class assignments (10 times required): 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - II 15

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1-I までに学んだことを基礎に、学生が、英語 4 技能全体の力を高めることを目的とした授業ですが、特に、「読む」「聞く」の分野に力点を置きます。授業は、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割り、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 8a	Vacations and memories
2	Workbook 8a	Business or pleasure
3	Unit 8b	Walking for wildlife
4	Workbook 8b	Where to go, what to do there
5	Unit 8c	All aboard!
6	Workbook 8c	Travel questions
7	Unit 9a	Shopping trends
8	Workbook 9a	Gift items
9	Unit 9b	Spend or save?
10	Workbook 9b	Passwords
11	Unit 9c	The art of the deal
12	Workbook 9c	Trade routes
13	Unit 10c	Two journeys, two lives
14	Unit 12a	The man who ate his boots

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4B Combo Split
 著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,860 円

【参考書】

<https://npl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)
 期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中の欠席、課題未提出は3回までとし、それ以上の授業欠席、課題未提出の場合は原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアシケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思います。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (Reading I, Reading II, Listening, Writing): 40%

Out-of-class assignments (10 assignments required) : 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - I 16

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語4技能全体の力を高めることを目的とした授業ですが、特に、「読む」「聞く」の分野に力点を置きます。授業は、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んだで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割り、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Unit 11a	Uncontacted tribes
3	Workbook 11a	New media
4	Unit 11b	Sending a message
5	Workbook 11b	Mobile technology
6	Unit 11c	Spreading the news
7	Workbook 11c	Words and time
8	Workbook 11e	A point of view
9	Unit 7a	Before New York City
10	Workbook 7a	In the past
11	Unit 7b	Homes around the world
12	Workbook 7b	Changing places
13	Unit 7c	Sweet songs and strong coffee
14	Workbook 7c	Megacities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4B Combo Split
 著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,860 円

【参考書】

<https://ngl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)
 期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中、4回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアシケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思います。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve their writing, speaking, and grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (Reading I, Reading II, Listening, Writing): 40%

Assignments out of class (10 assignments required) : 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - II 16

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1-I までに学んだことを基礎に、学生が、英語 4 技能全体の力を高めることを目的とした授業ですが、特に、「読む」「聞く」の分野に力点を置きます。授業は、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割り、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 8a	Vacations and memories
2	Workbook 8a	Business or pleasure
3	Unit 8b	Walking for wildlife
4	Workbook 8b	Where to go, what to do there
5	Unit 8c	All aboard!
6	Workbook 8c	Travel questions
7	Unit 9a	Shopping trends
8	Workbook 9a	Gift items
9	Unit 9b	Spend or save?
10	workbook 9b	Passwords
11	Unit 9c	The art of the deal
12	Workbook 9c	Trade routes
13	Unit 10c	Two journeys, two lives
14	Unit 12a	The man who ate his boots

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を開き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4B Combo Split
 著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,860 円

【参考書】

<https://npl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)
 期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中、4回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアシケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思います。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (Reading I, Reading II, Listening, Writing): 40%

Out-of-class assignments (10 assignments required) : 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - I 17

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）を通じて、4技能（Reading, Writing, Listening, Speaking）の向上を目指します。現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、授業は Zoom を用いたオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見発表。自らの考えを英語で表現する術を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の Zoom の url を含めて、全て連絡は、「学習支援システム」を通して行います。

受講生は、授業日前日 18 : 00 までに掲示される内容を常に確認してください。

授業では、提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見形成を目指し、自らの考えを英語で表現する術を学びます。

具体的には次の四段階のステップを踏まえた学習を行います。

- ①毎回の授業におけるテキスト音読（Reading）
- ②教材に使うスピーチ等の暗唱（Recitation）
- ③必要に応じて適宜課題と最終レポート（Writing）
- ④実施可能と判断した場合は英語スピーチ（Speaking）

なお、課題等の提出・フィードバックも、基本として「学習支援システム」を通じて行います。重要なポイントや他の受講生の学習にも利益があると判断した質問内容は、授業内で紹介することもあります。質問があれば、躊躇うことなく「学習支援システム」に書き込んでください。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4/11	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
4/18	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明、音読と意味把握の方法
4/25	プリント Reading (試行)	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
5/9	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
5/16	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
5/23	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。

5/30	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。可能な場合はスピーチ実施。
6/6	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/13	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/20	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
6/27	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/4	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。課題提出。
7/11	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。可能な場合はスピーチ実施。
7/18	春学期授業のまとめ	春学期のまとめ。レポート提出。提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

テーマは"Global Society"。

英米を中心とした主要メディア（ネットメディア、テレビ、新聞、雑誌等）が発信する最新の話題を題材に、担当教員が作成した教材を、授業一週間前までに「学習支援システム」に掲示する。

受講生がテキストを購入する必要はない。

毎回の授業時には、次週の予習における重要ポイントを説明する。

【参考書】

適宜、英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、毎回の受講成績 (30%) + 適宜課す課題成績 (30%) 最終レポート成績 (40%) = 100% が基本です。

なお、Zoom 授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、「学習支援システム」掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。

その際、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、極力柔軟に適用し、受講生の不利にならないよう配慮します。

100~90: S

89~87 : A+

86~83 : A

82~80 : A-

79~77: B+

76~73 : B

72~70 : B-

69~67 : C+

66~63 : C

62~60 : C-

59 以下 : D

未受験、採点不能: E

COVID-19 感染対策下で行われるこの授業では、成績全体におけるレポートや課題の割合が大きなものになります。とりわけ、レポート提出の際に、学生諸君が気をつけねばならない事柄を以下に書き記します。十分注意してください。

①他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。

②レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。

・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。

・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導します。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末 (PC)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is intended to help students improve their basic English skills including vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held on-line in a bilingual environment both Japanese and English.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to improve the followings:

a. basic English skills including reading, writing, listening and speaking.

b. the structure and content of the English language.

c. the spelling of words, and their meanings, emphasizing the rules of composition, grammar and sentence construction.

d. the correct pronunciation of words.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

The final grade will be decided by the students' in-class participation (30%), the quality of assignments (30%), and the final report (40%).

The information described herein is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - II 17

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）を通じて、4 技能（Reading, Writing, Listening, Speaking）の向上を目指します。現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、授業は Zoom を用いたオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見発表。自らの考えを英語で表現する術を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の Zoom の url を含めて、全て連絡は、「学習支援システム」を通じて行います。

受講生は、授業日前日 18：00 までに掲示される内容を常に確認してください。

授業では、提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見形成を目指し、自らの考えを英語で表現する術を学びます。具体的には次の四段階のステップを踏まえた学習を行います。

- ①毎回の授業におけるテキスト音読（Reading）
- ②教材に使うスピーチ等の暗唱（Recitation）
- ③必要に応じて適宜課題と最終レポート（Writing）
- ④実施可能と判断した場合は英語スピーチ（Speaking）

なお、課題等の提出・フィードバックも、基本として「学習支援システム」を通じて行います。重要なポイントや他の受講生の学習にも利益があると判断した質問内容は、授業内で紹介することもあります。質問があれば、躊躇うことなく「学習支援システム」に書き込んでください。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
9/26	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
10/3	プリント Reading	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/10	プリント Reading 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/17	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/24	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/31	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
11/7	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 可能な場合はスピーチ実施。

11/14	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
11/21	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
11/28	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
12/5	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
12/12	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
12/19	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 可能な場合はスピーチ実施。
2023/1/16	秋学期授業のまとめ	秋学期のまとめ。レポート提出。 提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

テーマは"Diverse Society"。
英米を中心とした主要メディア（ネットメディア、テレビ、新聞、雑誌等）が発信する最新の話題を題材に、担当教員が作成した教材を、授業一週間前までに「学習支援システム」に掲示する。
受講生がテキストを購入する必要はない。
毎回の授業時には、次週の予習における重要ポイントを説明する。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、毎回の受講成績 (30%) + 適宜課す課題成績 (30%) 最終レポート成績 (40%) = 100% が基本です。

なお、Zoom 授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、「学習支援システム」掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。

その際、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、極力柔軟に適用し、受講生の不利にならないよう配慮します。

100～90: S
89～87 : A+
86～83 : A
82～80 : A-
79～77: B+
76～73 : B
72～70 : B-
69～67 : C+
66～63 : C
62～60 : C-
59 以下 : D
未受験、採点不能: E

COVID-19 感染対策下で行われるこの授業では、成績全体におけるレポートや課題の割合が大きなものになります。とりわけ、レポート提出の際に、学生諸君が気をつけねばならない事柄を以下に書き記します。十分注意してください。

①他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。

②レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。
- ・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。
- ・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末 (PC)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is intended to help students improve their basic English skills including vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held on-line in a bilingual environment both Japanese and English.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to improve the followings:

- a. basic English skills including reading, writing, listening and speaking.
- b. the structure and content of the English language.
- c. the spelling of words, and their meanings, emphasizing the rules of composition, grammar and sentence construction.
- d. the correct pronunciation of words.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

The final grade will be decided by the students' in-class participation (30%), the quality of assignments (30%), and the final report (40%).

The information described herein is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 8

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文テキストの音読と読み (意味把握) を通じて、4 技能 (Reading, Writing, Listening, Speaking) の向上を目指します。

現在、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策のため、授業は Zoom を用いたオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見発表。

自らの考えを英語で表現する術を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の Zoom の url を含めて、全て連絡は、「学習支援システム」を通して行います。

受講生は、授業日前日 18 : 00 までに掲示される内容を常に確認してください。

授業では、提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見形成を目指し、自らの考えを英語で表現する術を学びます。

具体的には次の四段階のステップを踏まえた学習を行います。

- ①毎回の授業におけるテキスト音読 (Reading)
- ②教材に使うスピーチ等の暗唱 (Recitation)
- ③必要に応じて適宜課題と最終レポート (Writing)
- ④実施可能と判断した場合は英語スピーチ (Speaking)

なお、課題等の提出・フィードバックも、基本として「学習支援システム」を通じて行います。重要なポイントや他の受講生の学習にも利益があると判断した質問内容は、授業内で紹介することもあります。質問があれば、躊躇うことなく「学習支援システム」に書き込んでください。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4/11	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
4/18	授業説明 プリント Reading (試行)	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明、音読と意味把握の方法
4/25	プリント Reading	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/9	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/16	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/23	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/30	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。可能な場合はスピーチ実施。

6/6	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
6/13	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
6/20	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
6/27	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
7/4	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
7/11	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 可能な場合はスピーチ実施。
7/18	春学期授業のまとめ	春学期のまとめ。レポート提出。 提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

テーマは"Global Society"。
英米を中心とした主要メディア（ネットメディア、テレビ、新聞、雑誌等）が発信する最新的话题を題材に、担当教員が作成した教材を、授業一週間前までに「学習支援システム」に掲示する。
受講生がテキストを購入する必要はない。
毎回の授業時には、次週の予習における重要ポイントを説明する。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、毎回の受講成績(30%) + 適宜課す課題成績(30%)
最終レポート成績(40%) = 100%が基本です。
なお、Zoom授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、「学習支援システム」掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。
その際、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、極力柔軟に適用し、受講生の不利にならないよう配慮します。

- 100~90: S
- 89~87 : A+
- 86~83 : A
- 82~80 : A-
- 79~77: B+
- 76~73 : B
- 72~70 : B-
- 69~67 : C+
- 66~63 : C
- 62~60 : C-
- 59以下: D

未受験、採点不能: E

COVID-19 感染対策下で行われるこの授業では、成績全体におけるレポートや課題の割合が大きなものになります。とりわけ、レポート提出の際に、学生諸君が気をつけねばならない事柄を以下に書き記します。十分注意してください。

- ①他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。
- ②レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。
- ・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。
- ・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末（PC）

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is intended to help students improve their basic English skills including vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held on-line in a bilingual environment both Japanese and English.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to improve the followings:

- a. basic English skills including reading, writing, listening and speaking.
- b. the structure and content of the English language.
- c. the spelling of words, and their meanings, emphasizing the rules of composition, grammar and sentence construction.
- d. the correct pronunciation of words.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

The final grade will be decided by the students' in-class participation (30%), the quality of assignments (30%), and the final report (40%).

The information described herein is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - II 18

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）を通じて、4 技能（Reading, Writing, Listening, Speaking）の向上を目指します。

現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、授業は Zoom を用いたオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見発表。

自らの考えを英語で表現する術を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の Zoom の url を含めて、全て連絡は、「学習支援システム」を通じて行います。

受講生は、授業日前日 18 : 00 までに掲示される内容を常に確認してください。

授業では、提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見形成を目指し、自らの考えを英語で表現する術を学びます。

具体的には次の四段階のステップを踏まえた学習を行います。

- ①毎回の授業におけるテキスト音読（Reading）
- ②教材に使うスピーチ等の暗唱（Recitation）
- ③必要に応じて適宜課題と最終レポート（Writing）
- ④実施可能と判断した場合は英語スピーチ（Speaking）

なお、課題等の提出・フィードバックも、基本として「学習支援システム」を通じて行います。重要なポイントや他の受講生の学習にも利益があると判断した質問内容は、授業内で紹介することもあります。質問があれば、躊躇うことなく「学習支援システム」に書き込んでください。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
9/26	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
10/3	プリント Reading	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/10	プリント Reading 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/17	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/24	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/31	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
11/7	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 可能な場合はスピーチ実施。

11/14	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
11/21	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
11/28	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
12/5	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
12/12	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
12/19	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。 可能な場合はスピーチ実施。
2023/1/16	秋学期授業のまとめ	秋学期のまとめ。レポート提出。 提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

テーマは"Diverse Society"。

英米を中心とした主要メディア（ネットメディア、テレビ、新聞、雑誌等）が発信する最新の話題を題材に、担当教員が作成した教材を、授業一週間前までに「学習支援システム」に掲示する。

受講生がテキストを購入する必要はない。

毎回の授業時には、次週の予習における重要ポイントを説明する。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、毎回の受講成績 (30 %) + 適宜課す課題成績 (30 %) 最終レポート成績 (40 %) = 100 % が基本です。

なお、Zoom 授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、「学習支援システム」掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。

その際、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、極力柔軟に適用し、受講生の不利にならないよう配慮します。

100~90: S

89~87 : A+

86~83 : A

82~80 : A-

79~77: B+

76~73 : B

72~70 : B-

69~67 : C+

66~63 : C

62~60 : C-

59 以下 : D

未受験、採点不能: E

COVID-19 感染対策下で行われるこの授業では、成績全体におけるレポートや課題の割合が大きなものになります。とりわけ、レポート提出の際に、学生諸君が気をつけねばならない事柄を以下に書き記します。十分注意してください。

①他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。

②レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。

・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。

・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末 (PC)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is intended to help students improve their basic English skills including vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held on-line in a bilingual environment both Japanese and English.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to improve the followings:

- basic English skills including reading, writing, listening and speaking.
- the structure and content of the English language.
- the spelling of words, and their meanings, emphasizing the rules of composition, grammar and sentence construction.
- the correct pronunciation of words.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

The final grade will be decided by the students' in-class participation (30%), the quality of assignments (30%), and the final report (40%).

The information described herein is subject to change.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 9

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考 (履修条件等)：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生として必要な英語力を身につける。「読む・書く・聞く・話す」に多角的に取り組み、各スキルを向上させる。

【到達目標】

英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」について、CEFR の B1 レベル中程度のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回、前回の課題のフィードバックから始め、教科書に沿って授業を進める。適宜発表や発言を求める。ペアワーク・グループワークによる会話練習も行う。また、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	共通ガイダンス
第 2 回	Unit 1 前半	Life experiences: listening & speaking
第 3 回	Unit 1 後半	Life experiences: grammar & reading
第 4 回	Unit 2 前半	Events: listening & speaking
第 5 回	Unit 2 後半	Events: grammar & reading
第 6 回	Unit 3 前半	Opinions: listening & speaking
第 7 回	Unit 3 後半	Opinions: grammar & reading
第 8 回	Unit 4 前半	Customs: listening & speaking
第 9 回	Unit 4 後半	Customs: grammar & reading
第 10 回	Unit 5 前半	Professions and skills: listening & speaking
第 11 回	Unit 5 後半	Professions and skills: grammar & reading
第 12 回	Unit 6 前半	Recent activities: listening & speaking
第 13 回	期末テスト	春学期に学んだ内容についてのテスト
第 14 回	春学期まとめ	期末テストの解説、再試験等。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上をかけることを目安とする。予習としては、教科書の知らない単語をチェックして調べておくこと。授業後は Online Practice で内容を復習し、workbook に取り組んで課題を提出する。

【テキスト (教科書)】

『Stretch Level 3 Student's Book & Workbook Multi-Pack A with Online Practice』 by Susan Stempleski (Oxford University Press)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

課題提出 30%、小テスト 20%、期末テスト 40%、平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できるパソコンと通信の環境。カメラオン、マイクオンは必須とする。カメラ・マイクが使えない特段の事情がある場合は、その旨を文書にして提出すること。パソコンとインターネットは、オンライン教材の使用や google classroom での課題提出にも必要。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic command of English.

By the end of the course, students are expected to have improved their four skills of English, that is, writing, reading, speaking, and listening.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare for the class, to review what they have learnt, and to do their homework.
Grading will be based on homework(40%), quizzes(20%), term-end exam(40%), and in-class contribution(10%).

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 9

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要な英語力を身につける。「読む・書く・聞く・話す」に多角的に取り組む、各スキルを向上させる。

【到達目標】

英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」について、CEFR の B1 レベル修了に該当するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回、前回の課題のフィードバックから始め、教科書に沿って授業を進める。適宜発表や発言を求める。ペアワーク・グループワークによる会話練習も行う。また、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業の説明、Unit 7 前半	Leisure time: listening & speaking
第 2 回	Unit 7 後半	Leisure time: grammar & reading
第 3 回	Unit 8 前半	Appearance: listening & speaking
第 4 回	Unit 8 後半	Appearance: grammar & reading
第 5 回	Unit 9 前半	Habits: listening & speaking
第 6 回	Unit 9 後半	Habits: grammar & reading
第 7 回	Unit 10 前半	Stories: listening & speaking
第 8 回	Unit 10 後半	Stories: grammar & reading
第 9 回	Unit 11 前半	In the news: listening & speaking
第 10 回	Unit 11 後半	In the news: grammar & reading
第 11 回	Unit 12 前半	Travel stories: listening & speaking
第 12 回	Unit 12 後半	Travel stories: grammar & reading
第 13 回	期末テスト	秋学期に学んだ内容についてのテスト
第 14 回	秋学期まとめ	期末テストの解説、再試験等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上をかけることを目安とする。予習としては、教科書の知らない単語をチェックして調べておくこと。授業後は Online Practice で内容を復習し、workbook に取り組んで課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

『Stretch Level 3 Student's Book & Workbook Multi-Pack B with Online Practice』 by Susan Stempleski (Oxford University Press)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

課題提出 30%、小テスト 20%、期末テスト 40%、平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できるパソコンと通信の環境。カメラオン、マイクオンは必須とする。カメラ・マイクが使えない特段の事情がある場合は、その旨を文書にして提出すること。パソコンとインターネットは、オンライン教材の使用や google classroom での課題提出にも必要。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic command of English.

By the end of the course, students are expected to have improved their four skills of English, that is, writing, reading, speaking, and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare for the class, to review what they have learnt, and to do their homework.

Grading will be based on homework(40%), quizzes(20%), term-end exam(40%), and in-class contribution(10%).

LANe100EA

Basic English 1 - I 20

二村 まどか

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文化、社会、政治について書かれた BBC（英国放送協会）のニュース記事を使いながら、英文記事の読み方を学び、世界から見た日本について考える。

【到達目標】

英語のニュース記事を正確に読み、その内容を把握できるようになることを目指す。また簡単な要約を「英語で」書けるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英字記事の和訳と要約を行いながら、英字ニュース記事の特徴や難しい文法について学ぶ。各記事を読み終えた後で、内容に関する簡単な意見交換も行う。また提出した課題のフィードバックも授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）の準備について
第 3 回	ニュース記事①	記事の和訳、要約
第 4 回	ニュース記事①	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 5 回	ニュース記事②	記事の和訳、要約
第 6 回	ニュース記事②	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 7 回	ニュース記事③	記事の和訳、要約
第 8 回	ニュース記事③	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 9 回	ニュース記事④	記事の和訳、要約
第 10 回	ニュース記事④	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 11 回	ニュース記事⑤	記事の和訳、要約
第 12 回	ニュース記事⑤	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 13 回	ニュース記事⑥	記事の和訳、要約
第 14 回	ニュース記事⑥	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習を行うこと。各記事の簡単な【英文要約】を提出すること。本授業の準備・復習時間は、合わせて約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

BBC のニュース記事を使用。記事は授業中に配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（テキストの和訳、リアクションペーパー、ディスカッションへの参加）40% + 課題の提出（4つの記事の英文要約）60%
無断欠席 2 回以上、課題の未提出は落第となります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく持って欲しいとの意見が聞かれました。授業の進行をできるだけ早くして、時間を確保したいと思います。

【Outline (in English)】

This course aims to brush up English reading skills by reading news articles from the BBC website. The course aims to make students become familiar not only with reading news articles but also with how Japan is seen abroad. Students are required to submit a summary (in English) of each article.

LANe100EA

Basic English 1 - II 2 0

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における政治、社会、文化、科学技術、各国・各地域情勢に関するBBC（英国放送協会）のニュース記事を使いながら、英文記事の読み方を学び、時事問題を考える。

【到達目標】

英語のニュース記事を正確に読み、その内容を把握できるようになることを目指す。また簡単な要約を【英語で】書けるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英字記事の和訳と要約を行いながら、英字ニュース記事の特徴や難しい文法について学ぶ。また、各記事を読み終えた後で、内容に関する意見交換も行う。また提出した課題のフィードバックも授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）の準備について
第 2 回	国際社会の平和と紛争に関する記事	記事の和訳、要約
第 3 回	国際社会の平和と紛争に関する記事	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 4 回	アメリカに関する記事	記事の和訳、要約
第 5 回	アメリカに関する記事	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 6 回	ヨーロッパに関する記事	記事の和訳、要約
第 7 回	ヨーロッパに関する記事	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 8 回	科学・環境に関する記事	記事の和訳、要約
第 9 回	科学・環境に関する記事	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 10 回	アフリカに関する記事	記事の和訳、要約
第 11 回	アフリカに関する記事	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 12 回	芸術・文化に関する記事	記事の和訳、要約
第 13 回	芸術・文化に関する記事	記事の和訳、要約、内容に関する意見交換
第 14 回	アジアに関する記事	記事の和訳、要約

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習を行うこと。各記事の簡単な【英文要約】を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

BBC のニュース記事を使用。記事は授業中に配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（テキストの和訳、リアクションペーパー、ディスカッションへの参加）40% + 課題の提出（4つの記事の英文要約）60%
無断欠席 2 回以上、課題の未提出は落第となります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく持って欲しいとの意見が聞かれました。授業の進行をできるだけ早くして、時間を確保したいと思います。

【Outline (in English)】

This course aims to brush up English reading skills by reading news articles from the BBC website. The course aims to make students become familiar not only with reading news articles but also with ongoing global issues. Students are required to submit a summary (in English) of each article.

LANe100EA

Basic English 1 - I 2 1

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts. Vocabulary and pronunciation, as well as understanding of reading materials is essential.

【到達目標】

Acquire English Language skills in reading, speaking, thinking, discussing. Gain confidence in the Presentation of ideas and inspiration using English language comprehension skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The class will begin April 11, 2022. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment. The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Introduction of the Textbook. Reading of Translator's preface. Study vocabulary and discuss content.
3	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
4	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing on content and vocabulary optional. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
5	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook. Study vocabulary and discuss content.
6	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook. Study vocabulary, practice pronunciation, confirm comprehension.
7	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook. Study vocabulary, practice pronunciation, confirm comprehension.
8	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook. Study vocabulary, practice pronunciation, confirm comprehension.
9	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook. Study vocabulary, practice pronunciation, confirm comprehension.
10	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook. Study vocabulary, practice pronunciation, confirm comprehension.

11	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook.Study vocabulary,practice pronunciation, confirm comprehension.
12	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading of Textbook.Study vocabulary,practice pronunciation, confirm comprehension.
13	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading and discussing textbook. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.
14	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue Reading. Discuss Final reports on topic related to "Mindfulness" Incorporate vocabulary, grammar and information studied in class. Add extra data from independent research. Written 955 word report+audio/visual file presentation required.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。Review readings,research and prepare final written reports and final audio/visual video presentation.

【テキスト（教科書）】

The Miracle of Mindfulness by Thich Nhat Hahn + selected readings

【参考書】

Textbook, selected readings

【成績評価の方法と基準】

Textbook reading 25%, oral Testing/questioning 25%, Presentations 25%, Written Reports 25%

NOTE: 3 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with English comprehension, oral and written.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone, iPhone, iPad, computer オンライン授業のため、パソコン等のIT機器と Hoppii や Zoom が安定して使用できるネット環境が必須

【Outline (in English)】

I. Introduction of textbook "The Miracle of Mindfulness" by Thich Nhat Hahn

II. Analysis of content and vocabulary.

III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce "Mindfulness".

II.Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 1 - II 2 1

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts. Vocabulary and pronunciation, as well as understanding of reading materials is essential.

【到達目標】

Through reading aloud and oral elaboration, students will gain the ability to not simply translate English texts (直訳), but to comprehend the overall meanings and express them in natural, easy to understand summaries.Acquire English Language skills in reading, speaking, thinking, discussing.Gain confidence in the Presentation of ideas and inspiration using English language comprehension skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The class will begin April 11,2022. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第2回	Introduction to "Miracle of Mindfulness"	Introduction of the Textbook. Reading of Translator's preface. Study vocabulary and discuss content.
第3回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第4回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation.
第5回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第6回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation.
第7回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第8回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation.
第9回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第10回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation.
第11回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第12回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading aloud and oral explanation.

- 第 13 回 Reading aloud and oral explanation; discussion. Continue reading and discussing textbook. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.
- 第 14 回 Reading aloud and oral explanation; discussion. Continue Reading. Discuss Final reports on topic related to "Mindfulness" Incorporate vocabulary, grammar and information studied in class. Add extra data from independent research. Written 955 word report+audio/visual file presentation required.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。Review readings, research and prepare final written reports and final audio/visual video presentation.

【テキスト（教科書）】

The Miracle of Mindfulness by Thich Nhat Hahn

【参考書】

A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class. Textbook and other selected readings.

【成績評価の方法と基準】

Textbook reading 25%, oral Testing/questioning 25%, Presentations 25%, Written Reports 25%

NOTE: 3 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with English comprehension, oral and written.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone, iPhone, iPad, computer オンライン授業のため、パソコン等の IT 機器と Hoppii や Zoom が安定して使用できるネット環境が必須

【Outline (in English)】

- I. Introduction of textbook "The Miracle of Mindfulness" by Thich Nhat Hahn
 II. Analysis of content and vocabulary.
 III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.
 Objectives
 I. Introduce "Mindfulness".
 II. Improve vocabulary.
 III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 1 - I 2 2

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts. Vocabulary and pronunciation, as well as understanding of reading materials is essential.

【到達目標】

Acquire English Language skills in reading, speaking, thinking, discussing. Gain confidence in the Presentation of ideas and inspiration using English language comprehension skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The classes will continue from spring semester. As classes will be online a short video and essay about the summer break will be the first assignment. The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Review completed Textbook Units. Prepare video and essay about summer holidays using vocabulary from spring semester studies
3	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then. Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
4	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
5	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
6	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
7	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
8	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
9	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
10	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.

11	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
12	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Before class practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
13	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading and discussing textbook. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.
14	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue Reading. Discuss Final reports. Incorporate vocabulary, grammar and information studied in class. Add extra data from independent research. Written 955 word report+audio/visual file presentation required.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。Review readings,research and prepare final written reports and final audio/visual video presentation.

【テキスト（教科書）】

Textbook + selected readings

【参考書】

Textbook, selected readings, A good dictionary is required.

【成績評価の方法と基準】

Textbook reading 25%, oral Testing/questioning 25%, Presentations 25%, Written Reports 25%

NOTE: 3 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with English comprehension, oral and written.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone, iPhone, iPad , computer オンライン授業のため、パソコン等のIT機器と Hoppii や Zoom が安定して使用できるネット環境が必須

【Outline (in English)】

I. Review and continuation of textbook "The Miracle of Mindfulness" by Thich Nhat Hahn. Add additional textbook if necessary.

II. Analysis of content and vocabulary.

III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Comprehension and Experience of "Mindfulness".

II.Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 1 - II 2 2

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts. Vocabulary and pronunciation, as well as understanding of reading materials is essential.

【到達目標】

Acquire English Language skills in reading, speaking, thinking, discussing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The classes will continue from spring semester. As classes will be online a short video and essay about the summer break will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
2	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Review completed Textbook Units.Prepare video and essay about summer holidays using vocabulary from spring semester studies
3	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
4	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
5	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
6	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.

7	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	【学生が準備すべき機器他】 Smartphone, iPhone, iPad , computer オンライン授業のため、パソコン等の IT 機器と Hoppii や Zoom が安定して利用できるネット環境が必須 【Outline (in English)】 OI. Review and continuation of textbook "The Miracle of Mindfulness" by Thich Nhat Hahn. Add additional textbook if necessary. II. Analysis of content and vocabulary. III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies. Objectives I. Comprehension and Experience of "Mindfulness". II.Improve vocabulary. III. Improve English reading and speaking skills.
8	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
9	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
10	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
11	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
12	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
13	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading and discussing textbook. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.	
14	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue Reading. Discuss Final reports. Incorporate vocabulary, grammar and information studied in class. Add extra data from independent research. Written 955 word report+audio/visual file presentation required.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。Review readings,research and prepare final written reports and final audio/visual video presentation.

【テキスト（教科書）】

Textbook and Selected readings

【参考書】

Independent research of documentaries , articles,essays. A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class.

【成績評価の方法と基準】

Textbook reading 25%, oral Testing/questioning 25%, Presentations 25%, Written Reports 25%

NOTE: 3 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an " English speaking only" classroom environment.

LANe100EA

Basic English 1 - I 23

JONATHAN D BROWN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目標は SDGs のリーディング及びディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上させることです。学生は社会問題を分析しながら英語で意見を交わすことを学びます。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to various social problems in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な社会問題に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようにします。また、読みの流暢さ及び読解力を向上させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. Presentations will be done live on Zoom. Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。（この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 1	UN's Sustainable Development Goals ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 1
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 1 continued	
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 2	Children Suffering from Malnutrition ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 2
第 5 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 2 continued	
第 6 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 3	One Meal a Day ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Mid-term Presentations
第 7 回	ZOOM Mid-term Presentations	
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 3 continued	Vocabulary Quiz 3
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 4	U.S. Poverty and COVID-19 ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 4
第 10 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 4 continued	
第 11 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 5	Horseback Library ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes

第 12 回	GOOGLE CLASSROOM & ZOOM Unit 6	Girls' Literacy in Focus Final presentations explanation
第 13 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 6 continued	Comprehensive Vocabulary Quiz
第 14 回	ZOOM	Group Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備；リスニングの復習；語彙学習；オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

SDGs and Global Issues by Goro Yamamoto & Jonathan D. Brown, 松柏社

ISBN: 978-4-88198-773-5

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

クラスアクティビティ：20%

単語小テスト：20%

オンラインリーディング課題 20%

最終発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

Changed textbook.

教科書を変更しました。

Reduced amount of homework.

宿題を減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer

ノート PC

Webcam

ウェブカメラ

Internet connection

インターネット接続

【その他の重要事項】

This course is taught by a native speaker and will be conducted entirely in English.

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students build their English vocabulary and communication skills by using SDGs as starting points for discussion and improve their listening and reading skills.

Learning Objectives

At the end of this course, students are expected to be familiar with the 17 SDGs and current social problems and be able to share their opinions and ideas about them in English.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one to two hours reviewing videos from the class, completing reading assignments, and preparing for in-class activities and presentations.

Grading Criteria/Policy

The overall grade in the class will be decided based on the following:

Class Activities: 20%

Vocabulary Quizzes: 20%

ReadTheory (online reading): 20%

Final Presentation: 40%

LANe100EA

Basic English 1 - II 23

JONATHAN D BROWN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目標は SDGs のリーディング及びディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上させることです。学生は社会問題を分析しながら英語で意見を交わすことを学びます。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to various social problems in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な社会問題に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようにします。また、読みの流暢さ及び読解力を向上させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ucted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. Presentations will be done live on Zoom. Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。

(この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	GOOGLE CLASSROOM & ZOOM Unit 7	Renewable Energy in School ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 7 continued	Vocabulary Quiz 1
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 8	Europe's Largest Saltwater Lagoons ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 8 continued	Vocabulary Quiz 2
第 5 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 9	The Problem of Microplastics ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 6 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 9 continued	Vocabulary Quiz 3
第 7 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 10	Clean Energy or Fossil Fuels ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 10 continued	Vocabulary Quiz 4
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 11	Sustainable Agricultural Practice ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 10 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 14	Inside the World's Most Advanced Vertical Farm Vocabulary Quiz 5 (Units 11 & 14)
第 11 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 12	E-Waste, India's Ever-mounting Challenge ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes

第 12 回 GOOGLE CLASSROOM Unit 12 continued Vocabulary Quiz 6

第 13 回 GOOGLE CLASSROOM Unit 13 Limits of Green Energy Final exam (online)

第 14 回 Christmas Movie Christmas Movie Party

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

SDGs and Global Issues by Goro Yamamoto & Jonathan D. Brown, 松栢社

ISBN: 978-4-88198-773-5

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary. 和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

クラスアクティビティ: 20%

単語小テスト: 20%

オンラインリーディング課題 20%

最終試験: 40%

(15 分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を 3 回した場合、1 回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

Changed textbook.

教科書を変更しました。

Reduced amount of homework.

宿題を減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer

ノート PC

Webcam

ウェブカメラ

Internet connection

インターネット接続

【その他の重要事項】

This course is taught by a native speaker and will be conducted entirely in English.

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students build their English vocabulary and communication skills by using SDGs as starting points for discussion and improve their listening and reading skills.

Learning Objectives

At the end of this course, students are expected to be familiar with the 17 SDGs and current social problems and be able to share their opinions and ideas about them in English.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one to two hours reviewing videos from the class, completing reading assignments, and preparing for in-class activities and presentations.

Grading Criteria/Policy

The overall grade in the class will be decided based on the following:

Class Activities: 20%

Vocabulary Quizzes: 20%

ReadTheory (online reading): 20%

Final Presentation: 40%

LANe100EA

Basic English 1 - I 24

JONATHAN D BROWN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目標は SDGs のリーディング及びディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上させることです。学生は社会問題を分析しながら英語で意見を交わすことを学びます。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to various social problems in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な社会問題に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようになります。また、読みの流暢さ及び読解力を向上させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. Presentations will be done live on Zoom. Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。（この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語カリキュラム、授業に関する説明など
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 1	UN's Sustainable Development Goals ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 1
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 1 continued	
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 2	Children Suffering from Malnutrition ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 2
第 5 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 2 continued	
第 6 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 3	One Meal a Day ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 3
第 7 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 3 continued	
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 4	U.S. Poverty and COVID-19 ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 4
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 4 continued	
第 10 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 5	Horseback Library ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes Vocabulary Quiz 5
第 11 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 5 continued	

第 12 回	GOOGLE CLASSROOM & ZOOM Unit 6	Girls' Literacy in Focus Final presentations explanation
第 13 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 6 continued	Comprehensive Vocabulary Quiz
第 14 回	ZOOM	Group Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備；リスニングの復習；語彙学習；オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

SDGs and Global Issues by Goro Yamamoto & Jonathan D. Brown, 松柏社

ISBN: 978-4-88198-773-5

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

クラスアクティビティ：20%

単語小テスト：20%

オンラインリーディング課題 20%

最終発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

Changed textbook.

教科書を変更しました。

Reduced amount of homework.

宿題を減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer

ノート PC

Webcam

ウェブカメラ

Internet connection

インターネット接続

【その他の重要事項】

This course is taught by a native speaker and will be conducted entirely in English.

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students build their English vocabulary and communication skills by using SDGs as starting points for discussion and improve their listening and reading skills.

Learning Objectives

At the end of this course, students are expected to be familiar with the 17 SDGs and current social problems and be able to share their opinions and ideas about them in English.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one to two hours reviewing videos from the class, completing reading assignments, and preparing for in-class activities and presentations.

Grading Criteria/Policy

The overall grade in the class will be decided based on the following:

Class Activities: 20%

Vocabulary Quizzes: 20%

ReadTheory (online reading): 20%

Final Presentation: 40%

LANe100EA

Basic English 1 - II 24

JONATHAN D BROWN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目標は SDGs のリーディング及びディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上させることです。学生は社会問題を分析しながら英語で意見を交わすことを学びます。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to various social problems in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な社会問題に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようにします。また、読みの流暢さ及び読解力を向上させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ucted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. Presentations will be done live on Zoom. Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。

(この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	GOOGLE CLASSROOM & ZOOM Unit 7	Renewable Energy in School ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 7 continued	Vocabulary Quiz 1
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 8	Europe's Largest Saltwater Lagoons ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 8 continued	Vocabulary Quiz 2
第 5 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 9	The Problem of Microplastics ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 6 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 9 continued	Vocabulary Quiz 3
第 7 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 10	Clean Energy or Fossil Fuels ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 10 continued	Vocabulary Quiz 4
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 11	Sustainable Agricultural Practice ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 10 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 14	Inside the World's Most Advanced Vertical Farm Vocabulary Quiz 5 (Units 11 & 14)
第 11 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 12	E-Waste, India's Ever-mounting Challenge ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes

第 12 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 12 continued	Vocabulary Quiz 6
第 13 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 13	Limits of Green Energy Final exam (online)
第 14 回	ZOOM	Christmas Movie Party

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

SDGs and Global Issues by Goro Yamamoto & Jonathan D. Brown, 松相社

ISBN: 978-4-88198-773-5

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

クラスアクティビティ: 20%

単語小テスト: 20%

オンラインリーディング課題 20%

最終試験: 40%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

Changed textbook.

教科書を変更しました。

Reduced amount of homework.

宿題を減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer

ノート PC

Webcam

ウェブカメラ

Internet connection

インターネット接続

【その他の重要事項】

This course is taught by a native speaker and will be conducted entirely in English.

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students build their English vocabulary and communication skills by using SDGs as starting points for discussion and improve their listening and reading skills.

Learning Objectives

At the end of this course, students are expected to be familiar with the 17 SDGs and current social problems and be able to share their opinions and ideas about them in English.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one to two hours reviewing videos from the class, completing reading assignments, and preparing for in-class activities and presentations.

Grading Criteria/Policy

The overall grade in the class will be decided based on the following:

Class Activities: 20%

Vocabulary Quizzes: 20%

ReadTheory (online reading): 20%

Final Presentation: 40%

LANe100EA

Basic English 2 - I

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。授業の進め方は、zoom での双方向授業としますので、授業開始 5 分前になりましたら、zoom のミーティングルームに集合してください。出席を確認後、授業を開始いたします。テキストの問題に沿って進めていきますが、二回で一つのユニットを終わらせます。問題の種類は、語彙問題やリスニングなど多岐にわたりますが、最初のトピックに関する問題は、ディスカッションや発表などしていただく予定です。また、最後の問題は毎回課題として提出していただきます。提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんご意見を授業のファイルで紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。ユニット終了後に小テストを実施する場合もあります。詳細は一回目の授業でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 1 Language Lessons (小学生の英語の達人)	Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 3 回	Unit 1 Language Lessons (小学生の英語の達人)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 4 回	Unit 2 U.S Consumers Waste Food) (アメリカにおけるフードロス)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 5 回	Unit 2 U.S Consumers Waste Food) (アメリカにおけるフードロス)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 6 回	Unit3 Keeping e-Sports Athletes in the Game(eスポーツによる心身への影響)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 7 回	Unit3 Keeping e-Sports Athletes in the Game(eスポーツによる心身への影響)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 8 回	Unit 4 Adulting Classes for Millennials (ミレニアル世代のためのライフスキル速修クラス)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 9 回	Unit 4 Adulting Classes for Millennials (ミレニアル世代のためのライフスキル速修クラス)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)

第 10 回	Unit 5 Is You Bottled Water Safe?(ボトル入り飲料水は安全か)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 11 回	Unit 5 Is You Bottled Water Safe?(ボトル入り飲料水は安全か)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 12 回	Unit 6 Sleepless in Japan (日本人もアメリカ人も睡眠不足)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 13 回	Unit 6 Sleepless in Japan (日本人もアメリカ人も睡眠不足)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの最初のトピックに関する問題やリスニング (穴埋め) など、その場で解いていただく問題を除いては、すべて宿題になると思ってください。翌週答え合わせをしますので、指示された宿題は次の授業に支障がでないように必ずやってください。また、課題の提出は、ネットのトラブルや体調不良を除いて締め切り後は受け付けません。その他テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといでしょう。ダウンロードの方法などは一回目の授業でお知らせします。本授業の準備・復習時間は、約 1-2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 5 (熊井信弘編、成美堂、2021 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % (出欠、課題)、試験 (50 %) 出欠に関しましては、5 回欠席があった場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は双方向で行う予定ですので、パソコンやネットワークは準備しておいてください。また課題は学習支援システムを利用して提出していただく予定です。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline (in English)】

(Course outline)/This course introduces English news(CBS NEWS) to students.

(Learning Objectives)The end of this course, students are expected to acquire the listening, reading, and writing skills . (Learning activities outside of classroom)Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class. Your study time will be at least 1-2 hours for a class.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the followings: short reports/short tests /attendance/in-class contribution(50%), term-end examination(50%).

LANe100EA

Basic English 2 - II

石垣 弥麻

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 1 単位

曜日・時限: 月 1/Mon.1

備考(履修条件等): 新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

テキストの後半に入ります。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の進め方はオンライン授業が継続の場合には、春学期同様、zoomでの双方向授業となります。授業開始5分前になりましたら、zoomのミーティングルームに集合してください。出席を確認後、授業を開始いたします。テキストの問題に沿って進めていきますが、二回で一つのユニットを終わらせます。問題の種類は、語彙問題やリスニングなど多岐にわたりますが、最初のトピックに関する問題は、ディスカッションや発表などしていただく予定です。また、最後の問題は毎回課題として提出していただきます。提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります(課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします)。ユニット終了後に小テストを実施する場合もあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期の内容の復習	春学期の内容を踏まえ、秋学期の授業のガイダンス
第2回	Unit 7 Alarming New Climate Report (警鐘を鳴らす気候変動に関する報告)	Unitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第3回	Unit 7 Alarming New Climate Report (警鐘を鳴らす気候変動に関する報告)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第4回	Unit 8 Cracking the Dress Code: #KuToo Movement (#KuToo 運動ーヒール・パンプス強制にNO!)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第5回	Unit 8 Cracking the Dress Code: #KuToo Movement (#KuToo 運動ーヒール・パンプス強制にNO!)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第6回	Unit 9 Grammar Table Lady Offers Advice (文法に関するのなら何でもアドバイス)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第7回	Unit 9 Grammar Table Lady Offers Advice (文法に関するのなら何でもアドバイス)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第8回	Unit 10 Halloween Treats for Kids with Disabilities (全ての子供たちが楽しめるハロウィーン)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)

第9回	Unit 10 Halloween Treats for Kids with Disabilities (全ての子供たちが楽しめるハロウィーン)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第10回	Unit 11 A Tax on Tourism? (観光公害対策としての観光税の導入)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第11回	Unit 11 A Tax on Tourism? (観光公害対策としての観光税の導入)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第12回	Unit 12 Japan Really Loves Kit Kat Bars (日本式 Kit Kat の販売戦略)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第13回	Unit 12 Japan Really Loves Kit Kat Bars (日本式 Kit Kat の販売戦略)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第14回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

春学期と同じです。テキストの最初のトピックに関する問題やリスニング(穴埋め)など、その場で解いていただく問題を除いては、すべて宿題になると思います。翌週答え合わせをしますので、指示された宿題は次の授業に支障がでないように必ずやってきてください。また、課題の提出は、ネットのトラブルや体調不良を除いて締め切り後は受け付けません。その他テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといいでしょう。秋学期から受講される方は、一回目の授業でダウンロードの方法などお知らせします。本授業の準備・復習時間は、約1-2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

CBS News Break 5 (熊井信弘編、成美堂、2021年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%(出欠、課題)、試験(50%)
出欠に関しましては、5回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は双方向で行う予定ですので、パソコンやネットワークは準備しておいてください。また課題は学習支援システムを利用して提出していただく予定です。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course introduces English news(CBS NEWS) to students.

(Learning Objectives)The end of this course, students are expected to acquire the listening, reading, and writing skills. (Learning activities outside of classroom)Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class. Your study time will be at least 1-2 hours for a class.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the followings: short reports/short tests /attendance/in-class contribution(50%), term-end examination(50%).

LANe100EA

Basic English 2 - I

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。授業の進め方は、zoom での双方向授業としますので、授業開始 5 分前になりましたら、zoom のミーティングルームに集合してください。出席を確認後、授業を開始いたします。テキストの問題に沿って進めていきますが、二回で一つのユニットを終わらせません。問題の種類は、語彙問題やリスニングなど多岐にわたりますが、最初のトピックに関する問題は、ディスカッションや発表などしていただく予定です。また、最後の問題は毎回課題として提出していただきます。提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんご意見を授業のファイルで紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。ユニット終了後に小テストを実施する場合もあります。詳細は一回目の授業でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 1 Language Lessons (小学生の英語の達人)	Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 3 回	Unit 1 Language Lessons (小学生の英語の達人)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を書く）
第 4 回	Unit 2 U.S Consumers Waste Food) (アメリカにおけるフードロス)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解
第 5 回	Unit 2 U.S Consumers Waste Food) (アメリカにおけるフードロス)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を書く）
第 6 回	Unit3 Keeping e-Sports Athletes in the Game(eスポーツによる心身への影響)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解
第 7 回	Unit3 Keeping e-Sports Athletes in the Game(eスポーツによる心身への影響)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を書く）
第 8 回	Unit 4 Adulting Classes for Millennials (ミレニアル世代のためのライフスキル速修クラス)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解
第 9 回	Unit 4 Adulting Classes for Millennials (ミレニアル世代のためのライフスキル速修クラス)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を書く）

第 10 回	Unit 5 Is You Bottled Water Safe?(ボトル入り飲料水は安全か)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解
第 11 回	Unit 5 Is You Bottled Water Safe?(ボトル入り飲料水は安全か)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を書く）
第 12 回	Unit 6 Sleepless in Japan (日本人もアメリカ人も睡眠不足)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解
第 13 回	Unit 6 Sleepless in Japan (日本人もアメリカ人も睡眠不足)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を書く）
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの最初のトピックに関する問題やリスニング（穴埋め）など、その場で解いていただく問題を除いては、すべて宿題になると思ってください。翌週答え合わせをしますので、指示された宿題は次の授業に支障がでないように必ずやってください。また、課題の提出は、ネットのトラブルや体調不良を除いて締め切り後は受け付けません。その他テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといでしょう。ダウンロードの方法などは一回目の授業でお知らせします。本授業の準備・復習時間は、約 1-2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 5（熊井信弘編、成美堂、2021 年）

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（出欠、課題）、試験（50 %）
出欠に関しましては、5 回欠席があった場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は双方向で行う予定ですので、パソコンやネットワークは準備しておいてください。また課題は学習支援システムを利用して提出していただく予定です。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline (in English)】

(Course outline)/This course introduces English news(CBS NEWS) to students.

(Learning Objectives)The end of this course, students are expected to acquire the listening, reading, and writing skills . (Learning activities outside of classroom)Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class. Your study time will be at least 1-2 hours for a class.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the followings: short reports/short tests /attendance/in-class contribution(50%), term-end examination(50%).

LANe100EA

Basic English 2 - II

石垣 弥麻

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 1 単位

曜日・時限: 月 2/Mon.2

備考(履修条件等): 新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テキストの後半に入ります。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の進め方はオンライン授業が継続の場合には、春学期同様、zoomでの双方向授業となります。授業開始5分前になりましたら、zoomのミーティングルームに集合してください。出席を確認後、授業を開始いたします。テキストの問題に沿って進めていきますが、二回で一つのユニットを終わらせます。問題の種類は、語彙問題やリスニングなど多岐にわたりますが、最初のトピックに関する問題は、ディスカッションや発表などしていただく予定です。また、最後の問題は毎回課題として提出していただきます。提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります(課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします)。ユニット終了後に小テストを実施する場合もあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期の内容の復習	春学期の内容を踏まえ、秋学期の授業のガイダンス
第2回	Unit 7 Alarming New Climate Report (警鐘を鳴らす気候変動に関する報告)	Unitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第3回	Unit 7 Alarming New Climate Report (警鐘を鳴らす気候変動に関する報告)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第4回	Unit 8 Cracking the Dress Code: #KuToo Movement (#KuToo 運動ーヒール・パンプス強制にNO!)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第5回	Unit 8 Cracking the Dress Code: #KuToo Movement (#KuToo 運動ーヒール・パンプス強制にNO!)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第6回	Unit 9 Grammar Table Lady Offers Advice (文法に関することなら何でもアドバイス)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第7回	Unit 9 Grammar Table Lady Offers Advice (文法に関することなら何でもアドバイス)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第8回	Unit 10 Halloween Treats for Kids with Disabilities (全ての子供たちが楽しめるハロウィーン)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)

第9回	Unit 10 Halloween Treats for Kids with Disabilities (全ての子供たちが楽しめるハロウィーン)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第10回	Unit 11 A Tax on Tourism? (観光公害対策としての観光税の導入)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第11回	Unit 11 A Tax on Tourism? (観光公害対策としての観光税の導入)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第12回	Unit 12 Japan Really Loves Kit Kat Bars (日本式 Kit Kat の販売戦略)	前回の答え合わせをし、新しいUnitの前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第13回	Unit 12 Japan Really Loves Kit Kat Bars (日本式 Kit Kat の販売戦略)	前回の答え合わせをし、Unit後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第14回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

春学期と同じです。テキストの最初のトピックに関する問題やリスニング(穴埋め)など、その場で解いていただく問題を除いては、すべて宿題になると思います。翌週答え合わせをしますので、指示された宿題は次の授業に支障がでないように必ずやってきてください。また、課題の提出は、ネットのトラブルや体調不良を除いて締め切り後は受け付けません。その他テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといいでしょう。秋学期から受講される方は、一回目の授業でダウンロードの方法などお知らせします。本授業の準備・復習時間は、約1-2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

CBS News Break 5 (熊井信弘編、成美堂、2021年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%(出欠、課題)、試験(50%)
出欠に関しましては、5回欠席がかった場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は双方向で行う予定ですので、パソコンやネットワークは準備しておいてください。また課題は学習支援システムを利用して提出していただく予定です。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course introduces English news(CBS NEWS) to students.

(Learning Objectives)The end of this course, students are expected to acquire the listening, reading, and writing skills. (Learning activities outside of classroom)Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class. Your study time will be at least 1-2 hours for a class.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the followings: short reports/short tests /attendance/in-class contribution(50%), term-end examination(50%).

LANe100EA

Basic English 2 - I

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な社会問題を扱ったディベート形式のテキストを用いて、英文の構成に注目しながら論点を整理し、問題に対する賛否両論の比較検討を通じて自身の考えを述べる。この作業を通じて、論理的な文章を書く練習を日本語・英語の両方について行う。

【到達目標】

論理的な英文読解に基づき、日本語・英語の両方で要約文の作成や意見論述を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で授業を行う。配布資料をもとに期日内にテキストを学習し、予習・復習 2 種類の課題を提出する。復習課題は評価と講評を付して返却し、必要に応じて答案のいくつかを（個人名などの情報は削除した上で）取り上げながら、次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキストの使い方を含め、授業運営についてのオリエンテーションを行う。
第 2 回	Chapter 10 School Clubs (Pro)	部活動の意義について論じた英文を読み、教育の意義について考える。
第 3 回	Chapter 10 School Clubs (Con)	学校教育における部活動の問題点について論じた英文を読み、教育の意義について考える。
第 4 回	Chapter 1 Food Additives (Pro)	食品添加物の合理性について論じた英文を読み、日常生活と科学の関係について考える。
第 5 回	Chapter 1 Food Additives (Con)	食品添加物の問題点について論じた英文を読み、日常生活と科学の関係について考える。
第 6 回	Chapter 2 Body Image and Photoshopping (Pro)	映像加工技術が求められる背景について論じた英文を読み、「美」について考える。
第 7 回	Chapter 2 Body Image and Photoshopping (Con)	映像加工技術の問題点を指摘した英文を読み、「美」について考える。
第 8 回	Chapter 5 Mobile Ads (Pro)	モバイル広告の利点について論じた英文を読み、メディアの役割について考える。
第 9 回	Chapter 5 Mobile Ads (Con)	モバイル広告の問題点について論じた英文を読み、メディアの役割について考える。

第 10 回	Chapter 7 100 shops (Pro)	100 円ショップの恩恵について論じた英文を読み、豊かさについて考える。
第 11 回	Chapter 7 100 shops (Con)	100 円ショップの問題点について論じた英文を読み、豊かさについて考える。
第 12 回	Chapter 8 Barrier-Free Everywhere? (Pro)	観光施設のバリアフリー化を提案する英文を読み、文化権について考える。
第 13 回	Chapter 8 Barrier-Free Everywhere? (Con)	観光施設のバリアフリー化を批判する英文を読み、文化の本質とは何かを考える。
第 14 回	期末課題	春学期の学習を踏まえた期末課題に取り組み、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各界の課題を含めて、計 4 時間程度を想定している。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons: Arguing Different Points of View『議論伯仲：ふたつの意見』、Mark Jewel、朝日出版社、2020 年、¥1800 ISBN978-4-255-15647-7 C1082

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末課題 30 % + 各回の課題 50 % + 小テスト 10 % + 参加（課題提出回数）10%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course will focus on reading and discussion. Before and after each session, students will be expected to spend a few hours for intensive reading of the text. In addition, you are required to complete the assignment after each session. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text. After this course, you should be able to:

1. Skim for main ideas.
2. Scan for detail.
3. Relate the main idea to supporting details.
4. Summarize and discuss what you have read with direct references to the text (both in English and Japanese).
5. Compare the pros and cons of the issue
6. Write a short paragraph following the basic rules of the format and structure (both in English and Japanese).

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 30%、short reports and mini tests : 60%、attendance: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - II

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な社会問題を扱ったディベート形式のテキストを用いて、英文の構成に注目しながら論点を整理し、問題に対する賛否両論の比較検討を通じて自身の考えを述べる。この作業を通じて、論理的な文章を書く練習を日本語・英語の両方について行う。

【到達目標】

論理的な英文読解に基づき、日本語・英語の両方で要約文の作成や意見論述を行う能力を身につける。詳細は以下の通り。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で授業を行う。配布資料をもとに期日内にテキストを学習し、予習・復習 2 種類の課題を提出する。復習課題は評価と講評を付して返却し、必要に応じて答案のいくつかを（個人名などの情報は削除した上で）取り上げながら、次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 9 Elderly Drivers (Pro)	高齢者の自動車運転免許所持について肯定的に論じた英文を読み、高齢化社会のあり方について考える。併せて、秋学期からの参加者に向けて、オリエンテーションを行う。
第 2 回	Chapter 9 Elderly Drivers (Con)	高齢者の自動車運転免許所持について批判的に論じた英文を読み、高齢化社会のあり方について考える。
第 3 回	Chapter 11 The NIMBY Syndrome (Pro)	公共施設の建設について肯定的に論じた英文を読み、地域社会のあり方について考える。
第 4 回	Chapter 11 The NIMBY Syndrome (Con)	公共施設の建設について批判的に論じた英文を読み、地域社会のあり方について考える。
第 5 回	Chapter 12 Electronic Voting (Pro)	電子投票の利点について論じた英文を読み、民主主義の本質とその実現について考える。
第 6 回	Chapter 12 Electronic Voting (Con)	電子投票が抱えるリスクについて論じた英文を読み、政治参加の課題について考える。
第 7 回	Chapter 14 Biometric Authentication (Pro)	生体認証の利点について論じた英文を読み、情報化がもたらす恩恵について考える。
第 8 回	Chapter 14 Biometric Authentication (Con)	生体認証のリスクについて論じた英文を読み、情報化がもたらす問題点について考える。
第 9 回	Chapter 13 Aid in Dying (Pro)	安楽死に対して容認の立場で書かれた英文を読み、医療の本質について考える。
第 10 回	Chapter 13 Aid in Dying (Con)	安楽死の問題点を論じた英文を読み、自己決定について考える。
第 11 回	Chapter 15 Animal Testing (Pro)	動物実験を容認する立場で書かれた英文を読み、科学技術のあり方について考える。

第 12 回 Chapter 15 Animal Testing (Con) 動物実験を批判する立場で書かれた英文を読み、科学技術のあり方について考える。

第 13 回 期末課題 秋学期の学習を踏まえた期末課題に取り組み、提出する。

第 14 回 Review 1 年間の学習を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各界の課題を含めて、計 4 時間程度を想定している。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons: Arguing Different Points of View『議論伯仲：ふたつの意見』、Mark Jewel、朝日出版社、2020 年、¥1800 ISBN978-4-255-15647-7 C1082

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末課題 30 % + 各回の課題 50 % + 小テスト 10 % + 参加（課題提出回数）10%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

This course will focus on reading and discussion. Before and after each session, students will be expected to spend a few hours for intensive reading of the text. In addition, you are required to complete the assignment after each session. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text. After this course, you should be able to:

1. Skim for main ideas.
2. Scan for detail.
3. Relate the main idea to supporting details.
4. Summarize and discuss what you have read with direct references to the text (both in English and Japanese).
5. Compare the pros and cons of the issue
6. Write a short paragraph following the basic rules of the format and structure (both in English and Japanese).

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 30%、short reports and mini tests : 60%、attendance: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - I

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な社会問題を扱ったディベート形式のテキストを用いて、英文の構成に注目しながら論点を整理し、問題に対する賛否両論の比較検討を通じて自身の考えを述べる。この作業を通じて、論理的な文章を書く練習を日本語・英語の両方について行う。

【到達目標】

論理的な英文読解に基づき、日本語・英語の両方で要約文の作成や意見論述を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で授業を行う。配布資料をもとに期日内にテキストを学習し、予習・復習 2 種類の課題を提出する。復習課題は評価と講評を付して返却し、必要に応じて答案のいくつかを（個人名などの情報は削除した上で）取り上げながら、次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキストの使い方を含め、授業運営についてのオリエンテーションを行う。
第 2 回	Chapter 10 School Clubs (Pro)	部活動の意義について論じた英文を読み、教育の意義について考える。
第 3 回	Chapter 10 School Clubs (Con)	学校教育における部活動の問題点について論じた英文を読み、教育の意義について考える。
第 4 回	Chapter 1 Food Additives (Pro)	食品添加物の合理性について論じた英文を読み、日常生活と科学の関係について考える。
第 5 回	Chapter 1 Food Additives (Con)	食品添加物の問題点について論じた英文を読み、日常生活と科学の関係について考える。
第 6 回	Chapter 2 Body Image and Photoshopping (Pro)	映像加工技術が求められる背景について論じた英文を読み、「美」について考える。
第 7 回	Chapter 2 Body Image and Photoshopping (Con)	映像加工技術の問題点を指摘した英文を読み、「美」について考える。
第 8 回	Chapter 5 Mobile Ads (Pro)	モバイル広告の利点について論じた英文を読み、メディアの役割について考える。
第 9 回	Chapter 5 Mobile Ads (Con)	モバイル広告の問題点について論じた英文を読み、メディアの役割について考える。
第 10 回	Chapter 7 100 shops (Pro)	100 円ショップの恩恵について論じた英文を読み、豊かさについて考える。
第 11 回	Chapter 7 100 shops (Con)	100 円ショップの問題点について論じた英文を読み、豊かさについて考える。

第 12 回	Chapter 8 Barrier-Free Everywhere? (Pro)	観光施設のバリアフリー化を提案する英文を読み、文化権について考える。
第 13 回	Chapter 8 Barrier-Free Everywhere? (Con)	観光施設のバリアフリー化を批判する英文を読み、文化の本質とは何かを考える。
第 14 回	期末課題	春学期の学習を踏まえた期末課題に取り組み、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各界の課題を含めて、計 4 時間程度を想定している。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons: Arguing Different Points of View『議論伯仲：ふたつの意見』、Mark Jewel、朝日出版社、2020 年、¥1800 ISBN978-4-255-15647-7 C1082

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末課題 30 % + 各回の課題 50 % + 小テスト 10 % + 参加（課題提出回数）10%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course will focus on reading and discussion. Before and after each session, students will be expected to spend a few hours for intensive reading of the text. In addition, you are required to complete the assignment after each session. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text. After this course, you should be able to:

1. Skim for main ideas.
2. Scan for detail.
3. Relate the main idea to supporting details.
4. Summarize and discuss what you have read with direct references to the text (both in English and Japanese).
5. Compare the pros and cons of the issue
6. Write a short paragraph following the basic rules of the format and structure (both in English and Japanese).

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 30%、short reports and mini tests : 60%、attendance: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - II

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な社会問題を扱ったディベート形式のテキストを用いて、英文の構成に注目しながら論点を整理し、問題に対する賛否両論の比較検討を通じて自身の考えを述べる。この作業を通じて、論理的な文章を書く練習を日本語・英語の両方について行う。

【到達目標】

論理的な英文読解に基づき、日本語・英語の両方で要約文の作成や意見論述を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で授業を行う。配布資料をもとに期日内にテキストを学習し、予習・復習 2 種類の課題を提出する。復習課題は評価と講評を付して返却し、必要に応じて答案のいくつかを（個人名などの情報は削除した上で）取り上げながら、次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 9 Elderly Drivers (Pro)	高齢者の自動車運転免許所持について肯定的に論じた英文を読み、高齢化社会のあり方について考える。併せて、秋学期からの参加者に向けて、オリエンテーションを行う。
第 2 回	Chapter 9 Elderly Drivers (Con)	高齢者の自動車運転免許所持について批判的に論じた英文を読み、高齢化社会のあり方について考える。
第 3 回	Chapter 11 The NIMBY Syndrome (Pro)	公共施設の建設について肯定的に論じた英文を読み、地域社会のあり方について考える。
第 4 回	Chapter 11 The NIMBY Syndrome (Con)	公共施設の建設について批判的に論じた英文を読み、地域社会のあり方について考える。
第 5 回	Chapter 12 Electronic Voting (Pro)	電子投票の利点について論じた英文を読み、民主主義の本質とその実現について考える。
第 6 回	Chapter 12 Electronic Voting (Con)	電子投票が抱えるリスクについて論じた英文を読み、政治参加の課題について考える。
第 7 回	Chapter 14 Biometric Authentication (Pro)	生体認証の利点について論じた英文を読み、情報化がもたらす恩恵について考える。
第 8 回	Chapter 14 Biometric Authentication (Con)	生体認証のリスクについて論じた英文を読み、情報化がもたらす問題点について考える。
第 9 回	Chapter 13 Aid in Dying (Pro)	安楽死に対して容認の立場で書かれた英文を読み、医療の本質について考える。
第 10 回	Chapter 13 Aid in Dying (Con)	安楽死の問題点を論じた英文を読み、自己決定について考える。
第 11 回	Chapter 15 Animal Testing (Pro)	動物実験を容認する立場で書かれた英文を読み、科学技術のあり方について考える。

第 12 回 Chapter 15 Animal Testing (Con) 動物実験を批判する立場で書かれた英文を読み、科学技術のあり方について考える。

第 13 回 期末課題 秋学期の学習を踏まえた期末課題に取り組み、提出する。

第 14 回 Review 1 年間の学習を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、各界の課題を含めて、計 4 時間程度を想定している。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons: Arguing Different Points of View『議論伯仲：ふたつの意見』、Mark Jewel、朝日出版社、2020 年、¥1800 ISBN978-4-255-15647-7 C1082

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末課題 30 % + 各回の課題 50 % + 小テスト 10 % + 参加（課題提出回数）10%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course will focus on reading and discussion. Before and after each session, students will be expected to spend a few hours for intensive reading of the text. In addition, you are required to complete the assignment after each session. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text. After this course, you should be able to:

1. Skim for main ideas.
2. Scan for detail.
3. Relate the main idea to supporting details.
4. Summarize and discuss what you have read with direct references to the text (both in English and Japanese).
5. Compare the pros and cons of the issue
6. Write a short paragraph following the basic rules of the format and structure (both in English and Japanese).

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 30%、short reports and mini tests : 60%、attendance: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - I

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価について説明します。
第2回	A Life Without Plastic プラナシ生活を始めよう (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	A Life Without Plastic プラナシ生活を始めよう (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第4回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags ルワンダ発：ビニール袋は使えません (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags ルワンダ発：ビニール袋は使えません (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第6回	An Epidemic of Overweight Africans ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇 (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	An Epidemic of Overweight Africans ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇 (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside タイ発：危険なりサイクル (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第10回	West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside タイ発：危険なりサイクル (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。

第11回	College Cheating, A Global Business 宿題はゴーストライター にお任せ (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第12回	College Cheating, A Global Business 宿題はゴーストライター にお任せ (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女 / Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社。(2,100円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末の課題 (40%)

①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100EA

Basic English 2 - II

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第4回	'Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を目指す旅（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	'Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を目指す旅（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第6回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第8回	課題の振り返り（前半）	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。

第10回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第11回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第12回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。小テストを実施する。
第13回	課題の振り返り（後半）	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社、(2,100円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末の課題（40%）
①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100EA

Basic English 2 - I

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の持っている英語の能力を少しでも伸ばすことが目標です。まずは英語を読んで理解すること、そしてそれを他人に伝える日本語に置き換えられることを練習します。そこから英語を書くこと、聴くことも練習します。通年での履修を希望します。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にして、上級者向けの英語教科書を読む。またそこに使われている表現を用いて作文ができる。さらに、これは教室で授業が行えた場合ですが、英語の聴き取りにおいては、文全体ではなくても、知っている単語は聞き取れる。以上 3 点が到達目標です。

そして、科学的な知見が大衆的な虚構作品の中でどう活かされているか、あるいは誤用されているかを知ることも目標です。「科学的」というと何か客観的な真理を表しているかのような印象をうけますが、そんな印象に騙されないようにするためにも、科学的知見の使われ方を見ておくことは役に立つと思います。

英語のレベルは簡単ではないので、学生に予習をしっかりともらって、授業はゆっくり進めていこうと思います。テキストを早く読んで、その意味がおおむねつかめればいいというのではなくて、じっくり意味を考えながら訳していこうと思います。そうすることが、3、4年生になって専門的な文献を読むときに助けになると考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書向けに編集されていますが、教科書に収められずエッセイは一般のアメリカ人にむけて書かれたものなので、読むのが少し難しいかもしれませんが、それを読むことを中心に授業を行います。その他に本文を参考にしたライティングの練習問題と、教室での授業ができればリスニングの練習問題を行います。

また語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、教室で授業が行える場合は、毎回単語のテストを行います（行えない場合は単語試験は実施しない）。

教科書は「科学」と言っても、特に専門的知識が必要となるとは思いますが、英語は簡単ではないと思うので、授業は比較的ゆっくり行われるので、練習問題などとあわせると、1章に2、3回の授業を予定しています。そしてオンライン授業の場合は、授業の終わりに簡単な課題を出し手。期日までに提出してもらいます。

学生の訳や課題などで気づいたことがあれば、授業中に指摘する形でフィードバックします

オンライン授業は Webex を使って行います。Webex の会議室に授業開始の 10 分後までに入室してください。

授業計画は授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明
第 2 回	人工知能	人工知能の現在
第 3 回	人工知能	人工知能の悪夢
第 4 回	人工知能	英作問題
第 5 回	ゴリラ	大衆文化の中のゴリラ
第 6 回	ゴリラ	ゴリラ像の推移
第 7 回	ゴリラ	練習問題
第 8 回	火星	火星の神話学
第 9 回	火星	火星人の侵略の物語と火星への移住の物語
第 10 回	火星	練習問題
第 11 回	臓器移植	現実の臓器移植と都市伝説
第 12 回	臓器移植	ファンタジーとしての臓器移植、不気味な物語としての臓器移植
第 13 回	臓器移植	練習問題
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキスト中に出てくる単語で知らないものについては、その意味を調べておくこと。

教室で授業が行えるようになったら、単語試験をするので、その準備をしておくこと。

授業が行えた場合は、辞書を持参すること、教科書を購入して、忘れずに教室に持ってくること。

また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。英語に触れる機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A Bowdoin Van Riper『ポピュラーカルチャーの科学』（南雲堂、2005 年）
本体価格 1800 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジュニア英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを行い、英文を正しく理解し、それを他人に伝える日本語に置き換えられ、るか、また授業中に行った英作問題に出てくる表現を使って英文を構成できるか、さらには簡単な英文を聞き取れるかを見ます。その結果で評価します（試験 100 パーセント）。試験は、読む、書く、聞くのすべてを試験をします。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点、100 点満点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

Webex を使って 1 年間授業を行ったが、接続が悪くなったりなどして、授業が中断したりしてしまい、学生には迷惑をかけました。そんなこともあって意思疎通が十分に図れませんでした。

【その他の重要事項】

教室で授業行えるなら、毎回単語の試験を行うので、6 割以上の成績を取ってください（楽器の途中で対面授業になったら、まとめて試験します）。授業には 3 分の 2 以上出席すること。以上の二つは単位修得の上で前提条件となります。

オンラインの授業のみになった時には、オンライン授業に出席し、授業の最後に出される課題を提出を提出して、初めて授業に出席したとみなします。つまり単語の試験が 6 割取れなくて不合格はありませんが、欠席が 5 回以上、または課題の未提出が 5 回以上になったら、そのまま不合格とします。

なお、試験はかならず受けること（未受験は認めない）。追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時も、かならず試験の始まりまでに連絡をすること。無断で受験をしなかった場合は不可とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students'

abilities to read advanced English texts, translate them into Japanese correctly, and write good English sentences, as well as to hear English sentences. At the end of the course, students will be expected to read English textbooks well, and write good English sentences. Before each class meeting, you will be expected to have read relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 2 - II

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English2 ー I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 2- I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、時間をかければ、普通の原書（定期テストには、教科書とは違う、ふつうの原書から一部問題を出します）を読んで、他人が理解できる日本語に訳せること。また、リスニングにおいては、文の意味もつかめる程度に聞き取れること。ライティングについては同じですが、以上 2 点が違います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は、学生が英文を読んで訳すことが中心です。教師は学生が訳をしたのちにコメントや説明を行う。その後読んだ英文に出てくる表現を使った英作文をし、聞きとり問題もします。授業中に気づいたことを毎時間指摘する形でフィードバックします。

引き続きオンライン授業ん最後に出す課題に関しては、教師は必要と思われる説明をし、それを参考にになった時は、Webex を使う。オンラインで授業を行い、授業の差後に課題を出します。それに関しては教師が先に説明を行い、学生はそれを参考にして課題を出します。それに関しては、教師は学生の課題を確認して、参考になる学生の訳や回答を授業中に紹介することでもします。

また読んだ英文を参考にした英作問題を行うことはオンライン授業でも対面授業でも同様です。単語テストはできないかもしれませんが、対面授業が可能になったらまとめて試験します。

聞き取り問題はオンラインでは行わない予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	後期授業について説明します
第 2 回	空飛ぶ車	空飛ぶ車の現在
第 3 回	空飛ぶ車	空飛ぶ車とキラキラした未来
第 4 回	空飛ぶ車	練習問題
第 5 回	クジラ	大衆はなぜクジラに魅せられるのか
第 6 回	クジラ	クジラをめぐるエトセトラ
第 7 回	クジラ	練習問題
第 8 回	超能力	超能力の科学的研究
第 9 回	超能力	超能力はあると思った方が面白い？
第 10 回	伝染病	伝染病の歴史
第 11 回	伝染病	伝染病と科学への信頼
第 12 回	伝染病	練習問題
第 13 回	バードストライク	訳と練習問題
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に英語 2 ー 1 と同じです。授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。

また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になります。

英語に触れる機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A Bowdoin Van Riper『ポピュラーカルチャーの科学』（南雲堂、2005）本体価格 1800 円

【参考書】

『リダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

前期と同じく、期末テストを行い、英文を正しく理解し、それを他人に伝える日本語に置き換えられるか、また授業中に行った英作問題に表現を使って英文を w 構成できるかを見ます（対面授業になった時は簡単なリスニングの練習もするのでそれも試験します）。試験の結果で評価します（試験 100 %）。試験は、読む、書くを試験します。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点です。

【学生の意見等からの気づき】

1 年間 Webex を使って授業をしたが、いろいろ問題も多く学士絵に迷惑をかけたと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を取めること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件の一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

試験はかならず受けること（未受験は認めない）、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

後期も引き続きオンラインでの授業になった場合は、前期と同じく、オンライン授業の出席と課題の提出の両方をやって初めて出席したとみなします。従って、授業の欠席が 5 回以上、または課題の未提出が 5 回以上になったら即不合格とします。

【Outline (in English)】

Following Be2-1, this course aims at improving students' basic English abilities further. At the end of the course, students will be expected to read English texts written for native speakers of English, translate them into good Japanese, and hear English sentences. Before each class meeting, you will be expected to have read relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in this class will be decide on the following: erm-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 2 - I

深津 勇仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、基礎的な英文テキストを使用して大学入門レベルの単語、語彙を習得すると同時に初級レベルのアカデミックな英文記事を読解する。英文テキストの読解を通じて、英文読解の基礎的な技術の習得を目指すと同時に、論理的思考力やグループワークを通じて協働の精神を養うことを目的とする。

【到達目標】

本講義の到達目標は、入門レベルのアカデミックな英文記事を読解することで、初級レベルの英文記事をスムーズに理解できる論理的思考力を養うとともに、ペアワークやグループでのディスカッションを通じて協調的にチームで議論できる精神を養うことを究極的な目標としている。また、選択科目でより難易度の高い文章読解の土台となる基礎的な英語力の養成も最終的な到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義では、毎回の授業で 1 ユニットづつ教科書を進めていく。基本的には、英単語と表現を学習し、読解問題に解答し、その内容に即したディスカッションやライティングを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	初回授業説明 導入	授業の概要に関して説明する。
第 2 回	人間の脳に関して 1 Map- ping the human Brain	人間の脳に関する記事の読解を行う。
第 3 回	人間の脳に関して 2 Map- ping the human Brain	人間の脳に関するアカデミックな関連記事を読み解く。 小テスト 1
第 4 回	細菌に関して 1 Living with Bacte- ria	細菌に関する記事の読解を行う。
第 5 回	細菌に関して 2 Living with Bacte- ria	細菌に関するアカデミックな関連記事を読み解く。 小テスト 2

第 6 回 文化の変遷に関して 1 中国の文化の変容に関しての記事
A を読解する。

Chang-
ing
World

第 7 回 文化の変遷に関して 2 世界の文化に関連する記事を読み
A 解く。
Chang-
ing
World

第 8 回 中間レポート準備 中間レポートの作成に備えて
中間
レポ
ート
準備 **Comparative Essay** の記事の練習を行う。

第 9 回 中間レポート提出 中間レポートを提出する。
中間
レポ
ート

第 10 回 都市計画に関して 1 都市計画に関する記事を読み解
回 く。
Cities

are
Grow-
ing
Up

第 11 回 都市計画に関して 2 世界の都市計画に関連した記事を
Cities 読解する。
are
Grow-
ing
Up

第 12 回 時間概念 1 時間の概念に関する記事の読解を
回 It's
about
time 行う。

第 13 回 時間概念 2 時間の概念を取り扱った関連記事
回 It's
about
time を読む。
小テスト 5

第 14 回 期末試験 期末試験を実施する。
回 期
末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では小テスト、期末テスト並びに中間レポートを課すので各自でそのための学習時間を確保する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading Intro, Arline Burgemier, Oxford Press.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 中間レポート →20%, 小テスト →20%, 期末試験 →20%

【学生の意見等からの気づき】

より文章記述、Writing の時間を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

本講義では積極的な学生の参加を要求し、アクティブな授業となるように運営する。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for developing students' English vocabulary and phrases through reading introductory level texts. Through reading English texts, students will not only develop logical thinking skills and basic reading skills, but also develop collaborative skills working with their peers.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe100EA

Basic English 2 - II

深津 勇仁

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、基礎的な英文テキストを使用して大学入門レベルの単語、語彙を習得すると同時に初級レベルのアカデミックな英文記事を読解する。英文テキストの読解を通じて、英文読解の基礎的な技術の習得を目指すと同時に、論理的思考力やグループワークを通じて協働の精神を養うことを目的とする。

【到達目標】

本講義の到達目標は、入門レベルのアカデミックな英文記事を読解することで、初級レベルの英文記事をスムーズに理解できる論理的思考力を養うとともに、ペアワークやグループでのディスカッションを通じて協調的にチームで議論できる精神を養うことを究極的な目標としている。また、選択科目でより難易度の高い文章読解の土台となる基礎的な英語力の養成も最終的な到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義では、毎回の授業で 1 ユニットずつ教科書を進めていく。基本的には、英単語と表現を学習し、読解問題に解答し、その内容に即したディスカッションやライティングを行う予定である。レポートに関しては、添削をした上で、返却。小テストに関しては、回答の際、説明を行う。また、試験に関しても回答の配布と質問を受け付けた上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	初回授業導入	授業の導入と説明を実施する。 導入
第 2 回	食物の歴史 1 The history of Food	食物の歴史に関する記事を読む。
第 3 回	食物の歴史 2 The history of Food	食物の歴史に関する記事の読解。 小テスト 1
第 4 回	技術の進歩 1 Pat- terns of Tech- nology	技術の変遷と歴史に関する記事の 読解。
第 5 回	技術の進歩 2 Pat- terns of Tech- nology	技術の変遷と歴史に関連した記事 を読む。 小テスト 2

第 6 回 古代の遺物 1 Steal- ing from All of Us	古代の遺物に関する記事の読解。
第 7 回 古代の遺物 2 Steal- ing from All of Us	古代の遺物に関連した記事を読む。 小テスト 3
第 8 回 中間レポートの準備 中間 レポ ート 準備	中間レポートの準備を行う。
第 9 回 中間レポート提出 中間 レポ ート	中間レポートの提出と準備。
第 10 回 農業の発展 1 Farms of Tomor- row	農業の発展に関する記事を読解する。
第 11 回 農業の発展 2 Farms of Tomor- row	農業の発展に関連した記事を読む。 小テスト 4
第 12 回 自然の力 1 The forces of Nature	自然エネルギーに関する記事の読解。
第 13 回 自然の力 2 The forces of Nature	自然エネルギーに関連した記事を読む。 小テスト 5
第 14 回 期末試験 期 末 試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では小テスト、期末テスト並びに中間レポートを課すので各自でそのための学習時間を確保する必要がある。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading Intro, Arline Burgemier, Oxford Press.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 中間レポート →20%, 小テスト →20%, 期末試験 →20%

【学生の意見等からの気づき】

より文章記述、Writing の時間を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

本講義では積極的な学生の参加を要求し、アクティブな授業となるように運営する。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for developing students' English vocabulary and phrases through reading introductory level texts. Through reading English texts, students will not only develop logical thinking skills and basic reading skills, but also develop collaborative skills working with their peers.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe100EA

Basic English 2 - I

深津 勇仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、基礎的な英文テキストを使用して大学入門レベルの単語、語彙を習得すると同時に初級レベルのアカデミックな英文記事を読解する。英文テキストの読解を通じて、英文読解の基礎的な技術の習得を目指すと同時に、論理的思考力やグループワークを通じて協働の精神を養うことを目的とする。

【到達目標】

本講義の到達目標は、入門レベルのアカデミックな英文記事を読解することで、初級レベルの英文記事をスムーズに理解できる論理的思考力を養うとともに、ペアワークやグループでのディスカッションを通じて協調的にチームで議論できる精神を養うことを究極的な目標としている。また、選択科目でより難易度の高い文章読解の土台となる基礎的な英語力の養成も最終的な到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義では、毎回の授業で 1 ユニットづつ教科書を進めていく。基本的には、英単語と表現を学習し、読解問題に解答し、その内容に即したディスカッションやライティングを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	初回授業説明 導入	授業の概要に関して説明する。
第 2 回	人間の脳に関して 1 Map- ping the human Brain	人間の脳に関する記事の読解を行う。
第 3 回	人間の脳に関して 2 Map- ping the human Brain	人間の脳に関するアカデミックな関連記事を読み解く。 小テスト 1
第 4 回	バクテリアに関して 1 Living with Bacte- ria	バクテリアに関する記事の読解を行う。
第 5 回	バクテリアに関して 2 Living with Bacte- ria	バクテリアに関するアカデミックな関連記事を読み解く。 小テスト 2

第 6 回 文化の変遷に関して 1 中国の文化の変容に関しての記事
A を読解する。

Chang-
ing
World

第 7 回 文化の変遷に関して 2 世界の文化に関連する記事を読み
A 解く。
Chang-
ing
World

第 8 回 中間レポート準備 中間レポートの作成に備えて
中間
レポ
ート
準備 **Comparative Essay** の記事の練習を行う。

第 9 回 中間レポート提出 中間レポートを提出する。
中間
レポ
ート

第 10 回 都市計画に関して 1 都市計画に関する記事を読み解
回 く。
Cities
are
Grow-
ing
Up

第 11 回 都市計画に関して 2 世界の都市計画に関連した記事
are を読解する。
Grow-
ing
Up
Cities
are
Grow-
ing
Up

第 12 回 時間の概念 1 時間の概念に関する記事を読解す
回 It's
about
time

第 13 回 時間の概念 2 時間の概念を取り扱った関連記事
回 It's
about
time

第 14 回 期末試験 期末試験を実施する。
回 期
末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では小テスト、期末テスト並びに中間レポートを課すので各自でそのための学習時間を確保する必要があります。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading Intro, Arline Burgemier, Oxford Press.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 中間レポート →20%, 小テスト →20%, 期末試験 →20%

【学生の意見等からの気づき】

より文章記述、Writing の時間を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

本講義では積極的な学生の参加を要求し、アクティブな授業となるように運営する。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for developing students' English vocabulary and phrases through reading introductory level texts. Through reading English texts, students will not only develop logical thinking skills and basic reading skills, but also develop collaborative skills working with their peers.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe100EA

Basic English 2 - II

深津 勇仁

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、基礎的な英文テキストを使用して大学入門レベルの単語、語彙を習得すると同時に初級レベルのアカデミックな英文記事を読解する。英文テキストの読解を通じて、英文読解の基礎的な技術の習得を目指すと同時に、論理的思考力やグループワークを通じて協働の精神を養うことを目的とする。

【到達目標】

本講義の到達目標は、入門レベルのアカデミックな英文記事を読解することで、初級レベルの英文記事をスムーズに理解できる論理的思考力を養うとともに、ペアワークやグループでのディスカッションを通じて協調的にチームで議論できる精神を養うことを究極的な目標としている。また、選択科目でより難易度の高い文章読解の土台となる基礎的な英語力の養成も最終的な到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義では、毎回の授業で 1 ユニットずつ教科書を進めていく。基本的には、英単語と表現を学習し、読解問題に解答し、その内容に即したディスカッションやライティングを行う予定である。レポートに関しては、添削をした上で、返却。小テストに関しては、回答の際、説明を行う。また、試験に関しても回答の配布と質問を受け付けた上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	初回授業導入	授業の導入と説明を実施する。 導入
第 2 回	食物の歴史 1 The history of Food	食物の歴史に関する記事を読む。
第 3 回	食物の歴史 2 The history of Food	食物の歴史に関する記事の読解。 小テスト 1
第 4 回	技術の進歩 1 Pat- terns of Tech- nology	技術の変遷と歴史に関する記事の 読解。
第 5 回	技術の進歩 2 Pat- terns of Tech- nology	技術の変遷と歴史に関連した記事 を読む。 小テスト 2

第 6 回 古代の遺物 1 Steal- ing from All of Us	古代の遺物に関する記事の読解。
第 7 回 古代の遺物 2 Steal- ing from All of Us	古代の遺物に関連した記事を読む。 小テスト 3
第 8 回 中間レポートの準備 中間 レポ ート 準備	中間レポートの準備を行う。
第 9 回 中間レポート提出 中間 レポ ート	中間レポートの提出と準備。
第 10 回 農業の発展 1 Farms of Tomor- row	農業の発展に関する記事を読解する。
第 11 回 農業の発展 2 Farms of Tomor- row	農業の発展に関連した記事を読む。 小テスト 4
第 12 回 自然の力 1 The forces of Nature	自然エネルギーに関する記事の読解。
第 13 回 自然の力 2 The forces of Nature	自然エネルギーに関連した記事を読む。 小テスト 5
第 14 回 期末試験 期 末 試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では小テスト、期末テスト並びに中間レポートを課すので各自でそのための学習時間を確保する必要がある。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading Intro, Arline Burgemier, Oxford Press.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 中間レポート →20%, 小テスト →20%, 期末試験 →20%

【学生の意見等からの気づき】

より文章記述、Writing の時間を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

本講義では積極的な学生の参加を要求し、アクティブな授業となるように運営する。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for developing students' English vocabulary and phrases through reading introductory level texts. Through reading English texts, students will not only develop logical thinking skills and basic reading skills, but also develop collaborative skills working with their peers.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe100EA

Basic English 2 - I

荒木 暢也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）を通じて、4 技能（Reading, Writing, Listening, Speaking）の向上を目指します。現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、授業は Zoom を用いたオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見発表。自らの考えを英語で表現する術を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の Zoom の url を含めて、全て連絡は、「学習支援システム」を通じて行います。

受講生は、授業日前日 18：00 までに掲示される内容を常に確認してください。

授業では、提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見形成を目指し、自らの考えを英語で表現する術を学びます。具体的には次の四段階のステップを踏まえた学習を行います。

- ①毎回の授業におけるテキスト音読（Reading）
- ②教材に使うスピーチ等の暗唱（Recitation）
- ③必要に応じて適宜課題と最終レポート（Writing）
- ④実施可能と判断した場合は英語スピーチ（Speaking）

なお、課題等の提出・フィードバックも、基本として「学習支援システム」を通じて行います。重要なポイントや他の受講生の学習にも利益があると判断した質問内容は、授業内で紹介することもあります。質問があれば、躊躇うことなく「学習支援システム」に書き込んでください。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4/11	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
4/18	プリント Reading	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
4/25	プリント Reading 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/9	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/16	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/23	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
5/30	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。可能な場合はスピーチ実施

6/6	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
6/13	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
6/20	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
6/27	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
7/4	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
7/11	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。可能な場合はスピーチ実施
7/18	春学期授業のまとめ	春学期のまとめ。レポート提出。提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

テーマは"Global Society"。
英米を中心とした主要メディア（ネットメディア、テレビ、新聞、雑誌等）が発信する最新の話題を題材に、担当教員が作成した教材を、授業一週間前までに「学習支援システム」に掲示する。
受講生がテキストを購入する必要はない。
毎回の授業時には、次週の予習における重要ポイントを説明する。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、毎回の受講成績（30%）+ 適宜課す課題成績（30%）最終レポート成績（40%）= 100% が基本です。
なお、Zoom 授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、「学習支援システム」掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。
その際、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、極力柔軟に適用し、受講生の不利にならないよう配慮します。

100~90: S
89~87 : A+
86~83 : A
82~80 : A-
79~77: B+
76~73 : B
72~70 : B-
69~67 : C+
66~63 : C
62~60 : C-
59 以下 : D
未受験、採点不能: E

COVID-19 感染対策下で行われるこの授業では、成績全体におけるレポートや課題の割合が大きなものになります。とりわけ、レポート提出の際に、学生諸君が気をつけねばならない事柄を以下に書き記します。十分注意してください。

- ①他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google 検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。
- ②レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。
- ・毎回の授業における予習の度合いと課題の成果を中心に、学生諸君の真面目な努力を評価します。
- ・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明します。

・質問があれば、随時、個別に対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末（PC）

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is intended to help students improve their basic English skills including vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held on-line in a bilingual environment both Japanese and English.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to improve the followings:

- a. basic English skills including reading, writing, listening and speaking.
- b. the structure and content of the English language.
- c. the spelling of words, and their meanings, emphasizing the rules of composition, grammar and sentence construction.
- d. the correct pronunciation of words.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

The final grade will be decided by the students' in-class participation (30%), the quality of assignments (30%), and the final report (40%).

The information described herein is subject to change.

LANe100EA

Basic English 2 - II

荒木 暢也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文テキストの音読と読み（意味把握）を通じて、4技能（Reading, Writing, Listening, Speaking）の向上を目指します。

現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、授業は Zoom を用いたオンライン形式で行います。

【到達目標】

提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見発表。

自らの考えを英語で表現する術を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の Zoom の url を含めて、全て連絡は、「学習支援システム」を通して行います。

受講生は、授業日前日 18：00 までに掲示される内容を常に確認してください。

授業では、提示する教材の意味把握とそれに対する英語での意見形成を目指し、自らの考えを英語で表現する術を学びます。

具体的には次の四段階のステップを踏まえた学習を行います。

- ①毎回の授業におけるテキスト音読（Reading）
- ②教材に使うスピーチ等の暗唱（Recitation）
- ③必要に応じて適宜課題と最終レポート（Writing）
- ④実施可能と判断した場合は英語スピーチ（Speaking）

なお、課題等の提出・フィードバックも、基本として「学習支援システム」を通じて行います。重要なポイントや他の受講生の学習にも利益があると判断した質問内容は、授業内で紹介することもあります。質問があれば、躊躇うことなく「学習支援システム」に書き込んでください。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
9/26	授業説明	授業概略説明、教材プリント配布、成績評価方法説明
10/3	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/10	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/17	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/24	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
10/31	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。
11/7	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習確認&評価。重要事項の説明。可能な場合はスピーチ実施

11/14	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習 確認&評価。重要事項の説明。
11/21	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習 確認&評価
11/28	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習 確認&評価。重要事項の説明。
12/5	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習 確認&評価。重要事項の説明。
12/12	プリント Reading Audio&Visual 教材	音読と意味把握：課題部分の予習 確認&評価。重要事項の説明。
12/19	プリント Reading Audio&Visual 教材 前週の続き	音読と意味把握：課題部分の予習 確認&評価。重要事項の説明。可 能な場合はスピーチ実施。
2023/1/16	秋学期授業のまとめ	秋学期のまとめ。レポート提出。 提出締め切り日は別途指示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

テーマは"Diverse Society"。
英米を中心とした主要メディア（ネットメディア、テレビ、新聞、雑誌等）が発信する最新の話題を題材に、担当教員が作成した教材を、授業一週間前までに「学習支援システム」に掲示する。
受講生がテキストを購入する必要はない。
毎回の授業時には、次週の予習における重要ポイントを説明する。

【参考書】

英和辞書と英英辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中に課す課題（30%）+毎回のZoom授業の受講成績（40%）+最終レポート（30%）=100%を基本として採点します。

なお、Zoom授業において、通信環境等で音声の不具合が起こった場合は、遠慮せずにHoppii掲示板「授業全般に関する質問」に記入してください。

記入する際は、不具合の内容（主としてどの箇所での音声不具合だったのか）を具体的に記してください。具体的説明のない記述は対応できません。

結果、成績に関わる箇所での不具合と判断した場合は、上記基本形をその学生に対して柔軟に適用し、学生の不利にならないよう配慮します。

100~90: S
89~87 : A+
86~83 : A
82~80 : A-
79~77: B+
76~73 : B
72~70 : B-
69~67 : C+
66~63 : C
62~60 : C-
59以下: D

未受験、採点不能: E

COVID-19対策下で行われるこの授業では、成績全体におけるレポートや課題の割合が大きなものになります。とりわけ、レポート提出の際に、学生諸君が気をつけねばならない事柄を以下に書き記します。十分注意してください。

1. 他人のレポートもしくはネット上の文献、資料（Google検索結果、Wikipedia）等をコピーし、そのまま貼り付けることで自分のレポートとすることは、重大な不正行為（剽窃、盗用）です。もし発覚した場合は、学則に従って処分対象になります。場合によっては、卒業時の記録に記入され、将来、諸君の不利益にもなりかねません。絶対に行わないように。
2. レポートの提出期限は厳守です。遅れた場合は採点しないことがありますので、注意してください。レポートや課題の提出期限は、その都度、前もって掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・語学の学習では、「地道な継続」が最も大切です。
- ・毎回の授業における予習の度合いを中心に、学生諸君の真面目な努力を評価する。
- ・各回の予習成果の全体評価はその都度改善点と共に指摘・説明する。
- ・学生の申し出があれば、随時、成績評価についての個別対応と指導を行う。本人の努力や改善が必要な場合はその部分を適宜指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ネット端末（PC）

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is intended to help students improve their basic English skills including vocabulary development, reading aloud, comprehension, and identifying main ideas in reading passages, listening and speaking.

The class will be held on-line in a bilingual environment both Japanese and English.

(Learning Objectives)

By taking this course, students should be able to improve the followings:

- a. basic English skills including reading, writing, listening and speaking.
- b. the structure and content of the English language.
- c. the spelling of words, and their meanings, emphasizing the rules of composition, grammar and sentence construction.
- d. the correct pronunciation of words.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting.

(Grading Criteria)

The final grade will be decided by the students' in-class participation (30%), the quality of assignments (30%), and the final report (40%).

The information described herein is subject to change.

LANe100EA

Basic English 2 - I

井上 里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中上級レベルの英語で書かれた60年代のイギリスの小説を精読・翻訳します。

適宜ワークシートを用いながら重要文法の復習を行い、それぞれの文法が実際の文脈ではどのように用いられているのか、その文法が各場面においてどのような効果を与えているのかを確認します。この授業の狙いは、文法のみを学習するのではなく、実際の使われ方を確認しながら理解を深めることにあります。

【到達目標】

比較的抽象的なテキストを精読することで、英語の抽象表現や省略表現を正確に理解できるようにする。

未来系の使い分けや仮定法の使い分けなど、文法をコンテキストの中で理解し、その効果をひとつひとつ確認していくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半（適宜）：文法のワークシートのチェック。パワーポイントを用いて説明します。理解度を確認するため、数名の方を指名して質問します。

授業後半（毎回）：原文読解と翻訳。毎回指定範囲を訳して提出してもらいます。課題の分量は原書半ページ強です。Zoom 上でグループごとにディスカッションをする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Present and past 1	Chapter 1 p.3 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。また、原文内の時制の使い分けについて確認し、その効果について話し合います。（現在形）
第 3 回	Present and past 2	Chapter 1 p.3 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。また、原文内の時制の使い分けについて確認し、その効果について話し合います。（過去形）
第 4 回	Present perfect and past1	Chapter 1 p.4 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。また、現在完了形と過去形のちがいを確認します。
第 5 回	Present perfect and past2	Chapter 1 p.4 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文における現在完了形の効果を確認します。
第 6 回	Present perfect and past3	原作の映画版を視聴の上、翻案についてのディスカッションをします

第 7 回 Future 1

Chapter 1 p.5 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。三種類の未来形の使い分けを確認し、その効果について話し合います。

第 8 回 Future 2

Chapter 1 p.5 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。未来形の使い分けを再度確認し、原文における will と be ing の効果のちがいについて話し合います。

第 9 回 If and wish 1

Chapter 1 p.6 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。仮定法過去について確認し、原文における効果を話し合います。

第 10 回 If and wish 2

Chapter 1 p.6 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。すべての仮定法の文法をおさらいします。

第 11 回 Relative clauses 1

Chapter 1 p.7 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。関係代名詞（that）の用法を確認し、that を用いる場合と省略する場合の違いを確認します。

第 12 回 Relative clauses 2

Chapter 1 p.7 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。関係代名詞（who）について確認します。

第 13 回 Relative clauses 3

Chapter 1 p.8 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。関係代名詞（what）について確認します。

第 14 回 Review and exam

確認のためのテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページ強ほどの和訳
- ・文法ワークシート（適宜）

ワークシートも含め、すべて英語で書かれたテキストを使用します。また、本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを送付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this class, students will read a contemporary British novel from the 1960s written in upper-intermediate level English. Students will be asked to read the original book carefully to see how each grammar is used in the actual context and what effect the selected grammar has in each scene. The course will include a review of important grammar using worksheets when necessary.

Before each class, students are supposed to translate the designated sections in advance and submit them via e-mail. They may be asked to submit a worksheet as well.

【Grading criteria】

Problem sets: 35%; class participation: 35%; final exam: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - II

井上 里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中上級レベルの英語で書かれた60年代のイギリスの小説を精読・翻訳します。

適宜ワークシートを用いながら重要文法の復習を行い、それぞれの文法が実際の文脈ではどのように用いられているのか、その文法が各場面においてどのような効果を与えているのかを確認します。この授業の狙いは、文法のみを学習するのではなく、実際の使われ方を確認しながら理解を深めることにあります。

【到達目標】

比較的抽象的なテキストを精読することで、英語の抽象表現や省略表現を正確に理解できるようにする。

未来系の使い分けや仮定法の使い分けなど、文法をコンテキストの中で理解し、その効果をひとつひとつ確認していくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半（適宜）：文法のワークシートのチェック。パワーポイントを用いて説明します。理解度を確認するため、数名の方を指名して質問します。

授業後半（毎回）：原文読解と翻訳。毎回指定範囲を訳して提出してもらいます。課題の分量は原書半ページ強です。Zoom上でグループごとにディスカッションをする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course
第2回	Conjunctions and prepositions 1	Chapter 1 p.8 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。また、原文内の接続詞の働きに注目しながら精読します。
第3回	Conjunctions and prepositions 2	Chapter 1 p.9 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の前置詞の働きに注目しながら精読し、前置詞と接続詞の働きのちがいについて確認します。
第4回	Prepositions 1	Chapter 1 p.9 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。場所と共に使用される前置詞の働きを確認します。
第5回	Prepositions 2	Chapter 1 p.10 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。物と共に使用される前置詞の働きを確認します。

第6回 Prepositions 3

Chapter 1 p.10 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。目的を示す前置詞の働きを確認します。

第7回 Modals 1

Chapter 1 p.11 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の助動詞(will)の働きを確認します。

第8回 Modals 2

Chapter 1 p.11 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の助動詞 will と would の働きの違いを確認します。

第9回 Modals 3

Chapter 1 p.12 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の助動詞 (may および might) の働きを確認します。

第10回 -ing and to ...

Chapter 1 p.12 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。動名詞と to 不定詞の働きの違いを確認します。

第11回 Reported speech

Chapter 1 p.13 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。間接話法と直接話法の違いを確認します。

第12回 Questions

Chapter 1 p.13 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の疑問詞の効果を確認します。

第13回 Pronouns and determiners

Chapter 1 p.14 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。代名詞の訳し方を検討し、話し合います。

第14回 Review and exam

確認のため試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページ強ほどの和訳
- ・文法ワークシート（適宜）

ワークシートも含め、すべて英語で書かれたテキストを使用します。また、本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを送付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this class, students will read a contemporary British novel from the 1960s written in upper-intermediate level English. Students will be asked to read the original book carefully to see how each grammar is used in the actual context and what effect the selected grammar has in each scene. The course will include a review of important grammar using worksheets when necessary.

Before each class, students are supposed to translate the designated sections in advance and submit them via e-mail. They may be asked to submit a worksheet as well.

【Grading criteria】

Problem sets: 35%; class participation: 35%; final exam: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - I

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習（listening）を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味（reading）を考える。
- (3) 映画のセリフを俳優に合わせて話す（speaking）練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTubeなどで見て、レポート（writing）にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにもなう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明。
第2回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第3回	洋楽(1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第4回	洋楽(2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第5回	洋楽(3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第6回	映画(1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第7回	映画(2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第8回	映画(3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第9回	映画(4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第10回	映画(5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第11回	映画(6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第12回	映画(7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第13回	映画(8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第14回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境
自習、レポート準備の際に、YouTubeや映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoomは使用しない。
2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix等）
レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。
3. 通信環境
課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境（wi-fi）、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。
4. 通信環境、通信量（料金）に問題がある場合
通信環境などで困難が予想される場合は、テレビとDVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブルDVD（再生画面付のもの、平均¥5,000程度）を準備し、DVDはTSUTAYA DISCUSの宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

- ★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。
- ・質問は24時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。
- ・対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - II

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習（listening）を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味（reading）を考える。
- (3) 映画のセリフを俳優に合わせて話す（speaking）練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTubeなどで見て、レポート（writing）にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにもなう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

提出物に関しては、内容、書式に大きな問題が多い場合は、再提出などの指示を出すことがあります。逆によく書けている課題やレポートの一部を良い見本として全員に紹介することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明。
第2回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第3回	洋楽(1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第4回	洋楽(2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第5回	洋楽(3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第6回	映画(1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第7回	映画(2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第8回	映画(3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第9回	映画(4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第10回	映画(5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第11回	映画(6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第12回	映画(7)	映画のシナリオを教材とした内容。

第13回 映画(8) 映画のシナリオを教材とした内容。

第14回 まとめと解説 提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTubeや映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoomは使用しない。

2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix等）

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境（wi-fi）、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量（料金）に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビとDVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブルDVD（再生画面付のもの、平均¥5,000程度）を準備し、DVDはTSUTAYA DISCUSの宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。

・質問は24時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

・対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - I

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の持っている英語の能力を少しでも伸ばすことが目標です。まずは英語を読んで理解すること、そしてそれを他人に伝える日本語に置き換えられることを練習します。そこから英語を書くこと、聴くことも練習します。通年での履修を希望します。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にして、上級者向けの英語教科書を読む。またそこに使われている表現を用いて作文ができる。さらに、これは教室で授業が行えた場合ですが、英語の聴き取りにおいては、文全体ではなくても、知っている単語は聞き取れる。以上 3 点が到達目標です。

そして、科学的な知見が大衆的な虚構作品の中でどう活かされているか、あるいは誤用されているかを知ることも目標です。「科学的」というと何か客観的な真理を表しているかのような印象をうけますが、そんな印象に騙されないようにするためにも、科学的知見の使われ方を見ておくことは役に立つと思います。

英語のレベルは簡単ではないので、学生に予習をしっかりともらって、授業はゆっくり進めていこうと思います。テキストを早く読んで、その意味がおおむねつかめればいいというのではなくて、じっくり意味を考えながら訳していこうと思います。そうすることが、3、4年生になって専門的な文献を読むときに助けになると考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書向けに編集されていますが、教科書に取められらエッセイは一般のアメリカ人にむけて書かれたものなので、読むのが少し難しいかもしれませんが、それを読むことを中心に授業を行います。その他に本文を参考にしたライティングの練習問題と、教室での授業ができればリスニングの練習問題を行います。

また語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、教室で授業が行える場合は、毎回単語のテストを行います（行えない場合は単語試験は実施しない）。

教科書は「科学」と言っても、特に専門的知識が必要となるとは思いますが、英語は簡単ではないと思うので、授業は比較的ゆっくり行われるので、練習問題などとあわせると、1章に2、3回の授業を予定しています。そしてオンライン授業の場合は、授業の終わりに簡単な課題を出し手。期日までに提出してもらいます。

学生の訳や課題などで気づいたことがあれば、授業中に指摘する形でフィードバックします

オンライン授業は Webex を使って行います。Webex の会議室に授業開始の 10 分後までに入室してください。

授業計画は授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明
第 2 回	人工知能	人工知能の現在
第 3 回	人工知能	人工知能の悪夢
第 4 回	人工知能	英作問題
第 5 回	ゴリラ	大衆文化の中のゴリラ
第 6 回	ゴリラ	ゴリラ像の推移
第 7 回	ゴリラ	練習問題
第 8 回	火星	火星の神話学
第 9 回	火星	火星人の侵略の物語と火星への移住の物語
第 10 回	火星	練習問題
第 11 回	臓器移植	現実の臓器移植と都市伝説
第 12 回	臓器移植	ファンタジーとしての臓器移植、不気味な物語としての臓器移植
第 13 回	臓器移植	練習問題
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキスト中に出てくる単語で知らないものについては、その意味を調べておくこと。

教室で授業が行えるようになったら、単語試験をするので、その準備をしておくこと。

授業が行えた場合は、辞書を持参すること、教科書を購入して、忘れずに教室に持ってくること。

また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。英語に触れる機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A Bowdoin Van Riper『ポピュラーカルチャーの科学』（南雲堂、2005 年）
本体価格 1800 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジュニア英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを行い、英文を正しく理解し、それを他人に伝える日本語に置き換えられ、るか、また授業中に行った英作問題に出てくる表現を使って英文を構成できるか、さらには簡単な英文を聞き取れるかを見ます。その結果で評価します（試験 100 パーセント）。試験は、読む、書く、聞くのすべてを試験をします。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点、100 点満点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

Webex を使って 1 年間授業を行ったが、接続が悪くなったりなどして、授業が中断したりしてしまい、学生には迷惑をかけました。そんなこともあって意思疎通が十分に図れませんでした。

【その他の重要事項】

教室で授業行えるなら、毎回単語の試験を行うので、6 割以上の成績を取ってください（楽器の途中で対面授業になったら、まとめて試験します）。授業には 3 分の 2 以上出席すること。以上の二つは単位修得の上で前提条件となります。

オンラインの授業のみになった時には、オンライン授業に出席し、授業の最後に出される課題を提出を提出して、初めて授業に出席したとみなします。つまり単語の試験が 6 割取れなくて不合格はありませんが、欠席が 5 回以上、または課題の未提出が 5 回以上になったら、そのまま不合格とします。

なお、試験はかならず受けること（未受験は認めない）。追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時も、かならず試験の始まりまでに連絡をすること。無断で受験をしなかった場合は不可とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students'

abilities to read advanced English texts, translate them into Japanese correctly, and write good English sentences, as well as to hear English sentences. At the end of the course, students will be expected to read English textbooks well, and write good English sentences. Before each class meeting, you will be expected to have read relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 2 - II

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English2 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 2- I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、時間をかければ、普通の原書（定期テストには、教科書とは違う、ふつうの原書から一部問題を出します）を読んで、他人が理解できる日本語に訳せること。また、リスニングにおいては、文の意味もつかめる程度に聞き取れること。ライティングについては同じですが、以上 2 点が違います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は、学生が英文を読んで訳すことが中心です。教師は学生が訳をしたのちにコメントや説明を行う。その後読んだ英文に出てくる表現を使った英作文をし、聞きとり問題もします。授業中に気づいたことを毎時間指摘する形でフィードバックします。

引き続きオンライン授業最後に出す課題に関しては、教師は必要と思われる説明をし、それを参考にになった時は、Webex を使う。オンラインで授業を行い、授業の差後に課題を出します。それに関しては教師が先に説明を行い、学生はそれを参考に課題を出します。それに関しては、教師は学生の課題を確認して、参考になる学生の訳や回答を授業中に紹介することでもします。

また読んだ英文を参考にした英作問題を行うことはオンライン授業でも対面授業でも同様です。単語テストはできないかもしれませんが、対面授業が可能になったらまとめて試験します。

聞き取り問題はオンラインでは行わない予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	後期授業について説明します
第 2 回	空飛ぶ車	空飛ぶ車の現在
第 3 回	空飛ぶ車	空飛ぶ車とキラキラした未来
第 4 回	空飛ぶ車	練習問題
第 5 回	クジラ	大衆はなぜクジラに魅せられるのか
第 6 回	クジラ	クジラをめぐるエトセトラ
第 7 回	クジラ	練習問題
第 8 回	超能力	超能力の科学的研究
第 9 回	超能力	超能力はあると思った方が面白い？
第 10 回	伝染病	伝染病の歴史
第 11 回	伝染病	伝染病と科学への信頼
第 12 回	伝染病	練習問題
第 13 回	バードストライク	訳と練習問題
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に英語 2 - 1 と同じです。授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。英語に触れる機会を増やすことが大切です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A Bowdoin Van Riper『ポピュラーカルチャーの科学』（南雲堂、2005）本体価格 1800 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

前期と同じく、期末テストを行い、英文を正しく理解し、それを他人に伝わる日本語に置き換えられるか、また授業中に行った英作問題に表現を使って英文を w 構成できるかを見ます（対面授業になった時は簡単なリスニングの練習もするのでそれも試験します）。試験の結果で評価します（試験 100 %）。試験は、読む、書くを試験します。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点です。

【学生の意見等からの気づき】

1 年間 Webex を使って授業をしたが、いろいろ問題も多く学士絵に迷惑をかけたと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を収めること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件の一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

試験はかならず受けること（未受験は認めない）、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

後期も引き続きオンラインでの授業になった場合は、前期と同じく、オンライン授業の出席と課題の提出の両方をやって初めて出席したとみなします。従って、授業の欠席が 5 回以上、または課題の未提出が 5 回以上になったら即不合格とします。

【Outline (in English)】

Following Be2-1, this course aims at improving students' basic English abilities further. At the end of the course, students will be expected to read English texts written for native speakers of English, translate them into good Japanese, and head English sentences. Before each class meeting, you will be expected to have read relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in this class will be decided on the following: Term-end examination 100%.

LANe100EA

Basic English 2 - I

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、読解に必要な基本的な文法知識と語彙を身に付ける。この授業の最終目的は辞書を使わずに平易な英文を読むことができる文法能力と語彙力を獲得することである。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使わずに読むことができる。この二つの目標到達のために学生諸君は基本英文法の確認は随時行い、基本重要英単語は常に覚える必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
4	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter2-3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
6	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter3-4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
8	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter4-5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
10	Chapter5-6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter6-7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
12	Chapter7-8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
13	chapter9	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
14	Chapter1-9	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参すること。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題の取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10%、課題 30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary by reading "Wuthering Heights". At the end of the course, students are expected to read easy English sentences without using a dictionary. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in class contribution: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - II

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、読解に必要な基本の文法知識と語彙を身に付ける。この授業の最終目的は辞書を使わずに平易な英文を読むことができる文法能力と語彙力を獲得することである。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使わずに読むことができる。この二つの目標到達のために学生諸君は基本英文法の確認は随時行い、基本重要英単語は常に覚える必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
2	Chapter10	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
3	Chapter10-11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
5	Chapter11-12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
7	Chapter12-13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
8	Chapter13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
9	Chapter13-14	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter15	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
11	Chapter16	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter17	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
13	Chapter18	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
14	Chapter10-18	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている各 Unit の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10%、課題 30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary by reading "Wuthering Heights". At the end of the course, students are expected to read easy English sentences without using a dictionary. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in class contribution: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - I

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、読解に必要な基本の文法知識と語彙を身に付ける。この授業の最終目的は辞書を使わずに平易な英文を読むことができる文法能力と語彙力を獲得することである。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使わずに読むことができる。この二つの目標到達のために学生諸君は基本英文法の確認は随時行い、基本重要英単語は常に覚える必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
4	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter2-3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
6	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter3-4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
8	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter4-5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
10	Chapter5-6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter6-7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
12	Chapter7-8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
13	chapter9	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞。
14	Chapter1-9	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参すること。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題の取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10 %、課題 30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary by reading "Wuthering Heights". At the end of the course, students are expected to read easy English sentences without using a dictionary. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in class contribution: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - II

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、読解に必要な基本の文法知識と語彙を身に付ける。この授業の最終目的は辞書を使わずに平易な英文を読むことができる文法能力と語彙力を獲得することである。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使わずに読むことができる。この二つの目標到達のために学生諸君は基本英文法の確認は随時行い、基本重要英単語は常に覚える必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
2	Chapter10	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
3	Chapter10-11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
5	Chapter11-12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
7	Chapter12-13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
8	Chapter13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
9	Chapter13-14	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter15	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
11	Chapter16	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter17	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
13	Chapter18	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
14	Chapter10-18	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている各 Unit の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 10%、課題 30%、期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary by reading "Wuthering Heights". At the end of the course, students are expected to read easy English sentences without using a dictionary. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in class contribution: 10%.

LANe100EA

Basic English 2 - I

井上 里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中上級レベルの英語で書かれた60年代のイギリスの小説を精読・翻訳します。

適宜ワークシートを用いながら重要文法の復習を行い、それぞれの文法が実際の文脈ではどのように用いられているのか、その文法が各場面においてどのような効果を与えているのかを確認します。この授業の狙いは、文法のみを学習するのではなく、実際の使われ方を確認しながら理解を深めることにあります。

【到達目標】

比較的抽象的なテキストを精読することで、英語の抽象表現や省略表現を正確に理解できるようにする。

未来系の使い分けや仮定法の使い分けなど、文法をコンテキストの中で理解し、その効果をひとつひとつ確認していくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半（適宜）：文法のワークシートのチェック。パワーポイントを用いて説明します。理解度を確認するため、数名の方を指名して質問します。

授業後半（毎回）：原文読解と翻訳。毎回指定範囲を訳して提出してもらいます。課題の分量は原書半ページ強です。Zoom 上でグループごとにディスカッションをする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Present and past 1	Chapter 1 p.3 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の時制の使い分けについて確認し、その効果について話し合います。（現在形）
第 3 回	Present and past 2	Chapter 1 p.3 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の時制の使い分けについて確認し、その効果について話し合います。（過去形）
第 4 回	Present perfect and past1	Chapter 1 p.4 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。現在完了形と過去形のちがいを確認します。
第 5 回	Present perfect and past2	Chapter 1 p.4 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文における現在完了形の効果を確認します。
第 6 回	Present perfect and past3	原作の映画版を視聴の上、翻案についてのディスカッションをします

第 7 回 Future 1

Chapter 1 p.5 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。三種類の未来形の使い分けを確認し、その効果について話し合います。

第 8 回 Future 2

Chapter 1 p.5 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。未来形の使い分けを再度確認し、will と be ing のちがいで話し合います。

第 9 回 If and wish 1

Chapter 1 p.6 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。仮定法過去について確認し、原文内の効果を話し合います。

第 10 回 If and wish 2

Chapter 1 p.6 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。すべての仮定法の文法をおさらいします。

第 11 回 Relative clauses 1

Chapter 1 p.7 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。関係代名詞（that）の用法を確認し、that を使う場合と省略する場合の違いを確認します。

第 12 回 Relative clauses 2

Chapter 1 p.7 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。関係代名詞（who）について確認します。

第 13 回 Relative clauses 3

Chapter 1 p.8 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。関係代名詞（what）について確認します。

第 14 回 Review and exam

確認のためのテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページ強ほどの和訳
- ・文法ワークシート（適宜）

ワークシートも含め、すべて英語で書かれたテキストを使用します。また、本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを送付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this class, students will read a contemporary British novel from the 1960s written in upper-intermediate level English. Students will be asked to read the original book carefully to see how each grammar is used in the actual context and what effect the selected grammar has in each scene. The course will include a review of important grammar using worksheets when necessary.

Before each class, students are supposed to translate the designated sections in advance and submit them via e-mail. They may be asked to submit a worksheet as well.

【Grading criteria】

Problem sets: 35%; class participation: 35%; final exam: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - II

井上 里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中上級レベルの英語で書かれた60年代のイギリスの小説を精読・翻訳します。

適宜ワークシートを用いながら重要文法の復習を行い、それぞれの文法が実際の文脈ではどのように用いられているのか、その文法が各場面においてどのような効果を与えているのかを確認します。この授業の狙いは、文法のみを学習するのではなく、実際の使われ方を確認しながら理解を深めることにあります。

【到達目標】

比較的抽象的なテキストを精読することで、英語の抽象表現や省略表現を正確に理解できるようにする。

未来系の使い分けや仮定法の使い分けなど、文法をコンテキストの中で理解し、その効果をひとつひとつ確認していくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半（適宜）：文法のワークシートのチェック。パワーポイントを用いて説明します。理解度を確認するため、数名の方を指名して質問します。

授業後半（毎回）：原文読解と翻訳。毎回指定範囲を訳して提出してもらいます。課題の分量は原書半ページ強です。Zoom 上でグループごとにディスカッションをする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Conjunctions and prepositions 1	Chapter 1 p.8 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。また、原文内の接続詞の働きに注目しながら精読します。
第 3 回	Conjunctions and prepositions 2	Chapter 1 p.9 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の前置詞の働きに注目しながら精読し、前置詞と接続詞の働きのちがいについて確認します。
第 4 回	Prepositions 1	Chapter 1 p.9 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。場所と共に使用される前置詞の働きを確認します。
第 5 回	Prepositions 2	Chapter 1 p.10 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。物と共に使用される前置詞の働きを確認します。

第 6 回 Prepositions 3

Chapter 1 p.10 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。目的を示す前置詞の働きを確認します。

第 7 回 Modals 1

Chapter 1 p.11 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の助動詞 (will) の働きを確認します。

第 8 回 Modals 2

Chapter 1 p.11 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の助動詞 will と would の働きの違いを確認します。

第 9 回 Modals 3

Chapter 1 p.12 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の助動詞 (may および might) の働きを確認します。

第 10 回 -ing and to ...

Chapter 1 p.12 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。動名詞と to 不定詞の働きの違いを確認します。

第 11 回 Reported speech

Chapter 1 p.13 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。間接話法と直接話法の違いを確認します。

第 12 回 Questions

Chapter 1 p.13 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。原文内の疑問詞の効果を確認します。

第 13 回 Pronouns and determiners

Chapter 1 p.14 を訳し、学生訳をもとにディスカッションを行います。代名詞の訳し方を検討し、話し合います。

第 14 回 Review and exam

確認のため試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページ強ほどの和訳
- ・文法ワークシート（適宜）

ワークシートも含め、すべて英語で書かれたテキストを使用します。また、本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを送付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barrons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this class, students will read a contemporary British novel from the 1960s written in upper-intermediate level English. Students will be asked to read the original book carefully to see how each grammar is used in the actual context and what effect the selected grammar has in each scene. The course will include a review of important grammar using worksheets when necessary.

Before each class, students are supposed to translate the designated sections in advance and submit them via e-mail. They may be asked to submit a worksheet as well.

【Grading criteria】

Problem sets: 35%; class participation: 35%; final exam: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - I

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要な英語力を身につける。「読む・書く・聞く・話す」に多角的に取り組み、各スキルを向上させる。

【到達目標】

英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」について、CEFR の A2 レベル修了程度のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回、前回の課題のフィードバックから始め、教科書に沿って授業を進める。適宜発表や発言を求める。また、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit 1 前半	授業の進め方の説明、Hobbies: listening & speaking
第 2 回	Unit 1 後半	Hobbies: grammar & reading
第 3 回	Unit 2 前半	Clothes and colors: listening & speaking
第 4 回	Unit 2 後半	Clothes and colors: grammar & reading
第 5 回	Unit 3 前半	An active life: listening & speaking
第 6 回	Unit 3 後半	An active life: grammar & reading
第 7 回	Unit 4 前半	Getting around: listening & speaking
第 8 回	Unit 4 後半	Getting around: grammar & reading
第 9 回	Unit 5 前半	Personality: listening & speaking
第 10 回	Unit 5 後半	Personality: grammar & reading
第 11 回	Unit 6 前半	Cooking: listening & speaking
第 12 回	Unit 6 後半	Cooking: grammar & reading
第 13 回	期末テスト	春学期に学んだ内容についてのテスト
第 14 回	春学期まとめ	期末テストの解説、再試験等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上をかけることを目安とする。予習としては、教科書の知らない単語をチェックして調べておくこと。授業後は Online Practice で内容を復習し、workbook に取り組んで課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

『Stretch Level 2 Student's Book & Workbook Multi-Pack A with Online Practice』 by Susan Stempleski (Oxford University Press)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

課題提出 30%、小テスト 20%、期末テスト 40%、平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できるパソコンと通信の環境。カメラオン、マイクオンは必須とする。カメラ・マイクが使えない特段の事情がある場合は、その旨を文書にして提出すること。パソコンとインターネットは、オンライン教材の使用や google classroom での課題提出にも必要。

【その他の重要事項】

春学期開始時の英語力レベルは、TOEIC で 350~400 点くらいであることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic command of English.

By the end of the course, students are expected to have improved their four skills of English, that is, writing, reading, speaking, and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare for the class, to review what they have learnt, and to do their homework.

Grading will be based on homework(40%), quizzes(20%), term-end exam(40%), and in-class contribution(10%).

LANe100EA

Basic English 2 - II

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要な英語力を身につける。「読む・書く・聞く・話す」に多角的に取り組み、各スキルを向上させる。

【到達目標】

英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」について、CEFR の B1 レベル中程度のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回、前回の課題のフィードバックから始め、教科書に沿って授業を進める。適宜発表や発言を求める。また、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit 7 前半	授業の進め方の説明、Weather: listening & speaking
第 2 回	Unit 7 後半	Weather: grammar & reading
第 3 回	Unit 8 前半	Everyday activities: listening & speaking
第 4 回	Unit 8 後半	Everyday activities: grammar & reading
第 5 回	Unit 9 前半	Math, history, and art: listening & speaking
第 6 回	Unit 9 後半	Math, history, and art: grammar & reading
第 7 回	Unit 10 前半	A busy semester: listening & speaking
第 8 回	Unit 10 後半	A busy semester: grammar & reading
第 9 回	Unit 11 前半	Favors and requests: listening & speaking
第 10 回	Unit 11 後半	Favors and requests: grammar & reading
第 11 回	Unit 12 前半	Before you travel & speaking
第 12 回	Unit 12 後半	Before you travel & reading
第 13 回	期末テスト	秋学期に学んだ内容についてのテスト
第 14 回	秋学期まとめ	期末テストの解説、再試験等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上をかけることを目安とする。予習としては、教科書の知らない単語をチェックして調べておくこと。授業後は Online Practice で内容を復習し、workbook に取り組んで課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

『Stretch Level 2 Student's Book & Workbook Multi-Pack B with Online Practice』 by Susan Stempleski (Oxford University Press)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

課題提出 30%、小テスト 20%、期末テスト 40%、平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できるパソコンと通信の環境。カメラオン、マイクオンは必須とする。カメラ・マイクが使えない特段の事情がある場合は、その旨を文書にして提出すること。パソコンとインターネットは、オンライン教材の使用や google classroom での課題提出にも必要。

【その他の重要事項】

秋学期開始時の英語力レベルは、TOEIC で 400 点以上であることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic command of English.

By the end of the course, students are expected to have improved their four skills of English, that is, writing, reading, speaking, and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare for the class, to review what they have learnt, and to do their homework.

Grading will be based on homework(40%), quizzes(20%), term-end exam(40%), and in-class contribution(10%).

LANe100EA

Basic English 2 - I

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要な英語力を身につける。「読む・書く・聞く・話す」に多角的に取り組み、各スキルを向上させる。

【到達目標】

英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」について、CEFR の A2 レベル修了程度のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回、前回の課題のフィードバックから始め、教科書に沿って授業を進める。適宜発表や発言を求める。また、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit 1 前半	授業の進め方の説明、Hobbies: listening & speaking
第 2 回	Unit 1 後半	Hobbies: grammar & reading
第 3 回	Unit 2 前半	Clothes and colors: listening & speaking
第 4 回	Unit 2 後半	Clothes and colors: grammar & reading
第 5 回	Unit 3 前半	An active life: listening & speaking
第 6 回	Unit 3 後半	An active life: grammar & reading
第 7 回	Unit 4 前半	Getting around: listening & speaking
第 8 回	Unit 4 後半	Getting around: grammar & reading
第 9 回	Unit 5 前半	Personality: listening & speaking
第 10 回	Unit 5 後半	Personality: grammar & reading
第 11 回	Unit 6 前半	Cooking: listening & speaking
第 12 回	Unit 6 後半	Cooking: grammar & reading
第 13 回	期末テスト	春学期に学んだ内容についてのテスト
第 14 回	春学期まとめ	期末テストの解説、再試験等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上をかけることを目安とする。予習としては、教科書の知らない単語をチェックして調べておくこと。授業後は Online Practice で内容を復習し、workbook に取り組んで課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

『Stretch Level 2 Student's Book & Workbook Multi-Pack A with Online Practice』 by Susan Stempleski (Oxford University Press)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

課題提出 30%、小テスト 20%、期末テスト 40%、平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できるパソコンと通信の環境。カメラオン、マイクオンは必須とする。カメラ・マイクが使えない特段の事情がある場合は、その旨を文書にして提出すること。パソコンとインターネットは、オンライン教材の使用や google classroom での課題提出にも必要。

【その他の重要事項】

春学期開始時の英語力レベルは、TOEIC で 350~400 点くらいであることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic command of English.

By the end of the course, students are expected to have improved their four skills of English, that is, writing, reading, speaking, and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare for the class, to review what they have learnt, and to do their homework.

Grading will be based on homework(40%), quizzes(20%), term-end exam(40%), and in-class contribution(10%).

LANe100EA

Basic English 2 - II

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要な英語力を身につける。「読む・書く・聞く・話す」に多角的に取り組み、各スキルを向上させる。

【到達目標】

英語の四技能「読む・書く・聞く・話す」について、CEFR の B1 レベル中程度のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回、前回の課題のフィードバックから始め、教科書に沿って授業を進める。適宜発表や発言を求める。また、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit 7 前半	授業の進め方の説明、Weather: listening & speaking
第 2 回	Unit 7 後半	Weather: grammar & reading
第 3 回	Unit 8 前半	Everyday activities: listening & speaking
第 4 回	Unit 8 後半	Everyday activities: grammar & reading
第 5 回	Unit 9 前半	Math, history, and art: listening & speaking
第 6 回	Unit 9 後半	Math, history, and art: grammar & reading
第 7 回	Unit 10 前半	A busy semester: listening & speaking
第 8 回	Unit 10 後半	A busy semester: grammar & reading
第 9 回	Unit 11 前半	Favors and requests: listening & speaking
第 10 回	Unit 11 後半	Favors and requests: grammar & reading
第 11 回	Unit 12 前半	Before you travel & speaking
第 12 回	Unit 12 後半	Before you travel & reading
第 13 回	期末テスト	秋学期に学んだ内容についてのテスト
第 14 回	秋学期まとめ	期末テストの解説、再試験等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上をかけることを目安とする。予習としては、教科書の知らない単語をチェックして調べておくこと。授業後は Online Practice で内容を復習し、workbook に取り組んで課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

『Stretch Level 2 Student's Book & Workbook Multi-Pack B with Online Practice』 by Susan Stempleski (Oxford University Press)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

課題提出 30%、小テスト 20%、期末テスト 40%、平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できるパソコンと通信の環境。カメラオン、マイクオンは必須とする。カメラ・マイクが使えない特段の事情がある場合は、その旨を文書にして提出すること。パソコンとインターネットは、オンライン教材の使用や google classroom での課題提出にも必要。

【その他の重要事項】

秋学期開始時の英語力レベルは、TOEIC で 400 点以上であることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic command of English.

By the end of the course, students are expected to have improved their four skills of English, that is, writing, reading, speaking, and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare for the class, to review what they have learnt, and to do their homework.

Grading will be based on homework(40%), quizzes(20%), term-end exam(40%), and in-class contribution(10%).

LANe100EA

Basic English 2 - I

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習（listening）を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味（reading）を考える。
- (3) 映画のセリフを俳優に合わせて話す（speaking）練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート（writing）にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それともなう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・ 3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境
自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。
2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等）
レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。
3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境（wi-fi）、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量（料金）に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。

・ 質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

・ 対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - II

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習（listening）を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味（reading）を考える。
- (3) 映画のセリフを俳優に合わせて話す（speaking）練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート（writing）にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにともなう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

提出物に関しては、内容、書式に大きな問題が多い場合は、再提出などの指示を出すことがあります。逆によく書けている課題やレポートの一部を良い見本として全員に紹介することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・ 3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境
自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。
2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等）

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境（wi-fi）、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量（料金）に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

★昨年度およびそれ以前の受講者で、今までに私の授業で単位を取得している者は、教材の多くが同じものになるので受講不可。

・ 質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

・ 対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline (in English)】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - I

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1（大学1年）までに学んだことを基礎にして、学生が、英語4技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in Englishのテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoomを用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 7a	Cruel to be kind
3	Workbook 7a	Child behavior
4	Unit 7b	A matter of taste
5	Workbook 7b	Globalization of the food market
6	Unit 7c	Cultural conventions
7	Workbook 7c	Body language
8	Unit 8a	Rise of the rocket girls
9	Unit 8b	I wish I could ...
10	Workbook 8b	Wish lists
11	Unit 8c	Saving Madagascar
12	Unit 9a	A life revealed
13	Workbook 9a	Photojournalism
14	Workbook 9b	News in brief

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5B Combo Split
著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：National Geographic Learning
出版年：2019
価格：2,860円

【参考書】

<https://ngl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10回提出)
期末試験に準じる課題:40% (4回提出)
平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。学期中、4回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思います。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- identify essential and non-essential information in the text.
- learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- take notes on spoken material and summarize its content.
- give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria/Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (Reading I, Reading II, Listening, Writing): 40%

Out-of-class assignments (10 assignments required) : 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 2 - II

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 2-I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んだうえで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキルの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 9c	From hero to zero
2	Workbook 9c	Fairness in reporting
3	Unit 10a	An ordinary man
4	Workbook 10b	An inspirational scientist
5	Workbook 10c	Harriet Tubman
6	Unit 11a	Innovation in learning
7	Workbook 11a	Conserving knowledge
8	Unit 11b	Memory
9	Workbook 11b	Memory loss
10	Unit 12a	Saving for a rainy day
11	Unit 12b	Get someone else to do it
12	Workbook 12b	Cheap labor
13	Unit 12c	Start-up
14	Workbook 12c	The world of barter

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5B Combo Split
 著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
 出版社：National Geographic Learning
 出版年：2019
 価格：2,860 円

【参考書】

<https://npl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)
 期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思います。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (Reading I, Reading II, Listening, Writing): 40%

Out-of-class assignments (10 assignments required) : 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 2 - I

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1（大学1年）までに学んだことを基礎にして、学生が、英語4技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in Englishのテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoomを用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキルの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 7a	Cruel to be kind
3	Workbook 7a	Child behavior
4	Unit 7b	A matter of taste
5	Workbook 7b	Globalization of the food market
6	Unit 7c	Cultural conventions
7	Workbook 7c	Body language
8	Unit 8a	Rise of the rocket girls
9	Unit 8b	I wish I could ...
10	Workbook 8b	Wish lists
11	Unit 8c	Saving Madagascar
12	Unit 9a	A life revealed
13	Workbook 9a	Photojournalism
14	Workbook 9b	News in brief

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5B Combo Split

著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社：National Geographic Learning

出版年：2019

価格：2,860円

【参考書】

<https://npl.cengage.com/life>

<https://www.bbc.com/news>

<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>

<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>

<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)

単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。学期中、4回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思います。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria/Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (Reading I, Reading II, Listening, Writing): 40%

Out-of-class assignments (10 assignments required) : 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 2 - II

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 2-I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキルの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 9c	From hero to zero
2	Workbook 9c	Fairness in reporting
3	Unit 10a	An ordinary man
4	Workbook 10b	An inspirational scientist
5	Workbook 10c	Harriet Tubman
6	Unit 11a	Innovation in learning
7	Workbook 11a	Conserving knowledge
8	Unit 11b	Memory
9	Workbook 11b	Memory loss
10	Unit 12a	Saving for a rainy day
11	Unit 12b	Get someone else to do it
12	Workbook 12b	Cheap labor
13	Unit 12c	Start-up
14	Workbook 12c	The world of barter

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。また、授業後には、その回で扱った語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5B Combo Split
著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：National Geographic Learning
出版年：2019
価格：2,860 円

【参考書】

<https://npl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)
期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)
平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「最初は緊張感に押しつぶされそうだった」が、毎回の授業に全力で取り組むことによって、「しっかりとした、力がつく授業だと感じた」というコメントがありました。過度ではなく、程よい緊張感の中で、学生が積極的に発言できる学習環境づくりに努めたいと思います。また、「最後にペアワークがあり、毎回英語を話すことが出来たところが良いと思いました。」というコメントが多くありました。今年度も、授業にペアワークを毎回取り入れ、英語で自分の意見を伝える、相手の意見を聞く時間を大切にしたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】 (Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- identify essential and non-essential information in the text.
- learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- take notes on spoken material and summarize its content.
- give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of the classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them to understand what they are reading on a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

End-of-term assignments (Reading I, Reading II, Listening, Writing): 40%

Out-of-class assignments (10 assignments required) : 40%

Participation

(how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class): 20%

Students must earn at least 60% points to pass this course.

Assignments handed in after the due date will not be evaluated.

If students fail to submit four or more assignments, or if students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100EA

Basic English 2 - I

堀 いづみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。様々な分野における英文記事に触れることにより、読解力及び情報をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

- ・時事英語の特徴が分かるようになること
- ・馴染みのある単語であっても、新しい文脈の中でより深い理解を発見し、それを実際に活用する力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・授業展開によっては、進度や内容に若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction to Chapter 1	第一章の導入と精読
2	国内政治	第一章の精読
3	Introduction to Chapter 2	第二章の導入と精読
4	経済・ビジネス（1）	第二章の精読
5	Introduction to Chapter 3	第三章の導入と精読
6	経済・ビジネス（2）	第三章の精読
7	Introduction to Chapter 4	第四章の導入と精読
8	外交・国際会議	第四章の精読
9	Introduction to Chapter 5	第五章の導入と精読
10	軍事	第五章の精読
11	Introduction to Chapter 6	第六章の導入と精読
12	海外政治情勢	第六章の精読
13	Introduction to Chapter 7	第七章の導入と精読
14	文化・社会	第七章の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
- ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
- ・毎回出題される課題を提出しましょう。（本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。）

【テキスト（教科書）】

・English for Mass Communication・2022 Edition（堀江洋文、他 編著・朝日出版社・2022 年）1,700 円＋税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110（京都大学英語学術語彙研究グループ＋研究社 著・研究社・2009 年）1400 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題提出状況と正解率の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 % という比率で評価します。（どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。）

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながらゆっくり行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 In this course, students will read and read out various types of articles on many different topics so that they can grow their reading comprehension. They will enrich their understanding of stories around the world and around themselves.

【Learning Objectives】 The course aims to brush up students' prior skills in reading, listening and speaking.

【Learning activities outside of classroom】 Besides preparation for each lesson, students will also be expected to submit the required assignments after each class. Their study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on assignments (50%) and final examination (50%).

LANe100EA

Basic English 2 - II

堀 いつみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事を、英文で書かれた記事の中で読むことにより、読解力及び報道をより多角的に捉える力が増します。

【到達目標】

- ・時事英語の特徴が分かるようになること
- ・馴染みのある単語であっても、新しい文脈の中でより深い理解を発見し、それを実際に活用する力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・授業展開によっては、進度、内容に若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction to Chapter 8	Chapter 8 の導入と精読
2	犯罪・事件	Chapter 8 の精読
3	Introduction to Chapter 9	Chapter 9 の導入と精読
4	裁判・法令	Chapter 9 の精読
5	Introduction to Chapter 10	Chapter 10 の導入と精読
6	地球環境	Chapter 10 の精読
7	Introduction to Chapter 11	Chapter 11 の導入と精読
8	気象・災害	Chapter 11 の精読
9	Introduction to Chapter 12	Chapter 12 の導入と精読
10	人口・労働問題	Chapter12 の精読
11	Introduction to Chapter 13	Chapter 13 の導入と精読
12	テクノロジー	Chapter13 の精読
13	Introduction to Chapter 14	Chapter 14 の導入と精読
14	スポーツ	Chapter14 の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
 - ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 - ・毎回出題される課題を提出しましょう。
- (本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

・English for Mass Communication・2022 Edition（堀江洋文、他 編著・朝日出版社・2022 年）1,700 円＋税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110（京都大学英語学術語彙研究グループ＋研究社 著・研究社・2009 年）1400 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題提出状況と正解率の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 % という比率で評価します。（どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。）

【学生の意見等からの気づき】

解説は丁寧に（対面授業を想像しながら）行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 In this course, students will read and read out various types of articles on many different topics so that they can grow their reading comprehension. They will enrich their understanding of stories around the world and around themselves.

【Learning Objectives】 The course aims to brush up students' prior skills in reading, listening and speaking.

【Learning activities outside of classroom】 Besides preparation for each lesson, students will also be expected to submit the required assignments after each class. Their study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on assignments (50%) and final examination (50%).

LANe100EA

Basic English 2 - I

中島 菜穂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディングを中心に、総合的な英語力の向上を目指します。基本的な文法を復習しながら、英語圏の作者が書いた現代小説を精読し、読解力の強化をはかります。新しく知った単語やフレーズが、小説のなかでどんなふうに使われているか理解することで、語彙を増やし定着させていきます。

【到達目標】

- ・文法に注目して英文を読むことで、書かれている内容をより正しく理解することができる。
- ・英単語の意味を理解し、正しく発音できるようになる。
- ・まとまった量の英語の文章を読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・テーマとなる文法の復習
- ・語彙チェック：課題の範囲に出てきた英単語やフレーズをいくつかピックアップし、発音と、テキストで使われている意味を答えてもらいます。知らない単語は、発音と日本語の意味を調べてきてください。
- ・テキスト読解と翻訳：毎回の課題として指定された範囲の訳を準備し、提出してもらいます。数名の方を指名して質問しながら、テキストを読み解いていきます。課題は、翌週の授業で詳しい解説とフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明、授業で扱う作品の紹介、小テスト
第 2 回	現在形と現在進行形	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.1-10
第 3 回	過去形と過去進行形	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.1-10
第 4 回	完了形（現在完了形）	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.1-10
第 5 回	完了形（現在完了形）	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20
第 6 回	完了形まとめ	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20
第 7 回	未来を表す表現①	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20

第 8 回 未来を表す表現②

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20

第 9 回 動名詞

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 10 回 不定詞

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 11 回 関係詞①

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 12 回 関係詞②

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 13 回 関係詞まとめ

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 14 回 期末試験

テキストの内容から文法と単語のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題の範囲に出てくる単語やフレーズで知らないものは、意味と発音を調べてくること。
 - ・指定範囲の訳を準備しておくこと。
- 本授業の準備・復習時間は 3 時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストは、その都度配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の内容と授業への参加度など） 50%
課題提出 20%
期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' overall English skills with a focus on reading. In this course, students will review basic grammar and build up vocabulary through close reading of contemporary novels.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To be able to understand the written content more correctly
 - Understand the meaning of words and be able to pronounce them correctly
 - To get used to reading a large amount of English text
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend 3 hours to understand the course content Experiment/Practice. Your overall grade in the class will be decided based on the following
in class contribution: 50%、Assignments: 20%、Term-end examination: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - II

中島 菜穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディングを中心に、総合的な英語力の向上を目指します。基本的な文法を復習しながら、英語圏の作者が書いた現代小説を精読し、読解力の強化をはかります。新しく知った単語やフレーズが、小説のなかでどんなふうに使われているか理解することで、語彙を増やし定着させていきます。

【到達目標】

- ・文法に注目して英文を読むことで、書かれている内容をより正しく理解することができる。
- ・英単語の意味を理解し、正しく発音できるようになる。
- ・まとまった量の英語の文章を読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・テーマとなる文法の復習
- ・語彙チェック：課題の範囲に出てきた英単語やフレーズをいくつかピックアップし、発音と、テキストで使われている意味を答えてもらいます。知らない単語は、発音と日本語の意味を調べてきてください。
- ・テキスト読解と翻訳：毎回の課題として指定された範囲の訳を準備し、提出してもらいます。数名の方を指名して質問しながら、テキストを読み解いていきます。課題は、翌週の授業で詳しい解説とフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明、授業で扱う作品の紹介、小テスト
第 2 回	現在時制と過去時制①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, Prologue- chapter 1, pp.1-7
第 3 回	現在時制と過去時制②	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 1, pp.1-7
第 4 回	未来を表す表現①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 1, pp.1-7
第 5 回	未来を表す表現②	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 2, pp.8-13
第 6 回	完了形	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 2, pp.8-13
第 7 回	仮定法①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 3, pp.14-20
第 8 回	仮定法②	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 3, pp.14-20
第 9 回	仮定法③	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 3, pp.14-20
第 10 回	関係詞①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 11 回 関係詞②

Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 12 回 助動詞①

Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 13 回 助動詞②

Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 14 回 期末試験

テキストの内容から文法と単語のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題の範囲に出てくる単語やフレーズで知らないものは、意味と発音を調べてくること。
 - ・指定範囲の訳を準備しておくこと。
- 本授業の準備・復習時間は 3 時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストは、その都度配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の内容と授業への参加度など） 50%
課題提出 20%
期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' overall English skills with a focus on reading. In this course, students will review basic grammar and build up vocabulary through close reading of contemporary novels.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To be able to understand the written content more correctly
- Understand the meaning of words and be able to pronounce them correctly

-To get used to reading a large amount of English text
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 3 hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

in class contribution: 50%, Assignments: 20%, Term-end examination: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - I

中島 菜穂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディングを中心に、総合的な英語力の向上を目指します。基本的な文法を復習しながら、英語圏の作者が書いた現代小説を精読し、読解力の強化をはかります。新しく知った単語やフレーズが、小説のなかでどんなふうに使われているか理解することで、語彙を増やし定着させていきます。

【到達目標】

- ・文法に注目して英文を読むことで、書かれている内容をより正しく理解することができる。
- ・英単語の意味を理解し、正しく発音できるようになる。
- ・まとまった量の英語の文章を読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・テーマとなる文法の復習
- ・語彙チェック：課題の範囲に出てきた英単語やフレーズをいくつかピックアップし、発音と、テキストで使われている意味を答えてもらいます。知らない単語は、発音と日本語の意味を調べてきてください。
- ・テキスト読解と翻訳：毎回の課題として指定された範囲の訳を準備し、提出してもらいます。数名の方を指名して質問しながら、テキストを読み解いていきます。課題は、翌週の授業で詳しい解説とフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明、授業で扱う作品の紹介、小テスト
第 2 回	現在形と現在進行形	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.1-10
第 3 回	過去形と過去進行形	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.1-10
第 4 回	完了形（現在完了形）	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.1-10
第 5 回	完了形（現在完了形）	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20
第 6 回	完了形まとめ	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20
第 7 回	未来を表す表現①	Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20

第 8 回 未来を表す表現②

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 1(The Blue Door), pp.11-20

第 9 回 動名詞

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 10 回 不定詞

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 11 回 関係詞①

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 12 回 関係詞②

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 13 回 関係詞まとめ

Alix E. Harrow's The Ten Thousand Doors of January, chapter 2(The Leather-Bound Door)

第 14 回 期末試験

テキストの内容から文法と単語のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題の範囲に出てくる単語やフレーズで知らないものは、意味と発音を調べてくること。
 - ・指定範囲の訳を準備しておくこと。
- 本授業の準備・復習時間は 3 時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストは、その都度配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の内容と授業への参加度など） 50%
課題提出 20%
期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' overall English skills with a focus on reading. In this course, students will review basic grammar and build up vocabulary through close reading of contemporary novels.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To be able to understand the written content more correctly
 - Understand the meaning of words and be able to pronounce them correctly
 - To get used to reading a large amount of English text
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend 3 hours to understand the course content Experiment/Practice. Your overall grade in the class will be decided based on the following
in class contribution: 50%、Assignments: 20%、Term-end examination: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - II

中島 菜穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディングを中心に、総合的な英語力の向上を目指します。基本的な文法を復習しながら、英語圏の作者が書いた現代小説を精読し、読解力の強化をはかります。新しく知った単語やフレーズが、小説のなかでどんなふうに使われているか理解することで、語彙を増やし定着させていきます。

【到達目標】

- ・文法に注目して英文を読むことで、書かれている内容をより正しく理解することができる。
- ・英単語の意味を理解し、正しく発音できるようになる。
- ・まとまった量の英語の文章を読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・テーマとなる文法の復習
- ・語彙チェック：課題の範囲に出てきた英単語やフレーズをいくつかピックアップし、発音と、テキストで使われている意味を答えてもらいます。知らない単語は、発音と日本語の意味を調べてきてください。
- ・テキスト読解と翻訳：毎回の課題として指定された範囲の訳を準備し、提出してもらいます。数名の方を指名して質問しながら、テキストを読み解いていきます。課題は、翌週の授業で詳しい解説とフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明、授業で扱う作品の紹介、小テスト
第 2 回	現在時制と過去時制①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, Prologue- chapter 1, pp.1-7
第 3 回	現在時制と過去時制②	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 1, pp.1-7
第 4 回	未来を表す表現①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 1, pp.1-7
第 5 回	未来を表す表現②	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 2, pp.8-13
第 6 回	完了形	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 2, pp.8-13
第 7 回	仮定法①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 3, pp.14-20
第 8 回	仮定法②	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 3, pp.14-20
第 9 回	仮定法③	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 3, pp.14-20
第 10 回	関係詞①	Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 11 回 関係詞②

Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 12 回 助動詞①

Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 13 回 助動詞②

Francesca Zappia's Eliza and Her Monsters, chapter 4 pp.21-37

第 14 回 期末試験

テキストの内容から文法と単語のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題の範囲に出てくる単語やフレーズで知らないものは、意味と発音を調べてくること。
 - ・指定範囲の訳を準備しておくこと。
- 本授業の準備・復習時間は 3 時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストは、その都度配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の内容と授業への参加度など） 50%
課題提出 20%
期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' overall English skills with a focus on reading. In this course, students will review basic grammar and build up vocabulary through close reading of contemporary novels.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To be able to understand the written content more correctly
- Understand the meaning of words and be able to pronounce them correctly

-To get used to reading a large amount of English text
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 3 hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

in class contribution: 50%, Assignments: 20%, Term-end examination: 30%

LANe100EA

Basic English 2 - II

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【再履修向け授業】英語力が比較的低い学生を主な対象に、基礎的な英語力の習得に重点を置く。読解、リスニング、音読の練習を中心に行う。

【到達目標】

- ・英文読解のスピード・正確さを向上させる。
- ・リスニング力を向上させる。
- ・英文をスムーズに音読できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業は原則 Zoom を使いリアルタイムで行う。（対面に移行した場合は教室での授業）
- 授業に関する連絡、資料の配布、テストと課題類は Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。語彙増強、読解、リスニング&音読などの作業を行う。
- 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。
- ※詳しくは初回ガイダンスで説明する。
- ※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、導入課題
第 2 回	Chapter 1 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 3 回	Chapter 1 (Part. 2)	精読、音読など
第 4 回	Chapter 2 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 5 回	Chapter 2 (Part. 2)	精読、音読など
第 6 回	Chapter 3 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 7 回	Chapter 3 (Part. 2)	精読、音読など
第 8 回	Chapter 4 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 9 回	Chapter 4 (Part. 2)	精読、音読など
第 10 回	Chapter 5 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 11 回	Chapter 5 (Part. 2)	精読、音読など
第 12 回	Chapter 6 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 13 回	Chapter 6 (Part. 2)	精読、音読など
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のために 2 時間程度の学習が必要となる見込み：

- 予習、復習
- 課題に関する作業
- リスニング&音読の反復練習

【テキスト（教科書）】

※履修を検討する際は添付資料の教材サンプルを確認すること！

※第二回授業までに教科書を入手すること！

① 『VOA News: Reading for Cross-cultural Understanding』、英宝社、2000 円＋税。英語学習者向けのニュース英文を主とした教材。この授業では教科書の前半部をカバーする予定。

② 英語辞書（Web 上のものでなく一般の学習辞書が望ましい）

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加・貢献、予習等）： 50 %
- ・毎回のテスト類（筆記テスト、音読テスト）： 40 %
- ・学期末のプレゼンテーション： 10 %
- ※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

授業中に個別の学生からの相談・質問に対応の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。Hoppii、Zoom、Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

※初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to their reading and listening comprehension skills and reading aloud skills.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to improve English reading and comprehension skills.
- to improve the fluency and accuracy of reading aloud.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about two hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork
- completing homework assignments
- practicing listening and reading aloud exercises

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%)
- regular quizzes and assignments (40%)
- term-end oral presentation (10%)

LANe100EA

Basic English 2 - I

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【再履修向け授業】英語力が比較的低い学生を主な対象に、基礎的な英語力の習得に重点を置く。読解、リスニング、音読の練習を中心に行う。

【到達目標】

- ・英文読解のスピード・正確さを向上させる。
- ・リスニング力を向上させる。
- ・英文をスムーズに音読できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業は原則 Zoom を使いリアルタイムで行う。（対面に移行した場合は教室での授業）
- 授業に関する連絡、資料の配布、テストと課題類は Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。語彙増強、読解、リスニング&音読などの作業を行う。
- 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。
- ※詳しくは初回ガイダンスで説明する。
- ※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、導入課題
第 2 回	Chapter 7 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 3 回	Chapter 7 (Part. 2)	精読、音読など
第 4 回	Chapter 8 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 5 回	Chapter 8 (Part. 2)	精読、音読など
第 6 回	Chapter 9 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 7 回	Chapter 9 (Part. 2)	精読、音読など
第 8 回	Chapter 10 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 9 回	Chapter 10 (Part. 2)	精読、音読など
第 10 回	Chapter 11 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 11 回	Chapter 11 (Part. 2)	精読、音読など
第 12 回	Chapter 12 (Part. 1)	語彙増強、読解など
第 13 回	Chapter 12 (Part. 2)	精読、音読など
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のために 2 時間程度の学習が必要となる見込み：

- 予習、復習
- 課題に関する作業
- リスニング&音読の反復練習

【テキスト（教科書）】

※履修を検討する際は添付資料の教材サンプルを確認すること！

※第二回授業までに教科書を入手すること！

① 『VOA News: Reading for Cross-cultural Understanding』、英宝社、2000 円＋税。英語学習者向けのニュース英文を主とした教材。この授業では教科書の後半部をカバーする予定。

② 英語辞書（Web 上のものでなく一般の学習辞書が望ましい）

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加・貢献、予習等）： 50 %
 - ・毎回のテスト類（筆記テスト、音読テスト）： 40 %
 - ・学期末のプレゼンテーション： 10 %
- ※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

授業中に個別の学生からの相談・質問に対応の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。Hoppii、Zoom、Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

※初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to their reading and listening comprehension skills and reading aloud skills.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to improve English reading and comprehension skills.
- to improve the fluency and accuracy of reading aloud.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about two hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises.

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%).
- regular quizzes and assignments (40%).
- term-end oral presentation (10%).

LANd100EA

ドイツ語初級A

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アードム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。

テスト（2回）が40%、課題・小テストの提出が60%の計100%で評価をだし、60%以上の評価で単位の取得となります。

なお、対面授業になった場合に内訳は変更となります。

【学生の意見等からの気づき】

現時点では春学期はオンライン授業となっています。オンライン授業では自分のペースで学習できるという利点がある一方、ついつい後回しにしてしまうことも可能ですので、気づくと大変な状態になっていることもあり得ます。そのため授業資料の掲示や課題提出の期限を設けることで、なるべく1週間のペースを作れるようにしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) を利用するためのパソコン、Word、PowerPoint を含む Microsoft Office (法政大学の学生は無償インストールできる)

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

Grading criteria:

Students will be graded on two tests (40%) and homeworks and quizzes (60%), for a total of 100%. A grade of 60% or higher earns credit.

The breakdown will be changed when the class becomes face-to-face.

LANd100EA

ドイツ語初級B

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	復習	初級Aの復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の2つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の3基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イツップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。テスト（2回）が40%、課題・小テストの提出が60%の計100%で評価をだし、60%以上の評価で単位の取得となります。

なお、対面授業になった場合に内訳は変更となります。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期では授業の理解度にばらつきが出やすいため、なるべく学生間の理解度に差がつかないように工夫をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合
・学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン
・Word、PowerPoint を含む Microsoft Office(法政大学の学生は無償インストールできる)

【その他の重要事項】

「初級A」の単位を取得するまで「初級B」の履修はできません。また、「初級B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

Grading criteria:

Students will be graded on two tests (40%) and homeworks and quizzes (60%), for a total of 100%. A grade of 60% or higher earns credit.

The breakdown will be changed when the class becomes face-to-face.

LANd100EA

ドイツ語初級A

本田 博之、布川 恭子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。
中間・期末試験 70 % + 平常点 30 %

（小テストは平常点に含めます）

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語圏の文化の紹介などは好評だったので、今年度も続ける予定。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations(70%), assignments and in class contribution(30%).

LANd100EA

ドイツ語初級B

本田 博之、布川 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イツップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。
中間・期末試験 70%+平常点 30%
(小テストは平常点に含めます)

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語圏の文化の紹介などは好評だったので、今年度も続ける予定。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations(70%), assignments and in class contribution(30%).

LANd100EA

ドイツ語初級A

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アードム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。

テスト（2回）が40%、課題・小テストの提出が60%の計100%で評価をだし、60%以上の評価で単位の取得となります。

なお、対面授業になった場合に内訳は変更となります。

【学生の意見等からの気づき】

現時点では春学期はオンライン授業となっています。オンライン授業では自分のペースで学習できるという利点がある一方、ついつい後回しにしてしまうことも可能ですので、気づくと大変な状態になっていることもあり得ます。そのため授業資料の掲示や課題提出の期限を設けることで、なるべく1週間のペースを作れるようにしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) を利用するためのパソコン、Word、PowerPoint を含む Microsoft Office (法政大学の学生は無償インストールできる)

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

Grading criteria:

Students will be graded on two tests (40%) and homeworks and quizzes (60%), for a total of 100%. A grade of 60% or higher earns credit.

The breakdown will be changed when the class becomes face-to-face.

LANd100EA

ドイツ語初級B

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イツップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。テスト（2回）が40%、課題・小テストの提出が60%の計100%で評価をだし、60%以上の評価で単位の取得となります。

なお、対面授業になった場合に内訳は変更となります。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期では授業の理解度にばらつきが出やすいため、なるべく学生間の理解度に差がつかないように工夫をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合
・学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン
・Word、PowerPoint を含む Microsoft Office（法政大学の学生は無償インストールできる）

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

Grading criteria:

Students will be graded on two tests (40%) and homeworks and quizzes (60%), for a total of 100%. A grade of 60% or higher earns credit.

The breakdown will be changed when the class becomes face-to-face.

LANd100EA

ドイツ語初級A

本田 博之、布川 恭子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。
中間・期末試験 70 % + 平常点 30 %

（小テストは平常点に含まれます）

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語圏の文化の紹介などは好評だったので、今年度も続ける予定。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations(70%), assignments and in class contribution(30%).

LANd100EA

ドイツ語初級B

本田 博之、布川 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イツップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。
中間・期末試験 70%+平常点 30%
（小テストは平常点に含めます）

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語圏の文化の紹介などは好評だったので、今年度も続ける予定。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations(70%), assignments and in class contribution(30%).

LANd100EA

ドイツ語初級B

田中 潤、濱中 春

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（イツップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。
中間・期末試験 40%、平常点（課題・小テスト・授業への参加状況）60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語をとりまく文化も適宜紹介します。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on the following: mid-term and term-end examinations (40%), assignments, quizzes and in class contribution (60%).

LANd100EA

ドイツ語初級A

田中 潤、濱中 春

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。
課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。

中間・期末試験 40%、平常点（課題・小テスト・授業への参加状況）60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語をとりまく文化も適宜紹介します。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。また、「初級 B」の単位を取得するまでは履修できない科目があります。『履修要綱』の「履修前提科目について」を参照してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German. At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

After each class meeting, students will be expected to review the course content and to complete the required assignments. Your required study time is two hours for a class.

Grading will be decided based on the following: mid-term and term-end examinations (40%), assignments, quizzes and in class contribution (60%).

LANf100EA

フランス語初級A

高橋 久美、大澤 瑞綺

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級用の教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	「あいさつ」の基本、「あいさつ」にニュアンスをつけよう
3	0 課	フランス人の名前、練習問題
4	1 課	アルファベ、綴り記号、日本語になったフランス語
5	1 課	フランス語発音の規則 (1)、練習問題
6	2 課	名詞の性と数、冠詞
7	2 課	voici と voilà、数 (1 から 20 まで)、フランス語の発音の規則 (2)
8	2 課	指示形容詞、前置詞 de, à と定冠詞の縮約
9	2 課	練習問題
10	3 課	主語人称代名詞、第 1 群規則動詞 (-er 動詞)
11	3 課	être 動詞、国籍・身分・職業
12	3 課	C'est~, Ce sont~, 所有形容詞
13	3 課	練習問題
14	4 課	avoir 動詞、il y a~, 否定形
15	4 課	否定のさまざまな形、疑問形、否定疑問の答え方
16	4 課	第 2 群規則動詞 (-ir 動詞)
17	4 課	命令形、練習問題
18	5 課	形容詞の一致と位置、名詞の前に来る形容詞
19	5 課	特殊な性変化をする形容詞、形容詞の名詞化
20	5 課	不規則動詞 aller と venir
21	5 課	都市名と国名、近接未来と近接過去
22	5 課	練習問題
23	6 課	疑問副詞
24	6 課	疑問代名詞
25	6 課	所有代名詞
26	6 課	さまざまな不規則動詞
27	6 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題や小テストの準備をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANf100EA

フランス語初級B

高橋 久美、大澤 瑞綺

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	7 課	直説法複合過去
2	7 課	受動態
3	7 課	疑問形容詞
4	7 課	練習問題
5	8 課	直説法半過去
6	8 課	比較級
7	8 課	最上級
8	8 課	特殊な優等比較級、人称代名詞の強勢形
9	8 課	練習問題
10	9 課	補語人称代名詞
11	9 課	代名動詞
12	9 課	関係代名詞
13	9 課	練習問題
14	10 課	直説法単純未来
15	10 課	指示代名詞、中性代名詞 <i>le, en, y</i>
16	10 課	非人称表現、数（1 から 100 まで）
17	10 課	練習問題
18	11 課	現在分詞
19	11 課	ジェロンディフ
20	11 課	不定詞の便利な用法
21	11 課	強調構文 <i>C'est qui~, C'est que~</i>
22	11 課	<i>L'Etranger</i> (Albert Camus)
23	11 課	練習問題
24	12 課	条件法現在
25	12 課	接続法現在
26	12 課	<i>Le Rouge et le Noir</i> (Stendhal)
27	12 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。
成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANf100EA

フランス語初級A

實谷 美咲、佐藤 久仁子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を読み取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級用の教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	「あいさつ」の基本、「あいさつ」にニュアンスをつけよう
3	0 課	フランス人の名前、練習問題
4	1 課	アルファベ、綴り記号、日本語になったフランス語
5	1 課	フランス語発音の規則 (1)、練習問題
6	2 課	名詞の性と数、冠詞
7	2 課	voici と voilà、数 (1 から 20 まで)、フランス語の発音の規則 (2)
8	2 課	指示形容詞、前置詞 de, à と定冠詞の縮約
9	2 課	練習問題
10	3 課	主語人称代名詞、第 1 群規則動詞 (-er 動詞)
11	3 課	être 動詞、国籍・身分・職業
12	3 課	C'est~, Ce sont~, 所有形容詞
13	3 課	練習問題
14	4 課	avoir 動詞、il y a~, 否定形
15	4 課	否定のさまざまな形、疑問形、否定疑問の答え方
16	4 課	第 2 群規則動詞 (-ir 動詞)
17	4 課	命令形、練習問題
18	5 課	形容詞の一致と位置、名詞の前に来る形容詞
19	5 課	特殊な性変化をする形容詞、形容詞の名詞化
20	5 課	不規則動詞 aller と venir
21	5 課	都市名と国名、近接未来と近接過去
22	5 課	練習問題
23	6 課	疑問副詞
24	6 課	疑問代名詞
25	6 課	所有代名詞
26	6 課	さまざまな不規則動詞
27	6 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題や小テストの準備をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。
成績評価の内訳は、課題 40%、平常点 60%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LANf100EA

フランス語初級B

實谷 美咲、佐藤 久仁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。

- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	7 課	直説法複合過去
2	7 課	受動態
3	7 課	疑問形容詞
4	7 課	練習問題
5	8 課	直説法半過去
6	8 課	比較級
7	8 課	最上級
8	8 課	特殊な優等比較級、人称代名詞の強勢形
9	8 課	練習問題
10	9 課	補語人称代名詞
11	9 課	代名動詞
12	9 課	関係代名詞
13	9 課	練習問題
14	10 課	直説法単純未来
15	10 課	指示代名詞、中性代名詞 <i>le, en, y</i>
16	10 課	非人称表現、数（1 から 100 まで）
17	10 課	練習問題
18	11 課	現在分詞
19	11 課	ジェロンディフ
20	11 課	不定詞の便利な用法
21	11 課	強調構文 <i>C'est qui~, C'est que~</i>
22	11 課	<i>L'Etranger</i> (Albert Camus)
23	11 課	練習問題
24	12 課	条件法現在
25	12 課	接続法現在
26	12 課	<i>Le Rouge et le Noir</i> (Stendhal)
27	12 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。
成績評価の内訳は、課題 40%、平常点 60%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LANf100EA

フランス語初級A

高橋 久美、大澤 瑞綺

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級用の教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	「あいさつ」の基本、「あいさつ」にニュアンスをつけよう
3	0 課	フランス人の名前、練習問題
4	1 課	アルファベ、綴り記号、日本語になったフランス語
5	1 課	フランス語発音の規則 (1)、練習問題
6	2 課	名詞の性と数、冠詞
7	2 課	voici と voilà、数 (1 から 20 まで)、フランス語の発音の規則 (2)
8	2 課	指示形容詞、前置詞 de, à と定冠詞の縮約
9	2 課	練習問題
10	3 課	主語人称代名詞、第 1 群規則動詞 (-er 動詞)
11	3 課	être 動詞、国籍・身分・職業
12	3 課	C'est~, Ce sont~, 所有形容詞
13	3 課	練習問題
14	4 課	avoir 動詞、il y a~, 否定形
15	4 課	否定のさまざまな形、疑問形、否定疑問の答え方
16	4 課	第 2 群規則動詞 (-ir 動詞)
17	4 課	命令形、練習問題
18	5 課	形容詞の一致と位置、名詞の前に来る形容詞
19	5 課	特殊な性変化をする形容詞、形容詞の名詞化
20	5 課	不規則動詞 aller と venir
21	5 課	都市名と国名、近接未来と近接過去
22	5 課	練習問題
23	6 課	疑問副詞
24	6 課	疑問代名詞
25	6 課	所有代名詞
26	6 課	さまざまな不規則動詞
27	6 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題や小テストの準備をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANf100EA

フランス語初級B

高橋 久美、大澤 瑞綺

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。

- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	7 課	直説法複合過去
2	7 課	受動態
3	7 課	疑問形容詞
4	7 課	練習問題
5	8 課	直説法半過去
6	8 課	比較級
7	8 課	最上級
8	8 課	特殊な優等比較級、人称代名詞の強勢形
9	8 課	練習問題
10	9 課	補語人称代名詞
11	9 課	代名動詞
12	9 課	関係代名詞
13	9 課	練習問題
14	10 課	直説法単純未来
15	10 課	指示代名詞、中性代名詞 <i>le, en, y</i>
16	10 課	非人称表現、数（1 から 100 まで）
17	10 課	練習問題
18	11 課	現在分詞
19	11 課	ジェロンディフ
20	11 課	不定詞の便利な用法
21	11 課	強調構文 <i>C'est qui~, C'est que~</i>
22	11 課	<i>L'Etranger</i> (Albert Camus)
23	11 課	練習問題
24	12 課	条件法現在
25	12 課	接続法現在
26	12 課	<i>Le Rouge et le Noir</i> (Stendhal)
27	12 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。
成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANf100EA

フランス語初級A

實谷 美咲、佐藤 久仁子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を読み取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級用の教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	「あいさつ」の基本、「あいさつ」にニュアンスをつけよう
3	0 課	フランス人の名前、練習問題
4	1 課	アルファベ、綴り記号、日本語になったフランス語
5	1 課	フランス語発音の規則 (1)、練習問題
6	2 課	名詞の性と数、冠詞
7	2 課	voici と voilà、数 (1 から 20 まで)、フランス語の発音の規則 (2)
8	2 課	指示形容詞、前置詞 de, à と定冠詞の縮約
9	2 課	練習問題
10	3 課	主語人称代名詞、第 1 群規則動詞 (-er 動詞)
11	3 課	être 動詞、国籍・身分・職業
12	3 課	C'est~, Ce sont~, 所有形容詞
13	3 課	練習問題
14	4 課	avoir 動詞、il y a~, 否定形
15	4 課	否定のさまざまな形、疑問形、否定疑問の答え方
16	4 課	第 2 群規則動詞 (-ir 動詞)
17	4 課	命令形、練習問題
18	5 課	形容詞の一致と位置、名詞の前に来る形容詞
19	5 課	特殊な性変化をする形容詞、形容詞の名詞化
20	5 課	不規則動詞 aller と venir
21	5 課	都市名と国名、近接未来と近接過去
22	5 課	練習問題
23	6 課	疑問副詞
24	6 課	疑問代名詞
25	6 課	所有代名詞
26	6 課	さまざまな不規則動詞
27	6 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題や小テストの準備をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。成績評価の内訳は、課題 40%、平常点 60%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LANf100EA

フランス語初級B

實谷 美咲、佐藤 久仁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。

- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	7 課	直説法複合過去
2	7 課	受動態
3	7 課	疑問形容詞
4	7 課	練習問題
5	8 課	直説法半過去
6	8 課	比較級
7	8 課	最上級
8	8 課	特殊な優等比較級、人称代名詞の強勢形
9	8 課	練習問題
10	9 課	補語人称代名詞
11	9 課	代名動詞
12	9 課	関係代名詞
13	9 課	練習問題
14	10 課	直説法単純未来
15	10 課	指示代名詞、中性代名詞 <i>le, en, y</i>
16	10 課	非人称表現、数（1 から 100 まで）
17	10 課	練習問題
18	11 課	現在分詞
19	11 課	ジェロンディフ
20	11 課	不定詞の便利な用法
21	11 課	強調構文 <i>C'est qui~, C'est que~</i>
22	11 課	<i>L'Etranger</i> (Albert Camus)
23	11 課	練習問題
24	12 課	条件法現在
25	12 課	接続法現在
26	12 課	<i>Le Rouge et le Noir</i> (Stendhal)
27	12 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。
成績評価の内訳は、課題 40%、平常点 60%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LANf100EA

フランス語初級B

美頭 千不美、高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字 (70~100)
7	11 課	直説法複合過去
8	11 課	中性代名詞 en
9	11 課	覚えておきたい副詞（程度を表す副詞、時を表す副詞）、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現
27	16 課	よく使う接続詞句
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANf100EA

フランス語初級A

美頭 千不美、高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
- ・「初級 A」と「初級 B」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級用の教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な名句や会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	「あいさつ」の基本、「あいさつ」にニュアンスをつけよう
3	0 課	フランス人の名前、練習問題
4	1 課	アルファベ、綴り記号、日本語になったフランス語
5	1 課	フランス語発音の規則 (1)、練習問題
6	2 課	名詞の性と数、冠詞
7	2 課	voici と voilà、数 (1 から 20 まで)、フランス語の発音の規則 (2)
8	2 課	指示形容詞、前置詞 de, à と定冠詞の縮約
9	2 課	練習問題
10	3 課	主語人称代名詞、第 1 群規則動詞 (-er 動詞)
11	3 課	être 動詞、国籍・身分・職業
12	3 課	C'est~, Ce sont~, 所有形容詞
13	3 課	練習問題
14	4 課	avoir 動詞、il y a~, 否定形
15	4 課	否定のさまざまな形、疑問形、否定疑問の答え方
16	4 課	第 2 群規則動詞 (-ir 動詞)
17	4 課	命令形、練習問題
18	5 課	形容詞の一致と位置、名詞の前に来る形容詞
19	5 課	特殊な性変化をする形容詞、形容詞の名詞化
20	5 課	不規則動詞 aller と venir
21	5 課	都市名と国名、近接未来と近接過去
22	5 課	練習問題
23	6 課	疑問副詞
24	6 課	疑問代名詞
25	6 課	所有代名詞
26	6 課	さまざまな不規則動詞
27	6 課	練習問題
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題や小テストの準備をきちんと行う。
- ・教科書付属の音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加賀野井秀一『フランス語の彼方に』、朝日出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は二人の担当教員の合議で行う。成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンライン授業では、Zoom の長所を生かした発音練習等も充実させ、今年度もフランス語の美しさを楽しめる授業を行います。
- ・各課に関連した文化的トピック（映画、美術、音楽、文学、哲学）にも少し触れることで、皆さんの世界が広がるきっかけになればと思います。
- ・わかりにくいところ、理解できなかったところはそのままにせず、遠慮なく教員に質問してください。

【その他の重要事項】

関連科目として、「フランス語コミュニケーション入門 A」（春学期）と「フランス語コミュニケーション入門 B」（秋学期）、「フランス語圏の社会と文化」（秋学期）の履修もお勧めします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of *Beginning French B*, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANe100EA

中国語初級A

池田 麻希子、田中 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「II. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「III. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「III. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・金曜日共に
教室での対面授業の場合は、テスト 60 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）40 %とする。

オンライン授業の場合は、テスト 60 %、課題・平常点（授業態度）20 %、e 宿題 20 %とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

池田 麻希子、田中 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「IV. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「V. 形容詞述語文」「VI. 名詞述語文」「VII. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「VIII. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「IX さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・金曜日共に
教室での対面授業の場合は、テスト60%、小テスト・課題・平常点（授業態度）40%とする。

オンライン授業の場合は、テスト60%、課題・平常点（授業態度）20%、e宿題20%とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級A

加藤 昌弘、篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「II. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「III. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「III. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日

教室での対面授業の場合は、テスト60%、課題20%、宿題20%とする。

オンライン授業の場合も同様に、テスト60%、課題20%、宿題20%とする。

金曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、e宿題20%とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト60%、課題20%、e宿題20%とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・

情報提供の明瞭さ、評価の公正さに注意します。

金曜日・

分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

加藤 昌弘、篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「IV. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「V. 形容詞述語文」「VI. 名詞述語文」「VII. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「VIII. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「IX. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・
教室での対面授業の場合は、テスト 60%、課題 20%、宿題 20%とする。

オンライン授業の場合も同様に、テスト 60%、課題 60%、宿題 20%とする。

金曜日・
教室での対面授業の場合は、期末テスト 60%、小テスト 20%、e宿題 20%とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト 60%、課題 20%、e宿題 20%とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・
情報提供の明瞭さ、評価の公正さに注意します。

金曜日・
分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級A

康 宏理、渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「II. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「III. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「III. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・康 宏理：

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、平常点 30 %、小テスト 10 %とする。

オンライン授業の場合は、読むテスト 40 %、e 宿題+課題 40 %、平常点 20 %とする。

共に、欠席回数が授業回数の三分之一を超えた場合は評価しない。

金曜日・渡辺 浩司：

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、小テスト 20 %、平常点 20 %とする。

オンライン授業の場合は、e 宿題 30 %、課題 40 %、平常点 30 %とする。

共に、欠席回数が授業回数の三分之一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする）。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも一回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to

understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

康 宏理、渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「Ⅳ. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「Ⅴ. 形容詞述語文」「Ⅵ. 名詞述語文」「Ⅶ. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「Ⅷ. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「Ⅸ. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・康 宏理：
教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、平常点30%、小テスト10%とする。

オンライン授業の場合は、読むテスト40%、e宿題+課題40%、平常点20%とする。
共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。

金曜日・渡辺 浩司：
教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%とする。

オンライン授業の場合は、平常点30%、課題40%、e宿題30%とする。

共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする）。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも一回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should

be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to

understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級A

篠田 幸夫、上村 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「II. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「III. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「III. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、小テスト 20 %、e 宿題 20 %とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト 60 %、課題 20 %、e 宿題 20 %とする。

金曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト 80 %、平常点 20 %（小テスト、e 宿題）とする。

オンライン授業の場合は、期末課題 80 %、平常点 20 %（小テスト、e 宿題）とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・

分かりやすい説明を心掛けます。

金曜日・

一人一人とのコミュニケーションを大切に、発音や簡単な対話など実践的な練習を重視します。授業内容だけでなく何か困ったことがあればいつでも連絡をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

篠田 幸夫、上村 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちらら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「IV. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「V. 形容詞述語文」「VI. 名詞述語文」「VII. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「VIII. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「IX. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、e宿題20%とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト60%、課題20%、e宿題20%とする。

金曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト80%、平常点20%（小テスト、e宿題）とする。

オンライン授業の場合は、期末課題80%、平常点20%（小テスト、e宿題）とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・

分かりやすい説明を心掛けます。

金曜日・

一人一人とのコミュニケーションを大切にし、発音や簡単な対話など実践的な練習を重視します。授業内容だけでなく何か困ったことがあればいつでも連絡をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級A

渡辺 浩司、杜 瑤琳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「Ⅱ. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・渡辺浩司

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%とする。

オンライン授業の場合は、e宿題30%、課題40%、平常点30%とする。

共に、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。

金曜日・杜瑤琳

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%とする。

欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。

オンライン授業の場合は、e宿題20%、課題20%、テスト60%とする。

課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合、またはテスト未受験の場合は評価しない。

上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも1回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。水曜・渡辺浩司

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。金曜・杜瑤琳

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Wednesday and Friday grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), little examination (20%), and in-class contribution (20%).

(Online lessons: Wednesday: e-text homework (30%), assignments (40%), and in-class contribution (30%).

Friday: e-text homework (20%), assignments (20%), and examination (60%).)

Final grade will be decided based on Wed (50%) and Fri (50%).

LANe100EA

中国語初級B

渡辺 浩司、杜 瑤琳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級 A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「Ⅳ. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「Ⅴ. 形容詞述語文」「Ⅵ. 名詞述語文」「Ⅶ. 連体修飾語・練用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「Ⅷ. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「Ⅸ さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級 A」と同様、テキストについての CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・渡辺浩司

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、小テスト 20 %、平常点 20 %とする。

オンライン授業の場合は、e 宿題 30 %、課題 40 %、平常点 30 %とする。

共に、欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない

（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

金曜日・杜瑤琳

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、小テスト 20 %、平常点 20 %とする。

欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

オンライン授業の場合は、e 宿題 20 %、課題 20 %、テスト 60 %とする。

課題の未提出が 4 回（授業回数の 3 分の 1）を超えた場合、またはテスト未受験の場合は評価しない。

上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも 1 回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。水曜・渡辺浩司

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。金曜・杜瑤琳

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Wednesday and Friday grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), little examination (20%), and in-class contribution (20%).

(Online lessons: Wednesday: e-text homework (30%), assignments (40%), and in-class contribution (30%).

Friday: e-text homework (20%), assignments (20%), and examination (60%).)

Final grade will be decided based on Wed (50%) and Fri (50%).

LANe100EA

中国語初級A

加藤 昌弘、篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「II. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「III. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「III. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・

教室での対面授業の場合は、テスト60%、課題20%、宿題20%とする。

オンライン授業の場合も同様に、テスト60%、課題20%、宿題20%とする。

金曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、e宿題20%とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト60%、課題20%、e宿題20%とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・

情報提供の明瞭さ、評価の公正さに注意します。

金曜日・

分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

加藤 昌弘、篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「IV. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「V. 形容詞述語文」「VI. 名詞述語文」「VII. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「VIII. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「IX. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・教室での対面授業の場合は、テスト60%、課題20%、宿題20%とする。

オンライン授業の場合も同様に、テスト60%、課題60%、宿題60%とする

金曜日・教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、e宿題20%とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト60%、課題20%、e宿題20%とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・情報提供の明瞭さ、評価の公正さに注意します。

金曜日・

分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級A

康 宏理、渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「II. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「III. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「III. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・康 宏理：

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60%、平常点 30%、小テスト 10%とする。

オンライン授業の場合は、読むテスト 40%、e宿題+課題 40%、平常点 20%とする。

共に、欠席回数が授業回数の三分之一を超えた場合は評価しない。

金曜日・渡辺 浩司：

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60%、小テスト 20%、平常点 20%とする。

オンライン授業の場合は、e宿題 30%、課題 40%、平常点 30%とする。

共に、欠席回数が授業回数の三分之一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする）。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50%ずつとして合算し、「中国語初級A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも一回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to

understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

康 宏理、渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「IV. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「V. 形容詞述語文」「VI. 名詞述語文」「VII. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「VIII. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「IX. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・康 宏理：
教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、平常点30%、小テスト10%とする。

オンライン授業の場合は、読むテスト40%、e宿題+課題40%、平常点20%とする。
共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。

金曜日・渡辺 浩司：
教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%とする。

オンライン授業の場合は、e宿題30%、課題40%、平常点30%とする。

共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする）。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも一回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should

be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to

understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級A

篠田 幸夫、上村 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「Ⅱ. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、e宿題20%とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト60%、課題20%、e宿題20%とする。

金曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト80%、平常点20%（小テスト、e宿題）とする。

オンライン授業の場合は、期末課題80%、平常点20%（小テスト、e宿題）とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・

分かりやすい説明を心掛けます。

金曜日・

一人一人とのコミュニケーションを大切に、発音や簡単な対話など実践的な練習を重視します。授業内容だけでなく何か困ったことがあればいつでも連絡をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

篠田 幸夫、上村 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちらら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「IV. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「V. 形容詞述語文」「VI. 名詞述語文」「VII. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「VIII. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「IX. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、e宿題20%とする。

オンライン授業の場合は、期末単語テスト60%、課題20%、e宿題20%とする。

金曜日・

教室での対面授業の場合は、期末テスト80%、平常点20%（小テスト、e宿題）とする。

オンライン授業の場合は、期末課題80%、平常点20%（小テスト、e宿題）とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・

分かりやすい説明を心掛けます。

金曜日・

一人一人とのコミュニケーションを大切にし、発音や簡単な対話など実践的な練習を重視します。授業内容だけでなく何か困ったことがあればいつでも連絡をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on e-learning, short tests, term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級 A

謝 荔、田中 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「II. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「III. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「III. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日の授業：2 回の小テスト 50 %、授業参加度と e 宿題 50 % とする（遅刻・早退をした場合は減点する）。

金曜日の授業：オンライン授業の場合は、期末テスト 60 %、課題・平常点 20 %、e 宿題 20 % とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 % ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすく、関連知識が盛り込まれるような授業を心がけたい。少しずつステップアップできるような授業にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】

通信環境を確保して授業に参加することと、e 宿題を完了することも大事である。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級B

謝 荔、田中 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちらら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級 A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「IV. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「V. 形容詞述語文」「VI. 名詞述語文」「VII. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「VIII. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「IX. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級 A」と同様、テキストについての CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日の授業：2回の小テスト 50 %、授業参加度・e 宿題 50 %とする（遅刻・早退をした場合は減点する）。

金曜日の授業：オンライン授業の場合は、期末テスト 60 %、課題・平常点 20 %、e 宿題 20 %とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすく、少しずつでもステップアップできるような授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】

通信環境を確保して授業に参加することと、e 宿題を完了することも大事である。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級A

渡辺 浩司、杜 瑤琳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4
 備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「Ⅱ. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・渡辺浩司
 教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、小テスト 20 %、平常点 20 %とする。

オンライン授業の場合は、e 宿題 30 %、課題 40 %、平常点 30 %とする。

共に、欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない

（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

金曜日・杜瑤琳

教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、小テスト 20 %、平常点 20 %とする。

欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

オンライン授業の場合は、e 宿題 20 %、課題 20 %、テスト 60 %とする。

課題の未提出が 4 回（授業回数の 3 分の 1）を超えた場合、またはテスト未受験の場合は評価しない。

上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも 1 回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。水曜・渡辺浩司

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。金曜・杜瑤琳

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Wednesday and Friday grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), little examination (20%), and in-class contribution (20%).

(Online lessons: Wednesday: e-text homework (30%), assignments (40%), and in-class contribution (30%).

Friday: e-text homework (20%), assignments (20%), and examination (60%).)

Final grade will be decided based on Wed (50%) and Fri (50%).

LANe100EA

中国語初級B

渡辺 浩司、杜 瑤琳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「Ⅳ. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「Ⅴ. 形容詞述語文」「Ⅵ. 名詞述語文」「Ⅶ. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「Ⅷ. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「Ⅸ さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・渡辺浩司

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%とする。

オンライン授業の場合は、e宿題30%、課題40%、平常点30%とする。

共に、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない

（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。

金曜日・杜瑤琳

教室での対面授業の場合は、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%とする。

欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。

オンライン授業の場合は、e宿題20%、課題20%、テスト60%とする。

課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合、またはテスト未受験の場合は評価しない。

上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員に、最低でも1回は指名し、発音練習してもらうことも目指します。水曜・渡辺浩司

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。金曜・杜瑤琳

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Wednesday and Friday grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), little examination (20%), and in-class contribution (20%).

(Online lessons: Wednesday: e-text homework (30%), assignments (40%), and in-class contribution (30%).)

Friday: e-text homework (20%), assignments (20%), and examination (60%).)

Final grade will be decided based on Wed (50%) and Fri (50%).

LANe100EA

中国語初級B

池田 麻希子、加藤 昌弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習、第十九課・第二十課の復習	第一課～第二十課の復習
3・4	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
5・6	「Ⅳ. 中国語の態」まとめ、第二十三課	「態」の復習、まとめ、形容詞述語文（一）
7・8	第二十四課、第二十五課	形容詞述語文（二）、（三）
9・10	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
11・12	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
13・14	第三十課、「Ⅴ. 形容詞述語文」「Ⅵ. 名詞述語文」「Ⅶ. 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、形容詞述語文、名詞述語文と修飾語の復習、まとめ
15・16	中間テスト、第三十一課	程度補語
17・18	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
19・20	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
21・22	「Ⅷ. 補語」まとめ、第三十六課	補語の復習、まとめ、助動詞
23・24	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
25・26	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
27・28	「Ⅸ. さまざまな表現」まとめ、期末テスト	さまざまな表現の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。

各課の学習終了後、「eラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・教室での対面授業の場合は、テスト60%、小テスト・課題・平常点（授業態度）40%とする。

オンライン授業の場合は、テスト60%、課題・平常点（授業態度）20%、e宿題20%とする。

金曜日・教室での対面授業の場合は、テスト60%、課題20%、宿題20%とする。

オンライン授業の場合も同様に、テスト60%、課題20%、宿題20%とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、「中国語初級B」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日：受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

金曜日：情報提供の明瞭さ、評価の公正さに注意します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A". At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in "Hanyu Pinyin" (Romanization systems for Mandarin Chinese) and simplified Chinese characters.

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANe100EA

中国語初級 A

池田 麻希子、加藤 昌弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題等についての注意点や講評については、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ. 発音の基本」まとめ	発音とピンインの復習、まとめ
9・10	第六課、第七課	動詞述語文、形容詞述語文
11・12	第八課、第九課	名詞述語文、主述述語文
13・14	第十課、第十一課	連体修飾語・連用修飾語、（数量）補語
15・16	「Ⅱ. 中国語の基本構造」まとめ、中間テスト	四文型等の復習、まとめ
17・18	第十二課、第十三課	動詞述語文（一）、（二）
19・20	第十四課、第十五課	動詞述語文（三）、（四）
21・22	第十六課、第十七課	動詞述語文（五）、（六）
23・24	第十八課、「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ	動詞述語文（七）、動詞述語文の復習、まとめ
25・26	「Ⅲ. 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習、まとめ
27・28	第十九課、第二十課	完了態、変化態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。

各課の学習終了後、「e ラーニング教材」を使用して、それぞれの課の「e 宿題」に取り組む。（成績評価にカウントする）

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・

教室での対面授業の場合は、テスト 60 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）40 %とする。

オンライン授業の場合は、テスト 60 %、課題・平常点（授業態度）20 %、e 宿題 20 %とする。

金曜日・

教室での対面授業の場合は、テスト 60 %、課題 20 %、宿題 20 %とする。

オンライン授業の場合も同様には、テスト 60 %、課題 20 %、宿題 20 %とする。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、「中国語初級 A」の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日：受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

金曜日：情報提供の明瞭さ、評価の公正さに注意します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【Outline (in English)】

Basic Chinese class for beginners. At the end of the course, students should be able to do the followings:

- pronounce words and sentences accurately in “Hanyu Pinyin” (Romanization systems for Mandarin Chinese).

- acquire basic grammar and read the contents of short texts.

- understand and use simple conversational expressions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by practicing with e-learning and audio materials (CD).

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations, assignments and in class contribution.

LANr100EA

ロシア語初級A

佐藤 裕子、土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とし、アルファベットから始め、基礎文法と基本単語を修得し、初歩的なコミュニケーション能力を養成することを目的とします。

1年間の学習を通して、ロシア語が自由に音読できるようになること、約550語の単語力を身につけ、名詞、動詞、形容詞、代名詞の基本的な変化形をマスターすることを目指します。また簡単な自己紹介や会話ができるように練習します。ロシア文化など紹介しつつ、多面的な文化理解も目指します。

【到達目標】

本科目では、教科書『初級ロシア語 20 課 CD 付』全 20 課のうち、1～7 課まで進む予定です。

基礎文法を中心に学び、ロシア語アルファベットの読み方や発音を身につけたあと、最初歩の文法と単語（収録単語 550 語のうち約 180 語）を習得し、初歩的なコミュニケーション能力の養成を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目（ロシア語初級 A・B）は、二人の講師（佐藤と土岐）が連携して授業を行います。

①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。

授業内で実施した試験や小テストなど、課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

この授業は必修のため、春学期・秋学期を通じて履修する必要があります。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシア語 ロシアとロシア語についての予備知識
第 2 回	文字と発音	アルファベット 母音文字 子音文字
第 3 回	文字と発音の続き	アクセント 母音の弱化 子音の同化
第 4 回	1 課 この人は誰ですか？	基本文型 1 「はい」の表現
第 5 回	2 課 あなたは医者ですか？	基本文型 2 「いいえ」の表現
第 6 回	3 課 郵便局はどこですか？	動詞の現在変化 1 名詞の性
第 7 回	4 課 これは誰の写真ですか？	綴り字の規則 所有代名詞
第 8 回	これまでの復習	中間 復習 1～4 課の中間試験 試験

第 9 回 5 課 どこにお勤めですか？

前置詞 名詞の前置格 動詞の現在変化 2 形容詞の性数変化

第 10 回 6 課 彼はロシア語を話します

形容詞の用法

第 11 回 6 課の続き

第 12 回 7 課 どこに住んでるの？

名詞・人称代名詞の生格

第 13 回 7 課の続き

第 14 回 総復習 期末試験

総復習 5～7 課の期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。

随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 20 課』（桑野隆著、白水社、¥1900 + 税）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』（和久利誓一著、白水社、1970、¥1300 + 税）必須購入

・露和辞典（博友社ロシア語辞典、1995 年、¥6291 が望ましい）

・『ティータイムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と中間・期末試験（50%）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、よりよい授業ができるように努めていきます。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who study Russian for the first time. Starting with the study of the Russian alphabet, the course aims to master basic grammar and vocabulary and to develop elementary communication skills in Russian. The goal is to be able to read Russian naturally aloud, to acquire a vocabulary of about 550 words, and to master the basic word forms of nouns, verbs, adjectives, and pronouns. We will also practice simple self-introduction and conversation. Students will also be introduced to Russian culture, aiming for cultural understanding.

LANr100EA

ロシア語初級B

佐藤 裕子、土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とし、アルファベットから始め、基礎文法と基本単語を修得し、初歩的なコミュニケーション能力を養成することを目的とします。

1年間の学習を通して、ロシア語が自由に音読できるようになること、約550語の単語力を身につけ、名詞、動詞、形容詞、代名詞の基本的な変化形をマスターすることを目指します。また簡単な自己紹介や会話ができるように練習します。ロシア文化など紹介しつつ、多面的な文化理解も目指します。

【到達目標】

本科目では、教科書『初級ロシア語 20 課 CD 付』全 20 課のうち、8～14 課まで進む予定です。

春学期に学んだ文法知識や語彙力（収録単語 550 語のうち約 400 語）を定着させ、より進んだ文法知識を身につけることで、複雑な文章でも理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目（ロシア語初級 A・B）は、二人の講師（佐藤と土岐）が連携して授業を行います。

①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。

授業内で実施した試験や小テストなど、課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

この授業は必修のため、春学期・秋学期を通じて履修する必要があります。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 復習	春学期の復習
第 2 回	8 課 こんにちは、ア ンナ！	動詞の過去形 名詞の与格
第 3 回	9 課 どこへ行くところ？	移動の動詞
第 4 回	9 課の続き	名詞の対格 不定人称文
第 5 回	10 課 何をする予定？	動詞の未来形 対格の用法
第 6 回	10 課の続き	曜日の表現
第 7 回	これまでの復習 中間 試験	復習 8～10 課の中間試験
第 8 回	11 課 読み終えましたか？	動詞の体 体と時制
第 9 回	12 課 私は忙しかっ た	形容詞の短語尾形 順序数詞
第 10 回	13 課 スープは何が おすすめですか？	2 人称命令法

第 11 回 13 課の続き 名詞の造格 不規則変化の動詞

第 12 回 14 課 ご気分はいかがですか？ 比較級 比較の対象の表し方

第 13 回 14 課の続き 否定生格 「～が痛い」の表現

第 14 回 総復習 期末試験 総復習 11～14 課の期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。

随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 20 課』（桑野隆著、白水社、¥1900 + 税）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』（和久利誓一著、白水社、1970、¥1300 + 税）必須購入

・露和辞典（博友社ロシア語辞典、1995 年、¥6291 が望ましい）

・『ティータイムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と中間・期末試験（50%）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、よりよい授業ができるように努めていきます。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who study Russian for the first time. Starting with the study of the Russian alphabet, the course aims to master basic grammar and vocabulary and to develop elementary communication skills in Russian. The goal is to be able to read Russian naturally aloud, to acquire a vocabulary of about 550 words, and to master the basic word forms of nouns, verbs, adjectives, and pronouns. We will also practice simple self-introduction and conversation. Students will also be introduced to Russian culture, aiming for cultural understanding.

LANs100EA

スペイン語初級A

乾 隆政、増山 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。
なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞
第 3 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	hay の表現、形容詞
第 4 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 5 回	2 課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形
第 6 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法
第 7 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 8 回	4 課:Voy a la Universidad en tren.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 9 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 10 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 11 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 12 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 13 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 14 回	春学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
| Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: communicate in simple sentences, understand and express sentences with verbs and subject personal pronouns, can conjugate verbs in the present indicative, use and understand sentences with unstressed personal pronouns, among others.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs100EA

スペイン語初級B

乾 隆政、増山 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第2回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去、規則活用と用法
第3回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第4回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去、規則・不規則活用、用法
第5回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第6回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	直説法線過去、活用と用法
第7回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	点過去と線過去の使い分け、比較
第8回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞、基本・派生用法
第9回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞の表現
第10回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第11回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了、関係詞
第12回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法未来
第13回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第14回	秋学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリーター スペイン語入門コースー』
 ¡ Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
 2019年1月30日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: express sentences distinguishing between different tenses of the past (simple past tense and imperfect past tense), understand compound past perfect sentences, use and understand reflexive verb expressions, sentences without a subject, comparative and passive sentences, conjugate verbs in the future simple and future compound.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours.).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs100EA

スペイン語初級A

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。
なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞
第 3 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	hay の表現、形容詞
第 4 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 5 回	2 課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形
第 6 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法
第 7 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 8 回	4 課:Voy a la Universidad en tren.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 9 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 10 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 11 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 12 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 13 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 14 回	春学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
| Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: communicate in simple sentences, understand and express sentences with verbs and subject personal pronouns, can conjugate verbs in the present indicative, use and understand sentences with unstressed personal pronouns, among others.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs100EA

スペイン語初級B

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第2回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去、規則活用と用法
第3回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第4回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去、規則・不規則活用、用法
第5回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第6回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	直説法線過去、活用と用法
第7回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	点過去と線過去の使い分け、比較
第8回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞、基本・派生用法
第9回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞の表現
第10回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第11回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了、関係詞
第12回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法未来
第13回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第14回	秋学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
 ¡ Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
 2019年1月30日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: express sentences distinguishing between different tenses of the past (simple past tense and imperfect past tense), understand compound past perfect sentences, use and understand reflexive verb expressions, sentences without a subject, comparative and passive sentences, conjugate verbs in the future simple and future compound.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours.).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs100EA

スペイン語初級A

乾 隆政、増山 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。
なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞
第 3 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	hay の表現、形容詞
第 4 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 5 回	2 課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形
第 6 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法
第 7 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 8 回	4 課:Voy a la Universidad en tren.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 9 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 10 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 11 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 12 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 13 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 14 回	春学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
| Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: communicate in simple sentences, understand and express sentences with verbs and subject personal pronouns, can conjugate verbs in the present indicative, use and understand sentences with unstressed personal pronouns, among others.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs100EA

スペイン語初級B

乾 隆政、増山 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第2回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去、規則活用と用法
第3回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第4回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去、規則・不規則活用、用法
第5回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第6回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	直説法線過去、活用と用法
第7回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	点過去と線過去の使い分け、比較
第8回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞、基本・派生用法
第9回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞の表現
第10回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第11回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了、関係詞
第12回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法未来
第13回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第14回	秋学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリーター スペイン語入門コースー』
 | Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
 2019年1月30日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: express sentences distinguishing between different tenses of the past (simple past tense and imperfect past tense), understand compound past perfect sentences, use and understand reflexive verb expressions, sentences without a subject, comparative and passive sentences, conjugate verbs in the future simple and future compound.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours.).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs100EA

スペイン語初級A

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。
なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞
第 3 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	hay の表現、形容詞
第 4 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 5 回	2 課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形
第 6 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法
第 7 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 8 回	4 課:Voy a la Universidad en tren.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 9 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 10 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 11 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 12 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 13 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 14 回	春学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
| Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: communicate in simple sentences, understand and express sentences with verbs and subject personal pronouns, can conjugate verbs in the present indicative, use and understand sentences with unstressed personal pronouns, among others.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs100EA

スペイン語初級B

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週2回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。なお、この科目は一年間でスペイン語の大まかな文法を俯瞰することを目的としているため、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性がある。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第2回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去、規則活用と用法
第3回	7 課:Viajé a España el mes pasado.	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第4回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去、規則・不規則活用、用法
第5回	8 課:No pude ir a ningún sitio.	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第6回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	直説法線過去、活用と用法
第7回	9 課:Pasaba las vacaciones tocando el piano.	点過去と線過去の使い分け、比較
第8回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞、基本・派生用法
第9回	10 課:Me levanto a las seis de la mañana.	再帰動詞の表現
第10回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了
第11回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	過去分詞、直説法現在完了、関係詞
第12回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法未来
第13回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第14回	秋学期のおさらい	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターースペイン語入門コースー』
| Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019年1月30日改訂初版以降 [ISBN:978-4-255-55104-3]

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: express sentences distinguishing between different tenses of the past (simple past tense and imperfect past tense), understand compound past perfect sentences, use and understand reflexive verb expressions, sentences without a subject, comparative and passive sentences, conjugate verbs in the future simple and future compound.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours.).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANK100EA

朝鮮語初級A

荻野 優子、李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を初歩から学習します。
まず朝鮮語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいきます。

【到達目標】

朝鮮語の文字（=ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙約 300 語を習得すること、基本的な文法をマスターすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。

2022 年度はオンラインで開講する予定です。授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション、第 1 課	基本母音字
第 2 週	第 2 課	子音字 (1)
第 3 週	第 3 課、第 4 課	子音字 (2)
第 4 週	第 5 課、コラム	7 つの終声、漢字語と漢字音その 1
第 5 週	第 6 課、第 7 課	用言の「ですます」形、激音
第 6 週	第 8 課、第 9 課	合成母音字、濃音
第 7 週	第 10 課、コラム	連音化、文字の順序と名称
第 8 週	まとめと解説	総復習 (1)
第 9 週	第 11 課、第 12 課	疑問形と否定形、平音の濃音化 (1)
第 10 週	第 13 課、第 14 課	平音の濃音化 (2)、日本語のハングル表記 (1)
第 11 週	第 15 課、第 16 課	日本語のハングル表記 (2)、激音化
第 12 週	第 17 課、第 18 課	鼻音化、口蓋音化、子音語幹用言 (1)
第 13 週	第 19 課、第 20 課	子音語幹用言 (2)、外来語と外国地名
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』改訂版（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて調整する可能性はありますが、概ね以下の通りです。配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %
評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については学生によって、早すぎる、遅いと、その見解はわかれますが、授業がある程度進んだ段階ごとに調節を図っていくようにします。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course will focus on learning Korean characters and pronunciation. It also enhances the development of students' skills in Korean basic grammar.

(Learning Objectives)

The specific goals of this course are to acquire basic 300 words, basic composition, listening, and reading skills until the end of the course.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution (20%).

LANk100EA

朝鮮語初級 B

荻野 優子、李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3
 備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、朝鮮語の基本的な文法を学習します。教科書の本文は対話形式の会話文になり、文体も実際の会話で多く用いられ、親しみのあるへヨ体という文体が出てきます。実際の会話でよく使う表現を学びます。

【到達目標】

基本的な文法と語彙約 100 語をさらに習得し、簡単な文の読み書きができ、作文練習を通して語彙や文法がしっかり身につくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。2022 年度はオンラインで開講する予定です。授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	第 21 課、第 22 課	あいさつと尊敬形、指定詞の否定形・用言の活用と語基
第 2 週	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
第 3 週	第 24 課	命令形と意思形
第 4 週	第 25 課	リカル語幹用言
第 5 週	第 26 課	形容詞の連体形
第 6 週	第 27 課	希望の表現
第 7 週	第 28 課	勧誘の表現
第 8 週	まとめと解説	総復習 (1)
第 9 週	第 29 課	パンマルとへヨ体
第 10 週	第 30 課	へヨ体の尊敬形
第 11 週	第 31 課	指定詞のパンマルとへヨ体
第 12 週	第 32 課	ル不規則用言とヒウッド不規則用言
第 13 週	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』改訂版（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて調整する可能性はありますが、概ね以下の通りです。配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %
 評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期授業では、テキストに食べ物や生活習慣に関する記載もあるので、学生の知的興味を喚起するよう、朝鮮・韓国歴史や文化、社会、生活、慣習などを折に触れて紹介していきます。

【Outline (in English)】

Following the spring semester, you will study basic Korean grammar. Sentences in the text will be advanced to interactive dialogue. Styles in the text are used in practical conversation, including 'haeyo' body which are familiar for you. You will learn common expressions in practical conversation.

LANk100EA

朝鮮語初級 A

荻野 優子、李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4
 備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を初歩から学習します。まず朝鮮語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいきます。

【到達目標】

朝鮮語の文字（=ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙約 300 語を習得すること、基本的な文法をマスターすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。2022 年度はオンラインで開講する予定です。授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション、第 1 課	基本母音字
第 2 週	第 2 課	子音字 (1)
第 3 週	第 3 課、第 4 課	子音字 (2)
第 4 週	第 5 課、コラム	7 つの終声、漢字語と漢字音その 1
第 5 週	第 6 課、第 7 課	用言の「ですます」形、激音
第 6 週	第 8 課、第 9 課	合成母音字、濃音
第 7 週	第 10 課、コラム	連音化、文字の順序と名称
第 8 週	まとめと解説	総復習 (1)
第 9 週	第 11 課、第 12 課	疑問形と否定形、平音の濃音化 (1)
第 10 週	第 13 課、第 14 課	平音の濃音化 (2)、日本語のハングル表記 (1)
第 11 週	第 15 課、第 16 課	日本語のハングル表記 (2)、激音化
第 12 週	第 17 課、第 18 課	鼻音化、口蓋音化、子音語幹用言 (1)
第 13 週	第 19 課、第 20 課	子音語幹用言 (2)、外来語と外国地名
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』改訂版（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて調整する可能性はありますが、概ね以下の通りです。配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %
 評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については学生によって、早すぎる、遅いと、その見解はわかれますが、授業がある程度進んだ段階ごとに調節を図っていくようにします。

【Outline (in English)】

(Course outline)
 This course will focus on learning Korean characters and pronunciation. It also enhances the development of students' skills in Korean basic grammar.
 (Learning Objectives)
 The specific goals of this course are to acquire basic 300 words, basic composition, listening, and reading skills until the end of the course.
 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.
(Grading Criteria/Policy)
Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution (20%).

LANk100EA

朝鮮語初級 B

荻野 優子、李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、朝鮮語の基本的な文法を学習します。教科書の本文は対話形式の会話文になり、文体も実際の会話で多く用いられ、親しみのあるへヨ体という文体が出てきます。実際の会話でよく使う表現を学びます。

【到達目標】

基本的な文法と語彙約 100 語をさらに習得し、簡単な文の読み書きができ、作文練習を通して語彙や文法がしっかり身につくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。2022 年度はオンラインで開講する予定です。授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	第 21 課、第 22 課	あいさつと尊敬形、指定詞の否定形・用言の活用と語基
第 2 週	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
第 3 週	第 24 課	命令形と意思形
第 4 週	第 25 課	リウル語幹用言
第 5 週	第 26 課	形容詞の連体形
第 6 週	第 27 課	希望の表現
第 7 週	第 28 課	勧誘の表現
第 8 週	まとめと解説	総復習 (1)
第 9 週	第 29 課	パンマルとへヨ体
第 10 週	第 30 課	へヨ体の尊敬形
第 11 週	第 31 課	指定詞のパンマルとへヨ体
第 12 週	第 32 課	ル不規則用言とヒウ不規則用言
第 13 週	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』改訂版（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて調整する可能性はありますが、概ね以下の通りです。配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %
評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期授業では、テキストに食べ物や生活習慣に関する記載もあるので、学生の知的興味を喚起するよう、朝鮮・韓国の歴史や文化、社会、生活、慣習などを折に触れて紹介していきます。

【Outline (in English)】

Following the spring semester, you will study basic Korean grammar. Sentences in the text will be advanced to interactive dialogue. Styles in the text are used in practical conversation, including 'haeyo' body which are familiar for you. You will learn common expressions in practical conversation.

LANj100EA

日本語 1 - I

須賀 和香子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第 2 回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第 3 回	2 課-1 新しいサービス（読み物 1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第 4 回	2 課-2 新しいサービス（読み物 2）	サービスの長所と短所を述べる。
第 5 回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第 6 回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	3 課-1 権利（読み物 1）	新聞記事を引用する。
第 8 回	3 課-2 権利（読み物 2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第 9 回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第 10 回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	4 課-1 外来語（読み物 1）	引用をし意見を述べる。
第 12 回	4 課-2 外来語（読み物 2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第 13 回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100EA

日本語 1 - II

須賀 和香子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
- ②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	4 課-3 引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第 2 回	5 課-1 外国人児童（読み物 1）	図表を説明する。
第 3 回	5 課-2 外国人児童（読み物 2）	政策を引用し意見を述べる。
第 4 回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 5 回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第 6 回	6 課-1 教育（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 7 回	6 課-2 教育（読み物 2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第 8 回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第 9 回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 10 回	7 課-1 社会と福祉（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 11 回	7 課-2 社会と福祉（読み物 2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第 12 回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第 13 回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100EA

日本語 1 - I

須賀 和香子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第 2 回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第 3 回	2 課-1 新しいサービス（読み物 1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第 4 回	2 課-2 新しいサービス（読み物 2）	サービスの長所と短所を述べる。
第 5 回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第 6 回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	3 課-1 権利（読み物 1）	新聞記事を引用する。
第 8 回	3 課-2 権利（読み物 2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第 9 回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第 10 回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	4 課-1 外来語（読み物 1）	引用をし意見を述べる。
第 12 回	4 課-2 外来語（読み物 2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第 13 回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100EA

日本語 1 - II

須賀 和香子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
- ②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	4 課-3 引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第 2 回	5 課-1 外国人児童（読み物 1）	図表を説明する。
第 3 回	5 課-2 外国人児童（読み物 2）	政策を引用し意見を述べる。
第 4 回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 5 回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第 6 回	6 課-1 教育（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 7 回	6 課-2 教育（読み物 2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第 8 回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第 9 回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 10 回	7 課-1 社会と福祉（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 11 回	7 課-2 社会と福祉（読み物 2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第 12 回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第 13 回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思えます。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100EA

日本語 1 - I

三松 国宏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第2回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第3回	2 課-1 新しいサービス（読み物1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第4回	2 課-2 新しいサービス（読み物2）	サービスの長所と短所を述べる。
第5回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第6回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第7回	3 課-1 権利（読み物1）	新聞記事を引用する。
第8回	3 課-2 権利（読み物2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第9回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第10回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第11回	4 課-1 外来語（読み物1）	引用をし意見を述べる。
第12回	4 課-2 外来語（読み物2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第13回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】

Through taking this course you will learn the academic Japanese writing skills which you need to acquire when you study effectively in an academic environment. In order to achieve this goal, you will also learn vocabulary and expressions needed for academic reading and writing. Furthermore, you will practice writing essays and reports, if necessary.

LANj100EA

日本語 1 - II

三松 国宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
- ②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	4 課-3 引用仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第2回	5 課-1 外国人児童（読み物1）	図表を説明する。
第3回	5 課-2 外国人児童（読み物2）	政策を引用し意見を述べる。
第4回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第5回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第6回	6 課-1 教育（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第7回	6 課-2 教育（読み物2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第8回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第9回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第10回	7 課-1 社会と福祉（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第11回	7 課-2 社会と福祉（読み物2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第12回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第13回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】

Through taking this course you will learn the academic Japanese writing skills which you need to acquire when you study effectively in an academic environment. In order to achieve this goal, you will also learn vocabulary and expressions needed for academic reading and writing. Furthermore, you will practice writing essays and reports, if necessary.

LANj100EA

日本語 1 - I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1 課-1 異文化コミュニケーション（読み物）	定義を引用し例を挙げる。
第 2 回	1 課-2 レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第 3 回	2 課-1 新しいサービス（読み物 1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第 4 回	2 課-2 新しいサービス（読み物 2）	サービスの長所と短所を述べる。
第 5 回	2 課-3 レポートの作成：アウトラインとは何か	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第 6 回	2 課-4 新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	3 課-1 権利（読み物 1）	新聞記事を引用する。
第 8 回	3 課-2 権利（読み物 2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第 9 回	3 課-3 レポートの作成：テーマを決めてタイトルを付ける	レポートのテーマを検討しレポートを作成する。
第 10 回	3 課-4 権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	4 課-1 外来語（読み物 1）	引用をし意見を述べる。
第 12 回	4 課-2 外来語（読み物 2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第 13 回	4 課-4 レポートの作成：レポートの構成	レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	4 課-5 外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100EA

日本語 1 - II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
- ②引用を入れた 1,600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	4 課-3 引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第 2 回	5 課-1 外国人児童（読み物 1）	図表を説明する。
第 3 回	5 課-2 外国人児童（読み物 2）	政策を引用し意見を述べる。
第 4 回	5 課-3 レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第 5 回	5 課-4 外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第 6 回	6 課-1 教育（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 7 回	6 課-2 教育（読み物 2）	自分の意見に対して予想される反論と反駁を述べる。
第 8 回	6 課-3 レポートの作成：引用	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第 9 回	6 課-4 教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第 10 回	7 課-1 社会と福祉（読み物 1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第 11 回	7 課-2 社会と福祉（読み物 2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第 12 回	8 課-1 情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第 13 回	7 課-3 レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第 14 回	7 課-4 社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の話し合いの時間が日本語の学習に役に立ったという意見がありました。今学期も引き続き話し合いの時間を設けていきたいと思えます。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。

この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。

秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。

（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。

（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパントイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。

この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. 引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3. 発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。

秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。

（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。

（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパントイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、発表（15%）、スライド作成（15%）、課題（10%）、小テスト（10%）、定期試験（20%）をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。

この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. 引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3. 発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。

秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。

（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。

（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、発表（15 %）、スライド作成（15 %）、課題（10 %）、小テスト（10 %）、定期試験（20 %）をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2 に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパントイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。

この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. 引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3. 発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。

秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。

（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。

（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

オンライン授業に「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline (in English)】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively, using two skills, speaking and listening. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 20%, Short Reports and Short Exams: 20%, Presentation: 30%, in class contribution: 30%.

LANj200EA

日本語 2 - I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通して学ぶ。課題については、授業で解説をするとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	発表①故郷の紹介	受講生による発表。
第 3 回	発表②故郷の紹介	受講生による発表。
第 4 回	スライドと発表原稿の作り方/質疑応答の表現	スライドと発表原稿の作成方法を学ぶ。
第 5 回	発表③ 9 課人口減少の先にあるもの	受講生による発表。
第 6 回	発表④ 10 課社会保障の今とこれから	受講生による発表。
第 7 回	ディスカッション①少子化と社会保障	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 8 回	発表⑤ 8 課これからのエネルギー	受講生による発表。
第 9 回	発表⑥ 17 課地球環境を守るために	受講生による発表。
第 10 回	ディスカッション②環境保護と原発	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 11 回	発表⑦ 11 課働くこと、消費すること	受講生による発表。
第 12 回	発表⑧ 14 課情報社会に生きる	受講生による発表。
第 13 回	ディスカッション③消費行動	ディスカッションをする。
第 14 回	発表⑨消費行動についての考え	受講生による発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）』日本ニュース時事能力検定協会 1,320 円（税込み）
※こちらの書籍は、毎年刊行されます。使用するのは、2022 年度版です。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %，発表 30 %，課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】

発表の方法、表現の学習、発音練習等、様々なことが学べてよかったという声がありました。受講生の要素を見ながら、必要な学習を取り入れていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral presentations in Japanese. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200EA

日本語 2 - II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
- ③発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目は、受講生による発表と討論を中心に進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学ぶ。課題については、授業で解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	読解① 7 課変わる日本産業	テーマについての基礎知識を学ぶ。聴衆と表現を学ぶ。
第 3 回	発表①産業	受講生による発表。
第 4 回	ディスカッション① 10 年後の産業	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 5 回	読解②経済回復問われるかじ取り	テーマについての基礎知識を学ぶ。聴衆と表現を学ぶ。
第 6 回	発表②経済対策	受講生による発表。
第 7 回	ディスカッション②経済対策	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 8 回	読解③ 12 課共生社会への道のり	テーマについての基礎知識を学ぶ。聴衆と表現を学ぶ。
第 9 回	発表③共生社会	受講生による発表。
第 10 回	ディスカッション③共生社会	ディスカッションをして報告書を作成する。
第 11 回	読解④ 15 課命の現場から	テーマについての基礎知識を学ぶ。聴衆と表現を学ぶ。
第 12 回	発表④命と医療	受講生による発表。
第 13 回	発表⑤命と医療	受講生による発表。
第 14 回	ディスカッション④命と医療	ディスカッションをして報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

[2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編(3・4 級対応)] 日本ニュース時事能力検定協会 1,320 円(税込み)
※こちらの書籍は、毎年刊行されます。使用するのは、2022 年度版です。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、発表 30 %、課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】

発表の方法、表現の学習、発音練習等、様々なことが学べてよかったという声がありました。受講生の様子を見ながら、必要な学習を取り入れていきたいと思えます。

【Outline (in English)】

This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral presentations in Japanese. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】

- ①論理的なレポートを作成することができる。
- ②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
- ③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom と法政大学 Hoppii の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自 己紹介、ミニプレゼン テーション準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考 文献、授業概要等について知る。次週 のミニプレゼンの準備。
第 2 回	グループワーク・発表① プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グルー プでミニプレゼンを行い、概要をクラ スで共有する。
第 3 回	I Good Writing を目指そう 文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラ グラフ内の構成（ミクロ構成）につい て学ぶ。
第 4 回	II パラグラフライティ ング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイン トを学び、テーマを一つ選択し執筆す る。
第 5 回	II パラグラフライティ ング② 発表②ナラティ ブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、 相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	II パラグラフライティ ング③ 説明（「手順・ 定義」「比較・例示」「原 因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方につい て、構成、メタ言語等を学び、テーマ を一つ選んで執筆する。
第 7 回	II パラグラフライティ ング④ 発表③説明モ ードの文章	「説明モード」の文章をグループで発 表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	III リサーチペーパー① 「論証」「リサーチペ ーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパー の構成について学ぶ。
第 9 回	III リサーチペーパー② 発想法、情報収集、アウ トライン	期末レポートのテーマを考え、情報収 集しアウトライン概要（5 文程度）を 書く。
第 10 回	III リサーチペーパー③ 発表④アウトライン、 引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料に ついてグループで発表、相互評価、自 己評価を行う。
第 11 回	III リサーチペーパー④ 執筆 「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。 アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	III リサーチペーパー⑤ 執筆 「引用の仕方」 「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを 作成する。
第 13 回	III リサーチペーパー⑥ ピアレスポンス 1	完成したレポートを読み合い、修正点 を検討する。
第 14 回	III リサーチペーパー⑦ ピアレスポンス 2、春 学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点 を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジするこ
とが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を
宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中真理／阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート 読み手と構
成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 + 税）

【参考書】

・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、
・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ 大学生のための
日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

20 年度の学生の意見を取り入れ今年度はレベルを上げて日本人学生向けのテ
キストを使用した。学生アンケートでは、テキスト・授業内容・進捗・課題
の量は良かったとの意見が多く寄せられたので、22 年度も同じテキストを使
用する。また、春学期と秋学期の内容を合体してもよいかも、という意見が
あったので、22 年度シラバスは大筋は変えないものの、特に春学期の初めに
秋学期の学習目標もイメージできるように配慮した。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200EA

日本語3-II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える 課題 1 についてグループでミニプレゼンを行う。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③ プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④ スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤ 発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 40 %、期末プレゼンテーション 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「授業内容、課題の量は概ね良かった、プレゼンの良い例・悪い例や、他の学生の多様な発表に接したことはとても役に立った」、また今年度初めて実施した「学生による MC」についても「緊張したが良い経験になった」等との意見から、22 年度も期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて P C 等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】

- ①論理的なレポートを作成することができる。
- ②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
- ③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom と法政大学 Hoppii の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニプレゼンの準備。
第 2 回	グループワーク・発表① プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	I Good Writing を目指そう 文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	II パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	II パラグラフライティング② 発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	II パラグラフライティング③ 説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	II パラグラフライティング④ 発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	III リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	III リサーチペーパー② 発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（5 文程度）を書く。
第 10 回	III リサーチペーパー③ 発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	III リサーチペーパー④ 執筆 「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	III リサーチペーパー⑤ 執筆 「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	III リサーチペーパー⑥ ピアレスポンス 1	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	III リサーチペーパー⑦ ピアレスポンス 2、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中真理／阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート 読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 + 税）

【参考書】

・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ 大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

20 年度の学生の意見を取り入れ今年度はレベルを上げて日本人学生向けのテキストを使用した。学生アンケートでは、テキスト・授業内容・進捗・課題の量は良かったとの意見が多く寄せられたので、22 年度も同じテキストを使用する。また、春学期と秋学期の内容を合体してもよいかも、という意見があったので、22 年度シラバスは大筋は変えないものの、特に春学期の初めに秋学期の学習目標もイメージできるように配慮した。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200EA

日本語3-II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方 発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える 課題1についてグループでミニプレゼンを行う。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③ プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④ スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤ 発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 40 %、期末プレゼンテーション 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「授業内容、課題の量は概ね良かった、プレゼンの良い例・悪い例や、他の学生の多様な発表に接したことはとても役に立った」、また今年度初めて実施した「学生による MC」についても「緊張したが良い経験になった」等との意見から、22年度も期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてP C等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】

- ①論理的なレポートを作成することができる。
- ②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
- ③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom と法政大学 Hoppii の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニプレゼンの準備。
第 2 回	グループワーク・発表① プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	I Good Writing を目指そう 文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	II パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	II パラグラフライティング② 発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	II パラグラフライティング③ 説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	II パラグラフライティング④ 発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	III リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	III リサーチペーパー② 発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（5 文程度）を書く。
第 10 回	III リサーチペーパー③ 発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	III リサーチペーパー④ 執筆 「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	III リサーチペーパー⑤ 執筆 「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	III リサーチペーパー⑥ ピアレスポンス 1	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	III リサーチペーパー⑦ ピアレスポンス 2、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中真理／阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート 読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 + 税）

【参考書】

・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ 大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

20 年度の学生の意見を取り入れ今年度はレベルを上げて日本人学生向けのテキストを使用した。学生アンケートでは、テキスト・授業内容・進捗・課題の量は良かったとの意見が多く寄せられたので、22 年度も同じテキストを使用する。また、春学期と秋学期の内容を合体してもよいかも、という意見があったので、22 年度シラバスは大筋は変えないものの、特に春学期の初めに秋学期の学習目標もイメージできるように配慮した。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200EA

日本語3-II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える 課題 1 についてグループでミニプレゼンを行う。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③ プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④ スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤ 発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 40 %、期末プレゼンテーション 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「授業内容、課題の量は概ね良かった、プレゼンの良い例・悪い例や、他の学生の多様な発表に接したことはとても役に立った」、また今年度初めて実施した「学生による MC」についても「緊張したが良い経験になった」等との意見から、22 年度も期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて P C 等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200EA

日本語3-I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。

【到達目標】

- ①論理的なレポートを作成することができる。
- ②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講生は、事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では講義を聞いたり受講生同士で話し合ったりし、事後課題として文書作成に取り組む。課題については、教員が授業で解説を行うとともに個別に添削を行う。なお、授業計画については、授業の展開により若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を知る。目的別の文章の種類について学ぶ。
第2回	文章の構成	パラグラフ・ライティングで文章を書く。
第3回	レポートの作成①テーマ探し	レポートのテーマを決める。
第4回	文章の書き方①ナラティブ	活動を報告する文を書く。
第5回	文章の書き方②描写	事物を描写する文章を書く。
第6回	文章の書き方③説明	読み手が知らない事柄を説明する文章を書く。
第7回	文章の書き方④比較・対照	事物を比較・対照する文章を書く。
第8回	文章の書き方⑤図表の説明	図表の説明を書く。
第9回	レポート作成②アウトラインの検討	アウトラインを検討する。
第10回	レポートの作成③論証	自分の主張を論証する。
第11回	レポートの作成④背景説明と引用	問題の背景を丁寧に説明する。適切に引用を入れる。
第12回	文章の書き方⑥メール・手紙の書き方	メール文を作成する。
第13回	レポート作成⑤レポートの執筆	レポートを執筆する。
第14回	レポートの作成⑥レポートを読み合う	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、各回の課題の文章を作成したり、レポートの作成に必要な資料を読んだりする。

【テキスト（教科書）】

田中真理・阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート』くろしお出版（2,000円税抜き）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

役に立ったが課題が多くて大変だったとのコメントがありました。課題の量に関しては、受講生の声を聞きながら調整していきたいです。

【Outline (in English)】

This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200EA

日本語3-II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目は、受講生の発表を中心に進める。各自、テーマを設定し情報を収集し発表する。課題については教員が授業で解説を行うとともに個別に添削する。なお、授業計画については授業の展開により、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／ 分かりやすい発表とは	わかりやすい発表、論理的な発表とは どのようなものかを考える。
第2回	図表の説明の仕方	発表の際の図表の説明の方法を学ぶ。
第3回	主張と根拠の述べ方	発表の際の主張と根拠の述べ方を学ぶ。
第4回	発表のテーマの検討	発表のテーマを検討する。
第5回	発表①図表の説明	受講生による発表。
第6回	発表②図表の説明	受講生による発表。
第7回	発表の構成と質疑応答の 表現	発表の構成と質疑応答の表現を学ぶ。
第8回	発表③受講生の設定した テーマ	受講生による発表。
第9回	発表④受講生の設定した テーマ	受講生による発表。
第10回	発表⑤受講生の設定した テーマ	受講生による発表。
第11回	発表⑥受講生の設定した テーマ	受講生による発表。
第12回	発表⑦受講生の設定した テーマ	受講生による発表。
第13回	発表⑧受講生の設定した テーマ	受講生による発表。
第14回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での 学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、発表の準備に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料をオンラインで配布する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』（2020）くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，発表 40 %，課題等提出物（期末レポートを含む） 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「発表に対してもっとフィードバックが欲しい」という声に応え、授業後に個別に発表に対するコメントを書いて送り、フィードバックの時間の不足を補いました。効果的なフィードバックの方法を模索していきたいです。

【Outline (in English)】

This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Feedback on presentations by students will be provided in class.

LANj200EA

特講（ビジネス日本語）

村上 佳恵

サブタイトル：ビジネス日本語

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしったり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。課題は、授業で解説を行うとともに、個別に添削する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 報告書の書き方	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第2回	エントリーシートの作成 (1)	履歴書を作成する。 自己PR文を作成する。
第3回	エントリーシートの作成 (2)	志望動機を書く。
第4回	面接 (1) グループ面接	グループ面接の練習をする。
第5回	面接 (2) 個人面接	個人面接の練習をする。
第6回	面接 (3) グループ討論	グループ討論の練習をする。
第7回	電話応対	電話応対の練習をする。
第8回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第9回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第10回	社内のビジネスメール	社内宛でのメールを書く。
第11回	社外のビジネスメール	社外宛でのメールを書く。
第12回	会議 (1)	企画会議の内容を理解し、報告のメールを書く。
第13回	会議 (2)	SWOT分析の結果を話す。
第14回	会議 (3)	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布する。

【参考書】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018) ココ出版 (2,400円税抜) 『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他 (2007) アスク (1,500円税抜)

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 % , 課題等提出物 60 % , 定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】

エントリーシートの書き方が実際の就職活動において役に立ったとの声がありました。今後も授業で詳しく扱っていく予定です。

【Outline (in English)】

This course will highlight the Japanese you need to secure a job or work. It will discuss how to communicate with people from different cultures. The course will be based on a combination of lectures, class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to produce documents necessary for seeking employment, such as curriculum vitae, and gain effective communication skills related to business. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj200EA

特講（ビジネス日本語）

村上 佳恵

サブタイトル：ビジネス日本語

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしったり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけでなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。課題は、授業で解説を行うとともに、個別に添削する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 報告書の書き方	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成 (1)	履歴書を作成する。 自己 PR 文を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成 (2)	志望動機を書く。
第 4 回	面接 (1) グループ面接	グループ面接の練習をする。
第 5 回	面接 (2) 個人面接	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接 (3) グループ討論	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛でのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛でのメールを書く。
第 12 回	会議 (1)	企画会議の内容を理解し、報告のメールを書く。
第 13 回	会議 (2)	SWOT 分析の結果を話す。
第 14 回	会議 (3)	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布する。

【参考書】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018) ココ出版 (2,400 円 税抜) 『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他 (2007) アスク (1,500 円 税抜)

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 % , 課題等提出物 60 % , 定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】

エントリーシートの書き方が実際の就職活動において役に立ったとの声がありました。今後も授業で詳しく扱っていく予定です。

【Outline (in English)】

This course will highlight the Japanese you need to secure a job or work. It will discuss how to communicate with people from different cultures. The course will be based on a combination of lectures, class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to produce documents necessary for seeking employment, such as curriculum vitae, and gain effective communication skills related to business. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANe200EA

Skill-Based English A I (Comprehensive English)

佐藤 修一

サブタイトル：特講 (Skill-Based English A I)
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 1/Fri.1
 備考 (履修条件等)：Beginner~Lower Intermediate, 参考 TOEIC スコア~445
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Comprehensive「総合的な」が示す通り英語の基本 4 skills (reading, listening, writing, speaking) 全体を扱う科目。英語が比較的苦手な学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- 英語の読解力、聴解力を向上させる。
- 英文をよりスムーズかつ正確に音読できるようになる。
- シンプルなパラグラフが書けるようになる。
- シンプルな内容を英語で口頭説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。語彙増強、読解、聴解、音読、作文などの作業を行う。
 - 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。
- ※詳しくは初回ガイダンスで説明する。
 ※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、サンプル教材
第 2 回	Unit 1 (Part. 1) Food and Health	読解、語彙増強など
第 3 回	Unit 1 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 4 回	Unit 2 (Part. 1) Call of the Wild	読解、語彙増強、復習テストなど
第 5 回	Unit 2 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 6 回	Unit 3 (Part. 1) History Detectives	読解、語彙増強、復習テストなど
第 7 回	Unit 3 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 8 回	Unit 4 (Part. 1) Finding Wonders	読解、語彙増強、復習テストなど
第 9 回	Unit 4 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 10 回	Unit 5 (Part. 1) Reef Encounters	読解、語彙増強、復習テストなど
第 11 回	Unit 5 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 12 回	Unit 6 (Part. 1) Reef Encounters	読解、語彙増強、復習テストなど
第 13 回	Unit 6 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各授業のために 4 時間程度の学習が必要となる見込み：

- 予習、復習
- 課題に関する作業
- リスニング&音読等の反復練習

【テキスト (教科書)】

※履修を検討する際は添付資料の教材サンプルを確認すること！

※第二回授業までに教科書を購入すること！

①『English Explore 2』、National Geographic Learning、3210 円+税。春学期のこの授業では前半部をカバーする予定。第二回目の授業までに入手すること。

② 英語辞書 (Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい)

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 (授業参加・貢献、予習等)：50 %
 - 毎回のテスト・課題類 (筆記テスト、音読テスト、作文提出)：40 %
 - 学期末のプレゼンテーション：10 %
- ※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

今年度新たに開講する科目なので該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必要。

【その他の重要事項】

※初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。
 ※人数過多の場合選抜を行う。選抜を行う場合、初回授業で選抜方法について説明する。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills of reading, listening, writing and speaking.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to improve reading and listening comprehension skills.
- to improve fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to write simple paragraphs.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about four hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises.

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%).
- regular quizzes and assignments (40%).
- term-end oral presentation (10%).

LANe300EA

Skill-Based English A II (Comprehensive English)

佐藤 修一

サブタイトル：特講 (Skill-Based English A II)
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 1/Fri.1
 備考 (履修条件等)：Beginner~Lower Intermediate, 参考 TOEIC スコア~445

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Comprehensive「総合的な」が示す通り英語の基本 4 skills (reading, listening, writing, speaking) 全体を扱う科目。英語が比較的苦手な学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- 英語の読解力、聴解力を向上させる。
- 英文をよりスムーズかつ正確に音読できるようになる。
- シンプルなパラグラフが書けるようになる。
- シンプルな内容を英語で口頭説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

※この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期の内容には春学期の授業を前提とするものがある。
 - 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。語彙増強、読解、聴解、音読、作文などの作業を行う。
 - 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。
 ※詳しくは初回ガイダンスで説明する。
 ※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、サンプル教材
第 2 回	Unit 7 (Part. 1) Dollars and Scents	読解、語彙増強など
第 3 回	Unit 7 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 4 回	Unit 8 (Part. 1) Great Explorers	読解、語彙増強、復習テストなど
第 5 回	Unit 8 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 6 回	Unit 9 (Part. 1) Identity	読解、語彙増強、復習テストなど
第 7 回	Unit 9 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 8 回	Unit 10 (Part. 1) Identity	読解、語彙増強、復習テストなど
第 9 回	Unit 10 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 10 回	Unit 11 (Part. 1) Fact or Fake?	読解、語彙増強、復習テストなど
第 11 回	Unit 11 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 12 回	Unit 12 (Part. 1) Going to Extremes	読解、語彙増強、復習テストなど
第 13 回	Unit 12 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各授業のために 4 時間程度の学習が必要となる見込み：
 - 予習、復習
 - 課題に関する作業
 - リスニング&音読等の反復練習

【テキスト (教科書)】

※履修を検討する際は添付資料の教材サンプルを確認すること！
 ※第二回授業までに教科書を手入手すること！
 ①『English Explore 2』、National Geographic Learning、3210 円+税。秋学期のこの授業では後半部をカバーする予定。第二回目の授業までに入手すること。
 ② 英語辞書 (Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい)

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 (授業参加・貢献、予習等)：50 %
 - 毎回のテスト・課題類 (筆記テスト、音読テスト、作文提出)：40 %
 - 学期末のプレゼンテーション：10 %
- ※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

今年度新たに開講する科目なので該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必要。

【その他の重要事項】

※初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。
 ※人数過多の場合選抜を行う。選抜を行う場合、初回授業で選抜方法について説明する。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills of reading, listening, writing and speaking.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to improve reading and listening comprehension skills.
- to improve fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to write simple paragraphs.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about four hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises.

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%).
- regular quizzes and assignments (40%).
- term-end oral presentation (10%).

LANe200EA

Skill-Based English A I (Comprehensive English)

佐藤 修一

サブタイトル：特講 (Skill-Based English A I)
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2
 備考 (履修条件等)：Beginner～Lower Intermediate, 参考 TOEIC
 スコア～445
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Comprehensive 「総合的な」が示す通り英語の基本 4 skills (reading, listening, writing, speaking) 全体を扱う科目。英語が比較的苦手な学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- 英語の読解力、聴解力を向上させる。
- 英文をよりスムーズかつ正確に音読できるようになる。
- シンプルなパラグラフが書けるようになる。
- シンプルな内容を英語で口頭説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。語彙増強、読解、聴解、音読、作文などの作業を行う。
 - 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。
- ※詳しくは初回ガイダンスで説明する。
 ※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、サンプル教材
第 2 回	Unit 1 (Part. 1) Food and Health	読解、語彙増強など
第 3 回	Unit 1 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 4 回	Unit 2 (Part. 1) Call of the Wild	読解、語彙増強、復習テストなど
第 5 回	Unit 2 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 6 回	Unit 3 (Part. 1) History Detectives	読解、語彙増強、復習テストなど
第 7 回	Unit 3 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 8 回	Unit 4 (Part. 1) Finding Wonders	読解、語彙増強、復習テストなど
第 9 回	Unit 4 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 10 回	Unit 5 (Part. 1) Reef Encounters	読解、語彙増強、復習テストなど
第 11 回	Unit 5 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 12 回	Unit 6 (Part. 1) Reef Encounters	読解、語彙増強、復習テストなど
第 13 回	Unit 6 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業のために 4 時間程度の学習が必要となる見込み：
- 予習、復習
 - 課題に関する作業
 - リスニング&音読等の反復練習

【テキスト (教科書)】

※履修を検討する際は添付資料の教材サンプルを確認すること！

※第二回授業までに教科書を入手すること！

① 『English Explore 2』、National Geographic Learning、3210 円+税。春学期のこの授業では前半部をカバーする予定。第二回目の授業までに入手すること。

② 英語辞書 (Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい)

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 (授業参加・貢献、予習等)：50 %
- 毎回のテスト・課題類 (筆記テスト、音読テスト、作文提出)：40 %
- 学期末のプレゼンテーション：10 %

※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

今年度新たに開講する科目なので該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必要。

【その他の重要事項】

※初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

※人数過多の場合選抜を行う。選抜を行う場合、初回授業で選抜方法について説明する。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills of reading, listening, writing and speaking.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to improve reading and listening comprehension skills.
- to improve fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to write simple paragraphs.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about four hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises.

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%).
- regular quizzes and assignments (40%).
- term-end oral presentation (10%).

LANe300EA

Skill-Based English A II (Comprehensive English)

佐藤 修一

サブタイトル：特講 (Skill-Based English A II)
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2
 備考 (履修条件等)：Beginner~Lower Intermediate, 参考 TOEIC スコア~445

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Comprehensive「総合的な」が示す通り英語の基本 4 skills (reading, listening, writing, speaking) 全体を扱う科目。英語が比較的苦手な学生を対象に、基礎的な英語力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- 英語の読解力、聴解力を向上させる。
- 英文をよりスムーズかつ正確に音読できるようになる。
- シンプルなパラグラフが書けるようになる。
- シンプルな内容を英語で口頭説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

※この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期の内容には春学期の授業を前提とするものがある。
 - 授業の流れは原則として指定教科書の構成に基づく。語彙増強、読解、聴解、音読、作文などの作業を行う。
 - 課題等へのフィードバックは返却時のコメント等で行う。
 ※詳しくは初回ガイダンスで説明する。
 ※授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明、サンプル教材
第 2 回	Unit 7 (Part. 1) Dollars and Scents	読解、語彙増強など
第 3 回	Unit 7 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 4 回	Unit 8 (Part. 1) Great Explorers	読解、語彙増強、復習テストなど
第 5 回	Unit 8 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 6 回	Unit 9 (Part. 1) Identity	読解、語彙増強、復習テストなど
第 7 回	Unit 9 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 8 回	Unit 10 (Part. 1) Identity	読解、語彙増強、復習テストなど
第 9 回	Unit 10 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 10 回	Unit 11 (Part. 1) Fact or Fake?	読解、語彙増強、復習テストなど
第 11 回	Unit 11 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 12 回	Unit 12 (Part. 1) Going to Extremes	読解、語彙増強、復習テストなど
第 13 回	Unit 12 (Part. 2)	音読、動画、作文など
第 14 回	学期末課題	プレゼンテーション、復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各授業のために 4 時間程度の学習が必要となる見込み：
 - 予習、復習
 - 課題に関する作業
 - リスニング&音読等の反復練習

【テキスト (教科書)】

※履修を検討する際は添付資料の教材サンプルを確認すること！
 ※第二回授業までに教科書を手入手すること！
 ①『English Explore 2』、National Geographic Learning、3210 円+税。秋学期のこの授業では後半部をカバーする予定。第二回目の授業までに入手すること。
 ② 英語辞書 (Web 上のものではなく一般の学習辞書が望ましい)

【参考書】

文法参考書があると便利。文法事項については辞書の説明だけではわかりづらい場合がある。高校の授業や受験勉強に使ったもので OK。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 (授業参加・貢献、予習等)：50 %
 - 毎回のテスト・課題類 (筆記テスト、音読テスト、作文提出)：40 %
 - 学期末のプレゼンテーション：10 %
- ※授業中の作業に積極的に参加することが重要

【学生の意見等からの気づき】

今年度新たに開講する科目なので該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必要。

【その他の重要事項】

※初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。
 ※人数過多の場合選抜を行う。選抜を行う場合、初回授業で選抜方法について説明する。

【Outline (in English)】

1. Course outline

The aim of this course is to help students develop basic English skills of reading, listening, writing and speaking.

2. Learning objectives

The goals of this course are:

- to improve reading and listening comprehension skills.
- to improve fluency and accuracy of reading aloud.
- to learn to write simple paragraphs.
- to learn to make short oral presentations.

3. Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend about four hours a week studying for this class by:

- preparing for or reviewing classwork.
- completing homework assignments.
- practicing listening and reading aloud exercises.

4. Grading criteria

Your overall grade will be decided based on the following:

- class participation and contribution (50%).
- regular quizzes and assignments (40%).
- term-end oral presentation (10%).

LANe200EA

Skill-Based English B I (Reading & Writing)

JONATHAN D BROWN

サブタイトル：English Reading & Writing A I
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2
 備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC
 スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on the development of reading skills and reading practice at the intermediate to high-intermediate level so that students can effectively read and enjoy literature in English.

【到達目標】

- Learn PQ4R (previewing, questioning, reading, reflecting, reciting, reviewing).
- Improve reading fluency: reading faster with better comprehension.
- Recognize, understand and analyze the basic organization of a text.
- Read for main ideas and supporting details.
- Write summaries and responses of written texts.
- Read one entire literary work in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course involves reading a literary work in English. Students will be introduced to some basic literary concepts and terms and will be expected to participate in classroom discussions following each section in the book. Themes from the book and how they apply to current social and cultural issues will be explored. Feedback will be provided on students' completed assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation; Introduction to reading; To Kill A Mocking Bird	Explanation of course and syllabus; Self- introductions; Read "To Kill a Mocking Bird" summary; Vocabulary List for "To Kill a Mocking Bird"; Read Chs. 1-2
第 2 回	To Kill A Mocking Bird	The Great Depression research project; Read Chs. 3-5
第 3 回	To Kill A Mocking Bird	The Great Depression research project continued; Chapters 1-5 Discussion; Read Chs. 6-8
第 4 回	To Kill A Mocking Bird	The Great Depression Presentation; Read Chs. 9-11
第 5 回	To Kill A Mocking Bird	Chapters 6-11 Discussion; Idioms; Read Chs. 12-13
第 6 回	To Kill A Mocking Bird	Myths and Urban Myths; Read Chs. 14-15
第 7 回	To Kill A Mocking Bird	Japanese Myths Presentation; Read Chs. 16-17
第 8 回	To Kill A Mocking Bird	Allusions; Read Chs. 18-20
第 9 回	To Kill A Mocking Bird	Similes and Metaphors; Read Chs. 21-23
第 10 回	To Kill A Mocking Bird	Chapters 18-24 Discussion; Racial Hatred and Discrimination; Read Chs. 24-26
第 11 回	To Kill A Mocking Bird	Racial Hatred and Discrimination Presentation; Read Chs. 27-29
第 12 回	To Kill A Mocking Bird	Read Chs. 30-31; Character Analysis
第 13 回	To Kill A Mocking Bird	Chapters 25-31 Discussion; Final exam (online)
第 14 回	To Kill A Mocking Bird Movie	Watch movie; Final report due (Character analysis)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Chapter readings; presentation preparation; report writing

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

To Kill a Mocking Bird by Harper Lee
 Other materials provided by instructor

【参考書】

アラバマ物語 和訳 (recommended)

【成績評価の方法と基準】

Classroom Activities - 20%

Presentations - 20%

Final Report - 30%

Final Exam - 30%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

No changes

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学期のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline (in English)】

The course aims to create independent learners who are able to read with a critical mind and respond both orally and in writing to what they have read. The course will focus on both extensive reading and intensive reading skills, and reading strategies at a low academic level. As such this course is a basic foundation course for a wide range of reading skills and vocabulary learning essential for more advanced reading activities.

LANe300EA

Skill-Based English B II (Reading & Writing)

JONATHAN D BROWN

サブタイトル：English Reading & Writing A II
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2
 備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC
 スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on the development of reading skills and reading practice at the intermediate to high-intermediate level so that students can effectively read and enjoy literature in English.

【到達目標】

- Learn PQ4R (previewing, questioning, reading, reflecting, reciting, reviewing).
- Improve reading fluency: reading faster with better comprehension.
- Recognize, understand and analyze the basic organization of a text.
- Read for main ideas and supporting details.
- Write summaries and responses of written texts.
- Reading one entire literary work in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course involves reading a literary work in English. Students will be introduced to some basic literary concepts and terms and will be expected to participate in classroom discussions following each section in the book. Themes from the book and how they apply to current social and cultural issues will be explored. Feedback will be provided on students' completed assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus A Christmas Carol – About the author; Book summary; Vocabulary list; Read Stave 1
第 2 回	A Christmas Carol: Stave 1	Class Discussion: An Unexpected Visitor; Read Stave 1 continued
第 3 回	A Christmas Carol: Stave 1 continued	Study group activities 1; Quiz 1; Read Stave 2
第 4 回	A Christmas Carol: Stave 2	Comparing past to present; Read Stave 2 continued
第 5 回	A Christmas Carol: Stave 2 continued	Study group activities 2; Quiz 2; Read Stave 3
第 6 回	A Christmas Carol: Stave 3	This is your life; Read Stave 3 continued
第 7 回	A Christmas Carol: Stave 3 continued	Study group activities 3; Quiz 3; Read Stave 4
第 8 回	A Christmas Carol: Stave 4	What do you see in your future?; Read Stave 4 continued
第 9 回	A Christmas Carol: Stave 4 continued	Study group activities 4; Quiz 4; Read Stave 5
第 10 回	A Christmas Carol: Stave 5	Begin research project; Read Stave 5 continued
第 11 回	A Christmas Carol: Stave 5 continued	Continue research project; Study group activities 5; Quiz 5
第 12 回	A Christmas Carol: Final Exam	Final exam (online); continue research project
第 13 回	Research Project Presentation	Research project presentation
第 14 回	A Christmas Carol Movie	Watch A Christmas Carol Movie

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Chapter readings; presentation preparation; report writing
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

A Christmas Carol by Charles Dickens
 Other materials provided by the instructor

【参考書】

クリスマスキャロル 和訳 (recommended)

【成績評価の方法と基準】

Classroom Activities - 20%

Quizzes - 20%

Final Presentation - 30%

Final Exam - 30%

(15 分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を 3 回した場合、1 回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

I revised this course to be more centered on reading and less "academic."

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【その他の重要事項】

初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学期のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline (in English)】

The course aims to create independent learners who are able to read with a critical mind and respond both orally and in writing to what they have read. The course will focus on both extensive reading and intensive reading skills, and reading strategies at a low academic level. As such this course is a basic foundation course for a wide range of reading skills and vocabulary learning essential for more advanced reading activities.

LANe200EA

Skill-Based English B I (Reading & Writing)

小林 テレサ

サブタイトル：English Reading & Writing A I
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2
 備考(履修条件等)：・Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC
 スコア 300～
 ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面
 授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを
 通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts. Vocabulary and pronunciation, as well as understanding of reading materials is essential.

【到達目標】

Acquire English Language skills in reading, speaking, thinking, discussing. Gain confidence in the Presentation of ideas and inspiration using English language comprehension skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
 を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
 成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The class will begin April 11,2022. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明。読解練習、小テスト
第 2 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Introduction of the Textbook. Reading of Translator's preface. Study vocabulary and discuss content.
第 3 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 4 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 5 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.

第 6 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 7 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 8 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 9 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 10 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 11 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 12 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 13 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading and discussing textbook. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.
第 14 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue Reading. Discuss Final reports on topic related to "Mindfulness" Incorporate vocabulary, grammar and information studied in class. Add extra data from independent research. Written 955 word report+audio/visual file presentation required.

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。 Review readings,research and prepare final written reports and final audio/visual video presentation.

【テキスト(教科書)】

The Miracle of Mindfulness by Thich Nhat Hahn

【参考書】

Textbook and selected readings.A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class.

【成績評価の方法と基準】

Textbook reading 25%, oral Testing/questioning 25%, Presentations 25%, Written Reports 25%

NOTE: 3 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with English comprehension, oral and written.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone, iPhone, iPad , computer オンライン授業のため、パソコン等の IT 機器と Hoppii や Zoom が安定して使用できるネット環境が必須

【Outline (in English)】

I. Introduction of textbook "The Miracle of Mindfulness" by Thich Nhat Hahn

II. Analysis of content and vocabulary.

III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce "Mindfulness".

II.Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe300EA

Skill-Based English B II (Reading & Writing)

小林 テレサ

サブタイトル：English Reading & Writing A II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考(履修条件等)：・Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC スコア 300～

・新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts. Vocabulary and pronunciation, as well as understanding of reading materials is essential.

【到達目標】

Acquire English Language skills in reading, speaking, thinking, discussing.Gain confidence in the Presentation of ideas and inspiration using English language comprehension skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The classes will continue from spring semester. As classes will be online a short video and essay about the summer break will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス パラグラフ基礎	授業の説明。パラグラフの基礎復習
第 2 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Review completed Textbook Units.Prepare video and essay about summer holidays using vocabulary from spring semester studies
第 3 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 4 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
第 5 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.

第 6 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	【成績評価の方法と基準】 Textbook reading 25%, oral Testing/questioning 25%, Presentations 25%, Written Reports 25% NOTE: 3 absences = automatic fail 【学生の意見等からの気づき】 Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with English comprehension, oral and written.
第 7 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	【学生が準備すべき機器他】 Smartphone, iPhone, iPad , computer オンライン授業のため、パソコン等の IT 機器と Hoppii や Zoom が安定して使用できるネット環境が必須 【Outline (in English)】 I. Review and continuation of textbook "The Miracle of Mindfulness" by Thich Nhat Hahn. Add additional textbook if necessary. II. Analysis of content and vocabulary. III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.
第 8 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	Objectives I. Comprehension and Experience of "Mindfulness". II.Improve vocabulary. III. Improve English reading and speaking skills.
第 9 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
第 10 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
第 11 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
第 12 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Reading and discussion of Textbook. Quizzing and questioning on content and vocabulary will be conducted every now and then.Be sure to prepare before class! Read the pages assigned in class, practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.	
第 13 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue reading and discussing textbook. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.	
第 14 回	Reading aloud and oral explanation; discussion.	Continue Reading. Discuss Final reports. Incorporate vocabulary, grammar and information studied in class. Add extra data from independent research. Written 955 word report+audio/visual file presentation required.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。Review readings,research and prepare final written reports and final audio/visual video presentation.

【テキスト（教科書）】

Thich Nhat Hahn writings and Additional reading

【参考書】

Textbook and selected readings.A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class.

LANe200EA

Skill-Based English C I (Reading & Writing)

深津 勇仁

サブタイトル：English Reading & Writing B I
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 3/Mon.3
 備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC スコア～595

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中級レベルの教科書を使用しアカデミックな英文読解とライティングの技術の習得を目標とする。特に、中級レベルの語彙や表現を学習し、より高度なライティング力の養成を目標とする。

【到達目標】

中級レベルの教材を使用することで、アカデミックな読解やライティングに慣れることが第一の目標である。また、まずは、アカデミックなレベルの文章読解を通じて語彙力や表現を習得し、より高度なアカデミックエッセイを期末レポートとして提出することが最終的な目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で 1 ユニットづつ計画的に教科書を進めていく。また、2 週間に 1 度小テストを実施する。レポートに関しては、添削をした上で、返却。小テストに関しては、回答の際、説明を行う。また、試験に関しても回答の配布と質問を受け付けた上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回導入授業	初回の授業なので、クラスの計画について説明する。
第 2 回	自転車の歴史 1 Riding Through History	自転車の歴史に関する文章を読解する。
第 3 回	自転車の歴史 2 Riding Through History	乗り物の歴史に関する関連文章を読み解く。 小テスト 1
第 4 回	病原体 1 Fighting Diseases	病原体の歴史についての文章を読解する。
第 5 回	病原体 2 Fighting Diseases	病原体に関連した文章を読み解く。 小テスト 2
第 6 回	マーケティング 1 They Know What You Want	マーケティングに関する文章の読解。
第 7 回	マーケティング 2 They Know What You Want	マーケティングに関連した文章を読み解く。 小テスト 3
第 8 回	シンボル 1 Identifying People	シンボルに関する文章の読解。
第 9 回	シンボル 2 Identifying People	シンボルに関連した文章を読み解く。 小テスト 4
第 10 回	成功の秘訣 1 Success Story	成功者に関する文章の読解。

第 11 回	成功の秘訣 2 Success Story	成功者に関する文章を読み解く。 小テスト 5
第 12 回	期末レポートの準備 1 期末レポート準備	Comparative Essay の書き方に関する授業。
第 13 回	期末レポートの準備 2 期末レポート準備	Comparative Essay の提出、並びに期末レポートの提出。
第 14 回	期末試験実施 期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 週間に 1 度小テストを実施する。また、期末レポートや期末試験を実施するので、その前には各自で自習する時間が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading: The Academic Word List in Context, Aline Burgmeier, Oxford University Press.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 小テスト →20%, 期末レポート 20%, 期末試験 20% の合計 100% を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し、ライティングの説明や量を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

必要であれば電子辞書。

【その他の重要事項】

本講義は能動的な授業のため、積極的な姿勢で臨むことを求める。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for acquiring academic level English reading and writing skills through using intermediate textbook. Especially, through studying intermediate vocabulary and expressions, students will acquire advanced writing skills.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe300EA

Skill-Based English C II (Reading & Writing)

深津 勇仁

サブタイトル：English Reading & Writing B II
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 3/Mon.3
 備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC スコア～595
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中級レベルの教科書を使用しアカデミックな英文読解とライティングの技術の習得を目標とする。特に、中級レベルの語彙や表現を学習し、より高度なライティング力の養成を目標とする。

【到達目標】

中級レベルの教材を使用することで、アカデミックな読解やライティングに慣れることが第一の目標である。また、まずは、アカデミックなレベルの文章読解を通じて語彙力や表現を習得し、より高度なアカデミックエッセイを期末レポートとして提出することが最終的な目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で1ユニットづつ計画的に教科書を進めていく。また、2週間に1度小テストを実施する。レポートに関しては、添削をした上で、返却。小テストに関しては、回答の際、説明を行う。また、試験に関しても回答の配布と質問を受け付けた上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回導入授業	初回なので授業の導入を実施する。
第2回	犯罪科学捜査 1	犯罪科学に関する記事の読解。
第3回	犯罪科学捜査 2	犯罪科学の関連記事を読み解く。小テスト 1
第4回	フランチャイズチェーン The 1	フランチャイズビジネスの記事の読解。
第5回	フランチャイズチェーン The 2	フランチャイズビジネスに関連した記事を読み解く。小テスト 2
第6回	自閉症 1	自閉症に関する記事を読解する。
第7回	自閉症 2	自閉症に関連した記事を読み解く。小テスト 3
第8回	海洋探索 1	海洋探索に関する記事の読解。
第9回	海洋探索 2	海洋探索に関連した記事を読み解く。小テスト 4
第10回	障害について 1	障害に関する記事の読解。

第11回	障害について 2	障害に関連した記事を読み解く。小テスト 5
第12回	期末レポート準備 1	Argumentative Essay の書き方を習得する。
第13回	期末レポート準備 2	Argumentative Essay の書き方と期末レポートの準備を行う。
第14回	期末試験	期末試験に関して

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2週間に1度小テストを実施する。また、期末レポートや期末試験を実施するので、その前には各自で自習する時間が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading: The Academic Word List in Context, Aline Burgmeier, Oxford University Press.

【参考書】

平常点 →40%, 小テスト →20%, 期末レポート 20%, 期末試験 20% の合計100%を総合的に判断する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 小テスト →20%, 期末レポート 20%, 期末試験 20% の合計100%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し、ライティングの説明や量を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

必要であれば電子辞書。

【その他の重要事項】

本講義は能動的な授業のため、積極的な姿勢で臨むことを求める。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for acquiring academic level English reading and writing skills through using intermediate textbook. Especially, through studying intermediate vocabulary and expressions, students will acquire advanced writing skills.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe200EA

Skill-Based English D I (Oral Communication)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Oral Communication I
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 1/Fri.1
 備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC
 スコア～595

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work and role play.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability in English vocabulary, conversation, pair work and role play.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Classes will be face to face, but in the event the Covid situation gets worse, we will move to online classes.

Students will develop skills in vocabulary, listening, conversation and pair work. In addition, students will learn role play through pair work and practice.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3) Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Top Notch 2 Textbook	Introduction to communication
2	Ch.1 Getting Acquainted	Ch.1 Getting Acquainted
3	Ch.1 Getting Acquainted	Ch.1 Getting Acquainted
4	Ch.1 Test Introduce role play 1	Ch.1 Test Introduce role play 1
5	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 1	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 2
6	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 1	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 1
7	Ch.2 Test Role play 1 Test	Ch.2 Test Role play 1 test
8	Ch.3 Staying in hotels. Introduce role play 2	Ch.3 Staying in hotels. Introduce role play 2
9	Ch.3 Staying in hotels. Practice role play 2	Ch.3 Staying in hotels. Practice role play 2
10	Ch.3 Test Role play 2 test	Ch.3 Test Role play 2 test
11	Ch.4 Cars and driving Introduce role play 3	Ch.4 Cars and driving Introduce role play 3
12	Ch.4 Cars and Driving Practice role play 3	Ch.4 Cars and driving Practice role play 3
13	Ch.4 Test Role play 3 test.	Ch. 4 Test Role play test.
14	Final written test	Final written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Top Notch 2 Third Edition ISBN: 9780133928945. Top Notch 2 Workbook Third Edition ISBN: 9780133928228 Plus: Handouts provided by instructor.

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 10 %
 Homework: 20%
 In class activities 30%
 Tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work and role play.

LANe300EA

Skill-Based English D II (Oral Communication)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Oral Communication II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC スコア～595

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work. Students will also develop skills in debate and presentation.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability in English vocabulary, conversation, pair work as well as presenting a topic through the use of debate and PowerPoint.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Classes will be face to face, but in the event the Covid situation gets worse, we will move to online classes.

Students will develop skills in vocabulary, listening, conversation and pair work using the textbook. In addition, students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Feedback will be in the form of annotated speech evaluations from the instructor, with points awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.

3 Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to class	Introduction/review of speech technique
2	Top Notch 2 Textbook Ch.5 Personal care and appearance Speech 1	Ch.5 Student speeches
3	Ch.5 Personal care and appearance Speech 2	Ch.5 Student speeches
4	Ch.5 Test Speech 3	Ch.5 Test Student speeches
5	Ch.6 Eating well	Ch. 6 Introduction/ review of presentation technique
6	Ch.6 Eating well	Ch.6 Test Review of presentation technique
7	Ch.6 Test Presentation 1	Ch.6 Student group presentations
8	Ch.7 About personality Presentations 2	Ch. 7 Student group presentations
9	Ch.7 About personality Presentations 3	Ch.7 Student group presentations
10	Ch.7 Test Debate	Ch.7 Test Introduction/ review debate format and technique
11	Ch.8 The Arts	Ch.8 Review debate format and technique
12	Ch.8 The Arts Debate 1	Ch.8 Discussion and debate
13	Ch.8 Test Debate 2	Ch.8 Test Discussion and debate
14	Small mini final test Debate 3	Small mini final test Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Top Notch 2 Third Edition ISBN: 9780133928945. Top Notch 2 Workbook Third Edition ISBN: 9780133928228 Plus: Handouts provided by instructor.

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 10 %

Tests 40%

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work. Students will also develop skills in debate and presentation.

LANe200EA

Skill-Based English D I (Oral Communication)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Oral Communication I
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2
 備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC
 スコア～595

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work and role play.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability in English vocabulary, conversation, pair work and role play.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Classes will be face to face, but in the event the Covid situation gets worse, we will move to online classes.

Students will develop skills in vocabulary, listening, conversation and pair work. In addition, students will learn role play through pair work and practice.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3) Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Top Notch 2 Textbook	Introduction to communication
2	Ch.1 Getting Acquainted	Ch.1 Getting Acquainted
3	Ch.1 Getting Acquainted	Ch.1 Getting Acquainted
4	Ch.1 Test Introduce role play 1	Ch.1 Test Introduce role play 1
5	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 1	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 2
6	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 1	Ch.2 Going to the movies. Practice role play 1
7	Ch.2 Test Role play 1 Test	Ch.2 Test Role play 1 test
8	Ch.3 Staying in hotels. Introduce role play 2	Ch.3 Staying in hotels. Introduce role play 2
9	Ch.3 Staying in hotels. Practice role play 2	Ch.3 Staying in hotels. Practice role play 2
10	Ch.3 Test Role play 2 test	Ch.3 Test Role play 2 test
11	Ch.4 Cars and driving Introduce role play 3	Ch.4 Cars and driving Introduce role play 3
12	Ch.4 Cars and Driving Practice role play 3	Ch.4 Cars and driving Practice role play 3
13	Ch.4 Test Role play 3 test.	Ch. 4 Test Role play test.
14	Final written test	Final written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Top Notch 2 Third Edition ISBN: 9780133928945. Top Notch 2 Workbook Third Edition ISBN: 9780133928228 Plus: Handouts provided by instructor.

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 10 %
 Homework: 20%
 In class activities 30%
 Tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work and role play.

LANe300EA

Skill-Based English D II (Oral Communication)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Oral Communication II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC スコア～595

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work. Students will also develop skills in debate and presentation.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability in English vocabulary, conversation, pair work as well as presenting a topic through the use of debate and PowerPoint.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Classes will be face to face, but in the event the Covid situation gets worse, we will move to online classes.

Students will develop skills in vocabulary, listening, conversation and pair work using the textbook. In addition, students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Feedback will be in the form of annotated speech evaluations from the instructor, with points awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.

3 Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to class	Introduction/review of speech technique
2	Top Notch 2 Textbook Ch.5 Personal care and appearance Speech 1	Ch.5 Student speeches
3	Ch.5 Personal care and appearance Speech 2	Ch.5 Student speeches
4	Ch.5 Test Speech 3	Ch.5 Test Student speeches
5	Ch.6 Eating well	Ch. 6 Introduction/ review of presentation technique
6	Ch.6 Eating well	Ch.6 Test Review of presentation technique
7	Ch.6 Test Presentation 1	Ch.6 Student group presentations
8	Ch.7 About personality Presentations 2	Ch. 7 Student group presentations
9	Ch.7 About personality Presentations 3	Ch.7 Student group presentations
10	Ch.7 Test Debate	Ch.7 Test Introduction/ review debate format and technique
11	Ch.8 The Arts	Ch.8 Review debate format and technique
12	Ch.8 The Arts Debate 1	Ch.8 Discussion and debate
13	Ch.8 Test Debate 2	Ch.8 Test Discussion and debate
14	Small mini final test Debate 3	Small mini final test Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Top Notch 2 Third Edition ISBN: 9780133928945. Top Notch 2 Workbook Third Edition ISBN: 9780133928228 Plus: Handouts provided by instructor.

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 10 %

Tests 40%

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class is for students who want to strengthen their English ability through vocabulary, speaking, listening, reading and pair work. Students will also develop skills in debate and presentation.

LANe200EA

Skill-Based English E I (Oral Communication)

JAMES WATT

サブタイトル：English Oral Communication I
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 1/Thu.1
 備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC
 スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will give students the ability to engage in various conversations about basic and intermediate topics, and give them the opportunity to enjoy sharing and comparing ideas in English. Topics will be difficult but interesting.

【到達目標】

Our first objective is to help each student find their "English voice." They will learn how to be comfortable speaking in English, even when they don't know exactly the words they want to use. Our second goal is to learn how to make logical arguments in English for use in discussion and debate.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

First semester will see students learning the nuances of discussing ideas in English, and we will engage in dialogues based on presentations students make.

Students will be evaluated based only on their participation at first, but eventually they will also be evaluated on the clarity of their arguments and ideas.

Homework: Students will write short essays for homework each week. These essays will require research into the topic assigned.

Classwork: Students will present their essays as speeches to groups. Groups will then discuss the content of the speeches, and finally the class will work together to find the main points.

Final Assignment: Students will write a longer essay and engage in a debate with another student in front of the class. The rest of the class will ask questions and challenge the statements made.

Marks, suggestions, study advice and other feedback will be given weekly.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Getting Started 1	Speaking technique: Expressions, posture, gestures
Week 2	Getting Started 2	Discussion technique: Active listening and engagement
Week 3	Expressing Ideas	Sample presentation & discussion
Week 4	Expressing Ideas	Student presentations & discussions
Week 5	Expressing Ideas	Student presentations & discussions
Week 6	Expressing Ideas	Student presentations & discussions
Week 7	Challenging Other Ideas	Sample presentation & debate
Week 8	Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 9	Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 10	Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 11	Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 12	Engaging in Debate	What's the goal - winning a debate or finding compromise?
Week 13	Engaging in Debate	What's the goal - winning a debate or finding compromise?
Week 14	Engaging in Debate	What's the goal - winning a debate or finding compromise?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は約2～4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided during each class.

【参考書】

A proper dictionary will be very helpful.

【成績評価の方法と基準】

50% Participation

50% Assignments (Debates, speeches, presentations, some writing)

Students in this class must arrive on time and participate fully.

Two lates = Absent. Five absences mean the student will fail the course.

Students must speak English during class, and must engage with the class on the topic being discussed. Non-participation will result in an absence.

【学生の意見等からの気づき】

I have increased the discussion time available to students, and reduced the amount of writing homework.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need internet access and a webcam/mobile phone to take part in the online classes, and will require a notebook and pencil in both the online and in-class sessions.

【その他の重要事項】

This course should be educational and enjoyable if you are interested in speaking in English. It will be very difficult to pass if you are not interested in speaking in English.

COVID-19 has resulted in many changes. The syllabus above may change slightly over the course of the year, but the core will remain the same.

【Outline (in English)】

We will concentrate on achieving natural English speech and mannerisms, and on improving confidence when speaking without worrying about getting every word perfect. The goal is communication.

LANe300EA

Skill-Based English E II (Oral Communication)

JAMES WATT

サブタイトル：English Oral Communication II
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 1/Thu.1
 備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC
 スコア 300～
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will build upon what we learned in LE105-a to help students enjoy discussion and debate about some more advanced topics in English.

【到達目標】

The ultimate goal in the second semester of this course is for the students to feel confident enough to engage in intelligent conversation with a native speaker of English without any unnecessary hesitation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Each week we will give presentations, and then engage in discussions in small groups based on those presentations. Students will be evaluated on the clarity of their arguments and ideas, and on their engagement and motivation.

Homework: Students will write short essays for homework each week. These essays will require research into the topic assigned. Second semester topics will be more detailed than first semester, and will deal with academic issues in sociology.

Classwork: Students will present their essays as speeches to groups. Groups will then discuss the content of the speeches, and finally the class will work together to find the main points.

Final Assignment: Students will create a full presentation that they will give in front of the class. This will lead to a debate with the rest of the class.

Marks, suggestions, study advice and other feedback will be given weekly.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Getting Back in the Saddle	Refresh what we know
Week 2	Jumping in feet first	Making advanced arguments
Week 3	Jumping in feet first	Sample presentation & discussion
Week 4	Discussing abstract topics	Student presentations & discussions
Week 5	Discussing abstract topics	Student presentations & discussions
Week 6	Discussing abstract topics	Discuss documentary
Week 7	Expressing Ideas and Challenging Other Ideas	Connecting to the documentary
Week 8	Expressing Ideas and Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 9	Expressing Ideas and Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 10	Expressing Ideas and Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 11	Expressing Ideas and Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 12	Expressing Ideas and Challenging Other Ideas	Student presentations & debates
Week 13	FINAL PRESENTATIONS	Students present to the class, and the class engages in a short discussion on each topic

Week 14 FINAL PRESENTATIONS

Students present to the class, and the class engages in a short discussion on each topic

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided during each class.

【参考書】

A proper dictionary will be very helpful.

【成績評価の方法と基準】

50% Participation
 50% Assignments (Debates, speeches, presentations, some writing)
 Students in this class must arrive on time and participate fully.
 Two lates = Absent. Five absences mean the student will fail the course.
 Students must speak English during class, and must engage with the class on the topic being discussed. Non-participation will result in an absence.

【学生の意見等からの気づき】

More interaction between students is being provided.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need internet access and a webcam/mobile phone to take part in the online classes, and will require a notebook and pencil in both the online and in-class sessions.

【その他の重要事項】

This course should be educational and enjoyable if you are interested in speaking in English. It will be very difficult to pass if you are not interested in speaking in English.

COVID-19 has resulted in many changes. The syllabus above may change slightly over the course of the year, but the core will remain the same.

【Outline (in English)】

In first semester, students found their "English voice" - the style of speaking they use when speaking in English. In second semester, we will build upon that to learn how to engage in more complicated debate and dialogue.

LANe200EA

Skill-Based English F I (Intensive Reading)

金原 瑞人

サブタイトル：英語講読C I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC
スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音楽の基礎知識や 20 世紀アメリカ音楽の歴史についての理解を深めつつ、
ロックの歴史に関する英語の文献を読んでいく。

【到達目標】

音楽一般、またロック、ロックンロールに関する英語のテキストを正確に読
めるようになる。また、現代アメリカにおける社会問題についての理解が深
まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら
ら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ロックやロックンロールに関する英語のテキストの部分訳を提出してもらい、
それをもとに授業を進める。また、授業中に解説、説明したことを参考に、課
題で提出してもらった単語や文章を訂正し、最後にまとめて提出してもらう。
さらに、毎週、テーマごとの課題を提出してもらう。
提出された課題については、授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	音楽の基本 1	Voices
2	音楽の基本 2	Rhythm
3	音楽の基本 3	Code
4	音楽の基本 4	Melody
5	Introduction 1	Why Study Rock?
6	Introduction 2	A Liberal View of Rock History
7	The Roots of Rock 1	The Early Fifties
8	The Roots of Rock 2	Pop Music
9	The Roots of Rock 3	The Element of Music
10	The Roots of Rock 4	Country and Western
11	The Roots of Rock 5	Instrumentation in Rock and Roll
12	The Roots of Rock 6	Rhythm and Blues
13	The Emergence of Rock and Roll 1	Crossover and Covers
14	The Emergence of Rock and Roll 2	Rhythm in Early Rock and Roll

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読むテキストを予習すること。指定された部分を日本語に訳してくる
こと。さらに毎回の課題をこなすこと。
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらで用意します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

単語や文章の翻訳（50 %）、提出してもらった課題（30 %）、平常点（20 %）
を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students
learn about the American music through English.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to improve
students' reading ability and increase their knowledge of music and
American one.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Before/after
each class meeting, students will be expected to spend three hours to
understand the course content.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) Grading will be
decided based on the quality of the students' works (80%) and in-class
contribution (20%).

LANe300EA

Skill-Based English F II (Intensive Reading)

金原 瑞人

サブタイトル：英語講読C II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀アメリカ音楽の歴史についての理解を深めつつ、ロックの歴史に関する英語の文献を読んでいく。

【到達目標】

音楽一般、またロック、ロックンロールに関する英語のテキストを正確に読めるようになる。また、現代アメリカにおける社会問題についての理解が深まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ロックやロックンロールに関する英語のテキストの部分訳を提出してもらい、それをもとに授業を進める。また、授業中に解説、説明したことを参考に、課題で提出してもらった単語や文章を訂正し、最後にまとめて提出してもらう。さらに、毎週、テーマごとの課題を提出してもらう。提出された課題については、授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Rock and Roll: Fifties Style	The Basic Trends Emerge
2	Rock and Roll: Fifties Style 1	Little Richard
3	Rock and Roll: Fifties Style 2	Fats Domino
4	Rock and Roll: Fifties Style 3	Chuck Berry
5	Rock and Roll: Fifties Style 4	Elvis Presley
6	Rock and Roll: Fifties Style 5	Others in the 1950s
7	The Early 1960s 1	The Fragmentation of the Market
8	The Early 1960s 2	The Fork-Music Trend
9	The Early 1960s 3	Bob Dylan
10	The British Invasion 1	The Early Beatles
11	The British Invasion 2	The Rolling Stones
12	The British Invasion 3	The Others
13	Soul and Motown 1	Soul Music
14	Soul and Motown 2	Motown

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読むテキストを予習すること。指定された部分を日本語に訳すこと。さらに毎回の課題をこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらで用意します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

単語や文章の訳（50%）、課題（30%）、平常点（20%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students learn about the American music through English.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to improve students' reading ability and increase their knowledge of music and American one.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the quality of the students' works (80%) and in-class contribution (20%).

LANe200EA

English for Specific Purposes A I (英語翻訳)

金原 瑞人

サブタイトル：英語翻訳 A I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC
スコア～595

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎回、英文数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。また、基本的な文法事項などもいねいに解説する。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読みやすく、かつ個性的な日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで提出してもらい、それをもとに、授業を行う。

提出された課題については、授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された範囲の英文を訳して提出すること。授業で学んだことや気づいたことを反映させて訳し直したものを、最後の授業のときにまとめて提出すること。

本授業の準備学習は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用するテキストは児童書かヤングアダルトむけの作品の予定。こちらで用意します。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらう訳文の評価（60 %）、最後の授業に提出してもらう訳し直しの評価（40 %）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students learn how to read English accurately and translate it correctly into Japanese.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to improve students' reading ability and translating one.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the quality of the students' translations (100%).

LANe300EA

English for Specific Purposes A II (英語翻訳)

金原 瑞人

サブタイトル：英語翻訳A II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

備考（履修条件等）：Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC スコア～595

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎回、英文を数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。比較的、読みやすいものをテキストに使う予定。また、基本的な文法事項などもていねいに解説する。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読みやすく、かつ個性的な文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで提出してもらい、それをもとに、授業を行う。

提出された課題については、授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された範囲の英文を訳して提出すること。その授業支援システムで送られる講評を参考に、訳し直したものを、最後の授業のときにまとめて提出すること。

本授業の準備学習は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

児童書、ヤングアダルト小説、エッセイなど。こちらで用意します。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらう訳文の評価（60%）、最後の授業に提出してもらう訳し直しの評価（40%）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students learn how to read English accurately and translate it correctly into Japanese. 到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to improve students' reading ability and translating one.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the quality of the students' translations (100%).

LANe200EA

English for Specific Purposes B I (英語翻訳)

金原 瑞人

サブタイトル：英語翻訳 B I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC
スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた雑誌や新聞を正確に読解し、的確な日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力がつく。読みやすく適切な日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで提出してもらい、それをもとに授業を行います。

また、授業で学んだことを自分の訳文に反映させ、訳し直したものをまとめて最後の授業で提出してもらいます。

提出された課題については、授業中にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を訳したものを授業支援システムで期日までに提出すること。毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。

本授業の準備学習時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英語圏の雑誌、新聞などをテキストに使う予定。こちらで用意します。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらった訳文の評価（70 %）、最後の授業に提出してもらった訳し直しの評価（30 %）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、変更があり得る。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students learn how to read English accurately and translate it correctly into Japanese.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to improve students' reading ability and translating one.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the quality of the students' translations (100%).

LANe300EA

English for Specific Purposes B II (英語翻訳)

金原 瑞人

サブタイトル：英語翻訳 B II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた雑誌や新聞を正確に読解し、的確な日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力がつく。読みやすく正しい日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで提出してもらい、それをもとに授業を行います。

また、授業で学んだことを自分の訳文に反映させ、訳し直したものをまとめて最後の授業で提出してもらいます。

提出された課題については、授業中にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を訳したものを授業支援システムで期日までに提出すること。毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。

本授業の準備学習時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英語圏の雑誌、新聞などをテキストに使う予定。こちらで用意します。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらった訳文の評価（70 %）、最後の授業に提出してもらった訳し直しの評価（30 %）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、変更があり得る。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) The aim of this course is to help students learn how to read English accurately and translate it correctly into Japanese.

到達目標 (Learning Objectives) The goals of this course are to improve students' reading ability and translating one.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the quality of the students' translations (100%).

LANe200EA

English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R))

妻鹿 裕子

サブタイトル：Intensive TOEIC (R)

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC の頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語の文章を速く正確に読む力をつけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストの各 unit は listening と reading の二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半は listening です。語彙の確認をしてから listening 問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半は reading です。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1 Eating Out (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 1 Eating Out (reading)	Grammar
4	Unit 2 Travel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 2 Travel (reading)	Grammar
6	Unit 3 Amusement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 3 Amusement (reading)	Grammar
8	Unit 4 Meetings (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 4 Meetings (reading)	Grammar
10	Unit 5 Personnel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 5 Personnel (reading)	Grammar
12	Unit 6 Shopping (listening)	Vocabulary, Useful Expression
13	Unit 6 Shopping (reading)	Grammar
14	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業にお願いします。本授業の復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3』（朝日出版社）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 35%、小テスト 35 %、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

Hoppii を使用します。

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Reports 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe200EA

English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R))

妻鹿 裕子

サブタイトル：Intensive TOEIC (R)

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC の頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語の文章を速く正確に読む力をつけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストの各 unit は listening と reading の二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半は listening です。語彙の確認をしてから listening 問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半は reading です。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1 Eating Out (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 1 Eating Out (reading)	Grammar
4	Unit 2 Travel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 2 Travel (reading)	Grammar
6	Unit 3 Amusement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 3 Amusement (reading)	Grammar
8	Unit 4 Meetings (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 4 Meetings (reading)	Grammar
10	Unit 5 Personnel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 5 Personnel (reading)	Grammar
12	Unit 6 Shopping (listening)	Vocabulary, Useful Expression
13	Unit 6 Shopping (reading)	Grammar
14	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業にお願いします。本授業の復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3』（朝日出版社）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 35%、小テスト 35 %、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

Hoppi を使用します。

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Reports 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe200EA

English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R))

妻鹿 裕子

サブタイトル：Intensive TOEIC (R)

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC の頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語の文章を速く正確に読む力をつけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストの各 unit は listening と reading の二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半は listening です。語彙の確認をしてから listening 問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半は reading です。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7 Advertisement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 7 Advertisement (reading)	Grammar
4	Unit 8 Daily Life (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 8 Daily Life (reading)	Grammar
6	Unit 9 Office Work (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 9 Office Work (reading)	Grammar
8	Unit 10 Business (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 10 Business (reading)	Grammar
10	Unit 11 Traffic (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 11 Traffic (reading)	Grammar
12	Unit 12 Finance and Banking (listening)	Vocabulary, Useful Expression
13	Unit 12 Finance and Banking (reading)	Grammar
14	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業にお願いします。本授業の復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3』（朝日出版社）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 35%、小テスト 35 %、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

Hoppii を使用します。

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Reports 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe200EA

English for Specific Purposes C (Intensive TOEIC (R))

妻鹿 裕子

サブタイトル：Intensive TOEIC (R)

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC の頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語の文章を速く正確に読む力をつけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストの各 unit は listening と reading の二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半は listening です。語彙の確認をしてから listening 問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半は reading です。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7 Advertisement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 7 Advertisement (reading)	Grammar
4	Unit 8 Daily Life (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 8 Daily Life (reading)	Grammar
6	Unit 9 Office Work (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 9 Office Work (reading)	Grammar
8	Unit 10 Business (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 10 Business (reading)	Grammar
10	Unit 11 Traffic (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 11 Traffic (reading)	Grammar
12	Unit 12 Finance and Banking (listening)	Vocabulary, Useful Expression
13	Unit 12 Finance and Banking (reading)	Grammar
14	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業にお願いします。本授業の復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3』（朝日出版社）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 35%、小テスト 35 %、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

Hoppii を使用します。

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Reports 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe200EA

English for Specific Purposes D (Intensive TOEFL (R))

JAMES WATT

サブタイトル：Intensive TOEFL (R)

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this class is to develop academic skills in English while building test-taking confidence. The course will cover all four sections of the TOEFL(R) test.

【到達目標】

The goal of the course is for students to improve their TOEFL scores.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Students will do a reading and writing assignment for homework every week, and speaking and listening work during class. Classes will focus on testing strategies and on building the vocabulary needed to do well on the test without knowing any strategies at all.

Marks, suggestions, study advice and other feedback will be given weekly, and that feedback will focus on areas in which they need a bit more help.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to TOEFL, how it's marked, how it's taken.
Week 2	Strategies	Discussion homework. Strategies for the reading section 1
Week 3	Strategies	Discussion homework. Strategies for the reading section 2
Week 4	Practice Test	Practice test, homework discussion, Strategies for the listening section 1
Week 5	Strategies	Discussion homework. Strategies for the listening section 2
Week 6	Strategies	Discussion homework. Strategies for the writing section 1
Week 7	Strategies	Discussion homework. Strategies for the writing section 2
Week 8	Strategies	Discussion homework. Strategies for the speaking section 1
Week 9	Strategies	Discussion homework. Strategies for the speaking section 2
Week 10	Application & Production	Harness your vocabulary! Reading
Week 11	Application & Production	Harness your vocabulary! Writing
Week 12	Application & Production	Harness your vocabulary! Listening
Week 13	Application & Production	Harness your vocabulary! Speaking
Week 14	Final Test Practice	Work on a real TOEFL practice test and review the year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class

【参考書】

Japanese-English dictionary, English thesaurus, English dictionary

【成績評価の方法と基準】

50% Attendance

50% Assignments

【学生の意見等からの気づき】

More reading and listening will be added to the course. The final exam will be changed to a group workshop.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need internet access and a webcam/mobile phone to take part in the online classes, and two notebooks and a dictionary for both online and in-class work.

【その他の重要事項】

The TOEFL test can seem very daunting, but it really doesn't have to be. It requires a lot of studying to do well in TOEFL, but this class should give you the tools you need to succeed.

COVID-19 has resulted in many changes. The syllabus above may change slightly over the course of the semester, but the core will remain the same.

【Outline (in English)】

The course will provide students with some of the strategies and skills they need to successfully take the TOEFL(R) test with a comprehensive look at each section: reading, listening, writing and speaking.

LANe200EA

English for Specific Purposes D (Intensive TOEFL (R))

JAMES WATT

サブタイトル：Intensive TOEFL (R)

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this class is to develop academic skills in English while building test-taking confidence. The course will cover all four sections of the TOEFL(R) test.

【到達目標】

The goal of the course is for students to improve their TOEFL scores

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Students will do a reading and writing assignment for homework every week, and speaking and listening work during class. Classes will focus on testing strategies and on building the vocabulary needed to do well on the test without knowing any strategies at all.

Marks, suggestions, study advice and other feedback will be given weekly, and that feedback will focus on areas in which they need a bit more help.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Introduction	Introduction to TOEFL, how it's marked, how it's taken.
week 2	Strategies	Discussion homework. Strategies for the reading section 1
week 3	Strategies	Discussion homework. Strategies for the reading section 2
week 4	Practice Test	Practice test, homework discussion, Strategies for the listening section 1
week 5	Strategies	Discussion homework. Strategies for the listening section 2
week 6	Strategies	Discussion homework. Strategies for the writing section 1
week 7	Strategies	Discussion homework. Strategies for the writing section 2
week 8	Strategies	Discussion homework. Strategies for the speaking section 1
week 9	Strategies	Discussion homework. Strategies for the speaking section 2
week 10	Application & Production	Harness your vocabulary! Reading
week 11	Application & Production	Harness your vocabulary! Writing
week 12	Application & Production	Harness your vocabulary! Listening
week 13	Application & Production	Harness your vocabulary! Speaking
week 14	Final Test Practice	Work on a real TOEFL practice test and review the year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class

【参考書】

Japanese-English dictionary, English thesaurus, English dictionary

【成績評価の方法と基準】

40% Attendance

60% Tests and Assignments

【学生の意見等からの気づき】

More reading and listening will be added to the course. The final exam will be changed to a group workshop.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need internet access and a webcam/mobile phone to take part in the online classes, and two notebooks and a dictionary for both online and in-class work.

【その他の重要事項】

The TOEFL test can seem very daunting, but it really doesn't have to be. It requires a lot of studying to do well in TOEFL, but this class should give you the tools you need to succeed.

COVID-19 has resulted in many changes. The syllabus above may change slightly over the course of the semester, but the core will remain the same.

【Outline (in English)】

The course will provide students with some of the strategies and skills they need to successfully take the TOEFL(R) test with a comprehensive look at each section: reading, listening, writing and speaking.

LANe200EA

Content-Based English A I (Drama)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Drama I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

パフォーマンス： 30%

クイズ： 20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: The class will be face to face, but in the event that the Covid situation gets worse, we will move the class online.

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Play 02 reading; plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Play 03 reading; plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Play 04 reading; plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Play 05 reading; plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点： 50%

LANe300EA

Content-Based English A II (Drama)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Drama II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

LANe200EA

Content-Based English A I (Drama)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Drama I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: The class will be face to face, but in the event that the Covid situation gets worse, we will move the class online.

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Play 02 reading; plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Play 03 reading; plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Play 04 reading; plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Play 05 reading; plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

LANe300EA

Content-Based English A II (Drama)

PAUL HOWL

サブタイトル：English Drama II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

備考（履修条件等）：All Levels

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Classes will be face to face, but in the event the Covid situation gets worse, we will move to online classes.

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

LANe200EA

Content-Based English B I (Global Issues)

二村 まどか

サブタイトル：英語講読 A I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事と学術論文を読みながら、難易度の高い英文に触れると同時に、国際関係の時事問題（平和、人権、開発など）についての理解を深める。

【到達目標】

論説記事や学術論文の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

3～4 本の論説記事と 1 本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出した課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について
2	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
3	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
4	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
5	The Economist の記事 ②	テキストの和訳と内容把握
6	The Economist の記事 ②	テキストの和訳と内容把握
7	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
8	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
9	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
10	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
11	The Economist の記事 ③	テキストの和訳と内容把握
12	The Economist の記事 ③	テキストの和訳と内容把握
13	The Economist の記事 ④	テキストの和訳と内容把握
14	The Economist の記事 ④	テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしていく必要はない）。各論文を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と学術雑誌『Ethics & International Affairs』の論文を用いる。テキストは授業で配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）40 %
課題の提出（各記事の英文要約）60 %

【学生の意見等からの気づき】

扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の満足度は高いようです。難しい英語・内容をどれだけみんなで解きほぐしていけるかを模索しています。

【Outline (in English)】

This course deals with articles of The Economist and some academic articles, to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. The course is for those students with advanced English level.

LANe300EA

Content-Based English B II (Global Issues)

二村 まどか

サブタイトル：英語講読A II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事と学術論文を読みながら、難易度の高い英文に触れると同時に、国際関係の時事問題（平和、人権、開発など）についての理解を深める。

【到達目標】

論説記事や学術論文の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

3～4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出した課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について
2	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
3	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
4	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
5	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
6	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
7	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
8	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
9	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
10	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
11	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握
12	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握
13	The Economist の記事④	テキストの和訳と内容把握
14	The Economist の記事④	テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各論文を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と学術雑誌『Ethics & International Affairs』の論文を用いる。テキストは授業で配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）：40%
課題の提出（各記事の英文要約）：60%

【学生の意見等からの気づき】

扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の満足度は高いようです。難しい英語・内容をどれだけみながら解きほぐしていけるかを模索しています。

【Outline (in English)】

This course deals with articles of The Economist and some academic articles, to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. The course is for those students with advanced English level.

LANe200EA

Content-Based English C I (International News English)

深津 勇仁

サブタイトル：英語講読B I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中級レベルの教科書を使用しニュースの内容に即した英語の習得を視野に、リーディングを中心として学習を進めていく。特に、ニュースに特徴的な語彙や表現を習得するため、それぞれに特化した内容の英文を学習の中心に据え、講義を進めていく。また、英語の習得と同時に内容理解も同時進行で行うため、中級程度の英語力が目安となっている。

【到達目標】

本講義の到達目標としては、ニュース英語の習得を目指して時事問題を題材として、特にそれらの理解に必要となる語彙や表現の習得を到達目標とする。また、基礎的な文法や構文は習得していることを前提としているため、より発展的な内容を取り扱う。到達目標としては、時事問題、ニュースの内容をそのまま読んでも理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、1 ユニットづつ教科書を計画的に進めていく。また、2 週間に1度は小テストを実施する。

レポートに関しては、添削をした上で、返却。小テストに関しては、回答の際、説明を行う。また、試験に関しても回答の配布と質問を受け付けた上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	初回導入授業 初回の授業なので、クラスの内容説明を実施する。
2	Riding through history	自転車の歴史 1 自転車の歴史に関する文章を読解する。
3	Riding through history	自転車の歴史 2 自転車の歴史に関連した記事を読む。小テスト 1
4	Fighting Diseases	病原菌 1 人類の病原菌との戦いの歴史に関する記事を読解する。
5	Fighting Diseases	病原菌 2 病原菌の歴史に関連する記事を読む。小テスト 2
6	Marketing Research	マーケティング 1 マーケティングに関連した記事の読解。
7	Marketing Research	マーケティングリサーチに関連した記事を読み解く。小テスト 3
8	Symbolism	シンボルの重要性に関連した記事の読解。
9	Symbolism	シンボルに関連した記事を読む。小テスト 4
10	Success Story	成功の法則 1 成功者に関した話の読解。
11	Success Story	成功者に関わる記事を読み解く。小テスト 5
12	期末レポート準備	期末レポートに関連したエッセイの書き方の講義。
13	期末レポート準備	期末レポートの提出と関連エッセイの提出。
14	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小テスト、期末レポート、期末テストの前は各自で自習時間を設けて学習すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading 1: The Academic Word List in Context, Arline Burgmeier, Oxford University Press.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 小テスト →20%, 期末レポート →20%, 期末試験 →20% の合計 100 点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特にリーディングの機会を増やして欲しい。語彙のフィードバックが欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

必要であれば電子辞書。

【その他の重要事項】

能動的な授業のため、学生の積極的な関与を期待する。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for developing English reading ability using intermediate textbook based on new related topics. Especially, in order to acquire news related vocabulary and expressions, news related study materials will be assigned to students. Moreover, the aim for this class is to both acquire English and content comprehension. Lastly, improving students' English to intermediate level will be the goal.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe300EA

Content-Based English C II (International News English)

深津 勇仁

サブタイトル：英語講読 B II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考 TOEIC スコア 300～

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中級レベルの教科書を使用しニュースの内容に即した英語の習得を視野に、リーディングを中心として学習を進めていく。特に、ニュースに特徴的な語彙や表現を習得するため、それぞれに特化した内容の英文を学習の中心に据え、講義を進めていく。また、英語の習得と同時に内容理解も同時進行で行うため、中級程度の英語力が目安となっている。

【到達目標】

本講義の到達目標としては、ニュース英語の習得を目指して時事問題を題材として、特にそれらの理解に必要な語彙や表現の習得を到達目標とする。また、基礎的な文法や構文は習得していることを前提としているため、より発展的な内容を取り扱う。到達目標としては、時事問題、ニュースの内容をそのまま読んでも理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、1 ユニットづつ教科書を計画的に進めていく。また、2 週間に 1 度は小テストを実施する。

レポートに関しては、添削をした上で、返却。小テストに関しては、回答の際、説明を行う。また、試験に関しても回答の配布と質問を受け付けた上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	初回の授業で講義の説明を実施する。
2	Solving Crimes	犯罪捜査科学 1 犯罪科学に関する記事を読解する。
3	Solving Crimes	犯罪捜査科学 2 犯罪科学関連の記事を読み解く。
4	Fast Food Revolution	ファーストフード革命 1 ファーストフードのチェーン展開に関する記事を読解する。
5	Fast Food Revolution	ファーストフード革命 2 ファーストフードのチェーン展開の関連記事を読む。
6	The Autism	自閉症 1 自閉症に関する記事の読解。
7	The Autism	自閉症 2 自閉症関連の記事を読み解く。
8	Sea of Life	海洋科学 1 海洋に関する記事を読み解く。
9	Sea of Life	海洋科学 2 海洋の関連記事を読む。
10	The Autism	障害 1 障害に関する記事の読解。
11	The Autism	障害 2 障害に関連した記事を読む。
12	期末レポート準備	期末レポート準備 1 期末レポートに関連したエッセイ記述の練習。
13	期末レポート準備	期末レポート準備 2 期末レポートの提出とエッセイ記述を実施する。
14	期末試験	期末試験実施 期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小テスト、期末レポート、期末テストの前は各自で自習時間を設けて学習すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Inside Reading 1: The Academic Word List in Context, Arline Burgmeier, Oxford University Press.

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 →40%, 小テスト →20%, 期末レポート →20%, 期末試験 →20% の合計 100 点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特にリーディングの機会を増やして欲しい。語彙のフィードバックが欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

必要であれば電子辞書。

【その他の重要事項】

能動的な授業のため、学生の積極的な関与を期待する。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed for developing English reading ability using intermediate textbook based on new related topics. Especially, in order to acquire news related vocabulary and expressions, news related study materials will be assigned to students. Moreover, the aim for this class is to both acquire English and content comprehension. Lastly, improving students' English to intermediate level will be the goal.

Learning Objectives:

The ultimate objective of this course is to acquire intermediate university English speaking, reading and listening ability through communicative language learning. In addition, this course is designed for second year students who are still in the process of developing their English with high motivation. Taking into consideration this fact, the course will be held in plain English for highly motivated students. The goal will be to keep their speaking motivation high and continue their learning outside of classroom.

Learning activities outside of classroom:

You have to spare time to study before the mini quiz, mid-term report and end-term exam. Also, studying the target vocabulary before class will be recommended.

Grading Criteria /Policy: A combination of participation(40%), mini-quiz(20%), mid-term essay(20%) and end-term(20%).

LANe200EA

Content-Based English D I (Gender Issues)

西田 佳子

サブタイトル：英語講読 D I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：・Beginner～Upper Intermediate, 参考 TOEIC スコア～595

・新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー問題関連の文献を読み、英文読解の力をつけるとともに、ジェンダー問題を考え、理解する。

【到達目標】

ジェンダー問題に関する長文を読み、全体を理解し、細部の英文解釈もできる。関連の語彙を獲得する。問題についての自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週、次回分の英文についての課題を提出してもらい、それを講評しながら授業を進める。それを活かす形で最後のレポートを提出してもらう。授業は zoom で行う。なお、下記の授業計画は、授業の状況によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ジェンダー問題への導入と、授業の進め方の説明
2	女子教育 1	日本における問題
3	女子教育 2	マララ・ユスフザイさん
4	女子教育 3	マララに続く人たち
5	女子教育 4	難民キャンプの問題
6	男女の役割分担 1	日本ではどうか
7	男女の役割分担 2	世界ではどうか
8	男女の役割分担 3	ステレオタイプについて考える
9	性暴力	Me Too movement について考える
10	家庭内暴力	コロナ禍のなかでなにが起こっているか
11	人身売買	インドの“カムラリ”制度について考える
12	児童婚	児童婚とはなにか。その現状と問題
13	イスラム社会におけるジェンダー問題	2018 年にはじめて解禁されたサウジアラビアでの女性の運転免許
14	まとめ	春学期のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読む英文の予習、指定された部分の日本語訳、あるいは要訳。本授業の準備学習時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

こちらで用意して、各自ダウンロードまたはプリントアウトをしていただきます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

課題 30 %、平常点 30 %、最後のレポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加するためのパソコンと通信環境。ビデオオン、マイクオンは必須とする。パソコンと通信環境は、配布された記事のダウンロードや、google classroom による課題提出にも必要。

【その他の重要事項】

特になし。

[Outline (in English)]

This course deals with gender issues in Japan and around the world by reading news articles and essays to enable the students to improve reading skill, gain understanding, and develop opinions on relevant issues.

Students are expected to have read and comprehended the material before each class and to be able to present their opinions, which takes at least four hours for a class.

Grading will be decided based on Term-end report(40%), in-class contribution(30%), and assignments(30%).

LANe300EA

Content-Based English D II (Gender Issues)

西田 佳子

サブタイトル：英語講読D II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

備考(履修条件等)：・Beginner~Upper Intermediate, 参考 TOEIC スコア~595

・新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジェンダー問題関連の文献を読み、英文読解の力をつけるとともに、ジェンダー問題を考え、理解する。

【到達目標】

ジェンダー問題に関する長文を読み、全体を理解し、細部の英文解釈もできる。関連の語彙を獲得する。問題についての自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週、次回分の英文についての課題を提出してもらい、それを講評しながら授業を進める。それを活かす形で最後のレポートを提出してもらう。授業はzoomで行う。なお、下記の授業計画は、授業の状況によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ジェンダー問題への導入と、授業の進め方の説明。春学期の内容の振り返り。
2	LGBTQ(1)	LGBTQ とは
3	LGBTQ(2)	日本国内での LGBTQ イシュー
4	LGBTQ(3)	海外における LGBTQ イシュー
5	LGBTQ(4)	LGBTQ をテーマにした小説
6	女性リーダー (1)	ニュージーランド首相アーダーン氏について
7	女性リーダー (2)	ドイツ首相メルケル氏について
8	女性リーダー (3)	アメリカ副大統領ハリス氏について
9	女性リーダー (4)	スーチー氏について
10	同性婚 (1)	外国での同性婚
11	同性婚 (2)	日本での同性婚
12	スポーツ	スポーツの世界におけるジェンダー問題
13	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと質疑応答
14	振り返り	フリーディスカッション レポート提出

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で読む英文の予習、指定された部分の日本語訳、あるいは要訳。本授業の準備学習時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

こちらで用意します。各自ダウンロードまたはプリントしてください。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 30 % , 平常点 30 % , 最後のレポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加するためのパソコンと通信環境。ビデオオン、マイクオンは必須とする。パソコンと通信環境は、配布された記事のダウンロードや、google classroom による課題提出にも必要

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with gender issues in Japan and around the world by reading news articles and essays to enable the students to improve reading skill, gain understanding, and develop opinions on relevant issues.

Students are expected to have read and comprehended the material before each class and to be able to present their opinions, which takes at least four hours for a class.

Grading will be decided based on Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

LANe300EA

Content-Based English E (Topics in Comparative Culture)

PAUL HOWL

サブタイトル：Topics in Comparative Culture

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：Advanced, 参考 TOEIC スコア 600～

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who:

- 1) plan to study abroad in an English-speaking country
- 2) have returned to Japan after living in an English-speaking country
- 3) wish to learn more about world cultures

【到達目標】

This course has three goals: 1) to show students who will soon study abroad what to expect from a North American classroom environment; 2) to allow students returning from study abroad to maintain their English level; 3) to introduce students to current topics in cross-cultural communication and understanding as well as share student topics through groups and presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: The class will be face to face, but in the even that the Covid situation gets worse, we will move the class online. Students will research a newspaper article relating to comparative cultures and present their findings in a group three times. Students will also present a power point presentation two times in the semester.

PLEASE NOTE THE FOLLOWING:

- 1)THIS CLASS IS CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH. Students with no confidence in their English listening or speaking skills should NOT take this class.
- 2)Students must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	introductions; Introduction to the textbook and newspaper articles
2	Newspaper article groups	Newspaper article groups Ch.2
3	Newspaper article groups	Newspaper article groups Ch.2
4	Introduce Power Point 1 Newspaper article groups	Newspaper article groups Ch.3
5	Newspaper article groups	Newspaper article groups Ch.3
6	Newspaper article groups	Newspaper article groups Ch.4
7	Power Point 1	Power Point 1 Ch.4
8	Power Point 1	Power Point 1 Ch.5
9	Introduce Power Point 2 Newspaper Article Groups	Newspaper article groups Ch.5
10	Newspaper article groups	Newspaper article groups Ch.6
11	Newspaper article groups	Newspaper article groups Ch.6
12	Power Point 2	Power Point 2 Ch.7
13	Power Point 2	Power Point 2 Ch.7
14	Final Written Test	Final Written Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook: Prism Reading 2

Handouts provided by instructor.

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation: 10%
Homework 20%
Newspaper Articles: 30%
Power Point Presentations: 30%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Each 100 minute class is a rare opportunity for you to interact in English. Don't waste the opportunity.
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This class is for students who:

- 1) plan to study abroad in an English-speaking country
- 2) have returned to Japan after living in an English-speaking country
- 3) wish to learn more about world cultures

LANd200EA

ドイツ語中級4・5・6

兼子 安弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語諸能力の向上や独検合格を目指して、読解力、語彙力、作文力を中心に学習する。到達目標は諸能力の向上が実現されることと具体的に独検3級合格、もしくはそれと同等のドイツ語力の獲得である。

【到達目標】

独検合格や中級ドイツ語として求められる知識を習得する、書籍、雑誌、新聞等の原文をある程度、読みこなすことができるようになる。具体的には独検3級に確実に合格する力をつける、もしくはそれと同等のドイツ語力の獲得である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちらから <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

見落とされがちなさまざまな重要表現や重要語彙を再確認するとともに、過去の独検問題にも取り組み、その傾向と対策を探る。ドイツ語初年度とはちがった観点からドイツ語を改めて見直す。

当授業は本学 hoppii を介した資料・課題提示型のオンライン授業である。各授業回にて、前週の資料を熟読したうえで、受講者はそれらをもとに提示された課題（たとえば独文和訳や独作文）をレポートとしてまとめ上げ、次週の授業前に提出する。そして担当者はそのレポートに細かいコメントを加えて、フィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	形容詞語尾の再確認	付加語的用法における形容詞語尾と形容詞の名詞化そして比較表現
第2回	独検対策	独検3級で要求されるドイツ語力について
第3回	独検対策	独検3級の長文読解の過去問題を検証、そして長文読解をするときのコツについて
第4回	独検対策	独検3級合格に必要なイディオム力育成
第5回	独検対策	否定表現 nicht と kein の使い分けと様々な否定表現紹介
第6回	独検対策	意外と知られていない einer や jemand の使い方、さらに小文字であらわされる名詞の数々
第7回	独検対策	3級の過去問題を検証
第8回	接続法一式	その変化と直接法との違い
第9回	間接話法と要求話法	その概論とさまざまな文例紹介
第10回	リーダーを読む	接続法一式が出てくるリーダーを読む
第11回	接続法二式	接続法二式とは何か、そしてその変化 非現実話法
第12回	接続法二式	非現実話法と婉曲表現（～ではないでしょうか）
第13回	接続法二式	接続法二式の出る文例をたくさん読む
第14回	習熟度チェック	独文和訳の筆記試験と春学期総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として自身のドイツ語力のチェック（どこがわかって、どこが曖昧か）を常に行っておく。授業後は担当者の説明をもとに、授業内容（イディオム、語彙）を再度チェックする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を hoppii にて配布します。

【参考書】

『パワーアップ・ドイツ語』 同出版社

【成績評価の方法と基準】

春学期の授業はオンラインでの開講となったため、課題（レポート）提出による評価になる。具体的には、授業1回目から授業13回目までの課題（レポート）をフル提出で50点とし、授業14回日の最終課題（レポート）を50点満点とする。

成績評価の基準としては、各課題（レポート）の総点から判断する。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲をこれまでよりも広範囲に設定し、そのぶん、難易度も少々上がってしまうかもしれないが、

重要表現にかんする例文の紹介もより充実したものになろうと思う。

また接続法も決してやさしい単元ではないので、できる限り分かりやすく説明していきたい。

【その他の重要事項】

この科目は「中級4・中級5・中級6」のうち1科目にのみ充当できる。「中級4」は「中級1」、「中級5」は「中級2」、「中級6」は「中級3」の単位を取得していることを履修の前提とする。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

To step up the abilities in German,for example reading,writing, speaking and vocabulary.

(Learning Objectives)

To pass the German- Certification(Dokken) of 3.degree is one of the final objects.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting students will be expected to complete the required sphere of report-material.

(Grading Criteria)

Final grade will be calculated according to the Mid-term report(50%) and the final report(50%).

LANd200EA

ドイツ語 1 A (講読)

兼子 安弘

サブタイトル：ドイツ語中級1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツの民話（文体はもう現代的、他ジャンルでも完全に応用可能）を読むことによって、文法的知識の補足とドイツの新聞や雑誌といったドイツ語のジャーナリスティックな文体を読みこなせる能力を身につける。

接続法を筆頭とする難易度の高い文法事項も理解する。

【到達目標】

ドイツの雑誌 Spiegel や Zeit、さらにネット上のドイツ関連の記事を調べつつも、読むことができる。

ドイツ語初年次、あまり触れられなかった、イディオムの確認、接続法のような重要な文法単元にかんする知識の習得。

具体的に言えば独検 3 級に合格すると同等のドイツ語力の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は本学 hoppii を介しての資料・課題提示型のオンライン授業である。

実践的な文体で書かれたテキストを読むことによって「慣れ」を身につける。授業ではあらかじめ次回進行する範囲とそこにたいする説明、訳注を明示しておくので、受講者は全員、その範囲を予習（対訳をする）しておき、当該授業前に課題として提出する。

そして当該授業においては、担当者による受講者が提出した課題のコメント欄に記する細かいコメント、注意をもって、フィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	文法後半事項の説明、	去年時、学習できなかった文法後半事項の説明 受動態
第 2 回	文法後半事項の説明	未学習の、定関係代名詞をとりあげる
第 3 回	独文和訳のさいの注意。 テキスト事前説明	『花の精』（以下テキスト）第 1 話の表現上の注意点説明
第 4 回	テキスト事前説明 個別文法として副詞	テキスト第 1 話後半の表現上の注意点説明 副詞にたいする認識の強化
第 5 回	テキスト事前説明 個別文法として比較表現	テキスト第 2 話の表現上の注意点説明 比較表現 詳論
第 6 回	テキスト事前説明 文法単元の形容詞の語尾、3 つの変化を復習	テキスト第 2 話の後半の表現上の注意点説明 形容詞の名詞化 詳論
第 7 回	テキスト事前説明 文法単元の副文を復習	テキスト第 3 話の表現上の注意点説明 作文による副文感覚を再認識
第 8 回	テキスト事前説明 再帰動詞とその用法を復習	テキスト第 3 話後半の表現上の注意点説明 再帰表現の再認識
第 9 回	テキスト事前説明 文法単元の助動詞を読む	テキスト第 4 話の表現上の注意点説明 助動詞とさまざまな不定詞（完了・受動）の組み合わせを学ぶ
第 10 回	接続法 1 式と間接話法をプリントを用いて学習	読解と作文の双方向で学習
第 11 回	接続法 1 式と要求話法をプリントを用いて学習	読解と作文の双方向で学習
第 12 回	テキスト事前説明 さまざまな難単語の説明	テキスト第 4 話中盤の表現上の注意点 doch の用法
第 13 回	テキスト事前説明 さまざまな難単語の説明	テキスト第 4 話後半の表現上の注意点 da の用法
第 14 回	習熟度の最終チェックとしての独文和訳テスト 文法事項の再確認	習熟度チェックとテキストの練習問題に取り組む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、上記で述べた進行範囲の丁寧な予習（読み発音と対訳）は絶対しておかねばならない。

それを課題として提出し、また課題提出後は、担当者が当該部分終了後に配布する参考訳などをもとにして、授業内容（重要表現、語彙）を確認せねばならない。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『花の精』 同学社

【参考書】

『独文解釈の研究』 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業 1 回目から 13 回目までの課題を中間課題とし、コンプリート提出で 50 点満点とし、授業 14 回目の最終課題を 50 点満点とする。

なお、成績評価の基準としては、課題の総合点から、受講者のドイツ語における習熟度が十分なものと判断されることをあけておく。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲を拡げ、それに対する例文をもっと紹介しようと思う。その他に受講者のドイツ語にたいする、さまざまな潜在化の要望を引き出すよう努め、そしてそれに柔軟に対応していきたい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course are to review of german grammar and to memorize

german idiomatic representations and to learn the conjunctive expressions.

(Learning Objectives)

The goal of this course are to gain ability to read and understand the german newspaper and magazine.

And to gain ability to pass the German -Certification(Dokuken) of 3.degree is one of the final object.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting students will be expected to complete the required sphere of the text.

(Grading Criteria)

Final grade will be calculated according to the Mid-term report(50%) and final report(50%).

LANd200EA

ドイツ語 2 A (講読)

兼子 安弘

サブタイトル：ドイツ語中級 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツの民話（文体はもう現代的、民話以外の他ジャンルでも応用可能）を読むことによって、文法的知識の補足と、ドイツの新聞や雑誌といったジャーナリスティックな文体も読みこなせる能力を身につける。

初年度、詳細に語られなかった接続法を筆頭とする難易度の高い文法事項も理解する。

さらには必須イディオムもしっかり覚える。

【到達目標】

ドイツの雑誌 Spiegel や Zeit、ネット上のドイツ関連の記事を読んで、内容を理解することができる。

ドイツ語初年次、あまり触れられなかったイディオムの確認、接続法のよいうな重要文法単元の知識の習得。

具体的に言えば、独検 3 級に合格するのと同等いやそれ以上のドイツ語力の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は本学 hoppii を介した資料・課題提示型のオンライン授業である。担当者があらかじめ次回進行する範囲を明示し、そこにかんする説明、訳注を提示しておくので、受講者はその範囲を自習（対訳）をしっかりと準備しておく。そして次回の授業前までに課題（レポート）として、hoppii にそれを発表する。それにたいして、担当者は細かい説明、注意、添削、コメントを付記する、そしてそれをもってフィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ドイツ語の時制（現在形から未来完了まで）に関する基本事項の復習とトリビア	テキスト『花の精』第 5 課前半を読む
第 2 回	助動詞とさまざまな不定詞の組み合わせについて説明	テキスト第 5 課後半を読む。そして 5 課全体の総括。
第 3 回	文法単元、関係代名詞の変則的な用法をプリントを用いて説明	テキスト第 6 課前半を読む、関係代名詞・関係文詳論。
第 4 回	文法単元、関係代名詞の変則的な用法をプリントを用いて説明	テキスト第 6 課後半を読む。
第 5 回	文法単元、比較表現の多様性をプリントを用いて説明	テキスト第 7 課前半を読む。作文による比較表現再確認。
第 6 回	文法単元、比較表現の多様性をプリントを用いて説明	テキスト第 7 課後半を読む。
第 7 回	ドイツ語におけるレトリックを隠喩を中心に説明	テキスト第 8 課前半を読む。別プリントにて、レトリック概論。
第 8 回	ドイツ語におけるレトリックを否定話法を中心に説明	テキスト第 8 課後半を読む。否定表現総まとめ。
第 9 回	文法単元、接続法 2 式の基本知識	接続法 2 式の表現方法概論。
第 10 回	文法単元、接続法 2 式の用法説明、	非現実話法を中心に。
第 11 回	文法単元、接続法 2 式の用法と時制の説明	非現実話法の時制詳論。
第 12 回	文法単元、接続法 2 式の用法と説明	婉曲話法と接続法全般の総まとめ
第 13 回	文法実行、関係副詞の多様な用法を説明	テキスト第 9 課全体を読む。
第 14 回	習熟度最終チェックとしての独文和訳のテスト。重要表現総まとめ	プリントを用いて、類出する単語、熟語をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された範囲の徹底した予習（発音と読み、対訳）を準備学習として行わなければならない。授業後は授業内容（重要表現、語彙）を必ず確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『花の精』 同学社

【参考書】

『独文解釈の研究』 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業1回目から13回目までの課題を中間課題とし、そのコンプリート提出と内容をかながみて、50点満点とする。

そして授業14回目の最終課題を50点満点とする。結果、成績評価の基準としては課題の総合点から、受講者のドイツ語における習熟度が点数的に十分なものと判断されることを挙げておく。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲をさらに拡げて、ドイツ語初年度ではふれられなかった、より詳細な内容を持つ重要表現をもっと紹介したい。

また異文化理解の面から、ドイツに関するさまざまな日本との相違点も紹介したい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course are to review of german grammar and to memorize german idiomatic representations and to learn the conjunctive expression.

(Learning Objectives)

The goal of this course are to gain ability to read and understand the german newspaper and magazine.

And to gain ability to pass the German-Certification(Dokuken) of 3.degree

is one of the final object.

(Learning activities outside of the classroom)

Before each class meeting students will be expected to complete the required sphere of the text.

(Grading Criteria)

Final grade will be calculated according to the Mid-term report(50%) and final report(50%).

LANd200EA

ドイツ語1B（文法）

濱中 春

サブタイトル：ドイツ語中級2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で学んだドイツ語の知識を確実に身につけるとともに、基本的な文法全般を習得し、日常的なドイツ語の理解力を養います。

【到達目標】

- ・ドイツ語の基本的な文法全般の知識を習得する。
- ・平易な文章の要点を把握し、日常的な会話を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

事前に予習してきた文法の練習問題を中心に授業を進めながら、独検3・4級に対応した練習もおこないます。

文法については、初級で学んだ事項は簡潔に復習し、新しい事項はくわしく解説してしっかり練習します。

質問や予習・課題についてのフィードバックは授業中におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
2	Lektion 3	動詞の現在人称変化（不規則動詞） 男性弱変化名詞
3	Lektion 4 (1)	定冠詞類と不定冠詞類
4	Lektion 4 (2)	人称代名詞
5	Lektion 5 (1)	前置詞の格支配
6	Lektion 5 (2)	前置詞と人称代名詞の融合形
7	Lektion 6	場所・方向・時間を表す前置詞 分離動詞と非分離動詞 不定代名詞
8	Lektion 7 (1)	話法の助動詞
9	Lektion 7 (2)	未来形 使役動詞、知覚動詞
10	Lektion 8	再帰代名詞、再帰動詞 前置詞を用いた熟語・慣用表現
11	Lektion 9 (1)	形容詞の用法、格語尾
12	Lektion 9 (2)	形容詞の名詞化
13	Lektion 10	比較変化、比較表現
14	期末試験・まとめ	学習内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業範囲の練習問題を予習し、前回の授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

清水薫・石原竹彦『シュリュッセルードイツ語への鍵 ノイ』（第三書房）

その他の教材は配布します。

【参考書】

独和辞典

その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況、授業への参加状況、小テスト・課題）60 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解度に柔軟に対応したい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic grammar of German and the ability to understand the main points of plain text and the everyday conversation.

Students should prepare for the exercises of the next class meeting and review the previous lesson. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the following:

Quality of preparation for the class and in-class contributions, quizzes or assignments (60%)

End-term examination (40%).

LANd200EA

ドイツ語2B（文法）

濱中 春

サブタイトル：ドイツ語中級5

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で学んだドイツ語の知識を確実に身につけるとともに、基本的な文法全般を習得し、日常的なドイツ語の理解力を養います。

【到達目標】

- ・ドイツ語の基本的な文法全般の知識を習得する。
- ・平易な文章の要点を把握し、日常的な会話を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

事前に予習してきた文法の練習問題を中心に授業を進めながら、独検 3・4 級に対応した練習もとりあげます。

文法については、初級で学んだ事項は簡潔に復習し、新しい事項はくわしく解説してしっかり練習します。

質問や予習・課題についてのフィードバックは授業中におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
	Lektion 11 (1)	動詞の 3 基本形
2	Lektion 11 (2)	過去形
3	Lektion 11 (3)	接続詞
4	Lektion 12 (1)	現在完了形
5	Lektion 12 (2)	完了の時制
6	Lektion 12 (3)	zu 不定詞
7	Lektion 13 (1)	受動態
8	Lektion 13 (2)	分詞
9	Lektion 14 (1)	関係代名詞 指示代名詞
10	Lektion 14 (2)	不定関係代名詞 関係副詞
11	Lektion 15 (1)	接続法第 1 式
12	Lektion 15 (2)	接続法第 2 式
13	復習	補足と復習
14	期末試験・まとめ	学習内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業範囲の練習問題を予習し、前回の授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

清水薫・石原竹彦『シュリュッセルードイツ語への鍵 ノイ』（第三書房）

その他の教材は配布します。

【参考書】

独和辞典

その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況、授業への参加状況、小テスト・課題）60 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解度に柔軟に対応したい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic grammar of German and the ability to understand the main points of plain text and the everyday conversation.

Students should prepare for the exercises of the next class meeting and review the previous lesson. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the following:

Quality of preparation for the class and in-class contributions, quizzes or assignments (60%)

End-term examination (40%).

LANd200EA

ドイツ語 1 C (会話)

MARKUS GRASMUECK

サブタイトル：ドイツ語中級3

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 3 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 4 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 5 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 6 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第 7 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第 8 回	Die schoensten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 9 回	Die schoensten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 10 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第 11 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第 12 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第 13 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第 14 回	Pruefung	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語 三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。(授業時の持参は不要)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)
期末試験 (40%)
期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)

This course introduces German conversation.
(Learning Objectives)
The goal is to be able to have simple conversations in German for daily life.
Learn German through practice in conversation, pronunciation and listening.

(Learning activities outside of classroom)
Homework and review of vocabulary learned in each class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd200EA

ドイツ語2C (会話)

MARKUS GRASMUECK

サブタイトル：ドイツ語中級6

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する授業です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Wiederholung	復習
第2回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第3回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第4回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, . . . のひとり, . . . のひとつ, Student 型の男性名詞)
第5回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, . . . のひとり, . . . のひとつ, Student 型の男性名詞)
第6回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um ..., Was fuer ein...?)
第7回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um ..., Was fuer ein...?)
第8回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第9回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第10回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「~だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第11回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「~だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第12回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)

第13回 Was haeltst du davon? (意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)

第14回 Pruefung 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語 三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。(授業時の持参は不要)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

The goal is to be able to have simple conversations in German for daily life.

Learn German through practice in conversation, pronunciation and listening.

(Learning activities outside of classroom)

Homework and review of vocabulary learned in each class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語3A・5A（講読）

濱中 春

サブタイトル：ドイツ語上級A1・B1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させます。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深めます。

【到達目標】

- ・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。
- ・現代のドイツ語圏の社会や文化について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。また、各課の練習問題で文法や成句の意味を確認します。各課でとりあげられているトピックについて話し合う機会も設けます。

予習の内容や質問には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 現代ドイツ語圏事情
2	Kapitel 01（前半）	ベルリン・ブランデンブルク空港の開港（1）
3	Kapitel 01（後半）	ベルリン・ブランデンブルク空港の開港（2）
4	Kapitel 02（前半）	コロナ禍中の学校教育（1）
5	Kapitel 02（後半）	コロナ禍中の学校教育（2）
6	Kapitel 03（前半）	ヤーノシュ生誕 90 周年（1）
7	Kapitel 03（後半）	ヤーノシュ生誕 90 周年（2）
8	Kapitel 04（前半）	夏時間・冬時間の切り替え（1）
9	Kapitel 04（後半）	夏時間・冬時間の切り替え（2）
10	Kapitel 05（前半）	コロナ禍中の障害者（1）
11	Kapitel 05（後半）	コロナ禍中の障害者（2）
12	Kapitel 06（前半）	2021 年夏の大水害（1）
13	Kapitel 06（後半）	2021 年夏の大水害（2）
14	補足とまとめ	授業内容の補足と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。

授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10 2022 年度版』（朝日出版社）

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）

在間進『リファレンス・ドイツ語』（第三書房）

その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況・授業への参加状況）100 %

【学生の意見等からの気づき】

各回のテキストの範囲や授業の進め方は、受講生の意見もふまえて決めます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the sentences and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語4A・6A（講読）

濱中 春

サブタイトル：ドイツ語上級A4・B4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させます。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深めます。

【到達目標】

- ・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。
- ・現代のドイツ語圏の社会や文化について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。また、各課の練習問題で、文法や成句の意味を確認します。各課でとりあげられているトピックについて話し合う機会も設けます。学期後半は、最新のニュース記事などを講読します。

予習内容や質問には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 現代ドイツ語圏事情
2	Kapitel 07 (前半)	砂糖という甘い敵 (1)
3	Kapitel 07 (後半)	砂糖という甘い敵 (2)
4	Kapitel 08 (前半)	ダウン症とともに暮らす社会 (1)
5	Kapitel 08 (後半)	ダウン症とともに暮らす社会 (2)
6	Kapitel 09 (前半)	ウィンタースポーツ (1)
7	Kapitel 09 (後半)	ウィンタースポーツ (2)
8	Kapitel 10 (前半)	「白バラ」の反ナチス抵抗運動 (1)
9	Kapitel 10 (後半)	「白バラ」の反ナチス抵抗運動 (2)
10	追加テキスト (1)	ドイツ語圏の最新事情 (1)
11	追加テキスト (2)	ドイツ語圏の最新事情 (2)
12	追加テキスト (3)	ドイツ語圏の最新事情 (3)
13	追加テキスト (4)	ドイツ語圏の最新事情 (4)
14	補足とまとめ	補足と授業内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。

授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10 2022 年度版』（朝日出版社）

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）
在間進『リファレンス・ドイツ語』（第三書房）
その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況・授業への参加状況）100 %

【学生の意見等からの気づき】

各回のテキストの範囲や授業の進め方は、受講生の意見もふまえて決めます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the sentences and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語3B・5B（表現）

MARKUS GRASMUECK

サブタイトル：ドイツ語上級A2・B2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 3 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 4 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 5 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 6 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 7 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 8 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 9 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 10 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 11 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 12 回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第 13 回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第 14 回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 薬谷郁美（執筆協力：太田達也, Marco Raindl）（2006）：『Modelle 3（問題発見のドイツ語 3）』三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

Practice oral expression and listening comprehension related to general conversation, simple explanation, and reporting.

Students will practice oral expression and listening skills according to the above objectives.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to review the German vocabulary you will learn in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語4B・6B (表現)

MARKUS GRASMUECK

サブタイトル：ドイツ語上級A5・B5

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Wiederholung	復習
第2回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第3回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第4回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第5回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第6回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現 ほか
第7回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現ほか
第8回	Der sechsjaehrige Autofahrer	接続法I式 ほか
第9回	Der sechsjaehrige Autofahrer	接続法I式 ほか
第10回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第11回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第12回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第13回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第14回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 薬谷郁美 (執筆協力：太田達也, Marco Raindl) (2006) : 『Modelle 3 (問題発見のドイツ語 3)』三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。(授業時の持参は不要)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

Practice oral expression and listening comprehension related to general conversation, simple explanation, and reporting.

Students will practice oral expression and listening skills according to the above objectives.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to review the German vocabulary you will learn in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd100EA

ドイツ語コミュニケーション入門A

MARKUS GRASMUECK

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	Einfuehrung
第 2 回	第 1 課 Ich heiße Michaela.	Lektion 1 Ich heiße Michaela. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 ほか
第 3 回	第 1 課 Ich heiße Michaela.	Lektion 1 Ich heiße Michaela. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 ほか
第 4 回	第 2 課 Kommst du nicht aus Deutschland?	Lektion 2 Kommst du nicht aus Deutschland? 動詞の現在人称変化のまとめ ほか
第 5 回	第 2 課 Kommst du nicht aus Deutschland?	Lektion 2 Kommst du nicht aus Deutschland? 動詞の現在人称変化のまとめ ほか
第 6 回	第 3 課 Wo ist das Büro?	Lektion 3 Wo ist das Büro? 名詞の性 ほか
第 7 回	第 3 課 Wo ist das Büro?	Lektion 3 Wo ist das Büro? 名詞の性 ほか
第 8 回	第 4 課 Ist das ein Computer?	Lektion 4 Ist das ein Computer? haben の現在人称変化 ほか
第 9 回	第 4 課 Ist das ein Computer?	Lektion 4 Ist das ein Computer? haben の現在人称変化 ほか
第 10 回	第 5 課 Mein Laptop ist unpraktisch.	Lektion 5 Mein Laptop ist unpraktisch. 所有冠詞の mein ほか

第 11 回	第 5 課 Mein Laptop ist unpraktisch. 所有冠詞の mein ほか	Lektion 5 Mein Laptop ist unpraktisch.
第 12 回	第 6 課 Ein Familienfoto 名詞の複数形 ほか	Lektion 6 Ein Familienfoto
第 13 回	第 6 課 Ein Familienfoto 名詞の複数形 ほか	Lektion 6 Ein Familienfoto
第 14 回	試験・まとめと解説	Pruefung

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Andreas Riessland, 藁谷郁美, 木村護郎クリストフ, 平高史也, Marco Raindl, 太田達也 (2007) : 『Modelle 1 neu (問題発見のドイツ語 1 改訂版)』。三修社

【参考書】

その他の教材や参考書は授業中に提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

Practice oral expression and listening comprehension related to general conversation, simple explanation, and reporting.

Students will practice oral expression and listening skills according to the above objectives.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd100EA

ドイツ語コミュニケーション入門B

MARKUS GRASMUECK

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	Einfuehrung
第 2 回	第 7 課 Dieser Bus fährt zum Bahnhof. 方向を表す前置詞の表現 ほか	Lektion 7 Dieser Bus fährt zum Bahnhof.
第 3 回	第 7 課 Dieser Bus fährt zum Bahnhof. 方向を表す前置詞の表現 ほか	Lektion 7 Dieser Bus fährt zum Bahnhof.
第 4 回	第 8 課 Ich brauche Briefumschläge. möchte の用法 ほか	Lektion 8 Ich brauche Briefumschläge.
第 5 回	第 8 課 Ich brauche Briefumschläge. möchte の用法 ほか	Lektion 8 Ich brauche Briefumschläge.
第 6 回	第 9 課 Eine Tour durch Kamakura 冠詞類の格変化 ほか	Lektion 9 Eine Tour durch Kamakura
第 7 回	第 9 課 Eine Tour durch Kamakura 冠詞類の格変化 ほか	Lektion 9 Eine Tour durch Kamakura
第 8 回	第 10 課 Das Büro wird sauber. 3 格の目的語をとる動詞 ほか	Lektion 10 Das Büro wird sauber.
第 9 回	第 10 課 Das Büro wird sauber. 3 格の目的語をとる動詞 ほか	Lektion 10 Das Büro wird sauber.
第 10 回	第 11 課 Wie spät ist es? 話法の助動詞 ほか	Lektion 11 Wie spät ist es?
第 11 回	第 11 課 Wie spät ist es? 話法の助動詞 ほか	Lektion 11 Wie spät ist es?
第 12 回	第 12 課 Eine Hochzeit in Deutschland 動詞の過去分詞 ほか	Lektion 12 Eine Hochzeit in Deutschland.

第13回 第12課 Eine Lektion 12
Hochzeit in Deutschland
Deutschland
動詞の過去分詞 ほか
第14回 試験・まとめと解説 Pruefung

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Andreas Riessland, 蘆谷郁美, 木村護郎クリストフ, 平高史也, Marco Raindl, 太田達也 (2007) : 『Modelle 1 neu (問題発見のドイツ語1改訂版)』。三修社

【参考書】

その他の教材や参考書は授業中に提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

Practice oral expression and listening comprehension related to general conversation, simple explanation, and reporting.

Students will practice oral expression and listening skills according to the above objectives.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

ARSA100EA

ドイツ語圏の社会と文化

濱中 春

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語圏の社会や文化の諸相を学ぶことを通して、ドイツ語という言葉が使われている世界について知識と理解を深め、異文化への視野を広げます。

※ドイツ語の知識は問いません。ドイツ語を履修していなくても、この授業を履修できます。

【到達目標】

ドイツ語圏の社会や文化の特徴とそれらの歴史的背景について説明することができる。また、それらを自分の属する社会や文化と比較して共通点や相違点を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツを中心として、ドイツ語圏の社会・文化・歴史などにかんするトピックを大きく4つの観点にわけてとりあげていきます。

授業は基本的に講義形式でおこないますが、受講生のコメントを紹介したり、受講生同士で意見交換をしたりする機会も設けます。

質問や意見には授業中、あるいは学習支援システムを通じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方 ドイツ語圏のイメージ
第2回	ドイツ語圏	ドイツ、オーストリア、スイス
第3回	政治と社会 (1)	連邦制と EU
第4回	政治と社会 (2)	東西ドイツの分裂と再統一
第5回	政治と社会 (3)	移民と難民
第6回	暮らしと文化 (1)	エコロジー、市民農園、自然療法
第7回	暮らしと文化 (2)	ビールとソーセージ?
第8回	暮らしと文化 (3)	クリスマス、イースター、カーニヴァル
第9回	文化遺産と歴史 (1)	城 (ブルクとシュロス)
第10回	文化遺産と歴史 (2)	ミュージアムの原形と現在
第11回	文化遺産と歴史 (3)	記念碑、過去の克服、想起の文化
第12回	中小都市の個性 (1)	ゲッティンゲン
第13回	中小都市の個性 (2)	ゲルリッツ
第14回	中小都市の個性 (3)	ワイマール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・参考文献を読んだり、授業で紹介された映像作品を見て、知識を深める。

・自分の関心のあるトピックについて調べ、レポート課題に取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房）

浜本隆志ほか『最新ドイツ事情を知るための50章』（明石書店）

『ドイツ文化事典』（丸善出版）

その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、アンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduce the students to various aspects of German-speaking society and culture. At the end of the course, you are expected to have acquired the knowledge about the world in which the German language is used and developed a perspective on foreign culture.

Outside the calssroom, you will be expected to read the references and watch the films introduced in class, research the topics of your interest, and write the term-end report.

Grading will be decided on the following: in-class contribution (50%), term-end paper (50%).

LANf200EA

フランス語中級4・5・6

美頭 千不美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の総復習。およびその延長線上で問題となる中級文法事項の学習。

仏検3級合格ラインの実力を身につけること。

【到達目標】

フランス語の初級文法を確実に習得し、且つ中級文法の初歩を徐々に固めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 授業中に仏検4級・3級の過去問を解く。
- 不正解だった問題の文法事項に関する類題を解く。

* 超少人数のクラスであるため、受講生個人の實力に合わせた個別指導の形態を取ることが可能である。常に、初級文法における未習得分野・弱点の克服を重要な課題として各回の授業展開を臨機応変に考える。

* なお、オンライン授業を実施する場合、語学であるので本来はZoomによる授業を行なうべきであるが、本授業では基本的にZoomによる授業は行なわず、学習支援システムを活用した添削指導中心の、オンデマンド型の授業を行なう可能性がある。その場合、具体的には、課題欄に提出される問題を期限までに提出して添削指導を受け、自分の弱点を把握し克服して、次回の課題に臨むという進行的かたちを取る。この場合、完全な個別指導なので、わからないこと、質問、要望などを私に伝えやすくなる。また、オンラインに切り替えた場合、毎回、フランスに関する話の種（たね）を入れたブログ風の記事を作成し、添付資料として配信するので、それを読んで知識を広げ、フランス通になるきっかけをつかみ、私に感想や意見を言えるようにするのも、語学学習と併せて大事な訓練であると考えている。

* いずれにせよ、初回のガイダンスで詳細を伝えることとするので、学習支援システムの「お知らせ」欄に告知される案内に留意されたし。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none">▪ 自己紹介▪ 授業内容と方法の確認▪ 簡単な実力テスト（実力がわからないと適切な対処ができないため）
第2回	仏検4級過去問①	<ul style="list-style-type: none">▪ 冠詞の用法▪ 前置詞と定冠詞の縮約▪ 人称代名詞（直接・間接目的語、強勢形）▪ 複合過去・半過去
第3回	仏検4級過去問②	<ul style="list-style-type: none">▪ 前置詞（sur,pour,devant）の意味・用法▪ 整序問題▪ 会話文読解▪ 聞き取り問題

- 第4回 仏検4級過去問③
- 対話文完成問題
 - 単純未来・命令法
 - 冠詞の用法
 - 複合過去・半過去
- 第5回 仏検4級過去問④
- **devoir** の用法
 - 代名動詞
 - 比較級
 - 序数詞
 - 会話文読解
 - 聞き取り問題
- 第6回 仏検3級過去問①
- 日常的な慣用表現の単語の書き取り
 - 中性代名詞 (**le, en, y**)
 - 関係代名詞
 - 代名動詞
- 第7回 仏検3級過去問②
- 整序問題
 - 対話文完成問題
 - 長文読解問題
 - 聞き取り問題
- 第8回 仏検3級過去問③
- 日常的な会話表現の単語の書き取り
 - 動詞の法・時制を踏まえた活用形の書き取り
 - 前置詞 (**depuis, avec, après**) の用法
 - 整序問題
- 第9回 仏検3級過去問④
- 対話文完成問題
 - 長文読解問題
 - 聞き取り問題
- 第10回 仏検3級過去問⑤
- 日常的な慣用表現の単語の書き取り
 - 動詞の法・時制を踏まえた活用形の書き取り
 - 前置詞 (**jusqu'à, en, malgré**) の用法
 - 整序問題
- 第11回 仏検3級過去問⑥
- 対話文完成問題
 - 長文読解問題
 - 聞き取り問題
- 第12回 仏検3級過去問⑦
- 日常的な慣用表現の単語の書き取り
 - 動詞の法・時制を踏まえた活用形の書き取り
 - 代名詞 (人称代名詞、中性代名詞、**aucune**) の用法
 - 前置詞 (**vers, selon, en, de**) の用法
 - 整序問題
- 第13回 仏検3級過去問⑧
- 対話文完成問題
 - 長文読解問題
 - 聞き取り問題
- 第14回 総復習：弱点分野を再確認し、重点的に反復練習。
- 受講生の弱点分野に関する練習問題の解答・解説

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席の有無、授業態度、毎回の課題の習得度を評点化）のみにより100点満点で評価する。学期末試験（筆記試験）を特に行なわない代わりに、毎回の授業参加が重視されるため、あまりに欠席しがちであると単位を取得できない惧（おそ）れがある。

【学生の意見等からの気づき】

語学は、とかく学習の目的を見失いがちで、途中で意欲を失い、挫折することも多いと思う。そこで、本授業では、受講生のそのときどきの関心に合わせ、書籍・映像や音楽等に触れたりもしながら、多角的にフランス文化の簡単な紹介を随時行なう。そうした時間を多少なりとも共有することで、興味・知的好奇心を互いに刺激し合い、フランス的なものへの関心を新たに自分の中に呼び覚ましてもらう。そして、今自分がフランス語を学ぶことの意味や必要性を改めて確認してもらう。また、一緒にフランス語を学ぶことで、フランスに関する意外な知識を増やし、ちょっとしたフランス通になってもらいたいし、フランス語の実力を自分の生きる力の一つに加えてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続することの可能な通信機器（スマートフォン等）は、持参していると便利である。

【その他の重要事項】

書籍でも電子辞書でも、仏和辞典（中辞典）が手元にあることが望ましい。

【Outline (in English)】

- **Course outline** : A comprehensive review of beginner French grammar. Learning intermediate grammar matters that are problematic on the basis of and its extension. The goal is to pass Level 3 in the Practical French Proficiency Test.

- **Learning objectives** : Make sure you master the beginner's grammar in French and gradually solidify the basics of intermediate grammar.

- **Learning activities outside of classroom** : Using the textbooks used in the beginner / intermediate classes, while dealing with the past questions of the Test in the Practical French Proficiency, review what you have learned so far. It is important for you to be aware of which grammar you are not mastering well and to try to overcome your weaknesses. If you are studying seriously, you will naturally have questions and questions, so it is important that you do not hesitate to ask questions, solve the problems, and be prepared to move on to the next step.

- **Grading criteria** : Evaluate on a 100-point scale based only on normal scores (whether attendance, class attitude, and degree of acquisition of each task are graded). Instead of taking the final exam (written exam) in particular, participation in each class is emphasized, so if you tend to be absent too much, you may not be able to earn credits.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 初級・中級クラスで使用したテキストを用い、仏検の過去問を扱いながら、これまで学習してきたことをひたすら復習する。どの文法事項をよくマスターしていないかを、自分できちんと自覚し、弱点の克服に努めることが肝要である。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- 真面目に学習していれば当然わからないことや疑問が出てくるはずなので、遠慮せずに積極的に質問をして問題を解決し、次のステップに進もうとする気構えが大事。

【テキスト（教科書）】

- 初回ガイダンスの折に受講生の要望を入れて選定する。仏検過去問や練習問題を教材として扱う場合は、プリントを配布して教材とする。

【参考書】

受講生に合わせて、授業中に適宜指示する。

LANf200EA

フランス語 1 A (講読)

高橋 久美

サブタイトル：フランス語中級 1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級文法を学んだ学習者が、平易でかつ読み応えのある文章を読むことで、中級フランス語を身につける。

【到達目標】

・辞書を引きながら、自力である程度まとまった分量の文章を読みこなすことができる。
・テキスト読解によって新しい語彙や表現を習得し、「フランス語 1A」「フランス語 2A」をきちんと一年間学べば、実用フランス語技能検定試験 3 級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・中級用「時事フランス語」読本を使って、初級フランス語の基礎を復習しながら、発音練習や文法練習問題も混ぜて、長文読解の練習をする。
・授業のはじめに、前回の課題等に対する講評や解説を行う。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。
・この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 1. Fauchon	授業の進め方の説明、 フォション 長文読解 (前半)
2	1. Fauchon (続き)	フォション 長文読解 (後半)
3	1. Fauchon (続き)	練習問題
4	2. La Sorbonne	ソルボンヌ 長文読解
5	2. La Sorbonne (続き)	練習問題
6	3. 5G	5G 長文読解
7	3. 5G (続き)	練習問題
8	4. Juliette Gréco	ジュリエット・グレコ 長文読解
9	4. Juliette Gréco (続き)	練習問題
10	5. La France aux temps du corona	コロナ時代のフランス 長文読解
11	5. La France aux temps du corona (続き)	練習問題
12	6. Le cirque sans animaux	動物のいないサーカス 長文読解
13	6. Le cirque sans animaux (続き)	練習問題
14	7. La caricature	カリカチュア 長文読解のヒント 練習問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・必ず自分で辞書を使って予習や課題に取り組むこと。
・しっかり復習をして小テストに臨むこと。
・付属の CD を利用し、自分で繰り返し読む練習をすること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

石井洋二郎、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2022 年度版』、朝日出版社、2022 年。(2090 円 本体 1900 円+税 10%)

【参考書】

・一年次に使用した教科書。
・仏和辞書 (紙ポケット版は不適、プチ・ロワイヤル、スタンダードなど用例が載っている辞書)。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しない。
成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50% (小テスト、授業参加度含む) とする。

【学生の意見等からの気づき】

・対面とオンライン (Zoom) を交互に行うので、それぞれの長所を生かした授業を行います。
・講読の授業ですが、音読練習も丁寧に行います。
・今のフランスおよびフランス語圏の話題を通して、言葉の背景にある社会や文化の多様な広がりを知ることができるでしょう。
・分かりにくいところは、教室でも Zoom でも遠慮なくその場で質問してください。

【Outline (in English)】

The aim of this intermediate French course is to help students improve their reading comprehension. At the end of the course, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 3 level. Before / after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANF200EA

フランス語 2 A (講読)

高橋 久美

サブタイトル：フランス語中級 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級文法を学んだ学習者が、平易でかつ読み応えのある文章を読むことで、中級フランス語を身につける。

【到達目標】

- ・辞書を引きながら、自力である程度まとまった分量の文章を読みこなすことができる。
- ・テキスト読解によって新しい語彙や表現を習得し、「フランス語 1A」「フランス語 2A」をきちんと一年間学べば、実用フランス語技能検定試験 3 級レベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・中級用「時事フランス語」読本を使って、初級フランス語の基礎を復習しながら、発音練習や文法練習問題も混ぜて、長文読解の練習をする。
- ・授業のはじめに、前回の課題等に対する講評や解説を行う。
- ・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。
- ・この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期末課題の復習 8. Asahumi Yamashita, <i>l'homme qui écoute les légumes</i>	春学期末課題の復習、 山下朝史—野菜の声を聞く男 長文読解 (前半)
2	8. Asahumi Yamashita, <i>l'homme qui écoute les légumes</i> (続き)	山下朝史—野菜の声を聞く男 長文読解 (後半)
3	8. Asahumi Yamashita, <i>l'homme qui écoute les légumes</i> (続き)	練習問題
4	9. Congé paternité	父親の育児休暇 長文読解
5	9. Congé paternité(続き)	練習問題
6	10. Le chômage	失業 長文読解
7	10. Le chômage(続き)	練習問題
8	11. Radio France	ラジオ・フランス 長文読解
9	11. Radio France(続き)	練習問題
10	12. Marie-Antoinette, icône pop	マリー・アントワネット、ポップなアイコン 長文読解
11	12. Marie-Antoinette, icône pop (続き)	練習問題
12	13. Le bénévolat	ボランティア 長文読解
13	13. Le bénévolat(続き)	練習問題
14	14. Zola, écrivain et journaliste	ゾラ、作家にしてジャーナリスト 長文読解のヒント 練習問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・必ず自分で辞書を使って予習や課題に取り組むこと。
- ・しっかり復習をして小テストに臨むこと。
- ・付属の CD を利用し、自分で繰り返し読む練習をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

石井洋二郎、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2022 年度版』、朝日出版社、2022 年。(2090 円 本体 1900 円+税 10%)

【参考書】

- ・一年次に使用した教科書。
- ・仏和辞書 (紙ボケット版は不適、プチ・ロワイヤル、スタンダードなど用例の載った辞書)。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しない。
成績評価の内訳は、課題 50%、平常点 50% (小テスト、授業参加度含む) とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・対面とオンライン (Zoom) を交互に行うので、それぞれの長所を生かした授業を行います。
- ・講読の授業ですが、音読練習も丁寧に行います。
- ・今のフランスおよびフランス語圏の話題を通して、言葉の背景にある社会や文化の多様な広がりを知ることができるでしょう。
- ・分かりにくいところは、教室でも Zoom でも遠慮なくその場で質問してください。

【Outline (in English)】

The aim of this intermediate French course is to help students improve their reading comprehension. At the end of the course, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 3 level. Before / after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on assignments (50%) and in-class contribution (50%).

LANf200EA

フランス語 1 B (文法)

高橋 愛

サブタイトル：フランス語中級2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中級学習者向けの教科書を使用し、初級 A・B で学習した内容も丁寧に復習しながら、「読む・書く・話す・聞く」のすべての場面において必要な文法知識や語彙、表現を習得する。

【到達目標】

基本的な語句や表現を用いた簡単な構文による内容を理解し、直説法、条件法、接続法の動詞を使うことができる。「フランス語中級2」と「フランス語中級5」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験3級レベルに十分達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・教科書の一課につき、二回の授業を充てる。一回目は主に文法の説明と確認、二回目はそれらを生かした具体的な表現の習得 (短い読み物やフランスで役に立つ会話練習) と練習問題となる。テキストの音読練習も行い、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回の内容に関して示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 0 : Voyage 「フランス世界遺産をめぐる」	イントロダクション
2	Leçon 1 : Le Havre et Rouen 「パリから旅をはじめよう！」	直説法複合過去、代名動詞の直説法複合過去
3	Leçon 1 : Le Havre et Rouen 「パリから旅をはじめよう！」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、Exercices
4	Leçon 2 : Le Mont-Saint-Michel 「TGV に乗ってブルターニュへ」	直説法半過去、直説法大過去
5	Leçon 2 : Le Mont-Saint-Michel 「TGV に乗ってブルターニュへ」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、Exercices
6	Leçon 3 : Les Châteaux de la Loire 「ロワールの古城めぐり」	直説法単純未来、直説法前未来
7	Leçon 3 : Les Châteaux de la Loire 「ロワールの古城めぐり」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、Exercices
8	Leçon 4 : Bordeaux 「ワインの生産地ボルドー」	受動態、強調構文、connaître と savoir
9	Leçon 4 : Bordeaux 「ワインの生産地ボルドー」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、Exercices
10	Leçon 5 : Carcassonne 「歴史的城塞都市カルカソンヌ」	現在分詞、ジェロンディフ、使役動詞と知覚動詞
11	Leçon 5 : Carcassonne 「歴史的城塞都市カルカソンヌ」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、Exercices
12	Leçon 6 : La Côte d'Azur 「コート・ダジュール 紺碧の海岸」	比較級、最上級、特殊な比較級と最上級
13	Leçon 6 : La Côte d'Azur 「コート・ダジュール 紺碧の海岸」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、Exercices
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題、小テストの準備をきちんと行う。
・教科書付属の音声サイトも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

有富智世他『なびふらんせ2ーフランス世界遺産をめぐる』、朝日出版社、2019年

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定で考慮されるのは、授業での学習状況と参加度、1~6課の各課に関する小テストの内容である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われる。成績評価の内訳は、1~6課の小テスト50%、平常点50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2022年もフランスの歴史や文化の紹介、アクチュアルな話題を随時提供したい。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てほしい。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けている。(メールも可)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French skills and reach the intermediate level. At the end of *French 2B(Grammar)*, students are expected to pass Test in Practical French Proficiency Grade 3. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on quizzes (50%) and in-class contribution (50%).

LANf200EA

フランス語 2 B (文法)

高橋 愛

サブタイトル：フランス語中級5

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、中級学習者向けの教科書の後半を使用し、初級 A・B で学習した内容も丁寧に復習しながら、「読む・書く・話す・聞く」のすべての場面において必要な文法知識や語彙、表現を習得する。

【到達目標】

基本的な語句や表現を用いた簡単な構文による内容を理解し、直説法、条件法、接続法の動詞を使うことができる。「フランス語中級2」と「フランス語中級5」を一年間きちんと学習すれば、実用フランス語技能検定試験3級レベルに十分達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・教科書の一課につき、二回の授業を充てる。一回目は主に文法の説明と確認、二回目はそれらを生かした具体的な表現の習得 (短い読み物やフランスで役に立つ会話練習) と練習問題となる。テキストの音読練習も行い、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回の内容に関して示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 7 : La Provence 「バスツアーでプロヴァンスをめぐる」	中性代名詞、代名詞の語順
2	Leçon 7 : La Provence 「バスツアーでプロヴァンスをめぐる」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、 Exercices
3	Leçon 8 : Lyon 「歴史地区を歩き、美食の都を楽しむ」	関係代名詞 (1)、過去分詞の性・数一致、tout の用法
4	Leçon 8 : Lyon 「歴史地区を歩き、美食の都を楽しむ」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、 Exercices
5	Leçon 9 : Dijon 「ディジョンの街ではフクロウをたどる！」	疑問代名詞、関係代名詞 (2)、所有代名詞
6	Leçon 9 : Dijon 「ディジョンの街ではフクロウをたどる！」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、 Exercices
7	Leçon 10 : Strasbourg 「ドイツの香りが強いヨーロッパの中心都市」	条件法現在、条件法過去、仮定の用法
8	Leçon 10 : Strasbourg 「ドイツの香りが強いヨーロッパの中心都市」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、 Exercices
9	Leçon 11 : Nancy 「アール・ヌーヴォーの街」	直接話法から間接話法への変換、時制の一致
10	Leçon 11 : Nancy 「アール・ヌーヴォーの街」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、 Exercices
11	Leçon 12 : Versailles 「パリから日帰りの旅 (ヴェルサイユ)」	接続法現在
12	Leçon 12 : Versailles 「パリから日帰りの旅 (ヴェルサイユ)」	接続法過去
13	Leçon 12 : Versailles 「パリから日帰りの旅 (ヴェルサイユ)」	「言ってみよう」、「読んでみよう」、 Exercices
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・文法知識の定着を目的とする練習問題の宿題、小テストの準備をきちんと行う。
・教科書付属の音声サイトも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

有富智世他『なびふらんせ2ーフランス世界遺産をめぐる』、朝日出版社、2019年

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定で考慮されるのは、授業での学習状況と参加度、7~12課の各課に関する小テストの内容である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われる。成績評価の内訳は、7~12課の小テスト50%、平常点50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2022年もフランスの歴史や文化の紹介、アクチュアルな話題を随時提供したい。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てほしい。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けている。(メールも可)。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French skills and reach the intermediate level. At the end of *French 2B(Grammar)*, students are expected to pass Test in Practical French Proficiency Grade 3. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on quizzes (50%) and in-class contribution (50%).

LANf200EA

フランス語 1 C (会話)

瀬谷 グロندان アンヌオレリ

サブタイトル：フランス語中級 3

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語の日常生活に触れながら、フランス語の会話の基礎を学ぶ。

【到達目標】

日常生活に必要な基本表現ができるようになる。具体的には、自己紹介、店舗での注文、人物描写、旅行、趣味、といった会話。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

隔週でオンライン授業 (PowerPoint または PDF 資料) となります。また、宿題があります。スケジュールについては、シラバスを参照して下さい。対面授業の際に、宿題を確認し、実習を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Unité 1: Enchanté! (1)	Se présenter, saluer quelqu'un, présenter des personnes
2 回目	Unité 1: Enchanté! (2)	Se présenter, saluer quelqu'un, présenter des personnes
3 回目	Unité 2: Des questions? (1)	Poser des questions fermées et y répondre
4 回目	Unité 2: Des questions? (2)	Poser des questions fermées et y répondre
5 回目	Unité 3: Combien? (1)	Faire des courses, se renseigner sur les prix
6 回目	Unité 3: Combien? (2)	Faire des courses, se renseigner sur les prix
7 回目	Petit test et activités	Quizz et jeux de rôles
8 回目	Unité 4: Quand? (1)	Situer des événements dans le temps
9 回目	Unité 4: Quand? (2)	Situer des événements dans le temps
10 回目	Unité 5: Où? (1)	Situer dans l'espace, demander et indiquer le chemin
11 回目	Unité 5: Où? (2)	Situer dans l'espace, demander et indiquer le chemin
12 回目	Unité 6: Qui? (1)	Parler de sa famille ou de ses amis
13 回目	Petit test et activités	Quizz et jeux de rôles
14 回目	Unité 6: Qui? (2)	Parler de sa famille ou de ses amis

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習問題、復習問題、宿題本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Rythmes et communication (リズムコミ! フランス語会話), 朝日出版社 (2500 円)

ISBN: 978-4-255-35275-6

【参考書】

仏和・和仏辞典があると便利。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 :50%

授業内の活動 (口頭発表、グループワーク等) : 50%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外であるため注意すること。

Regular exam: 50%

In-class activities (oral presentation, group work, etc.): 50%

Please note that those who are absent 5 times or more in this class will fail this class.

【学生の意見等からの気づき】

フランス文化により触れるような授業構成に変更。

【Outline (in English)】

This is a French conversation class for beginners. We will learn how to communicate in the daily life and also how to sound more natural.

LANf200EA

フランス語 2 C (会話)

瀬谷 グロندان アンヌオレリ

サブタイトル：フランス語中級 6

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語の日常生活に触れながら、フランス語の会話の基礎を学ぶ。

【到達目標】

日常生活に必要な基本表現ができるようになる。具体的には、自己紹介、店舗での注文、人物描写、旅行、趣味、といった会話。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

隔週でオンライン授業 (PowerPoint または PDF 資料) となります。また、宿題があります。スケジュールについては、シラバスを参照して下さい。対面授業の際に、宿題を確認し、実習を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Unité 6: Qui?	Parler de sa famille ou de ses amis
2 回目	Unité 7: Quoi? (1)	Décrire un objet, parler de ses loisirs
3 回目	Unité 7: Quoi? (2)	Décrire un objet, parler de ses loisirs
4 回目	Unité 8: Comment? (1)	Parler de ses déplacements
5 回目	Test et activités	Quizz et jeux de rôles
6 回目	Unité 8: Comment? (2)	Parler de ses déplacements
7 回目	Unité 8: Comment? (3)	Parler de ses déplacements
8 回目	Unité 9: Quelle histoire! (1)	Parler d'un événement ou d'une situation au passé
9 回目	Unité 9: Quelle histoire! (2)	Parler d'un événement ou d'une situation au passé
10 回目	Unité 9: Quelle histoire! (3)	Parler d'un événement ou d'une situation au passé
11 回目	Test et activités	Quizz et jeux de rôles
12 回目	Unité 10: Et si...? (1)	Hypothèses ou conditions
13 回目	Unité 10: Et si...? (2)	Hypothèses ou conditions
14 回目	Unité 10: Et si...? (3)	Hypothèses ou conditions

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習問題、復習問題、宿題本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Rythmes et communication (リズムコミ! フランス語会話), 朝日出版社 (2500 円)

ISBN: 978-4-255-35275-6

【参考書】

仏和・和仏辞典があると便利。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 :50%

授業内の活動 (口頭発表、グループワーク等) : 50%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外であるため注意すること。

Regular exam: 50%

In-class activities (oral presentation, group work, etc.): 50%

Please note that those who are absent 5 times or more in this class will fail this class.

【学生の意見等からの気づき】

フランス文化により触れるような授業構成に変更。

【Outline (in English)】

This is a French conversation class for beginners. We will learn how to communicate in the daily life and also how to sound more natural.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語 3 A・5 A (講読)

高橋 愛

サブタイトル：フランス語上級 A 1・B 1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・2020 年からのフランスのテレワーク事情、パリ市が推進する緑化プロジェクトなど、最新情報や統計を盛り込んだ大学生向けの講読用教科書を使用し、教育、経済、環境、社会、芸術、文学、政治の多様なテーマを扱ったわかりやすい文章を読みながら、中級の授業で身につけたフランス語の力を向上させ、フランスのいまを学ぶ。
・各課のテキストを文法の復習もおこないつつ丁寧に読み進め、フランス社会の現状や課題、文化の重層性も知る。

【到達目標】

辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章を読むうえで必要となる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定した箇所を予習する。(教科書には固有名詞などの語句、文法について十分な注がついており、難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでほしい。) 授業では、その箇所の文章を構文や時制などに注意して、全員で読解する。テキストの音読練習も行い、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、教科書の説明
2	Leçon 1. Les uniformes de retour? 【教育】制服への回帰?	講読 重点的に復習する文法：動詞の種類 (自動詞と他動詞)、命令形、疑問文
3	Leçon 1. Les uniformes de retour? 【教育】制服への回帰?	講読 Exercices
4	Leçon 2. Vers la réforme du baccalauréat et de l'entrée à l'université 【教育】バカロレアと大学入試改革	講読 重点的に復習する文法：複合過去、過去分詞、半過去
5	Leçon 2. Vers la réforme du baccalauréat et de l'entrée à l'université 【教育】バカロレアと大学入試改革	講読 Exercices
6	Leçon 3. Le rugby, nouveau sport vedette? 【スポーツ】ラグビー、新たなスポーツ?	講読 重点的に復習する文法：単純未来、前未来、受動態
7	Leçon 3. Le rugby, nouveau sport vedette? 【スポーツ】ラグビー、新たなスポーツ?	講読 Exercices
8	Leçon 4. La France, une nation de startups? 【経済】フランスはスタートアップの国?	講読 重点的に復習する文法：関係代名詞、指示代名詞
9	Leçon 4. La France, une nation de startups? 【経済】フランスはスタートアップの国?	講読 Exercices

10	Leçon 5. L'immigration et la culture française 【社会】移民とフランスの文化	講読 重点的に復習する文法：直接目的語、間接目的語
11	Leçon 5. L'immigration et la culture française 【社会】移民とフランスの文化	講読 Exercices
12	Leçon 6. Paris, une ville verte? 【環境】パリは緑の都?	講読 重点的に復習する文法：代名動詞、前置詞をとまなう関係代名詞
13	Leçon 6. Paris, une ville verte? 【環境】パリは緑の都?	講読 Exercices
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

岡見さえ、ミカエル・デブレ 『12 テーマでわかるフランス事情 [改訂版]』
Perspectives : l'actualité française en 12 textes (nouvelle édition)、白水社、2021 年。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点 (100 %) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストの理解が深まるよう、各課の冒頭で、取り上げる話題の基本知識を学べるようにする。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てほしい。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けている。(メールも可。)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

LANf300EA,LANf400EA

フランス語 4 A・6 A (講読)

高橋 愛

サブタイトル：フランス語上級 A 4・B 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・2020 年からのフランスのテレワーク事情、パリ市が推進する緑化プロジェクトなど、最新情報や統計を盛り込んだ大学生向けの講読用教科書を使用し、教育、経済、環境、社会、芸術、文学、政治の多様なテーマを扱ったわかりやすい文章を読みながら、中級の授業で身につけたフランス語の力を向上させ、フランスのいまを学ぶ。
・各課のテキストを文法の復習もおこないつつ丁寧に読み進め、フランス社会の現状や課題、文化の重層性も知る。

【到達目標】

辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章を読むうえで必要となる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定した箇所を予習する。(教科書には固有名詞などの語句、文法について十分な注がついており、難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでほしい。) 授業では、その箇所の文章を構文や時制などに注意して、全員で読解する。テキストの音読練習も行い、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 7. Le Ballet national de l'Opéra de Paris 【芸術】 国立パリ・オペラ座バレエ団	講読 重点的に復習する文法：比較級、最上級
2	Leçon 7. Le Ballet national de l'Opéra de Paris 【芸術】 国立パリ・オペラ座バレエ団	講読 Exercices
3	Leçon 8. La mode française et sa tradition de mécénat 【ファッション】 ファッションとメセナの伝統	講読 重点的に復習する文法：現在分詞、ジェロンディフ
4	Leçon 8. La mode française et sa tradition de mécénat 【ファッション】 ファッションとメセナの伝統	講読 Exercices
5	Leçon 9. 700 millions de francophones en 2050 !?【国際】 2050 年、フランス語の話者 7 億人!?	講読 重点的に復習する文法：代名詞 en, y, le
6	Leçon 9. 700 millions de francophones en 2050 !?【国際】 2050 年、フランス語の話者 7 億人!?	講読 Exercices
7	Leçon 10. Le télétravail, une organisation idéale du travail? 【労働】 テレワーク、理想の働き方?	講読 重点的に復習する文法：条件法現在、条件法過去

8	Leçon 10. Le télétravail, une organisation idéale du travail? 【労働】 テレワーク、理想の働き方?	講読 Exercices
9	Leçon 11. La France, grande nation littéraire 【文学】 文学大国・フランス	講読 重点的に復習する文法：接続法現在、接続法過去
10	Leçon 11. La France, grande nation littéraire 【文学】 文学大国・フランス	講読 Exercices
11	Leçon 12. Parité et disparités : un bilan contrasté 【政治】 「パリテ」の現状と課題	講読 重点的に復習する文法：動詞の時制のまとめ、直説法現在のさまざまなニュアンス
12	Leçon 12. Parité et disparités : un bilan contrasté 【政治】 「パリテ」の現状と課題	講読 Exercices
13	文法のまとめ	文法のまとめ
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

岡見さえ、ミカエル・デブレ『12 テーマでわかるフランス事情 [改訂版]』*Perspectives : l'actualité française en 12 textes* (nouvelle édition)、白水社、2021 年。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点 (100 %) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストの理解が深まるよう、各課の冒頭で、取り上げる話題の基本知識を学べるようにする。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てほしい。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けている。(メールも可。)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

LANf300EA,LANf400EA

フランス語 3 B・5 B (表現)

瀬谷 グロンダン アンヌオレリ

サブタイトル：フランス語上級 A 2・B 2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

Please note that those who are absent 5 times or more in this class will fail this class.

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

In this class we will improve your understanding of French culture and French society.

This class will be conducted only in French, including the explanations. We will discuss different topics and use video support.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス文化や現代のフランス社会に関する知見・理解を深めるとともにフランス語の能力の向上を目指す授業。この授業はフランス語で行われ、毎授業ビデオ資料に基づき討論を行う。

【到達目標】

この授業の到達目標は、フランス文化への理解を深めることに加え、フランス語での話す、読む、聞く、これらのスキルが向上すること。

This class will help you to improve your understanding of French culture but also your speaking, reading and listening skills in French

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業においては、あるテーマに関するビデオの視聴や文を読みます。

隔週でオンライン授業 (PowerPoint または PDF 資料) になります。授業の進め方は宿題以外是对面授業と変わりません。スケジュールについてシラバスを参照してください。

(レッスンのテーマはシラバスで発表されたものと異なる可能性があります。)

Online lessons (PowerPoint or PDF materials) are held every 2 week.

The procedure of the lesson is the same than a face-to-face lesson except for homework. Please check the syllabus for the schedule.

(Please note that a lesson subject may differ from the one announced in the syllabus)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Le premier jour en France	初めてフランスに来る
2 回目	Les stéréotypes sur les Français	フランス人についての偏見
3 回目	L'auto-stop	フランスでヒッチハイク
4 回目	La langue des signes	手話のこと
5 回目	L'école à la maison	フランスのホームスクーリング
6 回目	Vivre dans une maison écologique	フランスでエコな暮らしを
7 回目	Vivre sur une péniche à Paris	パリで船上生活を楽しむ人々
8 回目	Vivre dans une « tiny house »	小さな家に暮らす
9 回目	Les films français	フランス映画
10 回目	Parlons de l'actualité en France (I)	フランスの時事 (I)
11 回目	Parlons de l'actualité en France (II)	フランスの時事 (II)
12 回目	Parlons de l'actualité en France (III)	フランスの時事 (III)
13 回目	Parlons de l'actualité en France (IV)	フランスの時事 (IV)
14 回目	Les Japonais en France dans les années 1960	パリの日本人コミュニティ (1960 年代)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

フランス文化に関心をもって関係のありそうなテレビ番組や映画などにできるだけ触れるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

仏和・和仏の辞書が必須。

【成績評価の方法と基準】

レポート：40%

授業内の活動 (口頭発表、グループワーク等)：60%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になるので注意すること。

Report: 40% (subject will be decided in class)

In-class activities (oral presentation, group work, etc.): 60%

LANf300EA,LANf400EA

フランス語 4 B・6 B (表現)

瀬谷 グロンダン アンヌオレリ

サブタイトル：フランス語上級 A 5・B 5

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス文化や現代のフランス社会に関する知見・理解を深めるとともにフランス語の能力の向上を目指す授業。この授業はフランス語で行われ、毎授業ビデオ資料に基づき討論を行う

【到達目標】

この授業の到達目標は、フランス文化への理解を深めることに加え、フランス語での話す、読む、聞く、これらのスキルが向上すること。This class will help you to improve your understanding of French culture but also your speaking, reading and listening skills in French.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業においては、あるテーマに関するビデオの視聴や文を読みます。

隔週でオンライン授業 (PowerPoint または PDF 資料) になります。授業の進め方は宿題以外は対面授業と変わりません。スケジュールについてシラバスを参照してください。

(レッスンのテーマはシラバスで発表されたものと異なる可能性があります。)

Online lessons (PowerPoint or PDF materials) are held every 2 week. The procedure of the lesson is the same than a face-to-face lesson except for homework. Please check the syllabus for the schedule.

(Please note that a lesson subject may differ from the one announced in the syllabus)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Vivre écolo (I)	プラなし生活 (1)
2 回目	Vivre écolo (II)	プラなし生活 (2)
3 回目	Les spécialités culinaires françaises (I)	フランス料理 (I)
4 回目	Les spécialités culinaires françaises (II)	フランス料理 (2)
5 回目	Parlons de l'art en France (I)	フランスの美術 (I)
6 回目	La télévision française	フランスのテレビ局
7 回目	La vie à la campagne	フランスの田舎暮らし
8 回目	Parlons de l'art en France (II)	フランスの美術 (II)
9 回目	Parlons de l'actualité en France (I)	フランスの時事 (I)
10 回目	Les départements d'Outre-Mer	フランスの海外県・海外領土

11 回目	Le cinéma français	フランス映画
12 回目	Parlons de l'actualité en France (II)	フランスの時事 (II)
13 回目	Parlons de l'actualité en France (III)	フランスの時事 (III)
14 回目	Les secrets de Paris	パリの穴場秘密スポット

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

フランス文化に関心をもって関係のありそうなテレビ番組や映画などにできるだけ触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

仏和・和仏の辞書が必須。

【成績評価の方法と基準】

レポート：40%

授業内の活動 (口頭発表、グループワーク等)：60%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になるので注意すること。

Report: 40% (subject will be decided in class)

In-class activities (oral presentation, group work, etc.): 60%

Please note that those who are absent 5 times or more in this class will fail this class.

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

In this class we will improve your understanding of French culture and French society.

This class will be conducted only in French, including the explanations. We will discuss different topics and use video support.

LANf100EA

フランス語コミュニケーション入門A

瀬谷 グロンダン アンヌオレリ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基礎を学び、基本的なフランス語の会話を習得する。

【到達目標】

主に基本的な会話について学びますが、読み書きについても学びます。目的は、一年間、楽しく勉強しながら、日常生活で使う言葉をフランス語で言えるようになることです。

We will focus on oral and conversation to learn daily life communication but we will also work on your writing and reading skills. This class includes a lot of group/interactive activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

隔週でオンライン授業（PowerPoint または PDF 資料）になります。授業の進め方は宿題以外は対面授業と変わりません。スケジュールについてシラバスを参照してください。

教科書だけでなく、ビデオやプリントを使いながら授業が行われます。Online lessons (PowerPoint or PDF materials) are held every 2 week. The procedure of the lesson is the same than a face-to-face lesson except for homework. Please check the syllabus for the schedule.

Classes (online & face-to-face) are conducted using not only textbooks but also videos and prints.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 2 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 3 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 4 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 5 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 6 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 7 回	Test	(Leçons 1-3)
第 8 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 9 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 10 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 11 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 12 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 13 回	Test	(Leçons 5 & 6)
第 14 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

フラッシュ！ 三訂版（駿河台出版社）

ISBN: 978-4-411-01132-9

【参考書】

仏和・和仏辞典があると便利。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 :30%

授業内の活動（口頭発表、グループワーク等）：40%

授業への取り組み（討論への参加）:30%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外であるため注意すること。

Regular exam: 30%

In-class activities (oral presentation, group work, etc.): 40%

Other class activities (being active): 30%

Please note that those who are absent 5 times or more in this class will fail this class.

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

Let's learn the basics of french grammar and french conversation.

We will focus on oral and conversation to learn daily life communication. This class includes a lot of group activities.

LANf100EA

フランス語コミュニケーション入門B

瀬谷 グロンダン アンヌオレリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基礎を学び、基本的なフランス語の会話を習得する。

【到達目標】

主に基本的な会話について学びますが、読み書きについても学びます。目的は、一年間、楽しく勉強しながら、日常生活で使う言葉をフランス語で言えるようになることです。

We will focus on oral and conversation to learn daily life communication but we will also work on your writing and reading skills. This class includes a lot of group/interactive activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

隔週でオンライン授業（PowerPoint または PDF 資料）になります。授業の進め方は宿題以外は対面授業と変わりません。スケジュールについてシラバスを参照してください。

教科書だけでなく、ビデオやプリントを使いながら授業が行われます。Online lessons (PowerPoint or PDF materials) are held every 2 week. The procedure of the lesson is the same than a face-to-face lesson except for homework. Please check the syllabus for the schedule.

Classes (online & face-to-face) are conducted using not only textbooks but also videos and prints.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 2 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 3 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 4 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 5 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 6 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 7 回	Test	(Leçons 1-3)
第 8 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 9 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 10 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 11 回	発音の練習、テキストの音読、会話	Prononciation, lecture, conversation
第 12 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture
第 13 回	Test	(Leçons 4 & 5)
第 14 回	学習、作文練習	Grammaire, lecture, écriture

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

フラッシュ！ 三訂版（駿河台出版社）

ISBN: ISBN978-4-411-01132-9

【参考書】

仏和・和仏辞典があると便利。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 :30%

授業内の活動（口頭発表、グループワーク等）: 40%

授業への取り組み（討論への参加）:30%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外であるため注意すること。

Regular exam: 30%

In-class activities (oral presentation, group work, etc.): 40%

Other class activities (being active): 30%

Please note that those who are absent 5 times or more in this class will fail this class.

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

Let's learn the basics of french grammar and french conversation.

ARSA100EA

フランス語圏の社会と文化

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏に興味や関心を抱く学生が、主にフランスに関する歴史やさまざまな事象の社会的・文化的背景を基本から学び、多様な分野を横断的に視野に収め、知識と理解を深めるための授業である。フランス語の学習歴や履修言語は問わず、幅広い受講生を想定している。

【到達目標】

本授業では、社会、文化、歴史、言語等の面から広角的にフランスを概観する。受講生にとって身近なテーマから話を進め、それを出発点として、それぞれの事象の背景にある事柄についても掘り下げ、考察する。授業内の説明を手がかりとして、受講生は関心を持つ対象に自らアプローチし、広い視野をもって、議論や分析ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で進めるが、毎回の授業で内容に関する質疑応答や意見交換の時間を設けて、受講生が議論や検討を深められるようにする。映像や音声の教材も用いる。
- ・授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と方法の説明
第2回	歴史・社会①	地理から考えるフランス
第3回	歴史・社会②	フランスにおける言語・教育
第4回	歴史・社会③	フランス社会と政治・宗教・国家
第5回	歴史・社会④	「フランス革命と表現の自由：フランス人は何を守りたがるのか」 (ゲスト：實谷美咲先生)
第6回	フランスの芸術①	文学と絵画
第7回	フランスの芸術②	芸術と自然
第8回	フランスの芸術③	「レユニオン島の魅力と文化」(ゲスト：瀬谷グロンダン アンヌオレリ先生)
第9回	フランスの芸術④	「映画から学ぶ 1900 年代の世相・風俗」(ゲスト：美頭千不美先生)
第10回	スポーツ①	2024 年パリ五輪と注目の歴史的建造物
第11回	スポーツ②	「ツール・ド・フランス、バカンス大国の夏を彩る世界一の自転車ロード・レース」(ゲスト：高橋久美先生)
第12回	フランス人の生活①	現代フランスにみる生活事情
第13回	フランス人の生活②	フランス的生活文化
第14回	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で関連文献や映画、美術作品、開催中の展覧会などを紹介するので、積極的に読み、鑑賞してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・リアクションペーパーによる平常点（50 %）と学期末レポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

履修にあたって、フランス語の知識は問わない。

【Outline (in English)】

The main aims of this course are to help students not only learn about different culture but also understand various histories and social issues related to France. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they should be able to comprehend these phenomena, as well as to analyze the current topics. Grading will be based on final report (50%) and in-class contribution (50%).

LANe200EA

中国語中級4・5・6

田中 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

口語表現力と読解力の向上を目指す授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」・「話す」と短文を読む練習が中心となる。併せて中国語検定試験（4級）の練習も行う。

【到達目標】

中国語中級1・2・3の学習を通して身につけた口語表現力と読解力をレベルアップする。日常生活用語を耳で理解することができ、短い文で自分の言いたいことを表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、文法事項の解説をしたうえで、聞き取り練習、話す練習、読む練習、そしてペア・ワークによる応用練習を行う。毎回の授業内に質疑応答の時間を設け、第6回と最終授業では、小テスト（総合練習）に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、中級1・2・3の復習	ガイダンス、発音や語彙力の確認
第2回	中級1・2・3の復習	ヒアリング・表現力の確認、応用練習
第3回	パーティーについての表現	お祝いに関連する表現、複合方向補語の使い方の練習
第4回	映画鑑賞についての表現	映画の紹介に関連する表現、可能補語の練習
第5回	休暇の過ごし方についての表現	経験に関連する表現、不定疑問文の練習
第6回	小テスト（1）	小テストを行う。応用練習
第7回	学園祭についての表現	予定や期待に関連する表現の練習
第8回	スキーについての表現	自然現象や天候、注意・禁止に関連する表現の練習
第9回	診察についての表現	体調や病気の症状に関連する表現、受け身表現の練習
第10回	写真撮影についての表現	別れの挨拶、使役表現の練習
第11回	中検の過去問題（リスニング）の練習	中検の過去問題（リスニング）の練習
第12回	中検の過去問題（筆記）の練習	中検の過去問題を使って表現・読解の練習をする。
第13回	学習内容のまとめ	今学期勉強した内容の復習と補足練習
第14回	小テスト（2）	小テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語2 ステップアップ編』（朝日出版社、2013年）

【参考書】

中国語検定試験4級問題集

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30%）と2回の小テスト（70%）。積極的な授業への参加が評価の前提となり、3分の1の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

会話練習と短文の読解練習が両方とも取り入れられているテキストを選択した。分かりやすく、また会話練習を十分に行うような授業を心がけたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the skill in Chinese conversation and reading.

By the end of the course, students should be able to have simple daily conversations in Chinese.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (35%), term-end examination (35%), and in-class contribution.(30%)

LANe200EA

中国語 1 A (講読)

田中 理恵

サブタイトル：中国語中級 1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

散文体のテキストの読解を通して、中国語の文を分析し、構造を理解することを学ぶ。

授業では文章読解の他に、問答練習、並べ替え練習なども併せて行い、中国語の読解力と表現力を総合的に強化することを目的とする。

【到達目標】

中国語の基本的な文構造を理解し、辞書を利用して短い文章が日本語に翻訳できること、また発音された質問に答えることができ、さらには簡単な日文中訳も行えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は概ね以下の通り。

1. 重要文法事項の確認と例文の日本語訳
2. 課文の発音練習・日本語訳
3. 練習問題 (空欄補充・並べ替え練習、読解練習)
4. 関連表現を利用した質疑応答
5. 2 課終了毎に小テスト

課題や試験のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初級の文法事項の復習	練習問題と解説
2	第 1 課 (自己紹介)	連体修飾語、前置詞「対」、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
3	第 1 課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、自己紹介を行う
4	第 2 課 (私の家庭)	連用修飾語、比較文、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
5	第 2 課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
6	第 1 課・第 2 課の小テスト	小テストと解説
	第 3 課 (インターネット)	疑問詞の呼応表現、譲歩の接続詞、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
7	第 3 課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
8	第 4 課 (デート)	持続を表す「着」、複合方向補語、動詞の重ね型の説明、課文を発音・解釈
9	第 4 課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答、文法のまとめ 1
10	第 3 課・第 4 課の小テスト	小テストと解説
	第 5 課 (温泉旅行)	結果補語、存現文、原因や理由を表す接続詞の説明、課文を発音・解釈
11	第 5 課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
12	第 6 課 (私の趣味)	可能補語、条件を表す接続詞、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
13	第 6 課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 予習 辞書を引く例文と練習問題を事前に学習する。
2. 復習 本文の音読練習、重要な単語や例文を書いて記憶する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

劉穎・柴森・小澤正人著『2 冊目の中国語 講読クラス』白水社
初回の授業ではプリントを使用する。

【参考書】

相原茂 他 『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』同学社
相原茂 『謎解き中国語文法』講談社現代新書
木村英樹 『中国語ははじめの一步 (新版)』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %・小テスト 20 %・平常点 (予習・授業への参加度) 20 % (「S」評価についてはのみは絶対評価の後に相対評価する)。
授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

分りやすい授業を心がけます。勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【その他の重要事項】

辞書を用意し (電子辞書も可)、毎回の授業の際に持参してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the skill of reading Chinese.

At the end of the course, students are expected to read easy texts and write some simple sentences in Chinese.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), the results of the quiz (20%),and in-class contribution.(20%)

LANe200EA

中国語2A（講読）

田中 理恵

サブタイトル：中国語中級4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

散文体のテキストの読解を通して、中国語の文を分析し、構造を理解することを学ぶ。

授業では文章読解の他に、問答練習、並べ替え練習なども併せて行い、中国語の読解力と表現力を総合的に強化することを目的とする。

【到達目標】

中国語の基本的な文構造を理解し、辞書を利用して短い文章が日本語に翻訳できること、また発音された質問に答えることができ、さらには簡単な日文中訳も行えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は概ね以下の通り。

1. 重要文法事項の確認と例文の日本語訳
2. 課文の発音練習・日本語訳
3. 練習問題（空欄補充・並べ替え練習、読解練習）
4. 関連表現を利用した質疑応答
5. 2課終了毎に小テスト

課題や試験のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第7課（友達になる）	「是～的」構文、様態補語、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
2	第7課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
3	第8課（会食）	疑問詞の不定用法、可能補語、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
4	第8課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答、文法のまとめ2
5	第7課・第8課小テスト 第9課（目覚まし時計）	小テストと解説、結果補語「給」、受け身文、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
6	第9課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
7	第10課（アルバイトをする）	動量補語、離合詞、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
8	第10課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
9	第9課・第10課小テスト 第11課（冬休み）	小テストと解説、兼語文、使役動詞、重要な副詞の説明、課文を発音・解釈
10	第11課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
11	第12課（留学）	連動文、「把」構文、その他重要表現の説明、課文を発音・解釈
12	第12課	音読練習、穴埋め・並べ替え練習、課文についての質疑応答
13	総復習	第7課から第12課までの復習
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 辞書を引く例文と練習問題を事前に学習する。
2. 復習 本文の音読練習、重要な単語や例文を書いて記憶する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

劉穎・柴森・小澤正人著『2冊目の中国語 講読クラス』白水社

【参考書】

相原茂 他『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』同人社
相原茂『謎解き中国語文法』講談社現代新書
木村英樹『中国語はじめての一步（新版）』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%・小テスト 20%・予習 20%（「S」評価についてはのみは絶対評価の後に相対評価する）。

授業の3分の1以上欠席の場合は評価しない。遅刻2回で欠席1回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

さらに分かりやすい授業を心がけます。勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【その他の重要事項】

辞書を用意し（電子辞書も可）、毎回の授業の際に持参してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the skill of reading Chinese.

At the end of the course, students are expected to read easy texts and write some simple sentences in Chinese.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), the results of the quiz (20%), and in-class contribution.(20%)

LANe200EA

中国語 1 B (文法)

渡辺 浩司

サブタイトル：中国語中級2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級から中級への展開を意識しながら、読解と作文により初級～中級の文法項目の要点の復習と学習、整理を進める。

【到達目標】

「中国語検定試験 4 級」合格レベル到達を具体的な目標とする。本授業では、そのうち文法と読解、作文に関する分野について集中して学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初は「ポイント学習 中国語初級」の既習事項の確認から始め、少しずつ学習のスピードを上げ、さらに深い文法の解説、応用へと進めていく。学習効果を上げるため、テキストの編集順ではなく、文法項目順に学習する予定。常に意識してほしいのは、文成分 (主語、述語、修飾語、補語等)。正確な読解や作文ができるよう着実な実力養成をはかっていく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、0、第 1 課	中国語の発音、名詞・数詞・量詞
2	第 2 課、第 3 課	時間・年月日・お金、指示代詞と人称代詞
3	第 4 課	数のいろいろ
4	第 5 課、第 6 課	いろいろな形容詞と区別詞、形容詞述語文
5	第 7 課、第 8 課	動詞述語文、動詞述語文—“是”—
6	第 9 課	存在の表現
7	第 10 課	連動文 I・重ね型
8	第 11 課	疑問文について
9	第 12 課	再び、疑問文について
10	第 13 課	介詞 (前置詞)
11	第 14 課	介詞, “是…的” 構文
12	第 15 課	常用される副詞
13	第 16 課、第 17 課	文成分のまとめ、存在・出現・消失の文・非主述文・命令文
14	第 18 課、第 19 課	能願動詞 (助動詞)、中国語ってどんなことば?

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 予習 本文の事前学習と理解
 2. 復習・暗唱 3 課ごとの小テストで例文を暗記し、重要なポイントをきちんとマスターする
 3. 検定試験対策 練習問題の自習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

相原茂、石田知子、戸沼市子『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』、同学社、2016。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、適宜指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufts.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

3 課ごとに小テストをおこない、その成績の累計を 100 % として評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員を指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム (HOPPII)」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Intermediate Chinese 2 (Chinese grammar)

This course focuses on grammar, expression and composition practice in order to cultivate verbal expression and reading ability.

Students will be expected to have completed the required assignments

after each class meeting. Your study time will be more than two hours

for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following every 3 lessons examination 100%.

LANe200EA

中国語 2 B (文法)

渡辺 浩司

サブタイトル：中国語中級5

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主として読解と作文により、中級文法項目の要点の学習、まとめをおこない、文法、語法の力の涵養と総合的な実力養成をはかる。

【到達目標】

「中国語検定試験 4 級」合格レベル到達を具体的な目標とする。本授業では、そのうち文法と講読、作文に関する分野について集中して学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習のスピードをさらに上げ、深い文法の解説、応用へと進めていく。学習効果を上げるため、テキストの編集順ではなく、文法項目順に学習していきたい。常に意識してほしいのは、文成分 (主語、述語、修飾語、補語等)。正確な読解や作文ができるよう着実な実力養成をはかっていく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 20 課、第 21 課	進行のアスペクト、持続のアスペクト
2	第 22 課	完了・実現のアスペクト
3	第 23 課	経験と将来のアスペクト
4	第 24 課	“得”de 補語——程度補語と様態補語
5	第 25 課	V + 結果補語
6	第 26 課、第 27 課	方向補語、方向補語の派生義
7	第 28 課	結果補語・方向補語の可能形
8	第 29 課	動量・時量・差量
9	第 30 課	比較の言い方
10	第 31 課	“把”bǎ 構文
11	第 32 課	“被”bèi 構文
12	第 33 課	連動文 II (兼語文)
13	第 34 課	語気助詞・反語文
14	第 35 課	複文・緊縮文

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 予習 本文の事前学習と理解
2. 復習・暗唱 3 課ごとの小テストで例文を暗記し、重要なポイントをきちんとマスターする
3. 検定試験対策 練習問題の自習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

相原茂、石田知子、戸沼市子『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』、同学社、2016。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、適宜指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

3 課ごとに小テストをおこない、その成績の累計を 100 %として評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者全員を指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム (HOPPII)」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Intermediate Chinese 5 (Chinese grammar)

This course focuses on grammar, expression and composition practice in order to cultivate verbal expression and reading ability.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following every 3 lessons examination 100%.

LANe200EA

中国語 1 C (会話)

謝 荔

サブタイトル：中国語中級3

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。日中の異文化体験の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かす「聴く」・「話す」の練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】

簡単な日常会話などを耳で理解し、「こんな時はどう言うか」の発信力・応用力を身につけることを目指す。HSK2 級または中国語検定試験4級のレベル（「聴く」・「話す」能力）に達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習	ガイダンス、初対面の挨拶の応用練習
第 2 回	道の尋ね方、入学式の服装	動詞“在”、疑問詞“怎么”、助動詞“要”の応用練習
第 3 回	食事の誘い、相談	仮定表現“如果…的话”、選択疑問文“还是”
第 4 回	食事の誘い、相談	食事の誘いに関連する表現の応用練習
第 5 回	待ち合わせ、評価	ラーメン屋に対する評価の表現、結果補語と方向補語の練習
第 6 回	注文の仕方、メニュー	定食と飲み物の関連表現、量詞の使い方
第 7 回	注文の仕方、メニュー	注文に使われる構文の応用練習
第 8 回	総合練習（1）	総合練習、応用練習
第 9 回	補足練習	HSK または中検の過去問題の練習
第 10 回	中国語の学習歴	経験に関連する表現
第 11 回	中国語の学習歴	様態（程度）補語、“是…的”の応用練習
第 12 回	夏季休暇、予定	アルバイト、旅行に関連する表現
第 13 回	夏季休暇、予定	比較表現、時間量、“快要…了”の応用練習
第 14 回	総合練習（2）と解説	総合練習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コミュニケーションする力を着実に身につけるには、授業に出席するだけでは不十分である。積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習を積み重ねていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅ほか『もっと話そう！ 異文化おもしろ体験 中級中国語』（朝日出版社、2021 年）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（50%）、2 回の総合練習（50%）。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【その他の重要事項】

授業前に学習支援システムの【お知らせ】を確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation. The goals of this course is to reach conversation level of HSK II to III or 4th Grade of the Test of Chinese Proficiency. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (25%), term-end examination (25%), and in-class contribution (50%) .

LANe200EA

中国語2C (会話)

謝 荔

サブタイトル：中国語中級6

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。日中の異文化体験の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かす「聴く」・「話す」の練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】

簡単な日常会話などを耳で理解し、「こんな時はどう言うか」の発信力・応用力を身につけることを目指す。HSK 3級のレベル（「聴力」の部分）に達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス、練習	接客用語、助動詞“可以”、“覺得”の使い方
第2回	買い物、試着	程度副詞“多、挺、太～了、非常、有点儿”の応用練習
第3回	体調	禁止表現、“一～就～”、助動詞“能”の練習
第4回	電車・地下鉄	複文、“虽然～但是～”、“不是～就是～”の使い方
第5回	電車・地下鉄	車内での行動に関連する表現の応用練習
第6回	休憩、自動販売機	可能補語、動詞の重ね型
第7回	休憩、自動販売機	提案に関連する表現の応用練習
第8回	総合練習(1)	復習、総合練習
第9回	補足練習	HSK、中検の過去問題の練習
第10回	クリスマス、贈り物	乾杯とプレゼント。前置詞“把”、“为了”の使い方
第11回	クリスマス、贈り物	祝福に関する表現の応用練習
第12回	年越し	使役表現、助動詞“得”、“越来越～”の使い方
第13回	年越し、春節	年越しの過ごし方に関する表現の応用練習
第14回	総合練習(2)	総合練習と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

コミュニケーションする力を着実に身につけるには、授業に出席するだけでは不十分である。積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習を積み重ねていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

陳淑梅ほか『もっと話そう！異文化おもしろ体験 中級中国語』（朝日出版社、2021年）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（50%）、2回の総合練習（50%）。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【その他の重要事項】

授業前に学習支援システムの【お知らせ】を確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation. The goals of this course is to reach conversation level of HSK III or 4th Grade of the Test of Chinese Proficiency. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (25%), term-end examination (25%), and in-class contribution (50%) .

LANc300EA,LANc400EA

中国語3A・5A（講読）

綿貫 哲郎

サブタイトル：中国語上級A1・B1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍・雑誌・新聞等の文章を正確に読み解く練習・訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

1. ローマ字（ピンイン）は補助的な使用のみにしていく
2. 文成分の分析が正確にできる
3. 文章語独自の表現や構造等に慣れる
4. 辞書を引くことに習熟しながら「類推する力」を涵養する
5. 学修（翻訳）後のリライトで訳文を再確認・再構築する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主語・述語・修飾語・補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文意を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字（ピンイン）つきのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	精読の基礎（1）	文成分／構造分析① 主語
2	精読の基礎（2）	文成分／構造分析② 述語
3	精読の基礎（3）	文成分／構造分析③ 連体修飾語
4	精読の基礎（4）	文成分／構造分析④ 連用修飾語
5	精読の基礎（5）	文成分／構造分析⑤ 補語
6	精読の基礎（6）	文成分／構造分析⑥ その他の文成分
7	精読の基礎（7）	辞書を使いこなす①
8	精読の基礎（8）	辞書を使いこなす② webの活用
9	精読の基礎（9）	辞書にない単語の検索
10	精読の基礎（10）	辞書にない事項の検索
11	文章の精読（1）	現代中国を読み解く①
12	文章の精読（2）	現代中国を読み解く②
13	文章の精読（3）	現代中国を読み解く③
14	文章の精読（4）	現代中国を読み解く④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
2. 「中級」までの文法の系統的復習
3. 新聞・雑誌・web等の記事検索
4. 関連項目の調査・読書等
5. 確実な訳文の再確認・再構築等

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はあらかじめ、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

せっかく「初級」・「中級」と積み上げてきた中国語なので、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた2年次程度の内容から始める。

将来の留学や研究・業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎である。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済・社会・文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The aim of this course is to further deepen students' understanding of contemporary Chinese and Chinese-speaking societies and cultures through repeated practice and training in accurately reading and understanding texts in books, magazines, and newspapers written in modern Chinese (Mandarin), and through reading texts.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Use romaji (pinyin) only as a supplement.
2. Be able to accurately analyze sentence components.
3. Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
4. Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
5. To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

1. reliable preparation
 2. Systematic review of grammar up to the intermediate level.
 3. Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
 4. Research and read about related topics.
 5. Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.
- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

LANc300EA,LANc400EA

中国語4A・6A（講読）

綿貫 哲郎

サブタイトル：中国語上級A4・B4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍・雑誌・新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

「1」で培った力をもとに新聞・雑誌・書籍などの文章の読解をおこなう。授業では、

1. 長く難解な文の読解（文成分、文の構造分析の徹底）
2. 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける。
3. 学修（翻訳）後のリライトで訳文を再確認・再構築する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌・書籍の文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけではなく背景理解＝「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用・慣用的表現にも習熟していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	時事的な文章の精読（1）	文成分、構造分析をしながらの精読（1）
2	時事的な文章の精読（2）	文成分、構造分析をしながらの精読（2）
3	時事的な文章の精読（3）	文成分、構造分析をしながらの精読（3）
4	時事的な文章の精読（4）	文成分、構造分析をしながらの精読（4）
5	時事的な文章の精読（5）	文成分、構造分析をしながらの精読（5）
6	時事的な文章の精読（6）	文成分、構造分析をしながらの精読（6）
7	時事的な文章の精読（7）	文成分、構造分析をしながらの精読（7）
8	多読、速読（1）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（1）
9	多読、速読（2）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（2）
10	多読、速読（3）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（3）
11	多読、速読（4）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（4）
12	多読、速読（5）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（5）
13	多読、速読（6）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（6）

14 多読、速読（7） 多様な形、内容の文をより多く、速く読む（7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
 2. 「中級」までの文法の系統的復習
 3. 新聞・雑誌・web等の記事検索
 4. 関連項目の調査・読書等
 5. 確実な訳文の再確認・再構築等
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/>を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることにある日突然気が付くはずですが。一日も早いその日の到来を楽しみに、一緒に辞書を引きましょう。

【Outline (in English)】

【授業の概要と目的（何を学ぶか） / Outline and objectives】

Repeated practice and training in accurately reading and understanding texts in books, magazines, newspapers, etc. written in modern Chinese (Mandarin). Through reading and comprehension of texts, students will further deepen their understanding of the society and culture of modern China and the Chinese-speaking world.

【到達目標 / Goal】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Use romaji (pinyin) only as a supplement.
2. Be able to accurately analyze sentence components.
3. Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
4. Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
5. To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等） / Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. reliable preparation
2. Systematic review of grammar up to the intermediate level.
3. Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
4. Research and read about related topics.
5. Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 / Grading criteria】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

LANc300EA,LANc400EA

中国語3B・5B（会話表現）

謝 荔

サブタイトル：中国語上級A2・B2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実用的な会話表現を習得し、キーワードやポイントの聴解力を高め、状況や意見をわかりやすく伝えるコミュニケーションする能力を伸ばすことを授業の目的とする。

【到達目標】

日常生活においてよく遭遇する場面（お薦め・花見・評価・お詫び・事情説明、お礼・おごり、予約・アプリ検索、症状説明・健康づくり、観戦・感想、就活・応募、計画・提案）で使用される語彙や表現、自然な言い回しを習得し、それを運用して議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

会話表現中心のテキストと補足練習（機内アナウンス・学生生活へのインタビュー・映画のセリフなど）を組み合わせて、問答・選択・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。授業内で総合練習に対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、練習	ガイダンスと練習
第2回	愛好	愛好（歌のダウンロード、絵画、漫画）に関連する複文表現
第3回	季節	練習問題、“除了～以外…、要是～（的話）、就…”などの応用
第4回	季節	季節の変化（花見、紅葉狩り）、賛成・反対に関連する表現
第5回	道歉	練習問題、“可不是嘛”、“不但～而且～”などの応用
第6回	道歉	お詫び（遅れ、忘れ物）と「諒解」に関連する表現
第7回	総合練習（1）	練習問題、“省得…”、“別太介意了”などの応用
第8回	補足練習	総合練習（1）の解説、補足練習
第9回	請客	レストランでのおごり、注文に関連する表現
第10回	請客	練習問題、“会～的”、“以～為…”などの応用
第11回	購物	スマホアプリ決済、商品の評価に関連する表現
第12回	購物	練習問題、“再～也…”、“不是～就是…”などの応用
第13回	交友	友達付き合い、お土産、性格に関連する表現
第14回	総合練習（2）、解説	総合練習（2）と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。各課の練習問題は表現力を高めることが目的であるので、その予習が望ましい。繰り返し行う練習は、特に HSK 試験をめざす場合、それにも対応できるようになる。

【テキスト（教科書）】

王慧琴・植村麻紀子『中国語口語コンプリート』（朝日出版社、2022年）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（50%）、2回の総合練習（50%）。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

会話の練習を通じて、言語や慣習の知識、検定試験の合格にもつながる語学力を身につけるような授業を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業前に学習支援システムの【お知らせ】を確認すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels. The goals of this course is to learn natural Chinese expressions of daily life and to obtain the skill to apply them to discussions. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (25%), term-end examination (25%), and in-class contribution (50%).

LANc300EA,LANc400EA

中国語 4 B・6 B (会話表現)

謝 荔

サブタイトル：中国語上級 A 5・B 5

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実用的な会話表現を習得し、キーワードやポイントの聴解力を高め、状況や意見をわかりやすく伝えるコミュニケーションする能力を伸ばすことを授業の目的とする。

【到達目標】

日常生活においてよく遭遇する場面 (お薦め・花見・評価、お詫び・事情説明、お礼・おごり、予約・アプリ検索、症状説明・健康づくり、観戦・感想、就活・応募、計画・提案) で使用される語彙や表現、自然な言い回しを習得し、それを運用して議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

会話表現中心のテキストと補足練習を組み合わせ、聴解・問答・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。授業内で総合練習に対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス、練習	ガイダンス、交友に関連する表現の復習・練習
第 2 回	訂賓館	ホテルの検索・選択に関連する表現
第 3 回	訂賓館	練習問題、“宁可～也…”、“按照…”などの応用
第 4 回	看病	体調不良、処方に関連する表現
第 5 回	看病	練習問題、“与其～不然…”、“要不然…”などの応用
第 6 回	看比赛	勝負に関連する表現
第 7 回	看比赛	練習問題、“差点儿～”、“自從～以後”などの応用
第 8 回	総合練習 (1)	総合練習、補足練習
第 9 回	補足練習	総合練習 (1) の解説、補足練習
第 10 回	健身	健康づくり (公園・ジム・登山) に関連する表現
第 11 回	健身	練習問題、“難怪～”、“并不/并没～”などの応用
第 12 回	交流	就職活動、求人に関連する表現
第 13 回	交流	練習問題、“趁着～”、“至于～”などの応用
第 14 回	総合練習 (2)	総合練習 (2)、解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各課の練習問題は表現力を高めることが目的であるので、その予習が望ましい。繰り返し行う練習は、特に HSK 試験をめざす場合、それにも対応できるようになる。

【テキスト (教科書)】

王慧琴・植村麻紀子『中国語口語コンプリート』(朝日出版社、2022 年)

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 (50%)、2 回の総合練習 (50%)。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

会話の練習を通じて、言語や慣習の知識、検定試験の合格にもつながる語学力を身につけるような授業を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業前に学習支援システムの【お知らせ】を確認すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels. The goals of this course is to learn natural Chinese expressions of daily life and to obtain the skill to apply them to discussions. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (25%), term-end examination (25%), and in-class contribution (50%).

LANc300EA,LANc400EA

中国語3C・5C（文章表現）

謝 荔

サブタイトル：中国語上級A3・B3

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一回インターネット文学双年賞優秀賞を受賞した短編小説『冰箱里的企鵝』（冷蔵庫にやってきたペンギン）をテキストとし、日本語による説明「文構造のポイント」、「文法のポイント」を学習しながら、中国語の文章表現をより自然に使いこなすことを目指す。

【到達目標】

1990年代生まれの作家の受賞作を通じて、当代の文章表現と中国語の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。読みながら短い文を書く練習を重ねて表現力を高め、自分の考え方を表現する複文が書けることも目標の一つとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、各課の「文構造のポイント」と「文法のポイント」を学習しながら、「冰箱里的企鵝」を少しずつ読み進め、「ドリル」・「課末問題」を練習する。補足練習（メール・手紙連絡の書き方など、自分の体験・好きな映画や作品などについての短いプレゼンテーション）も行う。履修者の作文を添削したうえで解説し、表現のバリエーション、文章表現と口語表現の違いについて補足説明してフィードバックする。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス。計4頁の「生」の小説の原文全体を提示し、段落単位の学習項目、新出語句を確認する。
第2回	翻冰箱是为了找吃的	ピンインを見ながら音読し文章の全体像と意味をつかみ、ポイントを確認する。
第3回	翻冰箱是为了找吃的	“每～都”“会”“按～来说”“并”+否定形、課末問題の練習
第4回	喜欢住在冰箱里的企鹅	提出された作文の解説。音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第5回	喜欢住在冰箱里的企鹅	“对于～而言”“即便”“却”“长得”、課末問題の練習
第6回	企鹅是不讲道理的动物	提出された作文の解説。音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第7回	企鹅是不讲道理的动物	“既然～，就…”“要不是”動詞+目的語+“去”、課末問題の練習
第8回	復習、補足練習	提出された作文の解説、復習、補足練習
第9回	别把我当你的宠物	音読練習、新出語句と文章の意味の確認、ポイントの把握
第10回	别把我当你的宠物	“反正～，就…”“A看也是A着，（不如）～”、課末問題の練習
第11回	史上莫名其妙的冰箱	提出された作文の解説。音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第12回	史上莫名其妙的冰箱	“除了～之外/以外”“至于～则…”、課末問題の練習
第13回	音読練習、新出語句と文章の意味の確認、ポイントの把握	音読練習、新出語句と文章の意味の確認、ポイントの把握
第14回	红烧鱼如此好吃、まとめと解説	形容詞の重ね型、“甚至”“似乎”、課末問題の練習、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「文構造のポイント」、「文法のポイント」、「ドリル」が準備学習の課題である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

単艾婷『中国 ことばの世界を旅する 陳謙『冰箱里的企鵝』冷蔵庫にやってきたペンギン』（朝日出版社、2022年）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加は50%、練習は50%。期末試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講の授業であるため、履修者のレベルに合わせて授業進度の調整を行うように心がけたい。そのほか、検定試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に応えたい。

【その他の重要事項】

授業前に学習支援システム（Hoppii）で【お知らせ】の内容を確認すること。HSK4級・5級・6級、中検3級・2級・準1級を練習するご要望があれば対応することが可能である。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is primarily to improve students' skill in creative writing. Students will obtain the skill to understand Chinese nuances written in a novel and describe their mind in Chinese. Students will obtain the skill to understand Chinese nuances written in a novel and describe their mind in Chinese. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on exercises (50%), and the quality of the students' experimental performance in the class (50%).

LANc300EA,LANc400EA

中国語4C・6C（文章表現）

謝 荔

サブタイトル：中国語上級A6・B6

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一回インターネット文学双年賞優秀賞を受賞した短編小説『冰箱里的企鵝』（冷蔵庫にやってきたペンギン）をテキストとし、日本語による説明「文構造のポイント」、「文法のポイント」を学習しながら「ドリル」を解く。文章のもつ「リズム」を掴み、文脈の背景にある「文化」を理解し、中国語をより自然に使いこなすことを目指す。

【到達目標】

1990年代生まれの作家の受賞作を通じて、当代の文章表現と中国語の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。読みながら短い文を書く練習を重ねて表現力を高め、自分の考え方を表現する複文が書けることも目標の一つとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、各課の「文構造のポイント」と「文法のポイント」を学習しながら、「冰箱里的企鵝」を少しずつ読み進め、「ドリル」・「課末問題」を練習する。補足練習（メール・手紙連絡の書き方など、自分の体験・好きな映画や作品などについての短いプレゼンテーション）も行う。履修者の作文を添削したうえで解説し、表現のバリエーション、文章表現と口語表現の違いについて補足説明してフィードバックする。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	ガイダンス、小説と1980～2010年代の中国語世界の変化（葛藤と再生、新人類、競争と格差、まったりとした日常）に関する説明
第2回	日子過得不温不火	音読練習、新出語句と文章の意味の確認、ポイントの把握
第3回	日子過得不温不火	“往”“冲”“弄得”、課末問題の練習
第4回	今天真是難為他了	提出された作文の解説。音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第5回	今天真是難為他了	“不禁”“不再”、間接引用、課末問題の練習
第6回	一切都美好	提出された作文の解説。音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第7回	一切都美好	“所+動詞+的”“一大”+量詞、“再也～”、課末問題の練習
第8回	復習、補足練習	提出された作文の解説、復習、補足練習
第9回	感到前所未有的寒冷	音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第10回	感到前所未有的寒冷	音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第11回	如果冰箱總是滿的…	提出された作文の解説。音読練習、新出語句と文章の意味の確認
第12回	如果冰箱總是滿的…	“以至于”“算不上”、“等～再…”、課末問題の練習
第13回	まとめ	提出された作文の解説。全体のまとめ
第14回	履修者のプレゼンテーション、解説	任意のトピックについて、中国語のレジュメ（10以上の文）を作成しプレゼンテーションをする。解説も行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「文構造のポイント」、「文法のポイント」、「ドリル」が準備学習の課題である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

単艾婷『中国 ことばの世界を旅する 陳謙『冰箱里的企鵝』冷蔵庫にやってきたペンギン』（朝日出版社、2022年）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加は50%、練習は50%。期末試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

履修者のレベルに合わせて授業進度の調整を行う。そのほか、検定試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に応えたい。

【その他の重要事項】

新規開講の授業であるため、履修者のレベルに合わせて授業進度の調整を行うように心がけたい。そのほか、検定試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に応えたい。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is primarily to improve students' skill in creative writing. Students will obtain the skill to understand Chinese nuances written in a novel and describe their mind in Chinese. Students will obtain the skill to understand Chinese nuances written in a novel and describe their mind in Chinese. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on exercises (50%), and the quality of the students' experimental performance in the class (50%).

LANc100EA

中国語コミュニケーション入門A

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルの文型や文法を活用し、場に応じる表現力を養成することを授業の目的とする。(1) 会話表現(初対面・知人の挨拶、電話のかけ方、飲食、味付けの評価、もてなし、贈答など)(2) メール連絡の表現、SNS で使えるフレーズ(ネット流行語・近状報告・誘い・待ち合わせ・誕生日など)を学び、応用練習を行う。

【到達目標】

中国語の簡単な単語とフレーズを理解して使用することができるようになる。人びとの日常生活でよく使われるような表現・自然な言い回しに触れながら、対面の会話、そしてメール・SNS 文章によるコミュニケーションの基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、会話表現、メール・SNS 文章(話し言葉)を学び、履修者に発話機会を与え、応用練習を行う。授業中の練習のコメントと課題の添削でフィードバックする。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス。コミュニケーションするための中国語(口語と文章用語、ネット用語、SNS 文章)、中国語学習の関連情報の説明、発音の仕組み
第 2 回	発音・声調	四声の組み合わせ、名前・単語・フレーズの練習
第 3 回	発音・韻律	漢詩を現代中国語で読む練習、歌詞の練習
第 4 回	挨拶のいろいろ	初対面、知人同士の挨拶、敬称・呼称
第 5 回	ネット用語	ネット用語、SNS 文章(話し言葉)
第 6 回	構文パターン	名詞・動詞・形容詞フレーズ、文型
第 7 回	数字表現	番号、人数、日付、数字とシンボル(名詞述語文)
第 8 回	復習	復習、練習
第 9 回	一日の行動	(動詞述語文) 日常の行動についての質問・回答(動詞述語文)
第 10 回	電話のやりとり	時間・場所の確認
第 11 回	メールのやりとり	誘い・待ち合わせの表現
第 12 回	評価	天気、料理の味付けの表現(形容詞述語文)
第 13 回	誕生日メッセージ	メール・SNS での誕生日祝い、長寿祝いの表現
第 14 回	まとめ	総合練習と解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布プリントの予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書を使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加(50%)、練習問題(50%)の合計で評価する。検定試験の受験は義務ではないが、HSK(世界基準の中国語資格。中国語によるコミュニケーション能力の測定を第一の目的としたもの)、中国語検定試験の受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講の授業のため、学生の意見はまだない。

【その他の重要事項】

授業前に学習支援システムの【お知らせ】を確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is primarily to acquire communication abilities in Chinese. Students will learn simple words and phrases and be able to apply them to basic conversations and SNS communications. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on exercises (50%), and the quality of the students' experimental performance in the class (50%).

LANe100EA

中国語コミュニケーション入門B

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルの文型や文法を活用し、場に応じる表現力を養成することを授業の目的とする。(1) 会話表現(注文・贈答・診察など)(2) メール連絡の表現、SNS で使えるフレーズ(課題確認・年賀状など)を学び、応用練習を行う。

【到達目標】

中国語の簡単な単語とフレーズを理解して使用することができるようになる。人びとの日常生活でよく使われるような表現・自然な言い回しに触れながら、対面の会話、そしてメール・SNS 文章によるコミュニケーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、会話表現、メール・SNS 文章(話し言葉)を学び、履修者に発話機会を与え、応用練習を行う。授業中の練習のコメントと課題の添削でフィードバックする。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス、流行語と最新中国事情
第 2 回	好み	カラーの好みとカラーのシンボル
第 3 回	好み	飲食物の好みに関連する表現
第 4 回	もてなし	メニュー(定食・軽食)の読み方、注文の表現
第 5 回	乗り物	乗り物と移動
第 6 回	チケット	公共施設、チケットの購入
第 7 回	復習	復習、練習
第 8 回	買い物	価格、値段交渉
第 9 回	贈答	おみやげ、プレゼント、贈り物のタブー
第 10 回	キャンパスライフ	大学、専攻、授業、サークルの自己紹介
第 11 回	診察	症状、処方、養生の表現
第 12 回	課題確認のメール	欠席連絡、課題確認のメールの書き方
第 13 回	祝福の言葉	SNS で使うクリスマスメッセージ、年賀状の書き方
第 14 回	まとめ	総合練習と解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布プリントの予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書を使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加(50%)、練習問題(50%)の合計で評価する。検定試験の受験は義務ではないが、HSK(世界基準の中国語資格。中国語によるコミュニケーション能力の測定を第一の目的としたもの)、中検の受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講の授業のため、学生の意見はまだない。

【その他の重要事項】

授業前に学習支援システムの【お知らせ】を確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is primarily to acquire communication abilities in Chinese. Students will learn simple words and phrases and be able to apply them to basic conversations and SNS communications. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on exercises (50%), and the quality of the students' experimental performance in the class (50%).

ARSe100EA

中国語圏の社会と文化

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、中国とアジアの華人社会の漢字、時間（暦と祝祭日）と空間（歴史文化保護区域）、食文化、民間信仰、家族、教育、映画の事例を取りあげ、主に文化人類学の比較という視点から、中国語圏の社会と文化の現状を歴史または伝統とつなげて学ぶ。

【到達目標】

中国及びアジア諸地域の中国語圏の社会の生活文化について、文化の継承・変化・新たな展開について、人びとの観念と実践、社会変化の側面を知り、視野を広げる。また、これによって中国語の世界の理解を深めることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマについて説明し、写真と映像を含む資料を用いながら中国語圏の社会と文化の事例を取り上げる。講義内容のレジュメを配布し、パワーポイントを使用して進めていく。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	「中国語」をめぐる諸概念、漢字文化、授業の視点と内容、進め方と成績評価方法
2.	空間・世界観	創世神話、陰陽太極図、「中国」の形作り、地図、山と集落の景観の解釈
3.	空間・歴史的町並み	「歴史文化保護街区」、「世界遺産保護地区」の保護・整備と活用、都市化「城鎮化」とノスタルジア、観光地域づくり
4.	時間・祝祭日	近現代における西暦と旧暦「農曆」の併用、祝祭日、民俗行事
5.	時間・行事食	無形文化遺産の保護制度、二十四節気、行事食、宴と食物贈答
6.	食文化	「中国料理」、近代都市文化、アジアの華人社会、文化の融合、プラナカン（ニョニヤ）料理、ホーカー文化
7.	民間信仰	神仏と祖先、祈りの場「廟」、吉祥のシンボル
8.	年賀状	年賀状の歴史的な変化、図案・メッセージ・情報媒体
9.	家族・人口	家族・親族の系譜、婚姻、出生率、養育、世代間関係
10.	教育	教育機関（私塾、書院、学堂、大学）、試験（科挙、大学受験）
11.	映画・「華語電影」	中国（大陸）、台湾、香港、東南アジアの中国語映画、国際映画祭の受賞作、華人監督
12.	映画・社会変化	社会関係の変化、多面的な文化
13.	まとめ	まとめ、質疑応答
14.	レポートの解説	期末レポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連する資料を調べ、リアクションペーパーを通じて積極的に発言することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）の内容を中心とする平常点（遅刻や早退をした場合に減点）50%と期末レポート 50%で成績を評価する。授業の具体的な内容に即していないものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講の授業であるため、学生の意見等はまだまだない。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布、リアクションペーパー・課題の提出は学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

学習支援システム（Hoppii）上の本授業の連絡事項をよく確認すること。

【Outline (in English)】

This course introduces societies and cultures in China and other Chinese cultural region, and compares them from the viewpoint of anthropology. Students will understand changing societies and cultures of China and other Chinese cultural region, then broaden their horizons. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Grading will be based on final paper (50%) and the contents of the reaction papers (50%).

LANr200EA

ロシア語 1 A

清沢 紫織

サブタイトル：ロシア語中級 1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級を履修した学生を対象とし、これまで扱わなかった文法事項を学習します。ロシア語の文章を読み、理解していくうえで必要となる最上級、関係代名詞、接続法、数詞を使った表現などを学び、基本的な文法事項をひととおり学習し終えます。同時に、実際にロシア語で書かれた文章を読解するための基礎力を養っていきます。

【到達目標】

本科目では、教科書『初級ロシア語 20 課 CD 付』全 20 課のうち、15～20 課まで進む予定です。ロシア語初級で学んだ文法知識や語彙力（収録単語 550 語）を定着させ、より進んだ文法知識を身に着けることで、複雑な文章でも理解できるようになることを目標とします

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。授業内で実施した試験や小レポートなど、課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。これまで学習したロシア語文法を定着させるためにも、春学期（ロシア語 1 A）・秋学期（ロシア語 2 A）を通じて履修することを強く推奨します。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

※本授業は、経済学部の「ロシア語 (c)A」と共通です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「ロシア語初級 14 課までの復習
第 2 回	15 課 いくつかのお出かけですか？	個数詞と名詞の結合 数量の生格
第 3 回	15 課の続き	時間の表現 乗り物の表現
第 4 回	16 課 ちょっとお伺いしますが	無人称文
第 5 回	17 課 この辞書はいくらですか？	値段の表現 「気に入る」の表現
第 6 回	17 課の続き	動詞の歯音変化
第 7 回	これまでの復習 中間試験	15～17 課の中間試験を実施
第 8 回	18 課 彼の名前は？	名前のたずね方 造格の用法
第 9 回	18 課の続き	年数・年齢の表現 最上級
第 10 回	19 課 私は毎年ソチに行きます	定動詞と不定動詞
第 11 回	19 課の続き	「～月に」の表現 可能の表現
第 12 回	20 課 もしチケットがあるならば	関係代名詞 仮定法
第 13 回	20 課の続き	接続詞の用法 総復習 期末試験
第 14 回	総復習 期末試験	18～20 課の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 20 課』（桑野隆著、白水社、¥1900 + 税）

【参考書】

『入門ロシア語文法』（和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1300 + 税）必須購入
露和辞典（『ロシア語辞典』、博友社、1995 年、¥6291 が望ましい）
『ティータイムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と期末試験（50 %）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は新たな文法事項の学習にあたってその基礎となる既習事項の復習を丁寧にやって欲しいとの要望がありました。それを踏まえ、今年度は一年次の学習内容もしっかりと復習・定着を図る授業づくりを目指していきたくと考えています。また前年度の授業ではロシア語圏の社会や文化について適宜紹介を行いました。それがロシア語学習のモチベーションを維持する上で役に立ったという意見もありました。今年度も引き続き、画像・映像資料等も積極的に活用し、皆さんがロシア語の実際に使われる社会についても理解を深めながら、ロシア語の運用力を確実に身に付けて行けるよう授業実施に努めていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade (Beginning Russian). We will learn grammatical items that were not covered in Beginning Russian, such as superlative expressions, relative pronouns, the subjunctive, and expressions using numerals, which are necessary for reading and understanding Russian texts. This course aims to complete the study of basic grammar. We will also develop the basic skills necessary to read and understand texts in Russian.

LANr200EA

ロシア語 2 A

清沢 紫織

サブタイトル：ロシア語中級 3

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級、およびロシア語 1A あるいは 1B を履修した学生を対象とし、これまで扱わなかった文法事項を学習します。学期前半は副動詞、形動詞などの文法事項を学習し、学期後半は既習の文法知識を活かしてロシア語で書かれた文章を正確に理解し、日本語に訳せるようになることを目指します。またロシア語圏の国々の社会や文化についても理解を深めます。

【到達目標】

既習の文法事項を的確に運用できること。特に、副動詞、形動詞など本学期に学習した比較的複雑な文法事項をきちんと理解して表現できること。辞書を用いてロシア語で書かれた文章を読解し日本語に訳せること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、前半は「ロシア語 1A」までに扱わなかった文法事項を学習し、後半はロシア語で書かれた様々な文章を読んでいくことで読解力を養う訓練を行います。教材は授業毎に配布し、受講生には新出単語を調べる、テキストを訳出する、練習問題を解くなどの課題を必要に応じて課します。課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。これまで学習したロシア語文法を応用し、実際の文章やニュース記事などに慣れるためにも、春学期（ロシア語 1A）・秋学期（ロシア語 2A）を通じて履修することを強く推奨します。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

※本授業は、経済学部「ロシア語 (c)B」と共通です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 復習	春学期の復習
第 2 回	練習	関係代名詞の練習
第 3 回	副動詞、分詞	能動形動詞
第 4 回	分詞の続き	被動形動詞 被動相
第 5 回	否定代名詞・副詞	ничто、никто、никогда、некого、нечего、некогда など
第 6 回	不定代名詞・副詞	-то、-нибудь /-либо、кое-
第 7 回	文章読解（ロシア人の名前）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 8 回	第 7 回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 9 回	文章読解（ロシア人と甘いもの）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 10 回	第 9 回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 11 回	文章読解（ロシアの SNS）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 12 回	第 11 回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 13 回	第 12 回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 14 回	総復習 試験	秋学期のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970、¥1404 必須購入
露和辞典（『ロシア語辞典』、博友社、1995 年、¥6291 が望ましい）
『ティータイムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と期末試験（60％）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は新たな文法事項の学習にあたってその基礎となる既習事項の復習を丁寧にやって欲しいとの要望がありました。それを踏まえ、今年度は一年次の学習内容もしっかりと復習・定着を図る授業づくりを目指していきたいと考えています。また前年度の授業ではロシア語圏の社会や文化について適宜紹介を行いました。それがロシア語学習のモチベーションを維持する上で役に立ったという意見もありました。今年度も引き続き、画像・映像資料等も積極的に活用し、皆さんがロシア語の実際に使われる社会についても理解を深めながら、ロシア語の運用力を確実に身に付けて行けるよう授業実施に努めていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade (Beginning Russian, and Russian 1A or 1B). In the first half of the semester, we will study grammatical items such as transgressive, participle, negative pronouns, indefinite pronouns. In the second half of the semester, we will practice reading Russian texts accurately using the knowledge of grammar we have already acquired.

LANr200EA

ロシア語 1 B

土岐 康子

サブタイトル：ロシア語中級2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア語初級」を履修した学生を対象とし、これまで扱わなかった文法事項を学習します。ロシア語の文章を読み、理解していくうえで必要となる最上級、関係代名詞、接続法、数詞を使った表現などを学び、基本的な文法事項をひととおり学習し終えます。同時に、実際にロシア語で書かれた文章を読解するための基礎力を養っていきます。

【到達目標】

本科目では、教科書『初級ロシア語 20 課 CD 付』全 20 課のうち、15～20 課まで進む予定です。

「ロシア語初級」で学んだ文法知識や語彙力（収録単語 550 語）を定着させ、より進んだ文法知識を身に着けることで、複雑な文章でも理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。

授業内で実施した試験や小レポートなど、課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

これまで学習したロシア語文法を定着させ、同時に実際の文章やニュース記事などに慣れるためにも、春学期（ロシア語 1B）・秋学期（ロシア語 2B）を通じて履修することを強く推奨します。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシア語初級 14 課までの復習
第 2 回	15 課 いつお出かけですか？	個数詞と名詞の結合 数量の生格
第 3 回	15 課の続き	時間の表現 乗り物の表現
第 4 回	ちょっとお伺いしますが	無人称文
第 5 回	この辞書はいくらですか？	値段の表現 「気に入る」の表現
第 6 回	17 課の続き	動詞の歯音変化
第 7 回	これまでの復習 中間試験	15～17 課の中間試験を実施
第 8 回	18 課 彼の名前は？	名前のたずね方 造格の用法
第 9 回	18 課の続き	年数・年齢の表現 最上級
第 10 回	19 課 私は毎年ソチに行きます	定動詞と不定動詞
第 11 回	19 課の続き	「～月に」の表現 可能の表現
第 12 回	20 課 もしチケットがあるならば	関係代名詞 仮定法
第 13 回	20 課の続き	接続詞の用法 総復習 期末試験
第 14 回	総復習 試験	18～20 課の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。

随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 20 課』（桑野隆著、白水社、¥1900 + 税）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』（和久利誓一著、白水社、1970、¥1300 + 税）必須購入

・露和辞典（博友社ロシア語辞典、1995 年、¥6291 が望ましい）その他の辞書については授業で紹介いたします。

・『ティータムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と中間・期末試験（50 %）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、よりよい授業ができるように努めていきます。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade(Beginning Russian). Students will learn grammatical items that were not covered in Beginning Russian, such as superlative expressions, relative pronouns, the subjunctive, and expressions using numerals, which are necessary for reading and understanding Russian texts. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

LANr200EA

ロシア語 2 B

土岐 康子

サブタイトル：ロシア語中級 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア語初級」および「ロシア語 1B（ロシア語中級 2）」を履修した学生を対象とし、これまで扱わなかった文法事項を学習します。学期前半は文章読解に必要な文法事項を学習し、学期後半はロシア語で書かれた文章を日本語にする練習、映画を教材に会話やリスニングの練習を行い、総合力を身につけること目指します。

【到達目標】

既習の文法事項を的確に運用できること、辞書を用いてロシア語で書かれた文章を読解して日本語に訳せること。リスニングができ、簡単な会話を理解し、的確に応答できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、前半は「ロシア語 1B」までに扱わなかった文法事項を学習し、後半はロシア語で書かれた様々な文章を読んでいくことで読解力を養う訓練を行います。また、音読練習、口頭での質疑応答の練習を通して会話の訓練も行います。

教材は授業毎に配布します。課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

本学期はこれまで学習したロシア語の応用編・実践編となるため、春学期（ロシア語 1B）・秋学期（ロシア語 2B）を通じて履修することを強く推奨します。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 復習	春学期の復習
第 2 回	練習	関係代名詞の練習
第 3 回	副動詞、分詞	能動形動詞
第 4 回	分詞の続き	被動形動詞 被動相
第 5 回	否定代名詞・副詞	ничто、никто、никогда、некого、нечего、некогдаなど
第 6 回	不定代名詞・副詞	-то、-нибудь / -либо、кое-
第 7 回	文章読解 I	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 8 回	文章読解 II	テキストの音読と翻訳、文法解説
第 9 回	詩	詩の音読練習
第 10 回	映画のロシア語 I	スクリプトの音読、リスニング練習
第 11 回	映画のロシア語 II	スクリプトの音読、リスニング練習
第 12 回	ニュースのロシア語 I	テキストの音読と翻訳、時事問題
第 13 回	ニュースのロシア語 II	テキストの音読と翻訳、時事問題
第 14 回	総復習 試験	秋学期のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。

随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

・『入門ロシア語文法』（和久利誓一著、白水社、1970、¥1300 + 税）必須購入

・露和辞典（博友社ロシア語辞典、1995 年、¥6291 が望ましい）その他の辞書については授業で紹介いたします。

・『ティータイムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と期末試験（60 %）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、よりよい授業ができるように努めていきます。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade(Beginning Russian, and Russian 1B). In the first half of the semester, we aim to finish the remaining grammar(transgressive, participle, negative pronouns, indefinite pronoun and so on). In the second half of the semester, through reading comprehension of Russian texts, we aim for confirmation, fixing and application of what we have learned so far.

LANs200EA

スペイン語 1 A

杉守 慶太

サブタイトル：スペイン語中級 1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で身につけたスペイン語をさらに向上させることを目的とします。とくにスペイン語の読解力（+リスニング力）を身につけることを目標とします。文法を段階的に復習しながら、同時に易しい文章から難しい文章へと進んでいきます。授業では、スペイン語圏の国々についての知識と理解を深めることができます。

なお、

【到達目標】

スペイン語の基礎文法を理解したうえで文章を読むことができる。
スペイン語圏の国々の特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

週に一度の授業なので、十分予習・復習に努めてもらいたい。基本的にテキストに沿って授業を進めていきます。テキストの他に、スペインの新聞記事などを使用する予定です。スペイン語を学びながらスペインやラテンアメリカ諸国の歴史・文化・社会について学んでいきましょう。なお、頻繁に映像・音声教材（映画、ニュース・ドキュメンタリー番組など）を利用する予定です。できるだけ参加者の意見や要望を取り入れながら授業を運営していきます。授業内で行った試験については、その次の授業で講評や解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。少しでも興味があったら気軽に受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業説明
第 2 回	第 1 課 ラテンアメリカ	読解、文法：直接法現在
第 3 回	第 2 課 メキシコ①	読解、文法：比較
第 4 回	第 3 課 メキシコ②	読解、文法：関係代名詞
第 5 回	第 4 課 メキシコ③	読解、文法：直接法点過去
第 6 回	第 5 課 グアテマラ	読解、文法：再帰動詞
第 7 回	第 6 課 エルサルバドル	読解、文法：直接法線過去
第 8 回	第 7 課 ホンジュラス	読解、文法：過去分詞
第 9 回	第 8 課 ニカラグア	読解、文法：現在完了形
第 10 回	第 9 課 コスタリカ	読解、文法：過去完了形
第 11 回	第 10 課 パナマ	読解、文法：現在分詞
第 12 回	第 11 課 キューバ	読解、文法：接続詞
第 13 回	第 12 回までのまとめ	期末試験
第 14 回	前期のまとめ	前期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習（テキストの文章の和訳、内容の確認）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国本伊代ほか、『ラテンアメリカ旅行記』（弘学社）。その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 [60%]（課題、授業への参加度等）と期末試験または期末レポート [40 %] により総合的に評価する。
授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて授業の進捗を調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students enhance the skills developed in Basic Spanish. The end of this course, students are expected to enrich

their vocabulary and gain knowledge and understanding of Spanish speaking countries. Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination or report(40%), homework and contribution in class(60%).

LANs200EA

スペイン語 2 A

杉守 慶太

サブタイトル：スペイン語中級3

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様、初級で身につけたスペイン語をさらに向上させることを目的とする。とくにスペイン語の読解力（リスニング力）を身につけることを目標とする。文法を段階的に復習しながら、同時に易しい文章から難しい文章へと進んでいきます。授業では、スペイン語圏の国々についての知識と理解を深めることができます。

【到達目標】

スペイン語の基礎文法を理解したうえで文章を読むことができる。スペイン、ラテンアメリカ諸国の特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

週に一度の授業なので、十分予習・復習に努めてもらいたい。基本的にテキストに沿って授業を進めていきます。スペイン語を学びながらスペインやラテンアメリカ諸国について学んでいきましょう。なお、頻繁に映像・音声教材（映画、ニュース・ドキュメンタリー番組など）を利用する予定です。できるだけ参加者の意見や要望を取り入れながら授業を運営していきます。授業内で行った試験については、その次の授業で講評や解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。少しでも興味があったら気軽に受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業説明
第 2 回	第 13 課 ベネズエラ	読解、文法：不定詞
第 3 回	第 14 課 コロンビア	読解、文法：直接法未来
第 4 回	第 15 課 エクアドル	読解、文法：過去未来
第 5 回	第 16 課 ベルー①	読解、文法：再帰動詞
第 6 回	第 17 課 ベルー②	読解、文法：人称代名詞
第 7 回	第 18 課 ボリビア	読解、文法：現在分詞
第 8 回	第 19 課 チリ	読解、文法：現在分詞
第 9 回	第 20 課 アルゼンチン	読解、文法：過去未来
第 10 回	第 21 課 ウルグアイ	読解、文法：接続法現在
第 11 回	第 22 課 パラグアイ	読解、文法：接続法過去
第 12 回	第 23 課 ブラジル	読解、文法：接続法の表現
第 13 回	第 12 回までのまとめ	期末試験
第 14 回	第 24 課	読解、文法：命令文
	後期のまとめ	後期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習（テキストの文章の和訳、内容の確認）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国本伊代ほか、『ラテンアメリカ旅行記』（弘学社）。その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 [60%]（課題、授業への参加度等）と期末試験または期末レポート [40%] により総合的に評価する。授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて授業の進捗を調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students enhance the skills developed in Basic Spanish. The end of this course, students are expected to enrich

their vocabulary and gain knowledge and understanding of Spanish speaking countries. Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination or report(40%), homework and contribution in class(60%).

LANs200EA

スペイン語 1 B

乾 隆政

サブタイトル：スペイン語中級2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で身につけたスペイン語をさらに伸ばしつつ、実際に使ってみることを第一義とします。ことばはあくまでも道具ですから、使ってこそその価値があり、使うことで新たな出会いや知識の習得へと繋がるのです。授業では、スペイン語のリスニングや読解に必要な既習の文法事項の復習と未習の文法事項の学習、語彙の確認をおこなった上で、会話文や読み物の内容を楽しみます。

【到達目標】

- ・辞書を使いながら新聞の見出しを理解できる
- ・文章の読解力、リスニング能力をさらに高める
- ・現在形と再帰動詞の表現や目的格人称代名詞を伴う文章が理解できる
- ・過去の時制をそれぞれ理解し、使い分けられる
- ・未来と過去未来の表現が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、テキストに入る前のウォーミングアップとして、毎回スペイン新聞各紙の見出しから最新ニュースを読み解き、その後テキストを使用します。■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性があります。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	SNS と余暇
	1. Las redes sociales y el ocio	
第 2 回	1. Las redes sociales y el ocio	現在形と再帰動詞
第 3 回	2. El tenista español Rafael Nadal	スペインテニス選手、ラファエル・ナダル
第 4 回	2. El tenista español Rafael Nadal	Gustar の用法と不定詞を伴う表現
第 5 回	3. El restaurante más antiguo del mundo: Botín	世界でもっとも古いレストラン、ボティン
第 6 回	3. El restaurante más antiguo del mundo: Botín	過去時制その 1：現在完了と点過去
第 7 回	4. La moda	ファッション
第 8 回	4. La moda	過去時制その 2：線過去
第 9 回	5. La adopción	養子縁組
第 10 回	5. La adopción	過去時制その 3：点過去と線過去と過去完了
第 11 回	6. La energía eólica	風力発電
第 12 回	6. La energía eólica	未来と過去未来
	7. Cómo preparar un buen café	美味しいコーヒーの淹れ方
第 13 回	7. Cómo preparar un buen café	不定詞を伴う助動詞的表現
第 14 回	春学期のまとめ	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ぜひ予習の徹底を！ 外国語を理解する喜びと新たな情報を得る満足感を味わうためには語彙を増やすための不断の努力と繰り返し“読むこと”が不可欠です。また予習をすることで、何が理解できなかったかを把握することもできます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島聡子、佐藤佐知著『ニュースで学ぶ中級スペイン語 [改訂版]』La noticia de hoy [Edición revisada] (2022 年、三修社) [ISBN:978-4-384-42021-0 C1087]、その他必要に応じて資料・プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて必要な文法事項の解説を行います。既習・未習を問わず、文法や構文、語彙等のあらゆる疑問は放置せず積極的に質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻すや欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this course the students will develop once again their linguistic skills of Spanish that they have learned during the Elementary Course. Language is a tool, so we should use it to obtain our purpose. Throughout the course, we will review the grammatical elements learned so that we can enjoy the content of the readings.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: understand the headlines of Spanish newspapers using the dictionary, raise their level of understanding of Spanish both in reading and listening, improve the understanding of sentences with unstressed personal pronouns and expressions with reflexive verbs, understand and distinguish the sentences of different tenses of the past, understand the expressions of the future simple and future compound.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours.).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANs200EA

スペイン語 2 B

乾 隆政

サブタイトル：スペイン語中級 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級、さらには春学期に身につけたスペイン語をさらに伸ばしつつ、実際に使ってみることを第一義とします。ことばはあくまでも道具ですから、使ったこそその価値があり、使うことで新たな出会いや知識の習得へと繋がるのです。授業では、スペイン語のリスニングや読解に必要な既習の文法事項の復習と未習の文法事項の学習、語彙の確認をおこなった上で、会話文や読み物の内容を楽しみます。

【到達目標】

- ・辞書を使いながら新聞の見出しを理解できる
- ・文章の読解力、リスニング能力をさらに高める
- ・比較級、完了形、過去形、未来形等の表現が理解できる
- ・接続法の表現の理解を深める
- ・命令文や条件文が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、テキストに入る前のウォーミングアップとして、毎回スペイン新聞各紙の見出しから最新ニュースを読み解き、その後テキストを使用します。■■重要：授業計画は授業の展開によって、若干の変更が生ずる可能性があります。オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	8. El Programa Erasmus	エラスムス留学制度
第 2 回	8. El Programa Erasmus	比較級
第 3 回	9. La policía comunitaria en Honduras	ホンジュラスの交番
第 4 回	9. La policía comunitaria en Honduras	接続法：その 1
第 5 回	10. Equiparación de los permisos de maternidad y paternidad	育児取得一家庭と職場での男女同権
第 6 回	10. Equiparación de los permisos de maternidad y paternidad	接続法：その 2
第 7 回	11. Aporofobia	アポロフォビア
第 8 回	11. Aporofobia	接続法：その 3
第 9 回	12. Consejos para aprender japonés	日本語学習のアドバイス
第 9 回	12. Consejos para aprender japonés	接続法：その 4
第 10 回	13. La eutanasia en España	スペインの安楽死
第 11 回	13. La eutanasia en España	接続法過去：その 1
第 11 回	14. La historia del Chupa Chups	チュッパチャプスの歴史
第 12 回	14. La historia del Chupa Chups	接続法過去：その 2
第 12 回	15. Un sueño perdido en el mar Mediterráneo	地中海に沈んだ夢
第 13 回	15. Un sueño perdido en el mar Mediterráneo	条件文
第 14 回	秋学期のまとめ	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生諸君には予習を徹底してもらいたい。外国語を理解する喜びと新たな情報を得る満足感を味わうためには語彙を増やすための不断の努力と繰り返し“読むこと”が不可欠です。また予習によって何が理解できなかったかを把握することもできます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島聡子、佐藤佐知著『ニュースで学ぶ中級スペイン語 [改訂版]』La noticia de hoy [Edición revisada] (2022 年、三修社) [ISBN:978-4-384-42021-0 C1087]、その他必要に応じて資料・プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、授業形態の変更によって成績評価の方法に変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて必要な文法事項の解説を行います。既習・未習を問わず、分からない文法、構文、語彙等の疑問は放置せずに質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻、欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this course the students will develop once again their linguistic skills of Spanish that they have learned during the Elementary Course and the first semester. Language is a tool, so we should use it to obtain our purpose. Throughout the course, we will review the grammatical elements learned so that we can enjoy the content of the readings.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Through this course, students will be able to: understand the headlines of Spanish newspapers using the dictionary, raise their level of understanding of Spanish both in reading and listening, understand comparative sentences and expressions of different tenses of the past, present and future, improve their knowledge of subjunctive expressions, understand imperative phrases and sentences of the conditional mood.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before attending each class, students will do homework, preparation for the next class and review what they learned in the previous class (Standard hours as study outside the class: 2 hours).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

In principle, the final evaluation of the grades will be calculated based in the following: homework, small tests, and contributions in class: 60%, term-end examination and/or tasks: 40%.

LANk200EA

朝鮮語 1 A

荻野 優子

サブタイトル：朝鮮語中級 1

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法事項、語彙、作文、聞き取り、読解の能力向上を図り、総合的な実力の向上を目指します。

【到達目標】

初級で勉強したことを復習しつつ、さらに踏み込んだ文法理解、語彙力の強化、作文の書き方、聞き取り、読解問題などができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストにそって授業を進めていき、徐々にレベルアップを図っていきます。2022 年度はオンラインで開講する予定です。授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行います。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	1 課 留学に行きたいと思っています (1)	・希望の表現 ・連体形
2	1 課 留学に行きたいと思っています (2)	・練習問題 ・連体形+コッ ・「～していた～」 ・類似表現の比較
3	2 課 私はソウルに住んでいる (1)	・書き言葉の文体、ハンダ体 ・練習問題
4	2 課 私はソウルに住んでいる (2)	・へ体 ・深化学習（話ことばの非敬意体）
5	3 課 ドラマがお好きなんですって？ (1)	・引用の表現 ・練習問題
6	3 課 ドラマがお好きなんですって？ (2)	・平叙形の引用 ・疑問形・勧誘形・命令形の引用 ・引用連体形
7	4 課 ちょっと教えてくださいいただけますか (1)	・依頼の表現 ・授受表現
8	4 課 ちょっと教えてくださいいただけますか (2)	・シオツ変格用言 ・練習問題
9	5 課 一緒に買い物に行きましょう (1)	・許可の表現 ・接続形
10	5 課 一緒に買い物に行きましょう (2)	・練習問題 ・過去の事柄や話し手の意志
11	5 課 一緒に買い物に行きましょう (3)	・推量の理由づけ ・深化学習（再帰的様態、様態、契機）
12	映像資料、写真資料	・字幕つき映像を見て、言語とともに文化や歴史を概観する
13	まとめ	・練習問題 ・総まとめ
14	試験・まとめと解説	・1 課～5 課の範囲で実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学習した語彙、文法事項が身につくよう努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野間秀樹・金珍娥・高権旭著『はばたけ！ 韓国語 2 初中級編』朝日出版社

【参考書】

授業の中で必要な参考書や辞書について言及します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

課題、小テストなど：20%

期末試験：60%

出席が 2/3 に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解しやすい授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This intermediate course will focus on improving comprehensive ability, consisting of grammar items, vocabulary, composition, listening comprehension, and reading comprehension skills.

Learning Objectives)

The specific goals of this course are to acquire intermediate composition, listening, and reading skills until the end of the course.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

LANk200EA

朝鮮語 2 A

荻野 優子

サブタイトル：朝鮮語中級3

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で勉強した内容を踏まえつつ、文法事項、語彙、作文、聞き取り、読解の能力向上を図り、総合的な実力の向上を目指します。

【到達目標】

春学期で勉強したことを復習し、さらに踏み込んだ文法理解、語彙力の強化、作文の書き方、聞き取り、読解問題などができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期に使用したテキストの後半部分を進めていきます。会話でよく使う話し言葉の表現なども実際に口に出して練習する時間を取ります。

2022 年度はオンラインで開講する予定です。授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行います。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	6 課 旅に出る (1)	・提案の表現 ・受け身 (1)
2	6 課 旅に出る (2)	・当為の表現 ・練習問題
3	7 課 送別会 (1)	・後悔と反省の表現 ・帰結、「するようになる」
4	7 課 送別会 (2)	・使役 ・印象描写、「～するみたいだ」
5	7 課 送別会 (3)	・練習問題 ・接続形
6	8 課 訓民正音が創る知的世界 (1)	・書き言葉の文章を読む (1) ・結果状態の継続、「～している」
7	8 課 訓民正音が創る知的世界 (2)	・練習問題
8	8 課 訓民正音が創る知的世界 (3)	・まとめ ・応用練習
9	視聴覚教材 (1)	韓国のソウル言葉や方言を映像を通して学ぶ (1)
10	視聴覚教材 (2)	韓国のソウル言葉や方言を映像を通して学ぶ (2)
11	9 課 朝鮮の文学者たちと日本語 (1)	・書き言葉の文章を読む (2) ・受け身 (2)
12	9 課 朝鮮の文学者たちと日本語 (2)	・練習問題
13	9 課 朝鮮の文学者たちと日本語 (3)	・漢字音について
14	試験・まとめと解説	6 課～9 課の範囲で実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学習した語彙、文法事項が身につくよう努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野間秀樹・金珍娥・高極旭著『はばたけ！ 韓国語 2 初中級編』朝日出版社

【参考書】

授業の中で必要な参考書や辞書について言及します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

課題、小テストなど：20%

期末試験：60%

出席が 2/3 に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解しやすい授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This intermediate course will focus on improving comprehensive ability, consisting of grammar items, vocabulary, composition, listening comprehension, and reading comprehension skills.

(Learning Objectives)

The specific goals of this course are to acquire intermediate composition, listening, and reading skills until the end of the course.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.

(Grading Criteria/Policy)

Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

LANK200EA

朝鮮語 1 B

李 相旭

サブタイトル：朝鮮語中級2

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

語学の範囲にとどまらない情報の伝達を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire Intermediate Korean. (Learning Objectives)

By the end of this course, students will be able to do the followings:

1. Comprehend Korean texts of intermediate level
2. Understand relatively simple TV News in Korean (Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the news texts that we will be reading in class. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term end examination: 60 %、in class contribution: 40 %

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Web で視聴可能な韓国のニュースを主な素材として、中級レベルの朝鮮語を学びます。

【到達目標】

中級水準に到達する。

論理的文章を作成するにあたって必要な単語・表現等の習得。

朝鮮語圏のニュースを何とか自力で視聴できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今年度はオンラインで開講します（ただし、感染症の状況次第では学期途中で対面授業に変更となる場合があります）。

中級水準で要求される主な文法事項等を学びつつ、並行して Web で視聴可能な韓国のニュースを通じて朝鮮語を学んでいきます。教材はすべてこちらで用意します。Web に接続可能な環境だけ整えてください。

韓国のニュースときいて気後れする方もいるかもしれませんが、しかし、ニュースの言葉は定型的なものも多く発音も明快です。また、授業で用いるニュースには、Web 上で繰り返し視聴可能な2分程度の短いもので、かつニュースのテキスト（ニュースを文字でおこしたものが Web 上で公開されているもの）を選びます。さらに、当日授業で読解するニュースについては、単語ノート（当日のニュースに出てくるほとんどの単語等の意味を網羅したノート）を事前に配布しますので、事前に単語ノートを使ってニュースのテキストを読んでおけば、単語の意味の不明を理由としたニュースのわからなさの問題は解決するでしょう。また、多くの場合、ニュースは報道機関の自社サイトだけでなく、Youtube でも視聴できるので、速いと感じた場合は再生速度を適宜調節することも可能です。

この講義では、中級の基本的な文法事項を学びつつ、ニュースを読解の素材とし、ニュースの読解を通じた読む力の向上とそれに裏打ちされた聴く力の向上という相互作用を主なテコとして、朝鮮語の総合力の向上を目指します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

なお、授業計画は進捗状況により若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス
第 2 回	初級の復習	連用形と連体形
第 3 回	初級の復習	不規則用言
第 4 回	ハンダ体	ハンダ体を学ぶ
第 5 回	間接話法	ハンダ体をふまえ、間接話法の仕組みを学ぶ
第 6 回	理由・根拠・原因	理由・根拠・原因の表現を学ぶ
第 7 回	未来連体形の活用	未来連体形を使った表現を学ぶ
第 8 回	推測	推測の表現を学ぶ
第 9 回	語尾キの活用	語尾キを用いる表現を学ぶ
第 10 回	時間的順序	順序や推移の表現を学ぶ
第 11 回	論理・表現①	慣用表現を学ぶ
第 12 回	論理・表現②	慣用表現を学ぶ
第 13 回	論理・表現③	慣用表現を学ぶ
第 14 回	まとめ	期末課題 or テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

小学館／韓国・金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』（小学館、1993）等

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、課題等 60 %

LANK200EA

朝鮮語 2 B

李 相旭

サブタイトル：朝鮮語中級 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、学期途中で対面授業に変更となる場合がある。その場合は、学習支援システムを通じて通知する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Web で視聴可能な韓国のニュースを主な素材として、中級レベルの朝鮮語を学びます。

【到達目標】

中級水準に到達する。

論理的文章を作成するにあたって必要な単語・表現等の習得。

朝鮮語圏のニュースを何とか自力で視聴できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今年度はオンラインで開講します（ただし、感染症の状況次第では学期途中で対面授業に変更となる場合があります）。

中級水準で要求される主な文法事項等を学びつつ、並行して Web で視聴可能な韓国のニュースを通じて朝鮮語を学んでいきます。教材はすべてこちらで用意します。Web に接続可能な環境だけ整えてください。

韓国のニュースときいて気後れする方もいるかもしれませんが、しかし、ニュースの言葉は定型的なものも多く発音も明快です。また、授業で用いるニュースには、Web 上で繰り返し視聴可能な 2 分程度の短いもので、かつニュースのテキスト（ニュースを文字でおこしたものが Web 上で公開されているもの）を選びます。さらに、当日授業で読解するニュースについては、単語ノート（当日のニュースに出てくるほとんどの単語等の意味を網羅したノート）を事前に配布しますので、事前に単語ノートを使ってニュースのテキストを読んでおけば、単語の意味の不明を理由としたニュースのわからなさの問題は解決するでしょう。また、多くの場合、ニュースは報道機関の自社サイトだけでなく、Youtube でも視聴できるので、速いと感じた場合は再生速度を適宜調節することも可能です。

この講義では、中級の基本的な文法事項を学びつつ、ニュースを読解の素材とし、ニュースの読解を通じた読む力の向上とそれに裏打ちされた聴く力の向上という相互作用を主なテコとして、朝鮮語の総合力の向上を目指します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

なお、授業計画は進捗状況により若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	復習	前期の復習
第 2 回	受身形	受身表現を学ぶ
第 3 回	使役形	使役表現を学ぶ
第 4 回	未来連体形の活用	未来連体形の表現を学ぶ
第 5 回	語尾キの活用	語尾キを用いた表現を学ぶ
第 6 回	理由・根拠・原因	理由等の表現を学ぶ
第 7 回	推測	推測の表現を学ぶ
第 8 回	時間的順序	順序や推移の表現を学ぶ
第 9 回	論理・表現①	慣用表現を学ぶ
第 10 回	論理・表現②	慣用表現を学ぶ
第 11 回	論理・表現③	慣用表現を学ぶ
第 12 回	論理・表現④	慣用表現を学ぶ
第 13 回	論理・表現⑤	慣用表現を学ぶ
第 14 回	まとめ	期末課題 or テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

小学館／韓国・金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』（小学館、1993）等

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、課題等 60 %

【学生の意見等からの気づき】

語学の範囲にとどまらない情報の伝達

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire Intermediate Korean. (Learning Objectives)

By the end of this course, students will be able to do the followings:

1. Comprehend Korean texts of intermediate level
2. Understand relatively simple TV News in Korean (Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the news texts that we will be reading in class. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term end examination: 60 %、in class contribution: 40 %

SOS100EB

社会政策科学入門A

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策に関する基本的な知識と視点を学ぶ。前半では労働政策・社会保障政策について取り上げ、後半では福祉社会という観点から社会問題について考える。

【到達目標】

- ・社会政策の基礎知識を身につける
- ・社会政策（特に労働政策・社会保障政策）について理解し、福祉社会のあり方について考察できるようにする。
- ・キーワードを説明できるようにする。
- ・自分の関心を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

配布資料やハンドアウトに基づく講義を基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	社会政策とは何か	社会政策の考え方、社会政策の歴史的展開
第3回	社会政策の視点1：賃金	賃金政策、同一価値労働同一賃金、働き方改革など
第4回	社会政策の視点2：労働時間	労働時間の理論、労働時間制度の歴史、労働時間規制、時間外労働、過労死・過労自殺など
第5回	社会政策の視点3：雇用・失業	雇用形態の多様化と不安定就業、雇用を問い直す
第6回	社会政策の視点4：労使関係	多元的な労使関係（個別的/集团的、産業別/企業別）およびその変容
第7回	社会政策の視点5：社会保障	社会保険、生活保護、医療保険、公的年金など
第8回	福祉社会とは何か	福祉の考え方
第9回	福祉社会の視点1：リスク社会と個人化	国が福祉を保障する仕組み、経済社会の変化と新しい困難
第10回	福祉社会の視点2：貧困と社会的排除	不平等と貧困、女性・子供の貧困、貧困の再生産
第11回	福祉社会の視点3：福祉レジーム	福祉の仕組みは国によって変わるのか？
第12回	福祉社会の視点4：市民社会と福祉	サードセクターの活動、社会運動と福祉、ガバナンスなど
第13回	福祉社会の視点5：人口構造と福祉	高齢化、家族の変化、社会政策との関係
第14回	まとめ	授業のまとめと期末レポートの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一暎編著（2019）『よくわかる社会政策 [第3版] 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房、2,600円（税抜）

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房、2,500円（税抜）

【成績評価の方法と基準】

授業のリアクション・課題 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

キーワードを分かりやすく解説するよう心掛ける、リアクションペーパーなどを適宜紹介する。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of labor and social policy.

By the end of the course, students are expected to be able to:

- ・ Describe the historical and structural backgrounds of the development of labor and social policy
- ・ Describe keywords, concepts, and the main features concerning today's welfare society
- ・ Discuss one's own interest and questions in this topic

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、short papers and in class contribution: 50%

SOS100EB

社会政策科学入門B

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、社会政策科学科の学生にとって必要になる経済学の視点を身につけること、経済学の基礎理論を学ぶことです。経済学理論は、主流派の経済学に加えていくつかの経済理論があるので、主に主流派のミクロ経済学とマクロ経済学について説明し、次にマルクス経済学等の理論を解説します。本講義では、経済学の学びを深めていくための基礎や経済学的思考方法を解説します。

【到達目標】

- (1) 身近な問題を取り扱う際に経済学的な考え方ができる。
- (2) 需要と供給、資源配分について理解を深める。
- (3) 計算が苦手だ、経済学は苦手だとして忌避することなく、経済学の考え方が身につく。
- (4) マルクス経済学など批判的な経済理論についても理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は対面で行う予定ですが、感染状況によっては変更をしますので、毎回の授業の前に HOPPII で必ず確認してください。資本主義経済と経済学の歴史について解説しながら、経済学の考え方、方法について解説します。経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分、経済搾取等について学びます。

2022 年度はハイフレックス型の授業を前提にして授業計画を立てていきますが、変更の可能性あります。変更内容は学習支援システムで提示しますので、必ず、Hoppii を確認するように心がけてください。

授業の終わりにリアクションペーパーを書いてもらいます。次週の授業時の初めに、リアクションペーパー（疑問・質問等）からいくつか取り上げて復習を行い、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 政策科学と経済学	政策科学と経済学について学びます。
2	市場均衡（1）	家計の消費行動について解説しながら、経済学の考え方の説明をします。
3	市場均衡（2）	家計の消費行動について解説します。
4	市場均衡（3）	企業の生産行動について理解していくために、基本的な概念の説明をします。
5	市場均衡（4）	企業の生産行動について解説し、市場均衡について学びます。
6	市場の効率性と資源配分	パレート最適、市場均衡の効率性と経済余剰の考え方について説明します。
7	市場の失敗	市場の失敗について説明します。
8	中間試験	基本的な概念、考え方について、確認を行います。

9	マクロ経済学（1）	マクロ経済学の考え方を解説し、ミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて学びます。
10	マクロ経済学（2）	有効需要創出政策について学びます。
11	「市場の失敗」と「政府の失敗」	マクロ経済学への批判と新自由主義経済学の基礎的な考え方について解説します。
12	マルクス経済学（1）	マルクス経済学の基礎について説明します。
13	マルクス経済学（2）	価値増殖と資本とは何かについて解説します。
14	講義のまとめ、学期末テスト	講義のまとめを行い、学期末のテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を想定しています。特に、復習はしっかりとるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

経済学の教科書は、内容についてはあまり大きな差はないので、特定のものを使うということはありませんが、必ず手元に用意するようにしてください。わかりやすいという点では、以下のものがよいと思いますが、それにごだわる必要はありません。『ミクロ経済学(図解雑学)』嶋村紘輝、横山将義、ナツメ社、2003年。『マクロ経済学(図解雑学)』井堀利宏、ナツメ社、2002年。『マルクス資本論』佐々木隆治、角川書店、2018年。

【参考書】

『マルクス経済学（第3版）』大西広、慶応義塾大学出版会、2020年。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験30%、リアクションペーパー等の提出物20%、期末試験50%）で評価します。試験に関しては、必ず2回受験してください。期末試験を受けない場合は、評価の対象にはなりません。試験の内容、方法等については、Hoppii 上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

一度聞いたただけとなかなか理解できないという意見があったので、毎回、前回の内容の復習を授業の最初に行うことにした。

【学生が準備すべき機器他】

レジメや図表等を使って講義を行うので、PC 等を用意して授業を受けるようにしてください。

【その他の重要事項】

授業の進め方、リアクションペーパーの提出の仕方などの説明をしますので、最初のガイダンスには必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an economics perspective and to study the theory of economics. Economics theory has several economic theories in addition to mainstream economics, so I will mainly explain mainstream microeconomics and macroeconomics, and then explain theories such as Marx economics. In this course, we will explain the basics of economics required for future studies of economics and the economic way of thinking.

SOS100EB

社会政策科学入門C

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策科学、公共政策の基礎的な考え方を学ぶ

【到達目標】

政策科学、公共政策についての基本的知識を身につける。
理論のみならず事例の理解も試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1) 前半7回の政策科学における政治学の位置を踏まえた上で、後半7回では政策過程における社会科学のうちで、「有権者」となる諸君に必須な政治学的アプローチに対する知識を深めてもらう。

2) 本講義では、政策科学における統治機構の立法府において実際に政策決定に関連する政治家を中心とした諸アクターと、そうした統治機構に対するわれわれ国民からのインプットという、基礎的な知識を身につけてもらうことを期待する。

3) 最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	政策科学とは何か？ 国際政治学・政治学のアプローチ	政策科学を学ぶ上で、なぜ、国際政治学・政治学が必要なのかを考える。
第2回	政策科学における国際政治学・政治学の位置	国際政治学・政治学とはいったいどういう学問なのかを理解する。
第3回	国際政治学・政治学の理論	理論を支える哲学を考える。
第4回	国際・国家・コミュニケーションの課題	政策科学の問題対象である三つの領域の課題を理解する。
第5回	政治システム論：イーストンを中心に	政治システム論の基礎的理解。
第6回	政治コミュニケーション論：ドイツを中心に	政治コミュニケーション論の基礎的理解。
第7回	国際・比較政治学の視座	国際・比較政治学の基礎的理解。
第8回	政治制度と政治過程	政治過程論の発展と現代政治学。
第9回	政策決定の主体	政治家とは？
第10回	政策過程における集団	集団の時代。
第11回	政党の理論：デュベルジェ	二大政党システムの基礎理論。
第12回	政党の理論：サルトル	デュベルジェの修正としての政党理論。
第13回	55年体制と93年体制	日本政治の理論的理解。
第14回	政策科学における国際政治学・政治学の課題の総合的理解。	国際政治学・政治学の総合的理解の到達。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」として理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『衆参ねじれ選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2011年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

18歳選挙権の導入により、有権者となった皆さんの主権者教育に資するために、ミネルヴァ書房の「現代日本の選挙シリーズ」の一冊をこれまで指示して使用したことがあった。そこで、今年度も同等のものを、講義において、適宜指示するつもりである。

【参考書】

マックス・ウェーバー、1984、『職業としての政治』岩波文庫
白鳥浩、2009、『都市対地方の日本政治』芦書房

【成績評価の方法と基準】

試験＝70% 講義への積極性＝20% レポート＝10%を目安とする。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向コミュニケーションを大事にしたい

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Public Policy.

The goals of this course are to realize relationship between party system and decision-making process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

SOS100EB

社会政策科学入門D

天本 哲史

サブタイトル：社会政策科学への招待

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は社会政策科学の学生にとって必要となる法学の基礎を学ぶとともに、法と政策との関係も学びます。前半には法学の基礎を学びます。後半では法と政策の関係を学びます。

【到達目標】

- ・法学の基礎的な知識を身につける。
- ・法学の特徴について説明できる。
- ・法学の知識を基礎にして、社会政策を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の意義と授業進行を解説する。
第2回	法とは何か	法の社会規範としての特質や法の目的等を学びます。
第3回	法の発展	近代法の発展や日本法への継受等を学びます。
第4回	法源	裁判基準となる法を学びます。
第5回	法の適用	法的三段論法や訴訟手続等を学びます。
第6回	法の解釈	法の解釈の方法を学びます。
第7回	国家と法	国民主権や三権分立等を学びます。
第8回	人権と法	基本的人権や公共の福祉等を学びます。
第9回	市民生活と法	家族、契約、財産等の法を学びます。
第10回	犯罪と法	犯罪、刑罰等の法を学びます。
第11回	立法と政策	政策実現のための立法権の役割と限界を学びます。
第12回	行政と政策	政策実現のための行政権の役割と限界を学びます。
第13回	司法と政策	政策実現のための司法権の役割と限界を学びます。
第14回	授業のまとめ	本授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり末川博編『法学入門』（有斐閣、第6版補訂版、2014）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、レポート（36%）、平常点（14%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students will learn the basics of law, as well as the relationship between law and policy.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge of law.
- ・ Students can explain the characteristics of law.
- ・ Students can consider social policy based on their knowledge of law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

POL200EB, POL200EC

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去の政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の事例への理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

POL200EB, POL200EC

政治学理論 II

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホッブス、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロッキンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

ECN200EB

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、戦前から引き継がれた要素をみながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を学んでいく。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字や少子高齢化、過疎化等、現代日本が抱える諸問題の理解にもつながる。最終的には、日本経済の現状を把握した上で、客観的なデータを用いつつ、今後どのように諸問題を解決していくかの方策を考える力を身につけることが目標となる。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。また、前回の講義で提出されたリアクションペーパーで寄せられた質問・意見に回答する等を通じて、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
第 2 回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
第 3 回	白書の読み方	『経済白書』・『経済財政白書』を読む
第 4 回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
第 5 回	戦前における日本経済	明治時代から戦時時代までの日本経済
第 6 回	戦後日本の経済発展 (1)	戦後日本の経済復興
第 7 回	戦後日本の経済発展 (2)	高度成長時代から低成長時代へ
第 8 回	戦後日本の経済発展 (3)	戦後日本のエネルギー政策
第 9 回	戦後日本の経済発展 (4)	バブル景気とそのメカニズム
第 10 回	日本の長期経済停滞 (1)	バブル崩壊後の日本経済
第 11 回	日本の長期経済停滞 (2)	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
第 12 回	平成時代の日本経済	平成時代の日本経済を振り返る
第 13 回	日本の農業政策	農業政策と農業構造問題
第 14 回	講義まとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から各メディアの報道を通じて、日本経済の動向に目を向けておくことが望ましい。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第 6 版]』日本評論社、2020 年。
2. N・グレゴリー・マンキュー／足立英之他訳『マンキュー 入門経済学 [第 3 版]』東洋経済新報社、2019 年。
3. 宮崎勇、本庄真、田谷禎三『日本経済図説 (第 5 版)』岩波新書、2021 年。
4. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (70%)、平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーで寄せられた受講生の意見を講義に反映させていく。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of history and development of the Japanese economy. The goals of this course are to understanding Japan's economic structure. Grading will be decided based on Term-end report(70%), in class contribution(30%).

LAW200EB, LAW200ED

憲法

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、個人の基本的な人権や国の統治の仕組みを中心に、憲法の基礎を学ぶことを目的とします。この授業では、日本国憲法の条文解説だけではなく、現代社会の具体的な憲法の論点も扱います。

【到達目標】

- ・憲法の基礎的な知識を身につける。
- ・基本的な人権の統治機構を理解し、それを説明できる。
- ・憲法の知識を基礎にして、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明します。
第 2 回	憲法とは何か・憲法の歴史	憲法の意義と憲法の歴史を解説します。
第 3 回	国民主権	国民主権と象徴天皇制等を解説します。
第 4 回	平和主義	戦争放棄と自衛権等を解説します。
第 5 回	人権とその限界	人権の意義と人権の限界を解説します。
第 6 回	幸福追求権・法の下の平等	幸福追求権（新しい人権を含む）と平等の意味を解説します。
第 7 回	自由権	自由権を解説します。
第 8 回	社会権	社会権を解説します。
第 9 回	参政権・国務請求権	参政権・国務請求権を解説します。
第 10 回	国民の義務・三権分立	国民の義務を解説します。三権分立の意義を解説します。
第 11 回	国会・憲法改正	国会（立法権）を解説します。憲法改正を解説します。
第 12 回	内閣	内閣（行政権）を解説します。
第 13 回	裁判所	裁判所（司法権）を解説します。
第 14 回	財政・地方自治・まとめ	財政と地方自治を解説します。授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり声部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（岩波書店、第 7 版、2019）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、レポート (36%)、平常点 (14%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】
Students will learn the basics of the Constitution, focusing on basic human rights and governance mechanisms.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge of the Constitution.
- ・ Students can understand and explain the basic human rights and the separation of powers.
- ・ Students can consider social issues based on their knowledge of the Constitution.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

LAW200EB

民法（総則）

松田 佳久

サブタイトル：民法（入門）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する。内容は次のとおりである。売買契約の有効な成立、債務不履行、契約解除、代理、所有権の移転など。私たちの生活に欠くことのできない知識をこの講義で得ることができ、そのような知識を得ることを目的としている。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの受講となります。

Webex でオンタイムで授業を行います。授業支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、Webex でのオンタイムの授業に臨んでください。Webex でのオンタイムの授業は、授業支援システムの「教材」に URL を UP しておきますので、そこから入ってください。わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス：yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立 1	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立 2	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立 3	無効原因 取消しと無効
5	売買契約の有効な成立 4	代理
6	売買契約の有効な成立 5	無権代理 条件と期限
7	売主の義務と買主の義務 1	物の引渡し
8	売主の義務と買主の義務 2	代金の支払い
9	売主の義務と買主の義務 3	購入資金の借入れ
10	売主の義務と買主の義務 4	債権関係の終了
11	売主の義務と買主の義務 5	現実的履行の強制
12	売主の義務と買主の義務 6	損害賠償請求 契約の解除
13	売買契約による所有権の移転 1	物権変動の基本原則
14	売買契約による所有権の移転 2	動産取引における公示の原則と公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること
- 視聴後に各自で内容を復習すること
- 学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみること。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020 年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選 I 総則・物権』（有斐閣、第 8 版、2018 年）
2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選 II 債権』（有斐閣、第 8 版、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。
定期試験結果が 100 %。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には 1 4 回の Webex でのオンタイムでの授業をきちんと受けることが必要です。
わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください (担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等を UP しますので、参考図等を印刷でき、Webex でのオンタイム授業に臨むためのパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

- 秋学期の「民法 (財産法)」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。
- 授業視聴には小六法を必ず準備すること。
- 民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law. The contents are as follows. Effective establishment of sales contract, default, contract cancellation, agency, transfer of ownership, etc. The knowledge that is indispensable to our lives can be obtained in this lecture, and the purpose is to obtain such knowledge.

LAW200EB

民法 (財産法)

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する。この講義の内容は次のとおりである。売買契約における所有権移転、債権の回収と債権の確保、連帯債務、保証債務、抵当権、賃貸借契約など。この講義では私たちが社会生活を送るうえで欠くことのできない知識を得ることができる。そしてこの講義はそのような知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる (レベル C)
2. 民法の基本的な制度を理解できる (レベル B)
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる (レベル A)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの受講となります。
Webex でオンタイムで授業を行います。授業支援システムの「教材」に参考図、判例等を UP しておきますので、教材を印刷し、Webex でのオンタイムの授業に臨んでください。Webex でのオンタイムの授業は、授業支援システムの「教材」に URL を UP しておきますので、そこから入ってください。
わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください (担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。
民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施) あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施) なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	所有権と占有権 1	物権の客体、物権の本質、物権の効力、所有権の性質と効力
2	所有権と占有権 2	相隣関係、所有権の特別な取得原因、占有権の成立と態様、占有権の効力
3	債権の回収と債権の確保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全 (債権者代位権)
4	債権の回収と債権の確保 2	許害行為取消権
5	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務、保証債務
6	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則、抵当権
7	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保
8	物の賃貸借契約 1	総説、賃貸借契約 (基本的な法律関係)
8	物の賃貸借契約 2	賃貸借関係 (賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了)
9	物の賃貸借契約 3	借地借家法 (借地関係、借家関係)
10	他人の労務を目的とする契約 1	総説、雇用契約、請負契約
11	他人の労務を目的とする契約 2	委任契約
12	法律の規定に基づいて生ずる債権 1	総説、事務管理
12	法律の規定に基づいて生ずる債権 2	不当利得
13	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

○教科書に事前に目を通してから授業ビデオを視聴し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

宮本健蔵編著「新・コンダクト民法」(嵯峨野書院、2020 年)

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第8版、2020年）
2. 窪田充見＝森田宏樹『民法例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第8版、2020年）

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法（物権法・債権法）に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって100%評価する。

定期試験は授業支援システムの「レポート」に問題を提示し、添付の解答用紙で所定の期間内に解答し、「レポート」に提出します。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回のWebexでのオンタイム授業を受ける必要があります。わからないところがありましたら、いつでも担当教員のメールアドレスにメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、参考図等を印刷し、Webexでのオンタイムでの授業を受講できるパソコン等が必要です。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法（総則）」を履修しておくことが望ましい。

○授業ビデオの視聴にはあたっては小六法を準備しておくこと。

○民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property".he contents of this lecture are as follows. Transfer of ownership in sales contracts, collection of receivables and securing of receivables, joint debt, guarantee debt, mortgages, lease contracts, etc. This lecture will give us the knowledge that is indispensable for living a social life. And this lecture aims to acquire such knowledge.

ECN200EB, ECN200ED

ミクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：ミクロ経済学Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) ミクロ経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。

(2) 一般均衡分析の枠組みで需要と供給、資源配分について理解を深める。

(3) 「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】

(1) 身近な問題を取り扱う際にミクロ経済学的な考え方ができる。

(2) ミクロ経済学の重要な基礎用語を正しく説明できる。

(3) 数値計算によって効用最大化問題が解ける。

(4) 一般均衡の枠組みで効率性・公平性について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。

2022年度もオンライン授業実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、部分均衡と一般均衡の違い	経済学の発想を紹介します。（機会費用、比較優位など。）
2	経済学に必要な数学の復習	効用最大化問題を解くために必要な数学の復習を行います。課題①の出題
3	家計の行動（1）	効用最大化問題について解説します。課題②の出題
4	家計の行動（2）	予算制約式について図解します。課題③の出題
5	家計の行動（3）	効用について図解します。課題④の出題
6	家計の行動（4）	無差別曲線について図解します。課題⑤の出題
7	家計の行動（5）	最適消費点について図解します。課題⑥の出題
8	所得効果	所得効果について図解します。課題⑦の出題
9	価格効果	価格効果について図解します。課題⑧の出題
10	効率性と公平性	一般均衡理論の基づいて効率性と公平性に関する議論をします。課題⑨の出題

11	厚生経済学の定理	効率性・公平性について議論します。
12	純粋交換経済（1）	課題⑩の出題 純粋交換経済について説明します。
13	純粋交換経済（2）	課題⑪の出題 純粋交換経済について図解します。
14	純粋交換経済（3）	課題⑫の出題 純粋交換経済で、厚生経済学の定理を確認します。
		課題⑬の出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありません。毎回、課題を出題するので復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

宮澤 和俊, 焼田 党 [2019] 「財政学(ライブラリ今日の経済学 12)」新世社 ¥2,750

【成績評価の方法と基準】

対面による学期末試験(80%)および、13回の課題(20%)で評価します。それ以外では一切評価しません。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to provide the students with the basic understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the basic concepts of scarcity and opportunity cost;
- (2) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
- (3) the theory of consumer behavior.

ECN200EB, ECN200ED

マクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：マクロ経済学 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、マクロ経済学的な問題について概観することです。とくに、国民所得の決定や雇用（失業）について学びます。また、財政政策や金融政策など政府の役割についても議論します。

【到達目標】

- (1) 日常の経済問題について経済学的な発想ができる。
- (2) 簡単な数値計算によって均衡国民所得や政府支出増大の効果などが導出できる。
- (3) 45 度線分析を用いて財政政策の有効性を議論できる。
- (4) IS-LM 分析を用いて、財政政策と金融政策の効果を議論できる。
- (5) AD-AS 分析を用いて、失業、インフレ・デフレについて説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半では、とくに国民所得の概念を中心として財市場の分析を行います。財政政策の有効性について議論します。後半、財市場と貨幣市場を同時に分析して財政政策と金融政策の効果を確認します。さらに労働市場に注目して総需要曲線や総供給曲線を用いた分析を行います。

2022 年度はオンライン授業実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い	経済学の発想を紹介し ます。
2	GDP	GDP について解説し ます。
3	三面等価の原則	GDP について解説し ます。 課題①の出題
4	消費の決定	三面等価の原則について解説し ます。 課題②の出題 財市場における需要の構成項目と して大事な消費について解説し ます。
5	投資の決定	課題③の出題 財市場における需要の構成項目と して大事な投資について解説し ます。
6	財市場の分析— IS 曲線の導出	課題④の出題 財市場の需要と供給を等しくさせ る国民所得と利率の関係を示す IS 曲線を導出します。 課題⑤の出題

7	貨幣市場	貨幣市場の需要と供給を取り上げ、利子率の決定を解説します。 課題⑥の出題
8	貨幣市場の分析—LM曲線の導出	貨幣市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示すLM曲線を導出します。 課題⑦の出題
9	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線を用いて、均衡国民所得と均衡利子率を導出します。 課題⑧の出題
10	IS-LM分析と財政・金融政策（1）	財政政策の効果についてIS-LM曲線を用いて図解します。 課題⑨の出題
11	IS-LM分析と財政・金融政策（2）	金融政策の効果についてIS-LM曲線を用いて図解します。 課題⑩の出題
12	労働市場	労働市場の均衡について古典派とケインズ派を解説します。 課題⑪の出題
13	物価水準の決定—総需要と総供給（1）	総需要曲線と呼ばれるAD曲線を定義した後、導出します。 課題⑫の出題
14	物価水準の決定—総需要と総供給（2）	総供給曲線と呼ばれるAS曲線を定義した後、導出します。 課題⑬の出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありません。毎回課題を出題するので、復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面による学期末試験（80%）と13回の課題（20%）のみで評価します。それ以外では一切評価しません。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to provide the students with the overview of macroeconomic issues: the determination of output, employment, unemployment, interest rates. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) how the aggregate levels of production, employment, income and prices are determined in a market driven global economy;
- (2) the role of fiscal and monetary policy.

SOS200EB, SOS200EC

組織論

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	組織とは何か	組織の定義
第2回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第3回	組織デザイン①	分業と調整
第4回	組織デザイン②	組織構造
第5回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第6回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第7回	公共組織論①	公共組織の特徴と管理
第8回	公共組織論②	公共組織の事例研究
第9回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第10回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第11回	資源依存理論	依存とパワー
第12回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第13回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第14回	新制度派組織論	同型化、正当性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。
山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。
山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the fundamentals of organizational theory. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Organization design
- 2) Management of organizations
- 3) Organizations in external environments

ECN200EB

政策データ分析実習

北浦 康嗣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) 社会課題について自ら仮説を立てて検証する力をつける。
- (2) アンケート調査票を作成する力をつける。
- (3) アンケート調査票を分析する能力を養成する。

【到達目標】

- (1) 社会課題について自ら仮説を立てることができる。
- (2) 自ら立てた仮説を検証する手段を身に着ける。
- (3) アンケート調査票を完成させる能力を身に着ける。
- (4) 検証する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で実施します。各自が設定した社会課題に応じて、仮説を立てたうえで、それを検証するためのアンケート調査票を自ら作成します。グループディスカッション等を通じて、アンケート調査票を完成させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	本授業の位置づけを説明した後、各自のテーマを報告する。
②	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査について説明する。
③	アンケート調査の目的と方法	アンケート調査の目的と方法について実例を挙げながら解説する。
④	調査票の作成（1）	アンケート調査票の作成方法について実例を挙げながら解説する。
⑤	調査票の作成（2）	アンケート調査票の問題点について議論する。
⑥	調査票に関するディスカッション	各自で作成したアンケート調査票について議論する。
⑦	データの収集（1）	データ収集方法について解説する。
⑧	データの収集（2）	データ収集方法の問題点について議論する。
⑨	データの整理（1）	データ整理方法について解説する。
⑩	データの整理（2）	データ整理方法の問題点について議論する。
⑪	データの分析（1）	データ分析方法について解説する。
⑫	データの分析（2）	データ分析方法の問題点について議論する。
⑬	調査報告書の作成（1）	各自で集計したアンケート結果について議論する。
⑭	調査報告書の作成（2）	各自で集計したアンケート結果について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。本授業は「実習」科目なので各自で課したテーマに応じた課題が多くなります。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

各自で設定した仮説を検証するためのアンケート調査票の完成（50%）および、アンケートに基づいた報告書の完成（50%）のみで評価します。それ以外では一切評価しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望により、本授業は対面で実施します。それ以外の方法は基本的には活用しません。

【学生が準備すべき機器他】

授業用のPCを受講生が交代で事務室より借用・返却しています。授業内での課題は、授業支援システム（Hoppii）あるいは教員へのメール添付の形で適宜提出します。

【その他の重要事項】

受講最大人数は10人程度の予定です。受講希望者多数の場合は選考を行います。

受講人数により講義計画を変更することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the ability to formulate and verify social issues by oneself. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) to complete the questionnaire;
- (2) the means to test your hypothesis.

ECN300EB

財政学 I

古市 将人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済危機のような問題に対して、現代国家は巨額の財政支出による対策を実施している。このような国家の活動を予算制度の観点から分析するのが、財政学の基本的な課題と目的である。

【到達目標】

履修者が、財政学の理論や制度の知識を用いて、社会現象を読み解く能力を獲得することが、本講義の基本的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態を採用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財政学入門の入門	財政学とはどんな学問か。
第 2 回	公的部門の役割	財政の 3 機能論
第 3 回	外部性と政府活動	外部性の意義とその射影
第 4 回	公的部門とメリット財	メリット財、準公共財
第 5 回	経費論と財政民主主義	予算制度、経費膨張論
第 6 回	予算制度と予算編成論	予算編成過程
第 7 回	公共事業と財政投融资	公共事業、財政投融资
第 8 回	2000 年代の予算編成過程	予算と決算の違い
第 9 回	財政政策入門の入門	国民経済計算、GDP
第 10 回	経済成長と再分配	経済成長率、再分配
第 11 回	財政政策と公債原則	公債原則
第 12 回	社会保障制度論	セーフティネット、生活保護制度
第 13 回	社会保障制度とその役割	普遍主義、選別主義
第 14 回	雇用セーフティネット	雇用保険、求職者支援制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、講義ノートに記載されている例題を 2 時間程度復習すること。履修者は、配付資料や講義ノートを参考に、次回の論点を事前に 2 時間程度学習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。講義ノートを配布する。

【参考書】

神野直彦（2021）『財政学 第 3 版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

講義内提出課題（30%）とテスト（70%）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of public finance to students taking this course. The goals of this course are for students to understand the basic knowledge of public finance. After taking this course, students will be able to:

- Explain the basic theory of public finance.
- Explain the description of fiscal policy.
- Describe the history of Japanese public finance.
- Understand the role of the public sector in the economy.

Your final grade will be calculated according to the following process: Reaction papers(30%) and Term-end examination(70%).

ECN300EB

財政学 II

古市 将人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済危機のような問題に対して、現代国家は巨額の財政支出による対策を実施している。このような国家の活動を予算制度の観点から分析するのが、財政学の基本的な課題と目的である。

【到達目標】

履修者が、財政学の理論や国家財政と地方財政の制度の知識を用いて、社会現象を読み解く能力を獲得することが、本講義の基本的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態を採用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財政学と地方財政	財政学、地方財政論
第 2 回	再分配政策	社会的余剰、リスクシェアリング
第 3 回	格差の計測方法	ジニ係数
第 4 回	教育財政	外部性、教育財政
第 5 回	教育財政の理論と制度	財政移転、垂直的不均衡
第 6 回	地方財政論入門	地方自治、自治体決算
第 7 回	地方財政の理論と制度	地方交付税
第 8 回	租税論入門	超過累進課税
第 9 回	所得課税論	比例税、超過負担
第 10 回	消費課税論	一般消費税、消費税負担
第 11 回	公的年金制度論	賦課方式、不確実性
第 12 回	日本の公的年金制度	基礎年金、マクロ経済スライド
第 13 回	医療保険・介護保険入門	再分配、情報の不確実性
第 14 回	財政制度の評価	財政民主主義、潜在能力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、講義ノートに記載されている例題を 2 時間程度復習すること。履修者は、配付資料や講義ノートを参考に、次回の論点を事前に 2 時間程度学習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。講義ノートを配布する。

【参考書】

神野直彦（2021）『財政学 第 3 版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

講義内提出課題（30%）とテスト（70%）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of public finance to students taking this course. The goals of this course are for students to understand the basic knowledge of public finance. After taking this course, students will be able to:

- Explain the role of redistributive policy.
- Explain the basic theory of taxation.
- Describe the history of Japanese public finance.
- Understand the role of the social security system in Japan.

Your final grade will be calculated according to the following process: Reaction papers(30%) and Term-end examination(70%).

POL300EB

行政学

谷本 有美子

サブタイトル：政策過程論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の活動は、私たちの生活に様々な場面で関わりを持つもので、民主主義国家における行政は、国民を代表する議会が決定した法律や予算に基づくことが原則とされます。しかし、複雑化した現代社会のしくみをすべて議会の決定に委ねることは困難で、行政には命令や規則などの一定の裁量権が認められており、その仕事は主に専門家集団としての官僚機構が担っています。行政の活動は、それ自体が自律的に運用される側面を有するため、その不作為や政策実施の不手際が人々の生活に影響を及ぼし、新たな社会課題を生じる可能性は少なくありません。

そうした観点から、この授業のテーマは「行政学から見た社会課題の発見」とします。私たちの暮らしと密接な関わりを有する行政について、制度やしくみとともに基本的な性質を学んだ上で、政治との関係で変化する制度や政策形成を検討し、主権者の立場から行政責任の問題等を考察していきます。

【到達目標】

- ・行政の基本的な制度やしくみ、性質を理解する
- ・行政における政策形成と政治との関係性を検討する
- ・現代行政の問題を主権者の立場で実践的に考察する思考力を身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントや、レジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り政治と行政の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。前半は行政の制度や仕組みを中心に、後半は政策の形成過程を中心に解説します。終盤では、現代の行政活動事例について行政責任・行政統制の論点も踏まえながら検討し、行政課題と社会課題との関係性についても考察をすすめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	行政学－身近なところからのアプローチ	私たちの生活と行政との関係について概説し、授業で扱う行政の問題を俯瞰する
第 2 回	行政国家の成り立ちと行政学の展開	政府の役割が増大し、行政官僚制が形成されてきたプロセスを詳説した上で、その学問領域としての行政学の展開について概説する（テキスト第 2-3 章参照）
第 3 回	現代の政府体系	政府概念や政府体系の構造等、現代行政の枠組みを形成する基本的なしくみ・制度について概説する（テキスト第 4 章参照）

第 4 回	日本の内閣制度と国地方関係	日本の内閣制度と国地方関係について、行政改革や分権改革の動向を交えながら詳説する（テキスト第 5 章参照）
第 5 回	行政組織と行政管理	日本の行政組織とそのシステムについて概説した上で、1990 年代以降の行政改革の影響について検討する（テキスト第 8 章参照）
第 6 回	公務員制度と人事行政	行政を中心的に担う公務員に関する制度と人事行政のしくみについて詳説する（テキスト第 9 章参照）
第 7 回	行政活動と政策	行政活動のプログラムである政策の構造や政策体系に加え、その形成過程や理論モデルについて詳説する（テキスト第 11 章参照）
第 8 回	政策作成と決定	行政による政策案作成から政府案としての決定に至るプロセスを俯瞰した上で、予算案・法律案の調整過程を検討する（テキスト第 8 章及び第 12 章参照）
第 9 回	政策の執行	政策執行の基準や、実施体制・手法について実践的に検討する（テキスト第 13 章参照）
第 10 回	行政の活動－規制行政	行政による課題解決方法として、規制行政を取り上げ、その権力性についての理解を深める
第 11 回	行政の活動－サービス提供活動	行政による公共財提供の側面を取り上げ、行政資源配分の選択肢について検討する
第 12 回	政策の評価	現代日本で導入されている政策評価の仕組みについて概説した上で、フィードバックの実態を検討する（テキスト第 14 章参照）
第 13 回	行政責任と行政統制	行政活動に対する民主的統制のあり方を中心に検討する
第 14 回	行政学から見た社会課題の発見	行政課題と社会課題とのつながりについて考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う

・2022 年度政府予算の重点政策を調べる

・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

森田朗（2022）『新版 現代の行政〔第 2 版〕』（第一法規）

【参考書】

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）

今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホーンブック基礎行政学』（北樹出版）

金井利之『行政学概説』（放送大学教育振興会）

西尾勝『行政の活動』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末のレポート試験（60 %）と小レポートの提出状況等（40 %）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じて、後日授業での補足説明や追加資料配布等を行います。

【Outline (in English)】

In principle, administration in a democratic state is based on laws and budgets determined by the parliament representing the people. As it is difficult to delegate all the complexities of modern society to the decisions of Congress, administration has discretionary powers. Because of being managed mainly by bureaucrats, administration activities have the aspect of being operated autonomously. Therefore, their omissions and negligence on implementing the public policy might cause new social issues.

From such a viewpoint, we'll set the purpose of this class "Discovering social issues from the viewpoint of public administration." After studying the basics, like system, mechanism, and characteristics of public administration, we will study the change by the political influence of administrative system and policy, then we will consider the issue of the administrative responsibility.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To understand the basic system, mechanism, and nature of public administration
- B. To examine the policy making process in public administration and the connection with politics
- C. To acquire the ability to think practically about the problems of modern administration from the standpoint of a sovereign.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Students will be expected to check the priority policies of the 2022 government budget and after class collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class. In addition, read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following Term-end report (60%), short reports (40%).

LAW300EB

行政法 I

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、このような行政活動に対する法的規律等を学習します。この授業を学習の前半とし、後半は「行政法Ⅱ」で学習します。

【到達目標】

- ・行政法の基本的な法理論を理解する。
- ・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の進め方を説明します。行政と行政法の概念を解説します。
第 2 回	行政と行政法	行政法の法源とその種類を解説します。
第 3 回	行政法の法源	法律による行政の原理を解説します。
第 4 回	法律による行政の原理	行政主体と行政組織を解説します。
第 5 回	行政組織	行政立法の意義と法的統制を解説します。
第 6 回	行政立法	行政行為の意義を解説します。
第 7 回	行政行為①	行政裁量と附款を解説します。
第 8 回	行政行為②	行政行為の瑕疵を解説します。
第 9 回	行政行為③	義務履行強制、即時強制、行政調査を解説します。
第 10 回	行政強制	行政罰、その他の制裁を解説します。
第 11 回	行政上の制裁	行政指導の意義を解説します。
第 12 回	行政指導①	行政指導の法的統制を解説します。
第 13 回	行政指導②	行政計画の意義と法的統制を解説します。
第 14 回	行政計画	行政契約の意義と法的統制を解説します。
第 15 回	行政契約	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（有斐閣、第 7 版、2020）、宇賀克也他編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第 7 版、2017）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、レポート（36%）、平常点（14%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. Students will learn the basic theory of administrative law. This class is the first half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

LAW300EB

行政法Ⅱ

天本 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「行政法Ⅰ」の延長線上に位置し、行政活動をどのような手段（手続）でするのか、私人は行政活動からどのように救われるのかを学習します。また、行政法の法理論をより深く理解する上で学ぶべき行政情報管理や公務員等に関連する法分野も併せて広く学習します。

【到達目標】

- ・行政活動の行政過程と司法的救済を理解する。
- ・行政活動からの救済とその複合的な組み合わせを理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政手続法①	この授業の進め方の説明をします。行政手続の意義を解説します。
第2回	行政手続法②	行政手続法を解説します。
第3回	行政不服審査法①	行政不服申立ての意義を解説します。
第4回	行政不服審査法②	行政不服審査法を解説します。
第5回	行政事件訴訟法①	行政事件訴訟の意義を解説します。
第6回	行政事件訴訟法②	抗告訴訟と仮の権利救済を解説します。
第7回	行政事件訴訟法③	当事者訴訟等と客観訴訟を解説します。
第8回	国家補償法	国家賠償法と損失補償を解説します。
第9回	情報公開法	情報公開法を解説します。
第10回	個人情報保護法	行政機関の個人情報保護法を解説します。
第11回	公文書管理法	公文書管理法を解説します。
第12回	公務員法と公物法	公務員法と公物法を解説します。
第13回	地方自治法①	地方自治の本旨の意義を解説します。
第14回	地方自治法②	執行機関と地方議会を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり宇賀克也『行政法概説Ⅱ』（有斐閣、第7版、2021）、宇賀克也他編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第7版、2017）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、レポート（36%）、平常点（14%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. Students will learn the basic theory of administrative law. This class is the second half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

LAW300EB

政策と制度

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する（「学問を実際に使う」）ことを目指します。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に付けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討を試みます。

皆さんからの質問やコメントなどに次の授業で答える予定です。技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 「政策か、制度か」	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法（1） 「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルドア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第3回	政策の決定方法（2） 「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第6回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach / population approach
第7回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output / outcome）（、中間試験）
第8回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミン戦略、限定合理性、ヒューリスティック

第 9 回	政策実現の手法 (1) 「インセンティブか、 サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勸告・公表、補助金、優遇税制、テーバリング、努力義務・不完全義務
第 10 回	政策実現の手法 (2) 「ルールか、スタン ダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第 11 回	政策実現の手法 (3) 「一律強制か、任意・ 選択か」	強行規定と任意規定、majority default / penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第 12 回	政策・制度の担い手 「専門知か、市民参加 か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第 13 回	政策・制度と市場 「公共財か、価値財・ 負財か」	権限 (entitlement) の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第 14 回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ (、期末試験)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

執筆中のテキストを教科書として指定する予定です。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照 (持ち込み) 可の試験により評価する予定です。中間試験 (40 %) および期末試験 (60 %) の予定です。(時間および技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討します。)

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当します。

【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOS300EB

人的資源論

惠羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人的資源論の歴史的背景を踏まえた上で、企業がいかにかに人材を活用し価値を創造しようとしているのかについて、「働かせる側」および「働く側」の両方の視点から、人的資源論の基本的知識と実践を学ぶ。

【到達目標】

人的資源管理論の歴史的背景を理解し、基本的知識を身に着ける。それを通じて、将来のキャリア形成と問題解決に役立つ構造的・組織的背景への理解を深め、社会的発想力をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	人事管理・人的資源管	科学的管理と人事管理 理発展史 1
第 3 回	人事管理・人的資源管	人間関係管理 理発展史 2
第 4 回	人事管理・人的資源管	行動科学的管理 理発展史 3
第 5 回	人事管理・人的資源管	人的資源管理 理発展史 4
第 6 回	人事管理・人的資源管	戦略的人的資源管理 理発展史 5
第 7 回	人事管理・人的資源管	主要理論を概観する 理の主要理論
第 8 回	ジェンダーダイバーシ ティ	ジェンダー・ダイバーシティ論と その背景、企業における女性の働 き方について考察する
第 9 回	人的資源管理の組織と 制度 1	人的資源管理をめぐるさまざまな 概念について理解する
第 10 回	人的資源管理の組織と 制度 2	日本における人的資源管理の歴史 と労働市場の変容
第 11 回	人的資源管理の組織と 制度 3	制度・キャリア・報酬
第 12 回	人的資源管理の組織と 制度 4	人的資源管理と国際化
第 13 回	管理とは何か	人的資源管理論をめぐる労働者 観・人間観について
第 14 回	まとめ	授業のまとめと期末試験の説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前にレジュメや参考書に目を通しておく、復習では、配布資料やノートを整理しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回、レジュメや配布資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

岡田行正 (2008) 『新版 アメリカ人事管理・人的資源管理史』同文館出版、3200 円
守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著 (2018) 『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房、2800 円
その他、授業内で適宜参照する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (50%)

毎回のリアクション・ペーパー (授業内で出された提出課題や意見・質問など)

②期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器 (学習支援システムにアクセス可能なもの)

【その他の重要事項】

進行によって若干の内容変更の可能性はある。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of human resources theory while taking account of the historical background of the development of the theories.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

SOS300EB

政策フィールドワーク実習

中筋 直哉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域政策の対象である地域社会を歴史的構造的に分析するためのフィールドワークの方法を実地で学ぶ

【到達目標】

自分で見聞した事実に基づいて、地域社会を構造的に理解できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP6・DP7に関連。 DPについてははこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面で実施するが、一日の校外でのフィールドワークを行う。その時間分授業時間を振り替える

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	履修者の自己紹介と日程の相談
2	地域社会の構造的理解 1:社会構造	教員による説明と質疑(教科書を使用)
3	地域社会の構造的理解 2:歴史的重層	教員による説明と質疑(教科書を使用)
4	フィールドワーク 1	授業時間外のフィールドワークに振り替え：11月の土曜日に一日のフィールドワークを実施
5	フィールドの選定	履修者の希望に基づきフィールドを選定
6	フィールドワーク 2	授業時間外のフィールドワークに振り替え
7	フィールドの事前研究 1	文献によるフィールドの事前研究
8	フィールドワーク 3	授業時間外のフィールドワークに振り替え
9	フィールドの事前研究 2	行政資料に基づく事前研究
10	レポート構想発表 1	各自の構想を発表し、議論する
11	レポート構想報告 2	各自の構想を発表し、議論する
12	レポートサポート 1	レポート執筆の個別相談
13	レポートサポート 2	レポート執筆の個別相談
14	授業の総括	授業全体を振り返り、今後の研究課題を見出す

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。11月の土曜日に一日校外(日帰り圏の地域)でのフィールドワークを行う。また最終レポート(A4×4枚程度)を第13回終了時まで提出しなければならない

【テキスト (教科書)】

森岡清志編,2008,『地域の社会学』有斐閣。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的関与 60%、レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

初年度のためなし

【学生が準備すべき機器他】

フィールドに出られない、出る気のない人は履修できない。ただし障がいなどの正当な理由があればその履修者に合ったフィールドを検討する

【その他の重要事項】

この授業の最大受講人数は 20 人。超過した場合は選考するので、秋学期開校だが必ず 4 月に履修登録と学習支援システム仮登録を行うこと

【Outline (in English)】

(Course outline)This practical seminar aims to study regional research method for making local social policy.

(Learning Objectives)The goal of this seminar is practical understanding local society.

(Learning activities outside of classroom)1day fieldwork and writing

final report,

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:60%, Final report:40%.

SOS300EB

外書講読（社会政策科学） 1 A

天本 哲史

サブタイトル：特講（外書講読 社会政策科学 1 A）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英文で書かれた文献や資料を訳出しながら内容を検討します。アカデミックな文献に慣れることと、海外事情等の知識を獲得することを目的とします。テーマは「日本と海外の法制度の比較と検討」とします。

【到達目標】

- ・アカデミックな文献を読むための基礎的な知識を身につける。
- ・アカデミックな文献を読んで内容を説明できる。
- ・アカデミックな文献を読んで日本と他国の法制度を比較できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では文献や資料を読みます。学生の中から訳出の担当を決めて毎回 2~3 頁程度を読んでもらいます。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の進め方の説明をします。読む文献や資料を決めます。輪読の順番を決定します。
第 2 回	文献講読①	訳読と内容を検討する。
第 3 回	文献講読②	訳読と内容を検討する。
第 4 回	文献講読③	訳読と内容を検討する。
第 5 回	文献講読④	訳読と内容を検討する。
第 6 回	文献講読④	訳読と内容を検討する。
第 7 回	ディスカッション①	訳読した文献内容を基に議論をする。
第 8 回	文献講読⑤	訳読と内容を検討する。
第 9 回	文献講読⑥	訳読と内容を検討する。
第 10 回	文献講読⑦	訳読と内容を検討する。
第 11 回	文献講読⑧	訳読と内容を検討する。
第 12 回	文献講読⑩	訳読と内容を検討する。
第 13 回	ディスカッション②	訳読した文献内容を基に議論をする。
第 14 回	まとめと解説	この授業の振り返りをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書は使用しません。

【参考書】

参考となる文献や資料は、各授業の中で示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50 %）、平常点（50 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students will read academic literature in English and learn about foreign affairs.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge for reading academic literature.
- ・ Students can read academic literature and explain the contents.
- ・ Students can read academic literature and compare the legal systems of Japan and other countries.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 50%, Usual performance score : 50%

ECN100EB

企業と社会論 A

加藤 寛之

サブタイトル：産業・企業論 A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline (in English)】

To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory.

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、受講生が企業に関する正確な理解をもつことにおきます。次のような問い、企業とは何か、企業はなぜ存在するのか、企業は経済活動上どんな役割を果たすのか、への答えを説明します。経済学の企業論は20世紀に入って生まれた理論です。その概要を理解することが目的です。

【到達目標】

基礎理論を踏まえつつ、最新の理論的成果と現代企業が直面する主要な活動を学ぶことを通じて、受講生各自が、様々な企業を分析理解できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

個別企業のケースを取り上げながら説明します。そのためパワーポイントを使った説明が主になります。

課題へのフィードバックはその都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の企業社会	企業の発展と企業の理論
2	損益計算書	5つの利益、付加価値
3	貸借対照表	ROE、ROA
4	キャッシュフロー計算書	黒字倒産
5	近代企業の登場	専門経営者
6	所有と支配の分離	経営者支配
7	財閥の形成と解体	企業集団、買収・合併
8	資本主義と企業の発展	工場と経営体の誕生 経営管理の生成
9	経営管理の系統図	科学的管理法
10	経営管理の諸理論	大量生産方式、コンティンジェンシー理論
11	組織のデザイン	機能別組織 事業部制組織
12	日本型組織デザイン	日本型組織デザインの特殊性と普遍性
13	構造は戦略に従う	戦略と組織の適合性
14	資源の束としての企業	ベンロース 資源配分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考文献をいくつか指定するので読んでおくこと。問題意識を持って講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いません。プリントを配布します。

【参考書】

毎回の講義の最後に、参考文献をお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、企業の理論を理解し説明できること、に置きます。

評価方法は、次の二つの要素の総合です。

毎回の課題の評価 70 点、レポート 30 点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

講義では必要に応じてパワーポイントを利用します。

【その他の重要事項】

授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

ECN100EB

企業と社会論 B

多田 和美

サブタイトル：産業・企業論 B

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、社会の主要な構成要素の1つである企業に焦点を当てます。企業経営に関する基本理論の修得を通じて、企業が社会に及ぼす影響や果たす役割を考察します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 企業経営に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義資料の配布と解説を通じた講義形式で実施します。授業に関する情報は、「学習支援システム」に掲載するので随時確認してください。課題を提示した際は、次回の授業で課題のフィードバック（解答・解説）を行います。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	企業経営の仕組み
第2回	企業形態論①	企業の各形態
第3回	企業形態論②	営利企業の特徴
第4回	企業統治論①	コーポレート・ガバナンスの基本
第5回	企業統治論②	今日のコーポレート・ガバナンス
第6回	経営戦略とは何か	経営戦略の基本
第7回	競争戦略①	事業構造の分析
第8回	競争戦略②	3つの基本戦略
第9回	競争戦略③	ビジネス・システム
第10回	多角化戦略①	多角化の論理
第11回	多角化戦略②	多角化のパターン
第12回	企業構造再編の戦略①	他企業も含めた企業構造の再編
第13回	企業構造再編の戦略②	M&Aと戦略的提携
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社。
井原久光（2008）『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房。
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略（第3版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%と期末試験もしくはレポート：40%で評価します。

- ・課題の提出は期限厳守です。
- ・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of management theories. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Forms of business ownership
- 2)Corporate governance
- 3)Strategic management

MAN200EB

社会・イノベーション論 I

糸久 正人

サブタイトル：産業と企業の理論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論 I では、1) イノベーションが実現される基本的な前提としての社会の仕組み、2) 企業を中心としたイノベーション活動について学びます。

【到達目標】

・イノベーションが実現される前提としての社会の仕組みを理解する
・企業におけるイノベーション活動を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションとは何か？	本講義のメインテーマであるイノベーションについて定義し、講義全体の概要を述べる
第 2 回	社会における分業と協業	社会における生産活動を効率的に行うための仕組みとしての分業と協業
第 3 回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権の概念から企業の目的を考える
第 4 回	資本主義と競争	貨幣の成り立ちと資本主義の基本原則を前提として、必然的に競争が生じるメカニズム
第 5 回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性
第 6 回	両利き経営の難しさ	企業活動としてオペレーションとイノベーションの必要性和難しさ
第 7 回	制約理論：流れづくりのマネジメント	流れづくりを効率的に行うためのボトルネックの考え方とその解消方法
第 8 回	ブルーオーシャン戦略	コストリーダーシップと差別化を同時に実現するバリューイノベーション
第 9 回	ビジネスエコシステム（産業生態系）論	PC 産業で先駆的に観察された垂直分業から水平分業への産業転換
第 10 回	標準化戦略 I	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：競争ベースの標準化
第 11 回	標準化戦略 II	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：コンセンサスベースの標準化
第 12 回	プラットフォーム戦略と独占問題	あるレイヤーでプラットフォームになるための戦略、および GAF A 問題
第 13 回	ゲスト講師	ゲスト講師を招き、特定のトピックに関する理解を深める

第 14 回 小括

前期の小括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

後期の社会・イノベーション論 II を併せて受講することを推奨します。

【Outline (in English)】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the first semester, we focus on 1) social contexts and mechanisms in which innovation realize, and 2) innovation activities of firms.

MAN300EB

社会・イノベーション論Ⅱ

糸久 正人

サブタイトル：産業と企業の理論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論Ⅱでは、1) 政策とイノベーション、2) イノベーションの実践、3) 新たな技術と社会的価値について学びます。

【到達目標】

- ・政策とイノベーションの関係について理解する
- ・イノベーションを実践するための基本的知識を理解する
- ・新たな技術と社会的価値について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	規制とイノベーション	政府の規制とイノベーションの関係について理論と現実の両側から理解する
第2回	イノベーションと知的財産	イノベーションと知的財産の保護およびオープン化
第3回	欧州を中心としたイノベーション政策	欧州を中心とした汎国家的なイノベーション政策
第4回	ソーシャルイノベーション	社会課題をビジネスの枠組で解決するソーシャルイノベーション
第5回	デザイン思考とイノベーション	イノベーション活動におけるデザインの意義と重要性
第6回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費活動の実態
第7回	人工知能とその応用	人工知能およびロボットと人間社会の関係、自動車産業における Connected, Autonomous, Shared, Electric をベースとしたサービス化などについて考える
第8回	競争力の概念と構成要素	表の競争力、裏の競争力といった多面的な競争の概念と、 QCDF などの構成要素
第9回	品質管理とコスト管理	QCDF のうちの Q と C 、すなわち正確性のための品質管理と効率性のためのコスト管理
第10回	生産計画とフレキシビリティ	QCDF のうちの D と F 、すなわち生産計画にもとづく納期管理とフレキシビリティの追求
第11回	生産システムの歴史	フォード方式から TPS 、インダストリー 4.0 までの生産システムの歴史
第12回	アーキテクチャ論と国際競争	アーキテクチャ（設計思想）からみるものづくり論と国際競争

第13回 製品開発マネジメント 製品開発を効率的に行うためのマネジメント

第14回 総括 社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

前期の社会・イノベーション論Ⅰを受講していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the second semester, we focus on 1)policy and innovation, 2)practice of innovation, and 3) new technologies and social values.

MAN200EB

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済の根幹を形成する「中小企業」に関して、既存研究では、資源制約があるがゆえに発展が妨げられているという「問題型」の議論、小さいことによる発展性／優位性に着目した「貢献型」の議論がなされてきました。本講義では、こうした中小企業をめぐる二面性を意識しつつ、中小企業に関する諸理論を学習します。具体的には、1) 中小企業とは何か？ 2) 中小企業はなぜ企業規模が小さいために問題性と発展性／優位性を有しているのか？ 3) 中小企業の一形態であるベンチャー企業とは何か？ というテーマで議論します。また、多摩で活躍する中小企業の経営者をゲストスピーカーとして招き、実践的な中小企業経営について議論します。

【到達目標】

本講義では、企業規模が小さいことに起因する「問題性」と「発展性／優位性」を認識した上で、両者を包含した複眼的な視点から中小企業に対する理解を深めることを目標とします。また、多摩地域の中小企業経営者をゲストに招き、現場の活きた知識の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主にパワーポイントを活用した講義形式で行います。ゲスト講師の回にはリアクションペーパーの提出を求められます。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第 2 回	中小企業とは？	中小企業の定義、法律・経済・経営的な意味について、および日本経済の発展過程における中小企業の役割
第 3 回	複眼的視点からの中小企業論	中小企業を捉える視座について
第 4 回	イノベーションと中小企業	独自の視点からイノベーション活動を行う中小企業を紹介
第 5 回	ベンチャー企業の経営	ベンチャー企業マネジメントの要点
第 6 回	産業集積と産業クラスター	産業集積と産業クラスターの要点
第 7 回	中小企業のケース (1)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 8 回	中小企業のケース (2)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 9 回	中小企業のケース (3)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 10 回	中小企業のケース (4)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 11 回	中小企業のケース (5)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション

第 12 回 中小企業のケース (6) 多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション

第 13 回 中小企業政策 中小企業政策を概観し、中小企業の活性化について考える

第 14 回 中小企業論のまとめ 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中に、中小企業／ベンチャー企業の経営者によって書かれた独自のマネジメント手法に関する書籍を講読してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Small and medium enterprises (SMEs) form the basis of the Japanese economy. There are mainly two major arguments in the previous researches on SMEs. One is "Problem driven," which claims that SMEs have difficulties growing due to limited resources. The other is 2) "Contribution driven," which claims SMEs' potentiality and advantages because of its flexibility. This course deals with general theories on SMEs, considering these two different arguments. We discuss the following subjects; 1) What is a small business? 2) Why do SMEs have problems and potentiality/advantages? 3) What is a venture business? Additionally, we invite guest lecturers from SMEs in the Tama area to acquire a comprehensive understanding of SMEs.

ECN200EB

地域産業論 I

加藤 寛之

サブタイトル：地域産業論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関わるようになることをテーマとする。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業を見る眼、産業を見る眼、中小企業を見る眼、地域産業を見る眼
第 2 回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第 3 回	農業と立地	事例研究：ベルグアース、村上農園
第 4 回	地域経済の成長理論	需要主導型の成長モデル、供給主導型の成長モデル
第 5 回	都市と環境問題	公害としての環境問題、都市の環境問題
第 6 回	地方工業都市（1）	企業城下町、日立製作所、三菱重工業（東海・九州）
第 7 回	地方工業都市（2）	トヨタ生産システム、愛知と九州と東北の自動車産業
第 8 回	都市周縁の集積	大阪の金型工場の集積、岡山のジーンズ縫製
第 9 回	マザー工場	子工場、孫工場とマザー工場の共進化、富士通、川崎重工
第 10 回	産業集積の理論と事例	クラスター
第 11 回	国境を越える地域の連携	プロダクトサイクル説、雁行形態論、塩地モデル
第 12 回	国の競争優位（1）	タイの自動車産業のサプライヤーシステム
第 13 回	国の競争優位（2）	東アジアの優位産業の競争力
第 14 回	国境を越えるクラスター同士の連携	東アジアのハードディスクドライブ産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、次回のプリントを配布しますので、講義内容をあらかじめ把握してください。また、日常的に新聞を読むなど社会ニュースに触れ、時事的な事柄に感心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹(著)、高橋 望(著)、加藤 一誠(著)、榎原 胖夫(著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房
伊藤 正昭(著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社
中村剛治郎編(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題評価による平常点 70 点、レポート 30 点

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回リアクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries, and to enable participants to acquire the necessary eyes (concepts and theories) to think about regional industries and to become involved in the revitalization of their own regional industries. To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

ECN300EB

地域産業論Ⅱ

加藤 寛之

サブタイトル：特講（地域と産業）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきか考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定テキストを参照しながら、最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地方消滅、地域産業を調べるということとは
第 2 回	地方消滅	東京一極集中、コンパクトシティ
第 3 回	G 型と L 型	グローバル経済圏とローカル経済圏
第 4 回	産業分析	統計指標の読み方
第 5 回	企業分析	財務諸表と企業分析
第 6 回	稼ぐまちとは	利益なくして再生なし
第 7 回	街づくりを成功させる鉄則	自立がまちを支える
第 8 回	町おこし：鯖江市	「めがねのまち」から「オープンデータのまち」へ
第 9 回	町おこし：今治タオル	地方発のブランド
第 10 回	温州商人	ソーシャルキャピタル、温州商人のネットワーク
第 11 回	琵琶湖水系	関西経済圏と琵琶湖水系、地盤沈下、水質汚染、環境と地域産業の共存
第 12 回	現代の二都物語	アナリー・サクセニアン の明らかにした経済地理
第 13 回	常石造船	沼隈町と常石造船
第 14 回	今治造船	瀬戸内海の波方船主達の生態と造船産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回プリントを配布します。日常的に新聞を読むなど、社会経済に関するニュースに触れて、時事的な事柄に関心を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

木下 斉(著)『稼ぐまちが地方を変える―誰も言わなかった 10 の鉄則』NHK出版新書
 木下 斉(著)『まちづくりの「経営力」養成講座』学陽書房
 富山 和彦(著)『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書田村正紀(著)『リサーチ・デザイン』経営知識創造の基本技術』白桃書房
 アナリー・サクセニアン(著)、本山 康之(監修、監修)、星野 岳穂(監修、監修)、酒井 泰介(翻訳)『最新・経済地理学』
 アナリー・サクセニアン(著)、山形 浩生(翻訳)、柏木 亮二(翻訳)『現代の二都物語』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%、試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回リアクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）との意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries, and to enable participants to acquire the necessary eyes (concepts and theories) to think about regional industries and to become involved in the revitalization of their own regional industries. To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory.

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。そして、産業・労働を取り巻く状況を社会動態として捉え、人々の意識や相互関係に着目する社会学の枠組みについて理解し、これまで社会学が「働くこと」をめぐっていかに考察してきたのかを理解するとともに、今日のグローバル化の影響について検討する。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	産業社会学とはどのような学問か	産業社会学、労働社会学、労働経済学、人的資源論など多様な学問領域の特徴を理解し、産業社会学の方法について学ぶ
第 3 回	経済と社会をめぐる社会学的研究の系譜	社会学における古典理論（デュルケム、ウェーバーなど）、社会関係資本、社会的紐帯などを含む経済社会学の基礎概念について学ぶ
第 4 回	産業化と社会変動	そもそも産業とは何なのか？ 分業、工業化、脱工業化に伴う技術・組織・社会関係・地域社会の変動などについて考察する
第 5 回	職場組織と人間関係	ホーソン実験など職場の人間関係論をめぐる議論を学び、欲求充足、モラル、感情労働などについて理解する
第 6 回	技術革新と労働	テイラーリズム、フォードリズム、ポストフォードリズムなどの議論から技術革新と労働・管理の変容を考える
第 7 回	労働者意識とイデオロギー	技術や官僚制化をめぐる労働の疎外と人間化、帰属意識、仕事のやりがいや価値観など、労働の主体性について考える

第 8 回	労資関係と労使関係	働くことを取り巻く利害関係や制度としての労資関係/労使関係について、その層性を理解する
第 9 回	労働組合と労働運動	労働組合の類型と機能、および日本の労働組合の特徴を理解し、今日的な労働組合運動のあり方について考える
第 10 回	日本の産業社会学（1）	日本の産業社会学の系譜から、生活共同体としての労働社会、経営家族主義、産業化と日本の特質などを理解する
第 11 回	日本の産業社会学（2）	いわゆる日本型雇用システムの特徴を理解し、その変容と多様な働き方について考える
第 12 回	グローバル化と労働（1）	新国際分業や多国籍企業、経済産業再編成とサービス化、資本と労働の移動の相互関係などについて学ぶ
第 13 回	グローバル化と労働（2）	アジアおよび日本における移民労働者と労働の変容について考察する
第 14 回	まとめ	授業のまとめと期末レポートについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。グローバル化や社会格差の拡大、雇用の流動化、労働をめぐる不安定性やリスクの拡大など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

現代の産業社会が直面する、産業と労働に関わる諸問題について、その背景と実態を理解し、問題解決のためにどのような対策・制度政策が求められているのかについて考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	産業社会と雇用
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	雇用を問い直す3	オルタナティブな働き方について考える
第5回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働時間について2	長時間労働・過労死問題について考える
第7回	労働環境について1	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第8回	労働環境について2	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第9回	労働環境について3	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第10回	グローバル化について1	日本の外国人技能実習制度を考える
第11回	グローバル化について2	日本の外国人技能実習制度を考える
第12回	グローバル化について3	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第13回	グローバル化について4	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（50%）
リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. It deals with various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy.

ECN200EB

国際経営論 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方と概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営とは何か	ガイダンス
第 2 回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第 3 回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第 4 回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第 5 回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第 6 回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第 7 回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第 8 回	トランスナショナル経営②	国際経営の 4 タイプ
第 9 回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第 10 回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第 11 回	国際戦略提携	国際戦略提携のメリットとデメリット
第 12 回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第 13 回	国際経営と CSR	多国籍企業の社会的責任
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2015）『国際経営（第 4 版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Basic theories of international business
- 2)Basic frameworks of international business
- 3)Advantages/disadvantages of international business
- 4)Social responsibility of multinational companies

ECN300EB

国際経営論Ⅱ

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論Ⅱでは、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。ここでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA 型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営①	先進国市場の特徴
第12回	先進国と国際経営②	先進国企業の特徴
第13回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第14回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,
- 2)The characteristics of multinational companies in developed and emerging countries.

ECN200EB

経済政策論

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を前提として、経済政策のあり方について学びます。とくに（1）政府の市場への介入（2）景気安定化政策を取り上げて、経済政策のあり方について学びます。

【到達目標】

- （1）ミクロ経済政策の効果について、図を用いて説明することができる。
- （2）マクロ経済政策である財政政策と金融政策の効果の違いについて、図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半はミクロ経済学の観点から政策効果について分析を行います。後半はマクロ経済学の観点から財政政策・金融政策の効果の違いについて図解します。

必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、政府の役割	ガイダンスを行った後に、政府の役割について説明します。
2	ミクロ経済政策	市場の失敗を確認した後に、政府の介入について議論します。
3	公共財（1）	私的財と公共財の違いについて説明します。
4	公共財（2）	公共財について図解します。
5	情報の非対称性（1）	情報の非対称性について図解します。
6	情報の非対称性（2）	ゲーム理論との関連について説明します。
7	中間試験	計算問題を中心として試験を行います。
8	マクロ経済政策	マクロ経済政策について解説します。
9	45度線分析（1）	45度線分析を図解します。
10	45度線分析（2）	45度線分析における「望ましい状態」を定義した後、政策について解説します。
11	財政政策と金融政策（1）	IS-LM分析の枠組みで財政政策を図解します。
12	財政政策と金融政策（2）	IS-LM分析の枠組みで金融政策を図解します。
13	財政政策と金融政策（3）	AD-AS分析の枠組みで財政政策を図解します。
14	財政政策と金融政策（4）	AD-AS分析の枠組みで金融政策を図解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学（第2版）」中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50%，期末試験50%，両方受験すること。）で評価します。それ以外では一切評価しません。試験に関しては、Hoppii 上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to learn about economic policy based on the basic theories of both microeconomics and macroeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) government intervention in the market;
- (2) stabilization policy.

ECN200EB

金融システム論

八木 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組みについて理解するために必要な、伝統的な金融に関する理論および知識とともに、近年のデジタル化に基づいた最新技術動向（ブロックチェーンや金融情報システム）や、それによって得られた知見の修得を目指す。

【到達目標】

現在の国内外の金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実践的な知識を身につける。

また、金融システムに応用された最新技術動向やそれらから得られた知見について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行います。授業の前半では、金融の理論と金融政策運営など伝統的な金融システム論を基礎から学びます。後半では、金融業界および金融システムで利用されている最新技術について学びます。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	自己紹介、金融取引と金融システムの概要をみていく
2	日本の金融システム	これまでの日本の金融システムの発展や特色について述べる
3	資金循環と金融構造	資金循環と日本の金融構造の特徴についてみていく
4	貨幣と決済	貨幣の意義と機能、決済システムについて述べる
5	金融市場と新しい金融取引手法	金融市場の機能とその種類についてみていく
6	金融システムの安定性と監督規制	金融システムの安定性とブルーデンス効果、バーゼル規制等を学ぶ
7	金融システムと中央銀行	中央銀行の役割について学ぶ
8	ブロックチェーンと暗号資産の基礎	ブロックチェーンと暗号資産を取り巻く状況を確認する
9	ブロックチェーンを支える技術	ブロックチェーンを支える科学技術について学ぶ
10	ブロックチェーンの最新動向	ブロックチェーンを用いたビジネス等最新の動向をみていく
11	金融情報システム：金融サービスと金融 IT	金融情報システムのしくみを学ぶ
12	金融業界の情報システム	各金融業界で利用されている金融情報システムについて紹介していく
13	データサイエンスと金融ビジネス	金融ビジネスにおけるデータサイエンスの利活用方法を紹介する
14	フィンテックと金融ビジネス	情報産業としての金融業の特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。資料が事前に配布されたときはそれを読んで予習する。講義終了後も資料を読んで理解を深めるよう心掛ける。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

以下の図書の内容を中心に授業を行いますので、より理解を深めたいときはこれらを参考にしてください。

- ・金融システム（第4版）、酒井良清・鹿野嘉昭著、有斐閣
- ・現代の金融入門、池田和人著、筑摩書房
- ・エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」、大和総研フロンティアテクノロジー本部著、翔泳社
- ・ブロックチェーンのしくみと開発がしっかりわかる教科書、コンセンサス・バイズ
- ・デジタルイノベーションと金融システム、木下信行著、きんざい
- ・ブロックチェーン仕組みと理論、赤羽喜治・愛敬真生編著、リックテレコム

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて判定します（100%）。具体的な実施形態は後日授業内でお知らせする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

一部の授業回数で試験的に導入した事後確認用授業資料（虫食い版）が好評だったので対象範囲を広げる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料をPDFで配布したり、時期によってはリアルタイムオンラインで授業を実施したりするので、それに対処できる情報関連機器が必要です。

【その他の重要事項】

講義の後半は、情報科学技術について深掘りするため、可能な限り平易な説明を心がけますが、数理的な説明が入ってくることもあります。

【Outline (in English)】

In order to understand the monetary policy and financial system in Japan, we will learn the traditional financial system and the latest technology trends (blockchains and financial information systems etc.).

The objective of this course is to obtain a basic framework of theories of domestic and international finance, knowledge of how the financial system works, and the latest technological trends applied to the financial system.

Before/after each class, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(100%).

SES100EB

サステナビリティ論A

島本 美保子

サブタイトル：環境問題A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、環境問題、特に生態系から経済社会への資源の取り込みに関わる問題（遺伝子組み換え問題、エネルギー選択、生物多様性と遺伝資源の知的財産権、森林破壊と土地利用）についての基本的な理解を深め、自らの考え方を習得することである。

【到達目標】

環境問題、特に資源管理の問題についての知識を習得し、理解を深め、これらの問題についての客観的な見方を醸成し、また問題解決に向けて視座が得られることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

資源管理系の環境問題について、まず文献や映像などを用いて基本的な知識を学習し、自分なりの見方を身につけるとともに、グループディスカッションを通じて、客観的な知識や分析とは何か、を発見していただこう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	スケジュールの説明、環境問題のとらえ方、資源管理の位置づけ（例としてバーチャルウォーターと農業の持続可能性について）
2	遺伝子組み換え食品1	遺伝子組み換え技術、表示義務、普及の現状など
3	遺伝子組み換え食品2	映画『地球が食べられなくなる日』を観て、遺伝子組み換え食品について考える
4	遺伝子組み換え食品3	遺伝子組み換え食品についてのグループディスカッション
5	遺伝子組み換え食品4	小テスト
6	エネルギー選択1	映画『原子力ほんまかいな?』をみて原子力発電について考える
7	エネルギー選択2	再生可能エネルギーの可能性—シミュレーション
8	エネルギー選択3	NHKスペシャル『エネルギー奔流』を見て考える
9	エネルギー選択4	グループディスカッション
10	エネルギー選択5	小テスト
11	生物多様性1	生物多様性と遺伝子資源
12	生物多様性2	遺伝子資源と知的財産権
13	生物多様性3	森林破壊の現状と原因
14	生物多様性4	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題、特に資源管理の問題（農林水産資源、鉱物資源、エネルギー資源等の持続可能な管理の問題）について入門的な文献を読んでもらうこと。本授業の準備・復習時間は、毎週各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回詳細なレジュメを配布し、これをもとに授業を進める。

【参考書】

「エコロジスト」誌編集部（2011）『遺伝子組み換え企業の脅威』，東京：緑風出版。
 和田武（2016）『再生可能エネルギー 100%時代の到来』，あけび書房。
 鈴木 宣弘（2013）『食の戦争 米国の罠に落ちる日本』（文春新書）新書。
 島本美保子（2015）『熱帯林を中心とした国際的な森林保全』、『シリーズ環境政策の新天地5 資源を未来につなぐ』第3章，岩波書店。
 島本美保子（2010）『森林の持続可能性と国際貿易』，東京：岩波書店。他

【成績評価の方法と基準】

3回の授業内小テスト95%、平常点5%で評価します。理由の如何を問わず小テストを2回以上受けないと単位が付きません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度担当していないのでなし。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire basic knowledge on environmental issues, especially issues related to the uptake of resources from ecosystems into economic society (genetic modification crops, energy selection, biodiversity and intellectual property rights of genetic resources, deforestation and land use). It is to deepen the basic understanding of and to acquire our own way of thinking.

【Learning Objectives】

The goal is to acquire knowledge and deepen understanding of environmental issues, especially resource management issues, to foster an objective view of these issues, and to gain a perspective on problem solving.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Evaluate with 95% by three in-class exams and 5% of class contribution. If you do not take the exams more than once for any reason, you will drop the credit.

SES100EB

サステナビリティ論B

長沼 建一郎

サブタイトル：環境問題B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」にかかわる社会問題を取りあげて、サステナビリティの観点からの政策的な対応を検討します。コースへの入門講義として、なるべく皆さんの関心に即したテーマを扱っていきたくと思います。

【到達目標】

いわゆる社会問題と、それへの政策的な対応についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

代表的な社会問題（福祉・社会保障、雇用・労働、家族など）を取りあげて、具体的な事例を素材として、その政策的な対応について検討します。皆さんからの質問やコメントなどに次の授業で全体に対して答えます。技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会問題と政策、サステナビリティ
第2回	メンタルの問題	自殺、ストレス、うつ病、依存症
第3回	健康・医療の問題	生活習慣病、超高額医療、終末医療
第4回	ジェンダーの問題	男女差別、マイノリティ
第5回	家族の問題	同性婚、ひとり親、人工生殖
第6回	子育ての問題	保育所、児童虐待
第7回	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
第8回	貧困の問題	生活保護、自立・就労支援
第9回	人口減少の問題	出生率対策、児童手当
第10回	年金・介護の問題	公的・私的年金、認知症・介護保険
第11回	市場経済の問題	経済成長、市場労働
第12回	賃金労働の問題	労働市場、失業保険
第13回	ワークプレイスの問題	給与、リストラ、ハラスメント、過労死
第14回	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）を教科書として指定します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。中間試験（40%）および期末試験（60%）の予定です。（時間および技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討します。）

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。科目名（サブ）は旧課程の「環境問題B」を引き継いでいますが、この科目では環境問題は扱わないので、注意してください。

【Outline (in English)】

This course deals with social problems and social policies. At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

SES200EB

環境経済学 I

島本 美保子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学のマクロ分野の中心課題のひとつである「環境と貿易」をテーマとし、環境問題と経済との関わりについて自ら分析できるような力を醸成します。環境問題の対象領域として森林資源や農産物を取り上げ、これらの持続可能性と貿易の関係について学習します。

【到達目標】

始めに最低限必要な経済学の基礎知識を学習し、グローバルな資源管理問題についての知識を習得しつつ、経済学的に環境と貿易の関係を学びます。環境と貿易の関係について経済学的に論理的に考える能力を身につけることが目標となります。さらに環境と貿易に関する国際システムの現状について学びます。最後にこれらの知識を総動員し、持続可能な資源管理とはいかにあるべきか、という規範的な考察が行えるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、経済学的な部分はオンデマンド教材+小テストを用いて、各自の理解のスピードに応じた学修が行えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	INTRODUCTION	エコロジー経済学からの経済社会と環境の関係 最低限の経済学知識① 市場経済とは。需要曲線
第 2 回	最低限の経済学知識②	供給曲線、余剰分析
第 3 回	最低限の経済学知識③	外部不経済効果、ピグー税
第 4 回	環境と貿易<事例 1>	世界の森林問題、特に天然林破壊の原因やその背景を学習する
第 5 回	環境と貿易<事例 1>	なぜ貿易は推進されるのかを、平易な貿易理論で解き明かす
第 6 回	環境と貿易<事例 1>	林産物貿易と森林の持続可能性について実証的・理論的に解き明かす
第 7 回	環境と貿易<事例 2>	農産物貿易① 地下水のくみ上げによる非持続的な農業と農産物貿易の関係
第 8 回	環境と貿易<事例 2>	農産物貿易② 農産物貿易と農村・アグリビジネスについて
第 9 回	環境と貿易<事例 2>	レントシーキングとグローバル企業（集合行為論、グローバル企業のロビイング）
第 10 回	環境と貿易理論編 1	生産段階で外部不経済性を発生させる財の貿易が各国の社会的厚生に与える影響
第 11 回	環境と貿易理論編 2	貿易と持続可能性、分配
第 12 回	環境と貿易制度編 3	GATT/WTO と TPP
第 13 回	環境と貿易制度編 4	国境炭素税等

第 14 回 まとめ

持続可能性のための国際秩序について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題、特に食料問題、森林や生物多様性の問題、石油など鉱物資源の問題について幅広い知識を身につけておくこと。本授業の準備・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いません。参考文献はその都度指示します。

【参考書】

主な参考文献は

島本美保子 (2015)「熱帯林を中心とした国際的な森林保全」, pp.53-74, 亀山康子・馬奈木俊介編『シリーズ環境政策の新地平 5 資源を未来につなぐ』第 3 章, 東京: 岩波書店, 2015 年 9 月 8 日。

島本美保子著 (2010)『森林の持続可能性と国際貿易』, 岩波書店
田代洋一編著 (2016)『TPP と農林業・国民生活』, 筑波書房, など

【成績評価の方法と基準】

70%期末試験、オンデマンド教材を学習した後の小テスト 10 点を 3 回の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度担当していないのでなし。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Under the theme of "environment and trade," which is one of the major issues in the macro field of environmental economics, we will foster the ability to analyze the relationship between environment and the economy. We will focus on forest resources and agricultural products as areas of environmental concern and learn about the relationship between their sustainability and trade.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire the ability to think economically and logically about the relationship between the environment and trade. It is important to learn more about the current state of the international system of environment and trade. Finally we will be able to provide a normative consideration of what sustainable resource management should be.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Three times of short quiz after learning on-demand materials : 10% each

SES300EB

環境経済学Ⅱ

島本 美保子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学びます。後半に環境の経済学的手法（環境税、排出権取引）それぞれの理論的背景や歴史について学習します。具体的な環境問題として気候変動やエネルギー選択を題材とします。

【到達目標】

前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学び経済と環境の両立について経済学的に論じることができるようになることを目標とします。

後半は環境の経済学的手法について学びます。まずこれらの手法の素材として地球温暖化問題について自然科学、社会科学の両方から学習します。その後経済的手段である、環境税や排出権取引の理論を理解し、地球温暖化を制御するために、どのような政策が適切か、主体的に判断できるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、経済理論的な部分はオンデマンド教材＋小テストで、それぞれの学習速度に応じた学修ができるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION 気候変動問題 1	気候変動問題とは
2	気候変動問題 2	気候変動問題についての国際交渉 気候変動枠組条約、京都議定書
3	気候変動問題 3	パリ協定などの動向、民間の動き、RE100、ESG 投資
4	マクロ経済学の基礎 1	国民経済計算
5	マクロ経済学の基礎 2	消費関数、乗数効果
6	グリーンニューディール	先進国でのグリーンニューディールへの動き
7	気候変動問題 3	日本で脱炭素化が停滞する背景－ 原発問題
8	気候変動問題 4	日本で脱炭素化が停滞する理由 (再エネ、発送電分離)
9	グループディスカッション	気候変動についてのグループ討論
10	ピグー税の理論	ピグー税理論の復習 環境税 1
11	環境税 2	環境税の経済学的な説明、直接規制との関係、導入事例など
12	排出量取引 1	排出権取引の経済学的な説明
13	排出権取引 2	発展過程、気候変動問題への適用状況を紹介
14	資金問題の決着	規範的法人税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気候変動や廃棄物問題といった環境問題について幅広い知識を習得しておくこと。またマクロ経済情勢について新聞記事などを読んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は、毎週各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回詳細なレジュメを配布し、それに基づいて授業を行います。

【参考書】

主な参考書は、
明日香壽著 (2021) 『グリーン・ニューディール』、岩波新書。
平口良司・稲葉大著 (2020) 『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで』、有斐閣ストゥディア、など

【成績評価の方法と基準】

70%期末の試験、オンデマンド教材を視聴した後に行う小テスト10%を3回の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度担当していなかったためなし。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

First, our aim of this course is to help students understand about the relationship between macroeconomics and the environment while focusing on the Green New Deal. Second, we will learn about the theoretical background and history of environmental tax and emission trading. Climate change and energy selection are the subjects of specific environmental issues.

【Learning Objectives】

In the first half, the goal is to learn about the relationship between the macro economy and the environment while focusing on the Green New Deal, and to be able to discuss the balance between the economy and the environment economically.

In the second half, the goal is to learn about the economic methods of the environment. First, we will learn about global warming issues from both the natural sciences and social sciences as materials for these methods. After that, we will expect to understand the theory of environmental tax and emissions trading, which are economic means, and to be able to independently judge what kind of policy is appropriate to control global warming.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Three times of short quiz after learning on-demand materials : 10% each

SES200EB

環境政策論

馬場 健司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境政策とは、人間活動の帰結として発生する環境問題を解決するため、あるいは未然に回避するため、立案、決定、実施し、そして評価を行っていくものである。環境ガバナンスとは、政府や地方自治体、NGO など様々なアクターの相互作用により、社会が環境を管理する能力や仕組みを構築することを指す。本講義では、環境政策を理解する上で基本となるキー概念や日本の環境政策の歴史、主として地方自治体におけるいくつかの政策課題について、理論や枠組みとその事例により習得する。

【到達目標】

環境問題に関する専門的な知見を修得し、取り上げられた政策課題の特徴や構造について説明でき、さらに有効な政策について一定の提言ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行う。授業内で提示する課題に対する小レポートの提出を4回程度求め、その内容について質疑応答する機会を設けて、全体に対してフィードバックを行う。一部に映像・ビデオを適宜上映する。進行状況により予定を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境政策論でのキーワード、キー概念について学習する。
第2回	環境政策の歴史	特に戦後からの日本の環境政策の変遷について学習する。
第3回	環境基本法・条例・計画	環境政策の根幹となる環境基本法、および地方における環境基本条例などについて学習する。
第4回	地方自治体における環境基本条例・計画の事例	全国各地の地方自治体における環境基本条例・環境基本計画の事例を取り上げて理解を深める。
第5回	自然共生型社会の構築に向けた諸施策	現在の環境政策の大きな課題の1つである自然共生型社会の構築について学習する。
第6回	循環型社会の構築に向けた諸施策	現在の環境政策の大きな課題の1つである循環型社会の構築について学習する。
第7回	環境リスクと環境影響評価	様々な環境リスクの未然防止手段としての環境影響評価（環境アセスメント）について学習する。
第8回	地方自治体における環境影響評価条例の事例	全国各地の地方自治体における環境影響評価条例等の事例を取り上げて理解を深める。
第9回	気候変動問題をめぐる国際的な動向	現在の環境政策の大きな課題の1つである気候変動問題について国際的な視点から学習する。
第10回	気候変動影響と適応策	現在の環境政策の大きな課題の1つである気候変動問題の適応策について学習する。

第11回	気候変動緩和(カーボンニュートラル)策	現在の環境政策の大きな課題の1つである気候変動問題の緩和(カーボンニュートラル)策について学習する。
第12回	地方自治体における気候変動政策の事例	全国各地の地方自治体における気候変動政策(地球温暖化対策実行計画、気候変動適応計画等)の事例を取り上げて理解を深める。
第13回	環境政策過程における各アクターの役割	環境政策過程において行政や企業、市民団体、その他ステークホルダーがどのように関与しているのか各アクターの役割について学習する。
第14回	環境問題の解決に向けて(まとめ)	環境政策論で学んだことを通じて、持続可能社会の構築に向けた環境問題の解決のあり方について総合的に学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境政策に広く関心を有していること。また、日頃からインターネット、新聞等で情報を収集しておくこと。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

資料配布は学習支援システム等を利用する。

【参考書】

- ・森晶寿ほか『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014）
- ・倉坂秀史『環境政策論第3版』（信山社、2014）
- ・北村喜宣『自治体環境行政第7版』（第一法規、2015）
- ・田中充『地域からはじまる エネルギー政策の実践』（ぎょうせい、2014）
- ・田中充・馬場健司編著『気候変動適応に向けた地域政策と社会実装』（技報堂出版、2021）

【成績評価の方法と基準】

- ・達成目標の評価基準として、小レポートを60%、期末レポートを40%のウェイトで最終成績を評価する。
- ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね3割以上の欠席）は、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する。
- ・授業方式（対面またはオンライン）は学習支援システムにより周知する。
- ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi等のインターネット接続が必要となる。

【その他の重要事項】

- ・担当教員は、公益財団法人の研究所において地方自治体の環境政策やエネルギー政策、気候変動政策について調査、分析を担当した実務経験を持っており、得られた知見を初学者向けにアレンジして講義の中で活用している。

【馬場健司】

<専門領域>環境政策論、合意形成論
<研究テーマ>自治体環境政策過程、環境問題解決の社会的意思決定
<主要研究業績>

・Tanaka, M. and Baba, K.,Eds., Resilient Policies in Asian Cities; Adaptation to Climate Change and Natural Disasters, Springer, 2019. ISBN:978-981-13-8598-8

・Baba, K. et al., Perception and Attitude Changes of Stakeholders for Resilient City Policy by Online Deliberation, Frontiers in Sustainable Cities, 3, 1-15, 2021.

・"IPCC AR5 WGII Ch.24" (contributing author, 2014)

以下のサイトも参考にされたい
https://researchmap.jp/Kenshi_Baba/?lang=japanese

【Outline (in English)】

Environmental policy is formulated, decided, implemented and evaluated to solve or prevent the problems arising as a consequence of humankind activities. Environmental governance means that a society develops an ability to manage the environments by interaction of multiple actors. The aim of this coursework is to acquire the basic framework to understand the policy generally and transition of environmental policy, and attain theory, framework and practice regarding specific policy issues in some local governments in Japan.

SES200EB

環境自治体論

馬場 健司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再生可能エネルギーの導入に伴う生態系や景観、地域資源の配分トレードオフなど、地方自治体が地域社会で環境政策を実施していく上で様々な利害対立が起こる場合が少なからずある。このような環境コンフリクトの解決策を提案できるよう、交渉学をベースとした各種の合意形成手法等を理論と演習で学修する。

【到達目標】

地域社会における環境コンフリクトの構造について理解し、その有効な解決策や環境政策の実施方法、コミュニケーションのあり方について一定の提言ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行う。資料を基にした講義とグループワーク（ロールプレイングゲーム等）を用いた演習を行う。フィードバックは演習後の振り返り等を通じて行う。一部に映像・ビデオを適宜上映する。進行状況により予定を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義・演習の進め方、環境コンフリクトの事例として再生可能エネルギー導入の立地問題について学習する。
第 2 回	交渉学の基礎 1	BATNA, ZOPA, 配分型交渉等の基礎的な概念について学習する。
第 3 回	交渉シミュレーション 1	2 者間単一イシューロールプレイングゲームの演習を行い、実施結果を振り返って学習する。
第 4 回	交渉学の基礎 2	win/win の落とし穴、1 対 1 から多者間交渉へ向けた基礎的な概念について学習する。
第 5 回	ファシリテーションの基礎	グループ・プロセスにおけるファシリテーションの役割について学習する。
第 6 回	ファシリテーションの演習	ファシリテーションの演習と振り返り
第 7 回	熟議型手法の基礎	熟議型手法として、討論型世論調査やコンセンサス会議などの手法について学習する。
第 8 回	熟議型手法の演習 (1)	生物多様性を題材とした討論型世論調査の擬似的な演習を行う。
第 9 回	熟議型手法の演習 (2)	生物多様性を題材とした討論型世論調査の擬似的な演習の結果をまとめて発表する。
第 10 回	ステークホルダー分析手法	気候変動適応等を題材としたステークホルダー分析手法について学習する。
第 11 回	交渉シミュレーション 2(1)	再生可能エネルギー導入の立地問題をめぐる合意形成のあり方について学習する。

第 12 回	交渉シミュレーション 2(2)	気候変動政策を題材とした 6 者間複数イシューロールプレイングゲームの準備を行う。
第 13 回	交渉シミュレーション 2(3)	気候変動政策を題材とした 6 者間複数イシューロールプレイングゲームの演習を行い、結果をまとめて発表する。
第 14 回	環境コンフリクトの解決における自治体の役割（まとめ）	環境自治体論で学んだことを通じて、環境コンフリクトの解決に向けた自治体の役割のあり方について総合的に学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境政策に広く関心を有していること。また、日頃からインターネット、新聞等で情報を収集しておくこと。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

資料配布は学習支援システム等を利用する。

【参考書】

- ・松浦正浩『実践！ 交渉学』（筑摩書房、2010）
- ・フィッシャー&ユーリー（金井他訳）『ハーバード流交渉術』（三笠書房、1990）
- ・ローレンス・E・サスカインド他（城山他訳）『コンセンサス・ビルディング入門』（有斐閣、2008）

【成績評価の方法と基準】

- ・達成目標の評価基準として、小レポートを 60%、期末レポートを 40% のウェイトで最終成績を評価する。
- ・科目の性質上、すべての回に出席してグループワーク（ロールプレイングゲーム等）の演習を行うことが求められる。
- ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する。
- ・授業方式（対面またはオンライン）は学習支援システムにより周知する。
- ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要となる。

【その他の重要事項】

- ・担当教員は、公益財団法人の研究所において地方自治体の環境政策やエネルギー政策、気候変動政策について調査、分析を担当した実務経験を持っており、得られた知見を初学者向けにアレンジして講義の中で活用している。

【馬場健司】

<専門領域>環境政策論、合意形成論
<研究テーマ>自治体環境政策過程、環境問題解決の社会的意思決定
<主要研究業績>

・Tanaka, M. and Baba, K.,Eds., Resilient Policies in Asian Cities; Adaptation to Climate Change and Natural Disasters, Springer, 2019. ISBN:978-981-13-8598-8

・Baba, K. et al., Perception and Attitude Changes of Stakeholders for Resilient City Policy by Online Deliberation, Frontiers in Sustainable Cities, 3, 1-15, 2021.

・"IPCC AR5 WGII Ch.24" (contributing author, 2014)

以下のサイトも参考にされたい

https://researchmap.jp/Kenshi_Baba/?lang=japanese

【Outline (in English)】

We sometimes experience the conflicts of interests in local community when the local governments implement environmental policies, for example, among renewable energy introduction and conservation of the other local environmental resources such as ecosystems and landscapes. The aim of this coursework is to acquire the capability of proposing problemsolving for the environmental disputes with consensus building methods by lecture and exercise.

EVN200EB

エネルギー論

鞠子 茂

サブタイトル：特講（エネルギー論）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーに関する基本的な知識とカーボンゼロ社会の実現可能性を講義する。

【到達目標】

エネルギーを通じて人間社会の成り立ち、エネルギーの利用技術、エネルギー社会のあり方について議論できる能力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パワポと配布資料を使った講義。毎回課題を課し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・エネルギーとは何か	授業の概要や進め方について説明し、エネルギーとは何かについて講義する
2	生物学的エネルギー論	生物としての人間にとってエネルギーとは何かを論じる
3	人間文明におけるエネルギー利用の歴史	人類がエネルギー革命を繰り返しながら文明を築いてきた歴史を解説する
4	情報化社会の発展とエネルギー消費	情報化社会がエネルギー消費形態に与える影響について概説する
5	エネルギー構造における現状と課題	化石燃料依存社会の問題点と今後の課題について講述する
6	エネルギー問題の解決に向けたエネルギー転換	エネルギーシフトは資源枯渇と環境破壊に福音となるのかを論じる
7	原子力利用における光と影	原子力発電の歴史を紹介し、抱える諸問題について解説する
8	自然エネルギーのメリットと限界	太陽光・太陽熱・風力・水力・地熱を利用した発電について学ぶ
9	排熱を抑え廃熱を再利用する技術	排熱を抑えるエネルギー変換技術や廃熱の再利用技術を紹介する
10	グリーン社会の実現に向けたエネルギー政策	カーボンゼロ社会の構築に向けたグリーン成長戦略について解説する
11	エネルギー自治の現状と課題	エネルギーの地産地消に関する現状と課題について講義する
12	これからのエネルギー技術開発	エネルギー技術の開発の現状と方向性について解説する
13	社会システムの中のエネルギーとその選択	カーボンニュートラルを実現するための知恵を生態系炭素循環機能から学ぶ
14	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料等を使って標準で 4 時間の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

〔評価配分〕 期末試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

十分な予習復習ができるように、配布資料はより充実した内容にする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn energy generating technologies, using fossil/nuclear fuels and renewable energy, and consider sustainable energy policy. Students will be expected to spend 4 hours for preparation and review. Grading: final exam (70%) and in-class contribution (30%).

EVN200EB

気候変動論

縫村 崇行

サブタイトル：特講（気候変動論）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあきらかにしていく科学的営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動き考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史の経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学的視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナ感染防止対策で遠隔授業になっている期間は特に、学習支援システムを通じて授業形態を指示します。こまめに学習支援システムのおしらせをチェックするようにしてください。

通常の座学（LC）に加えて、グループワークやディベート（GW）を適宜とりいれます。気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例を受講生各自で発掘・取材し発表し討論します。そのプロセスを通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的確かな把握が難しいことを認識し適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学びます。

対面・オンラインにかかわらず、毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて、全体・個別に回答します。授業進行に従い、全体の理解度に応じて、資料を捕捉して提供したりや Web コンテンツを追加で紹介したりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	気候変動の見方（LC・GW）
第 2 回	IPCC の現状認識	IPCC の紹介・考え方・認識（LC・GW）
第 3 回	温暖化懐疑論	地球温暖化論争の紹介（LC・GW）
第 4 回	地球の構造	地球表層部に限定した一・大気・海洋・大陸・宇宙空間の構造と相互関係（LC・GW）
第 5 回	気象と気候	時々刻々の大気現象と広域・長期の気象状態、因果関係（LC・GW）
第 6 回	地球の循環システム	物質とエネルギーの循環、熱・水・炭素などの循環（LC・GW）
第 7 回	気候変動と歴史	第四紀環境変遷と人類史の提案（LC・GW）
第 8 回	温暖化の原理	放射強制力・温室効果・フィードバック・エアロゾル（LC・GW）
第 9 回	大気現象の時空スケール	テレコネクション・極端現象・局地現象・エルニーニョ・集中豪雨（LC・GW）
第 10 回	気候変動の検出と予測	観測技術とシミュレーション技術、その可能性と限界（LC・GW）
第 11 回	再び温暖化懐疑論へ	これまでの授業内容に基づいて論争をふりかえり、温暖化懐疑論への反論（LC・GW）
第 12 回	国際協調にむけて	これまでの授業内容に基づいて IPCC の指針と COP などの国際協調の動き（LC・GW）
第 13 回	温暖化への対応策	気候変動への「緩和策・適応策・持続可能性」（LC・GW）
第 14 回	まとめと試験	これまでの授業内容のふりかえりと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参すること。

・問題発掘課題を事前実施して授業内のディスカッションに備えること。
 ・リアクションペーパーを指定。事前にキャンパス内の印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社 KS 絵でわかるシリーズ）、2018
 を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

【参考書】

「温暖化の“発見”とは何か」スペンサー・ワート（著）、増田耕一・熊井ひろ美（翻訳）、みすず書房、2005。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出。その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の基礎素養にばらつきがあります。関連分野をそれなりに学んできた学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするようです。全体構成の前半では、この差異を埋めるように受講生の素養を見極めながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ感染対策で Zoom によるリアルタイムネット配信授業となる場合もあります。それに備えて、Zoom を視聴しながらノートテイクもできるネット・PC 環境を整えてください。

【Outline (in English)】

This course provides clear, concise and up-to-date information for the fundamentals of climate change.

The goal of this course are to understand about climate change, focusing on particular interest to explain the climate change science, the international climate change legal and policy framework.

Students will be expected to be interested in recent climate change and related social problems. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

SOC200EB, SOC200EC

福祉社会学 I

平野 寛弥

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。具体的には、日本の福祉政策および周辺の諸政策について概説し、日本の福祉政策の現状についての基本的理解を図る。あわせて、福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討するとともに、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想について紹介し、その含意について解説する。

【到達目標】

- 1) 既存の福祉政策及び関連政策の内容や目的について理解する。
- 2) 福祉政策が現在直面している課題について理解する。
- 3) これからの福祉政策のあり方について各々の見解を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

配布するレジュメに沿って講義する。あわせて購入していただく教科書は副読本として使用する。教科書に重要事項は記載されているため、事前に眼を通しておいていただき、そのうえで受講してもらうことになる。講義では、口頭での補足説明に注意を傾けるようにすること。適宜メモを取ることが理解にとって極めて効果的である。この講義で取り扱う基本的な用語・事柄についてはその意味するところを確実に理解することが重要である。なお、授業計画は進捗状況や受講生の関心に合わせて、適宜修正することがあるのであらかじめご了承願いたい。なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更する可能性もあるのであらかじめご了承願いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の定義と目的、機能
2	福祉政策の実際①：子ども家庭福祉	児童手当をめぐる変遷、保育サービスと待機児童問題、児童虐待の現状
3	福祉政策の実際②：障害者福祉	自立生活運動のインパクト、障害者総合支援制度
4	福祉政策の実際③：高齢者福祉	高齢化の現状、老齢年金制度、介護保険制度
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護制度、生活困窮者自立支援制度
6	関連政策①：健康政策	医療保険制度、健康の社会的要因、「予防」の持つ意味
7	関連政策②：住宅政策	公的住宅の供給、ホームレス「対策」
8	関連政策③：教育政策	高等教育の無償化、就学支援制度、奨学金
9	福祉政策の現代的課題①：グローバリゼーション	権外国人労働者・移民の権利と生活保障、日本の入国管理制度の問題点
10	福祉政策の現代的課題②：ケア	家族・コミュニティの不安定化に伴うケアニーズの充足をめぐる困難、再生産される性別役割分業と「女性活躍」、ケアの社会化
11	福祉政策の現代的課題③：持続可能性	経済成長と福祉政策の関係、気候変動と脱成長
12	新たな福祉政策①	エコウェルフェア
13	新たな福祉政策②	合理的配慮
14	新たな福祉政策③	ベーシックインカム・ベーシックサービス・ベーシックアセット

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎に設定する課題の提出 40 %、期末レポート 60 %で行う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う。

【その他の重要事項】

- ・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし、情報収集を怠らない
- ・疑問については文献や資料で確認する
- ・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about the meaning and functions of welfare (policies, systems, practices) in society.

Specifically, the course outlines Japan's welfare policy and related policies, and aims to provide a basic understanding of the current state of welfare policy in Japan. At the same time, we will examine the various challenges that welfare policy faces in contemporary society, introduce new policy concepts that have been considered in recent years to overcome these challenges, and explain their implications.

SOC300EB, SOC300EC

福祉社会学Ⅱ

平野 寛弥

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、日本を含む先進諸国では多様な社会政策が展開されており、その下で人々は生活している。その意味で、このような「福祉国家」はわたしたちの生活を規定する基本的な枠組みとなっている。しかし、そこには無数の規範や価値が反映されており、その如何によって生活のあり方は大きく左右されるものでもある。そこで本科目では、福祉政策の歴史的展開や理論的・思想的根拠について学ぶとともに、現代の福祉政策に向けられる批判や直面している課題について検討する。

【到達目標】

- 1) 社会政策やひとの「福祉」についての理解を深める
- 2) さまざまな視点からそれらのあり方を検討し、自分なりの見解を持つことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

配布するレジュメに沿って講義する。あわせて購入していただく教科書は副読本として使用する。教科書に重要事項は記載されているため、事前に眼を通しておいていただき、そのうえで受講してもらおうことになる。講義では、口頭での補足説明に注意を傾けるようにすること。適宜メモを取ることが理解にとって極めて効果的である。この講義で取り扱う基本的な用語・事柄についてはその意味するところを確実に理解することが重要である。なお、授業計画は進捗状況や受講生の関心に合わせて、適宜修正することがあるのであらかじめご了承願いたい。なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更する可能性もあるのであらかじめご了承願いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	現代社会における福祉政策
2	福祉政策の歴史①	救貧法から福祉国家の形成へ
3	福祉政策の歴史②	戦後福祉国家の黄金時代
4	福祉政策の歴史③	福祉国家の危機と再編
5	現代の福祉国家①	西ヨーロッパ諸国・アメリカ・日本
6	現代の福祉国家②	東アジア諸国・東ヨーロッパ諸国・南アメリカ諸国
7	福祉政策の理論・思想①	産業化論と福祉レジーム論、脱商品化と脱家族化
8	福祉政策の理論・思想②	シティズンシップ論：人権との違い、自由主義的伝統と市民共和主義的伝統、社会的権利の正当化をめぐる議論
9	福祉政策の理論・思想③	ジョン・ロールズの正義論とアマルティア・センの潜在能力アプローチ
10	福祉政策をめぐる論点①	貧困：貧困の諸概念、剥奪、日本における貧困の様相
11	福祉政策をめぐる論点②	社会的排除と包摂：排除言説と包摂戦略の諸類型
12	福祉政策をめぐる論点③	自立と依存：ケアとは何か、相互依存と関係的自律
13	福祉政策をめぐる論点④	再分配と承認：平等と差異を再検討する
14	福祉政策をめぐる論点⑤	自由とセキュリティ：監視国家と市民間の相互監視、ナッジ、認知的パターンリズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

個別のテーマに関するものについては各授業時に適宜紹介するが、授業全体を通じて関連するものとしては以下の 2 冊を挙げておく。
『ここから始める政治理論（有斐閣ストゥディア）』（田村哲樹・松元雅和、乙部延剛、山崎望著、2017 年、有斐閣）
『現代福祉国家と自由：ポスト・リベラリズムの展望』（金田耕一著、2000 年、新評論）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、各回に設定する課題の提出 40 %、最終レポート 60 %で行う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う。

【その他の重要事項】

- ・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし、情報収集を怠らない
- ・疑問については文献や資料で確認する
- ・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline (in English)】

Today, people in developed countries, including Japan, are living under a variety of welfare policies. In this sense, the "welfare state" has become the basic framework that defines our lives. However, it also reflects a myriad of norms and values, and the way we live our lives is greatly influenced by how these norms and values are applied.

In this course, we will learn about the historical development of welfare policy and its theoretical and ideological basis, as well as examine the criticisms of contemporary welfare policy and the challenges it faces.

LAW200EB

社会保障法 I

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学習性は維持しつつ、知っているに役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。中間試験（40 %）および期末試験（60 %）の予定です。（時間および技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのかー ー国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのかー ーサラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。中間試験（40%）および期末試験（60%）の予定です。（時間および技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law. At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC100EB

グローバル市民社会論 A

岡野内 正

サブタイトル：コミュニティ・デザイン論 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

男女ベアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネーション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20 世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21 世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】

人類社会を常に男女ベアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20 世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は、毎回の授業までに全員がテキストの該当部分について、次の 4 点を含む「授業ノート」を作成し、授業支援システムに掲示板に書き込む。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみよう。

毎回の授業の前半部分では、少人数で全員がそれを共有しつつ報告・議論し、その少人数分科会の座長になった人が、授業後半部分で、自分の分科会の状況を報告し、それをもとに、講師を含む全員で問題を共有して、議論をしながら、わからなかったことを解決して知識を増やすとともに、挙げられてきたさまざまな論点について、より深い問いを共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
14	コロナ・パンデミックとグローバル市民社会	分科会と全体討論による、受講生と教員を交えた議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業について「授業ノート」を書き、掲示板に書き込む。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円+税。

岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円+税。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。

岡野内正研究室のサイト (<https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/>) にある諸論文。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提とする 14 回分の授業ノートの内容によって 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SOC100EB

グローバル市民社会論 B

谷本 有美子

サブタイトル：コミュニティ・デザイン論 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、人々の生活にもたらされるグローバル化の影響を幅広いテーマから捉え、現代社会における市民社会組織と政府・国際機関との関係に着眼しながら、多主体連携で公共課題を解決する可能性を探る。具体的には、NPO・NGOに象徴される市民社会組織・非政府組織が国内外で取り組む、あるいは問題提起する多様なテーマにアプローチし、ローカル/ナショナル/トランスナショナルといったそれぞれの次元で、市民社会組織による政策提案が公的な政策形成にインプットされる市民参加のプロセス、両者の連携・緊張関係が政府や市民社会にもたらす作用等を検討した上で、公共的な課題を解決するための方策を柔軟に考察していく。

【到達目標】

- ・市民社会の現代的な概念と市民社会組織が課題解決に関わる多様なテーマを理解する
- ・セクター間の関係や政府体系等にとらわれず、柔軟に社会課題の解決主体を検討する思考性を身につける
- ・社会課題を解決するための手がかりを自ら見出していく能力を開発する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義を基本としつつ、テーマに応じて受講生間の意見交換・討議を行う時間を適宜設けます。前半は、主に国際政治や国家レベルでの意思決定に関わるテーマ、中盤ではトランスナショナルな取り組みが求められるテーマを扱っていきます。後半では、国内で見出されるグローバルな政策課題や地域課題を扱いながら、主体的に課題解決策を検討するグループディスカッションを取り入れます。扱ったテーマに関して、適宜リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、後日の授業内でいくつか取り上げコメントしながら、全体にフィードバックします。なお、各回で扱うテーマの順序や内容については変更があり得るので、変更についてはその都度、学習支援システムで周知する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方や基本事項について説明する
第 2 回	市民社会の概念と市民社会組織の現状	「市民社会」概念の現代的潮流と市民セクターを構成する組織について詳説する
第 3 回	国連と NGO とのパートナーシップ	国連における「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の策定過程を取り上げ、グローバルな開発目標に対する NGO の関与を解説する
第 4 回	NGO ネットワークと国際政治	対人地雷禁止や核軍縮などの条約締結までの過程を取り上げ、そこで NGO ネットワークが果たした役割を解説する

第 5 回	沖縄の自治と日本の安全保障政策	歴史的な経緯から日本の国防・外交政策との関わりが深い沖縄の特殊な環境を学んだ上で、地域の自治（自己決定）の問題を考える
第 6 回	食品ロス削減とフードセキュリティ	フードバンク・フードドライブ活動から提起される貧困や食の安全保障等の問題を概説し、討議を行う
第 7 回	グローバルな調達とエシカルな消費	農産物や製品等のグローバルな調達と児童労働等との関連を概説し、エシカルな消費の観点で討議を行う
第 8 回	日本の水資源管理と世界の水ビジネス	日本の水道管理を世界の水ビジネスに委ねる動向や水源管理の現状等を概説し、人々の命に直結する水管理の問題について討議する
第 9 回	医療のグローバル化	日本の国家戦略として推進されている医療ツーリズムやグローバルヘルス戦略の動向等を概説し、医療のグローバル化がもたらす諸課題について討議する。
第 10 回	感染症と人権	感染症対策でもたらされる差別問題の歴史や行動制限による人権の問題を概説した上で、政府の感染症対策を取り上げ、人権の観点から討議する
第 11 回	人間の安全保障—自殺対策の取組みから	自殺対策基本法の制定過程を取り上げ、政府案と NPO 提案との法制化に求めるものの相違を検討する
第 12 回	外国にルーツを持つ女性や子どもの困難	外国にルーツを持つ女性や子どもたちが日本社会で抱えがちな困難を認識し、政府の対策や民間支援の可能性について討議する
第 13 回	多文化共生のまちから見る複合的な課題	外国人住民の多い地域で多文化共生への取組みを実践する方をゲストスピーカーとして招き、お話を聴く。
第 14 回	グローバル市民社会の展望	振り返りの全体討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業内で取り上げたテーマについては、授業後に新聞記事や参考文献等を自ら探索して、さらに理解を深めるようにしてください。少なくとも週に 2 回程度は新聞の国際面に目を通し、掲載されている記事と自分たちの生活とのつながりを調べる時間を作ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。授業の際にレジュメとテーマに沿った資料を配付します。

【参考書】

各回のテーマに沿った文献を授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（20%）と討議への参加状況（10%）、期末の論述試験（70%）を併せて総合的に評価します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポートに変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will grasp the influence of globalization on people's lives from a wide range of themes. While focusing on the relationship between civil society organizations and governments and international organizations in modern society, we will explore the possibility of solving public issues through multi-center collaboration. Specifically, we will approach various themes that civil society organizations and non-governmental organizations symbolized by NPOs and NGOs work on or raise issues at home and abroad, and civil society in each dimension such as local / national / transnational. We will examine the process of civic participation in which policy proposals by organizations are input to public policy formation, and the effects of cooperation and tension between the two on the government and civil society. Through these, we will flexibly consider measures to solve public issues.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To understand the modern concepts of civil society and various themes related to problem solving by civil society organizations.

-B. To acquire the thinking ability to flexibly consider the solution of social issues regardless of the relationship between sectors and the government system.

-C. To develop the ability to find clues to solve social issues Before/after each class meeting, your study time will be about two hours.

Students will be expected to search newspaper articles and references for the themes taken up in the class by yourself after the class to deepen your understanding. To read the foreign news in the newspaper at least twice a week and make time to find out the link with daily life.

Your overall grade will be decided based on the following Reaction papers (20%), participation in discussions (10%), and term-end essay exam (70%).The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

SOC200EB, SOC200EC

グローバル社会のローカリティ

中筋 直哉

サブタイトル：地域社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに場所の間を移動していく人びとの生活のリアリティに重点を置く。

【到達目標】

・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答は指定した時間に学習支援システムを使って行う。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカリティとは何か 1	国民国家の構成要素としての地域社会
3	ローカリティとは何か 2	グローバル化による地域社会の脱構築
4	ローカリティの諸形態 1	親密圏の解体と再生
5	ローカリティの諸形態 2	農山漁村の生存戦略
6	ローカリティの諸形態 3	世界都市と分極化
7	ローカリティの諸形態 4	境界と辺境をめぐるゲーム
8	事例研究的講義	新しいローカリティの典型事例の紹介
9	事例をめぐる討論	グループディスカッション
10	人びとの移動と定着 1	移民・難民たちのレガシース
11	人びとの移動と定着 2	リアリティ・トランジットとアート
12	人びとの移動と定着 3	旅する信仰と思想
13	ローカリティの未来 1	新しい市民社会形成の方途の探究
14	ローカリティの未来 2	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のうちいくつかを読むことが必要。授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 % (提出しないと D)、論述式の期末試験が 55 %。授業参加の総合的評価が 10 %。試験解答において、現代社会のローカルな生活に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりとていねいに行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

(Course outline)This lecture aims to study making local society below globalization by sociological perspective.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of the policy for local society below globalization.

(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and writing a report.
(Grading Criteria/Policy)Positivity of classroom:10%,Report: 35%, Final Exam:55%.

SOC200EB, SOC200EC

市民運動論

中筋 直哉

サブタイトル：市民運動論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を主体的に形成する手段の 1 つである、市民による社会運動の実態と意味を、主に社会学の方法をに基づいて理解する。とくに歴史的な視野とグローバル化への視野に重点を置く。

【到達目標】

・現実の市民運動を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・現実の市民運動に対する自らの立ち位置、考えを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答に学習支援システムを時間指定で使用。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	社会運動の理論 1	社会的行為としての合理性
3	社会運動の理論 2	構造変動をもたらす集合的力
4	社会運動の理論 3	文化を創造する言葉と身ぶり
5	社会運動の歴史 1	伝統社会の騒乱の論理
6	社会運動の歴史 2	労働組合運動の消長
7	社会運動の歴史 3	地域開発と住民運動
8	事例研究的講義	現代世界における集合行動の意味
9	グローバルな市民運動 1	正義のフロンティアに向かって
10	グローバルな市民運動 2	越境するアソシエーション
11	グローバルな市民運動 3	小さな運動の構想力
12	展開的講義 1	ジェンダーをめぐる社会問題
13	展開的講義 2	ジェンダーをめぐる市民運動
14	市民運動の未来	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のいくつかを読むことが必須。授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 % (提出しないと D)、論述式の定期試験が 55 %。授業参加についての総合的評価が 10 %。試験解答において、市民運動に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりに行いに行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

(Course outline)This lecture aims to study contemporary social movements by sociological, historical and positive perspective.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of contemporary social movements for making activity and social policy.

(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and Writing a report.

(Grading Criteria /Policy)Positivity to lecture 10%,Report:35%,Final Exam:55%.

ECN200EB

地方財政論

早崎 成都

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方財政論とはその名の通り、「地方」政府の財政を検討する研究分野である。本講義では地方財政を理解する上で極めて重要な、以下の二つのテーマを設定する。第一のテーマは、中央政府の財政と地方政府の財政の関係、いわゆる政府間財政関係であり、第二のテーマは地方政府の財政そのもの、とりわけ、地域住民の選好や活動を踏まえた予算の決定のあり方である。歴史的に、中央政府と地方政府は様々な問題をめぐって対立してきた。これらの政府間にどのような対立があり、その対立はどのように克服されてきたのか。地方自治は「民主主義の学校」と称されることもあるが、住民との距離が近い地方政府における財政をめぐる意思決定は、どのような問題を抱えてきたのか。受講者はこれらの問題群を日本と諸外国の経験を踏まえながら考察することとなる。

【到達目標】

この講義を通して、受講者は地方財政をめぐる諸問題について理論的・実証的に分析することが出来るようになる。そのことは住民として、会社員として、公務員として等どのような形で地方財政に関わる際に役立つであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、学生の質問は積極的に受け付ける。授業終了後に質問・感想ペーパーを提出してもらおうが、それへのフィードバックを次の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地方」財政論とは
第2回	財政の目的と基本原則	財政の機能や税制についての原則
第3回	中央政府と地方政府の対立(1)	中央政府と地方政府の課税権限をめぐる問題
第4回	中央政府と地方政府の対立(2)	中央政府から地方政府への介入－支出・起債制限に着目して
第5回	政府間財政関係(1)	諸概念の整理
第6回	政府間財政関係(2)	財政再建と政府間財政調整
第7回	政府間財政関係(3)	補助金による誘導とその問題点
第8回	地方分権は解決策か？	どのような分権のあり方が望ましいのか？
第9回	地方財政をめぐる政治(1)	カリフォルニア州の納税者の反乱
第10回	地方財政をめぐる政治(2)	共和党州政府のメディケイド拡大
第11回	地方財政をめぐる政治(3)	革新自治体とその余波
第12回	地方財政の現代的課題(1)	移民と地方財政
第13回	地方財政の現代的課題(2)	コロナ禍の下での地方財政
第14回	本講義のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の理解の促進のため、文献課題を予習課題として課す。予習の際は、事前に配布する講義資料に目を通すとともに課題の文章を読んでおくこと、復習については演習問題を講義資料の末尾に付すのでそれに取り組み、また授業内で理解できなかった点については質問していただければよい。予習・復習時間は各2時間かけることを標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、毎度文献課題をアップロードする。課題文献のリストについては秋学期の授業の初回で資料として配布する。

【参考書】

下記の本は初学者向けに書かれた優れたものである。
沼尾波子ほか『地方財政を学ぶ』有斐閣、2017年。
高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』、2020年。
なお、より深く学習したい人向けには授業内でその都度文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験(50%)、レポート(20%)、毎回の授業終了後に提出する質問・感想ペーパー(30%)の得点を合計し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により記載できません。

【Outline (in English)】

Local public finance, as the name suggests, is a field of study that discusses issues of local government tax and spending. This course sets the following two themes, which are central to understanding of local public finance. The first one is the relationship between a central government's budget and a local government's budget, so called "intergovernmental financial relations." The second one is how to determine a local government's budget given preference and activities of its residents. There have been many conflicts between central government and local governments over taxing and spending. What kind of conflicts are there and how have they resolved these conflicts? How is local government tax and spending policy determined in the political process? Students will investigate these questions by looking at Japan and other countries' historical experiences. Through this course, students will be able to analyze issues related to local public finance both theoretically and empirically. Perspectives you obtain in this course will help you analyze problems related to local public finance, be as a resident, employee, or a civil servant.

POL200EB

地方自治論 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21世紀の地方自治では公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この授業では、受講生が自治体の主人公の「市民(Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
- ・地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。前半は、地方自治の成り立ちや歴史の変遷、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その上で、基本的なしくみの解説と現場の運用事例の紹介をしながら、市民の視点で地方自治を実践的に検討していきます。後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府間関係も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要なシステムについて、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第2回	地方自治制度の比較（欧米諸国と日本）	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第3回	近代日本の地方自治制	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第4回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960年代以降の都市自治体の手掛けた先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する

第 5 回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第 6 回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第 7 回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第 8 回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する
第 9 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 10 回	21 世紀の中央地方関係と自治体の自律性	2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとで、国と自治体との政策思考が対立した場合の調停のしくみを概説した上で、現実に自治体が直面している課題について考察する
第 11 回	民に広がる公共サービス	公共サービスの担い手を民へと拡大するために導入された指定管理者制度・PFI、独立行政法人制度等の諸制度や、自治体レベルでNPOや地域住民組織とパートナーシップの名の下で展開する事業を学びつつ、公民の役割分担が大きく変化している現状について理解を深める
第 12 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 13 回	人口減少時代の自治体の役割	平成の大合併を経て市町村数は3分の1に減少した。合併の功罪には今もさまざまな論議がある中、国は行政サービス維持の観点から、自治体間連携や公民連携の可能性を提示している。ここでは「住民自治」と「自治体の規模」の観点から、自治体の役割を検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、「市民」的な視点から今後の可能性を考えていく

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

・大森彌／大杉覚『これからの地方自治の教科書 改訂版』（第一法規）
 ・幸田雅治編著『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
 その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配布を行います。

【Outline (in English)】

The role of public services in the local autonomy in the 21st century has expanded to the private sector, and the division of roles between the administration and the private sector has changed significantly in Japan. At the same time, with the declining birthrate and aging population and the declining population becoming a social issue, the local government take responsibility to keep the area sustainable while making predictions about the future.

In this class students will learn the basic knowledge of local government as a “Citizen”, the main character of a local government, and to acquire the ability to think independently about the future of local government.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To acquire basic knowledge about the history, theory, and system of local autonomy

-B. To acquire an citizenship literacy that allows you to understand the recent movements of local government and make decisions based on your own consideration.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the situation of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are considered be related to the local governments.

Your overall grade will be decided based on the following

Term-end essay exam (80%), short reports or in-class reaction papers (20%). The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う

・自分の住んでいる自治体の状況を調べる

・地方自治に関連のあると考える新聞記事を日常的に読む

POL300EB

地方自治論Ⅱ

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の行政サービスの供給体制は、「官から民へ」の規制緩和や国地方を通じた行財政改革の推進とともに大きく変容し、公務の担い手を民間へと拡大してきました。いわば「公民連携」型の公共サービスの提供は、民間特性を活かした良質なサービス供給が期待されている中で、行政とサービスの受け手となる住民との距離は広がりがつつあり、自治体の政策形成に「市民」の側から地域や現場のニーズをインプットする必要性が増えています。この授業では、自治体が担う諸政策を取り上げながら、自治体の仕事についての理解を深めた上で、地域社会の公共的な活動との連携や、税金投入の意義等も含めながら、自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について考察していきます。

【到達目標】

- ・自治体の政策過程に関わるしくみや諸制度の基本的知識を身につける
- ・自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について、財源や徴税の視点も踏まえながら判断できるシティズン・リテラシーを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り自治体政策の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーは授業内でいくつか取り上げて、全体に向けてフィードバックします。自治体政策をハード・ソフト含め個別分野ごとに取り上げますが、その一方で自治体の仕事を分野横断的・総合的に捉えるという基本的なスタンスに立脚しながら、政策課題や自治体の仕事を検討していきます。それらを踏まえて、自治体が限られた財源の中でも果たすべき役割や行政の責任領域について、納税者の視点を意識しながら考察します。

秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論Ⅰ）で地方自治の基本的な事項を修得していることが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自治体が担う行政と政策形成のしくみ	行政に関わる国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、主な行政サービスの実施主体とされる基礎自治体を中心に、総合計画を軸とした政策体系と政策形成のしくみを理解する
第 2 回	自治体福祉政策とバリアフリーの地域づくり	「福祉」行政の歴史的な考え方と高齢者・障がい者という対象者ごと・縦割りの行政施策について概要を学び、「バリアフリー」のような縦割りを越えた観点からの共通対応を検討する

第 3 回	「人生 100 年時代」の高齢者施策	介護保険制度を含む高齢者福祉政策の課題を学んだ上で、近年、提唱される「人生 100 年時代構想」を踏まえて「生きがい」「働き方」の視点から超高齢社会の問題を考察する
第 4 回	地域福祉の視点と地域包括ケアシステムの展開	福祉施策の傾向として、「地域福祉」の観点から当事者に対し多様な主体を交えて総合的にサポートする「地域包括ケアシステム」へと転換しつつある現状を学び、行政と地域社会との連携のあり方を考察する
第 5 回	生活困窮者自立支援施策と就労支援の課題	憲法で保障された生活保護行政の現状を踏まえつつ、自治体がすすめる生活困窮者自立支援対策の中から明らかになった「就労支援」の現実的な課題を検討する
第 6 回	子ども・子育て支援政策と地域ニーズの反映	子ども子育て関連施策の運用事例を取り上げながら、大都市部と地方都市・農山間地域における政策課題の共通性や相違性を学び、地域ニーズに応じた政策の必要性を検討する
第 7 回	開かれる学校運営と多様な学びの保障	自治体において長が運営する総合教育会議が設置され、地域社会に開かれた学校運営が求められる現状を理解した上で、近年法制化された多様な学びの保障について、地域レベルでの展開可能性を考える
第 8 回	環境政策をめぐる多様なパートナーシップ	自治体における環境政策を取り上げる中から、地域住民の協力や専門性を持った NPO 等との連携や、「地球規模で考え地域で行動する」視点の必要性等を学び、パートナーシップ型の政策展開のモデルとして考察する
第 9 回	公共施設・インフラの老朽化と自治体の対策	高度成長期に整備された公共施設や道路、橋梁、下水道等のインフラの老朽化が進行する中で、人口減少に伴い都市機能を縮小させる必要が生じてきている現状を学び、これからの都市機能のあり方を検討する
第 10 回	都市計画のしくみとまちの将来ビジョン	住宅や商業施設の建築の基本に土地利用や都市計画に関わる法制度が存在していることを学び、まちづくりの将来を考える際に、自治体が条例等によりルールを定めていくことやそれを支える理念の重要性について理解を深める
第 11 回	人口減少・超高齢社会における住宅施策	近年深刻化し始めた空き家問題やマンションの空き室問題等について具体的な地域課題を取り上げ、自治体の対策が遅れている住宅関連の政策を、地域の空間管理やコミュニティ問題を視野に入れて考察していく
第 12 回	外国人住民の生活課題と多文化共生のとりくみ	政府が外国人労働者枠の拡大を進める中で、地域に居住する外国人に対し、自治体がこれまで予定してこなかった生活支援等の施策が求められるようになってきている。そうした取り組みを、多文化共生のまちづくりの必要性から検討する

- 第 13 回 市民社会から提起される政策課題 地域社会では自治体に政策課題と認識されていない公共的な課題に対し NPO や住民間の互助的な関係で対策が講じられているものがある。それらの取組みに関し「公共性」の観点から、自治体政策としてどう対応すべきかを考察する
- 第 14 回 自治体が果たすべきこと 災害対応のように地域住民の命や生活を守るという行政活動の本質を捉えながら、自治体が何を優先してその役割を果たしていくべきか、またその財政負担をどうするのかなど、今後の自治体のあり方を市民的視点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

- ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
- ・自分の住んでいる自治体の政策を調べる
- ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジユメと資料を配付します。

【参考書】

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』（北樹出版）
今川晃・牛山久仁彦・村上順編『分権時代の地方自治』（三省堂）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80 %）に授業内の小レポート提出状況（20 %）を加味し、総合的に判断します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配付を行います。

【Outline (in English)】

The supply system of administrative services in the 21st century has undergone a major transformation and has expanded the role of public affairs to the private sector in Japan. Although the provision of public services of the “public-private partnership” type is expected to provide high-quality services that make use of the characteristics of the private sector, the distance between the government and the people who will receive the services is expanding. So citizen’s participation for public policy making process has become more important than before.

In this class, students will learn the public policy and the work of local governments, will consider the roll of the local government in the future and the way of keeping the public service in the view of the tax payer’s request.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire basic knowledge of mechanisms and systems related to the policy process of local governments.
- B. To acquire citizen literacy that can judge the role that local governments should play and the ideal way of public services from the viewpoint of financial resources and tax collection.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the policies of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following

Term-end essay exam (80%), short reports or in-class reaction papers (20%).The term-end exam may change to the report according to the university’s class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

POL200EB

国際政治論

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】

「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。良い。「グローバリズム」、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	デ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトウングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケージ・ポリティックス論	国際政治と国内政治
7	ロッカンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッカンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある国際感覚のあふれる「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『現代欧州統合の構造』芦書房、2008年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.

The goals of this course are to realize relationship between international political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ZOOM を利用してオンライン授業で進める。

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみようこと、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021 年、4000 円+税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円+税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円+税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権 NGO 活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論

- トルコ—新自由主義・受講生報告と教員を交えた議論
親イスラーム政党・外交
- 中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉
受講生報告と教員を交えた議論
- イランのイスラーム統治体制の現状
受講生報告と教員を交えた議論
- イラク「政治体制を巡る迷路」
受講生報告と教員を交えた議論
- ヨルダン——紛争との共生
受講生報告と教員を交えた議論
- 中東・イスラーム研究の課題
受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61(2) 2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

ECN200EB

国際経済論 I

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみただけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済の一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論 I では、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心にして説明し、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。秋学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

ボックスアメリカーナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。

その中でアメリカが果たしてきた役割、また、現在のアメリカの地位についても理解することができる。また、EU の成立と発展、南北問題といわれるグローバル経済の不均衡について、相互関係の中で理解できる。

それらを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
対面授業で行いますが、感染状況によって、オンラインに切り替えます。オンラインの場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、毎回、講義後に小課題を提出します。次回の講義時に、その課題に対する講評や解説も行うことで復習をし、次の講義を始めるという形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ 国際経済秩序とグローバル経済	授業全体の進め方の解説、国際経済、世界経済との相違、国際経済秩序とグローバル経済
2	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴とアメリカの国際経済秩序への関わり
3	アメリカと国際経済秩序①	戦後構想とボックス・アメリカーナの基本的枠組み
4	アメリカと国際経済秩序②	ボックス・アメリカーナの変容と変動相場体制
5	アメリカと国際経済秩序③	レーガノミックスからニュー・エコノミーへ
6	アメリカと国際経済秩序④	アメリカ経済の「再生」と新たなグローバル経済秩序
7	EU ①	EEC 成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
8	EU ②	92 年欧州統合と EU 停滞する欧州 マストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入
9	EU ③	EU の発展と動揺 加盟国の拡大 EU の発展と統合の深化 イギリスの離脱
10	南北問題①	植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化 UNCTAD

11 回	南北問題②	NICs と累積債務問題 新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題
12 回	南北問題③	新興市場諸国と南北問題の今 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
13 回	WTO 体制とグローバル経済	WTO 体制とグローバル経済
まとめ	今日のグローバル経済	今日のグローバル経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジメを読んでおくこと。講義の後に、課題を提出するとともに、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間、合計で 4 時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編、ミネルヴァ書房、2021 年。

『現代国際金融論』（第 4 版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012 年。

『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005 年。

『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010 年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

授業後に提出する小課題	30 %
レポート	20 %
定期テスト	50 %

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムでのオンライン授業の場合、復習のために、録画もしてほしいということでしたので、昨年は録画も行って公開することにしました。ただし、公開期間は限定することにしました。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論 I、II を履修することが望ましい。
この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的な部分は国際経済論 II を履修してはじめて理解できることもあるので、国際経済論 II を履修することが必要である。もちろん、テキストを事前に読み、理論的な学習をして講義に臨むというのが望ましいことはいうまでもない。
授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

ECN300EB

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅱでは、国際経済論Ⅰの学習を踏まえたうえで、貿易と外国為替取引、国際投資、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることができる。
それを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
対面授業で行います。オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。
この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。
事前に、学習支援システムに、レジュメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、毎回、講義後に小課題を提出します。次回の講義時に、その課題に対する講評や解説も行うことで復習をし、次の講義を始めるという形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2 回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の意味
3 回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOSモデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル HOSモデルの紹介と説明
4 回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易のパターン 貿易の利益 オファーカーブ
5 回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論
6 回	外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
7 回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
8 回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
9 回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	資本輸出の諸形態 多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
10 回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
11 回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
12 回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機
13 回	国際労働力移動の理論	国際労働力移動の理論お現状
まとめ	今日のグローバル経済	グローバル経済の不均衡とその特徴について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジュメを読んでおくこと。

講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010 年。
『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012 年。
『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005 年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された小課題、レポート、期末試験によって行います。
授業後に提出する小課題 30 %
レポート課題 20 %
定期テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムのオンライン授業として昨年度は行った。復習等のために録画をして公開してほしいということでしたので、録画を公開することにしました。ただし、公開期間は限定して行った。今年度、オンラインの場合は、同様の措置をとることにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。
この授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。
授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

LAW200EB

国際法

妻木 伸之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、国際社会を規律している法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】

国際法学について基本的な理解ができること。
加えて、可能であれば、現代国際社会の諸課題について国際法に基づき検討できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面での講義（教員による説明と質疑応答）方式での実施を予定している。
なお、講義の実施方式については、様々な状況により変更の可能性があることに留意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 1：「国際法」の歴史的展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入 2：国際社会における立法・司法・執行	国内社会・国内法などとの比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ
3	国際法の「法源」—国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」—国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」および「主権」を持つ存在である国家の基本的な権利・義務について学ぶ。
6	陸・海・空に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人と国際法—国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現—国内実現と国際実現	国内平面と国際平面における国際人権法の実現について学ぶ。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	武力行使の違法化と武力を用いず紛争を処理する手段について学ぶ。
10	集団安全保障：その限界と克服の努力	戦争抑止のための集団安全保障の展開について学ぶ。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外としての自衛権および武力紛争における国際法による規律について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO 体制	第 2 次世界大戦後の西側先進国主導の経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	「南側」からの経済秩序変革の要求とその顛末について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（調整日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回合計 2 時間程度、各自で予習・復習をすることが望ましい（復習だけでも習慣づけるようにしてください）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（講義用のレジュメ等は講義時および授業支援システムを通じて配布する）。

【参考書】

これらに限定するものではないが、例として、横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣、2010 年）、玉田大ほか『国際法（第 2 版）』（有斐閣、2022 年予定）、渡部茂己ほか編『国際法（第 4 版）』（弘文堂、2022 年予定）、柳原正治ほか編『プラクティス国際法講義（第 3 版）』（信山社、2017 年）、浅田正彦ほか編『国際法（第 5 版）』（東信堂、2022 年予定）など。

【成績評価の方法と基準】

試験期間に実施予定の論述形式の試験 100 %（追加の救済措置はない点に留意）。
なお、様々な状況により代替レポートへの切り替えの可能性がある点に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

質問については、迅速に応えるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料などを授業支援システムを通じ配布するので、ネット接続が可能な機器があるとよいかと存じます（試験準備などを念頭にすると PC の利用できる状況を確保することが望ましい）

【その他の重要事項】

疑問点などは躊躇せず質問を通じて解消していきましょう。
また、国際法に限らず様々な書籍を読む習慣をつけるとよいでしょう。

【Outline (in English)】

This course introduces international public law (Lectures are conducted in Japanese).

The goals are following,

(1) to obtain the basic knowledge of the international law,
(2) as possible, to be able to appraise global issues from the legal perspective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

SOC100EC

社会学への招待

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学とはいかなる学問領域かということを探求しながら、専門学習に向けて自らの問題関心を醸成することを目的とする。

【到達目標】

社会学という学問領域の特徴・特性を学び、専門学習のための手がかかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回オムニバス形式で、社会学を専門とする先生方が、それぞれの専門分野をベースに、いま一番おもしろいと感じている研究テーマや研究方法等について講義する。社会学という学問は、何を対象とするかというより、対象に対して向ける視線や姿勢、切り口にこそその特質がある。各先生方の講義を聴くことで、社会学の多様性と同時に、そこに一貫して流れるこの学問のもつ特質・特徴について考えていく。

なお、毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は下記の通り（但し、若干の変更可能性あり）。リアクションペーパーについては、各回の担当教員がそれぞれの方法でフィードバックを行う。

オンデマンドでの講義を予定している。ただし感染状況に応じて変更もありうるので、学習支援システムの指示に注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本科目の概要説明
2	我問う、ゆえに我あり	堀川三郎先生の講義 ：大学への招待，社会学への入門
3	国際移住の社会学を考える	田嶋淳子先生の講義
4	気候危機とパンデミックの社会学	池田寛二先生の講義
5	地域文化の社会学	武田俊輔の講義
6	学力の不平等を考える	多喜弘文先生の講義
7	家族社会学への招待	菊澤佐江子先生の講義
8	社会心理学のまなざし	土倉英志先生の講義
9	相互理解とはどのようなことか	徳安彰先生の講義
10	社会問題へのアプローチ	三井さよの講義
11	〈歴史〉から問う社会学	鈴木智道先生の講義
12	「ただしさ」を社会学してみる	斎藤友里子先生の講義
13	記憶と語りの社会学	鈴木智之先生の講義
14	まとめ	各講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業で紹介のあった文献等を読み、授業内容についての理解を深め、発展させる。本授業の復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

【武田俊輔】武田俊輔, 2019, 『commonsとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社

【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）と平常点（リアクションペーパー等）（30%）で評価する。リアクションペーパーの提出方法は教員によって指示が異なる可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

This course introduces the nature of sociology to students taking this course. At the end of this course, students will be expected to be able to think sociologically. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

SOC100EC

社会学入門A

徳安 彰、兼子 諭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念的いくつかを学習を通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使って、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会的な思考法を身につける。この授業では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」とそれに関連する社会現象について学び、それを通して、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを習得していく。また基礎概念の理解と応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義方式で行う。状況に応じて、授業形態が変更になる可能性がある。

授業は、前半を兼子諭が、後半を徳安彰が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。各回の授業については、リアクションペーパー（オンライン）および授業内掲示板によって感想や質問を受け付け、次週までに担当教員およびTAが回答し、試験準備に資するようにする。試験については事後に授業内掲示板で講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	徳安担当	ガイダンス
第2回	兼子担当第1回	教育と学歴
第3回	兼子担当第2回	権力
第4回	兼子担当第3回	影響力
第5回	兼子担当第4回	リスク
第6回	兼子担当第5回	病気と社会
第7回	兼子担当第6回	市民社会と公共圏
第8回	試験	前半6回分についての試験
第9回	徳安担当第1回	アイデンティティ
第10回	徳安担当第2回	役割
第11回	徳安担当第3回	親密性
第12回	徳安担当第4回	包摂と排除
第13回	徳安担当第5回	世俗化
第14回	徳安担当第6回	社会的機能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連の文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

初回のガイダンスでリストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない（どちらか一方しか試験を受けていない場合は不合格となる）。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。試験の実施方法については授業中に指示するとともに、「学習支援システム」に掲出するので、各自確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度リアクション・ペーパー等によって確認する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門B」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

Accordingly, the goal of the course for you is to acquire ability to see and understand contemporary social issues from sociological point of view. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and other related works in sociology. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the mid-term and final examinations (50% each).

SOC100EC

社会学入門A

徳安 彰、兼子 諭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念的いくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使って、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会的な思考法を身につける。この授業では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」とそれに関連する社会現象について学び、それを通して、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを習得していく。また基礎概念の理解と応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義形式で行う。状況に応じて、授業形態が変更になる可能性がある。

授業は、前半を兼子諭が、後半を徳安彰が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。各回の授業については、リアクションペーパー（オンライン）および授業内掲示板によって感想や質問を受け付け、次週までに担当教員およびTAが回答し、試験準備に資するようにする。試験については事後に授業内掲示板で講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	兼子担当第1回	教育と学歴
第2回	兼子担当第2回	権力
第3回	兼子担当第3回	影響力
第4回	兼子担当第4回	リスク
第5回	兼子担当第5回	病気と社会
第6回	兼子担当第6回	市民社会と公共圏
第7回	試験	前半6回分についての試験
第8回	徳安担当第1回	アイデンティティ
第9回	徳安担当第2回	役割
第10回	徳安担当第3回	親密性
第11回	徳安担当第4回	包摂と排除
第12回	徳安担当第5回	世俗化
第13回	徳安担当第6回	社会的機能
第14回	試験	後半6回分についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連の文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

初回のガイダンスでリストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない（どちらか一方しか試験を受けていない場合は不合格となる）。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。試験の実施方法については授業中に指示するとともに、「学習支援システム」に掲載するので、各自確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度リアクション・ペーパー等によって確認する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門B」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

Accordingly, the goal of the course for you is to acquire ability to see and understand contemporary social issues from sociological point of view. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and other related works in sociology. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the mid-term and final examinations (50% each).

SOC100EC

社会学入門B

齋藤 友里子、鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

[Outline (in English)]

The objective of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

Accordingly, the goal of the course for you is to acquire ability to see and understand contemporary social issues from sociological point of view. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and other related works in sociology. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the mid-term and final examinations (50% each).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使って、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会学的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会学的な思考法を身につける。この授業では、毎回 1 つ（または 2 つ）の「社会学の基礎概念」とそれに関連する社会現象について学び、それを通して、社会学的に考え、記述し、分析するスタイルを習得していく。また基礎概念の理解と応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、前半を鈴木智之が、後半を齋藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。講義時に受けつけた授業内容に関する質問に対する回答を教材として活用する形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鈴木担当	ガイダンス
2	鈴木担当第 1 回	アノミー
3	鈴木担当第 2 回	秘密（社会化の形式としての）
4	鈴木担当第 3 回	純粋関係
5	鈴木担当第 4 回	ラベリング
6	鈴木担当第 5 回	ステイグマ
7	鈴木担当第 6 回	感情労働
8	試験	試験・まとめと解説
9	齋藤担当第 1 回	予言の自己成就
10	齋藤担当第 2 回	秩序問題
11	齋藤担当第 3 回	交換と互酬性
12	齋藤担当第 4 回	信頼
13	齋藤担当第 5 回	一般化された他者
14	齋藤担当第 6 回	相互行為儀礼

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に 1 回、期末に 1 回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず 2 回の試験を受けなければならない（どちらか一方しか試験を受けていない場合は不合格となる）。前半 6 回分の試験を 50%、後半 6 回分の試験を 50%として評価する。試験の実施方法については授業中に指示するとともに、「学習支援システム」に掲出するので、各自確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

SOC100EC

社会学入門B

斎藤 友里子、鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使って、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会学的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会学的な思考法を身につける。この授業では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」とそれに関連する社会現象について学び、それを通して、社会学的に考え、記述し、分析するスタイルを習得していく。また基礎概念の理解と応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、前半を鈴木智之が、後半を斎藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。講義時に受けつけた授業内容に関する質問に対する回答を教材として活用する形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鈴木担当第1回	アノミー
2	鈴木担当第2回	秘密（社会化の形式としての）
3	鈴木担当第3回	純粋関係
4	鈴木担当第4回	ラベリング
5	鈴木担当第5回	ステイグマ
6	鈴木担当第6回	感情労働
7	試験	試験・まとめと解説
8	斎藤担当第1回	予言の自己成就
9	斎藤担当第2回	秩序問題
10	斎藤担当第3回	交換と互酬性
11	斎藤担当第4回	信頼
12	斎藤担当第5回	一般化された他者
13	斎藤担当第6回	相互行為儀礼
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない（どちらか一方しか試験を受けていない場合は不合格となる）。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。試験の実施方法については授業中に指示するとともに、「学習支援システム」に掲出するので、各自確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

Accordingly, the goal of the course for you is to acquire ability to see and understand contemporary social issues from sociological point of view. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and other related works in sociology. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the mid-term and final examinations (50% each).

SOC100EC

社会調査入門

多喜 弘文

サブタイトル：社会調査 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会調査の歴史や方法および具体的な事例の学習を通じて、その社会的・学術的意義に関する理解を深めることを目指す。またそのことを通じて、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを向上させることが、社会調査を取り巻く現在の状況との関連で今後ますます重要となることを説明する。

【到達目標】

社会調査とはどのようなものであるかをイメージすることができるようになること。また、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを高めることの重要性を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4・DP9 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は秋学期の「社会調査の方法（社会調査Ⅱ）」とセットで受講することが望ましい。リアクションペーパーの提出を求めた際は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会調査の目的と意義	社会調査の目的と意義
2	社会調査の歴史（1）	社会調査とその時代的背景
3	社会調査の歴史（2）	社会調査とその時代的背景
4	国による調査の紹介	国勢調査などの基幹統計とその意義
5	社会調査の種類	さまざまな分類方法の紹介
6	量的調査と質的調査	共通点と相違点
7	量的調査を用いた研究の紹介（1）	自殺論を読む
8	量的調査を用いた研究の紹介（2）	自殺論を読む
9	質的調査を用いた研究の紹介（1）	ストリートコーナースァエティを読む
10	質的調査を用いた研究の紹介（1）	ストリートコーナースァエティを読む
11	量的調査と質的調査	共通点と相違点、方法の組み合わせ（トライアンギュレーション、ミックスメソッド）
12	学術的調査以外の調査や最近の調査の紹介	マーケティング調査、ウェブ調査など
13	社会調査を取り巻く現状と課題	調査倫理・個人情報の保護・調査リテラシー
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。授業資料をアップロードするので必要に応じて復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

轟亮・杉野勇・平沢和司編, 2021, 『入門・社会調査法 [第 4 版] —— 2 ステップで基礎から学ぶ』法律文化社。
 佐藤郁哉, 2006, 『フィールドワーク——書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社。
 岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
 E. デュルケム（宮島喬訳）, 『自殺論』中公文庫。
 W.F. ホワイト（奥田道大・有里典三訳）, 『ストリート・コーナースァエティ』有斐閣。
 その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20%）、コメントシート（15%）、試験（65%）

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを使った資料のアップロードは好評のようなので引き続きおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンでオンライン授業が受けられる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop a basic understanding of histories and the different methodological traditions of social research. Grading will be decided based on mid-term test (20%), short reports (15%), and term-end examination (65%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A I

鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論（interactionism）」の考え方に基いて、日々の社会的現実の成り立ちを社会的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々を経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に付け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不安全感」の理由を言語化できるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「テキスト教材」によって講義を進める。リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。リアクションペーパーから選別して、次週の講義資料において回答する。

毎週、月曜日の昼までに、その週の「教材」を学習支援システムにアップするので、その日の内に確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第2回	相互作用論の理論的基礎(1)	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第3回	相互作用論の理論的基礎(2)	対面的相互行為をめぐる E. ゴフマンの視点
第4回	相互作用論の理論的基礎(3)	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第5回	相互作用論の理論的基礎(4)	「レリヴァンス」と「フレーム」
第6回	相互作用秩序とそのトラブル(1)	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第7回	相互作用秩序とそのトラブル(2)	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第8回	相互作用秩序とそのトラブル(3)	トラブルを報告する
第9回	相互作用秩序とそのトラブル(4)	「アラーム」の出現
第10回	「心」の相互作用秩序(1)	感情の社会的構成
第11回	「心」の相互作用秩序(2)	コミュニケーションの要素としての「動機」
第12回	「心」の相互作用秩序(3)	「モーティヴ・トーク」の社会学
第13回	「心」の相互作用秩序(4)	動機の語彙と「心の闇」
第14回	相互作用と心の秩序	春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された参考書を各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

草柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社
中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社。
鈴木智之、2014 『「心の闇」と動機の語彙』青弓社。
など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の「レポート（論文試験）」のみを評価の対象とします（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義そのものが、私とあなたとの相互作用の場面です。リモート環境であっても、相互作用秩序の形成を協働的に達成することが求められています。お互いに、この「場」を大事にして、日々の実践を積み重ねましょう。

【Outline (in English)】

The aims of this lecture are to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze sociologically the interactional order in social life.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end report(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムから、毎週テキスト資料を配布する形で講義を進める。リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながるものではない。

リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第 2 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第 3 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第 4 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	G. ジンメル「社交圏の分離」と「個人の自立」論
第 5 回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第 6 回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第 7 回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第 8 回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第 9 回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第 10 回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第 11 回	物語としての自己（3）	病いの語り
第 12 回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第 13 回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第 14 回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義によって提起された問いを、自分自身の現実に適用して、「私」という存在の成り立ちについて考える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013 年

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみ出版、2002 年
他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート（論文試験）によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

よく「先生、単位下さい」という学生さんがいますが、「単位」は「あげる／もらう」ものではありません、「取得する」ものです。教員の役割は学生が単位を「取る」ために超えなければならない「ハードル（障害）」を設定することだと思います。これを乗り越えて（つまり、いやというほど勉強して）この科目の単位を取りに来てください。

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The aims of this lecture are to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze the social constitution of individual being.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end report(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B I

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家 (state)」という社会制度についてマックス・ヴェーバー、チャールズ・ティリー、ノルベルト・エリアス、マイケル・マン、ピエール・ブルデュー、アントニー・ギデンズ、ミシェル・フーコーらの国家論をとりあげ、歴史社会学的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か：その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）：正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というヴェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）：国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）：国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）：ヴェーバーの官僚制論	ヴェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）：官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）：国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）：間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）：「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）：官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）：国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）：社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャーの権力について
14	国家と情報管理：国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。そこでテキストや授業に関する疑問点を毎回提出してもらい、授業内でその疑問に答える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline (in English)】

In this course we will learn different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the arguments of Max Weber, Charles Tilly, Norbert Elias, Michael Mann, Pierre Bourdieu, Anthony Giddens, Michael Foucault, and so on. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B II

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀以降の国家の歴史を検討しながら、「国家（state）」という社会制度について歴史社会的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B I での講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム (1) :	近代主と反近代主義のアプローチについて
3	ナショナリズムの発生 国家とナショナリズム (2) :	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家論的アプローチ 国家とナショナリズム (3) :	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義 (1) :	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と資本主義 (2) :	マルクス主義の国家論について
7	国家と民主主義 (1) : アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
8	国家と民主主義 (2) : 民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
9	国家の社会福祉 (1) : 福祉国家の発生	福祉国家の発生について
10	国家と社会福祉 (2) : 福祉国家の「危機」?	現代福祉国家の「危機」について
11	国家のグローバル化 : 世界社会と国家	メイヤーらの新制度主義について
12	国家の「崩壊」 : アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化 : 「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国民国家の現在 : 国家の機能不全と右翼ポピュリズム	現代の国民国家と右翼ポピュリズムの台頭について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。そこでテキストや授業に関する疑問点を毎回提出してもらい、授業内でその疑問に答える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B I を受講することを強く推奨する。社会学理論 B II は B I の内容を前提にして進められる。

【Outline (in English)】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the history of the state since the 20th century. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC200EC

社会調査の方法

多喜 弘文

サブタイトル：社会調査Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会調査データの創出・整理・保存・公開というサイクルを踏まえ、それぞれの段階における具体的な手続きを学んでいく。とりわけ、社会調査の企画段階からその実施に至るまでのプロセスについては、複数のトピックに分けて細かく検討していく。

【到達目標】

本講義を通じ、受講生は社会調査を企画した上で実施し、得られたデータを適切な形で整理・保存・寄託するための一連の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4・DP9に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期の「社会調査入門（社会調査Ⅰ）」とセットで履修することが望ましい。リアクションペーパーの提出を求めた際は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会調査のライフサイクル (1)	公共財としての社会調査 一次データと二次データ
2	社会調査のライフサイクル (2)	公的統計のデータベース データアーカイブの紹介
3	社会調査の企画	目的 予算 組織 調査デザイン
4	調査方法を選ぶ (1)	面接 郵送 電話 インターネット それぞれの調査方法と利点・欠点
5	調査方法を選ぶ (2)	面接 郵送 電話 インターネット それぞれの調査方法と利点・欠点
6	調査対象を確定する	母集団と標本 サンプリング
7	社会調査に伴う誤差	標本誤差と非標本誤差
8	質問票の作成 (1)	概念から指標へ 変数と値
9	質問票の作成 (2)	質問の形式 ワーディング
10	調査の実施方法	具体的な手順を考える
11	調査データの整理 (1)	エディティング コーディング データ入力 クリーニング
12	データを保存する	調査票の管理、基礎集計表・コードブック・報告書の作成
13	データを寄託する	寄託に際して必要となるもの 具体的な手続き
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。授業資料をアップロードするので、必要に応じて復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤博樹・石田浩・池田謙一編、2000、『社会調査の公開データ——2 次分析への招待』東京大学出版会。
盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。
マシュー・J. サルガニック、2019、『ビット・バイ・ビット——デジタル社会調査入門』（瀧川裕貴ほか訳）有斐閣。
その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト (15%)、コメントシート (20%)、試験 (65%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし（前年度担当していない）。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンでオンライン授業が受けられる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

This class intends students to understand general procedures to conduct quantitative survey in order to answer a research question of their choice. Covering topics include constructing a good questionnaire, sampling methods, secondary analysis of existing data, and so on. Grading will be decided based on mid-term test (15%), short reports (20%), and term-end examination (65%).

SOC200EB, SOC200EC

社会調査のリテラシー

三井 さよ

サブタイトル：特講（社会調査のリテラシー）
開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査によって得られたさまざまな形式のデータを用いて読み書きするために必要となる基礎的なリテラシーを学ぶ。現代社会におけるさまざまな問題を社会科学的に解釈、説明するための基本的な概念を理解する。

【到達目標】

社会調査によって得られたデータを使った論文や報告書の分析結果や社会的含意を理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

おもにパワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。リアクシオンペーパーについては、必要と判断した場合は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。授業の予定は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	講義の目的	社会調査を読み書きするリテラシー
2	量的調査を読む（1）	量的データに関連するデータベースにアクセスする
3	量的調査を読む（2）	量的調査を用いた文献の紹介
4	質的調査を読む（1）	質的データに関連するデータベースにアクセスする
5	質的調査を読む（2）	質的調査を用いた文献の紹介
6	抽象化して考える	変数と値
7	データを記述する（1）	度数分布表の読み取りと作成、相対度数、累積度数、累積百分率
8	データを記述する（2）	代表値と散布度、各種のグラフの読み取りと作成
9	変数の関連を捉える（1）	2変数間に関連があるとはどういうことか、相関関係と因果関係
10	変数の関連を捉える（2）	疑似相関、変数のコントロール
11	変数間の関連を記述する（1）	クロス集計表
12	変数間の関連を記述する（2）	尺度水準と分析方法
13	変数間の関連を記述する（3）	量的変数間の関連—散布図、共分散、相関係数
14	総括	授業のまとめと社会調査実習の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

理解の積み上げが必要となる部分があるので、必要に応じて配布資料で復習して授業に臨むことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

岩井紀子・保田時男, 2007, 『調査データ分析の基礎——JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣。

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクシオンペーパー、小テスト）35%、期末レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture aims to study basic knowledge and methods for social research to understand the social world. At the end of this course, students will be expected to get literacy to read and understand papers of social research. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

SOC300EC

理論社会学

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学における理論的な思考と論理展開の仕方を学ぶ。具体的には、社会システム理論にもとづいて、現代のグローバル化の進展にともなう社会構造と人間生活の変化を考察する。

【到達目標】

社会学の基礎知識を一定程度習得していることを前提にして、社会学における理論的な思考や論理展開の仕方を理解できるようになる。それにもとづいて、自分自身で、具体的な現代の社会現象について、理論的な思考や論理展開を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義形式で行う。最後にそれを踏まえた討議の機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要や到達目標を概説する
第 2 回	国民社会から世界社会へ	グローバル化の時代の「社会」の単位のあり方を学ぶ
第 3 回	機能分化	社会構造の分化形態としての機能分化について学ぶ
第 4 回	包摂と排除	機能分化した社会における個人の社会への包摂と排除の様態を学ぶ
第 5 回	アイデンティティ	機能分化した社会におけるアイデンティティの様態を学ぶ
第 6 回	多元主義	機能分化した社会における意味や価値の体系の多元化について学ぶ
第 7 回	多元化のパラドックス	意味や価値の体系の多元化がもたらすパラドキシカルな結果について学ぶ
第 8 回	中間単位	個人と世界社会のあいだに成立しうる中間的な単位の様態について学ぶ
第 9 回	グローバル化の展望	グローバル化の今後の進展の方向性について理論的に考察する
第 10 回	社会変動の観察と記述	社会システム理論から見た社会変動の観察と記述の仕方を学ぶ
第 11 回	システム認識論	社会システム理論における社会現象の認識方法を学ぶ
第 12 回	総括討議（1）	講義から見出された理論的テーマについて討議する（その1）
第 13 回	総括討議（2）	講義から見出された理論的テーマについて討議する（その2）
第 14 回	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は、授業内容の咀嚼と理解が重要なので、復習を中心に学習を進めること。各回の宿題をきちんとこなすことが、授業内容の理解と習得の鍵となる。また授業内で、参考文献等が示された場合には、できるだけ読んで理解の深化に努めること。予習・復習および宿題のために、各週4時間の学習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない

【参考書】

日本社会学会『社会学理論応用事典』（丸善、2017年）
その他の必要な文献については、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）：各回の宿題の内容に、リアクションペーパーの内容を加味して評価する。
期末試験（30%）：授業内容に関する理解度を、筆記試験によって評価する。授業内試験で行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の担当はないので、学生の意見等からの気づきはない。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

毎回の宿題に対する取り組みが重要です。コンスタントな学習を心がけましょう。

【Outline (in English)】

We learn the way of theoretical thinking and argumetation in sociology. We consider how social structure and human life are changing in current globalization process from the perspective of social systems theory. The goals of this course are to acquire the ability of abstract theoretical thinking in sociology, and to apply it to various current concrete social phenomena. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Assignments: 70%, term-end examination: 30%.

SOC300EC

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるとする方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント/スペンサー	三段階の法則、社会進化論、軍事型社会/産業型社会
4	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
6	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
7	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
8	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
9	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
10	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
11	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
12	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
14	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社
 ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでの、積極的な質問やコメントを歓迎する。リアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%); In-class contribution (30%).

SOC300EC

社会学史Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 20 世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20 世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	I と me、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー/ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で作成し、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC

歴史社会学Ⅰ

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

・社会的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを介したオンデマンド学習と Zoom を利用したリアルタイム型授業を組み合わせた授業を進めていく。その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	イデオロギーとしての〈近代家族〉
14	エビローク	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）+学期末試験（60%）により評価をおこなう。なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective. Students are expected to be able to think about history as a tool for investigating the present-day society. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on Report I & II (20%×2) and Term-end examination (60%).

SOC300EC

歴史社会学Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

・「暗記科目としての「歴史」」を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを介したオンデマンド学習と Zoom を利用したリアルタイム型授業を組み合わせた授業を進めていく。その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる「現場」を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	〈近代化〉と何なのか？
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史的想像力のゆくえ
14	エビローク	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）+学期末試験（60%）により評価をおこなう。なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events. Students are expected to be able to think deeply about historical positivism, narrative theory on history, historical revisionism, collective memory, and the classical theory of social change. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Report I & II (20%×2) and Term-end examination (60%).

SOC300EC

数理社会学 I

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス (1)	関係のフォーマルな捉え方とハイダースのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス (2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持される時 (1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持される時 (2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持される時 (3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ (1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ (2)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ (3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ (4)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力 (1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるかを考える
12	つながりの産物としての権力 (2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ
13	つながりの産物としての権力 (3)	権力（勢力）構造の表現について考える
14	構造をとらえるということ	授業のふり返りを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC

数理社会学Ⅱ

齋藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探すという思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定(1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定(2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定(3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか(1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか(2)	White (1963) のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか(3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか(4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか(5)	White (1963) モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか(1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか(2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか(3)	ファラロ (1973) のモデルについて解説する
13	なぜ「中流」が多いのか(4)	社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する
14	社会学と数理モデル	社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC

原典講読

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

感情の社会学において古典的名著となったアーリー・ホックシールド『管理される心』を講読することを通じて、ホックシールドの提示する感情の社会学理論と社会学研究の方法を理解する。

【到達目標】

『管理される心』の講読を通じて、本書が提示する感情の社会学理論や研究方法を学ぶとともに、関連する社会現象・問題をより深く洞察する上での手がかりを得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読・議論を中心とした演習形式の授業です。アーリー・ホックシールド『管理される心』を中心に講読しますが、あわせて、この本に関連する他の論考も補完的に読んでいくことを通じて、ホックシールドの社会学理論を掘り下げて理解するとともに、その現代的意義や限界についても考えてみたい。

参加者には、事前に割り振られた担当章・論文について、レジュメを作成し、授業で報告することが求められます。また、報告者以外の参加者についても、毎回全員が所定の箇所を読んで参加し、担当者の報告後、その回の内容についての議論に参加することが期待されます。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行います。

授業計画は概ね以下の内容を予定しています（ただし、授業の展開等により若干の変更可能性あり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方について解説する
2	指定文献の講読 (1)	テキストの第 1 章を読む
3	指定文献の講読 (2)	テキストの第 2 章を読む
4	指定文献の講読 (3)	テキストの第 3 章を読む
5	指定文献の講読 (4)	テキストの第 4 章を読む
6	指定文献の講読 (5)	テキストの第 5 章を読む
7	指定文献の講読 (6)	テキストの第 6 章を読む
8	指定文献の講読 (7)	テキストの第 7 章を読む
9	指定文献の講読 (8)	テキストの第 8 章を読む
10	指定文献の講読 (9)	テキストの第 9 章を読む
11	関連する論考の講読 (1)	教育分野の論考
12	関連する論考の講読 (2)	労働分野の論考
13	関連する論考の講読 (3)	医療・福祉分野の論考
14	総括	レポートの提出と相互討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は毎回必ず、事前に該当箇所を読み、自分なりに理解したうえで授業に参加する。報告者はレジュメを含め指定箇所についての報告と議論の準備をしてくる。期末レポートの作成に向けては、各自計画的に講読・執筆等を進めることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

A.R. ホックシールド（石川准・室伏亜希訳）『管理される心』（世界思想社、2900 円+税）。追加文献については、授業で指示する。

【参考書】

授業で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40%、担当箇所の報告 30%、期末レポート 30%
（毎回出席し議論に参加することを原則とします）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムや Zoom を使用する。

【その他の重要事項】

初回授業時に詳細を説明するとともに、報告担当日等を決定するので、履修予定者は、必ず初回授業に出席すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the theory and methods of sociology of emotions presented in *The Managed Heart* by Arlie Russell Hochschild. At the end of the course, students are expected to gain deeper understanding of relevant social issues through the sociology-of-emotions lens. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class contribution: 40%, Presentations: 30%, Term paper: 30%.

SOC300EC

社会学総合特講 A

鈴木 智之

サブタイトル：社会学総合特講 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「語ること、聴くこと、伝えること」をテーマとして、「他者の経験」への接近としての社会学的研究の方法を論じる。

【到達目標】

社会学は、他者との出会いの場であり、研究は他者の経験（生）に触れ、これを引き受けながら、また別の他者に伝達する営みとして成立する。この講義では、「他者」への接近の技法としての社会学の位置づけを学び、その上で、実際の出会い（調査）において、いかにしてその経験への接近と理解、そして伝達が可能になるのかを、「語る」と「聴くこと」に照準化して論じる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で進めるが、学期中に何回か「課題」を示し、その回答を用いながら、「聴くこと」「語ること」の上にとどのような認識が可能なるのかを考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	なぜ社会学的研究において「他者-経験」が問われるのか
第2回	理解の2つの形式	ナラティブモードとは何か
第3回	接触と変換	なぜ他者の生に「触れる」ことが必要なのか
第4回	他者の語り	構築と応答のあいだ
第5回	聴くことの力	鷺田清一『聴くことの力』から
第6回	見知らぬものと出会う	木村大治『見知らぬものと出会う』から
第7回	分からないものと出会う	インタビュー調査から問いを立てるために
第8回	物語の分岐	偶発的な展開を理解する
第9回	他者の生を報告する	伝言ゲームとしての社会学
第10回	他者をなぞる	石野由香里『他者の発見』から
第11回	自己を語る	オートエスノグラフィーの可能性
第12回	病いの語り	A.W. フランク『傷つた物語の語り手』再読
第13回	サバイバーズナラティブ	語りの条件が損なわれた語り
第14回	語りと生	他者の経験に触れる営みとしての社会学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

J. ブルーナー『可能世界の心理』みすず書房
鷺田清一『聴くことの力』
石野由香里『他者の発見』早稲田大学出版会
木村大治『見知らぬものと出会う』

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手』ゆみる出版
浜日出夫（編）『サイバインの社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

学期中に4回程度の「小レポート」（課題）の提出を求め、評価対象とする（40％）

学期末に最終レポートの提出を求める（60％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度はじめて担当する科目なので、特になし。

【その他の重要事項】

なるべく新しいことを学びつつ、また受講生とのコミュニケーションのなかで講義を行いたいので、講義の内容な構成には変更が生じることがあります。

【Outline (in English)】

On narrating, listening, and transmitting. We investigate the possibility of sociological research as approach to others' experience.

At the end of the course, students are expected to be able to understand and challenge the problems confronted in research. After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the mid-term reports(40%) and the term-end report(60%).

SOC300EC

社会学総合特講 B

鈴木 智道

サブタイトル：社会学総合特講 II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代思想／現代社会分析に多大な影響を与え続けている 20 世紀後半を代表する思想家（社会学者？／歴史家？）ミシェル・フーコーの諸著作の読解を通して、その社会的な意義を考えていく。本授業では、実際にそれぞれの文献の一部にあたりながらその「筆致」を体感しつつ、フーコーの思考の道筋を追体験してみる。同時にそれを通して、フーコーが対峙しようとしていた「問題」について、受講者との議論を通して探索することを目的とする。なお、本科目は「歴史社会学 I」の中上級編（＝もうひとつの「歴史社会学」という位置づけにもある）。

【到達目標】

・フーコーの思想のもつ、とりわけその社会的な射程について理解を深める。
・それを導きの糸としながら、自分のこれまでのものの見方／社会との対峙の仕方とあらためて向き合い考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員による講義（解説）と受講者による議論を交互に組み合わせながら授業を進める。ただし、授業計画は、授業の展開により若干の変更の可能性がありうる。

なお、本科目の履修にあたっては、担当教員が別に担当している「歴史社会学 I」を今年度春学期までに受講し、単位修得済であることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～なぜいまフーコーなのか？	概要の説明・スケジュール確認
第 2 回	フーコーに立ち向かう前に	フーコーの生涯・思想遍歴・方法
第 3 回	『狂気の歴史』を読む	『狂気の歴史』の精読と解説
第 4 回	『狂気の歴史』を読解する：議論①	「理性」と「排除」をめぐる
第 5 回	『言葉と物』を読む	『言葉と物』の精読と解説
第 6 回	『知の考古学』を読む	『知の考古学』の精読と解説
第 7 回	『言葉と物』・『知の考古学』を讀解する：議論②	「エビステマー」と「言説」をめぐる
第 8 回	『監獄の誕生』を読む	『監獄の誕生』の精読と解説
第 9 回	『監獄の誕生』を讀解する：議論③	「権力」をめぐる
第 10 回	『性の歴史 I・知への意志』を読む	『知への意志』の精読と解説
第 11 回	『性の歴史 I・知への意志』を讀解する：議論④	「セクシュアリティ」をめぐる
第 12 回	『生政治の誕生』（『ミシェル・フーコー講義集成 8』）を読む	『生政治の誕生』の精読と解説
第 13 回	『生政治の誕生』を讀解する：議論⑤	「生政治」をめぐる
第 14 回	まとめ～フーコーの向こう側	レポートの合評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に読了した上で授業にのぞむこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は、学習支援システムを通して配布する。

【参考書】

ミシェル・フーコー：

『狂気の歴史—古典主義時代における—』新潮社、1961 年＝新装版：2020 年

『言葉と物—人文科学の考古学—』新潮社、1966 年＝新装版：2020 年

『知の考古学』河出文庫、1969 年＝2012 年

『監獄の誕生—監視と処罰—』新潮社、1975 年＝新装版：2020 年

『性の歴史 I・知への意志』新潮社、1976 年＝1986 年

『ミシェル・フーコー講義集成 8・生政治の誕生：コレージュ・ド・フランス講義 1978-79 年度』筑摩書房、2008 年

その他の参考書については、開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50%）と最終レポートの水準（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更により該当なし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to read carefully some of the M. Foucault's works, and to discuss how they have made a great impact on contemporary sociology. Students are expected to deeply comprehend what he said and contemplated, and then come face-to-face with your own viewpoint toward society.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the final paper (50%).

SOC300EC

外書講読（社会学）2 A

樋口 明彦

サブタイトル：特講（外書講読 社会学 2 A）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年から猛威を振ったコロナ禍は、若者の暮らしを大きく変え、「コロナ世代 covid generation」を生み出した。本授業では、イギリスの事例を検討しながら、日本との国際比較を視野に入れた社会学的考察を行う。取り上げる主なテーマは、「政府のコロナ対策」「若者の日常生活」「学校」「失業」「メンタルヘルス」「政府への信頼感」などである。できるだけ臨場感を持った分析を目指すため、英語テキストは、学術論文だけでなく、新聞記事・政府統計・民間団体レポート・SNS なども活用する。

【到達目標】

- ①英語で書かれたテキストを正確に理解する。
- ②テキストの読解を通じて、日本の社会状況を社会学的に分析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習。

- ①イギリスにおけるコロナ対応の年表作成（合同作業）
 - ②各自、提示されたテーマから1つ選んで、英語テキスト購読、レジュメ作成、報告
 - ③日本の事例と比較しながらディスカッション
 - ④各自、コロナ政策の評価レポートを作成、報告
- ※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イギリスのコロナ対策
2	イギリスの状況	年表作成
3	テキスト購読①	政府のコロナ対策
4	テキスト購読②	若者の日常生活
5	テキスト購読③	若者の家族生活
6	テキスト購読④	若者の交友生活
7	テキスト購読⑤	学校
8	テキスト購読⑥	失業
9	テキスト購読⑦	メンタルヘルス
10	テキスト購読⑧	政府への信頼感
11	評価レポート報告①	ディスカッション
12	評価レポート報告②	ディスカッション
13	評価レポート報告③	ディスカッション
14	まとめ	年表完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①テキスト購読、②レジュメ作成、③評価レポート作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは担当教員が準備して受講生に配布する。

Daisy Francourt, 2021 "People started breaking Covid rules when they saw those with privilege ignore them", The Guardian, 2 Jan 2021.

Richard Partington, 2020, "Covid generation: UK youth unemployment 'set to triple to 80s levels'", The Guardian, 7 Oct 2020.

UCL COVID-19 Social Study, 2021, "Understanding the psychological and social impact of the pandemic".

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（50 %）
- ②評価レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に沿って、テキスト内容を一部変更

【その他の重要事項】

本授業は、受講許可科目です。希望者は、必ず初回授業に参加して、教員の許可を得ること。

[Outline (in English)]

This lecture is about the impact of Covid-19 on young people. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC300EC

外書講読（社会学）2 B

樋口 明彦

サブタイトル：特講（外書講読 社会学 2 B）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年から猛威を振るったコロナ禍は、各国に未曾有のコロナ対策を促した。このような施策は市民の行動を大きく制限すると同時に、しばしばうまく機能しなかったため、市民の不満を増大させ、世界中でさまざまな抗議運動を引き起こすことにつながった。本授業では、「怒り rage」をキーワードに、政治家のスキャンダル、右派ポピュリズム、左派ポピュリズム、社会運動、テロリズム、社会や政治への不信任感、あきらめの広がりなど、「怒り」に起因するさまざまな社会現象を社会的に考察する。できるだけ臨場感を持った分析を目指すため、英語テキストは、学術論文だけでなく、新聞記事・政府統計・民間団体レポート・SNS なども活用する。

【到達目標】

- ①英語で書かれたテキストを正確に理解する。
- ②テキストの読解を通じて、現在の社会状況を分析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習。

- ①コロナ対応の年表作成（合同作業）
 - ②各自、提示されたテーマから1つ選んで、英語テキスト購読、レジュメ作成、報告
 - ③日本の状況と比較しながらディスカッション
 - ④各自、「怒り」に対する評価レポートを作成、報告
- ※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コロナ対策と怒り
2	コロナ対策と怒りの状況	年表作成
3	テキスト購読①	政治家のスキャンダル
4	テキスト購読②	右派ポピュリズム
5	テキスト購読③	左派ポピュリズム
6	テキスト購読④	社会運動
7	テキスト購読⑤	テロリズム
8	テキスト購読⑥	社会への不信任感
9	テキスト購読⑦	政治への不信任感
10	テキスト購読⑧	あきらめの広がり
11	評価レポート報告①	ディスカッション
12	評価レポート報告②	ディスカッション
13	評価レポート報告③	ディスカッション
14	まとめ	年表完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①テキスト購読、②レジュメ作成、③評価レポート作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは担当教員が準備して受講生に配布する。

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（50 %）
- ②評価レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に沿って、テキスト内容を一部変更

【その他の重要事項】

本授業は、受講許可科目です。希望者は、必ず初回授業に参加して、教員の許可を得ること。

【Outline (in English)】

This lecture is about protests over responses to the COVID-19 pandemic. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC300EC

外書講読（社会学）3A

堀川 三郎

サブタイトル：特講（外書講読 社会学 3A）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代都市に必要なのは高速道路か、人間味のある界隈か——こういった問いかけを考えるうえで欠かすことのできないアメリカの思想家にジェイン・ジェイコブス（Jane Jacobs, 1916-2006）がいます。主婦であり、ジャーナリスト、評論家、市民運動家、そして思想家であったジェイコブスは、ニューヨーク市都市計画部の権威であったロバート・モーゼス（Robert Moses, 1888-1981）に真っ向から反対し、勝利します。ゆえに彼女は神格化されてきました。近年になって彼女の足跡を冷静に振り返る「ジェイコブス・ルネッサンス」が静かに進行していますが、まだ邦語文献は少ないのが現状です。

そこでこの授業では、英文でジェイコブス再評価の動きをコンパクトに概観し、都市に関する研究トレンドの現在を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

- (1) 英語読解力の向上
- (2) 都市をめぐる研究トレンドの内容を把握すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業では、リーディングとその中身に関するディスカッションを行い、課題部分の内容把握に加えて、より深い意味理解を目指します。単なる英文和訳ではなく、一歩踏み込んだ「意味解釈」を重点的に行います。

まず最初に日本語の文献を読んで、後の英文解釈に必要な基礎知識を習得します。その上でジェイコブスやモーゼスについての良質な英語文献の重要な箇所を選んで読み、受講生全員で議論をします。担当教員は、そこにある英文を論理的に読み解くためのコツを解説します。このように初学者でも分かりやすく、段階を踏んで内容をしっかり理解できるような授業を目指します。最終的には、英文を自分で読み解いていく「方法」を習得することを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概略説明と教材についての説明
2	アメリカの都市再開発	概説：何が問題だったのか
3	ジェイコブスとは誰か	ジェイコブスの生涯を概観する
4	モーゼスとは誰か	モーゼスの生涯と思想を概観する
5	文献講読 [1]	受講者による内容報告 (1)
6	文献講読 [2]	受講者による内容報告 (2)
7	文献講読 [3]	受講者による内容報告 (3)
8	文献講読 [4]	受講者による内容報告 (4)
9	文献講読 [5]	受講者による内容報告 (5)
10	文献講読 [6]	受講者による内容報告 (6)
11	文献講読 [7]	受講者による内容報告 (7)
12	文献講読 [8]	受講者による内容報告 (8)
13	文献講読 [9]	受講者による内容報告 (9)
14	春学期のまとめ	全体討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業終了時に指示する次回の授業で読む予定の箇所を予習しておくこと。あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。学生諸君がテキストを購入する必要はありません。

具体的なテキストは、受講者の関心とレベルにあわせて決定しますが、今のところ、下記の文献の一部を抜粋して読む予定です。コミック仕立てになっている興味深い文献 ([3]) も挙げておきました：

[1] Alexia, Alice Sparberg (2006) *Jane Jacobs: Urban Visionary*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

[2] Lang, Glenna, and Marjory Wunsch (2009) *Genius of Common Sense: Jane Jacobs and the Story of The Death and Life of Great American Cities*. Boston, MA: David R. Godine.

[3] Christine, Pierre, and Olivier Balez (2014) *Robert Moses: The Master Builder of New York City*. London: Nobrow.

【参考書】

授業中に適宜指定します。基礎知識習得のための日本語文献は、以下のとおりです：

[1] 『ジェイン・ジェイコブスの世界 1916-2006』(別冊 環 22), 2016 年。

[2] ジェイン・ジェイコブス [著]・山形浩生 [訳] (2010) 『アメリカ大都市の死と生』, 東京：鹿島出版会。

【成績評価の方法と基準】

予習の成果とディスカッション (100%) で評価します

【学生の意見等からの気づき】

適宜、授業運営について受講者と話し合う

【その他の重要事項】

初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。原則として、春学期と秋学期をセットで（つまり、通年で）履修してください。なお、この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of urban studies to students taking this course. It is particularly designed to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to read academic literature in English. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on in-class contribution (100%).

SOC300EC

外書講読（社会学）3B

堀川 三郎

サブタイトル：特講（外書講読 社会学 3B）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代都市に必要なのは高速道路か、人間味のある限界か——こういった問いかけを考えるうえで欠かすことのできないアメリカの思想家にジェイン・ジェイコブス（Jane Jacobs, 1916-2006）がいます。主婦であり、ジャーナリスト、評論家、市民運動家、そして思想家であったジェイコブスは、ニューヨーク市都市計画部の権威であったロバート・モーゼス（Robert Moses, 1888-1981）に真っ向から反対し、勝利します。ゆえに彼女は神格化されてきました。近年になって彼女の足跡を冷静に振り返る「ジェイコブス・ルネッサンス」が静かに進行していますが、まだ邦語文献は少ないのが現状です。

そこでこの授業では、英文でジェイコブス再評価の動きをコンパクトに概観し、都市に関する研究トレンドの現在を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

- (1) 英語読解力の向上
- (2) 都市をめぐる研究トレンドの内容を把握すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業では、リーディングとその中身に関するディスカッションを行い、課題部分の内容把握に加えて、より深い意味理解を目指します。単なる英文和訳ではなく、一歩踏み込んだ「意味解釈」を重点的に行います。

まず最初に日本語の文献を読んで基礎知識を習得します。その上でジェイコブスやモーゼスについての良質な文献の重要な箇所を選んで読み、受講生全員で議論をします。このように初学者でも分かりやすく、段階を踏んで内容をしっかり理解できるような授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の内容の復習
2	文献講読 [1]	受講者による内容報告 (1)
3	文献講読 [2]	受講者による内容報告 (2)
4	文献講読 [3]	受講者による内容報告 (3)
5	文献講読 [4]	受講者による内容報告 (4)
6	文献講読 [5]	受講者による内容報告 (5)
7	文献講読 [6]	受講者による内容報告 (6)
8	文献講読 [7]	受講者による内容報告 (7)
9	文献講読 [8]	受講者による内容報告 (8)
10	文献講読 [9]	受講者による内容報告 (9)
11	文献講読 [10]	受講者による内容報告 (10)
12	文献講読 [11]	受講者による内容報告 (11)
13	文献講読 [12]	受講者による内容報告 (12)
14	秋学期のまとめ	全体討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業終了時に指示する次回の授業で読む予定の箇所を予習しておくこと。あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。学生諸君がテキストを購入する必要はありません。

具体的なテキストは、受講者の関心とレベルにあわせて決定しますが、今のところ、下記の文献の一部を抜粋して読む予定です。コミック仕立になっている興味深い文献 ([3]) も挙げておきました：

[1] Alexia, Alice Sparberg (2006) *Jane Jacobs: Urban Visionary*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

[2] Lang, Glenna, and Marjory Wunsch (2009) *Genius of Common Sense: Jane Jacobs and the Story of The Death and Life of Great American Cities*. Boston, MA: David R. Godine.

[3] Christine, Pierre, and Olivier Balez (2014) *Robert Moses: The Master Builder of New York City*. London: Nobrow.

【参考書】

授業中に適宜指定します。基礎知識習得のための日本語文献は、以下のとおりです：

[1] 『ジェイン・ジェイコブスの世界 1916-2006』（別冊 環 22）、2016年。

[2] ジェイン・ジェイコブス [著]・山形浩生 [訳]（2010）『アメリカ大都市の死と生』、東京：鹿島出版会。

【成績評価の方法と基準】

予習の成果とディスカッション（100%）で評価します

【学生の意見等からの気づき】

適宜、授業運営について受講者と話し合う

【その他の重要事項】

初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。原則として、春学期と秋学期をセットで（つまり、通年で）履修してください。なお、この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of urban studies to students taking this course. It is particularly designed to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to read academic literature in English. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on in-class contribution (100%).

SOC300EB, SOC300EC

統計調査法

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎、社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検証の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいか「わかる」ようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第2回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概括する
第3回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第4回	確率分布について	統計分布について説明する
第5回	統計的推測(1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第6回	統計的推測(2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際に学ぶ
第7回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第8回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第9回	クロス集計(1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第10回	クロス集計(2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第11回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第12回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第13回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第14回	まとめ	授業のふり返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。
ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

The goal of this course for you is to know how to grasp statistical distribution, how to make basic statistical inference on population, and how to construct and test a research hypothesis.

To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC

社会調査実習

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本の地域社会は農村地域はもとより都市部においても急激な人口減少に直面している。そのため、人口減少に抗するにしても適応するにしても、いかに地域社会の持続可能性を高めることができるかが、あらゆる地域社会の喫緊の課題となっている。この授業では、八王子市、町田市、相模原市を主な対象として、住民や行政や企業など多様なアクターが人口減少の現状と課題に対してどのように取り組んでいるかを、主として質的社会調査の方法（参与観察、インタビュー調査、ドキュメント分析など）を駆使して解明し、社会調査というアクション・リサーチを通して、地域課題とその解決の方向性を社会的に考え実践する能力を高めることを目的とする。なお、調査の具体的なテーマ設定には、2020 年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が地域社会に及ぼした影響や変化が色濃く反映されることを想定している。

【到達目標】

具体的な問題を抱える地域社会の実態と政策課題をフィールドワーク型の社会調査によって把握・分析することを通して、学生に社会調査の全プロセスを経験させ、質的調査法を実践的に習得させることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は以下の大きく 4 つの段階に沿って進められる。
1：社会調査を実施する（「実査」する）ことの意味に関する基本認識を共有する。
2：社会調査を設計・計画する。（「フィールドノーツ」の重要性と作成法、基礎資料・基本情報の共有化、調査テーマの確定、調査地域の選定、調査対象の確定、仮説の定立、調査方法の確定、質問項目の整理、質問文の作成、インタビューマニュアルの作成、調査スケジュールの作成、調査対象者とのアポイントメントの心得の共有、インタビュー記録・観察記録のフォーマットの共有、収集した質的調査データの処理・分析の手法、報告書の作成法、「調査倫理」としての対象者・協力者への結果報告の心得）
3：社会調査を実施（実査）する：2 の設計・計画に応じて現地調査（フィールドワーク）を実践する。
4：調査結果のまとめと報告書作成：調査結果をまとめ調査対象者・協力者に報告する。
上記の 4 つの段階ごとに課題レポートを指示し、その結果に対する教員の評価をフィードバックしたうえで次の段階に進む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	序論、教員および参加学生の自己紹介	調査実習の趣旨の共有
2 回目	先行研究から学ぶ（1）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
3 回目	先行研究から学ぶ（2）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く

4 回目	先行研究から学ぶ（3）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
5 回目	先行研究から学ぶ（4）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
6 回目	先行研究から学ぶ（5）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
7 回目	予備調査（1）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
8 回目	予備調査（2）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
9 回目	予備調査（3）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
10 回目	予備調査（4）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
11 回目	予備調査（5）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
12 回目	現地予備調査の実施（1）	地元の関係者を担当とするインタビュー
13 回目	現地予備調査の実施（2）	地元の関係者を担当とするインタビュー
14 回目	現地予備調査の実施（3）	地元の関係者を担当とするインタビュー
15 回目	現地予備調査の成果のまとめ	インタビュー結果の整理と共有、秋学期における本調査への留意点の確認
16 回目	本調査の計画と準備（1）	本調査における調査項目と調査方法の確認、マニュアル作成
17 回目	本調査の計画と準備（2）	本調査における調査項目と調査方法の確認、マニュアル作成
18 回目	本調査の計画と準備（3）	本調査における調査項目と調査方法の確認、役割分担とスケジュール作成
19 回目	本調査の計画と準備（4）	本調査における調査項目と調査方法の確認、分担とスケジュール作成、アポイントメント
20 回目	本調査の実施（1）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
21 回目	本調査の実施（2）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
22 回目	本調査の実施（3）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
23 回目	本調査の実施（4）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
24 回目	本調査の実施（5）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
25 回目	本調査の実施（6）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
26 回目	本調査の実施（7）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
27 回目	調査結果のまとめ（1）	各自の調査結果の整理と共有、報告書の編集
28 回目	調査結果のまとめ（2）	報告書の原稿完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。また、調査対象地に関する自発的な資料・情報収集活動を主な宿題とします。

【テキスト（教科書）】

過去の池田が担当した社会調査実習の報告書＝池田寛二他編著『首都圏山村社会の現状と課題』（1）～（4）（2005 年度～2009 年度）・『首都圏農山村社会の現状と課題』（1）（2）（3）（2013 年度～2015 年度）

【参考書】

日本村落研究会編『むらの社会を研究する』（農山漁村文化協会、2006 年）、地域社会学会編『キーワード地域社会学』（ハーベスト社、2006 年）、池田寛二「制度資本としてのコモンズ政令指定都市の中の山村社会を事例として」宇沢・関編『社会的共通資本としての森』第 8 章（東京大学出版会、2015 年）など

【成績評価の方法と基準】

調査活動への参加度・貢献度（40％）、調査手法の習熟度（20％）、調査報告書の内容（40％）を主な評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This class mainly focuses on Hachioji City, Machida City, and Sagami City, and conducts a qualitative social research mainly on how various actors, such as residents, local governments, and business persons, are tackling the current issues of population decline. The purpose of this class is to enhance students' ability to do research on community issues sociologically through active learning called social research.

SOC300EC

社会調査実習

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習の目的は社会調査を実施する方法を学ぶ。今年度のテーマは『川崎市における外国人市民代表者会議』について考える。

【到達目標】

本実習では社会調査の一連のプロセスを学び、自ら調査を計画し、実施できるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムに仮登録をし、担当教員まで必ず、事前に連絡メールを送って下さい。詳細は学習支援システムにて指示します。本実習においては、都市地域社会を対象とするフィールドワークを通じ、調査の流れに沿って、作業プロセスを体験します。ただし、昨年度同様、直接のインタビューは難しい可能性もあり、その場合には zoom を利用した調査になります。地域へのアプローチの仕方から問題の析出とドキュメント分析およびインタビューなどの調査プロセスを通じ、調査報告書の作成に至る社会調査の全プロセスを把握します。毎回の課題は学習支援システムの課題で設定します。提出物はコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調査概要と調査地について	調査地についての文献検索及び統計データの収集
2	調査報告書を読む	調査報告書を参考に調査報告の書き方を学ぶ
3	既存データの収集および講読	参考文献の検索方法および既存データを読み、問題の所在を把握する
4	調査対象のリスト作成	データの収集と共有化
5	文献の収集・検討	既存研究データ・ベースの作成作業、文献の講読を通じて、問題意識の明確化をはかる
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討。調査研究計画の立案
7	既存データの批判的検討	統計、ドキュメントなど資料の収集と講読、レポート
8	調査地域及び関連既存団体へのアプローチ	対象地域を地域組織へのインタビューから把握する（地域似展開する外国人NPO,NGO 組織）
9	インタビュー記録の作成	インタビュー記録の作成作業とケース化
10	インタビュー記録の作成	ケース化作業
11	調査の準備作業	データの共有化
12	調査の準備作業	調査対象へのアプローチ方法の検討
13	調査計画の立案	夏休み中の調査計画立案
14	夏休み調査の準備作業	調査対象者へのアプローチとアポイントの確認
15	調査結果の検討	調査結果の批判的検討
16	データ・クリーニング	インタビューデータの確認
17	データの分析作業	分析作業を進める（各自の担当部分と全体とのつながり）
18	データの分析作業	サブ・グループを作り、データ分析作業
19	データの分析作業	データ分析から各自のテーマ化
20	補足調査実施	各自のテーマに必要な補足調査を実施
21	既往文献の再検索	既往文献を再検索する
22	データの公表の仕方	倫理規定についての検討
23	プレゼンテーションの準備	PPT を使った発表の仕方
24	論文構成の検討	各自の論文文化へ向けた作業
25	報告書構成の確定	調査報告書の構成を確定し、論文のテーマを調整
26	報告書の執筆作業	報告原稿の完成に向けたブラッシュアップ
27	報告書の執筆作業	論文の書き方
28	報告書の執筆作業	報告書の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業で出された課題を個人あるいはグループで実施するため、準備作業が重要となる。また、夏休み中のインタビュー調査は必ず参加すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各年度で作成した調査報告書（これらは配布または貸し出し予定）
 社会調査実習報告書、2021『グローバル化の中の池袋—その過去・現在・未来（Part III）』
 社会調査実習報告書、2020『グローバル化の中の池袋—その過去・現在・未来（Part II）』
 社会調査実習報告書、2019『多文化共生のありかをもとめて Part IV』
 社会調査実習報告書、2018『コミュニティとしての横浜中華街 Part III』

【参考書】

田嶋ゼミ社会調査報告書、『多文化共生のありかをもとめてⅠ、Ⅱ、Ⅲ』。
 田嶋淳子『池袋・新宿調査からの20年』『社会と調査』第4号、2010年。
 田嶋淳子、2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店。
 田嶋ゼミナール『グローバル化の中の池袋』2010年調査報告。

【成績評価の方法と基準】

調査実習のすべての段階における課題提出（30%）、インタビュー記録などの調査データの作成（30%）および最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本社会調査実習は調査研究法B（田嶋担当）とセットで履修することが求められている。履修にあたっては、必ず事前に担当教員と相談すること。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will learn how to conduct qualitative social research. The subject is to study the Kawasaki City Representative Assembly for Foreign Residents.

Learning Objectives

Students will learn the entire process of conducting social research, including how to plan and carry it out.

Learning Activities Outside Class

Preparatory activities will be vital to do assignments given in class, either on a group or individual basis. Standard duration for preparation and review will be two hours in total.

Assessment

Submission of assignments given at all research stages (30%), compilation of research data including interview (30%) and the final report (40%)

SOC300EC

社会調査実習

斎藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の社会調査の流れに沿って作業の過程を体験することで、仮説検証を目的として実施される社会調査の基礎的技能と、データ分析と報告書の執筆能力を身につける。

内閣府が実施した「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(COV-19 調査と略)をベースとすることで、全国規模で収集されたデータと自分たちで収集したデータとの比較も行う。

【到達目標】

量的社会調査を実施し、データを分析して報告書を執筆できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は年間を通じて、社会調査の過程をいくつかのセクションに分割し、セクションごとに講義とフィードバックを伴う実習を組み合わせる形で進行する。実習のテーマは、「コロナ禍のくらしと社会意識」である。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のすすめかたと COV-19 調査について
第2回	調査票の把握と「探求可能なテーマ」の洗い出し	COV-19 調査の調査票を理解し、文獻を収集する
第3回	「テーマ」に関する仮説の作成 (1)	「検証可能な」仮説について理解し、仮説を作成する
第4回	「テーマ」に関する仮説の作成 (2)	仮説と調査票を対応させ、仮説検証の準備に入る
第5回	ワーディングと質問文の作成 (1)	調査項目を検討する
第6回	ワーディングと質問文の作成 (2)	調査項目を確定し、ワーディングを検討する
第7回	ワーディングと質問文の作成 (3)	ワーディングを確定する
第8回	調査票の作成 (1)	調査票原案の作成
第9回	調査票の作成 (2)	調査票原案の検討
第10回	調査票の作成 (3)	調査票の確定
第11回	調査方法について	サンプリングと調査方法について学ぶ
第12回	SPSS の使い方・クロス表による仮説の検討と変数の操作化・合成 (1)	統計アプリ「SPSS」の使い方を導入し、変数の操作化を行う
第13回	SPSS の使い方・クロス表による仮説の検討と変数の操作化・合成 (2)	第3変数を導入した分析（関連の指標やエラーレクション）について解説する
第14回	SPSS の使い方・クロス表による仮説の検討と変数の操作化・合成 (3)	第3変数を導入した分析を実施し、理解する
第15回	分析の準備：回収票の入力とデータクリーニング (1)	回収票の入力を行う
第16回	分析の準備：回収票の入力とデータクリーニング (2)	データクリーニングを行う
第17回	データの分析と仮説検証 (1)	連続変数の分析について解説する
第18回	データの分析と仮説検証 (2)	連続変数の分析を実施し、理解する
第19回	論文執筆に向けた分析計画の作成 (1)	各自の分析計画の作成とそれに基づく分析、フィードバックを行う
第20回	論文執筆に向けた分析計画の作成 (2)	各自の分析計画の作成とそれに基づく分析、フィードバックを行う
第21回	データ分析と報告書論文作成 (1)	分析を進め、論文執筆作業を進める
第22回	データ分析と報告書論文作成 (2)	分析を進め、論文執筆作業を進める

第 23 回	データ分析と報告書論文作成 (3)	分析を進め、論文執筆作業を進める
第 24 回	データ分析と報告書論文作成 (4)	分析を進め、論文執筆作業を進める
第 25 回	データ分析と報告書論文作成 (5)	分析を進め、論文執筆作業を進める
第 26 回	データ分析と報告書論文作成 (6)	分析を進め、論文執筆作業を進める
第 27 回	データ分析と報告書論文作成 (7)	分析を進め、論文執筆作業を進める
第 28 回	データ分析と報告書論文作成 (8)	分析を進め、論文執筆作業を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の作業準備とその完成、および最終的な報告書論文完成のために、毎週、少なくとも 1～3 時間程度の追加的な学修が必要となる。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

原純輔・海野道郎『社会調査演習』第 2 版、東京大学出版会、2004。
ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と最終レポートにより評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で使えるパソコン（法政大学多摩情報センターが提供する「SPSS：リモートデスクトップ」を使用できるもの）。「SPSS：リモートデスクトップ」を利用するための詳細は多摩情報センターウェブサイト「利用ガイド」を参照のこと。

【その他の重要事項】

- ・この科目は、斎藤担当の「調査研究法 A」と同時に履修してください。
- ・感染状況の悪化により大学で分析作業ができなくなった場合には、自宅でするパソコンが必要になります（「準備すべき機器他」の項を参照）。
- ・4月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに出席して担当教員の指示を受けてください。
- ・班で作業を進めるので、毎回出席が必須です。
- ・受講可能最大人数は 15 人程度。希望者がこれを大幅に上まわる場合は「希望理由書」を提出してもらい、それにより選考します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide you an opportunity to learn basic skills necessary for conducting a social survey and statistical data analysis, and for writing a research paper based on the analysis. This year, we will utilize a government survey data regarding the COV-19's impact on the lives and thoughts of Japanese people. Accordingly, the goal of the course for you is to acquire a basic ability to conduct a large-scale social survey and produce scientific findings. To accomplish this goal, you are expected to finish required assignments, continuously work on the final research paper. Expected study time for each class is about four hours, at least. The overall grade will be decided based on contribution to the survey process and final research paper (100%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

社会調査実習

多喜 弘文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、受講生が社会調査とは何かを理解し、それを適切に実施し、調査報告書という形でアウトプットできるようにすることである。

授業は大きく分けると

- (1) 調査の設計や分析に必要な知識の習得
- (2a) 調査票の作成ならびに実査（全員）
- (2b) e-stat を利用した基礎情報の取得とデータアーカイブを利用した二次分析（該当者のみ）
- (3) データ分析と調査報告書の執筆から構成される。

【到達目標】

本科目を通じて、受講生が①調査票の作成と実施、②統計パッケージ SPSS を用いた計量分析、③分析結果の適切な解釈をおこなう能力を修得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

★この授業は、多喜担当の「調査研究法 A」と同時に履修すること。なお、受講人数が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがある。リアクションペーパー等の提出を求めた際は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション	自己紹介、授業の流れの説明
2 回目	社会科学における説明	調査に基づいて説明するとはどういうことかを考える
3 回目	変数と尺度水準	変数という考え方について理解する
4 回目	記述統計と推測統計の考え方	母集団とサンプルの関係を理解する。記述統計と推測統計の違いについての理解を深める
5 回目	調査報告書の参考例の提示	過去の調査実習報告書の執筆例を見ることで、調査・分析・執筆についてのイメージをふくらませる
6 回目	調査テーマの検討 (1)	関連する先行研究や公的統計のデータを調べる。グループに分かれて議論する
7 回目	調査テーマの検討 (2)	関連する先行研究や公的統計のデータを調べる。グループに分かれて議論する
8 回目	調査テーマの検討 (3)	関連する先行研究や公的統計のデータを調べる。グループに分かれて議論する
9 回目	調査項目の検討 (1)	自分の調査したいテーマについて、それをどのように分析するのか具体的に考える
10 回目	調査項目の検討 (2)	調査項目・文案を提案し、それについて全体で議論する
11 回目	調査項目の検討 (3)	調査項目・文案を提案し、それについて全体で議論する
12 回目	仮調査票作成とプリテスト (1)	質問の順序や配置を含めた調査票の全体構成を検討し、仮の調査票を作成して自分達で回答してみる
13 回目	仮調査票作成とプリテスト (2)	質問の順序や配置を含めた調査票の全体構成を検討し、仮の調査票を作成して自分達で回答してみる
14 回目	調査票の最終確定、二次分析データの利用確定	最終的な調査票を確定する。二次分析をおこなう場合は、データの利用申請をおこなう
15 回目	調査の実施	調査の依頼・実施・回収をおこなう
16 回目	コーディング・エディティング (1)	回収した調査データの論理エラーチェック、クリーニング作業をおこなう

17 回目	コーディング・エディ ティング (2)	回収した調査データの論理エラー チェック、クリーニング作業をおこな う
18 回目	データの確定	使用するデータを確定させる。二次分 析をおこなう場合は、一次分析者の資 料と照らし合わせてデータの基本構造 を把握する
19 回目	統計パッケージの使い方 (1) 一単純集計	統計パッケージ SPSS の基本的な分 析方法を習得する
20 回目	統計パッケージの使い方 (2) 一相関・平均の差	統計パッケージ SPSS の基本的な分 析方法を習得する
21 回目	統計パッケージの使い方 (3) 一変数の加工	統計パッケージ SPSS の基本的な分 析方法を習得する
22 回目	調査データの分析と仮説 構築 (1)	各自の関心に基づき、データを分析す る
23 回目	調査データの分析と仮説 構築 (2)	各自の関心に基づき、データを分析す る
24 回目	報告書草案の作成 (1)	報告書の草案を発表し、それについて 全体で議論する
25 回目	報告書草案の作成 (2)	報告書の草案を発表し、それについて 全体で議論する
26 回目	報告書執筆 (1) 報告書 初稿の執筆と提出	調査報告書の初稿を提出する
27 回目	報告書執筆 (2) 報告書 初稿の修正・再検討	返却された報告書をもとに修正・再検 討をおこなう
28 回目	総括	執筆した論文の報告会をおこなう

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。報告書の執筆は、基本的に授業時間外におこなってもらふこととなります。授業時間外に調査実習室で作業する必要が生じることもあります。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない

【参考書】

轟亮・杉野勇・平沢和司編, 2021, 『入門・社会調査法 [第 4 版]』法律文化社。その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告書 (60%)・平常点 (40%)。実習科目であるため毎回の授業への出席を要求する。調査倫理に反する行為が認められた場合は不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで授業支援システム、zoom、SPSS が利用できる環境を整えておくこと (SPSS の利用方法は説明する)。

【その他の重要事項】

4 月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けること。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to enhance the development of student's skills in constructing a good questionnaire, analyzing quantitative data, and writing a research report. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and final research report (60%).

SOC300EC

調査研究法 A

斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

統計的な手法を用いた、因果関係の理論的な把握について学ぶ。斎藤が担当する「社会調査実習」のデータを用いて仮説を実際に検証し、理解を深める。

【到達目標】

統計的手法を用い、因果関係に関する仮説を検証できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は斎藤担当の「社会調査実習」とセットで開講する。講義で解説された手法を、同調査実習のデータを用いて実際に確認する時間を設け、自分で「仮説を確かめる (または反証する)」ことで、「データをどのように分析するか」を身につけ、授業中に実施するフィールドワークにより理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	因果関係の理論的把握	検証可能な仮説、第三変数などについて解説する
第 2 回	推測統計と仮説検定の考え方	統計的仮説検定について解説する
第 3 回	回帰と相関 (1)	回帰係数と相関係数について解説する
第 4 回	回帰と相関 (2)	回帰係数の推定について解説する
第 5 回	標準化と回帰係数	標準化の手続きと意味を解説する
第 6 回	二変量から多変量へ	コントロールの考え方を学ぶ
第 7 回	重回帰モデル (1)	重回帰モデルの考えかたを導入する
第 8 回	重回帰モデル (2)	重回帰分析の実施方法と結果の解釈について解説する
第 9 回	重回帰分析の留意点とモデルの改善 (1)	ダミー変数と使用上の留意点について解説する
第 10 回	重回帰分析の留意点とモデルの改善 (2)	説明変数の選択について解説する
第 11 回	重回帰分析の留意点とモデルの改善 (3)	多重共線性と外れ値の問題について解説する
第 12 回	分散分析 (1)	分散分析の考えかたを解説する
第 13 回	分散分析 (2)	一元配置分散分析について解説し、結果のよみかたを学ぶ
第 14 回	分散分析 (3)	主効果と交互作用について解説し、結果のよみかたを学ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容を復習し、出された課題をこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と最終レポートにより評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で使えるパソコン (法政大学多摩情報センターが提供する「SPSS : リモートデスクトップ」を使用できるもの)。「SPSS : リモートデスクトップ」を利用するための詳細は多摩情報センターウェブサイト「利用ガイド」を参照のこと。

【その他の重要事項】

- ・この科目は、斎藤担当の「社会調査実習」と同時に履修してください。
- ・感染状況の悪化により大学で分析作業ができなくなった場合には、自宅で使えるパソコンが必要になります (「準備すべき機器他」の項を参照)。
- ・4 月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに出席して担当教員の指示を受けてください。
- ・班で作業を進めるので、毎回出席が必須です。

・受講可能最大人数は15人程度。希望者がこれを大幅に上まわる場合は「希望理由書」を提出してもらい、それにより選考します。

【Outline (in English)】

The objective of this course for you is to learn skills necessary for statistical data analysis driven by sociological research questions and hypotheses. Accordingly, the goal of this course for you is to acquire ability to conduct statistical data analysis to find an answer to a research question.

To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on your in-class contribution and final research paper (100%).

SOC300EC

調査研究法 A

多喜 弘文

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、統計分析の基本的な考え方を復習したうえで、多重クロス集計表、重回帰分析、分散分析などの多変量解析法の基礎を学ぶ。社会科学においてとりわけ重要となる「変数のコントロール」という概念を中心に据えつつ、社会学分野の事例を紹介しながら解説していく。

【到達目標】

本講義で学んだ統計的手法を十分に理解し、実際にデータ分析に利用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

★本講義は担当教員が開講する「社会調査実習」とセットで受講すること。リアクションペーパー等の提出を求めた際は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会科学における説明	自然科学における実験、共変関係と因果関係
2	変数のコントロール	クロス表を読み解く
3	相関係数と編相関係数	相関係数を理解したうえで、他の変数をコントロールするというアイデアを学ぶ
4	回帰分析の考え方	回帰分析の考え方を学ぶ
5	重回帰分析 (1)	単回帰分析と重回帰分析
6	重回帰分析 (2)	重回帰分析の結果の読み取り方
7	重回帰分析 (3)	決定係数、標準化回帰係数
8	重回帰分析 (4)	説明変数の選択について
9	量的変数と質的変数のおさらい	量的変数と質的変数の違いを理解する
10	分散分析 (1)	分散を分解する
11	分散分析 (2)	主効果、交互作用
12	重回帰分析 (5)	ダミー変数
13	重回帰分析 (6)	交互作用
14	主成分分析と因子分析の基礎	主成分分析と因子分析の考え方を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に調査実習室で作業することが求められることもある。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ、1990、『社会統計学』ハーベスト社。
片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。
その他、必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

提出物（30%）、平常点（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで zoom や授業支援システム、エクセルを使える環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

4月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods, such as crosstabulation analysis, regression analysis, and analysis of variance (ANOVA). Grading will be decided based on in-class contribution (70%) and reports (30%).

SOC300EC

調査研究法B

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査の基本的な意味と現実社会におけるその意義や役割を認識させたい。質的社会調査を主とする社会調査の方法を、国内外における質的社会調査の実例を極力具体的に提示しながら、実践的に習得させることを目的とする。

【到達目標】

環境社会学と地域社会学の分野で多用されるフィールドワークや参与観察、半構造化インタビューといった手法、その方法論と実際、可能性と限界について、体系的かつ実践的に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

質的調査の方法に関する入門的著作、質的調査の成果として評価されている国内外の古典的著作等をテキストとして講義を進め、講義の節目ごとにテキストの精読とレポートも課し、レポートの評価をその都度フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	総論：講義の目的と構成	講義全体の序論と到達目標、授業の進め方の概説
2 回目	質的調査法とは何か：その全体像と手法	質的／量的調査（データ）の対比、データの収集と分析、仮説の形成と検証、分析から報告書執筆まで
3 回目	先行研究に学ぶ（1）	地域社会学（農村社会学・都市社会学）および環境社会学における質的調査法の展開；今、地域社会調査の遺産をどう活用すべきか？
4 回目	先行研究に学ぶ（2）	地域・環境社会学における質的調査；その学問的成果と政策研究への貢献可能性、フィールドワークの重要性
5 回目	質的調査の手法（1）	課題設定と諸調査法；課題と方法の適合性、「正しい問い」とは何か、様々な方法論の存在とトライアングレーション
6 回目	質的調査の手法（2）	どのようにフィールドに接近するか / フィールドの選定とその入り方、フィールドの構築、調査倫理と調査者の行動原則
7 回目	質的調査の手法（3）	参与観察法とは何か；方法論的特徴、「参与」観察者と参与「観察者」、フィールドノートの作成、フィールドでの作法
8 回目	質的調査の手法（4）	構造化／半構造化インタビュー；インタビュー・データの可能性と限界、対象の選定、質問項目、インタビューの取り方、聞きたいこと／聞けること、記録とコーディング

9 回目	質的調査の手法（5）	資料の収集方法と分析；言葉と視覚、史料の重要性、視覚データの重要性、方法と技術、定性／定量、データの作成手法
10 回目	質的調査の手法（6）	ドキュメント分析；ドキュメントの読解力、年表等一覧表のもたらす展望、内容と形式、他のデータとの相補性
11 回目	質的データ分析の諸相	コード化、カテゴリー化、文章のデータ化、KJ法の可能性と限界、「ぶ厚い記述」の可能性
12 回目	質的調査の実際（1）	地域調査対象の選択、調査者の位置取りとインタビュー、感性和倫理
13 回目	質的調査の実際（2）	自治体の政策調査；対象の選択、職務と調査、制度と運用のズレ、組織と「人」への着目、住民との関係
14 回目	質的調査に基づく報告書・論文執筆の作法	報告書・論文作成の全体像、分析の流れと注意点、執筆と形式上の注意、推敲過程の重要性、ライティングと典拠挙示の制限

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定したテキストの精読、2時間の予習、2時間の復習を要する。

【テキスト（教科書）】

佐藤健二・山田一成編著,2009『社会調査論』（八千代出版）、佐藤郁哉,2012『フィールドワーク・増訂版』（新曜社）、大谷信介他編著,2005『社会調査へのアプローチ（第2版）』（ミネルヴァ書房）

【参考書】

柳田國男『都市と農村』（岩波文庫,2017）、宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫,2007）、日本村落研究学会編『むらの社会を研究する』（農山漁村文化協会,2006年）→池田寛二「開発と環境」

【成績評価の方法と基準】

平常点 15%, テキスト講読力 20%, 提出物（論文・レポートなど）60%, 出席回数 5%

【学生の意見等からの気づき】

社会調査法の修得は4年次の卒業論文にも役立つかと好評です。

【その他の重要事項】

4月初旬に実施する政策研究実習ガイダンスに出席して担当教員の指示を受けること。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to make students aware of the basic meaning of social research and its significance and role in the real world, while presenting examples of qualitative social surveys as concretely as possible, and to practically acquire methods of social research, mainly qualitative social surveys.

SOC300EC

調査研究法B

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査方法を学ぶ

【到達目標】

調査方法に関する知識を学ぶと同時に、その知識を使って、自ら調査を実施できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

質的調査方法は都市社会学領域におけるシカゴ学派などの古典的調査研究から現代の都市地域社会を対象とする外国人居住調査まで幅広く用いられてきた調査手法である。これら既往研究の調査方法について、本講義では、できる限り原点における方法と課題とを現実の調査フィールドとの関係において、総合的な視点から論じていく。こうした作業を通じて、データの収集方法（観察、インタビュー、参与観察）ならびに分析方法について、それぞれの特徴と問題点を学ぶ。課題は学習支援システムに設定します。提出されたレポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の概要と進め方の説明	調査方法上の特徴について説明する。
2	都市社会学における研究上の方法と課題（シカゴ・シリーズの概説）	都市地域調査をとりあげ、具体的ないかなる調査がおこなわれてきたのかを文献から学ぶ。
3	都市社会学における研究上の方法と課題	日本の代表的な質的調査法の概説
4	都市社会学における質的分析法（1）	課題設定と調査方法
5	都市社会学における質的分析法（2）	フィールドへの入り方
6	都市社会学における質的分析法（3）	参与観察
7	都市社会学における質的分析法（4）	フォーマル/インフォーマル・インタビュー
8	都市社会学における質的分析法（5）	視覚データの収集方法と分析
9	都市社会学における質的分析法（6）	データのコード化、カテゴリー化、文章化
10	都市社会学における資料分析の方法	ドキュメントの活用と分析
11	事例研究（1）	外国人居住調査の分析方法
12	事例研究（2）	外国人政策（国、市町村レベル）の分析方法
13	エスニック研究の分析方法	『ストリート・ワイズ』から学ぶこと
14	質的研究	分析から理論へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で指定された参考文献を読み、必要な作業をこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、必要な資料はコピーで配布する。

【参考書】

- ウヴェ・フリック著小田他訳『質的研究入門』春秋社、2002年。
- 箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房、1998年。
- 箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際Ⅱ分析・解釈編』ミネルヴァ書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出（20%）、講義中に指示する資料収集などの成果（30%）および期末のレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は社会調査実習（田嶋担当）とセットで受講することになっている。受講希望者は事前に担当教員に受講希望を伝え、承諾を受けること。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will study qualitative research methods.

Learning Objectives

Students will acquire knowledge of qualitative research methods so that they can conduct their own research applying these methods.

Learning Activities Outside Class

Students will do readings assigned in each class and carry out tasks required. Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Reports on assigned readings (20%), assigned work and submission (30%) and the end-term report (50%)

SOC100EC

人間・社会論

土倉 英志

サブタイトル：人間・社会論 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人や社会を研究するには視点（理論）と研究方法を欠くことができない。本講義では、社会心理学の観点から、人や社会をとらえるための研究方法に焦点をあてる。複数の研究方法を取り上げて、実際にデータを分析する。これにより、人の心や活動を、また、人びとが作り上げている社会を可視化することとはどういうことなのかを理解することを目指す。

【到達目標】

- ・人や社会にアプローチするうえで、どのような研究方法があるかを理解できる
- ・関心のある現象にたいして、適切な研究方法を用いてアプローチすることができる
- ・データを分析し、考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教員による講義を中心に進める
- ・ワーク/グループワークも実施する。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	心理現象をとらえる	実証的研究とは
2	因果関係の特定	実験、独立変数と従属変数、概念的定義と操作的定義、剰余変数の統制
3	実験の妥当性	3つの妥当性、操作チェック、実験者効果、要求特性
4	実験計画	参加者間計画、参加者内計画、2要因計画と交互作用効果
5	実験研究の手続き	パイロットスタディと本実験、研究倫理
6	データ分析	t検定
7	データ分析	分散分析；主効果と交互作用効果
8	心理学研究における質問紙法の位置づけ	心に迫るさまざまな研究手法
9	心理尺度とは	心理学的構成概念、測定、信頼性と妥当性
10	心理尺度の構成	リッカート法、サーストン法、SD法
11	質問紙の構成と実施手続き	コーディングと欠損値の取り扱い
12	データ分析	クロス集計とカイ二乗検定
13	データ分析	散布図と相関係数
14	まとめ	まとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・データ分析、報告資料の作成等、授業時間外に多くの取り組みが必要となります。
- ・授業時間外にグループで集まって作業を進めてもらうことがあります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・使用しない

【参考書】

- ・適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・定期試験は実施しません。
- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価します（100%）。
- ・そのため、日々の取り組みが重要となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・データの扱いかたを身につけてもらうために、授業外の課題を取り入れたしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用します。
- ・授業中にノート PC などで Office（特に Excel）を使うことがあります。

・準備する機材の詳細は第一回の授業で説明します。出席のうえ、不明な点がある場合は相談するようにしてください。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。

【Outline (in English)】

Psychological research uses varied methodologies to approach phenomena for study. In this course, students learn about psychological experiment and questionnaire. Students will obtain basic knowledge of psychological methodologies by analyzing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

GDR100EC

ジェンダー論

飯野 智子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline (in English)】

1. Learn terminology and concepts essential in studies on gender problems. 2. Analyze problems in areas such as the modern family, feminism and men's studies, gender and violence and sexuality (body, beauty, commercialization), and reproduction (population policies, reproductive medicine). 3. Be able to consider solutions to current problems after understanding gender and sexuality problems brought about by modernization.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ジェンダー問題を学ぶ上で不可欠な用語や概念を学ぶ。2. 近代家族・フェミニズムと男性学・ジェンダーと暴力・セクシュアリティ（身体・美容・商品化）・リプロダクション（人口政策・生殖医療）といった分野の諸問題について分析する。3. 近代化によってもたらされたジェンダー、セクシュアリティ問題を理解した上で、今日的な問題の解決を考えられるようにする。

【到達目標】

1. 文化と性差、性別の多様性について理解し、多様な生き方を肯定する視点を身につける。2. フェミニズムの問題意識と、男性学の目指すものについて理解した上で、具体的な諸問題を分析できるようにする。3. 近代家族と性別役割分業の今日的課題について検証する。4. 「美・医」と「性・生殖」の関係と国家管理、近代的身体観の成立を、男女の方向性の違いに着目し、理解する。5. 近代化をジェンダー、セクシュアリティといった視点から問い直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、教材を配布、課題を提示する。履修生は教科書と教材を読み、課題を提出する。毎回全体に対して講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	性別とは何か、ジェンダー、セクシズム	性別の多様性、基本用語と概念
2.	近代化と第一波フェミニズム	第一波フェミニズムの問題意識と目的、日本の運動
3.	戦後民主化と第二波フェミニズム	第二波フェミニズムの問題意識と目的
4.	近代家族と性別役割分業	近代家族の特徴と問題、家族の多様性
5.	ドメスティックバイオレンス…被害者支援	ジェンダーと暴力、関係性
6.	ドメスティックバイオレンス…加害者プログラム	加害者プログラムの現状と問題点
7.	身体の二重規範…男女の方向性	「美」と「健康」…身体の家管理
8.	ダイエットと摂食障害	「美」と「健康」…矛盾と主体性の獲得
9.	美容医療の現状と問題点	美容医療の問題点について検証する
10.	美容医療…是非論の整理	美容医療をめぐる議論及び男性と美容
11.	男性学という視点	男性解放とは何か。男性性を問い直す。
12.	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	概念、人口政策の変遷と問題点
13.	生殖医療…代理出産	生命倫理、身体的手段化、家族を持つ権利をめぐる議論
14.	性の商品化…男女の非対称性	売春の是非など、セクシュアリティ問題を様々な視点から分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンライン授業では、教材を読んだ上で課題を提出する。授本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』、世界思想社、2015、1800円（本体） 其他参考書は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出 50 %、内容 50 % の配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

何回か、課題についてのフィードバックを行う。

EDU200EC

発達・教育の理論 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】

主要な教育哲学、発達論の思潮のあらましをつかみ、教育実践における重要性を理解する。近代の教育制度の特質を理解し、歴史の中で子どもたちの処遇はどう変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	educationの語源と「発達」/教育を受ける権利と子どもの権利条約
第2回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第3回	子ども（観）の歴史	前近代の産育/ルソーの「子どもの発見」とアリエスの「子どもの誕生」
第4回	児童中心主義の展開	ベスタロッチ/オーエン/フレーベル/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第5回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第6回	近世、近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第7回	進歩主義教育の展開	デュルケーム/デューイ/ラッセル
第8回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第9回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン/ゲゼル
第10回	発達の諸理論（1）	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第11回	発達の諸理論（2）	バンデューラ/ボウルビイ/クライン
第12回	発達の諸理論（3）	M. ミード/A. フロイト/エリクソン
第13回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第14回	教育における今日的課題	神経科学時代の子どもと教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。配布資料、講義の録画、参考文献を活用した復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

上笙一郎ほか編、1977、『日本子どもの歴史1～7』第一法規。ジョージ・バタワース、ハリス・マーガレット、1997、『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート（50%）と期末テスト（50%）、および授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートについては、出題されたテーマを適切に理解し、自らの疑問、見解が述べられているか評価し、期末テストは、学習内容の理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドに対応したが、録画を見た人はほとんどいなかった。講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、リアルタイムで多くの方が参加することを期待する。こちらもオンラインでの授業の改善に努めるが、オンデマンド受講の方は、早送りでもいいので録画を見るように努力すべきだし、自らの学ぶ姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論IIと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the modern/premodern history of education, philosophy of education, and developmental theories to students taking this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
 ・Understand the significance of educational and developmental theories in the practices,
 ・Outline the trend of philosophy of education and developmental theories,
 ・Compare and contrast the modern educational system and others.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, recorded lectures, and reference books.

【Grading Criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

EDU300EC

発達・教育の理論Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】

社会の変化と課題、あるいはまた地域に対して「開かれた学校」であることが求められ、その対応が、学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点について理解を深める。憲法、教育基本法の教育を受ける権利について理解し、説明することができる。子ども・若者をめぐる諸問題と、社会や大人の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第 2 回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第 3 回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第 4 回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第 5 回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第 6 回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第 7 回	学校のガバナンス	学校経営とアカウンタビリティ
第 8 回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第 9 回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第 10 回	危機管理と安全教育	事故災害、いじめ、ハラスメントの対応
第 11 回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第 12 回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第 13 回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第 14 回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。配布資料、講義の録画、参考文献を活用した復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）／佐藤晴雄,2017,『コミュニティ・スクールの成果と展望:スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房／グループ・ディダクティカ編,2012,『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房／田中正博,佐藤晴雄,2013,『教育のリスクマネジメント—子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート（50%）と期末テスト（50%）、および授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートについては、出題されたテーマを適切に理解し、自らの疑問、見解が述べられているか評価し、期末テストは、学習内容の理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドに対応したが、録画を見た人はほとんどいなかった。講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、リアルタイムで多くの方が参加することを期待する。こちらもオンラインでの授業の改善に努めるが、オンデマンド受講の方は、早送りでもいいので録画を見るように努力すべきだし、自らの学ぶ姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the education reform in present-day Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
 ・ Understand and explain the Right to Education of the Constitution of Japan and Basic Act on Education,
 ・ Outline the educational problem and reform trend in present-day Japan,
 ・ Discuss the problems of children and youth, and the role of adults and society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, recorded lectures, and reference books.

【Grading Criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

SOC200EC

家族社会学 I

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声がかかるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの教材配信（音声ビデオ・資料等）を中心とするが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次回の授業でフィードバックを行う。この授業は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは (1)	集団としての家族定義について概説する
3	家族とは (2)	近年の様々な家族定義について概説する
4	家族の類型と分類	家族の類型と分類について概説する
5	近代化と家族 (1)	構造機能主義的視点からの考察
6	近代化と家族 (2)	ジェンダー視点からの考察
7	近代化と家族 (3)	歴史社会的視点からの考察
8	現代家族をみる視点	現代家族をみる視点について概説する
9	配偶者選択と結婚	配偶者選択と結婚について近年の動向をとりあげ考察する
10	性別役割分業	性別役割分業について近年の動向をとりあげ考察する
11	離婚とその後	離婚と家族について近年の動向をとりあげ考察する
12	家族・貧困・福祉	家族・貧困・福祉について近年の動向をとりあげ考察する
13	家族の行く末	家族の行く末について考察する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2回）により評価する。
（ただし、受講者数によって評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families. At the end of the course, students are expected to understand the basic concepts and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class assignments: 20%, Reports (mid-term & final) : 40%×2.

SOC300EB, SOC300EC

家族社会学Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題を取りあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会的視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの教材配信（音声ビデオ・資料等）を中心とするが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次回の授業でフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は、学期序盤に指定文献を通読することが受講の前提となる。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	育児期の親子関係	育児期の親子関係の歴史の変遷について概説する
3	家族社会学における育児研究の変遷	家族社会学における育児研究の変遷について概説する
4	母親と育児	育児不安とネットワークを中心に考察する
5	父親と育児	父親の育児をめぐる実態と研究動向を概説する
6	日本における子育て支援	日本の状況について概説する
7	諸外国における子育て支援	諸外国の状況について概説する
8	高齢期の親子関係	高齢期の親子関係の歴史の変遷について概説する
9	高齢期の親子をめぐる研究の変遷	高齢期の親子をめぐる研究の変遷について概説する
10	高齢期と社会的ネットワーク	高齢期の社会的ネットワークについて考察する
11	高齢期の親子同居は望ましいか	高齢期の成人子との同居について考察する
12	介護保険制度下の高齢者と家族	介護保険制度下の高齢者と家族について概説する
13	諸外国の高齢者・家族支援	諸外国の状況について概説する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、文献等を読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2回）により評価する。
（ただし、受講者数によって評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care. At the end of the course, students are expected to understand the theoretical developments and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class assignments: 20%, Reports (mid-term & final) : 40%×2.

SOC200EB, SOC200EC

臨床社会学Ⅰ

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。

【到達目標】

具体的な社会問題について、一般的に言われる図式だけでなく、渦中にある人たちの葛藤や苦しみに目を向けるとともに、その問題の解決に向けて何が有りうるのか、論理的に構想する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

具体的に取り上げるのは、災害支援や高齢者介護と呼ばれる現場についてである。どのような問題を取り上げる際にも、現場でどのような問題が起きているか、それについて公的な制度でどのような対処や対応が考えられてきたか、その限界はどこにあったのか、さらにどのような個別の取り組みが現場でなされたのか、という点を踏まえて論じていく。

必要に応じて、リアクションペーパーを提出してもらおう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者をはじめとして、支援や介護の現場にいる人たちの講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第2回	震災とボランティア	ボランティア論再考
第3回	「災害弱者」の存在	避難所での状況
第4回	復興から「取り残される」人たち	仮設住宅での状況
第5回	支援活動の曲がり角	長期的支援段階
第6回	公的援助システムの限界と継続する支援活動	組織維持とミッションとの対立と共存
第7回	新たな連帯に向けて	コミュニティ経済
第8回	「高齢者」とは誰のことか	歴史的観点から
第9回	家族ゆえの困難	家族介護者への照準
第10回	認知症を生きる	当事者の視点から
第11回	介護の転換(1)	生活リハビリ
第12回	介護の転換(2)	宅老所運動
第13回	介護の転換(3)	共生ケア
第14回	生活モデルへの転換	新たなケアシステム構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

三井さよ 2018『はじめてのケア論』有斐閣
三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）と論文試験（80%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの提出など、必要に応じて、授業支援システムを使うことがある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology. At the end of the course, students are expected to be able to think about caring and supporting as social matters. Your study time will be more than two hours for a class.

SOC300EC

臨床社会学Ⅱ

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。具体的には、「病い」や「障害」を手がかりとする。

【到達目標】

「病い」「障害」を、「病者」「障害者」やその家族の側から捉え返し、その人たちだけの問題としてきた社会のあり方を問い直すことを目標とする。「病い」「障害」というと、ある人に生じた医学的状態を指すと思われがちだが、「病い」も「障害」は実は社会との間で生まれるものである。車椅子ユーザーにとって移動が困難なのは、車椅子ユーザーを無視した設計になっているためでもある。このように社会との関係から問い直すことによって、人間観や社会規範を根底から見直すことがもたらす自由と創造性を知り、既存の社会構造について問い直す力を身につける。そこから、社会問題に取り組む臨床的な社会学の姿勢を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題の解決を目指す人たちとともに考える臨床社会学の姿勢に基づき、「病い」や「障害」を、一方ではマクロな社会状況と結びつけつつ、他方で個々の人の苦しみに根差しながら再考していく。学校教育、ジェンダーとセクシュアリティ、労働と雇用、犯罪と刑罰、社会保障、差別と包摂など、多くの社会的なテーマと結びつけて解説し、学生それぞれが考えを深められるように促す。

毎回、リアクションペーパーを提出してもらおう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者の講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	臨床社会学についての解説と、病い・障害の再定義
第2回	障害者解放運動の歴史(1)	「青い芝の会」の問いかけ
第3回	障害者解放運動の歴史(2)	家族を問い直す
第4回	障害者解放運動の歴史(3)	福祉の配慮を問い直す
第5回	障害者は誰にあるのか	コミュニケーションを問い直す
第6回	性的マイノリティ	異性愛ジェンダー秩序を問い直す
第7回	当事者研究の台頭	学問のありようを問い直す
第8回	就学運動から	学校／学ぶを問い直す
第9回	共に働く運動から	働くことを問い直す
第10回	生命倫理を考える	人間の定義について
第11回	性愛とセックス・ワーク	性愛について問い直す
第12回	当事者による講演	当事者の観点から
第13回	加害／被害とは何か	刑罰の見直しと修復的司法
第14回	新たな地域社会へ	排除／包摂の向こうへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

横塚晃一 2007『母よ！ 殺すな』生活書院
安積純子・尾中文哉・立岩真也・岡原正幸 2013『生の技法：家と施設を出て暮らす障害者の社会学』生活書院
「支援」編集委員会編 2011『支援 vol.1』～2022『支援 vol.11』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）とレポート（80%）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology and disability studies. The topics of this course include work in disability history, theory, ethics, and the arts. At the end of the course, students will be able to focus on the lived experiences of individuals with disabilities in practical terms as well.

SOC200EC

社会心理学 I

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、感情、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、他者や社会的事象に関する認知、他者から受ける影響、他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論 1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論 2	推論に影響する要因は何か
5	社会的推論 3	推論はいかなるプロセスでなされるのか
6	態度と態度変化	価値観がどのように変わるのか
7	説得と態度変化	人を説得するにはどうしたらいいか
8	対人魅力と親密化過程	どのような人に魅力を感じるのか
9	社会的自己 1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己 2	他者に自分をどのように見せるか
11	社会的影響	他者の存在からどう影響を受けるのか
12	援助行動	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書はなし。

【参考書】

- ・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）有斐閣。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しないため、日々の取り組みが重要となります。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無効です。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC300EC

社会心理学Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、文化と心理の関連性、文化的道具論、制度アプローチ、ステレオタイプと偏見、現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
- ・社会事象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。

・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	文化心理学、集団社会心理学・グループ・ダイナミックスとは何か
2	認知の文化歴史性	文化・歴史とともにある認知
3	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
4	分散された認知	人びとの間に分散している認知と活動
5	活動理論と分業	人びとのあいだで分割される活動とその課題
6	実践共同体と学び	正統的周辺参加論
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	制度アプローチ	誘因の構造と行為の関連
9	制度アプローチ	誘因の構造をいかに変えるか
10	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
11	ステレオタイプと偏見	偏見がもたらす問題
12	ステレオタイプと偏見	偏見の解消に向けて
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・グループワーク課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書はなし。

【参考書】

- ・石黒広昭・亀田達也編（2010）『文化と実践』。新曜社。
- ・ドナルド・ノーマン（1990）『誰のためのデザイン？』。新曜社。
- ・レイヴ&ウェンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』。産業図書。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しないため、日々の取り組みが重要となります。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう教材を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無いです。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することをすすめます。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, group dynamics of community building, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC200EC

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて 2 回を 1 セットにして、(前半) 重要なキーワードを学ぶ → (後半) 実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の 2 点を到達目標とする。

- (1) エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身につけて理解することができる。
- (2) 自分の身の回りで起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は 2 回を 1 セットにして、(前半) 重要なキーワードを学ぶ → (後半) 実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1 セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。コメントカードで寄せられた意見や質問はいくつかを取り上げて次の授業の冒頭で解説し、フィードバックします。正解のコメントといったものはありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ (1)	・ディスアビリティ概念について

3	老いとディスアビリティ (2)	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと家族・血縁 (1)	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
5	老いと家族・血縁 (2)	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
6	老いと人間関係 (1)	・老いと社会的孤立の相関関係について
7	老いと人間関係 (2)	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
8	老いと経済・年金 (1)	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について
9	老いと経済・年金 (2)	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと世代間格差 (1)	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について
11	老いと世代間格差 (2)	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。
12	エイジング社会のデザイン (1)	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン (2)	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布される資料を読み返すことを基本にしてください。丸暗記の必要はありません。資料で紹介されている様々な事例で、「自分ならどうするか」を簡単にいいので考えておくことが重要です（授業の目標的にも、課題を提出するうえでも）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。
得点の配分は、2 回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として 50 %、期末レポートを到達度の確認として 50 %の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

長引くコロナ禍の影響もあってか、若い学生の皆さんから「自分たちの世代はこの高齢化社会において冷遇されている」という意見をレポートやコメントカードでよく見かけました。その意見は部分的には正しく、ある部分では誤りです。なぜ現代において「老い」のことを社会全体で考える必要があるのか、コロナ禍の社会における問題の例をより多く授業中に紹介する事例として盛り込むようになりました。

【Outline (in English)】

This course introduces social problems concerning the aging society. The aim of this course is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society. This course will be given by Japanese language.

EDU200EC

社会教育概論 I

荒井 容子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】

人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。

講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加して課題2を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう（参加の課題は若干修正する場合がある）。

毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

全学行動制限レベル「0」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第1ラウンド 社会教育のイメージ	社会教育のイメージ 日本の社会教育活動事例をもとに討議
3	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 2
4	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 2
5	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論	成人の識字・非識字について 貧困と識字 そしてフレイレの思想と方法
6	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論	フレイレの実践方法、理論と思想 銀行型 vs 課題提起型 討議
7	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
8	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	環境破壊に向き合った漁村の住民運動と学び－「風成のおんなたち」－
9	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動－「公害」と向き合う力の可能性－それを拓く社会教育実践
10	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例1 住宅地での若い職員の歩み
11	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例2 農村の変貌の中で人々の学びを支え続けて
12	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例3 一人ひとりの生き方をみつめながら
13	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	生涯学習論の矛盾・学習権宣言と社会教育運動・成人教育運動の課題
14	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	課題2のレポート（社会教育事業参加報告）をもとにした報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。従って、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

当該回のための宿題のために事前に読んでおく必要のあるレジュメ、資料を前の回の講義終了後に、学習支援システムを通じて提供する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

社会教育事業参加レポート（課題2）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題1）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で25%、後一者で60%、他に、講義の前提出の宿題と講義後提出の「感想・意見」を15%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各回の宿題、「感想・意見」は熟考する機会として課していること（宿題は当該回の、「感想・意見」は次週の2日前までに提出すること、各自フィードバックして保持しておくことよいこと、特に、課題の提出ミスを防ぐためにもフィードバックの確認が重要であることをその周知しておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces some good cases of people's learning and social education that support it. Students are expected to discuss about these cases and ideas through "buzz sessions" (small-group discussions) to present the result of group discussion to the whole class at each class meeting.

At the end of the course, students are expected to understand good idea and real image of people's learning and social education that support it. Students must read the lecture note for each class and write down some comments on the topic at its test of the University learning-support system, Hoppii before each class. Students also must write down their comments on the discussion in the class at its test of Hoppii after it. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each. Grading is according to the total evaluation of Second report with the discussion of final class (35%), First report (60%), and class contribution (15%). Students are required to present their Second report at their group discussion of the final class meeting.

EDU300EC

社会教育概論Ⅱ

荒井 容子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】

人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本の社会教育史について講義したのち、他の数か国の成人教育運動の歴史をとりあげて概観し、最後に、国際的な成人教育運動の歴史と現状について紹介する。講義内容については毎回バス・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。

毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2 ビデオ鑑賞（宿題）をもとに
4	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	②「通俗教育」政策の展開 「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開－「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	抑圧に対する抵抗としての文化運動 軍事政権下時代のチリ（ラテンアメリカ）での民衆文化運動
12	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	社会変革における学習運動・成人教育運動の力 シリアでの青年たちによる「秘密」図書館づくり
14	第4ラウンド 総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバスセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告するが、このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。従って、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984 年 12 月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015 年 9 月。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を 60 %、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見メモ」等は 40 % で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバス・セッションを行う。このバス・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料はすべて学習支援システムを通じて提供することにしたので、煩雑さをさげることができ、提供する資料が多い場合には、選択して宿題に回答できるように配慮してきたが、なお受講生に負担感があるようだ。学生の検討を促す資料を明確に指示しておく必要があることが分かった。学生の理解不足を補うための準備の時間を確保するために、宿題の締切を早めにして、宿題への回答をふまえて、当日の講義で強調して説明する内容を精選し、また、バス・セッションでの討議テーマも、いくつかに絞りこんで指示することも、今後試みてみたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】

This course reviews the outline of the history of social education in Japan with some learning movements by people and some social education policies and movements. It also introduces some historical movements of adult education in the other countries including the international movement of adult education up to date. Students are expected to discuss about these movements and policies through “buzz sessions” (small-group discussions) and to present the result of group discussion to the whole class at each class meeting.

At the end of the course, students are expected to understand the complexed relation between the learning movements of people and the social education policy by political power in the development of social education and adult education.

Students must read the lecture note for each class and write down some comments on the topic at its test of the University learning-support system, Hoppii before each class. Students also must write down their comments on the discussion in the class at its test of Hoppii after it. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading is according to the total evaluation of Final report with the discussion of final class (70%) and class contribution (30%). Students are required to present their Final report at their group discussion of the final class meeting.

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論 I

樋口 明彦

サブタイトル：コミュニティ形成論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、コミュニティという言葉が注目されている。かつては、「ご近所さん」のように、地域性が重要な意味を持っていた。ところが、現在では、NPO やネット・コミュニティのように、伝統的な地域性にとらわれない、新たな共同性の形が出現している。現代社会において、なぜコミュニティは争点になるのか。様々な領域のケース・スタディを通じて、その理由を探る。

【到達目標】

①ケース・スタディを通じて、コミュニティが果たす役割の基本的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。授業内でゲスト講義を 1 回行う予定（ただし、コロナ禍の状況に応じて、変更の可能性あり）。

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会と世間のはざま
2	理論的考察①	地域性と共同性の乖離
3	理論的考察②	「離脱・発言・忠誠」というオプション
4	ケース・スタディ①	相互扶助と社会保障の相克
5	ケース・スタディ②	町内会・自治会と NPO
6	ケース・スタディ③	商人とまちづくり
7	ケース・スタディ④	防犯という戦略
8	ケース・スタディ⑤	アートという新たなメディア
9	ケース・スタディ⑥	孤独をめぐる闘い
10	ケース・スタディ⑦	親密性と公共性
11	将来展望の検討①	社会的企業という事業体
12	将来展望の検討②	サード・セクターの役割
13	将来展望の検討③	社会的包摂という政策フレーム
14	ゲスト講義	（詳細未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習

本授業の復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各回の講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（90 %）

②ゲスト講義へのリアクションペーパー（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの見やすさを改善

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This lecture is about community development. The goal is to acquire basic knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on Term-end exam (90%), and the short report for a guest lecture (10%).

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論Ⅱ

樋口 明彦

サブタイトル: コミュニティ思想論

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 2 単位

曜日・時限: 水 5/Wed.5

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コミュニティは、社会学において最も基本的な概念の一つである。しかし、その用途は多岐に渡り、一筋縄では理解できない。本科目では、コミュニティに関する代表的な社会的著作を一つずつ紹介しながら、この概念が現代社会に与える可能性と限界を検討する。

【到達目標】

①代表的な社会学著作の検討を通じて、コミュニティに関する中程度の知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニティの3類型	B・ウェルマン「コミュニティ問題」
2	コミュニティ喪失論①	F・テンニース『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』
3	コミュニティ喪失論②	R・M・マッキーヴァー『コミュニティ』
4	コミュニティ存続論①	J・ジェイクソプ『アメリカ大都市の死と生』
5	コミュニティ存続論②	H・J・ガンズ『都市の村人たち』
6	コミュニティ存続論③	M・ヤング&P・ウィルモット『東ロンドンの家族と親族関係』*
7	コミュニティ存続論④	G・デンチ、K・ガブロン&M・ヤング『新しいイーストエンド』*
8	コミュニティ解放論①	R・パットナム『孤独なボウリング』
9	コミュニティ解放論②	C・S・フィッシャー『友人のあいだで暮らす』
10	コミュニティ解放論③	Z・バウマン『コミュニティ』
11	コミュニティ解放論④	A・ポルテス&R・ルンバウト『現代アメリカ移民第二世代の研究』
12	コミュニティ解放論⑤	M・カステル『インターネットの銀河系』
13	日本のコミュニティ①	岩崎信彦他編『阪神・淡路大震災の社会学①②③』
14	結論	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の復習

本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

「授業計画」の「内容」を参照。*の付いている書籍のみ、邦訳なし。それ以外の著作はすべて翻訳あり。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの見やすさを改善

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This lecture is about community development. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on Term-end exam (100%).

SOC200EB, SOC200EC

環境社会学Ⅰ

堀川 三郎

開講時期: 春学期授業/Spring | 単位数: 2 単位

曜日・時限: 水 2/Wed.2

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、前者を取り扱う。具体的には、足尾鉍毒事件と水俣病問題を取り上げて「公害・環境問題」の内実を理解する。こうした事例の検討を通じて、被害構造論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論 (被害構造論、社会的ディレンマ論) を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。未曾有の公害に直面した時、既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか、そこにどのような人と言葉 (概念) が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、秋学期の「環境社会学Ⅱ」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するで、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学・再入門	環境社会学とはどのような社会学か
2	「3.11」の衝撃	今、問うべきは何か
3	公害・環境問題の考古学	問題史の概観
4	足尾鉍毒事件 (1)	事件の概要
5	足尾鉍毒事件 (2)	別紙銅山との比較
6	水俣病事件 (1)	事件の概説
7	水俣病事件 (2)	漁民の視点
8	水俣病事件 (3)	支援者の視点
9	水俣病事件 (4)	チッソの視点
10	水俣病事件 (5)	行政の視点
11	水俣病事件 (6)	認定制度の視点
12	環境問題の社会学における理論 (1)	被害構造論
13	環境問題の社会学における理論 (2)	社会的ディレンマ論
14	期末テスト	春学期の理解内容の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する (100%)。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験 (100%) で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する (100%) 予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎日が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、リアクション・ペーパーを提出してもらい、必要に応じてそれに担当教員が応答するスタイルをとっている。昨年度も好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online and the term-end examination (100%) when in-person.

SOC300EB, SOC300EC

環境社会学Ⅱ

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、後者を取り扱う。具体的には、国内諸都市やアメリカの事例を取り上げて「環境共存」の内実を理解する。さらに、地球温暖化や福島原発事故も取り上げながら、「我々は原子力と共存できるのか」という愁眉の課題の考察を行ない、エコロジカル近代化論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（生活環境主義、歴史的環境の社会学）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、春学期の「環境社会学Ⅰ」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備をしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	秋学期への導入
2	環境問題の深化	視えない構造
3	「3.11」と温暖化	構造と政策
4	「共存」の社会学 (1)	小樽 (1)
5	「共存」の社会学 (2)	小樽 (2)
6	「共存」の社会学 (3)	小樽 (3)
7	「共存」の社会学 (4)	竹富島
8	「共存」の社会学 (5)	セントルイス (1)
9	「共存」の社会学 (6)	セントルイス (2)
10	「共存」の社会学 (7)	気候変動
11	「共存」の社会学 (8)	福島原発事故
12	環境問題の社会学における理論 (1)	生活環境主義
13	環境問題の社会学における理論 (2)	エコロジカル近代化論
14	期末テスト	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験（100%）で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する（100%）予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎회가論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、提出してもらいうりアクション・ペーパーに担当教員が応答することで授業内容を改善している。昨年度も好評であったため、継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online and the term-end examination (100%) when in-person.

SOC200EC

現代農業・農村の社会学

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代の日本と世界の農業・農村の多様な実情と問題を極力具体的な事例を示して紹介し、それらが急激な都市化とグローバリゼーションの渦中で営まれている私たちの日常生活、特に食生活とどのように関連しているかを、主に社会学の視点から検討することを目的とする。受講生には、自らの食生活を地域から地球規模に至る諸社会のダイナミックな変化と結びつけて考える知的センスを獲得してもらいたいことをめざす。なお、講義内容には、2020年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の農業と農村に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

この授業では、私たちの食生活が、どのような社会関係（多様な人と人との関係）によって支えられているかを、日本と世界の両面から、主に社会学的な視点から学ぶ。したがって、自分自身の日頃の食生活を意識的に自己点検し、食品が生産されてから自分が口に入れるまでの間に、どのような壮大で複雑な社会関係（生産者と消費者の関係、農村住民と都市住民の関係、食品加工業者・流通業者を介した関係、外食産業やファーストフード、コンビニ業界との関係、コマースやメディアと消費者との関係、食料輸出国の生産者と輸入国の消費者との関係など）が連動して生起しているかを、受講生自らが調べて考える能力を実践的に会得できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の農業・農村の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせたりレポートを作成させて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	農業とは何か？(1)	都市の消費者がイメージする農業は現実の農業と同じか？
第2回	農業とは何か？(2)	世界と日本の農業の歴史と現状、ポスト減反政策のゆくえ
第3回	農村とは何か？(1) 日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？	日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？
第4回	農村とは何か？(2)	世界の農村・農業社会学は何を明らかにしてきたか？
第5回	食の社会学(1)	私たちは何をどのように食べているのか？
第6回	食の社会学(2)	食を支える都市・農村関係、食を支える国際関係
第7回	農業と食の安全学(1)	食品の安全性はどのように保障されているのか？
第8回	農業と食の安全学(2)	食糧生産と環境問題のジレンマ（森林減少と気候変動）
第9回	食品ロスの社会学(1)	社会問題としての飢餓と飽食、飽食の末の棄食（食品廃棄）
第10回	食品ロスの社会学(2)	格差社会と食品ロス、食のサーキュラー・エコノミーおよびシェアード・エコノミーの可能性
第11回	食をめぐる産業連関の地殻変動(1)	農業・農村・都市間関係のイノベーション、農業のデジタルイノベーション
第12回	食をめぐる産業連関の地殻変動(2)	都市農業の新たな展開、農村農業の国際化
第13回	食文化の多様性と現代社会のダイバーシティ	地域と世界の新たなつながり
第14回	(まとめ) 私たちの食生活と農業・農村・都市の未来	社会学的想像力の働かせ方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の日常の食生活を研究対象として調査させ、適宜レポートさせる。つまり、自分自身の食生活を観察者の立場に立ってフィールドワークさせる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

エイミー・グプティル&デニス・コブルトン,2016『食の社会学:パラドクスから考える』(原題"Food and Society") (NTT 出版)

Jean-Pierre Poulain,2017,The Sociology of Food (Bloomsbury)

T. スタンダージ・新井崇嗣訳, 2017『歴史を変えた6つの飲物』(楽工社)

大原悦子,2016『フードバンクという挑戦—貧困と飽食のあいだで』(岩波書店)

S. クロイツベルガー他・長谷川圭訳, 2013『さらば、食料廃棄—捨てない挑戦』(春秋社)

マイケル・ウッズ, 高柳・中川監訳,2018『ルーラル：農村とは何か』(農林統計出版)

その他多数

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(20%)、最終レポート(70%)および授業ごとのリアクションペーパーの内容(質問やコメントの質)(10%)を考慮し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面でもオンラインでも、極力豊富に講義資料を配布もしくは配信し、学生の理解を深めるよう鋭意努力します。

【Outline (in English)】

This class introduces social aspects of agriculture and rural societies showing concrete cases in the midst of rapid urbanization and globalization in Japan and the world. It also enhances the development of students' intellectual sense of thinking about their everyday life, especially their eating habits, in connection with the dynamic changes of societies from the regional to the global scale. Grading will be decided based on the Mid-term report (20%), term-end report (70%), and in-class contribution(10%).

SOC200EC

地域環境論

池田 寛二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の地域社会とそれを取りまく環境の急激な変化を社会的に読み解く。なお、講義内容には、2020年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の地域と環境に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

受講生が、自らが生活している地域社会がどのような環境条件にささえられていて、どのような環境問題に直面しているかについて、意識的に目を向け、考え、実践できる想像力と行動力を体得することが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の地域と環境の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。また、受講生に身近な地域における環境の実情について、初歩的なフィールドワーク(現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察)を課題として提示し、その結果をレポートさせる。ただし、この授業は講義科目であり、ここで言う「フィールドワーク」とは、受講生が独自に取り組み課題であって、グループディスカッションやディベートを伴うものではない。したがって、アクティブ・ラーニングには該当しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域とは何か？ 地域環境とは何か？
第2回	地域社会とはどんな社会なのか？（1）	community とは何か？
第3回	地域社会とはどんな社会なのか？（2）	日本の地域社会の歴史と現在（農村的地域社会のとらえ方：「むら・村落・町・市町村・都市の中のむら」…）
第4回	地域社会とはどんな社会なのか？（3）	日本の地域社会の歴史と現在（都市的地域社会のとらえ方：「宮処・都市・大都市・アーバンイズム」…）
第5回	地域社会とはどんな社会なのか？（4）	世界の地域社会の概況（アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカを中心に）
第6回	地域社会における人口と環境	人口と環境の相関性（I=P・A・T、「コモンスズの悲劇」、エコロジカル・フットプリント）
第7回	都市への人口集中と環境	都市への急激な人口集中は環境をどう変えたか？（ヒートアイランド、都市鉱山…）
第8回	高度科学技術文明と地域環境	情報通信技術と生命技術のイノベーションは地域社会とその環境をどのように変えるのか？（AI 農業、自動運転…）
第9回	グローバル化と地域環境	グローバル化は地域（ローカルな社会）とその環境をどう変えたか？
第10回	リスク社会と地域環境	現代の地域と環境はどのようなリスクに対処しなければならないのか？
第11回	廃棄物と地域環境	現代の地域社会は廃棄物を適切に管理・処理できているのか？（東京多摩地域を事例として）
第12回	エネルギーと地域環境	現代の地域社会は持続可能なエネルギー需給システムを構築できているのか？（原発と再エネを中心に考える）
第13回	気候変動と地域環境	極端気象の常態化を抑止するために地域社会に求められている課題は何か？（脱炭素社会は地域からしか構築できない）
第14回	まとめ：地球環境と地域環境	地球環境は地域環境からしか変えられない（地球工学・国連至上主義・「人新世」言説の批判的検討）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は授業支援システムで予め配信するので、準備学習をしておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料の中で多数指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20 %）、最終レポート（70 %）および授業ごとのリアクションペーパーの内容（質問やコメントの質）（10 %）を考慮し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特記事項なし。

【Outline (in English)】

This course deals with the environmental problems in the sociological perspective. By the end of the course, students should be able to have better understandings on the climate crises and other regional and global environmental and social change in contemporary social world. Grading will be calculated according to the Mid-term report (20%), term-end report (70%), and in-class contribution(10%).

SOC100EC

文化社会学 A

武田 俊輔

サブタイトル：特講（文化社会学）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常や暮らしに文化社会学・歴史社会学の観点から光を当てる。一般的には「民俗学者」として考えられている柳田國男の『明治大正史世相篇』や他の幾つかの著書を手がかりに、私たちの日常の衣食住、人間同士の生活や文化のありように刻印された歴史性や社会性を分析する視点を学ぶ。その視角を現代にどう応用できるか説明することで、学生が具体的な生活の場から出発して「社会」のしくみを明らかにするための視点を身につけられることを目的としている。

【到達目標】

日常の生活や文化に対して（文化）社会学的な分析がどのような新たな見方をもたらすものなのか、何気ない暮らしの一コマからいかにして「社会」の姿を映し出すことができるのかを理解すること。また講義内で示した視点を自分なりに活用して、日常生活についての文化社会学的な分析を実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は対面を予定しているが、感染状況によって大学の方針でオンデマンドになる可能性がある。変更がある場合はその都度、学習支援システムで連絡する。

受講生は、事前に指定する『明治大正史世相篇』の該当ページや、事前に配信する資料を予習し、読了していることを前提とする。毎回の資料の前半では、柳田の『明治大正史世相篇』をはじめとする幾つかのテキストから見出される日常生活の分析視角を発見し、読みといていく。その上で後半では、そうした視角から現代の私たちの生活を分析し、それによってどんなことが明らかになるかについて考えていく。

毎回、受講生各自にリアクションペーパーを提出してもらい、翌週の講義冒頭で代表的なものや興味深いものをピックアップしてフィードバックする。

なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「日常」の文化社会学	柳田國男『明治大正史世相篇』から考える
2	木綿以前の事	衣服・靴をめぐる模索と#KuToo
3	食物の個人自由	コンビニなのに「お母さん食堂」
4	家と住心地	「心の小座敷」をめぐる
5	風光推移	メディアを通じた風景の創出
6	新交通と文化輸送者	移動をめぐる社会学
7	旅行の進歩及び退歩	夜行バスとハッシュタグが開く「旅行道」
8	酒	酒をめぐる社交の変容
9	恋愛技術の消長	若者組からマッチングサイトまで
10	家永続の願い	家の分裂・孤独な死
11	労力の配賦	「ハケン」の困難
12	貧と病	所得の格差・希望の格差
13	言葉としぐさの近代	「言えない人」のための民主主義

14 まとめ 「実用の学」としての文化社会学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で使用するテキストはその前の回の講義内で提示する。事前に読んできた上で講義に臨むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田国男,1930→1993,『明治大正史世相篇』講談社学術文庫。

【参考書】

菊地暁,2022,『民俗学入門』岩波書店。

佐藤健二,2015,『柳田国男の歴史社会学：続・読書空間の近代』せりか書房。

他についてはその都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容（39%）

最終レポート（61%）

【学生の意見等からの気づき】

対面を前提とした講義となることとあわせ、学生の反応や直接のリアクションにより対応した形で、講義を進めていく。

【Outline (in English)】

This lecture analyze our daily lives from sociology of culture and historical sociology while referring to the viewpoint shown by Kunio Yanagida. It explains how we can apply his perspective to the analysis of contemporary daily life, and intends to give students perspectives to clarify the structure of everyday life.

SOC100EC

文化社会学B

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では伝統的な文化の変容や創造、(再)構築を手がかりとして、近現代における日本の地域社会やコミュニティについて論じる。そうした伝統文化を通じたまちづくりが地域住民や担い手、その当の文化そのものに対してどのような影響を与えるのかについて分析する。そうした中で地域やコミュニティにおいて文化を継承することの意味と可能性について学生が考えることができるようになることを目的としている。

【到達目標】

地域やコミュニティにおいて人口減少や過疎高齢化が進む中ででの文化の継承をめぐる困難と共に、住民たちや担い手にとってなぜ伝統的な文化や芸能がかけがえないものと感じられるのか、それらが観光やまちづくりに活用される中での矛盾、一方でそうした状況を逆手に取りながら文化を継承していく人々のしたたかさといった点について、社会的に分析・理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面での講義となる。ただし入国できない留学生や基礎疾患がある学生など個別に対応する必要がある学生については、学部からの指示に基づいて対応する。具体的には講義初回に通知する。概念や理論を、具体的な文化やその担い手が置かれた社会的状況に即して把握してもらうために、対面での講義の場合は視聴覚資料を用いる。また対面に参加できない学生に対しては、オンラインで閲覧できる映像・視聴覚資料について指示しつつ講義を行う。毎回提出してもらうリアクションペーパーのうち、代表的なものや興味深いものをピックアップして、フィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と進め方の説明
2	戦後地域政策・文化政策の中の「伝統」文化	戦前・戦後日本において「伝統」を通じた「まちづくり」がなぜ喚起されてきたのかを論じる
3	「伝統」が創られるとき	創造された伝統としての「民謡」
4	「伝統」としての和太鼓イメージ	戦後における「和太鼓」をめぐる表象の構築
5	真正性をめぐる揺らぎ(1)	伝統文化における「保存」と「観光」
6	真正性をめぐる揺らぎ(2)	担い手にとっての「本物」・専門家にとっての「本物」
7	「伝統」のダイナミズム(1)	変化し続ける「伝統」としての都市祭礼
8	「伝統」のダイナミズム(2)	祭礼における観光化・文化遺産化の流用
9	「伝統」のダイナミズム(3)	原発反対運動から見出された祝島の「伝統」
10	移動と混淆が生みだす「伝統」(1)	移民たちによる複数の「十九の春」の創造

11	移動と混淆が生みだす「伝統」(2)	アイヌ舞踊の継承と再創造
12	新たな継承の形	アーティストを介した民俗芸能の継承
13	個人化・流動化した祝祭	都市部を中心とした個人化・流動化したネットワークを基盤とした祝祭
14	まとめ	現代の地域社会において「伝統文化が継承される意味と可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内容は深く関連しているため、前回の講義内容を復習した上で授業に臨むこと。また毎回の授業後に、Hoppii でレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

俵木悟,2018,『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』勉誠出版。
 牧野修也編,2021,『変貌する祭礼と担いのしくみ』学文社。
 武田俊輔,2019,『コモンスとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容（28%）、期末レポート（72%）。

【学生の意見等からの気づき】

対面を前提とした講義となることとあわせ、学生の反応や直接のリアクションにより対応した形で、講義を進めていく。

【Outline (in English)】

This lecture discusses modern and contemporary local society and community focusing on the invention and (re)construction of traditional culture in Japan. It analyzes the impact of community development through traditional culture on the local residents, the bearers, and the culture itself.

The purpose of this lecture is to enable students to analyze and understand the following three points from a sociological perspective.

- (1) What are the difficulties involved in passing on traditional culture in the face of declining populations and aging populations in regions and communities?
- (2) Why do residents and bearers of traditional culture and performing arts feel that they are essential?
- (3) What problems arise when traditional culture is used for tourism and community development, and what is the resilience of people who take advantage of such circumstances to pass on their culture?

The contents of each class are deeply interrelated, so please review the contents of the previous lecture before coming to class. Students will be expected to submit their short report via Hoppii after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 72%, Short reports : 28%

ART100EC

表象文化論 A

高橋 愛

サブタイトル：文化表象論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的文脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】

本授業では、言語テキスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的文脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・すべてオンラインで行う。
- ・最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習、レポート課題等についての全体に対するフィードバックを行う。
- ・具体的な方法に関しては、学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明
2	中世①	ロマネスク聖堂とキリスト教文化
3	中世②	ゴシック大聖堂と都市文化
4	ルネサンス	フランス・ルネサンスとユマニスム
5	古典時代①	城文化と庭園、ロココ文化
6	古典時代②	市民社会と思想・文化
7	近代①	ナポレオンの時代と芸術、モニュメント
8	近代②	産業革命と芸術活動
9	近代③	モデルニテとパリ風景
10	近代④	世紀末の芸術家とジャポニスム
11	近代～現代	万国博覧会とエッフェル塔
12	現代（20 世紀）	20 世紀フランスにおけるグラン・ブロージェ
13	現代（21 世紀）	21 世紀における文化の継承と発展
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で関連文献や映画、美術作品、開催中の展覧会などを紹介するので、積極的に読み、鑑賞してほしい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容に関するレポート課題（中間・期末の 2 回）で評価する。成績評価の内訳は、中間レポート（50 %）と期末レポート（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度もアクチュアルなテーマを交え、最新の情報を届けながら授業を進めた。

【Outline (in English)】

The main aims of this course are to help students understand the various phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend the basic concepts of these topics, as well as to approach their own subject. Grading will be based on two main reports : mid-term (50%) and final (50%).

ART200EC

表象文化論 B

濱中 春

サブタイトル：芸術文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スイスの作家ヨハンナ・シュビリの『ハイジ』（1880/81年）とその翻訳や映画・アニメ・広告などさまざまな形態の翻案を対象として、フィクションの作品の成立と受容の諸相について考えるとともに、作品への多様なアプローチの方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・フィクションの作品を形成する要素やメディア（媒体）による表現の違い、現実世界との関係を理解し、説明することができる。
- ・作品にアプローチする方法を習得し、応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学期の前半にはシュビリの『ハイジ』、後半にはその翻訳や翻案をとりあげる。授業は基本的に講義形式でおこなうが、受講生同士で意見交換する機会も設ける。

質問や意見、課題へのフィードバックは、授業中および学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方と『ハイジ』の概要
2	作者	シュビリの生涯と思想
3	ジャンル	ビルドゥングス・ロマンと少女文学
4	テーマと文化（1）	スイスとフランクフルト
5	テーマと文化（2）	自然と健康
6	テーマと文化（3）	鉄道・郵便・電信
7	テーマと文化（4）	教育と宗教
8	翻訳	『ハイジ』の翻訳とそれらの比較
9	絵本・マンガ	ダイジェスト版『ハイジ』と画像
10	アニメ	アニメ『アルプスの少女ハイジ』
11	映画（1）	『ハイジ』の映像化（1）
12	映画（2）	『ハイジ』の映像化（2）
13	広告・CM	キャラクターになったハイジたち
14	ツーリズム	『ハイジ』とコンテンツ・ツーリズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・シュビリの『ハイジ』を教科書として指定された版で読む。
- ・授業で紹介された参考文献を読んだり、映像作品を見る。
- ・レポート課題に取り組む。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ヨハンナ・シュビリ『アルプスの少女ハイジ』松永美穂訳（角川文庫、2021年）

【参考書】

ジャン＝ミシェル・ヴィスマール『ハイジ神話』川島隆訳（晃洋書房、2015年）

その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、レポート（中間・期末）80 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目を数年間担当していなかったため、アンケートを実施していない。

【Outline (in English)】

This course introduces students to elements of the work of fiction, its relation to the real world, and various approaches to the work. As examples it takes Johanna Spyri's "Heidi" (1880/81) and its translations and adaptations of various forms such as movies, animations, and advertising.

Students will be expected to read Spyri's "Heidi" and the references and to watch the films outside of classroom. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on mid-term and term-end reports (80%) and in-class contributions (20 %).

CUA200EC

文化人類学

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、人間の文化（生活様式）の多様性と普遍性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

文化人類学の基礎的な知識、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などの事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化の理解を深め、視野を広げることが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の事例を取り上げる。講義内容のレジュメを配布し、パワーポイントを使用して進めていく。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1) 文化人類学とは、隣接の研究分野との関連性、(2) 授業のトピックス、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、暦と年中行事（季節儀礼）
3.	通過儀礼	祝祭日の重層性
4.	通過儀礼	人生儀礼（誕生、成人式、婚姻儀礼）
5.	通過儀礼	人生儀礼（葬送儀礼の構造、現代社会の樹木葬）
6.	家族と親族	家族のかたちと住まい
7.	宗教と世界観	神話
8.	宗教と世界観	風水の環境認識および実践
9.	生業形態と文化	狩猟採集社会の文化の継承と変容
10.	生業形態と文化	牧畜社会の動物観、文化の継承と変容
11.	生業形態と文化	農業と「文化的景観」、「世界農業遺産」
12.	嗜好品文化	コーヒーの栽培、飲用、「伝統」の再考
13.	文化の展示、まとめ	人類学・民族学博物館と文化の展示、まとめ
14.	レポートの提出と解説	期末レポートの提出、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連する資料を調べ、リアクションペーパーを通じて積極的に発言してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）の内容を中心とする平常点（遅刻や早退をした場合に減点）50%と期末レポート 50%で成績を評価する。授業の具体的な内容に即していないものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れること。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布、リアクションペーパー・課題の提出は学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の授業関連の連絡事項をよく確認すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final paper (50%), and the quality of the students' reaction papers (50 %).

SOC200EC

宗教社会学

永井 美紀子

サブタイトル：現代社会と宗教

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりの中かに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態についての詳しい情報は、学習支援システムで通知します。

① PDF 版で教材資料を提示します。②各回の授業後には課題が出ます。テーマ毎（内容によっては、テーマの項目毎）の確認の課題または小テストになる場合もあります。③翌回の授業では、全体に対して課題に関するフィードバックを行ないます。小テストの場合は解答を提示します。④中間レポートを学期半ばに提出します。提出期限については後日、授業内や学習支援システムを通じて通知します。課題図書は参考書に掲げた『グローバル現代社会論』です。生協でも取り扱いがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足解説
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	儀礼の変容と消費社会
12	社会のなかの宗教 1	日本人の宗教意識

13 社会のなかの宗教 2 宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ

14 社会のなかの宗教 3 アメリカの宗教意識

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。学習支援システムにアップされる資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。資料はプリントアウト出来れば幸いですが、出来なくてもアップされた教材を読んで自分なりにまとめてノートに書き出してみるのもいいかもしれません。授業の内容に関する課題や小テストもありますので、学習支援システムをチェックして提出を逃すことのないようにしてください。提出期限は課題の種類によって変わることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業内での教材は学習支援システムにアップします。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文真堂 2018 年 (2600 円+税)
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①学習支援システム上で出される毎授業後の課題や小テストの結果を 70 % ②学期半ばに提出する中間レポートの内容を 30 % とする割合で総合的に判断・評価します。中間レポートは参考書に掲げた『グローバル現代社会論』を課題図書とします。生協でも扱っています。提出期限を過ぎたものは受け取りませんのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

頂いたご意見を真摯に受け止め適宜改善に努めていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題や中間レポートを提出する際に学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge about various religious cultures and construct a perspective that enables students to grasp and understand the existence of religious culture that surrounds us objectively.

Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), and assignments after each class (70%).

HSS200EC

スポーツ文化論

水上 博司

サブタイトル：スポーツ社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スポーツ空間論」の「コートの中」と「コートの外」という空間概念を用いて、スポーツ・レジャー・レクリエーション空間をより豊かに創造するための考え方を学ぶ

【到達目標】

「スポーツ空間論」の主要な概念である「コートの中」と「コートの外」の意義と役割を学び学生一人一人のスポーツへの価値認識と実際のスポーツ行動や他者への配慮（リスペクト）など、スポーツ空間だけではなく、日常生活のあらゆる場面において、本講義で扱った空間概念を意義を意識し、活用していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は、対面方式（7 回）とオンライン方式（7 回：zoom）の両方を用いて授業を進めます。指定テキストは「スポーツクラブの社会学：『コートの中』より愛をこめ』の射程から」（青弓社）です。各回の講義では、指定テキストから約 10 ページ程度を教材にして学習を進めていきます。加えて、授業担当者が作成したパワーポイント資料（PDF）を Google classroom を用いて配布します。受講生のみなさんは、指定テキストの各回の指定ページを事前に読み、合わせて事前に配布されたパワーポイント資料（PDF）を用いて事前学習をします。ただ、実際の講義では、最初に学生のリアクション・コメントの紹介と講義回の指定テキストの範囲を読む時間とります。そのあと授業者による講義です。実際の講義では、テキスト、事前配布資料（PDF）、そして映像資料を活用し授業を行います。オンライン授業でも同じような時間配分で行います。講義の終了 10 分から 15 分程度の時間を利用して、リアクションコメントを Google classroom から入力し、送信してもらいます。これで各回の講義が終了となります。なお最終授業はレポートの課題内容を提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この講義がどういう目的で開講されるのか、どのようなテキストを使って、どのように講義をすすめていくのか、また各回の講義の受講の仕方から成績評価の基準について詳細に説明します。
第 2 回	スポーツの文化的価値	スポーツやレジャーやレクリエーションの楽しさと成立の条件
第 3 回	遊び（プレイ）理論	遊び（プレイ）の理論のスポーツ・レジャー・レクリエーション
第 4 回	スポーツ・レジャー空間	「コートの中」と「コートの外」というスポーツ・レジャー空間
第 5 回	コミュニケーションとスポーツ空間	コミュニケーション空間としての「コートの外」の意味と意義
第 6 回	「コートの外」の意味	現代スポーツ・レジャーと「コートの外」の意味
第 7 回	能力主義とスポーツ空間	商業主義の浸透と能力主義の拡大がもたらす「コートの外」空間の喪失
第 8 回	チームワークの功罪	タテマエの参加とホンネの参加
第 9 回	クラブワークの提唱	多面的社会関係の創造：チームワークからクラブワークへ
第 10 回	スポーツリーダー論	新たなリーダーシップ論：バトンタッチの難しさ
第 11 回	コーチ・マネージャー・オーナー	苦悩する社会とリーダーの類型論
第 12 回	スポーツ実践空間の創造	「権力・権威から影響へ」を実践する社会空間の創造
第 13 回	ゲームズマンシップの提唱	ゲームズマンシップとライフスタイルにおける体験や経験の意味
第 14 回	最終レポート課題の提示	講義の総括と最終レポート課題の提示とその取り組み方についてレクチャーします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業担当者が作成したパワーポイント資料（PDF）を Google classroom を用いて事前に配布します。受講生のみなさんは、指定テキストの各回の指定ページを事前に読み、合わせて事前に配布されたパワーポイント資料（PDF）を用いて準備（事前学習）をします。受講後にはリアクション・コメントの提出に向けて講義の振り返りの復習（事後学習）をします。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水上博司／谷口勇一／浜田雄介／迫俊道／荒井貞光 『スポーツクラブの社会学：「コートの中」より愛をこめ』の射程』 青弓社 2020 年

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」 井上俊・菊幸一編著 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

毎講義時のリアクション・コメントの内容（80%）、最終レポート（Final Report）(20%)

【学生の意見等からの気づき】

テキストに沿って授業を行いますので、テキストを授業外に読んでくる事前学習と授業内でもテキストをざっと読めるような時間を確保したいと思います。また、各界のリアクション・コメントの一部は学生の皆さんに紹介して、他の学生がどのような考えや意見を持っているのかを共有したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では資料をペーパーで配布をしない（環境保護の観点から）ので、Google classroom から事前配布の資料を見ながら授業ができるような情報機器（PC やタブレット端末、スマホ）の準備をお願いします。またリアクション・コメントの提出のためにはスマホが便利だと思います。

【その他の重要事項】

Google classroom のアプリ

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Learn the concept of creating a richer sports, leisure, and recreation space by using the space concepts of "inside the court" and "outside the court" in "Sports Space Theory".

◆ Learning Objectives

In this course, students will learn the significance and roles of "inside the court" and "outside the court", which are the main concepts of "Sport Spatial Theory", and will be able to recognize the value of each student's sport, actual sporting behavior, and respect for others. The students will be able to recognize the significance of the spatial concepts covered in this lecture and utilize them in all aspects of their daily lives.

◆ Learning activities outside of classroom

The designated textbook is Sports club Sociology:Range of "With Love from 'outside the Court'" (Seikyusha). In each lecture, we will use about 10 pages from the designated text as learning materials. I would like to set aside time for students to read the textbook outside of class time for prior study, and also to read the textbook briefly in class. A PowerPoint presentation (PDF) prepared by the class instructor will be distributed in advance using Google classroom. Students are expected to read the designated pages of the textbook in advance, and prepare for the class by using the powerpoint document (PDF) distributed in advance (prior learning). After the lecture, students will review the lecture in order to submit reaction comments (post-learning). The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Reaction and comments at each lecture: 80%, Final Report :20%

SOC100EC

国際社会と日本

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①国際社会の歴史と現在、②国際社会のなかの日本、③日本のなかの国際化、という 3 つの側面から、「国際社会と日本」というテーマについて学び、考えることを課題とします。

【到達目標】

現代の日本と国際社会について、国際社会における日本、もしくは国際社会との関わり方、日本の国際化について、現在の具体的な事例を考察する視角を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では、最初に「国際社会」「国際化」「グローバル化」などに関する視座を提示した上で、①国際社会の課題と日本、②日本のなかの国際化という側面から、「国際社会と日本」に関わるさまざまな課題を学んでいきます。なお、講義では毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス：授業のテーマと目的
第 2 回	国際社会の歴史と現在	現在の国際社会を捉える
	①	
第 3 回	国際社会の歴史と現在	グローバリゼーションの世界史的位相
	②	
第 4 回	国際社会の歴史と現在	グローバリゼーションの特徴に接近する
	③	
第 5 回	国際社会のなかの日本	難民の受け入れと日本
	①	
第 6 回	国際社会のなかの日本	戦争と平和をめぐる課題 I
	②	
第 7 回	国際社会のなかの日本	戦争と平和をめぐる課題 II
	③	
第 8 回	国際社会のなかの日本	マイノリティの権利
	④	
第 9 回	日本のなかの国際化①	ヘイト・スピーチ/ヘイト・クライムをめぐって
第 10 回	日本のなかの国際化②	日本の民族的マイノリティとレイシズム
第 11 回	日本のなかの国際化③	外国人との共生 教育
第 12 回	日本のなかの国際化④	外国人との共生 教育
第 13 回	日本のなかの国際化⑤	外国人労働者の受け入れ
第 14 回	日本のなかの国際化⑥	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、参考文献やそれ以外の文献などで、国際社会や日本に関する問題についての勉強を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考書は授業で適宜、紹介しますので、受講生はそれぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【参考書】

授業で適宜、紹介しますので、それぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①毎回講義後に提出してもらうリアクションペーパー（30 %）、②期末試験（70 %）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course introduces ① history of an international society and present, ② Japan in the international society and ③ internationalization in Japan, to students taking this course.

LIN100EC

国際社会と言語文化

高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進む世界と言語の関係について、さまざまな事象を複眼的に眺めながら、その背後にある歴史と文化を広範に検討し、理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

・世界の言語文化に関心を持ち、歴史的・社会的要素も把握したうえで、今後の可能性について検討・議論ができる。
・社会生活における言語の諸問題を意識的に捉え、広い視野をもって考えられる。それによって、学習中の言語をさらに積極的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・基本的に講義形式で進めるが、毎回の授業で内容に関する質疑応答や意見交換の時間を設けて、議論を深める。
・授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の方法と説明 社会と言語に関わる諸問題を意識する。
2	言語でたどる歴史①	国家と言語
3	言語でたどる歴史②	EU の言語政策と 24 の公用語
4	言語からみる社会・文化	フランス語
5	① 言語からみる社会・文化	ドイツ語（ゲスト：濱中春先生）
6	② 言語からみる社会・文化	スペイン語（ゲスト：杉守慶太先生）
7	③ 言語からみる社会・文化	中国語（ゲスト：謝荔先生）
8	④ グローバル言語について考える	英語（ゲスト：金原瑞人先生）
9	多言語国家について考える	スイスの事例から（ゲスト：佐藤久仁子先生）
10	海外の日本語教育	フランスの大学の事例から（ゲスト：大澤瑞綺先生）
11	留学と言語・文化	社会学部での言語学習と留学・海外経験（ゲスト予定）
12	21 世紀の社会とことば①	言語と文化の未来を考える（グループディスカッション+全体討議）①
13	21 世紀の社会とことば②	言語と文化の未来を考える（グループディスカッション+全体討議）②
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・参考図書などを授業内で紹介するので、積極的に読んでほしい。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・リアクションペーパーによる平常点（50 %）と学期末レポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックはなし。

【Outline (in English)】

The main aims of this course are to help students not only learn about different cultures but also understand various histories and social issues related to languages. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend these phenomena, as well as to analyze the current topics. Grading will be based on final paper (50%) and in-class contribution (50%).

SOC200EB, SOC200EC

国際社会学 I

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会学における視点、主要概念、アプローチ方法について学びます。

【到達目標】

グローバル化による社会変容が進む今日、私たちが生きている現代社会の諸問題について国際社会的な視点やアプローチを用いて読み解き、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は 4 月 13 日から講義を開始します。方法は学習支援システムに教材として PPT をアップし、課題あるいはテスト/アンケートに答えるという方法で進めます。また、この科目は春学期の授業内容を踏まえて、秋学期の授業が展開します。そのため、春・秋学期を通じて履修することが望ましいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	「国際社会学」とは何か？	授業計画、成績評価についての説明と講義のイントロダクション。
2	グローバル化と社会変容	グローバル化の進展による国家の揺らぎと社会の変容について考えます。
3	「現代の移住」とはいかなる社会現象か	移民現象と国民国家の関係について、国際移民の時代をキーワードに考えます。
4	国際移民研究の理論的展開	国際移住システム論を紹介し、その理論的展開について考えます。
5	国際移住と日本社会	日本社会を事例として現代の移住問題を考えます。
6	日本に移民政策は存在するか？	移民問題を政策面から考えていきます。
7	難民問題と日本社会	難民に対する政策変遷と実態について考えます。
8	止められない移住プロセスの展開	移住プロセスをマイクロ構造の視点から読み解きます。
9	ニューカマーズと在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人コミュニティについて現状と課題を考えます。
10	移住第 2 世代と多文化教育の可能性	アイデンティティと教育を中心に移住第 2 世代をめぐる諸問題について考えます。
11	複層化するアイデンティティ	エスニック・アイデンティティについて考えます。
12	新しい「市民権」とは	新しい「市民権」論について考えます。
13	グローバル化の帰結	グローバル化がもたらす帰結について考えます。
14	まとめと解説	概念のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

- 梶田孝道編、2005、『新・国際社会学』名古屋大学出版会。
- 塩原良和、2012、『共に生きる——多民族・多文化社会における対話』弘文堂。
- S. カースルズ・M. J. ミラー／関根政美・関根薫監訳、2009=2011、『国際移民の時代（第 4 版）』名古屋大学出版会。
- 樽本英樹編、2018、『排外主義の国際比較』ミネルヴァ書房。
- 小井土彰宏編、2017『移民政策の国際比較』名古屋大学出版会。
- 田嶋淳子、2010『国際移住の社会学』明石書店。
(参考文献一覧は授業関連サイトにアップする予定です)

【成績評価の方法と基準】

テストへの回答 85 %（配点は講義ごとに異なります）、課題への提出 15 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確保するため、毎回テスト/アンケートにリアクションを求めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンあるいはパワーポイントが聞き取れる機材を用意してください。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will study the main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

Learning Objectives

As social transformation caused by globalization progresses today, students will learn to analyze and be able to explain various modern issues from the perspectives and approaches of global sociology.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Tests in classes (85%) and reports on assigned subjects (15%).

SOC300EB, SOC300EC

国際社会学Ⅱ

田嶋 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際移住と東アジアのグローバル化を考える

【到達目標】

東アジアにおけるグローバル化の現実とトランスナショナルな社会空間の生成を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本とします。ハイブリッド形式での取り組みを前提としていますが、完全オンラインとは形式が異なることをご注意ください。リアクション・ペーパーへのフィードバックは授業内掲示板に示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際移住研究の方法論的課題	方法論的課題について考えていきます。
2	送り出しとしての中国社会の変容-改革・開放 40 年-	国際移住からみた中国社会を理解する上での前提となる基本構造をみていきます。
3	国際移住からみた中国社会	19 世紀後半から現代に至る中国社会と国際移住を考えます。
4	移民社会の中の中国系移住者（その 1）オーストラリア	オーストラリアにおける多文化主義政策の中の中国系移住者たちについて考えます。
5	イタリアと温州を繋ぐもの	イタリアに多くの移住者を送り出す温州地域について考えます。
6	移民社会の中の中国系移住者（その 2）アメリカ	アメリカ合衆国における中国系移民の歴史的経緯と中国系人の現在を考えます。
7	移民社会の中の中国系移住者（その 3）カナダ	カナダにおける多文化主義政策の進展と中国系人の移住について考えます。
8	グローバル化の中の台湾社会	東アジアにおけるグローバル化と台湾社会の変容を考えます。
9	中台関係と外国人労働者問題	台湾における外国人労働者導入の経緯から中台関係を考えます。
10	台湾と香港—一国二制度をめぐる葛藤	一国二制度について取り上げ、香港社会の現状を考えます。
11	ディアスポラとしてのコリアン：北東アジアにおける朝鮮族移住者	北東アジアにおける朝鮮族移住者の現在を考えます。
12	韓国社会の変容過程と南北関係	韓国社会の戦後と南北関係について、考えます。
13	韓国における外国人労働者政策	2000 年以降の韓国における外国人労働者政策の変遷を見ていきます。
14	東アジアのグローバル化と国際移住	東アジアにおけるグローバル化の展開と国際移住問題のこれからについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。

【参考書】

参考文献一覧は学習支援システムを通じて、配布予定です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 % および課題 15 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト/アンケートあるいは課題のいずれに問題を設定するのか、明確に示す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will learn about international migration as well as current globalization and issues concerning East Asia.

Learning Objectives

Students will understand the realities of globalization in East Asia and the formation of transnational social spaces

Learning Activities Outside Class

The standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

The final examination (85%) and assignments (15%)

POL200EB, POL200EC

国際関係論 I

二村 まどか

サブタイトル：国際関係論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline (in English)】

In this course, we learn the concepts and theories of international relations to understand ongoing global issues. The course especially focuses on Realism, Liberalism and Constructivism. It also examines the role and function of international law, international organizations, and non-state actors.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を考察するために必要な概念と分析枠組みについて学ぶ。国際問題を理解する上で重要な 3 つの理論をとりあげ、それらの基本的な主張を各理論が生まれ発展する背景となった国際的な文脈に即して考察する。また国際組織、国際法、脱国家的主体にも焦点を当て、国際社会におけるそれぞれの役割と限界を 3 つの理論を通して考える。

【到達目標】

各理論の分析枠組みを通して、現代の国際情勢と問題を理論的、実証的、規範的に考察し、それぞれの理論が持つ利点と限界を認識・理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半で主要な国際関係学の理論を扱い、後半でそれらの理論を使いながら、国際社会における国際組織、国際法、脱国家的主体の役割を考える。また現在新たに浮上しているグローバリゼーションに伴う問題への視点を模索する。リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	「国際関係論」とは何か	国際情勢を見るためのさまざまな視点
3	国際関係における理想主義	第一次世界大戦と国際関係学の始まり
4	リベラリズムとリアリズム	第二次世界大戦とリアリズムの台頭
5	冷戦時代の国際関係①：ネオリアリズム	安全保障のジレンマ、「国家はなぜ協調できないのか」
6	冷戦時代の国際関係②：ネオリベラリズム	国際制度の構築、「国家はどのようなときに協調できるのか」
7	冷戦の終わりと国際関係における変化	冷戦の終わりは国際関係に何をもたらしたのか
8	コンストラクティヴィズムと国際規範	国際関係における、理念、文化、社会的側面の重要性
9	国際関係における法の役割	国際法の特徴と機能
10	国際連合	アナーキーな国際システムにおける国連の可能性と限界
11	脱国家的主体	脱国家的主体とは何か、国際関係においてどういう存在か
12	国際関係における人権問題	人権と国家主権の関係
13	国際政治からグローバル政治へ	グローバルな問題と国家の役割
14	まとめ	国際関係の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてこること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第 10 版]』(原書房、2017)

【参考書】

授業中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）： 30 %、期末テスト（課題）： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

POL300EB, POL300EC

国際関係論Ⅱ

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦後から現在に至るまで国家や国際組織がどのように「国際の平和と安全への脅威」に対応してきたかについて学ぶ。国際関係論Ⅰで学んだ理論や概念をふまえて、冷戦後の武力紛争や脅威がどのような問題を突きつけてきたのか、そしてその問題に対して国際社会ではどのような行動がとられ、議論がなされてきたのかについて考察する。

【到達目標】

現代の国際情勢と問題、特に安全保障と武力行使にかかわる問題について、論理的、実証的、規範的に考察し、理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

冷戦後の国際安全保障に関する重要な出来事（湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、ルワンダの大虐殺、コンゴ紛争、9.11 アメリカ同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、リビア空爆）に焦点を当て、国際社会が直面した国際安全保障の問題を考える。
リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	冷戦の終結と国際安全保障の変化	冷戦後の国際の平和と安全をめぐる問題の特徴
3	湾岸戦争：「新世界秩序」	集団安全保障体制の復活と国連の役割
4	ユーゴスラビア紛争	国連平和維持活動（PKO）の発展と課題
5	ルワンダ大虐殺	民族紛争の構図と「アイデンティティ政治」
6	コンゴ紛争	人道的介入
7	戦争犯罪と国際刑事裁判所	国際社会における国際刑事裁判の試み
8	映像鑑賞	9/11 後の世界について
9	9/11 とテロリズム	国際テロとグローバリゼーションの関係
10	アフガニスタン空爆	テロとの戦いと空爆の是非
11	アフガニスタンの国家再建	脆弱国家と平和構築
12	イラク戦争	テロとの戦いと大量破壊兵器問題
13	リビア空爆	「保護する責任」をめぐる議論
14	「人間の安全保障」からのアプローチ	伝統的安全保障の限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしていただくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第 10 版]』(原書房、2017)
藤原帰一、大芝亮、山田哲也編『平和構築・入門』(有斐閣コンパクト、2011)

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）： 30 %、期末テスト（課題）： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

The topic of this course is international peace and security, especially

focusing on the use of force in the post-Cold War international relations. The course will pick up wars and armed conflicts in the 1990s onwards and critically examine international debates and practices regarding them.

SOC200EC

国際社会と民族

高橋 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における「民族」をめぐる問題について、理論的・歴史的な視点から捉えるとともに、その今日的なあり方や課題について考える。

【到達目標】

「民族」をめぐる問題を、「国民国家」や国際社会との関係のなかで読み解き、それを理論的にも分析、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

受講者は理解度をチェックするために授業後に小テストを受けること。

フィードバックについては、小テストの結果をふまえて、適宜、授業内で補足説明を行う。

なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と進め方、成績評価についての説明
第 2 回	民族問題とは	「民族」をめぐる問題とは何か考える
第 3 回	国際社会と国民国家	国際社会と国民国家の成り立ちについて考える
第 4 回	エスニシティ、ネーション、ナショナリズム	基本的な概念について整理する
第 5 回	ナショナリズム論のアプローチ (1)	近代主義について考える
第 6 回	ナショナリズム論のアプローチ (2)	反近代主義について考える
第 7 回	エスニック・リバイバル	エスニシティへの回帰について考える
第 8 回	トランスナショナルなネーション/ナショナリズム	国家や国境を越える/またがるネーションやナショナリズムについて考える
第 9 回	中間試験	授業内容の理解度チェック
第 10 回	ケーススタディ (1)	クルド人について考える
第 11 回	ケーススタディ (2)	日本文化論/日本人論について考える
第 12 回	ケーススタディ (3)	日本における在日コリアンについて考える
第 13 回	ケーススタディ (4)	日本における日系南米人について考える
第 14 回	グローバル化とナショナリズム	自国第一主義について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポートの作成。

各回の授業の復習として Google フォームを使った小テストに回答すること。

授業の準備・復習は、1 回につき 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

ゲルナー、E., 2000, 加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店。
アンダーソン、B., 2007, 白石隆・白石さや訳『定本 想像の共同体』書籍工房早山。

スミス、A. D., 1999, 巢山精司他訳『ネイションとエスニシティ』名古屋大学出版会。

ホブズボウム、E.・T. レンジャー、1992, 前川啓治他訳『創られた伝統』紀伊國屋書店。

ブルーベーカー、R., 2016, 佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シテizenship・国民国家』明石書店。

宮島喬・吉村真子編、2012, 『移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局。

そのほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト (25 %)

中間試験 (25 %)

期末レポート (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果から理解度の低かった内容について説明を改善する。

【Outline (in English)】

This course aims to study about "ethnicity", "nation" and "nation-state" relation with international society, from a theoretical and historical perspectives.

This course introduces A, B and C to students taking this course.

The goals of this course are to A, B, and C.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test: 25%, Mid-term examination: 25%, Term-end report: 50%

GDR200EC

開発とジェンダー

吉村 真子

サブタイトル：国研：開発とジェンダー

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて学び、ジェンダーという視点を入れると問題がどう見えるか、具体的に考えていくこと、問題を構造的に議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、開発とジェンダーについて、様々な観点から議論、分析することを目的とします。

●開発とジェンダーについて構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。最終授業では 13 回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン（Zoom など）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマと目的
第 2 回	開発と「女性」「男性」の視点	「女性」「男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第 3 回	「農村の近代化」：「農民＝男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第 4 回	貧困、ジェンダー、女性	開発途上国のケースから考える
第 5 回	開発途上国の女性の生活	教育や妊娠・出産などについて考える
第 6 回	開発途上国の伝統と少女	伝統的慣習や「女子割礼」
第 7 回	イスラームとジェンダー	イスラーム・コミュニティにおける女性や「ヴェール論争」
第 8 回	開発政策とジェンダー	国連などの開発政策におけるジェンダーの議論
第 9 回	グローバル経済とジェンダー	多国籍企業の途上国進出と女性労働者：「器用な指先」
第 10 回	ヒトの移動とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働、ケア労働など
第 11 回	セックス産業と人身売買	人身売買とジェンダー
第 12 回	開発途上国の女性の身体	生理の貧困、リプロダクティブ・ヘルスなど
第 13 回	開発途上国のセクシュアリティ	開発途上国のセクシュアル・マイノリティ
第 14 回	人間の安全保障とジェンダー	開発・貧困・ジェンダー、女性のエンパワーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業外でも、自分で関心をもって開発とジェンダーについて調べてほしいと思います。授業でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションのために、ミニ・レポートの事前提出など、課題について調べてもらうことも予定しています。

●本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版局（2004）；宇田川妙子ほか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社（2007）；田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社（2017）など。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③授業やグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダー、国際社会問題など、授業以外の視点につながる議論にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

●今年度はすべての授業は対面/教室で行います。ただし、COVID-19 対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, sexuality, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets each week, to write short papers, and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the gender issues with development.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2) Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSa200EC

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

サブタイトル：地域研究（西欧）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多源性の上に成り立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程をみる。現代ヨーロッパの特徴と今日の EU が抱える問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域的多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。2020 年における英国の EU 離脱によって、ヨーロッパ統合の流れは初めて後退することになった。こうした歴史も踏まえて、ヨーロッパの諸地域を比較し、「多様性の中の統合」を掲げる EU の現状や今日における問題点を具体的に述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。

・授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と方法の説明
第 2 回	ヨーロッパとは？	ヨーロッパの地理的概念と文化、ヨーロッパ意識をめぐらる問題
第 3 回	ヨーロッパ世界の形成（1）	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷としての位置
第 4 回	ヨーロッパ世界の形成（2）	キリスト教文化圏の形成、三大教派誕生の背景と特徴
第 5 回	ヨーロッパと世界大戦	第一次・第二次世界大戦
第 6 回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	国際教科書改善運動、記憶の場
第 7 回	東西冷戦	東西冷戦とヨーロッパ分断
第 8 回	ヨーロッパ統合（1）	ヨーロッパ統合前史、統合への共通意思と理念・実像
第 9 回	ヨーロッパ統合（2）	欧州憲法条約の起草・批准過程とリスボン条約の発効に至るまで、EU 独自のガバナンス
第 10 回	ヨーロッパ統合（3）	EU の拡大と深化、ユーロ危機、現代的課題
第 11 回	ヨーロッパ統合（4）	英国の EU 離脱と現在への影響
第 12 回	21 世紀のヨーロッパ（1）	ヨーロッパ域内の多様性、移民・難民政策に関する議論
第 13 回	21 世紀のヨーロッパ（2）	2022 年のヨーロッパ（気候変動問題、新型コロナウイルス、選挙等）と今後の展望
第 14 回	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを通して、ヨーロッパで何が問題となり、議論されているのかをきちんと把握する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・リアクションペーパーによる平常点（50%）と学期末レポート（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨーロッパの情勢に関して、2022 度も最新の記事や映像資料を積極的に紹介し、説明を充実させたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend various histories and social issues related to Europe, as well as to analyze the current topics. Grading will be based on final paper (50%) and in-class contribution (50%).

ARSe200EC

地域研究 (アジア)

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、アジアにおける社会・経済・政治などの問題について、様々な観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東アジア (中国、朝鮮半島、台湾)、東南アジア、南アジアです。

【到達目標】

本講義で、アジア社会における様々な問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、アジアの社会や経済・政治について、様々な観点から議論、分析することを目的とします。対象地域は、東アジア (中国、朝鮮半島、台湾)、東南アジア、南アジアです。

●アジア社会について構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。最終授業では 13 回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン (Zoom など) 利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業のテーマと目的
第 2 回	世界の中のアジア	アジアとは何か
第 3 回	植民地支配と独立後	アジアの植民地化と現地社会
第 4 回	日本と「アジア」	日本と近隣アジア諸国との関係
第 5 回	アジア社会の多様性	エスニック集団 (民族)、宗教、言語
第 6 回	アジアの多民族社会	地域研究のケースから
第 7 回	アジアの政治問題	現代アジアの政治
第 8 回	農村社会の近代化	農村開発、農業、貧困
第 9 回	アジアにおける工業化	グローバル化と新しい国際分業
第 10 回	アジアの都市化	アジアにおける都市問題
第 11 回	経済援助	開発援助、ODA、NGOs など
第 12 回	アジアの環境問題	環境の諸問題とサステナビリティ
第 13 回	グローバル化とアジア	いまアジアで何が起きているのか
第 14 回	アジアの開発と市民社会	アジア社会の視点から

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

●授業外でも、自分で関心をもってアジア社会について調べてほしいと思っています。授業でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションのために、授業前にミニ・レポートを提出してもらいうことも予定しています。

●またアジアに関する文献・資料のほか、ドキュメンタリー、シンポジウムや講演会、アジア映画や展覧会など、教室外でアジアに触れることを目的に、「ミニ・レポート」は「文字メディア以外でふれたアジア」を課題にする予定です。

●なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験 (60%)、②ミニ・レポートなどの課題 (20%)、③授業やグループ・ディスカッションのコメント (20%) など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会について深い分析と議論につながるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

●今年度はすべての授業は対面/教室で行います。ただし、COVID-19 対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Asian societies and economies. The issues include discussion on history, politics, ethnicity, rural development, industrialization, urbanization, environment, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing Asian societies. Students are required to study social problems in Asian countries, to submit short papers and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the social sciences issues on Asian studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2) Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSe200EC

地域研究（中国）

綿貫 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、中国・日本および東アジア地域の「変容」について近世・近代の史料などに基づき分析・考察する。

【到達目標】

中国や東アジア地域の各国・各地域ごとに異なる「歴史認識」問題を「共時的」に解析・検証していくための視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員による各キーワードごとの歴史概説を学修しつつ、グループ討論も適宜おこなう。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「東洋史」とは何か（1）	導入
2	「東洋史」とは何か（2）	「世界史」と「西洋史」「東洋史」
3	「東洋史」とは何か（3）	「東洋」と「東洋史」の範囲
4	近代日本の歴史教育と東アジア認識（1）	明治初年における日本の歴史教育と「東洋史」
5	近代日本の歴史教育と東アジア認識（2）	近代日本の歴史教育と東アジア認識
6	近代日本の歴史教育と東アジア認識（3）	近代日本と白鳥庫吉の「東洋史学」
7	近代日本の歴史教育と東アジア認識（4）	近代日本と朝鮮史像の形成
8	近世東アジア世界の歴史（1）	近世東アジア世界と日本
9	近世東アジア世界の歴史（2）	明清交替と近世東アジア世界の変容
10	近世東アジア世界の歴史（3）	「華夷変態」
11	近世東アジア世界の歴史（4）	近世東アジア世界の変容と日本長崎
12	近世東アジア世界の歴史（5）	近世東アジア世界の商業ブーム（1）
13	近世東アジア世界の歴史（6）	近世東アジア世界の商業ブーム（2）
14	近世東アジア世界の歴史（7）	近世東アジア世界における「対外認識」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考論文や図書の渉猟）
2. グループ発表・討論の準備と再確認

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

関連する論文や書籍等はテーマごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「歴史認識」問題の理解のための視座の構築または整理（書評または小論文 60%）、これに平常点（積極的な参画度など 40%）を加えて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室でも「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。
グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続・発展させていきたい。
授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

歴史研究者としての立ち位置から、史料を元にした分析や討論などの「リテラシー」を伝えるとともに、多様性にたいする理解を当たり前のようにもてるようにする。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The aim of this lecture is to analyze and examine the "transformation" of China, Japan, and the East Asian region based on historical documents in the early modern and modern periods, taking into account the history of China, which has formed a single world with its own unique view of cultural order.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goal of this course is to form a perspective for analyzing and examining "historical perception" issues that vary from country to country and region to region in China and East Asia in a "synchronic" manner.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

1. Reading (searching for reference papers and books)
 2. Preparation for and review of group presentations and discussions
- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Reports(60%), in-class contribution(40%).

SOC300EC

特講（地域・都市社会学の再構築）

武田 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では日本における地域社会学・都市社会学を学史・調査史的にさかのぼりつつ、それらが問題化し得なかった地域社会についての分析の可能性について論じる。それによって戦後日本の地域社会学・都市社会学のメインストリームとは異なる形で、地域社会を分析する視点を、学生が獲得することが目的である。その際には、文化や習俗を扱いつつ社会学とは違う角度からそれらを論じてきた民俗学や文化（都市）人類学、さらに地域社会学や都市社会学とは縁が薄かったメディア論、さらに海外の日本研究といった分野の視点も導きの糸となるだろう。

【到達目標】

- ・日本の地域社会学・都市社会学の流れやそれが論じ損ねてきた未発の可能性について、理解を深めること。
- ・社会学に限らず、民俗学や文化（都市）人類学の議論にも目配りしつつ、地域社会について分析する上での視点を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを中心とした講義形式で行う。なお受講者数によっては授業内での受講生の発表を課する場合もある。また毎回のリアクションペーパーの提出を求める。次の回の講義内で、リアクションペーパーに見られる質問や感想、コメントについて代表的なものをとりあげて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この講義の目的や進め方、課題について説明する。
第 2 回	都市社会学のメインストリームからの地方都市の消失	戦後における都市社会学からの地方都市社会論の展開と消失、それによって失われた都市社会学の可能性について論じる。
第 3 回	家連合論から見た地方都市社会構造の系譜	近世以来の地方都市の社会構造を見る上で重要な聚落の家連合論のアプローチについて論じる。
第 4 回	都市民俗学・都市人類学から見た地方都市	民俗学や文化人類学における地方都市論について論じる。
第 5 回	町内社会内部の関係性	近世以来の地方都市の中心を占めてきた町内社会について論じる。
第 6 回	町内連合間の関係性と自営業者のネットワーク	町内社会間同士の関係性で構成される地方都市の関係性について論じる。
第 7 回	共有資源が生み出す都市の社会関係	コモنز論の観点から地方都市の社会関係を論じる。
第 8 回	農村社会学・地域社会学のメインストリームが見逃したもの	戦後農村社会学・地域社会学の展開とそこから見過ごされたものは何かについて論じる。
第 9 回	モノと技術が媒介する村落社会の関係性	モノや農業技術を通して再生産される村落社会における社会関係について論じる。

第 10 回	集落における住民と I ターン者の交渉	限界集落における移住者と集落の関係性、また移住者が外部からもたらすネットワークが集落に与える影響について論じる。
第 11 回	メディアが媒介する村落社会の関係性と公共性（1）	郷土芸能を通じた戦後日本の「地方」の表象の構築について論じる。
第 12 回	メディアが媒介する村落社会の関係性と公共性（2）	戦後日本における「農村」の表象とその構築プロセスについて論じる。
第 13 回	Japanese Studies の村落研究の系譜と現在	海外の日本研究の系譜について紹介すると共にそれが現代日本の地域社会を考える上で示唆するものについて考察する
第 14 回	この講義のまとめ	この講義全体を通して明らかになったことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

牧野修也編,2021,『変貌する祭礼と担いのしくみ』学文社。
武田俊輔,2019,『コモنزとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, and Sebastian Polak-Rottmann(eds),2020,Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery,Routledge.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーが 28%、期末レポートが 72%となる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will trace back the history of regional and urban sociology in Japan historically, and discuss the possibility of analyzing regional societies that sociological researches in these fields have not been able to make into problems. The purpose of this course is that students will acquire a perspective for analyzing regional society that differs from the mainstream of regional and urban sociology in postwar Japan. For that purpose, the perspectives of folklore studies, cultural (urban) anthropology, media studies, and overseas Japanese studies will also provide clues.

Students are expected to submit their reaction paper via Hoppii after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 72%, reaction paper after each class: 28%

SOC100ED

メディア研究法入門A

土橋 臣吾

サブタイトル：メディア社会学入門A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

The goal of this course is to be able to plan qualitative research on media contents, audiences, and users from your own perspective.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end report(80%), reaction paper(20%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア研究における質的調査の様々な方法について、その概略を学びます。指定教科書の理解と、授業内で紹介する研究事例の理解を経て、独自の調査企画の立案を行います。

【到達目標】

メディアのコンテンツやユーザーを質的に分析することの重要性と面白さを理解し、独自の視点から質的調査の企画を立案できるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、教科書の解説、および教科書の各章で扱われる質的調査の方法に基づいた研究事例の解説を行います。ただし、授業の終盤ではグループワークを取り入れて展開します。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要
2	質的調査とは何か	質的調査の面白さと難しさについて
3	観察法	観察法の解説と研究事例の紹介
4	参与観察	参与観察の解説と研究事例の紹介
5	インタビュー法	インタビュー法の解説と研究事例の紹介
6	ライフストーリー法	ライフストーリー法の解説と研究事例の紹介
7	雑誌分析法	雑誌分析法の解説と研究事例の紹介
8	文化資料分析法	文化資料分析法の解説と研究事例の紹介
9	映像分析法	映像分析法の解説と研究事例の紹介
10	ソーシャルメディア分析法	ソーシャルメディア分析法の解説と研究事例の紹介
11	調査企画課題ガイダンス	学期末課題の説明
12	調査のアイデア出し	オーディエンス調査・ユーザー調査のアイデア出し
13	調査のアイデア出し	コンテンツ分析・モノ調査のアイデア出し
14	調査倫理について	調査倫理について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で扱う教科書の該当章を通読した上で授業に臨んでください。また、復習として、授業内で研究事例として紹介する論文を実際に読んでみて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編, 2022, 『質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方（第3版）』法律文化社

【参考書】

授業内で、各調査手法の研究事例を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course deals with the basic concepts and methods of qualitative research on media contents, audiences, and users.

(Learning Objectives)

SOC100ED

メディア研究法入門B

橋爪 絢子

サブタイトル：メディア社会学入門B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 量的調査データの分析を学びます。
- グループ実習で、量的調査の一連の流れを体験します。

【到達目標】

- 調査プロセスの体験。
- 数量データの基本的分析に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業とグループ実習を折り混ぜて進めます。随時レポート提出、発表と評価があります。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスと課題設定	進め方と課題の説明。
02	表・グラフを読む	表・グラフ表現を適切に考察するプロセスを学びます。
03	テーマと先行研究調査分析の発表	テーマに対応する先行調査研究をグループごとに発表します。
04	数値を読む	分析に必要な尺度、時間、単位、集計やグラフ表現を学びます。
05	調査の企画と作成	仮説内容と設問内容の発表と具体的な調査作成説明をします。
06	調査票の作成 1	各グループで仮説に則した調査票を作成します。
07	調査票の作成 2	各グループで仮説に則した調査票を作成します。
08	調査票の確認	各グループの調査票の内容、構造を発表し確認します。
09	調査の実施	調査に相互回答し、調査データを得ます。また、データ分析の準備を行います。
10	調査の分析・考察 1	調査での設問間のクロス集計から分析考察します。
11	調査の分析・考察 2	調査での設問ごとの単純集計から分析考察します。
12	発表 1	調査の分析結果をグループ発表します。相互評価します。
13	発表 2	調査の分析結果をグループ発表します。相互評価します。
14	まとめとフィードバック	発表に対してのフィードバックをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ作業での先行研究の調査・分析、調査企画、作成、実施、集計、分析、レポート作成、プレゼン資料作成、発表が設定されます。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。必要に応じて追加の作業時間が生じます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

轟、杉野編 (2017) 『入門・社会調査法 [第3版]』 法律文化社
その他は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度につき、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 等のソフトウェア、学習支援システム、電子メール、Google Classroom などを使用します。

学内での授業や作業でパソコンを利用したい人は、持参または多摩情報センターからの貸出等を利用してください。

【その他の重要事項】

授業計画は授業展開により若干変更があり得ます。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

基礎演習クラス単位でのグループ作業への参加は必須です。

春学期開講コンピュータ入門の内容を相互に確認理解し利用が必要です。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行）履修して下さい。

【Outline (in English)】

1: Learn to analyze quantitative survey data.

2: Experience quantitative research in groups.

Students will spend a total of four hours before and after each class in order to understand the content of the class and to facilitate group work.

The final grade will be evaluated based on the usual points, such as the attitude of class participation, the contribution to the group, and the content of the submission.

SOC100ED

メディア社会入門 I

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「メディア社会」とは何か、それを学ぶために知っておくべき基礎概念について説明したのち、国家や政治とメディアとの関わりを中心に解説を行う。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアの役割をより幅広い視点から理解できるようになることに加えて、自らの手で分析、研究を行うための方法論を学ぶことにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、授業中には随時、Zoom のチャット機能での質問を受けつける。また、授業終了後にも Google フォームによって質問を受けつけ、次回の授業の冒頭で時間を割いて解説を行うことで、受講者の理解をより促進するよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	「メディア社会」について考えることの意味	授業全体のイントロダクション
第 2 回	メディアと「現実危機」	「現実」とは何か、メディアといかなる関係にあるのかを考える
第 3 回	近代国家の形成と情報通信ネットワークの発達	国家とは何か、国家と情報ネットワークはどのような関係にあるのかを考える
第 4 回	国民共同体の形成過程におけるメディアの役割	国民共同体の形成においてメディアがどのような役割を果たしてきたのかを考える
第 5 回	ナショナル・アイデンティティの構築とメディア	日常生活において当たり前のものとしてナショナリズムが再生産される過程を考える
第 6 回	ナショナリズムの「日常化」とメディア	日常生活において当たり前のものとしてナショナリズムが再生産される過程を考える
第 7 回	戦争プロパガンダとメディア（前編）	戦争時にメディアが国内でどのような役割を担うのかを考える
第 8 回	戦争プロパガンダとメディア（後編）	戦争時の対外的宣伝のためにメディアが果たす役割について考える
第 9 回	メディアは資本主義といかに結びついてきたのか（前編）	資本主義の発達過程においてメディアが果たしてきた役割について考える
第 10 回	メディアは資本主義といかに結びついてきたのか（後編）	消費を促進する手段としてのメディアとその社会的文脈について考える
第 11 回	変容する都市空間とメディア（前編）	都市とメディアはいかなる関係にあるのかを考える
第 12 回	変容する都市空間とメディア（後編）	東京の歴史的な発展過程を踏まえながら、メディアによる空間の意味づけについて考える
第 13 回	開発途上国とメディア	開発途上国の発展にとってメディアはいかなる役割を果たしているのかを考える
第 14 回	グローバル化とメディア	国境を越えるメディア流通とそれが社会にもたらす影響について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に実施するテスト（30%）と学期末に提出するレポート（70%）の合計で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、チャットや Google フォームなどを活用してインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能な環境。スマートフォンではなくパソコンでの受講が望ましい。

【Outline (in English)】

The goal of this lecture is to help participants understand the role of the media from a broader perspective, as well as to learn the methodology for conducting their own analysis and research. It is recommended to read the textbook and the books introduced in the lecture. The standard preparation study and review time for this lecture is 2 hours each. Participants will be evaluated by the total of the test (30%) to be given during the semester and the report (70%) to be submitted at the end of the semester.

SOC100ED

メディア社会入門Ⅱ

北原 利行

サブタイトル：特講（メディア社会入門）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、マスメディア、ジャーナリズム、広告、ネットなど、「多様なメディア」と「メディアによる社会の課題解決」の方法を学びます。

前半は主にマスメディアやインターネットメディア、ソーシャルメディアについて学び、後半はそれらをどう社会課題解決に利用していくかということを学んでいきます。

【到達目標】

メディアによる社会の課題解決の方法を知り、自らの関心に基づいた解決方法を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半はさまざまなメディアについてそれぞれのメディアの特性を比較しながら学び、後半はメディアによる社会課題解決の事例を紹介する。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行う。前半はレジュメなどを用いた座学とし、後半では教科書を用いて自らの問題意識に基づき事例を調査してもらい、質疑や議論を行います。なお、授業計画については、展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明 メディア論、コミュニケーションの基礎
第 2 回	メディア比較論	マスメディア① プリントメディア系
第 3 回	メディア比較論	マスメディア② 電波メディア系
第 4 回	メディア比較論	その他メディア 映画、広告など
第 5 回	メディア比較論	インターネットメディア
第 6 回	メディア比較論	ソーシャルメディア
第 7 回	中間まとめ	振り返り
第 8 回	事例	ジャーナリズムによる社会課題の解決事例
第 9 回	事例	広告による社会課題の解決事例
第 10 回	事例	ネットによる社会課題の解決事例
第 11 回	事例	クリエイティブによる社会課題の解決事例
第 12 回	リサーチ	問題意識を表現したメディアを調査する
第 13 回	企画立案	メディアによる課題解決方法を考える
第 14 回	まとめ	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の問題意識を明確にするために、日々の新聞やテレビの報道番組やドキュメンタリーを見るようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之『フェイクニュースの生態系』青弓社 秋学期開始時には生協等で購入できるようにします

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。大学のパソコン等を利用して進めることが可能です。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。授業中の私語は退場とします。

電通総研、電通コミュニケーションラボにおいて、マスメディア、コミュニケーションについてのリサーチ、コンサルティングなどに従事。それらの経験に基づいて、多角的・俯瞰的に講義を行う。電通「日本の広告費」、「情報メディア白書」担当

【Outline (in English)】

In this course, students will explore ways to provide solutions to challenges faced by our society through the media.

In this course, students will learn about "various media" such as mass media, journalism, advertising, and the Internet, and then explore ways to provide solutions to challenges faced by our society through the media.

The first half of the course is mainly about mass media, internet media, and social media, and the second half is about how to use them to solve social issues.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to learn how to solve social issues through media and be able to think about solutions based on their own interests.

Learning activities outside of classroom

To clarify your awareness of the issues, you are encouraged to watch daily newspapers and television news programs and documentaries. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy

Examination 50%, Ordinary Score 50%. Ordinary marks will be based on the content of in-class comments, questions, and reaction papers.

SOC200EC, SOC200ED

メディア社会学基礎A

土橋 臣吾

サブタイトル：音楽社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポピュラー音楽を議論の対象としながらメディア社会学の基礎を学ぶことが目的です。音楽に関する身近な事例の分析を通じて、様々な文化実践をメディア社会学的に捉えるための視点を獲得していきます。

【到達目標】

ポピュラー音楽に関するメディア社会学的な分析に触れることで、メディアと文化に関する社会的視点を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、授業の全体を「マスメディアと音楽」「デジタルメディアと音楽」「参加のメディアと音楽」「生成のメディアと音楽」の4セクションに分け、それぞれのセクションの初回で重要な理論や概念について学び、その上で、事例の分析を行います。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	マスメディアと音楽 1	マスメディアと共同体
3	マスメディアと音楽 2	テレビと音楽
4	マスメディアと音楽 3	音楽雑誌という文化装置
5	個人化するメディアと音楽 1	デジタルメディアと個人化
6	個人化するメディアと音楽 2	音楽配信とストリーミング
7	個人化するメディアと音楽 3	調査から見るリスナーの姿
8	参加のメディアと音楽 1	ソーシャルメディアと現場
9	参加のメディアと音楽 2	フェスの隆盛とライブ文化の変容
10	参加のメディアと音楽 3	ソーシャルメディアとファンダム
11	生成のメディアと音楽 1	インターネットの生成力
12	生成のメディアと音楽 2	ボーカロイドと N 次創作
13	生成のメディアと音楽 3	ネットに生まれる新しいシーン
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくとう理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

To acquire the basic perspectives of current media studies, we will learn the changing relationship between media technology and popular music. (Learning Objectives)

The goal of this course is to develop a sociological perspective on media and culture through an analysis of the distribution of popular music. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

SOC200EC, SOC200ED

メディア社会学基礎B

稲増 龍夫

サブタイトル：特講（メディア社会学基礎）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像メディアの制作・情報発信の基礎となる技術を取得し、送り手の立場からメディアの総体を理解することを目指します。受け身の授業ではない、ワークショップ形式の「アクティブラーニング」を目指します。

【到達目標】

個人やグループで企画し、スマホやビデオカメラを使って撮影し、PCを使って編集作業をおこないます。さらには YouTube からの情報発信をおこなう映像制作技術を習得します。その過程を通して、実践的にコンテンツ制作の実相を体得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半の数回は実践の基礎となる理論枠組みを講義し、後半の数回は、現代メディア論の実践課題について全員参加で議論してもらいます。さらに講義後半で、数人のグループに分かれ、相互自己紹介ビデオを制作してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要説明
2	映像コミュニケーションの歴史と特色	映像の基礎理論と機能の解題
3	メディア実践の基礎 (1)	企画する
4	メディア実践の基礎 (2)	撮影する
5	メディア実践の基礎 (3)	編集する
6	メディア実践の基礎 (4)	デジタルする
7	メディア実践の基礎 (5)	プロデュースする
8	映像課題ガイダンス	制作オリエンテーション
9	現代メディア課題議論 (1)	自粛警察問題
10	現代メディア課題議論 (2)	テラスハウス問題
11	現代メディア課題議論 (3)	クラウド問題
12	現代メディア課題議論 (4)	Youtuber 問題
13	相互自己紹介ビデオ発表- 1	上映と講評
14	相互自己紹介ビデオ発表- 2	上映と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、映画、ネットなどの最新映像コンテンツに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。なお、課題制作にかかる時間が別途必要になります。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) + 課題作品制作・上映 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

座学ではない、実践的授業を目指します。よって、授業時間外の活動も多くなるので、課題作品を制作するためには相応の負担を覚悟してください。映像コンテンツ関係への進路を希望している学生にとっては必須の基礎スキルを学ぶのと同時に、映像制作を通して、自分自身を見つめ直し、これからの大学生活へのビジョンを構築してもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホはほぼ所有していると思うので、そのカメラ機能は必須です。ビデオカメラ・三脚・ライト・マイクや編集用のパソコンは社会学部の映像実習室を利用できるので、個人で用意する必要はありません。

【Outline (in English)】

Introduction to Practical Study of Video Production. The purpose of this class is to experience the basics of media literacy practically from the sender's side. We will impair video production assignments outside of class hours and evaluate them based on their performance(50%) and normal points(50%).

LAW200EC, LAW200ED

メディア社会学基礎C

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法律学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目を受講したのちに秋学期の「メディア法」を履修することが望ましい。新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報法の現在	「情報法」という学問領域は何を問題としているのか。情報法という領域の成立史と現状について紹介する。
2	情報と社会	法律学とかがかわる情報概念について検討する。また、文明史と未来学の見解をもとに、現在の社会とこれからの社会について検討する。
3	情報化社会とこれから	文明史と未来学の見解をもとに、現在の社会とこれからの社会について検討する。
4	情報技術 / 法と経済学 1	コンピュータやネットワークの動作原理を説明する。また、それらの技術がもつ法的意味について説明する。
5	情報技術 / 法と経済学 2	経済学の考え方を法律学に応用する手法について紹介する
6	ネットワークと刑事法 1	犯罪白書でのネットワーク関連犯罪の取り上げ方およびマスコミでのネットワーク関連犯罪の取り上げ方を検討。
7	ネットワークと刑事法 2	ネットワーク世界での法執行について概観する。
8	言論表現の自由 1	言論規制と言論の自由の歴史。情報化が言論の自由に寄与するために、いかにあるべきか。
9	言論表現の自由 2	議会制民主主義政体における言論表現の自由の重要性について解説。
10	言論表現の自由 3	情報技術の発展にともない基礎条件がどのように変化しつつあるか。
11	秘密の保護 1	伝統的な秘密の概念および近年までの法律における秘密の定義や取扱いに関する解説。
12	秘密の保護 2	情報社会への移行にともない、法律における秘密の定義や取扱いがどのように変化したのかの解説。
13	情報公開/公文書管理 1	情報公開制度の理念、沿革、先行国の制度について解説したうえで、情報公開制度について概観する。
14	情報公開/公文書管理 2	公文書管理制度の理念、沿革、先行国の制度について解説したうえで、公文書管理制度について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は Google Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業の場合は、期末試験によって行う。一方、オンライン授業になった場合には、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。いずれの場合も、最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline (in English)】

Information technologies has played an important role in our lives. They will continue to evolve. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. It is true that advocates points of view differ from each others. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC200ED

メディアと人間 I

李 舜志

サブタイトル：比較文化論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間 I は基礎編として主に各メディアの特徴とその歴史を学び、メディアと人間 II では応用編としてメディアについての哲学や理論を扱う予定である。

【到達目標】

書物やラジオ、映画などの各メディアがどのように誕生し、人間社会にどのような影響を与えたのかを大まかに理解する。それにより自分なりの「メディア観」を作り上げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に、各回ごとに具体的なメディア（書物やラジオ、漫画など）を取り上げつつ、その歴史的意義を考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	文字（アルファベット）の誕生	アルファベットの誕生が人間社会に与えたインパクトについて学ぶ。
3	書物の誕生	ヨーロッパにおける書物の誕生を例に、書物の生産・流通・消費が人間社会に与えた影響について学ぶ。
4	学校の誕生	書物をはじめとする「教育メディア」を取り上げつつ、学校の誕生について学ぶ。
5	絵本の誕生	子ども向け絵本の誕生にまでさかのぼり、子ども観の変遷と現代的課題を学ぶ。
6	ラジオの誕生	ラジオの誕生がもたらしたインパクトについて、政治利用に焦点を当てつつ学ぶ。
7	写真の誕生	写真が誕生当時与えたインパクトと、加工が容易になった現代における写真の意義について学ぶ。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	映画の誕生	ニュースや娯楽、プロパガンダなど、黎明期の多面的な映画について学ぶ。
10	「被災地」の誕生	「ヒロシマ」や「ナガサキ」がいかにメディアによって構築されてきたのかについて学ぶ。

11	ビデオゲームの誕生	商業的・文化的に絶大な影響力を持つビデオゲームについて、その歴史と独自性について学ぶ。
12	インターネットは民主主義の敵か	インターネットの持つ政治的なポテンシャルがどのように議論されているかについて学ぶ。
13	「人間」の条件	メディアが「人間」の条件であることを把握し、メディアの変化に伴い「人間」もまた変化することを理解する。
14	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

佐藤卓己『現代メディア史 新版』、岩波書店、2018 年。

吉見俊哉『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための 15 話 改訂版』、有斐閣アルマ、2012 年。

石田英敬『大人のためのメディア論講義』、筑摩書房、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

中間試験：50 %

期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The goals of this course are to learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on midterm exam(50%) and final exam(50%).

SOC200ED

メディアと人間Ⅱ

李 舜志

サブタイトル：比較文化論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間Ⅰは基礎編として主に各メディアの特徴とその歴史を学び、メディアと人間Ⅱでは応用編としてメディアについての哲学や理論を扱う予定である。

【到達目標】

メディアについて、これまでどのような哲学、思想、理論が構築されてきたのか、概観する。その際、ポピュラー音楽や写真、ビデオゲームなど、具体的なメディア作品や実践を取り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

メディアについての哲学や理論について、具体的な作品を取り上げつつ考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	ナチズムと映画	ナチズムのプロパガンダ映画を分析する。
3	ヴァルター・ベンヤミン：複製技術時代の芸術作品	ヴァルター・ベンヤミンの複製技術論について、当時の芸術動向や政治状況を念頭に置きつつ分析する。
4	アドルノとホルクハイマー：啓蒙の弁証法	アドルノとホルクハイマーをはじめとしたフランクフルト学派の、特に文化産業論について分析する。
5	ジークフリート・クラカウアー：映画の理論	ジークフリート・クラカウアーの『映画の理論』について分析する。
6	マーシャル・マクルーハン：メディア論	マーシャル・マクルーハンの議論を取り上げ、メディア論の特徴や位置づけについて分析する。
7	ノルベルト・ポルト：ゲーテンベルクの銀河系の終焉	ノルベルト・ポルトの議論を取り上げ、「ゲーテンベルクの銀河系」以降のメディアとコミュニケーション論について分析する。
8	スチュアート・ホール：エンコーディングとデコーディング	スチュアート・ホールのエンコーディングとデコーディングの議論を中心に、カルチュラルスタディーズにおけるメディアの役割について分析する。
9	スーザン・ソントグ：他者の苦痛へのまなざし	スーザン・ソントグの写真論を取り上げ、他者の苦痛を写真を通してまなざすことの問題点について分析する。
10	アレクサンダー・ギャロウェイ：ゲーミング	アレクサンダー・ギャロウェイの『ゲーミング』を取り上げ、ビデオゲームの芸術的・政治的側面について分析する。
11	東浩紀：情報自由論	東浩紀による「情報自由論」を取り上げ、環境管理型権力について分析する。
12	ベルナルド・ステイグレル：技術と時間Ⅰ	ベルナルド・ステイグレルの『技術と時間Ⅰ』から、技術による根源的な代補について分析する。
13	ベルナルド・ステイグレル：技術と時間Ⅱ	ベルナルド・ステイグレルの『技術と時間Ⅱ』から、意識の構造と技術の関係について分析する。
14	ベルナルド・ステイグレル：技術と時間Ⅲ	ベルナルド・ステイグレルの『技術と時間Ⅲ』から、「われわれ」の未来と技術の関係について分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

前半（第一回～第七回）のレポート：50%

後半（第八回～第十四回）のレポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

必須ではないが、メディアと人間Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The goals of this course are to understand the theories regarding relationship between media and human being.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on midterm report(50%) and final report(50%).

FRI300EC, FRI300ED

メディアの思想

小林 直毅

サブタイトル：記号論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「思想」とは thought、つまり「思考されたこと」です。メディアについてどのような問題が、どのように思考され、今日のメディアをめぐるどのような思考が必要なのかを理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

メディアによって人びとが、どのようにして、どのような出来事を経験しているのかを理解できるようになることを第一の目標にします。その上で、今日のメディア環境の可能性と課題を実践的に考えることができるようになることを第二の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドの PDF ファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者は講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、学んだことを文章化した「講義ノート」を作成します。これを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについて授業内で講評、解説します。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この講義の概要とねらい
2	環境世界という考え方	理論生物学の成果に学ぶ。
3	環境世界としてのメディア環境	メディアと身体と生活とのかかわりを考える。
4	小括「環境世界・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（1）
5	記号とその意味の成り立ち	記号学の思想に学ぶ。
6	記号の意味の多様性	記号の可能性を考える。
7	映像記号と身体	「コードのないメッセージ」を考える。
8	小括「記号・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（2）
9	読まれ、見られる出来事	メディア環境の可能性を考える。
10	語られ、描かれる出来事	メディア環境の秩序を考える。
11	意味としての出来事	メディア環境における出来事の経験を考える。
12	小括「メディアテキスト・メディア言説・メディア表象」	リアクションペーパーへのリプライ（3）
13	メディアと権力	メディア環境のポリティクスを考える。
14	メディアと主体	メディア環境におけるイデオロギーを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を必ず熟読してください。そして講義の概要を自分なりに把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

毎回の講義後に、テキストや参考文献を参照しながら講義ノートを整理することも必須です。その際、事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の 60 % の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の 40 % の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand how the media as a technology and institution that enables human recognition and existence is thought, and what kind of thought is needed about the media today.

Learning objectives:

The primary goal of this course is to understand how and what events they are experiencing through the media. The second goal is to be able to think practically about the possibilities and problems of today's media environment.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：エッセイ文章実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は 800 字～1500 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習授業のため、一クラスの受講者は最大で 20 名までとする。

初回 4 月 12 日の授業開始時間までに学習支援システムの仮登録を修了し、指定の時間に課題を提出した学生の中から先着順で 20 名までの受講を許可する。

定員に達した時点で、受付を停止する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第 2 回	感想課題	過去の学生の作品集の批評
第 3 回	推敲とは	エッセイ添削例
第 4 回	作品 1 提出	エッセイ実作 1
第 5 回	作品指導 1	自作を捉え直す
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	課題 1 の合評	作品検討・質疑応答 1
第 8 回	作品 2 提出	エッセイ実作 2
第 9 回	作品指導 2	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題 2 の合評	作品検討・質疑応答 2
第 12 回	作品 3 提出	エッセイ実作 3
第 13 回	課題 3 の合評	自作を捉え直す
第 14 回	まとめ	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンテニエ エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『きみの存在を意識する』ポプラ社 『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社

クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 40%・平常点 60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとっても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：エッセイ文章実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

仮登録期間に受講予定者が20名を超えた場合は、学習支援システムのお知らせ欄に記載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第2回	感想課題	過去の学生の作品集の批評
第3回	推敲とは	エッセイ添削例
第4回	作品1提出	エッセイ実作1
第5回	作品指導1	自作を捉え直す
第6回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第7回	課題1の合評	作品検討・質疑応答1
第8回	作品2提出	エッセイ実作2
第9回	作品指導2	自作を捉え直す
第10回	本の構成	本の要素や特性を考える
第11回	課題2の合評	作品検討・質疑応答2
第12回	作品3提出	エッセイ実作3
第13回	課題3の合評	作品検討・質疑応答3
第14回	まとめ	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンターニュ エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『きみの存在を意識する』ポプラ社 『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社

クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 40%・平常点 60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。

Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かし、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：エッセイ文章実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は 800 字～1500 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習授業のため、一クラスの受講者は最大で 20 名までとする。

初回 4 月 12 日の授業開始までに学習支援システムに仮登録を修了し、指定の時間に課題を提出した学生の中から先着順で 20 名までの受講を許可する。

定員に達した時点で、受付を停止する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第 2 回	感想課題	過去の学生の作品集の批評
第 3 回	推敲とは	エッセイ添削例
第 4 回	作品 1 提出	エッセイ実作 1
第 5 回	作品指導 1	自作を捉え直す
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	課題 1 の合評	作品検討・質疑応答 1
第 8 回	作品 2 提出	エッセイ実作 2
第 9 回	作品指導 2	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題 2 の合評	作品検討・質疑応答 2
第 12 回	作品 3 提出	エッセイ実作 3
第 13 回	課題 3 の合評	作品検討・質疑応答 3
第 14 回	まとめ	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モニターニュー エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『きみの存在を意識する』ポプラ社 『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社
クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 40%・平常点 60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとっても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できる PC を推奨する。

Zoom をしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC 以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントの Eメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：エッセイ文章実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業の講義の他、学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

※実習授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。

仮登録期間に受講予定者が20名を超えた場合は、学習支援システムのお知らせ欄に記載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第2回	感想課題	過去の学生の作品集の批評
第3回	推敲とは	エッセイ添削例
第4回	作品1提出	エッセイ実作1
第5回	作品指導1	自作を捉え直す
第6回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第7回	課題1の合評	作品検討・質疑応答1
第8回	作品2提出	エッセイ実作2
第9回	作品指導2	自作を捉え直す
第10回	本の構成	本の要素や特性を考える
第11回	課題2の合評	作品検討・質疑応答2
第12回	作品3提出	エッセイ実作3
第13回	課題3の合評	作品検討・質疑応答3
第14回	まとめ	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンターニュ エッセー抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『きみの存在を意識する』ポプラ社 『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社

クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 40%・平常点 60%。

作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。

Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。

資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かし、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces creative writing to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to writing skills and knowledge of composition

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300EC, SOC300ED

社会問題とメディア

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な社会問題とメディアとの関係についての分析視角を提示する。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアという観点から社会問題や日本社会の歩みについての理解を深めることに加えて、自らの問題関心に沿って分析を行うための方法論を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、Zoom のチャット機能で随時、質問を受け付ける。また、授業終了後にも Google フォームによって質問を受け付け、次回の授業の冒頭で時間を割いて解説を行うことで、受講者の理解をより促進するよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	社会病理学とモラルパニック論	社会問題を分析するための視座として、社会病理学およびモラルパニック論について考える
第 2 回	社会問題への社会構築主義アプローチ	社会問題を分析するための視座として、社会構築主義アプローチについて考える
第 3 回	リスク社会におけるメディア報道	リスク社会におけるメディア報道のあり方を考える
第 4 回	メディアが描く犯罪（前編）	メディアによる犯罪の描き方にはどのような問題があるのかを考える
第 5 回	メディアが描く犯罪（後編）	メディアがどのように犯罪被害者および加害者を描くのかを事例に即して考える
第 6 回	メディアが描く貧困	現代社会における貧困の現状を踏まえつつ、メディア報道の問題点について考える
第 7 回	貧困報道をめぐるジレンマ	メディアが貧困を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第 8 回	排外主義とメディア	現代的な排外主義の特質を踏まえつつ、それとメディアとの関係について考える
第 9 回	排外主義をめぐるメディアのジレンマ	メディアが排外主義を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第 10 回	原発問題とメディア	日本の原発導入過程においてメディアが果たした役割を考える
第 11 回	「原発安全神話」とメディア	「原発安全神話」とは何か、メディアがそれといかなる関係にあるのかを考える
第 12 回	大衆社会論の出現とその背景	戦後日本社会における大衆社会論の出現とそこにおけるメディアの位置づけについて考える
第 13 回	管理社会論の出現とその限界	戦後日本社会において管理社会論がどのように登場し、メディアといかなる関係にあったのかを考える
第 14 回	消費社会論とその陥穽	戦後日本社会において消費社会論がいかに高揚し、いかに失墜したのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書および講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に実施するテスト（30%）と学期末に提出するレポート（70%）の合計で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、Zoom のチャット機能や、Google フォームなどを活用してインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能な環境。スマートフォンではなくパソコンで接続することが望ましい。

【Outline (in English)】

The goal of this lecture is for students to deepen their understanding of social issues and the history of Japanese society from the perspective of the media, as well as to acquire the methodology to conduct analysis in line with their own problematic interests. It is recommended to read the textbook and the books introduced during the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated by the sum of tests (30%) to be given during the semester and reports (70%) to be submitted at the end of the semester.

HUI300ED

認知科学

中井 彩香

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活は、私たち自身すら意識しない知的な諸活動，すなわち認知機能の働きによって成り立っている。本講義は、人の生活を支える認知機能の仕組みをテーマとする。記憶や注意など基礎的な認知の諸特性とその仕組みを学ぶ。さらに、判断や意思決定、デザインなどについて知ることで、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解する。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについて講義形式で学習する。第1回と第8回の授業はZoomを使用したリアルタイム授業、それ以外の回の授業はオンデマンド授業で実施する予定である。学習支援システムを用いた質問への回答と、全体へのフィードバックを適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と目標を理解する
第2回	認知科学とは	私たちの「知」の捉え方を知る
第3回	感覚、知覚・認知	外界の情報の受け取り方を理解する
第4回	記憶	記憶のメカニズムを理解する
第5回	注意	注意の働きを理解する
第6回	問題解決と推論	問題解決と推論の過程を理解する
第7回	前半のまとめ、中間試験	前半のまとめ、中間試験を行う
第8回	判断と意思決定	判断と意思決定を学ぶ
第9回	判断と意思決定に関する認識	判断と意思決定に関する認識を学ぶ
第10回	判断と意思決定への働きかけ	生活の中での判断と意思決定への働きかけを学ぶ
第11回	感情と認知	感情と認知の関係について学ぶ
第12回	社会的認知	日常生活における認知を学ぶ
第13回	デザインと認知科学	デザインと認知科学の関係について学ぶ
第14回	後半のまとめ、期末試験	後半のまとめ、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業前には、授業資料をダウンロードし、目を通しておく。授業後には、授業内容を振り返り、要点をまとめる。また、授業内で授業内容に関する参考文献やウェブサイトが紹介された場合、それらを用いて学びを深める。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いず、配布資料に基づいて授業を進めます。

【参考書】

講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、中間試験 25%、期末試験 25%として総合的に判断する。平常点には、授業内や授業外で取り組む課題の提出状況と内容も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom の使用できる PC（第1回と第8回の授業はZoomを使用したリアルタイム授業、それ以外の回の授業はオンデマンド授業で実施する予定です）、学習支援システムを利用できる環境を準備してください。

【Outline (in English)】

Our daily life is made up of various intellectual activities (i.e., cognitive functions) that we are not aware of. This lecture will focus on the mechanisms of cognitive functions that support human life. Students will learn basic cognitive characteristics such as memory and attention. In addition, students will learn about judgments, decision making, and design to gain a deeper understanding of the relationship between our daily lives and cognitive functions.

LAW200ED

知的財産権法

白田 秀彰

サブタイトル：情報メディア論B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権法の入門講義である。

情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、オンデマンドによる対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業の場合には、期末試験によって評価する。一方、オンライン授業になった場合には、各セッションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。いずれの場合でも最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law.

First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

LAW300ED

メディア法

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期「メディア社会学基礎 C」を履修したのちに履修することが望ましい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とはほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法的規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するか。
9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。
11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開設する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「情報法テキスト」講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は Google Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業の場合は、期末試験によって行う。一方、オンライン授業になった場合には、各セッションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。いずれの場合も、最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。また、小論文等において剽窃（コピー）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline (in English)】

Information technologies has played an important role in our lives. They will continue to evolve. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. It is true that advocates points of view differ from each others. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『公共性の構造転換』（1962）において、18世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

授業終了時に提出してもらうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18世紀市民社会とは何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19世紀市民社会の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19世紀末以降の公共圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉国家	グローバル化時代における再分配
8	フレイザーによるハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とその後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐって
10	ハーバーマスのコミュニケーション的行動論	近代化による生活世界の合理化と植民地化

- | | | |
|----|---------------|------------------|
| 11 | アーレントの公共性論 | 全体主義と画一性への批判と複数性 |
| 12 | 闘技民主主義と熟議 | ムフの思想とミニ・パブリックス |
| 13 | 地域における社会運動の実践 | ゲスト講師による講演 |
| 14 | まとめ | 全体のふり返り |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未來社）を出発点とし、この本をめぐる展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（65%）と期末レポート（35%）。昨年度よりレポートの比重を重くし、採点を厳格化するので、単位取得はやや難しくなる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

春学期は動画配信によるオンデマンド授業を予定している。Hoppiiによるメール連絡（特にリアクションペーパーの提出方法）に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the history of the idea of publicness and its contemporary significance.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(65%) and final report(35%).

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に
関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「公共性」とは、現実存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

とりわけ外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む“壁”がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

授業終了時に提出してもらったリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー鑑賞
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐる
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロナリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不服従と直接行動	“非暴力”的 direct action を理性化する
12	「沈黙」とジェンダー	トーン・ポリシングとマンスプレイング
13	政治教育の可能性	教育における中立性とは
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。

【成績評価の方法と基準】

【秋学期もオンライン授業になる場合】春学期と同様、リアクションペーパー（65%）と期末レポート（35%）。昨年度よりレポートの比重を重くし、採点を厳格化するので、単位取得はやや難しくなる。

【秋学期は対面授業を行う場合】

リアクションペーパー（20%）と期末試験（80%）。適宜提出を求め、リアクションペーパーに必ず意見を書くこと（「代筆」には厳しく対処する）。

期末試験の問題は事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポートによる救済措置は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the reality of publicness and social issues.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(65%) and final report(35%).

COT300ED

プログラミングと論理的思考

鈴木 麻美

サブタイトル：特講（プログラミング上級）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、はじめに「どのような筋道でプログラムを組むか」を検討し、それを記述するところから始める。自分の考えをまとめ、さらに他人への説明を行うには、この「思考をきちんと記述すること」を学ぶことが重要である。プログラミング以外の様々な場面において「きちんと思考し、それを他人へ伝えること」を学ぶことを目的とする。さらに、各自のプログラミング技術を発展させ、より自由に目的に応じたプログラミングを組むための応用力の習得を目指す。

【到達目標】

目的にあったプログラムを、フローチャートをしっかり書くことで、自分自身の考え方を明確にし、その上で目的にあった他人も理解しやすく、間違いにも気づきやすいプログラムを組むことを目的とする。さらに、各課題について、毎回発表することで、互いの作品を理解し合いながらより深く理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今年度に関しては Zoom を用いたのオンライン講義とする。課題について各自がプログラムを作成し、さらにその完成したプログラムを Zoom 上で他の学生へ紹介しあうことで、自分自身のスキルアップを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明と、各自のこれまでの授業で学んだ内容の確認
2	繰り返し計算（1）	繰り返しの計算を用いた課題の作成
3	繰り返し計算（2）	繰り返しの計算を用いた課題の発表
4	数値の判定（1）	数値に対する判定を用いた課題の作成
5	数値の判定（2）	数値に対する判定を用いた課題の発表
6	数値の判定（3）	数値に対する判定を用いた応用問題への取り組み
7	数値の判定（4）	作成したプログラムの発表
8	繰り返しと数値の判定の応用（1）	応用問題についてのフローチャートの作成
9	繰り返しと数値の判定の応用（2）	プログラム検討と作成
10	繰り返しと数値の判定の応用（3）	プログラム成果発表
11	最終課題作成（1）	フローチャート作成
12	最終課題作成（2）	プログラム作成
13	最終課題作成（3）	プログラム作成・検討
14	最終課題提出	プログラム成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題に関しては、これまで各自が学んだスキルの中からどれを用いて取り組んでも構わない。各自がそれぞれの工夫により、自由にプログラムを作成してもらいたい。授業に積極的に参加してくれることを期待する。毎回の授業の予習復習は、おおむね合わせて 4 時間程度と考えられるが、課題の内容によりもっと多くの時間を要することもあるが、しっかり取り組んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

適宜指定

【成績評価の方法と基準】

授業における課題の取り組み状況 (50%) と作品の提出物 (50%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

簡単なプログラムは考え方の道筋を示す「フローチャート」を書くよりも先にプログラムを完成させ、後からフローチャートを書く学生が多い。問題が難しくなると初めて「フローチャート」の必要性が分かるようだ。一方で、この「フローチャート」は、日々の生活の中でも常に頭に描きながら思考・行動することで「危機管理能力」などの様々な効果を得られるものである。論理的思考力を身につけるために、はじめから自分の思考を記述できるように「フローチャート」をきちんと書くことで学習効果を高めたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のために、Zoom での講義に参加できる環境と、プログラミングが可能な自宅の PC または学内の PC を使って参加してください。

【Outline (in English)】

We learn logical thinking with programming, and we have an aim that apply it to programing. Further the main purpose is learning to write a flow chart to build a program. Every students must prepare sufficiently. Grading will be determined by homework and examinations.

COT300ED

ウェブ・プログラミングA

森 幹彦

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、Webを実現させている技術について理解し、Webを用いて自ら情報発信できるようなプログラミングを実践する。特に、Webサイトを構成する基本的な言語であるHTMLを中心として、発信したい情報を意図した通りに表現できるようにする。

【到達目標】

- (1) 意図したとおりの動作をHTMLなどにより実現できる。
- (2) Webサイトの構成を用いることができる。
- (3) 発信する情報に応じた適切な表現法を選べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業では、最終的に各自の興味に応じたWebサイトの制作をする。その各自の制作に関係づけて、各回の授業内で課題の試行錯誤を通じて理解を深めていく。各回の授業を実践的にするため、指定した準備学習を各自が行っていることを前提とする。準備学習での不明点などは、授業中に積極的に質問することが必要である。授業内容が理解できていることを確認するため、適宜レポート課題を課す。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・Webの仕組み	授業の概要説明をする。また、サーバとクライアントの違いとWebページのつながり方について理解する。
第2回	HTMLの基本	HTMLタグによるテキストデータの意味付けの方法を知り、Webページの構成を理解する。
第3回	ハイパーリンクとファイルの保存場所	HTMLファイルが保存されている場所との関係と記述法を知り、Webページをリンクで繋ぐ方法を理解する。
第4回	Webサイトの企画	公開したい情報を整理し、ページ構成を考える。グループ内で企画を相互評価する。
第5回	構造化された情報	段落、見出し、リスト、表の表示の方法を理解する。
第6回	CSSの基本	CSSの考え方を知る。
第7回	CSSの活用	文字の強調の方法をCSSで変えるなど、CSSを利用して表示を切り替える方法を理解する。
第8回	メディア情報の表示	画像や動画などのメディアファイルをWeb上で表示する方法を理解する。
第9回	Webページの制作	HTMLとCSSを使って1ページのコンテンツを制作する。
第10回	JavaScriptの基本	HTMLとCSSをダイナミックに変化させる方法を理解する。

第11回 JavaScriptの活用

JavaScriptによるプログラミングの方法を理解する。

第12回 Webサイトの制作

企画にしたがって自分のWebサイトを制作する。

第13回 Webサイトの修正

教員やグループ内からのフィードバックをもとにコンテンツの修正・追加をする。

第14回 発表と相互評価

制作したサイトを発表し相互評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各2時間を標準として授業を進める。

準備学習として事前に紹介する資料をよく読んでおかなければならない。必要に応じて実際に試しておくことを勧める。復習時間には、適宜課したレポート課題を提出する。この他に、2つの制作は授業時間外にも作業を進めなければならない。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

指定しない。授業の中で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題(70%)：授業内の課題をもとにした毎回の小レポートにより理解度を評価する。

課題成果物(30%)：制作方法への総合的な理解について2回の制作物をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を利用する。

【その他の重要事項】

質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

In this course, students learn about the technologies that make the Web possible, and practice programming to be able to publish on the Web. In particular, this course focuses on HTML, the basic language to construct Web sites, and enables students to express the information they want to publish as they intend.

COT300ED

ウェブ・プログラミング A

石井 由起

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ホームページの制作方法、ならびにインターネットから情報の収集と表現方法を学びます。

【到達目標】

- (1) ホームページを制作できること。HTML と CSS を利用したデジタルの世界の表現の特性を理解し、制作課題に活用すること。
- (2) インターネットから必要な情報を抽出し、分析し、自作のホームページで伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ホームページがどのような仕組みで動作するのかを理解するとともに、制作に必要な HTML5 と CSS3 でホームページを作成する演習。Web 上のデータを用いて、自作のホームページ上で表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	HTML の基本	ホームページの仕組み
第 2 回	見出し・段落・強調表示	見出し・段落・キーワードの強調表示の方法
第 3 回	CSS の基本	デザイン技法の習得
第 4 回	画像表示	画像の加工と表示の方法
第 5 回	ハイパーリンク	別ページへジャンプする方法
第 6 回	絶対パスと相対パス	HTML 文書のフォルダ・ファイル構成
第 7 回	表の作成	簡単な一覧表の表示方法
第 8 回	レイアウトの基本	美しく使いやすいレイアウト
第 9 回	レイアウトの応用	デバイスや内容に応じたレイアウトの応用
第 10 回	JavaScript の基本	ページに色々な動きを与える
第 11 回	Web 上のデータの活用と表現 1	データの抽出
第 12 回	Web 上のデータを活用と表現 2	Web 上のデータの可視化と表現
第 13 回	SEO 対策・自由制作	上位検索を実現する知識
第 14 回	自由制作	ホームページの自由制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は前の回の内容を基に積み上げてスキルアップします。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。最終課題でホームページを作成するために、毎回の授業内容を自分の表現に応用しましょう。授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業中に提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、1 4 回を通した実習への取り組みを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必要です。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して課題を完成させるようにして下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is:

to design and create webpages with markup languages, including HTML and CSS.

to extract and process data from across the Internet.

Upon the completion of this course, students will be able to collect and analyze the information to create their own webpages by manipulating programming knowledge.

The preparation and completion for the weekly assignments and projects are required (2 hours/week).

Grading policy: Weekly participation and work for assignments 60%, Small projects and final project 40%.

COT300ED

ウェブ・プログラミングA

堀 亜砂実

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報発信の手段として広く利用されている Web ページを、「作る」としたところのような視点や知識、技術が必要になるのかを、実習を通じて理解していきます。

【到達目標】

- ・HTML および CSS のルールを理解し正しく使用できる
- ・閲覧者を意識して Web ページを作成できる
- ・Web ページ公開の仕組みを理解し正しく行える
- ・Web ページの表面的な見栄えにとらわれず情報の内容を判断できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、2 回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面授業時に、解答例の提示や個別コメントにより行います。

なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実習環境の確認	実習に使用するソフトを確認し HTML にふれる
第 2 回	HTML 基本	HTML で文章構造を整える
第 3 回	HTML 発展	リンクや画像等を含む HTML 文書を作成する
第 4 回	HTML5	HTML5 に即したコーディングを行う
第 5 回	CSS 基本	CSS の考え方や仕組みを確認する
第 6 回	CSS 活用	より実践的な CSS の演習を行う
第 7 回	Web サイト作成準備	作成するサイトの構成やファイル名を決定する
第 8 回	Web サイト意見交換	各自の企画について意見交換し内容を修正・補足する
第 9 回	Web サイト作成着手	自ら企画した内容を HTML 化する
第 10 回	各種サービスの活用	SNS や地図・動画を埋め込む
第 11 回	CSS での装飾	CSS で HTML の見栄えを整える
第 12 回	CSS でのレイアウト	CSS でページ全体のレイアウトを整える
第 13 回	補足とまとめ	これまでの実習を振り返り修正を行う
第 14 回	相互評価	完成した Web サイトを受講者間で相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・順次新しい内容を取り上げるため積極的に復習を行うこと。
 - ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
 - ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の授業資料に目を通し、課題に取り組んでおくこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書なし。参考サイト等は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・小課題の合計（授業内課題）：60%
 - ・大課題の合計（試験に相当し、学期中に 2 回出題予定）：40%
- 大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

2 年から 4 年まで、目指す進路などもバラバラの色々な社会学部生が履修します。技術的には同じことを学んでそれを活用してもらいますが、課題として作成する Web サイトのテーマは一定の要件のもと各人が決めるので様々な作品が出来上がり、それを見てもらう・見せてもらう、どちらも良い経験になるようです。

【学生が準備すべき機器他】

授業は総合棟 3 階情報実習室にて、WindowsPC を使って行います。Mac 所有者でも予習復習等に問題はありませんが、Windows とは手順等異なる部分もあるので注意して下さい。

【その他の重要事項】

・質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand how to make Web pages, especially the basics of HTML and CSS.

As the goals of this course, students should be able to do the followings:

- Write HTML and CSS correctly.
- Make web pages for someone who might browse them.
- Understand the steps to publish web pages.
- Evaluate the information values contained any kinds of web pages regardless of their appearances.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%

If you will skip midterm or final work, you'll get the grade E.

COT300ED

ウェブ・プログラミングB

森 幹彦

サブタイトル：プログラミング中級 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、JavaScript を用いて Web アプリケーションのプログラミング手法を学び、Web アプリケーションにおける適切なインタラクション（相互作用）の設計について理解する。また、Web アプリケーションの制作を通じて実践する。

【到達目標】

- (1) プログラミングによりデータを加工できる。
- (2) Web アプリケーションを意図どおりに動作させられる。
- (3) 発信する情報に応じた適切なインタラクションを選べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿った例題をベースにして動作を確認していく。最終的に、各自の興味に応じた Web アプリケーションの制作を企画し実施する。それを目指して、各回の授業内で課題を通じて理解を深める。その際に、自身の制作に関係づけて試行錯誤をする。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・プログラミングの基礎	授業の概要説明をする。また、コンピュータの動作原理を知る。
第 2 回	Web アプリケーションの仕組み	ブラウザ上でアプリケーションが動く仕組みを理解する。
第 3 回	変数・演算・代入	データを操作し保存する方法を理解する。
第 4 回	オブジェクトの基本	オブジェクトとデータの関係を理解する。
第 5 回	オブジェクトの活用	オブジェクトの使い方を理解する。
第 6 回	繰り返し処理	処理を繰り返す方法を理解する。
第 7 回	条件分岐	条件によって処理を変える方法を理解する。
第 8 回	関数とイベントハンドリング	ユーザの操作が伝わる仕組みと、そのために必要な関数という考え方を理解する。
第 9 回	フォームの操作	ブラウザ上の要素からのイベントを取り込む方法を知る。
第 10 回	定期的な処理	一定間隔で繰り返す処理について理解する。
第 11 回	Web アプリケーションの企画	Web アプリケーションを制作する準備をする。グループ内で企画を相互評価する。
第 12 回	Web アプリケーションの制作	企画にしたがって Web アプリケーションを制作していく。
第 13 回	Web アプリケーションの修正	教員や他の学生からのフィードバックをもとに、コンテンツの修正をする。
第 14 回	発表と相互評価	制作した Web アプリケーションを発表し相互評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準として授業を進める。準備学習として事前に紹介する資料をよく読んでおかなければならない。必要に応じて実際に試しておくことを勧める。復習時間には、適宜課したレポート課題を提出する。この他に、Web アプリケーションの制作は授業時間外にも作業を進めなければならない。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

指定しない。授業の中で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (70%)：授業内の課題をもとにした毎回の小レポートにより理解度を評価する。

課題成果物 (30%)：制作方法への総合的な理解について 2 回の制作物をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を利用する。

【その他の重要事項】

ウェブ・プログラミング A の事前受講を強く推奨する。

質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn programming techniques for Web applications using JavaScript and understand how to design appropriate interactions in Web applications. Moreover, students will practice by creating their own Web applications.

COT300ED

システム・プログラミングA

堀 亜砂実

サブタイトル：UNIXシステム実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Apple 社のコンピュータ用 OS「MacOS」のベースやサーバ用に広く使われる OS「UNIX」の実習により、多様なコンピュータ・携帯端末や、インターネットを用いたサービスの仕組みへの理解を深めます。

【到達目標】

- ・ UNIX コマンドによる基本操作の習得
- ・ UNIX を搭載したサーバで動くプログラムの作成
- ・ 論理的思考によるプログラムの動作機序への理解
- ・ 日頃インターネットを通じて利用している様々なサービスの仕組みへの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、試験の代わりに大課題を2回程度出題し、積み重ねて反復で技術と知識を習得します。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面授業時に、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実習環境の確認	実習に使用するソフト等を確認する
第 2 回	ファイルとディレクトリの理解	UNIX のディレクトリ構造やパス指定を学ぶ
第 3 回	UNIX のテキストエディタ	「Vim」の基本操作を学ぶ
第 4 回	ファイルとディレクトリの操作	オプションやワイルドカードを活用しディレクトリやファイルを操作する
第 5 回	HTML の編集とパーミッション	Vim により簡単な HTML を編集し公開する
第 6 回	シェルスクリプト導入	シェルスクリプトを実行・編集する
第 7 回	シェルスクリプト基本	工夫のあるシェルスクリプトを作成し発表する
第 8 回	シェルスクリプト活用	学んだ内容を活用し役に立つシェルスクリプトを作成する
第 9 回	Web と UNIX	Web と UNIX サーバについて
第 10 回	Web プログラミング基本	CGI による Web ページ作成
第 11 回	Web プログラミング活用	CGI によりインタラクティブな機能を実現する
第 12 回	復習	学んだ内容を復習し理解を深める
第 13 回	Web システム	簡易的な Web システムを作る
第 14 回	UNIX の活用まとめ	学んだ UNIX の活用法を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 毎回新しい事柄を取り上げるので、復習を積極的に行うこと。
 - ・ 大課題は授業外の作業が必要なので、計画的・積極的に取り組むこと。
 - ・ やむを得ず欠席した場合は、次の出席時までに、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書の指定なし。授業時に参考文献や Web サイトを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 小課題の合計（授業内課題）：60%
 - ・ 大課題の合計（試験に相当し、学期中に 2 回出題予定）：40%
- 大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

この科目では、UNIX OS での全ての操作を文字ベースで行うため、最初は「ファイルのコピー」のような初歩的操作にも苦労するかも知れませんが、操作に慣れ、プログラムを書けるようになってくると面白いはず。

【学生が準備すべき機器他】

授業は社会学部棟 101 教室の Mac で行いますが、授業内容のごく一部を除き、予習・復習等は Windows のコンピュータでも可能です。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中および授業前後に受け付けます。

【Outline (in English)】

This course will help you to use many basic UNIX commands and to get how to make shell scripts and CGIs.

As the goals of this course, students should be able to do the followings:

- Handle files by UNIX commands.
- Write CGIs for any purposes.
- Get logical thinking skills.
- Understand how web-based service works.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%

If you will skip midterm or final work, you'll get the grade E.

COT300ED

システム・プログラミングA

金井 明人

サブタイトル：UNIXシステム実習
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：月3/Mon.3
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では情報社会の根幹部に位置している UNIX 的なシステムと、それに関するシェル・プログラミングを、Web と関連付けた実習を通して学ぶ。

メールや WWW における情報交換や検索、アドレスの設定・データベースなどを支える仕組みとして、サーバとよばれるコンピュータがインターネットでは常に動作している。その中で、現代のインターネットにおいて、多く使われているのが、UNIX や、そこから派生した Linux とよばれる OS (Operating System) を採用しているコンピュータである。UNIX は、長時間安定稼働し人数同時利用が可能であるため、サーバコンピュータに適している。現在は Mac でも UNIX の仕組みが採用されているし、iPhone などの iOS や Android も、UNIX や Linux とのつながりが深い。

本授業では UNIX システムにおけるコマンドとファイル入出力、およびサーバの位置づけなどの様々な仕組みとその構築を Web に関連させたプログラミング・実習を通して学ぶ。

【到達目標】

インターネットを使いこなせるだけでなく、その全体の仕組みやシステムに関する理解を、UNIX システムに関するプログラミングを通して深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Mac と Linux サーバーを用いた実習を中心とする。

授業期間中に随時、課題を出す。この課題を通して、UNIX システムとその仕組みに慣れていってほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	UNIX システムの例	身近にある UNIX と関連したシステムの説明
第2週	UNIX の簡単な利用	UNIX を利用する
第3週	Mac と UNIX	Mac で UNIX を利用する
第4週	Mac でコマンド	Mac で UNIX のコマンドを学ぶ
第5週	シェルスクリプト	簡単なスクリプト作成
第6週	シェルスクリプトの応用	応用的なスクリプト作成
第7週	UNIX システムとは	UNIX の仕組みのまとめ
第8週	ネットワークの仕組み	インターネットにおける UNIX
第9週	ネットワーク・データベースの仕組みと UNIX サーバ	UNIX サーバの仕組み
第10週	UNIX と Web	UNIX と Web サーバの詳細
第11週	UNIX と Web プログラミング	UNIX サーバを介した Web プログラミングの仕組み
第12週	UNIX と Web プログラミングによる情報システム	UNIX サーバを介した情報システムの Web プログラミングと管理
第13週	まとめと最終課題	最終課題の提示

第14週 最終課題提出 最終課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするので、授業外でも作業をすること。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜テキスト・参考書を指定する。

【参考書】

講義時に適宜テキスト・参考書を指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題 (50%) と、論文課題 (50%) を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

UNIX など、様々なシステムとプログラミングに関する最新の話題も提供していきたい。

【その他の重要事項】

大学のシステム管理経験をふまえた授業になる。

【Outline (in English)】

This course deals with the UNIX systems and shell programming. The goals of this course are to establish the skill of UNIX shell programming. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term paper: 50%, in class contribution: 50%

COT300ED

システム・プログラミングB

森 幹彦

サブタイトル：プログラミング中級 C
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 3/Mon.3
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは様々な情報処理をするコンピュータに囲まれており、情報サービスなどの見えない場所にあるコンピュータも多数あります。多くのコンピュータは、オペレーティングシステム (Operating System: OS) が動くことで個々のコンピュータの差異を吸収して、統一的な処理が行えるようになっています。本授業では、OS の仕組みと操作法について基礎的な知識と技能を身につけることを目的とします。そこで、まず OS 操作を学んだ後に自動化をするシェルスクリプトについて学びます。その後、コンピュータ上の様々なリソースを活用できるプログラミング言語 Python について学びます。

【到達目標】

毎回のテーマに沿った実習を行い、OS をはじめとするコンピュータシステムの挙動や、プログラミングの基本的な考え方を習得できます。ただし、プログラミングの習得は、この授業だけでは不可能です。そこで、自分で学習を進めていくための方法について、実習を通じて習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに合わせて課題を実施する形式で授業を進めます。授業計画は授業の展開によって変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の目標、予定、進め方 + α
第 2 回	シェル操作の導入	Linux 環境の使用法について簡単に学びます。
第 3 回	ファイルとディレクトリ	Linux のファイル・ディレクトリ構造と操作方法や関連するコマンドについて学びます。
第 4 回	検索と正規表現	コンピュータシステムにおいて、情報の検索は極めて重要な操作の 1 つです。ここでは、テキスト形式のファイルについて、正規表現を用いた検索方法と関連するコマンドについて学びます。
第 5 回	パイプライン	Linux では様々なコマンドが存在しています。また、コマンドを組み合わせて、複雑な処理をプログラミング等することなく実現できます。ここでは、その要素であるパイプラインについて学びます。
第 6 回	シェルスクリプト (1)	パイプラインより、さらに複雑にコマンドを組み合わせることにより、より複雑な処理を実現できます。ここでは、その実現方法の 1 つであるシェルスクリプトについて学びます。

第 7 回 シェルスクリプト (2)

パイプラインより、さらに複雑にコマンドを組み合わせることにより、より複雑な処理を実現できます。ここでは、その実現方法の 1 つであるシェルスクリプトについて学びます。

第 8 回 Python 入門 (1)

プログラミング言語の 1 つである Python について学びます。今回は、環境の使用法、変数や Print 文について学びます。

第 9 回 Python 入門 (2)

プログラミング言語の 1 つである Python について学びます。今回は、制御構文について学びます。

第 10 回 Python 入門 (3)

プログラミング言語の 1 つである Python について学びます。今回は、制御構文について学びます。

第 11 回 Python 入門 (4)

プログラミング言語の 1 つである Python について学びます。今回は、ファイル入出力・ファイル処理について学びます。

第 12 回 Python 入門 (5)

プログラミング言語の 1 つである Python について学びます。今回は、ライブラリを使用する方法を pandas を例に学びます。

使用するライブラリは変更の可能性があります。

第 13 回 Python 演習 (1)

これまでに学んできた Python の使用方法の定着を図るため、基本～やや応用の演習問題に取り組みます。

第 14 回 Python 演習 (2)

これまでに学んできた Python の使用方法の定着を図るため、やや応用～応用の演習問題に取り組みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、前回までの内容ができることを前提に進めます。各回の内容が十分に達成できていない場合や欠席した場合は、自習した上で授業に臨んでください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定はありません。ただし、Linux や Python の参考書は無償、有償を問わず、自分が理解できそうなもの、自分に合っているものを用意してください。まずは自己解決を試みる体制・姿勢の整備が必要です。

【参考書】

テキストと同じです。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (70%) と最終課題 (30%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をします。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行います。

【その他の重要事項】

質問は原則授業中に受け付けます。その他のコミュニケーション手段でも受け付けます。詳細は、初回授業で説明します。

【Outline (in English)】

We are surrounded by various computers that process information, and there are many computers that are invisible to us, such as information services. Many of these computers have an operating system (OS) that absorbs the differences in hardware and enables them to process information in a standardized procedure.

The aim of this course is to acquire basic knowledge and skills of OS mechanisms and its usage. First, the students learn about OS operations, and then they learn about shell scripts for automation. Next, students learn Python, a programming language that can handle various computer resources.

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの基幹として、Web ページの作成方法を中心に説明する。

【到達目標】

Web ページの作成方法の基本部分を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、Web ページの基本となる HTML の知識の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language) の基本概念
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本
第 3 回	HTML タグ(続き)	様々な HTML タグについて
第 4 回	HTML 属性	属性とは？
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクについて
第 6 回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第 7 回	表(テーブル):続き	HTML のテーブルについて(続き)
第 8 回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第 11 回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第 12 回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第 13 回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終課題の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業が出来ない場合は個人用パソコンを用意のこと。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn basic knowledge of making Web page.

【Learning Objectives】

Understand the basics of making Web page.

【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの基幹として、Web ページの作成方法を中心に説明する。

【到達目標】

Web ページの作成方法の基本部分を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、Web ページの基本となる HTML の知識の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language) の基本概念
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本
第 3 回	HTML タグ(続き)	様々な HTML タグについて
第 4 回	HTML 属性	属性とは？
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクについて
第 6 回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第 7 回	表(テーブル):続き	HTML のテーブルについて(続き)
第 8 回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第 11 回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第 12 回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第 13 回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終課題の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 提出課題：70% で評価する。最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】

有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業が出来ない場合は個人用パソコンを用意のこと。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn basic knowledge of making Web page.

【Learning Objectives】

Understand the basics of making Web page.

【Learning activities outside of classroom】

The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

SOC300ED

特講（コミュニケーション・デザイン論）

石寺 修三、青木 貞茂

サブタイトル：Communication Design
 開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 4/Wed.4
 他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は広告会社である（株）博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成します。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指します。

【到達目標】

- 講義を通じて皆さんに学んでほしいことは、以下の通りです。
- ①コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。
 - ②コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個人が自律的に創発しあう関係構築に関与できるようになる。
 - ③自分の考えを効果的に伝えることに関する基本的な知識とスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【講義の構成】

本講座はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進めます。

- I. 基調講義 II. 発見するチカラ III. 考え抜くチカラ IV. 創りあげるチカラ V. 伝えるチカラ

【講義の形態】

対面を基本とし、毎回出席をとります。コロナウイルス禍の状況により、講義を zoom によるオンライン形式で行うことがあります。その場合、チャット/アンケート/ブレイクアウトルームなどを活用し、リアル講義時のエッセンスを維持することを目指します。

【課題に対するフィードバック】

毎回入力してもらう「学びと気づき」を随時、講義内で引用するほか、個人/グループでの発表に対しても、その場で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学びます。
2 回	発見するチカラ (1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(生活者発想の視点から)
3 回	発見するチカラ (2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(観察調査の視点から)
4 回	発見するチカラ (3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(統計データの視点から)
5 回	考え抜くチカラ (1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。(論理的とは何か)
6 回	考え抜くチカラ (2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。(論理を組み立てる構造)
7 回	考え抜くチカラ (3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。(ロジックチャートの作り方)
8 回	創りあげるチカラ (1)	他者と創発しあう新しいアイデアを生むための手法を学びます。(ワークショップのやり方)
9 回	創りあげるチカラ (2)	他者と創発しあう新しいアイデアを生むための手法を学びます。(ワークショップによるアイデア創造)
10 回	創りあげるチカラ (3)	他者と創発しあう新しいアイデアを生むための手法を学びます。(ワークショップによる課題テーマ解決)
11 回	伝えるチカラ (1)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(コンセプトを創造する)
12 回	伝えるチカラ (2)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(キャッチコピーの書き方)

13 回	伝えるチカラ (3)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(広告表現の作り方)
14 回	試験 (論文課題)	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物 (ポスター) の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終回のプレゼンテーションに使用するポスター制作以外に、いくつかの講義で簡単な事前課題を付与します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 本講義は授業で学んだことを日常生活で実践することで大きな気づきが得られる構成となっています。学生諸君がここでの学びを、普段のゼミ活動や論文・レポート作成などで積極的に実践することを期待します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、講義に関連する参考書を推奨します。(参考書欄を参照のこと)

【参考書】

博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』（日本経済新聞社,2010）
 博報堂生活総合研究所『生活者の平成 30 年史』（日本経済新聞社,2019）
 博報堂生活総合研究所『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』（宣伝会議,2021）

【成績評価の方法と基準】

【成績評価について】

出席状況に基づく平常点 (80 %) と論文課題 (20 %) で評価を行います。

【出席確認について】

出席確認は、①対面あるいは zoom 上での出席確認 と ②講義の翌日 24 時までに学習支援システム内の「課題」欄に入力する“学びと気づき”の 2 つが揃った者を「出席」と認めます。なお、対面あるいは、zoom への講義開始後 30 分以降の入室と、講義終了 30 分以前の退室は「出席」とみなさないで注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の翌日 24 時までに授業に関する“学びと気づき”を、学習支援システムの「課題」欄に入力することをルールとします。なお、記入された内容は、次回以降の授業に随時反映させていただきます。加えて、学習支援システム内の「授業内掲示板」も活用して、インタラクティブなやりとりを進めたいと思います。学生諸君の積極的な書き込みを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

- ①配布したレジュメに書き込みながら受講する講義が中心となります。あらかじめ紙で出力したレジュメと筆記用具を用意して受講してください。レジュメのファイルと受講用 URL は、講義前日までに学習支援システムの「お知らせ」上で周知・配布します。
- ②オンラインでの講義の場合は、パワーポイントを画面共有して進めるので、受講はスマートフォンよりも、文字を視認しやすい PC 上での受講を推奨します。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】

本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結しますが、同時に 1 つのテーマのもとで連続性を持った構成となっています。その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するので、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望します。

【Outline (in English)】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.

What I want you to learn from the lecture is the following:

1. Realize how difficult and fun it is to “think” and “create,” which are important in the act of communication.
2. Experience the perspectives and skills of communication professionals to enable you to build autonomous and emergent relationships.
3. Acquire basic knowledge and skills by effectively communicating your ideas. In addition to creating posters to be used in the final presentation, simple preliminary assignments will be given in some lectures. The standard preparation and review time for this class is two hours. This lecture is structured so that students can gain a great deal of insight by practicing what they learn in class in their daily lives. I hope that students will apply what they have learnt here in their everyday seminar activities and in their papers and reports. Students will be evaluated on ordinary points (80%) which are based on their attendance and the paper assignment.

SOC300ED

外書講読（メディア社会学）1 A

水野 剛也

サブタイトル：特講（外書講読 メディア社会学 1 A）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容についてゼミ形式で大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を旨とする共同作業を意味する。

【到達目標】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な英語の文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、かつその内容についてゼミ形式で大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を旨とする共同作業を意味する。

受講者数によるが、現時点では、全員が同じ文献・学術論文を精読した上で、数名がその主要な知見や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。ゼミ形式で大学院に匹敵するハイレベルなディスカッションをするため、希望者が多数の場合は、何らかの方法で選抜する。

講義内容や文献・学術論文に関する質問には、基本的にはすべて講義内で答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	全体説明
	すべてのディスカッションは対面でおこなう。適宜、オンライン課題を設ける可能性もある。	
第2回	講読(1)	知見の発表とディスカッション
第3回	講読(2)	知見の発表とディスカッション
第4回	講読(3)	知見の発表とディスカッション
第5回	講読(4)	知見の発表とディスカッション
第6回	講読(5)	知見の発表とディスカッション
第7回	講読(6)	知見の発表とディスカッション
第8回	中間レヴュー	知見の発表とディスカッション
第9回	講読(7)	知見の発表とディスカッション
第10回	講読(8)	知見の発表とディスカッション
第11回	講読(9)	知見の発表とディスカッション

第12回	講読(10)	知見の発表とディスカッション
第13回	講読(11)	知見の発表とディスカッション
第14回	総括(12)	これまでの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎毎回、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する英語の文献・学術論文をあらかじめ精読し、全体像を理解した上で、大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション（建設的な討論）のために所感・疑問などを整理しておくことが必須である。準備学習・復習時間は各2時間を標準とするものの、本格的な英語の文献・学術論文を多量に精読するため、一定程度の読解能力が必要で、その場合でも受講者によってはかなりの時間を要する。

【テキスト（教科書）】

適宜、教員が指示・配布する。

【参考書】

適宜、教員が指示・配布するが、ほとんどの場合、受講者自身が参考資料・文献を集める。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、おおまかに、授業参加（ディスカッション含む）＝90%、その他＝10%程度とする。その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。積極的な参加が評価を大きく左右する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

昨年度までとは違う教員が担当するため、内容・方針・評価基準も大幅に異なる点を通告しておく。

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する文献・学術論文を多量に精読するため、この分野に興味・関心のない（薄い）者の受講はすすめない。

また、本講の目的は、英語の文献・学術論文を精読し、理解することを最低限とした上で、大学院に匹敵するハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をすることなので、単なる英語読解を超えた能力を要する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to experience the high-level, or almost graduate-level, practice of academic, constructive discussion by reading as much quality English-language literature on journalism and mass media studies as possible.

SOC300ED

外書講読（メディア社会学）1 B

吉田 公記

サブタイトル：特講（外書講読 メディア社会学 1 B）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では社会学の学術誌に掲載された研究論文を講読し、英語文献の読み方の基礎を学ぶ。

【到達目標】

英語で書かれた学術的な文章を正確に理解する技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では文単位で正確に理解することと、パラグラフなどまとまった単位で内容を理解することの両面に重点を置きながら読み進めていく。受講生は解説を聞いて各自の訳文（場合によっては要約）を添削し、疑問点や問題点を解決する。受講生に訳文や要約を発表してもらうこともある。提出課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。授業計画は展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・社会学の入門的な文章の講読①	授業の概要説明
第2回	社会学の入門的な文章の講読②	第1回授業分の解説
第3回	講読論文を読む①	Abstractを読み、論文の全体像を把握する
第4回	講読論文を読む②	Introductionを読む①
第5回	講読論文を読む③	Introductionを読む②
第6回	講読論文を読む④	Methodを読む①
第7回	講読論文を読む⑤	Methodを読む②
第8回	講読論文を読む⑥	Analysisを読む①
第9回	講読論文を読む⑦	Analysisを読む②
第10回	講読論文を読む⑧	Analysisを読む③
第11回	講読論文を読む⑨	Analysisを読む④
第12回	講読論文を読む⑩	Discussion and conclusionを読む①
第13回	講読論文を読む⑪	Discussion and conclusionを読む②
第14回	まとめ	これまでに学んだ内容の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定された範囲の訳文（場合によっては要約）を準備し、わからなかった箇所や難しかった箇所は疑問点を明確にしておくこと。前々日までに学習支援システムから訳文（場合によっては要約）を提出することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Brigitte Nerlich and Rusi Jaspal, 2021, "Social representations of 'social distancing' in response to COVID-19 in the UK media," *Current Sociology*, 69(4): 566-583.
<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/0011392121990030>

*なお、初回授業の時点で文献が入手困難な場合、変更する可能性がある。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題点：100%

*課題がほぼ毎回ある。内容は、①授業で読む範囲の訳文（場合によっては要約）の提出（授業前）と②自己添削物の提出（授業後）が中心となる。

*評価は課題点をベースとするが、授業への参加姿勢なども考慮し、総合的に評価する。期末試験・期末レポートは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書、スマートフォンの辞書でも可）

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付ける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn skills to read academic (sociological) papers written in English. Students are required to translate or summarize specified parts of the paper in advance to prepare for the classes.

SOC200EC, SOC200ED

メディア文化論

稲増 龍夫

サブタイトル：メディア文化論Ⅱ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストモダン社会の深化と、ネットメディアの発展が相関している構図を多角的に析出し、今を映したビビッドな現代社会論を目指します。

【到達目標】

日常的に接しているメディア文化現象を素材に、ポストモダン社会論とネットメディア論がいかにシンクロしているかを理解し、テクノロジーの文脈で語られてきたネットメディアの社会学的背景を概観します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本は映像資料を駆使した講義形式ですが、全員参加の「白熱教室」＝ソクラテス的対話形式を導入します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概略と進め方のオリエンテーション
2	ポストモダンとは何か	すみわけ社会と分断社会の相克
3	高度消費社会の実相	現代広告における「差異化」の文法
4	アイデンティティの変容	「自分探し」の現代的構図
5	第1回白熱教室	ミニレポートと討論
6	価値の相対化と「正義」の解体	アメコミヒーローの変遷
7	アイドル工学	アイドル文化の日本的特性
8	メディアとしてのテレビゲームとARの位相	双方向のベクトルの進化とリアリティの変容
9	第2回白熱教室	ミニレポートと討論
10	インターネットの社会的変革力	インターネットの歴史とそのポストモダン性
11	グーグル化する社会におけるプライバシー問題	個人情報と私企業に提供して得られる便益とその危険性
12	ネット時代の著作権と二次創作の時代	モダンの時代に確立した著作権の変容を解説
13	第3回白熱教室	動画投稿サイトによって生まれた新たなメディア制作者としてのYouTuberに注目する
14	白熱教室（補講）、	総括とミニレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今という時代のメディア文化の変容に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

3+1回の白熱教室で評価をおこない（100%）、定期試験はおこないません。毎回の出席は取りませんが、白熱教室に参加するには出席が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

ネットに関する最新の動向をフォローしている受講者から「話題が古い」という指摘がありましたが、情報番組ではないので、最新情報ではなく、理論的文脈に沿った現象を取りあげています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline (in English)】

Study of Contemporary Media Culture. The purpose of this class to solve modern media culture phenomenon from the perspective of postmodern society theory. The evaluation is judged by the report(50%) and the contribution to the debate(50%) participating in several general discussions.

SOC300ED

映像制作技法

稲増 龍夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は、映像制作に興味がある受講者を対象に、昨年度から稲増1ゼミがなくなってしまったので、従来、稲増1ゼミで行っていた「多摩キャンパスニュース」の制作活動を行います。なお、後期に開講する「制作技法」との違いは、前期は、おもに初心者～初級者対象で、後期は、中級者を対象にします。

【到達目標】

一本の情報番組を自ら取材・撮影・編集することで、送り手の立場を体感し、カット割りや音楽の効果など、映像メディアリテラシーの向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

多摩キャンパスニュースはグループで制作してもらうので、授業時間外に取材・撮影をおこなうので、課外活動に全く参加できないと他の受講者にも迷惑をかけるので、特に6月に入ってからの撮影期間の1週間ほどは、実習優先でスケジュールを組んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業スケジュールの確認と課題オリエンテーション
2	参加者自己紹介	授業への期待を述べ、班分けを行います
3	ニュース・情報番組解題-1	NHK編
4	ニュース・情報番組解題-2	日本テレビ編
5	ニュース・情報番組解題-3	テレビ朝日編
6	ニュース・情報番組解題-4	TBS編
7	ニュース・情報番組解題-5	テレビ東京編
8	ニュース・情報番組解題-6	フジテレビ編
9	多摩キャンパスニュース・ガイダンス	キャンパスニュースの構成
10	企画会議	班に分かれての企画会議
11	制作撮影会議	撮影作業
12	制作撮影会議	撮影作業
13	制作編集会議	編集作業
14	課題発表会	上映と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作活動はほとんど授業時間外の活動です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)と、課題作品の制作=提出(30+30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規カリキュラム科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作の経験がなくても大丈夫ですが、相応の努力で経験者に追いついてもらいます。機材も101教室のカメラ、PCを利用できるので、個人で持っている必要はありません。

【Outline (in English)】

Artistic Techniques of Video Art. In this practice, we divide into several groups to produce news programs on the Tama campus. Most of the work, for example planning, interviewing, shooting, editing, etc, are all extracurricular activities, and there is a reasonable burden. The evaluation comprehensively judges the performance of the work and contribution to the production activities.

SOC200ED

映像制作技法

稲増 龍夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は、映像経験者を対象に、本年度から稲増1ゼミがなくなってしまったので、従来、稲増1ゼミで行っていた「ミュージックビデオ」の制作活動を行います。なお、前期に「制作技法」の単位を取得した学生で、この授業を希望する学生は相談してください。

【到達目標】

ミュージックビデオを自ら取材・撮影・編集することで、送り手の立場を体感し、カット割りや高度な編集技術の習得など、映像メディアリテラシーの向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ミュージックビデオはグループで制作してもらうので、授業時間外に取材・撮影をおこなうので、課外活動に全く参加できないと他の受講者にも迷惑をかけるので、特に11月に入ってからの撮影期間の1週間ほどは、実習優先でスケジュールを組んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業スケジュールの確認と課題オリエンテーション
2	参加者自己紹介	授業に期待することを述べてもらいます
3	ミュージックビデオ課題の実例-1	洋楽傑作ビデオの研究-1
4	ミュージックビデオ課題の実例-2	洋楽傑作ビデオの研究-2
5	ミュージックビデオ課題の実例-3	洋楽傑作ビデオの研究-3
6	ミュージックビデオ課題の実例-4	邦楽傑作ビデオの研究-1
7	ミュージックビデオ課題の実例-5	邦楽傑作ビデオの研究-2
8	ミュージックビデオ課題の実例-6	邦楽傑作ビデオの研究-3
9	企画会議	班ごとの企画会議
10	制作撮影活動	撮影作業
11	制作撮影会議	撮影作業
12	制作撮影会議	撮影作業
13	制作編集会議	編集作業
14	課題発表会	上映と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作活動はほとんど授業時間外の活動です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)と、課題作品の制作=提出(30+30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規カリキュラム科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な映像制作技術を完璧に習得し、さらなる高度な撮影技法やCGなどの編集技術に挑戦する意欲のある学生の参加を前提とします。機材は101教室のカメラ、PCを利用できますが、編集用のPCは個人所有が望ましいです。

【Outline (in English)】

Artistic Techniques of MusicVideo. In this practice we divide some groups. Most of the production activities, Planning, shooting, editing etc, are all extracurricular. The evaluation comprehensively judges the performance of the work and contribution to the production activities.

SOC300ED

映像制作実習

稲増 龍夫

サブタイトル：特講（映像制作実習）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像制作の初級～中級者を対象に、映像制作活動の基礎技術を獲得するために、応用映像制作技法を習得してもらい、法政大学デジタルコンテンツコンテストへの作品出品を目指します。

【到達目標】

映像制作活動がメインで、特にコマ撮り、アニメ、CGなどのデジタル技法をブラッシュアップし、秋の法政大学デジタルコンテンツコンテスト出品に活用してもらいます。その前に、春クールのテレビドラマの演出分析を行い、基礎的な映像リテラシーの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像制作活動に関心がある学生を対象に、デジタル技法などの応用政策を学び、その実践として、各自で、法政大学デジタルコンテンツコンテストに作品を出品してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	前期スケジュールの確認
2	受講者自己紹介	ベストテレビドラマの発表
3	テレビドラマ演出分析のオリエンテーション	ドラマ分析の基本フレームを学ぶ
4	ドラマ分析企画会議	分析担当のドラマ決定
5	テレビドラマ演出分析概論	ゲスト講師による分析紹介
6	テレビドラマ演出分析-1	春クールドラマの演出分析発表-1
7	テレビドラマ演出分析-2	春クールドラマの演出分析発表-2
8	テレビドラマ演出分析-3	春クールドラマの演出分析発表-3
9	デジタルコンテンツコンテストのガイダンス	2020 年度受賞作品の上映
10	過去の受賞作品-1	過去のデジコン受賞作品の上映=解題-1
11	過去の受賞作品-2	過去のデジコン受賞作品の上映=解題-2
12	出品作品の企画コンセプトの発表	発表検討会
13	出品作品の絵コンテの発表	発表検討会
14	出品作品の最終プレゼン	プレゼンと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作はすべて課外活動となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】

実習授業につきアンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

Production of Video Art. In this practice, we will produce works that will be exhibited in the Hosei University Digital Contents Contest. We will make full use of of the digital expression techniques we have learned. CG, etc are learned outside the department, and the evaluation is judged by the quality of the work.

SOC300ED

映像制作実習

小坂 一順

サブタイトル：特講（映像制作実習）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

VFX の基本的な知識を身につけます。

日常目にする映像コンテンツにどのように VFX が使われているかを理解します。

VFX が映像に与える影響力を学びます。

さ実習では実際に映画制作で使われている VFX の作成方法と技術を学びます。

【到達目標】

VFX とは何かを理解する。

映画や TV ドラマ、TVCM などの映像作品においてどのように VFX が使われているかを理解する。

映画制作で実際に使用するソフトウェアの基礎的な使用方法を習得し、実作業を体験する。

VFX を使用する制作する上でどのような撮影が行われているのか、行わなければならないのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

(1) VFX が映画や CM などどのように使用されているのかを実際の映像を観ながら説明する。

(2) テーマに沿った VFX がどのように撮影されているかを説明し、実際に撮影してみる。

(3) 撮影した素材を使用して、VFX 技術の基礎的な部分を実作業をしながら学び習得する。

(4) 作業結果の発表と講評を通じて、VFX 制作のコツや作り手が何にこだわっているのかを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・VFX とは何か	授業内容の説明 VFX の基礎知識 アンケート
2	VFX と映像制作のワークフロー	映画、TV ドラマ、CM はどのような作業工程で制作されているのか。そして VFX の関わり方とは。
3	VFX 技術①	課題発表 合成ソフトを学ぶ ・合成ソフト基本動作 ・Painting ・合成基礎（マスクとは）
4	VFX 技術②	合成ソフトを学ぶ ・Tracking ・Keying
5	VFX 技術③	合成ソフトを学ぶ ・Colour ・Effects
6	VFX 技術④	合成ソフトを学ぶ ・まとめと復習 編集ソフトを学ぶ ・編集ソフト基本動作

7	VFX 技術実例① VFX と美術 VFX 技術の復習と質疑応答	実際に配信されたドラマを実例に、VFX しかできないことを理解し、どのように制作されているかを学びます。
8	VFX 技術実例② VFX とアクション VFX 技術の復習と質疑応答	実際に公開されたアクション映画を実例に、アクション映画にどのように VFX が使われているかを説明します。
9	VFX 技術実例③ VFX と撮影・照明 VFX 技術の復習と質疑応答	実際に公開された時代劇映画を実例に、時代劇特有の VFX の使われ方を説明します。
10	VFX 技術実例④ VFX と監督 VFX 技術の復習と質疑応答	実際に公開された映画を実例に、一見、VFX が必要ないように思える現代劇にどのように使われているかを説明します。
11	VFX 技術実例⑤ VFX とその他の部署 (録音・操演・俳優・衣装・メイク等) VFX 技術の復習と質疑応答	映画以外のコンテンツ映像（TVCM やイベント映像など）にどのように VFX が使われているかを説明します。
12	VFX 技術実例⑥ VFX とプロデューサー VFX 技術の復習と質疑応答	海外で公開された映画を参考に、日本と海外では VFX の使われ方に違いがあるのかを説明し、日本の映像業界全体における海外との違いを理解します。
13	VFX 総合技術①	課題作品の発表
14	VFX 総合技術②	課題作品の講評 アンケートと感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作は授業時間内では終わらない為、つづきを課外活動で行うことになります。

制作する映像に関してはテーマに則していれば自由なので、時間外の制作時間についても期日を守れば自由です。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80 %）+ 課題（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

第一回目の授業では実際に授業に参加する学生の要望を聞くためのアンケートを実施します。アンケート結果は参考にし、授業の内容そのものを変えるようなことは致しません。

最後の授業でもアンケートを行い、授業内で聞くことができなかった感想や授業に対する評価を聞きます。これはもし来期以降授業がある場合に参考にいたします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、比較的新しい Mac か PC があれば、自由に自習ができるので推奨します。

ですが、持っていないなくても問題ありませんし、授業に持参する必要もありません。

【その他の重要事項】

上記の授業のテーマと内容は授業の進行状況と理解度によって変更になる場合があります。

現在も日本映画やテレビドラマの VFX スーパーバイザーとして又、VFX 会社の代表取締役として活動している教員が教えます。

授業中に推薦する資料以外での予習は全く必要ありません。

全くの CG 制作映像制作初心者でも問題ございませんが、最低限のコンピューターを操作する知識は必要です。

物理学や美術、プログラミング、CG 検定などの知識を得ている必要もありませんし、獲得も目指していません。より実践的な技術と知識の獲得を目指していただきます。

【Outline (in English)】

Course outline

The students acquires basic knowledge of VFX in this course.

Next.The students understand how to use VFX for picture contents and learn the influence.

Training of the VFX production

Learning Objectives

In the training, the student acquires a making method and a technique of VFX which is actually used by movie production.
 Learning activities outside of classroom
 Maybe the theme production is not over in the school hour.
 So students will perform a continuance by extracurricular activities.
 Grading Criteria /Policy
 Your overall grade in the class will be decided based on the following
 The learning situation by the class(80%)
 The theme production(20%)

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。毎回課題を学習支システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第 2 回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第 3 回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第 4 回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第 5 回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第 6 回	ブランドと広告 (1)	ブランディングに効果的な広告とは
第 7 回	ブランドと広告 (2)	ブランディングに効果的な広告とは
第 8 回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第 9 回	明治から昭和初期の 広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第 10 回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第 11 回	高度成長期・バブル期の 広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第 12 回	現代の日本と世界の 広告	現代の広告表現の動向と課題
第 13 回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第 14 回	試験・まとめ	論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について
第13回	クロス・メディア（2）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

SOC300ED

広告制作実習

青木 貞茂

サブタイトル：特講（広告制作実習）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-202003251814407/>

【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第 3 回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第 4 回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 5 回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 6 回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第 7 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 8 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 9 回	生活者インサイトの発見 (1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 10 回	生活者インサイトの発見 (2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 11 回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第 12 回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成
第 13 回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第 14 回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイデア』（インプレスジャパン、2007 年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008 年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（70 %）、最終課題となる広告制作表現（30 %）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。
【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

PRI200ED

情報科学とコミュニケーション

金井 明人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを、情報科学の理論を用い、総合的に把握し、解析することを旨とする。特に、情報理論、システム理論、物語論および認知科学・人工知能の方法論を取り上げる。

【到達目標】

コミュニケーションを情報科学的な観点から分析できるようになる。また、情報理論やコンピュータ、デジタル技術の可能性と限界を理解したうえで、情報メディアが関わるコミュニケーションをデザインすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義の第一部では、様々な状況におけるコミュニケーションを、特に、情報と認知、物語の観点から考察する。また、情報理論のモデルだけでなく、物語論的観点から、コミュニケーションに対してより深く、また幅広くアプローチするモデルについても扱っていく。さらに中間論文課題提出後の本講義の第二部では、コンピュータ・メディア・ネットワークなどを基盤とするコンテンツやコミュニケーションの現場について、人工知能やコンピュータ、関連作品の最新情報を盛り込みつつ、第一部の内容や中間論文課題をふまえた講義をする。最終的には以上の内容をふまえた論文の提出が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報科学と物語、コミュニケーション	本授業のガイダンス
第2回	コミュニケーションの実験調査	コミュニケーションに関する実験調査を行う
第3回	物語とコミュニケーション	物語とコミュニケーションの関係を議論する
第4回	通信ネットワークとセキュリティ	インターネットにおける通信の理論を議論する
第5回	情報とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように扱われているかを議論する
第6回	情報理論とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように伝達されているかを議論する
第7回	システム理論とコミュニケーション	現状のコンピュータの理論では実現不可能な事項は何か議論する
第8回	中間論文課題へ向けたまとめ	最新の情報メディアに関する議論と、これまでのまとめ
第9回	情報システムとコミュニケーション	コンピュータのプログラミングの限界について
第10回	物語論とコミュニケーション	物語の解析を、情報科学的な観点から行なう
第11回	中間論文課題を基にした議論	論文例を提示し、それを基にした議論を行う
第12回	映像・広告とコミュニケーション	映像・広告とコミュニケーションの関係を議論する
第13回	芸術とコミュニケーション	芸術とコミュニケーションの関係を議論する
第14回	まとめと授業内論文	これまでの授業のまとめとそれを基にした論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。毎回の復習をし、それをふまえて中間論文課題を提出すること。また、中間論文は、提出後に論文例を提示するので、それをふまえて、その後の授業に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを毎回配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と中間論文課題(50%)・最終授業内論文課題(50%)

【学生の意見等からの気づき】

情報科学の理系的側面および哲学的側面を扱う回数も数回あるので、そのことは意識しておいてください。数学を扱う回も1~2回だけあります。社会学ではなく、情報科学やプログラミングからの観点を重視しますので難解に感じられる回数もあると思いますが、デジタル機器やインターネットの基になっている内容ですので、深く探究してください。また、デジタルだけでなく、アナログ的な観点についても重視していく予定です。

【Outline (in English)】

This course deals with the information theory, system theory, narratology, artificial intelligence, and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze communication from the viewpoint of information theory. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm paper: 50%, term paper: 50%

HUI200ED

認知映像論

金井 明人

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 2 単位

曜日・時限: 木 2/Thu.2

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多くの映像作品においては、物語が重要な役割を担っている。本授業では映像を物語とその認知の観点から分析する。物語による認知的効果は、必ずしもストーリーのみにはならず、編集や撮影、音などの様々な技法が重要になるため、これらの側面も重視する。また、映像の歴史と認知の関係・影響も議論していく。映画をメインに扱う予定であるが、他の種類の映像もとりあげる。また、映像がもたらす違和感や切断に特に注目するので、この種の効果に強い関心を持つことが重要になる。「わかりにくい」映像、「見づらい」映像を多く扱うが、「わかりにくさ」「見づらさ」は認知的な要因が大きく影響しているため、それがなぜ生じるのかを考えてみてほしい。

【到達目標】

映像作品 (主に実験的作品) に数多く実際に接し、それらの作品を基に、映像と物語に関する認知プロセスの分析・解析ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では多くの映像に実際に接し、認知的に生じる物語とその効果について、皆さんが提出するレポートやリアクションペーパーを基に議論していく。なお、通常時は授業開始 30 分後以降の教室への入室は禁じる。課題時は、さらに短時間で入室を禁じる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の内容について
第 2 回	映像と認知科学	映像と認知科学の関係について
第 3 回	映像とストーリー	ストーリーを認知するプロセスについて
第 4 回	映像とノンストーリー	映像認知におけるストーリー以外の側面について
第 5 回	第 1 回レポート課題	第 1 回レポートの対象映像の上映
第 6 回	映画の歴史・認知	第 1 回レポート課題映像の解説
第 7 回	映像認知プロセスの調査・分析	第 1 回レポート課題をふまえ、映像認知プロセスを解析
第 8 回	映像と物語による効果の発生要因	認知的効果の発生要因について
第 9 回	第 2 回レポート課題映像	第 2 回レポートの対象映像の上映
第 10 回	映画の歴史・認知再考	第 2 回レポート課題映像の解説
第 11 回	映像と物語による効果の発生要因再考	第 2 回レポート課題をふまえ、認知的効果の発生要因を再考
第 12 回	透明な映像、反映する映像	様々な映像の技法と、認知の関係について
第 13 回	映像環境について	映像とその環境による認知的効果の差異について
第 14 回	まとめと授業内論文	授業内容をまとめる論文の授業内での執筆

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするので、テキストなどの自習によって、各自、授業の補足を行なうこと。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

【参考書】

小方孝・川村洋次・金井明人 (2018) 『情報物語論: 人工知能・認知・社会過程と物語生成』 白桃書房

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポートの提出 (66%) に加え、最終回の授業内で論文課題 (34%) がある。全ての提出が成績評価の前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映中は、一切の電子機器の使用を禁じる。時間を見るのにも使わないこと。映像環境の構築にご協力お願い致します。

【学生が準備すべき機器他】

プリントは授業支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

レポート課題映像の上映時は、対面の場合は早い時間に教室を閉め切るの
で遅刻しないこと。

【Outline (in English)】

This course deals with the techniques of film and images, rhetoric, narrative, and cognition. his course deals with the information theory, system theory, narratology, artificial intelligence, and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze cognitive process regarding the film and narrative. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following First midterm paper: 33%, Second midterm paper: 33%, term paper: 34%

HUI300ED

物語シミュレーション

金井 明人

サブタイトル：特講（物語プログラミング）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータと（広義の）物語は密接な関係があり、コンピュータゲームやグラフィックス、Web、さらには昨今のほとんどの映像など、デジタル技術が関わるコンテンツは、プログラミング的な発想に基づく物語として捉えなおすことができる。さらに、検索や翻訳、言語処理、ロボットなどで実用化されている様々な人工知能自体が、物語論や言語学などの強い影響下にある。

本授業では、コンピュータ上で、シミュレーション的にベースとなる物語を操作することで、様々な物語生成を行なう。特に、ストーリー的側面を強調する物語と、切斷技法によってストーリー以外の側面も強調する物語に関し、それぞれの原理と意義、その認知を、プログラミングに基づく物語シミュレーションを通して考察していく。

【到達目標】

コンピュータ・デジタル情報と物語の関係に関し、切斷的観点も含め、深い探究を行うとともに、コンピュータ上のプログラムを用いて複数の物語をシミュレーション的に生成できるようになることを目的とする。さらに、デジタル技術の制約と限界についても考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業期間中に随時、課題を出す。プログラムのな課題だけでなく、物語的な課題もある。これらを通し、皆で議論しながら、物語とプログラムについての考察を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の説明
第 2 回	コンピュータ上の物語とその表現	コンピュータと物語のつながり
第 3 回	物語と、その例	物語についての説明
第 4 回	物語の構造	切斷的観点も含め、物語の構造についての説明
第 5 回	シミュレーションの原理	シミュレーションの原理と物語やその修辭（表現）との関係
第 6 回	物語論と人工知能	人工知能と物語やその修辭（表現）との関係
第 7 回	映像とプログラミング	映像修辭とプログラミングの関係
第 8 回	映像と物語のシミュレーション	物語的側面から、映像修辭に基づくシミュレーションを行う
第 9 回	まとめと中間課題	ここまでのまとめと中間課題
第 10 回	中間課題発表	中間課題の発表
第 11 回	Web と物語シミュレーション	Web と物語シミュレーションの関係について
第 12 回	最終課題作成	最終課題の物語を決定する
第 13 回	最終課題に関する議論	決定した物語に関する議論
第 14 回	最終課題提出・発表	最終課題の提出と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングを実際に行わない場合でも、随時、物語とシミュレーション、デジタル技術に関する考察を行い、授業へ活かしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

小方孝・金井明人(2010)『物語論の情報学序説』学文社

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題 (40%) と、最終的な課題 (50%) を総合して判断する。また、授業中の議論への積極的な参加 (10%) についても評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでの議論なども重視していきたいが、具体的な方法は、皆さんと話し合っ決めていきたい。どのような物語を具体的に扱うかは、早い段階で設定する予定。

【その他の重要事項】

本授業は受講許可科目につき、春学期の履修登録時に然るべき事務手続きをとること。

【Outline (in English)】

This course deals with the narrative simulation and cognitive processes. The goals of this course are to establish the technique of the narrative simulation. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end issues: 50%, in class contribution: 50%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想 I

水野 剛也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講の目的は、ジャーナリズム、つまりマス・メディアがになう多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点を絞り、その特質や問題点をもつばら歴史・思想の観点から総合的に論じることである。本講であつかう媒体は、新聞や雑誌などの活字メディアを中心とするが、写真・テレビ・ラジオ・インターネットなども含む。ただし、ニュースの報道や評論・論説活動に直接関わらないものは、基本的に除外する。

本講は、ジャーナリスト養成のためのハウツー・テクニックを教えるものではない。しかし、本講を受講することで、我々の日常生活のなかでいかにジャーナリズムが重要な役割を果たしているか、そしてその重要性ゆえに、我々はどのような心構えでジャーナリズムに接するべきかについて考えを深めることができるはずである。これは、将来ジャーナリズム活動に携わる者にとっても、そうでない大多数の受け手にとっても、同じように重要である。本年度は昨年度までとは違う教員が担当するため、内容・方針・評価基準も大幅に異なる点を通告しておく。

また、感染症の流行の影響で対面授業ができないため、基本的に毎週、オンライン課題を与え、それにより評価を決定する。

最後に、本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲読していることを前提とし、それを要件とする課題もあるため、この習慣のない者の受講はすすめない。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲読したことにはならない。

【到達目標】

ジャーナリズム、つまりマス・メディアがになう多くの役割のなかでとくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点を絞り、その特質や問題点をもつばら歴史・思想の観点から総合的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP5・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週、文献を提示し、ジャーナリズムの一般的イメージ、ジャーナリズムの定義、ジャーナリズムの規範、ジャーナリズムの権力監視、ジャーナリズムの逸脱、といった題材についてオンライン課題を与える。

なお、本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲読していることを前提とし、それを要件とする課題もあるため、この習慣のない者の受講はすすめない。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲読したことにはならない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ジャーナリズムの一般的イメージ	ジャーナリズムの一般的イメージ
第2回	ジャーナリズムの定義1	ジャーナリズムの定義
第3回	ジャーナリズムの定義2	ジャーナリズムの定義
第4回	ジャーナリズムの定義3	ジャーナリズムの定義
第5回	小括	これまでのまとめ
第6回	ジャーナリズムの規範1	ジャーナリズムの規範
第7回	ジャーナリズムの規範2	ジャーナリズムの規範
第8回	ニュース価値	ニュース価値
第9回	ジャーナリズムの権力監視1	ジャーナリズムの権力監視
第10回	ジャーナリズムの権力監視2	ジャーナリズムの権力監視
第11回	ジャーナリズムの逸脱1	ジャーナリズムの逸脱
第12回	ジャーナリズムの逸脱2	ジャーナリズムの逸脱
第13回	ジャーナリズムの再定義	ジャーナリズムの再定義
第14回	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲読していることを前提とし（無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲読したことにはならない）、その上で各種の課題を与えるため、準備学習・復習時間は各2時間を標準とするものの、受講者によってはそれ以上の時間を要する。新聞閲読の習慣のない者の受講はすすめない。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、適宜、読むべき文献を提示する。

また、受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲覧していることを前提とし、それを要件とする課題もあるため、この習慣のない者の受講はすすめない。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲覧したことにはならない。

【参考書】

Bill Kovach and Tom Rosenstiel, *The Elements of Journalism* (Guardian Books, 2003).

ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステイール、加藤岳文・斎藤邦泰訳、『ジャーナリズムの原則』（日本経済評論社、2002年）。

Edwin Emery and Michael Emery with Nancy L. Roberts, *The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media* 9th ed., (Needham Heights, MA: Allyn and Bacon, 2000).

マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ、大井眞二・武市英雄・長谷川倫子・別府三奈子・水野剛也訳『アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から見た米国史』（松柏社、2016年）。

【成績評価の方法と基準】

その場限りの単発の成果ではなく、日々の継続的な努力を重視する。

一例として、本講の受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、日刊の一般総合紙）を閲覧していることを前提とし、その上で各種の課題を与える。無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲覧したことにはならない。

評価は、基本的に毎週提示するオンライン課題により決するが、任意の追加課題を与える可能性もある。その場合は、通常のオンライン課題＝100%とした上で、個別に適度なエクストラ・クレジットを追加して与える。

【学生の意見等からの気づき】

情報、メディア、マス・メディア、ジャーナリズムといった用語の、一般語と専門用語の相違に対する自覚を促す。

【その他の重要事項】

本年度は昨年度までとは違う教員が担当するため、内容・方針・評価基準も大幅に異なる。

受講者はすべて新聞（全国・地域は問わないが、いわゆる一般総合紙）を閲覧していることを前提とするため（無料でアクセスできる新聞社のウェブサイトでは、新聞を閲覧したことにはならない）、この習慣のない者の受講はすすめない。

主言語は日本語であるが、英語の課題・参考文献もあり、かつ課題自体にも英語を用いるものがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to experience the high-level practice of academic, constructive discussion by reading as much quality English-language literature on journalism and mass media studies as possible.

SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ

飯田 裕美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースはスマホで読めるもの？でもそれは毎日、記者が人に会って取材をし、複数のチェックや議論を経て世に出ています。「ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ」で学習した内容を踏まえ、いま日本のメディアの現場では、記者が何に悩み、何を目指しているのかを紹介、ニュースのありかたを実際の作り手と一緒に考えていきます。

【到達目標】

ニュースとは何か、何が伝えられ、何が伝えられていないかを考える力をつけます。今起きていることに関するニュース記事を読み、記者の話を聞き、ジャーナリズムを舞台にした映画も扱いながら、報道と民主主義のかかわりや、権力の監視という役割がどの程度実践されているか、ジェンダーやマイノリティの問題がどう扱われてきたかなどを読み解きます。メディアを批判的に見るだけでなく、これから必要な報道を自分で考えられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講師は大学にありますが、オンライン授業を予定しています。記事や資料を使った講義のほか、各分野で活躍する記者を招き「いま起きていること」に即して諸課題を考えていきます。生ニュースに対応して、シラバスの順番・内容を変更する場合があります。出席者にリアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ニュース記事の現在	何が問われているか（オリエンテーション含む）
第2回	事件をどう伝えるか	被害者の匿名・実名、改正少年法
第3回	国際報道	特派員の仕事
第4回	映画で考えるジャーナリズム①	民主主義とのかかわり
第5回	新型コロナと私たち	時代を記録する
第6回	災害取材	将来の被害を防ぐために
第7回	映画で考えるジャーナリズム②	取材のリアル
第8回	政治報道	各紙の違いは
第9回	スポーツ報道	テレビ中継に映らないこと
第10回	映画で考えるジャーナリズム③	権力との攻防
第11回	地方紙の役割	「伝える」ととどまらず
第12回	女性はどう描かれてきたか	多様性の価値
第13回	映画で考えるジャーナリズム④	メディア自身を検証する
第14回	まとめ	ニュースの見方、変わりましたか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々発行されているメディアの記事を読み、気になる記事を授業に持ち寄ってもらうことを予定しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。必要な資料は配布します。

【参考書】

そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物で60%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間にカメラオン・マイクオンでリアル参加できるインターネット環境・機器

【その他の重要事項】

講師は通信社で記者17年、デスク7年、編集委員・論説委員などの実務経験があります。いま実際にメディアの内部で何を考えているかの視点を皆さんにお伝えします。

【担当教員の専門分野等】

通信社記者・デスク（社会部）、編集・論説委員（生活報道部）、人事部採用担当、管理職。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to raise students' awareness about how the media sends daily news and what the journalists think about their stories.

Learning Objective : By the end of the course, students should be able to read articles not only critically but also independently, thinking what media have to report.

Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, in class contribution and reaction paper: 60%

SOC300ED

ニュース・ライティング

飯田 裕美子

サブタイトル：取材文章実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミックな文章と違い、ジャーナリズムでは、事実をできるだけ平易な言葉で、具体的に書くことが重要です。そのために必要なのは、取材相手にもう一步踏み込んでディテールを聞き出す「質問力」です。鳥の目より虫の目で、ファクトを具体的にわかりやすく書ければ、どんな職業に就くにせよ社会に出てからも役立ちます。メディアの実情を知ることで、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーも磨いてください。

【到達目標】

文章が具体的に書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、相手の内側に踏み込んでいく取材が不可欠です。取材演習を通じ「この言葉が引き出せたから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業です。6回の記事作成は①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合うの3ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、期限までに提出をお願いします。インタビューはオンラインも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ニュース記事の実際
第2回	記事の基本	スタイルと取材手法
第3回	インタビュー1	人から話を聞き出すには
第4回	講評と研究	どの記事が印象的か
第5回	インタビュー2	その人からしか聞けないことは？
第6回	講評と研究	ググっても出てこない事実があるか
第7回	インタビュー3	下調べと質問力
第8回	講評と研究	会って初めて分かったことは
第9回	インタビュー4	伝える技術
第10回	講評と研究	具体的に聞く・書くとは
第11回	インタビュー5	対立する意見を扱う
第12回	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
第13回	自由課題	あなたが今書きたいことは？
第14回	まとめ	自由課題発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にできない取材活動と記事作成は、各自でしていただきます。記事はワードで書き、5日以内にメールで提出します。記事の長さは毎回1000字程度です。記事執筆にかかる時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。必要な資料は配布します。

【参考書】

そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6回の記事作成（90%）と平常点（10%）で評価します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

課題以外にも、文章の書き方に関する相談はメールで受け付けます。講師は勤務先で採用担当部長の経験があり、就活のエントリーシートに関しても「具体的に書く」力をつけるよう指導します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

講師は、通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上の実務経験があります。実務経験に基づく添削や書き方の提案をフィードバックします。

【Outline (in English)】

This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to ask questions and write articles specifically, not theoretically.

Learning Objectives: The goal of this course is to complete 6 articles.

5 interviews will be held in classroom and you write 5 articles at home.

1 article is free. You can choose any theme you like.

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on 6 articles(90%) and in class contribution(10%).

SOC300ED

ニュース・ライティング

飯田 裕美子

サブタイトル：取材文章実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムを学んでこられたみなさんに、今度は記事を書く体験をしていただく実践的な授業となります。アカデミックな文章と違い、ジャーナリズムでは、事実をできるだけ平易な言葉で、具体的に書くことが重要です。ファクトを具体的にわかりやすく書ければ、どんな職業に就くにせよ社会に出てからも役立ちます。メディアの実情を知ること、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーも磨いてください。

【到達目標】

文章が具体的に書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、鳥の目より虫の目で物を見、もう一歩相手に踏み込んでディテールを引き出す「質問力」が必要です。取材演習を通じ「この言葉が引き出せたから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業です。6回の記事作成は①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合うの3ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、期限までに提出をお願いします。インタビューはオンラインも利用します。（春学期と秋学期は、授業方法は共通で、取材対象者が変わります）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ニュース記事の実際
第2回	記事の基本	スタイルと取材手法
第3回	インタビュー1	人から話を聞き出すには
第4回	講評と研究	どの記事が印象的か
第5回	インタビュー2	その人からしか聞けないことは？
第6回	講評と研究	ググっても出てこない事実があるか
第7回	インタビュー3	下調べと質問力
第8回	講評と研究	会って初めて分かったことは
第9回	インタビュー4	伝える技術
第10回	講評と研究	具体的に聞く・書くとは
第11回	インタビュー5	対立する意見を扱う
第12回	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
第13回	自由課題	あなたが今書きたいことは？
第14回	まとめ	自由課題発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にできない取材活動と記事作成は、各自でしていただきます。記事はワードで書き、5日以内にメールで提出します。記事の長さは毎回1000字程度です。記事執筆にかかる時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。必要な資料は配布します。

【参考書】

そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6回の記事作成（90%）と平常点（10%）で評価します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

課題以外にも、文章の書き方に関する相談はメールで受け付けます。講師は勤務先で採用担当部長の経験があり、就活のエントリーシートに関しても「具体的に書く」力をつけるよう指導します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

講師は、通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上の実務経験があります。実務経験に基づく添削や書き方の提案をフィードバックします。

【Outline (in English)】

This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to ask questions and write articles specifically, not theoretically.

Learning Objectives: The goal of this course is to complete 6 articles.

5 interviews will be held in classroom and you write 5 articles at home.

1 article is free. You can choose any theme you like.

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on 6 articles(90%) and in class contribution(10%).

FRI400ED

メディア社会学特講（表現）

稲増 龍夫

サブタイトル：特講（メディア社会学（表現））

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア社会学科の表現コース4年生のために用意された科目で、受講希望者が多い場合は、表現コース生を優先します。現代メディア文化作品を題材にして、そのメッセージや表現技法などの解題を通して、現代メディア文化の動態を解明します。

【到達目標】

テレビドキュメンタリー、ドラマ、映画、CMなどのビビッドな映像表現作品を受講者の議論を通して分析して、現代メディア文化の現在進行形を解題していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

事前に予告された課題作品、あるいは各自の興味ある作品について、毎回、事前にチェックした上で、受講者全員で議論し、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のスケジュールと受講者の自己紹介
2	T V版+劇場版エヴァンゲリオン	ストーリーの概略の紹介
3	新劇場版:序	ミニレポートと議論
4	新劇場版:破	ミニレポートと議論
5	新劇場版:Q	ミニレポートと議論
6	新劇場版:11	ミニレポートと議論
7	鬼滅の刃 無限列車編	ミニレポートと議論
8	劇場版 呪術廻戦0	ミニレポートと議論
9	竜とそばかすの姫	ミニレポートと議論
10	進撃の巨人-1	ミニレポートと議論
11	進撃の巨人-2	ミニレポートと議論
12	進撃の巨人-3	ミニレポートと議論
13	進撃の巨人-Final	ミニレポートと議論
14	まとめ	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習（課題作品視聴）は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

課題作品の事前チェック、授業時間内の議論への参加など、広義の「平常点」によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今期に新しく開講する講義なので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

映像課題については、できるかぎりアマゾンプライムで鑑賞可能な作品にします。

【その他の重要事項】

4年後期ゆえに就活中の学生は受講が難しくなるかもしれないが、毎回の出席が無理な場合は、レポートにて代用も可とします。

【Outline (in English)】

Special Lecture of Contemporary Media Culture. We will discuss the expression method and message based on the representative movie works in recent years. The assignments are evaluated by each person outside the department, and the results are evaluated by the analysis report(50%) and the contribution to the discussion(50%).

SOC300ED

広告制作実習

青木 貞茂

サブタイトル：特講（広告制作実習）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第 3 回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第 4 回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第 5 回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第 6 回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第 7 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 8 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 9 回	生活者インサイトの発見 (1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 10 回	生活者インサイトの発見 (2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 11 回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第 12 回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成
第 13 回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第 14 回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイデア』（インプレスジャパン、2007 年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008 年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（70 %）、最終課題となる広告制作表現（30 %）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。
【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it. Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations. Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

MAN200EB, MAN200ED

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解 <ゲスト講師登壇予定>
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実践について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な事例に触れてもらうため、随時、事前課題を授業の最後に示す。この事前課題の一部が小レポートとして評価に加算される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類 (30%)
 期末試験 (70%)
 による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇回については講師との話し合いにより前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic concepts and principles of consumer psychology.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

COT200ED

消費者行動モデリング

諸上 茂光

サブタイトル：プログラミング中級 A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の IOT 技術の急速な進歩やビッグデータが積極的な活用は、今後マーケティング戦略の構築方法にも大きな変革をもたらすことが予想される。従来よりもオンタイムに様々な消費行動に関するデータが技術的に得られることは、一方でそのデータをどのように扱って次のマーケティング戦略構築に利用すべきかを学ぶ必要が出てきたことも意味する。本演習では、実際のマーケティングデータを用い、統計的な手法によって様々な「消費者の行動」をどのようにモデル化し、シミュレーションを行えばよいのかを習得する。

【到達目標】

身近な消費行動を観察し、そこから観測すべき変数を決定し、モデル化を行い、数値シミュレーションを行う一連の過程を行えるようになること、および、そのシミュレーション結果から新しい提案ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第 10 回までの授業は、各回前半の講義部分と後半の演習部分に分かれており、消費者の分析に必要な量的調査の基本的な技法を習得する。

その上で第 11 回以降はグループに分かれ、グループワークによって実際のマーケティングを題材に消費行動の分析モデルを作成する。各提出課題や、グループワークの途中成果については随時授業の中でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明
2.	統計的基礎の復習	相関分析を行いながら統計的な基礎を確認
3.	単回帰分析とモデル化 (1)	単回帰分析による消費行動の予測モデルの構築
4.	単回帰分析とモデル化 (2)	単回帰分析による消費行動の分析
5.	重回帰分析とモデル化 (1)	重回帰分析による消費行動の予測モデルの構築
6.	重回帰分析とモデル化 (2)	重回帰分析による消費行動の分析
7.	数量化 I 類を用いた分析とモデル化 (1)	数量化 I 類を用いたカテゴリーデータの利用について
8.	数量化 I 類を用いた分析とモデル化 (2)	カテゴリーデータも利用した消費行動の予測モデルの構築
9.	コンジョイント分析とモデル化 (1)	コンジョイント分析の説明とコンジョイントカードの作成
10.	コンジョイント分析とモデル化 (2)	コンジョイント分析の実施と消費行動モデルの構築
11.	最終課題制作 (1)	モデル化する消費行動の探索 (グループワーク)
12.	最終課題制作 (2)	調査の作成 (グループワーク)

13. 最終課題制作（3） 分析とモデル化（グループワーク）
 14. 成果発表 発見した事実の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から興味を持った様々な事象を積極的にモデル化してみると上達が早くなります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（60%）と最終課題（40%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【学生が準備すべき機器他】

授業は情報実習室で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic skills for analyzing and simulating consumer behaviors.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%.

COT200ED

消費者行動モデリング

高村 恒人

サブタイトル：プログラミング中級 A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の IOT 技術の急速な進歩やビッグデータが積極的な活用は、今後マーケティング戦略の構築方法にも大きな変革をもたらすことが予想される。従来よりもオンタイムに様々な消費行動に関するデータが技術的に得られることは、一方でそのデータをどのように扱って次のマーケティング戦略構築に利用すべきかを学ぶ必要が出てきたことも意味する。本演習では、実際のマーケティングデータを用い、統計的な手法によって様々な「消費者の行動」をどのようにモデル化し、シミュレーションを行えばよいのかを習得する。

【到達目標】

身近な消費行動を観察し、そこから観測すべき変数を決定し、モデル化を行い、数値シミュレーションを行う一連の過程を行えるようになること、及びそのシミュレーション結果から新しい提案ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「店舗の混雑度と稼働度・消費者の店内行動・時間帯別通行量・在庫管理・配車管理」等、実際にいくつかの事象を例に用い、1. コンピュータ上に計算モデルを作成し、2. そのモデルを実際に計算機上で動かすことでシミュレーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明
2.	統計的基礎の復習	相関分析を行いながら統計的な基礎を確認
3.	単回帰分析とモデル化（1）	単回帰分析による消費行動の予測モデルの構築
4.	単回帰分析とモデル化（2）	単回帰分析による消費行動の分析
5.	重回帰分析とモデル化（1）	重回帰分析による消費行動の予測モデルの構築
6.	重回帰分析とモデル化（2）	重回帰分析による消費行動の分析
7.	数量化Ⅰ類を用いた分析とモデル化（1）	数量化Ⅰ類を用いたカテゴリーデータの活用について
8.	数量化Ⅰ類を用いた分析とモデル化（2）	カテゴリーデータも利用した消費行動の予測モデルの構築
9.	コンジョイント分析とモデル化（1）	コンジョイント分析の説明とコンジョイントカードの作成
10.	コンジョイント分析とモデル化（2）	コンジョイント分析の実施と消費者行動モデルの構築
11.	最終課題制作（1）	モデル化する消費行動の探索（グループワーク）
12.	最終課題制作（2）	調査の作成（グループワーク）
13.	最終課題制作（3）	分析とモデル化（グループワーク）
14.	成果発表	発見した事実の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から興味を持った様々な事象を積極的にモデル化してみると上達が早くなります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内課題（10%）、中間課題（40%）と最終課題（50%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【学生が準備すべき機器他】

授業は情報実習室で実施する。

【Outline (in English)】

Course outline: To acquire how to model and simulate various of the consumer behaviors by statistical methods.

Learning Objectives: The goals of this course are to be able to make new proposals from the simulation results using consumer behavior observation with your life.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria/Policy: Final grade will be calculated according to the following process short report and in-class contribution (10%), mid-term report (40%), term-end examination (50%).

MAN300ED

マーケティング実践

諸上 茂光

サブタイトル：ソーシャル・シミュレーション

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競争力のある商品開発や、訴求力のある広告活動を行うためには、消費者心理に関する理論的な基礎と、妥当性の高いアンケート調査やその分析の遂行に基づいたマーケティング戦略の立案が重要である。そのため、本授業では、実際のマーケティング課題を題材に、同一モジュールですでに履修した「消費者行動論」における消費者の心理の理解と「消費者行動モデリング」で習得した消費者の分析技法を駆使し、実践的なマーケティング戦略の構築を行う。

【到達目標】

消費者心理の理論と分析技法に基づいた、マーケティング戦略の企画と発表を行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実際の商品開発やブランディング等の課題を題材に、消費者心理や行動に関する理論や各種データ、シミュレーション手法などを使用し、グループワークによりマーケティング戦略を構築し、発表を行う。中間報告や最終報告に対し、講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明、グループビンゴ等
2.	マーケティング戦略の立案1	市場分析・ポジショニング分析
3.	マーケティング戦略の立案2	ニーズの把握
4.	課題のキックオフ	取り組む課題と制約条件の確認、質疑応答（キックオフミーティング）
5.	課題の分解	課題の客観的な分析
6.	戦略の構築活動1	課題の分析（現状分析）
7.	戦略の構築活動2	ゴールの設定
8.	調査1	ヒアリング調査・アンケート調査の実施
9.	調査2	調査結果の分析
10.	中間報告会	各グループ活動の中間報告と質疑応答
11.	課題解決活動1	中間報告での質疑応答を受けた戦略の再検討
12.	課題解決活動2	データの分析と効果考察
13.	課題解決活動3	提案資料の作成
14.	最終発表	構築した課題解決の戦略について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外にも、実地調査や分析など、進度によってグループワークの時間を一部確保する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実践活動における平常点（60%）と最終発表（40%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop the students' skill in making marketing strategies.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end presentation:40%,in class contribution: 60%

SES200EC, SES200ED

都市空間とデザイン I

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：都市景観論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ふつうの街の景観を理解し、消費者・有権者として参加できるようになること。

【到達目標】

建築デザインを言語化するための学習を中心として、ヨーロッパ古典建築から近代建築までを概観し、海外の知見とともに戦後日本の具体的な事例を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はスライドや映像を用いる。授業計画は若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	通年の流れと概念の説明	都市景観を読み解くとは？
2	古典建築 1	ギリシア、ローマの建築
3	古典建築 2	ロマネスク～バロック
4	古典建築 3	19 世紀建築と西洋建築史まとめ
5	近代建築 1	アメリカ／西欧の近代建築運動
6	近代建築 2	世界への波及と日本の近代建築
7	都市空間への展開 1	建築物から都市空間へ
8	都市空間への展開 2	都市空間の変遷
9	現代日本の都市空間	現代日本の都市空間
10	都市景観と保全 1	アメリカの都市美運動
11	都市景観と保全 2	イギリスの都市計画
12	都市景観と保全 3	まちづくり活動と景観
13	都市景観と保全 4	都市計画と景観まちづくり
14	全体のまとめ	全体のまとめと期末レポートの出題 or テスト対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とし、その多くを都市を観て考える

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアベ：26 %、中間レポート：24%、期末考査：50%

【学生の意見等からの気づき】

都市景観に対し多くの気づきが可能となるよう授業内容を工夫したい。

【その他の重要事項】

建設系コンサルタント等勤務経験者が都市空間等の背景について説明する。

【Outline (in English)】

"urban landscapes" as popular culture. This class aim to be able to think about it. Other point will be explained at the beginning of the class.

SES200ED

都市空間とデザイン II

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：景観文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はくらにとって近未来に可能な「美しい街」に参加すること

【到達目標】

日常的に目にする都市景観の裏側にある思想や文化、仕組みなどを学習する。変容させる可能性はどこにあるのか、授業を通して考える力を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はスライドや映像を用いる。授業計画は若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代日本の都市空間／建築デザイン	前期のまとめや、講義の目標、履修上の注意など
2	都市空間の概説	様々な都市空間をみていく
3	近代の都市計画史 1	都市計画の誕生と変容
4	近代の都市計画史 2	都市計画の成熟
5	都市空間における広場	広場の伝統、広場の再生
6	都市空間における街路 1	街路の文化、人間の場所
7	都市空間における街路 2	歴史的な町並みの保全
8	生活空間のデザイン 1	近隣住区論と住宅団地、そしてリノベーション
9	生活空間のデザイン 2	都市空間とストック活用
10	都市美 1	丸の内通り
11	都市美 2	アメニティの考え方
12	場所、空間の把握 1	場所を捉える
13	場所、空間の把握 2	場所を使う
14	全体のまとめ	まとめと期末レポート or テスト解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。身近な街を読み解く日常を希求したい。適宜 Google map や講義資料内の参考文献を参照すること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

随時紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

リアベ：26 %、中間レポート：24%、期末考査：50%

【学生の意見等からの気づき】

都市景観に対し多くの気づきが可能となるよう授業内容を工夫したい。

【その他の重要事項】

建設系コンサルタント等勤務経験者が都市空間等の背景について説明する。

【Outline (in English)】

"urban landscapes" as popular culture. This class aim to be able to think about it. Other point will be explained at the beginning of the class.

COT300ED

都市空間分析

郭 東潤

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流動化する多摩ニュータウンにおいて、コロナ禍は多様な価値観の中で働き方や暮らし方等といった地域の諸問題を顕在化させた。本授業では With/Post コロナ時代の新しい社会・都市の姿を予見し、人々の生活や多様な都市活動の実態を踏まえて、望ましい都市空間のあり方、および実現プロセスの組立て方を経験することを目的とする。

【到達目標】

都市の物的環境とその背後に存在する社会的諸条件への洞察力を養い、その上に立って生活の場所としての都市空間の計画とデザインを構想し、都市環境の質的向上を実現することができる能力を育てることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業は受講生がフィールドワークの計画から実施、集計・分析、考察、報告書作成に至る一連のプロセスを進める。授業実施にあたり、全体テーマを設定したうえで、複数のサブテーマに基づくグループを編成する。各グループは各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）から都市の暮らし・住環境・まちづくり・企画政策・計画・デザインに関するプレゼンテーション&ディベート等を行い、これらを踏まえた報告書を執筆する。

<重要>

新型コロナウイルスの感染拡大等により、オンライン開講となる場合、それに伴う各回の授業計画については、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要や進め方などを説明する。
2	先行研究から学ぶ	先行研究から調査方法を理解する
3	コロナ禍の生活変化を 考える	コロナ禍での自分の生活変容を考察し、ウィズ・アフターの生活とアプローチについて議論を深める。
4	地域の課題を考える	これまでの自分の経験や知見などに基づき、地域の課題を共有する。
5	地域の課題を見つける	実施にフィールドワークを行い、地域の課題や可能性等について整理する。
6	地域の情報を共有する	自分の視点からフィールドワークの課題や可能性等を整理し発表する。
7	地域の計画や企画を立案する	地域の課題等を解決するための計画や企画を立案する。
8	都市空間分析を計画する	都市空間を分析するための資料収集の方法を計画する。
9	都市空間を分析する	収集した地域情報から都市空間の分析を行う。

10	都市空間のあり方を構 想する	各グループの都市空間分析について共有しながらディスカッションする。
11	計画実現のプロセスを 考える 1	各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）の視点から計画実現に向けて討議する
12	計画実現のプロセスを 考える 2	各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）の視点から計画実現に向けて討議する
13	計画をプレゼンテー ションする	地域の当事者にグループの計画が丁寧に伝達できるプレゼンテーション方法を考える。計画内容を発表し、内容等に対して講評する。
14	報告書を執筆する	授業を振り返るとともに、各立場の視点から報告書を執筆する。加えて、残された課題を明確にする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各グループのテーマに応じたフィールドワークやインタビュー調査等の準備・実施、収集データの分析、授業時間内の発表準備、報告書作成。なお、本授業の準備・復習時間は、各回につき標準的に4時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

1. まちづくりの方法ーまちづくり教科書1ー、日本建築学会、丸善
2. わが町発見！ー絵地図づくりからまちづくりへー、世田谷まちづくりセンター編、晶文社
3. まちづくり学ーアイデアから実現までのプロセスー、西村幸夫他、朝倉書店
4. まちの見方・調べ方ー地域づくりのための調査法入門ー、西村幸夫他、朝倉書店
5. Jan Gehl and irgitte Svarre, How To Study Public Life, Island Press

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席や共同作業への貢献など）30%、データ整理分析及び発表40%（個人20%/グループ20%）、報告書30%によって総合的に評価する。

<重要>

新型コロナウイルスの感染拡大等により、オンライン開講となる場合、成績評価と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This class has a series of lectures on understanding the characteristics of urban space and society in TAMA new town. This class aims to understand basic approaches related to urban space design and planning with/after the COVID-19 Era. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade will be decided based on 30% of standard points (attendance and collaborative work, etc.), 40% of data analysis and presentation (20% of individuals / 20% of groups), and 30% of final reports.

FRI200EC, FRI200ED

メディアの歴史

小林 直毅

サブタイトル：メディア史 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】

政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事を経験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えることができるようになるのがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドの PDF ファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。その後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、**学んだことを文章化した「講義ノート」を作成**します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評、解説をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第2回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第3回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第4回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第5回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、 「記録」と「記憶」。
第6回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリプライ (1)
第7回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第8回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第9回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第10回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリプライ (2)
第11回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第12回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」(その1)	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。
第13回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」(その2)	人びとは「東京オリンピック」に何を見たのか
第14回	3.11 後のメディア	メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

講義後に、配布資料や参考文献などを参照しながら講義ノートを整理することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の60%の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の40%の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand the history of media as a technology and institution that enables human recognition and existence, and also consider media as "record and memory".

Learning objectives:

The goal of this course is to help students understand that the media associated with political, economic, social and cultural transformations are essential to the experience of the event.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%

FR1200ED

メディア分析技法

小林 直毅

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テレビアーカイブという「記録の森」に分け入り、それを読み解き、たんなる過去の記録としてではなく、「いま」を問い、未来を照らし出していく方法を学びます。

【到達目標】

水俣病事件は「近代とは何か」を問いつづけています。そのような「水俣」の「記録と記憶」を考えることこそが、メディアの可能性と課題を考えることです。狭苦しい「メディア研究」から脱却して、「水俣」の「記録と記憶」としてのテレビドキュメンタリー・アーカイブを読み解き、近現代社会への問いを構築する方法を獲得できることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

選定した5編のドキュメンタリー番組のそれぞれが、「水俣」の何を、どのように表象し、記録し、どのような記憶を想起するのかについて、水俣病事件史研究の成果、写真集、文学作品などを読み解き、参照することで分析し、その結果について学生相互の議論を重ねていきます。5編の番組のそれぞれの分析課題に応じたりアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評と解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の概要とねらい。
第2回	「記録と記憶」としてのテレビアーカイブ	テレビドキュメンタリーとそのアーカイブをどのように分析するのか。
第3回	水俣病事件史とテレビドキュメンタリー	NHK（1959）『奇病のかげに』の概説。
第4回	テレビが初めて描いた「水俣」	NHK（1959）『奇病のかげに』のシーンの解説。
第5回	水俣病事件の構図と責任を読み解く（1）	NHK（1976）『埋もれた報告』の概説。
第6回	水俣病事件の構図と責任を読み解く（2）	NHK（1976）『埋もれた報告』のシーンの解説。
第7回	「政府公式見解」の発表と地域社会「水俣」（1）	RKK（1969）『111』の概説。
第8回	「政府公式見解」の発表と地域社会「水俣」（2）	RKK（1969）『111』のシーンの解説。
第9回	テレビアーカイブで考える「水俣」の記録と記憶	中間総括。
第10回	「水俣」の混迷（1）	RKK（2006）『国の病としての水俣病』の概説。
第11回	「水俣」の混迷（2）	RKK（2006）『国の病としての水俣病』のシーンの解説。
第12回	「水俣」の長い時間（1）	RKK（2006）『水俣病2度目の幕引きへ』の概説。
第13回	「水俣」の長い時間（2）	RKK（2006）『水俣病2度目の幕引きへ』のシーンの解説。
第14回	「近代化」と「水俣」の記録と記憶	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げるドキュメンタリー番組を授業の前夜で視聴することが必須です。また、参考文献、資料を精読して、番組の視聴経験と重ねて考察することも必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎回の授業の前夜でこれらができていなければ、リアクションペーパーも期末課題もけって書けませんので、単位取得はできません。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

授業のなかで随時提示します。

【成績評価の方法と基準】

所定の回数（5～6回程度）のリアクションペーパーがすべて提出され、かつその内容に問題がなければ、それをもって平常点として成績評価の60%とします。

学期末に「小レポート」を課しますので、その内容によって残りの40%の成績評価とします。なお、この学期末の「小レポート」を単位認定の必須要件としますの注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーと期末課題以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

MP4の動画ファイルの再生が可能なPCを必ず準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

You will learn how to break into the forest of "records" called TV archives and read them.

Learning objectives:

The goal of this course is to be able to read the television documentary archive as "Records and Memories" of "Minamata" and acquire a way to build questions for modern society.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%

FRI200ED

メディア分析実践

小林 直毅

サブタイトル：特講（メディア分析実践）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学環境アーカイブズに構築された「放送アーカイブ」と地域民放局との連携によって「水俣」のテレビアーカイブを分析、再構築するとともに、「水俣」の記録と記憶としてのテレビドキュメンタリーの企画案を構想します。

【到達目標】

長い時間をかけて「近代とは何か」を問いつづけている「水俣」の「記録と記憶」を考えることは、メディアの可能性と課題を考えることです。その一環として、水俣病事件研究の成果をはじめとして、写真や文学作品とテレビドキュメンタリー・アーカイブとの相互作用による「水俣」の「記録と記憶」の可能性と課題を明らかにし、近現代社会を問うドキュメンタリーの企画を構想できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法政大学環境アーカイブズに構築された「放送アーカイブ」が所蔵する 16 編のドキュメンタリー番組を対象として、それらを構成するシーンが、「水俣」の何を、どのように記録し、そうしたシーンにどのような「水俣」の記憶としての可能性があるのかを分析し、その結果について学生相互の議論を重ねていきます。対象としたドキュメンタリー番組ごとに分担を決めて「番組分析シート」の提出を求めます。これらについて授業内で講評、解説するだけでなく、受講者相互間でも議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業の概要とねらい。
第 2 回	テレビドキュメンタリー・アーカイブとは何か	「記録と記憶」としてのテレビアーカイブをとらえる視点を形成する。
第 3 回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（1）	1970 年代までの「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第 4 回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（2）	1980～1990 年代の「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第 5 回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（3）	2000 年代以降の「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第 6 回	近代という名の「水俣」の変貌（1）	水俣病事件の長い時間の記録と記憶を構成する。
第 7 回	近代という名の「水俣」の変貌（2）	失われた「水俣」の生活と文化の記録と記憶を構成する。
第 8 回	水俣病という苦難とは何か（1）	水俣病患者と家族の苦難の記録と記憶を構成する。
第 9 回	水俣病という苦難とは何か（2）	言葉を奪われる患者と家族の記録と記憶を構成する。
第 10 回	加害としての「豊かさ」（1）	潜在化の力学、抑圧と排除の構造の記録と記憶を構成する。
第 11 回	加害としての「豊かさ」（2）	加害・原因者としての企業と国の記録と記憶を構成する。
第 12 回	水俣病事件の「解決」、患者の「救済」とは何か（1）	「水俣」の混迷の記録と記憶を構成する。
第 13 回	水俣病事件の「解決」、患者の「救済」とは何か（2）	「近代」への問いの記録と記憶を構成する。
第 14 回	「水俣」に耳を澄まし、その声を語り、描く	「水俣」のテレビドキュメンタリー・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる 16 編のドキュメンタリー番組は全員が必ず視聴することが必須です。また、参考文献、資料を精読することも必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業の前でこれらができていなければ、ほぼ毎回提出を求められる「番組分析シート」も期末課題もけっして作成できませんので、単位取得はできません。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

授業のなかで随時提示します。これを読むことがドキュメンタリー番組の視聴とともに履修上必須です。

【成績評価の方法と基準】

「番組分析シート」による分析結果の報告（50 %）と、期末課題（50 %）の達成度で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーと期末課題以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

MP4形式の動画の編集ができるPCと、この授業専用に32Gバイト以上のUSBメモリー等の記録媒体を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

While analyzing and reconstructing the TV archive of "Minamata", we will envision a plan for a TV documentary as a record and memory of "Minamata".

Learning objectives:

We will analyze and reconstruct the TV archive of "Minamata" and make a plan for a TV documentary as a record and memory of "Minamata".

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

The evaluation is based on the report of the analysis results using the "Program Analysis Sheet" (50%) and the degree of achievement of the term-end tasks (50%).

SOC200ED

マス・コミュニケーション論

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションにおける理論的解釈の変遷を解説しながら、それを応用した現代的課題についても考察を加える。

【到達目標】

マス・コミュニケーション理論を単に学説史として把握するのではなく、現代のメディア現象をとらえる視座を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

それぞれのマス・コミュニケーション研究を紹介を通じ、その社会的背景や現代にもつながる課題を考えていく。

※ 授業内容は変更する場合があります。

※ フィードバックは、授業冒頭で前回授業のリアクション・ペーパーに返答する形で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容・履修方法などの確認
第2回	メディア史概説	マス・メディアの発達史を概説する。
第3回	弾丸効果モデル	マス・メディアの効果が強調されるケースの解説。
第4回	限定効果モデル	マス・メディアの効果への懐疑が問われるケースの解説。
第5回	中範囲の理論	議題設定理論や世論の構築過程などの解説。
第6回	メディアイベント論	マス・メディアの効果の見直しについて解説。
第7回	デジタルメディア論	デジタル時代の新たなメディア論についての解説。
第8回	強力効果論の捉えなおし①	沈黙のらせんと第三者効果。
第9回	強力効果論の捉えなおし②	培養理論の解説。
第10回	カルチュラル・スタディーズ①	エンコーディング/デコーディングモデルの解説。
第11回	カルチュラル・スタディーズ②	物語論を基礎にした映画・ドラマなどの分析手法について。
第12回	カルチュラル・スタディーズ③	物語論を基礎にしたバラエティ番組などの分析手法について。
第13回	普及過程論①	情報の社会的浸透過程の考察。
第14回	普及過程論②	量的調査によるメディアコンテンツへの接近。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません（授業中、適宜指示します）。

【参考書】

毎回、授業プリントに参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業ですが、なるべく双方向で意見を言い合える講義環境にしたいと考えます。

【Outline (in English)】

- Course outline -

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general knowledge of mass media.

- Learning Objectives -

The goal of this course is not simply to understand mass communication theory as a history of theories, but to gain a perspective on contemporary media phenomena.

- Learning activities outside of classroom -

Class preparation and review time will be about two hours each. Based on the contents of the class, please "constantly question" your own "information behavior" on a regular basis. This will deepen your understanding.

- Grading Criteria / Policy -

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

SOC200ED

メディアコンテンツ論

西田 善行

サブタイトル：コミュニケーション論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、映像論を軸に映画などのメディア・コンテンツを分析します。後半は、計量言語分析、言説分析について論じます。

【到達目標】

受講者自らが、映像分析および計量言語分析でメディアコンテンツを分析する方法論を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の前半では映画を中心に映像の技巧と意味について考えていきます。授業の最後に課題にあたる映像を繰り返しお見せします。また後半では言説分析や計量言語分析の方法を解説した後、受講者自らが選んだ映像について、これらの方法論を使って、分析を試みてもらいます。フィードバックとして、毎回の課題やレポート課題について、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	映像における意味（授業ガイダンス）	授業全体で行う内容の説明とテキスト序章解説
2	映像の技巧と意味①	構図について（テキスト1章）
3	映像の技巧と意味②	カメラワークについて（テキスト2章）
4	映像の技巧と意味③	編集について（テキスト3章）
5	映像の技巧と意味④	アートディレクションについて（テキスト4章）
6	映像の技巧と意味⑤	語りについて（テキスト5章）
7	物語分析の応用	コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方、中間レポートの提示
8	映像分析の実際①	歴史的分析（テキスト8章）
9	映像分析の実際②	構造主義的分析（テキスト9章）
10	計量言語分析とは	言説分析を応用した成果を知る
11	計量言語分析の応用	応用した成果と方法の解説・期末レポートの提示
12	言説分析とその応用	言説分析の原理とその成果
13	中間レポートの解説	中間レポートの成果の紹介・解説
14	メディアコンテンツへの視点	メディアコンテンツへの分析方法をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時に授業内容に即した課題を出します。毎回学習支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400円＋税

【参考書】

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500円＋税
これは「メディアコンテンツ分析」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間（2000字程度）と学期末（4000字程度）に2回の授業で学習した内容を用いてメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を3回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート（2回）＝80％ ③毎回の課題＝20％による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業プリントは、学習支援システムによって配布します。また毎回の課題の提出も学習支援システムで行います。受講する学生は、2回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。課題作成時にパソコンを使用します（特に後半の軽量言語分析時）。

【その他の重要事項】

この授業では、授業後にみなさんに授業内容に即した課題を出します。毎回期限までに学習支援システムを通じて課題を提出してください。また、授業の妨げになる私語は厳禁とします。私語は見つけ次第退場とします。授業ではリアクションペーパーは配布しませんので、質問・注文などがあれば、授業終了時に直接受け付けます。

【Outline (in English)】

Students will learn about the image and discourse theory.

At the end of the course, students are expected to analyzing the image and discourse.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report , term-end report (80%), and each time short report(20%).

FRI300ED

メディアコンテンツ分析

西田 善行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディアコンテンツ論」で解説した方法論を使い、映像論、計量言語分析、言説分析によりメディア・コンテンツを分析する受講生の力を養います。

【到達目標】

映像論、計量言語分析、言説分析によりメディア・コンテンツを分析することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が課題を提示し、受講生が報告するアクティブ・ラーニング方式で行います。授業の前半は、映像論などからテレビ番組やCMなどのメディア・コンテンツを、後半は、計量言語分析、言説分析により様々なメディア・コンテンツを受講生自ら分析してもらいます。受講生相互に報告を評価してもらいます。フィードバックとして、授業時の中間報告やコメントに対するリプライに加えて、レポートについて、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進行について	授業内容の説明
第2回	映像の技巧と意味（復習） ①	構図、カメラワーク（テキスト1章2章）
第3回	映像の技巧と意味（復習） ②	編集、アートディレクション（テキスト3章4章）
第4回	映像の技巧と意味（復習） ③、中間課題の提示①	語り（テキスト5章）、コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方
第5回	映像分析の実際（復習）	歴史分析、構造主義的分析（テキスト8章9章）
第6回	受講生の報告①	分析結果の報告
第7回	受講生の報告②	分析結果の報告
第8回	言説分析とは（復習）	言説分析の原理を知る
第9回	計量言語分析とは（復習）	計量言語分析の原理を知る
第10回	中間課題の提示②	計量言語分析、言説分析の応用課題
第11回	受講生の報告③	分析結果の報告
第12回	受講生の報告④	分析結果の報告
第13回	最終課題の提示	最終レポートの作成方法
第14回	メディアコンテンツの意義	実務などへの応用を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎回、テキストの読むべき章ないし課題提示を行いますので、必ず取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 ExcelとKH Coderでわかるデータ分析』オーム社、2500円＋税

【参考書】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400円＋税
これは「メディアコンテンツ論」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間に2回各2000字程度、学期末に1回4000字程度のメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を3回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート（3回）＝80% ②毎回の課題＝20%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業時にパソコンを使用します。特に計量言語分析のツールとして、KH Coderを使います。Windowsは無料ですが、Macの場合は、導入費用（3,980円）がかかります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts of media contents research.

At the end of the course, students are expected to analyzing the image and understanding media contents research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(two times) , term-end report (80%), and each time short report(20%).

FRI400ED

メディア社会学特講（分析）

松下 峻也

サブタイトル：特講（メディア社会学（分析））
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「メディア社会」をめぐるいくつかの思想と理論を学んだうえで、実際の「メディア表象」を分析する。学生が概念的な視座を習得し、メディアと社会をめぐる問題を自分自身で考えることを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、(マス) コミュニケーションと (マス) メディアをめぐる蓄積された研究成果をふまえたうえで、現実の社会問題がどのように表象されてきたのかを分析・考察する。理論や思想、実際の事例とを往復することで、学生が現代社会が抱える課題にみずから気がつき、それを熟考する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に
 関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、講義形式に併せて、学生による分析・考察の報告と意見交換をおこなう。講義内で指定する課題については、次回の講義で口頭にてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「メディア社会を分析する」ための準備をする。
2	マスコミュニケーションの思想①	「ステレオタイプ」と「疑似イベント」について学ぶ。
3	マスコミュニケーションの思想②	「消費社会」について学ぶ。
4	マスコミュニケーションの思想③	「公共圏」と「メディア場」について学ぶ。
5	マスコミュニケーションの思想④	「想像の共同体」について学ぶ。
6	表象としてのメディア社会の分析①	実際の史資料を分析・考察する。
7	表象としてのメディア社会の分析②	実際の史資料について議論を深める。
8	メディアの思想①	「言説」について学ぶ。
9	メディアの思想②	「テキスト」について学ぶ。
10	メディアの思想③	「記憶」と「表象」について学ぶ。
11	メディアの思想④	「記録」と「技術」について学ぶ。
12	表象としてのメディア社会の分析③	実際の史資料を分析・考察する。
13	表象としてのメディア社会の分析④	実際の史資料について議論を深める。
14	総括	「メディア社会を分析する」ことの意義を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

毎回の講義で指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出とディスカッションへの参加）を 50 %、期末課題（レポート）を 50 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数での開講が予想されるため、学生と教員との「対話」を大切にします。

【Outline (in English)】

This course introduces some of ideas that raised by sociology and media theory to students taking this course. At the end of the course, students are expected to realize problems in contemporary society, and to think them on their own. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。前回までに提出されたアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザーズブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス 1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス 2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン 1	デザインと設計、デザインアプローズの基本
9	インタフェースデザイン 2	人間工学、人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン 3	認知工学、人間の認知的特性を考慮したデザイン
11	テクノロジーとの共生 1	記憶の支援、情報へのアクセス
12	テクノロジーとの共生 2	人間の社会的側面を支援するテクノロジー
13	テクノロジーとの共生 3	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生 4	VR と AR、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムや Google Classroom で提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【参考書】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。
平常点は、授業への参加の姿勢やアクションペーパーの内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の準備	ユーザ中心設計におけるユーザ調査、調査の準備
3	ユーザ調査で用いる手法 1	UX グラフを用いた UX 評価
4	ユーザ調査で用いる手法 2	経験想起法の分析
5	ユーザ調査で用いる手法 3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査で用いる手法 4	ユーザの特性やユーザの利用状況をより理解するための工夫
7	ユーザ調査の実施 1	実施時の注意点の学習
8	ユーザ調査の実施 2	RQ の作成
9	ユーザ調査の実施 3	調査の実施、音声の録音
10	ユーザ調査の実施 4	書き起こしデータの作成、提出
11	結果の分析 1	KJ 法による分析
12	結果の分析 2	SCAT による分析
13	結果の分析 3	要求事項の明確化、ペルソナとシナリオの作成
14	分析のまとめ	分析の講評、その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムや Google Classroom で提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。
授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）、学習支援システム、電子メール、Google Classroom などを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としていません。また、グループワーク形式で授業を実施することもあるため、全ての回への出席が求められます。

【Outline (in English)】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.

The final grade will be evaluated based on the usual points, including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

FRI300ED

メディアテクノロジーと社会実習

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザ中心設計の設計プロセスに沿って、各自の問題意識に基づいて、それを解決するためのサービス案を検討していきます。また、ユーザを理解するための手法に関して、実践的スキルの習得を目指します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計で行う各活動で用いる手法の習得
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するための実践的スキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は、基本的にグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。各グループの進捗状況や得られたコメントなどに対して、授業のはじめにフィードバックを行います。

なお、扱うテーマについては毎年異なりますが、いずれもテーマに合わせた調査をグループで実施して、調査結果に基づいた提案をってもらう形です。2020年度は「大学生活をサポートするためのサービスやシステムの改善案」、2021年度は「大学生のニーズに合ったdマガジンのサービスやプロモーションのかけ方」を提案してもらいました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の準備 1	グループ分け、計画の立案
3	ユーザ調査の準備 2	ゴールの設定、予備調査の準備
4	ユーザ調査の準備 3	仮説生成、RQ の作成
5	ユーザ調査の実施 1	調査の実施
6	ユーザ調査の実施 2	調査の実施と結果の分析
7	ユーザ調査の実施 3	結果の分析とサービス案の検討
8	ユーザ調査の実施 4	計画の再検討、RQ の見直し
9	中間発表	グループによる発表と質疑、フィードバック
10	追加のユーザ調査の実施	再調査、分析
11	調査に基づく設計案の作成	サービス案の再検討
12	発表準備	最終発表に向けた資料作成、準備
13	最終発表	グループによる発表と質疑、発表資料の提出
14	フィードバック	フィードバック、報告書の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムや Google Classroom で提示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著 (2022)「現場の声から考える人間中心設計」共立出版 (ISBN : 978-4-320-07200-8)
黒須正明・橋爪絢子著 (2021)「人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社 (ISBN : 978-4-7649-0635-8)

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。
授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、各グループの進捗状況などを確認して、全体のスケジュールも微調整しながら進めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア (Word, Excel, PowerPoint) を使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、前年度までに「メディアテクノロジーと社会」と「メディアテクノロジーと社会分析」の2つを受講済みであることを前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施するため、全ての回への出席が求められます。

なお、本授業は「受講許可科目」であるため、許可された受講生しか履修ができません。履修を希望される場合には、必要な手続きを取ってください。

【Outline (in English)】

We will consider service proposals to solve the issues along with the User Centered Design process based on the awareness of each problem. We'll also aim at acquiring practical skills for understanding users.

Students plan to spend a total of four hours before and after each class to facilitate group work.

The final grade will be evaluated based on the usual points, including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織 (企業、法人) に焦点をあて、ネットワークや組織のもつ構造、機能、役割を主に社会学、経営学の視点から分析・考察することを目的とします。具体的には組織と組織間関係 (企業と企業間関係/企業紐帯) に焦点をあて、企業グループ内部・外部との関係性、外資系企業、ベンチャー企業における組織間関係の特徴、組織間関係の海外移転などを実際のデータを用い平易に学びます。就活における業界&企業情報の読み方、選択の仕方にも大いに参考になると思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワーク、組織間関係からの分析および理解
- 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解
- 3 企業紐帯の形成・展開と数理モデルを用いた分析・考察

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート (小課題2回)、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル (PDF) をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。社会学、経営学を中心に企業紐帯と業績の関係を検証します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1) 外部環境	SDGs とバンデミック、Society 5.0 などについて紹介します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2) 2つの組織	階層型組織とネットワーク型組織について考察します。
04	産業・企業におけるネットワーク現象 (1) 産業、企業	産業間連携、組織間関係/企業紐帯を考察します。
05	産業・企業におけるネットワーク現象 (2) 業界、日本と海外の企業グループ	業界地図、製造業/非製造業、日本/海外の企業グループを検証します。
06	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (1) 分析対象	分析対象としての個別企業ならびに企業グループを考察します。
07	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (2) 分析枠組み	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
08	企業紐帯と業績の研究 (1) 製造業	製造業グループ (電機、自動車) の事例を学びます。
09	企業紐帯と業績の研究 (2) 非製造業	非製造業グループ (金融) の事例を学びます。
10	企業紐帯と業績の研究 (3) 非製造業	非製造業グループ (小売) の事例を学びます。
11	企業紐帯と業績の研究 (4) ベンチャー業界	ベンチャー企業ならびに同グループの事例を学びます。
12	企業紐帯と業績の研究 (5) 外資系企業	在日外資系企業の事例を学びます。
13	企業紐帯と業績の研究 (6) 海外企業	海外企業 (本邦系、非本邦系) の事例を学びます。
14	総括と質疑および議論	各講義に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業支援システムで提示します。
本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第2版』文真堂、2017 年。

【参考書】

『日経 2022 業界地図』日本経済新聞社、2021 年。ほかに必要なに応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、期中レポート 30 %、期末レポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更がありえます。なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture analyzes and considers the social structure in Japan, mainly focusing on networks and organizations (companies, corporations), and the structures, functions, and roles of networks and organizations from the perspectives of sociology and business administration. The purpose is. Specifically, focusing on the relationship between organizations (company-to-company relationship / corporate ties), the relationship between the inside and outside of the corporate group, the characteristics of the inter-organizational relationship in foreign-affiliated companies and venture companies, and the inter-organizational relationship. You can easily learn about the overseas transfer of relationships using actual data. I think that it will be helpful for selecting the industry & company in job hunting.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

境 新一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織（企業、法人）に焦点をあて、ネットワークや組織のもつ構造、機能、役割を分析・考察することを目的とします。具体的には社会科学分野（主に社会学を中心に、経営学、経済学、法学）の視点から、SNS も含めた社会ネットワークに関する現象を理論と実証の両面から検証します。さらにスモールワールド・モデル、弱い紐帯の強さ、閾値理論などの数理社会学に関わるモデル、仮説も紹介します。最後に、ネットワーク論と意思決定論を基礎とするアイデア発想法の枠組み理解と具体的な課題で演習を行います。就活における業界&企業の情報の読み方、選択の仕方に参考になるとと思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワークを対象とした主要な社会科学の分析枠組みから分析および理解
- 2 社会ネットワークの諸仮説と数理社会学のモデルの理解
- 3 ネットワーク論と意思決定論をふまえたアイデア発想法の全体像の理解と演習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題2回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会ネットワーク論と分析対象と分析枠組、理論と背景	分析対象/ミクロ・メゾ・マクロ、分析枠組み/行動・過程・構造、社会ネットワークならびに関連するの理論と背景を理解します。
03	社会ネットワークと主要な社会科学分野の関連性	主要な社会科学（経済学、経営学、社会学、法学）の分析視点を理解します。
04	分析視点1 経済学の視点	個人・組織・市場、産業、政策、貿易、部分最適と全体最適、対象の数理モデル的理解をすすめます。
05	分析視点2 経営学の視点	営利社団、所有と経営の分離、組織と管理、意思決定、利益と成長、対象の実態的理解をすすめます。
06	分析視点3 社会学の視点	個人・組織・地域・市場・ネットワーク、集団や社会の均衡、公共善/公益の実現を理解します。
07	分析視点4 法学の視点	社会規範、制度、個人と法人、企業法（民商法など）、利害の調整を理解します。
08	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証1	数理分析、グラフ理論、ネットワーク&ブロックモデル、統計学等の分析枠組みを理解します。
09	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証2	スモールワールド・モデル、なぜ世界は広く、世間は狭いのか、理解します。
10	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証3	弱い紐帯の強さモデル、転職に成功するにはどうすればよいか、を理解します。
11	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証4	閾値理論 なぜ流行が起こるのか、理解します。
12	アイデア発想法1 ブレインマップの枠組み	ネットワーク論と意思決定論を基礎とするブレインマップの枠組みを理解します。
13	アイデア発想法2 ブレインマップの演習	課題を提示し、ブレインマップの演習を行います。
14	アイデア発想法3、総括と質疑および議論	ブレインマップの演習の成果発表を行い、講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一、谷 真哉、榎本 正『新事業創造のための発想法（仮）』文真堂、2022 年 6 月に新刊予定。

【参考書】

数理社会学会監修・編著『社会を（モデル）でみる 数理社会学への招待』勁草書房、2014 年。
境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第 2 版』文真堂、2017 年。
ほかに必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、期中ポート 30 %、期末レポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更があります。なるべく統計学 I・II を（先行・並行して）履修して下さい。
毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to analyze and consider the structure, function, and role of networks and organizations, focusing mainly on networks and organizations (corporations, corporations) in Japan. Specifically, from the perspective of the social science field (mainly sociology, business science, economics, law), we will examine phenomena related to social networks, including SNS, from both theoretical and empirical perspectives. In addition, we will introduce the small world model, the strength of weak ties, models related to mathematical sociology such as threshold theory, and hypotheses. Finally, exercises will be given on understanding the framework of idea-creating methods based on network theory and decision-making theory, and on specific tasks.

SSS300ED

意思決定論

境 新一

サブタイトル：Operations Research

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

意思決定 (decision making) とは、人や団体が特定の目標を達成するために、複数の代替案から、最善の解を 1 つ選択し、実行する人間の認知的行為です。本講義は個人・集団を問わず、あらゆる状況で行われる意思決定について、まず経済学、経営学、社会学などの社会科学での位置づけを明らかにします。次に意思決定の方法について、目標認識、情報収集、方策、最善策の選択と実行計画の立案、その実施と管理を整理します。また、分析アプローチと決定モデル（決定の種類、決定過程、決定支援）、失敗原因の構造説明と創造への転換、ネットワークと意思決定の関係、プロデュースとマネジメントの関係を理解し、最後に新たな発想法／ブレインマップを活用した意思決定の演習を行います。就活における業界&企業情報の読み方、選択の仕方にも参考になると思います。

【到達目標】

- 以下が実行できるようになります。
- 1 意思決定の意義を理解できる。
- 2 意思決定の過程と支援のシステムを理解し段階的実行できる。
- 3 意思決定の演習を行い、発想力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題 2 回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	ガイダンスとイントロダクション、先人による意思決定の概念・定義	講義内容について学生と教員で認識を共有します。意思決定の概念と背景を述べます。
第 02 回	意思決定の分析アプローチと意思決定モデル、決定の種類（単純決断、単純選択、構造選択）、失敗原因の構造説明	多様なアプローチと意思決定モデル（決定の種類、決定過程と決定支援）、失敗原因の構造説明について整理します。
第 03 回	意思決定過程モデル 1	情報収集、代替案の作製、代替案の選択、フィードバックの意味を学びます。
第 04 回	意思決定過程モデル 2	人、問題、解をゴミ箱の意思決定機会と捉えるゴミ箱モデルを紹介し、決定木、OR を紹介し、評価基準・代替案の価値数値化による意思決定支援を学びます。
第 05 回	意思決定支援モデル 1	AHP、ゲーム理論を紹介し、決定支援の仕組みを学びます。
第 06 回	意思決定支援モデル 2	プロデュースとマネジメントの共通点・相違点、新事業／価値創造のための両者の役割を学びます。
第 07 回	ネットワークと意思決定の関係 1	プロデューサーの機能と役割、アイデア発想法上の拡げる／絞るに相当する機能を学びます。
第 08 回	ネットワークと意思決定の関係 2	アートを中核とする 2 極概念の相克と調和、1)nature 2)science 3)business 4)design との関係性を学びます。
第 09 回	プロデュースとマネジメントの相互関係 1	SDGs とバンデミック、公益／公共善の実現、文化創造、スポーツ・マスクミ、環境・都市デザインに関わる社会的課題と解決法を学びます。
第 10 回	プロデュースとマネジメントの相互関係 2	金出武雄「素人発想、友人実行／実装」の意味、ブレインマップによる発想力と実装力の向上を学びます。
第 11 回	新たな発想法／ブレインマップの活用、新事業／価値創造	

- 第 12 回 意思決定に関する演習 1 社会的課題とアイデア創出、ブレインマップによる発想力と実装力の養成を試みます。
- 第 13 回 意思決定に関する演習 2 社会的課題とアイデア創出、ブレインマップによる発想力と実装力の養成を試みます。
- 第 14 回 総括、質疑および議論 講義を総括してその示唆、次の課題と展望を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに掲載します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論 経営と芸術の融合 第 2 刷』中央経済社、2021 年。

【参考書】

境 新一、谷 真哉、榎本 正『新事業創造のための発想法（仮）』文真堂、2022 年 6 月に新刊予定。
畑村洋太郎『失敗学のすすめ』講談社文庫、2005 年。
また、必要に応じて紹介し、学習支援システムに掲載します。

【成績評価の方法と基準】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題 2 回）、期末レポート、演習も交えて行います。
平常点等 30 %、期中レポート 30 %、期末レポート 40 %。
毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを設定してください。少なくとも表計算ソフト、ワープロソフトを使用します。その他必要に応じてインターネット上のサービスも利用します。
授業内で PC を使用する場合があります。事前案内に対応して個人用または多摩情報センター貸出用を持参してください。

【その他の重要事項】

受講許可が必要な科目です。事務課等からの事前指示等に対応してください。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。
対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。
メディア社会学科 2018 年度以降入学者は、社会ネットワーク論Ⅰ・Ⅱの受講に引続き受講することが望ましいです。
なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行）履修して下さい。

【Outline (in English)】

Decision making is the cognitive act of a person or group to select and implement one of the best solutions from multiple alternatives in order to achieve a particular goal.

This lecture first clarifies the position of decision-making in all situations, whether individuals or groups, in social sciences such as economics, business administration, and sociology. Next, regarding the decision-making method, we will organize goal recognition, information gathering, measures, selection of the best policy and execution plan, implementation and management. In addition, we will understand the analytical approach and decision model (decision process, decision support), the relationship between network and decision making, and the relationship between production and management, and finally we will practice decision making using new ideas / brain maps.

FRI200ED

デジタル情報環境論

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっていきます。その来歴・現状・将来を、流動化・個人化・再帰化という 3 つの観点から考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境の特徴を具体的事例を通じて社会的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解を獲得することが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的把握」の 3 セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行っていきます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境 1	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境 2	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境 3	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境 4	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境 1	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境 2	ソーシャルメディアと情報行動の変容
8	個人化する情報環境 3	パーソナライズされる広告とコンテンツ
9	個人化する情報環境 4	個人化の中での「群」：祭りと炎上
10	情報環境の再帰的把握 1	「再帰的把握」とは何か？
11	情報環境の再帰的把握 2	メディアだらけの社会にどう向き合うか
12	情報環境の再帰的把握 3	テクノロジー的生活形式にどう向き合うか
13	情報環境の再帰的把握 4	経験の断片化・非同期化にどう向き合うか
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会学』有斐閣

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the characteristics of today's digital information environment sociologically and to form opinions about the future of digital media.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end report(80%), reaction paper(20%)

FRI200ED

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、アーキテクチャ分析、人・モノ・空間の連関の分析などについて学び、さらに UX デザインの領域で活用される調査技法について学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論や調査法を具体的な事例と共に学んでいきます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・各回の授業で 10 分程度の短いグループディスカッションを行うことがあります。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析 1	アーキテクチャとは何か
3	アーキテクチャの分析 2	動画共有サイトのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析 3	ソーシャルメディアのアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析 4	セクションのまとめ
6	人・モノ・空間の分析 1	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の分析 2	固定的なメディアをめぐる連関
8	人・モノ・空間の分析 3	移動的なメディアをめぐる連関
9	人・モノ・空間分析 4	セクションのまとめ
10	ユーザー調査の方法 1	行動観察・エスノグラフィ
11	ユーザー調査の方法 2	カスタマージャーニーマップ・日記式調査
12	ユーザー調査の方法 3	ペルソナシナリオ
13	ユーザー調査の方法 4	セクションのまとめ
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくことと理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user experience of digital media technology.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire analytical framework for studying the relation between digital media and its users and to learn the techniques of user research.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

FRI300ED

デジタル情報環境実習

土橋 臣吾

サブタイトル：特講（デジタル情報環境実習）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザイン思考」の視点と方法に基づきつつ、ウェブサービスやモバイルアプリの企画立案を行います（プログラミングによる実装はしません）。質的な方法を中心とした生活者調査を行い、その知見に基づいて、独自のアイデアを導き出します。

【到達目標】

「デザイン思考」の視点と方法に基づいたプランニングの能力を身につけることを最終的な到達目標とします。同時に、ウェブやモバイルを中心としたデジタル情報環境について、ユーザーの視点から新たなデザインを提案する能力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行われる一部の回を除いて、すべてグループワークの実習形式で行います。また、授業内で半期に2回程度のプレゼンテーションが課されます。調査、企画立案の進捗の度合いによって、スケジュールが変わることがあります。

・課題へのフィードバックは授業内で個別に行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	目標／課題の設定について
2	視座と方法（1）	デザイン思考の思想と展開
3	視座と方法（2）	行動観察とデザイン
4	視座と方法（3）	行動観察のシミュレーション
5	調査（1）	メディア利用行動を振り返る
6	調査（2）	行動観察調査の設計
7	調査（3）	調査の知見の検討
8	調査（4）	調査の知見の検討
9	調査（5）	調査結果のプレゼン
10	プロトタイピング（1）	ペーパープロトタイピング
11	プロトタイピング（2）	プロトタイプ作成
12	プロトタイピング（3）	ペルソナシナリオ作成
13	プロトタイピング（4）	プロトタイプの修正
14	最終プレゼンテーション	企画案のプレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査・制作の作業の多くはグループごとに課外の時間を使って行うことになります。さらに、企画の段階でも必要に応じてグループでの作業が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

トム・ケリー&ジョナサン・リットマン（2002）『発想する会社—世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房
木浦幹雄（2020）『デザインリサーチの教科書』BNN

【成績評価の方法と基準】

最終課題作品（50%）、実習活動への参加（50%）、

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが軌道に乗るまでにはコミュニケーションの上で色々な難しさもありますが、その点についても適宜指導していきます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業でノートパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

We will plan web services and mobile applications based on the methods of "design thinking". We will conduct ethnographic research on media use and derive original ideas based on the findings.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students acquire the ability to design new services and applications based on the perspectives and methods of "design thinking".
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
The quality of the works created (50%), in-class contribution(50%).

SOC200EB, SOC200ED

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす課題を考えることで、情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを獲得することを目的としています。

【到達目標】

1) ソーシャルメディア社会のあり方を理解する。2) 情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習を前提に進め、質疑や議論を行います。提出された課題にすることで、授業の理解を深めます。現在進行形で起きているメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第 3 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第 4 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第 5 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第 12 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決 (地域)
第 13 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決 (システム)
第 14 回	未来を考える	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当部分のテキスト（教科書）を予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、平常点 60%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

The goals of this course are to understanding social media and media literacy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

SOC200ED

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

サブタイトル：メディア経営論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。中でもソーシャルメディアにより可視化された生活者の口コミ分析は、メディアに関わる企業だけでなく、マーケティング活動においても不可欠となっています。本授業では、ソーシャルメディアの拡散構造やデータの分析手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアの拡散構造やデータの分析手法を理解し、社会に与える影響を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業にはグループワークがあります。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行います。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアの特徴
第3回	概論	ソーシャルメディアと消費行動モデル
第4回	概論	ソーシャルメディアとキャンペーン
第5回	概論	情報拡散の構造
第6回	概論	ビッグデータとインサイト
第7回	概論	ソーシャルリスニング
第8回	分析	ビッグデータの観察技法
第9回	分析	データの収集
第10回	分析	データの分析
第11回	分析	関連情報の収集
第12回	分析	関連情報の分析
第13回	分析	リスクの検討
第14回	まとめ	試験、分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。個人やグループによる作業時間が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

博報堂生活総合研究所（2021年）『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』宣伝会議

【参考書】

桶谷功（2008年）『インサイト実践トレーニング』ダイヤモンド社
佐藤尚之（2011年）『明日のコミュニケーション「関与する生活者」に愛される方法』アスキー新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、平常点 60%。平常点は、提出するレジュメの内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析にパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。連続性を持った構成となっているため、原則としてすべての回に出席する必要があります。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

The goals of this course are to understanding social media data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

FRI300ED

ソーシャルメディア実習

藤代 裕之

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ソーシャルメディア論とソーシャルメディア分析で学んだことを活かし、ソーシャルメディアを利用した社会の課題解決について実践的に取り組みます。

【到達目標】

ソーシャルメディアを社会課題の解決に活かせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式で行います。グループでの分析、作業、発表があります。リアクシオンペーパー紹介などのフィードバックを行います。取り組み予定のテーマは、実際の社会課題についてのサービスの検討を予定しています。詳細はガイダンス時に伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	調査	対象の調査
第 3 回	調査	調査の共有
第 4 回	分析	対象の分析
第 5 回	分析	分析の共有
第 6 回	企画	アイデア検討
第 7 回	企画	アイデア共有
第 8 回	企画	アイデアの再検討
第 9 回	立案	実践計画の策定
第 10 回	立案	実践計画の共有
第 11 回	立案	実践計画の再検討
第 12 回	実践	実践
第 13 回	実践	結果の分析
第 14 回	まとめ	試験、結果共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。グループ作業が相当程度必要になります。ワークショップ形式で行われるので、予習やグループ学習を必ず実施してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。平常点はグループワークやディスカッションへの貢献など総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プレゼンテーションソフトなど。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論/ソーシャルメディア分析」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。原則すべての回に出席する必要があります。どんな小さなアイデアでも発言し、前向きに議論することが求められます。

【Outline (in English)】

In this course, students will work on actual solutions to social issues by combining theories and analyses of social media.

The goals of this course are to think about using social media to solve social issues.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

FRI400ED

メディア社会学特講（設計）

橋爪 絢子

サブタイトル：特講（メディア社会学（設計））

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

設計コースの各分野内容の研究成果を理解、説明、議論できることを目的とする。学生は教員とともに分野ごととその相互関係に関する文献講読と議論を行う。設計コースの全教員が担当する。

【到達目標】

- (1) 各分野の研究成果を適切に読解、要約できる。
- (2) 各分野の研究成果について適切に議論できる。
- (3) 分野相互間関係を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員ごとにテキスト（論文、書籍等、英語もありうる）が指定されます。受講者はあらかじめ指定部分に関する要約を作成して授業に参加します。授業では要約に基づいた発表と議論が行われます。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	イントロダクション	この科目のポジション、狙い、進行、資料などについて確認し、次回以降の準備をします。
02	社会ネットワーク論 (1)	指定文献に関する発表と議論
03	社会ネットワーク論 (2)	指定文献に関する発表と議論
04	社会ネットワーク論 (3)	指定文献に関する発表と議論
05	ソーシャルメディア論 (1)	指定文献に関する発表と議論
06	ソーシャルメディア論 (2)	指定文献に関する発表と議論
07	ソーシャルメディア論 (3)	指定文献に関する発表と議論
08	メディアテクノロジーと社会 (1)	指定文献に関する発表と議論
09	メディアテクノロジーと社会 (2)	指定文献に関する発表と議論
10	メディアテクノロジーと社会 (3)	指定文献に関する発表と議論
11	デジタル情報環境論 (1)	指定文献に関する発表と議論
12	デジタル情報環境論 (2)	指定文献に関する発表と議論
13	デジタル情報環境論 (3)	指定文献に関する発表と議論
14	まとめの議論	各分野の相互関係とメディア設計に関する議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
指定された文献などの各自による要約を持参し授業内の発表と議論参加してください。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019）「ソーシャルメディア論・改訂版 つながりをも再設計する」青弓社、
橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版
その他は担当教員ごとに個別に指示されます。

【参考書】

法政大学大学院メディア環境設計研究所編、藤代・土橋ほか著（2020）「アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか」日経BP
その他は担当教員ごとに個別に指示されます。

【成績評価の方法と基準】

各回議論に参加し学習支援システムや Google Classroom へコメントを記入する 28%。
各担当教員の指示に対応しての授業参加及び提出物等による評価 72% (=18 % ×4)。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は未開講につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与の電子メールを登録してください。必要に応じてインターネット上のサービスを使用します。

【その他の重要事項】

授業の運営は、設計コースの教員が集団で行います。
設計コースの 4 つの分野の理論科目、技法科目を事前にすべて履修している事が想定されています。
授業は内容の順序が入り替わることがあります。
対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで開講予定です。
なお、本授業は「受講許可科目」であるため、受講を許可された受講生しか履修ができません。履修を希望される場合には、春学期の履修登録前に必ず担当教員から受講許可を得てください。そうでない場合には、履修登録をしても履修が認められません。

【Outline (in English)】

The purpose is to be able to understand, explain, and discuss the research results of each field of the design course. Students and faculty members read and discuss literature on each field and its interrelationships. All faculty members of the design course are in charge.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TV、新聞、雑誌、インターネット等の広告を分析することを通じて、なぜ自分にとって広告効果があるのか、そのメカニズムを理解する。特に、どのようなメッセージ、表現方法、メディア選定が効果的なのかをブランド・コミュニケーションを中心として考察した結果、様々な対象をテーマとした広告プランニングの基礎を習得する。

【到達目標】

大学生としての研究・調査能力をより高度化し、分析課題に対して仮説を立案し、仮説に沿って資料収集、データ分析を行い、その仮説証明に関して説明的かつ効果的なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自己のテキスト読解に至る方法論も学んでいく。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告研究に関する基本知識	広告研究に関して必要な基礎知識
第 3 回	広告企画事例の設定	広告に関する企画事例を設定
第 4 回	事例分析方法の習得 (1)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 5 回	事例分析方法の習得 (2)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 6 回	事例分析方法の習得 (3)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 7 回	プレゼンテーション方法	分析結果のまとめとプレゼンテーション技法の習得
第 8 回	広告分析の発表とディスカッション (1)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 9 回	広告分析の発表とディスカッション (2)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 10 回	広告分析の発表とディスカッション (3)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 11 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (1)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 12 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (2)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 13 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (3)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 14 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (4)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 15 回	および前半のまとめ 後半のオリエンテーションとフィールドワーク	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第 16 回	効果的なブランド広告の構造	効果的なブランド広告の分析方法について学ぶ
第 17 回	研究対象の設定	効果的なブランド広告のケース選定
第 18 回	ケース発表 (1)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 19 回	ケース発表 (2)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 20 回	ケース発表 (3)	広告効果の理由を分析によって解明し発表

第 21 回	ケース発表 (4)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 22 回	ケース発表 (5)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 23 回	ケース発表 (6)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 24 回	ケース発表 (7)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 25 回	グループ研究	グループ研究の広告企画設定
第 26 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (1)	企画プレゼンとディスカッション
第 27 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (2)	企画プレゼンとディスカッション
第 28 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (3) およびまとめ	企画プレゼンとディスカッション 全体への講評とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（50 %）と課題作成物（50 %）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの強化にいつそう取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別の面談は事前にメールで連絡し、調整する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】

This class will look into the mechanism of advertising effect on us through analyzing advertisements such as TV, newspapers, magazines, the Internet, etc. In particular, we will examine what kind of message, expression method, or media selection is effective based on brand communication. The class provides the basics of advertisement planning on various subjects.

The goal of this course is the following: for students to improve their research and investigation skills as university students, to be able to formulate hypotheses for analytical issues, to collect materials and analyze data according to the hypothesis, and to make persuasive and effective presentations to prove hypotheses. Basic information on advertising and data on case studies will be covered in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their everyday lives. The standard preparation and review time for this class is two hours. In addition, during the summer vacation, we will conduct town watching (fieldwork) in Japan at a seminar camp. Evaluation is based on ordinary points (50%) and written assignments (50%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブランド広告の分析および企画の理論と方法を実例により身につけ、効果的なブランド・コミュニケーションのやり方を学ぶ。その上で自分自身のブランディングに応用をしていくことを目指す。

【到達目標】

単なるブランド広告の分析に止まらずブランド・コミュニケーションを効果的に実践するレベルまで到達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自分自身のブランド分析と構築を実現する方法論を身につける。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明。
第 2 回	ブランド広告企画に関する基本知識	ブランド広告企画立案に関する基本知識
第 3 回	ブランド広告企画事例の設定	ブランド広告企画事例を設定する
第 4 回	ブランド広告事例分析方法の習得 (1)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 5 回	ブランド広告事例分析方法の習得 (2)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 6 回	ブランド広告事例分析方法の習得 (3)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 7 回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション (1)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第 8 回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション (2)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第 9 回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション (3)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第 10 回	具体的な施策案、表現案立案についてのオリエンテーション	自己ブランディング広告企画の立案
第 11 回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション (1)	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション
第 12 回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション (2)	自己ブランディング広告の決定
第 13 回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション (3)	グループ研究のテーマ設定
第 14 回	ブランド広告企画の選定	複数のアイデアからブランド広告企画を選定する
第 15 回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第 16 回	自己ブランディングとは何か	自己ブランディングについてのグループ討議
第 17 回	自己ブランディング広告企画の基礎知識	自己ブランディング広告企画の基礎知識の習得
第 18 回	自己ブランディング広告企画の立案 (1)	自己ブランディング広告企画の立案

第 19 回	自己ブランディング広告企画の立案 (2)	自己ブランディング広告企画の立案
第 20 回	自己ブランディング広告企画の立案 (3)	自己ブランディング広告企画の立案
第 21 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (1)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 22 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (2)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 23 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (3)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 24 回	自己ブランディング広告の決定	自己ブランディング広告についての講評
第 25 回	グループ研究オリエンテーション	グループ研究のテーマ設定
第 26 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (1)	研究結果プレゼンとディスカッション
第 27 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (2)	研究結果プレゼンとディスカッション
第 28 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (3)	研究結果プレゼンとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ブランド広告に関する知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（50％）と課題作成物（50％）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの強化にいっそう取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別面談は事前にメールで連絡した上で個別調整する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】

Here we will first study the theory and method of analyzing and planning brand advertisement for effective brand communication through case studies. Then we will try to apply this to our own branding. The goal of this course is to go beyond the mere analysis of brand advertisements to the level of effectively implementing brand communication. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their everyday lives. The standard preparation and review time for this class is two hours. In addition, during the summer vacation, we will conduct town watching (fieldwork) in Japan at a seminar camp. Evaluation is based on ordinary points (50%) and written assignments (50%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3（卒業論文）

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定と論文作成に必要なデータ、文献収集等、分析についての方法を学びつつ、論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を習得する。研究のための仮説立案力、分析力、思考力と論文作成力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

設定した卒業論文のテーマに基づき研究を進め、首尾一貫した仮説を論証するアカデミックな論文作成を行なう。自身の仮説を様々な方法を用いて論証することでテーマを設定して解決に向けた考え抜く力とその内容を的確に伝達する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告に関連した卒業論文のテーマとなる問題意識を明確にし、演習受講者の間の積極的・主体的なディスカッションを通じて具体的なテーマと仮説を定める。設定した卒業論文のテーマの論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を学んだ上で、研究の進捗に沿ってより具体的な論文内容のプレゼンテーションを段階的に行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。最終的な完成論文に対して口頭試問を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文とは何か、執筆の進め方
第 2 回	論文のテーマ設定とは	問題意識に沿った論文テーマの設定の仕方
第 3 回	問題意識と論文テーマの発表 (1)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 4 回	問題意識と論文テーマの発表 (2)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 5 回	問題意識と論文テーマの発表 (3)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 6 回	問題意識と論文テーマの発表 (4)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 7 回	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方
第 8 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (1)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 9 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (2)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 10 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (3)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 11 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (4)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 12 回	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子の発表 (1)	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第 13 回	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子の発表 (2)	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第 14 回	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子の発表 (3)	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第 15 回	論文執筆のオリエンテーション	前期に決定した基本概要に沿った論文執筆の方法をガイダンス
第 16 回	論文発表の方法	前期に執筆した段階での論文発表の方法をガイダンス
第 17 回	論文内容の中間発表 (1)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第 18 回	論文内容の中間発表 (2)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第 19 回	論文内容の中間発表 (3)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第 20 回	論文内容の中間発表 (4)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション

第 21 回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック (1)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第 22 回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック (2)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第 23 回	論文内容の最終発表 (1)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 24 回	論文内容の最終発表 (2)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 25 回	論文内容の最終発表 (3)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 26 回	論文内容の最終発表 (4)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 27 回	論文内容の最終発表 (5)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 28 回	論文内容の最終発表 (6)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料収集、読み込み、論文執筆は、演習時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点 (30%) と論文内容 (70%) で行う。

【学生の意見等からの気づき】

論文の全体骨子を早期に組み立てるよう、指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。論文作成の指導を積極的に受け、自ら主体的に資料、参考文献収集、調査等を実行することを求める。なお、個別面談は事前にメールで調整する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して広告に関する卒論指導を行なう。

【Outline (in English)】

Students will learn how to gather literature and analyze data necessary for selecting a theme and preparing their graduation thesis. At the same time, students will acquire the basics of citation method and the overall composition required for producing a paper. The class aims to provide hypothesis planning skills, analytical skills, thinking skills and ability to prepare a research paper.

Students will conduct research based on the theme of the graduation thesis they have set and write an academic paper in which they argue a coherent hypothesis. By doing so they will acquire the ability to set a theme, think through the solution, and accurately communicate the contents of their hypothesis using various methods to prove its validity. Gathering and reading materials and writing papers are to be done outside of the exercise time. The standard preparation and review time for this class is two hours. The evaluation is based on ordinary points (30%) and the content of the paper (70%).

EDU200EB, EDU200EC, EDU200ED

演習 1・2

荒井 容子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年生は前年度に執筆したゼミ論を踏まえ、4 年次の卒論研究を目標に研究を進め、3 年時のゼミ論執筆のための研究を進めていく。2 年生は 3 年の報告・討議に学びながら、各自の問題関心を深めて学習を進め、秋学期からは各自のテーマを設定して研究・報告を重ね、2 年次のゼミ論をまとめていく。

【到達目標】

人々の学習・文化・スポーツ活動を支える社会教育実践について理解を深めつつ、共同討議の力を深めながら、実際に、共同討議の力を借りて問題意識を明確化し、さらに自分の力で研究方法を工夫し、分析を深め、課題を追求し、その成果を明快な論文にまとめあげる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

3 年、2 年それぞれに論文に向けた研究報告を交代で行い、集団討議の中で助言しあっていく。さらに 2 年生を中心に、教育に関する基礎文献も検討していく。提出論文については演習 3 の受講生とともに、全員で口頭試問を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介 (3 年生は 2 年時のゼミ論を、2 年生は基礎演習で書いたゼミ論を紹介する。)
2	第 1 ラウンド	今年度の研究テーマと設定理由 1 (3 年報告)
3	第 1 ラウンド	今年度の研究テーマと設定理由 2 (3 年報告)
4	第 1 ラウンド	今年度の研究テーマと設定理由 3 (3 年報告)
5	第 1 ラウンド	教育に関する一冊の本 紹介 (2 年報告)
6	第 2 ラウンド	先行研究文献リストと一部の検討 1 (3 年報告)
7	第 2 ラウンド	先行研究文献リストと一部の検討 2 (3 年報告)
8	第 2 ラウンド	教育本質論に関する文献の検討 1 (2 年報告)
9	第 2 ラウンド	先行研究文献リストと一部の検討 1 (3 年報告)
10	第 3 ラウンド	先行研究文献リストと一部の検討 1 (3 年報告)
11	第 3 ラウンド	「社会教育の本質」の検討 1
12	第 3 ラウンド	「社会教育の本質」の検討 2
13	第 3 ラウンド	宮原誠一「社会教育の本質」の検討 3
14	総括と相談	春学期の総括と秋学期の相談 (どの文献を検討するかは受講生と相談して決める。)
1	第 4 ラウンド	または 共通文献の検討 1 (古典ほか)
1	第 4 ラウンド	先行研究の動向と自分の研究戦略 1 (3 年報告)
2	第 4 ラウンド	先行研究の動向と自分の研究戦略 2 (3 年報告)
3	第 4 ラウンド	先行研究の動向と自分の研究戦略 3 (3 年報告)
4	第 4 ラウンド	今年度の研究テーマと設定理由 (2 年)
5	第 5 ラウンド	研究途中報告 (各自進展状況に合わせて) 1 (3 年報告)
6	第 5 ラウンド	研究途中報告 (各自進展状況に合わせて) 2 (3 年報告)
7	共通文献の検討 2 (古典ほか)	どの文献を検討するかは受講生と相談して決める。
8	第 5 ラウンド	研究途中報告 (各自進展状況に合わせて) 3 (3 年報告)
9	第 5 ラウンド	先行研究リストの作成と一部の検討 (2 年報告)

10	第6ラウンド	論文骨子と序章（あるいは別の章）の報告1（3年報告）
11	第6ラウンド	論文骨子と序章（あるいは別の章）の報告2（3年報告）
12	第6ラウンド	論文骨子と序章（あるいは別の章）の報告3（3年報告）
13	第6ラウンド	論文骨子の作成 4（2年報告）
14	ゼミ論提出（3年・2年とも）	卒業論文・ゼミ論集の編集・印刷作業と口頭試問の打ち合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

人々の学びの営みに関心を寄せ、社会教育活動・研究集会に参加し、感性を磨いておく必要がある。

また本授業の準備学習は報告者となる回には、各4時間、計26時間以上必要であり、報告後次の報告の準備のための内省として各1時間、計6時間は必要である。また、共通文献の検討のためにも最低24時間は必要である。口頭試問では演習さの受講生の卒論も検討するため、3日間68時間6の学習時間が必要である。従って、この講義では仮に28回に平均して計算すると、平均4時間半の学習時間が必要となる。従って、準備学習・復習に各2時間以上必要ということになる。なお、論文執筆時間をいれると、さらに時間が必要となる。

【テキスト（教科書）】

春学期第6回から第13回までで検討する文献は配布する。

【参考書】

雑誌『月刊社会教育』、社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所、その他講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論文の質（50%）、口頭試問での自己分析（15%）・他者の論文に対する評価（15%）、講義時の相互検討における理解度・学習成果（他者の学習への貢献も含め）及び論述能力（計20%）も加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、正式な講義時間以外の受講生グループによる準備学習の機会つくること勧めたが、受講生にこの機会を積極的に活かす力があることが分かった。自主ゼミといわれるこのような活動をより積極的に推奨していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用するのでアクセス、eメールアドレスの登録を確実にしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire the ability to research scientifically through thinking, discussing, and writing in the research field related to education.

At the end of the course, students are expected to think, discuss, and write critically and clearly, and to finish the final report on their own theme.

Before each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to report on the own research, analysis the other's report and discuss on the relevant common materials.

Grading is according to the total evaluation of Final report (50%), the quality of self-analysis on the own report (15%), the quality of analysis on the reports written by other classmates (15%), and the contribution to the each class discussions (20%).

EDU400EB, EDU400EC, EDU400ED

演習3（卒業論文）

荒井 容子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：木4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前年度まで培ってきた教育についての認識を踏まえ、演習2でゼミ執筆において取り組んだ各自の研究を発展させ、卒業論文に結実させていくことを目的とする。

【到達目標】

共同討議の力量を深めながら、実際に、共同討議の力を借りて問題意識を明確化し、さらに自分の力で研究方法を工夫し、分析を深め、課題を追求し、その成果を明快な論文にまとめあげる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文に向けた研究報告を交代で行い、集団討議の中で助言しあっていく。提出論文については演習1・2の受講生も含め、全員で口頭試問を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前年度までの各自の研究総括と今後の研究テーマの確認	演習2で執筆したゼミ論の総括と卒業論文にむけての研究テーマの確認。
2	卒業研究経過報告1	研究テーマと設定理由1
3	卒業研究経過報告1	研究テーマと設定理由2
4	卒業研究経過報告2	先行研究文献の把握1
5	卒業研究経過報告2	先行研究文献の把握2
6	卒業研究経過報告3	先行研究文献の検討1
7	卒業研究経過報告3	先行研究文献の検討2
8	卒業研究経過報告4	テーマ再確認、再設定と理由1
9	卒業研究経過報告4	テーマ再確認、再設定と理由2
10	卒業研究経過報告5	研究の方法と射程提示 1
11	卒業研究経過報告5	研究の方法と射程提示 2
12	卒業研究経過報告6	卒業論文骨子提示 1
13	卒業研究経過報告6	卒業論文骨子提示 2
14	卒業研究経過報告7	卒業論文にむけた研究方法の再確認
1	卒論執筆過程について	執筆プロセスの確認
2	卒論執筆経過報告1	章立てと序章 1
3	卒論執筆経過報告1	章立てと序章 2
4	卒論執筆経過報告2	執筆した章の報告 1
5	卒論執筆経過報告2	執筆した章の報告 2
6	卒論執筆経過報告3	執筆した章の報告 1
7	卒論執筆経過報告3	執筆した章の報告 2
8	卒論執筆経過報告4	執筆した章の報告ほか 1
9	卒論執筆経過報告4	執筆した章の報告ほか 2
10	卒論執筆経過報告5	結論部分の報告と論文の再構成 1
11	卒論執筆経過報告5	結論部分の報告と論文の再構成 2
12	卒業論文 最終検討	最終の文章推敲
13	卒業論文 最終検討	最終の文章推敲
14	卒業論提出	論文集編集作業と口頭試問の打ち合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文執筆に向けて、常に思考し、調査し、文献検索・分析に取り組むこと。本授業の準備学習は報告時には計 16 時間以上、秋学期後半、卒論執筆の追い込み時には毎日 5 時間以上が必要となる。復習は次の報告のための準備時間の中に含まれる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各自の論文執筆の経過に合わせて助言する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の質（60%）、口頭試問での自己分析（10%）、他者の論文に対する評価（10%）、講義時の相互検討における理解度・学習成果（他者の学習への貢献も含め）及び論述能力（計 20%）も加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動による研究中断をカバーし、研究継続を励ます必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するのでアクセス、e メールアドレスの登録を確実にしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire the ability to research scientifically through thinking, discussing, and writing in the research field related to education.

At the end of the course, students are expected to think, discuss, and write critically and clearly, and to finish their own graduation thesis.

Before each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to report on the own research, analysis the other's report.

Grading is according to the total evaluation of Final report (60%), the quality of self-analysis on the own report (10%), the quality of analysis on the reports written by other classmates (10%), and the contribution to the each class discussions (20%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

荒木 暢也

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本ジャーナリズムの現状分析とその問題点と踏まえ、今後、ジャーナリズムがあるべき姿を模索する。第二次大戦後、日本社会に多大な影響を与え続けてきたアメリカ社会とジャーナリズムの姿を概観することにより、日本ジャーナリズムを見つめる視点をより広く深いものにして行く。

【到達目標】

1. 現代ジャーナリズムの特徴と問題点を把握すること
2. 米国ジャーナリズムと日本のジャーナリズムの差違を的確に把握すること
3. 日米関係に関する基本的な知識を獲得すること
4. 報道とは何か？ といった基本的な問題点に気付くこと
5. 日米関係を通してみる国際的視野に気付くこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学生は通常 3 人のグループに振り分けられ、与えられた記事の様々な表現を一貫したテーマ（「日本ジャーナリズムの現状」）にそって分析し、その成果を授業中に発表する。発表においては、自分達の解釈がいかに説得力を持つものであるかを、自ら集めた資料と文献によって証明することを課せられる。

（授業形態についての注意事項）

対面授業を基本とするが、Covid-19 感染状況等に伴い、計画の変更もあり得る。

その場合は、「学習支援システム」に事前掲示し、周知する。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/13	Introduction	授業概略、学生自己紹介
4/20	教材解釈、発表について	教材の解説と今後の発表についての注意点
4/27	第一回テーマ グループ発表	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
5/11	第一回テーマ グループ発表 前週の続き	演習作業 (2) 質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
5/18	第一回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
5/25	第一回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
6/1	第一回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて
6/8	第二回テーマ グループ発表	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて

6/15	第二回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	・『メディア・コミュニケーション－その構造と機能』、法政大学出版局
6/22	第二回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	【成績評価の方法と基準】 演習Ⅰの成績評価は、発表等の授業内成績（100％）を基本とする。 100～90: S 89～87 : A+ 86～83 : A 82～80 : A- 79～77: B+ 76～73 : B 72～70 : B- 69～67 : C+ 66～63 : C 62～60 : C- 59 以下 : D 未受験、採点不能: E
6/29	第二回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
7/6	第二回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
7/13	第二回テーマ グループ発表 予備日	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
7/20	春学期総括 (12)	春学期のまとめ 論文について	
9/21	第三回テーマ グループ発表	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	【学生の意見等からの気づき】 ・毎回の授業における準備の度合いと課題の成果を中心に、受講生の努力を評価する。 ・各回の授業の評価は、その都度、改善点と共に指摘・説明する。 ・質問があれば、適宜、個別に対応と指導を行う。
9/28	第三回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	【学生が準備すべき機器他】 ネット端末（PC）
10/5	第三回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	【Outline (in English)】 (Course outline) The aim of this course is to help students acquire the important aspects and knowledge needed to understand today's journalism. (Learning Objectives) By taking this course, students should be able to think fully about the followings: a. realities of today's journalism in Japan. b. realities of today's journalism in the United States. c. importance of expressing opinions and discussing with others. d. importance of writing opinions in a logical manner. e. importance of respecting and following research ethics. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a meeting. (Grading Criteria) The final grade will be decided by the students' in-class participation and academic performance (100%). The information described herein is subject to change.
10/12	第三回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
10/19	第三回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
10/26	第三回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
11/9	第四回テーマ グループ発表	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
11/16	第四回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
11/23	第四回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
11/30	第四回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
12/7	第四回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
12/14	第四回テーマ グループ発表 前週の続き	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
12/21	第四回テーマ グループ発表 予備日	質疑応答 発表まとめ 次回へ向けて	
2023/1/1	年間総括	年間のまとめ 論文について 次年度へ向けて	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成の教材を配布

【参考書】

- ・司馬遼太郎、『アメリカ素描』、新潮社文庫
- ・D.J. ブーアスティン 著、星野郁美、後藤和彦 訳、『幻影の時代ーマスコミが製造する事実』、現代社会科学叢書
- ・W. リップマン 著、掛川トミ子 訳、『世論』（上）、（下） 岩波文庫
- ・ルース・ベネディクト 著、長谷川松治 訳、『菊と刀』 講談社学術文庫

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教員の指導のもとで、卒業論文のテーマを各自で明確にして調査・研究を実践し、その成果にもとづいて卒業論文を執筆する。

【到達目標】

各自が卒業論文を完成し提出すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の卒業論文に関する報告と討論。報告のたびに教員が次回までの課題を指示し、次回の報告を受けて、卒論のための調査・研究や執筆の進捗状況に即して適宜口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年間スケジュールの作成	役割分担、各自のテーマの確認と共有、発表順番の確定
2	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
3	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
4	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
5	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
6	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
7	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
8	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
9	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
10	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
11	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
12	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
13	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
14	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
15	春学期の総括と秋学期の課題	春学期の各自の進捗状況の確認と共有、秋学期の発表順番の確定
16	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
17	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
18	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
19	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
20	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
21	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
22	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
23	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
24	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
25	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
26	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
27	最終執筆指導 (1)	報告と討論、執筆指導
28	最終執筆指導 (2)	報告と討論、執筆指導

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の卒業論文に関する文献・資料収集とその他の調査研究活動。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

各自の論文テーマに即して適宜指示する。

【参考書】

各自の論文テーマに即して適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容によって100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文は学生生活の集大成です。各自が納得のできる卒業論文を仕上げられるよう力を尽くしてください。テーマの選び方や問いの立て方には、唯一の正解はありません。自らの問題意識に基づいて問い学ぶという貴重な経験を存分に楽しんでください。卒論に関して迷いや悩みが生じたときには、できるだけ早めに相談してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is instruct research and writing of graduation thesis. At the end of the course, students are expected to complete their graduation thesis. Students must report on the progress of their research towards their graduation thesis at each class. Final grade will be calculated according to the achievement of graduation thesis(100%).

MAN200EB,MAN200EC,MAN200ED

演習 1・2

糸久 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは「社会における技術とイノベーションのマネジメント」です。イノベーションとは創造的破壊と定義されます。それは、単なる技術革新ではなく、社会に対して新しい価値を提供し、経済的利益を得ることが重要なポイントになります。近年、社会の価値観は大きく変化し、革新的な技術が台頭しつつあります。それに伴い、企業のイノベーション活動も活性化しています。演習1ではイノベーションという概念を理解し、そのマネジメントと政策的課題について考えることを目的とします。

【到達目標】

- ・イノベーションに関する基礎的な知識の獲得
- ・イノベーション活動に主体的にかかわろうとするマインドの形成
- ・論理的な思考力
- ・プレゼンテーション能力/ディスカッション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は毎回報告者を決めて、その報告をもとにディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス	演習のコンセプトと各ゼミ生の自己紹介
第02回	ロジカルシンキング	ディスカッションの基本となるロジカルシンキングについて学ぶ
第03回	イノベーションの事例研究（1）	各ゼミ生が関心のあるイノベーションを紹介する
第04回	イノベーションの事例研究（2）	各ゼミ生が関心のあるイノベーションを紹介する
第05回	文献講読と討議（1）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第06回	文献講読と討議（2）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第07回	文献講読と討議（3）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第08回	文献講読と討議（4）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第09回	文献講読と討議（5）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第10回	文献講読と討議（6）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第11回	文献講読と討議（7）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第12回	文献講読と討議（8）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第13回	グループ研究に向けた準備（1）	グループ研究に向けた準備を行う
第14回	グループ研究に向けた準備（2）	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施

第15回	後半の研究計画	夏の課題の進捗報告と後半期のゼミ運営について
第16回	発表方法	発表方法に関するレクチャー
第17回	グループ研究の発表（1）	グループ研究の成果発表
第18回	グループ研究の発表（2）	グループ研究の成果発表
第19回	文献講読と討議（9）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第20回	文献講読と討議（10）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第21回	文献講読と討議（11）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第22回	文献講読と討議（12）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第23回	文献講読と討議（13）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第24回	文献講読と討議（14）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第25回	文献講読と討議（15）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第26回	文献講読と討議（16）	イノベーションに関する基本的な文献講読を行う
第27回	グループ・プレゼンテーション（1）	グループ課題の発表と討議
第28回	グループ・プレゼンテーション（2）	グループ課題の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の講読、レジュメの作成、発表資料の作成（担当回）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題の内容50%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Word、Excel、Powerpoint）

【その他の重要事項】

ゼミ生にはすべての回のゼミ活動に参加する意欲と、与えられた課題に真剣に取り組む姿勢を求めます。また、ビジネスモデルコンテスト、政策提言コンテスト等の課外活動にも参加する予定です。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "Technology and Innovation Management in Society." Innovation is defined as creative destruction. The critical aspect of capturing innovation is not merely implementing radical technology but also offering new value to society, then realizing an economic benefit. Recently, social values have been changing, and radical technologies are rising. That stimulates firms' innovation activities. In seminar 1, we aim to understand basic concepts of innovation and issues on innovation policy.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3 (卒業論文)

糸久 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは「社会における技術とイノベーションのマネジメント」です。イノベーションとは単なる技術革新ではなく、社会に対して新しい価値を提供し、経済的利益を得ることを意味します。演習3では、イノベーションをテーマとして、卒業論文を作成することを目的とします。そのために、テーマ設定、研究計画、科学的方法論、論文の書き方などを体系的に学んでいきます。

【到達目標】

- ・イノベーションに関する課題発見/課題解決
- ・論理的な思考力、
- ・社会科学的方法論
- ・プレゼンテーション能力/ディスカッション能力
- ・企業調査等に必要コミュニケーション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前期は卒業論文作成のための問題意識を醸成し、社会科学的方法論について学びます。夏にフィールド調査を実施し、後期は卒業論文の進捗報告とまとめを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス	卒業論文の目的と年間計画
第02回	論文のテーマ設定 (1)	問題意識を醸成し、論文のテーマ設定を行う
第03回	論文のテーマ設定 (2)	前回設定したテーマをプッシュアップする
第04回	既存研究レビュー (1)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する。
第05回	既存研究レビュー (2)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する。
第06回	既存研究レビュー (3)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する。
第07回	既存研究レビュー (4)	自分が設定したテーマに関して既存研究でどこまでが明らかになっているのかを整理する。
第08回	リサーチクエスチョンを設定する (1)	既存研究では明らかになっていないことを発見し、具体的なリサーチクエスチョンを設定する。
第09回	リサーチクエスチョンを設定する (2)	既存研究では明らかになっていないことを発見し、具体的なリサーチクエスチョンを設定する。
第10回	科学的方法論 (1)	原因と結果、理由の論理構造を理解する
第11回	科学的方法論 (2)	定性分析と定量分析の違いを理解する
第12回	フィールドワークの技法 (1)	フィールド調査を実施するための方法論を学ぶ

第13回	フィールドワークの技法 (2)	フィールド調査を実施するための方法論を学ぶ
第14回	フィールドワーク計画	夏に実施するフィールドワーク計画を立てる
第15回	論文執筆に向けたガイダンス	前期に設定した骨子に沿って論文としてまとめるためのガイダンスを行う
第16回	論文執筆に向けたガイダンス	論文の形式要件等の確認
第17回	論文内容の中間発表 (1)	論文の進捗報告と中間発表を行う
第18回	論文内容の中間発表 (2)	論文の進捗報告と中間発表を行う
第19回	論文内容の中間発表 (3)	論文の進捗報告と中間発表を行う
第20回	論文内容の中間発表 (4)	論文の進捗報告と中間発表を行う
第21回	論文執筆のための体裁の確認 (1)	論文執筆のための体裁を確認する
第22回	論文執筆のための体裁の確認 (2)	論文執筆のための体裁を確認する
第23回	論文内容の最終発表 (1)	論文内容の発表を行い、ブラッシュアップに向けたディスカッションを行う
第24回	論文内容の最終発表 (2)	論文内容の発表を行い、ブラッシュアップに向けたディスカッションを行う
第25回	論文内容の最終発表 (3)	論文内容の発表を行い、ブラッシュアップに向けたディスカッションを行う
第26回	論文内容の最終発表 (4)	論文内容の発表を行い、ブラッシュアップに向けたディスカッションを行う
第27回	論文内容の最終発表 (5)	論文内容の発表を行い、ブラッシュアップに向けたディスカッションを行う
第28回	論文内容の最終発表 (6)	論文内容の発表を行い、ブラッシュアップに向けたディスカッションを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献の講読、レジュメの作成、発表資料の作成 (担当回) は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、発表 20 %、論文内容 50 %、口述試験 10 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

ゼミ生にはすべての回のゼミに参加する意欲と、論文に最後まで真剣に取り組む姿勢を求めます。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "Technology and Innovation Management in Society." Innovation is defined as creative destruction. The critical aspect of capturing innovation is not merely implementing radical technology but also offering new value to society, then realizing an economic benefit. this seminar 3 is aiming at writing a thesis on innovation management. You'd systematically learn for the method of setting themes, research planning, scientific methodology, academic writing, etc.

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3 (卒業論文)

稲増 龍夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業制作活動を通してメディアリテラシーの向上と、社会人として通用するための実践的コミュニケーション能力やイベントプロデュース能力を磨きます。

【到達目標】

「映像が好き」段階から「映像を作る」となって、3ゼミは「映像を仕事にする」というのが基本スタンスです。その意味で、「就活」を明確な学習目標に掲げています。

ここ数年、毎年、10人近くがテレビ局に就職し、その他、広告代理店、出版社、番組制作会社、レコード会社など、全体で8割ほどがメディア業界に進んでいます。また、卒業後も頻繁に同期会/同窓会がおこなわれ、現役ゼミ生とOB、あるいはOB間の交流はきわめて盛んです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

就職活動の個人指導と卒論指導が中心です。ただ、2005年以降、ゼミ生自らが自主映像祭を企画=実行しており、3年間の映像制作活動の集大成としています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	就活の現状報告	本年度就活の動向とアドバイス
3	就活個人面談-1	就活の指導
4	就活個人面談-2	就活の指導
5	就活個人面談-3	就活の指導
6	就活個人面談-4	就活の指導
7	就活個人面談-5	就活の指導
8	映像フェスのガイダンス	秋の映像イベントのガイダンス
9	卒論構想の発表-1	卒論構想のプレゼン
10	卒論構想の発表-2	卒論構想のプレゼン
11	卒論構想の発表-3	卒論構想のプレゼン
12	卒論構想の発表-4	卒論構想のプレゼン
13	卒論構想の発表-5	卒論構想のプレゼン
14	卒論構想の発表-6	卒論構想のプレゼン
15	映像イベントのガイダンス	2003年から続いている卒業制作イベント「eizou+」の歴史と概要
16	イベント企画会議-1	映像作品の内容確定
17	イベント企画会議-2	仕事の分担決定と初回企画会議
18	卒論最終構想の発表-1	メディア論関連の卒論構想
19	卒論最終構想の発表-2	コンテンツ論関連の卒論構想
20	卒論最終構想の発表-3	現代若者論関連の卒論構想発表
21	卒論最終構想の発表-4	上記以外の卒論構想発表
22	映像イベント会議-1	映像制作の進捗状況報告
23	映像イベント会議-2	広報活動の戦略
24	映像イベント会議-3	映像イベントの最終チェック
25	映像イベント会議-4	映像作品の試写
26	映像イベント eizou+	上映会本番
27	卒論の最終チェック	卒論報告&教員コメント

28 卒論報告会

卒論報告&相互コメント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

3ゼミでは自主映像イベント以外の課外活動はありません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

稲増龍夫『就活は最強の教育プログラムである』(中央公論新社)

【参考書】

卒論テーマに則して個人的にアドバイスします。

【成績評価の方法と基準】

卒論(60%)とイベント実施への貢献(40%)によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習につき実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

高度な映像編集ソフトをインストールしたノートパソコン(Macbook Proなど)を個人的に所有していることが望ましい

【その他の重要事項】

進路はマスコミ関係が多く、NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京など全国60を超える放送局に100人以上の人材を輩出。その他、電通、博報堂、朝日新聞、読売新聞、集英社、文藝春秋、マガジンハウス、ソニーミュージック、吉本興業、アミューズ、ホリプロなどの主要マスコミ、ならびに、近年はグーグル、フェイスブック、アマゾン、ヤフー、サイバーエージェント、楽天などのIT企業への就職・転職も盛んです。2018年におこなわれたゼミ35周年記念パーティには350人を超える出席者があり、OBからすれば現役生は高感度モニターであり、現役生からすればOBは頼りになる就活アドバイザーです。

【Outline (in English)】

Writing the graduation thesis. And, Planning and Production of Our Graduation Anniversary Film, and Producing Screening Event.

Activities are conducted outside of class hours, and evaluation depends on the result of the paper and contribution to the event.

ARS200EB, ARS200EC, ARS200ED

演習 1・2

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の学問的業績と向き合っ議論することを通じて、現代という時代を生きることと、学問的にものごとを考えることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

【到達目標】

①学術書・論文の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期（4 月初めから 7 月初めまでの 3 か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方にオンラインあるいは対面で行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加します。学期末に関西の私大との合同ゼミ、11 月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自の自由テーマでゼミ論文を書きます。

ただし、学びの主体は受講生なので、受講生による自治組織をつくって、ゼミ運営を進めます。さしあたる提案は、以下のとおりです。

担当教員のライフワークの第一弾である『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』を読みながら、著者に対して、徹底的に疑問をぶつけて議論していく。受講生は毎週の読了部分について、わかったこと、わからなかったこと、調べたこと、議論してみたいことを、学習支援システムの掲示板に書き込んでいく。毎回の授業時間では、ディベート形式の議論や少人数討論などで話し合い、知識を付けるとともに、各自の疑問をより深く発展させていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	ユートピアを語ることは無意味か？	テキストの「はじめに」に関する議論およびテーマに関するディベート形式の議論
3	人類は幸せになれるか？	第 1 章第 1 節①、テーマに関するディベート形式の議論。
4	一人の力は社会を変えられるか？	第 1 章第 1 節②、テーマに関するディベート形式の議論。
5	自分の幸せと人類全体の幸せを同時に追求できるか？	第 1 章第 1 節③に関するディベート形式の議論。
6	生活の安定が保障されると人は腐敗するか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
7	飢えと貧困に直面すると人は勤勉になるか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
8	人類が全員に衣食住を保障できないほど、地球上の物資は欠乏しているか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
9	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるか生まれてくるかによる環境の日本国内での格差は許せるレベルか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
10	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるかによる環境の格差は、人類全体では許せるレベルか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
11	日本国内での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。

12	人類社会での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
13	大企業、多国籍企業はがん細胞と同じか？	第 2 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
14	連帯経済による内発的発展は可能か？	第 2 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
15	アメリカが変われば世界が変わるか？	第 3 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
16	ヨーロッパが変われば世界は変わるか？	第 4 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
17	福祉国家は再建できるか？	第 5 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
18	人びとはベーシックインカムを求めて立ち上がるか？	第 6 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
19	人びとは、国境を越える支配の仕組みを見破ることができるか？	第 7 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
20	SDGs は大衆のアヘンか？	第 8 章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
21	COVID-19 は人類社会の終わりの始まりか？	第 9 章、ディベート形式の議論。
22	SDGs を人類社会の仕組みを変えるチャンスにできるか？	第 9 章、ディベート形式の議論。
23	学術論文の書き方講座 1	全員にゼミ論文のテーマを語ってもらいます。
24	学術論文の書き方講座 2	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その 1
25	先行研究、研究状況の整理について	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その 2
26	学部研究発表会での共同発表の検討会	合同ゼミに向けて改善点を話し合います。
27	ゼミ論文報告会 1	報告と討論：ゼミ論文のプレゼンと討論。
28	ゼミ論文報告会 2	ゼミ論文のプレゼンと討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は十大学合同セミナーに参加して共同論文を書く。秋は、関西との合同ゼミ、学部研究発表会での報告に参加する。その間、授業のテキストを読み、ディベート形式の議論のための準備をし、毎回の授業の前に掲示板に書き込む。最終回の 2 回前までに、自由論題で学術論文形式のゼミ論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。なお春学期については、十大学合同セミナーのためにさらに毎週 4 時間、そのための 4 時間程度の準備が必要となります。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。

【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年、定価 2000 円+税）。
ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016 年、3000 円+税）
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008 年、定価 777 円）

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提として、掲示板に提出された毎回の書き込み 40%、共同研究作業やゼミ討論への貢献について 30%、ゼミ論文について 30%、合計 100 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の 10 大セミナーへの参加を必修にし、学習支援システムの掲示板と、ゼミでの共同作業やディベート形式の討論などの組み合わせによって、活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習3 (卒業論文)

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまで各自が大学で研究してきたことを卒業論文としてまとめる作業を行い、最後に完成したものを発表する。

【到達目標】

現代社会の問題に関して、自らが設定したテーマについて、先行研究を調べ、研究状況と到達点を明らかにした上で、独自のデータあるいは見解に基づいて考察を行い、今後の研究課題を問題提起するような、2万字程度の卒業論文を、学術論文の形式をふまえて作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講生は、簡単な卒論の中間報告を毎回行い、より詳細な報告を順番に行う。卒論作成の第一段階として、春学期末には、論文を完成して、大学の懸賞論文に応募できる水準までもってくる。秋学期は、それをもとに毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、卒論中間報告などの決定
2	卒論構想の検討①受講生からのテーマ報告。	卒論構想の報告と討論 (1)
3	卒論構想の検討②参照文献の報告。	報告と討論 (2)
4	卒論構想の検討③先行研究の整理について。	報告と討論 (3)
5	プレカリアートの時代①階級論。	テキストについての論点提起と議論 (1)
6	プレカリアートの時代②新自由主義論。	論点提起と議論 (2)
7	プレカリアートの時代③多国籍企業論。	論点提起と議論 (3)
8	プレカリアートの時代④権力論。	論点提起と議論 (4)
9	グローバル・ベーシック・インカム (GBI) 入門①ベーシック・インカム論。	テキストについての論点提起と議論 (1)
10	GBI 入門②ナミビアの事例。	論点提起と議論 (2)
11	GBI 入門③ブラジルの事例。	論点提起と議論 (3)
12	GBI 入門④インドの事例。	論点提起と議論 (4)
13	卒論構想の再検討①テーマと章立て。	半期のあいだ進めた作業をもとに、卒論構想の報告と討論 (1)
14	卒論構想の再検討②先行研究の整理。	報告と討論 (2)
15	ガイダンス	秋学期の計画の詳細を決定
16	卒論の中間報告①テーマと章立て。	夏のあいだに進めた卒論作成の中間報告と討論 (1)
17	卒論の中間報告②論理的一貫性。	報告と討論 (2)
18	卒論の中間報告③実証性。	報告と討論 (3)
19	卒論の中間報告④学術論文という形式。	報告と討論 (4)
20	グローバル・ベーシック・インカム構想の射程①	テキストについての論点提起と議論 (1)
21	GBI 構想の射程②ベーシック・インカム論	論点提起と議論 (2)
22	GBI 構想の射程③開発戦略論。	論点提起と議論 (3)
23	GBI 構想の射程④開発援助論。	論点提起と議論 (4)

24	GBI 構想の射程⑤多国籍企業論。	論点提起と議論 (5)
25	卒論草稿の検討①テーマと構成。	卒論草稿の報告と討論 (1)
26	卒論草稿の検討②論理性と実証性。	報告と討論 (2)
27	卒論草稿の検討③先行研究の整理。	報告と討論 (3)
28	卒論草稿の検討④学術論文形式。	報告と討論 (4)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期終了後には、大学の懸賞論文に応募できる水準のものを作成する。11月末までに卒論を完成させる。したがって、授業外の時間を用いて、自分の興味のあるテーマについて資料を集め、ひたすら論文の作成作業をする必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

岡野内正著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年。
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年。

【参考書】

ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』(集英社新書、2008年、定価 777円)

【成績評価の方法と基準】

卒論の学術的水準で成績評価します。学術論文の形式 (引用や参照にかかわる注があり、先行研究や研究状況の整理があり、適切な参考文献目録がある) と内容 (論理的に首尾一貫している) があれば、単位取得が可能な 60% とし、着想のユニークさ、先行研究の整理の適切さ、フィールドワークや文献調査などの実証的データの新鮮さ、今後の研究課題の提起における発想の豊かさなどの点で加点し、100% で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

早めに草稿を完成させ、仕上げていけるように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。長年の国際開発・人権 NGO での活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】

A seminar class for academic writing. At the end of the course, students are expected to write a graduation thesis of their own. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for each class. Grading will be decided based on the quality of the Thesis (100%; proper form of academic writing 60%, originality 20%, priority 20%).

HUI200EB, HUI200EC, HUI200ED

演習 1

金井 明人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像と、その物語および環境に、認知科学の立場からアプローチする。特に映画を中心に扱うが、それ以外の種類の映像も取り上げる。

【到達目標】

映像を認知科学的観点から分析し、それを論文としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習 1 では、映画・音楽ビデオ・広告・ビデオアート・ネット動画など様々な映像に実際に数多く接し、その映像に関する認知科学的演習を行うと同時に、映像と物語、認知に関する文献の講読および議論を行う。実験素材としての映像制作も、必要に応じて行う。

多様なジャンルの映像を扱うので、映像の歴史や、現在までのあらゆる映像に対する好奇心が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの内容について
第 2 回	映像認知とは	映像認知解説
第 3 回	映像上映	映像認知体験
第 4 回	上映映像に関するディスカッション	上映した映像に関して
第 5 回	研究計画発表 1	個人発表
第 6 回	研究計画発表 2	個人発表
第 7 回	研究計画発表 3	個人発表
第 8 回	研究計画発表 4	個人発表
第 9 回	映像上映	映像認知体験
第 10 回	映像認知に関する議論	映像認知体験について
第 11 回	映像発表 1	研究を希望する映像の紹介
第 12 回	映像発表 2	研究を希望する映像の紹介
第 13 回	映像発表 3	研究を希望する映像の紹介
第 14 回	映像発表 4	研究を希望する映像の紹介
第 15 回	夏合宿の復習	夏合宿などの総括・議論
第 16 回	秋学期の計画	秋学期の計画に関する議論
第 17 回	研究経過発表 1	個人発表
第 18 回	研究経過発表 2	個人発表
第 19 回	研究経過発表 3	個人発表
第 20 回	研究経過発表 4	個人発表
第 21 回	研究経過発表 5	個人発表
第 22 回	映画祭	映画祭について
第 23 回	映像と環境について	映像環境に関する議論
第 24 回	研究成果発表 1	研究成果の議論
第 25 回	研究成果発表 2	研究成果の議論
第 26 回	研究成果発表 3	研究成果の議論
第 27 回	ゼミ論文仮提出と議論	ゼミ論文の仮提出とそれに基づいた議論
第 28 回	ゼミ論文の修正に向けた議論	最終版のゼミ論文に向けた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするので、個人研究を進めておくこと。また、サブゼミ課題を指定した場合は、成果をグループでまとめてくること。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論文 (50%) と、通常のゼミでの発表や議論・課題内容 (50%) などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ外でも映像や文献に関する議論などの場を、より多くしていきたい。

【その他の重要事項】

必ず、毎回出席すること。

【Outline (in English)】

This seminar deals with the film and image theory, narratology and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze the film from the viewpoint of cognitive science. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper: 50%, in class contribution: 50%

HUI300EB, HUI300EC, HUI300ED

演習2・3 (卒業論文)

金井 明人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映像と、その物語および環境に、認知科学の立場からアプローチし、卒業論文・ゼミ論文を完成させる。特に映画を中心に扱うが、それ以外のジャンルの映像も取り上げる。

【到達目標】

映像を、データや制作、プログラミングなどもふまえ、認知科学的観点から分析し、それを学術論文としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習2では、映画・音楽ビデオ・広告・ビデオアート・ネット動画など様々な映像に実際に数多く接するだけでなく、その映像に関する認知科学的調査やシミュレーションを様々に行う。また、映像と物語、認知に関する文献の講読および議論を行う。実験素材としての映像制作やプログラミングも、必要に応じて行う。

演習3では、卒業論文に向け、分析・実験・制作・シミュレーションなどとその記述を精緻化していく。

多様なジャンルの映像を扱うので、映像の歴史や現在までのあらゆる映像に対する好奇心が求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの内容について
第2回	卒論・ゼミ論に向けて	卒論・ゼミ論に向けた年間計画について
第3回	調査練習1	映像認知の調査実習
第4回	調査練習2	調査実習結果
第5回	研究計画発表1	個人発表
第6回	研究計画発表2	個人発表
第7回	研究計画発表3	個人発表
第8回	研究計画発表4	個人発表
第9回	映像上映	映像認知体験
第10回	映像認知に関する議論	映像認知体験について
第11回	映像データ発表1	映像とデータの発表
第12回	映像データ発表2	映像とデータの発表
第13回	映像データ発表3	映像とデータの発表
第14回	映像データ発表4	映像とデータの発表
第15回	春学期の復習	夏合宿などの総括
第16回	秋学期に向けて	秋学期の研究計画
第17回	研究経過発表1	個人発表
第18回	研究経過発表2	個人発表
第19回	研究経過発表3	個人発表
第20回	研究経過発表4	個人発表
第21回	研究経過発表5	個人発表
第22回	映画祭	映画祭について
第23回	映像と環境について	映像環境に関する議論
第24回	研究成果発表1	研究成果の議論
第25回	研究成果発表2	研究成果の議論
第26回	研究成果発表3	研究成果の議論
第27回	ゼミ論・卒論の予稿提出	ゼミ論・卒論の予稿を完成させる

第28回 ゼミ論・卒論の修正に 修正内容に関する議論
に向けて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするので、個人研究を進めておくこと。また、サブゼミ課題を指定した場合は、成果をグループでまとめてくること。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文・ゼミ論文(50%)と、通常のゼミでの発表および議論・課題内容(50%)などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ外でも映像や文献に関する議論などの場を、より多くしていきたい。個人面談の回数も増やして、きめ細かい指導をしていきたい。

【その他の重要事項】

必ず、毎回出席すること。

【Outline (in English)】

This seminar deals with the film and image theory, narratology and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze the film from the viewpoint of cognitive science. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term paper: 50%, in class contribution: 50%

SOW300EB, SOW300EC, SOW300ED

演習2

平野 寛弥

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習2では、文献の購読の他、インタビュー調査等も視野に入れ、グループ別・個人別の研究を随時遂行することを通して、福祉に関連して各自が立てた問いをさらに追求していく。

【到達目標】

演習1での学びを踏まえつつ、自らの問いをさらに深く追求し、演習3（卒業論文）に向けた下準備まで行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、文献の講読と、グループごとに調査・研究発表を行うグループワークが中心となる。

秋学期は、文献の講読と、個人別の調査・研究発表を中心に行う。

※なお、授業計画は参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（春学期）	イントロダクション（春学期）
第2回	個人研究の構想発表	個人研究の構想発表
第3回	文献の選定	課題文献の選定・担当決定
第4回	課題文献の検討①	文献の講読、レジュメ作成、議論
第5回	課題文献の検討②	文献の講読、レジュメ作成、議論
第6回	課題文献の検討③	文献の講読、レジュメ作成、議論
第7回	課題文献の検討④	文献の講読、レジュメ作成、議論
第8回	課題文献の検討⑤	文献の講読、レジュメ作成、議論
第9回	グループ別研究テーマの選定	グループ分け、研究テーマの選定
第10回	グループワーク①	グループ別研究テーマの検討・先行研究の整理
第11回	グループワーク②	グループ別研究テーマの検討・論点整理と掘り下げ
第12回	グループワーク③	グループ別研究テーマの検討・発表資料の作成
第13回	グループ別研究発表①	グループ別研究発表、ディスカッション
第14回	グループ別研究発表②	グループ別研究発表、ディスカッション
第15回	イントロダクション（秋学期）	イントロダクション（秋学期）
第16回	個人別研究テーマ案の発表①	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第17回	個人別研究テーマ案の発表②	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第18回	個人別研究テーマ案の発表③	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第19回	課題文献の検討⑥	文献の講読、レジュメ作成、議論
第20回	課題文献の検討⑦	文献の講読、レジュメ作成、議論
第21回	課題文献の検討⑧	文献の講読、レジュメ作成、議論
第22回	課題文献の検討⑨	文献の講読、レジュメ作成、議論
第23回	課題文献の検討⑩	文献の講読、レジュメ作成、議論
第24回	個人別研究報告①	個人別研究報告、ディスカッション
第25回	個人別研究報告②	個人別研究報告、ディスカッション
第26回	個人別研究報告③	個人別研究報告、ディスカッション
第27回	個人別研究報告④	個人別研究報告、ディスカッション
第28回	まとめ	ふりかえり、個人別研究論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読・レジュメ作成の他、各研究テーマに沿った自己学習等を要します。

また、研究テーマによってはインタビュー調査等を行うこともあります。

本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（グループへの貢献、ディスカッション含む）40%、提出物（読書ノート・プレゼンテーション資料・個人別研究論文含む）60%で行います。提出物の締切は厳守してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習形式の授業のため、遅刻・欠席は厳禁です。

演習では、自分の意見を積極的に述べること、理由や根拠を常に意識すること、相手の意見を聞くこと、さまざまな視点から考えてみることをお互いに重視して、より良いディスカッションになるよう心がけましょう。

【その他の重要事項】

受講者の関心により、学外での勉強会やヒアリング・見学イベント等への参加も検討しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to pursue student's own research questions through group and individual research as needed, including interviews as well as reading of related literatures.

【Learning Objectives】

1. Identifying research trends related to student's own research interests.
2. Formulating their own research questions.
3. Learning how to write a thesis.

【Learning activities outside of classroom】

In addition to reading assigned literature and writing resumes, students are required to conduct self-study in accordance with each research theme.

Depending on the research theme, interview surveys may be conducted. The standard preparation time for this class (e.g., reading literature in advance) and review time (e.g., working on assignments presented in class) is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (including group contributions and discussions) will be 40%, and submissions (including reading notes, presentation materials, and individual research papers) will be 60%. Deadlines for submissions must be strictly adhered to.

SOW400EB, SOW400EC, SOW400ED

演習3 (卒業論文)

平野 寛弥

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文執筆に必要な基本的な技法を身に付け、卒業論文を執筆する。

【到達目標】

演習1・演習2での学びを踏まえて、自らの問いをさらに深く追求する。
1年間かけて、自らの問いと向き合いながら、卒業論文を完成させる。
論文のテーマは原則的に自由である（各自が1年間かけて取り組みたい、と思えるものであれば）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自が、自分の問いと向き合いながら研究を遂行し、その成果を卒業論文としてまとめていく。毎回の授業は、各自の研究の進捗状況の報告と検討を中心に進めていく。

目安としては、春学期中に研究計画を完成させ、夏季休暇中に研究を進め、秋学期後半は各自の草稿を検討する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明、卒業論文の説明
第2回	問いの設定 (1)	先行研究の整理と、問いの設定
第3回	問いの設定 (2)	先行研究の整理と、問いの設定
第4回	問いの設定 (3)	先行研究の整理と、問いの設定
第5回	問いの設定 (4)	先行研究の整理と、問いの設定
第6回	問いの設定 (5)	先行研究の整理と、問いの設定
第7回	卒業論文の技法 (1)	優秀卒業論文集からピックアップした複数の論文の輪読・批評
第8回	卒業論文の技法 (2)	優秀卒業論文集からピックアップした複数の論文の輪読・批評
第9回	研究計画の発表 (1)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第10回	研究計画の発表 (2)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第11回	研究計画の発表 (3)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第12回	研究計画の発表 (4)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第13回	研究計画の発表 (5)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第14回	夏季休暇中の作業について (1)	夏季休暇中に取り組むべき課題の整理
第15回	イントロダクション (秋学期)	イントロダクション (秋学期)
第16回	研究の中間報告 (1)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第17回	研究の中間報告 (2)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第18回	研究の中間報告 (3)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第19回	研究の中間報告 (4)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第20回	研究の中間報告 (5)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第21回	論文の書き方について	論文執筆における基本的マナーについて改めて確認
第22回	初稿の相互批評 (1)	初稿の提出、相互批評
第23回	初稿の相互批評 (2)	初稿の提出、相互批評
第24回	研究の最終報告 (1)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第25回	研究の最終報告 (2)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第26回	研究の最終報告 (3)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第27回	研究の最終報告 (4)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第28回	ふりかえり	ふりかえり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成まで、各自の研究テーマについて計画的な学習を要します。
また、ゼミ生同士での相互批評と相互扶助を大事にしてほしいと思っています。
本授業の準備学習 (文献を事前に読む等)・復習時間 (授業内で提示された課題に取り組み等) は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)、発表の内容 (10%)、相互批評の内容 (20%)、卒業論文の内容 (60%) 等から総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、自分の意見を積極的に述べること、相手の意見を聞くこと、さまざまな視点から考えてみることをお互いに重視して、より良い卒業論文を仕上げていきましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to prepare students for writing a graduation thesis related to their research interests.

【Course outline】

This course aims to write a graduation thesis related to student's own research interests.

【Learning Objectives】

1. Doing researches related to student's own research interests.
2. Examining their own research questions.
3. Writing a graduation thesis.

【Learning activities outside of classroom】

In addition to reading assigned literature and writing resumes, students are required to conduct self-study in accordance with each research theme.

Depending on the research theme, interview surveys may be conducted. The standard preparation time for this class (e.g., reading literature in advance) and review time (e.g., working on assignments presented in class) is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (10%), the content of the presentation (10%), the content of the peer critique (20%), and the content of the graduation thesis (60%).

Deadlines for submissions must be strictly adhered to.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるような学生になることが目標です。とくに「行動経済学」を取り上げて、教員による講義部分を授業外に事前学習させた上で、ゼミ内でその学習にもとづく演習を行わせる反転授業や、学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法によって理解を深めます。

【到達目標】

- ① 経済学的な発想ができる。
- ② 経済学的な効果についてグラフなどを用いて説明できる。
- ③ 行動経済学の枠組みを用いて、社会課題について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、身近なことにも経済学という考え方が取り入れられていることを確認します。数式やグラフをほとんど用いずに、経済学的な発想を身につけることに重点を置きます。本年度も行動経済学を中心に勉強する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	行動経済学 ①	アノマリーについて解説します。
2	行動経済学 ②	ヒューリスティクスについて解説します。
3	行動経済学 ③	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
4	行動経済学 ④	ヒューリスティクスについて解説します。
5	行動経済学 ⑤	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
6	行動経済学 ⑥	プロスペクト理論について解説します。
7	行動経済学 ⑦	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
8	行動経済学 ⑧	プロスペクト理論について解説します。
9	行動経済学 ⑨	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
10	行動経済学 ⑩	双曲割引について解説します。
11	行動経済学 ⑪	双曲割引について解説します。
12	行動経済学 ⑫	双曲割引について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
13	行動経済学 ⑬	双曲割引について解説します。
14	前期のまとめ	行動経済学について、理解したかどうかの確認を行います。

15	行動経済学 ⑭	ヒューリスティクスについて、グループ別に分けて、反転授業を行います。
16	行動経済学 ⑮	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
17	行動経済学 ⑯	ヒューリスティクスについてグループ別に分けて、反転授業を行います。
18	行動経済学 ⑰	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
19	行動経済学 ⑱	プロスペクト理論についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
20	行動経済学 ⑲	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
21	行動経済学 ⑳	プロスペクト理論についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
22	行動経済学 ㉑	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
23	行動経済学 ㉒	双曲割引についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
24	行動経済学 ㉓	双曲割引について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
25	行動経済学 ㉔	双曲割引についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
26	行動経済学 ㉕	双曲割引について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
27	行動経済学 ㉖	フレーミングについてグループ別に分けて、反転授業を行います。
28	行動経済学 ㉗	フレーミングについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：報告は Word や PowerPoint を使って行います。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。（最低2時間以上）
復習時間：議論の後、修正等して再提出するため、復習時間を設けます。（最低2時間以上）

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) 課題・レポート (80%) で評価します。欠席は3回までとします。4回以上欠席すると単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline (in English)】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics. This class focuses on "behavioral economics" and incorporates the following approaches:

A method where students study in advance with lectures and have collaborative learning in the classroom.

A method where small groups are formed and students are given tasks to solve cooperatively.

ECN300EB, ECN300EC, ECN300ED

演習2

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるようなゼミ生を育成することが目標です。とくに演習2では研究テーマについて報告してもらいます。

【到達目標】

- (1) 関心のある経済社会問題をデータに基づいて議論できる。
- (2) 各自のテーマに基づいた仮説を検証するためにアンケートを作成する。
- (3) ゼミ論（10,000 字以上）を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、公共サービス、教育・健康、環境に関する諸問題や貧困・高齢化などの社会問題について、各自関心のあるテーマを決めます。次に、対象となる国や地域（地方自治体）を決めます。それに基づいて、Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。このようにゼミ生同士の相互作用を重視します。この他に挙げたテーマに応じて「現場」を見ることも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の報告（1 回目）①	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
2	ゼミ論の報告（1 回目）②	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
3	ゼミ論の報告（1 回目）③	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
4	研究テーマの紹介①（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、たくさんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。
5	ゼミ論の報告（2 回目）①	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
6	ゼミ論の報告（2 回目）②	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
7	ゼミ論の報告（2 回目）③	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
8	研究テーマの紹介②（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、たくさんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。

9	ゼミ論の報告（3 回目）①	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
10	ゼミ論の報告（3 回目）②	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
11	ゼミ論の報告（3 回目）③	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
12	研究テーマの紹介③（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、たくさんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。
13	ゼミ論の報告（4 回目）①	3 回目の報告を踏まえて、参考文献を整理して報告します。
14	ゼミ論の報告（4 回目）②	3 回目の報告を踏まえて、参考文献を整理して報告します。
15	ゼミ論の報告（5 回目）①	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
16	ゼミ論の報告（5 回目）②	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
17	ゼミ論の報告（5 回目）③	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
18	ゼミ論の報告（5 回目）④	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
19	研究テーマの紹介④（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
20	ゼミ論の報告（6 回目）①	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
21	ゼミ論の報告（6 回目）②	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
22	ゼミ論の報告（6 回目）③	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
23	研究テーマの紹介⑤（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
24	ゼミ論の報告（7 回目）①	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
25	ゼミ論の報告（7 回目）②	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
26	ゼミ論の報告（7 回目）③	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
27	研究テーマの紹介⑥（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
28	ゼミ論の報告（8 回目）	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告は各自のテーマについて Word や PowerPoint を使って行います。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。本演習の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

8 回以上のゼミ論報告（20 %）およびゼミ論 10,000 字以上（80 %）で評価します。欠席は 3 回までとします。4 回以上欠席すると単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回行ってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline (in English)】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics. In this class, students need to create a questionnaire based on their hypothesis, and they are required to write a dissertation of 10,000 characters or more.

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習3 (卒業論文)

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるようなゼミ生を育成することが目標です。学生を少人数のグループに分け、執筆している論文に対して、対話、またはディスカッションを通して理解を深めます。

【到達目標】

世界を見渡すと、日本のように経済が発展している国となかなか経済が発展できない国があります。「どうしてこんなに格差が出たのか?」「このような格差を埋めるには、どのようにするのがよいか?」経済発展にまつわる様々な問題について事実と経済理論の両面から考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、対象となる要因（公共サービス、教育・健康、環境など）や社会問題（貧困問題や高齢化問題など）を決めます。次に、対象となる国や地域（地方自治体）を決めます。それに基づいて、Word、Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。このようにゼミ生同士の相互作用を重視します。この他に取り上げたテーマに応じて「現場」を見ることも予定しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方など
2	研究テーマの報告①	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
3	研究テーマの報告②	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
4	研究テーマの報告③	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
5	研究テーマの報告④	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
6	研究テーマの報告および討論①	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
7	研究テーマの報告および討論②	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
8	研究テーマの報告および討論③	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
9	研究テーマの報告および討論④	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
10	研究テーマの報告および討論⑤	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
11	研究テーマについて検討①	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。

12	研究テーマについて検討②	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。
13	研究テーマについて検討③	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。
14	研究テーマについて検討④	他のメンバーと討論したことを踏まえて、再び関心のあるテーマについて報告します。
15	収集したデータを中心に整理・報告①	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
16	収集したデータを中心に整理・報告②	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
17	収集したデータを中心に整理・報告③	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
18	収集したデータを中心に整理・報告④	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
19	収集したデータを中心に整理・報告⑤	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
20	論文作成①	論文作成の進捗状況を報告します。
21	論文作成②	論文作成の進捗状況を報告します。
22	論文作成③	論文作成の進捗状況を報告します。
23	論文作成④	論文作成の進捗状況を報告します。
24	論文作成⑤	論文作成の進捗状況を報告します。
25	研究発表①	卒論の発表を行います。
26	研究発表②	卒論の発表を行います。
27	研究発表③	卒論の発表を行います。
28	研究発表④	卒論の発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告は各自のテーマについて Word や Excel を使って発表します。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。本演習の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況、卒業論文の内容(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline (in English)】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics. In this class, students will be divided into small groups to understand the paper they write, and discuss the paper to interpret and describe the significance of their findings.

HSS200EB, HSS200EC, HSS200ED

演習 2

國本 眞由子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体文化や非言語コミュニケーションに関する知識を学び、実践を通して深めていく。自己のからだや動きについて意識化していく。

【到達目標】

自己の身体感覚や運動感覚が、人間のアイデンティティを構成する根源であることを理解し、各々の方法で自己表現できること。言語および非言語によるコミュニケーション能力の向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「からだ」や「身体文化」、「非言語コミュニケーション」に関する文献の輪読を行う。実際に自分の5感を使っているいろいろな体験を行う。また、個人によるテーマ研究とグループによるプロジェクトを計画している。小学校や福祉施設など、地域での活動も検討中である。高尾山ハイキング、ダンスフェスティバル等への参加、春・夏に合宿を予定している。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業計画は授業の展開によって若干の変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	顔合わせと打ち合わせ。係の決定
第 2 回	からだワーク①	五感を意識した実践トレーニング
第 3 回	からだワーク②	ボディワーク各種及び民族芸能
第 4 回	からだワーク③	ボディワーク各種及び民族芸能
第 5 回	チームプロジェクト①	グループごとに企画、打ち合わせ
第 6 回	チームプロジェクト②	現場において実施
第 7 回	振り返り	チームプロジェクトの反省
第 8 回	お楽しみ課題①	各々による表現課題の発表・鑑賞
第 9 回	文献講読・発表①	文献の読解と討議
第 10 回	文献講読・発表②	文献の読解と討議
第 11 回	文献講読・発表③	文献の読解と討議
第 12 回	文献講読・発表④	文献の読解と討議
第 13 回	お楽しみ課題②	各々による表現課題の発表・鑑賞
第 14 回	個人による研究報告会① まとめ①	各々による研究の中間報告・検討。春学期の振り返りと夏合宿の打ち合わせ
第 15 回	お楽しみ課題③	各々による表現課題の発表・鑑賞
第 16 回	からだワーク④	ボディワーク各種
第 17 回	チームプロジェクト③	グループごとに企画・打ち合わせ
第 18 回	チームプロジェクト④	現場において実施
第 19 回	個人による研究報告会②	各々による研究の中間報告・検討
第 20 回	文献講読・発表⑤	文献の読解と討議
第 21 回	文献講読・発表⑥	文献の読解と討議
第 22 回	文献講読・発表⑦	文献の読解と討議
第 23 回	文献講読・発表⑧	文献の読解と討議
第 24 回	お楽しみ課題④	二人表現課題の発表・鑑賞
第 25 回	からだワーク⑤	ボディワーク各種及び民族芸能
第 26 回	からだワーク⑥	ボディワーク各種及び民族芸能
第 27 回	お楽しみ課題⑤	グループ表現課題の発表・鑑賞
第 28 回	個人による研究報告会③ まとめ②	各々による研究報告の発表。秋学期の振り返りと春合宿の打ち合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する情報収集を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

【参考書】

開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ゼミ運営・活動への参加状況）100%

【学生の意見等からの気づき】

学生たちが非言語コミュニケーションを学ぶことで、自分に自信を持ち、人として大きく成長できるよう働きかけていきたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve nonverbal communication ability. At the end of the course, students are expected to self-advertis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%

HSS400EB, HSS400EC, HSS400ED

演習3 (卒業論文)

笠野 英弘

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

各自が、自分の興味や関心あるテーマを設定し、卒業論文を仕上げる。

【到達目標】

卒業論文を仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別指導が中心であるが、毎回、各自の研究の進捗状況について報告する。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	年間の予定の説明
第 2 回	研究報告	テーマ設定についての報告 1
第 3 回	研究報告	テーマ設定についての報告 2
第 4 回	研究報告	テーマ設定についての報告 3
第 5 回	研究報告	テーマ設定についての報告 4
第 6 回	研究報告	構想についての報告 1
第 7 回	研究報告	構想についての報告 2
第 8 回	研究報告	構想についての報告 3
第 9 回	研究報告	構想についての報告 4
第 10 回	研究報告	構想についての報告 5
第 11 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 1
第 12 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 2
第 13 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 3
第 14 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 4
第 15 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 5
第 16 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 6
第 17 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 7
第 18 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 8
第 19 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 9
第 20 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 10
第 21 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 11
第 22 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 12
第 23 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 13
第 24 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 14
第 25 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 15
第 26 回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告 16
第 27 回	研究報告	卒業論文最終完成版の提出
第 28 回	試験・まとめと解説	授業の総括として口頭試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自のテーマに関する情報収集を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 70 %ゼミへの参加 30% (報告、発言等) として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to write a graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Graduation thesis: 70%, in class contribution: 30%

ART200EB, ART200EC, ART200ED

演習 1

宮本 裕子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画研究の基本として、ショット分析の方法や、ジャンル研究・ジェンダー論・歴史研究などから批評的視座を学び、映画を学術的に研究します。2022 年度は主にエイジングをテーマとして扱います。

【到達目標】

映画研究の基礎を身につけ、映画を題材に、単なる映画レビューや感想文ではなく、学術的な視座から論文が書けるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読と映画作品の分析が基本。
演習 2 との合同授業（3 限・4 限の両時限に参加すること）
毎回、全員がレジュメを作成し授業に参加し、グループで議論の後、全体討議を行う。
授業の最後に講評という形でフィードバックを出す。
*毎回授業後に翌週の課題映画の鑑賞を行う（参加は必須）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
第 2 回	発表	個人研究発表
第 3 回	映画分析と方法論①	物語とその理解
第 4 回	映画分析と方法論②	演出と編集
第 5 回	映画分析と方法論③	音響・特殊効果
第 6 回	ドキュメンタリー映画 文献講読	ドキュメンタリーに関する文献講読、 議論
第 7 回	ドキュメンタリー映画 講義	作品分析・議論、講義
第 8 回	エイジングとは (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 9 回	エイジングという考え方 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 10 回	エイジングと歴史 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 11 回	エイジングと階層 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 12 回	エイジングと階級 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 13 回	研究計画書の作成	夏のグループ研究に向けて計画書を作成する
第 14 回	先行研究のまとめ	先行研究のまとめ
第 15 回	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明 夏休み課題の発表
第 16 回	夏休み課題の発表	夏休み課題の発表
第 17 回	エイジングと女性 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 18 回	エイジングと男性 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 19 回	エイジングとセクシュアリティ基礎 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 20 回	エイジングとセクシュアリティ応用 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 21 回	老いと若さ 基礎 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 22 回	老いと若さ 応用 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 23 回	ライフコースと映画 基礎 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 24 回	ライフコースと映画 応用 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 25 回	グループ研究 1 (計画)	問いの設定、映画選択

- 第 26 回 グループ研究 2 (中間報告) 先行研究の評価
第 27 回 グループ研究 3 (中間報告) 映画分析・考察の確認
第 28 回 グループ研究 4 (発表) 研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読にあたっては、受講者は毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってレジュメを作成したうえで討論に参加する。課題映画も必ず事前に視聴し、分析をしたうえで授業に参加することが必須。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・30%、課題 30%、学期末研究報告・レポート 40%
*学期中、特別な理由なく 3 回を超える欠席があった場合はゼミの継続を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

現代の娯楽作品だけでなく、古い作品や政治的な映画、芸術映画にも興味があり、映画を観ることに意欲的な学生、文献の講読を苦に感じない学生の受講を勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, the students will be introduced to the key theories in Film Studies. The course emphasizes an understanding of the historical, cultural, commercial, and aesthetic contexts that influence film, but also develops the students' understanding of a film's narrative and visual structure and its place within established theoretical traditions.

【Learning Objectives】

The goal of the course is that the students will acquire the essential skills to analyze films from strictly an academic perspective.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have read the relevant articles given out at classes and made summaries before each class meeting. Required study time is at least two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on term-end report (40%), mid-term presentation (30%), in class contribution (30%).

ART300EB, ART300EC, ART300ED

演習 2

宮本 裕子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画研究の基本として、ショット分析の方法や、ジャンル研究・ジェンダー論・歴史研究などから批評的視座を学び、映画を学術的に研究します。2022 年度は主にエイジングをテーマとして扱います。

【到達目標】

映画研究の基礎を身につけ、映画を題材に、単なる映画レビューや感想文ではなく、学術的な視座から論文が書けるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読と映画作品の分析が基本。
演習 1 との合同授業（3 限・4 限の両時限に参加すること）
毎回、全員がレジュメを作成し授業に参加し、グループで議論の後全体討議を行う。

授業の最後に講評という形でフィードバックを出す。

*毎回授業後に翌週の課題映画の鑑賞を行う（参加は必須）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
第 2 回	発表	個人研究発表
第 3 回	映画分析と方法論①	物語とその理解
第 4 回	映画分析と方法論②	演出と編集
第 5 回	映画分析と方法論③	音響・特殊効果
第 6 回	ドキュメンタリー映画	ドキュメンタリーに関する文献講読、 文献講読 議論
第 7 回	ドキュメンタリー映画	作品分析・議論、講義
第 8 回	エイジングとは (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 9 回	エイジングという考え方 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 10 回	エイジングと歴史 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 11 回	エイジングと階層 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 12 回	エイジングと階級 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 13 回	研究計画書の作成	夏のグループ研究に向けて計画書を作成する
第 14 回	先行研究のまとめ	先行研究のまとめ
第 15 回	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明 夏休み課題の発表
第 16 回	夏休み課題の発表	夏休み課題の発表
第 17 回	エイジングと女性 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 18 回	エイジングと男性 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 19 回	エイジングとセクシュアリティ基礎 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 20 回	エイジングとセクシュアリティ応用 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 21 回	老いと若さ 基礎 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 22 回	老いと若さ 応用 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 23 回	ライフコースと映画 基礎 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 24 回	ライフコースと映画 応用 (文献講読・作品分析)	論点の報告と作品分析・議論
第 25 回	個人研究 1 (計画)	問いの設定、映画選択

第 26 回	個人研究 2 (中間報告)	先行研究の評価
第 27 回	個人研究 3 (中間報告)	映画分析・考察の確認
第 28 回	個人研究 4 (発表)	研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読にあたっては、受講者は毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってレジュメを作成したうえで討論に参加する。課題映画も必ず事前に視聴し、分析をしたうえで授業に参加することが必須。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・30%、課題 30%、学期末研究報告・レポート 40%

*学期中、特別な理由なしに欠席が 3 回を超えた場合は単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

現代の娯楽作品だけでなく、古い作品や政治的な映画、芸術映画にも興味があり、映画を観ることに意欲的な学生、文献の講読を苦に感じない学生の受講を勧める。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, the students will be introduced to the key theories in Film Studies. The course emphasizes an understanding of the historical, cultural, commercial, and aesthetic contexts that influence film, but also develops the students' understanding of a film's narrative and visual structure and its place within established theoretical traditions.

【Learning Objectives】

The goal of the course is that the students will acquire the essential skills to analyze films from strictly an academic perspective.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have read the relevant articles given out at classes and made summaries before each class meeting. Required study time is at least two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on term-end report (40%), mid-term presentation (30%), in class contribution (30%).

ART400EB, ART400EC, ART400ED

演習3 (卒業論文)

宮本 裕子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ゼミ1、ゼミ2での学習の集大成として卒業論文の作成を行う。

【到達目標】

各自テーマを設定し、具体的な問いをたてて研究を行い、その成果を論文にまとめる。

設定した問題関心(問い)について、歴史的、理論的、美学的視座から論理的に考察・検証するとともに、映画テキストの詳細な分析を行うことが必須。感想でも批評でもなく、映画についての「研究論文」として卒論を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自、自分の研究テーマについて研究をすすめ、論文を完成する。中間報告を定期的に行い、他のゼミ生との質疑応答から改善点を得て研究に役立てる。別途、教員の指導を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	春学期についての説明
第2回	研究計画書の作成	研究計画書の作成
第3回	先行研究の整理	先行研究を収集し整理する
第4回	先行研究のまとめ	既存の研究をまとめ自分の問いを再確認する
第5回	第1章(1):進捗報告1	第1章の構成報告・討議
第6回	第1章(2):進捗報告2	第1章の映像分析・考察を報告・討議
第7回	第1章(3):初稿発表	第1章のドラフトを発表・討議
第8回	第1章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第9回	第1章(5):完成・発表	第1章を完成・発表
第10回	第2章(1):進捗報告1	第2章の構成報告・討議
第11回	第2章(2):進捗報告2	第2章の映像分析・考察を報告・討議
第12回	第2章(3):初稿発表	第2章のドラフトを発表・討議
第13回	第2章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第14回	第2章(5):完成・発表	第2章を完成・発表
第16回	第3章(1):進捗報告1	第3章の構成報告・討議
第16回	第3章(2):進捗報告2	第3章の映像分析・考察を報告・討議
第17回	第3章(3):初稿発表	第3章のドラフトを発表・討議
第18回	第3章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第19回	第3章(5):完成・発表	第3章を完成・発表
第20回	序論(1)	序論の問いの背景部分を執筆・報告
第21回	序論(2)	序論のドラフト完成・報告
第22回	序論(3)	序論の完成と報告
第23回	結論(1)	結論部分のドラフト作成と報告
第24回	結論(2)	結論の完成と報告
第25回	論文全体の初稿完成	論文全体の初稿完成
第26回	研究報告1	初稿をもとに発表・討議
第27回	論文全体の改稿	前回の発表・討議をもとに改稿
第28回	研究報告2	完成した卒業論文の概要を発表する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自、卒業論文の完成に向けて、映画視聴・分析、文献探査、講読、考察、執筆を計画的にすすめること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 70 %

ゼミへの参加(中間報告等) 30 %

* 論文提出はゼミ参加(中間報告)を前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course offers students the opportunity of personal advanced study and writing a dissertation on a topic of their own choice in Film Studies. The dissertation should be written strictly from an academic perspective involving historical, theoretical and aesthetic analyses. The length of the dissertation should be more than 20,000 letters.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should finish their own original dissertations written strictly from an academic perspective.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have proceeded to write dissertations constantly. Before and after each class meeting, students should read the relevant books or articles, research and analyze films related to the theme of dissertations. Required study time is at least two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on dissertation (70%), in class contribution (30%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

斎藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマ 「公平さと公共性」を手がかりに社会学的視点とロジックを学ぶ。

この演習の目的はふたつある。第一は、公共性・公平さ、そして共同性に関わる諸問題について考えることを通して「社会学的想像力」を鍛えること、第二は、科学的な考え方や説得の作法を身につけることである。

【到達目標】

自分自身の「社会学的な問題関心」を見つけるとともに、(自分のものかどうかに関わらず)「問い」に対する答えを、客観的・中立的な方法で見つけ、それを説得的に提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は「公平性・公共性」に関する基本的な文献を読む。目的は基本的な考え方やテクニカルタームをいくつか学習し、テーマを見つける「めがね」を作ることである。秋学期はグループごとに設定した研究テーマについて文献講読・資料収集・調査などにより研究を進める。この作業を通して、テーマに関する知識のみならず「疑問を明確にし、答えをみつけ、根拠を示して論じる」方法を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ゼミの進め方	ゼミの進め方・レジュメ準備の方法などについて説明する
第 2 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された基本文献について担当者による発表と質疑応答を行う（3 回以降も同様）
第 3 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 4 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 5 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 6 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 7 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 8 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 9 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 10 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 11 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 12 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 13 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 14 回	資料収集の方法	社会学における基本的な資料収集の方法のいくつかを紹介する
第 15 回	各自の関心の発表	グループ研究のテーマを決定するため、各自の研究関心を発表し共有する

第 16 回	研究テーマの探索	グループ研究のテーマを決定するために各自のアイデアをひとつに練り上げる
第 17 回	研究テーマの探索	グループ研究のテーマを決定するために各自のアイデアをひとつに練り上げる
第 18 回	研究テーマの発表	グループ研究のテーマに関する質疑応答、研究の進め方について議論する
第 19 回	データ構築の方法	グループ研究で利用することの多い、データベースの使用方法を図書館で学ぶ
第 20 回	ゼミ研究進捗状況の報告	発表担当のグループがゼミ研究について進捗状況を報告し、他のグループとの討論を行うことで研究を進める（21 回以降も同様）
第 21 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 22 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 23 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 24 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 25 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 26 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 27 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 28 回	次年度の研究に向けて	次年度の研究計画を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は指定された文献を講読し理解する。これとともに、新聞・テレビ・ウェブや、各自の実生活の中で、テーマを見つけるべくアンテナをはる。秋学期はグループ研究のための作業を進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）により評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The objective of this seminar is to learn "how to see and think sociologically", by looking at the issue of fairness, justice, and togetherness in our daily lives. Students should grasp the essence of "sociological imagination" and the scientific thinking as well.

The goal of this seminar is to find your own "sociological research interest", and to become able to find and tell the answer to your question in an objective, scientific manner.

To accomplish this goal, students need to finish reading assignment before each meeting during the spring semester. In the fall semester, students need to advance their group research, outside of the class meetings. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on your contribution to the group research and research debate (100%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

斎藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマ 「公平さと公共性」を手がかりに社会学的視点とロジックを学ぶ。

この演習の目的はふたつある。第一は、公共性・公平さ、そして共同性に関わる諸問題について考えることを通して「社会学的想像力」を鍛えること、第二は、科学的な考え方や説得の作法を身につけることである。

【到達目標】

自分自身の「社会学的な問題関心」を見つけるとともに、(自分のものかどうかに関わらず)「問い」に対する答えを、客観的・中立的な方法で見つけ、それを説得的に提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミの前半は、演習 1 の後半に開始したグループ研究を引き続き進めゼミ論文を執筆する。この間に、各グループの研究の進捗状況と必要に応じ、研究方法やスキルに関するワークショップをゼミ中に行う。ゼミの後半は、卒業研究に向けた各自の関心の深化とテーマの探索を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミ研究進捗状況の報告	発表担当のグループがゼミ研究について進捗状況を報告し、他のグループとの討論を行うことで研究を進める（2回以降も同様）
第 2 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 3 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 4 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 5 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 6 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 7 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 8 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 9 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 10 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 11 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 12 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 13 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 14 回	ゼミ研究論文の構成について	各グループのゼミ研究論文の構成について発表し、検討する
第 15 回	ゼミ論文提出	ゼミ論文の提出と内容に関する簡単な報告
第 16 回	卒業論文に関する個別相談	テーマ設定に関する個別相談を実施する

第 17 回 卒業論文に関する個別相談

第 18 回 各自の研究報告
卒業論文のテーマ設定・研究方法について個別に報告し、討議を行う（19回以降も同様）

第 19 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 20 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 21 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 22 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 23 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 24 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 25 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 26 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 27 回 各自の研究報告
卒業論文に関する個別報告と討議
第 28 回 春休みの研究計画報告
卒業論文に関する春休みの作業計画の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文完成までは、グループ別にゼミ研究を進め、ゼミでの報告準備を行う。ゼミ論文完成後は、個別の研究関心を深化させるために資料収集を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）とゼミ論文により評価する（60 % : 40 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The objective of this seminar is to learn "how to see and think sociologically", by looking at the issue of fairness, justice, and togetherness in our daily lives. Students should grasp the essence of "sociological imagination" and the scientific thinking as well.

The goal of this seminar is to find your own "sociological research interest", and to become able to find and tell the answer to your question in an objective, scientific manner.

To accomplish this goal, students need to advance their group research that they have started in Seminar 1 and finish a research paper during the spring semester. In the Fall, students should start preparing one's own research project for graduation thesis. Expected study time for each class is about four hours. The overall grade will be decided based on your contribution to the group research, research paper, and individual research report (100%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

斎藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3年次までの漠然とした問題関心を深化させ、卒業研究へと結実させる(できれば3年次までのテーマであった、公共性や公平さに関心のあることが望ましい)。

【到達目標】

卒業論文の完成と、完成までのプロセスを通して、社会現象を客観的に分析し、主張を説得的に提示する技法を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業研究の進捗状況について発表し討議を行う形で進める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第2回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第3回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第4回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第5回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第6回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第7回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第8回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第9回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第10回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第11回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第12回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第13回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第14回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第15回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第16回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第17回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第18回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第19回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第20回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う

第21回 研究報告

第22回 研究報告

第23回 研究報告

第24回 研究報告

第25回 研究報告

第26回 研究報告

第27回 研究報告

第28回 研究報告

卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文作成に向けて、先行研究の消化と、資料やデータの収集・分析を行い執筆を進める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加(発表・議論への参加)と論文により評価する(30% : 70%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this seminar, students should complete their graduation thesis by deepening sociological insight into one's own theme that they have developed through their work in Seminars 1 and 2. The goal of this seminar is to acquire skills and ability to scientifically analyze social phenomena, and to persuasively present conclusion derived from the research result. To accomplish this goal, each student needs to engage oneself into one's own graduation research, the theme of which has been explored in Seminar 2 last Fall. Expected study time for each class is about four hours. The overall grade will be decided based on the presentation and discussion on each one's graduation research, and the final graduation thesis (100%).

HIS200EB, HIS200EC, HIS200ED

演習 1

慎 蒼宇

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史」から現代社会・世界の諸問題を考える（入門編）

【到達目標】

①現代社会のなかの「歴史」への関心を深める、②文献を通じて歴史学の方法に慣れ親しむ、③テーマを立てて歴史的事実を探求するための資料調査・フィールドワークの方法の基礎を身につけることが大卒の目標です。歴史学入門、歴史認識問題、東アジアと日本の関係史、朝鮮半島の歴史、日本史・世界史の出来事などを幅広く取り扱います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は①と②に重点を置き、関心ある社会問題の発見と関連文献の講読、方法論の文献講読、ドキュメンタリー分析などによる歴史的思考の基礎作りをします。夏合宿では「社会の中の歴史・記憶」をテーマに史跡フィールドワークを行い、秋学期は③を重点にグループ学習で「企画展示」を構想します。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本演習の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期イントロダクション	演習1の方向・ゼミ運営に関する取り決め。自己紹介。共同文献講読の内容を決める。
第2回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第3回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第4回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第5回	【学習方法の確認】	レジュメ、パワポ、レポートの作り方、資料調査の方法の確認（講義を含む）
第6回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第7回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第8回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第9回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第10回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第11回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第12回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第13回	夏合宿準備会	夏合宿に関する準備学習

第14回	夏合宿	調査学習
第15回	秋学期イントロダクション	後期の予定+夏合宿の総括討議
第16回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループの形成/テーマの設定
第17回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	報告に向けた事前学習
第18回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	報告に向けた事前学習
第19回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	事前学習+調査
第20回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+調査
第21回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+調査
第22回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+ゼミ研究発表会準備
第23回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ①の発表
第24回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ②の発表
第25回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ③の発表
第26回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ④の発表
第27回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ⑤の発表
第28回	まとめ	後期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共同講読の文献は購入し、報告者はレジュメを作成（あるいはパワーポイント）、ゼミ生は必ず読んでくること。報告に関する論文を提出する。また、個人・グループごとの課題への取り組みについても、積極的に関連書籍を読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

演習の中で適宜選択する。

【参考書】

演習の中で適宜選択する。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期の論文と報告の内容、ゼミでの討論への参加、貢献度などを総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of modern society and world. It also enhances the development of students' skill in History.

HIS300EB, HIS300EC, HIS300ED

演習 2

慎 蒼宇

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史」から現代社会・世界の諸問題を考える（発展編）

【到達目標】

演習 2 では「質の高い個人のゼミ論文の作成」「ゼミ生共同のフィールドワークと調査研究成果の作成」を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は個人のゼミ論文に向けた課題の設定と経過報告、夏合宿に向けた共同学習を行う。秋学期は研究発表会に向けた共同研究調査の成果のまとめ、共同研究冊子の作成、個人のゼミ論文提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	レポート返却。春学期の方針決定。演習 1 との交流。
第 2 回	【個人課題】ゼミ論文テーマの設定	どのようにテーマを立てるかの討議
第 3 回	【ゼミ課題】①	「現代社会における歴史」をテーマにした共同研究
第 4 回	【ゼミ課題】②	「現代社会における歴史」をテーマにした共同研究+ゼミ論集作成方針
第 5 回	【ゼミ課題】③	研究調査にあたっての学習会
第 6 回	【ゼミ課題】④	共同学習の続き
第 7 回	【個人課題】①	ゼミ論文テーマ報告
第 8 回	【個人課題】②	ゼミ論文テーマ報告
第 9 回	【個人課題】③	ゼミ論文テーマ報告
第 10 回	【個人課題】④	ゼミ論文テーマ報告
第 11 回	【個人課題】⑤	ゼミ論文テーマ報告
第 12 回	【ゼミ課題】⑤	中間報告
第 13 回	【ゼミ課題】⑥	共同フィールドワーク最終打ち合わせ
第 14 回	【ゼミ課題】⑦	調査研究
第 15 回	後期イントロダクション	調査研究回顧・後期計画策定
第 16 回	【ゼミ課題】⑧	話し合い
第 17 回	【ゼミ課題】⑨	「現代社会における歴史」研究成果準備
第 18 回	【ゼミ課題】⑩	第 1 回ゼミ論集編集委員会
第 19 回	【ゼミ課題】⑪	「現代社会における歴史」研究成果準備
第 20 回	【ゼミ課題】⑫	「現代社会における歴史」研究成果準備
第 21 回	【ゼミ課題】⑬	班ごとの中間報告
第 22 回	【ゼミ課題】⑭	班ごとの中間報告
第 23 回	【ゼミ課題】⑮	班ごとの中間報告
第 24 回	【ゼミ課題】⑯	研究発表会準備+報告集作成
第 25 回	【個人課題】⑥	ゼミ論文中間報告
第 26 回	【個人課題】⑦	ゼミ論文中間報告
第 27 回	【個人課題】⑧	ゼミ論文中間報告

第 28 回 まとめ

ゼミ論文編集

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共同講読の文献は購入し、報告者だけではなくゼミ生は必ず読んでくこと。秋学期には研究論文を提出する。個人・グループごとの課題への取り組みについても、積極的に関連書籍を読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文と報告の内容、ゼミでの討論への参加、貢献度などを総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of modern society and world. It also enhances the development of students' skill in History.

HIS400EB, HIS400EC, HIS400ED

演習3 (卒業論文)

慎 蒼宇

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「歴史」から現代社会や世界の諸問題を考える (卒業論文)

【到達目標】

現代史をテーマに、これまでの二年間でテーマを設定し研究を進めてきた個人研究を、学術論文としての体裁を整えた卒業論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人報告とゼミ生によるディスカッションを重ねながら卒業論文を完成させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の計画確認
2	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
3	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
4	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
5	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
6	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
7	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
8	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
9	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
10	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
11	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
12	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
13	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
14	春学期総括	春学期の進捗状況の整理、夏以降の課題を確認する。
15	秋学期イントロダクション	秋学期の研究計画確認
16	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
17	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
18	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
19	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
20	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
21	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
22	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告

23	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
24	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
25	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
26	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
27	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
28	個別面談	卒業論文の最終確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の執筆に必要な文献調査・講読、研究史の整理、資料調査・収集・分析など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの中間報告や討議への参加内容 (40 %)、卒業論文の内容 (60 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of modern society and world. It also enhances the development of students' skill in History. The goals of this course are to write graduation thesis.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

佐藤 成基

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語と英語の文献を用いながら、国籍という制度に関する社会的な比較検討を行う。同時に、ゼミ論文の執筆に向けた指導を行う。

【到達目標】

国籍という制度の意味、形成の歴史、各国の差異について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①基礎的文献の講読。毎回報告担当者が報告を行い、それを踏まえて討論を行う。春学期は日本語文献を中心に、秋学期は英語文献を含めた文献を購読する。

②ゼミ論文執筆（学年末提出）。自分で決めたテーマに関するゼミ論を執筆する。ゼミの時間、何回か中間報告の機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の説明
2	国籍という制度	国籍とは何かについて、イントロダクション的に解説する
3	各国の事例	各国の国籍法がどうなっているのかについて調べる
4	国籍についての法学的理解	法制度としての国籍について法学的に理解する
5	国籍についての社会的理解	国籍について社会的な理解の方法について学ぶ
6	日本の国籍法（1）	日本の国籍法の成立について歴史的な概要を簡単に学ぶ
7	研究報告 1	ゼミ論文のテーマの報告・検討（3 年生）
8	日本の国籍法（2）	テキスト①を用いて日本の国籍法の成立について学ぶ
9	日本の国籍法（3）	テキスト①を用いて日本の国籍法と戸籍の関係について学ぶ
10	日本の国籍法（4）	テキスト①を用いて日本の植民地統治と国籍法の関係について学ぶ
11	日本の国籍法（5）	テキスト①を用いて戦後日本の国籍法について学ぶ
12	日本の国籍法（6）	日本の国籍と外国人の帰化について学ぶ
13	研究報告（2）	各自のゼミ論のテーマについて報告する（2 年生）
14	研究報告（3）	各自のゼミ論の経過報告と討論（3 年生）
15	夏休みの課題報告	夏休みの課題の成果報告
16	フランスとドイツの国籍の比較（1）	テキスト②を用いてフランスとドイツの国籍と「ネーション」の関係について考える
17	フランスとドイツの国籍の比較（2）	テキスト②を用いてフランス国籍法の成立について考える
18	フランスとドイツの国籍の比較（3）	テキスト②を用いてドイツの国籍法の成立について考える
19	フランスとドイツの国籍の比較（4）	テキスト②を用いてフランスの国籍法と出生地原理について考える
20	フランスとドイツの国籍の比較（5）	テキスト②を用いてドイツの国籍法と血統原理の関係について考える
21	フランスとドイツの国籍の比較（6）	テキスト②を用いてフランスの移民問題と国籍の関係について考える
22	フランスとドイツの国籍の比較（7）	テキスト②を用いてドイツの移民問題と国籍の関係について考える
23	フランスとドイツの国籍の比較（8）	今世紀に入ってからのフランスとドイツの国籍について考える
24	複数国籍について（1）	テキスト③を用いてアメリカやカナダの複数国籍について考える
25	複数国籍について（2）	テキスト③を用いてイギリス、ドイツの複数国籍について考える

26	複数国籍について（3）	テキスト③を用いて日本の複数国籍問題について考える
27	研究報告（4）	ゼミ論の経過報告と討論（2 年生）
28	研究報告（5）	ゼミ論の経過報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読の予習。報告の準備。ゼミ論のテーマに関する文献講読・資料収集・分析・論文執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ①遠藤正敬『戸籍と国籍の近代史 - 民族・血統・日本人』（明石書店、2013 年）
- ②ロジャース・ブルーベーカー『フランスとドイツの国籍とネーション』（明石書店、2005 年）
- ③佐々木てる（編）『現代の複数国籍』（明石書店、近刊）

【参考書】

テキスト以外の文献は授業内で指示し、共有する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ内での報告（30%）討論への参加の程度（30%）、ゼミ論（40%）を総合して評価する。なお、欠席が 3 回を越えた場合、また担当の決まっている報告を行わなかった場合、原則として単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

社会学科ないし社会学入門等で社会学の基礎的知識を習得している学生が望ましい。また、担当教員の講義（「社会学理論 B」）は必ず受講すること。

【Outline (in English)】

In this course we will consider the citizenship as an institution of the state from a sociological and comparative perspective. The course will also guide the students to write a "seminar paper" as an independent piece of academic work. The purpose of this course is to understand the significance of the citizenship. Students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the texts. Grades will be on presentations assigned in class (30%), class participation (30%), and the "seminar paper" (40%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

佐藤 成基

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、卒業論文の執筆に関する指導を行う。

【到達目標】

先行研究の検討とデータを用いた論証を踏まえ、卒業論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒論研究の進捗状況等を報告してもらい、それに対して教員がフィードバックを行なう。なお、授業計画は展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの説明
2	研究テーマの検討	問いの設定に向けて大まかなテーマを検討する
3	論文の書き方 (1)	テキスト①を用いて論文の書き方を学ぶ
4	論文の書き方 (2)	テキスト①を用いて論文の書き方を学ぶ
5	論文の書き方 (3)	テキスト①を用いて論文の書き方を学ぶ
6	卒業論文の問いの設定	卒業論文の問いを設定する
7	先行研究の検討 (1)	テーマ関連文献を批判的に考察する
8	先行研究の検討 (2)	テーマ関連文献を批判的に考察する
9	データの収集 (1)	問いの論証のためのデータを収集する
10	データの収集 (2)	問いの論証のためのデータを収集する
11	データの収集 (3)	問いの論証のためのデータを収集する
12	データの分析 (4)	収集したデータを分析する
13	データの分析 (5)	収集したデータを分析する
14	データの分析 (6)	収集したデータを分析する
15	章構成の検討	卒業論文の章構成を考える
16	執筆スタイルの確認	注記や文献リストの書き方などを確認する
17	卒業論文の進捗報告 (1)	進捗を報告しフィードバックを受ける
18	卒業論文の進捗報告 (2)	進捗を報告しフィードバックを受ける
19	卒業論文の進捗報告 (3)	進捗を報告しフィードバックを受ける
20	卒業論文の進捗報告 (4)	進捗を報告しフィードバックを受ける
21	卒業論文の進捗報告 (5)	進捗を報告しフィードバックを受ける
22	卒業論文の進捗報告 (6)	進捗を報告しフィードバックを受ける
23	卒業論文の進捗報告 (7)	進捗を報告しフィードバックを受ける
24	卒業論文の進捗報告 (8)	進捗を報告しフィードバックを受ける
25	卒業論文の進捗報告 (9)	進捗を報告しフィードバックを受ける
26	論文提出前の最終確認 (1)	書式等を確認する
27	論文提出前の最終確認 (2)	提出の最終準備をする
28	まとめ	卒論研究を振り返る

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学術論文の書き方、卒業論文の執筆に必要な文献の講読、データの収集・分析、そして論文の執筆を行う。本授業の準備学習・復習時間等は6時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

石黒圭『論文・レポートの書き方』(日本実業出版社, 2012)

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の評価：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Students will write the B.A. thesis under the supervision of the instructor. This is the purpose of this course. Students are expected to spend at least 6 hours each week to read relevant books and articles, collect datas, develop ideas, and write the thesis. Grades are entirely based on the B.A. thesis (100%).

SES200EB, SES200EC, SES200ED

演習 1

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の中で資源管理に関する諸問題、具体的には世界の食料、森林、エネルギーの動向についての知識を深め、これらの問題を分析するための方法論についても探索していきます。

【到達目標】

まず文献から世界の食料、森林、エネルギー等の資源管理について事実関係を理解できる事です。その次に環境問題の事実の背景について深く分析した文献を輪読することによって、課題解決のためには、方法論を伴った論理的考察が必要であることを気づく事です。またグループ研究で環境問題について能動的にリサーチし、論理的に課題を探索する手法を駆使することができるようになる事です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は基礎固め文献の輪読を行います。レジュメは毎回全員が書いてくるという方式で、レポーターに報告していただき、徹底的に議論します。その後マクロ（貿易や農林水産や資源政策）分析班とミクロ（地域おこし等）分析班に分かれてリサーチを行い、それをもとに学部研究発表会のゼミ全体のプレゼンまとめ上げていきます。なお演習 I の時間で十分でない場合、サブゼミを行うことがあります。冬はより高度な文献の輪読を行い、論理的思考を身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介と役割分担の決定
2	生源寺『農業が・・・』	輪読（1）
3	生源寺『農業が・・・』	輪読（2）
4	鈴木『食の戦争』	輪読（3）
5	鈴木『食の戦争』	輪読（4）
6	島本『熱帯林・・・』	輪読（5）
7	和田『再エネ・・・』	輪読（6）
8	グループ研究に向けての課題設定	グループづくり
9	図書館の文献検索についての講習	Cinii、MagazinPlusなどを学ぶ
10	文献リサーチ①	グループ研究
11	文献リサーチ②	グループ研究
12	文献リサーチ③	グループ研究
13	グループ発表①	研究の進捗を報告、議論
14	グループ発表②	研究の進捗を報告、議論
15	PPTの講習	PPTの簡単な使い方を講習
16	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
17	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
18	中間報告	グループ研究中間報告
19	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
20	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
21	中間報告	グループ研究中間報告
22	学部研究発表会準備①	報告のストーリーについて話し合う
23	学部研究発表会準備②	学部研究発表会のリサーチ
24	学部研究発表会準備③	学部研究発表会のプレゼン作成
25	輪読1	スーザン・ジョージの輪読
26	輪読2	スーザン・ジョージの輪読
27	輪読3	スーザン・ジョージの輪読
28	1年間のまとめ	来年度に向けての検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の食料、森林、エネルギー等について知識を集積したり、見聞を広めておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

生源寺真一 (2018)『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』家の光協会
鈴木 宣弘 (2013)『食の戦争 米国の罠に落ちる日本』(文春新書) 新書。
島本美保子 (2015)『熱帯林を中心とした国際的な森林保全』、『シリーズ環境政策の新地平5 資源を未来につなぐ』第3章, 岩波書店。

和田武 (2016)『再生可能エネルギー 100%時代の到来』, あげび書房。
スーザン・ジョージ著 (1984)『なぜ世界の半分が飢えるのか』, 東京: 朝日新聞社。

【参考書】

堤未果著 (2018)『日本が売られる』, 幻冬舎新書。
堤未果著 (2013)『(株) 貧困大国アメリカ』, 岩波新書。
杉山修一 (2013)『すごい畑のすごい土 無農薬・無肥料・自然栽培の生態学』, 幻冬舎新書。
鈴木達治郎・猿田佐世編 (2016)『アメリカは日本の原子力政策をどうみているか』, 岩波ブックレット。
青野由利 (2019)『ゲノム編集の光と闇』, ちくま新書。
暉峻 栄三編 (2003)『日本の農業150年—1850—2000年』, 有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

輪読のレジュメ 60%、夏休みの課題 10%、グループ研究における貢献度 10%、学部研究発表会への取り組み 10%、平常点 10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習 2 の学生の演習 1 への参加度を高めるべきとの意見があり、少しずつ実現していきたい。

【その他の重要事項】

コロナ感染の様子次第ですが、春（1泊2日）と夏（2泊3日）に農村（昨年度は新潟県柏崎市高柳町の門出集落）でフィールドワークを行います。田植え稲刈りや過疎山村の状況や村おこしについてのヒアリングなどを行います。学部研究発表会にも関連しますので、参加を前提とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to explore the resource management in the environmental issues, to deepen the knowledge about the trend of food, forest and energy of the world, and also the methodology to analyze these issues.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to be able to understand the facts about resource management such as food, forest and energy in the world from the literature. Next, by reading the literature that deeply analyzes the background of the facts of environmental problems, it is necessary to realize that logical consideration with methodologies is necessary to solve the problems. In addition, it will be possible to actively research environmental issues in group research and make full use of methods for logically exploring issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following, 60% round-reading resume, 10% summer vacation assignments, 10% contribution to group research, 10% undergraduate research presentations, and 10% class contribution.

SES200EB, SES200EC, SES200ED

演習 2

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の中で資源管理に関する問題、具体的には世界の食料、森林、エネルギーについて各々のテーマを決め、これらの問題を分析するための方法論についても探索し、ゼミ論文を執筆します。

【到達目標】

演習 2 では、自分のテーマを決め、基本的な事実関係をリサーチし、方法論を用いたアプローチに意識をおきながら論理的に構築し、年末にはゼミ論を提出します。ゼミ論は 8000 字以上で web 以外の参考文献が 10 件以上ついでなければなりません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマについてリサーチして報告します。方法論をもって論理を構築する事が卒業論文作成に必要なので、環境・資源管理に親和的な方法論的アプローチのいくつかを文献の輪読によって学ぶことがあります。なお演習Ⅱの時間内で十分でない場合、サブゼミを行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ論テーマ発表	各自のゼミ論テーマについてチェック
2	ゼミ論報告 1 回目①	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
3	ゼミ論報告 1 回目②	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
4	ゼミ論報告 1 回目③	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
5	ゼミ論報告 1 回目④	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
6	ゼミ論報告 1 回目⑤	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
7	ゼミ論報告 1 回目⑥	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
8	ゼミ論報告 2 回目①	テーマに適合した筋立て、文献集めができていますかチェック
9	ゼミ論報告 2 回目②	テーマに適合した筋立て、文献集めができていますかチェック
10	ゼミ論報告 2 回目③	テーマに適合した筋立て、文献集めができていますかチェック
11	ゼミ論報告 2 回目④	テーマに適合した筋立て、文献集めができていますかチェック
12	ゼミ論報告 2 回目⑤	テーマに適合した筋立て、文献集めができていますかチェック
13	ゼミ論報告 2 回目⑥	テーマに適合した筋立て、文献集めができていますかチェック
14	ゼミ論報告補足	2 回目の報告の中から再報告
15	ゼミ論報告 3 回目①	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
16	ゼミ論報告 3 回目②	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
17	ゼミ論報告 3 回目③	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
18	ゼミ論報告 3 回目④	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
19	ゼミ論報告 3 回目⑤	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
20	ゼミ論報告 3 回目⑥	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
21	ゼミ論報告 4 回目①	筋書きとリサーチの進捗をチェック
22	ゼミ論報告 4 回目②	筋書きとリサーチの進捗をチェック
23	ゼミ論報告 4 回目③	筋書きとリサーチの進捗をチェック
24	ゼミ論報告 4 回目④	筋書きとリサーチの進捗をチェック
25	ゼミ論報告 4 回目⑤	筋書きとリサーチの進捗をチェック
26	ゼミ論報告 4 回目⑥	筋書きとリサーチの進捗をチェック
27	ゼミ論報告補足	保証報告が必要な人の報告

28 ゼミ論提出
1 年間のまとめ

来年度に向けての準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の食料、森林、エネルギーの分野で、自分が研究したいテーマについて、文献を読んだり、見聞を広めておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論中間報告を中心とした平常点 20%とゼミ論（A4 7-8 枚程度）80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

コロナ感染拡大の状況次第ですが、春（1泊2日）と夏（2泊3日）に農村（昨年度は新潟県柏崎市高柳町の門出集落）でフィールドワークを行います。田植え稲刈りや過疎山村の状況や村おこしについてのヒアリングなどを行います。参加が前提となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to have each student decide a theme for his seminar thesis about resource management, specifically among the world food, forest, energy issues and etc., and also to have them explore the methodology to analyze these issues. At the end of the year they will submit the thesis.

【Learning Objectives】

The goal of Exercise 2 is to write a seminar theory. Decide on your own theme, research basic facts, construct logically while paying attention to the methodological approach, and submit a seminar theory at the end of the year. The seminar theory must be 8000 characters or more and must have 10 or more references other than the web.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following, class contribution of 20% centered on the interim reporting and a seminar thesis (A4 7-8 sheets) of 80%.

SES400EB, SES400EC, SES400ED

演習3 (卒業論文)

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は卒業論文の作成です。そのために年間 4 回以上の中間報告を行い、他の受講生と議論します。

【到達目標】

論文はレポートとは異なります。単に文献を調べてまとめただけでは論文とはいえません。各自の問題関心に基づいて命題を構築し、社会科学の理論的な枠組みを用いて分析し、その命題に対する何らかの答え(結論)が見いだされていること、そしてそれぞれの論点に対してきちんと実証的または理論的サポートがなされているものが論文です。そのような論文の基本的要件を満たし、次のいずれかに当てはまるものを卒業論文とみなします。

- ①ヒアリングに基づいて書かれているもの
- ②アンケート調査を行っているもの
- ③統計的データやその他の既存のデータを用いて論理的に分析しているもの
- ④文献研究のみではあるが、理論的に整理され、オリジナリティのあるまとめ方をしているもの
- ⑤外国語文献を用いて理論または実証的なまとめ方をしているもの

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

年間 4 回卒業論文の中間発表を行い、他のゼミ生と質疑応答を行います。要件に達しないとみなされた場合、中間報告をやり直してもらいます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	卒業論文に向けて	ゼミ論文からどう発展させるか、について報告
2	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
3	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
4	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
5	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
6	中間報告 step1 補足	step1 の追加報告
7	中間報告 step1 補足	step1 の追加報告
8	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
9	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
10	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
11	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
12	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
13	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
14	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
15	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
16	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
17	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
18	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
19	中間報告 step3 の補足	step3 の追加報告
20	中間報告 step3 の補足	step3 の追加報告
21	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
22	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
23	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
24	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
25	最終報告の補足	最終報告の追加報告
26	最終報告の補足	最終報告の追加報告
27	個別相談	卒業論文の仕上げ
28	個別相談	卒業論文の仕上げ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の執筆に必要な文献調査、フィールドワークやデータ収集など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 4 回の中間報告 step をクリアすること
 - ・ 分量 24000 字以上
 - ・ web 以外の引用文献 30 件程度
 - ・ 書式、文献作法などをきちんと踏まえた論文
- 上記の条件を満たす卒業論文を提出することを単位取得の最低要件とし、最終評定は卒業論文の内容 100 % によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to brush up and complete a graduation thesis. We will make an interim report more than four times a year.

【Learning Objectives】

The goal is to complete the bachelor thesis. Papers are different from reports. Simply examining and summarizing the literature is not a dissertation. Build a proposition based on each person's interests in the problem, analyze it using the theoretical framework of the social sciences, find some answer (conclusion) to the proposition, and properly empirically address each issue. Or a dissertation with theoretical support. A graduation thesis is considered to meet the basic requirements of such a dissertation and meet any of the following:

- (1) What is written based on hearing
- (2) Questionnaire survey
- (3) Logical analysis using statistical data and other existing data
- (4) Although it is only a literature study, it is theoretically organized and organized in an original way.
- (5) A theoretical or empirical summary using foreign language literature

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

- ・ Clear 4 interim reporting steps
 - ・ Amount of 24000 characters or more
 - ・ About 30 citations sources other than the web
 - ・ A dissertation based on the format, literature method, etc.
- The minimum requirements for earning credits are satisfied to submit a bachelor thesis that meets the above conditions, and the final grade will be based on 100% of the content of the bachelor thesis.

SOS200EB, SOS200EC, SOS200ED

演習 1

白田 秀彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習の目的は、課題を遂行するにあたって「計画し・実行し・報告する」という一連の作業手順を的確に行うことである。課題内容は上記の事項に加えて、ゼミ生の意向を斟酌して決める。また、社会に出て活動するにあたっての基礎的規律を実践する。

【到達目標】

「計画し・実行し・報告する」技法・技能を身につけることを目標とする。さらに、興味関心領域を社会的・法学的学問へと接続することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、形式面と内容面において大学生水準のレポートを書く技能を向上させる。秋学期は、指定されたテーマによる、フィールドワークの訓練と、グループ・プレゼンテーションを行う。ゼミ活動・連絡等では、Google Classroomを活用するので、対応しうる機器等を保有していることが条件となる。新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容のZoomによる演習となる可能性がある。演習に関する連絡その他は、指定されたGoogle Classroomにて行う。課題に対する講評は、ZoomまたはGoogle Classroomにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調べる 1	ライブラリツアーを行う。
2	調べる 2	データベース講習を行う。
3	調べる 3	テーマに沿って文献を発見する方法について指導する。
4	整理する 1	集めた文献や資料を整理する方法を指導する。
5	整理する 2	集めた資料を論文の形式に沿って構成する方法を指導する。
6	整理する 3	全体構成から段落構成へと構造的に配置する方法を指導する。
7	整理する 4	情報の取扱に関する法に関する講習を行う。
8	執筆する 1	レジュメ執筆にあたっての形式面を遵守できるよう指導する。
9	執筆する 2	指示された課題図書を整理する。
10	執筆する 3	レジュメを執筆し提出する。
11	執筆する 4	論文執筆にあたっての形式面を遵守できるよう指導する。
12	執筆する 5	指示された課題について文献調査し資料を集める。
13	執筆する 6	論文を執筆し提出する。
14	計画を立てる 1	夏合宿にて行う、実地調査・現地調査の計画を作成する。
15	前期提出論文の講評	前期に提出された論文についての講評を行う。
16	調査する 1	夏合宿で行った調査内容の資料整理を行う。
17	調査する 2	夏合宿での調査報告を行う。
18	調査する 3	指定されたテーマについての調査計画を作成する。
19	調査する 4	先の調査計画を実行する。
20	調査する 5	報告書形式での調査結果の報告を行う。
21	調査する 6	電子機器を用いた調査技法について練習を行う。
22	調査する 7	調査用機器の運用計画について。
23	調査する 8	調査用機器の実践的利用について。
24	制作する 1	調査内容を整理して、プレゼンテーションのシナリオを作成する。
25	制作する 2	シナリオに沿ってプレゼンテーションを作成する。
26	制作する 3	プレゼンテーションの事前試演を行い、問題点の発見と修正を行う。

27	報告する 4	秋学期での調査を総合し、プレゼンテーションを行う。全体を三分したうちの最初の三分の二。
28	報告する 5	秋学期での調査を総合し、プレゼンテーションを行う。全体を三分したうち残りの三分の一。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この演習は、「計画・実行・報告」を目的とするため、課外活動がありうる。年間予定は4月段階で決定されるため、不参加が許されない。自主的に情報収集したり、手配したりすることが強く要求される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。新型コロナ状況下であるため、課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】

演習のテーマに沿ったものを適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習中に何度か小論文の提出を求める。また期末にゼミ論文を提出させる。小論文について40%、ゼミ論文について60%で評価を行う。単位取得できない学生は次年度の受講を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline (in English)】

The purpose of this exercise is to accurately carry out the series of work procedures of "planning, executing, and reporting" in carrying out the task. The content of the assignments will be determined based on the above basic assignments as well as the intentions of the seminar participants. In addition, students will practice the basic discipline for working in society.

SOS300EB, SOS300EC, SOS300ED

演習2・3 (卒業論文)

白田 秀彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習の目的は、課題を遂行するにあたって「計画し・実行し・報告する」という一連の作業手順を的確に行うことである。課題内容は上記の事項に加えて、ゼミ生の意向を斟酌して決める。また、社会に出て活動するにあたっての基礎的規律を実践する。

【到達目標】

「計画し・実行し・報告する」技法・技能を身につけることを目標とする。さらに、興味関心領域を社会的・法学的学問へと接続することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定されたテーマによる、フィールドワークの訓練と、グループ・プレゼンテーションを行う。いずれにしても積極的に取り組むことを強く要求する。ゼミ活動・連絡等では、Google Classroomを活用するので、対応しうる機器等を保有していることが条件となる。演習3については、個別テーマでの卒業論文の指導をおこなう。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容の動画による演習となる可能性がある。演習に関する連絡その他は、指定されたGoogle Classroomにて行う。課題に対する講評は、Google Classroomのストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調査する 1	外部の図書館・公共機関・研究機関を用いての情報収集の練習を行う。
2	調査する 2	ゼミ全体での調査の計画立案の前提となる資料を集める。
3	構想する 1	ゼミ全体での調査計画を作成する。
4	調査する 3	ゼミ全体での調査を実施する。
5	調査する 4	ゼミ全体での調査を再度実施する。
6	整理する 1	調査結果の評価を行う。
7	整理する 2	調査結果を整理し、報告についての構想を検討する。
8	構想する 2	構想を具体化するための検討を行う。
9	構想する 3	構想を確定し、制作手順について計画する。
10	制作する 1	報告プレゼンテーションの作成を行う。
11	制作する 2	報告プレゼンテーションの作成を続けて行う。
12	制作する 3	報告プレゼンテーションの進捗報告を行う。
13	制作する 4	報告プレゼンテーションの改善を行う。
14	報告する 1	報告プレゼンテーションを行う。
15	前期報告プレゼンテーションについての評価と反省	前期に行ったプレゼンテーションについての講評を行う。
16	<個人テーマ> 調査する 1	各個人テーマによるゼミ論へ向けて、事前調査を行う。
17	<個人テーマ> 調査する 2	ゼミ論のための文献調査を行う。
18	<個人テーマ> 調査する 3	ゼミ論のためのさらなる文献調査を行う。
19	<個人テーマ> 整理する 1	資料を整理し、論点を明確にする。
20	<個人テーマ> 整理する 2	資料を配列し、構想を検討する。
21	<個人テーマ> 整理する 3	さらに追加的な資料が必要でないかを検討する。
22	<個人テーマ> 構成する 1	ゼミ論の構成案を作成する。
23	<個人テーマ> 構成する 2	構成案の再検討を行う。
24	<個人テーマ> 構成する 3	ゼミ論の構想を簡易なプレゼンテーションとして発表する。

25 <個人テーマ> 構成する 構成案の再々検討を行う。

4

26 <個人テーマ> 執筆する ゼミ論の執筆を行う。

1

27 <個人テーマ> 執筆する ゼミ論の進捗報告を行う。

2

28 <個人テーマ> 執筆する ゼミ論について口頭報告を行う。

3

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この演習は、「計画・実行・報告」を目的とするため、課外活動が設定されている。年間予定は4月段階で決定されるため、不参加や欠席が許されないことに留意すること。自主的に情報収集したり、手配したりすることが強く要求される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。新型コロナ状況下であるため、課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。

【テキスト (教科書)】

演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習中に何度か課題の提出を求める。また期末にゼミ論文あるいは制作物を提出させる。課題提出物について40%、ゼミ論文あるいは制作物について60%で評価を行う。単位取得できない学生は次年度の受講を認めない。演習3については、卒業論文(100%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline (in English)】

The purpose of this exercise is to accurately carry out the series of work procedures of "planning, executing, and reporting" in carrying out the task. The content of the assignments will be determined based on the above basic assignments as well as the intentions of the seminar participants. In addition, students will practice the basic discipline for working in society.

POL200EB, POL200EC, POL200ED

演習 1・2

白鳥 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治と国内政治の体系的理解

【到達目標】

政治学を通じて社会で要求される知見を獲得する。また、ゼミという小集団で要求される、今後社会で要請される協調性、社会性を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

政治は「未来の選択」であり、「可能性のアート」であるといわれる。そうした政治についてこのゼミでは学びます。

ゼミのテーマは「現代政治の分析」です。具体的には、国際、国内の政治過程におけるさまざまな問題を、理論的に分析することを目指します。演習の最後で演習内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また計画は演習発表やディスカッションの展開により、若干の変更もありうる。「授業計画」では通年で扱うトピックを提示している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	日本政治のイントロダクション	*以下、演習の中で通年で扱うトピックを例示する。 日本の政治
2)	国内の政治分析 (1)	民主主義とは
3)	国内の政治分析 (2)	政策の決定者
4)	国内の政治分析 (3)	政府の形態
5)	国内の政治分析 (4)	日本の選挙
6)	国内の政治分析 (5)	日本の政党
7)	国内の政治分析 (6)	政党の発展
8)	国内の政治分析 (7)	比較政治
9)	国内の政治分析 (8)	圧力団体
10)	国内の政治分析 (9)	後援会
11)	国内の政治分析 (10)	地方自治
12)	国内の政治分析 (11)	首長
13)	国内の政治分析 (12)	議会
14)	国内政治の総合的政治分析	選挙制度と政党システム
15)	国際政治のイントロダクション	*以下、演習の中で通年で扱うトピックを例示する。 国際政治とは
16)	国際の政治分析 (1)	国際政治と国内政治
17)	国際の政治分析 (2)	国益
18)	国際の政治分析 (3)	国民国家
19)	国際の政治分析 (4)	国際統合
20)	国際の政治分析 (5)	民主的平和論
21)	国際の政治分析 (6)	欧州連合
22)	国際の政治分析 (7)	国際政治と国際経済
23)	国際の政治分析 (8)	安全保障
24)	国際の政治分析 (9)	国際機構
25)	国際の政治分析 (10)	ブレグジット
26)	国際の政治分析 (11)	テロとの戦争と暴力
27)	国際の政治分析 (12)	平和構築
28)	国際政治の総合的政治分析	国民国家と国際政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %。平常点 50 %。平常点は、発表、発言等のゼミ運営への積極的な貢献を中心に評価する。協調性、社会性を備えた学生同士の交流による平常点が重要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。アカデミックなライティングも継続して行っているこの演習の試みは、学生に好意的に評価されている。また、演習を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledges for the writing of academic papers.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL400EB, POL400EC, POL400ED

演習 3 (卒業論文)

白鳥 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際政治と国内政治の体系的理解に基づく卒業論文作成

【到達目標】

政治学の卒業論文を通じて論理的に思考・表現することを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

政治は「未来の選択」であり、「可能性のアート」であるといわれる。そうした政治についてこのゼミでは学びます。

ゼミのテーマは「現代政治の分析」です。具体的には、国際、国内の政治過程におけるさまざまな問題を、理論的に分析し卒業論文を作成することを目指します。演習の最後で演習内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また計画は演習発表やディスカッションなどの展開により、若干の変更もありうる。「授業計画」では扱うトピックを提示している。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	卒業論文作成のイントロダクション	論文の書き方
2)	卒業論文に向けた政治分析 (1)	事例研究
3)	卒業論文に向けた政治分析 (2)	事例研究
4)	卒業論文に向けた政治分析 (3)	事例研究
5)	卒業論文に向けた政治分析 (4)	事例研究
6)	卒業論文に向けた政治分析 (5)	事例研究
7)	卒業論文に向けた政治分析 (6)	事例研究
8)	卒業論文に向けた政治分析 (7)	事例研究
9)	卒業論文に向けた政治分析 (8)	事例研究
10)	卒業論文に向けた政治分析 (9)	事例研究
11)	卒業論文に向けた政治分析 (10)	事例研究
12)	卒業論文に向けた政治分析 (11)	事例研究
13)	卒業論文に向けた政治分析 (12)	事例研究
14)	卒業論文に向けた総合的政治分析	事例研究
15)	秋学期のイントロダクション	卒論の進捗状況
16)	卒業論文作成の政治分析 (1)	事例研究
17)	卒業論文作成の政治分析 (2)	事例研究
18)	卒業論文作成の政治分析 (3)	事例研究
19)	卒業論文作成の政治分析 (4)	事例研究
20)	卒業論文作成の政治分析 (5)	事例研究
21)	卒業論文作成の政治分析 (6)	事例研究
22)	卒業論文作成の政治分析 (7)	事例研究
23)	卒業論文作成の政治分析 (8)	事例研究

24)	卒業論文作成の政治分析 (9)	事例研究
25)	卒業論文作成の政治分析 (10)	事例研究
26)	卒業論文作成の政治分析 (11)	事例研究
27)	卒業論文作成の政治分析 (12)	事例研究
28)	卒業論文提出の総合的政治分析	事例研究

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義時に適宜指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 50%。平常点 50 %。授業への積極性はもとより、発表、発言等のゼミ運営への貢献なども考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。アカデミックなライティングも継続して行っているこの演習の試みは、学生に好意的に評価されている。また、演習を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledges for the writing of an Academic Thesis.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「〈日常生活〉の社会学」

日常、何気なく生活している上では、さして気にも留めないこと、普段であれば、やり過ぎていたりするようなものにこそ、あえて立ち止まって、その「意味」を考えてみる価値がある——そのような問題意識を共有した上で、個人での活動とゼミ生全体での共同活動を組み合わせながら、社会学的な発想や視点を培っていく。

【到達目標】

適切な「問い」を立てることと自らの研究を貫くオリジナルな視点にこだわりのみながら、自身で設定したテーマと格闘した成果をゼミ論としてまとめていくことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。

諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明・スケジュール確認
2	問題関心報告	選考時の問題関心の再報告
3	問いの立て方	文献の講読・課題の確認
4	サブゼミガイダンス	サブゼミ概要説明
5	テーマ設定①	第1次リサーチプロポーザル検討
6	テーマ設定②	第1次リサーチプロポーザル検討
7	テーマ設定③	第1次リサーチプロポーザル検討
8	テーマ設定④	第1次リサーチプロポーザル検討
9	サブゼミ調査報告	調査テーマの再検討
10	個人研究進展報告①	第2次リサーチプロポーザル検討
11	個人研究進展報告②	第2次リサーチプロポーザル検討
12	個人研究進展報告③	第2次リサーチプロポーザル検討
13	個人研究進展報告④	第2次リサーチプロポーザル検討
14	個人研究進展再報告	夏合宿に向けて
15	秋学期ガイダンス	スケジュールの確認
	サブゼミ再調査①	調査のリデザイン
16	サブゼミ再調査②	調査結果の集計
17	サブゼミ再調査③	調査結果の検討
18	サブゼミ再調査④	調査結果のストーリー化
19	個人研究中間報告①	進展状況の報告と課題の確認
20	個人研究中間報告②	進展状況の報告と課題の確認
21	個人研究中間報告③	進展状況の報告と課題の確認
22	サブゼミ再調査⑤	調査報告に向けて
23	サブゼミ再調査⑥	調査報告に向けて
24	ゼミ論の作成に向けて①	形式要件の確認
25	ゼミ論節立て報告①	ゼミ論の構成をイメージする
26	ゼミ論節立て報告②	ゼミ論の構成をイメージする
27	ゼミ論節立て報告③	ゼミ論の構成をイメージする
28	ゼミ論の作成に向けて②	注意事項の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジユメの作成、ゼミ論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・担当部分の報告・議論への参加を含むゼミへの参加度（50%）、およびゼミ論の執筆に至るプロセスとその最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to plan the details of individual research and write an academic essay on a sociological theme. Students are expected to conduct research toward the completion of an essay.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the essay (50%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「〈日常生活〉の社会学」

演習 1 で培ってきた様々なスキルをふまえながら、特定の《現場》をめぐって、共通テーマに基づく共同研究に取り組む。研究対象へは、主として、インタビュー調査をおこなうことでアプローチしていくことになる。

【到達目標】

インタビュー調査の可能性と限界をふまえながら、「他者の声」と格闘したその足跡を論文として再構成することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。

諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明・スケジュール確認
2	全体テーマの検討①	プレストと KJ 法
3	全体テーマの検討②	テーマ群の整理
4	全体テーマの検討③	テーマ群の再整理
5	問題関心の明確化①	テーマの絞り込み
6	問題関心の明確化②	テーマから問いへ
7	問題関心の明確化③	問題関心のブラッシュアップ
8	テーマの確定	班構成と役割分担
9	方法の習得	調査方法の概要説明
10	予備調査報告①	研究課題の明確化
11	予備調査報告②	研究課題の明確化
12	質問項目検討①	インタビューリスト・一次案作成
13	質問項目検討②	ブラッシュアップ
14	質問項目検討③	リスト確定作業
15	秋学期ガイダンス	スケジュールの確認
16	調査結果の検討①	グループ別報告
17	調査結果の検討②	グループ別報告
18	調査結果の検討③	グループ別報告
19	調査結果の検討④	グループ別報告
20	調査結果の検討⑤	グループ別報告
21	研究報告に向けて①	データの集約
22	研究報告に向けて②	問題の析出
23	研究報告に向けて③	ストーリー確定
24	資料集の作成ガイダンス	概要説明
25	資料集の作成①	データの整理
26	資料集の作成②	役割分担確定
27	資料集の作成③	原稿提出
28	演習 3 ガイダンス	卒論執筆に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジュメの作成、ゼミ論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの出席・調査活動への参加度（50 %）、およびゼミ論の執筆に至るプロセスとその最終的な水準（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to do research on a sociological theme in collaboration with other students. Students have to use interviews in qualitative research to approach the theme, and are expected to conduct research toward making a report at the department workshop.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the report (50%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の執筆に向けて、過去 2 年間のゼミ活動のなかで培ってきた研究活動をふりかえりつつ、まずはのちのち悔いの残らない研究テーマを慎重に吟味・選定し、確定する。その上で、問いの設定 → 資料の渉猟 → 章立て構成の検討 → 論文の執筆へと順を追って進めていく。

【到達目標】

演習 2 までの経験をふまえながら、納得の卒業論文を完成させることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。

諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スケジュールの確認
2	テーマの検討①	個人報告
3	テーマの検討②	個人報告
4	テーマの検討③	個人報告
5	テーマの検討④	個人報告
6	問いの設定①	個人報告
7	問いの設定②	個人報告
8	問いの設定③	個人報告
9	問いの設定④	個人報告
10	問いの明確化①	個人報告
11	問いの明確化②	個人報告
12	問いの明確化③	個人報告
13	問いの明確化④	個人報告
14	進展状況報告	全体報告
15	秋学期ガイダンス	スケジュールの確認 各自の課題確認
16	章立て構成の検討①	個人報告
17	章立て構成の検討②	個人報告
18	章立て構成の検討③	個人報告
19	章立て構成の検討④	個人報告
20	中間報告①	個人報告
21	中間報告②	個人報告
22	中間報告③	個人報告
23	中間報告④	個人報告
24	卒論執筆に向けて	執筆要領の確認
25	執筆状況進展報告①	個人報告
26	執筆状況進展報告②	個人報告
27	初稿チェック	個人報告
28	卒論提出に向けて	注意事項の再確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジユメの作成、卒論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒論作成の取り組み・プロセス (50%) と卒論そのものの最終的な水準 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim and goal of this seminar is to write and present a graduation thesis based on a sociological way of thinking.

Your study time will be more than four hours for a class.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

鈴木 智之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生活史の社会学」の実践の場をつくる。

他者の語りを聞くという作業を通じて、他者の経験と生活を理解する可能性を探求する。個人の生活の背後にある歴史的・社会的状況への想像力を養う。

【到達目標】

物語論的なアプローチの基本的な考え方を学習しつつ、「語る／聴く」ことの実践を通じて、「他者の経験」にアプローチするための方法を模索する。その上で、インタビュー（生活史の聞き取り）を通じて、他者の経験を受け取り、これを再構成し、伝える実践を重ねる。

本年度は、「病い」と「リスク」、「語ることと聴くこと」に関する基本文献の講読から始め、聞き取り調査の実践を通じて、他者の生のリアリティに迫ることを試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、「文献講読」を行い、同時に他者の語りを聞く・読む・伝えるための実践的なトレーニングを行う。

秋学期は、共同研究として、ライフストーリーの「聞き取り」とその「分析」を行う。

その間に、個人研究の報告と討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	このゼミは何をやるどころか
第 2 回	テキストの講読（1-1）	『他者と生きる』
第 3 回	テキストの講読（1-2）	『他者と生きる』
第 4 回	テキストの講読（1-1-3）	『他者と生きる』
第 5 回	テキストの講読（1-4）	『他者と生きる』
第 6 回	テキストの講読（2-1）	『聴くことの力』
第 7 回	テキストの講読（2-2）	『聴くことの力』
第 8 回	テキストの講読（2-3）	『聴くことの力』
第 9 回	テキストの講読（2-4）	『聴くことの力』
第 10 回	個人研究報告 1	個人研究の構想と途中経過を報告する
第 11 回	個人研究報告 2	個人研究の構想と途中経過を報告する
第 12 回	個人研究報告 3	個人研究の構想と途中経過を報告する
第 13 回	個人研究報告 4	個人研究の構想と途中経過を報告する
第 14 回	共同研究に向けて	インタビュー調査に向けての準備
秋学期第 1 回	共同研究報告（1）	インタビュー記録から問いを立てる（1）
第 2 回	共同研究報告（2）	インタビュー記録から問いを立てる（2）
第 3 回	共同研究報告（3）	インタビュー記録の読み込み（1）
第 4 回	共同研究報告（4）	インタビュー記録の読み込み（2）
第 5 回	共同研究報告（5）	インタビューに基づく研究報告（1）
第 6 回	共同研究報告（6）	インタビューに基づく研究報告（2）
第 7 回	共同研究報告（7）	インタビューに基づく研究報告（3）
第 8 回	共同研究報告（8）	インタビューに基づく研究報告（4）
第 9 回	共同研究報告（9）	「伝える」ための方法を考える
第 10 回	共同研究報告（10）	「伝える」ことを試みる（1）
第 11 回	共同研究報告（11）	「伝える」ことを試みる（2）
第 12 回	個人研究報告 1	+ 共同研究報告書の作成
第 13 回	個人研究報告 2	+ 共同研究報告書の作成（つづき）
第 14 回	個人研究報告 3	+ 共同研究報告書作成（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の講読、ストーリーの構想、データの整理、個人研究レポートの作成など、課題はたくさんあります。たくさん勉強してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

磯野真穂『他者と生きる リスク・病い・死をめぐる人類学』集英社新書、2022 年

鷺田清一『聴くことの力』ちくま学芸文庫、2015 年

【参考書】

岸・石岡・丸山『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』、有斐閣、2016 年 A. W. フランク『傷ついた物語の語り手』ゆみる出版、2002 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の報告や討論への参加、聞き取り調査への参加、報告への貢献、その内容、個人研究レポートの内容などを総合的に評価（100%）します

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの進め方については、ずっと試行錯誤が続いています。この「試行」につきあって、ともに新しい研究の進め方を考えてくれる人を求めています。

【その他の重要事項】

年間の予定は、ゼミ生の人数等によって変更されることがあります。

【Outline (in English)】

In this seminar, we inquire the possibility to understand the lives of others through the practices of biographical research. Before each class meeting, students are expected to read texts or transcripts of interview and to take part in the discussion.

Grading will be decided on the total contribution in class.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

鈴木 智之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の作成

【到達目標】

卒業論文を完成させること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、各自の研究経過の報告にもとづき討論を行う

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	卒業論文の執筆に向けて
第2回	テーマの提出	各自の研究テーマについて
第3回	研究報告(1)	問題設定の確認(1)
第4回	研究報告(2)	問題設定の確認(2)
第5回	研究報告(3)	問題設定の確認(3)
第6回	研究報告(4)	先行研究の整理(1)
第7回	研究報告(5)	先行研究の整理(2)
第8回	研究報告(6)	先行研究の整理(3)
第9回	研究報告(7)	資料・データの報告と検討(1)
第10回	研究報告(8)	資料・データの報告と検討(2)
第11回	研究報告(9)	資料・データの報告と検討(3)
第12回	研究報告(10)	資料・データの報告と検討(4)
第13回	研究報告(11)	資料・データの報告と検討(5)
第14回	研究報告(12)	資料・データの報告と検討(6)
第15回	秋学期について	今後の予定と進捗状況の確認
第16回	章構成の報告(1)	各章の内容について(1)
第17回	章構成の報告(2)	各章の内容について(2)
第18回	章構成の報告(3)	各章の内容について(3)
第19回	章構成の報告(4)	各章の内容について(4)
第20回	章構成の報告(5)	各章の内容について(5)
第21回	章構成の報告(6)	各章の内容について(6)
第22回	章構成の報告(7)	各章の内容について(7)
第23回	論文の作成にあたって	論文の書き方を確認する
第24回	論文の作成(1)	結論の報告と論文の再構成(1)
第25回	論文の作成(2)	結論の報告と論文の再構成(2)
第26回	論文の作成(3)	結論の報告と論文の再構成(3)
第27回	論文の作成(4)	結論の報告と論文の再構成(4)
第28回	論文の完成に向けて	最終的な確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の完成に向けて、各自の研究テーマに沿った学習(参考文献の整理、調査など)を進めてください本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません

【参考書】

授業中に適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容によって評価します(100%)。なお、論文の提出は、研究経過の報告がされていることを条件とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The objective of this seminar is to write a graduation thesis. Students are expected to prepare the presentation of one's own research and to take part in the discussion.

Grading will be decided on the final thesis.

SEE200EB, SEE200EC, SEE200ED

演習1

鈴木 麻美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今、社会で求められている「数学的思考力」は何のために求められているのであろうか。数学と社会との関わりを考えると同時に「数学とはいかなる学問か」ということも真剣に考えてみたい。「数学」は社会においてどのような威力を発揮するのかを考えると共に、社会における数学的思考力の必要性を考えていく。

【到達目標】

数学を知らずには「数学的思考力」の重要性を考えることはできない。従ってこの講義の3分の1は数学の最も基本と言える「集合論」を題材にして「数学的論理」を基礎から学ぶ。当たり前に思えることも丁寧にかつ簡潔にまとめ、論理的に記述できる文章力(国語の力)を持つてくる学生は残念ながらなかなか居ない。ゼミではこうした能力を身に付けたい。また同時に社会においてこの数学的論述力がどう意味を持つのか各自で考えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今年度は Zoom を用いたオンライン形式で行う。各自準備をしてきた部分をゼミで他の学生達に解説することを中心にしてディスカッションも多く取り入れ、発表内容に関しては学生同士による意見交換も参考に、改良していくことに努めていく。自分の考えをしっかりと持つためには、様々な情報を収集し自分の中で咀嚼して理解する事が大切である。また「数学」に関する内容は非常に簡単ではあるが、数学的な構文に慣れるまでは予習に時間をかけて欲しい。また、こうした数学的思考力が社会ではどのように使われるのか、様々な事例に視野を広げて、多くの事例を調べれば、書籍や新聞・雑誌なども常に注視して、興味の幅を広げてもらいたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「数学」の紹介と、講義の進め方および成績評価について説明する。
2	数学を学ぶ(1)	数学の理論体系をまなぶ
3	数学を学ぶ(2)	ユークリッド幾何学とは
4	数学を学ぶ(3)	証明とは。学問のはじまりとは。
5	数学の学びの特徴を考	数学の学びはどのような能力を身に付けられるのかを考える。
6	社会問題と数学との関係(1)	社会と数学との関係性について考える。
7	数学教育を考える	世界の数学教育と日本の数学教育に関して考える。
8	日本の数学教育について	日本の数学教育の現状や大学生の学力調査などから社会における問題を考える。
9	数学を学ぶ(4)	数学の論理と日常の言葉
10	数学を学ぶ(5)	「すべての」と「任意の」および「存在する」と「唯一」・「一意的」
11	数学の特徴	数学の学びと他の学問の学びとの違いを考える。
12	社会問題と数学との関係(2)	数学的思考力が社会で必要とされているその理由に関して考える。

13	レポートの課題について、各自発表	夏に取り組むレポートについて、各自計画書を作成して発表する。
14	まとめ	前回までのまとめと後半へ向けた課題確認。
15	課題成果の発表（1）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。1回目
16	課題成果の発表（2）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。2回目
17	数学を学ぶ（6）	集合を学ぶ
18	数学を学ぶ（7）	部分集合。
19	数学を学ぶ（8）	和集合・共通集合・差集合・補集合
20	社会問題と数学との関係（3）	社会へ活用するための数学的思考力について考える。
21	社会問題と数学との関係（4）	社会へ活用するための数学的思考力について考えるーその2
22	数学を学ぶ（9）	直積集合
23	数学を学ぶ（10）	集合の集まり、集合族
24	数学を学ぶ（11）	写像。単射・全射・全単射
25	課題作成中間報告（1）	社会と数学との関係および今後の問題など様々な視点からのレポートを発表。
26	課題作成中間報告（2）	レポート発表第2回
27	課題作成中間報告（3）	レポート発表第3回
28	成果発表	1年間の学習の成果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの数学の力は問わない。テキストが日本語のため、日本語が読めることを望む。ノートを丁寧にまとめ、毎週復習をすることで、論理的思考力を身につけたい。また、各自、社会に多く見られる「数学」について、様々な視点からレポートをまとめることを行う。このため様々な書籍の他、ニュースや新聞・雑誌など、社会における情報収集も怠らないで欲しい。演習の準備および復習は、毎回の授業については平均すると4時間程度であるが、課題担当の順番や内容により、さらに多くの時間を要する場合もある。

【テキスト（教科書）】

「集合・写像・論理—数学の基本を学ぶ」 中島 匠一（著）、共立出版（2012）。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習における課題への取り組みと課題内容を60%、学期末の提出課題を40%として総合的に評価する。授業以外での演習の準備および課題に掛ける時間は毎回通常4時間程度と考えるが、課題のテーマによりそれ以上の時間を必要とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的にゼミの課題に取り組むことで、各自の大学での学習のみならず、卒業をしてからの社会に対する問題意識が開拓されているように思える。ゼミを通じて様々なことに関しての問題意識を持ち、積極的に取り組んでもらいたい。

【Outline (in English)】

What is the “mathematical thinking” required by society now? We consider the relationship between mathematics and society, and we consider what kind of study is mathematics. Further we consider the validity of “Mathematics”, and study the necessity of mathematical thinking in society. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the importance of mathematics in social life, the possibility of using mathematics, and mathematical thinking. Every students must prepare sufficiently. Grading will be determined by homework and examinations and their theses.

SEE300EB, SEE300EC, SEE300ED

演習2

鈴木 麻美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今、社会で求められている「数学的思考力」は何のために求められているのであろうか。数学と社会との関わりを考えると同時に「数学とはいかなる学問か」ということも真剣に考えてみたい。「数学」は社会においてどのような威力を発揮するのかを考えると共に、社会における数学的思考力の必要性を考えていく。

【到達目標】

数学を知らずには「数学的思考力」の重要性を考えることはできない。従ってこの講義の3分の1は数学の最も基本と言える「集合論」を題材にして「数学的論理」を基礎から学ぶ。当たり前にも思えることも丁寧に簡潔にまとめ、論理的に記述できる文章力（国語の力）を持つてくる学生は残念ながらなかなか居ない。ゼミではこうした能力を身に付けたい。また同時に社会においてこの数学的論述力がどう意味を持つのか各自で考えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今年度はZoomを用いたオンライン形式で行う。各自準備をしてきた部分をゼミで他の学生達に解説することを中心にしてディスカッションも多く取り入れ、発表内容に関しては学生同士による意見交換も参考に、改良していくことに努めていく。自分の考えをしっかりと持つためには、様々な情報を収集し自分の中で咀嚼して理解する事が大切である。また「数学」に関する内容は非常に簡単ではあるが、数学的な構文に慣れるまでは予習に時間をかけて欲しい。また、こうした数学的思考力が社会ではどのように使われるのか、様々な事柄に視野を広げて、多くの事例を調べればか、書籍や新聞・雑誌なども常に注視して、興味の幅を広げてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「数学」の紹介と、講義の進め方および成績評価について説明する。
2	数学を学ぶ（1）	数学の理論体系をまなぶ
3	数学を学ぶ（2）	ユークリッド幾何学とは
4	数学を学ぶ（3）	証明とは。学問の始まりとは。
5	数学の学びの特徴を考える。	数学の学びはどのような能力を身につけられるのかを考える。
6	社会問題と数学との関係（1）	社会と数学との関係性について考える。
7	数学教育を考える	世界の数学教育と日本の数学教育に関して考える。
8	日本の数学教育について	日本の数学教育の現状や大学生の学力調査などから社会における問題を考える。
9	数学を学ぶ（4）	数学の論理と日常の言葉
10	数学を学ぶ（5）	「すべての」と「任意の」および「存在する」と「唯一」・「一意的」
11	数学の特徴	数学の学びと他の学問の学びとの違いを考える。
12	社会問題と数学との関係（2）	数学的思考力が社会で必要とされているその理由に関して考える。

13	レポートの課題について、各自発表	夏に取り組むレポートについて、各自計画書を作成して発表する。
14	まとめ	前回までのまとめと後半へ向けた課題確認。
15	課題成果の発表（1）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。1回目
16	課題成果の発表（2）	夏期休暇中にまとめた課題の成果内容の発表。2回目
17	数学を学ぶ（6）	集合を学ぶ
18	数学を学ぶ（7）	部分集合。
19	数学を学ぶ（8）	和集合・共通集合・差集合・補集合
20	社会問題と数学との関係（3）	社会へ活用するための数学的思考力について考える。
21	社会問題と数学との関係（4）	社会へ活用するための数学的思考力について考える—その2
22	数学を学ぶ（9）	直積集合
23	数学を学ぶ（11）	集合の集まり、集合族
24	数学を学ぶ（11）	写像。単射・全射・全単射
25	課題作成中間報告（1）	社会と数学との関係および今後の問題など様々な視点からのレポートを発表。
26	課題作成中間報告（2）	レポート発表第2回
27	課題作成中間報告（3）	レポート発表第3回
28	成果発表	1年間の学習の成果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の準備および復習は、毎回の授業については平均すると4時間程度であるが、課題担当の順番や内容により、さらに多くの時間を要する場合もある。

【テキスト（教科書）】

「集合・写像・論理—数学の基本を学ぶ」中島 匠一（著）、共立出版（2012）。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習における課題への取り組みと課題内容を60%、学期末の提出課題を40%として総合的に評価する。授業以外での演習の準備に掛ける時間は毎回通常4時間程度と考えるが、課題のテーマによっては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的にゼミの課題に取り組むことで、各自の大学での学習のみならず、卒業をしてからの社会に対する問題意識が開拓されているように思える。ゼミを通じて様々なことに関しての問題意識を持ち、積極的に取り組んでもらいたい。

【Outline (in English)】

What is the “mathematical thinking” required by society now? We consider the relationship between mathematics and society, and we consider what kind of study is mathematics. Further we consider the validity of “Mathematics”, and study the necessity of mathematical thinking in society. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the importance of mathematics in social life, the possibility of using mathematics, and mathematical thinking. Every students must prepare sufficiently. Grading will be determined by homework and examinations and their theses.

SEE400EB, SEE400EC, SEE400ED

演習3（卒業論文）

鈴木 麻美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会と数学の関連」に関してこれまでの演習1・2の研究内容を踏まえ、卒業研究として、各自テーマを設定して研究を進めていく。互いの研究内容を討議していく中で、各自の研究の方向性を補正しつつ、最終的な論文をまとめていく。

【到達目標】

演習2での学びと卒業研究を通じ、人類の歴史と同じだけの歴史を持ち、現在も発展し続けている「数学」と言う学問に対して、様々な角度から研究をし、思いを巡らせてもらいたい。数学を一步引いて別の角度から眺めることで、社会生活における数学の重要性と、数学の活用の可能性、さらに、数学的思考についての理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自が研究している途中過程を資料と共に発表することで、互いの研究内容に関して理解しつつ、各自がより自身の研究テーマについての探究心を深めながら、1年を通じて研究してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	研究計画発表および討	研究報告と内容に関する討議（1）
2	研究計画発表および討	研究報告と内容に関する討議（2）
3	研究計画発表および討	研究報告と内容に関する討議（3）
4	研究計画発表および討	研究報告と内容に関する討議（4）
5	研究計画発表および討	研究報告と内容に関する討議（5）
6	研究中間報告および討	研究報告と内容に関する討議（1）
7	研究中間報告および討	研究報告と内容に関する討議（2）
8	研究中間報告および討	研究報告と内容に関する討議（3）
9	研究中間報告および討	研究報告と内容に関する討議（4）
10	研究中間報告および討	研究報告と内容に関する討議（5）
11	研究中間発表および討	研究報告と内容に関する討議（1）
12	研究中間発表および討	研究報告と内容に関する討議（2）
13	研究中間発表および討	研究報告と内容に関する討議（3）
14	研究中間発表および討	研究報告と内容に関する討議（4）
15	研究中間発表および討	研究報告と、夏休み期間中の研究・論文執筆に関する確認

16	研究発表および卒論執筆準備 (1)	研究報告・討議と卒論執筆確認
17	研究発表および卒論執筆準備 (2)	研究報告・討議と卒論執筆確認
18	研究発表および討議	研究報告および卒論原稿確認
19	研究発表および中間原稿提出 (1)	研究報告・討議と卒論執筆確認
20	研究発表および中間原稿提出 (2)	研究報告・討議と卒論執筆確認
21	研究発表および中間原稿提出 (3)	研究発表および卒論執筆確認
22	研究発表および中間原稿提出 (4)	研究発表および卒論執筆確認
23	研究発表 (1)	研究発表および卒論執筆確認
24	研究発表 (2)	研究発表および卒論執筆確認
25	最終執筆指導 (1)	報告と討議及び卒論最終執筆指導
26	最終執筆指導 (2)	報告と討議及び卒論最終執筆指導
27	最終執筆指導 (3)	報告と討議及び卒論最終執筆指導
28	最終執筆指導 (4)	報告と討議及び卒論最終執筆指導

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、各課題および卒業論文の完成に向けて計画的に文献探索、講読、調査、執筆等をすすめる、資料を可能な限り持参すること。卒論は各自がすべて作り上げるものなので、講義科目に比べて授業以外の学習時間を多く必要とする。少なくとも毎回 4 時間以上は必要と考える。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

適宜指定する

【成績評価の方法と基準】

卒業論文への取り組み過程及び卒業論文の内容により総合的に評価する。卒論を書くためには、ゼミに出席することを前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

Each student decides on a research theme, considering the relationship between society and mathematics. The aims of this study is to deepen the understanding of the importance of mathematics in social life, the possibility of using mathematics, and mathematical thinking. Every students must prepare sufficiently. Grading will be determined by their theses.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

多喜 弘文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育・労働・格差に関する社会学の文献を読み、基本的な考え方や分析の方法を習得する。量的調査データを用いた分析方法の基礎を身につける。

【到達目標】

参加者が関心をもつ様々なテーマに関して、社会調査によって得られたデータを用いて社会学の視点から実証的にアプローチするための考え方や方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前期は教員が指定した文献について、各回の報告担当となった受講生が報告し、それをもとにディスカッションをおこなう。後期の授業では、グループごとにテーマを設定して簡単なデータ分析をおこなう。授業方法の詳細は、授業時あるいは学習支援システムを通じて連絡する。課題提出を求めた際は授業時にフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	授業の進め方の説明、自己紹介
2	担当文献の割り振り	読む文献 (章) を選ぶ、報告の順番を決める
3	文献購読①	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
4	文献購読②	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
5	文献購読③	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
6	文献購読④	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
7	文献購読⑤	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
8	文献購読⑥	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
9	文献購読⑦	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
10	文献購読⑧	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
11	文献購読⑨	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
12	文献購読⑩	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
13	文献購読⑪	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
14	総括	春学期に学んだ内容について議論する
15	秋学期のスケジュールを決める	グループ決めなど
16	課題設定	グループごとに設定したテーマを報告する

17	データ分析・報告①	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
18	データ分析・報告②	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
19	データ分析・報告③	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
20	データ分析・報告④	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
21	データ分析・報告⑤	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
22	データ分析・報告⑥	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
23	データ分析・報告⑦	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
24	データ分析・報告⑧	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
25	データ分析・報告⑨	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
26	研究報告①	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する
27	研究報告②	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する
28	総括	まとめと課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期の文献購読に関しては、授業までに全員が必ず読んでくること。また、各回の報告者は報告準備を念入りにおこない、授業時には報告資料（レジュメ）を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する

【参考書】

授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告の内容、討論への積極的な参加）60%、レポート課題40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンでzoomや授業支援システムを使える環境を整えておくこと

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop a basic understanding of the sociological traditions and methodologies in inequality. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and reports (40%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

多喜 弘文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育・労働・格差に関する社会学の考え方を理解し、自らの関心に基づいて研究を進める

【到達目標】

学生それぞれが関心をもつ様々なテーマに対して、社会学の視点から実証的にアプローチする方法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で文献購読と研究報告を中心に進めていく。授業方法の詳細は、授業時あるいは学習支援システムを通じて連絡する。課題提出を求めた際は授業時にフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究関心の報告	各自が研究関心を報告し、それに関して全員で議論する
2	研究関心の報告	各自が研究関心を報告し、それに関して全員で議論する
3	担当文献の割り振り	読む文献を選ぶ、報告の順番を決める
4	文献購読①	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
5	文献購読②	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
6	文献購読③	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
7	文献購読④	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
8	文献購読⑤	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
9	文献購読⑥	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
10	文献購読⑦	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
11	文献購読⑧	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
12	文献購読⑨	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
13	文献購読⑩	各自が担当する文献について報告し、全員で討論する
14	総括	春学期に学んだ内容について議論する
15	秋学期のスケジュールを決める	グループ決めなど
16	課題設定	グループごとに設定したテーマを報告する
17	データ分析・報告①	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
18	データ分析・報告②	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
19	データ分析・報告③	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
20	データ分析・報告④	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
21	データ分析・報告⑤	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
22	データ分析・報告⑥	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
23	データ分析・報告⑦	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
24	データ分析・報告⑧	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
25	データ分析・報告⑨	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める

26	研究報告①	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する
27	研究報告②	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する
28	総括	まとめと課題について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期の文献購読に関しては、授業までに全員が必ず読んでおくこと。また、各回の報告者は報告準備を念入りにおこない、授業時には報告資料（レジュメ）を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する

【参考書】

授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告の内容、討論への積極的な参加）60 %、レポート課題 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで zoom や授業支援システムを使える環境を整えておくこと

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop a basic understanding of the sociological traditions and methodologies in studying inequality. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and reports (40%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3（卒業論文）

多喜 弘文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生それぞれが自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、それに対して適切な問いを立てて答えを与える方法を学ぶ

【到達目標】

関連する既存の学術研究を踏まえ、研究目的とその意義を明確にした卒業論文を執筆する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミでの研究報告と個別相談を繰り返しながら卒業論文の完成に向けて進めていく。

授業方法の詳細は学習支援システムを通じてお知らせする。草稿提出に対してはフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	卒論に向けての研究報告(1)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
2	卒論に向けての研究報告(2)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
3	卒論に向けての研究報告(3)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
4	卒論相談①	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
5	卒論相談②	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
6	卒論相談③	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
7	卒論相談④	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
8	卒論相談⑤	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
9	卒論相談⑥	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
10	卒論相談⑦	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
11	卒論相談⑧	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
12	卒論相談⑨	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
13	卒論相談⑩	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
14	卒論相談⑪	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
15	秋学期のスケジュールを決める①	卒論の進行状況を確認する
16	秋学期のスケジュールを決める②	卒論の進行状況を確認する
17	卒論に関する報告①	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
18	卒論に関する報告②	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
19	卒論に関する報告③	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
20	卒論に関する報告④	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
21	卒論に関する報告⑤	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
22	卒論に関する報告⑥	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
23	卒論に関する報告⑦	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
24	卒論に関する報告⑧	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する

25	卒論に関する報告⑨	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
26	卒論に関する報告⑩	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう
27	卒論に関する報告⑪	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう
28	卒論に関する報告⑫	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は基本的に卒論の内容報告や相談をおこなう時間であり、実際の執筆は授業時間外におこなうことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

伊丹敬之, 2001, 『創造的論文の書き方』有斐閣.
 荻谷剛彦, 2002, 『知的複眼思考法』講談社.
 木下是雄, 1981, 『理科系の作文技術』中公新書.
 本多勝一, 1976, 『日本語の作文技術』朝日文庫.

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで zoom や授業支援システムを使える環境を整えておくこと

【その他の重要事項】

卒論相談の無断欠席・遅刻には厳しく対処する

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a graduation thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a graduation thesis under the direction of a supervisor. Students will be expected to read the relevant literature and write the thesis outside the class meeting. Assignments and grading are decided based on graduation thesis (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コロナ禍の地域社会を考える

【到達目標】

日本地域社会の変容プロセスを対象として、さまざまな社会現象から社会的な視点で問題を自らテーマ化できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

サブ・グループごとに問題を設定し、文献の講読と議論、発表を進める。社会調査の方法の基礎をさまざまなフィールドワークを通じて学んでいきます（2021 年度の調査はオンラインと対面の両方で実施しました）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方について	概要紹介
2	社会学入門一歩前	文献検索の方法（統計資料等の読み方）および観察記録
3	テキストの概説と参考文献について（図書館利用）	東京に関する資料の収集
4	身近な地域を歩く	コロナ禍の変容を自らの視点で描く（写真撮影）
5	移住の社会学事始め（1）	これまでの地域社会研究を振り返る
6	移住の社会学事始め（2）	昨年度のゼミ論を分担に応じて報告
7	移住の社会学事始め（3）	テキスト『田嶋ゼミの東京スタディーズ Part III』から自らのテーマを考える。
8	移住の社会学事始め（4）	長年にわたり、地域社会で活動されてきた方をお呼びし、ゼミでのインタビュー。
9	フィールドの何が問題かを考える	先輩たちの論文に学ぶ。
10	テーマ設定	グループ発表準備作業
11	グループ研究発表（1）	グループ発表準備作業
12	グループ研究発表（2）	グループごとの研究発表（個人テーマの明確化）
13	夏休み調査計画	夏休み中に実施する調査計画の発表
14	前期まとめ	レポートの提出
15	調査結果の集約	秋学期の発表へ向けた調査結果の確認
16	インタビューデータの集約	分析方法を学ぶ
17	プレゼンテーションの作法（1）	発表の仕方を学ぶ
18	プレゼンテーションの作法（2）	プレゼンテーション準備作業
19	プレゼンテーションの作法（3）	プレゼンテーションを作成
20	プレゼンテーションの作法（4）	サブ・ゼミ谷での発表
21	個人テーマ化へのアプローチ（1）	問題意識を深化させる
22	個人テーマ化（2）	文献の再検索
23	個人テーマ化（3）	統計資料の扱い方
24	個人テーマ化（4）	補足的なインタビュー調査
25	個人テーマ化（5）	個人テーマにもとづく発表
26	ゼミ・レポート作成準備作業	レポートを書くために
27	ゼミ・レポート準備（2）	レポートを書くために
28	ゼミ・レポート作成への道しるべ	集大成としてのレポートへ向けた取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書の記事準備とレポート作成。課題図書についてはグループごとの読み合わせと議論のまとめ・その結果を次回ゼミで発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. ゼミ論集 2020 年、『田嶋ゼミの東京スタディーズ Part III』法政大学社会学部。
2. 社会調査実習報告 2020『グローバル化の中の池袋 Part II』法政大学社会学部。
3. 社会調査実習報告 2021『グローバル化の中の池袋- Part III』法政大学社会学部（刊行予定）。
4. ゼミ論集 2021 年『田嶋ゼミの東京スタディーズ Part IV』法政大学社会学部（刊行予定）。

【参考書】

1. 田嶋淳子 2010「アジア系移住者をめぐる調査-新宿・池袋調査からの 20 年」『社会と調査』第 4 号, 有斐閣。
2. N. ハイナナー、田嶋淳子訳 1997『ホテル・ライフ』ハーベスト社。
3. 田嶋淳子著、2010 年、『国際移住の社会学-東アジアのグローバル化を考える』明石書店。
4. 田嶋淳子,1998『世界都市・東京のアジア系移住者』学文社。

【成績評価の方法と基準】

演習における課題の報告 (20%)、春学期レポート (30%)、ゼミ内発表会 (20%) および最終レポート (30%) によって総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

課題を通じて、必ずコメントを戻している。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will be given an opportunity to ponder local communities under the Covid-19 pandemic.

Learning Objectives

Students will be able to, from a sociological perspective, thematize issues picked up from various social phenomenon resulting from transformational processes in local communities in Japan.

Learning Activities Outside Class

Preparation for presentations of assigned readings and report writing. Each group will read and discuss assigned readings and prepare a discussion summary to be presented in the next class. Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Presentations of assignments given (20%), the spring-term report (30%), class presentations (20%) and the final report (30%)

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022 年度は川崎市を対象として地域調査を実施する。特に外国人市民代表者会議の代表にインタビューを予定している。

【到達目標】

演習を通じ、社会調査の一連のプロセスを学び、各自のテーマと問題意識を深め、ゼミ論文を書く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本演習においては、各自のテーマを中心に、調査研究を進め、最終的にはゼミ論文の作成をめざします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	1 年間のスケジュールと課題を説明
2	各自のテーマ選定（春休み中の作業確認）	テーマの絞り込み
3	論文を書くために	研究の進め方
4	既存データの収集	（官庁統計の読み方・作り方）
5	文献の収集・検討	参考文献の検索方法および既存データを読む
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討
7	既往研究の検討（2）	資料の収集と講読、発表
8	インタビュー実施	地域関連組織へのインタビューを予定
9	インタビュー結果のとりまとめ、	インタビュー参加者による報告（結果の集約）
10	調査準備	グループごとに調査対象者の選定作業
11	調査準備	アポイントの取り方、インタビュー項目の作成
12	インタビュー実施へ向けた準備作業	インタビュー日程の設定と質問項目の完成
13	調査を実施するために	インタビュー日程の確定
14	夏休み課題準備	インタビューの実施
15	論文構成と春学期レポートの提出	独自の調査へ向けて
16	夏休み中の課題発表	夏休み中の課題
17	テーマの再検討	各自の研究テーマ
18	研究領域の見直し	文献検索
19	学部研究発表へ向けて	テーマの選定
20	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
21	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
22	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
23	学部研究発表準備	プレゼンテーションの方法
24	学部研究発表準備	プレゼンテーションの方法
25	学部研究発表会	各自のテーマ
26	学部研究発表の反省会	プレゼンテーションの問題点
27	論文とは何か	研究を仕上げる
28	論文とは何か	書くということ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ゼミで出された課題を個人あるいはグループで実施するため、準備作業（サブ・ゼミ）が重要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田嶋ゼミ 2010 年度演習 2（調査演習）報告書『グローバル化の中の池袋』ほか各年度で作成したゼミの報告書（これらは配布または貸し出し予定）

【参考書】

田嶋淳子「池袋・新宿調査からの 20 年」『社会と調査』第 4 号,2010 年。
田嶋淳子、2010『国際移住の社会学-東アジアのグローバル化を考える』明石書店。

【成績評価の方法と基準】

演習のすべての段階における参加度 (30%)、春学期レポート (30%) および最終レポート (40%)

【学生の意見等からの気づき】

レポート返却時にコメントをつけて返却している。

【Outline (in English)】

Course Outline

Community research will be conducted in the City of Kawasaki in the school year of 2022. Special focus will be on interviewing the members of the Kawasaki City Representative Assembly for Foreign Residents.

Learning Objectives

Students will learn the process of conducting social research, find their own themes, deepen problem consciousness and write a seminar paper.

Learning Activities Outside Class

In order to do assignments given in each class either by groups or individuals, preparation activities (sub-seminars) will play an important role. Standard preparation and review duration will be two hours each.

Assessment

Presentations (30%), the spring-term report (30%) and the final report (40%)

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文を書くための一連のプロセスを学ぶ。

【到達目標】

演習を通じ、必要な調査を自ら計画・実施し、論文を書き上げることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本演習においては、オリジナリティのある卒業論文を完成させるために、2年間の蓄積を活かす。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の里程標
2	問題意識の明確化	参考文献の検索
3	先行研究の一覧作成	検索した文献一覧を持参
4	論文タイトルの確定	既存データを読み、問題の所在を把握する
5	文献の収集・検討	既存研究データ・ベースの作成作業、文献の講読
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討。調査研究計画の立案
7	既存データの批判的検討	統計、ドキュメントなど資料の収集と講読、レポート
8	調査へのアプローチ	テーマごとに調査の可能性を探索
9	対象領域における調査対象者を選定	調査方法の検討
10	実査へ向けた準備	調査対象者一覧の作成
11	調査の準備作業	データ・ベースの作成
12	調査の準備作業	調査対象へのアプローチ方法の検討
13	調査計画の立案	夏休み中の調査計画立案
14	春学期のまとめ	春学期レポートの作成作業 (卒論序章の完成)
15	夏休み作業の確認	調査対象者へのアプローチとアポイントの確定
16	調査結果の検討	調査結果の批判的検討
17	データ・クリーニング	データ・クリーニング
18	データの分析作業	分析作業を進める
19	データの分析作業	サブ・グループを作り、データ分析作業
20	データの分析作業	データ分析から各自のテーマ化
21	補足調査実施	各自のテーマに必要な補足調査を実施
22	統計資料の検討	統計資料の収集と作成
23	既往文献の再検索	既往文献を再検索する
24	卒論構成の検討	各自の論文化へ向けた作業
25	卒論構成の確定	調査報告書の構成を確定し、論文のテーマを調整
26	完成プロセスの報告	卒論の完成に向けたブラッシュアップ
27	卒論の執筆作業	論文の書き方
28	卒論の完成	参考文献、脚注の点検

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回に出された課題を個人で実施するために2時間程度の準備作業が必要である。また、指摘した内容に応じて、資料の収集および講読を各2時間程度実施する。

【テキスト (教科書)】

石川淳志・佐藤健二・山田一成編『見えないものを見る力』八千代出版 (ただし、入手が難しい場合には、必要部分を配布します)。

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期における論文テーマ選定理由、文献講読を通じたゼミでの報告 (40%)、調査実施のプロセス検証および最終的に提出された卒業論文 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

課題を通じて、自らの進捗状況を把握できるようにコメントをつけている。

【Outline (in English)】

Course Outline

Students will learn the entire process of graduation thesis writing.

Learning Objectives

Students will plan and conduct social research, and write a graduation paper.

Learning Activities Outside Class

Approximately two-hour long preparatory activities will be imperative to do an assignment given in each class. In addition, approximately two-hour long data collection and readings assigned in the previous class to each student respectively will be required.

Assessment

Reasons for the theme selected for the spring-term paper and presentations based on readings (40%), processes employed for the research and the graduation paper (60%)

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではグループ研究を通じて、個々の受講者がメディアに関する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

個々の受講者が主体的にグループ研究に参加することで、研究に必要となる方法論の理解、論理的思考、文章力などを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この演習ではテーマに沿った文献の輪読を行うとともに、グループ研究の報告を繰り返し行い、その完成度を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度の演習を進めていくための基盤整備	ゼミ運営
第 2 回	グループ研究テーマ決定	グループ研究
第 3 回	グループ研究関連文献輪読（1）	文献輪読
第 4 回	グループ研究関連文献輪読（2）	文献輪読
第 5 回	グループ研究関連文献輪読（3）	文献輪読
第 6 回	グループ研究関連文献輪読（4）	文献輪読
第 7 回	グループ研究初回報告（1）	グループ研究
第 8 回	グループ研究初回報告（2）	グループ研究
第 9 回	グループ研究関連文献輪読（5）	文献輪読
第 10 回	グループ研究関連文献輪読（6）	文献輪読
第 11 回	文章論評会（1）	研究準備
第 12 回	文章論評会（2）	研究準備
第 13 回	グループ研究中間報告（1）	グループ研究
第 14 回	グループ研究中間報告（2）	グループ研究
第 15 回	後期に関する打ち合わせ	ゼミ運営
第 16 回	夏季休暇研究成果報告（1）	グループ研究
第 17 回	夏季休暇研究成果報告（2）	グループ研究
第 18 回	グループ研究関連文献輪読（7）	文献輪読
第 19 回	グループ研究関連文献輪読（8）	文献輪読
第 20 回	卒業後の進路について考える	キャリアガイダンス
第 21 回	グループ研究中間報告（1）	グループ研究
第 22 回	グループ研究中間報告（2）	グループ研究
第 23 回	卒論執筆のための文献輪読（1）	文献輪読
第 24 回	卒論執筆のための文献輪読（2）	文献輪読
第 25 回	グループ研究最終報告（1）	グループ研究
第 26 回	グループ研究最終報告（2）	グループ研究
第 27 回	卒論執筆のための文献輪読（3）	文献輪読

第 28 回 卒論執筆のための文献輪 文献輪読 (4)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成、グループ研究の実施、打ち合わせ、報告書の作成等、授業時間外での長時間の活動が必要になる。また、新歓合宿および夏合宿への参加も求められる。フィールドワークについては、グループ研究や合宿時においてインタビュー調査を実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

グループ研究のテーマが決定したのちに決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、年度末レポート (70%)。なお、遅刻・欠席が多い者については演習への参加を取りやめてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は急遽、オンライン授業となったため、様々な活動を実施することができなかった。今年度はより多くの活動を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや最終レポートの作成にあたっては PC の利用が必須である。オンラインで実施せざるをえない状況になった場合には、家庭からインターネットに接続できることが望ましい。

【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to help participants learn the advanced media studies through their own research projects. The results of their research will be published as a research report at the end of the school year.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3 (卒業論文)

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では卒業論文の完成に向けた指導を行う。

【到達目標】

より完成度の高い卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講者による中間報告を中心として実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度の運営体制の検討	ゼミ運営
第 2 回	卒業論文初回報告 (1)	卒業論文の準備
第 3 回	卒業論文初回報告 (2)	卒業論文の準備
第 4 回	卒業論文初回報告 (3)	卒業論文の準備
第 5 回	卒業論文初回報告 (4)	卒業論文の準備
第 6 回	卒業論文初回報告 (5)	卒業論文の準備
第 7 回	卒業論文初回報告 (6)	卒業論文の準備
第 8 回	卒業論文相談会	卒業論文の準備
第 9 回	卒業論文中間報告 (1)	卒業論文の準備
第 10 回	卒業論文中間報告 (2)	卒業論文の準備
第 11 回	卒業論文中間報告 (3)	卒業論文の準備
第 12 回	卒業論文中間報告 (4)	卒業論文の準備
第 13 回	卒業論文中間報告 (5)	卒業論文の準備
第 14 回	卒業論文中間報告 (6)	卒業論文の準備
第 16 回	後期運営体制の相談	ゼミ運営
第 16 回	卒業論文第 2 回中間報告 (1)	卒業論文の準備
第 17 回	卒業論文第 2 回中間報告 (2)	卒業論文の準備
第 18 回	卒業論文第 2 回中間報告 (3)	卒業論文の準備
第 19 回	卒業論文第 2 回中間報告 (4)	卒業論文の準備
第 20 回	卒業論文第 2 回中間報告 (5)	卒業論文の準備
第 21 回	卒業論文第 2 回中間報告 (6)	卒業論文の準備
第 22 回	卒業論文相談会	卒業論文の準備
第 23 回	卒業論文最終報告 (1)	卒業論文の準備
第 24 回	卒業論文最終報告 (2)	卒業論文の準備
第 25 回	卒業論文最終報告 (3)	卒業論文の準備
第 26 回	卒業論文最終報告 (4)	卒業論文の準備
第 27 回	卒業論文最終報告 (5)	卒業論文の準備
第 28 回	卒業論文最終報告 (6)	卒業論文の準備

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の準備および執筆については授業外での作業が主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指示しない。

【参考書】

特に指示しない。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文完成へと至るプロセス (20%)、および完成した論文の完成度 (80%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで実施せざるをえない状況になった場合には、家庭からインターネットに接続できることが望ましい。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to complete a high quality graduation thesis. The preparation and writing of the thesis will be mainly done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be graded on the total of the quality of presentations during the classes (20%) and the quality of the thesis (80%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

徳安 彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「社会システムと人間」。さまざまな社会現象をとりあげて、構造的な条件である社会システムと、社会で生きる人間の両面から、社会学的に考察していく。各ゼミ生の取り組むテーマは、なるべく多様性を持たせる。

【到達目標】

社会学の基礎概念や主要理論を学び、それを社会現象の分析に適用できる。自分の研究のための社会的なテーマ設定、研究方法の選択、文献・資料・データ等の収集・分析、基礎概念や理論を用いて結論を導く論証ができる。研究の経過や成果を、プレゼンテーションや論文によって他者に伝達し、他者と討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面型の演習方式で行う。状況によっては、授業形態を変更する可能性がある。

春学期は、個人研究の発表と討論を行う。秋学期は、研究の基礎となる理論や方法を学習し、グループワークに基づいて成果のプレゼンテーションを2ラウンド行う。年度末にゼミ論を作成する。春学期のグループワークについては、プレゼンテーションまでの作業中の指導に加え、プレゼンテーションのさいに講評を行って、次のグループワークの改善につなげる。秋学期の個人研究については、授業での発表にたいする講評・指導によって論文作成の道筋を明確化するとともに、提出された論文にたいする講評を行って、次年度の研究の発展につなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の学習目標の確認
第 2 回	学習ガイダンス	文献、資料、データ等の検索法や論証構成の仕方を学ぶ
第 3 回	グループワーク 1 (1)	テーマと問題の設定。方法の決定。作業分担、スケジュールの決定
第 4 回	グループワーク 1 (2)	文献・資料検索と学習
第 5 回	グループワーク 1 (3)	結論を導く論証構成の検討
第 6 回	グループワーク 1 (4)	資料作成と報告の練習
第 7 回	グループワーク 1 (5)	成果のプレゼンテーションと討論 (その1)
第 8 回	グループワーク 1 (6)	成果のプレゼンテーションと討論 (その2)
第 9 回	グループワーク 2 (1)	テーマと問題の設定。方法の決定。作業分担、スケジュールの決定
第 10 回	グループワーク 2 (2)	文献・資料検索と学習
第 11 回	グループワーク 2 (3)	結論を導く論証構成の検討
第 12 回	グループワーク 2 (4)	資料作成と報告の練習
第 13 回	グループワーク 2 (5)	成果のプレゼンテーションと討論 (その1)
第 14 回	グループワーク 2 (6)	成果のプレゼンテーションと討論 (その2)
第 15 回	イントロダクション	秋学期の学習目標の確認
第 16 回	個人研究報告 (1)	個人報告と討論
第 17 回	個人研究報告 (2)	個人報告と討論
第 18 回	個人研究報告 (3)	個人報告と討論
第 19 回	個人研究報告 (4)	個人報告と討論
第 20 回	個人研究報告 (5)	個人報告と討論
第 21 回	個人研究報告 (6)	個人報告と討論
第 22 回	ゼミ論の書き方	ゼミ論執筆方法の説明
第 23 回	個人研究報告 (7)	個人報告と討論
第 24 回	個人研究報告 (8)	個人報告と討論
第 25 回	個人研究報告 (9)	個人報告と討論
第 26 回	個人研究報告 (10)	個人報告と討論
第 27 回	個人研究報告 (11)	個人報告と討論
第 28 回	個人研究報告 (12)	個人報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークでは各グループ、個人研究では各人の作業の進捗状況に応じて、研究にかかわる文献・資料・データの収集・分析、プレゼンテーションの準備等を行う。必要に応じて、個人相談も行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、グループワーク、個人研究のいずれも、研究成果のプレゼンテーションや論文作成に至るために、必要に応じてそれ以上の作業時間を確保することが求められる。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

ケン・ブラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫、2021年）
日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

【成績評価の方法と基準】

単位認定にあたっては、以下の3つの要件を満たす必要がある。

- ①グループワーク報告：前期に2回の発表を厳守。グループ全員がプレゼンテーションを行うようにすること。
 - ②個人研究報告：後期に1回の発表を厳守。こちらについては、どんな事情があっても必ず発表すること。
 - ③ゼミ論の提出：演習1は8,000字以上、演習2は12,000字以上。
- 評価は、グループワークおよび個人の研究報告（30%）、ゼミ論（50%）、ゼミにおける討論への貢献（20%）による。

【学生の意見等からの気づき】

学年の垣根を越えた学問的コミュニケーション（相互の研究テーマの理解、討議や相互批判）を促進できるような環境作りを留意して、ゼミを運営したい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、ノートPC、プロジェクタ等の機器を適宜用いる。

【その他の重要事項】

教員と学生という垣根もない、自由闊達な議論が許される場がゼミナールです。より充実した議論がなされるための、皆さんの積極的なかわりを期待します。

【Outline (in English)】

We explore various social phenomena sociologically from the viewpoint of the social system and human life. The goals of this course are to set an good research question, to select adequate methods, to collect and analyze relevant literatures, materials and data, to construct a good argumentation, and to explain the process and conclusion of research in an oral presentation and an article. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to carry their research forward. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation in the class: 30%, term-end article: 50%, in class contribution: 20%.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

徳安 彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年次、3年次までのゼミでの研究の集大成として、卒業論文を作成する。個別指導を中心として質の高い卒業論文の作成を目指す。

【到達目標】

3年次までのゼミ論を基礎にして、一本の論文としての内容の深化・洗練を図りながら、自分の研究テーマについての卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面型の演習形式で行う。状況によっては、授業形態を変更する可能性がある。

卒業論文の作成については、個別指導と発表にもとづく全員での討議の両方を行う。構想発表については、半期に1度はまとまった構想を順次発表し、全員で討議する。個別指導については、各自の進捗状況を個別に報告し、論文構成、文献参照、資料・データ分析、文章作成等について指導を受ける。春学期は論文構成の方向性の確定に重点をおき、秋学期は論文作成の具体的な指導に重点をおく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論作成方法（1）	卒業論文の作成方法と作業の進め方について概説する
第2回	卒業論文個別指導（1）	卒業論文の構想報告・相談
第3回	卒業論文個別指導（2）	卒業論文の構想報告・相談
第4回	卒業論文個別指導（3）	卒業論文の構想報告・相談
第5回	卒業論文個別指導（4）	卒業論文の構想報告・相談
第6回	卒業論文個別指導（5）	卒業論文の構想報告・相談
第7回	卒業論文個別指導（6）	卒業論文の構想報告・相談
第8回	卒論構想発表（1）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第9回	卒論構想発表（2）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第10回	卒論構想発表（3）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第11回	卒論構想発表（4）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第12回	卒論構想発表（5）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第13回	卒論構想発表（6）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第14回	卒論構想発表（7）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第15回	卒論構想発表（8）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第16回	卒論構想発表（9）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第17回	卒論構想発表（10）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第18回	卒論構想発表（11）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第19回	卒論構想発表（12）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第20回	卒論構想発表（13）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第21回	卒論構想発表（14）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第22回	卒論作成方法（2）	卒論の詳細な形式を概説し、完成までの工程を確認する
第23回	卒業論文個別指導（7）	卒業論文の作成状況報告・相談
第24回	卒業論文個別指導（8）	卒業論文の作成状況報告・相談
第25回	卒業論文個別指導（9）	卒業論文の作成状況報告・相談
第26回	卒業論文個別指導（10）	卒業論文の作成状況報告・相談
第27回	卒業論文個別指導（11）	卒業論文の作成状況報告・相談
第28回	卒業論文個別指導（12）	卒業論文の作成状況報告・相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3年次までの研究成果を踏まえ、卒業論文の研究・執筆を進める。それぞれのテーマ・目標に対する現在の進展具合と課題点を明らかにするよう意識し、構想報告・相談の機会をより充実させるよう努めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は毎週各2時間を標準とする。ただし、卒業論文執筆という学生にとっては負荷の大きな内容なので、各自の論文の完成にむけては、必要に応じてそれ以上の作業時間を確保することが求められる。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（80%）および口頭試問（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導中心の運営となるが、ゼミとしてのコミュニケーション（卒業論文の内容の共有や討議・相互批判など）が促進されるように留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付などに学習支援システムを適宜使用する。また、ゼミ内での連絡には適宜電子メールを用いる。

【その他の重要事項】

1.ゼミからの研究の蓄積の集大成が卒業論文です。完成は決して容易なものではありませんが、これまでの成果を総括する貴重な機会でもあります。皆で一緒にゴールまでたどり着きましょう。

【Outline (in English)】

Every participant writes a graduation thesis on her/his own sociological theme based on the study and research in the last two years. The goal of this course is to complete a graduation thesis. It should demonstrate the adequacy of research question and research method(s), the logical consistency of argumentation, and an appropriate conclusion. Students will be expected to spend at least four hours every week for planning and writing her/his own article. Grading will be decided based on the final article (80%) and oral examination (20%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

中筋 直哉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 のテーマは「グローバル社会のローカルな生活」である。入門的な文献を複数講読して、世界史を「グローバル・ヒストリー」として勉強し直す。さらに、さまざまなローカルな生活についてグループで調べ、議論する。

【到達目標】

議論を通して自分自身のグローバル化とローカリティのイメージを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定）。教科書の各章を報告者と論点提示者の 2 人で報告し、全員で討論する。夏期休暇中の合宿と秋学期の校外見学を行う予定。演習はグループディスカッション形式、見学と合宿ではフィールドワークを行う。課題やレポートの評価は個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介とスケジュールの確認
2	レポート作成術	専門的なりポート作成術を学ぶ
3	討論の進め方	生産的な議論の進め方を学ぶ
4	教科書 1 の講読 1	教員による教科書の解説
5	教科書 1 の講読 2	第 1 章の発表と討論
6	教科書 1 の講読 3	第 2 章の発表と討論
7	教科書 1 の講読 4	第 3 章の発表と討論
8	教科書 1 の講読 5	第 4 章の発表と討論
9	教科書 1 の講読 6	第 5 章の発表と討論
10	教科書 2 の講読 1	講師による教科書の解説
11	教科書 2 の講読 2	第 1 章の発表と討論
12	夏期合宿の計画	合宿の企画を全員で作成
13	メディア視聴	テーマに関するコンテンツを視聴し、討論
14	春学期のまとめ	春学期の学修について振り返り
15	ゼミ合宿の総括	討論と夏期課題の提出
16	夏期課題の報告 1	報告と討論
17	夏期課題の報告 2	報告と討論
18	教科書 2 の講読 3	第 4 章の報告と討論
19	教科書 2 の講読 4	第 5 章の報告と討論
20	教科書 2 の講読 5	第 6 章の報告と討論
21	教科書 2 の講読 6	第 7 章の報告と討論
22	現地見学	演習 2, 3 と合同の校外学習
23	現地見学の検証	校外学習の報告と討論
24	グループ調査研究 1	グループ報告と討論
25	グループ調査研究 2	グループ報告と討論
26	グループ調査研究 3	グループ報告と討論
27	グループ調査研究 4	グループ報告と討論
28	まとめ	各自レポートの提出と年度の総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年間の演習を踏まえた、A4×1 枚程度のレポートを秋学期末に紙で提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 水島司,2010,『グローバル・ヒストリー入門』山川出版社,729 円＋税。
- ダイヤモンド,J.他,2018,『歴史は実験できるのか』慶應義塾大学出版会,2800 円＋税。

【参考書】

演習中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の発表と討論への積極的参加が 60 %（それが見られないときはD）、レポートの出来が 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

討論の題材になるような具体的資料の提示に努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ漫然と参加するのではなく自分のノートをつくるのが重要

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to study the relation between globalization and local lives. In the 1st year, We read some books about global history, and research some regional society under globalization. (Learning Objectives)The goals of this seminar are original understanding the relation between globalization and local lives. (Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar, and Writing some research reports (Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:60%.Research Reports 20%*2.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2・3 (卒業論文)

中筋 直哉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習 2,3 の共通テーマは「グローバル社会のローカルな生活」である。演習 2 では地域社会における多文化共生に関する学術的・実践的知識を深め、卒業論文のテーマを確定する。演習 3(卒論演習)では、個別指導を通して卒業論文のより高い水準での完成をめざす。演習 2 は 2020 年度演習 1 履修者を主たる対象とするが、若干名は追加受け入れ可能。演習 3 は 2019 年度演習 2 履修者を対象とする。

【到達目標】

学術的な精度とオリジナリティのあるレポート、卒業論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施 (予定)。合同演習形式で、春学期は 3 年生は教科書の文献講読。4 年生は個別の卒論準備指導。秋学期は 4 年生の卒論草稿と 3 年生の卒論構想を検討。演習自体はグループディスカッション形式、見学や合宿ではフィールドワークを行う。課題、レポート、卒業論文の評価は個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	都市社会学の講義	都市社会学の専門的講義
3	都市問題に関する講義	現代日本の都市問題に関する講義
4	教科書 1 の講読 1	4 年生は卒論個別指導
5	教科書 1 の講読 2	4 年生は卒論個別指導
6	教科書 1 の講読 3	4 年生は卒論個別指導
7	教科書 1 の講読 4	4 年生は卒論個別指導
8	教科書 1 の講読 5	4 年生は卒論個別指導
9	教科書 1 の講読 6	4 年生は卒論個別指導
10	教科書 1 の講読 7	4 年生は卒論個別指導
11	教科書 1 の講読 8	4 年生は卒論個別指導
12	夏期合宿の計画	合宿の企画を 3 年生全員で作成
13	メディア視聴	テーマに関するコンテンツを視聴し、討論
14	春学期のまとめ	春学期学修の振り返り
15	ゼミ合宿の総括	討論と夏期課題の提出
16	卒論中間報告会 1	演習 2,3 合同の討論
17	卒論中間報告会 2	演習 2,3 合同の討論
18	卒論中間報告会 3	演習 2,3 合同の討論
19	卒論中間報告会 4	演習 2,3 合同の討論
20	卒論中間報告会 5	演習 2,3 合同の討論
21	卒論中間報告会 6	演習 2,3 合同の討論
22	現地見学	演習 1 と合同の校外学習
23	現地見学の検証	校外学習の報告と討論
24	卒論構想検討会 1	4 年生は卒論個別指導
25	卒論構想検討会 2	4 年生は卒論個別指導
26	卒論構想検討会 3	4 年生は卒論個別指導
27	卒論構想検討会 4	4 年生は卒論個別指導
28	まとめ	卒論構想レポートの提出 (4 年生は卒論の提出と口述試験)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習 2 は卒論構想を A4×2 枚程度のレポートにして紙で提出。

演習 3(卒論演習)は 2 万字程度の卒業論文を執筆。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

1. 宮島喬,2014,「多文化であることとは」岩波書店,2300 円+税。

【参考書】

演習中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習 2 は演習への積極的参加が 60 % (それらが見られないときはD)、レポートの出来が 40 %。演習 3 は卒論の出来が 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

教員の発言以上に、履修者の表現と相互討論に重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ漫然と参加するのではなく自分のノートをつくることが重要。

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to advanced study the relation between globalization and local lives. In the 2st year, We read some books about global history, and research some regional society under globalization. In the 3rd year, We research and write original graduate thesis.

(Learning Objectives)The goals of this seminar are original thesis about the relation between globalization and local lives.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar, and Writing some research reports and graduate thesis.

(Grading Criteria /Policy)The 2nd year, Positivity to seminar:60%.Research Reports 20%*2. The 3rd year, Graduate thesis:100%.

HUM200EB, HUM200EC, HUM200ED

演習 1・2

濱中 春

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな媒体によって表現された場所や風景の意味を考察するとともに、表象文化の可能性を探ります。

【到達目標】

- ・「場所」や「風景」にアプローチするさまざまな論点を理解する。
- ・学術的な文献の要点を読みとり、考察をくわえることができる。
- ・表象分析の方法を実践を通して習得する。
- ・自分でテーマを設定して研究を行い、その内容を論文の形式でアウトプットすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・場所／風景論・表象文化論の文献講読と、場所・風景の表象の分析にもとづく研究（演習1）、あるいは場所・風景にかかわる文化現象やなんらかの表象文化を対象とした研究（演習2）を行います。
- ・演習1・2の合同ゼミとして開講し、春学期の文献講読は学年横断的なグループで、秋学期は2年生はグループ研究、3年生は個人研究を行い、ゼミの時間にその内容について報告して議論します。
- ・報告については授業中に講評します。また、ゼミ論文は、添削・コメントして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介、春学期の予定
2	グループワーク (1)	文献講読の準備
3	グループワーク (2)	文献講読の準備
4	文献講読 (1)	報告と議論
5	文献講読 (2)	報告と議論
6	研究テーマ	研究のテーマや題材についての検討
7	文献講読 (3)	報告と議論
8	文献講読 (4)	報告と議論
9	文献講読 (5)	報告と議論
10	文献講読 (6)	報告と議論
11	文献講読 (7)	報告と議論
12	文献講読 (8)	報告と議論
13	研究計画 (1ゼミ)	グループ研究のテーマと方法
14	春学期のまとめ	報告と議論 秋学期の予定
15	中間報告 (1ゼミ) (1)	研究の経過と課題
16	中間報告 (2ゼミ) (1)	研究の構想
17	中間報告 (2ゼミ) (2)	研究の構想
18	中間報告 (1ゼミ) (2)	研究対象の分析と考察
19	中間報告 (1ゼミ) (3)	研究対象の分析と考察
20	中間報告 (2ゼミ) (3)	先行研究の紹介と考察
21	中間報告 (2ゼミ) (4)	先行研究の紹介と考察
22	中間報告 (1ゼミ) (4)	研究のタイトルと構成
23	中間報告 (2ゼミ) (5)	先行研究の紹介と考察
24	中間報告 (1ゼミ) (5)	学部研究発表会の準備
25	中間報告 (2ゼミ) (6)	研究対象についての考察
26	中間報告 (2ゼミ) (7)	研究対象についての考察
27	中間報告 (2ゼミ) (8)	研究対象についての考察
28	中間報告 (2ゼミ) (9)	研究対象についての考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・報告の際にはレジュメを用意する。
- ・文献講読の担当回には十分に準備をして臨む。また、担当グループ以外の受講者もかならず文献を予習してくる。
- ・グループ研究・個人研究を計画的に進め、論文を執筆する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献講読でとりあげる文献は、授業開始時に伝えます。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告のしかたと内容、議論への参加 50 %
論文 50 %

【学生の意見等からの気づき】

2 年生と 3 年生の交流を促進するよう工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to analyze the meaning of the representations of place and landscape and to investigate the potentials of culture and representation.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the various issues to approach "place" and "landscape."
 - consider the main points of academic text.
 - learn the method of representation analysis through practice.
 - develop a research question, conduct research, and write a thesis. Students will be expected to prepare a handout for the presentation, read the texts before the class meeting, carry out the research project, and write the year-end thesis. You required study time is two hours for each class meeting.
- Grading will be decided based on the followings: presentation and discussion (50 %), year-end thesis (50 %).

HUM400EB, HUM400EC, HUM400ED

演習 3（卒業論文）

濱中 春

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原則として「場所／風景」あるいは「表象文化」のいずれか、あるいは両方にかかわるテーマの下で研究を行い、卒業論文を執筆します。

【到達目標】

課題発見力、資料調査力、学問的探究力、論理的思考力、言語表現力を向上させ、論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・各自がこれまでの研究を土台としてテーマを設定し、参考文献の調査とその要点の把握、研究対象の分析と考察、ゼミでの中間報告と議論をへて、論文（20000 字以上）を執筆します。
- ・ゼミの時間には個別指導と研究報告およびそれについての議論をおこないます。
- ・論文は中間提出時に添削・コメントして返却し、完成した論文については面接（発表会）で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の予定
(1)		
2	個別指導 (1)	演習 2 の論文へのコメント
3	研究報告 1 (1)	演習 2 の論文の内容と自己評価
4	研究報告 1 (2)	演習 2 の論文の内容と自己評価
5	研究報告 1 (3)	演習 2 の論文の内容と自己評価
6	研究報告 1 (4)	演習 2 の論文の内容と自己評価
7	個別指導 (2)	テーマや研究方法の再検討
8	個別指導 (3)	テーマや研究方法の再検討
9	個別指導 (4)	テーマや研究方法の再検討
10	個別指導 (5)	テーマや研究方法の再検討
11	研究報告 2 (1)	研究の進捗状況、参考文献の検討
12	研究報告 2 (2)	研究の進捗状況、参考文献の検討
13	研究報告 2 (3)	研究の進捗状況、参考文献の検討
14	研究報告 2 (4)	研究の進捗状況、参考文献の検討
15	イントロダクション	秋学期の予定
(2)		
16	研究報告 3 (1)	研究の経過と成果
17	研究報告 3 (2)	研究の経過と成果
18	研究報告 3 (3)	研究の経過と成果
19	研究報告 3 (4)	研究の経過と成果
20	研究報告 3 (5)	研究の経過と成果
21	研究報告 3 (6)	研究の経過と成果
22	研究報告 4 (1)	研究の経過と成果
23	研究報告 4 (2)	研究の経過と成果
24	研究報告 4 (3)	研究の経過と成果
25	研究報告 4 (4)	研究の経過と成果
26	研究報告 4 (5)	研究の経過と成果
27	研究報告 4 (6)	研究の経過と成果
28	論文の点検	原稿のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の構想にもとづいて研究を進め、論文を執筆する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

各自のテーマにあわせて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミで研究報告を行っていることを前提として、提出された論文の内容と形式（問いの立て方、分析・考察の精度と論理性、参考文献の利用の仕方、文章表現）にもとづいて（100%）評価します。

【学生の意見等からの気づき】

卒論の執筆のモチベーションを保つよう工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to write graduation thesis.

By the end of the course, students should have improved the research ability and completed the thesis.

Students will be expected to proceed with research and write the thesis outside of classroom. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the contents and form of the thesis (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを身につける。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを身につける。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習

- ①インタビュー方法の基礎（春学期）
- ゼミでの共同研究テーマの設定、質問票作成、グループ・インタビュー
- ②プレゼンテーションの基礎（秋学期）

PowerPointを使ったプレゼンテーション

学部主催の「ゼミ研究発表会」で、インタビュー結果を報告する。

- ③論文執筆の基礎（秋学期）

ゼミ論（10,000字）を執筆する。

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	論文とは何か	論文の構造
3	インタビュー準備①	調査方法のタイプ
4	インタビュー準備②	資料収集・文献講読
5	インタビュー準備③	資料収集・文献講読
6	インタビュー準備④	資料収集・文献講読
7	インタビュー準備⑤	テーマの設定
8	インタビュー準備⑥	質問票の作成
9	インタビュー準備⑦	質問票の作成
10	インタビュー準備⑧	質問票の作成
11	インタビュー準備⑨	質問票の作成
12	インタビュー準備⑩	インタビューのやり方
13	インタビュー	インタビューの実施
14	インタビュー反省	振り返り
15	オリエンテーション	後期ゼミの進め方
16	プレゼンテーション準備	PowerPointの作り方
17	インタビューの分析①	テーマの設定
18	インタビューの分析②	指標の設定
19	インタビューの分析③	結果の評価
20	インタビュー結果の報告会①	PowerPointによるプレゼン
21	インタビュー結果の報告会②	PowerPointによるプレゼン
22	学部研究発表会準備	PowerPoint修正
23	論文準備①	モデル論文を読む
24	論文準備②	論文の書き方講義
25	ゼミ論の合評会①	ゼミ論の構想発表

26	ゼミ論の合評会②	ゼミ論の構想発表
27	ゼミ論の合評会③	ゼミ論の構想発表
28	まとめ	進捗状況の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①グループ・インタビューの準備
- ②ゼミ論の執筆（10,000字）
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①ゼミ論文（70%）
- ②プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生に合わせて、スケジュールの見直しを行った。

【Outline (in English)】

This course introduces elementary research method for community development. The goal is to improve writing skill. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a paper (70%), and a presentation (30%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを向上させる。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを向上させる。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習

- ①インタビューの技術の向上
各自、研究テーマを設定し、独自の質問票を作成する。
アポイントメントを取り、質問票に基づいてインタビューを実施する。
- ②プレゼンテーションの技術の向上

PowerPoint を使ってプレゼンテーションを行う。

- ③論文の書き方の習熟
ゼミ論（20,000字）を執筆する。
※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	先行研究の輪読	モデル論文の講読
3	ゼミ論計画の報告会 (テーマ) ①	各自の研究テーマを検討
4	ゼミ論計画の報告会 (テーマ) ②	各自の研究テーマを検討
5	ゼミ論計画の報告会 (テーマ) ③	各自の研究テーマを検討
6	ゼミ論計画の報告会 (テーマ) ④	各自の研究テーマを検討
7	ゼミ論計画の報告会 (先行研究) ①	各自の研究テーマを検討
8	ゼミ論計画の報告会 (先行研究) ②	各自の研究テーマを検討
9	ゼミ論計画の報告会 (先行研究) ③	各自の研究テーマを検討
10	ゼミ論計画の報告会 (先行研究) ④	各自の研究テーマを検討
11	ゼミ論計画の報告会 (インタビュー先) ①	各自の研究テーマを検討
12	ゼミ論計画の報告会 (インタビュー先) ②	各自の研究テーマを検討
13	ゼミ論計画の報告会 (インタビュー先) ③	各自の研究テーマを検討
14	ゼミ論計画の報告会 (インタビュー先) ④	各自の研究テーマを検討
15	オリエンテーション	後期ゼミの進め方
16	インタビューの方法論	アポイントメントの取り方

17	質問票の合評会①	各自の質問票を検討
18	質問票の合評会②	各自の質問票を検討
19	質問票の合評会③	各自の質問票を検討
20	ゼミ論の個人面談①	質問票の修正
21	ゼミ論の個人面談②	質問票の修正
22	ゼミ論の個人面談③	質問票の修正
23	ゼミ論の進捗状況報告会	ゼミ論の進捗状況を確認
24	研究発表会準備①	PowerPoint 作成
25	研究発表会準備②	PowerPoint 作成
26	ゼミ論の報告会①	ゼミ論の分析結果報告
27	ゼミ論の報告会②	ゼミ論の分析結果報告
28	ゼミ論の報告会③	ゼミ論の分析結果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①インタビューの実施、②ゼミ論の執筆（20,000字）
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①ゼミ論文（80%）
- ②プレゼンテーション（20%）

【学生の意見等からの気づき】

学生に合わせて、スケジュールの見直しを行った。

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate research method for community development. The goal is to improve writing skill. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a paper (80%), and a presentation (20%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位
曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを向上させる。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを向上させる。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習

- ①インタビューの実施
研究テーマ設定、質問票作成、アポイントメント、インタビュー
- ②プレゼンテーションの活用
PowerPointを使ったプレゼンテーション
- ③論文執筆の集大成
卒論（30,000字）の執筆

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	前年度ゼミ論の報告会①	PowerPointによる報告
3	前年度ゼミ論の報告会②	PowerPointによる報告
4	前年度ゼミ論の報告会③	PowerPointによる報告
5	先行研究の輪読①	テキスト講読
6	先行研究の輪読②	テキスト講読
7	先行研究の輪読③	テキスト講読
8	先行研究の輪読④	テキスト講読
9	先行研究の輪読⑤	テキスト講読
10	先行研究の輪読⑥	テキスト講読
11	先行研究の輪読⑦	テキスト講読
12	卒論計画の合評会①	各自の研究テーマを検討
13	卒論計画の合評会②	各自の研究テーマを検討
14	卒論計画の合評会③	各自の研究テーマを検討
15	質問票の個人面談①	質問票の検討
16	質問票の個人面談②	質問票の検討
17	質問票の個人面談③	質問票の検討
18	卒論の合評会①	卒論の構想発表
19	卒論の合評会②	卒論の構想発表
20	卒論の合評会③	卒論の構想発表
21	インタビュー結果報告①	卒論の検討
22	インタビュー結果報告②	卒論の検討
23	インタビュー結果報告③	卒論の検討

24	インタビュー結果の合 評会	ディスカッション
25	卒論の個人面談①	卒論の最終確認
26	卒論の個人面談②	卒論の最終確認
27	卒論の個人面談③	卒論の最終確認
28	まとめ	卒論提出の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①インタビューの実施、②卒論の執筆（30,000字）
- ②本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①卒論（100%）

【学生の意見等からの気づき】

学生に合わせて、スケジュールの見直しを行った。

【Outline (in English)】

This course introduces advanced research method for community development. The goal is to improve writing skill. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a paper (100%).

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3（卒業論文）

加藤 徹郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業研究の計画と卒業論文執筆

【到達目標】

卒業研究を段階的に進め卒業論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は卒業研究を段階的に進めるために、テーマ発表、関連文献報告、調査計画を報告してもらいます。秋学期は卒業論文の完成に向けて個別指導を中心に進めていきます。

※ 授業内容は、場合により変更もあり得る。

※ フィードバックは、演習時にディスカッションの中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本年度ゼミの進行	ガイダンス
第2回	テーマ最終チェック①	卒業研究準備
第3回	テーマ最終チェック②	卒業研究準備
第4回	テーマ最終チェック③	卒業研究準備
第5回	参考文献調査①	卒業研究準備
第6回	参考文献調査②	卒業研究準備
第7回	参考文献調査③	卒業研究準備
第8回	参考文献報告①	卒業研究準備
第9回	参考文献報告②	卒業研究準備
第10回	参考文献報告③	卒業研究準備
第11回	卒業研究調査計画①	卒業研究発展
第12回	卒業研究調査計画②	卒業研究発展
第13回	卒業研究調査計画③	卒業研究発展
第14回	卒業研究調査計画④	卒業研究発展
第15回	卒業研究進行チェック①	ガイダンス
第16回	卒業研究進行チェック②	卒業研究発展
第17回	卒業研究進行チェック③	卒業研究発展
第18回	卒業研究進行チェック④	卒業研究発展

- 第 19 回 卒業研究最終報告① 卒業研究発展
- 第 20 回 卒業研究最終報告② 卒業研究発展
- 第 21 回 卒業研究最終報告③ 卒業研究発展
- 第 22 回 卒業研究最終報告④ 卒業研究発展
- 第 23 回 最終報告からの修正① 卒業研究発展
- 第 24 回 最終報告からの修正② 卒業研究発展
- 第 25 回 卒論の文章表現① 卒論執筆
- 第 26 回 卒論の文章表現② 卒論執筆
- 第 27 回 論文執筆個別指導① 卒論執筆
- 第 28 回 論文執筆個別指導② 卒論執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 授業のシラバスを熟読する
 - 第 2 回～ 14 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 - 第 15 回～ 26 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 - 第 27 回～ 28 回 論文執筆の最終チェックを行う
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田真文編著『メディアの卒論 テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016 年、3200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

- ①卒業研究の準備（評価の 40 %）②卒業論文（評価の 50 %）③平常点（評価の 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【Outline (in English)】

- Course outline -

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write a better graduation thesis.

- Learning Objectives -

Graduation research will be carried out step by step to complete the graduation thesis.

- Learning activities outside of classroom -

Class preparation and review time will be about two hour each. Based on the contents of the class, please "constantly question" your own "information behavior" on a regular basis. This will deepen your understanding.

- Grading Criteria / Policy -

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Graduation research: 40%, Graduation thesis: 50%, in class contribution: 10%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市問題・都市環境問題・まちづくりの社会学

【到達目標】

論理的に思考し、それを明晰に表現できるようになることを目指す。端的に言うなら、方法を獲得する、ということ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文へ向けての系統的指導の第一段階として、このゼミでは (1) 文献の読破、(2) 各自のフィールドワーク、(3) ゼミ論文の執筆、を行います。基礎的な文献を読破する過程で、物事を深く考え、分析する「方法」を身に付けていくことが目指されます。文献は、環境社会学や都市社会学にとどまらず、良質な社会学的専門書（いわゆる「古典」）も含め、良質かつ興味深いものを選んで講読します。年度の後には、1 年間の勉学のまとめとして、「1 ゼミ修了論文」を仕上げます。提出された修了論文は、その後皆で読んで改善点を洗い出す「合評会」を開催してフィードバックを行います。受講者と相談して授業形態を決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ入門	ゼミおよび学習方法についての説明
2	入門文献講読 (1)	社会学の入門的文献講読 (1)
3	入門文献講読 (2)	社会学の入門的文献講読 (2)
4	入門文献講読 (3)	社会学の入門的文献講読 (3)
5	入門文献講読 (4)	社会学の入門的文献講読 (4)
6	入門文献講読 (5)	社会学の入門的文献講読 (5)
7	入門文献講読 (6)	社会学の入門的文献講読 (6)
8	入門文献講読 (7)	社会学の入門的文献講読 (7)
9	入門文献講読 (8)	社会学の入門的文献講読 (8)
10	入門文献講読 (9)	社会学の入門的文献講読 (9)
11	各自のテーマ報告 (1)	1 ゼミ修了論文構想報告 (1)
12	各自のテーマ報告 (2)	1 ゼミ修了論文構想報告 (2)
13	各自のテーマ報告 (3)	1 ゼミ修了論文構想報告 (3)
14	春学期のまとめ	春学期の総括討論
15	基礎文献の講読 (1)	古典の講読 (1)
16	基礎文献の講読 (2)	古典の講読 (2)
17	基礎文献の講読 (3)	古典の講読 (3)
18	基礎文献の講読 (4)	古典の講読 (4)
19	基礎文献の講読 (5)	古典の講読 (5)
20	基礎文献の講読 (6)	古典の講読 (6)
21	専門的文献の講読 (1)	専門文献の講読 (1)
22	専門的文献の講読 (2)	専門文献の講読 (2)
23	専門的文献の講読 (3)	専門文献の講読 (3)
24	専門的文献の講読 (4)	専門文献の講読 (4)
25	各自のテーマ報告 (1)	論文内容報告 (1)
26	各自のテーマ報告 (2)	論文内容報告 (2)
27	各自のテーマ報告 (3)	論文内容報告 (3)
28	全体のまとめ	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サブゼミ本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

論文 (50%) および議論への貢献度 (50%) で評価します。論理的かつ首尾一貫してテーマについて論じているかが、評価のポイントになります。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの運営方法などについて、適宜、話し合いを持つ

【その他の重要事項】

正規の時間以外に週 1 回実施するサブゼミに参加できること

【Outline (in English)】

This course introduces academic writing and the fundamentals of academic research to students taking this seminar. It is particularly designed to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write a better term paper. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on in-class contribution (50%) and the term paper (50%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市問題・都市環境問題・まちづくりの社会学

【到達目標】

専門文献（邦語および英語）の基礎的読解方法の習得と、それを自分の研究計画に反映させる道筋をつけられるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文へ向けての第二段階です。英文文献も含め、文献を読破し、さらに方法論を深く学びます。年度の終わりにまでに2ゼミ修了論文を仕上げます。す。年度の最後には、1年間の勉学のまとめとして、「1ゼミ修了論文」を仕上げます。提出された修了論文は、その後皆で読んで改善点を洗い出す「合評会」を開催してフィードバックを行います。受講者と相談して授業形態を決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	社会学と（都市）環境問題に関する重要文献の講読。リストは開講時に配付し、参加者との合議で決定します。
第2回	文献講読（1）	環境問題に関する重要文献の講読
第3回	文献講読（2）	環境問題に関する重要文献の講読
第4回	文献講読（3）	環境問題に関する重要文献の講読
第5回	文献講読（4）	環境問題に関する重要文献の講読
第6回	文献講読（5）	環境問題に関する重要文献の講読
第7回	文献講読（6）	環境問題に関する重要文献の講読
第8回	文献講読（7）	環境問題に関する重要文献の講読
第9回	文献講読（8）	環境問題に関する重要文献の講読
第10回	文献講読（9）	環境問題に関する重要文献の講読
第11回	文献講読（10）	環境問題に関する重要文献の講読
第12回	文献講読（11）	環境問題に関する重要文献の講読
第13回	文献講読（12）	環境問題に関する重要文献の講読
第14回	春学期のまとめ・総合討論	総合討論
第15回	導入	秋学期への導入
第16回	ゼミ論文の執筆指導（1）	各人の問題意識に基づいたゼミ論文を執筆します（「2ゼミ修了論文」）。個別に相談のり、場合によって添削指導をする場合もあります。指導の眼目は、各自のアイディアに私が介入・干渉することではなく、「そのアイディアを展開するにはどうしたら良いのか・いかに説得的に論述できるか」といった「君自身のアイディアの洗練化」です。ですから、自分のテーマのない学生や自ら積極的に取り組まない学生には、指導がなされませんから注意してください。
第17回	ゼミ論文の執筆指導（2）	ゼミ論文の執筆指導
第18回	ゼミ論文の執筆指導（3）	ゼミ論文の執筆指導
第19回	ゼミ論文の執筆指導（4）	ゼミ論文の執筆指導
第20回	ゼミ論文の執筆指導（5）	ゼミ論文の執筆指導
第21回	ゼミ論文の執筆指導（6）	ゼミ論文の執筆指導
第22回	ゼミ論文の執筆指導（7）	ゼミ論文の執筆指導
第23回	ゼミ論文の執筆指導（8）	ゼミ論文の執筆指導
第24回	ゼミ論文の執筆指導（9）	ゼミ論文の執筆指導
第25回	ゼミ論文の執筆指導（10）	ゼミ論文の執筆指導
第26回	ゼミ論文の執筆指導（11）	ゼミ論文の執筆指導
第27回	ゼミ論文の執筆指導（12）	ゼミ論文の執筆指導
第28回	総括討論	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

綿密な予習・復習及び各自のフィールドワークが必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して決定します

【参考書】

演習中に適宜指示します

【成績評価の方法と基準】

学年末提出の「2ゼミ修了論文」(50%) および演習での議論への貢献度(50%)

【学生の意見等からの気づき】

定期的にゼミ運営について、ゼミ生と話し合いを持ちます。

【その他の重要事項】

正規の時間以外に週1回実施するサブゼミに参加できること
原則として新規募集はしませんが、年度によっては募集する場合があります。事務課前のゼミ掲示板に注意してください。

【Outline (in English)】

This course introduces academic writing and the fundamentals of academic research to students taking this seminar. It enhances the development of students' skill in carrying out fieldworks by themselves. At the end of the seminar, students should be able to do the following:

- recognize and recall major terms and concepts in sociology,
- describe and explain major methods and theories.

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on in-class contribution (50%) and the term paper (50%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自のテーマによる卒業論文指導

【到達目標】

卒業論文の執筆を到達目標地点とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には演習(II)の延長ですが、卒業論文へ向けての最終段階にあたりますので質的・量的にさらなるレベル・アップを図り、質の高い卒業論文の作成を目指します。

春学期は、各自の論文テーマの中間報告と文献リスト、そしてその後の作業日程リストを提出してもらいます。秋学期は、卒論構想の個別報告と検討を行います。卒論の口頭試問は、1月末～2月初旬に公開形式で行います。例年、ゼミ生全員に加えOB/OG院生、一般聴衆の前で3年間の成果を発表し、ともに学びあう場になっています。9月中旬にゼミ合宿を実施する予定です。必ず参加してください。これにもOB/OG院生が参加して議論をリードしたり、鋭い批判を投げ掛けてくれるはず。受講者と相談して授業形態を決めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期への導入	受講者との相談の上、決定します。基本的には、チュートリアル指導による密度の濃い論文指導となります。
第2回	卒論執筆指導(1)	卒論の構想案の検討、討論
第3回	卒論執筆指導(2)	卒論の構想案の検討、討論
第4回	卒論執筆指導(3)	卒論の構想案の検討、討論
第5回	卒論執筆指導(4)	卒論の構想案の検討、討論
第6回	卒論執筆指導(5)	卒論の構想案の検討、討論
第7回	卒論執筆指導(6)	卒論の構想案の検討、討論
第8回	卒論執筆指導(7)	卒論の構想案の検討、討論
第9回	卒論執筆指導(8)	卒論の構想案の検討、討論
第10回	卒論執筆指導(9)	卒論の構想案の検討、討論
第11回	卒論執筆指導(10)	卒論の構想案の検討、討論
第12回	卒論執筆指導(11)	卒論の構想案の検討、討論
第13回	卒論執筆指導(12)	卒論の構想案の検討、討論
第14回	卒論執筆指導(13)	卒論の構想案の検討、討論
第15回	秋学期への導入	導入および卒論書式の確認
第16回	卒論執筆指導(14)	卒論の構想案の検討、討論
第17回	卒論執筆指導(15)	卒論の構想案の検討、討論
第18回	卒論執筆指導(16)	卒論の構想案の検討、討論
第19回	卒論執筆指導(17)	卒論の構想案の検討、討論
第20回	卒論執筆指導(18)	卒論の構想案の検討、討論
第21回	卒論執筆指導(19)	卒論の構想案の検討、討論
第22回	卒論執筆指導(20)	卒論の構想案の検討、討論
第23回	卒論執筆指導(21)	卒論の構想案の検討、討論
第24回	卒論執筆指導(22)	卒論の構想案の検討、討論
第25回	卒論執筆指導(23)	卒論の構想案の検討、討論
第26回	卒論執筆指導(24)	卒論の構想案の検討、討論
第27回	卒論執筆指導(25)	卒論の構想案の検討、討論
第28回	卒論執筆指導(26)	卒論の構想案の検討、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

綿密な予習・復習及び各自のフィールドワーク、卒論の執筆・推敲・完成が必須です。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の専門研究を展開するため、特にテキストは指定しません

【参考書】

各自の問題関心に応じたものを適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

学年末提出の「III ゼミ修了論文」すなわち「卒業論文」で評価します（100%）。出席は当然のことながら必須です。論理的かつ首尾一貫してテーマについて論じているか、II ゼミ修了論文を量・質ともに超えているか、が評価の中軸になります。端的に表現すれば「自己ベスト更新」がなされているかが評価のポイントだということです。

【学生の意見等からの気づき】

定期的にゼミ運営について、ゼミ生と話し合いを持ちます。

【その他の重要事項】

原則として、新規募集は行いません

【Outline (in English)】

This course is designed to help students write a B.A. thesis that is based on firsthand data obtained by their own fieldwork. At the end of the seminar, students should be able to do the following:

- ・ evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,
- ・ apply theories or findings to real world situations.

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on the graduation thesis (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

藤代 裕之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制作と研究を通してソーシャルメディア時代におけるコミュニケーション設計を学びます。ソーシャルメディアを中心に、紙、ウェブ、イベントなど様々なメディアの特徴や構造を理解し、情報が伝わる仕組みを考えます。

【到達目標】

面白いと思ったり、違和感を持ったり、何気ない日常で感じる自分の問題意識を理解して「視点」を獲得する。様々なメディアの特徴を理解し、その構造を捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義と実習を組み合わせで行います。春学期は、ゼミ紹介冊子の制作を通して、自分の問題意識を理解し、メディアの特徴と構造を学びます。秋学期は制作を進めながら、研究に取り組むことで「視点」を獲得します。制作や研究に対するコメントをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	方針の確認と自己紹介
第 2 回	制作	インタビューの手法
第 3 回	制作	インタビューの実施
第 4 回	制作	記事執筆の手法
第 5 回	制作	記事執筆の実施
第 6 回	制作	関心の整理
第 7 回	制作	関心の整理の議論
第 8 回	制作	事例の検討
第 9 回	制作	事例の検討の議論
第 10 回	制作	構造分析の手法
第 11 回	制作	構造分析の実施
第 12 回	制作	レイアウトの手法
第 13 回	制作	レイアウトの実施
第 14 回	制作	制作の振り返り
第 15 回	ガイダンス	方針の確認
第 16 回	研究	研究テーマの検討
第 17 回	研究	研究テーマの調査
第 18 回	研究	研究テーマの整理
第 19 回	研究	先行研究の検討
第 20 回	研究	先行研究の調査
第 21 回	研究	先行研究の整理
第 22 回	研究	調査設計の検討
第 23 回	研究	調査設計の整理
第 24 回	研究	調査実施の検討
第 25 回	研究	調査の実施
第 26 回	研究	調査の整理
第 27 回	研究	調査の分析
第 28 回	研究	調査のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外の準備が相当時間必要です。土日、長期休暇を利用しての合宿、他大学との合同ゼミや学会への参加などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。活動に対する取り組みで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、カメラ、デザインソフトなどを使用します。大半がゼミに用意してありますが、パソコンは購入する必要があります。

【その他の重要事項】

表現活動に大切なのは好奇心です。人と異なっている、自分の考えを大切にすることが重要です。ソーシャルメディア時代のメディア実践や研究にはテクノロジーへの理解が必須になりますが、ゼミ生同士の勉強会や講師を招いての講座で学ぶことができます。

【Outline (in English)】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

The goals of this course are to understanding communication design in social media.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 2

藤代 裕之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制作と研究を通してソーシャルメディア時代におけるコミュニケーション設計を学びます。ソーシャルメディアを中心に、様々なメディアの特徴や構造を理解し、情報が伝わる仕組みを考えます。

【到達目標】

自分の問題意識から獲得した「視点」を社会的な問題に結びつけて考えられるようになる。様々なメディアの特徴と構造を理解した上で、人的に伝えることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義と実習を組み合わせで行います。制作と並行して一人ひとりが研究テーマを持ち、調査と論文執筆を行います。制作や研究に対するコメントをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	方針の確認と自己紹介
第 2 回	調査	研究テーマの事前調査
第 3 回	調査	研究テーマの事前整理
第 4 回	調査	研究テーマの事前まとめ
第 5 回	調査	先行研究の検討
第 6 回	調査	先行研究の調査
第 7 回	調査	先行研究の整理
第 8 回	調査	先行研究のまとめ
第 9 回	調査	関心の検討
第 10 回	調査	関心の調査
第 11 回	調査	関心のまとめ
第 12 回	調査	研究テーマの整理
第 13 回	研究	研究テーマのまとめ
第 14 回	研究	研究テーマの決定
第 15 回	ガイダンス	振り返りと方針の確認
第 16 回	研究	調査設計の検討
第 17 回	研究	調査設計の整理
第 18 回	研究	調査設計のまとめ
第 19 回	研究	調査実施の検討
第 20 回	研究	調査実施の整理
第 21 回	研究	調査の実施
第 22 回	研究	調査の確認
第 23 回	研究	調査の整理
第 24 回	研究	調査のまとめ
第 25 回	研究	調査報告の検討
第 26 回	研究	調査報告の整理
第 27 回	研究	調査報告のまとめ
第 28 回	研究	調査報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外の準備が相当時間必要です。土日、長期休暇を利用しての合宿、他大学との合同ゼミや学会への参加などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。活動に対する取り組みで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、カメラ、デザインソフトなどを使用します。大半がゼミに用意してありますがパソコンは購入する必要があります。

【その他の重要事項】

これまでの研究テーマには、地域からの情報発信、ニュースパーク（日本新聞博物館）の展示提案、フェイクニュース調査、などがあります。

【Outline (in English)】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

The goals of this course are to understanding communication design in social media.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

藤代 裕之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディア時代のコミュニケーション設計に関連した卒業論文を執筆します。

【到達目標】

演習1・2での学びを生かし、社会的に意義ある質の高い卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.wasei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自が設定したテーマに沿って研究を進めます。研究に対するコメントをフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	方針の確認
第2回	調査	研究テーマの検討
第3回	調査	研究テーマの整理
第4回	調査	研究テーマの決定
第5回	調査	先行研究の調査
第6回	調査	先行研究の整理
第7回	調査	文献リストの作成
第8回	調査	文献リストの整理
第9回	調査	調査手法の検討
第10回	調査	調査手法の整理
第11回	調査	調査手法のまとめ
第12回	調査	予備調査
第13回	調査	予備調査の確認
第14回	調査	調査準備
第15回	報告	調査結果の確認
第16回	調査	調査結果の検討
第17回	調査	調査結果の整理
第18回	論文作成	調査結果のまとめ
第19回	論文作成	構成の検討
第20回	論文作成	構成のまとめ
第21回	論文作成	構成の決定
第22回	論文作成	論文執筆の報告
第23回	論文作成	論文の見直し
第24回	論文作成	修正点の報告
第25回	論文作成	論文第一稿提出
第26回	論文作成	第一稿の課題整理
第27回	論文作成	第一稿の課題修正
第28回	まとめ	最終稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は研究の進捗報告で、調査、執筆の大半が授業外の学習となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自が設定したテーマに沿って適宜指示します。

【参考書】

藤田真文（2011年）『メディアの卒論—テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

提出された卒論の内容・完成度 60%、卒論発表会 40%。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

ゼミのOB/OGや関係者が参加した卒論発表会での発表が必須です。

【Outline (in English)】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

The goals of this course are to understanding communication design in social media.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1

増田 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは、「グローバルゼーションを考える」です。現代のグローバル経済の現状について、社会科学に基づく分析を行い、一人ひとりが自分の見解を持てるようにすることです。

【到達目標】

ゼミの目標は、社会科学、特に経済学の知識を学びながら、以下の3つにまとめられる。

- ①現代のグローバル世界について、ゼミ参加者が基本的な認識を持つことができるようになること。
- ②グローバル世界の功罪をきちんと把握したうえで、時代に流されるのではなく、自分の見解を持って将来を考えていけるような力量を身につけ、自分の意見を論理的に発表できるようになること。
- ③ゼミでの学びを通じて、ゼミ生同士また先輩や後輩との豊かな人間関係を形成すること。そして、それぞれが卒業後の進路をしっかりと歩んでいけるような力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

以下、1月時点でのシラバスの記載ですが、コロナウイルスの感染拡大の状況から、相当程度の変更が想定されます。状況を踏まえ、変更については、学習支援システム上で指示しますので、そちらを必ず毎週見るようにしてください。

ゼミは、Iゼミ、IIゼミを合同して行います。Iゼミの時は、基本的な文献を読んだり、映像や資料等に基づいて討論をしたりして、グローバルゼーションについての基本的事項の勉強をします。通常は、ゼミ室での勉強になりますが、大学の外に出て学ぶことも重視しています。

夏休みには、現場を見ることを中心にするゼミ合宿をしますが、2020年、2021年度は実施できませんでした。2019年度のベトナム合宿の事例を紹介しますが、実施できるかどうかはわかりません。ベトナムでは、ホーチミン市内の博物館、元大統領官邸、植民地時代の建物等を見学し、ベトナム戦争を詳しく知るために、クチトンネルでの体験を行いました。枯葉剤問題を学ぶため、ツーズ病院と平和村を訪問し、枯葉剤の被害を受けた子供たちとの懇親を行いました。また、現代の日越関係を学ぶという観点で、ベトナムで最初の自由貿易区にある日本企業のグンゼで工場見学を行い、花王のベトナム工場、ミツバの工場見学も行いました。現地で働く法政OBOGと合同で懇親会も開催し、ベトナムで働くということについてたくさんのお話をしてもらいました。日本とのかかわりや日本企業の発展途上国戦略の実際を現地ですんできました。

今年度、海外でゼミ合宿を行える可能性はかなり低いと思いますが、可能な場合には行おうと考えています。海外で行えない場合には、夏休みに、沖縄でのゼミ合宿を行うつもりです。時期については、感染状況を見て変更することもあるかと思っています。

ゼミでは、毎年、立教大学や神戸外国語大学の学生たちと合同での研究発表会（合同ゼミ）を行っています。2021年は12月19日に、対面形式で神戸で行いました。各ゼミの研究発表を行い、ディスカッションをするというものです。秋学期はこの準備のために、グループごとのサブゼミが多くなります。2022年度は立教大学で開催する予定です。

また、ゼミでは、施設見学等も行うことにしています。多文化共生を肌感覚で身につけていくために、今年度も可能な見学を行う予定にしています。

こうしたものは、原則として全員参加です。やむを得ない事情で欠席する際には、事前に教員の許可を求るようにしてください。

ゼミでは、人前で論理的に話すことができるようにするため、2分間スピーチ、頭の体操、ミニ発表会などを行います。

春学期は、毎回、全員がゼミのまとめを作り、担当者が発表します。発表者以外はそれを教員に提出します。毎回、ゼミの最初の時間で、前週の復習として、ゼミのまとめを活用してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと自己紹介
2	テキストの輪読①	レジメの書き方など
3	テキストの輪読②	テキスト①の1章の輪読
4	テキストの輪読③	テキスト①の2章
5	グループ別学習①	テーマ別、グループ別学習
6	グループ学習②	テーマ別、グループ別学習

7	グループ学習③	テーマ別、グループ別学習
8	テキストの輪読④	テキスト②
9	テキストの輪読⑤	テキスト②
10	テキストの輪読⑥	テキスト②
11	夏合宿向け学習①	海外または沖縄で行うフィールドワークに関する基礎的な文献の購読
12	夏合宿向け学習②	海外または沖縄で行うフィールドワークに関する基礎的な文献の購読
13	夏合宿向け学習③	海外または沖縄で行うフィールドワークに向けた課題別のグループ学習
14	夏合宿向け学習④	海外または沖縄で行うフィールドワークに向けた課題別のグループ学習
15	夏合宿の振り返り、まとめ	まとめと秋学期の打ち合わせ
16	合同ゼミのための文献購読①	基礎文献の輪読
17	文献の講読②	基礎文献の輪読
18	文献の講読③	基礎文献の輪読
19	文献の講読④	基礎文献の輪読
20	文献の輪読⑤	基礎文献の輪読
21	合同ゼミに向けた中間発表④	合同ゼミに向けた中間発表
22	発表の論点整理と検討①	発表グループの論点整理と検討
23	発表の論点整理と検討②	発表グループの論点整理と検討
24	模擬発表会	合同ゼミの模擬発表会
25	合同ゼミの準備①	合同ゼミの準備 他大学の発表への質問、意見のとりまとめ
26	合同ゼミの準備②	合同ゼミの準備 他大学からの質問への回答の作成
27	合同ゼミの反省会	合同ゼミについての反省会、など。
28	まとめ	1年間の学習のまとめと春休み、新学期の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの内容は、Iゼミの時にマスターすることが目標なので、繰り返しよく読んでおくこと。授業では取り上げない章は各自で読んで、理解すること。わからない点などは教員に質問して、理解できないところを博すようにしてください。

前期は、毎週宿題が出ます。翌週のゼミのときに提出してください。最低でも予習1時間、復習2時間はかかります。自分で発表するときは、準備にそれ以上の時間がかかります。

また、12月には、合同ゼミ発表会（共通のテーマを決めてディベートする。）を行うので、秋学期はサブゼミが多くなります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①『21世紀国際社会への招待』羽場久美子・増田正人編、有斐閣、2002年。この本は絶版になっているので、必要なところはコピーして使います。古本で購入してもらえると助かります。

②『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹、河音琢郎、藤木剛康編、ミネルヴァ書房、2021年。
その他は、適宜、指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表の頻度、内容、ゼミ討論への参加度、ゼミのまとめ等の提出物で総合的に平常点（100%）として評価します。オンラインで行う間は、参加度と提出物で評価しますが、具体的には授業支援システム内で説明します。ゼミは、3回以上無断で欠席すると、単位が得られません。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

合同ゼミはPCを使い、パワーポイントで発表するので、それに習熟することが大事です。マルチメディア室を利用するときなどは、教室変更の指示をするので、掲示板等に注意すること。

【その他の重要事項】

コロナ対応によっても変わりますが、ゼミは、通常の時間帯以外に、新歓合宿、夏合宿、ディベート大会直前合宿、卒論発表会など、ゼミ単位の行事があります。それらの実施が可能な場合、それへの参加は必要です。やむを得ない事情で参加できない場合は、事前に教員に説明し、欠席の許可を得ること。

【Outline (in English)】

The theme of my seminar is to think about globalization.
The purpose of my seminar is to analyze the global economy based on social science, so that each person can have their own views.
In this seminar, we will read basic textbooks, discuss about globalization and this seminar will be held jointly with the seminar 2.
In the spring semester, homework will be given every week. Please submit it at the next week's seminar. It will take at least 1 hour for preparation and 2 hours for review.
Grades will be evaluated comprehensively based on the frequency and content of presentations, participation in seminar discussions, and submissions.

ECN300EB, ECN300EC, ECN300ED

演習2

増田 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは、「グローバルイゼーションを考える」です。ゼミIの学習を基にして、年度末に、ゼミ論文の執筆を目標とします。

【到達目標】

- ①目標は、一人ひとりが主体的に学び、発言し、行動できるようになること。
- ②Iゼミと合同で行うので、先輩としての役割をきちんと果たすことが求められます。
- ③ゼミ論文をきちんと仕上げること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミは、I・IIゼミを合同で行いますが、秋学期には分けても行います。秋学期の最初に、ゼミ論文の構想の発表を行い、年度末にゼミ論文（400字×40枚程度）を執筆します。IIIゼミでは、ゼミ論文を下地にして、卒業論文の執筆を柱にしていきます。前期についてはゼミのまとめの時間に、毎回、前週のゼミの復習を行い、フィールドバックをします。後期は、各自の発表に基づいて授業を進め、その都度、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと自己紹介
2	テキストの輪読(1)	テキスト1章
3	テキストの輪読(2)	テキスト1章
4	テキストの輪読(3)	テキスト2章
5	グループ別学習(1)	テーマ別、グループ別学習
6	グループ別学習(2)	テーマ別、グループ別学習
7	グループ別学習(3)	テーマ別、グループ別学習
8	テキストの輪読(4)	テキスト②
9	テキストの輪読(5)	テキスト②
10	テキストの輪読(6)	テキスト②
11	合宿に向けた学習(1)	夏合宿に向けた基礎文献の購読
12	合宿に向けた学習(2)	夏合宿に向けた基礎文献の購読
13	合宿に向けた学習(3)	テーマ別のグループ学習
14	合宿に向けた学習(4)	テーマ別のグループ学習
15	春学期ゼミのまとめ	合同ゼミ、卒論中間発表会
16	合宿のまとめ	秋学期の打ち合わせ
17	ゼミ論文のテーマ発表	ゼミ論文執筆に向けた構想の発表。各回5人程度。
18	ゼミ論文の執筆準備	続き
19	ゼミ論文の執筆準備	続き、文献リストの提出
20	合同ゼミに向けた基礎文献の購読(1)	合同ゼミに向けた基礎文献の購読(1)
21	基礎文献の購読(2)	基礎文献の購読(2)
22	基礎文献の購読(3)	基礎文献の購読(3)
23	合同ゼミの中間発表会	合同ゼミの中間発表会
24	合同ゼミに向けた基礎文献の購読(4)	合同ゼミに向けた基礎文献の購読(4)
25	合同ゼミに向けた論点の整理と検討	合同ゼミに向けた論点の整理と検討
26	合同ゼミの模擬発表会	合同ゼミの模擬発表会
27	合同ゼミの準備	合同ゼミの準備
28	合同ゼミの反省会	合同ゼミの反省会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

IIゼミの学生は、ゼミの中で、Iゼミ学生の疑問に応えられるように、しっかりとテキストを予習しておいてください。合同ゼミでは、Iゼミ生の力を引き出しながら、頑張ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①『21世紀国際社会への招待』羽場久美子・増田正人編、有斐閣、2002年。
- ②『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編、ミネルヴァ書房、2021年。
その他、適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの討論への参加度、発表の内容をみて、総合的に評価します。平常点で 60 点、ゼミ論で 40 点、合計 100 点で評価します。ゼミは、3 回以上、無断で欠席すると、単位が与えられません。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミはオンラインで行うこともあると思うので、PC を用意していることが望ましい。

【その他の重要事項】

ゼミで行う取り組みには必ず参加してください。

【Outline (in English)】

The theme of the seminar is "Thinking about Globalization".
Based on the study of Seminar 1, the goal is for students to write a seminar paper at the end of the year.
In Spring semester, we will read basic textbooks, discuss about globalization.
This seminar will be held jointly with the seminar 1.
In Spring semester, homework will be given every week. Please submit it at the next week's seminar. It will take at least 1 hour for preparation and 2 hours for review.
Grades will be evaluated comprehensively based on the frequency and content of presentations, participation in seminar discussions, and submissions.

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習 3 (卒業論文)

増田 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業のテーマは、「グローバル化を考える」です。演習 1, 2 で学んだことを踏まえて、卒業論文を執筆することを目標にします。

【到達目標】

目標は、参加者全員が卒業論文を執筆すること。卒業論文は、カリキュラム上は必修ではないが、執筆者の能力を飛躍的に向上させるものであるため、厳しい状況の中でもあきらめずに執筆することがとても大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、各自の卒論執筆に向けた作業を中心に行う。日程の調整もあるので、最初の授業時に全員出席すること。(その場で、就職活動との調整も行う。)参加者の状況を考慮しつつ、可能であるならば、春学期に必要な文献の輪読を行う。テキストは、第一回の授業時に相談して決める。

春学期については、就職活動等もあるので、オンラインでの授業が多くなると思われる。

卒論については、中間発表を複数回行い、その都度、コメント等をもとにしながら修正を重ねていきます。最終発表のレジメをもとに下書きを書いて事前に提出してください。提出後、教員によるコメントを踏まえて最終稿を書くようにしてください。

卒業論文の提出後、ゼミで卒論発表会を行います。卒論の口述試験は、ゼミでの発表会として行うので、必ず参加するようにしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと打ち合わせ
2	卒論のテーマの確定	卒論テーマの確定
3	テキストの輪読①	卒論の相談、テキスト輪読
4	テキストの輪読②	卒論の相談、テキスト輪読
5	テキストの輪読③	卒論の相談、テキスト輪読
6	テキストの輪読④	卒論の相談、テキスト輪読
7	テキストの輪読⑤	卒論の相談、テキスト輪読
8	テキストの輪読⑥	卒論の相談、テキスト輪読
9	テキストの輪読⑦	卒論の相談、テキスト輪読
10	テキストの輪読⑧	卒論の相談、テキスト輪読
11	テキストの輪読⑨	卒論の相談、テキスト輪読
12	テキストの輪読⑩	卒論の相談、テキスト輪読
13	卒論の中間発表①	卒論の中間発表。各回 2~3 人。
14	卒論の中間発表②	卒論の中間発表。各回 2~3 人。
15	秋学期、卒論の進捗状況の報告会	夏休み期間中の学び、卒論の進捗状況の報告会
16	卒論の中間発表①	夏休みに行った研究を中心にして、卒論の中間発表を行う。各回 2~3 人。
17	卒論の中間発表②	卒論の中間発表
18	テキストの輪読①	卒論の相談、テキスト輪読
19	テキストの輪読②	卒論の相談、テキスト輪読
20	テキストの輪読③	卒論の相談、テキスト輪読
21	テキストの輪読④	卒論の相談、テキスト輪読
22	テキストの輪読⑤	卒論の相談、テキスト輪読
23	テキストの輪読⑥	卒論の相談、テキスト輪読
24	テキストの輪読⑦	卒論の相談、テキスト輪読
25	卒論の最終発表①	卒論の最終レジメの提出
26	テキストの輪読⑧	卒論の相談、テキスト輪読
27	卒論の仕上げ①	卒論の下書きの提出
28	卒論の仕上げ②	下書き原稿に基づく指導

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒論執筆が中心になるので、就職活動の期間中もきちんと準備を進めていくこと。

最初の授業時に、日程の確認を行うので、必ず出席すること。

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ロバート・B. ライシュ、清家篤訳『勝者の代償—ニューエコノミーの深淵と未来』東洋経済新報社、2002 年。

『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編、ミネルヴァ書房、2021年。
 その他は受講生と相談して決める。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容で100%評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで行うこともあるので、PCを用意していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The theme of the seminar is "Thinking about Globalization".

Based on the study of Seminar I and II, the goal is for students to write a Graduation thesis at the end of the year.

Seminars will be conducted by discussions on textbooks about globalization and presentations for each person's graduation thesis writing.

Grades will be evaluated based on a Graduation thesis.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習1・2・3 (卒業論文)

三井 さよ

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：金4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習は、ケアや支援への社会的なアプローチをテーマとする。ケアや支援が必要とされるような状況を社会問題として捉えかえし、そこでなされる相互行為と、取り巻く社会構造を読み解く。

【到達目標】

個々の学生が、具体的な課題に根ざしながら、医療や福祉などの個別領域にとどまるのではなく、社会全体を問いなおすものとして、自分なりにテーマを立てて力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、ケアや支援に関する社会的アプローチの基礎を学ぶため、基本的な文献を講読する。また、グループごとにひとつの社会問題を選んで情報を収集し、それについての考えをまとめるグループワークも行う。

秋学期は個人研究を中心とする。ケアや支援にかかわる具体的な題材やテーマを自ら選び、それについて情報を収集すると同時に、自らの考えをまとめる。ゼミ報告を経て、学期末にゼミ論にまとめる。ゼミ論には個別にコメントを付けて返却する。

授業内に適宜、障害当事者等の講演会を取り入れる。そのため、授業の予定には変更がありうる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	概要の説明
第2回	福祉機器体験	障害を持つことの疑似体験
第3回	グループワーク A①	街中バリア体験計画
第4回	グループワーク A②	街中バリア体験報告
第5回	文献報告①	文献講読と議論①
第6回	文献報告②	文献講読と議論②
第7回	文献報告③	文献講読と議論③
第8回	文献報告④	文献講読と議論④
第9回	文献報告⑤	文献講読と議論⑤
第10回	文献報告⑥	文献講読と議論⑥
第11回	グループワーク B①	全体テーマについて解説
第12回	グループワーク B②	班ごとに調べて報告①
第13回	グループワーク B③	班ごとに調べて報告②
第14回	まとめ	総括討論
第15回	自由報告に向けて	概要の説明
第16回	自由報告素案①	素案の報告①
第17回	自由報告素案②	素案の報告②
第18回	講演会①	当事者の講演①
第19回	講演会②	当事者の講演②
第20回	自由報告①	各自の報告と議論①
第21回	自由報告②	各自の報告と議論②
第22回	自由報告③	各自の報告と議論③
第23回	自由報告④	各自の報告と議論④
第24回	自由報告⑤	各自の報告と議論⑤
第25回	自由報告⑥	各自の報告と議論⑥
第26回	自由報告⑦	各自の報告と議論⑦
第27回	まとめ①	総合討論とゼミ論の形式チェック

第 28 回 まとめ②

ゼミ論の内容について各自へコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに沿った学習と、グループワークを要する。本授業の準備・予習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

課題（20%）、議論への参加（20%）、発表の内容（30%）、ゼミ論（30%）の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies. The end of this course, students are expected to grasp their own way of studying. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ARS200EB, ARS200EC, ARS200ED

演習 1

吉村 真子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題について、さまざまな観点から議論していくことを課題とします。アジア（東アジア、東南アジア、南アジア）の社会、経済、政治、文化などの問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを議論することを目的とします。

【到達目標】

一年間のゼミをとおして、文献報告や議論を進めていく中で、アジアに関する見方を深め、「自分のテーマ」を獲得することを演習 1 の目標とします。アジアに関心があって、「自分のテーマ」を持ちたい、やる気のある学生の参加を期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●春学期は、レジユメの書き方や時事問題を学んだ上で、テキスト報告と議論。秋学期はテーマを設定してグループ報告と議論をしていきます。また各自のゼミ論文の報告と執筆も進めていきます。また春学期・秋学期にはディベートも行います。

●2022 年度はすべて対面授業で実施しますので、注意してください。

●各回のレジユメや課題などは、適宜、報告前にも教員の助言を受け、ゼミでの報告の後にも教員の講評を行います。ゼミ論文についても、報告前に教員の助言を受け、ゼミ報告および提出後に、ゼミで教員から講評を行うなど、常にフィードバックを行う形で進めていきます。

※夏のゼミ合宿でチーム・プロジェクトとしてフィールドワークを実施します（実施は COVID-19 の状況によります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミのガイダンスとテキストなどの検討
第 2 回	アジアの時事問題	レジユメの書き方について
第 3 回	時事問題プレゼンテーション①	アジアの時事問題
第 4 回	時事問題プレゼンテーション②	新聞や雑誌からトピックを選択
第 5 回	時事問題プレゼンテーション③	レジユメを準備し、報告と議論
第 6 回	時事問題プレゼンテーション④	レジユメを準備し、報告と議論
第 7 回	アジアに関する学術論文	学術論文の検索など
第 8 回	テキスト報告と議論①	1 班の報告と議論
第 9 回	テキスト報告と議論②	2 班の報告と議論
第 10 回	テキスト報告と議論③	3 班の報告と議論
第 11 回	テキスト報告と議論④	4 班の報告と議論
第 12 回	ディベート①	学生が選んだテーマでディベート
第 13 回	ディベート②	残りのゼミ生は審査にあたる
第 14 回	夏休みの課題について	ゼミ論文のテーマやレジユメの準備、夏合宿のフィールドワークの打合せなど

第15回	秋学期の日程の打合せ とゼミ論文の準備	夏休みの課題など
第16回	テキスト報告と議論①	1班の報告
第17回	テキスト報告と議論②	2班の報告
第18回	テキスト報告と議論③	3班の報告
第19回	テキスト報告と議論④	4班の報告
第20回	時事問題	ドキュメンタリーを見て議論
第21回	ゼミ論文の報告①	各自、研究テーマを決めて、先行研究を調べる
第22回	ゼミ論文の報告②	各自、論文のテーマや章構成などレジュメを用意して報告
第23回	ゼミ論文の報告③	それぞれの報告について議論
第24回	ゼミ論文の報告④	全体の議論
第25回	ゼミ論文の報告⑤	報告と議論
第26回	ディベート①	ゼミ生のテーマでディベート
第27回	ディベート②	残りのゼミ生は審査
第28回	1年間の振り返りとゼミ論文の講評	ゼミの1年間の振り返りとゼミ論文の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外には、テキスト、参考資料、レジュメ準備などの勉強が必要となります。とくに報告やディベートは、個別の勉強に加えて、グループでの作業が求められます。またゼミ論文の執筆もあります。本授業の準備・復習時間として、毎週5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、アジアについて学べ、ゼミで議論を行えるような文献、もしくは学術論文を対象とし、ゼミの初回で議論して決めます。

【参考書】

参考書は、必要に応じて適時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の基準は、①ゼミの報告準備や発言・議論など(70%)、②ゼミ論文(30%)などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミにおける学生の自主的な運営と積極的な議論への参加を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでは連絡や報告資料・レジュメ・課題提出などで、学習支援システム Hoppii もしくは Google Classroom を使います。また 2022 年度はすべてのゼミを対面授業で実施します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class for the second-year students. This course is to study and to analyze Asian social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit a term-end thesis on Asian studies.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to proceed their own research and discussion on Asian studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for presentations and discussion each week as well as the term-end thesis. Your study time will be more than five hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to in-class contribution/participation (presentations, discussion, etc.) (70%) and the term-end thesis (30%).

ARS300EB, ARS300EC, ARS300ED

演習2

吉村 真子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題について、さまざまな観点から議論していくことを課題とします。アジア（東アジア、東南アジア、南アジア）の社会、経済、政治、文化などの問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを議論し、また各自の研究テーマを深めていくことを目的とします。

【到達目標】

演習2は、3年生のゼミとして、2年次の演習1での議論の中で得た知識と「自分の研究テーマ」を中心として、文献報告や議論を進めていく中で、アジアに関する見方を深めていくことを目標とします。また上級生としてゼミの2年生の指導も含めて、ゼミの運営と議論を主体的に進めていくことも課題となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●春学期は、レジュメの書き方や時事問題を学んだ上で、テキスト報告と議論。秋学期はテーマを設定してグループ報告と議論をします。また各自のゼミ論文の報告と執筆を進めます。また春学期・秋学期にはディベートも行います。

●2022年度はすべて対面授業での実施ですので、注意してください。

●各回のレジュメや課題などは、適宜、報告前にも教員の助言を受け、ゼミでの報告の後にも教員の講評を行います。ゼミ論文についても、報告前に教員の助言を受け、ゼミ報告および提出後に、ゼミで教員から講評を行うなど、常にフィードバックを行う形で進めていきます。

※夏のゼミ合宿でチーム・プロジェクトとしてフィールドワークを実施します（実施は COVID-19 の状況によります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミのガイダンスとテキストなどの検討
第2回	アジアの時事問題	レジュメの書き方について
第3回	時事問題プレゼンテーション①	アジアの時事問題
第4回	時事問題プレゼンテーション②	新聞や雑誌からトピック選択
第5回	時事問題プレゼンテーション③	レジュメ準備し、報告と議論
第6回	時事問題プレゼンテーション④	レジュメ準備し、報告と議論
第7回	アジアに関する学術論文	学術論文を検索・選択
第8回	テキスト報告と議論①	1班の報告と議論
第9回	テキスト報告と議論②	2班の報告と議論
第10回	テキスト報告と議論③	3班の報告と議論
第11回	テキスト報告と議論④	4班の報告と議論
第12回	ディベート①	学生が選んだテーマでディベート
第13回	ディベート②	残りのゼミ生は審査にあたる

第 14 回	夏休みの課題について	ゼミ論文のテーマやレジュメの準備、夏合宿のフィールドワークの打合せなど
第 15 回	秋学期の日程の打合せとゼミ論文の準備	夏休みの課題など
第 16 回	テキスト報告と議論①	1 班の報告
第 17 回	テキスト報告と議論②	2 班の報告
第 18 回	テキスト報告と議論③	3 班の報告
第 19 回	テキスト報告と議論④	4 班の報告
第 20 回	時事問題	ドキュメンタリーを見て議論
第 21 回	ゼミ論文の報告①	各自、研究テーマを決めて。先行研究を調べる
第 22 回	ゼミ論文の報告②	各自、論文のテーマや章構成などのレジュメを用意して報告
第 23 回	ゼミ論文の報告③	それぞれの報告について議論
第 24 回	ゼミ論文の報告④	全体の議論
第 25 回	ゼミ論文の報告⑤	報告と議論
第 26 回	ディベート①	ゼミ生のテーマでディベート
第 27 回	ディベート②	残りのゼミ生は審査
第 28 回	1 年間の振り返りとゼミ論文の講評	ゼミの 1 年間の振り返りとゼミ論文の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考資料、レジュメ準備など勉強が必要です。とくに報告やディベートは、個別の勉強に加えて、グループでの作業が求められます。またゼミ論文の執筆もあります。本授業の準備・復習時間については、毎週 5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、アジアについて学び、ゼミで議論ができる文献、もしくは学術論文を対象として、議論して決めます。

【参考書】

参考書は、必要に応じて適時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の基準は、①ゼミの報告準備や発言・議論など (70%)、②ゼミ論文 (30%) などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミにおける学生の自主的な運営と積極的な議論への参加を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでは連絡や報告資料・レジュメ・課題提出などで、学習支援システム Hoppii もしくは Google Classroom を使います。また 2022 年度はすべてのゼミを対面授業で実施します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class for the third-year students. This course is to study and to analyze Asian social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the term-end thesis.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to proceed their own research and to lead the in-class discussion on Asian studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for presentations and discussion each week as well as the term-end thesis. Your study time will be more than five hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to in-class contribution/participation (presentations, discussion, etc.) (70%) and the term-end thesis (30%).

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習 3（卒業論文）

吉村 真子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題について研究を進め、卒業論文の執筆と議論を中心にゼミを進めていきます。とくに自分自身の研究テーマに関連した学術文献や資料を読みこみ、議論を深め、論文の構成と議論を仕上げていくことが必要ですので、それぞれに卒業論文の研究と執筆には集中力をもってあたってほしいと思います。

【到達目標】

演習 1・2 の成果を活かし、問題関心を深く掘り下げ、きちんと分析し、論文を準備、執筆することを目的とします。とくに研究に向けて必要な学術書・論文や資料の読み取り方や議論の構成や分析の仕方、論文の書き方などを身につけ、じっくりと研究を進め、論文を執筆することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 本演習では、各自の卒業論文の研究テーマを掘り下げて、卒業論文の執筆を進めていきます。まず、論文のテーマと議論の流れを考えながら、論文の構成である章構成を立てていき、参考文献や資料にあたりながら、詳細なレジュメを作成していきます。
- 夏合宿では、卒業論文の中間報告として、詳細なレジュメの報告を行い、下級生も含めて、議論を行い、秋学期は、さらに内容を詰めていき、卒業論文の執筆を進めていきます。
- 毎回、ゼミの前にレジュメを作成・提出し、教員の助言を受けて、やり直し、ゼミでも他の学生との議論を経て、再度、教員の講評を受けるなど、常にフィードバックを受ける形で進めていきます。
- 2022 年度はすべてのゼミを対面授業で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	卒業論文の執筆に向けて
第 2 回	卒業論文のテーマ	論文のテーマについて
第 3 回	テーマと章構成 (1)	論文の視角について
第 4 回	テーマと章構成 (2)	論文の構成について
第 5 回	テーマと章構成 (3)	論文の章・節の構成について
第 6 回	トピック報告 (1)	研究テーマについて
第 7 回	トピック報告 (2)	参考文献について
第 8 回	トピック報告 (3)	各章の内容について
第 9 回	章構成の 2 次報告 (1)	章構成のレジュメの報告
第 10 回	章構成の 2 次報告 (2)	詳細なレジュメの作成
第 11 回	章構成の 2 次報告 (3)	各自の報告と議論
第 12 回	論文の書き方 (1)	論文の形式について
第 13 回	論文の書き方 (2)	引用注の付け方など
第 14 回	中間報告に向けて	夏合宿について 秋学期の打合せ
第 15 回	卒論中間報告の詳細レジュメ改訂	卒論中間報告の詳細レジュメの改訂作業について
第 16 回	トピック報告 (1)	論文のテーマについて
第 17 回	トピック報告 (2)	各章の内容について
第 18 回	詳細レジュメ (1)	全体の構成の再チェック
第 19 回	詳細レジュメ (2)	論文全体の議論

第20回	詳細レジュメ (3)	各章の内容
第21回	詳細レジュメ (4)	結論
第22回	詳細レジュメ (5)	まとめ
第23回	論文の執筆	参考文献・引用注の書き方など
第24回	執筆の進行 (1)	執筆を進めていく
第25回	執筆の進行 (2)	論文の形式と注意
第26回	卒論のドラフトチェックと提出に向けて	卒論ドラフト (原稿) チェックと提出に向けて
第27回	卒論の提出	最終的なまとめ
第28回	1年間の振り返り	ゼミの1年間の振り返りと論文の内容の講評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文は、ゼミでの報告の準備や執筆も含めて、自分で進める研究が多くなります。頑張りましょう。本授業の準備学習・復習時間として、毎週7時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

演習3の性格から、テキストは指定しません。

【参考書】

各自の卒業論文に合わせて、参考文献は適時、紹介します。それぞれの研究テーマにあわせて、自分で参考文献リストの作成とレビューを進めるとともに、必要に応じて参考文献や資料について助言します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①ゼミの報告準備・議論参加 (30%)、②卒業論文・口述試験 (70%) などから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の卒業論文への取り組みと積極的な議論参加に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでは連絡や報告資料・レジュメ・課題提出などで、学習支援システム Hoppii もしくは Google Classroom を使います。また 2022 年度はすべてのゼミを対面授業で実施します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class of the final-year students. This course is to study Asian/International social issues with presentations and discussion and to prepare for graduate dissertations. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit graduate dissertations.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to proceed their own research and to submit the graduate dissertations on Asian/International studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for presentations and discussion as a part of preparation for their graduate dissertations each week. Your study time will be more than seven hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) in-class contribution/participation (presentations, discussion, etc.) (30%) and (2) the graduate dissertations and the final oral examination (70%).

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

宇野 斉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期：テーマごとのグループで担当文献について発表し理解します。秋学期：個別のテーマごとに研究発表をします。年度末に論文としてまとめます。

【到達目標】

文献を適切に要約する技能と必要な内容をまとめ発表する技能とを修得します。論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループまたは個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末には各自の研究内容を論文としてまとめます。自己の研究のみならず、他のグループ、他のメンバーの研究への理解とコメントも必須です。他大学との共同研究発表や、そのための学外調査を行う場合があります。すべての発表はフィードバックとして相互評価を受けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	演習テーマと進行計画を学生と教員で確認します。
02	グループ分けと課題設定	各グループにメンバーを分けグループ別課題文献を決定します。
03	発表、質疑、議論 (01)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論 (02)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論 (03)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論 (04)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論 (05)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論 (06)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論 (07)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論 (08)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論 (09)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論 (10)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論 (11)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
14	グループのまとめと秋学期個別研究テーマ発表	グループ別にまとめを作成します。秋学期への夏休み中の個別課題を確認します。
15	個別の課題テーマの確認	各人の夏休み中の成果と個人研究の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論 (01)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論 (02)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論 (03)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論 (04)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論 (05)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論 (06)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論 (07)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論 (08)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。

24	発表、質疑、議論 (09)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論 (10)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
26	発表、質疑、議論 (11)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	発表、質疑、議論 (12)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
28	論文の整備	個人研究論文の形式を整備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布します。発表後、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布します。

合同ゼミ合宿や研究発表大会に向けてグループミーティングまたは個人での作業時間、場合によっては実地調査が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期は受講者グループごとに相談し教員が決定します。秋学期は使用しません。

【参考書】

グループまたは個別に、適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

基礎演習 I・II を履修していることが前提です（転編入学生は除く）。

秋学期末に個別研究成果を論文としてまとめます。

授業計画は、進行によって若干の変更があります。

対面で開講できない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

【Outline (in English)】

Spring semester: Participants understand by summarizing designated books, announcing them mutually and examining them.

Fall semester: Participants make research presentations sequentially. Participants create thesis at the end.

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習 2

宇野 斉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別のテーマごとに研究発表をします。年度末に論文としてまとめます。

【到達目標】

論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末には各自の研究内容を論文としてまとめます。自己の研究のみならず、メンバーの研究への理解とコメントも必須です。他大学との共同研究発表や、そのための学外調査を行う場合があります。すべての発表はフィードバックとして相互評価を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	個別研究テーマ候補案と進行計画を学生と教員で確認します。
02	今後の目標・テーマ発表	各自決定した研究テーマを発表し、研究の方向を確認します。
03	発表、質疑、議論 (01)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論 (02)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論 (03)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論 (04)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論 (05)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論 (06)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論 (07)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論 (08)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論 (09)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論 (10)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論 (11)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
14	春学期のまとめと秋学期への課題の確認	秋学期への夏休み中の課題を確認します。
15	個別成果と今後への確認	夏休み中の成果と研究の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論 (12)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論 (13)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論 (14)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論 (15)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論 (16)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論 (17)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論 (18)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論 (19)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
24	発表、質疑、議論 (20)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論 (21)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。

26	発表、質疑、議論 (22)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	論文の整備 (01)	個人研究論文の形式を整備します。
28	論文の整備 (02)	個人研究論文の形式を整備します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布します。発表後週週に、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布します。

合同ゼミ合宿や研究発表大会に向けてグループミーティングまたは個人での作業時間、場合によっては実地調査が必要です。本授業の準備学習・復習時間は1日平均1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

個別に適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

演習1を履修していることが前提です。演習1に引き続いての履修が望ましいです。

年度末に成果を個別に論文としてまとめます。

授業計画は、受講者の状況と進行の状況によって、若干の変更があります。対面で開講できない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

【Outline (in English)】

Participants make research presentations sequentially. Participants create thesis at the end. Participants will be expected an average of 1 hour of study per day. Grading will be decided based on in-class contribution.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

境 新一

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【春学期】

まず、研究テーマに関連する文献リスト作成、情報収集及び整理の仕方（図表の使い方を含む）、アイデア発想法、分析方法等を確認します。次に、社会学はか社会科学の分析枠組み、学生諸君は個人ごとに、実体験や新聞、雑誌、インターネットほか各種メディアを通して、(1)自分が関心・興味をもつ問題意識、テーマを選びます。(2)文献（洋書を含む）、Web-site 訪問などによる調査を通して、その情報収集を行います。(4)情報を整理し分析・考察を経て、卒業論文（論文、作品等）の執筆を始めます。

順番に卒業論文の中間発表・プレゼンテーション、質疑応答を実施します。

【秋学期】

卒業論文の中間発表・プレゼンテーション、質疑応答を実施します。学生&教員の議論を通して卒業論文の質・量を相互に高めます。最終的に卒業論文の完成を様々な角度から支援します。

【到達目標】

知的生産技術である、文献の要約力（文章構築力）や研究・調査等の発表力（説得・プレゼンテーション力）を身につけることができます。またフィールドワークの手法を活かした調査・企画立案により、社会で即戦力になる実力を養成することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末に各自研究内容をまとめ卒業論文を作成します。自己の研究のみならず、メンバーの研究への理解とコメントも必須です。すべての発表はフィードバックとして相互評価を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	学生と教員で受講者ごとの進行計画を確認します。
02	これまでの研究、今後の課題と展望	前年度までの研究内容のまとめと今後の目標・テーマ発表をします。
03	発表、質疑、議論 (01)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論 (02)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論 (03)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論 (04)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論 (05)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論 (06)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論 (07)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論 (08)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論 (09)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論 (10)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論 (11)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
14	春学期のまとめと秋学期への課題の確認	秋学期への夏休み中の課題を確認します。
15	卒業論文作成にむけての確認	夏休み中の成果と論文の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論 (12)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論 (13)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論 (14)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。

19	発表、質疑、議論 (15)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論 (16)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論 (17)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論 (18)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論 (19)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
24	発表、質疑、議論 (20)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論 (21)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
26	発表、質疑、議論 (22)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	卒業論文の整備	提出予定の卒業論文について形式と記述を整備します。
28	口頭試問の準備	口頭試問の準備をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布が必要です。発表後翌週に、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布が必要です。研究内容によっては実地調査が必要な場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

個別に適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

演習Ⅱを履修していることが前提です。

授業計画は、受講者の状況と進行の状況によって、若干の変更があります。対面で開講できない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

【Outline (in English)】

[Spring semester]

First, check the analysis framework of sociology and other social sciences, create a list of literature related to research themes, how to collect and organize information (including how to use charts), how to come up with ideas, and how to analyze.

Students choose their own interests and themes through actual experiences, newspapers, magazines, the Internet, and various other media. (2) Information will be collected through surveys such as literature (including foreign books) and website visits. (4) After organizing information, analyzing and considering it, start writing a graduation thesis (thesis, work, etc.).

In turn, we will hold an interim presentation / presentation of the graduation thesis and a question and answer session.

[fall term]

We will hold an interim presentation / presentation of the graduation thesis and a question and answer session. We will mutually improve the quality and quantity of graduation thesis through discussions between students and faculty members. Ultimately, we will support the completion of the bachelor thesis from various angles.

EDU200EB, EDU200EC, EDU200ED

演習 1

平塚 眞樹

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「子ども・若者が育つ環境を考える」をゼミのテーマとする。人の育ちは‘主体’と‘環境’の相互作用の結実との認識に立ち、フォーマルな教育（学校）に限らず、インフォーマル、ノンフォーマルな育ちの場にも目を向けて、子ども・若者の育ちと環境の関わりを、包括的に考える。ゼミでは、自分たちの育ちの過程をあとづけながら、同時に自分たちと異なる社会（国や地域）や時代、立場を生きている子ども・若者の育ちの環境に目を向け、人の育ちを支える環境のあり方を考える。

【到達目標】

人の育ちと環境の関わりについて幅広い視点と見識を養うこと。学びの「場」(Learning Community) づくりやフィールドワークへの参加を通して、グループワークやコミュニケーションに習熟すること。学びの表現・交流活動を通して、自己表現の形を身につけ、他者への批評に習熟すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、デジタル・ストーリーテリング等の手法を用いて、自分たちの育ちの環境をあとづけ表現する個人・グループ作業に取り組む。夏休みに、春学期中の作業経過を発表しあい、聴き合う。秋学期は、自分たちと異なる時代・社会・立場を生きている子ども・若者の育ちの環境に目を向け、インタビュー等のフィールドワークの手法を用いて、私たちの社会の課題を掘り下げる。取り組んだ内容は、「学部研究発表会」で報告するとともに、ゼミ論文として表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミのガイダンスを行うとともにゼミ参加者同士の自己紹介を行う
第2回	人の育ちと環境の関わりについて	人の育ちと環境の関わりについて文献から学ぶ
第3回	主体と環境の相互作用について	主体と環境の相互作用に関して文献から学ぶ
第4回	人の育ちと環境の関わりについて情報探索	人の育ちと環境の関わりを示唆するドキュメント、映像資料を探索する
第5回	人の育ちと環境の関わりを示唆する情報交流①	前回探索した情報を報告・交流しあう
第6回	人の育ちと環境の関わりを示唆する情報交流②	探索した情報を報告・交流しあう
第7回	自らの育ちの環境のふりかえりとデジタル・ストーリーテリングについて	今後実施する自らの育ちの環境のふりかえりの方法とデジタル・ストーリーテリングの手法について学ぶ
第8回	デジタル・ストーリーテリングの作品から学ぶ	デジタル・ストーリーテリングの作品から面白いものを探索する
第9回	デジタル・ストーリーテリングの作品紹介・交流	前回探索したデジタル・ストーリーテリングの作品を相互に紹介し批評・交流する
第10回	自らの育ちの環境をふりかえるワークショップ	ストーリーテリング・ワークショップを開催し。各自自らの育ちの環境をふりかえる
第11回	自らの育ちの環境をふりかえる	自らの育ちの環境のふりかえりを報告・交流する
第12回	自らの育ちの環境をふりかえるデジタル・ストーリーテリング	自らの育ちの環境をふりかえるデジタル・ストーリーテリングのプラン作成、ペア結成
第13回	自らの育ちの環境をふりかえるデジタル・ストーリーテリング	自らの育ちの環境をふりかえるデジタル・ストーリーテリングのプラン報告・交流・批評
第14回	夏休みの課題について	夏休みの課題を確認し、合宿（もしくは集中ゼミ）の内容を相談する
第15回	秋学期のゼミ活動について	秋学期の学習課題、進め方について協議する

第 16 回	自分たちと異なる社会、時代、立場を生きる子ども・若者の育ちと環境	自分たちと異なる社会、時代、立場を生きる子ども・若者の育ちと環境に関わる文献を探す
第 17 回	自分たちと異なる社会を生きる子ども・若者の育ちと環境	自分たちと異なる社会を生きる子ども・若者の育ちと環境に関わる文献を紹介し学ぶ
第 18 回	自分たちと異なる時代を生きる子ども・若者の育ちと環境	自分たちと異なる時代を生きる子ども・若者の育ちと環境に関わる文献を紹介し学ぶ
第 19 回	自分たちと異なる立場を生きる子ども・若者の育ちと環境	自分たちと異なる立場を生きる子ども・若者の育ちと環境に関わる文献を紹介し学ぶ
第 20 回	フィールドワークのグループ編成	自分たちと異なる社会、時代、立場を生きる子ども・若者の育ちと環境フィールドワークのグループ編成
第 21 回	フィールドワークのプラン作成	各グループでフィールドワークのプランを作成する
第 22 回	フィールドワークのプラン検討	作成したプランを報告し、コメントを得て、ブラッシュアップを図る
第 23 回	フィールドワークの実施(アプローチ)	フィールドワークに向けたアプローチを開始する
第 24 回	フィールドワークの実施(事前学習)	フィールドワークに向けた事前学習をおこなう
第 25 回	フィールドワークの実施(訪問・ヒアリング)	フィールドワークを実施する
第 26 回	フィールドワークのふりかえり、記録化	フィールドワークをふりかえり記録を作成する
第 27 回	フィールドワークの報告会	各グループのフィールドワークを報告・交流・批評する
第 28 回	ゼミ論文に向けて	1年間の学びをふりかえり、自らの問いを立ててゼミ論文を書く方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期、秋学期それぞれにグループワークの課題に取り組みするため、授業時間外に、自主的主体的にサブゼミ活動を実施する必要がある。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めがないが適宜教員が指定する

【参考書】

授業時に随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

日常のゼミ活動における報告・討議・フィールドワーク等への参加のあり方(平常点)と年度末のゼミ論文をもとに評価をおこなう。平常点：50 点、ゼミ論文：50 点

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は演習を担当していないため記載せず

【学生が準備すべき機器他】

ICT を活用したりサーチを行うため、パソコンを使用できる環境が必要になる

【Outline (in English)】

Course outline : The theme of the seminar is 'The environment in which children and young people grow up'. Based on the recognition that a person's upbringing is the result of the interaction between the 'subject' and the 'environment', we will consider the relationship between children and young people's upbringing and the environment in a comprehensive way, looking not only at formal education (schools) but also at informal and non-formal education. We will consider the relationship between the environment and the upbringing of children and young people holistically. In the seminar, while tracing the process of our own upbringing, we will also look at the children and young people who live in different societies (countries and regions), times and positions from our own.

Learning Objectives : Students are required to develop a broad perspective and insight into the relationship between human development and the environment, become proficient in group work and communication through the participation in a learning community and in fieldwork, and acquire self-expression and become proficient in critiquing others.

Learning activities outside of classroom : In order to work on group work assignments in each of the spring and autumn semesters, students are required to carry out proactive sub-seminar activities outside of class hours.

Your required study time is at least 2 hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy : Students are evaluated on participation in seminar activities such as reports, discussions and fieldwork and the final report at the end of the year. Evaluation will be made on the basis of ordinary points (approx. 50%) and the final report (approx. 50%).

POL200EB, POL200EC, POL200ED

演習 1・2

谷本 有美子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、人口減少期の都市自治体の政策課題を対象に、マルチステークホルダー・パートナーシップを通じた課題解決の可能性を、市民自治の理念から探求することを目的としています。主に東京圏の都市自治体における人口減少期の公共的な政策課題に着眼し、それらの課題解決に関わる企業・NPO・地域団体などの多様な主体と自治体との関係や、提供されている資源の現状を分析します。さらに民主的統制の側面からの検討も加えつつ、21 世紀における都市自治体のマルチステークホルダー・パートナーシップによる政策展開の可能性を実践的に検討していきます。

【到達目標】

- ・自治体の政策課題の基本的事項について、理解を深める
- ・チームによる政策検討の説明力、討議力、思考力を身につける
- ・プレゼンテーションスキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期前半は、指定した文献について担当を決め受講生が順次内容をレポートする形式で進めます。後半は、都市自治体における具体的な課題や実践事例を用いたグループディスカッションを行います。秋学期は、各々の卒論テーマに関連する自治体の政策課題について受講生による報告（問題提起）とそれに対するグループ討議を行っていきます。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックします。

なお、授業計画は受講生の関心に応じて、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー自治体と政策課題	自己紹介とゼミの進め方についての説明
第 2 回	21 世紀の自治体を取り巻く課題	人口減少期の自治体が抱える政策課題についての概要説明と討議
第 3 回	テキスト報告の担当決め	テキストの紹介と報告担当者の決定
第 4 回	テキストの輪読 (1)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 5 回	テキストの輪読 (2)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 6 回	テキストの輪読 (3)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 7 回	テキストの輪読 (4)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 8 回	テキストの輪読 (5)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 9 回	テキストの輪読 (6)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 10 回	テキストの輪読 (7)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 11 回	テキストの輪読 (8)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する

第 12 回	テキストの総括	テキストから学んだ自治体の政策課題と関連事項を検討する
第 13 回	研究テーマの抽出と検討 ーグループワーク	テキストの内容を中心に、秋学期の検討テーマを選択する
第 14 回	自治体調査の計画づくり	夏季休業中に予定する自治体調査の計画を立てる
第 15 回	自治体の政策課題の検討 (1) ーグループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 16 回	自治体の政策課題の検討 (2) ーグループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 17 回	自治体の政策課題の検討 (3) ーグループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 18 回	課題解決案の発表 (1)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 19 回	課題解決案の発表 (2)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 20 回	課題解決案の発表 (3)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 21 回	グループ研究のまとめ	グループが発表した内容をもとに政策の展開図を作成・俯瞰する
第 22 回	研究案の作成	卒論に予定するテーマについて、研究案を作成する
第 23 回	研究案の提示とディスカッション (1)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 24 回	研究案の提示とディスカッション (2)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 25 回	研究案の提示とディスカッション (3)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 26 回	研究案の提示とディスカッション (4)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 27 回	研究案の提示とディスカッション (5)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 28 回	ふりかえりと総括	次年度に向けた課題整理

-A. To understand basic matters of local government policy issues deeply

-B. To acquire the ability to explain, discuss, and think about policy studies by the team

-C. To acquire presentation skills

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to perform preparatory work instructed before class, such as making summary for text subscriptions, preparing for group work and presentations, and preparing for presentations on research themes. In addition, take notes on the content of the discussion, reflect on what was considered, and voluntarily organize the points of discussion.

Your overall grade will be decided based on the following

In-class presentation (40%), participation in discussions (30%), and graduation thesis plan (30%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
テキスト購読のレジュメ作成、グループワークと発表の事前準備、研究テーマの発表準備等、授業前に指示された準備作業を行う。
討議内容のメモを取り、検討したことの振り返りや論点整理等を自主的に行う。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

柴田直子・松井望『地方自治論入門』（ミネルヴァ書房）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の報告 40 %、討議への参加姿勢 30 %、卒論研究案の提出 30 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や個別研究課題に即して、補足説明や追加資料の配付等を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is from the aspect of the philosophy of citizens' self-government to explore the possibility of solving the policy issues of municipalities in the declining population term through multi-stakeholder partnerships.

Focusing on public policy issues during the declining population period, mainly in municipalities in the Tokyo metropolitan area, we'll analyze the resources provided to public problems by local governments and various actors, such as companies, NPOs and local organizations. In addition, we will consider the possibility of policy development through multi-stakeholder partnership at urban municipalities in the 21st century, while taking into account democratic control.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

POL400EB, POL400EC, POL400ED

演習3（卒業論文）

谷本 有美子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が設定したテーマに沿って多角的な視点を持って調査・研究を進め、卒業論文を執筆します。

【到達目標】

- ・卒業論文を完成する
- ・多角的な側面から事象を捉える思考性を身につける
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講生の調査研究や卒論構想等の報告を受けながら、その進捗に応じて卒業論文執筆までの指導を行います。受講生の報告については、学生間でも討議を行います。

発表やレポートに等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックします。

なお、授業計画については受講生の卒論執筆状況に応じ、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論テーマとスケジュールの設定	各自のテーマの設定と春学期に進める調査・研究の作用スケジュールを確認する
第2回	卒業論文の書き方	卒業論文の執筆に必要な基本事項（論文のルールや構成の組立方など）を学ぶ
第3回	各自の報告・討議(1)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第4回	各自の報告・討議(2)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第5回	各自の報告・討議(3)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第6回	各自の報告・討議(4)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第7回	各自の報告・討議(5)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第8回	各自の報告・討議(6)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第9回	各自の報告・討議(7)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第10回	各自の報告・討議(8)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第11回	各自の報告・討議(9)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第12回	各自の報告・討議(10)	割り当ての受講生が研究内容を報告し、全体で討議する
第13回	研究成果と卒論構想との検討	獲得した調査研究の内容と卒論構想を検討し、必要に応じ構想の修正を行う

第14回	夏季休暇中の作業事項の確認	夏季休暇中に行う卒論執筆作業の確認と全体で行う調査研究活動等について検討を行う
第15回	夏季休暇の作業について振り返りと秋学期スケジュールの確認	夏季休暇中の調査研究内容を整理し、秋学期の作業スケジュールを確認する
第16回	論文案の検討(1)	夏季休暇中に各自が執筆したパート(章)を基に論文の書き方を指導する
第17回	論文案の検討(2)	夏季休暇中に各自が執筆したパート(章)を基に論文の書き方を指導する
第18回	論文案の検討(3)	夏季休暇中に各自が執筆したパート(章)を基に論文の書き方を指導する
第19回	卒業論文の指導(1)	各自の進捗に応じ個別指導を行う
第20回	卒業論文の指導(2)	各自の進捗に応じ個別指導を行う
第21回	卒業論文の指導(3)	各自の進捗に応じ個別指導を行う
第22回	卒業論文の指導(4)	各自の進捗に応じ個別指導を行う
第23回	卒業論文の指導(5)	各自の進捗に応じ個別指導を行う
第24回	卒業論文の指導(6)	各自の進捗に応じ個別指導を行う
第25回	卒業論文の最終確認(1)	卒業論文案の推敲を行う
第26回	卒業論文の最終確認(2)	卒業論文案の推敲を行う
第27回	卒業論文の最終確認(3)	卒業論文案の推敲を行う
第28回	総括	演習で取り組んだ調査研究を振り返りつつ、各自の目標到達状況を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

卒論テーマに関する調査・研究を行う。

調査・研究報告の準備や教員から指示された準備作業等を行う。

討議内容についての振り返りや論点整理を自主的に行う。

【テキスト（教科書）】

論文執筆に際し、思考のトレーニングの観点から必要な文献を開講時に指示します。

【参考書】

各自の論文テーマ・内容に即した文献や論文を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の報告30%、討議への参加姿勢20%、卒業論文50%を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や卒論執筆状況に応じて、補足説明や追加資料の配付を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to research from multiple perspectives according to the theme set by each person, and write a graduation thesis.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To finish the graduation thesis

-B. To acquire thinking ability to recognize a social phenomenon from multiple aspects

-C. To acquire logical thinking ability

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to carry out research on graduation thesis themes, to prepare presentation, and the task instructed by faculty member. In addition, voluntarily review the content of the discussion and sort out the issues.

Your overall grade will be decided based on the following

In-class presentation (40%), participation in discussions (20%), and graduation thesis (50%).

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

演習 1

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス——とくに論理的な思考力・物事を判断する能力——を涵養します。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題（おもに社会保障・福祉、雇用・労働、生命倫理など）のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。

担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。

現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。

とりあえず春学期は、基本的なテキストを会読するとともに、いくつかの具体的な政策問題（基本文献・新聞記事・裁判例等）を中心に運営・討議したいと思っています。

秋学期以降は、参加者の興味・関心によって、各回で扱うテーマを決めていきたいと思っています。あわせて学部研究発表会も見据えて、共通テーマを検討する機会も探ります。

レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

なお定期的に、演習2との合同開催を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認、ゼミで学ぶことの確認
2	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目 (1)	文献の読解方法
3	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目 (2)	討議への参画方法
4	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目 (3)	文献の収集・分析方法
5	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目 (4)	統計・資料の収集・分析方法
6	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目 (5)	報告資料の作成方法
7	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目 (6)	レポート・論文の執筆方法
8	社会問題への政策対応 (1)	社会保障を中心とした問題群の検討
9	社会問題への政策対応 (2)	社会福祉・福祉国家を中心とした問題群の検討
10	社会問題への政策対応 (3)	雇用・労働を中心とした問題群の検討
11	社会問題への政策対応 (4)	生命倫理を中心とした問題群の検討
12	社会問題への政策対応 (5)	家族・企業を中心とした問題群の検討
13	社会問題への政策対応 (6)	小括、各報告へのフィードバック
14	論文執筆に向けて	論文執筆のテーマ報告と相互討議
15	学部研究発表会準備 (1)	発表テーマの検討・選定
16	社会問題の個別問題 (1)	第 1 グループの執筆論文の報告と討議
17	社会問題の個別問題 (2)	第 2 グループの執筆論文の報告と討議
18	社会問題の個別問題 (3)	第 3 グループの執筆論文の報告と討議
19	学部研究発表会準備 (2)	発表内容の検討
20	社会問題への具体的政策対応 (1)	第 1 グループの報告と討議
21	社会問題への具体的政策対応 (2)	第 1 グループの報告へのフィードバックとフォローアップ

22	社会問題への具体的政策対応 (3)	第 2 グループの報告と討議
23	学部研究発表会準備 (3)	発表内容の決定、リハーサル
24	学部研究発表会準備 (4)	発表内容の精査、最終リハーサル
25	社会問題への具体的政策対応 (4)	第 2 グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
26	社会問題への具体的政策対応 (5)	第 3 グループの報告と討議
27	社会問題への具体的政策対応 (6)	第 3 グループの最終へのフィードバックとフォローアップ
28	まとめと振り返り	総括、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の討議等に積極的に参加できるように確実に準備してくる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期は、基本的なテキストを選定するとともに（『変わる福祉社会の論点』が一応の候補）、具体的な裁判事例や政策問題に関する資料や文献を配布します。秋学期は、個々の報告が中心となります。

【参考書】

演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【その他の重要事項】

担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。

【Outline (in English)】

This seminar deals with social problems and social policies.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 80%、reports : 20%、

LAW300EB, LAW300EC, LAW300ED

演習 2

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続き、社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス——とくに論理的な思考力・物事を判断する能力——を涵養します。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題への政策対応領域のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。

担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。

演習 2 では個人単位での研究と、ゼミ共通テーマの検討を並行してお願いする予定です。

レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習 2 のガイダンス (1)	スケジュールの確認、演習 2 で学ぶことの確認
2	演習 2 のガイダンス (2)	演習 1 の提出論文へのフィードバック
3	演習 2 のガイダンス (3)	政策研究の基礎
4	共通文献の講読 (1)	社会保障関係の文献検討
5	共通文献の講読 (2)	社会福祉・福祉国家関係の文献検討
6	共通文献の講読 (3)	雇用・労働関係の文献検討
7	共通文献の講読 (4)	生命倫理・家族関係の文献検討
8	個人研究のガイダンス (1)	研究テーマの設定
9	個人研究のガイダンス (2)	研究方法の選定
10	個人研究のガイダンス (3)	報告資料作成の方法
11	個人研究構想報告 (1)	第 1 グループの構想報告と討議
12	個人研究構想報告 (2)	第 2 グループの構想報告と討議
13	個人研究構想報告 (3)	第 3 グループの構想報告と討議
14	個人研究構想報告 (4)	構想報告の総括、フィードバック
15	学部研究発表会準備 (1)	発表テーマの検討・選定
16	個人研究中間報告 (1)	第 1 グループの中間報告と討議
17	個人研究中間報告 (2)	第 1 グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
18	個人研究中間報告 (3)	第 2 グループの中間報告と討議
19	学部研究発表会準備 (2)	発表内容の検討
20	個人研究中間報告 (4)	第 2 グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
21	個人研究中間報告 (5)	第 3 グループの中間報告と討議
22	個人研究中間報告 (6)	第 3 グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
23	学部研究発表会準備 (3)	発表内容の確定・リハーサル
24	学部研究発表会準備 (4)	発表内容の精査・最終リハーサル
25	個人研究最終報告 (1)	第 1 グループの最終報告と討議
26	個人研究最終報告 (2)	第 2 グループの最終報告と討議
27	個人研究最終報告 (3)	第 3 グループの最終報告と討議
28	個人研究のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の討議等に積極的に参加できるように、確実に準備してくる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】

演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This seminar deals with social problems and social policies.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 80%、reports : 20%、

LAW400EB, LAW400EC, LAW400ED

演習3 (卒業論文)

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文を執筆します。研究計画を立てて、資料を集め、分析と考察を加えて、一篇の論文を完成させることで、演習 1~3 の、また大学生活の総決算として下さい。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

論文を執筆するための基本的な技法に関する指導を行います。テーマは各人が一年間かけて追求できるものであれば、どのような領域のものでも構いません。レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	演習 3 で学ぶことの確認、スケジュールの確認
2	卒論ガイダンス (1)	卒論テーマの選定
3	卒論ガイダンス (2)	研究方法の選定
4	卒論ガイダンス (3)	資料および統計の収集・分析の方法
5	卒論ガイダンス (4)	文献の収集・分析の方法
6	卒論ガイダンス (5)	論文執筆の進め方
7	卒論ガイダンス (6)	論文の細かい執筆技術
8	卒論構想報告 (1)	第 1 グループの執筆者ごとの構想報告
9	卒論構想報告 (2)	第 1 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
10	卒論構想報告 (3)	第 2 グループの執筆者ごとの構想報告
11	卒論構想報告 (4)	第 2 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
12	卒論構想報告 (5)	第 3 グループの執筆者ごとの構想報告
13	卒論構想報告 (6)	第 3 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
14	卒論構想報告 (7)	構想報告の総括、フィードバック
15	秋学期のガイダンス	本格的な執筆に向けた留意点、スケジュールの確認
16	卒論中間報告 (1)	第 1 グループの執筆者ごとの中間報告
17	卒論中間報告 (2)	第 1 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
18	卒論中間報告 (3)	第 2 グループの執筆者ごとの中間報告
19	卒論中間報告 (4)	第 2 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
20	卒論中間報告 (5)	第 3 グループの執筆者ごとの中間報告
21	卒論中間報告 (6)	第 3 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
22	卒論最終報告 (1)	第 1 グループの執筆者ごとの最終報告
23	卒論最終報告 (2)	第 1 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
24	卒論最終報告 (3)	第 2 グループの執筆者ごとの最終報告
25	卒論最終報告 (4)	第 2 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
26	卒論最終報告 (5)	第 3 グループの執筆者ごとの最終報告
27	卒論最終報告 (6)	第 3 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
28	卒論報告のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて、各およびゼミ生相互で研鑽に努める。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】

演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 (80%) とその他の参画 (他の卒論へのアドバイス等) (20%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This seminar deals with social problems and social policies.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. ★

Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 20%、in class contribution: 80% ★

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習3 (卒業論文)

渋谷 朋樹

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ゼミのテーマは「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」である。

【到達目標】

「財政学演習3」は、学部生活の最終局面として、ゼミのテーマ「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」の観点、あるいはこれまで関心を持ってきた財政学をめぐる問題から興味のある分野を取り上げて卒業論文を執筆することと、日本人として国際的に恥ずかしくない人格を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 令和4年度の「財政学演習3」は、まず各自卒業論文のテーマを決定し、続いて毎回卒業論文に関する報告を重ねていくこととする。全力で打ち込み、推敲をするうちに、次第に自信も出てくるものである。「財政学演習3」は人格形成とともに、学部の集大成ともいえる「卒業論文の執筆」を主軸にする。
2. 演習冒頭で前時間の出席票相当提出物に受講者が記載した内容等に担当者が回答する。また個別に質問・照会したいことがある場合は演習中に担当者がそれを提起したとき、あるいは演習終了後に時間を設けるので、受講者はその場で解決するようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1年間の演習計画説明	本年度の研究、ゼミ活動の説明
第2回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文の目次作成
第3回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文構成検討
第4回	I. 卒業論文執筆指導	就職活動経過報告
第5回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文執筆経過報告
第6回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文執筆経過報告討論
第7回	I. 卒業論文執筆指導	就職活動経過報告
第8回	II. 財政学基礎の確認	財政民主主義・財政学説史
第9回	II. 財政学基礎の確認	公債の意義と公債負担論
第10回	II. 財政学基礎の確認	日本の予算決算制度・市場の失敗
第11回	II. 財政学基礎の確認	社会保障財政・教育財政
第12回	II. 財政学基礎の確認	租税理論
第13回	II. 財政学基礎の確認	地方公営企業
第14回	II. 財政学基礎の確認	費用便益分析
第15回	III. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆進捗報告
第16回	III. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆進捗報告
第17回	III. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆報告
第18回	III. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆報告
第19回	IV. 卒論・修論経過報告	大学院生を交えての報告
第20回	IV. 卒論・修論経過報告	大学院生を交えての論評
第21回	V. 財政学の文献輪読	相続税 (遺産税的要素を加味した遺産取得税方式)
第22回	V. 財政学の文献輪読	相続税 (相続時精算課税制度)

第23回 VI. 卒業論文秋学期中 学部4年次の論文中間報告と論評
間報告

第24回 VI. 卒業論文秋学期中 学部4年次の論文中間報告と論評
間報告

第25回 III. 卒業論文経過報告 執筆論文全体の報告・再検討

第26回 III. 卒業論文経過報告 参考文献と論文の関係の再確認

第27回 III. 卒業論文経過報告 執筆論文全体の報告・討論

第28回 VII. 卒業論文最終報告 執筆論文の最終報告

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の卒論評価で指摘された修正点の修正と新たな論点の探究のために2時間以上の予習をすること。演習の後は、今回修正を指示された箇所についての文献収集と修正による論文の構成の均衡のために2時間以上の復習を求める。

【テキスト (教科書)】

佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の審査結果(70%)、および出席票記述事項(30%)で総合して、ゼミ活動への取り組み状況(100%)を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

積極的なゼミ活動を行い、ゼミ生相互の親交を深める。

【その他の重要事項】

1. 近年、日本の若者の生き方の問題点がさまざまな形で指摘されている。かつて本研究室に所属されていた法政大学史上最高齢のゼミ生(院生)持木邦子さんがいわれた「明日の日本を担うのは皆さん、若い人たちですよ」という意味をよく考え、礼儀を重んじる良識ある人間となりうるように、個人あるいは組織として活動する術をゼミ活動から学び取り、巣立ってほしい。
2. 就職活動があるため多摩での演習は不可能なため、一部市ヶ谷で大学院生と演習を行う。大学院生の修士論文執筆経過報告の姿勢、論文の指摘を自らの卒業論文執筆に役立ててほしい。

【Outline (in English)】

We learn knowledge of "the public finance" and will be a cooperative human being. The goals of this course are to complete a bachelor's thesis and achieve personal growth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Bachelor's thesis(70%), in class contribution(30%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：家族と社会を考える

テーマに関するゼミ学習を通じて、研究過程の基礎を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の諸領域について理解を深め、研究の手がかりをつかむとともに、研究に関連する基礎的な事柄を理解し、各課題に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、班単位による家族社会学の基礎文献の講読を通じて、家族社会学の主な研究領域について学びます。秋学期は、班単位で関心のあるテーマについて関連する文献を講読・発表しながら、そのテーマについて何が分かっているか、何が分からないのか、研究上の課題は何かを明らかにし、ゼミ論文にまとめることを目標とします。

授業は演習形式で、毎回、受講者の中から担当を決めて、文献の内容や、研究の進行状況について報告してもらい、議論する予定です。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行います。課題によって「演習2」の受講生も交え、議論の充実を図る予定です。授業計画は概ね以下を予定しています（ただし、授業の展開等によって、若干変更の可能性あり）。進め方の詳細は、初回授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
2	図書館ガイダンス	春学期課題における図書館活用法の説明
3	今「家族」に何が起きているのか	新聞記事等を用いた報告と議論
4	文献講読 (1)	報告と議論
5	文献講読 (2)	報告と議論
6	文献講読 (3)	報告と議論
7	文献講読 (4)	報告と議論
8	文献講読 (5)	報告と議論
9	文献講読 (6)	報告と議論
10	文献講読 (7)	報告と議論
11	文献講読 (8)	報告と議論
12	期末レポート（初稿）の検討 (1)	検討会
13	期末レポート（初稿）の検討 (2)	個別指導
14	春学期の総括	期末レポート（最終稿）の提出と夏休み課題の説明
15	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
16	図書館ガイダンス	秋学期課題における図書館活用法の説明
17	共同研究報告 (1)	報告と議論
18	共同研究報告 (2)	報告と議論
19	共同研究報告 (3)	報告と議論
20	共同研究報告 (4)	報告と議論
21	共同研究報告 (5)	報告と議論
22	共同研究報告 (6)	報告と議論
23	共同研究報告 (7)	報告と議論
24	共同研究報告 (8)	報告と議論
25	共同研究報告 (9)	報告と議論
26	ゼミ論文の書き方	ゼミ論文の執筆方法の説明
27	ゼミ論文（初稿）の検討	検討会
28	秋学期の総括	ゼミ論文（最終稿）の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読にあたっては、受講者全員が毎回必ず事前に文献を読み、要約とコメントをまとめた読書レポート（A4 一枚程度）を作成したうえで議論に参加する。報告者は、効果的な報告・議論が出来るよう準備する。各課題（個別・グループ別）の達成に必要な活動（文献の探索・収集・講読、執筆、関連する打合わせ等）への取組みが随時求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表、議論への参加・貢献等）60%、課題（ゼミ論文・レポート等）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

毎回出席し、議論に参加すること（一回以上発言すること）を原則とします。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to acquire an understanding of the processes of sociological research, especially on family issues. At the end of the course, students are expected to understand the subfields of family sociology and learn essential research skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class contribution: 60%, Assignments (presentations, reports): 40%.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：家族と社会を考える

テーマに関するゼミ学習を通じて、研究過程の基礎を学ぶ。

【到達目標】

各自の研究関心を深めるとともに、研究を企画する過程を理解し、卒業論文のテーマへと発展させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、各自の問題関心にもとづいて独自に調査・研究を行い、その成果をゼミ論文にまとめます。秋学期は、卒業論文を視野に入れつつ、問題関心を研究企画に発展させ、研究計画書の作成を行います。

授業は演習形式で、毎回、受講者の中から担当者を決めて、文献の内容や、研究の進行状況等について報告してもらい、議論する予定です。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行います。授業計画は概ね以下を予定しています（ただし、授業の展開等によって、若干変更の可能性あり）。進め方の詳細は、初回授業で説明します。

なお、担当教員の「演習1」未履修の受講生は、連続する時間帯に開講する「演習1」（2年）にも（単位にはなりません）部分的に出席することを義務とします。この点で、授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で受講するよう留意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
2	研究報告(1)	報告と議論
3	研究報告(2)	報告と議論
4	研究報告(3)	報告と議論
5	研究報告(4)	報告と議論
6	研究報告(5)	報告と議論
7	研究報告(6)	報告と議論
8	研究報告(7)	報告と議論
9	研究報告(8)	報告と議論
10	研究報告(9)	報告と議論
11	研究報告(10)	報告と議論
12	ゼミ論文（初稿）の検討(1)	検討会
13	ゼミ論文（初稿）の検討(2)	個別指導
14	春学期の総括	ゼミ論文（最終稿）の提出と夏休み課題の説明
15	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
16	研究報告(1)	報告と議論
17	研究報告(2)	報告と議論
18	研究報告(3)	報告と議論
19	研究報告(4)	報告と議論
20	研究報告(5)	報告と議論
21	研究報告(6)	報告と議論
22	研究報告(7)	報告と議論
23	研究報告(8)	報告と議論
24	研究報告(9)	報告と議論
25	研究報告(10)	報告と議論
26	研究計画書（初稿）の検討(1)	検討会
27	研究計画書（初稿）の検討(2)	個別指導
28	秋学期の総括	研究計画書（最終稿）の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各学期末にゼミ論文・研究計画書（各 A4×10 枚以上）を提出する。これに関連して、学期中、小課題が順次提示される。各期限を念頭に、計画的に文献を探索・収集し、読み進め、執筆することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表、議論への参加・貢献等）60%、課題（ゼミ論文・レポート等）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

毎回出席し、議論に参加すること（一回以上発言すること）を原則とします。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to acquire an understanding of the processes of sociological research, especially on family issues. At the end of the course, students are expected to understand the subfields of family sociology and learn essential research skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class contribution: 60%, Assignments (presentations, reports): 40%.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学部ゼミ学習の集大成として、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

演習1・2で学んだことを基礎として、各自の問題関心にもとづいて独自に調査・研究を行い、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自、自分の研究テーマについて研究を行い、その成果を卒業論文にまとめていく。授業は、卒業研究の各段階において課される課題の提出・報告・検討・個別指導を中心に進める。春学期は研究計画書の完成、夏休みは調査・資料収集と分析、秋学期は卒業論文の草稿の提出と検討を主な課題として進める予定である。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行う。授業の進め方の詳細は、初回授業で相談するので、履修予定者は必ず初回授業に参加すること(各自、演習2で作成した研究計画書を持参すること)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	卒業論文初回報告(1)	研究計画書についての報告と検討
3	卒業論文初回報告(2)	研究計画書についての報告と検討
4	卒業論文初回報告(3)	研究計画書についての報告と検討
5	卒業論文初回報告(4)	研究計画書についての報告と検討
6	卒業論文中間報告(1)	研究経過の報告と検討
7	卒業論文中間報告(2)	研究経過の報告と検討
8	卒業論文中間報告(3)	研究経過の報告と検討
9	卒業論文中間報告(4)	研究経過の報告と検討
10	卒業論文第2回中間報告(1)	研究経過の報告と検討
11	卒業論文第2回中間報告(2)	研究経過の報告と検討
12	卒業論文第2回中間報告(3)	研究経過の報告と検討
13	卒業論文第2回中間報告(4)	研究経過の報告と検討
14	春学期の総括	春学期の成果の検討と今後のスケジュールの確認
15	卒業論文第3回中間報告(1)	研究経過の報告と検討
16	卒業論文第3回中間報告(2)	研究経過の報告と検討
17	卒業論文第3回中間報告(3)	研究経過の報告と検討
18	卒業論文第3回中間報告(4)	研究経過の報告と検討
19	卒業論文第4回中間報告(1)	研究経過の報告と検討
20	卒業論文第4回中間報告(2)	研究経過の報告と検討
21	卒業論文第4回中間報告(3)	研究経過の報告と検討
22	卒業論文第4回中間報告(4)	研究経過の報告と検討
23	卒業論文最終報告(1)	原稿の検討
24	卒業論文最終報告(2)	原稿の検討
25	卒業論文最終報告(3)	原稿の検討
26	卒業論文最終報告(4)	原稿の検討
27	卒業論文発表会について	発表方法の説明と準備
28	卒業論文発表会	卒業論文の発表と相互討論

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自、各課題および卒業論文の完成に向けて、計画的に文献探索・収集、読書、調査、執筆等をすすめることが求められる。本授業の事前学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特になし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

卒業論文70%、ゼミへの参加(報告、議論への貢献等)30%。(ただし、卒業論文の提出は、ゼミ参加を前提条件とする)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

卒業論文執筆のためのゼミであるため、執筆予定者以外は履修しないこと。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to write graduation thesis. At the end of the course, students are expected to complete graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Graduation thesis: 70%, Class participation and contribution: 30%.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

小林 直毅

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディア表象としての現代社会を読み解く」が、この演習のテーマです。とくに今年度は、まず春学期に、現代における「メディアとは何か」を問う根本的で基礎的な考察から始めます。その上で、秋学期には、映像と証言としてのテレビドキュメンタリー・アーカイブによって近現代社会の何が、どのように記録され、どのような記憶が形成されようとしているのかを考えていきます。

【到達目標】

メディア研究は、どのようなメディアで、何が顕著に描かれ、語られ、記憶として共有されるのか、逆に、何が描かれず、語られず、忘却されていくのかを問うことから出発します。そこから、メディアで描かれ、語られ、記憶されている出来事の特徴を、現代史や現代社会の在り様として解明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はテキストクリティークを中心に進めます。秋学期は研究成果を共同研究発表に集約していく作業が中心になります。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	問題関心の共有
第 2 回	問題構成	課題の見取り図を作る
第 3 回	テーマ概説	テキストと関連文献の概説
第 4 回	メディアと〈心の装置〉	春学期テキストの第 1 章の報告と討論
第 5 回	〈テクノロジーの文字〉と〈技術的無意識〉	春学期テキストの第 2 章の報告と討論。
第 6 回	現代資本主義と文化産業	春学期テキストの第 3 章の報告と討論
第 7 回	中間総括	技術と制度としてのメディアを考える
第 8 回	メディアの〈デジタル転回〉	春学期テキストの第 4 章の報告と討論
第 9 回	「注意力の経済」と「精神のエコロジ」	春学期テキストの第 5 章の報告と討論
第 10 回	メディア再帰社会のために	春学期テキストの第 6 章の報告と討論
第 11 回	総括討論	これまでのテキスト・クリティークの総括
第 12 回	現代社会とメディア	デジタル技術で何ができるのかを考える
第 13 回	共同研究に向けた討論	共同研究のテーマを考える
第 14 回	共同研究のラフデザイン	共同研究の計画の検討
第 15 回	近現代社会のメディア表象	共同研究と秋学期に向けたオリエンテーション
第 16 回	「戦後」が終わる前に	秋学期テキストの序章の報告と討論
第 17 回	膨大な「戦争番組」への問い	秋学期テキストの第 1 章前半の報告と討論
第 18 回	戦争を「語る言葉」を考える	秋学期テキストの第 1 章後半の報告と討論
第 19 回	1970 年代における戦争の記録	秋学期テキストの第 2 章前半の報告と討論
第 20 回	「無垢」と「無知」	秋学期テキストの第 2 章後半の報告と討論
第 21 回	共同研究の中間報告	共同研究の進捗状況と課題の検討
第 22 回	「敗者は映像を持たない」	秋学期テキストの第 3 章前半の報告と討論
第 23 回	「記録と記憶」としての映像の断片	秋学期テキストの第 3 章後半の報告と討論
第 24 回	記憶を語り継ぐこととその課題	秋学期テキストの第 4 章前半の報告と討論
第 25 回	証言とアーカイブ	秋学期テキストの第 4 章後半の報告と討論
第 26 回	「戦後」への問い	秋学期テキストの終章の報告と討論
第 27 回	共同研究の取りまとめ	分担した研究成果の集約と検討

第 28 回 共同研究発表の総括 共同研究の評価と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読んで出席することは必須です。積極的な発言、討論への参加を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期：石田英敬（2016）『大人のためのメディア論講義』ちくま新書。
秋学期：水島久光（2020）『戦争をいかに語り継ぐか——「映像」と「証言」から考える戦後史——』NHK ブックス

【参考書】

年度初めに、「参考文献リスト」を配布します。

【成績評価の方法と基準】

分担報告 25 %、討論への参加の度合い 25 %、学年末のゼミ論文 50 % によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will be able to understand contemporary society as media representation.

Learning objectives:

The goal of this course is to be able to illuminate the characteristics of events represented in the media as modern history and the state of modern society.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Sharing report: 25%. Participation in discussion: 25%, Term-end report: 50%.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2・3 (卒業論文)

小林 直毅

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「メディア表象としての現代社会を読み解く」が、この演習のテーマです。粗雑な言葉と論理を振り回したり、狭苦しい世界に引きこもったりする「メディア論」から脱却して、描かれ、語られた出来事を繊細かつ緻密に読み解くことを目指します。その上で、現代社会が選んで通ることのできない重要な出来事の記憶を、時間的空間的な広がりのもとで再構成していきます。

【到達目標】

現代社会を特徴づける出来事、何が、どのように顕著に描かれ、語られ、記憶が共有されるのか、逆に、何が描かれず、語られず、忘却されていくのかを問うことから研究を出発します。そこから、描かれ、語られ、記憶されている出来事の特徴と、逆に、描かれず、語られず、忘却されている出来事の特徴を現代史や現代社会の在り様として解明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はテキストクリティークを中心に進めます。秋学期はフィールドワークによる研究成果を共同研究発表に集約していく作業が中心になります。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題関心の共有
第2回	問題構成	課題の見取り図を作る
第3回	テーマ概説	テキストと関連文献の概説
第4回	野蛮な西洋文明	春学期テキストの第1章の報告と討論
第5回	すれちがいが、集まる眼差し	春学期テキストの第2章の報告と討論
第6回	水俣から流浪の風景へ	春学期テキストの第3章の報告と討論
第7回	「天然の美」という音楽を追って	春学期テキストの第4章の報告と討論
第8回	フィールドワークの準備(1)	フィールドワークのラフデザインの検討
第9回	演歌の源流	春学期テキストの第5章の報告と討論
第10回	大衆文化の肉體	春学期テキストの第6章の報告と討論
第11回	亡命ロシア人の東アジア	春学期テキストの第7章の報告と討論
第12回	インディ・ジョーンズとバンスキング	春学期テキストの第8章の報告と討論
第13回	映画と想像力	春学期テキストの第9章の報告と討論
第14回	フィールドワークの準備(2)	フィールドワークの計画の検討
第15回	共同研究のテーマ設定	フィールドワークの結果の確認と共同研究の準備
第16回	誰が語るのか	秋学期テキストの序章の報告と討論
第17回	批判的想像力の危機	秋学期テキストの第1章の報告と討論
第18回	東アジアにおける歴史をめぐる戦い	秋学期テキストの第2章の報告と討論
第19回	不穏な墓標／「悼み」の政治学と「対抗」記念碑	秋学期テキストの第3章の報告と討論
第20回	新たな市場に出荷された古い偏見	秋学期テキストの第4章の報告と討論
第21回	無害な君主制として天皇制は生き延びられるか	秋学期テキストの第5章の報告と討論
第22回	現代日本における移民と市民権	秋学期テキストの第6章の報告と討論
第23回	平和への準備のために	秋学期テキストの第7章の報告と討論
第24回	グローバルな記憶・ナショナルな記述	秋学期テキストの第8章の報告と討論
第25回	文化・多様性・デモクラシー	秋学期テキストの第9章の報告と討論
第26回	共同研究の分担報告2	分担した研究成果の報告と検討
第27回	共同研究の取りまとめ	分担した研究成果の集約と検討
第28回	共同研究発表の総括	共同研究発表の評価と反省

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を読んで出席することは必須です。積極的な発言、討論への参加を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

春学期：姜信子 (2002) 『安住しない私たちの文化——東アジア流浪——』晶文社

秋学期：テッサ・モーリス＝スズキ (2013) 『批判的想像力のために——グローバル化時代の日本——』平凡社ライブラリー

【参考書】

年度初めに、「参考文献リスト」を配布します。

【成績評価の方法と基準】

分担報告 25%、討論への参加の度合い 25%、学年末のゼミ論文 50%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will be able to understand contemporary society as media representation.

Learning objectives:

The goal of this course is to break away from the narrow media theory and to delicately and precisely illuminate the characteristics of the events represented in the media as the state of modern history and modern society.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Sharing report: 25%. Participation in discussion: 25%, Term-end report: 50%.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

鈴木 宗徳

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代における批判的社会理論の可能性

【到達目標】

社会理論を精密に読解する力を養うとともに、現代の社会問題および社会変動を説明し批判する上でどのような理論枠組みが必要かについて、考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

担当教員の専門はドイツを中心とする社会学理論で、ゼミでも社会科学の主要な理論的著作の輪読をおこなう。ただし「理論のための理論」を探求することが目的ではなく、あくまで、われわれが直面する社会問題や社会変動を説明する枠組みとしてどのような理論が要請されているかを考えながら、それぞれの理論の可能性と限界について検討したい。

春学期はテキスト講読が中心となる。夏休みは研修旅行（フィールドワーク）を行ない、秋学期に各自が成果を報告書にまとめるとともに、学部研究発表会で発表を行なう。2011 年は静岡県御前崎市の浜岡原発周辺を訪ね、反対運動家や市議会議員をはじめ地域の様々なアクターに話を伺った。2012 年は被災地の復興を視察するため宮城県石巻市を訪ね、市議会議員、漁協、病院等に話を伺った。2013 年は、大阪市釜ヶ崎の高齢の日雇労働者が集住する地域を訪ね、ホームレス支援、子どもの支援、高齢者への仕事の斡旋を行う NPO 等で話を伺った。2 年間の在外研究をはさみ、2016 年は大阪市と京都市を訪ね、ヘイトスピーチ問題に取り組む在日朝鮮人の団体やジャーナリストらに話を伺った。2017 年度は福島県福島市や郡山市を訪ね、原発事故被害への補償や被ばくの不安の問題にとり組む被害者団体や母親たちのグループ、農業団体等で話を伺った。2018 年度は静岡県浜松市の日系ブラジル人労働者が集住する地域を訪ね、多文化共生政策や日本語学習支援の担当者、ブラジル人学校や保育園で話を伺った。2019 年度は日雇労働者が多かった横浜市寿町で、医療、ホームレス支援、就労支援に携わる方々に話を伺った。2020 年度は朝鮮学校をとりまく情勢と自治体による多文化共生施策について、横浜と川崎で話を伺った。2021 年度は、失踪者が多発する技能実習生問題について、送り出し（ベトナム）と受け入れ双方の担当者や支援団体・労働組合で話を伺った

今年度のテーマは、三月に決めて演習説明会で発表する。

秋学期は、二冊目のテキスト講読と並行して、個人研究報告を行なってもらう。個人研究は教員と相談しながら進めてもらうが、どのようなテーマを選ぶかは（そのテーマについて指導できるより適切なゼミがほかにある場合を除いて）基本的に自由である。

「演習 1」（2 年）と「演習 2・3」（3・4 年）を連続する時間帯に設定し、もう一方のゼミにも（単位にはならないが）出席することを義務とする（毎週 100 分×2 コマの出席）。議論が充実するため、ゼミ生には好評である。授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で、希望票を提出してほしい。演習説明会に出席することを、希望票を提出する要件とする。

提出物については、週週の演習もしくはメールを使ってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
あり / Yes**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	自己紹介など
第 2 回	ガイダンス (2)	研究の進め方について
第 3 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 4 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 5 回	テキスト講読 (1)	並行して研修旅行の準備 (1)
第 6 回	テキスト講読 (2)	並行して研修旅行の準備 (2)
第 7 回	テキスト講読 (3)	並行して研修旅行の準備 (3)
第 8 回	テキスト講読 (4)	並行して研修旅行の準備 (4)
第 9 回	テキスト講読 (5)	並行して研修旅行の準備 (5)
第 10 回	秋学期の研究計画の発表	2・4 年生による
第 11 回	テキスト講読 (6)	並行して研修旅行の準備 (6)
第 12 回	テキスト講読 (7)	並行して研修旅行の準備 (7)
第 13 回	テキスト講読 (8)	並行して研修旅行の準備 (8)
第 14 回	テキスト講読 (9)	並行して研修旅行の準備 (9)
第 15 回	テキスト講読 (1)	並行して 2 年生の研究報告 (1)
第 16 回	テキスト講読 (2)	並行して 2 年生の研究報告 (2)
第 17 回	テキスト講読 (3)	並行して 2 年生の研究報告 (3)
第 18 回	テキスト講読 (4)	並行して 2 年生の研究報告 (4)
第 19 回	2 年生の研究報告 (5)	並行して学部研究発表会の準備 (1)
第 20 回	2 年生の研究報告 (6)	並行して学部研究発表会の準備 (2)
第 21 回	4 年生の研究報告 (1)	並行して学部研究発表会の準備 (3)
第 22 回	4 年生の研究報告 (2)	並行して学部研究発表会の準備 (4)
第 23 回	4 年生の研究報告 (3)	並行して学部研究発表会の準備 (5)
第 24 回	4 年生の研究報告 (4)	並行して学部研究発表会の準備 (6)
第 25 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 26 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 27 回	テキスト講読	(5) (6)
第 28 回	テキスト講読	(7) (8)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

素晴らしいレジュメを作ることに全力を注いでほしい。また、時間割が許すならば、鈴木が担当する「公共性と民主主義Ⅰ・Ⅱ」を履修すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストは、5 冊程度の候補を三月の演習説明会で発表し、参加者と相談した上で第一回目のゼミで決める。

これまでも毎年 2~3 冊ずつ、ラトウール『虚構の「近代」』、ホックシールド『管理される心』、アーレント『全体主義の起源 3』、ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』、バウマン『コミュニティ』、ファンオン『黒い皮膚・白い仮面』、石田勇治『過去の克服』、アンダーソン『想像の共同体』、ブルデュー『ディスタンクシオン』、ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、ドゥルーズ『差異と反復』、フロム『自由からの逃走』、フーコー『生政治・統治』などを、講読してきた。

【参考書】必要な参考書は、授業内で適宜指示する。履修希望者は、担当教員が執筆した論文を **DropBox** からダウンロードし (<http://ur0.link/sZeb>)、選考までに必ず一つ以上読んでおくこと。**【成績評価の方法と基準】**

レジュメと口頭発表の内容 (30%)、議論への参加姿勢 (30%)、ゼミ論文 (40%)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること (munenori@hosei.ac.jp)。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This seminar explores the contemporary potential of critical social theories.

Learning Activities outside of Classroom

Students will be expected to put all effort into creating a great resume. Students should also take "Democracy and the Public Sphere I, II" taught by the same lecturer if the timetable permits. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the seminar content.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on resume and oral presentation(30%), in-class participation(30%), final paper(40%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2・3 (卒業論文)

鈴木 宗徳

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代における批判的社会理論の可能性

【到達目標】

社会理論を精密に読解する力を養うとともに、現代の社会問題および社会変動を説明し批判する上でどのような理論枠組みが必要かについて、考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員の専門はドイツを中心とする社会学理論で、ゼミでも社会科学の主要な理論的著作の輪読をおこなう。ただし「理論のための理論」を探求することが目的ではなく、あくまで、われわれが直面する社会問題や社会変動を説明する枠組みとしてどのような理論が要請されているかを考えながら、それぞれの理論の可能性と限界について検討したい。

春学期はテキスト講読が中心となる。夏休みは研修旅行(フィールドワーク)を行ない、秋学期に各自が成果を報告書にまとめるとともに、学部研究発表会で発表を行なう。2011年は静岡県御前崎市の浜岡原発周辺を訪ね、反対運動家や市議会議員をはじめ地域の様々なアクターに話を伺った。2012年は被災地の復興を視察するため宮城県石巻市を訪ね、市議会議員、漁協、病院等に話を伺った。2013年は、大阪市釜ヶ崎の高齢の日雇労働者が集住する地域を訪ね、ホームレス支援、子どもの支援、高齢者への仕事の斡旋を行うNPO等で話を伺った。2年間の在外研究をはさみ、2016年は大阪市と京都市を訪ね、ヘイトスピーチ問題に取り組む在日朝鮮人の団体やジャーナリストらに話を伺った。2017年度は福島県福島市や郡山市を訪ね、原発事故被害への補償や被ばくの不安の問題にとり組む被害者団体や母親たちのグループ、農業団体等で話を伺った。2018年度は静岡県浜松市の日系ブラジル人労働者が集住する地域を訪ね、多文化共生政策や日本語学習支援の担当者、ブラジル人学校や保育園で話を伺った。2019年度は日雇労働者が多かった横浜市寿町で、医療、ホームレス支援、就労支援に携わる方々に話を伺った。2020年度は朝鮮学校をとりまく情勢と自治体による多文化共生施策について、横浜と川崎で話を伺った。2021年度は、失踪者が多発する技能実習生問題について、送り出し(ベトナム)と受け入れ双方の担当者や支援団体・労働組合で話を伺った

今年度のテーマは、三月に決めて演習説明会で発表する。

秋学期は、二冊目のテキスト講読と並行して、個人研究報告を行なってもらう。個人研究は教員と相談しながら進めてもらうが、どのようなテーマを選ぶかは(そのテーマについて指導できるより適切なゼミがほかにある場合を除いて)基本的に自由である。

「演習1」(2年)と「演習2・3」(3・4年)を連続する時間帯に設定し、もう一方のゼミにも(単位にはならないが)出席することを義務とする(毎週100分×2コマの出席)。議論が充実するため、ゼミ生には好評である。授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で、希望票を提出してほしい。演習説明会に出席することを、希望票を提出する要件とする。

提出物については、翌週の演習もしくはメールを使ってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	自己紹介など
第 2 回	ガイダンス (2)	研究の進め方について
第 3 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 4 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 5 回	テキスト講読 (1)	並行して研修旅行の準備 (1)
第 6 回	テキスト講読 (2)	並行して研修旅行の準備 (2)
第 7 回	テキスト講読 (3)	並行して研修旅行の準備 (3)
第 8 回	テキスト講読 (4)	並行して研修旅行の準備 (4)
第 9 回	テキスト講読 (5)	並行して研修旅行の準備 (5)
第 10 回	秋学期の研究計画の発表	2・4 年生による
第 11 回	テキスト講読 (6)	並行して研修旅行の準備 (6)
第 12 回	テキスト講読 (7)	並行して研修旅行の準備 (7)
第 13 回	テキスト講読 (8)	並行して研修旅行の準備 (8)
第 14 回	テキスト講読 (9)	並行して研修旅行の準備 (9)
第 15 回	テキスト講読 (1)	並行して 2 年生の研究報告 (1)
第 16 回	テキスト講読 (2)	並行して 2 年生の研究報告 (2)
第 17 回	テキスト講読 (3)	並行して 2 年生の研究報告 (3)
第 18 回	テキスト講読 (4)	並行して 2 年生の研究報告 (4)
第 19 回	2 年生の研究報告 (5)	並行して学部研究発表会の準備 (1)
第 20 回	2 年生の研究報告 (6)	並行して学部研究発表会の準備 (2)
第 21 回	4 年生の研究報告 (1)	並行して学部研究発表会の準備 (3)
第 22 回	4 年生の研究報告 (2)	並行して学部研究発表会の準備 (4)
第 23 回	4 年生の研究報告 (3)	並行して学部研究発表会の準備 (5)
第 24 回	4 年生の研究報告 (4)	並行して学部研究発表会の準備 (6)
第 25 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 26 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 27 回	テキスト講読	(1) (2)
第 28 回	テキスト講読	(3) (4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

素晴らしいレジメを作ることに全力を注いでほしい。また、時間割が許すならば、鈴木が担当する「公共性と民主主義 1・2」を履修すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストは、5 冊程度の候補を三月の演習説明会で発表し、参加者と相談した上で第一回目のゼミで決める。

これまでも毎年 2~3 冊ずつ、ラトゥール『虚構の「近代」』、ホックシールド『管理される心』、アーレント『全体主義の起源 3』、ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』、バウマン『コミュニティ』、ファノン『黒い皮膚・白い仮面』、石田勇治『過去の克服』、アンダーソン『想像の共同体』、ブルデュー『ディスタンクシオン』、ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、ドゥルーズ『差異と反復』、フロム『自由からの逃走』、フーコー『生政治・統治』などを、講読してきた。

【参考書】

必要な参考書は、授業内で適宜指示する。履修希望者は、担当教員が執筆した論文を DropBox からダウンロードし (<http://ur0.link/sZeb>)、選考までに必ず一つ以上読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

レジメと口頭発表の内容 (30%)、議論への参加姿勢 (30%)、ゼミ論文 (40%)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること (munenori@hosei.ac.jp)。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This seminar explores the contemporary potential of critical social theories.

Learning Activities outside of Classroom

Students will be expected to put all effort into creating a great resume. Students should also take "Democracy and the Public Sphere I, II" taught by the same lecturer if the timetable permits. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the seminar content.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on resume and oral presentation(30%), in-class participation(30%), final paper(40%).

FRI200EB, FRI200EC, FRI200ED

演習 1

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「デジタルメディアの実践的研究」です。調査プロジェクトでは、指定されたテーマに関するデザインリサーチを行い、新しいサービス、アプリのプロトタイプ制作を行います。制作プロジェクトでは、Processing、Unity、TouchDesigner などを使って、インタラクティブ作品の制作に取り組みます。また、並行して、メディア研究の重要文献輪読も行います。

【到達目標】

上記の活動を通じて、デジタルメディア環境を前提にした企画力を身につけることが目標です。また、日々の制作活動を通じて、プログラミングやデザインの実践に取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

調査プロジェクト：指定された調査テーマで、ゼミ生自身を対象にした各種のユーザー調査を行い、その知見に基づいてプロトタイプを制作します。
制作プロジェクト：春学期の序盤でプロジェクトの企画立案を行い、春学期中盤には制作物のイメージと開発環境を確定します。春学期終盤から制作に入り、年度末までひとつの作品制作に取り組みます。
・課題についてのフィードバックはゼミの内外で個別で行います。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方について
2	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 プロジェクトテーマ領域の解説
3	調査プロジェクト 制作プロジェクト	調査テーマ発表 テーマ領域の事例検討
4	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 テーマ領域の事例検討
5	調査プロジェクト 制作プロジェクト	行動文脈調査 制作チーム発足
6	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 「哲学」の設定
7	調査プロジェクト 制作プロジェクト	行動文脈調査の分析 「ビジョン」の設定
8	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 先行事例の検討
9	調査プロジェクト 制作プロジェクト	インタビュー調査の企画 先行事例の検討
10	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 プロトタイピングと開発環境の検討
11	調査プロジェクト 制作プロジェクト	インタビュー調査の実施 プロトタイピングと開発環境の検討
12	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 制作企画案のプレゼン
13	調査プロジェクト 制作プロジェクト	インタビュー調査の実施 基本機能の開発
14	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 基本機能の開発
15	ガイダンス	秋学期の進め方について
16	調査プロジェクト 制作プロジェクト	インタビュー調査の分析 制作進捗報告とグループ作業
17	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 制作進捗報告とグループ作業
18	調査プロジェクト 制作プロジェクト	インタビュー調査の分析 制作進捗報告とグループ作業
19	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 制作進捗報告とグループ作業
20	調査プロジェクト 制作プロジェクト	行動観察調査 制作進捗報告とグループ作業
21	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献輪読 制作進捗報告とグループ作業
22	試作版完成報告 学部研究発表会準備	制作物の試作版プレゼン 学部研究発表会準備

23	調査プロジェクト 制作プロジェクト	行動観察調査の分析 修正作業進捗報告
24	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告
25	調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロトタイプ制作 修正作業進捗報告
26	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告
27	調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロトタイプ制作 修正作業進捗報告
28	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

制作活動は課外の時間に行います。また、文献のレジュメ作成なども課外の時間に行います。さらに、土日その他を使って、外部講師による技術講習、企業とのワークショップなどが行われることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ドミニク・チェン、2015、『脳のレギオービッグデータ社会で心をつくる』NTT 出版

【参考書】

必要に応じて具体的に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加（40 %）、プロジェクトの評価（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンが必須となります。

【その他の重要事項】

プログラミングやデザインの作業を中心とした制作活動が中心なので、授業時間外での活動が相当程度生じます。また、週末や長期休暇中に勉強会やワークショップが開催されることがありますので、そちらも積極的に参加して下さい。また、通常のゼミは連続で2コマ分の時間行います。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course deals with the basic concepts and theory of digital sociology. It also enhances the development of students' skill in sociological analyses of digital media use and user experience design.

(Learning Objectives)

The goal of this seminar is to develop planning skills based on the digital media environment through these activities.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to engage in programming and design activities after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

The quality of the works created (60%), in-class contribution(40%).

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習 2

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 ゼミに引き続き、テーマは「デジタルメディアの実践的研究」です。調査プロジェクトでは、指定されたテーマに関するデザインリサーチを行い、新しいサービス、アプリのプロトタイプ制作を行います。制作プロジェクトでは、Processing、Unity、TouchDesigner などを使って、インタラクティブ作品の制作に取り組みます。また、並行して、メディア研究の重要文献輪読も行います。

【到達目標】

上記の活動を通じて、デジタルメディア環境を前提にした企画力を身につけることが目標です。また、日々の制作活動を通じて、プログラミングやデザインの実践に取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

調査プロジェクト：指定された調査テーマで、ゼミ生自身を対象にした各種のユーザー調査を行い、その知見に基づいてプロトタイプを制作します。
制作プロジェクト：春学期の序盤でプロジェクトの企画立案を行い、春学期中盤には制作物のイメージと開発環境を確定します。春学期終盤から制作に入り、年度末までひとつの作品制作に取り組みます。
・課題についてのフィードバックはゼミの内外で個別で行います。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方について
2	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	プロジェクトテーマ領域の解説
3	調査プロジェクト	調査テーマ発表
	制作プロジェクト	テーマ領域の事例検討
4	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	テーマ領域の事例検討
5	調査プロジェクト	行動文脈調査
	制作プロジェクト	制作チーム発足
6	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	「哲学」の設定
7	調査プロジェクト	行動文脈調査の分析
	制作プロジェクト	「ビジョン」の設定
8	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	先行事例の検討
9	調査プロジェクト	インタビュー調査の企画
	制作プロジェクト	先行事例の検討
10	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	プロトタイピングと開発環境の検討
11	調査プロジェクト	インタビュー調査の実施
	制作プロジェクト	プロトタイピングと開発環境の検討
12	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作企画案のプレゼン
13	調査プロジェクト	インタビュー調査の実施
	制作プロジェクト	基本機能の開発
14	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	基本機能の開発
15	ガイダンス	秋学期の進め方について
16	調査プロジェクト	インタビュー調査の分析
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
17	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
18	調査プロジェクト	インタビュー調査の分析
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
19	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
20	調査プロジェクト	行動観察調査
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
21	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業

22	試作版完成報告 学部研究発表会準備	制作物の試作版プレゼン 学部研究発表会準備
23	調査プロジェクト 制作プロジェクト	行動観察調査の分析 修正作業進捗報告
24	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告
25	調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロトタイプ制作 修正作業進捗報告
26	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告
27	調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロトタイプ制作 修正作業進捗報告
28	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

制作活動は課外の時間に行います。また、文献のレジュメ作成なども課外の時間に行います。さらに、土日その他を使って、外部講師による技術講習、企業とのワークショップなどが行われることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エツィオ・マンズイニ、2020、『日々の政治』BNN

【参考書】

必要に応じて具体的に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加（40%）、プロジェクトの評価（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンが必須となります。

【その他の重要事項】

1 ゼミのときと同様、プログラミングやデザインの作業を中心とした制作活動が中心なので、授業時間外での活動が相当程度発生します。また、週末や長期休暇中に勉強会やワークショップが開催されることがありますので、そちらも積極的に参加して下さい。授業計画は授業の展開によって若干の変更があります。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course deals with the basic concepts and theory of digital sociology. It also enhances the development of students' skill in sociological analyses of digital media use and user experience design.

(Learning Objectives)

The goal of this seminar is to develop planning skills based on the digital media environment through these activities.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to engage in programming and design activities after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

The quality of the works created (60%), in-class contribution(40%).

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3 (卒業論文)

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1 ゼミ、2 ゼミの成果を踏まえて卒業論文を執筆します。

【到達目標】

ゼミ活動の集大成として、卒業論文を完成させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別指導と各種の報告会の組み合わせにより、卒論の執筆を支援します。受講生には、それぞれの段階で、テーマ、論文構成、進捗などについての報告をしてもらいます。

- ・課題についてのフィードバックはゼミの内外で個別で行います。
- ・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成に関するガイダンス
2	テーマ設定 1	テーマ設定の考え方
3	テーマ設定 2	文献リストの作成
4	テーマ設定 3	先行研究のレビュー (1)
5	テーマ設定 4	先行研究のレビュー (2)
6	調査手法の検討 1	先事例の検討
7	調査手法の検討 2	調査手法の確定
8	予備調査 1	予備調査の計画
9	予備調査 2	予備調査の実施
10	卒論構想発表 1	構想発表と議論
11	卒論構想発表 2	構想発表と議論
12	卒論構想発表 3	構想発表と議論
13	調査計画の立案 1	夏休み中に実施する調査の計画
14	調査計画の立案 2	夏休み中に実施する調査の計画
15	調査報告 1	夏休み中に実施した調査の知見報告
16	調査報告 2	夏休み中に実施した調査の知見報告
17	調査報告 3	夏休み中に実施した調査の知見報告
18	論文構成検討 1	論文構想レジュメの検討
19	論文構成検討 2	論文構想レジュメの検討
20	論文作成	執筆中原稿の検討 1
21	論文作成	執筆中原稿の検討 2
22	論文作成	執筆中原稿の検討 3
23	論文作成	執筆中原稿の検討 4
24	論文作成	執筆中原稿の検討 5
25	卒業論文第一稿提出	第一稿の相互チェックと議論
26	完成稿執筆へ向けての個別指導 1	完成稿へ向けての加筆修正の指導
27	完成稿執筆へ向けての個別指導 2	完成稿へ向けての加筆修正の指導
28	最終稿提出	最終稿提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミの時間での議論・指導をベースにしつつ、課外の時間で、論文執筆に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

進捗に応じて、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出された卒論の内容・完成度によって評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

Based on research and practice in seminar 1 and seminar 2, students write graduation thesis.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to complete the graduation thesis as the culmination of the seminar activities.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Graduation thesis(100%)

SEE200EB, SEE200EC, SEE200ED

演習 1

鞠子 茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

野生生物や自然生態系についての基礎知識と研究のためのスキルをフィールドワーク、室内実験を通して学ぶ。夏休みの自由研究やグループ研究を通して、自然を研究する目的、方法、解析方法について学ぶ。自然環境の保全的管理のあり方や人と自然とのかわり方について一人一人が答えを導いていく。

【到達目標】

生物を中心とした自然システムについて学び、人間とはどんな生物であるのか、人間と自然が共生できる社会とはどんなものであるのかを考察するための科学リテラシー、あるいは人間力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、多摩キャンパスの自然や生物を観察したり、室内実験したりして、自然と生物を科学的に理解するための知識とスキルについて学ぶ。春学期の終わりに学んだ知識とスキルに関する確認テストを行う。夏休み期間中には自由研究を個人で実施し、秋学期の最初に成果を発表する。その後、グループでの共同研究を実施する。自然や生物に関する研究テーマの設定、研究計画の立案、データの整理・分析、成果のプレゼンについて指導する。秋学期の最後はグループ研究の成果を発表する。毎回の授業において、授業内容に関する簡単な説明と必要な資料を配布し、授業前後に行う学習や復習に役立ててもらおう。習得度や理解度の確認のために課題を課し、次の授業で課題に対するフィードバックを行う。自然や野生生物を相手にするので、授業スケジュール等を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	事前に与えた課題の成果物の提出と授業内容についての概要説明
第 2 回	生物環境の調査法 ～野鳥観察の基礎～	野鳥観察の基本知識を得るための講義を行う
第 3 回	生物環境の調査法 ～野鳥観察の実践的学習～	多摩キャンにて野鳥観察法を学ぶ
第 4 回	生物環境の調査法 ～植物に関する基礎知識～	植物の観察・調査に必要な基本知識を得るための講義を行う
第 5 回	生物環境の調査法 ～植物の観察・調査法の実践的学習～	多摩キャンに生息する植物を利用して植物の観察・調査法を野外で学ぶ
第 6 回	生物環境の調査法 ～動物に関する基礎知識～	動物の観察・調査に必要な基礎知識を得るための講義を行う
第 7 回	生物環境の調査法 ～動物の観察・調査法の実践的学習～	多摩キャンに生息する動物を利用して動物の観察・調査法を野外で学ぶ
第 8 回	生物環境の調査法 ～水生生物に関する基礎知識～	水生生物の観察・調査に必要な植物の基礎知識を得るための講義を行う
第 9 回	生物環境の調査法 ～水生生物の観察・調査法の実践的学習～	4号調整池に生息する生物を対象として観察・調査法を学ぶ
第 10 回	自然環境の測定方法 ～温度環境の測定法～	気象観測システムおよび熱電対を用いた温度環境の測定方法について学ぶ
第 11 回	自然環境の測定方法 ～森林内の光環境の測定法～	日射量計および光子計を用いた光環境の測定方法について学ぶ
第 12 回	生物環境と自然環境に関する理解度の確認	生物環境および自然環境に関する確認テストを行う
第 13 回	個人研究のテーマ設定	夏休み期間中に実施する個人研究のテーマについて各自検討し、話し合いのうえ決定する
第 14 回	個人研究の計画の立案	夏休み中に個人研究をどのように行うのか、研究計画の立案方法について解説する

第 15 回	文献の検索・閲覧・引用に関する指導	研究に必要な文献の検索・閲覧・引用について指導する
第 16 回	夏休み個人研究の成果発表	夏休みの実施した個人研究の成果について各自パワポでプレゼンする
第 17 回	グループ研究の実施について	グループ研究の実施意義について説明する
第 18 回	グループ研究課題とグループ分け	各自が行いたい研究課題を出し合ったのち、共同研究が可能になるよう、グループ分けを行う
第 19 回	グループ研究課題の設定方法について	どのようにグループ研究の課題を設定すべきか、具体例をもとに解説する
第 20 回	グループ研究の計画立案について	グループ研究の研究計画を立案することのコツについて解説する
第 21 回	グループ研究の課題と研究計画についてのプレゼン	各グループ研究の課題と研究計画についてパワポを使って発表する
第 22 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 23 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 24 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 25 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 26 回	グループ研究の中間発表会	それまでに得られたグループ研究の成果についてパワポで発表し、最終成果発表会に向けての修正を行う
第 27 回	グループ研究の最終成果発表会に向けた準備	中間発表の時の助言をもとに発表原稿を再検討する
第 28 回	グループ研究の最終成果発表会	グループ研究の成果についてパワポを作成し、最終発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習や復習の時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。準備学習のための説明と資料配布や復習のための課題を与える。これらの学習については授業でも触れて、学んだことを全体にフィードバックさせる。夏休み期間中に個人研究を実施する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。随時、関連資料を配布する。

【参考書】

「くらべてわかる野鳥 文庫版」叶内 拓哉著、山と溪谷社（2016）；「さとやま——生物多様性と生態系模様」鷲谷 いづみ（2011）；「観察する目が変わる植物学入門」矢野興一著、ベレ出版（2012）；「観察する目が変わる昆虫学入門」野村昌史著、ベレ出版（2013）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、個人研究レポートの成果と発表（30%）、グループ研究課題の成果と発表（40%）から成績を評価する。平常点では、授業への真摯で積極的な関与、授業外で課した課題の達成度を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の目標を確認しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

フィールドワークや実験の際には相応の服装や履物を準備する。文献検索、データの整理・分析、プレゼンでは、必要に応じてパソコンを使う。

【その他の重要事項】

生物や自然が大好きで、真摯に対応する人が望ましい。そこで、履修を希望する人は初回の授業の時までに、自然環境や生物に関する書籍をできるだけ読んでおくこと。グループ研究があるので共同作業は必須の授業である。

【Outline (in English)】

● Course outline

This course focuses on structure and function of nature such as biodiversity and matter cycle in the Tama region, including the forest of Tama Campus. In the spring semester, the students will learn how to study living organisms in the field and laboratory.

● Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

_explain the essential concepts of biology, ecology and environmental sciences

_discuss the role of human beings in natural environment

_apply theories or findings to address environmental and social issues.

● Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

● Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on mid-term exam (30%), research reports (50%), and in-class contribution (20%).

SEE300EB, SEE300EC, SEE300ED

演習 2

鞠子 茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は一人一人が生物や自然環境に関する研究テーマを設定し、年間計画を立て、実施する。授業は個人指導と全体指導の 2 本立ての授業を通じて、研究の遂行に必要な知識やスキルを獲得し、授業終了時まで成果をレポートにまとめ、卒業研究に向けた準備を整える。

【到達目標】

卒業研究に向けて準備を整えることができる。自然環境や生物に関する研究テーマを設定したのち、適切な手法を用いてデータを取り、適切なデータ解析を行って研究レポートをまとめる能力を得ることができる。さらに、得られた研究成果を効果的にプレゼンする能力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人研究を一年間を行う。多摩キャンパスの自然環境や生物を対象とした研究テーマを設定し、研究計画を立案し、一年間実施したのちレポート作成と成果のプレゼンを行う。テーマ設定からプレゼンまでに必要な知識とスキルは個人指導と全体指導の二本立てで得ることが出来る。例えば、調査・実験方法は個人指導、文献の収集・読解やプレゼンは全体指導を行う。授業最終日に、卒業論文に準ずる研究レポートを提出するとともに、成果をパワポでプレゼンする。途中何回かレポート研究の進捗状況をチェックするために、全員がパワポによる中間発表を行う。毎回の授業では、授業でトピックとなったことに関連した課題が提示される。次の授業までに自身の研究との関わりを考えながら解答をまとめ、提出する。提出物はコメントを添えて返却されるので、コメントに従って自身の研究を改善する。自然や野生生物を相手にするので、授業スケジュール等を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	年間の授業内容に関して説明する
第 2 回	卒業研究テーマの再確認	演習 1 で設定した卒業研究のテーマを再確認し、今後の準備を進める
第 3 回	卒業研究テーマの計画発表	卒業研究の個々のテーマについて年間計画について順次紹介する
第 4 回	卒業研究テーマの計画発表	卒業研究の個々のテーマについて年間計画について順次紹介する
第 5 回	野外調査・実験手法	調査地の選び方の習得
第 6 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 7 回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第 8 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 9 回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第 10 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 11 回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第 12 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 13 回	データ整理とプレゼン	Excel と PowerPoint の基本の習得
第 14 回	研究成果の中間発表（1 回目）	各テーマの進捗状況のプレゼン
第 15 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 16 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 17 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 18 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 19 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 20 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 21 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 22 回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第 23 回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第 24 回	データ解析方法	データ解析の方針を議論する

第 25 回	合同ゼミ	演習 2 と 3 を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う
第 26 回	合同ゼミ	演習 2 と 3 を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う
第 27 回	研究成果の中間発表会（2 回目）	卒業研究に準ずる研究成果をパワポで発表し、いろいろな助言を得て次回の最終発表会に向けて準備をする
第 28 回	研究成果の最終発表会	卒業研究に準ずる研究成果をパワポで最終発表し、内容をレポートに作成して提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習と復習の時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。準備学習のための説明と資料配布や復習のための課題を与える。これらの学習については授業でも触れて、学んだことを全体にフィードバックさせる。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。随時、関連資料を配布する。

【参考書】

自分で文献を探し出し、個人もしくは全員で講読する。

【成績評価の方法と基準】

研究レポート（70 %）と平常点（30 %）から成績を評価する。平常点では、授業への真摯で積極的な関与、授業外で課した課題の達成度を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の目標を確認しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

文献検索、データの整理・分析、プレゼンでは、必要に応じてパソコンを使う。学習支援システムへのアクセスができる端末。

【その他の重要事項】

自然や生き物を研究対象とするので、環境倫理や生命倫理についても一定程度の知識を持つことが望ましい。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, each student will do an independent research project on a topic related to biology and environmental sciences. For this, students will choose their own topic, conduct a presentation and write a report about their research findings.

● Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

_select appropriate research methodology and collect data required for their own study

_analyze and interpret data and write a research report

_make a presentation of the research

● Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

● Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on research report (70%) and in-class contribution (30%).

SEE400EB, SEE400EC, SEE400ED

演習3 (卒業論文)

鞠子 茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多摩キャンパスおよびその周辺の自然と生物を題材とした卒業研究のテーマを設定し、年間計画を立て、実施する。卒業研究は三年間の演習で習得したアカデミックスキルズを使って解く応用問題と位置づけ、問題解決能力がどれくらい身に付いたかを確認する。

【到達目標】

自然環境や生物に関するテーマを研究し、深く理解することにより、自然や生物との付き合い方や環境問題の解決に向けた新たな規範やライフスタイルを提案し、それを実践できる人間力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

研究テーマを確認した後、年間計画を立てる。ローテーションを組んで、論文紹介や研究の進捗状況を報告する。徹底した議論を行い、自身の研究にフィードバックさせる。年数回、卒業研究の進捗状況について確認するための発表会を行う。自然や生物を対象とするため、授業スケジュール等の変更がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要について	ゼミの進め方、一年間の大まかなスケジュール説明
第2回	研究テーマの最終決定(前半)	卒業研究のテーマについて発表し、議論を経て最終決定する
第3回	研究テーマの最終決定(後半)	卒業研究のテーマについて発表し、議論を経て最終決定する
第4回	研究テーマの決定	卒業研究のテーマについて発表し、議論を経て決定する
第5回	研究計画の決定(前半)	一年間の研究計画について発表し、教員と学生で議論する
第6回	研究計画の決定(後半)	一年間の研究計画について発表し、教員と学生で議論する
第7回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第8回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第9回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第10回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第11回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第12回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第13回	中間発表の準備	パワポによる発表原稿の内容チェック
第14回	春学期中間発表会	春学期の研究結果、進捗状況、夏休み期間中の研究計画についてプレゼンし、助言を得る
第15回	秋学期の予定確認と研究経過と計画の報告	夏休み期間中の研究成果を報告するとともに、秋学期の研究計画を確認する
第16回	経過報告と計画確認	夏休み期間中の研究成果を報告するとともに、秋学期の研究計画を確認する
第17回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第18回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第19回	研究の進捗状況または論文紹介	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第20回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第21回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第22回	論文作成・提出に向けての指導	卒業論文提出までのスケジュール確認と論文作成の指導
第23回	図表作成指導	図表の描き方について指導する

第24回	論文添削	事前に論文原稿を提出させ、添削指導する
第25回	論文添削	事前に論文原稿を提出させ、添削指導する
第26回	論文添削	事前に論文原稿を提出させ、添削指導する
第27回	最終発表の準備	卒業研究の最終発表に向けた指導を行う
第28回	最終発表	卒業研究の成果をパワポで発表する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自然環境や生物を対象とした研究では、通常データは自分自身で取ることになる。その場合、授業時間外のワークは必須となるが、どれくらいの時間が必要となるかは研究内容によって異なる。既往文献からデータや情報を収集したり、論文を執筆したりする場合、授業時間外の時間を使って行う。本授業における平均的な準備学習・復習時間は各々2時間程度とする。

【テキスト(教科書)】

とくになし

【参考書】

「生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系」宮下直ほか著、朝倉書店(2012)；「森のバランス」森林立地学会編、東海大学出版(2012)；「オオカミが日本を救う!：生態系での役割と復活の必要性」丸山直樹編集、白水社；「気候変動を理学する」多田隆治著、朝倉書店(2017)；「人類と気候の10万年史 過去に何が起きたのか、これから何が起るのか(ブルーバックス)」中川毅著、講談社(2017)；「人と生態系のダイナミクス2 森林の歴史と未来」鈴木牧ほか著、朝倉書店(2019)；

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕卒業論文(80%)、平常点(20%)

〔評価基準〕卒業論文については、提出の有無、論理性的の有無、文章表現の洗練度、データの質と量、適切な文献の引用、プレゼンスキルなどを総合的に評価する。平常点については、出席するだけでなく、積極的に授業に関与する姿勢も合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対する学生の意見を随時聞き取り、適切に配慮しながら進めて行く。

【学生が準備すべき機器他】

文献検索、データの整理・分析、プレゼンでは、必要に応じてパソコンを使う。学習支援システムへのアクセスができる端末。

【その他の重要事項】

自然や生き物を研究対象とするので、環境倫理や生命倫理についても一定程度の知識を持っていることが望ましい。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, each student will do an independent research project on a topic related to biology and environmental sciences. For this, students will choose their own topic, conduct a few presentations and write a senior thesis.

● Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

- _familiarize themselves with the field of biology and environmental sciences by understanding the nature, content, and scientific significance of the research performed
- _improve on their ability to discuss their biological and environmental interests
- _apply theories or findings to address environmental and social issues.

● Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

● Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on individual research report (80%) and in-class contribution (20%).

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献講読（輪読）及びディスカッション（グループディスカッション・ブレインストーミング等）を通じて、消費者行動と、その基となる心理過程の理解を深めることを目標とする。さらにこうした理論に基づいた効果的な広告手法やマーケティング手法について討議する。

【到達目標】

消費者行動の基本的理解とディスカッション技術の修得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミでは毎時間文献の指定された部分を予習し、関連する文献を自主学習することが求められる。授業では、こうした事前学習の成果を持ち寄り、教員も含めたディスカッションを行う。参加者全員の積極的な発言が求められる。ディスカッション内容についてのフィードバックはその場で行う。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読と討議 1	消費者行動とマーケティング①
3.	文献講読と討議 2	消費者行動とマーケティング②
4.	文献講読と討議 3	消費者行動の心理モデル
5.	文献講読と討議 4	購買意思決定過程
6.	文献講読と討議 5	消費者の情報探索
7.	文献講読と討議 6	購買後の諸過程
8.	文献講読と討議 7	消費者の知覚
9.	文献講読と討議 8	消費者の記憶
10.	文献講読と討議 9	消費者の学習
11.	文献講読と討議 10	消費者の感情
12.	文献講読と討議 11	消費者の態度形成
13.	文献講読と討議 12	消費者の個人特性
14.	文献講読と討議 13	消費者の状況要因
15.	輪読・グループ研究 1	ブランドコミュニケーション①
16.	輪読・グループ研究 2	ブランドコミュニケーション②
17.	輪読・グループ研究 3	ブランドコミュニケーション③
18.	輪読・グループ研究 4	広告効果モデル①
19.	輪読・グループ研究 5	広告効果モデル②
20.	中間発表①	グループ研究の中間発表
21.	輪読・グループ研究 6	広告媒体の効果モデル①
22.	輪読・グループ研究 7	広告媒体の効果モデル②
23.	輪読・グループ研究 8	心理効果と広告戦略①
24.	輪読・グループ研究 9	心理効果と広告戦略②
25.	中間発表②	グループ研究の中間発表、討議
26.	グループ研究 10（フィールドワーク）	心理効果調査①
27.	グループ研究 11（フィールドワーク）	心理効果調査②
28.	輪読・グループ研究 12	成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通学中の電車の中をはじめ、身の回りに溢れている広告活動やマーケティング活動を見て、その背後にある意図や理論を探索する習慣をつけることが望ましい。また、常に新しい社会情勢をチェックし、新しい視点を議論に取り入れられるように努力することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本徹雄編著『消費者理解のための心理学』（福村出版）

仁科貞文 他著『広告心理』（電通）

その他適宜授業内で指定する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加姿勢 50%

各種成果物 50%

で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic knowledge of consumer behavior. It also enhances the development of students' skills for constructive group discussions.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 50%, in class contribution: 50% .

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習 2

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の認知や行動についての調査方法を習得し、実際に各自でテーマ設定を行い、仮説検証型の研究を進める。

【到達目標】

各種懸賞論文等への投稿を目指し、文献調査、仮説の構築、調査・分析まで行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

専門書の輪読により消費者の心理や行動についての理解を深め、調査手法を学ぶ。また、一年間に渡り、各自が設定したテーマに沿って研究を進める。毎週の授業時には進捗状況報告を行い、その場でフィードバックとディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読①	文献の輪読
3.	文献講読②	文献の輪読
4.	文献講読③	文献の輪読
5.	文献講読④	文献の輪読
6.	テーマ設定と討議	テーマ発表
7.	テーマ設定と討議	テーマ発表
8.	テーマ設定と討議	テーマ発表
9.	テーマ設定と討議	テーマ発表
10.	仮説構築①	各自の研究仮説の発表
11.	仮説構築②	各自の研究仮説の発表
12.	仮説構築③	各自の研究仮説の発表
13.	調査法①	消費者行動調査（フィールドワーク）
14.	調査法②	消費者行動調査（フィールドワーク）
15.	調査結果発表①	調査結果の発表・グループ討論
16.	調査結果発表②	調査結果の発表・グループ討論
17.	調査結果発表③	調査結果の発表・グループ討論
18.	分析法①	調査結果の詳細な分析
19.	分析法②	調査結果の詳細な分析
20.	分析法③	調査結果の詳細な分析方法の検討
21.	論文作成 1	進捗状況報告
22.	論文作成 2	進捗状況報告
23.	論文作成 3	進捗状況報告
24.	論文作成 4	進捗状況報告
25.	論文作成 5	進捗状況報告
26.	論文作成 6	進捗状況報告
27.	論文作成 7	進捗状況報告
28.	研究発表	成果発表・グループ討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アンケート調査や実証実験などを行う。
また、学年横断型グループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況報告内容 80%
授業への参加姿勢 20%
で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain fundamental knowledge about survey and it also enhance the development of students' skill in carrying out quantitative surveys of consumers.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 80%, in class contribution: 20% .

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習 3 (卒業論文)

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

三年間の演習の総まとめとして、卒業論文に取り組む。

【到達目標】

文献調査および実証実験を基に、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

専門書の輪読により消費者の心理や行動についての理解を深め、調査手法を学ぶ。また、一年間に渡り、各自が設定したテーマに沿って研究を進める。毎週の授業時には進捗状況報告を行い、その場でフィードバックとディスカッションを行う。

なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読 1	文献の輪読
3.	文献講読 2	文献の輪読
4.	文献講読 3	文献の輪読
5.	文献講読 4	文献の輪読
6.	テーマ設定と討議 1	テーマ発表
7.	テーマ設定と討議 2	テーマ発表
8.	テーマ設定と討議 3	テーマ発表
9.	テーマ設定と討議 4	テーマ発表
10.	文献講読 5	文献の輪読
11.	文献講読 6	文献の輪読
12.	文献講読 7	文献の輪読
13.	実証実験 1	消費者行動調査
14.	実証実験 2	消費者行動調査
15.	調査結果発表 1	調査結果の発表
16.	調査結果発表 2	調査結果の発表
17.	調査結果発表 3	調査結果の発表
18.	調査結果発表 4	調査結果の発表
19.	データ分析 1	調査結果の詳細な分析
20.	データ分析 2	調査結果の詳細な分析
21.	データ分析 3	調査結果の詳細な分析
22.	論文作成 1	進捗状況報告
23.	論文作成 2	進捗状況報告
24.	論文作成 3	進捗状況報告
25.	論文作成 4	進捗状況報告
26.	論文作成 5	進捗状況報告
27.	論文作成 6	進捗状況報告
28.	研究発表 7	成果報告

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

アンケート調査や実証実験などを行う。

また、学年横断型グループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況報告内容 20%、

卒業論文の内容 60%、

口述試験 20%

による総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline (in English)】

The aim of this course is to brush up the graduation thesis.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Graduation thesis: 60%, Oral presentation:20%, in class contribution: 20%.

POL200EB, POL200EC, POL200ED

演習 1

二村 まどか

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦争・武力紛争はなぜ起こり、どのような影響を人々と社会に与えるのか。そして「世界政府」が存在しない国際社会は、平和をどのように理解し、どのような方法で達成しようとしてきたのか。演習 1 では、1990 年代以降の戦争・武力紛争を取り上げ、紛争の起こる多様な（歴史的、政治的、経済的、社会的）背景について学び、戦争と平和の問題について考える。演習 1 の学びを踏まえ、演習 2 では、国際社会が行ってきた様々な平和活動について学ぶ。

【到達目標】

現代の武力紛争の背景にある複雑な国際的、国内的要因を分析する。戦争と平和をめぐる問題に対して理解を深め、批判的に考察し、議論し、論文を書くことができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、紛争研究の代表的なテキストを輪読し、現代の武力紛争を分析する視点を習得する。秋学期の前半は、具体的な武力紛争と付随する諸問題（貧困、人権侵害、難民、子ども兵など）を取り上げて、議論する。後半では、各人が関心問題と論文テーマを設定し、プレゼンを行い、ゼミ論文に備える。授業の中で、発表や提出された課題へのフィードバックを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの目的と進め方、自己紹介
2	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
3	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
4	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
5	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
6	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
7	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
8	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
9	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
10	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
11	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
12	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
13	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
14	紛争研究に関するテキスト ト輪読	発表とディスカッション
15	ガイダンス	秋学期の進め方について
16	武力紛争のインパクト (事例研究)	発表とディスカッション
17	武力紛争のインパクト (事例研究)	発表とディスカッション
18	武力紛争のインパクト (事例研究)	発表とディスカッション
19	武力紛争のインパクト (事例研究)	発表とディスカッション
20	武力紛争のインパクト (事例研究)	発表とディスカッション
21	武力紛争のインパクト (事例研究)	発表とディスカッション
22	個人研究発表①	発表とディスカッション
23	個人研究発表②	発表とディスカッション
24	個人研究発表③	発表とディスカッション

25	個人研究発表④	発表とディスカッション
26	個人研究発表⑤	発表とディスカッション
27	個人研究発表⑥	発表とディスカッション
28	個人研究発表⑦	発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読んでゼミに臨む。文献輪読のグループ発表、テーマ別個人発表の準備を行う。ゼミ論文に備え、文献・資料を集め、読み進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業において指定する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論文（50%）、発表・課題（30%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

2020・21 年度は担当教員が在外研究のため、演習 1 を開講していませんでした。2022 年度の時点で先輩はいませんが、皆さんと新しくゼミを作りたいと思います。

【Outline (in English)】

This seminar focuses on issues of war and peace, exploring why armed conflicts occur, what kind of impacts they have on people and society, and how the international community has been working to achieve peace. It takes armed conflicts since 1990s and examines their mechanisms and complex background (political, economical, social and historical), in order to think about ways to achieve peace.

PLN400EB, PLN400EC, PLN400ED

演習3 (卒業論文)

前卒 英明

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然地理学と第四紀地球科学の分野を基礎として、社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで考えます。文献資料の収集と分析、電子地図や人工衛星画像の解析、野外での測量や観察などの手法を使いこなすスキルを習得し、それによって知りえた自然や社会現象を考察して、問題の解決や新しいコンセプトの創出につなげる能力を養います。最終的に、その結果を論理的にプレゼンしたり論文としてまとめたりする能力を磨きます。

【到達目標】

地球科学に関する基礎的な思考力・論理展開力・調査手法を習得し、学術的に通用する水準の文章の執筆と討議への参画能力を身につける。社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで理解できるようにする。

The goals of this course are to basic ability of thinking, logical thinking, and survey methodology.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・従来の「演習2」(3年生)と「演習3・卒論」(4年生)を合同で実施します。
・オンライン・対面を問わず、グループディスカッションやディベート等により課題に取り組みます。
・対面授業が可能な場合は、週末巡検を企画してフィールドワークを行います。
・ゼミ論や卒論を前提としたレポートや論文を書き進めてもらい、その原稿への添削のやりとりを通じてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	通年ガイダンス	ゼミの進め方
第2回	ゼミ論・卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第3回	ゼミ論・卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第4回	ゼミ論・卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第5回	ゼミ論・卒論の企画・報告1	巡検報告次回の下調べ
第6回	ゼミ論・卒論の企画・報告2	巡検報告次回の下調べ
第7回	ゼミ論・卒論の企画・報告3	巡検報告次回の下調べ
第8回	ゼミ論・卒論の企画・報告4	巡検報告次回の下調べ
第9回	ゼミ論・卒論研究事前準備1	卒論研究にむけた下調べ
第10回	ゼミ論・卒論研究事前準備2	卒論研究にむけた下調べ
第11回	ゼミ論・卒論研究事前準備3	卒論研究にむけた下調べ
第12回	ゼミ論・卒論研究事前準備4	卒論研究にむけたプレゼン
第13回	ゼミ論・卒論の夏期休暇課題検討1	夏期課題のプレゼン
第14回	ゼミ論・卒論の夏期休暇課題の検討2	夏期課題のプレゼン
第15回	秋学期ガイダンス	秋学期の進め方について
第16回	ゼミ論・卒論の夏期課題成果発表1	夏期調査の成果発表
第17回	ゼミ論・卒論の夏期課題の成果発表2	夏期調査の成果発表
第18回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論1	文献・理論の検討
第19回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論2	文献・理論の検討
第20回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論3	課題研究進捗状況報告
第21回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論4	課題研究進捗状況報告

第22回 ゼミ論・卒論のハンズオンと討論5 課題研究進捗状況報告

第23回 ゼミ論・卒論の添削1 本文執筆の指針ガイダンス

第24回 ゼミ論・卒論の添削2 本文の構成の検討

第25回 ゼミ論・卒論の添削3 原稿の添削

第26回 ゼミ論・卒論プレゼン1 研究成果のプレゼン

第27回 ゼミ論・卒論プレゼン2 研究成果のプレゼン

第28回 ゼミ論・卒論の総まとめ ゼミ論・卒論の総仕上げ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・ゼミナーは、日頃の各自の成果をお互いに問う場であり、文献の読み込みや資料の収集、現地調査、データの解析、結果の考察などは、あらかじめ授業外の時間に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

ナショナル・ジオグラフィックという月刊誌の講読

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)、自身が設定した課題に対する取組度 (30%)、最終提出課題の内容 (30%)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%

【学生の意見等からの気づき】

ネット上でもゼミ内の先輩・後輩との交流ができる機会を持つように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

・コロナ感染対策で Zoom によるリアルタイム双方向形式も併用します。ネットや PC 機材を準備してください。

【Outline (in English)】

Based on the physical geography and Quaternary sciences, this course helps students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their Sociological studies. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning, along with academic writing tutorial.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業調査と戦略論の基礎を学び、各人が産業調査マン・調査ウーマン企業戦略立案者になることを目指します。

【到達目標】

様々な産業の概要とそこで活動している企業の戦略について、各自で調べ、考えることができるようになることが目標です。具体的には、戦略論の基本書の輪読から初め、その後戦略論のケーススタディを読み進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初はやさしめの本をやや大量に消化し、自分の言葉でレジュメを作成する練習をします。次に産業調査の方法について学び、最後に実際に自分で個別産業を調べることができるようになるように進めていきます。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	通年ガイダンス	ゼミの進め方・年間計画などについて
第 2 回	わかりやすいマーケティング戦略：序章。第 1 章	マーケティング・ミックス
第 3 回	わかりやすいマーケティング戦略：第 2 章	ターゲット市場の選定
第 4 回	わかりやすいマーケティング戦略：第 3 章	製品ライフサイクル
第 5 回	わかりやすいマーケティング戦略：第 4 章	市場地位別のマーケティング戦略
第 6 回	わかりやすいマーケティング戦略：第 5 章	業界の構造分析
第 7 回	わかりやすいマーケティング戦略：第 6 章	全社戦略
第 8 回	わかりやすいマーケティング戦略：第 7 章	事業とドメインの定義
第 9 回	わかりやすいマーケティング戦略：第 8 章	戦略的思考に向かって
第 10 回	ゼロからの経営戦略 (1)	ストライプインターナショナル
第 11 回	ゼロからの経営戦略 (2)	すかいらく
第 12 回	ゼロからの経営戦略 (3)	TOTO
第 13 回	ゼロからの経営戦略 (4)	幸楽苑
第 14 回	ゼロからの経営戦略 (5)	ハイデイ日高
第 15 回	ゼロからの経営戦略 (6)	パーク 24
第 16 回	ゼロからの経営戦略 (7)	コマツ
第 17 回	ゼロからの経営戦略 (8)	富士重工業
第 16 回	ゼロからの経営戦略 (9)	富士フイルムホールディングス
第 19 回	ゼロからの経営戦略 (10)	ヤマトホールディングス
第 20 回	ゼロからの経営戦略 (10)	ソニー
第 21 回	戦略プロフェッショナル (1)	飛び立つ決意
第 22 回	戦略プロフェッショナル (2)	パラシュート降下
第 23 回	戦略プロフェッショナル (3)	決断と行動の時
第 24 回	戦略プロフェッショナル (4)	飛躍への妙案
第 25 回	戦略プロフェッショナル (5)	本陣を直撃せよ
第 26 回	戦略プロフェッショナル (6)	闘いに勝つ
第 27 回	財務諸表の読み方 (1)	決算書速習教室 (1)
第 28 回	財務諸表の読み方 (2)	決算書速習教室 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、消化することが求められます。また、授業時間内に発現するためには、指定した文献以外の文献を幅広く消化しておく必要があります。授業時間外の学習時間として、各 2 時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』（有斐閣アルマ）

沼上幹『ゼロからの経営戦略』（ミネルヴァ書房）

三枝匡『戦略プロフェッショナル』（日経ビジネス人文庫）

小宮一慶『決算書速習教室』（PHP 研究所）

【参考書】

様々な業界の業界団体のホームページおよび業界団体発行の資料を参考書とします。

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)

自身が設定した課題に対する取組 (30%)

最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

課題は盛りだくさんですが、取り組みやすい課題が多いとの意見が多いです。

【Outline (in English)】

Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory.

Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set

(30%)Content of the final submission (30%)

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習 2

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業調査の基本を学び、自ら調査ができるようになることが目的です。

【到達目標】

現実の各種産業について、各自が問題意識を持ち、業界の財務諸表を読みこなし、自ら調査分析できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初はやさしめの本をやや大量に消化し、自分の言葉でレジュメを作成する練習をします。次に産業調査の方法について学び、最後に実際に自分で個別産業を調べることができるように進めていきます。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マーケティング・ミックス	4P・ディスカッション
2	ターゲット市場の選定	セグメンテーション・ディスカッション
3	製品ライフサイクル	導入期、成長期、成熟期、衰退期・ディスカッション
4	市場地位別のマーケティング戦略	リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー・
5	業界の構造分析	競争要因と利益ポテンシャル
6	全社戦略	多角化、PPM・ディスカッション
7	事業とドメインの定義	ドメイン定義の注意点・ディスカッション
8	戦略的思考に向かって	3つのスタンス 集中せよ・ディスカッション
9	戦略はストーリー	論理と実践 戦略の論理化・ディスカッション
10	競争戦略の基本論理	SPとOC・ディスカッション
11	静止画から動画へ	ストーリーの強さ、太さ、長さ・ディスカッション
12	始まりはコンセプト	起承転結の起・ディスカッション
13	キラーパスを組み込む	スターバックスのストーリー・ディスカッション
14	戦略ストーリーを読解する	ガリバーインターナショナル・ディスカッション
15	夏休みの課題の講評	夏休みの課題の講評・ディスカッション
16	戦略ストーリーの骨法1	エンディングから考える・ディスカッション
17	骨法2	普通の人々の本姓を直視する・ディスカッション
18	骨法3	悲観主義で論理を詰める・ディスカッション
19	骨法4	物事が起こる順序にこだわる・ディスカッション
20	骨法5	過去から未来を構想する・ディスカッション
21	骨法6	失敗を避けようとしなない・ディスカッション
22	骨法7	賢者の盲点を衝く・ディスカッション
23	骨法8	競合他社に対してオープンに構える・ディスカッション
24	骨法9	抽象化で本質をつかむ・ディスカッション
25	骨法10	思わず人に話したくなる話をする・ディスカッション
26	調査実習1	業界団体を検索する。ディスカッション
27	調査実習2	業界の資料を検索して集めまくる・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の読み込みや資料の収集、現地調査、データの解析、結果の考察などは、あらかじめ授業外の時間に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼上幹著『わかりやすいマーケティング入門』有斐閣アルマ
楠木健著『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社

【参考書】

様々な業界の業界団体のホームページおよび業界団体発行の資料を参考書とします。

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)

自身が設定した課題に対する取組度 (30%)

最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3 (卒業論文)

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1年をかけて卒業論文を作成する能力を蓄積し、論理的にプレゼンテーションできる能力を養います。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

自分で設定した卒業論文のテーマについて、先行研究を消化し、仮説を立て、論証する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文の執筆が主たる課題です。執筆途中の論文原稿の添削を繰り返すことで完成度を高めていきます。ゼミの時間には、進捗状況の報告プレゼンと研究に関する相談を受け付けます。最終段階で学生相互によるピアレビューを行い、完成度を高めます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒論の執筆に向けて指針を示す
第2回	卒論テーマプレゼン 1	各自の卒論テーマを紹介
第3回	卒論テーマプレゼン 2	各自の卒論テーマを紹介
第4回	卒論の全体構成 1	卒論の章立や全体像構想
第5回	卒論の全体構成 2	卒論の章立や全体像構想
第6回	卒論研究の中間報告 1	卒論研究の中間報告
第7回	卒論研究の中間報告 2	卒論研究の中間報告
第8回	卒論研究の中間報告 3	卒論研究の中間報告
第9回	卒論研究の中間報告 4	卒論研究の中間報告
第10回	卒論研究の中間報告 5	卒論研究の中間報告
第11回	卒論研究の中間報告 6	卒論研究の中間報告
第12回	卒論研究の中間報告 7	卒論研究の中間報告
第13回	卒論第一稿提出	論文提出初回
第14回	卒論第一稿チェック	卒論の添削
第15回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第16回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第17回	卒論中間報告 8	卒論研究の中間報告
第18回	卒論中間報告 9	卒論研究の中間報告
第19回	卒論中間報告 10	卒論研究の中間報告
第20回	卒論中間報告 11	卒論研究の中間報告
第21回	卒論中間報告 12	卒論研究の中間報告
第22回	卒論添削	論文の仕上がりチェック
第23回	卒論添削	論文の仕上がりチェック
第24回	卒論添削	導入・手法の章チェック
第25回	卒論添削	結果の章チェック
第26回	卒論添削	考察の章チェック
第27回	卒論添削	全章を完成させる
第28回	卒論提出直前面談	最終提出にむけたチェック

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

卒論は、自分が大学で学んだことの総集編です。卒論の完成度を高めるためには、提出間際まで努力を要します。一定レベルに達した論文を卒業論文と認定します。最後の最後で大化けする可能性もありますので、あきらめずに取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

それぞれの研究テーマに添った文献を指示します。

【参考書】

・論文やレポートの書き方指南書を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

・卒論研究への取組み(30%)やプレゼンスキル(30%)、卒論本文の完成度(40%)を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

卒論執筆には、構想・調査/実践・粗稿執筆・推敲・プレゼン・校了、といった多くのプロセスからなり、思った以上に日時を要します。

【学生が準備すべき機器他】

・卒論はワープロで執筆すること。

【Outline (in English)】

To make your graduation thesis and to bluish up your presentation skill.Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

SOC300EB,SOC300EC,SOC300ED

演習2

松下 峻也

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、メディアとジャーナリズムを理解するための基礎となる思想と歴史を学びながら、みずから設定した研究課題にもとづく質的調査をおこなう。それによって、「いま」を生きる学生が、現代社会が抱える問題を時間的、空間的な広がりの中で熟慮する力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、文献講読と並行して、実際の史資料の分析・考察やフィールドワークによる聞き取り調査をおこなう。そうした取り組みを通して、過去から現在、未来へと連続する社会問題をみずから分析・考察し、その成果を口頭発表と報告書によって発信する技能を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学生による文献輪読と研究の進捗報告、それにもとづくディスカッションを中心に進めていく。また、研究の（中間／最終）成果報告の機会を複数回設ける。それらにたいする教員からのフィードバックは、毎回の演習で口頭によっておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	顔合わせ	学生による問題関心の報告
第 2 回	研究テーマの設定	グループワークで取り組む「問い」を立てる
第 3 回	文献講読①	文献から思想と理論を学ぶ
第 4 回	文献講読②	文献から思想と理論を学ぶ
第 5 回	文献講読③	文献から思想と理論を学ぶ
第 6 回	文献講読④	文献から思想と理論を学ぶ
第 7 回	研究の中間報告	グループワークの中間報告と課題の検討
第 8 回	文献講読⑤	文献から研究の方法論を学ぶ
第 9 回	文献講読⑥	文献から研究の方法論を学ぶ
第 10 回	文献講読⑦	文献から研究の方法論を学ぶ
第 11 回	文献講読⑧	文献から研究の方法論を学ぶ
第 12 回	研究の成果報告①	グループワークの成果報告と課題の検討
第 13 回	研究の成果報告②	グループワークの成果報告と課題の検討
第 14 回	総括	研究報告書の作成のレクチャー
第 15 回	秋学期の作業計画の作成	計画案の検討
第 16 回	調査情報の整理	論文構成案の検討
第 17 回	追加調査	調査の実施計画
第 18 回	追加調査の分析	調査報告
第 19 回	追加調査の考察	調査結果の分析
第 20 回	中間発表	論文目次の検討
第 21 回	先行研究整理	1 章. 先行知の広がり
第 22 回	方法論と仮説の整理	2 章. 方法論の検討
第 23 回	検証	3 章. 調査の実施
第 24 回	分析	4 章. 調査結果の分析
第 25 回	考察	5 章. 結果の考察
第 26 回	研究発表会	考察・結論の論旨確認
第 27 回	文献リスト・資料	文章表記、引用確認
第 28 回	論文の論旨・表記確認	期末論文の最終調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、演習外の時間を利用した学生のみによる文献輪読と共同調査（「サブゼミ」の実施）が求められる。サブゼミに充てる学習（研究）時間は、演習前後を合計して 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

演習内で指定する。

【参考書】

上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房。
テッサ・モーリス・スズキ, 2014 (田代泰子訳), 『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

平常点（文献講読・研究の進捗報告とディスカッションへの参加）を 50 %、期末課題（口頭・論文での成果報告）を 50 %として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度新規担当につきとくになし。

【学生が準備すべき機器他】

PC とオンラインミーティングが可能な通信環境

【その他の重要事項】

このゼミでは、学生が別府三奈子教授のもとで継続してきた学びと研究を基礎として、それを一年間、担当教員のもとで発展させていきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the ability to understand thoughts and histories around Media and Journalism, and to analysis problems in contemporary society on their own. At the end of the course, students are expected to write a report of their research results. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3 (卒業論文)

松下 峻也

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

履修する学生は、メディアとジャーナリズムを理解するための基礎となる思想と歴史を学びながら、みずから設定した研究課題にもとづく質的調査をおこなう。それによって、「いま」を生きる学生が、現代社会が抱える問題を時間的、空間的な広がりの中で思考し、みずからの課題として熟慮しつづける力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、文献講読と並行して、実際の史資料の分析・考察やフィールドワークによる聞き取り調査をおこなう。そしてその研究成果を、卒業論文として執筆することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学生による文献輪読や研究の進捗報告、それにもとづくディスカッションを中心に進めていく。また、研究の(中間/最終)成果報告の機会を複数回設ける。それらにたいする教員からのフィードバックは、毎回の演習で口頭によっておこなう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間予定	研究手法の流れの概説
第2回	リサーチトピック案	テーマ案の検討
第3回	新聞データベース作成	キーワードの検討
第4回	先行研究の調査	ブックリストの作成
第5回	仮説・調査法の検討	研究方法論の整理
第6回	論文構成案の発表	研究実施計画
第7回	先行研究の調査	ブックレビューの蓄積
第8回	先行研究の分析	先行する知見の整理
第9回	実証の設計	仮説の検証方法の精査
第10回	調査準備	調査の実施準備
第11回	調査の実施	調査シミュレーション
第12回	調査の実施1	聞き取り調査のコード化
第13回	調査の実施2	聞き取り調査の分析
第14回	研究発表	前期調査の結果報告と討議
第15回	秋学期の作業計画の作成	計画案の検討
第16回	調査情報の整理	論文構成案の検討
第17回	追加調査	調査の実施計画
第18回	追加調査の分析	調査報告
第19回	追加調査の考察	調査結果の分析
第20回	中間発表	論文目次の検討
第21回	先行研究整理	1章. 先行知の広がり
第22回	方法論と仮説の整理	2章. 方法論の検討
第23回	検証	3章. 調査の実施
第24回	分析	4章. 調査結果の分析
第25回	考察	5章. 結果の考察
第26回	研究発表会	考察・結論の論旨確認
第27回	文献リスト・資料	文章表記、引用確認
第28回	論文の論旨・表記確認	卒業論文の最終調整

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

履修する学生は、卒業論文にむけた文献講読(先行研究の整理)と調査、その執筆を演習外の時間におこなう。その学習(研究)時間は、演習前後を合計して4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

演習内で指定する。

【参考書】

上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房。
テッサ・モーリス・スズキ, 2014 (田代泰子訳), 『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

複数回の中間報告を条件に、卒業論文の内容を100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度新規担当につきとくになし。

【学生が準備すべき機器他】

PCとオンラインミーティングが可能な通信環境

【その他の重要事項】

このゼミでは、学生が別府三奈子教授のもとで継続してきた学びと研究を基礎として、それを一年間、担当教員のもとで発展させていきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the ability to understand thoughts and histories around Media and Journalism, and to analysis problems in contemporary society on their own. At the end of the course, students are expected to write a dissertation of their research results. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end dissertation(100%).

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1・2

多田 和美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「国際社会における多国籍企業の経営戦略と組織」をテーマとしています。国際経営論を主要領域に、今日の環境変化を踏まえて、社会と企業がともに発展していくための国際経営活動を考察することを目的とします。演習では、主に基本文献の輪読と日本多国籍企業に関する事例研究に取り組みます。この学習内容を踏まえて、実証研究にも挑戦します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営の基本理論を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を説得的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で実施します。受講者は、ただ出席するだけではなく、積極的に発言するなどの能動的な受講が望まれます。課題を提示した際は、次の授業回で解説するなど随時フィードバックします。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	文献購読とディスカッション
第3回	国際経営の利点と課題	文献購読とディスカッション
第4回	国際経営の理論①	文献購読とディスカッション
第5回	国際経営の理論②	文献購読とディスカッション
第6回	国際経営の基本視座①	文献購読とディスカッション
第7回	国際経営の基本視座②	文献購読とディスカッション
第8回	国際マーケティング	文献購読とディスカッション
第9回	海外生産	文献購読とディスカッション
第10回	国際研究開発	文献購読とディスカッション
第11回	国際パートナーシップ	文献購読とディスカッション
第12回	国際人的資源管理	文献購読とディスカッション
第13回	国際経営とCSR	文献購読とディスカッション
第14回	小括	ディスカッション
第15回	事例研究の方法	文献購読と議論
第16回	研究計画	リサーチ・クエスチョン、研究対象、研究方法
第17回	先行研究の検討と分析枠組①	文献レビュー①
第18回	先行研究の検討と分析枠組②	文献レビュー②
第19回	企業調査①	パイロット・スタディ
第20回	企業調査②	1次データと2次データの収集①
第21回	企業調査③	1次データと2次データの収集②
第22回	企業調査④	1次データと2次データの収集③
第23回	事例分析①	データの分析①
第24回	事例分析②	データの分析②
第25回	事例研究のまとめ①	事例研究の結論・含意・課題
第26回	事例研究のまとめ②	事例研究の発表準備
第27回	研究発表①	発表とディスカッション①
第28回	研究発表②	発表とディスカッション②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究課題に向けて相応の授業時間外の学習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業内で提示します。

【参考書】

下記の文献のほか、適宜授業内で提示します。

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%、課題の完成度：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、適宜連絡します。

【Outline (in English)】

The course is mainly composed of the followings:

- 1)Review of basic literature on international business
- 2)Discussion about theoretical topics of international business
- 3)Case study of Japanese multinational company
- 4)Writing a report on international business
- 5)Empirical research

MAN400EB,MAN400EC,MAN400ED

演習3 (卒業論文)

多田 和美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、「国際社会における多国籍企業の経営戦略と組織」をテーマとしています。国際経営論を主要領域とし、今日の環境変化を踏まえて、社会と企業がともに発展していくための国際経営活動を考察することを目的とします。ゼミでは、理論研究と実証研究を行い、卒業論文を執筆します。実証研究では、必要に応じてフィールド調査を実施します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営の基本知識と企業の国際経営の実際に関する情報の両者を融合し、
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を説得的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で実施します。受講者は、ただ出席するだけではなく、積極的に発言するなどの能動的な受講が望まれます。課題を提示した際は、次の授業回で解説するなど随時フィードバックします。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	研究テーマの設定①	関心領域の特定化
第3回	研究テーマの設定②	リサーチ・クエスションの発見
第4回	研究の方法論①	学術研究の作法
第5回	研究の方法論②	定性研究
第6回	研究の方法論③	定量研究
第7回	先行研究の検討①	先行研究の発見事実
第8回	先行研究の検討②	先行研究の課題
第9回	先行研究の検討③	研究課題の設定
第10回	実証研究①	パイロット・スタディ
第11回	実証研究②	定性/定量研究
第12回	実証研究③	定性/定量研究
第13回	実証研究④	定性/定量研究
第14回	小括	進捗状況の報告
第15回	実証研究⑤	定性/定量研究
第16回	実証研究⑥	定性/定量研究
第17回	実証研究⑦	定性/定量研究
第18回	研究報告①	進捗報告とディスカッション
第19回	研究報告②	進捗報告とディスカッション
第20回	研究報告③	進捗報告とディスカッション
第21回	研究報告④	進捗報告とディスカッション
第22回	研究報告⑤	進捗報告とディスカッション
第23回	研究報告⑥	進捗報告とディスカッション
第24回	研究報告⑦	進捗報告とディスカッション
第25回	研究報告⑧	進捗報告とディスカッション
第26回	研究報告⑨	最終報告とディスカッション
第27回	研究報告⑩	最終報告とディスカッション
第28回	総括	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究課題に向けて相応の授業時間外の学習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業内で提示します。

【参考書】

必要に応じて、適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%，研究発表の内容・完成度：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、適宜連絡します。

【Outline (in English)】

The course is mainly composed of the followings:

- 1)Review of literature on international business
- 2)Empirical studies (qualitative/quantitative)
- 3)Writing a graduation thesis

PSY200EB, PSY200EC, PSY200ED

演習 1

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の観点から、語り／対話を中心に据えたアクションリサーチに取り組む。授業では、どのようなねらいのもと、どのような語り／対話に焦点をあてるのかを検討し、実際に、語りを聴いたり、語りを他者につないだりする活動に取り組む。これにより、語り／対話という行為自体がもつ可能性を考えていく。活動に取り組むだけでは十分ではなく、それを学術的に位置づけていくことが重要となる。

【到達目標】

- ・人びとの行為や活動を理解するスキルを習得する
- ・他者と協力して目標を実現するスキルを磨く
- ・活動をふりかえり、成果を報告するスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、文献講読、アクションリサーチの企画・準備・実施、ふりかえり、報告書の作成、プレゼンといった一連の活動からなる。
- ・受講者が中心になって活動を展開していく。必要に応じて教員が解説を行なう。
- ・インタビューや書き起こし等、授業時間外の作業も多く求められる。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業時間内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、自己紹介、役割分担
2	研究テーマの検討	どのような語りを対象とするか議論する
3	研究テーマの検討	どのような語りを対象とするか議論する
4	よいインタビューとは	よりよく聴くための心がまえ
5	インタビューの練習	よりよく聴くための練習
6	聴きたいことの確認	テーマの設定と質問項目の準備
7	インタビューの準備	協力依頼の準備
8	語りを聴く	アポイントメントをとってお話を伺う
9	語りを聴く	アポイントメントをとってお話を伺う
10	トランスクリプトの作成	トランスクリプトを作成する
11	語りの報告	語りを報告する
12	語りの報告	語りを報告する
13	インタビューの準備	協力依頼の準備
14	まとめ	夏休みの課題の説明
15	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
16	成果報告の準備	研究成果を報告する資料を作成する
17	成果報告の準備	研究成果を報告する資料を作成する
18	成果報告	収集したデータを分析する
19	語りをつなぐ準備	語りを他者につなぐための準備を行う
20	語りをつなぐ準備	語りを他者につなぐための準備を行う
21	ふりかえり	活動をふりかえる
22	リサーチクエスションの検討	RQの検討、討論
23	リサーチクエスションの検討	RQの検討、討論
24	リサーチクエスションの検討	RQの検討、討論
25	リサーチクエスションの検討	RQの検討、討論
26	リサーチクエスションの検討	RQの検討、討論
27	リサーチクエスションの検討	RQの検討、討論
28	まとめ	一年のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献講読の準備を行なう。
- ・アクションリサーチの企画・実施に向けた準備を行なう。
- ・適宜課される課題に取り組む。

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・初回の授業で指示します。

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）と授業内外で課す課題の質（40%）、アクションリサーチの準備・実施への貢献度（40%）、ゼミ論（20%）で判断します。
- ・なお、インタビューの実施、ゼミ論の提出は必須条件とします。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ふりかえりをふまえて、早々に活動に取り掛かりたいと考えています。
- ・秋学期には個人研究に向けた準備に取り掛かりたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。
- ・PCを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・方法論を修得するために、教員が担当する別の授業や研究会に出席することを求めることがあります。
- ・授業時間外や夏休みにもイベントの準備等を行なうことになります。
- ・諸活動にともなう交通費や製作費は原則自己負担となります。

【Outline (in English)】

In this course students engage in action research projects. Action research is one of the research methods of social psychology. The goal of this method is to change societies for the better. The objective of this course is to acquire skills in analyzing the problems of societies and in developing action research projects. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on in-class contribution (40%), assignments in and out of class (40%), and lab report (20%).

PSY300EB, PSY300EC, PSY300ED

演習2

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広義の社会心理学の文献（専門書、学術論文）の講読とそれにもとづく討論を通じて、自分の関心を学術的に位置づけ、問いに鍛え上げていくことを目指す。この活動を通して、研究手続きに習熟すること、文献の読解力を養うこと、コミュニケーションや議論のスキルを磨くことを目標とする。

【到達目標】

- ・人の行動・認知・感情を社会心理学的に解釈できる
- ・心理学の研究手法を理解できる
- ・文献の読解力を向上させる
- ・プレゼンテーションや議論のスキルを磨く

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・指定の文献および各自の問題関心に関連する文献の講読を行なう。発表担当者はレジュメやパワーポイントの資料を作成・発表し、全員で議論を行なう。
- ・秋学期は並行して経験的データの収集と分析に取りくむ。
- ・必要に応じて教員が研究手法の解説を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、役割分担
2	文献講読の説明	文献の読み方・レジュメの作成方法の説明
3	文献講読	担当者による報告、全体討論
4	文献講読	担当者による報告、全体討論
5	文献講読	担当者による報告、全体討論
6	文献講読	担当者による報告、全体討論
7	文献講読	担当者による報告、全体討論
8	文献講読	担当者による報告、全体討論
9	文献講読	担当者による報告、全体討論
10	文献講読	担当者による報告、全体討論
11	文献講読	担当者による報告、全体討論
12	文献講読	担当者による報告、全体討論
13	文献講読	担当者による報告、全体討論
14	文献講読	担当者による報告、全体討論。夏休みの課題の説明
15	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
16	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
17	研究構想の報告	研究の構想の報告、全体討論
18	研究構想の報告	研究の構想の報告、全体討論
19	研究構想の報告	研究の構想の報告、全体討論
20	研究計画の報告	研究の計画の報告、全体討論
21	研究計画の報告	研究の計画の報告、全体討論
22	研究計画の報告	研究の計画の報告、全体討論
23	データの収集	データを収集する
24	データの収集	データを収集する
25	データの収集	データを収集する
26	ゼミ論のプレゼン	ゼミ論の要旨をプレゼンする
27	ゼミ論のプレゼン	ゼミ論の要旨をプレゼンする
28	ゼミ論の提出・総括	ゼミ論を提出する。年度のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題を発表する準備を行なう。
- ・適宜課される課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・初回の授業で指示します。

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）と授業内外で課す課題の質（70%）、ゼミ論（30%）で判断します。なお、ゼミ論の提出は必須条件とします。

・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。

・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・データ収集計画を早めにとるよううながしたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・方法論を修得するために、教員が担当する別の授業に出席することを求めることがあります。
- ・演習1に協力・支援をお願いすることがあります。
- ・これらの点に留意して受講するようにしてください。

【Outline (in English)】

Research seminar on social psychology: We read various articles pertaining to social psychology and hold group discussions. We also explore and investigate research themes. The objective of this seminar is to develop your research skills through engaging with research projects. The goals of this course are to be able to understand human behavior, cognition, and emotions from a social psychological perspective. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on report (30%), and in-class contribution (70%).

PSY400EB, PSY400EC, PSY400ED

演習3 (卒業論文)

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまでに習得した知識とスキルを活かして、各自が設定した研究テーマを追究し、成果を卒業論文にまとめる。研究報告と討論を通じて、自分の考えを深めたり、洗練させたりするスキルを習得することも目的とする。

【到達目標】

- ・現象を社会心理学の視点からとらえることができる
- ・データに基づいて思考することができる
- ・自分の考えを他者と共有し、議論することで、考えを深めたり、洗練させることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・受講者の研究報告を中心に進める。
- ・発表担当者はレジュメやパワーポイントの資料を作成・発表し、全員で議論を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	担当者による報告、全体討論
2	研究の報告	担当者による報告、全体討論
3	研究の報告	担当者による報告、全体討論
4	研究の報告	担当者による報告、全体討論
5	研究の報告	担当者による報告、全体討論
6	研究の報告	担当者による報告、全体討論
7	研究の報告	担当者による報告、全体討論
8	研究の報告	担当者による報告、全体討論
9	研究の報告	担当者による報告、全体討論
10	研究の報告	担当者による報告、全体討論
11	研究の報告	担当者による報告、全体討論
12	研究の報告	担当者による報告、全体討論
13	研究の報告	担当者による報告、全体討論
14	研究の報告	担当者による報告、全体討論、春学期のまとめ
15	ガイダンス、研究の報告	担当者による報告、全体討論
16	研究の報告	担当者による報告、全体討論
17	研究の報告	担当者による報告、全体討論
18	研究の報告	担当者による報告、全体討論
19	研究の報告	担当者による報告、全体討論
20	研究の報告	担当者による報告、全体討論
21	研究の報告	担当者による報告、全体討論
22	研究の報告	担当者による報告、全体討論
23	研究の報告	担当者による報告、全体討論
24	研究の報告	担当者による報告、全体討論
25	研究の報告	担当者による報告、全体討論
26	研究の報告	担当者による報告、全体討論
27	研究の報告	担当者による報告、全体討論
28	研究の報告	担当者による報告、全体討論、1年間のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・自分の研究テーマをひたすらに追究する。

- ・ひとつの研究をまとめるには、自ら調べ、読み、報告し、他者と意見を交換することが重要になる。これらの活動に積極的にとりくむことが求められる。

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・特になし

【参考書】

- ・適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・卒業論文と口頭試問で評価する (100%)。
- ・ただし、授業で定期的に報告を行なうこと、中間発表会で発表を行なうこと、卒論発表会で発表を行ない、口頭試問を受けることを単位修得の前提条件とする。
- ・無断欠席は厳しく評価する。
- ・卒業論文は、定められた期間に、所定の形式に則ったものを提出することが求められるので注意すること。
- ・卒業論文では原則として経験的研究を実施し、20,000 字以上とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・データ収集計画を早めにとるよううながしたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・演習1、2に協力・支援をお願いすることがあります。

【Outline (in English)】

Research seminar on social psychology: Students are required to write a senior thesis using knowledge and skills acquired from previous studies. Students investigate their own research projects from a social psychological perspective. They must report on the progress of their research and regularly discuss their projects with seminar members. The objective of this seminar is to develop students' research and communication skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on senior thesis (100%).

SOS200EB, SOS200EC, SOS200ED

演習 1

橋爪 絢子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザ中心設計に関する英語の文献を輪読し、関連文献を調べながら内容を理解します。また、関心のあるテーマの文献を調べ、その内容を要約して発表します。さらに、テーマごとに調査を計画し、実施しながら、調査研究の一連の流れを学びます。

【到達目標】

- ユーザ中心設計における各活動を組織に適用する方法の理解
- 文献を要約し、伝える技術の習得
- 調査の計画から実施、分析までの流れの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

演習形式で行い、個人かグループでの発表と質疑で構成されます。ゲストの招聘を行うなど、授業計画を変更することがあります。最初は、指定の英語の文献を輪読しますが、英語の意味を理解することが目的ではありません。書かれている内容について理解したうえで説明し、メンバー間で情報を共有します。文献調査も同様に、各自が調べた文献の内容を要約して発表し、メンバー間で情報を共有したり、議論を通じて意見の交換を行ったりします。さらに、関心のあるテーマごとに調査を計画して実施しながら、その状況を毎回報告し、最後に最終報告を行います。各メンバーからの発表内容や進捗状況、コメントなどに対して、それぞれフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 1	方針の確認、自己紹介
2	文献①の輪読 1	文献輪読とその内容の発表、および質疑
3	文献①の輪読 2	文献輪読とその内容の発表、および質疑
4	文献①の輪読 3	文献輪読とその内容の発表、および質疑
5	文献①の輪読 4	文献輪読とその内容の発表、および質疑
6	文献①の輪読 5	文献輪読とその内容の発表、および質疑
7	文献②の輪読 1	文献輪読とその内容の発表、および質疑
8	文献②の輪読 2	文献輪読とその内容の発表、および質疑
9	文献②の輪読 3	文献輪読とその内容の発表、および質疑
10	文献②の輪読 4	文献輪読とその内容の発表、および質疑
11	文献②の輪読 5	文献輪読とその内容の発表、および質疑
12	文献調査 1	テーマを決めるための文献調査とその内容の発表、および質疑
13	文献調査 2	テーマを決めるための文献調査とその内容の発表、および質疑
14	秋学期に向けて	夏休み中の課題などを確認
15	ガイダンス 2	方針の確認
16	文献調査 3	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
17	文献調査 4	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
18	文献調査 5	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
19	調査の計画 1	テーマごとに調査計画の確認、質疑
20	調査の計画 2	テーマごとに調査計画の確認、質疑
21	調査の実施 1	調査の進捗報告、質疑
22	調査の実施 2	調査の進捗報告、質疑
23	調査の実施 3	調査の進捗報告、質疑

24	調査の分析 1	分析の進捗報告、質疑
25	調査の分析 2	分析の進捗報告、質疑
26	結果のまとめ 1	調査結果の発表と質疑
27	結果のまとめ 2	調査結果の発表と質疑
28	結果のまとめ 3	調査結果の発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初は、指定の英語の文献を輪読してもらいますが、内容を理解するためには、英語の辞書を引くだけでなく、ほかの文献も調べて、情報を補う必要があります。また、毎回、自身の活動の内容を伝えるための資料の準備が必要です。テーマの設定によって、学外での活動が必要になることもあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。
課題への取り組みやグループへの貢献、メンバーへのコメント等を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を取り入れながら行っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 等のソフトウェア、学習支援システム、電子メール、Google Classroom などを使用します。

【Outline (in English)】

We will deepen the understanding of the User Centered Design (UCD) by examining relevant documents. We will also search the documents on the theme that students are interested in and summarize the information to give a presentation on the contents. In addition, we will learn the sequence of research by planning and doing surveys on each theme.

SOS300EB, SOS300EC, SOS300ED

演習2

橋爪 絢子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活における疑問や関心ごとをテーマに、ユーザ中心設計と絡めながら研究していきます。研究を通じて、社会とメディア、そのユーザの関連性を理解し、ユーザ中心設計についての理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 研究を行うための方法論を理解する
- (2) 自身の考えを人にわかりやすく伝える技術を身に付ける
- (3) 質問や議論をする技術を身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は演習形式で行います。ゲストの招聘を行うなど、授業計画を変更することがあります。

各自でテーマを検討し、研究計画を立てながら、調査研究を実施していきます。

毎回、各自の研究の進捗状況について、発表形式で報告してもらいます。個人での報告だけでなく、メンバーの研究に対する理解と質疑への参加も必須となります。

進捗状況の報告や質疑などに対して、それぞれフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 1	方針の確認、自己紹介
2	研究発表 1	テーマの検討、質疑
3	研究発表 2	テーマの検討、質疑
4	研究発表 3	研究計画の報告、質疑
5	研究発表 4	研究計画の報告、質疑
6	研究発表 5	進捗報告、質疑
7	研究発表 6	進捗報告、質疑
8	研究発表 7	進捗報告、質疑
9	研究発表 8	進捗報告、質疑
10	研究発表 9	進捗報告、質疑
11	研究発表 10	進捗報告、質疑
12	春学期のまとめ 1	春学期の成果報告、質疑
13	春学期のまとめ 2	春学期の成果報告、質疑
14	春学期のまとめ 3	夏休み中の課題の確認
15	ガイダンス 2	方針の確認
16	研究発表 11	夏休み中の成果と今後の計画の発表、質疑
17	研究発表 12	夏休み中の成果と今後の計画の発表、質疑
18	研究発表 13	進捗報告、質疑
19	研究発表 14	進捗報告、質疑
20	研究発表 15	進捗報告、質疑
21	研究発表 16	進捗報告、質疑
22	研究発表 17	進捗報告、質疑
23	研究発表 18	進捗報告、質疑

24	研究発表 19	進捗報告、質疑
25	研究発表 20	進捗報告、質疑
26	秋学期のまとめ 1	秋学期の成果報告、質疑
27	秋学期のまとめ 2	秋学期の成果報告、質疑
28	秋学期のまとめ 3	論文執筆への準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、自身の活動の内容を伝えるための資料の準備が必要です。ゼミ合宿や研究発表会への参加に加えて、学外での活動も必要となってきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

課題への取り組みやグループへの貢献、メンバーへのコメント等を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を取り入れながら行っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 等のソフトウェア、学習支援システム、電子メール、Google Classroom などを使用します。

【Outline (in English)】

We will pick up some issue that is controversial and needs more research and discussions in our everyday life. Through the research, we will understand the relationship between society, media, and their users, and promote a better understanding of the User Centered Design (UCD).

SOS400EB,SOS400EC,SOS400ED

演習3 (卒業論文)

橋爪 絢子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習 1、演習 2 の成果を踏まえて、各自個別のテーマについてさらに調査分析を行い、卒業論文としてまとめます。

【到達目標】

十分に先行研究を踏まえたうえで、学術論文として質の高い卒業論文の完成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

演習形式で行い、個人かグループでの発表と質疑で構成されます。ゲストの招聘を行うなど、授業計画を変更することがあります。それぞれの発表に対して議論を重ねながら、個別のテーマについてさらに詳しく調査および分析を行い、最終的には卒業論文としてまとめていきます。

各メンバーからの発表内容や進捗状況、コメントなどに対して、それぞれフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成に関するガイダンス
2	テーマの決定 (1)	テーマの報告、討論
3	テーマの決定 (2)	テーマの報告、討論
4	テーマの決定 (3)	先行研究の調査
5	テーマの決定 (4)	先行研究の調査
6	テーマの決定 (5)	構想の検討
7	テーマの決定 (6)	構想の検討
8	調査手法の検討 (1)	関連する調査手法の学習
9	調査手法の検討 (2)	調査手法の決定
10	予備調査 (1)	予備調査の準備
11	予備調査 (2)	予備調査の実施
12	予備調査 (3)	予備調査の分析
13	調査計画の検討 (1)	夏休み中に実施する本調査の計画
14	調査計画の検討 (2)	夏休み中に実施する本調査の計画
15	調査報告 (1)	実施した本調査の結果報告
16	調査報告 (2)	実施した本調査の結果報告
17	調査報告 (3)	実施した本調査の結果報告
18	構成の検討	論文の構成の検討
19	構成の決定	論文の構成の決定
20	論文執筆 (1)	論文の執筆とその経過報告
21	論文執筆 (2)	論文の執筆とその経過報告
22	論文執筆 (3)	論文の執筆とその経過報告
23	論文執筆 (4)	論文の執筆とその経過報告
24	論文の提出 (1)	原稿の仮提出
25	個別指導 (1)	加筆修正の指導
26	個別指導 (2)	加筆修正の指導
27	個別指導 (3)	加筆修正の指導
28	論文の提出 (2)	最終原稿の提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでの報告準備のための資料の作成、提出が必要です。また、文献調査や各自のテーマでの調査の実施や分析等をゼミ以外の時間で行う必要があります。研究テーマによっては、実地での調査が必要な場合もあります。

なお、卒業論文の提出期間内の提出 (1 月上旬) に加え、1 月下旬に行われる卒業研究発表会での口頭発表も必須です。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

研究の進捗状況やメンバーへのコメント、卒業論文の内容などを考慮して総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を取り入れながら行っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 等のソフトウェア、学習支援システム、電子メール、Google Classroom などを使用します。

【その他の重要事項】

演習 2 を履修していることが前提です。

【Outline (in English)】

Every participant write a graduation thesis on her/his own theme based on the study and research in the last two years.

Students are expected to spend a total of four hours conducting research and creating materials before and after each seminar.

The final grade will be comprehensively evaluated based on the normal points of participation in the seminar and the graduation thesis.

ARSk200EB, ARSk200EC, ARSk200ED

演習 1

JONATHAN D BROWN

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will investigate a number of social/cultural issues through readings, videos, and class discussions.

【到達目標】

- We will learn how to read and critique academic articles in English.
- We will learn how to verify and synthesize data across sources.
- We will learn how to discuss and debate important topics in the field at an academic level in English.
- We will learn how to report on other ideas and respond to those ideas through writing and oral presentations.
- We will learn basic research methods/approaches for conducting comparative investigations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. We will read English articles and watch videos about various social/cultural issues around the world and discuss them in class.
 2. We will then prepare written summary-responses of the readings/videos and present them through both formal and informal presentations to the class.
 3. We will work together as a class to identify similarities and differences, support and contradictions, and, strengths and weaknesses across the readings/videos.
 4. At the end of the course, students will put together all that they learned into a final report/presentation.
- Feedback will be given through comments applied directly on assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course guidance; Self-introductions; The importance of multiple perspectives
第 2 回	Reading 1 - Education	Read together as a class
第 3 回	Reading 2 - Education	Read together as a class
第 4 回	Opposing Viewpoints	Compare and Contrast Reading 1 and Reading 2.
第 5 回	Video 1 - "The Finland Phenomenon" documentary	Discussion questions
第 6 回	Group Discussion	Compare and contrast Readings 1,2, and Video 1.
第 7 回	Reading 3 - Homelessness	Read together as a class
第 8 回	Reading 4 - Homelessness	Read together as a class
第 9 回	Opposing Viewpoints	Compare and contrast Reading 3 and Reading 4.
第 10 回	Video 2 - "No Place Like Home" film	Watch movie
第 11 回	How to Write a Summary & Response	The basics of writing a summary; The basics of writing a response
第 12 回	How to Write a Summary & Response continued	Work on Summary & Response of "No Place Like Home" film
第 13 回	How to Write a Summary & Response continued	Work on Summary & Response of "No Place Like Home" film continued
第 14 回	Present Summary & Response	Present your Summary & Response of "No Place Like Home" to the class
第 15 回	Course guidance; Education	Welcome back; Opening discussion on education
第 16 回	Education in Developing Countries	Watch "Time for School" documentary

第 17 回	Education in Developing Countries	Discuss "Time for School" in groups; Discuss as a class
第 18 回	Gender Equality in Education	Watch "Girl Rising" documentary
第 19 回	Gender Equality in Education	Discuss "Girl Rising" in groups; Discuss as a class HW: Choose one of the two documentaries and write a summary & response
第 20 回	Poverty/Social class	Reading 1 - Read together as a class
第 21 回	Poverty/Social class continued	Reading 2 - Read together as a class
第 22 回	Poverty/Social class continued	Compare and contrast Reading 1 & Reading 2
第 23 回	Poverty/Social class continued	Watch "People Like Us: Social class in America Part 1 & 2" documentary; group discussion
第 24 回	Poverty/Social class continued	Watch "People Like Us: Social class in America Part 3 & 4" documentary; group discussion
第 25 回	How to Give an Effective Presentation in English	Learn the basics of preparing and giving a presentation Choose topic for Research Project (Education/Poverty/Homelessness/Social Class); begin research topic
第 26 回	Research Project	Compare and contrast opposing viewpoints of your topic
第 27 回	Research Project continued	Continue working on projects
第 28 回	Research Project presentations	Final presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials provided by the instructor.

【参考書】

English-Japanese/Japanese-English Dictionary

【成績評価の方法と基準】

Writing Assignments: 20%

Class Discussions/Activities: 30%

Individual Research Project: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Focus has been put on developing English academic skills in the first semester.

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer
Webcam

【その他の重要事項】

All discussions, materials, and assignments will be done in English, so students need good English skills. More than a high-level of English skills, however, students need to have a high-level of motivation and a willingness to work hard and learn. I do not expect perfect English, but I do hope students will try and keep an open mind, not only with English but with the topics we investigate.

【Outline (in English)】

This course will help students develop the language, thinking, academic, and research skills they need to carry out comparative research in English. Students will learn how to critically read academic texts, summarize the main points, synthesize concepts across sources, and respond to the various sources covered in class with their own ideas/opinions in both written essays and oral presentations.

ARSk300EB,ARSk300EC,ARSk300ED

演習 2・3 (卒業論文)

JONATHAN D BROWN

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, students will further develop the research skills needed to conduct a comparative study. Seminar 3 students will write their graduation theses in English.

【到達目標】

- We will learn how to read and critique academic articles in English.
- We will learn how to verify and synthesize data across sources.
- We will learn how to discuss and debate important topics in the field at an academic level in English.
- We will learn the fundamentals of comparative research methods and apply them to an original study.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course will be student centered and student led. By this I mean that class discussions will be largely led by what the students are interested in and on materials students bring to the class.

Feedback will be given through comments applied directly on assignments.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance Individualizing Comparison	Welcome back; Lecture 1; Individualizing comparison example; Find your own study 1
第 2 回	Individualizing Comparison continued	Present your own study 1 (Summary & Reaction)
第 3 回	Universalizing Comparison	Lecture 2; Universalizing comparison example; Find your own study 2
第 4 回	Universalizing Comparison continued	Present your own study 2 (Summary & Reaction)
第 5 回	Variation-finding Comparison	Lecture 3; Variation-finding comparison example; Find your own study 3
第 6 回	Variation-finding Comparison continued	Present your own study 3 (Summary & Reaction)
第 7 回	Encompassing Comparison	Lecture 4; Encompassing comparison example; Find your own study 4
第 8 回	Encompassing Comparison continued	Present your own study 4 (Summary & Reaction)

第 9 回	Progress Reports	Seminar 3 students give progress report of their research to the class
第 10 回	Group Research Project	Choose topic; background research
第 11 回	Group Research Project	Make research question; create study design; conduct study (field work)
第 12 回	Group Research Project continued	Conduct study (field work)
第 13 回	Group Research Project continued	Peer review-get feedback from another group
第 14 回	Group Research Project presentation	Oral Presentation
第 15 回	Progress Reports	Seminar 3 students give progress report of their research to the class
第 16 回	Research Support Group	Form research support group
第 17 回	Individual Research Project	Choose topic; discuss with research support group
第 18 回	Individual Research Project continued	Background; share with research support group
第 19 回	Individual Research Project continued	Background; share with research support group
第 20 回	Individual Research Project continued	Research question; study design; share with research support group
第 21 回	Individual Research Project Progress Report	Present your progress to the class and get feedback
第 22 回	Individual Research Project Progress Report continued	Present your progress to the class and get feedback
第 23 回	Individual Research Project continued	Conduct research (field work)
第 24 回	Individual Research Project continued	Conduct research (field work)
第 25 回	Individual Research Project continued	Conduct research (field work)
第 26 回	Individual Research Project continued	Feedback from research support group
第 27 回	Individual Research Project Final Presentation	Final presentation
第 28 回	Individual Research Project Final Presentation continued	Final presentation continued

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Materials provided by the instructor

【参考書】

English-Japanese/Japanese-English Dictionary

【成績評価の方法と基準】

Class Discussions/Activities - 20%

Group Research Project - 40%

Individual Research Project - 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Computer

Webcam

Internet access

【その他の重要事項】

All discussions, materials, and assignments will be done in English, so students need good English skills. If you are interested in Seminar 2 but did not take Seminar 1, please contact me first.

【Outline (in English)】

This course is a continuation of Dr. Brown's Seminar 1. Building upon the skills developed in Seminar 1, students will begin to conduct a comparative study of their choice in which the investigate a social/cultural issue in Japan.

Students in Seminar 3 will work on their graduation theses and will not be required to attend class on a regular basis. They will, however, be expected to give progress reports to the class on occasion. Additionally, students will need to arrange private meetings with me to discuss their research and receive feedback.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

武田 俊輔

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化とまちづくりから見る地域社会というテーマについて、文献の講読とフィールドワークを通じて学ぶ。

【到達目標】

都市・農山漁村における文化、祭り・イベント、観光、まちづくり、メディアなどを手がかりとして、地域社会について分析できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面の授業となるが、オンラインになる可能性もある。
 4 回生で卒業論文を書けるようになるための一里塚として (1) 文献の読解、(2) 学外での共同でのフィールドワーク、(3) ゼミ論の執筆を行う。
 文献は文化社会学・地域社会学・都市社会学を中心とするが、社会学の古典的著作をできるだけ選ぶつもりである。また休暇中のフィールドワークを予定している。ただしコロナウイルスの今後の流行状況によっては、中止・延期の可能性もある。
 年度の最後にゼミ論の提出を求める。
 リアクションペーパーは特に設けないが、毎回の報告に対する質疑応答を通じて、学生の理解に資するものとする。
 なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの目的と進め方についての説明、文献担当の決定
2	入門的な文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (1)
3	入門的な文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (2)
4	入門的な文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (3)
5	入門的な文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (4)
6	入門的な文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (5)
7	入門的な文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (6)
8	入門的な文献の講読 (7)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (7)
9	入門的な文献の講読 (8)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (8)
10	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	フィールドワークに向けた文献講読 (1)
11	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	フィールドワークに向けた文献講読 (2)
12	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	フィールドワークに向けた文献講読 (3)
13	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
14	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (2)
15	フィールドワークの成果報告とディスカッション (1)	夏期休暇中のフィールドワークの成果のまとめ (1)
16	フィールドワークの成果報告とディスカッション (2)	夏期休暇中のフィールドワークの成果のまとめ (2)
17	基礎的文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (1)
18	基礎的文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (2)
19	基礎的文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (3)
20	基礎的文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (4)

21	基礎的文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (5)
22	基礎的文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (6)
23	基礎的文献の講読 (7)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (7)
24	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (1)
25	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (2)
26	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (3)
27	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	春季休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
28	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2) とまとめ	春季休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (2)、および 1 年間のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成。共同でのフィールドワーク。フィールドワークのための下調べやその内容のまとめ、学生同士のディスカッションと成果報告の準備。ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

初回、また必要になるごとに文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

文献報告のレジュメの内容 (25%)
 討論への参加度 (25%)
 フィールドワークでの貢献度 (25%)
 ゼミ論の内容 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

感染状況に左右されるが、フィールドワークに行きたいという学生の要望に、今年度は応えたい。

【その他の重要事項】

フィールドワークを実施できる場合は、授業時間外に学生のみで下調べやディスカッションの時間を持つこと。時間については初回に相談する。

【Outline (in English)】

Studying local communities and culture through reading books and fieldwork.

You will be able to understand local communities by analyzing culture, festivals and events, tourism, community development, and media in cities, rural areas, and fishing villages.

You are required to prepare resumes to report, conduct collaborative fieldwork, prepare for and summarize results of fieldwork, discuss among themselves, and write a final report. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Resume content of literature report: 25%

Participation in the discussion: 25%

Contribution to fieldwork: 25%

Content of the final report: 25%

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

武田 俊輔

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化とまちづくりから見る地域社会というテーマに即して、古典的文献・基本的文献を読む。それと共に、卒業論文研究計画書の執筆と報告を進め、4 年次における卒業論文執筆に必要な能力を養う。

【到達目標】

3 年次までにそれぞれの研究テーマについて決定するとともに、その先行研究に関するレビューを一通り完成させること。フィールドワークや史資料の分析を行う上で必要なスキルを身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面の授業となるが、オンラインになる可能性もある。春学期は前半で基本的・古典的文献を講読することで社会的な考え方について理解を深める。後半では演習 1 と連携しつつ共同でのフィールドワークに向けた下調べを行う。それによってフィールドワークや史資料の分析に関する基本的なスキルについても学ぶ。

秋学期は学生がそれぞれ個人での研究テーマを設定して、文献の報告とフィールドワーク・史資料の分析にもとづく研究報告を行ってもらうことで、4 回生で卒業論文を執筆するための準備を進める。

なお演習 1 との合同でゼミやフィールドワークを行うことがある。今年度については、連続する時間帯に開講する「演習 1」(2 年)にも(単位にはならないが)部分的に出席することが必要となる。そのため、授業時間割の計画に制約が生じることを理解した上で受講するよう留意してほしい。

リアクションペーパーは特に設けないが、毎回の報告に対する質疑応答を通じて、学生の理解に資するものとする。

なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの目的と進め方についての説明、文献担当の決定
2	基礎的・古典的な文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (1)
3	基礎的・古典的な文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (2)
4	基礎的・古典的な文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (3)
5	基礎的・古典的な文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (4)
6	基礎的・古典的な文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (5)
7	基礎的・古典的な文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (6)
8	基礎的・古典的な文献の講読 (7)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (7)
9	基礎的・古典的な文献の講読 (8)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (8)
10	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (1)
11	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (2)
12	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (3)
13	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
14	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたしおりの内容と質問項目の作成 (2)

15	フィールドワークの成果報告とディスカッション(1)	夏期休暇中でのフィールドワークの成果のまとめ(1)
16	フィールドワークの成果報告とディスカッション(2)	夏期休暇中でのフィールドワークの成果のまとめ(2)
17	学生による研究テーマと先行研究レビューの報告(1)	学生自身による卒論に向けた研究テーマの説明と先行研究のレビュー(1)
18	学生による研究テーマと先行研究レビューの報告(2)	学生自身による卒論に向けた研究テーマの説明と先行研究のレビュー(2)
19	調査方法・調査倫理に関する文献講読(1)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読(1)
20	調査方法・調査倫理に関する文献講読(2)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読(2)
21	調査方法・調査倫理に関する文献講読(3)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読(3)
22	学生による研究計画書案の報告(1)	調査方法・対象・スケジュールなども含めた、学生による研究計画書案の報告(1)
23	学生による研究計画書案の報告(2)	調査方法・対象・スケジュールなども含めた、学生による研究計画書案の報告(2)
24	フィールドワークに向けた文献講読(1)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読(1)
25	フィールドワークに向けた文献講読(2)	春季休暇中のフィールドワーク合宿に向けた文献講読(2)
26	フィールドワークに向けた文献講読(3)	春季休暇中のフィールドワーク合宿に向けた文献講読(3)
27	最終的な研究計画書に関する報告(1)	卒論の研究計画書の完成に向けた学生の報告(1)
28	最終的な研究計画書に関する報告(2)	卒論の研究計画書の完成に向けた学生の報告(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成。共同でのフィールドワーク。フィールドワークのための下調べやその内容のまとめ、学生同士のディスカッションと成果報告の準備。卒業論文研究計画書の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

初回、また必要になるごとに文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

文献報告および研究報告レジュメの内容(30%)
 討論への参加度(25%)
 フィールドワークでの貢献度(15%)
 ゼミ論の内容(30%)

【学生の意見等からの気づき】

感染状況に左右されるが、フィールドワークに行きたいという学生の要望に、今年度は応えたい

【その他の重要事項】

上でも述べたように、演習1の時間にも出席してもらうことがある。またフィールドワークを行うことができる場合は、授業時間外に学生のみでのための下調べやディスカッションの時間を持つ必要がある。時間については初回に相談する。

【Outline (in English)】

Studying local communities and culture through reading literatures and fieldwork.

Students need to proceed their research plan to write a graduation thesis in fourth grade.

SOC400EB,SOC400EC,SOC400ED

演習3（卒業論文）

武田 俊輔

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文執筆に向け、問題設定・先行研究・研究対象・分析方法、調査の仕方に関して学ぶ。

【到達目標】

卒業論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面の授業となるが、オンラインになる可能性もある。

春学期は各自の論文の先行研究の読解をふまえて、問題設定や研究対象、研究方法について各自が報告して、夏休みに実際に調査を行うための前提条件を整える。秋学期は調査成果をふまえて各自が論文を執筆し、その原稿を検討する。リアクションペーパーは特に設けませんが、毎回の報告に対する質疑応答を通じてフィードバックを行い、学生の理解に資するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の目的・内容の説明の上で、卒論に向けたスケジュールを確認する
第2回	先行研究の検討と問題設定	各自が現段階でどのように先行研究について検討しているかを報告する
第3回	先行研究の検討と問題設定	各自が現段階でどのように先行研究について検討しているかを報告する
第4回	先行研究の検討と問題設定	各自が現段階でどのように先行研究について検討しているかを報告する
第5回	先行研究の検討と問題設定	各自が現段階でどのように先行研究について検討しているかを報告する
第6回	先行研究の検討と問題設定	各自が現段階でどのように先行研究について検討しているかを報告する
第7回	問題設定や研究対象、研究方法	各自の卒論の問題設定や研究対象、研究方法等について報告する
第8回	問題設定や研究対象、研究方法	各自の卒論の問題設定や研究対象、研究方法等について報告する
第9回	問題設定や研究対象、研究方法	各自の卒論の問題設定や研究対象、研究方法等について報告する
第10回	問題設定や研究対象、研究方法	各自の卒論の問題設定や研究対象、研究方法等について報告する
第11回	問題設定や研究対象、研究方法	各自の卒論の問題設定や研究対象、研究方法等について報告する
第12回	進行中の調査と夏期休暇中の調査・執筆計画	現在進行している調査や今後の調査に関する見通しについて報告する

第13回	進行中の調査と夏期休暇中の調査・執筆計画	現在進行している調査や今後の調査に関する見通しについて報告する
第14回	進行中の調査と今後の調査計画	現在進行している調査や今後の調査に関する見通しについて報告する
第15回	卒論中間報告と討論	調査結果を踏まえた卒論の中間報告を行う
第16回	卒論中間報告と討論	調査結果を踏まえた卒論の中間報告を行う
第17回	卒論中間報告と討論	調査結果を踏まえた卒論の中間報告を行う
第18回	卒論中間報告と討論	調査結果を踏まえた卒論の中間報告を行う
第19回	卒論中間報告と討論	調査結果を踏まえた卒論の中間報告を行う
第20回	卒論追い込み報告と討論	教員のアドバイスと追加調査によって修正を行った卒論の報告を行う
第21回	卒論追い込み報告と討論	教員のアドバイスと追加調査によって修正を行った卒論の報告を行う
第22回	卒論追い込み報告と討論	教員のアドバイスと追加調査によって修正を行った卒論の報告を行う
第23回	卒論追い込み報告と討論	教員のアドバイスと追加調査によって修正を行った卒論の報告を行う
第24回	卒論追い込み報告と討論	教員のアドバイスと追加調査によって修正を行った卒論の報告を行う
第25回	卒論最終報告と討論	ほぼ完成した卒論についての報告を行う
第26回	卒論最終報告と討論	ほぼ完成した卒論についての報告を行う
第27回	卒論最終報告と討論	ほぼ完成した卒論についての報告を行う
第28回	卒論全体の講評	提出した各卒論について講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主的に各自が卒論執筆に向けて調査・分析・執筆を進めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの議論の参加度（30%）と卒論の完成度（70%）

【学生の意見等からの気づき】

感染状況に左右されるが、フィールドワークに行きたいという学生の要望に、今年度は応えたい

【Outline (in English)】

Students will learn how to set up research questions, read previous research, collect and analysis data toward the completion of the graduation thesis.

The goal of the students is to complete their graduation thesis. Students are required to proceed with their own research, analysis and writing of their thesis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Participation in seminar discussions (30%) and thesis content (70%)

SOC200EB,SOC200EC,SOC200ED

演習 1

惠羅 さとみ

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会変動と産業・労働をめぐるテーマについて、幅広く問題関心を広め、社会学的な分析枠組みを学び、同時に歴史・構造的背景への理解を深めながら現代社会における諸問題について考える。

【到達目標】

文献購読やディスカッションを通じて、社会変動と産業・労働をめぐる多様なテーマについての理解を深め、自らの問題関心を見つけることを演習Ⅰの目標とする。加えて、各自の関心に沿ったフィールド調査を含む調査研究を踏まえ、ゼミ論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・文献の講読：毎回担当者が報告を行い、それを踏まえて討論を行う。
・ゼミ論文：自らの関心に基づきテーマを設定し、ディスカッションを行い、聞き取り調査等を実施し、ゼミ論を執筆する。

文献は参加者の関心と照らし合わせて、産業・労働社会学・国際社会学などに関するものを選ぶ。入門・古典的な文献から基本的な発想や分析視角・研究枠組みを学び、その後、現代的なテーマについての文献を選ぶ予定（労働・雇用をめぐる転換、移民労働、格差・社会問題など）。

課題については毎回あるいは研究報告の回に論評するとともに論文等の提出物については添削を含め適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方、文献担当の決定
第2回	基礎文献の講読1	産業・労働社会学・国際社会学に関する基礎文献の講読
第3回	基礎文献の講読2	産業・労働社会学・国際社会学に関する基礎文献の講読
第4回	基礎文献の講読3	産業・労働社会学・国際社会学に関する基礎文献の講読
第5回	基礎文献の講読4	産業・労働社会学・国際社会学に関する基礎文献の講読
第6回	基礎文献の講読5	産業・労働社会学・国際社会学に関する基礎文献の講読
第7回	文献の講読1	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第8回	文献の講読2	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第9回	文献の講読3	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第10回	文献の講読4	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第11回	文献の講読5	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読

第12回	文献の講読6	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第13回	研究報告	各自、ゼミ論のテーマの検討
第14回	ディスカッション	各自のゼミ論のテーマの下調べに基づき、グループディスカッション
第15回	研究報告	各自、ゼミ論のテーマを決めてレジュメ報告
第16回	研究報告	各自、ゼミ論のテーマを決めてレジュメ報告
第17回	研究報告	各自、ゼミ論のテーマを決めてレジュメ報告
第18回	ゼミ論発表1回目	先行研究と問題設定に関するレジュメ報告
第19回	ゼミ論発表2回目	先行研究と問題設定に関するレジュメ報告
第20回	ゼミ論発表2回目	先行研究と問題設定に関するレジュメ報告
第21回	ゼミ論発表3回目	研究発表と討議
第22回	ゼミ論発表3回目	研究発表と討議
第23回	ゼミ論発表3回目	研究発表と討議
第24回	論文の書き方・発表	論文執筆に関するスキル・作法の確認
第25回	ゼミ論発表	最終発表と討論
第26回	ゼミ論発表	最終発表と討論
第27回	ゼミ論発表	最終発表と討論
第28回	まとめとゼミ論文の提出	総括討論、1年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成、ディスカッションや報告の準備、フィールド調査の実施、ゼミ論の執筆など。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

ゼミの時間に指示する。

【成績評価の方法と基準】

文献レジュメの報告（25%）
 ディスカッションへの参加・内容（25%）
 ゼミ論（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・プレゼン資料作成、ゼミ論執筆などのためのPC

【その他の重要事項】

参加者の人数・関心などに基づき、進め方を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline: This course examines labor and industrial relations in the era of globalization.

Learning Objectives: In this seminar, students will learn the theoretical and practical issues related to the world of work and discuss the current situation and challenges of our society. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter(s) from the reading assignments.. Students will also be expected to conduct some preliminary field research such as interviews and participant observations along one's own interest during the semester in the process of preparing a term paper.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, Presentations on reading assignment: 25%, in class contribution: 25%

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

惠羅 さとみ

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会変動と産業・労働をめぐるテーマについて、幅広く問題関心を広め、社会学的な分析枠組みを学び、同時に歴史・構造的背景への理解を深めながら現代社会における諸問題について考える。

【到達目標】

文献購読やディスカッションを通じて、社会変動と産業・労働をめぐる多様なテーマについての理解を深め、自らの問題関心に基づいて調査研究を実施することを演習Ⅱの目標とする。加えて卒論を念頭におきながらゼミ論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は文献講読と調査計画、夏休みにかけてフィールドワーク実施、秋学期には学部研究発表会での発表を予定する。

- ・文献の講読：毎回担当者がレジュメ作成・報告を行い、それを踏まえて討論。
- ・フィールドワーク：各々の関心に基づき、グループ研究 or 個人研究を実施する。
- ・ゼミ論文：各自がグループ研究や個人研究のテーマからレポートを執筆、ディスカッションを行い、ゼミ論を執筆する。
- ・文献は参加者の関心と照らし合わせて、産業・労働社会学・国際社会学などに関するものを選ぶ。課題については毎回あるいは研究報告の回に論評するとともに論文等の提出物については添削を含め適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究の進め方・講読文献等の相談
第2回	研究計画	グループ研究・個人研究分けなど
第3回	文献講読1	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第4回	文献講読2	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第5回	文献講読3	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第6回	文献講読4	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第7回	文献講読5	産業・労働社会学・国際社会学に関する各テーマに即した文献の講読
第8回	グループワーク1	先行研究の検討
第9回	グループワーク2	基礎文献の講読・討論など
第10回	グループワーク3	基礎文献の講読・討論など
第11回	グループワーク4	基礎文献の講読・討論など
第12回	グループワーク5	基礎文献の講読・討論など
第13回	秋学期に向けた研究計画	調査研究計画等の作成

第 14 回	秋学期に向けた研究計画	調査研究計画等の作成
第 15 回	グループワーク 6	調査結果の分析
第 16 回	グループワーク 7	調査結果の分析
第 17 回	グループワーク 8	調査結果の分析
第 18 回	グループワーク 9	調査結果の分析
第 19 回	グループワーク 10	調査結果の分析
第 20 回	グループワーク 11	調査結果の分析
第 21 回	研究発表	学部研究発表会に向けた準備など
第 22 回	研究発表	学部研究発表会に向けた準備など
第 23 回	研究発表	学部研究発表会に向けた準備など
第 24 回	ゼミ論作成	ゼミ論の構成・発表・議論
第 25 回	ゼミ論作成	ゼミ論の構成・発表・議論
第 26 回	ゼミ論作成	ゼミ論の構成・発表・議論
第 27 回	ゼミ論作成	ゼミ論の構成・発表・議論
第 28 回	ゼミ論作成	ゼミ論の構成・発表・議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成、ディスカッションや報告の準備、ゼミ論の執筆など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

ゼミの時間に指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への貢献度（文献報告、ディスカッション・発表への参加・内容など）（50 %）
ゼミ論（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

希望によりグループ研究を実施する

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・プレゼン資料作成、ゼミ論執筆などのための PC

【その他の重要事項】

参加者の人数・関心などに基づき、進め方を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline: This course examines labor and industrial relations in the era of globalization.

Learning Objectives: In this seminar, students will learn the theoretical and practical issues related to the world of work, conduct individual or group research project, and discuss the current situation and challenges of our society.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting of reading session, students will be expected to read the relevant chapter(s) from the reading assignments. Students will also be expected to participate in group research project or conduct individual research project including fieldwork such as interviews and participant observations, analyze the data, and prepare for presentations in class and a research meeting of the department.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

EDU200EB, EDU200EC, EDU200ED

演習 1

李 舜志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは「人間形成」について学びます。

たとえば絵本を読んで子どもが成長したり、映画を観て感動し、自分や世界が違って見えたりといった経験について考察します。

【到達目標】

このゼミでは人間形成についての「批判的思考」を養います。

たとえば「成長」や「感動」といった、一見するとポジティブに思える概念について、哲学や教育思想に関する文献の読解を通してあらためて問い直します。

この社会の価値観や常識をいったん相対化し、自分なりの意見や問題関心を構築することが本ゼミの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に一冊の本を読み、毎回担当者が一部を要約しレジュメで発表する形式にします。発表後に質疑応答とディスカッションを行い、発表者へのフィードバックを行います。

どの文献を読むかは参加者の関心や希望を聞きますが、とりあえず前期は『キーワード 現代の教育学』にする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のイントロダクションと自己紹介
2	教員による発表	次回以降の発表のアウトラインを提示
3	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
4	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
5	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
6	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
7	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
8	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
9	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
10	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
11	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
12	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
13	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
14	まとめ	これまでの授業のまとめ
15	夏休みの報告	それぞれの活動の報告

16	課題文献の決定と役割分担	扱う文献と担当箇所について議論して決定する
17	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
18	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
19	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
20	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
21	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
22	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
23	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
24	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
25	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
26	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
27	発表、質疑、議論	参加者による発表とそれに基づいた質疑、議論
28	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自テキストの指定された箇所を事前に読み、さらに発表者は関連する文献を参照しつつレジュメを作成すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『キーワード 現代の教育学』
その他

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、発表 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this seminar, you examine the experience like getting new identity through reading books or learning something through watching movie.

The goals of this course are to understand the basic concepts regarding experience and identity.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the presentation(60%) and class contribution(40%).

EDU300EB, EDU300EC, EDU300ED

演習 2

李 舜志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 I から引き続き、人間形成について学ぶ。演習 II ではそれぞれの関心をより突き詰め、各自が選んだテーマで発表を行う。

【到達目標】

各自の関心に沿ったテーマを選び、先行研究を参照しつつ、人間形成について自らの意見を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.waseda.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回グループで発表を行い、その後ディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習 II の方針について説明する。発表順を決める。
第 2 回	発表①	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 3 回	発表②	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 4 回	発表③	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 5 回	発表④	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 6 回	発表⑤	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 7 回	発表⑥	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 8 回	発表⑦	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 9 回	発表⑧	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 10 回	発表⑨	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 11 回	発表⑩	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 12 回	発表⑪	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 13 回	発表⑫	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 14 回	発表⑬	テーマ発表とディスカッションを行う。
第 15 回	オリエンテーション	演習 II 後半の方針について説明する。
第 16 回	発表①	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第 17 回	発表②	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第 18 回	発表③	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第 19 回	発表④	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。

第20回 発表⑤	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第21回 発表⑥	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第22回 発表⑦	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第23回 発表⑧	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第24回 発表⑨	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第25回 発表⑩	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第26回 発表⑪	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第27回 発表⑫	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。
第28回 発表⑬	ゼミ論集作成にあたって、発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点：40%、発表：60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this seminar, you examine the experience like getting new identity through reading books or learning something through watching movie.

The goals of this course are to acquire insights of human being. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the presentation(60%) and class contribution(40%).

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

演習 1

天本 哲史

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生活の中には労働、貧困、健康や環境等に関わる様々な社会的問題が生じています。これらの分析・解決に向けて経済学、政治学、法学、社会学等の諸領域からのアプローチが選択可能ですが、この授業ではゼミ担当教員の専門である「法学」領域からのアプローチを学習します。

【到達目標】

- ・学習や研究に資する基礎的な知識を修得する。
- ・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
- ・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学生自身が個人で研究して論文を作成するための基本的なスキル、例えば文献・データの収集、専門書・論文の読解、文章表現等を学びます。また、他の学生との意見交換や報告・質疑を通して、コミュニケーションのスキルを磨きます。学生へのフィードバックとしては、発表やレポート等に対する講評を授業時に適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション①	この授業の進め方の説明と自己紹介等します。
第2回	学習の基本的技術	情報検索、読書法、個人研究の作成・発表等の技能を確認をします。
第3回	文献読解①	輪読順番の決定等を行います。指定した文献を担当ごとに輪読をします。文献内容のディスカッションをします。
第4回	文献読解②	指定した文献を担当ごとに輪読をします。文献内容のディスカッションをします。
第5回	文献読解③	指定した文献を担当ごとに輪読をします。文献内容のディスカッションをします。
第6回	文献読解④	指定した文献を担当ごとに輪読をします。文献内容のディスカッションをします。
第7回	文献読解⑤	指定した文献を担当ごとに輪読をします。文献内容のディスカッションをします。
第8回	グループワーク①	テーマとグループの決定等を行います。テーマについてグループごとに検討をします。
第9回	グループワーク②	テーマについてグループごとに検討をします。
第10回	グループワーク③	テーマについてグループごとに検討をします。
第11回	図書館等での資料集め	図書館の活用方法を学びます。

- 第12回 プレゼンテーション① プレゼンテーションの方法を学びます。
- 第13回 プレゼンテーション② プレゼンテーションの準備をします。
- 第14回 春学期のまとめ 春学期の演習を振り返り、秋学期の学習内容を確認をします。
- 第15回 イントロダクション② 春学期の学習内容を踏まえつつ、秋学期の学習内容を説明します。
- 第16回 プレゼンテーション③ グループごとにプレゼンテーションをします。
- 第17回 プレゼンテーション④ グループごとにプレゼンテーションをします。
- 第18回 プレゼンテーション⑤ グループごとにプレゼンテーションをします。
- 第19回 研究計画の立て方 研究計画を立てる方法を学びます。
- 第20回 文献研究① 研究計画に沿って収集した文献の報告と質疑をします。
- 第21回 文献研究② 研究計画に沿って収集した文献の報告と質疑をします。
- 第22回 文献研究③ 研究計画に沿って収集した文献の報告と質疑をします。
- 第23回 文献研究④ 研究計画に沿って収集した文献の報告と質疑をします。
- 第24回 研究報告① 個人研究の報告と質疑をします。
- 第25回 研究報告② 個人研究の報告と質疑をします。
- 第26回 研究報告③ 個人研究の報告と質疑をします。
- 第27回 研究報告④ 個人研究の報告と質疑をします。
- 第28回 まとめ この授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業は、教科書を使用しません。

【参考書】

この授業の参考書については、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は、本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students acquire the ability to consider social issues from a legal perspective.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students will acquire basic knowledge that contributes to research.
- ・ Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
- ・ Students can propose new solutions to social problems.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

HUI200EB, HUI200EC, HUI200ED

演習 1

森 幹彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では情報システムと人間社会の関わりについて学ぶ。特に、人々の活動を支援する情報システムに関して関連研究の講読を通じて理解を深める。その上で、情報システムから得られたデータを分析し評価する手法を実践的に身につける。

【到達目標】

- 社会における情報システムについて、
- (1) 文献調査やデータ収集ができる。
 - (2) データ分析と評価の手法を理解する。
 - (3) 研究テーマを具体化する。
 - (4) 研究テーマを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本演習では、講義・実習、報告・議論、制作を組み合わせを進めていく。実際に情報システム（ソフトウェア）をつくることによって理解を深める。春学期は、情報システムの基礎を学び、研究の視点で情報システムを見られるようにする。秋学期は、実践的にプロジェクトとして研究を遂行することを試みる。参加学生との間で議論や質疑などの相互コミュニケーションにより課題解決しながら進めていく。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、自己紹介
第2回	情報システムの基礎	情報システムの仕組みを学ぶ。
	(1)	
第3回	情報システムの基礎	ユーザインタフェースについて学ぶ。
	(2)	
第4回	情報システムの基礎	情報システムによる協働作業について学ぶ。
	(3)	
第5回	文献講読 (1)	担当した文献の報告と議論をする。
第6回	文献講読 (2)	担当した文献の報告と議論をする。
第7回	文献講読 (3)	担当した文献の報告と議論をする。
第8回	研究法 (1)	文献調査の方法を学び、研究テーマに沿って調査する。研究テーマを検討する。
第9回	研究法 (2)	仮説検証の考え方を学び、研究テーマにおける仮説を設定し、検証方法を考える。
第10回	ソフトウェア制作 (1)	研究テーマに沿ってソフトウェアを制作する。
第11回	ソフトウェア制作 (2)	研究テーマに沿ってソフトウェアを制作する。
第12回	データ分析法 (1)	研究データの収集法について学ぶ。
第13回	データ分析法 (2)	研究データの分析法と評価法について学ぶ。

第 14 回	発表と相互評価、前半のまとめ	制作したソフトウェアの発表と相互評価をする。前半について振り返って、後半までにすべきことを検討する。
第 15 回	ガイダンス	今後の進め方の確認をする。
第 16 回	論文執筆法 (1)	論文の構成と書くべき内容を学ぶ。
第 17 回	論文執筆法 (2)	作文技術について学ぶ。
第 18 回	プロジェクト研究のテーマ設定	プロジェクト研究のテーマを考える。
第 19 回	プロジェクト研究 (1)	研究を遂行し、進捗報告と議論をする。テーマに応じてフィールド調査を実施する。
第 20 回	プロジェクト研究 (2)	研究を遂行し、進捗報告と議論をする。テーマに応じてフィールド調査を実施する。
第 21 回	プロジェクト研究 (3)	研究を遂行し、進捗報告と議論をする。テーマに応じてフィールド調査を実施する。
第 22 回	プロジェクト研究 (4)	研究を遂行し、進捗報告と議論をする。
第 23 回	プロジェクト研究 (5)	研究を遂行し、進捗報告と議論をする。
第 24 回	プレゼンテーション法	研究のプレゼンテーション手法を学ぶ。
第 25 回	プロジェクト研究の成果発表の準備	研究の成果を発表するための準備をする。
第 26 回	プロジェクト研究発表会と相互評価 (1)	研究の成果を発表し、相互評価する。
第 27 回	プロジェクト研究発表会と相互評価 (2)	研究の成果を発表し、相互評価する。
第 28 回	まとめと振り返り	1 年間で振り返り、講評する。次年度に向けてすべきことを検討する。

【Outline (in English)】

In this seminar, students learn about the relationship between information systems and human society. In particular, students acquire an understanding of information systems that support people's activities through reading related publications. In addition, students develop practically techniques to analyze and evaluate data obtained from information systems.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実践を重視することから、授業外の活動が相応にあります。ソフトウェア制作や報告資料の作成などは、時間外に行わなければなりません。その他にも、進捗状況に応じて実作業を各自で進めることを期待します。休日や長期休暇中に開催される勉強会などへ積極的に参加してください。そのため、本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間以上です。

【テキスト（教科書）】

指定しません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・ゼミ活動への積極的な参加 (50%)：文献調査、データ収集、分析、評価ができるようになる。そのために、進捗報告をして議論に参加する。
- ・各種成果物 (50%)：研究テーマを具体化して他者に説明できるようになる。そのために、ソフトウェアの制作や報告資料の作成ができる。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見や要望を聞き、進捗を確認しながら進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

プログラミングやデータ分析を円滑に行える PC を各自で用意する必要があります。

【その他の重要事項】

情報システムを理解するには、実際に試行錯誤してつくることが大切です。手を動かすことが好きな学生や新しいことに粘り強く挑戦し続ける学生を歓迎しています。

プログラミングは、ソフトウェアを制作するためだけでなくデータ分析においても重要です。プログラミングが上達するために、勉強会やセミナーなどの様々な学習機会を設ける予定です。

すべきことが多いと感じるかもしれませんが、かけた分だけの価値はあるはずです。

